Salesforce Summer '20 リリースノート

Salesforce, Summer '20

変化する時代にお客様をサポートするための
Customer 360 Platform 全体のイノベーションの実現

'20

@salesforcedocs

最終更新日: 2020/07/20

本書の英語版と翻訳版で相違がある場合は英語版を優先するものとします。

© Copyright 2000–2020 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce およびその他の名称や商標は、salesforce.com, inc. の登録商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。

目次

Salesforce Summer '20 リリースノート 1
リリースノートの使用方法 4
リリースの準備 19
機能が使用可能になる方法と状況 20
サポートされるブラウザ 67
Salesforce 全体 71
Salesforce Einstein 104
セールス 106
サービス 208
Industries 256
Analytics 325
コマース 380
コミュニティ 391
Salesforce CMS 418
Files 424
モバイル 425
持続可能性 440
myTrailhead 442
Work.com 448
カスタマイズ 452
セキュリティ、プライバシー、ID 513
リリース 545
開発 545
Quip 693
マーケティング 703
リリースの更新 (旧称「重要な更新」) とセキュリティアラート 703
コンテンツへのスポットライト 712
その他の Salesforce 製品とサービス 723

Salesforce Summer '20 リリースノート

Summer '20 リリースでは、変化の激しい時代に対応できるよう、Customer 360 プラットフォーム全体に関するイノベーションを実現しています。

このセクションの内容:

リリースノートの使用方法

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースを使用することで、お客様、組織、お客様のユーザが新しい機能に自身で備えることができます。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

機能が使用可能になる方法と状況

Summer '20 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce 用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

Salesforce 全体: iPad の Lightning Experience、組織の最適化、分割ビューによる作業の効率化

iPad で Lightning Experience にアクセスしたり、Lightning Experience 設定コンバータや Salesforce Optimizer アプリケーションを使用して Lightning Experience への切り替えを支援したり、標準ナビゲーションの分割ビューでレコード全体に目を通したり、ウォークスルーをアプリケーションに追加したり、改善されたプロンプトを使用してユーザがすばやく準備できるようにしたりします。

Salesforce Einstein: Einstein Search の結果の改善、Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、Einstein Discovery のアルゴリズムとデータの増加による予測の改善

Einstein Search は自然検索です。ユーザは、検索ボックスに一般的な単語や語句を入力し、探しているレコードを見つけることができます。Einstein OCR (光学式文字認識) を使用して、名詞などの画像を英数字テキストに変換します。複数のモデリングアルゴリズムと行制限の緩和により、Einstein Discovery の予測が改善されます。

セールス: High Velocity Sales の Einstein コールコーチングおよびエンゲージメントの詳細、カスタム商談分割、ToDo キューのクイックアクション、Pardot B2B Marketing 機能

Einstein コールコーチングを使用して会話データを分析し、エンゲージメントの詳細をレビューして見込み客がいつメールでエンゲージするかを確認します。より多くのカスタム商談分割種別を作成します。ToDo をキューに割り当てるクイックアクションを設定します。Pardot では Einstein 属性とマーケティングキャンペーンインテリジェンスアプリケーションが追加されます。テリトリーを使用して商談へのアクセスをより詳細に制御します。パス機能が Kanban に取り入れられます。メールインテグレーションは、これまで以上に生産性を向上するのに役立ちます。

サービス: Service Cloud 音声、Einstein 返信のおすすめ、多言語 Einstein ボット、Field Service Lightning のシフトの改善など

Salesforce の機能を Amazon Connect のテレフォニーサービスと統合する新製品の Service Cloud 音声を介して、顧客と会話できます。Lightning サービスコンソールで類似する完了したチャットに基づくチャットの返信をサポートエージェントに推奨できます。Einstein ボットを 9 つの言語で使用できます。スケジュールビューの改善により、Field Service Lightning のシフト (ベータ) をより簡単に管理できます。

Industries: 緊急時管理対応、アクションプランによる顧客重視の強化、検索の機能強化、店舗訪問管理、その他

Salesforce Industries の垂直型ソリューションは、自分に依存する人との距離を縮めるように設計された多数の機能を備えています。Salesforce 緊急時対応管理は、危機の発生時に取引先責任者の追跡、監視、および他のリソースをすばやく提供するのに役立ちます。Health Cloud には新しい緊急時対応機能に加えて、コールセンター担当者をサポートしたり患者とつながったりするためのより多くの方法が追加されており、利便性や使いやすさも改善されています。Financial Services Cloud では、アクションプランが使いやすくなり、顧客のローン申込データを利用して金融口座を作成できます。Consumer Goods Cloud を使用すると、フィールド営業担当者は最も重要なデータに集中し、スケジュールを簡単に管理できます。Manufacturing Cloud を使用すると、取引先マネージャは取引先目標の設定や適切な販売予測を行うことができるため、販売計画を順調に進めることができます。

Analytics: ナレッジカテゴリの検索条件、新しいデータ準備ツール、ツリーベースのモデル

ナレッジレポートをカテゴリで絞り込んで、ナレッジ記事に関するより詳細なインサイトを取得します。親しみやすい新しいエディタ (データの準備 (ベータ)) を使用してレシピを作成します。3 つのモデリングアルゴリズムからの最適な予測を取得します。

Lightning Experience の B2B Commerce、高度な注文管理機能

Salesforce Lightning Experience の B2B Commerce では、企業間 (B2B) コマースソリューションに Salesforce Platform の機能を取り込むことができます。Salesforce 注文管理の拡張機能には、マルチ通貨、注文の総税額種別、キャンセルの返金、注文商品の割引、未管理注文、取引先および取引先責任者、Adyen を使用した支払処理のサポートが含まれます。

コミュニティ: 強化されたパーソナライズ、改良されたメニューコンポーネント、ゲストユーザセキュリティ

パーソナライズには、エクスペリエンスビルダーと API の両方で使用可能な多数の機能強化があります。改良されたタイルメニューなどのナビゲーションコンポーネントに異なるリンクセットを表示します。セキュリティのさまざまな機能強化によってデータを安全に維持できます。また、Winter '21 以降、ゲストユーザセキュリティ設定の有効化からオプトアウトするオプションは表示されなくなるため、今のうちにその準備をしてください。

Salesforce CMS: 新しい画像およびドキュメントコンテンツタイプ、一括インポート、B2B インテグレーション

新しい画像およびドキュメントコンテンツタイプによって、Salesforce CMS コンテンツの管理が簡単になりました。複数のコンテンツ項目 (画像、ニュース、ドキュメント、カスタムコンテンツタイプなど) をすばやくインポートできます。Lightning Experience の B2B Commerce で CMS コンテンツを使用します。

ファイル: ファイルセキュリティの強化および Adobe Flash 表示のサポート終了

ユーザは添付ファイルとしてすべてのカスタムファイルの種類をダウンロードできます。Connect REST API のファイル変換を Adobe Flash から SVG に切り替えます。

モバイル: Salesforce モバイルアプリケーションおよび通知の機能強化

パーソナライズされたナビゲーションおよびモバイル活動アラーム (パイロット) を使用して、Salesforce モバイルアプリケーションから離れずにより多くの作業を実行できます。より多くのプッシュ通知を送信し、カスタム通知を外部アプリケーションに送信します。Lightning コミュニティへのアクセス権を持つすべてのユーザが Mobile Publisher Playground アプリケーション (ベータ) にアクセスできるようになりました。

Salesforce Sustainability Cloud: 炭素追跡の改善と国際サポートの改善

新しい Einstein Analytics ダッシュボードを使用して、重要業績評価指標および排出量のトレンドに簡単にアクセスできます。Sustainability Cloud の高い柔軟性とサポートを利用できます。SI (総計値) 単位を使用してデータを入力し、言語を 6 つのいずれかの言語に変更できます。Government Cloud 組織で Sustainability Cloud を実行できます。

myTrailhead: カスタマイズしたナビゲーション設定による会社のブランド設定の強化

ユーザがヘルプアイコンをクリックしたり、myTrailhead からログアウトしたりしたときの移動先のページを選択します。myTrailhead ページフッターのカスタムリンクを作成します。モジュールページとトレイルページの製品カテゴリから不要な検索条件を削除します。Salesforce ブランド設定要素を myTrailhead から削除しました。これによりユーザが混乱することがなくなります。

Work.com: 緊急時対応管理、Workplace Command Center、シフト管理、Trail Tracker の概要

ビジネス、従業員、施設の準備を整えます。Work.com のアプリケーションとサービスを使用して、現在の COVID-19 による危機など、重大な事態に対応します。

カスタマイズ: Lightning フローの機能強化、Einstein 予測ビルダーの改善、Lightning アプリケーションビルダーの更新

Flow Builder とフロー管理の機能強化により、フローの作成、設定、レポート、デバッグが容易になりました。予測が改善され、Einstein 予測ビルダーで効率的に管理できるようになりました。Lightning アプリケーションビルダーの Lightning ページの設計およびナビゲーションの方法が新しくなりました。

セキュリティ、プライバシー、ID: 認証の機能強化、OCSP Stapling、リアルタイムイベントモニタリング脅威検知 (正式リリース)

2 要素認証および代理認証が更新されました。OCSP Stapling により、HTTPS の接続が迅速化されます。リアルタイムイベントモニタリング脅威検知が正式リリースされ、脅威に対するアラートを受信する手段をアプリケーション、メール、SMS の中から選択できます。

リリース: 新しい変更セットコンポーネント

新しい変更セットコンポーネントを使用できます。

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

Quip: テンプレート総計値、Einstein Analytics ライブアプリケーション、VPC および Sandbox での完全サポート、その他

ユーザが Quip for Customer 360 総計値を使用して Quip テンプレートをどのように使用しているのかを確認します。Einstein Analytics ダッシュボードを Quip に取り込みます。すべての Quip for Customer 360 機能を Sandbox で使用します。完全な VPC サポートにより Quip 文書を維持します。リレーションの対応付けをアカウントプランに追加して、営業担当が重要な取引先責任者と取引先履歴を容易に見つけることができるようにします。

マーケティング: インタラクティブメール、データマッピングビジュアライザ、SMS 用の Distributed Marketing クイック送信

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを 1 か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

リリースの更新: 1 か所での重要な更新とセキュリティアラート、Apex の権限変更、他

重要な更新とアラートが 1 か所で見やすくなりました。パフォーマンス、セキュリティ、ユーザに影響するすべての変更について組織が常に最新の状態であることを確認できます。

コンテンツへのスポットライト

Pardot ヘルプの機能強化、Financial Services Cloud システム管理者ガイドの更新、新しい Trailhead モジュール、手順動画が追加されました。また、信頼とコンプライアンスに関するドキュメントも更新されました。

その他の Salesforce 製品とサービス

リリースノートの使用方法

Salesforce のリリースノートでは、機能強化や新機能について簡潔に説明しています。また、設定情報、開始にあたって役に立つヒント、継続的な成功のためのベストプラクティスも記載されています。

- PDF 版と HTML 版が用意されています。
- HTML 版では、使用される言語はブラウザの設定によって決まります。言語を変更するには、下部にスクロールして [言語を変更] をクリックし、言語を選択します。
- リリースノートには、新しい機能や変更された機能の詳細が記載されています。既知の問題についての詳細は、Salesforce の「既知の問題」のサイトを参照してください。

メモ: 新しいリリースが使用可能になるまで、Salesforce ヘルプ、実装ガイド、開発者ガイド、その他のドキュメントへのリリースノート内のリンクは機能しません。場合によっては、以前のリリースのドキュメントにリダイレクトされることがあります。

一部のドキュメントには、リリースの数週間前に参照できるプレビューバージョンがあります。Salesforce Developers でプレビューバージョンにアクセスするには、[ドキュメントバージョン] ドロップダウンリストから [プレビュー] を選択します。

このセクションの内容:

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み
検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握
Lightning Experience およびその提供内容には高い関心が寄せられています。一方で、Salesforce Classic のみを使用したり、使用経験を積んでから Lightning Experience と併用するなど、多くの組織で引き続き Salesforce Classic を使用することも把握しています。

お客様のご要望
IdeaExchange でご要望があった機能を実現しました。

リリースノートの変更
リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

フィードバックについて
貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

検索条件を使用した最も関心のあるニュースへの焦点の絞り込み

検索条件は、画面の右側にあるリリースノートのリストを絞り込むもので、左側の内容を絞り込むものではありません。

環境

Lightning Experience、Salesforce モバイルアプリケーション、および Salesforce Classic で使用できる機能を参照してください。

エディション

使用可能な機能強化は、エディションごとに異なります。リリースノートを絞り込んで、ご使用のエディションでリリースされる機能強化のみを表示します。

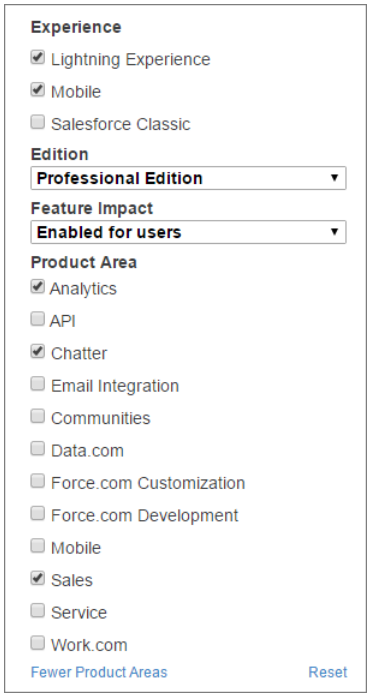
機能の影響

有効化または設定しないとユーザが利点を得られない機能もあります。システム管理者は、リリースノートを絞り込むことでそれらの機能だけを表示したり、非表示にしたりできます。また、ユーザに対して自動的に有効になる機能のみを表示することもできます。

製品エリア

組織で使用する商品のみを表示します。組織がセールスを行いサポートは行わない場合、セールス関連のニュースのみが表示されるようにリリースノートを設定します。

リリースノートのリストを絞り込むには、右側にある [条件を表示] をクリックします。



絞り込まれたリリースノートのリストを他のユーザと共有できます。検索条件を選択してURLをコピーし、そのURLを任意の方法で配信します。

Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic の機能の把握

Lightning Experienceおよびその提供内容には高い関心が寄せられています。一方で、Salesforce Classicのみを使用したり、使用経験を積んでからLightning Experienceと併用するなど、多くの組織で引き続きSalesforce Classicを使用することも把握しています。

この移行期間を成功させる鍵は、1つ、両方、またはすべてのSalesforce環境で使用できる機能を把握することです。そのため、該当するリリースノートには最上位レベル(クラウド全体またはクラウド内の個々の機能)での環境情報を追加しました。いくつか例を見てみましょう。

- 新しいService Cloud機能は、*両方のデスクトップ環境*で使用可能であるため、リリースノートの[対象]セクションには「この変更は、Lightning ExperienceとSalesforce Classicに適用されます。」と記載されています。
- Sales Cloudの新機能は、Lightning Experienceでのみ使用可能であるため、リリースノートの「対象」セクションには、「この変更はLightning Experienceにのみ適用されます。」と記載されています。

主要機能がSalesforceモバイルアプリケーションでも使用可能な場合は、リリースノートの「対象」セクションでその点を示しています。新機能の完全なリストの「モバイル」セクションを確認することもできます。

お客様のご要望

IdeaExchangeでご要望があった機能を実現しました。

IdeaExchange	実現したアイデア
Salesforce 全体	
標準ナビゲーションでの分割ビュー(コンソールなど)のサポート	標準ナビゲーションの分割ビューを使用したリストの簡単な操作
iPad ブラウザでの Lightning Experience の表示の許可	iPad デバイスでの Lightning Experience へのアクセス (正式リリース)
ユーザが作成したウォークスルーの許可	アプリケーション内トレーニングの複数ステップウォークスルーの作成
営業	
利用できる商談分割数の拡張	商談分割の効果を高めるための分割制限の引き上げ
Salesforce のリストビューへの Pardot の [ナーチャリングに追加] ボタンの追加 [ナーチャリングリストに追加]アクションでの関連エンゲージメントプログラムの表示 Salesforce Engage でのナーチャリングへのリードの一括追加	レコードおよびリストビューからのプロスペクトリストおよび Engagement Studio プログラムへの追加
HTTP から HTTPS への安全なリダイレクト	プロスペクト向けの Pardot アセットのセキュリティ強化
真の Pardot Sandbox 環境の作成	Pardot 用 Developer Sandbox を使用した設定変更のテスト (正式リリース)
サービス	
ナレッジ記事に共有ルールを割り当てられるようにする Knowledge__kav オブジェクト設定の共有	Lightning Knowledge での Salesforce 共有の使用 (ベータ)
カスタマイズ	
プロセスビルダー: 更新時のみ起動	レコードの保存後に実行するフローのトリガ
プラットフォームイベントからのフローの直接起動 プラットフォームイベントを使用してフローを起動できるようにする	プラットフォームイベントメッセージの受信時に実行するフローのトリガ
Flow Builder: サブフローの自動出力処理	出力値を割り当てずにサブフロー要素を設定
セキュリティと ID	
SSO実装での大文字と小文字を区別しない統合IDの検証	統合 ID と ID プロバイダのシームレスな統合

IdeaExchange	実現したアイデア
イベントモニタリングのリアルタイムアラート	組織で実行時間が長い同時 Apex の上限を超えた場合のエラーの検出
トランザクションセキュリティポリシーのメッセージをカスタマイズ可能にする	トランザクションセキュリティのブロックメッセージのカスタマイズ

リリースノートの変更

リリースノートへの変更が新しい順に記載されています。

最新の情報 (以下の日付以降の差分) は英語版ご覧ください。

2020 年 8 月 5 日

Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックの有効化 (更新、延期) (ページ 567)
自動有効化日付が Spring '21 まで延期されました。

削除: ナレッジ検索結果に表示される項目の制御
若干時期尚早だったため一歩後退します。微調整のため、ナレッジ検索結果のグリッド表示は使用できなくなります。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

2020 年 7 月 22 日

Einstein ボットの動的キュールーティングの作成 (ページ 220)
チャットボタンキューに会話を転送するように更新されたルーティングを説明するリリースノートが追加されました。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント
`text` データ型の `lightning-datatable` コンポーネントへの変更が追加されました。

新規追加または変更された Aura コンポーネント
`text` データ型の `lightning:datatable` コンポーネントへの変更が追加されました。

削除: Next 移行後の Lightning 画面コンポーネント値に上位の変更を反映
この機能はまだ公開する準備が整っていないため、改善が加えられるまで削除されます。再び使用可能になった時点でお知らせいたします。

Map の新しい図形レイヤ (ページ 128)
Salesforce Maps で Spring '20 以降に使用可能な図形レイヤが追加されました。

テリトリー計画: シナリオの比較、コラボレーション、共有と権限 (ページ 129)
Salesforce Maps のテリトリーの計画と配置でのコラボレーション、共有と権限の制御、および配置の更新での承認要求を行うときにフィード追跡を有効にする要件が追加されました。

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト
EmbeddedServiceLiveAgent オブジェクトからの `headerBackgroundImg`、`CustomPrechatComponent`、`LiveChatButtonId`、`LiveChatDeploymentId` 項目の削除に関する情報が追加されました。

EmbeddedServiceBranding オブジェクトの新しい `navBarTextColor` および `secondaryNavBarColor` 項目に関する情報が追加されました。

EmbeddedServiceBranding オブジェクトの `ContrastInvertedColor` 項目に関する情報が追加されました。

EmbeddedServiceBranding オブジェクトの共通項目のドキュメントに関する情報が追加されました。

Einstein 返信のおすすめを使用したチャットエージェントの応答の迅速化 (正式リリース)

Einstein 返信のおすすめは英語でのみ使用可能なことが明記されました。

Salesforce 組織への代理認証の適用

この機能を使用する方法の詳しい説明が追加されました。

エンゲージメントデータセットからのテストメールの削除

Pardot のメールエンゲージメント総計値に影響するバグ修正に関するリリースノートが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト (ページ 629)

CaseSubjectParticle オブジェクトが追加されました。

Work.com オブジェクトで検索可能な項目の情報が追加されました。

iframe の Blob スキーマのブロック

Spring '20 で導入された CSP の変更が追加されました。

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド (ページ 688)および**複数のパッケージディレクトリを使用したコードの整理** (ページ 689)

毎週リリースされるコア CLI プラグインへの最近の更新が追加されました。

フロー内の Apex 定義データ型のネストされた項目へのアクセス (ページ 468)

フロー内の Apex 定義データ型に対するデータアクセス制限の削除に関するリリースノートが追加されました。

2020 年 7 月 15 日

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

OwnerChangeOptionInfo オブジェクトのドキュメントが更新されました。

権限セットライセンスへの CPQ の移行 (更新)

権限セットライセンスにアップグレードしていないユーザに表示される新しい警告メッセージに関する詳細情報が追加されました。

Salesforce Anywhere: Salesforce コラボレーションの合理化と最適化 (ベータ)

エディションの使用可能状況に関する情報が更新されました。

Salesforce Anywhere: Salesforce コラボレーションの合理化と最適化 (ベータ)

エディションの使用可能状況に関する情報が更新されました。

Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (更新)

新しいリリースの更新が追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

Work.com オブジェクトの動作の変更が更新され、オブジェクトのすべてのレコードを表示するリストビューが含まれるようになりました。

myTrailhead の商品リストから検索条件を削除

ユーザが myTrailhead から特定の検索条件値を削除できるようにする新機能が導入されました。

Flow Builder での呼び出し可能アクションの設定の簡易化 (ベータ) (ページ 480)
カスタムプロパティエディタでの呼び出し可能アクションの設定のサポートを発表するリリースノートが追加されました。

呼び出し可能アクションのカスタムプロパティエディタの作成 (ベータ) (ページ 592)
カスタムプロパティエディタでの呼び出し可能アクションの設定のサポートを発表するリリースノートが追加されました。

2020 年 7 月 8 日

Salesforce Maps: COVID-19 クラスター感染の監視、テリトリー計画のシナリオ、高度な設定の改善
Summer ' 20 で、Salesforce Maps の新機能と機能強化が導入されました。

コンテンツへのスポットライト
Pardot ヘルプの追加、『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』の更新、新しい Trailhead モジュール、新しい動画を含む、最新のコンテンツの機能強化に関する情報が追加されました。

Facebook と WhatsApp でエージェントが開始した会話による顧客への連絡 (オープンベータ)
メッセージングのベータ機能に関する情報が追加されました。

メッセージングの連動関係の変更
High Velocity Sales に関する Service Cloud メッセージングの連動関係の変更が追加されました。

メタデータ API
EmbeddedServiceLiveAgent 型の `headerBackgroundImg` 項目の削除に関する情報が追加されました。

EmbeddedServiceBranding メタデータ型の新しい `navBarTextColor` および `secondaryNavBarColor` 項目に関する情報が追加されました。

EmbeddedServiceMenuSettings メタデータ型の EmbeddedServiceMenuItem サブタイプの新しい `isDisplayedOnPageLoad` 項目に関する情報が追加されました。

新規追加または変更された Aura コンポーネント
`lightning:fileUpload` コンポーネントに新しい属性が追加されました。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント
`lightning-file-upload` コンポーネントに新しい属性が追加されました。

ゲストによる安全なファイルのアップロード
ゲストユーザがコミュニティにファイルをアップロードできるようにする方法に関する情報が追加されました。

Service Cloud 機能に関する権限の変更
権限の変更によって影響を受ける機能が明記されました。

Lightning Knowledge のレコード所有者の変更
ナレッジ記事の所有権をキューに割り当てることに関する情報が追加されました。

参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (更新、延期)
Lightning Experience と Salesforce Classic のルックアップ検索でのこのリリース更新の動作を明確にする情報が追加されました。

古いバージョンの Outlook および Windows でのインテグレーションのサポート終了 (ページ 175)
2020 年 12 月以降に Outlook インテグレーションを引き続き実行するために必要な更新に関する情報が追加されました。

Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)
このリリース更新の有効化日が更新されました。

プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (更新、延期)
このリリース更新の有効化日が更新されました。

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)
このリリース更新の有効化日が更新されました。

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (更新、延期)
このリリース更新の有効化日が更新されました。

デフォルトでのゲストユーザ共有ルールの作成
コミュニティまたはサイトがあるすべての Salesforce 組織でデフォルトで有効になっているゲストユーザ共有ルールに関するリリースノートが追加されました。

安全なレコードアクセスを有効にする前にゲストユーザ共有ルールを作成
ゲストユーザのセキュリティ強化の準備に役立つ、ゲストユーザ共有ルールの変更に関するリリースノートが追加されました。

顧客ライフサイクルマップによるカスタマーエクスペリエンスの改善
アドオンライセンス名が更新されました。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (以前にリリース済みの更新)
このリリース更新の有効化日が更新されました。

Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (更新、適用)
ナレッジ記事へのリンクが追加されました。

2020 年 7 月 1 日

新規追加または変更された Aura コンポーネント
`lightning:input` の `number` 型で使用可能なショートカットのリストが更新されました。

`lightning:inputAddress` プレースホルダの変更が追加されました。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント
`lightning-input` の `number` 型に使用できるショートカットのリストが更新されました。

`lightning-input-address` プレースホルダの変更が追加されました。

Einstein コールコーチングを使用した営業電話のインサイトの取得
コールコーチングの制限に関する情報が追加されました。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール
新しい `lightning/uiAppsApi` ワイヤアダプタモジュールが追加されました。

ユーザインターフェース API
`/ui-api/nav-items` リソースに新しい `navItemNames` パラメータが追加されました。

レコードの保存後に実行するフローのトリガ

ユーザインターフェースのテキストと動作の変更を反映するように、以前は「レコードの保存後にアクションを実行するフローのトリガ」というタイトルだったリリースノートが更新されました。また、いくつかの詳細を追加され、いくつかの情報が修正されました。

プラットフォームイベントメッセージの受信時に実行するフローのトリガ

ユーザインターフェースのテキストと動作の変更を反映するように、以前は「プラットフォームイベントメッセージの受信時のフローのトリガ」というタイトルだったリリースノートが更新されました。

拡張された [新規フロー] ウィンドウと開始要素によるフローの作成

ユーザインターフェースのテキストと動作の変更を反映するように、以前は「改善された[新規フロー]ウィンドウと開始要素によるフローの作成および編集の簡易化」というタイトルだったリリースノートが更新されました。

チャネルオブジェクトリンク: 音声用のレコード (ベータ)

この機能の使用可能状況が「ベータ」に修正されました。

Shield 学習マップを使用した適切なリソースの検索

新しい Shield 学習マップに関するリリースノートが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

KnowledgeSettings オブジェクトと CaseSettings オブジェクトの新しい項目に関する情報が追加されました。

2020 年 6 月 26 日

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

Location、Employee、Crisis、EmployeeCrisisAssessment、InternalOrganizationUnit オブジェクト、および新しい関連オブジェクトの動作が変更されました。

2020 年 6 月 24 日

フローの限られたリソースの使用量を追跡

フローの CPU 時間消費は、修正にさらに時間が必要な不整合が見つかったため、Summer '20 でデバッグログから削除されました。

出力値を割り当てずにサブフロー要素を設定

フローのサブフロー要素が簡略化されたことを発表するリリースノートが追加されました。

メタデータ API

Flow メタデータ型の FlowSubflow サブタイプの新しい `storeOutputAutomatically` 項目に関する情報が追加されました。

FlowTranslation の `fullName` 項目が省略可能になったことを説明する情報が追加されました。

ループ変数を作成せずにループ要素を設定

フローのループ要素の設定が簡略化されたことを発表するリリースノートが追加されました。

第二世代パッケージの改善: パッケージから以前のフローを削除

システム管理者がロック解除されたパッケージから以前のフローバージョンを削除し、パッケージのインストールから第二世代パッケージを削除できる方法を説明する注記が追加されました。

予定されている CSP の変更に備えたコミュニティの準備

Spring '21 で [インラインスクリプトと、任意のサードパーティホストへのスクリプトアクセスを許可] CSP 設定が削除されることに関する注記が追加されました。

Sales Cloud 機能の権限変更

ユーザプロファイルの組織のメールアドレスでのアクセス権の変更が追加されました。

新規追加または変更された Aura コンポーネント

`date` 型と `datetime` 型の `min` および `max` 属性で更新された動作を説明する `lightning:input` への変更が追加されました。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント

`date` 型と `datetime` 型の `min` および `max` 属性で更新された動作を説明する `lightning-input` への変更が追加されました。

管理パッケージを使用した組織間のアンケートの送信

管理パッケージを使用して組織間でアンケートレコードを送信する機能に関する注記が追加されました。

sfdx-lwc-jest を v0.9.0 に更新する場合は Jest 連動関係を v25.5.4 に更新

Jest連動関係を更新しないとテストが機能しなくなる可能性があるため、その更新を指示する注記が追加されました。

Pardot 用 Developer Sandbox を使用した設定変更のテスト (正式リリース)

Pardot の Developer Sandbox は任意の Salesforce Sandbox からプロビジョニングできることが明記されました。

レポートの強調表示で要点を示す

iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションの新しいレポート強調表示機能に関する注記が追加されました。

2020 年 6 月 17 日

削除: コードなしでスキルベースのルーティングを使用したチャットの転送

オムニチャネル属性設定でチャットのスキルベースのルーティングを設定する機能は公開する準備が整っていないため、この機能が削除されました。

Visualforce ページでレコードを編集するときに更新されたデータを表示

Visualforce ページの古いデータを更新する修正に関するリリースノートが追加されました。

カスタムファイルの種類を添付ファイルとしてダウンロード可能

カスタムファイルを添付ファイルのみとしてダウンロードできる、ファイルの新しいセキュリティ設定に関する注記が追加されました。

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (更新、延期)

本番組織でのこの更新の自動有効化は、Summer '21 に延期されました。

メタデータ API

ExperienceBundle メタデータ型で既存の `propertyOverrides` プロパティの新しい `componentAttributes` 値に関する情報が追加されました。

Flow Builder ツールバーの改善

Flow Builder ツールバーのフローの状況メッセージへの改善を発表するリリースノートが追加されました。

機能が追加されたスクラッチ組織の作成
新しいスクラッチ組織機能に関する注記が追加されました。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に
新しく検索可能になったオブジェクトと項目をリストする注記が追加されました。

グローバルの説明
`If-Modified-Since` で組織全体の行動がチェックされることを説明する注記が追加されました。

新規または変更されたコマンド
毎週リリースされるコア CLI プラグインの v48 への最近の更新が追加されました。

カスタムコミュニティ URL による SSO の改善
シングルサインオンでカスタムコミュニティ URL を使用するオプションを発表するリリースノートが追加されました。

2020 年 6 月 11 日

納入商品での請求書品目残高の表示
新しい納入商品項目 [請求書品目の残高] に関する注記が追加されました。

請求書品目期日の管理
新しい請求書品目項目 [期日経過日数] と [期日] に関する注記が追加されました。

注文品目の作成での新しい入力規則
注文品目の作成での新しい入力規則に関する注記が追加されました。

2020 年 6 月 10 日

Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (正式リリース)
`scope` パラメータの動作と値に関する注記が明確化されました。

より多くのトランザクションを含む財務期間の終了
多数のトランザクションに関連する財務期間を終了するときに、エラーが発生する可能性が低くなったという注記が追加されました。

より多くのページレイアウトへの C360 グローバルプロファイルコンポーネントの追加
C360 グローバルプロファイルコンポーネントで新しくサポートされたページに関する注記が追加されました。

より多くのレコードをグローバルプロファイルから作成
Customer 360 Data Manager ユーザの C360 グローバルプロファイル検索からのレコードの作成に関する注記が追加されました。

Salesforce B2B Commerce: 企業間コマースソリューションの設計、構築、稼働開始
システム管理者が注文を注文概要としてインポートできることを強調する文が追加されました。

テキストテンプレートフローリソースのテキスト形式オプションの更新
Flow Builder のテキストテンプレート要素でのリッチテキストおよびプレーンテキスト形式の使用について更新された UI 表示ラベルを説明する注記が追加されました。

フローユーザによる検索可能な項目でのレコードの検索
フローユーザがレコードを検索するときに、検索可能な項目を使用できるようになったことに関する注記が追加されました。

Einstein Intent での複数言語のサポートを追加
Einstein Intent でサポートされる新しい言語に関する情報が追加されました。

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (更新、延期)
Apple Safari ブラウザを使用する場合の Visualforce の制限に関する注記が追加されました。Summer '20 で、リリースの更新名が新しい表現に更新されました。

プロパティエディタで他の設定の画面スペースを拡大
Flow Builder で要素またはフローのプロパティを編集するときに、[表示ラベル]、[API 参照名]、および [説明] 項目が最小化されることに関する注記が追加されました。

ケアプランの状況項目にクローズ状況を表示するか非表示にするかを選択
ケアプランの [状況] 選択リストに関するリリースノートが追加されました。

新規追加または変更された Aura コンポーネント
`lightning:map` への変更に関する情報が追加されました。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント
`lightning-map` への変更に関する情報が追加されました。

2020 年 6 月 3 日

コンテンツへのスポットライト
信頼とコンプライアンスに関するドキュメントが更新されました。

ゲストユーザは逆リレーションレコードを自動的に取得しない (ページ 281)
ゲストユーザのセキュリティ強化の影響に関する情報が追加されました。

カスタムタブでの Lightning Web コンポーネントはリアクティブ (ページ 562)
コンポーネントで `currentPageReference` 変数を宣言する方法を示すコードスニペットが追加されました。

新規追加または変更された Aura コンポーネント
`lightning:inputField` コンポーネントの名前項目でのサフィックスサポートに関する情報が追加されました。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント
`lightning-input-field` コンポーネントの名前項目でのサフィックスサポートに関する情報が追加されました。

LWC ベースのテンプレートを使用した迅速かつ効率的な環境の構築 (開発者プレビュー)
このリリースで、開発者プレビューとしてこのテンプレートを使用できることが明記されました。

スクラッチ組織でのテストする Shield Platform Encryption 機能の増加 (ページ 528)
新しい MinKeyRotationInterval スクラッチ組織機能のスペルが修正されました。

サポートに連絡せずに個人取引先の同期を有効化

以前は 5 月にリリースするように設定されていた Pardot 機能の日付が変更され、6 月にリリースされるようになりました。

リストメールレポートの高度なメール分析のタイムリーな参照

以前は 5 月にリリースするように設定されていた Pardot 機能の日付が変更され、6 月にリリースされるようになりました。

プロスペクト向けの Pardot アセットのセキュリティ強化

以前は 5 月にリリースするように設定されていた Pardot 機能の日付が変更され、6 月にリリースされるようになりました。

Handlebars Merge Language をデフォルトで有効にして新規 Pardot アカウントを作成

以前は 5 月にリリースするように設定されていた Pardot 機能の日付が変更され、6 月にリリースされるようになりました。

6 月に予定されている Pardot の変更

以前は 5 月にリリースするように設定されていた Pardot 機能の日付が変更され、6 月にリリースされるようになりました。

Pardot

以前は 5 月にリリースするように設定されていた Pardot 機能の日付が変更され、6 月にリリースされるようになりました。

Einstein ボット: 制限の緩和 (ページ 220)

組織あたりの有効なボット数が 10 から 20 へ増加されたことを強調するリリースノートが追加されました。

Salesforce 注文管理での未管理注文のレコードの保存

これは SOM に加えて B2B Commerce にも適用されることが明記され、権限の API 参照名はそれらの UI 表示ラベルに変更されました。

2020 年 6 月 1 日

Work.com: 緊急時対応管理、Workplace Command Center、シフト管理、Trail Tracker の概要

Work.com に Workplace Command Center、シフト管理、Trail Tracker が含まれるようになりました。

2020 年 5 月 27 日

お客様のご要望

当社が配信したアイデアが追加されました。

会社が経費削減していることの確認

Einstein 取引先インサイトの新しいインサイトに関するリリースノートが追加されました。

商品、見積、価格表に基づく商談スコアの取得

Einstein 商談スコアリングの更新されたスコアリングモデルに関するリリースノートが追加されました。

Next 移行後の Lightning 画面コンポーネント値に上位の変更を反映

画面フローの Next 移行での動作の変更に関する注記が追加されました。

シフト管理の改善 (正式リリース)

シフト管理が正式リリースされました。

トラックや作業員の負荷の管理
カウントルールが作業ルールタイプとしてリストされていない場合のFSLカスタム権限セットの更新に関するヒントが追加されました。

Event Monitoring Analytics アプリケーションを使用したスペースの節約
Event Monitoring Analytics アプリケーションをアップグレードすることで、ユーザは改善点を利用できることが明記されました。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (以前にリリース済みの更新)
ナレッジ記事へのリンクが追加されました。

自動化プロセスユーザのメール
フローメールアクションのメール送信者として使用するために、システム管理者が自動化プロセスユーザのメールアドレスを指定する方法を説明する新しいリリースノートトピックが追加されました。

改善された Event Monitoring Analytics アプリケーションを使用したスムーズなデータの統合
Event Monitoring Analytics アプリケーションを使用したデータインテグレーションのパフォーマンス改善に関するリリースノートが追加されました。

拡張イベントログを使用した詳細なインサイトの取得
ボットセッションの新しい標準レポートオプションに関する情報が追加され、APIで使用可能な新しいオブジェクト (会話定義セッション、会話イベントログ、会話定義セッションエンゲージメント) に関する情報が含まれました。

2020 年 5 月 20 日

財務期間のエラー処理の向上
財務期間の [状況] 項目に新しい選択リスト値を追加するユーザのアップグレードに関する注記が追加されました。

支払サイトおよびホスト支払プラットフォームのゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト
関連する既知の問題レコードへのリンクが追加されました。

Salesforce ヘルプでの Trailblazer.me 環境の使用
Salesforce ヘルプの新しいログインプロセスに関する注記が追加されました。この変更は、ヘルプメニューの項目をクリックしたときにユーザがログインする方法に影響します。

Summer'20 で作成された組織でのゲストユーザプロファイルの「すべてのデータの編集」、「すべてのデータの参照」、「編集」、「削除」権限 (ページ 412)
Summer'20 で新しく作成された組織でのゲストユーザプロファイルのレコードアクセスと権限の変更を明確にする新しいリリースノートが追加されました。

Summer'20 より前に作成された組織でのゲストユーザプロファイルの「すべてのデータの編集」、「すべてのデータの参照」、「編集」、「削除」権限 (ページ 413)
Summer'20 より前に作成された組織でのゲストユーザプロファイルのレコードアクセスと権限の変更に関するリリースノートが明記されました。

Salesforce 緊急時対応管理の概要
公衆衛生、Health Cloud、公共セクタ用の新しい緊急時対応管理機能を発表するセクションが追加されました。

緊急時対応管理を使用したコミュニティの保護

Health Cloud 用の新しい緊急時対応管理機能に関する注記が追加されました。

Work.com: 緊急時対応管理、Workplace Command Center、シフト管理、Trail Tracker の概要

ビジネスの再開を支援するために設計された新しいソリューション(緊急時対応管理など)を紹介する Work.com セクションが追加されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

新しい FlowInterviewLog、FlowInterviewLogShare、FlowInterviewLogOwnerSharingRule、FlowInterviewLogEntry オブジェクトに関するリリースノートが追加されました。

2020 年 5 月 13 日

新規のお客様は Lightning Sync for Google を使用不可

Winter '21 での Lightning Sync for Google の販売終了の条件が改訂されました。

新規のお客様は Lightning Sync for Microsoft Exchange を使用不可

Winter '21 での Lightning Sync for Microsoft Exchange の販売終了の条件が改訂されました。

Lightning ページまたはクイックアクションからフローを起動するときにレコードを渡す

Lightning フローを使用してレコードをフローに簡単に渡す方法に関するリリースノートが追加されました。

Lightning フロー管理: 画面フローの事前作成済みレポート、自動化プロセスユーザのメール、デバッグログのリソース消費、プラットフォームイベントのフローエラーメール、第二世代パッケージの改善

限られたリソースのフローの使用状況の追跡に関するリリースノートが追加されました。プラットフォームイベントメッセージが開始されない場合、または登録されたフローとプロセスが再開されない場合のエラーメールの取得に関するリリースノートも追加されました。さらに、作成したフローに関する詳細が提供される新しいレポートに関するリリースノートが追加されました。

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

Flow オブジェクトの `runInMode` 項目の新しい `SystemModeWithoutSharing` 列挙に関するリリースノートが追加されました。

メタデータ API

Flow の `runInMode` 項目の新しい `SystemModeWithoutSharing` 列挙に関するリリースノートが追加されました。

Apex 型を逐次化および並列化する方法の制御

`@JsonAccess` アノテーションのコードサンプルでの構文エラーが修正されました。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

SurveyResponse オブジェクトの `DataMapperExecutionStatus` 項目に関するリリースノートが追加されました。

2020 年 5 月 4 日

Salesforce Summer '20 リリースノート

公開済みプレビューリリースノート。

フィードバックについて

貴社が成功を収めるために、ドキュメントがいかに重要であるのかを認識しています。そのため、成功要因と失敗要因を把握したいと考えています。

- **Trailblazer Community** — Release Readiness Trailblazers グループにフィードバックをお寄せください。フィードバックの追跡や応答がしやすくなるように、リリースを示すハッシュタグ (#Winter20Feedback など) を使用してください。
- フィードバックフォーム: Salesforce ヘルプ、リリースノート、開発者ガイドのドキュメントには、フィードバックフォームと賛成/反対投票があります。必要に応じてコメントを追加できます。
- **Twitter** — Twitter で @salesforcedocs をフォローすると、新しいドキュメントの公開や、既存のドキュメントへの重要な更新について通知を受けることができます。@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

リリースの準備

リリースの準備を整えるには、リリースノートを読むことが最良のステップです。以下のその他のリソースを使用することで、お客様、組織、お客様のユーザが新しい機能に自身で備えることができます。リソースは使用可能になった時点でリリース全体に追加されます。ご注意ください。

このリリースの新機能

- リリース概要デッキ (ROD)。ユーザ向けの社内トレーニングを作成したり、設定画面を確認したり、機能の使用方法を学習したりします。
- リリースマトリックス。ユーザにすぐに影響を与える機能をすばやく確認します。
- Summer '20 プレリリースのサインアップ。プレリリース組織にサインアップして、新機能に早期アクセスを取得します。
- Release Readiness の提供。新しい機能を登録し、活用します。
- リリースデモ。このリリースで導入される機能の概要を動画で簡単に確認できます。
- Summer '20 リリース Web サイト。新しい機能を確認します。
- 「Summer '20 リリースの特長」モジュール。Summer '20 Trailhead バッジを取得します。
- Release in a Box。このキットを使用して新しいリリースの準備をして、新しいリリースを組織とユーザに提示します。

Release Readiness の基本

- Release Readiness Trailblazers。各種リソースと専門家にアクセスし、リリース準備状況に関するあらゆることを確認します。
- リリースのマイルストン。リリースの重要な日付を確認します。
- Trust 状況のメンテナンス。Sandbox およびその他のリリース日時を確認します。メンテナンス日を確認するには、[Instances (インスタンス)] をクリックし、自分のインスタンスをクリックします。
- Sandbox 更新の計算機能。既存の Sandbox 組織を更新する必要があるかどうかや、いつ更新する必要があるのかを計画します。

- Sandbox プレビュー動画。Sandbox プレビュープロセスのナビゲーション方法について学習します。
- Sandbox プレビュー手順。Sandbox で新機能への早期アクセスを取得します。
- カスタマーサクセスのイベントカレンダー。リリースの概要の Web セミナーに登録したり、Web セミナーの録画にアクセスしたりします。
- Certification Release Maintenance Schedule (認証リリースメンテナンススケジュール)。Trailhead の認定資格を更新します。
- Salesforce リリースへの準備。Trailhead を使用してリリース戦略を作成します。
- Releases Email Journey (リリースメールジャーニー)。メールに登録してリリースの準備を整えます。

機能が使用可能になる方法と状況

Summer '20 の一部の機能は、リリースの公開直後にすべてのユーザに影響を与えます。この変更に対して準備ができるように、リリース前にユーザに通知することを検討してください。その他の機能については、ユーザが新機能を利用する前にシステム管理者による対応が必要です。

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience による Microsoft® Edge Chromium のサポート	✅			
Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイス	✅			
Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイス	✅			
Einstein Analytics でサポートされるブラウザ	✅			

Salesforce 全体

iPad で Lightning Experience にアクセスしたり、Lightning Experience 設定コンバータや Salesforce Optimizer アプリケーションを使用して Lightning Experience への切り替えを支援したり、標準ナビゲーションの分割ビューでレコード全体に目を通したり、ウォークスルーをアプリケーションに追加したり、改善されたプロンプトを使用してユーザがすばやく準備できるようにしたりします。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
iPad デバイスでの Lightning Experience へのアクセス (正式リリース)	✅			
標準ナビゲーションの分割ビューを使用したリストの簡単な操作	✅			
Lightning Experience の移行: 移行アシスタント、Optimizer、設定コンバータ				
Lightning Experience 移行アシスタントからのより多くのガイダンスの入手			✅	
Optimizer アプリケーションによる組織メンテナンスのスピードアップ			✅	
Lightning Experience 設定コンバータを使用した切り替えタスクの合理化 (正式リリース)		✅		
Lightning 準備状況の確認の迅速化		✅		
Lightning Experience エンゲージメント: ウォークスルー、アプリケーション内ガイダンスビルダー、プロンプト				
アプリケーション内トレーニングの複数ステップウォークスルーの作成			✅	
アプリケーション内ガイダンスビルダーの概要		✅		
プロンプトのページの場所の変更		✅		
フロート表示プロンプトの移動	✅			
ドッキングプロンプトのデザインの更新	✅			
Salesforce アプリケーション内コンテンツについて		✅		
Salesforce Anywhere: Salesforce コラボレーションの合理化と最適化 (ベータ)		✅		
Salesforce アンケート: さらなる組織の統合と新しいビルダーツール				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
回答の Salesforce レコードへの変換			✅	
Salesforce データによるアンケートのパーソナライズ			✅	
チャット後の顧客フィードバックの収集			✅	
顧客ライフサイクルマップによるカスタマーエクスペリエンスの変換			✅	
デフォルトの選択とアンケートの実行	✅			
参加者の高評価と低評価の理解	✅			
短いテキストによる重要な参加者情報の収集	✅			
QR コードによるアンケートへの招待の共有	✅			
世界中の利用者のエクスペリエンスの改善	✅			
管理パッケージを使用した組織間のアンケートの送信	✅			
すべての質問種別を一度に確認する	✅			
組織外のアンケート参加者による回答の簡易化			✅	
質問種別名の変更	✅			
Customer Lifecycle Analytics: トピック分析、顧客ライフサイクルマップ、回答分析、内部アンケート分析、拡張された設定ウィザード				
トピックの分析とビジネスパフォーマンスの追跡			✅	
顧客ライフサイクルマップによるカスタマーエクスペリエンスの改善			✅	
アンケートへの回答に関するより詳細なインサイトの取得			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
社内の参加者からの回答の分析			✅	
改善された設定ウィザードを使用したデータセットの自動作成			✅	
Lightning Scheduler: 自動リソース割り当て、匿名スケジュール、グローバルユーザ向けの拡張スケジュールエクスペリエンス、他				
自動サービスリソース割り当てによる予定のスケジュールの合理化			✅	
匿名スケジュールによるサービスリソース名の非表示			✅	
[インバウンドまたはアウトバウンドサービス予定をレビュー] コンポーネントによるフローの合理化			✅	
Available Territory Slots API によるシステムリソースの予定時間枠の取得			✅	
Lightning Scheduler のその他の変更			✅	
検索				
さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に	✅			
外部URLのリダイレクトに関する注意	✅			
Salesforce ヘルプでの Trailblazer.me 環境の使用	✅			
Lightning Extension のダークモード機能の一時的な無効化	✅			
セキュアな HTTPS 接続が必要 (更新、適用)			✅	
数式項目でハイパーリンクを正しく開く (重要な更新、適用済み)			✅	
タブ中心のダイアログを使い続ける方法(以前にリリース済みの更新)			✅	
より多くのレコードをグローバルプロファイルから作成				

セールス

Einstein コールコーチングを使用して会話データを分析し、エンゲージメントの詳細をレビューして見込み客がいつメールでエンゲージするかを確認します。より多くのカスタム商談分割種別を作成します。ToDo をキューに割り当てるクイックアクションを設定します。Pardot では Einstein 属性とマーケティングキャンペーンインテリジェンスアプリケーションが追加されます。テリトリーを使用して商談へのアクセスをより詳細に制御します。パス機能が Kanban に取り入れられます。メールインテグレーションは、これまで以上に生産性を向上するのに役立ちます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
High Velocity Sales				
Einstein コールコーチングを使用した営業電話のインサイトの取得			✅	
メールエンゲージメント			✅	
セールスケイデンス				
メールの返信に基づいたセールスケイデンスの分岐	✅			
選択した条件によるセールスケイデンスからの見込み客の自動削除	✅			
セールスケイデンスメールのスレッド表示	✅			
一目で確認できるセールスケイデンスおよび営業担当パフォーマンス (正式リリース)	✅			
セールスケイデンスを進む際の待機時間のスキップ	✅			
High Velocity Sales でメールをトラッキングするかどうかの選択			✅	
活動タイムラインでのセールスケイデンス ToDo の明確な表示			✅	
Salesforce Maps				
Salesforce Maps: COVID-19 クラスタの監視および Esri™ ArcGIS Living Atlas of the World				
Esri™ ArcGIS オンラインレイヤを使用した COVID-19 クラスターの監視			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Esri™ ArcGIS Living Atlas of the World からのコンテンツのプロット			✅	
権限および営業担当の設定の処理の改善			✅	
モバイルデバイスでフォルダの代わりにレイヤを表示			✅	
Map の新しい図形レイヤ			✅	
テリトリー計画: シナリオの比較、コラボレーション、共有と権限				
テリトリーモデルの変更の比較とシナリオプランニングを使用した配置の作成	✅			
テリトリー計画および配置でのコラボレーション	✅			
共有および権限の制御	✅			
配置に対する更新の承認の要求			✅	
データセット作成の労力軽減	✅			
大きなデータセット作成の制限の緩和	✅			
任意のタイミングでのデータセットおよび補足配置への属性のインポート	✅			
拡張された公開オプションの使用	✅			
地図およびその凡例のPDFへの公開 (正式リリース)	✅			
Advanced: 設定環境の再設計		✅		
Sales Cloud Einstein				
商談スコアの一貫した項目の表示ラベル	✅			
アクセス権のあるスコアリング要素のみの表示	✅			
商品、見積、価格表に基づく商談スコアの取得	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
リードスコアに反映される活動データ			✅	
会社が経費削減していることの確認	✅			
中核的なセールス機能				
商談				
商談分割の効果を高めるための分割制限の引き上げ			✅	
Lightning Experience での大規模商談のアラートの設定			✅	
商談スコアの一貫した項目の表示ラベル	✅			
注文				
注文品目の作成での新しい入力規則	✅			
価格表のない注文の有効化	✅			
エンタープライズテリトリー管理				
誰が何を参照できるかを詳細に制御		✅		
テリトリーオブジェクトの表示ラベルのカスタマイズ		✅		
中核的なセールス機能のその他の変更				
カスタム商品レポートタイプおよびカスタム価格設定レポートタイプを使用した価格設定管理の合理化	✅			
エンタープライズテリトリー管理の詳細の表示ラベルの改善	✅			
大規模商談アラートの設定ページの表示ラベルの改善		✅		
カスタマイザブル売上予測の廃止		✅		
元のテリトリー管理の廃止		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
生産性機能				
メール操作環境				
セールスケイデンスメールでのメールスレッドの使用	✅			
Lightning Experience のメールの追跡による High Velocity Sales の無効化の停止		✅		
メールアドレス国際化を使用したグローバルなつながり			✅	
再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善 (更新、適用)		✅		
メールテンプレート			✅	
活動				
クイックアクションを使用したキューへの ToDo の割り当て	✅			
Einstein 活動キャプチャ				
お客様が新しいメールインサイトに関心がないときに把握	✅			
SOAP API を使用した Einstein 活動キャプチャ設定へのユーザの追加		✅		
単一ページでのスレッド化されたメールの表示	✅			
Lightning Dialer	✅			
Kanban				
Kanban ビューでの会社のプロセスに関するガイダンスの取得			✅	
Kanban ビューでの紙吹雪を使用したマイルストン達成のお祝い			✅	
Salesforce Inbox モバイル: Inbox からのスマートな営業	✅			
Google とのインテグレーション				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Gmail™ インテグレーション				
1 つの Salesforce 設定による Gmail インテグレーションでのメールのトラッキングの無効化			✅	
Gmail インテグレーションでのアプリケーション間でのメールエンゲージメントのトラッキング			✅	
Gmail インテグレーションでテキストショートカットにアクセスするためのクイックテキストの有効化			✅	
マウス操作ではなくキーボード操作による Gmail インテグレーションでのメールへのテキストショートカットの追加	✅			
一部の Salesforce エディションで無効化された Gmail インテグレーションの Inbox 機能			✅	
Gmail インテグレーションからログに記録される送信済みメールの状況の変更	✅			
Lightning Sync for Google				
新規のお客様は Lightning Sync for Google を使用不可		✅		
より厳しい権限を持つシステム管理者への設定の委任		✅		
Microsoft® とのインテグレーション				
Outlook® インテグレーション				
古いバージョンの Outlook および Windows でのインテグレーションのサポート終了			✅	
Salesforce の [設定] を使用した Outlook インテグレーションでのメール追跡の無効化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Outlook インテグレーションでのアプリケーション全体のメールエンゲージメントの追跡			✅	
Outlook インテグレーションでテキストショートカットにアクセスするためのクイックテキストの有効化			✅	
一部の Salesforce の Outlook インテグレーションで無効になった Inbox 機能			✅	
Outlook インテグレーションから記録された送信済みメールの状況の変更	✅			
Lightning Sync for Microsoft® Exchange®				
新規のお客様は Lightning Sync for Microsoft Exchange を使用不可		✅		
より厳しい権限を持つシステム管理者への設定の委任		✅		
一部の Microsoft Office 365 ユーザに必要な変更			✅	
Salesforce for Outlook				
2020 年 12 月に廃止される Salesforce for Outlook			✅	
2020 年 12 月より前にサービスが中断された場合のアクセスの復元			✅	
バージョン固有の Salesforce for Outlook リリースノートの検索			✅	
Salesforce CPQ と Salesforce Billing				
Salesforce CPQ				
見積品目エディタの列サイズの最適化			✅	
使用量ベースの Evergreen サブスクリプションの自動使用量サマリー	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
修正時のバンドル構造の保持要件をバイパスする場合の選択	✅			
権限セットライセンスへのCPQの移行 (更新)			✅	
Salesforce Billing				
財務期間のエラー処理の向上	✅			
支払サイトおよびホスト支払プラットフォームのゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト	✅			
より多くのトランザクションを含む財務期間の終了	✅			
請求書品目期日の管理	✅			
納入商品での請求書品目残高の表示	✅			
Pardot				
6 月に予定されている Pardot の変更				
プロスペクト向けのPardotアセットのセキュリティ強化			✅	
サポートに連絡せずに個人取引先の同期を有効化			✅	
リストメールレポートの高度なメール分析のタイムリーな参照	✅			
Handlebars Merge Language をデフォルトで有効にして新規Pardotアカウントを作成	✅			
Summer '20 で予定されている Pardot の変更				
Salesforce を使用した Pardot ユーザの管理			✅	
従来の B2B Marketing Analytics アプリケーションの廃止			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce-Pardot コネクタ v2 へのアップグレード			✅	
Pardot 用 Developer Sandbox を使用した設定変更のテスト (正式リリース)			✅	
ファーストパーティ追跡 (ベータ)			✅	
スニペットの API 参照名の再利用	✅			
Pardot API: 新規および変更された項目		✅		
一部のユーザ向けのプロスペクトリストビューの変更	✅			
B2B Marketing Analytics の設定を容易にするための手順			✅	
Pardot と Salesforce のキャンペーンデータの横並びでの探索			✅	
Pardot データフローへのアクセスとカスタマイズ			✅	
商談レコードでのエンゲージメントデータの確認			✅	
キャンペーンレコードでの AI で強化された属性データの取得			✅	
レコードおよびリストビューからのプロスペクトリストおよび Engagement Studio プログラムへの追加			✅	
エンゲージメントデータセットからのテストメールの削除				
Sales Cloud のその他の変更				
Data.com Prospector と Data.com Clean の廃止			✅	
Salesforce の [設定] からの [Inbox] の [ユーザ数とライセンス数] ページの削除	✅			
Sales Cloud 機能の権限変更		✅		

サービス

Salesforce の機能を Amazon Connect のテレフォニーサービスと統合する新製品の Service Cloud 音声を介して、顧客と会話できます。Lightning サービスコンソールで類似する完了したチャットに基づくチャットの返信をサポートエージェントに推奨できます。Einstein ボットを 9 つの言語で使用できます。スケジュールビューの改善により、Field Service Lightning のシフト (ベータ) をより簡単に管理できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein for Service				
Einstein 返信のおすすめを使用したチャットエージェントの応答の迅速化 (正式リリース)			✅	
5 個の新しい言語での Einstein 記事のおすすめの提供 (パイロット)				✅
Einstein ケースラップアップを使用した迅速なケースのクローズ (パイロット)				✅
Einstein ボット				
拡張イベントログを使用した詳細なインサイトの取得	✅			
ボットのスキルベースのルーティングを使用した顧客満足度の向上	✅			
Facebook Messenger を使用した利用者の拡大 (正式リリース)	✅			
ボットモデルの機能強化の理解 (正式リリース)	✅			
複数言語ボットの導入	✅			
ボットビルダーのアップグレードによるボットの管理	✅			
インテント管理とボットイベントデータに関する基本ドキュメントの入手	✅			
Einstein ボット: 制限の緩和	✅			
Einstein ボットの動的キュールーティングの作成	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein ケース分類				
参照項目値の推奨と自動化	✅			
予測の信頼性が低いケースの識別		✅		
ページレイアウトの更新			✅	
フィールドサービス				
最適化インサイトによる結果への注目 (ベータ)		✅		
トラックや作業員の負荷の管理		✅		
スケジュールの課題に対する簡単な対応		✅		
ディスパッチャコンソールでのクリック数の削減		✅		
シフト管理の改善 (正式リリース)		✅		
ガントチャートのカスタマイズ方法の追加		✅		
ユーザをさらに祝福		✅		
必要に応じたメンテナンス計画とサービス契約の共有		✅		
アセットの可用性と信頼性の追跡			✅	
チームの経費の追跡		✅		
タイムシートの条件に基づく共有ルールの使用		✅		
モバイルアプリケーションでのアクションおよびフローへの直接リンク			✅	
プッシュ通知の制限が緩和されました		✅		
チャネル				
音声: サービスコンソール内のインテリジェントなテレフォニー				
Customer 360 の機能を簡単に使用したお客様との会話			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
転送、マージ、Speed Dial を使用した適切なエージェントへの通話の割り当て			✅	
コンタクトセンター分析の一目での参照			✅	
Amazon Connect の機能を使用した音声の拡張			✅	
リアルタイムの通話の文字起こしを使用したエージェントの生産性向上			✅	
Messaging				
ショートコードメッセージを使用したリーチの拡大 (カナダ)				✅
「メッセージングセッションの終了」ユーザ権限の追加			✅	
Facebook の Einstein ボットを使用してエージェントのワークロードを軽減			✅	
複数言語での顧客の同意の管理			✅	
メッセージングでの会話ツールキットイベントの使用		✅		
Facebook と WhatsApp でエージェントが開始した会話による顧客への連絡 (オープンベータ)			✅	
メッセージングの連動関係の変更			✅	
チャネルオブジェクトリンク			✅	
モバイルアプリケーション用埋め込みサービス	✅			
Web 用埋め込みサービス				
ライブチャネルメニューのプレビューの表示		✅		
動的チャネルメニューでの応答			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
改善されたチャットヘッダーによる会話の強化		✅		
Lightning Web コンポーネントを使用したチャットヘッダーのカスタマイズ			✅	
アクセスビリティでのチャネルメニューとチャットのアニメーションの提供		✅		
チャットセッション全体の変換			✅	
5 つ星サービスのチャット後アンケートの追加			✅	
ナレッジ				
Lightning Knowledge での Salesforce 共有の使用 (ベータ)				✅
Lightning Knowledge のレコード所有者の変更		✅		
リンク済み記事でより多くの記事の使用を追跡	✅			
ナレッジレポートをデータカテゴリで絞り込み	✅			
ルーティング				
作業項目の状況に基づくエージェントの業務量の決定(正式リリース)			✅	
その他のルーティングスキルの優先度付け			✅	
その他の変更				
関連レコードコンポーネントを使用して、拡張されたレコードおよび多態的なリレーションを表示			✅	
権限の変更		✅		

Industries

Salesforce Industries の垂直型ソリューションは、自分に依存する人との距離を縮めるように設計された多数の機能を備えています。Salesforce 緊急時対応管理は、危機の発生時に取引先責任者の追跡、監視、および他のリソースをすばやく提供するのに役立ちます。Health Cloud には新しい緊急時対応機能に加えて、コールセンター担当者をサポートしたり患者とつながったりするためのより多くの方法が追加されており、利便性や使いやすさも改善されています。Financial Services Cloud では、アクションプランが使いやすくなり、顧客のローン申込データを利用して金融口座を作成できます。Consumer Goods Cloud を使用すると、フィールド営業担当者は最も重要なデータに集中し、スケジュールを簡単に管理できます。Manufacturing Cloud を使用すると、取引先マネージャは取引先目標の設定や適切な販売予測を行うことができるため、販売計画を順調に進めることができます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
緊急時対応管理				
従業員向けコンタクトトレーシングの概要		✅		
公衆衛生向け緊急時対応管理の概要			✅	
公共セクタ向け緊急時対応管理の概要			✅	
緊急時対応管理の新規および変更されたオブジェクト		✅		
Health Cloud				
緊急時対応管理を使用したコミュニティの保護			✅	
改善されたケアプランによる ToDo 追跡の向上				
問題別と目標別の ToDo のグループ化	✅			
進行状況リングによる ToDo 終了の追跡	✅			
ケアプランのその他の UI の変更	✅			
提供者検索の機能強化				
提供者検索データの動機のトラブルシューティング	✅			
提供者検索での個人取引先の使用		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
名前または距離による提供者検索結果の並び替え	✅			
実際の運転距離に基づいたより正確な訪問の計画	✅			
リモート監視による患者への関与				✅
Health Cloud 用のインテリジェントなセールスによる外科施設訪問の計画と実行				
デスクトップアプリケーションによる訪問の計画とフィールド在庫の管理			✅	
モバイルアプリケーションによる訪問成果の増大			✅	
ヘルスケアデバイスの登録や配送要求の作成				✅
アセット、商品、登録済みデバイスの同意フォームの表示				✅
同じケアプログラムへの患者の登録				✅
ヘルスケア従事者のケアプログラム提供者との関連付け				✅
ゲストユーザは逆リレーションレコードを自動的に取得しない				✅
ケアプランの状況項目にクローズ状況を表示するか非表示にするかを選択			✅	
Einstein Analytics for Healthcare の機能強化による AI を駆使したインサイトの迅速な発見			✅	
Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト		✅		
Health Cloud: 新規および変更されたメタデータ型		✅		
Financial Services Cloud				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Financial Services Cloud の保険: 複数行保険契約に対応するためのサポートの強化、保険契約および保険エージェントポータルの新しい表示オプション、新しい関連リスト				
複数行保険契約の保険契約数と保険料の計算のより詳細な制御			✅	
保険契約コンポーネント: 保険契約階層、保険契約タイプの検索条件、省略可能な請求リスト、他			✅	
ルックアップによる積み上げ集計を使用した世帯保険契約および請求の可視化			✅	
保険エージェントポータルでの機密性の高いライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプの非表示			✅	
保険エージェントポータルの保険契約コンポーネントでの関係者の保険契約の表示			✅	
Financial Services Einstein アプリケーションの機能強化による保険データのさらなる活用			✅	
Financial Services Cloud の保険のその他の変更			✅	
アクションプラン: キューへの ToDo の割り当て、ToDo と項目の追加、コミュニティでのアクションプランの使用				
キューへのアクションプランテンプレートの ToDo の割り当て		✅		
アクションプランユーザによる ToDo と項目の追加の許可		✅		
パートナーコミュニティでのアクションプランの使用		✅		
Actionable Relationship Center: 顧客の関係および階層のコンテキストアクションの促進 (正式リリース)	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
住宅ローン: 住宅ローン申込データからの金融口座の作成		✅		
住宅ローン: ローン商談リレーションの作成		✅		
Financial Services Einstein アプリケーションの機能強化による Wealth Management データのさらなる活用			✅	
[主取引先責任者 ID を無効化] 設定を使用した Financial Services Cloud の動作の合理化		✅		
新しい権限セットライセンス: Financial Services Cloud Extension	✅			
新しい権限セット: Aura 対応 Apex クラスアクセス	✅			
新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト		✅		
Financial Services Cloud の新規および変更されたメタデータ型		✅		
Financial Services Cloud の新しい呼び出し可能なアクション		✅		
REST API		✅		
	Consumer Goods Cloud			
フィールド営業担当者のニーズに合わせてモバイルアプリケーションをカスタマイズ			✅	
埋め込み Salesforce Maps を使用した店舗、取引先、プロモーションの管理			✅	
テンプレートを使用した訪問の迅速な作成	✅			
ビジネスの成長、小売実行の改善			✅	
アクションプランテンプレートにフローを追加して店舗でより多くの活動を実行	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
訪問の効率の向上	✅			
その他の項目名の変更			✅	
Einstein Object Detection: データの安全性、検出の改善、重要な更新				
無効な組織のデータセキュリティの改善	✅			
最も精度の高いモデルを使用したオブジェクトの検出	✅			
データの増加によるモデルの改善	✅			
モデルに関する重要な詳細の把握	✅			
データセットおよびモデルの状況の把握	✅			
データセットファイルのアップロード	✅			
データセットおよびモデル評価指標の関連レコードの表示		✅		
すべてのレコードの簡単な表示	✅			
Consumer Goods Cloud の変更されたオブジェクト		✅		
Manufacturing Cloud: ビジネス成長計画の立案、特定の取引先販売予測への集中、販売の計画された総計値と実際の総計値の比較の改善				
取引先マネージャ目標: 成長計画を測定可能な目標に変換 (正式リリース)				
目標の割り当てによるチームメンバーへの期待の設定	✅			
1回のクリックによる割り当て値の更新	✅			
取引先および商品ごと、および期間ごとの目標の配分			✅	
組織の階層の変化への対応	✅			
1つのページでの取引先の目標割り当ての追跡	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レポートを使用した詳細な取引先マネージャ目標の分析			✅	
取引先マネージャ目標のデータ使用量の管理			✅	
取引先販売予測: 絞り込まれた販売予測および詳細なレポート				
主要な取引先および商品の販売予測を使用した取引先販売予測の計画の改善			✅	
1回のクリックによるすべての取引先販売予測の再計算			✅	
レポートを使用した詳細な取引先販売予測の分析			✅	
取引先販売予測のデータ使用量の管理			✅	
販売計画: 単一通貨での収益総計値の表示、レポートを使用したデータの絞り込み				
販売計画のすべての収益総計値を同一通貨で表示	✅			
レポートを使用した詳細な販売計画データの分析			✅	
1つのダッシュボードを使用したビジネスパフォーマンスの監視 (ベータ)	✅			
販売予測の変化の分析およびビジネスの改善			✅	
Manufacturing Cloud の新しいオブジェクト		✅		
Manufacturing Cloud の新規および変更されたメタデータ型		✅		
Manufacturing Cloud の新規および変更された Tooling API オブジェクト		✅		
Manufacturing Cloud の新規および変更された呼び出し可能なアクション		✅		

Analytics

ナレッジレポートをカテゴリで絞り込んで、ナレッジ記事に関するより詳細なインサイトを取得します。親しみやすい新しいエディタ (データの準備 (ベータ)) を使用してレシピを作成します。3 つのモデリングアルゴリズムからの最適な予測を取得します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
レポートとダッシュボード				
ナレッジレポートをカテゴリで絞り込み	✅			
レポートの登録への .csv ファイルの添付 (ベータ)			✅	
拡張フォルダ共有の有効化 (更新)			✅	
レポートの行レベルの数式で最大 5 個の一意の項目を使用	✅			
価格表エントリに基づくレポートの作成	✅			
画面フローレポートを使用した作成するフローに関する詳細の発見	✅			
Salesforce コンソールでレポートリンクが新しいサブタブで開く	✅			
Einstein Analytics				
データインテグレーション				
次世代のデータの準備 (ベータ) を使用したデータの準備			✅	
顧客および見込み客の感情の把握	✅			
Amazon S3 への Einstein Analytics データの出力 (ベータ)				✅
Select AWS RDS コネクタからのすべての TinyInt 列値の同期	✅			
Google BigQuery Standard SQL コネクタから同期されているデータの絞り込み	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
FIPS 140 要件に準拠したコネクタによる Government Cloud 組織へのリモートデータの同期	✅			
同期後に実行されるレシピのスケジュールによる最新データの常時取得	✅			
より短いスケジュール間隔を使用したデータの最新の状態の維持	✅			
通知を使用したレシピジョブの把握	✅			
履歴機能を使用した以前のデータフローバージョンの簡単な復元		✅		
事前作成済みテンプレートおよびアプリケーション				
Appointment Analytics アプリケーションのインサイトを使用したサービス予定のパーソナライズ		✅		
テンプレートギャラリーでの主要なテンプレートの検出	✅			
Analytics アプリケーション構築				
Analytics VS Code 拡張機能を使用した Analytics テンプレート開発の迅速化		✅		
1 つのクエリを使用した複数のデータセットの探索 (正式リリース)	✅			
Snowflake でのデータに関するインサイトの直接的な取得 (ベータ)			✅	
書式設定を使用した重要なピボットテーブルデータの強調	✅			
ピボットテーブルの複数の基準によるデータの集計	✅			
コードを使用しないダッシュボードテキストへの動的値の追加	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
1回のクリックによるダッシュボードのダッシュボードのデータの並び替え	✅			
ユーザが組み込みダッシュボードを開く場所の選択	✅			
Einstein Discovery				
3つの異なるモデルからの最適な予測の取得				✅
ランダムフォレストアルゴリズムを使用した正確なモデルの作成 (パイロット)		✅		
Einstein Discovery で処理可能なデータの増加				✅
リリース済みモデルの簡単な置き換え				✅
[変更箇所] インサイトカードを使用したストーリーバージョンの比較				✅
Salesforce レコードの一括スコアリング				✅
インサイトや予測からのバイアスの排除				✅
二乗平均平方根誤差を使用した線形回帰のモデル品質の評価				✅
モデルの詳細への透過的なアクセス				✅
バックグラウンド監視を使用した予測パフォーマンスの追跡				✅
更新された変数設定の相関関係の再計算				✅
すべてのユーザのための **Analytics**				
テーブルの登録 (ベータ)			✅	
拡張された Einstein Analytics ウォッチリスト (ベータ)	✅			

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ダッシュボードの[学習リソース]パネルでの学習ジャーニーの作成	✅			
学習センターの人気のあるトピックの詳細	✅			
Einstein Analytics for iOS/Android の Summer '20 バージョンの準備	✅			

コマース

Salesforce Lightning Experience の B2B Commerce では、企業間 (B2B) コマースソリューションに Salesforce Platform の機能を取り込むことができます。Salesforce注文管理の拡張機能には、マルチ通貨、注文の総税額種別、キャンセルの返金、注文商品の割引、未管理注文、取引先および取引先責任者、Adyen を使用した支払処理のサポートが含まれます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Experience の B2B Commerce				
Salesforce B2B Commerce: 企業間コマースソリューションの設計、構築、稼働開始				
Salesforce コアプラットフォームから B2B Commerce オブジェクトへのアクセス			✅	
Commerce アプリケーションを使用したコンテンツ、エンタイトルメント、価格表、バイヤーの管理			✅	
Lightning フローマネージャを使用した B2B チェックアウトフローの作成			✅	
バイヤーによる検索を使用した商品の検出			✅	
B2B Commerce テンプレートを使用した優れたバイヤー環境の作成			✅	
Salesforce 注文管理				
マルチ通貨の有効化			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
総税額または正味税額を使用した注文の提供	✅			
キャンセルされた注文品目の返金処理			✅	
注文商品概要への割引の適用	✅	✅		
Salesforce 注文管理での未管理注文のレコードの保存		✅		
個人取引先の代わりに標準の取引先と取引先責任者で買い物客を表す		✅		
Adyen を使用した非同期支払トランザクションの処理		✅		
更新された標準フローを使用した新しい処理機能へのアクセス			✅	
バージョン 224 からバージョン 226 への Salesforce 注文管理の更新			✅	

コミュニティ

パーソナライズには、エクスペリエンスビルダーと API の両方で使用可能な多数の機能強化があります。改良されたタイルメニューなどのナビゲーションコンポーネントに異なるリンクセットを表示します。セキュリティのさまざまな機能強化によってデータを安全に維持できます。また、Winter'21 以降、ゲストユーザセキュリティ設定の有効化からオプトアウトするオプションは表示されなくなるため、今のうちにその準備をしてください。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning コミュニティ				
予定されている CSP の変更に備えたコミュニティの準備		✅		
Lightning コミュニティでの標準アクションの上書き		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ナビゲーションメニュー、タイルメニュー、CMSコレクションを使用したさらなるパーソナライズ		✅		
活動目的アクティビティ数のリセット		✅		
コミュニティページの管理の向上		✅		
コミュニティページのサイトマップの生成		✅		
コンテンツの詳細ページへの動的 SEO プロパティの追加		✅		
改良されたタイルメニューを使用したコミュニティの詳細なカスタマイズ		✅		
柔軟性が向上した新しいユーザプロファイルメニューコンポーネント		✅		
コミュニティの複数レベルのナビゲーションオプションの増加		✅		
開発者の生産性				
LWC ベースのテンプレートを使用した迅速かつ効率的な環境の構築 (開発者プレビュー)			✅	
Lightning Web コンポーネントでの現在のコミュニティに関する情報の取得		✅		
ExperienceBundle でのテーマレイアウトプロパティのサポート		✅		
ゲストユーザ				
コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック (以前にリリース済みのセキュリティアラートと更新、適用済み)			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て (以前にリリース済みのセキュリティアラート)			✅	
Summer'20 より前のゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト (以前にリリース済みの更新)			✅	
既存のレコードの所有者としてゲストユーザを割り当てできない		✅		
ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護 (以前にリリース済みのセキュリティアラート、適用済み)			✅	
安全なレコードアクセスを有効にする前にゲストユーザ共有ルールを作成		✅		
ゲストユーザプロファイルでの「すべてのユーザの表示」などの権限の無効化 (以前にリリース済みのセキュリティアラート、適用済み)		✅		
Summer'20 で作成された組織でのゲストユーザプロファイルの「すべてのデータの編集」、「すべてのデータの参照」、「編集」、「削除」権限		✅		
Summer'20 より前に作成された組織でのゲストユーザプロファイルの「すべてのデータの編集」、「すべてのデータの参照」、「編集」、「削除」権限		✅		
ゲストによる安全なファイルのアップロード			✅	
Winter '21 リリースまでにゲストユーザに対するオブジェクト権限を減らす (セキュリティアラート)		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ゲストユーザが他のメンバーを表示できるようにするコミュニティ固有の設定の無効化からオプトアウト (以前にリリース済みの更新)			✅	
Visualforce メールテンプレートで作成されたメールへのゲストユーザアクセスの確認			✅	
セキュリティと共有				
ユーザ権限を使用した外部 ID の 2 要素認証の設定		✅		
埋め込みログインへのコミュニティのログインページ種別の割り当て		✅		
カスタム URL を使用したコミュニティのログイン環境の改善		✅		
コミュニティのその他の変更				
外部取引先階層を使用したパートナーとのデータ共有		✅		
改善されたチャットヘッダーによる会話への集中		✅		
ライブチャネルメニューのプレビューの表示		✅		

Salesforce CMS

新しい画像およびドキュメントコンテンツタイプによって、Salesforce CMS コンテンツの管理が簡単になりました。複数のコンテンツ項目(画像、ニュース、ドキュメント、カスタムコンテンツタイプなど)をすばやくインポートできます。Lightning Experience の B2B Commerce で CMS コンテンツを使用します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
画像およびドキュメントコンテンツタイプを使用した CMS コンテンツの一元管理		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce CMS ワークスペースへのコンテンツのインポート		✅		
コンテンツの詳細ページへの動的 SEO プロパティの追加		✅		
CMS コレクションのパーソナライズ		✅		
Lightning Experience の B2B Commerce による Salesforce CMS コンテンツの使用		✅		
「CMS ワークスペースおよびチャネルを作成」ユーザ権限		✅		

Files

ユーザは添付ファイルとしてすべてのカスタムファイルの種類をダウンロードできます。Connect REST API のファイル変換を Adobe Flash から SVG に切り替えます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
カスタムファイルの種類を添付ファイルとしてダウンロード可能			✅	
Connect REST API でのファイル変換の切り替え		✅		

モバイル

パーソナライズされたナビゲーションおよびモバイル活動アラーム (パイロット) を使用して、Salesforce モバイルアプリケーションから離れずにより多くの作業を実行できます。より多くのプッシュ通知を送信し、カスタム通知を外部アプリケーションに送信します。Lightning コミュニティへのアクセス権を持つすべてのユーザが Mobile Publisher Playground アプリケーション (ベータ) にアクセスできるようになりました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce モバイルアプリケーション				
Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Salesforce モバイルアプリケーションの要件の変更	✅			
Salesforce モバイル Web ブラウザ環境の廃止	✅			
Android オブジェクトホームページでのすべてのリストへのアクセス	✅			
Android でキャッシュをいつでもクリア	✅			
レポートの強調表示で要点を示す	✅			
Lightning アプリケーションのナビゲーションメニュー項目の並び替え	✅			
iOS で 1 回のタップでリンクを開く	✅			
プッシュ通知の制限が緩和されました		✅		
拡張モバイルセキュリティの更新によるデータの保護				✅
通知				
通知ビルダープラットフォームを使用した外部アプリケーションへのカスタム通知の送信			✅	
制限の緩和によるより多くのプッシュ通知の送信		✅		
Mobile Publisher				
Publisher Playground アプリケーションでのテストモード間の切り替え (ベータ)			✅	
Publisher Playground アプリケーションへの容易なアクセス (ベータ)			✅	
プッシュ通知の制限が緩和されました			✅	
Salesforce Anywhere	✅			

持続可能性

新しい Einstein Analytics ダッシュボードを使用して、重要業績評価指標および排出量のトレンドに簡単にアクセスできます。Sustainability Cloud の高い柔軟性とサポートを利用できます。SI (総計値) 単位を使用してデータを入力し、言語を 6 つのいずれかの言語に変更できます。Government Cloud 組織で Sustainability Cloud を実行できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein Analytics ダッシュボードを使用した二酸化炭素排出量の追跡			✅	
Government Cloud 組織での Sustainability Cloud のインストールおよび実行			✅	
Sustainability Cloud の言語の変更			✅	
SI 単位でのエネルギー使用および排出量データの入力	✅			

myTrailhead

ユーザがヘルプアイコンをクリックしたり、myTrailhead からログアウトしたりしたときの移動先のページを選択します。myTrailhead ページフッターのカスタムリンクを作成します。モジュールページとトレイルページの製品カテゴリから不要な検索条件を削除します。Salesforce ブランド設定要素を myTrailhead から削除しました。これによりユーザが混乱することがなくなります。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
ヘルプページとログアウトランディングページの URL のカスタマイズ	✅			
myTrailhead のフッターリンクのカスタマイズ	✅			
myTrailhead の Salesforce および Trailhead ブランド設定要素を非表示	✅			
myTrailhead の商品リストから検索条件を削除	✅			

Work.com

ビジネス、従業員、施設の準備を整えます。Work.com のアプリケーションとサービスを使用して、現在の COVID-19 による危機など、重大な事態に対応します。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
災害に見舞われたときにも活動目的を達成する			✅	
Workplace Command Center で職場への復帰を 1 箇所で管理			✅	
シフト管理で従業員を職場に呼び戻す			✅	
Trail Tracker for Work.com による従業員の準備状況の保証			✅	
従業員向けコンタクトトレーシングプロセスの管理		✅		

カスタマイズ

Flow Builder とフロー管理の機能強化により、フローの作成、設定、レポート、デバッグが容易になりました。予測が改善され、Einstein 予測ビルダーで効率的に管理できるようになりました。Lightning アプリケーションビルダーの Lightning ページの設計およびナビゲーションの方法が新しくなりました。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning フロー				
Flow Builder				
レコードの保存後に実行するフローのトリガ		✅		
プラットフォームイベントメッセージの受信時に実行するフローのトリガ		✅		
デバッグできるフローの増加とデバッグの迅速化		✅		
拡張された[新規フロー]ウィンドウと開始要素によるフローの作成		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
出力値を割り当てずにサブフロー要素を設定		✅		
ループ変数を作成せずにループ要素を設定		✅		
Flow Builder のガイダンスのヒントの取得		✅		
Lightning ページまたはクイックアクションからフローを起動するときにレコードを渡す		✅		
フロー内の Apex 定義データ型のネストされた項目へのアクセス		✅		
ユーザ権限をスキップするフローの実行		✅		
テキストテンプレートフローリソースのテキスト形式オプションの更新		✅		
プロパティエディタで他の設定の画面スペースを拡大		✅		
フローユーザによる検索可能な項目でのレコードの検索		✅		
Flow Builder ツールバーの改善		✅		
Lightning フローの管理				
画面フローの利用状況の分析	✅			
フローの限られたリソースの使用量を追跡		✅		
登録済みフローまたはプロセスがプラットフォームイベントメッセージにより開始または再開されない場合に通知を取得		✅		
自動化プロセスユーザのメール			✅	
第二世代パッケージの改善: パッケージから以前のフローを削除			✅	
Lightning フロー拡張				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
カスタムフロー画面コンポーネントのより簡単な設定 (ベータ)		✅		
Flow Builder での呼び出し可能アクションの設定の簡易化 (ベータ)		✅		
複数のオブジェクトで機能するフロー画面コンポーネントの作成 (ベータ)		✅		
フロー外部からの Apex で定義された変数へのアクセス		✅		
プロセスおよびフローでの Salesforce Anywhere チャットおよびアラートの使用 (ベータ)		✅		
Lightning フローリリース更新				
プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)			✅	
呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (更新、延期)			✅	
フロー数式でのデータアクセス権の適用 (更新、延期)			✅	
フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮 (更新、延期)			✅	
Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)			✅	
プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (更新、延期)			✅	
フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求 (更新、廃止)			✅	
Einstein 予測ビルダー: スコアカードからの予測セットの定義、レポートの実行、および予測の有効化				
Einstein 予測ビルダーでの自分の予測セットの定義			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein 予測ビルダーからのレポートの実行			✅	
スコアボードからの Einstein 予測の有効化			✅	
Einstein 予測ビルダーでチェックされるデータのデータ型の増加			✅	
わかりやすくなった Einstein 予測ビルダーのスコアカード			✅	
Lightning アプリケーションビルダー				
Tab キーと矢印キーを使用したコンポーネントパレットの移動		✅		
より多くのページレイアウトへの C360 グローバルプロファイルコンポーネントの追加				
グローバリゼーション				
データ翻訳での商品詳細の翻訳			✅	
ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの更新)			✅	
マオリ語の表示ラベルとイギリスのロケール形式の更新	✅			
改善された翻訳ドキュメント	✅			
共有				
「ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護」の適用			✅	
デフォルトでのゲストユーザ共有ルールの作成		✅		
承認				
修正された承認差し込み項目を使用するメールアラートの更新	✅			
有効承認プロセスの順序のプログラムでの制御		✅		
一般設定				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
フルビューを使用したレコードの表示 (正式リリース)			✅	
新しい最小アクセスユーザプロファイルの使用		✅		
[設定] に表示される Lightning ページのタブ表示ラベルの翻訳		✅		
Salesforce IoT Explorer Edition の廃止		✅		
設定変更履歴での自動的に更新されるエンティティ権限の確認		✅		
プッシュ通知の制限が緩和されました		✅		
参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (更新、延期)			✅	
カスタマイズ機能に対する権限の変更		✅		

セキュリティ、プライバシー、ID

2 要素認証および代理認証が更新されました。OCSP Stapling により、HTTPS の接続が迅速化されます。リアルタイムイベントモニタリング脅威検知が正式リリースされ、脅威に対するアラートを受信する手段をアプリケーション、メール、SMS の中から選択できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
認証と ID				
Apex を使用した 2 要素認証の開始		✅		
外部ユーザの 2 要素認証の有効化			✅	
Salesforce UI での API 限定ユーザによる 2 要素認証の登録	✅			
信頼性の高いユーザの ID 検証のスキップ			✅	
Salesforce 組織への代理認証の適用			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
統合 ID と ID プロバイダのシームレスな統合			✅	
組み込みログインページ種別のカスタマイズ			✅	
カスタムコミュニティ URL による SSO の改善		✅		
新しい JSON 応答項目を使用したログインページ属性の検出		✅		
接続アプリケーションを使用した Pardot API サービスへのアクセス			✅	
アプリケーションおよびログイン種別でのログイン履歴の絞り込み		✅		
ドメイン				
OCSP Stapling を使用した外部証明書検証の合理化		✅		
Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (更新、延期)			✅	
Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保(更新、適用)			✅	
Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (更新、適用)		✅		
[私のドメイン]の名前の長さの要件の変更		✅		
Salesforce Shield				
Platform Encryption: テスト用のスクラッチ組織機能、ブロックされたイベントの回避				
スクラッチ組織でのテストする Shield Platform Encryption 機能の増加			✅	
メタデータ API を使用した暗号化の際のブロックされたイベントの回避		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
システム管理者プロファイルから「暗号化鍵を管理」権限を削除 (以前にリリース済みの更新)			✅	
イベントモニタリング:脅威検知リアルタイムイベントの正式リリース、脅威検知イベントのトランザクションセキュリティサポート、従来のトランザクションセキュリティの廃止				
組織に対する脅威の検知 (正式リリース)			✅	
検知された脅威に関する通知の受信			✅	
脅威検知イベントの表示			✅	
組織で実行時間が長い同時 Apex の上限を超えた場合のエラーの検出			✅	
名前が変更されたユーザ権限			✅	
Analytics アプリケーションでの重複するデータセットの削減			✅	
トランザクションセキュリティのブロックメッセージのカスタマイズ			✅	
条件ビルダーインターフェースの改善			✅	
トランザクションセキュリティのユーザ権限要件の変更			✅	
従来のポリシーの移行			✅	
Analytics アプリケーションのパフォーマンス向上			✅	
Shield学習マップを使用した適切なリソースの検索			✅	
データ保護とプライバシー:顧客の同意チャネルと同意 API コール				
新規連絡先チャネルおよび顧客の同意情報の保存		✅		
カスタマイズして保存する顧客の同意チャネルの増加		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
同意 API コールの精度の向上		✅		
その他の変更				
非公開接続を使用したクロスクラウド連携の保護 (正式リリース)		✅		
Apex Crypto クラスでの強力なハッシングアルゴリズムの使用			✅	
Salesforce サイトのゲストユーザによって作成された新規レコードのデフォルトの所有者への割り当て			✅	
セキュリティ機能に関する権限の変更		✅		

リリース

新しい変更セットコンポーネントを使用できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント		✅		

開発

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning コンポーネント				
Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (正式リリース)		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Lightning Web コンポーネント間での CSS スタイルの共有		✅		
管理パッケージからの Lightning コンポーネントの削除				✅
ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止			✅	
Lightning Web コンポーネントのユーザ権限の確認		✅		
現在の Lightning コミュニティに関する情報の取得		✅		
Lightning Web コンポーネントが DOM に接続されているかどうかの確認		✅		
HTML 属性を介した大文字 JavaScript プロパティの設定		✅		
Lightning Web コンポーネントでのタグまたはクラス名による子要素の取得		✅		
DOM API の変更で必要になる可能性のある UI テストの更新		✅		
Lightning コンポーネントでのネイティブ Android 日付ピッカーの使用		✅		
カスタムタブでの Lightning Web コンポーネントはリアクティブ		✅		
sfdx-lwc-jest を v0.9.0 に更新する場合は Jest 連動関係を v25.5.4 に更新		✅		
iframe の Blob スキーマのブロック		✅		
リリースの更新 (旧称「重要な更新」): 延期された更新				
ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (更新、延期)			✅	
ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)			✅	
Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックの有効化 (更新、延期)			✅	
暗黙的な共有での @AuraEnabled Apex コントローラの with sharing の使用 (更新、延期)			✅	
管理パッケージの global 以外のコントローラメソッドへのアクセスの無効化 (更新、延期)			✅	
Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (更新、延期)			✅	
セキュリティアラート: ユーザプロファイルに基づく @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限				
ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)			✅	
ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)			✅	
Einstein Platform Services				
Einstein Vision: Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、最適化されたアルゴリズムを使用した棚の商品の検出				
Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出 (正式リリース)		✅		
最適化アルゴリズムを使用した小売の棚の商品の検出		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Einstein Language: 複数言語での Einstein Intent モデルの作成、ドメイン外のテキストをサポートする Einstein Intent モデルの作成				
Einstein Intent での複数言語のサポートを追加		✅		
ドメイン外のテキストをサポートする Einstein Intent モデルの作成		✅		
Visualforce				
Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (正式リリース)		✅		
Visualforce URL の短縮 (更新、延期)			✅	
Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (更新)		✅		
ネストされた iframe をターゲットにする sforce.one オブジェクトの更新		✅		
ネイティブ Android 日付ピッカーの Visualforce ページの更新		✅		
@namespaceAccessible を使用した異なるパッケージの Visualforce ページからのコントローラへのアクセス		✅		
Visualforce ページ情報に関する権限の変更		✅		
Visualforce ページでレコードを編集するときに更新されたデータを表示		✅		
パッケージ化				
ロック解除済みの第二世代管理パッケージへのアップグレードのスケジュールおよび転送 (ベータ)		✅		
メタデータを分離できない場合の組織連動ロック解除済みパッケージの試用 (ベータ)		✅		

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
第一世代管理パッケージの変換の早期プレビュー(開発者プレビュー)				✅
ロック解除済みパッケージのコードカバー率適用の準備		✅		
Apex				
Apex 型を逐次化および並列化する方法の制御		✅		
組織で実行時間が長い同時 Apex の上限を超えた場合のエラーの検出		✅		
組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (以前にリリース済みの更新)		✅		
非同期 Apex ジョブをキューに追加する場合の「設定を参照」権限の必須化 (更新)		✅		
Apex テストデータにアクセスする場合の「設定を参照」権限の必須化 (更新)		✅		
TransactionFinalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (パイロット)		✅		
最大 2,000 件の Big Object レコードの一括削除		✅		
プッシュ通知の制限が緩和されました		✅		
呼び出し可能アクションのカスタムプロパティエディタの作成 (ベータ)		✅		
API				
Sandbox の同時 API 要求数の制限の修正		✅		
カスタムメタデータ型				

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
カスタムメタデータ型からエンティティパーティクルへのリレーションの作成		✅		
スクラッチ組織: 新機能				
機能が追加されたスクラッチ組織の作成		✅		
Sandbox				
Data Mask を使用してデータを保護する新しい強力な方法		✅		
Lightning Design System: 他のコンポーネントの拡張に伴うモバイルとタッチのサポート拡大				
アプリケーションのモバイルおよびタッチユーザインターフェースの改善				
Lightning Design System コンポーネントの更新		✅		
AppExchange パートナー				
AppExchange の App Analytics を使用した登録者の行動の分析				✅
変更データキャプチャ				
追加項目による変更イベントメッセージの強化 (ベータ)				✅
もう1つのオブジェクトに関する変更イベント通知の受信		✅		
すべての必須権限が適用されない /data/ChangeEvents チャネルイベントの登録		✅		
メタデータ API でイベント暗号化を有効化する場合のイベントバステナントの秘密の必須化		✅		
プラットフォームイベント				
非同期プラットフォームイベント公開操作の状況の取得(パイロット)				✅

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
プラットフォームイベントを使用したフローのトリガ		✅		
Work.com の Workplace Command Center のソリューションの開発		✅		

Quip

ユーザが Quip for Customer 360 総計値を使用して Quip テンプレートをどのように使用しているのかを確認します。Einstein Analytics ダッシュボードを Quip に取り込みます。すべての Quip for Customer 360 機能を Sandbox で使用します。完全な VPC サポートにより Quip 文書を維持します。リレーションの対応付けをアカウントプランに追加して、営業担当が重要な取引先責任者と取引先履歴を容易に見つけることができるようにします。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Quip テンプレートでのアクション可能な総計値の取得			✅	
Quip 文書でのリレーションの対応付けの作成	✅			
Quip 文書へのライブ Einstein Analytics ダッシュボードの追加 (正式リリース)	✅			
Lightning フローで Live Paste を使用して文書の同期を維持	✅			
VPC で Quip for Customer 360 機能を使用してデータのセキュリティを維持			✅	
Salesforce Sandbox での Quip for Customer 360 機能のテスト			✅	
Quip に接続する Salesforce 組織の制御			✅	
Quip for Customer 360 の迅速なリリース			✅	
Quip 文書での差し込み印刷のデフォルトのカスタマイズ			✅	

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
Quip での Salesforce ライブアプリケーションの機能強化	✅			
Lightning コンポーネントからの Quip 文書の削除	✅			

リリースの更新 (旧称「重要な更新」) とセキュリティアラート

重要な更新とアラートが1か所で見やすくなりました。パフォーマンス、セキュリティ、ユーザに影響するすべての変更について組織が常に最新の状態であることを確認できます。

機能	ユーザに対する有効化	システム管理者/開発者に対する有効化	システム管理者の設定が必要	Salesforce に連絡して有効化
リリースの更新を使用した組織の重要な変更の確認 (ベータ)		✅		
リリース更新 (ベータ)			✅	
セキュリティアラート			✅	

サポートされるブラウザ

サポートされるブラウザのドキュメントが変更され、必要な情報が見つけやすくなりました。Salesforce用にサポートされるブラウザは、Salesforce Classic または Lightning Experience のどちらを使用しているかによって異なります。

このセクションの内容:

Lightning Experience による Microsoft® Edge Chromium のサポート

Lightning Experience では、Windows 用の Microsoft Edge Chromium の最新バージョンをサポートしています。Salesforce Classic はサポートされていません。Lightning Experience と Salesforce Classic による非 Chromium バージョンの Microsoft Edge のサポートは 2020 年 12 月 31 日に終了します。

Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイス

Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイスを確認してください。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイス

Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイスを確認してください。

Einstein Analytics でサポートされるブラウザ

Einstein Analytics でサポートされるブラウザは、Microsoft® Edge、Microsoft Internet Explorer® 11、および Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンです。Apple® Safari® では Analytics はサポートされません。

Lightning Experience による Microsoft® Edge Chromium のサポート

Lightning Experience では、Windows 用の Microsoft Edge Chromium の最新バージョンをサポートしています。Salesforce Classic はサポートされていません。Lightning Experience と Salesforce Classic による非 Chromium バージョンの Microsoft Edge のサポートは 2020 年 12 月 31 日に終了します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: 使用している Edge のバージョンを確認するには、そのアイコンを確認します。Microsoft Edge Chromium ブラウザでは アイコンを使用しているのに対して、非 Chromium Edge では アイコンを使用しています。

Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイス

Lightning Experience でサポートされるブラウザおよびデバイスを確認してください。

対象: Lightning Experience は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

メモ:

- Salesforce では、Salesforce Classic または Lightning Experience のコンテンツを表示する WebView や同様のコントロールを組み込む非ブラウザアプリケーションはサポートされていません。このコントロール種別を埋め込むアプローチの例として、Salesforce Mobile SDK、Microsoft の WebBrowser コントロール、Electron の埋め込み Chromium ブラウザ、iOS の UIWebView および WKWebView、Android の WebView などが挙げられます。
- モバイルブラウザで Lightning Experience にアクセスすることはできません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce モバイルアプリケーションを使用することをお勧めします。
- iPad の Safari で Lightning Experience にアクセスできます。詳細は、「iPad Safari の Lightning Experience の考慮事項」を参照してください。
- Lightning Experience では、シークレットモードや他のプライベートブラウズモードはサポートされていません。

デスクトップとラップトップ

Salesforce では、次のブラウザをサポートしています。ブラウザが最新になっていることを確認してください。他のブラウザ、またはサポートされるブラウザの古いバージョンでは、すべての機能のサポートは保証されません。

重要: Internet Explorer 11 による Lightning Experience へのアクセスは、Summer '16 以降サポートされなくなります。

- 2017 年 12 月 16 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスできます。

- IE11 の延長サポートを選択すると、2020 年 12 月 31 日まで引き続き IE11 を使用して Lightning Experience にアクセスできます。
- IE11 での Lightning Experience の使用には、重大なパフォーマンスの問題があります。
- コミュニティビルダーで Internet Explorer 11 を使用しないことを強くお勧めします。
- この変更は、Salesforce Classic には影響しません。

重要: Lightning Experience および Salesforce Classic での Chromium 以外のバージョンの Microsoft Edge のサポートは 2020 年 12 月 31 日に終了します。Windows 用の Microsoft Edge Chromium は、引き続き Lightning Experience でサポートされます。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge (Chromium 以外)	Microsoft® Edge Chromium	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Lightning Experience	IE 11 のみ (2020 年 12 月 31 日にサポート終了)	最新の安定ブラウザバージョンをサポート (2020 年 12 月 31 日にサポート終了)	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート
Lightning コミュニティ	IE 11 のみ	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート
設定に関する特別な考慮事項?	なし	なし	なし	なし	なし	なし
制限事項?	あり	あり	あり	なし	あり	あり

メモ: ブラウザベンダーが独自のブラウザの「最新」を定義しています。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。

タブレット

iPadOS (iOS 13.x) 以降で Apple Safari を使用してください。iPad Safari の Lightning Experience では、縦方向と方向の切り替えはサポートされていません。Safari ブラウザの幅全体が表示されるように、横方向を使用します。方向が切り替わらないようにするには、iPad の回転ロックを有効にします。

Android ベースのタブレットの Salesforce モバイルアプリケーションのみがサポートされています。

	Apple® Safari®	Google Chrome™	他のブラウザ	Salesforce モバイルアプリケーション
iPadOS	サポート	未サポート	未サポート	サポート
Android	なし	未サポート	未サポート	サポート

メモ: Salesforce では、Microsoft Surface や Microsoft Surface Pro デバイスなどのタッチ対応ラップトップは、タブレットではなくラップトップとして扱います。これらのデバイスでは、Salesforce モバイルアプリケーションにアクセスできません。ユーザは、有効になっているフルサイト環境 (Lightning Experience または Salesforce Classic) にリダイレクトされます。これらの種類のデバイスでは、標準のキーボードとマウスによる入力のみがサポートされています。

スマートフォン

最適な操作性を得るには、Salesforce モバイルアプリケーションを使用してください。

Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイス

Salesforce Classic でサポートされるブラウザおよびデバイスを確認してください。

対象: Salesforce Classic はすべてのエディションで使用できます。

メモ: モバイルブラウザでの Salesforce Classic の使用はサポートされていません。モバイルデバイスで作業をする場合は、代わりに Salesforce モバイルアプリケーションを使用することをお勧めします。

重要: Lightning Experience および Salesforce Classic での Chromium 以外のバージョンの Microsoft Edge のサポートは 2020 年 12 月 31 日に終了します。Windows 用の Microsoft Edge Chromium は、引き続き Lightning Experience でサポートされます。

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge (Chromium 以外)	Microsoft® Edge Chromium	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
Salesforce Classic	IE 11 のみ	最新の安定ブラウザバージョンをサポート (2020 年 12 月 31 日にサポート終了)	未サポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート
Salesforce Classic コンソール	IE 11 のみ	最新の安定ブラウザバージョンをサポート (2020 年	未サポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	最新の安定ブラウザバージョンをサポート	未サポート

	Microsoft® Internet Explorer®	Microsoft® Edge (Chromium 以外)	Microsoft® Edge Chromium	Google Chrome™	Mozilla® Firefox®	Apple® Safari®
		12 月 31 日にサポート終了)				
設定に関する特別な考慮事項?	あり	なし	なし	なし	あり	なし
制限事項?	あり	あり	あり	なし	なし	あり

メモ: ブラウザベンダーが独自のブラウザの「最新」を定義しています。該当する最新バージョンについては、ブラウザベンダーに確認してください。

Einstein Analytics でサポートされるブラウザ

Einstein Analytics でサポートされるブラウザは、Microsoft® Edge、Microsoft Internet Explorer® 11、および Mozilla® Firefox® と Google Chrome™ の最新の安定バージョンです。Apple® Safari® では Analytics はサポートされません。

Salesforce 全体: iPad の Lightning Experience、組織の最適化、分割ビューによる作業の効率化

iPad で Lightning Experience にアクセスしたり、Lightning Experience 設定コンバータや Salesforce Optimizer アプリケーションを使用して Lightning Experience への切り替えを支援したり、標準ナビゲーションの分割ビューでレコード全体に目を通したり、ウォークスルーをアプリケーションに追加したり、改善されたプロンプトを使用してユーザがすばやく準備できるようにしたりします。

このセクションの内容:

iPad デバイスでの Lightning Experience へのアクセス (正式リリース)
iPad デバイスで Safari を使用して、Lightning Experience の完全なデスクトップバージョンを使用できます。

標準ナビゲーションの分割ビューを使用したリストの簡単な操作
リスト内の複数のレコードを頻繁に操作していますか?分割ビューを使用すれば、リストビューとレコードを横並びで表示できます。新しいレコードに移動するには、分割ビューからそのレコードを選択します。これで、リストが表示されたまま新しいレコードが開きます。リストとレコードの間を行き来する必要はもうありません。分割ビューは、レコードを順番に確認する場合や、一連のレコードにすばやく目を通す場合に最適です。分割ビューパネルは、柔軟性を高めるため折りたたみ可能になっています。

Lightning Experience の移行: 移行アシスタント、Optimizer、設定コンバータ
Lightning Experience への移行を自動化および高速化するいくつかのツールを使用して、組織およびユーザを準備します。

Lightning Experience エンゲージメント: ウォークスルー、アプリケーション内ガイダンスビルダー、プロンプト

ウォークスルーは、アプリケーション内ガイダンスファミリを連結します。プロンプトとウォークスルーの作成に最適な新しいビルダーが登場しました。ユーザはフロート表示プロンプトを動かせるようになりました。

Salesforce Anywhere: Salesforce コラボレーションの合理化と最適化 (ベータ)

Salesforce Anywhere を使用して、Salesforce のコラボレーション環境を一元化し、チームの生産性を向上させます。ユーザは Salesforce 内のチームメートとチャットし、Salesforce データの変更に関するカスタマイズされたアラートを受け取ることができます。また、ユーザは外出先で Salesforce Anywhere モバイルアプリケーションを使用して、最新情報を入手できます。

Salesforce アンケート: さらなる組織の統合と新しいビルダーツール

顧客の回答に基づいてレコードを作成または更新し、差し込み項目でアンケートをパーソナライズして、チャット後や顧客ライフサイクルにおいてフィードバックを集めます。アンケートの最初のデフォルト設定を指定します。質問種別を増やし、より便利で新しい方法によってアンケートへの招待を共有して、翻訳者のエクスペリエンスを改善することで、回答率を向上させます。

Lightning Scheduler: 自動リソース割り当て、匿名スケジュール、グローバルユーザ向けの拡張スケジュールエクスペリエンス、他

自動リソース割り当てを使用して予定をスケジュールすることにより、ユーザの負担を軽くします。予定を匿名化してリソースのプライバシーを保護します。また、最初に割り当てられたリソースが対応できなくなった場合に別のリソースを再割り当てする柔軟性があります。グローバルユーザへのサービスを改善するため、Lightning Scheduler ではマイルに加えてキロメートルもサポートされるようになり、各ユーザのロケールに基づいて、適切な日付と時刻の形式が表示されるようになりました。

検索: 情報の高速検索と最も関連性の高い結果の取得

検索を使用するときの生産性を向上します。必要なレコードを簡単に見つけ、検索結果ページから直接対応策を実行できます。

外部 URL のリダイレクトに関する注意

セキュリティを高めるため、外部 URL (Salesforce の外側にある任意の場所) へのリンクは処理してからリダイレクトするようになりました。

Salesforce ヘルプでの Trailblazer.me 環境の使用

Salesforce ヘルプで、サインアップ、ログイン、プロファイル管理、設定管理に Trailblazer.me が使用されるようになりました。ユーザがヘルプメニューから、Salesforce ヘルプを表示するリンクを開くと、まず Trailblazer.me アカウントにログインします。

Lightning Extension のダークモード機能の一時的な無効化

パフォーマンスの問題を解決している間、ダークモードは無効になります。再度使用できるようするために取り組んでいます。

セキュアな HTTPS 接続が必要 (更新、適用)

「セキュアな HTTPS 接続が必要」は、Spring '20 の更新であり、2020 年 5 月 1 日に本番組織で適用されます。Google Chrome の SameSite Cookie の変更に関連する更新の一部として、Salesforce にアクセスするには HTTPS 接続が必要です。HTTP 接続は許可されなくなりました。この更新により、[設定] の [セッション設定] ページの [セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定が有効になり、無効化できなくなりました。[すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定はこの更新の影響を受けません。

数式項目でハイパーリンクを正しく開く (重要な更新、適用済み)

HYPERLINK 関数が含まれる数式項目がある場合、リンクを開こうとすると Lightning Experience で target 値が無視されます。この更新により、明示的に設定されている場合でも、デフォルトで設定されている場合でもハイパーリンクの target 値が適用されます。この更新は Winter '19 で最初に使用可能になり、Summer '20 で適用されます。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (以前にリリース済みの更新)

Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。このリリースの更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。このリリースの更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

より多くのレコードをグローバルプロファイルから作成

[C360 グローバルプロファイル] 検索を使用してグローバルプロファイルデータからレコードを作成するときの手動データエントリを減らすことで、時間を節約し、エラーを削減します。組織ですでにサポートされている取引先オブジェクトに加えてリードおよび取引先責任者標準オブジェクトでレコードを作成します。

iPad デバイスでの Lightning Experience へのアクセス (正式リリース)

iPad デバイスで Safari を使用して、Lightning Experience の完全なデスクトップバージョンを使用できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: タブレットの技術的要件 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: iPad Safari の Lightning Experience の考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

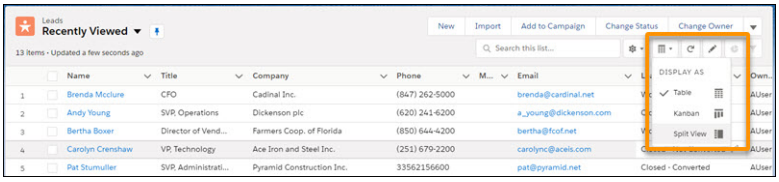
標準ナビゲーションの分割ビューを使用したリストの簡単な操作

リスト内の複数のレコードを頻繁に操作していますか? 分割ビューを使用すれば、リストビューとレコードを横並びで表示できます。新しいレコードに移動するには、分割ビューからそのレコードを選択します。これで、リストが表示されたまま新しいレコードが開きます。リストとレコードの間を行き来する必要はもうありません。分割ビューは、レコードを順番に確認する場合や、一連のレコードにすばやく目を通す場合に最適です。分割ビューパネルは、柔軟性を高めるため折りたたみ可能になっています。

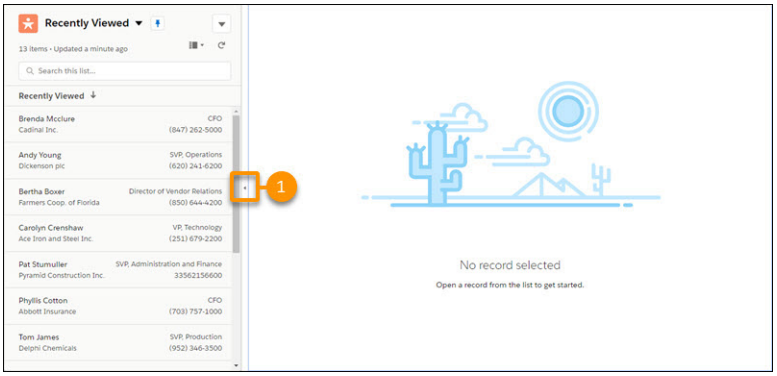
対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

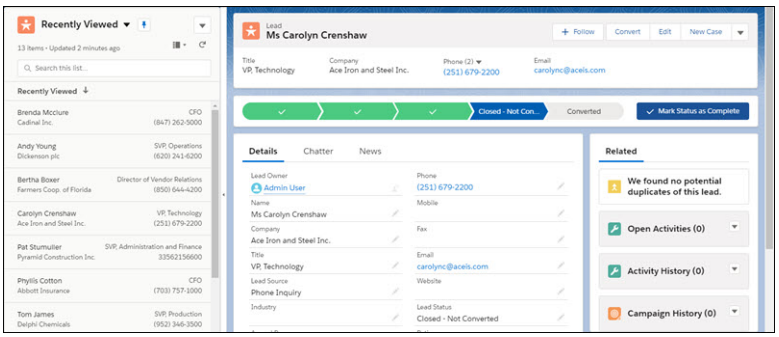
時期: この機能は、Summer '20 リリース時にローリング方式でリリースされます。

方法: 分割ビューにアクセスするには、[表示名] ドロップダウンメニューから [分割ビュー] を選択します。オブジェクトの分割ビューを選択すると、[表示名] ビューを変更するまで、そのオブジェクトは自動的に分割ビューで読み込まれます。



分割ビューでレコードを開くと、そのレコードがリストの横に表示されます。リストビューを折りたたむには、 ◀ (1) をクリックします。リストを再度展開するには、 ▶ をクリックします。





メモ: 分割ビューでは、ナビゲーションバーにあるオブジェクトのみがサポートされています。分割ビューを使用するには、オブジェクトがナビゲーションバーのナビゲーション項目として追加されていることを確認してください。以前は、分割ビューはコンソールナビゲーション形式でのみ使用可能でした。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのリストビューの操作 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のナビゲーションバーのパーソナライズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

IdeaExchange: Support Split View (Like Console) in Standard Navigation (標準ナビゲーションでの (コンソールのような) 分割ビューのサポート) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Experience の移行: 移行アシスタント、Optimizer、設定コンバータ

Lightning Experienceへの移行を自動化および高速化するいくつかのツールを使用して、組織およびユーザを準備します。

このセクションの内容:

Lightning Experience 移行アシスタントからのより多くのガイダンスの入手
Lightning Experience の移行を支援するため、移行アシスタントにより多くのツールとリソースが追加されました。

Optimizer アプリケーションによる組織メンテナンスのスピードアップ
新たに登場した Salesforce Optimizer アプリケーションにより、対話的に組織の実装を確認して、エキスパートの推奨に基づいて Salesforce 組織をメンテナンスできます。パッケージをインストールする必要はなく、アプリケーションを有効にして、クリック操作で実行するだけで、組織が自動的に調べられます。並び替えが可能な結果リストビューを使用して、すぐに対応が必要な問題をすばやく特定できます。Salesforce が提供する推奨を読むことで、次のステップを計画できます。結果ページのクイックリンクを使用すれば、適切な[設定]ページに直接移動できます。以前は、PDF ファイルとして提供された英語のレポートとしてしか Optimizer コンテンツを読むことができませんでした。

Lightning Experience 設定コンバータを使用した切り替えタスクの合理化 (正式リリース)
Lightning Experience 設定コンバータのすべてのタブが正式リリースされました。設定コンバータは、一般的な切り替えタスクを合理化または自動化し、組織での Lightning Experience への準備を整えるために役立ちます。[Home (ホーム)] タブ、[Hard-Coded URL (ハードコードされた URL)] タブ、[Visualforce Pages (Visualforce ページ)] タブ、[AppExchange Packages (AppExchange パッケージ)] タブは、以前はベータ機能としてリリースされていました。

Lightning 準備状況の確認の迅速化
まず、移行アシスタントの外部で使用できるようになった準備状況チェックの新しいホームページにアクセスします。

Lightning Experience 移行アシスタントからのより多くのガイダンスの入手

Lightning Experience の移行を支援するため、移行アシスタントにより多くのツールとリソースが追加されました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 新機能を次に示します。

- ロールアウトフェーズ
  - 実装フェーズ: ユーザの生産性を高める機能をより多く設定します。オブジェクトにパスを追加し、ニュースをオンにし、Lightning Experience ホームページをカスタマイズして、オブジェクトレコードページ上のコンポーネントをカスタマイズするための新しいステップがあります。
  - 調整フェーズ: Lightning Knowledge 移行ツールを使用して、Classic の知識ベースを Lightning Knowledge への移行を支援します。

- 最適化フェーズ
  - モチベーションフェーズ: ビジネスと使用事例に特有のアプリケーション内プロンプトを設定することで、ユーザのオンボーディングの支援とコンテキストガイダンスを提供します。

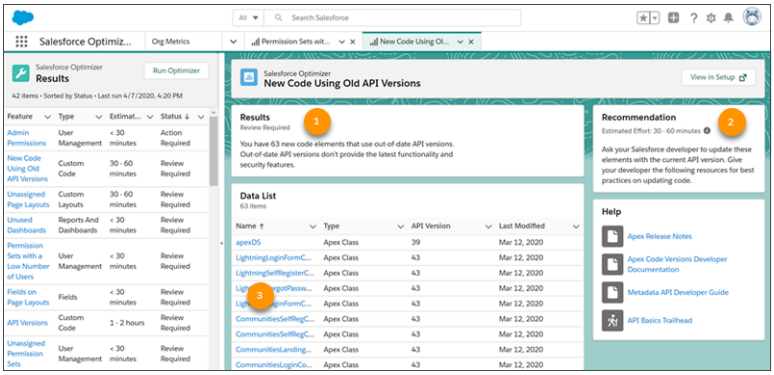
Optimizer アプリケーションによる組織メンテナンスのスピードアップ

新たに登場した Salesforce Optimizer アプリケーションにより、対話的に組織の実装を確認して、エキスパートの推奨に基づいて Salesforce 組織をメンテナンスできます。パッケージをインストールする必要はなく、アプリケーションを有効にして、クリック操作で実行するだけで、組織が自動的に調べられます。並び替えが可能な結果リストビューを使用して、すぐに対応が必要な問題をすばやく特定できます。Salesforce が提供する推奨を読むことで、次のステップを計画できます。結果ページのクイックリンクを使用すれば、適切な [設定] ページに直接移動できます。以前は、PDF ファイルとして提供された英語のレポートとしてしか Optimizer コンテンツを読むことができませんでした。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Optimizer アプリケーションにアクセスするには、「アプリケーションのカスタマイズ」権限、「すべてのデータの編集」権限、「ユーザの管理」権限が必要です。英語でしか用意されていなかった Salesforce Optimizer の PDF 形式のレポートとは異なり、このアプリケーションはエンドユーザの言語に翻訳されます。

理由: このアプリケーションは、組織メンテナンスの戦略的な計画を容易にします。結果と次のステップが記載された静的な PDF 形式のレポートをスクロールして読むのではなく、並び替えが可能な結果リストビューを使用します。Optimizer の分割ビューコンソールナビゲーションにより、コンテキストを失うことなく簡単に結果を確認できます。



リストビューからは、すべての結果 (1) と推奨 (2)、そして [設定] ページから 1 クリックで、Optimizer が分析した 40 種類以上の機能で変更 (3) を行うことができます。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「`Optimizer`」と入力し、**[Optimizer]** を選択します。

Lightning Experience 設定コンバータを使用した切り替えタスクの合理化 (正式リリース)

Lightning Experience設定コンバータのすべてのタブが正式リリースされました。設定コンバータは、一般的な切り替えタスクを合理化または自動化し、組織でのLightning Experienceへの準備を整えるために役立ちます。[Home (ホーム)] タブ、[Hard-Coded URL (ハードコードされた URL)] タブ、[Visualforce Pages (Visualforce ページ)] タブ、[AppExchange Packages (AppExchange パッケージ)] タブは、以前はベータ機能としてリリースされていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Lightning Experience 設定コンバータには、「アプリケーションのカスタマイズ」および「すべてのデータの編集」権限が必要です。

方法: 設定コンバータは、Salesforce の外部にあるスタンドアロンツールです。まず Sandbox 組織または開発者組織で実行してから、変更を本番組織に移行することをお勧めします。使用を開始するには、https://lightning-configuration.salesforce.com/ にアクセスし、組織のログイン情報でログインします。

Lightning 準備状況の確認の迅速化

まず、移行アシスタントの外部で使用できるようになった準備状況チェックの新しいホームページにアクセスします。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 開始するには、移行アシスタントに移動せずに準備状況チェックにアクセスします。

方法: システム管理者は、Sandbox および本番環境で準備状況チェックを使用できます。Sandbox 環境で準備状況チェックを実行するには、https://sb-lightning-readiness-check.salesforce.com/home にアクセスします。本番環境で実行するには、https://lightning-readiness-check.salesforce.com/home にアクセスします。引き続き、Lightning Experience 移行アシスタントから準備状況チェックを実行することもできます。

Lightning Experience エンゲージメント: ウォークスルー、アプリケーション内ガイダンスビルダー、プロンプト

ウォークスルーは、アプリケーション内ガイダンスファミリを連結します。プロンプトとウォークスルーの作成に最適な新しいビルダーが登場しました。ユーザはフロート表示プロンプトを動かせるようになりました。

このセクションの内容:

アプリケーション内トレーニングの複数ステップウォークスルーの作成

アプリケーション内ガイダンスの最新の追加機能であるウォークスルーを使用して、アプリケーション内のユーザ向けステップバイステップガイドを作成します。myTrailhead に登録している場合、最大 500 個のウォークスルーがユーザに表示されます。オンボーディング、トレーニング、機能の採用のウォークスルーをすばやく作成し、特定のユーザに簡単に表示できます。

アプリケーション内ガイダンスビルダーの概要

プロンプトとウォークスルーの作成がより簡単で直感的になりました。ウォークスルーの導入に伴い、アプリケーション内ガイダンスを作成するユーザインターフェースが Salesforce の他のビルダーツールと同様になりました。

プロンプトのページの場所の変更

時間が節約され、プロンプトをユーザにとって適切なページに表示できます。複数のオブジェクトに適用されるプロンプトがある場合は、プロンプトをコピーしてそれを別のページに移動します。別のページに移動したい既存のプロンプトがありますか?以前に保存したプロンプトを使用する新しいページを選択します。

フロート表示プロンプトの移動

フロート表示プロンプトの配置に注意を払っても、強調している機能が見えなくなってしまうことがあります。プロンプトがページの領域をブロックしている場合、ユーザがそれを移動できるようになりました。

ドッキングプロンプトのデザインの更新

ドッキングプロンプトが Lightning Experience の外観とさらに一致するように一新されます。この変更は、文字数や機能には影響しません。

Salesforce アプリケーション内コンテンツについて

Salesforce のシステム管理者とエンドユーザに表示される貴重なアプリケーション内プロンプト、歓迎メッセージ、およびポップオーバーで最新情報を得ることができます。

アプリケーション内トレーニングの複数ステップウォークスルーの作成

アプリケーション内ガイダンスの最新の追加機能であるウォークスルーを使用して、アプリケーション内のユーザ向けステップバイステップガイドを作成します。myTrailhead に登録している場合、最大 500 個のウォークスルーがユーザに表示されます。オンボーディング、トレーニング、機能の採用のウォークスルーをすばやく作成し、特定のユーザに簡単に表示できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 「すべてのデータの編集」または「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限を持つシステム管理者は、ウォークスルーを作成および管理できます。または、ユーザに「メタデータ API 関数を使用したメタデータを変更」および「プロンプトを管理」ユーザ権限を付与することで、ユーザが同じ操作を実行できるようにします。

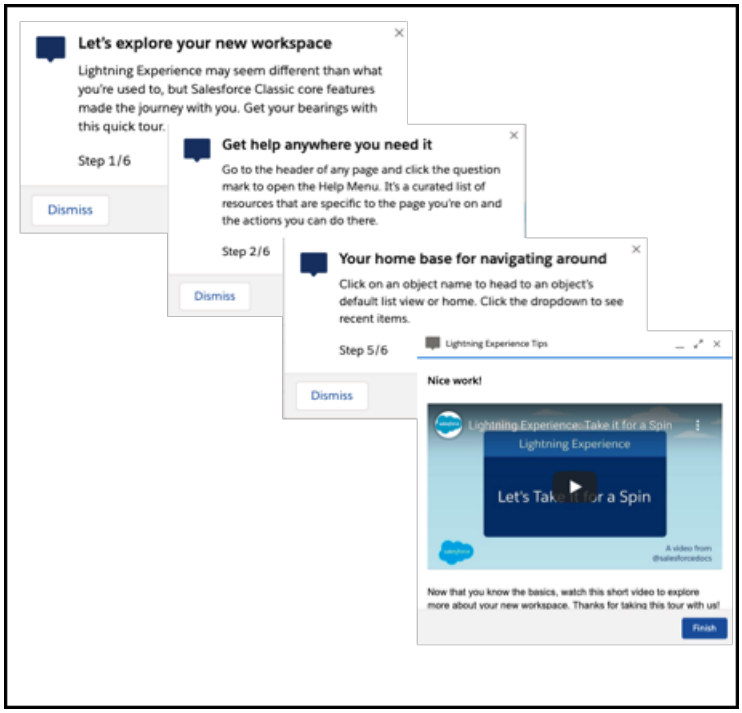
ユーザにカスタムウォークスルーを表示するには、myTrailhead に登録して、「ウォークスルーへのアクセス」権限セットライセンスと「ウォークスルー」権限セットを取得します。ウォークスルーを表示できるようにするユーザに「ウォークスルーを参照」ユーザ権限を割り当てます。価格の詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

登録する前にユーザにウォークスルーを表示する場合は、カスタムウォークスルーをユーザに表示できる 30 日間無料トライアルがあります。詳細は、[アプリケーション内ガイダンス]の[設定]ページの[ウォークスルートライアルを開始] ボタンで確認してください。

理由: ウォークスルーは、最大 10 個の一連の接続されたプロンプトであり、コンテキスト内学習用の 1 つまたは複数のページでユーザにガイド付きパスを提供します。

- 新入社員をワークスペースに慣れさせる

- 一連の重要な関連する機能を強調する
- ナビゲーションまたは機能の概要を提供する
- 複数ステップの手順でユーザをガイドする



プロンプトと同様に、ウォークスルーはパッケージでサポートされています。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「アプリケーション内ガイダンス」と入力し、[アプリケーション内ガイダンス] を選択します。[追加] をクリックして、アプリケーション内ガイダンスビルダーを新しいタブで開きます。ページに移動し、もう一度 [追加] をクリックしてウォークスルーを配置します。右サイドバーでは、ステップの表示、位置、およびコンテンツを編集できます。左サイドバーでは、ウォークスルーのステップを移動して並び替えることができます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience でのウォークスルーの定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のアプリケーション内ガイダンス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アプリケーション内ガイダンスビルダーの概要

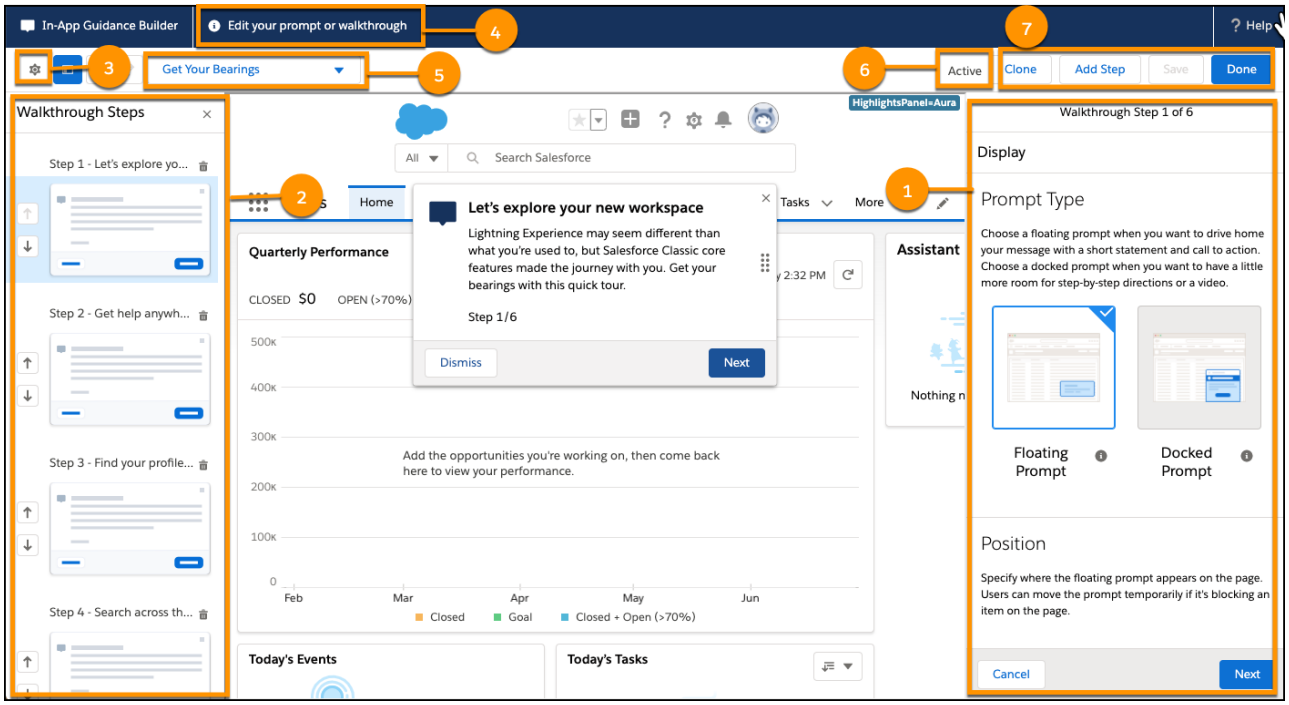
プロンプトとウォークスルーの作成がより簡単で直感的になりました。ウォークスルーの導入に伴い、アプリケーション内ガイダンスを作成するユーザインターフェースが Salesforce の他のビルダーツールと同様になりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 「すべてのデータの編集」または「アプリケーションのカスタマイズ」ユーザ権限を持つシステム管理者は、アプリケーション内ガイダンスビルダーでウォークスルーまたはプロンプトを作成および管理できます。または、ユーザに「メタデータ API 関数を使用したメタデータを変更」および「プロンプトを管理」ユーザ権限を付与することで、ユーザが同じ操作を実行できるようにします。

ユーザにウォークスルーを表示するための要件は他にもあります。詳細は、関連するリリースノートを参照してください。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「アプリケーション内ガイダンス」と入力し、[アプリケーション内ガイダンス] を選択します。[追加] をクリックして、アプリケーション内ガイダンスビルダーを新しいタブで開きます。



もう一度 [追加] をクリックして、プロンプトまたはウォークスルーを配置します。右側のバーで、アプリケーション内ガイダンスの種別、プロンプトの種別と位置、コンテンツを指定します (1)。ウォークスルーを作成するときに、左サイドバーにウォークスルーのすべてのステップが表示されます (2)。サイドバーからステップを削除したり並び替えたりできます。情報を入力するとプロンプトが更新されるため、作業しながらプレビューできます。

新しいアプリケーション内ガイダンスを保存したら、設定ウィンドウが表示され、アクションのリンクまたはボタン、スケジュール、プロファイル、および権限の設定をカスタマイズできます。さらに、プロンプトに名前を付けて有効にするかどうかを決定できます。プロンプトの編集中にビルダーヘッダーの設定アイコンをクリックすると、いつでも設定に戻ることができます (3)。ヘッダーには次の内容も含まれます。

- 役立つ指示 (4)
- ページのその他のアプリケーション内ガイダンス (5)

- 編集しているアプリケーション内ガイダンスの状況 (6)
- アクションボタン(使用できるボタンは、アプリケーション内ガイダンスの種別と、プレビューしているか作成しているかによって異なります) (7)

関連トピック:

アプリケーション内トレーニングの複数ステップウォークスルーの作成

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のアプリケーション内ガイダンス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

プロンプトのページの場所の変更

時間が節約され、プロンプトをユーザにとって適切なページに表示できます。複数のオブジェクトに適用されるプロンプトがある場合は、プロンプトをコピーしてそれを別のページに移動します。別のページに移動したい既存のプロンプトがありますか? 以前に保存したプロンプトを使用する新しいページを選択します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: リストビュー、お気に入り、ヘルプメニューなどの一般的な機能に関するプロンプトの場合、同じ情報を複数のページに複製します。コンテンツをコピーして貼り付ける代わりに、既存のプロンプトをコピーして場所を変更するだけで済みます。

編集およびコピー中にプロンプトの場所を変更できますが、パッケージからインストールされたプロンプトの場所を直接編集することはできません。ただし、パッケージからプロンプトをコピーして、その場所を変更できます。

場所を変更する機能は、Summer '20 リリースで新規追加されたウォークスルーにも適用されます。

方法: Lightning Experience の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*アプリケーション内ガイダンス*」と入力し、[アプリケーション内ガイダンス] を選択します。行レベルのアクションメニューから [編集] または [コピー] を選択します。アプリケーション内ガイダンスビルダーが新しいタブで開きます。ビルダー内の新しい場所に移動します。[保存]、[完了] の順にクリックします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のアプリケーション内ガイダンス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

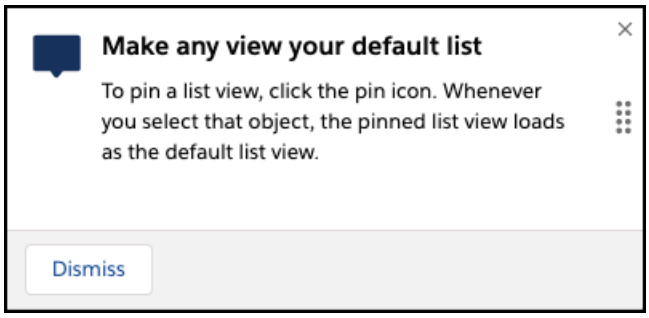
フロート表示プロンプトの移動

フロート表示プロンプトの配置に注意を払っても、強調している機能が見えなくなってしまうことがあります。プロンプトがページの領域をブロックしている場合、ユーザがそれを移動できるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ユーザはフロート表示プロンプトが表示されているときにプロンプトの右側にあるドラッグアンドドロップアイコン をクリックして、いつでもプロンプトを移動できます。

アプリケーション内ガイダンスビルダーでプロンプトを作成または編集する場合、同じ操作を実行できますが、プロンプトはその場所に保存されません。フロート表示プロンプトは、6 個の定義済みの位置のいずれかにのみ保存できます。



関連トピック:

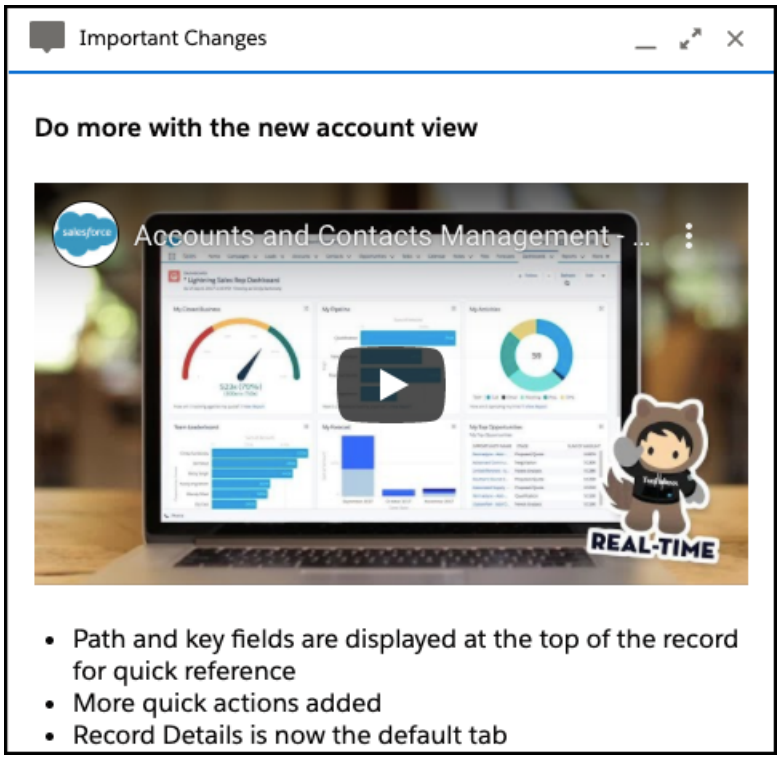
Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のアプリケーション内ガイダンス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ドッキングプロンプトのデザインの更新

ドッキングプロンプトが Lightning Experience の外観とさらに一致するように一新されます。この変更は、文字数や機能には影響しません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 青いタイトルバナーが新鮮で合理化された外観に変わります。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience のアプリケーション内ガイダンス (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce アプリケーション内コンテンツについて

Salesforce のシステム管理者とエンドユーザに表示される貴重なアプリケーション内プロンプト、歓迎メッセージ、およびポップオーバーで最新情報を得ることができます。

対象: 使用可能なアプリケーション内コンテンツは、機能によって異なります。

理由: 独自のプロンプトまたは他のアプリケーション内コンテンツを作成するときに、情報が重複しないようにします。

Summer '20 リリースで、次のプロンプトが追加されました。

- 進行中の IdeaExchange 優先順位付け期間をシステム管理者に知らせるフロート表示プロンプト。システム管理者にのみ表示されます。
- High Velocity Sales アプリケーション内の Einstein コールコーチング機能を試すように営業マネージャに促すフロート表示プロンプト。
- 拡張関連リスト機能を有効にするようにシステム管理者に促すドッキングプロンプト。システム管理者にのみ表示されます。

[アプリケーション内ガイダンス] の [設定] ページから、Salesforce によって作成されたすべてのアプリケーション内コンテンツを無効にできます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience での Salesforce アプリケーション内コンテンツ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce Anywhere: Salesforce コラボレーションの合理化と最適化 (ベータ)

Salesforce Anywhere を使用して、Salesforce のコラボレーション環境を一元化し、チームの生産性を向上させます。ユーザは Salesforce 内のチームメートとチャットし、Salesforce データの変更に関するカスタマイズされたアラートを受け取ることができます。また、ユーザは外出先で Salesforce Anywhere モバイルアプリケーションを使用して、最新情報を入手できます。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience で使用できます。

メモ: Salesforce Anywhere は非正式リリースのサービスであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。このような非正式リリースのサービスには、Universal Pilot Research Agreement (「UPRA」) および UPRA のデータ処理に関する補遺の契約条件が適用されます。非正式リリースのサービスはお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、Salesforce から現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce Anywhere が自動的に使用可能になるかどうかは、Salesforce との MSA および購入したサービスの種別によります。[設定] に Salesforce Anywhere が表示されない場合は、アカウントエグゼクティブに連絡して Salesforce Anywhere へのアクセス権を取得してください。

時期: Salesforce Anywhere は、2020 年 7 月 13 日からローリング方式でリリースされます。組織が確実に Salesforce Anywhere ベータプログラムに登録されるようにするには、サインアップフォームに入力してください。

対象ユーザ: Salesforce Anywhere を使用するには、Salesforce、Salesforce Platform、または Lightning Platform ユーザライセンスが必要です。

Salesforce Anywhere の Lightning Experience 機能とモバイル機能については、Salesforce Anywhere リリースノートを参照してください。

Salesforce アンケート: さらなる組織の統合と新しいビルダーツール

顧客の回答に基づいてレコードを作成または更新し、差し込み項目でアンケートをパーソナライズして、チャット後や顧客ライフサイクルにおいてフィードバックを集めます。アンケートの最初のデフォルト設定を指定します。質問種別を増やし、より便利で新しい方法によってアンケートへの招待を共有して、翻訳者のエクスペリエンスを改善することで、回答率を向上させます。

このセクションの内容:

回答の Salesforce レコードへの変換

参加者の回答に基づいてレコードを作成または更新します。回答を送信する前に入力するオブジェクト項目の値を定義するデータマップを作成します。参加者の回答を 1 つ以上の項目に対応付けるか、または項目に入力する定数値を選択できます。

Salesforce データによるアンケートのパーソナライズ

パーソナライズされ、よりコンテキストに応じたエクスペリエンスを参加者に提供しましょう。差し込み項目を使用して、Salesforce 組織のデータをアンケートに挿入します。差し込み項目は、お知らせページとアンケートの質問に追加できます。

チャット後の顧客フィードバックの収集

埋め込みチャットセッションの最後にアンケートを使用して顧客からのフィードバックを集めましょう。顧客は、チャットウィンドウに残って回答します。

顧客ライフサイクルマップによるカスタマーエクスペリエンスの変換

顧客ライフサイクルのすべてのフェーズにおいて顧客からのフィードバックを集めることで、顧客があなた会社に対してどのような印象を持っているかを理解しましょう。複数のフェーズを持つ顧客ライフサイクルマップを作成して、各フェーズに 1 つ以上のアンケートの質問を関連付けます。プロセスビルダーで [アンケートへの招待を送信] アクションを使用して、各フェーズでアンケートへの招待を送信します。

デフォルトの選択とアンケートの実行

[サポート設定] などの自動プロセスを使用して、最初のデフォルト設定や、送信される招待の共有ルールをコンテンツに対して定義します。Salesforce 組織外の参加者がアンケートを表示する言語を選択する場合に、アンケートが作成された言語を参加者に知らせます。

参加者の高評価と低評価の理解

新しい質問種別である [高く評価] と [低く評価] を使用して、参加者が意見を表明できるようにする質問を定義します。

短いテキストによる重要な参加者情報の収集

新しい質問種別である [短いテキスト] を使用して、連絡先など、参加者に関する重要な個人情報を収集します。また、最大 200 文字のテキストで回答を得ることもできます。

QR コードによるアンケートへの招待の共有

アンケートへの招待を含む QR コードをダウンロードして参加者と共有できるようになりました。参加者は、QR コードをスキャンするだけでアンケートを開いて回答できます。この招待は、参加者のレコードには関連付けられません。

世界中の利用者のエクスペリエンスの改善

翻訳したアンケートに画像を追加して、視覚的に注目を集めましょう。また、以前の質問の回答が含まれる質問を翻訳する場合には、元の質問の翻訳を表示できます。

管理パッケージを使用した組織間のアンケートの送信

管理パッケージを使用して組織間でアンケートを送信できるようになりました。送信元組織でアンケートを変更した場合、管理パッケージの新しいバージョンを使用して、更新したアンケートを対象組織に移動することができます。

すべての質問種別を一度に確認する

もうスクロールバーは使用しません。質問セレクタが拡張され、すべての質問種別が一度に見られるようになりました。

組織外のアンケート参加者による回答の簡易化

Salesforce 組織外の参加者がアンケートに回答するためには、アンケート回答オブジェクトに対する編集アクセス権は不要になりました。

質問種別名の変更

新しい [短いテキスト] 質問種別と区別できるように、[テキスト質問] の種別名が [長いテキスト] に変更されました。

Customer Lifecycle Analytics: トピック分析、顧客ライフサイクルマップ、回答分析、内部アンケート分析、拡張された設定ウィザード

新しい Topic Analysis ダッシュボードを使用して、トレンドトピックを分析し、ビジネスについて理解を深めます。Customer Lifecycle Map ダッシュボードは、顧客ライフサイクルのさまざまなフェーズの顧客フィードバックを分析するのに役立ちます。Response Analysis ダッシュボードでは、統計的情報と地理的情報でアンケートへの回答にドリルダウンできるようになりました。改善された設定ウィザードでは、アプリケーションのデータセットが自動的に作成されます。

回答の Salesforce レコードへの変換

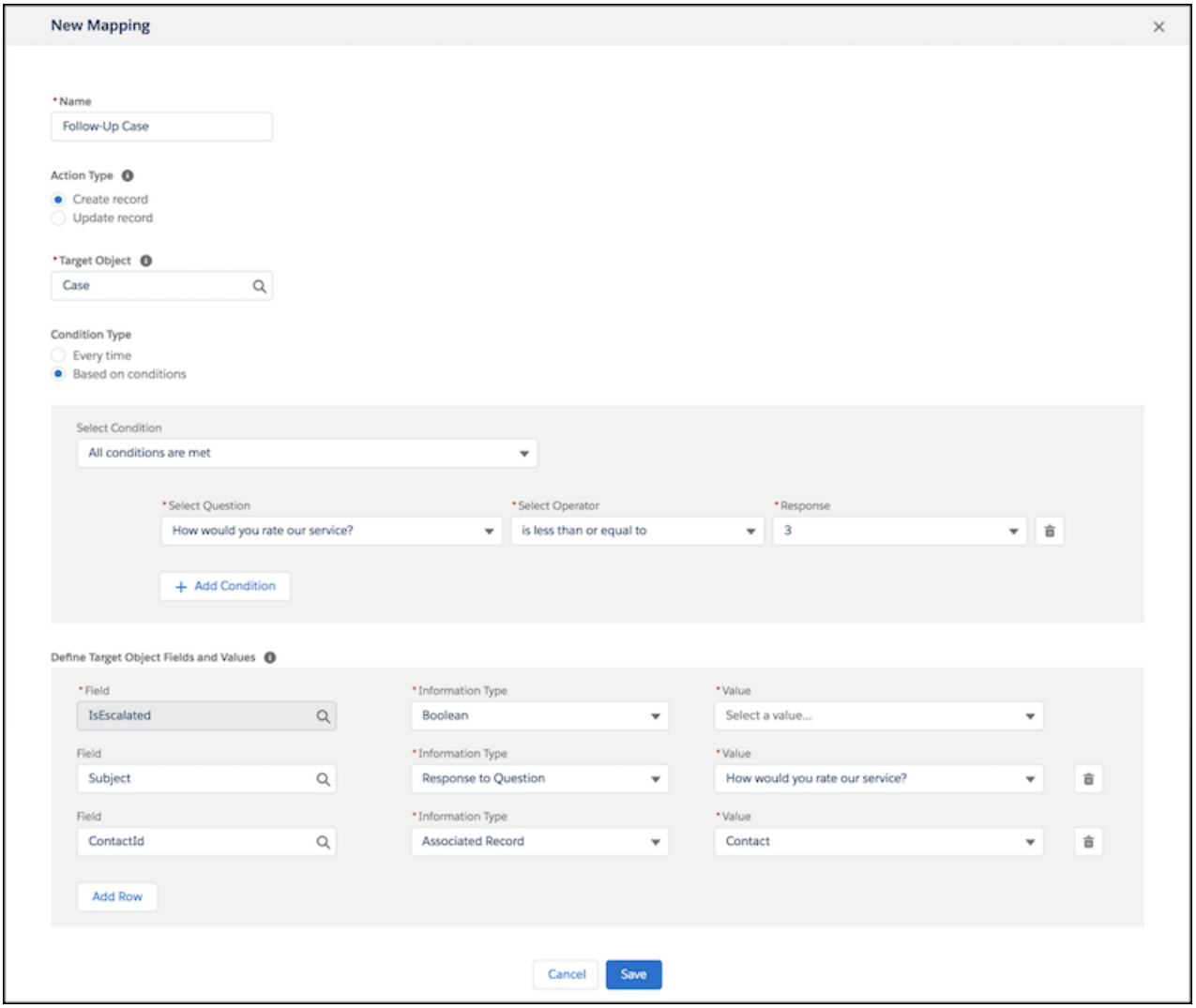
参加者の回答に基づいてレコードを作成または更新します。回答を送信する前に入力するオブジェクト項目の値を定義するデータマップを作成します。参加者の回答を 1 つ以上の項目に対応付けるか、または項目に入力する定数値を選択できます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: データの対応付けを作成するには、Salesforce Feedback Management ライセンスで使用できる「Salesforce アンケートの高度な機能」権限がユーザに必要です。

理由: たとえば、データマップを使用して、顧客が商品に特定のスコアを付けるたびにフォローアップケースレコードを作成できます。そして、参加者の回答をケース件名項目に対応付けることができます。また、参加者の連絡先レコード ID をケースの連絡先レコード ID として対応付けることもできます。

方法: アンケートを開き、[詳細設定] をクリックして、[アンケートデータ対応付け] を選択します。[新規対応付け] をクリックします。マップに名前を付け、参加者の回答に基づいてレコードを作成するか更新するかを選択して、作成または更新するレコードを持つオブジェクトを選択します。レコードを毎回作成または更新するか、もしくは条件に基づいて作成または更新するかを選択します。最後に、オブジェクト項目を対応付けます。



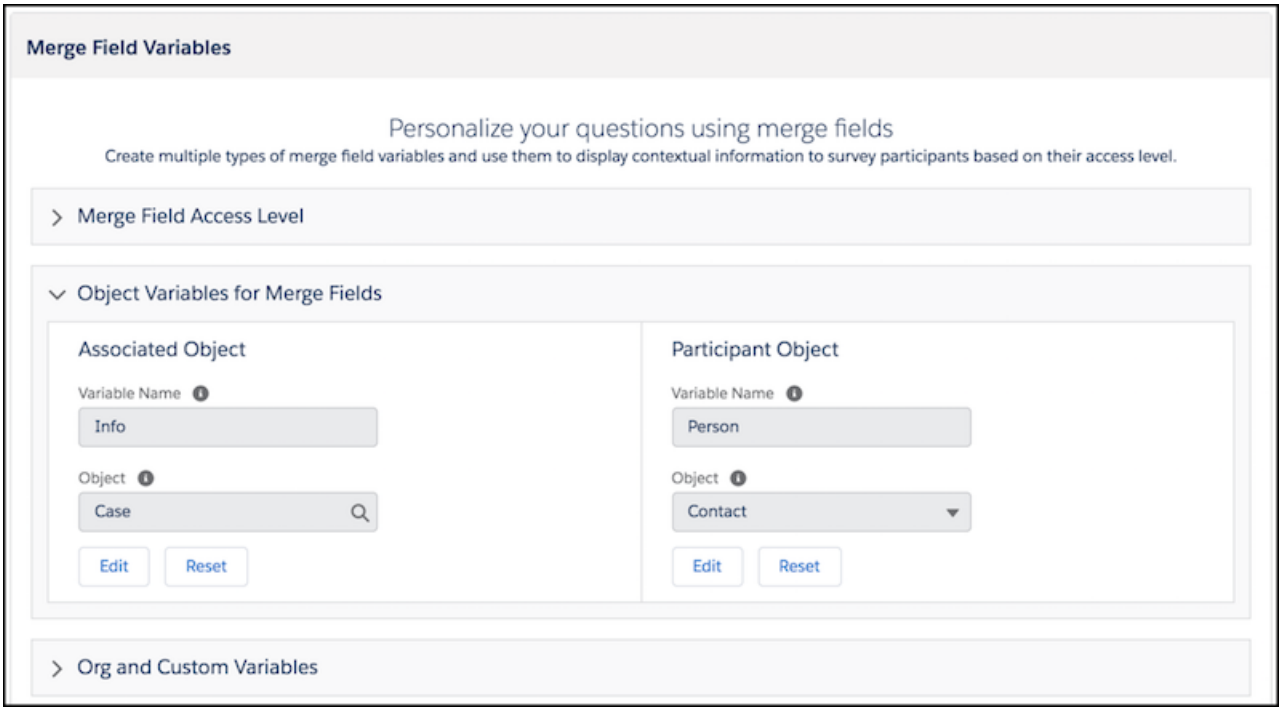
Salesforce データによるアンケートのパーソナライズ

パーソナライズされ、よりコンテキストに応じたエクスペリエンスを参加者に提供しましょう。差し込み項目を使用して、Salesforce組織のデータをアンケートに挿入します。差し込み項目は、お知らせページとアンケートの質問に追加できます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 変数を定義して差し込み項目を使用するには、Salesforce Feedback Management ライセンスで使用できる「Salesforce アンケートの高度な機能」権限がユーザに必要です。

方法: アンケートを開き、[詳細設定] をクリックして、[差し込み項目変数] を選択します。参加者に表示したくないデータが表示されないようにするには、差し込み項目にアクセス権を設定します。4 種類の変数を設定し、これらの変数を使用して差し込み項目を挿入できます。招待に関連付けられているレコードに関する情報を挿入するための変数を作成できます。また、参加者の名前などの個人情報を挿入するための変数も定義できます。そして、Salesforce 組織に関する情報やカスタム値を挿入するための複数の変数を作成できます。



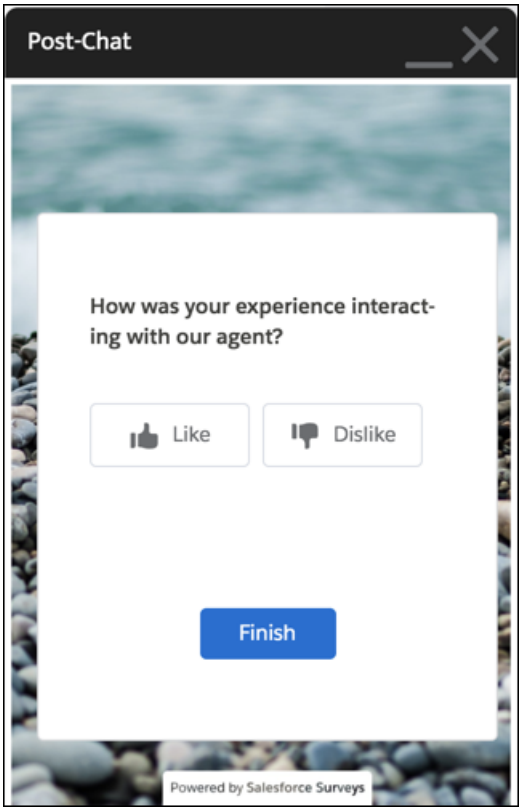
チャット後の顧客フィードバックの収集

埋め込みチャットセッションの最後にアンケートを使用して顧客からのフィードバックを集めましょう。顧客は、チャットウィンドウに残って回答します。

対象: この変更は、Salesforce **アンケートが有効になっている** Performance Edition**、** Enterprise Edition**、** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ:組み込みサービスリリースでチャット後アンケートを選択するには、Salesforce Feedback Management **ライセンスで使用できる「**Salesforce **アンケートの高度な機能」権限がユーザに必要です。**

方法: Web **サイトまたはコミュニティに組み込みチャットを追加します。コミュニティや外部** Web **サイトのチャットウィンドウでチャット後アンケートを開くには、アンケートを有効化してから、対応する組み込みサービスリリースでチャット後アンケートとして選択します。また、**Web**サイトのチャットウィンドウでチャット後アンケートを開くには、[セッションの設定] ページで** Web **サイトの** URL **でのアンケートのインラインフレーム化を許可します。**



顧客ライフサイクルマップによるカスタマーエクスペリエンスの変換

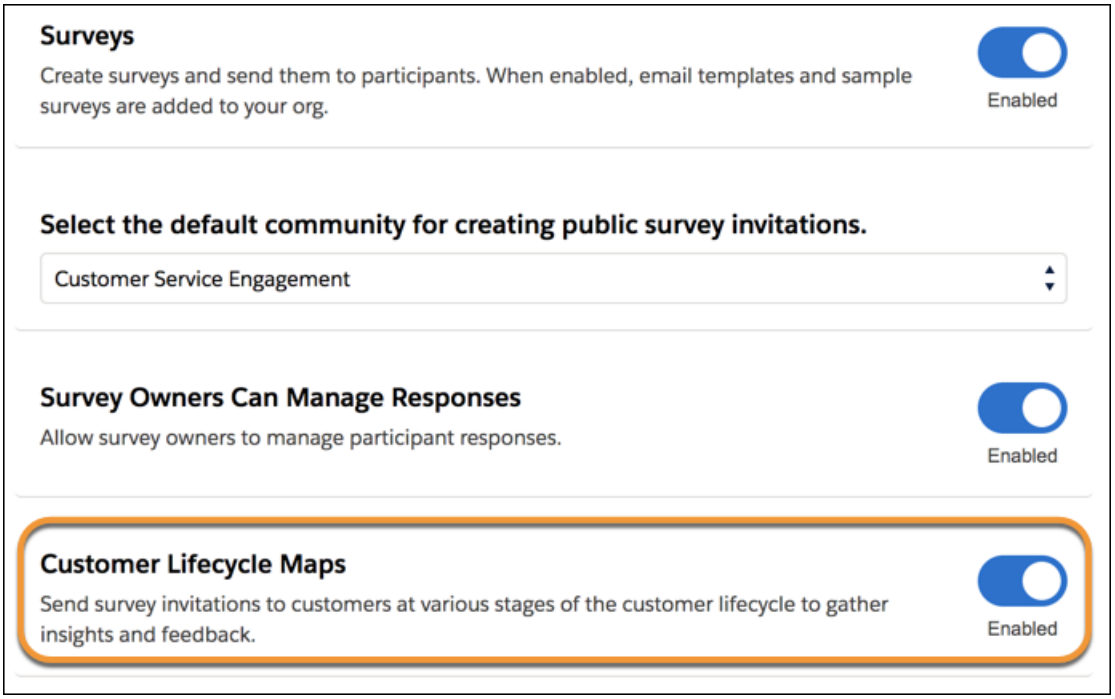
顧客ライフサイクルのすべてのフェーズにおいて顧客からのフィードバックを集めることで、顧客があなた会社に対してどのような印象を持っているかを理解しましょう。複数のフェーズを持つ顧客ライフサイクルマップを作成して、各フェーズに 1 つ以上のアンケートの質問を関連付けます。プロセスビルダーで [アンケートへの招待を送信] アクションを使用して、各フェーズでアンケートへの招待を送信します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

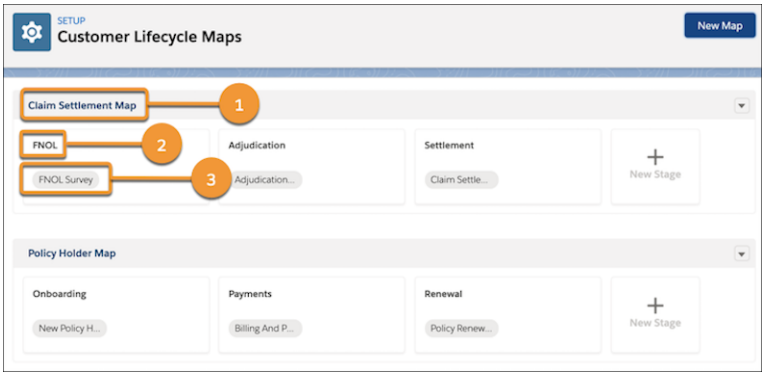
対象ユーザ: 対応付けを作成するには、Salesforce Feedback Management ライセンスで使用できる「Salesforce アンケートの高度な機能」権限がユーザに必要です。

理由: 各フェーズでの顧客の認識へのアクション可能なインサイトを取得するため、[Customer Lifecycle Analytics] テンプレートでカスタマージャーニーマップを使用します。

方法: [アンケートの設定] ページで [顧客ライフサイクルマップ] の設定を有効にします。次のサンプルマップで実際にやってみましょう。



顧客ライフサイクルマップの設定ページで、マップを作成し (1)、マップ内でフェーズを定義して (2)、各フェーズにアンケートの質問を関連付けます (3)。



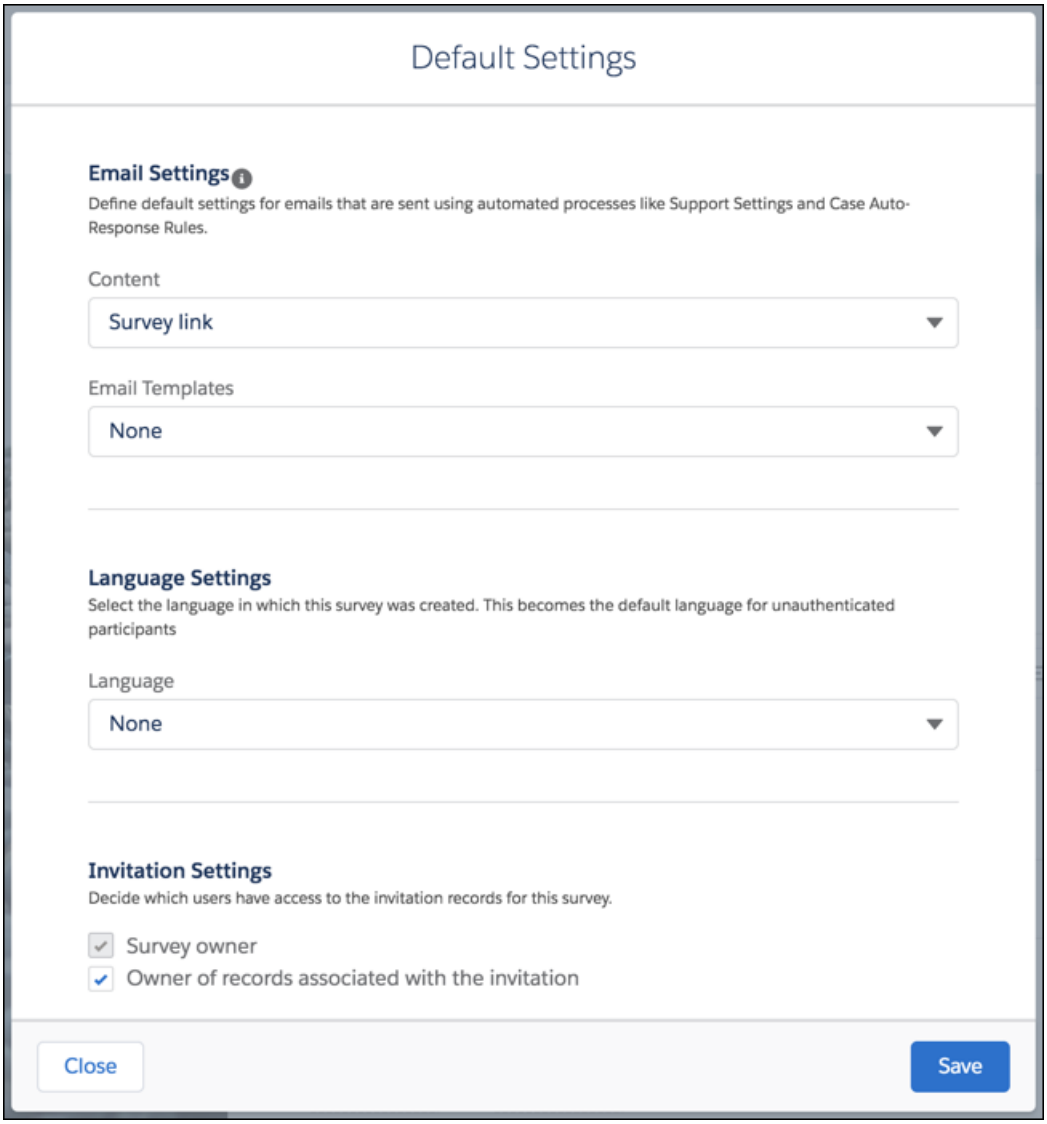
デフォルトの選択とアンケートの実行

[サポート設定] などの自動プロセスを使用して、最初のデフォルト設定や、送信される招待の共有ルールをコンテンツに対して定義します。Salesforce 組織外の参加者がアンケートを表示する言語を選択する場合に、アンケートが作成された言語を参加者に知らせます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: アンケートビルダーで をクリックし、[デフォルトの設定] をクリックします。

[メール設定] で、メールの内容と、メールに含める必要のあるテンプレートを選択します。[言語設定] で、アンケートが作成された言語を選択します。選択した言語は、Salesforce 組織外の参加者がアンケートを表示する言語を選択するときに表示されます。[招待の設定] で、招待に関連付けられているレコードの所有者に編集アクセス権を付与するかどうかを選択します。



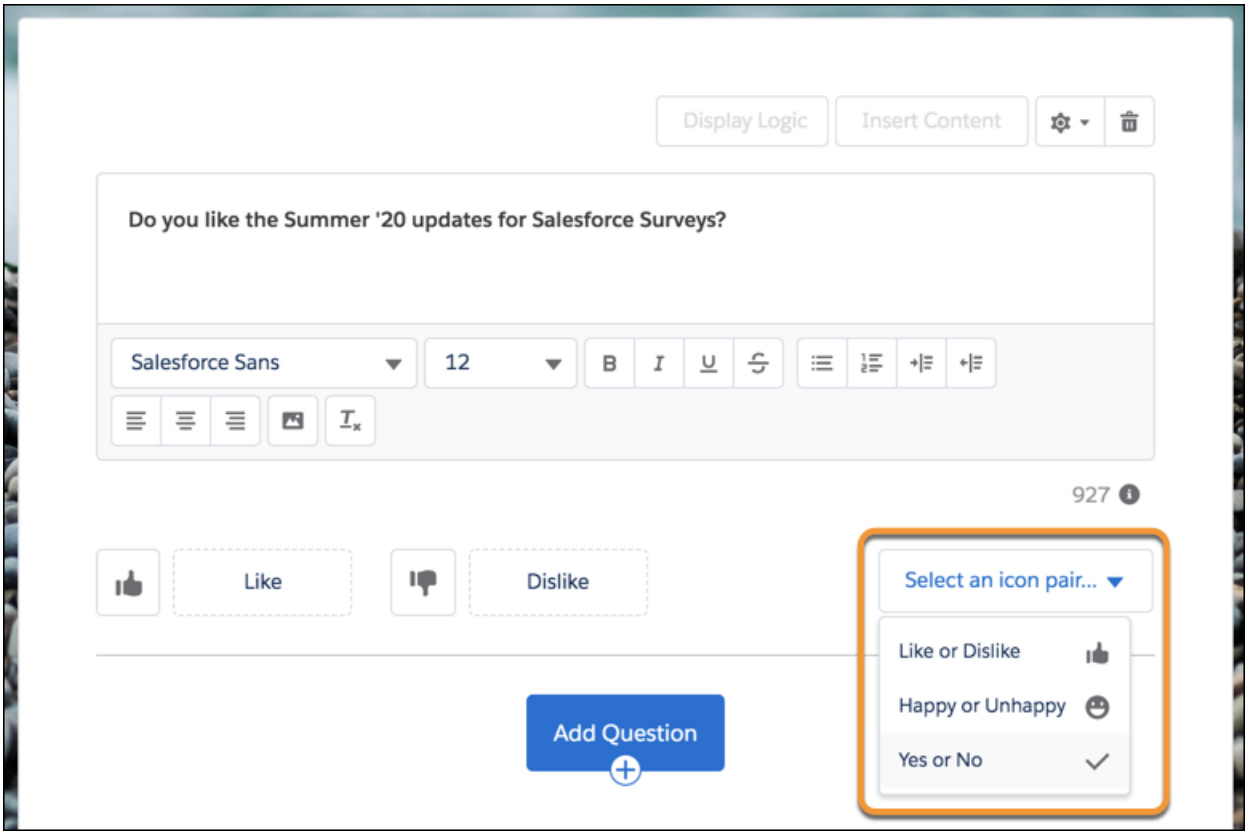
参加者の高評価と低評価の理解

新しい質問種別である [高く評価] と [低く評価] を使用して、参加者が意見を表明できるようにする質問を定義します。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 質問に商品の画像を含めることで、参加者が商品を気に入るかどうかを調べることができます。または、質問種別の [高く評価] と [低く評価] を使用して、顧客がケースの解決に満足したかどうかを判断できます。

方法: アンケートビルダーで [質問を追加] をクリックし、[高く評価] または [低く評価] を選択します。用意されている 3 セットのアイコンをデフォルトの表示ラベルで使用するか、または質問に合わせて表示ラベルをカスタマイズします。



短いテキストによる重要な参加者情報の収集

新しい質問種別である [短いテキスト] を使用して、連絡先など、参加者に関する重要な個人情報を収集します。また、最大 200 文字のテキストで回答を得ることもできます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: アンケートビルダーで [質問を追加] をクリックし、[短いテキスト] を選択します。

QR コードによるアンケートへの招待の共有

アンケートへの招待を含む QR コードをダウンロードして参加者と共有できるようになりました。参加者は、QR コードをスキャンするだけでアンケートを開いて回答できます。この招待は、参加者のレコードには関連付けられません。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: アンケートビルダーの [送信] タブで [招待を取得] をクリックします。招待の設定を選択して、[QR コードをダウンロード] をクリックします。

世界中の利用者のエクスペリエンスの改善

翻訳したアンケートに画像を追加して、視覚的に注目を集めましょう。また、以前の質問の回答が含まれる質問を翻訳する場合には、元の質問の翻訳を表示できます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: トランスレーションワークベンチ権限を持つ Salesforce 組織の翻訳者は、権限のある言語でアンケートを翻訳できます。

管理パッケージを使用した組織間のアンケートの送信

管理パッケージを使用して組織間でアンケートを送信できるようになりました。送信元組織でアンケートを変更した場合、管理パッケージの新しいバージョンを使用して、更新したアンケートを対象組織に移動することができます。

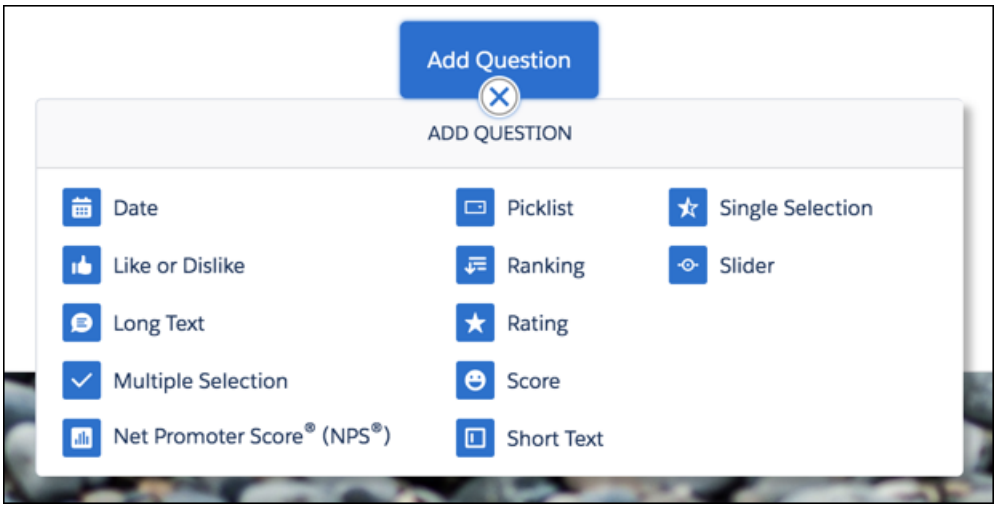
対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

すべての質問種別を一度に確認する

もうスクロールバーは使用しません。質問セレクタが拡張され、すべての質問種別が一度に見られるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: アンケートを開き、[ページを追加] をクリックして、[質問を追加] をクリックします。



組織外のアンケート参加者による回答の簡易化

Salesforce 組織外の参加者がアンケートに回答するためには、アンケート回答オブジェクトに対する編集アクセス権は不要になりました。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

質問種別名の変更

新しい [短いテキスト] 質問種別と区別できるように、[テキスト質問] の種別名が [長いテキスト] に変更されました。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

Customer Lifecycle Analytics: トピック分析、顧客ライフサイクルマップ、回答分析、内部アンケート分析、拡張された設定ウィザード

新しい Topic Analysis ダッシュボードを使用して、トレンドトピックを分析し、ビジネスについて理解を深めます。Customer Lifecycle Map ダッシュボードは、顧客ライフサイクルのさまざまなフェーズの顧客フィードバックを分析するのに役立ちます。Response Analysis ダッシュボードでは、統計的情報と地理的情報でアンケートへの回答にドリルダウンできるようになりました。改善された設定ウィザードでは、アプリケーションのデータセットが自動的に作成されます。

このセクションの内容:

トピックの分析とビジネスパフォーマンスの追跡
新しい Topic Analysis ダッシュボードでは、トレンドトピックを分析して、ビジネスのさまざまな領域のパフォーマンスを把握できます。

顧客ライフサイクルマップによるカスタマーエクスペリエンスの改善
Customer Lifecycle Map ダッシュボードを使用すると、顧客ライフサイクルのさまざまなフェーズの顧客フィードバックに関するアクション可能なインサイトを取得できます。ダッシュボードの視覚化により、改善が必要なフェーズを特定して、カスタマーエクスペリエンスを改善できます。

アンケートへの回答に関するより詳細なインサイトの取得
拡張された Response Analysis ダッシュボードでは、各質問種別のアンケートへの回答にドリルダウンできます。各アンケートの質問への回答を分析して、さまざまなアンケートの質問への回答と比較できます。また、アンケートで複数の質問を選択して、その傾向と評価を比較できます。

社内の参加者からの回答の分析
Customer Lifecycle Analytics アプリケーションダッシュボードを使用して、Salesforce 組織内のユーザからのフィードバックを分析します。

改善された設定ウィザードを使用したデータセットの自動作成
Customer Lifecycle Analytics テンプレートからアプリケーションを作成するときに、オブジェクトをデータフローに関連付けて、自動的にデータをアプリケーションに追加できます。

トピックの分析とビジネスパフォーマンスの追跡

新しい Topic Analysis ダッシュボードでは、トレンドトピックを分析して、ビジネスのさまざまな領域のパフォーマンスを把握できます。

対象: この変更は、Salesforce **アンケートが有効になっている** Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: Customer Lifecycle Analytics **テンプレートからアプリケーションを作成するには、**Customer Lifecycle Analytics Plus **アドオンライセンスが必要です。**

理由: トピックは、共通のテーマでアンケートデータをグループ化します。トピックによってデータを絞り込むと、トピックでタグ付けされたすべてのアンケートデータがダッシュボードに表示されます。直感的な視覚化により、何が顧客にとって重要なのかに関する貴重なインサイトを得られます。

方法: Analytics Studio **に移動して [すべての項目] をクリックし、[アプリケーション] タブを選択して、自分のアプリケーションをクリックします。[ダッシュボード] タブをクリックして、**Topic Analysis **ダッシュボードを開きます。**

顧客ライフサイクルマップによるカスタマーエクスペリエンスの改善

Customer Lifecycle Map **ダッシュボードを使用すると、顧客ライフサイクルのさまざまなフェーズの顧客フィードバックに関するアクション可能なインサイトを取得できます。ダッシュボードの視覚化により、改善が必要なフェーズを特定して、カスタマーエクスペリエンスを改善できます。**

対象: この変更は、Salesforce **アンケートが有効になっている** Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: Customer Lifecycle Map **ダッシュボードをアプリケーションに追加するには、**Salesforce Feedback Management **ライセンスが必要です。**

方法: Analytics Studio **に移動して [すべての項目] をクリックし、[アプリケーション] タブを選択して、自分のアプリケーションをクリックします。[ダッシュボード] タブをクリックし、**Customer Lifecycle Map **ダッシュボードを開いて各フェーズで顧客からのフィードバックを分析します。**

アンケートへの回答に関するより詳細なインサイトの取得

拡張された Response Analysis **ダッシュボードでは、各質問種別のアンケートへの回答にドリルダウンできます。各アンケートの質問への回答を分析して、さまざまなアンケートの質問への回答と比較できます。また、アンケートで複数の質問を選択して、その傾向と評価を比較できます。**

対象: この変更は、Salesforce **アンケートが有効になっている** Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: Customer Lifecycle Analytics **テンプレートからアプリケーションを作成するには、**Customer Lifecycle Analytics Plus **アドオンライセンスが必要です。**

理由: Response Analysis **ダッシュボードを使用して、さまざまなアンケートへの回答を分析し、アンケートの効果を改善します。**

方法: Analytics Studio **に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択します。[Customer Lifecycle Analytics] テンプレートを選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。**

社内の参加者からの回答の分析

Customer Lifecycle Analytics **アプリケーションダッシュボードを使用して、**Salesforce **組織内のユーザからのフィードバックを分析します。**

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Customer Lifecycle Analytics テンプレートからアプリケーションを作成するには、Customer Lifecycle Analytics Plus アドオンライセンスが必要です。

方法: Analytics Studio に移動して [すべての項目] をクリックし、[アプリケーション] タブを選択して、自分のアプリケーションをクリックします。[ダッシュボード] タブをクリックして、使用するダッシュボードを開きます。ユーザからの内部アンケートフィードバックを分析するには、[ユーザ] 参加者種別でデータを絞り込みます。

改善された設定ウィザードを使用したデータセットの自動作成

Customer Lifecycle Analytics テンプレートからアプリケーションを作成するときに、オブジェクトをデータフローに関連付けて、自動的にデータをアプリケーションに追加できます。

対象: この変更は、Salesforce アンケートが有効になっている Performance Edition、Partner Developer Edition、Enterprise Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Customer Lifecycle Analytics テンプレートからアプリケーションを作成するには、Customer Lifecycle Analytics Plus アドオンライセンスが必要です。

理由: 拡張された設定ウィザードを使用すると、簡単にデータをダッシュボードに追加できます。ウィザードで、アプリケーションに追加するオブジェクトを選択すると、Analytics によって関連するデータセットがアプリケーションに追加されます。

方法: ウィザードの **[Customer Lifecycle Analytics - パーソナライズ]** 画面で、アンケートへの招待に関連付けるレコードを持つオブジェクトを選択すると、関連するデータセットが作成されます。

Lightning Scheduler: 自動リソース割り当て、匿名スケジュール、グローバルユーザ向けの拡張スケジュールエクスペリエンス、他

自動リソース割り当てを使用して予定をスケジュールすることにより、ユーザの負担を軽くします。予定を匿名化してリソースのプライバシーを保護します。また、最初に割り当てられたリソースが対応できなくなった場合に別のリソースを再割り当てする柔軟性があります。グローバルユーザへのサービスを改善するため、Lightning Scheduler ではマイルに加えてキロメートルもサポートされるようになり、各ユーザのロケールに基づいて、適切な日付と時刻の形式が表示されるようになりました。

このセクションの内容:

自動サービスリソース割り当てによる予定のスケジュールの合理化
匿名スケジュールによるサービスリソース名の非表示

自動サービスリソース割り当てによる予定のスケジュールの合理化

自動サービスリソース割り当てを有効化することで、ユーザは、サービスリソースを選択せずに予定をすばやくスケジュールできるようになります。また、サービスリソースを手動で選択するオプションや、自動的に割り当てるオプションをユーザに提供することもできます。

匿名スケジュールによるサービスリソース名の非表示

匿名スケジュールでは、スケジュールされている予定でサービスリソース名が外部ユーザに表示されません。匿名スケジュールを使用すると、ユーザはスケジュールプロセスでサービスリソースを選択しなくなり、割り当てられたリソースの名前が予定サマリーページには表示されなくなります。

[インバウンドまたはアウトバウンドサービス予定をレビュー] コンポーネントによるフローの合理化
ユーザは新しいフロー画面コンポーネントを使用して、インバウンドまたはアウトバウンドサービス予定をレビューできるようになりました。予定をスケジュールするときに「エンティティ「リード」へのアクセスが拒否されました」エラーが表示された場合は、古い [サービス予定をレビュー] コンポーネントを新しいコンポーネントに置き換えることができます。

Available Territory Slots API によるシステムリソースの予定時間枠の取得
新しい Available Territory Slots Connect API を使用して、すべてのサービスリソースの空いている予定時間枠をサービステリトリーのリストとして取得できます。

Lightning Scheduler のその他の変更
その他の小さくても重要な Lightning Scheduler の変更について説明します。

自動サービスリソース割り当てによる予定のスケジュールの合理化

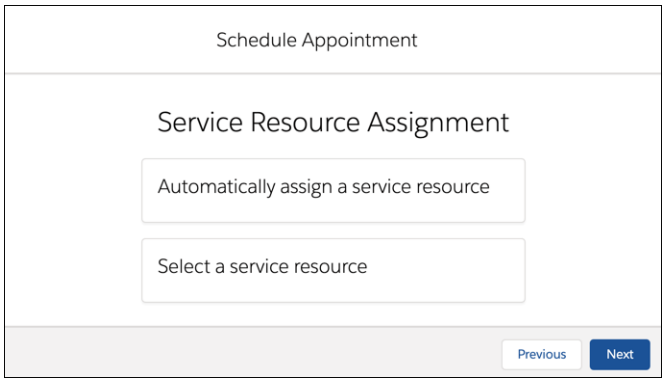
自動サービスリソース割り当てを有効化することで、ユーザは、サービスリソースを選択せずに予定をすばやくスケジュールできるようになります。また、サービスリソースを手動で選択するオプションや、自動的に割り当てるオプションをユーザに提供することもできます。

対象: この変更は、Lightning Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 顧客やゲストユーザは、サービスリソース名を知らなかったり、どのリソースが割り当てられるかについては気にしなかったりする場合があります。自動リソース割り当てにより、サービスリソースを選択せずに予定をスケジュールできるようになります。選択された時間枠に応じて、適切なサービスリソースが自動的に予定に割り当てられます。

方法: フロー画面コンポーネントで、新しい [匿名予約] 属性と [サービスリソース予約] 属性を使用します。影響を受けるフロー画面コンポーネントは、[サービスリソースの選択]、[サービスリソースの可用性]、そして [サービスリソースとサービス予定時間の選択] です。デフォルトでは、[匿名予約] は false、[サービスリソース予約] は true に設定されているため、フローの動作は変更されません。

- リソース選択ページをスキップして、サービスリソースを自動的に割り当てるには、[匿名予約] を `true`、[サービスリソース予約] を `false` に設定します。
- 自動リソース割り当てと手動リソース選択のいずれかを選択するオプションをユーザに提供するには、[匿名予約] と [サービスリソース予約] の両方を `True` に設定します。



匿名スケジュールによるサービスリソース名の非表示

匿名スケジュールでは、スケジュールされている予定でサービスリソース名が外部ユーザに表示されません。匿名スケジュールを使用すると、ユーザはスケジュールプロセスでサービスリソースを選択しなくなり、割り当てられたリソースの名前が予定サマリーページには表示されなくなります。

対象: この変更は、Lightning Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 組織は通常、プライバシーを保護するために、スケジュールされたサービスリソースの名前をユーザに表示しません。匿名スケジュールでは、最初に割り当てられたリソースが対応できなくなった場合に別のリソースを予定に割り当てる柔軟性があります。

方法: 匿名スケジュールを有効化するには、まずフロー画面コンポーネントで新しい [匿名予約] 属性を `true`、[サービスリソース予約] 属性を `false` に設定することで、自動サービスリソース割り当てを有効化します。その後、[サービス予定をレビュー] フロー画面で新しい [サービスリソースの表示] 属性を `false` に設定することで、割り当て済みリソース名を非表示にします。

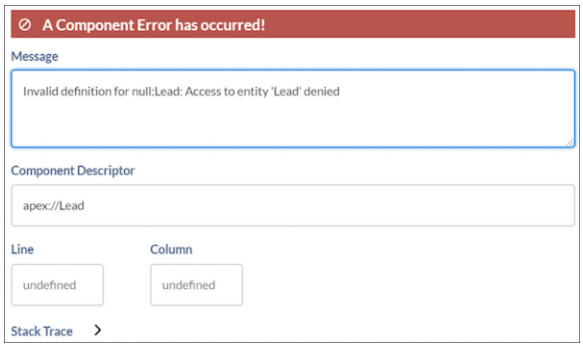
[インバウンドまたはアウトバウンドサービス予定をレビュー] コンポーネントによるフローの合理化

ユーザは新しいフロー画面コンポーネントを使用して、インバウンドまたはアウトバウンドサービス予定をレビューできるようになりました。予定をスケジュールするときに「エンティティ「リード」へのアクセスが拒否されました」エラーが表示された場合は、古い [サービス予定をレビュー] コンポーネントを新しいコンポーネントに置き換えることができます。

対象: この変更は、Lightning Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: このコンポーネントは 2020 年 4 月 15 日にリリースされました。

理由: [サービス予定をレビュー] フロー画面コンポーネントでは、認証済みのコミュニティユーザが予定をスケジュールしようとしたときにエラーが発生します。最も一般的には、Customer Community Plus ライセンスを持つユーザにこのエラーが表示されます。



方法: この問題が発生した Lightning Scheduler フローを編集し、[サービス予定をレビュー] コンポーネントを [インバウンドまたはアウトバウンドサービス予定をレビュー] コンポーネントに置き換えます。

Available Territory Slots API によるシステムリソースの予定時間枠の取得

新しい Available Territory Slots Connect API を使用して、すべてのサービスリソースの空いている予定時間枠をサービステリトリーのリストとして取得できます。

対象: この変更は、Lightning Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

新規および変更された Connect REST API リソース

Lightning Scheduler のその他の変更

その他の小さくても重要な Lightning Scheduler の変更について説明します。

対象: これらの変更は、Lightning Scheduler が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: グローバルユーザ向けに予定スケジュールエクスペリエンスを改善しました。

サービステリトリー選択ページで距離をマイル (mi) またはキロメートル (km) で表示

[サービステリトリーの選択] フロー画面コンポーネントで、新しい [距離単位] 属性を `mi` または `km` に設定します。他の値を入力すると、マイルが選択されます。

ユーザのロケールに従って日時形式を表示

ユーザのロケールに基づいてフロー画面の日時形式が自動的に変更されるようになりました。システム管理者の設定は不要です。

検索: 情報の高速検索と最も関連性の高い結果の取得

検索を使用するときの生産性を向上します。必要なレコードを簡単に見つけ、検索結果ページから直接対応策を実行できます。

このセクションの内容:

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

Financial Services Cloud と Health Cloud では、より多くのオブジェクトが検索可能になりました。

さらに多くのオブジェクトが検索結果の対象に

Financial Services Cloud と Health Cloud では、より多くのオブジェクトが検索可能になりました。

対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

オブジェクト	対象
ケア指標目標	Lightning Experience および Salesforce Classic での Health Cloud、Enterprise Edition、Unlimited Edition

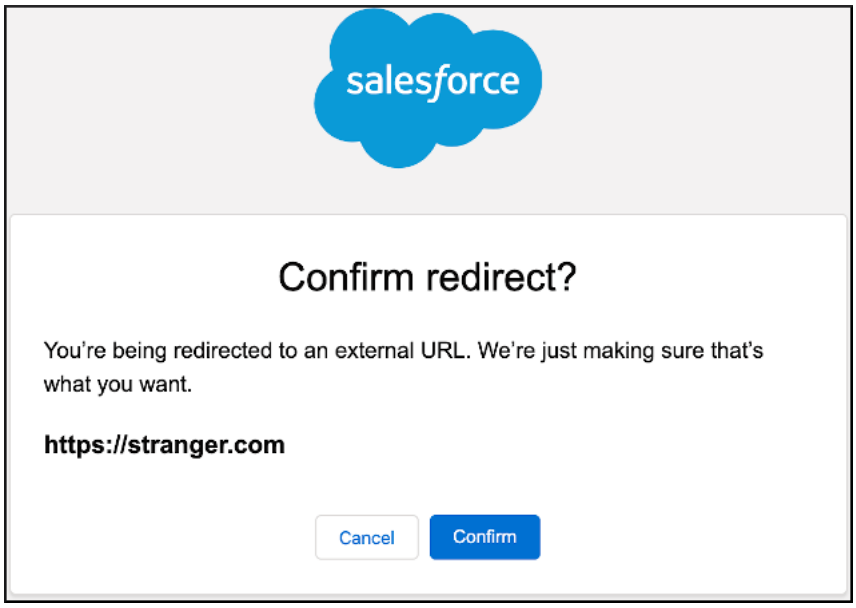
オブジェクト	対象
ケアプログラム提供者ヘルスケア提供者	Lightning Experience および Salesforce Classic での Health Cloud、Enterprise Edition、 Unlimited Edition
ケア登録デバイス	Lightning Experience および Salesforce Classic での Health Cloud、Enterprise Edition、 Unlimited Edition
コードセット	Lightning Experience および Salesforce Classic での Health Cloud、Enterprise Edition、 Unlimited Edition
経費	Lightning Experience および Salesforce Classic で Field Service を使用した Financial Services Cloud、 Enterprise Edition、 Performance Edition、 Unlimited Edition、 Developer Edition
提供者検索同期ログ	Lightning Experience での Health Cloud、 Enterprise Edition、 Unlimited Edition
測定単位	Lightning Experience および Salesforce Classic での Health Cloud、Enterprise Edition、 Unlimited Edition

外部 URL のリダイレクトに関する注意

セキュリティを高めるため、外部 URL (Salesforce の外側にある任意の場所) へのリンクは処理してからリダイレクトするようになりました。

対象: この変更は、外部 URL を参照している Lightning Experience 内のリンクに影響します。

方法: リンクをクリックします。Salesforce の外側にあるリンク先の URL がホワイトリストに登録されている場合、動作に変更はありません。従来と同じようにページが開きます。ホワイトリストに登録されていない場合は、ページが開き、外部 URL へのリダイレクトを確認するメッセージが表示されます。[確認] をクリックするとページが直ちに開き、[キャンセル] をクリックするとリダイレクトが禁止されます。



Salesforce ヘルプでの Trailblazer.me 環境の使用

Salesforce ヘルプで、サインアップ、ログイン、プロファイル管理、設定管理に Trailblazer.me が使用されるようになりました。ユーザがヘルプメニューから、Salesforce ヘルプを表示するリンクを開くと、まず Trailblazer.me アカウントにログインします。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

時期: この変更は 2020 年 5 月 22 日から開始されます。

方法: 右上隅にある [ログイン] をクリックして Salesforce ヘルプにログインします。ログインした後で、Trailblazer.me プロファイルや設定を表示または編集するには、プロファイル写真をクリックして [プロファイル] または [設定] を選択します。

Salesforce ヘルプメニューリンクの選択後に Trailblazer.me にログインするように求められた場合、ログイン後にページが表示されます。現在、Salesforce アプリケーションから Salesforce ヘルプへのシングルサインオン (SSO) は使用できません。ただし、Trailblazer.me セッションは長く続きします。Trailhead、Salesforce ヘルプ、Trailblazer Community、または別の Salesforce サイトに最近ログインした場合、Salesforce ヘルプへのセッションが継続し、同じユーザとしてログインします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Trailblazer.me の使用開始 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Extension のダークモード機能の一時的な無効化

パフォーマンスの問題を解決している間、ダークモードは無効になります。再度使用できるようするために取り組んでいます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Chrome の Lightning Extension での新機能の使用 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ナレッジ記事: Dark Mode is Disabled (ダークモードが無効化になる)

セキュアな HTTPS 接続が必要 (更新、適用)

「セキュアな HTTPS 接続が必要」は、Spring '20 の更新であり、2020 年 5 月 1 日に本番組織で適用されます。Google Chrome の SameSite Cookie の変更に関連する更新の一部として、Salesforce にアクセスするには HTTPS 接続が必要です。HTTP 接続は許可されなくなりました。この更新により、[設定] の [セッション設定] ページの [セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定が有効になり、無効化できなくなりました。[すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定はこの更新の影響を受けません。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: この重要な更新は、本番組織では 2020 年 5 月 1 日に自動的に有効化されています。

この更新を表示するには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[セキュアな HTTPS 接続が必要] で [確認] をクリックします。

メモ: この更新が表示されない場合は、組織で [セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定がすでに有効になっているため、アクションは不要です。

関連トピック:

Spring '20 リリースノート: セキュア HTTPS 接続の必須化 (更新)

リリース更新 (ベータ)

数式項目でハイパーリンクを正しく開く (重要な更新、適用済み)

`HYPERLINK` 関数が含まれる数式項目がある場合、リンクを開こうとすると Lightning Experience で target 値が無視されます。この更新により、明示的に設定されている場合でも、デフォルトで設定されている場合でもハイパーリンクの target 値が適用されます。この更新は Winter '19 で最初に使用可能になり、Summer '20 で適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: Sandbox 組織または本番組織を Summer '20 にアップグレードすると、この更新が適用されます。2020 年 6 月 15 日以降は、インスタンスを Summer '20 にアップグレードすると更新が適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力します。次に、[重要な更新] を選択します。[Lightning Experience で数式項目のハイパーリンクの target 値を適用] で、[承認] をクリックします。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (以前にリリース済みの更新)

Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。このリリースの更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。このリリースの更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

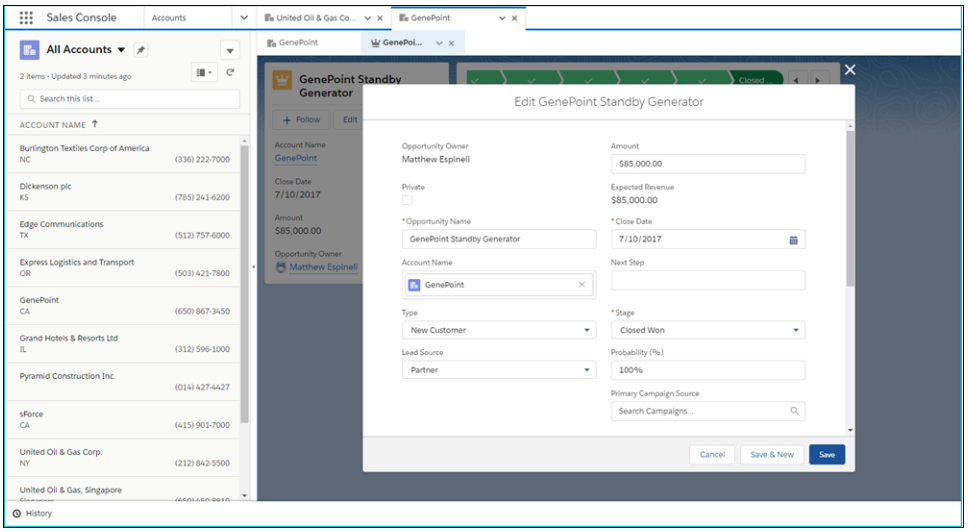
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。特定の製品の Salesforce Platform ユーザライセンスを所有するユーザは、Lightning コンソールアプリケーションを有料オプションで使用できます。いくつかの制限が適用されます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

時期: この更新はすぐに有効化できます。すぐに有効化しない場合、Winter '22 リリースで適用されます。

理由: Winter '20 リリース以前は、Lightning コンソールアプリケーションのワークスペースタブまたはサブタブでトリガされたすべてのダイアログがアプリケーション全体のフォーカスを獲得していました。この更新では、ダイアログが、そのダイアログをトリガしたタブのフォーカスのみを必要とするようになるため、アプリケーションの他の部分とのインタラクションが邪魔されることがなくなります。

方法: Winter '22 より前にこのリリース更新を有効化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*リリース更新*」と入力して、[リリース更新] を選択します。[タブ中心のダイアログを使い続ける方法] で [有効化] をクリックします。

更新後、ダイアログがトリガされても、そのダイアログを作成したタブに制限されます。



関連トピック:

- リリース更新 (ベータ)

より多くのレコードをグローバルプロファイルから作成

[C360 グローバルプロファイル] 検索を使用してグローバルプロファイルデータからレコードを作成するときの手動データエントリを減らすことで、時間を節約し、エラーを削減します。組織ですでにサポートされている取引先オブジェクトに加えてリードおよび取引先責任者標準オブジェクトでレコードを作成します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Customer 360 Data Manager アドオンサブスクリプションを持つユーザ。

方法: [C360 グローバルプロファイル] 検索から、電話番号またはメールアドレスで顧客を検索します。グローバルプロファイルに基づいて作成するオブジェクトを選択します。グローバルプロファイルからサポートされるオブジェクトごとにさまざまな種別の複数のレコードを作成できます。

Customer 360 Data Manager から各オブジェクトをクラウド情報モデルに対応付ける必要があります。

関連トピック:

- より多くのページレイアウトへの C360 グローバルプロファイルコンポーネントの追加
- *Salesforce* ヘルプ: Create Records Using Customer 360 Data Manager Data (Customer 360 Data Manager データを使用したレコードの作成)
- *Salesforce* ヘルプ: データの対応付け

Salesforce Einstein: Einstein Search の結果の改善、Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、Einstein Discovery のアルゴリズムとデータの増加による予測の改善

Einstein Search は自然検索です。ユーザは、検索ボックスに一般的な単語や語句を入力し、探しているレコードを見つけることができます。Einstein OCR (光学式文字認識) を使用して、名詞などの画像を英数字テキストに変換します。複数のモデリングアルゴリズムと行制限の緩和により、Einstein Discovery の予測が改善されます。

Einstein を利用する最新の方法を確認してください。

セールス

Sales Cloud Einstein: 商談スコアリングに含まれる一貫した表示ラベルおよび項目レベルのセキュリティ、リードおよび商談のスコアリングモデルの改善、新しい取引先インサイト

スコアが表示されるすべての場所で、[商談スコア]が項目名になります。項目レベルのセキュリティによって営業担当に表示されるスコアリング要素が制御されます。Einstein 商談スコアリングモデルに商品、見積、価格表が含まれるようになりました。Einstein リードスコアリングモデルにリードの活動データが含まれるようになりました。また、Einstein 取引先インサイトにより、会社がコストを削減できる場合を営業担当が把握できます。

サービス

Einstein for Service: 返信のおすすめ、複数言語の記事のおすすめ、拡張ボットイベントログ、ボット用 Facebook Messenger

類似する完了したチャットに基づくチャットの返信を多忙なサポートエージェントに推奨し、ナレッジ記事のおすすめを5個の新しい言語で表示します。チャットデータとクローズケース項目に基づく項目値のおすすめにより、サポートエージェントはケースをよりすばやく完了できます。拡張ボットイベントログを使用して迅

速にトラブルシューティングを行い、スキルベースのルーティングを統合してボットが顧客を迅速に支援できるようにします。9 個の新しい言語と Facebook Messenger のサポートにより、ボットでより多くの顧客にリーチします。参照項目、チェックボックス、および選択リストで Einstein ケース分類の予測を受け取り、項目予測が自動更新の信頼性しきい値を満たしていないケースを識別します。

Industries

Einstein Object Detection: データの安全性、検出の改善、重要な更新

無効な Salesforce 組織に保存されている Object Detection データは削除されます。オブジェクトは、最も精度の高いモデルによって検出されます。システム管理者は、モデルおよびデータセットについてより多くの情報を取得できます。すべてのレコードリストと関連リストを使用して、Einstein Object Detection レコードを簡単に表示できます。

Analytics

Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

3 つのモデリングアルゴリズムからの最適な予測を取得します。ランダムフォレストアルゴリズム (パイロット) を使用して正確なモデルを作成できます。最大 1 億行のデータを処理できます。

カスタマイズ

Einstein 予測ビルダー: スコアカードからの予測セットの定義、レポートの実行、および予測の有効化

Einstein でスコアリングするレコードを選択することで、予測結果の関連性を高めます。レポートを実行して、予測で使用されているデータを探索できるようにします。予測スコアカードから予測を直接有効化または無効化する場合の時間を節約します。データチェッカーを使用して、さらに多くの項目やレコードタイプがないか調べます。

開発

Einstein Platform Services: 画像認識および自然言語処理

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Platform Services API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

ALBERT EINSTEIN の権利は、ヘブライ大学の許可を受けた上で使用しています。Greenlight が排他的に代理人を務めています。

セールス: High Velocity Sales の Einstein コールコーチングおよびエンゲージメントの詳細、カスタム商談分割、ToDo キューのクイックアクション、Pardot B2B Marketing 機能

Einstein コールコーチングを使用して会話データを分析し、エンゲージメントの詳細をレビューして見込み客がいつメールでエンゲージするかを確認します。より多くのカスタム商談分割種別を作成します。ToDo をキューに割り当てるクイックアクションを設定します。Pardot では Einstein 属性とマーケティングキャンペーンインテリジェンスアプリケーションが追加されます。テリトリーを使用して商談へのアクセスをより詳細に制御します。パス機能が Kanban に取り入れられます。メールインテグレーションは、これまで以上に生産性を向上するのに役立ちます。

このセクションの内容:

High Velocity Sales: Einstein コールコーチング、エンゲージメントの詳細、その他のセールスケイデンスのカスタマイズ

営業マネージャは、Einstein コールコーチングで営業電話を分析できます。営業担当者は、セールスケイデンスメールの開封やリンクのクリックなど、見込み客がメールでエンゲージしたことを知ることができます。セールスケイデンスには、指定した終了条件が成立した時点で自動的に見込み客をセールスケイデンスから削除するなど、多くの新機能が追加されています。

Salesforce Maps: COVID-19 クラスター感染の監視、テリトリー計画のシナリオ、高度な設定の改善

アクティブな COVID-19 ケースを視覚化するときに、営業担当およびサービス担当の応答を考慮できます。テリトリーの拡大または縮小の影響を示すことができます。また、簡略化され、より直感的になった Salesforce Maps Advanced の設定環境で作業できます。

Sales Cloud Einstein: 商談スコアリングに含まれる一貫した表示ラベルおよび項目レベルのセキュリティ、リードおよび商談のスコアリングモデルの改善、新しい取引先インサイト

スコアが表示されるすべての場所で、[商談スコア]が項目名になります。項目レベルのセキュリティによって営業担当に表示されるスコアリング要素が制御されます。Einstein 商談スコアリングモデルに商品、見積、価格表が含まれるようになりました。Einstein リードスコアリングモデルにリードの活動データが含まれるようになりました。また、Einstein 取引先インサイトにより、会社がコストを削減できる場合を営業担当が把握できます。

中核的なセールス機能: 商談、注文、およびエンタープライズテリトリー管理の機能強化

より多くのカスタム分割種別を作成します。B2B Commerce ライセンスでは、Salesforce で注文を使用して、外部プラットフォームで商品と価格表を管理できます。テリトリーを使用して商談へのアクセスをより詳細に制御します。

生産性機能: メールスレッド、キューへの ToDo の割り当て、新しいメールインサイト、改善された Kanban ビュー

営業担当は販売時の効率を高めることができます。High Velocity Sales ユーザはスレッドメールを使用して会話全体を表示することができます。クイックアクションを使用すると、ToDo をキューに容易に割り当てることができます。[関心がない] メールインサイトを使用すると、営業担当は顧客がセールストークに関心がない場合に知ることができます。会社固有のヒントと専門知識を Kanban ビューに追加します。

Google とのインテグレーション: メール設定の変更の追跡、テキストショートカットの改善、Lightning Sync を設定できるシステム管理者の増加

すべての Gmail インテグレーションユーザと Inbox ユーザに対して、メール追跡機能を 1 つの設定から有効および無効にできます。また、メールへのテキストショートカットの追加をこれまで以上に容易にするキーボードショートカットを追加しました。Winter '21 以降、Lightning Sync の可用性が変わります。Spring '20 では、Lightning Sync 管理者は、より厳しい権限を持つシステム管理者に設定を委任できます。

Microsoft® とのインテグレーション: メール設定の変更の追跡、テキストショートカットの改善、Lightning Sync の変更、Salesforce for Outlook の廃止

すべての Outlook インテグレーションユーザと Inbox ユーザに対して、メール追跡機能を 1 つの設定から有効および無効にできます。また、メールへのテキストショートカットの追加をこれまで以上に容易にするキーボードショートカットを追加しました。Winter '21 では、Lightning Sync の可用性が変わります。2020 年 12 月以降、Salesforce for Outlook が機能しなくなります。廃止に関する詳細を参照し、次世代機能に移行してください。

Salesforce CPQ および Salesforce Billing: 見積品目エディタの列幅の変更、Evergreen サブスクリプションの自動使用量サマリー、財務期間のエラー管理の改良

見積品目エディタの列幅を変更します。Evergreen サブスクリプション注文商品の最初の 12 件のサマリー以降の使用量の自動使用量サマリーを取得します。元の契約の商品バンドル構造を使用せずに修正を作成します。財務期間の開始または完了時に発生したエラーをすばやく確認して修正します。

Pardot

Pardot で新しい B2B Marketing 機能 (Einstein 属性、マーケティングキャンペーンインテリジェンスアプリケーションなど)が開始されるほか、セキュリティ、同期、コンテンツの再利用、および機能の設定にいくつかの機能強化が加えられます。一部の機能は 6 月に使用可能になり、その他の機能は Salesforce Summer '20 リリースで使用可能になります。

Sales Cloud のその他の変更

使い勝手をよくするため、および重複管理、メール、エンタープライズテリトリー管理の権限変更を改善するために加えられたその他の変更について説明します。

High Velocity Sales: Einstein コールコーチング、エンゲージメントの詳細、その他のセールスケイデンスのカスタマイズ

営業マネージャは、Einstein コールコーチングで営業電話を分析できます。営業担当者は、セールスケイデンスメールの開封やリンクのクリックなど、見込み客がメールでエンゲージしたことを知ることができます。セールスケイデンスには、指定した終了条件が成立した時点で自動的に見込み客をセールスケイデンスから削除するなど、多くの新機能が追加されています。

High Velocity Sales とその機能は、有料オプションで使用できます。価格設定についての詳細は、Salesforce アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。Lightning Dialer も有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

このセクションの内容:

Einstein コールコーチングを使用した営業電話のインサイトの取得
営業マネージャにチームの営業電話に関するインサイトを提供し、コーチング可能な瞬間を明らかにします。マネージャは会話記録を再生し、競合他社、商品、カスタムキーワード、料金に関するディスカッション、および次のステップのメンションを可視化できます。

見込み客のメールエンゲージメント詳細のリアルタイム表示
セールスケイデンスの対象がメールを開封したとき、返信したとき、メールリンクをクリックしたとき、その他いろいろなアクションをすぐに知ることができます。私のフィードアラートでは、エンゲージメントが作業キューに直接表示されます。エンゲージメントデータは、対象レコードとメールメッセージに表示されます。

セールスケイデンス: メールの返信に基づく分岐、見込み客の自動削除、メールのスレッド化
営業マネージャはメールの返信に基づいてセールスケイデンスを分岐し、特定の条件に基づいて見込み客を自動的に削除できます。また、セールスケイデンスから見込み客へのメールをスレッドにまとめることができます。

一目で確認できるセールスケイデンスおよび営業担当パフォーマンス (正式リリース)
営業マネージャは、Einstein Analytics パフォーマンスダッシュボードを使用して、顧客エンゲージメントや営業担当の状況をすばやく確認できます。たとえば、マネージャは、詳細な通話およびメール応答の統計と共に、進行中のセールスケイデンスの数を表示できます。さらに、営業担当がそれぞれのセールスケイデンスをどの程度有効に進めているかを確認できます。

セールスケイデンスを進む際の待機時間のスキップ
営業担当は待機時間をスキップしてセールスケイデンスの次のステップに移動できます。以前は、営業担当は待機ステップの全期間を待機していました。営業担当はセールスケイデンスを加速して、時間を節約できるようになりました。

High Velocity Sales でメールをトラッキングするかどうかの選択
営業担当者のメールでのやり取りに関する情報を収集することは、顧客のプライバシーポリシーに必ずしも準拠しているとは限りません。High Velocity Sales を設定するときのメール追跡は省略可能になったため、柔軟性が高まりました。

活動タイムラインでのセールスケイデンス ToDo の明確な表示
Summer '20 以降に High Velocity Sales を有効化した組織では、各セールスケイデンス ToDo が活動タイムラインに 1 回のみ表示されるようになりました。Summer '20 よりも前に High Velocity Sales を有効化した Salesforce 組織では、各セールスケイデンス ToDo は見込み客レコードの活動タイムラインに 2 回表示されます。スケジュールされた ToDo と完了した ToDo が別々に表示されました。Summer '20 より前に High Velocity Sales を有効化した場合に、この明確なタイムラインを表示するには、Salesforce にお問い合わせください。

Einstein コールコーチングを使用した営業電話のインサイトの取得

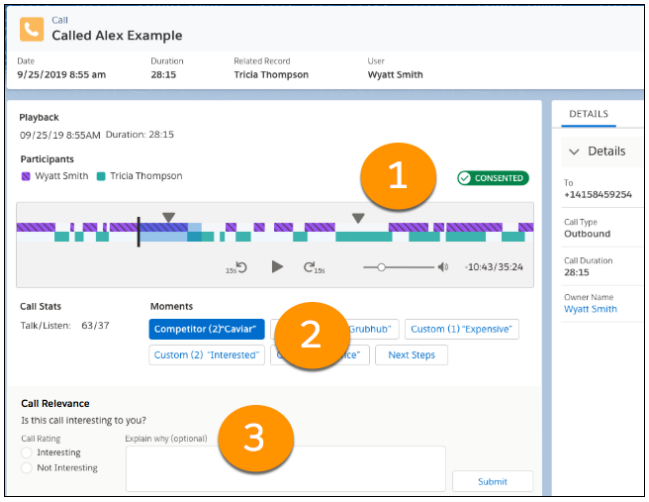
営業マネージャにチームの営業電話に関するインサイトを提供し、コーチング可能な瞬間を明らかにします。マネージャは会話記録を再生し、競合他社、商品、カスタムキーワード、料金に関するディスカッション、および次のステップのメンションを可視化できます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

対象ユーザ: この機能 (英語のみ) は、「コールコーチングユーザ」権限セットを持つ営業マネージャが使用できます。

コールコーチングは通話を記録しません。代わりに、自分で Lightning Dialer やその他のサポートされるパートナーなどの録音システムに接続します。通話が録音される方法について、同意を管理し、地域のプライバシー要件に準拠するのはお客様の責任です。

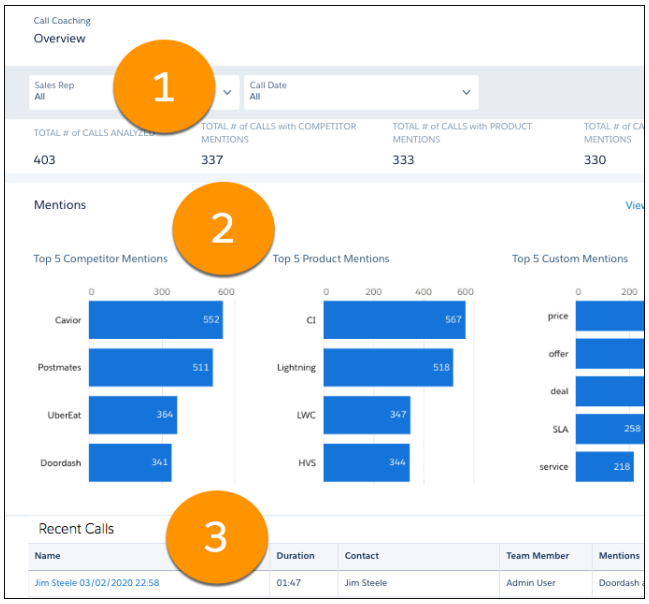
理由: Einstein コールコーチングは、営業マネージャが使用できる新しい機能であり、営業電話から明らかになったインサイトとトレンドを参照する機能を提供します。記録された通話は、特定のキーワードや語句のメンションがないかどうかが分析されます。



マネージャは音声コールレコードから通話記録を再生し、トーク対リスン比率を含め通話の詳細を確認できます。異なる色で通話の参加者が示されます。プレーヤーから通話内の異なるメンションに移動します (1)。異なるメンション (2) をクリックして、通話の特定の領域を強調表示し、その領域に移動します。

営業マネージャはフィードバック (3) を追加することもでき、これにより、Salesforce は毎日のハイライトメール内で最も関連性の高い通話を明らかにすることができます。このフィードバックは、通話に関連する営業担当にではなく、Salesforce のシステムに取り込まれます。

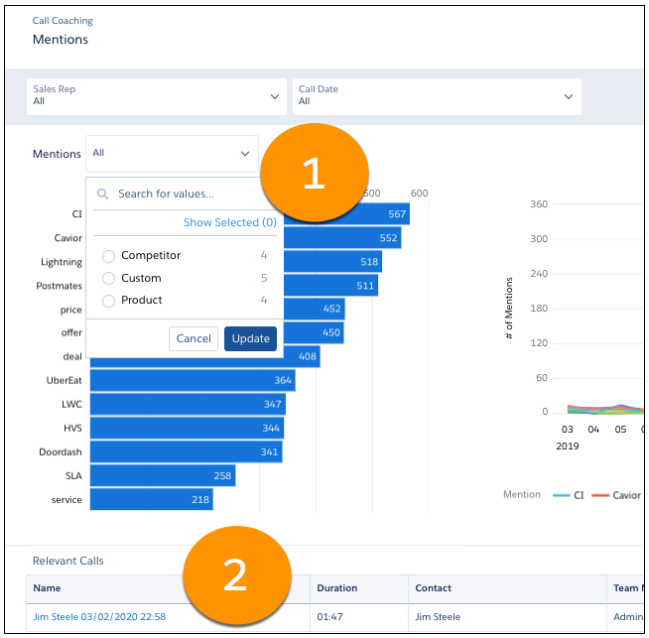
マネージャは、別のインサイトに関するレポートとダッシュボードを表示することもできます。



[概要]ページから、マネージャは営業担当と電話日時で絞り込み(1)、ロール階層に基づいて上位のメンションのレポートを確認できます (2)。

[概要] ページの [最後の通話] テーブル (3) には、記録へのリンクも提供されます。この記録は、チームが最近発信した電話です。

マネージャは [メンション] ページで詳細を確認できます。



メンションの種別で絞り込み、関連するレポート (1) を表示します。このページでは、検索条件に基づいて [関連する通話] (2) のリストも提供されます。

インサイトを含む通話が前日に3件以上あった場合、コールコーチングユーザは、強調された通話のリストを含む日次メールも受信します。

方法: Salesforce システム管理者は [設定] からコールコーチングを有効にすることができます。詳細は、Salesforce ヘルプを参照してください。

見込み客のメールエンゲージメント詳細のリアルタイム表示

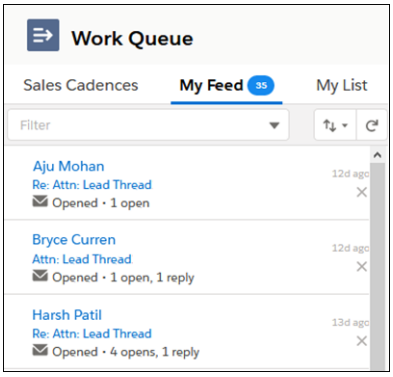
セールスケイデンスの対象がメールを開封したとき、返信したとき、メールリンクをクリックしたとき、その他いろいろなアクションをすぐに知ることができます。私のフィードアラートでは、エンゲージメントが作業キューに直接表示されます。エンゲージメントデータは、対象レコードとメールメッセージに表示されます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

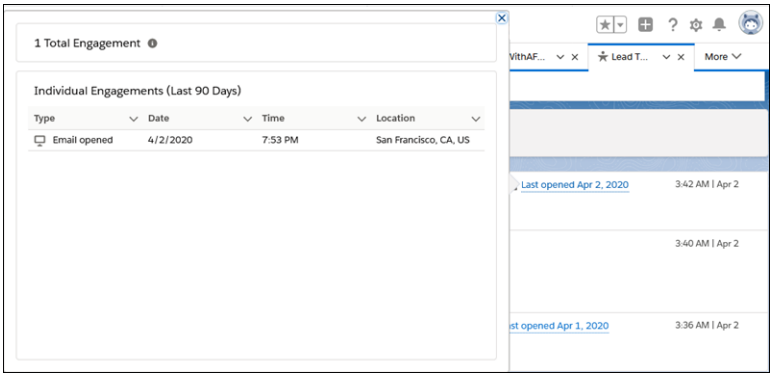
時期: この機能は、Summer '20 リリースの 30 日後に正式リリースされる予定です。

理由: 作業キューの新しい [私のフィード] タブでは、追跡されたメールで見込み客がエンゲージメントするとアラートを受け取るため、営業担当者は直ちにフォローアップできます。営業担当者は、自分にレコードが割り当てられたときにもアラートを受け取ります。営業担当者に表示されるアラートの種別は、Salesforce組織で High Velocity Sales (HVS)、Inbox、Einstein 活動キャプチャ (EAC)、またはこれらの組み合わせのどれを使用しているかによって決まります。

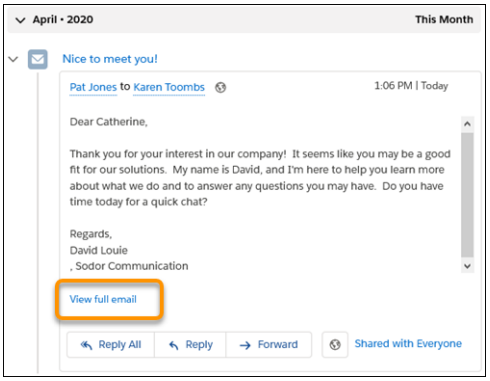
アラート種別	HVS + Inbox + EAC	HVS + Inbox	Inbox のみ
開封	✔	✔	✔
返信	✔		
リンクのクリック	✔	✔	✔
バウンス	✔		
レコードの割り当て	✔	✔	



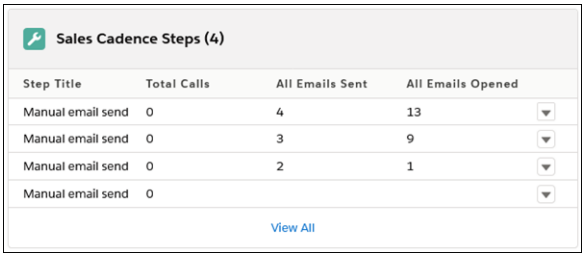
[私のフィード]には、過去30日分のエンゲージメントが表示されます。営業担当者は、必要に応じてリストを並び替えたり絞り込んだりできます。メールとエンゲージメントの詳細を表示するには、メールの件名をクリックします。



Salesforce 組織で Einstein 活動キャプチャを使用している場合は、メールの [最終開封日] をクリックすると、エンゲージメント関連リストが表示されます。Salesforce 組織で Einstein 活動キャプチャを使用していない場合は、メールの件名をクリックし、[エンゲージメント] タブをクリックするとリストが表示されます。エンゲージメントリストには、過去 90 日分のすべてのエンゲージメントが表示されます。営業担当者は、受信者がメールを開封した日時やリンクをクリックした日時、および操作した回数を時系列のリストで確認できます。営業担当はエンゲージメントの詳細を使用して、迅速にフォローアップする必要がある見込み客を特定できます。



リード、取引先責任者、個人取引先のレコードで活動タイムラインにメール活動が表示されている場合、営業担当者は各メールのエンゲージメントの詳細にアクセスできます。エンゲージメントを表示するには、[完全なメールを参照] をクリックしてから [最終開封日] にマウスポインタを置くか、またはメールの件名をクリックします。



セールスケイデンスレコードの [セールスケイデンスステップ] 関連リストでは、営業マネージャと営業担当に、各メールステップでメールが開封された回数が表示されます。

セールスケイデンス: メールの返信に基づく分岐、見込み客の自動削除、メールのスレッド化

営業マネージャはメールの返信に基づいてセールスケイデンスを分岐し、特定の条件に基づいて見込み客を自動的に削除できます。また、セールスケイデンスから見込み客へのメールをスレッドにまとめることができます。

このセクションの内容:

メールの返信に基づいたセールスケイデンスの分岐
営業マネージャは、見込み客がメールに返信したかどうかに応じて、異なるアウトリーチステップで見込み客をリードするセールスケイデンスを作成できます。営業担当者は、見込み客が返信した場合と返信しなかった場合で異なるパスを辿ることができます。

選択した条件によるセールスケイデンスからの見込み客の自動削除
セールスケイデンスルールを使用して、メールがバウンスされた場合、見込み客がメールに返信した場合、または営業電話が一定の成果を出した場合に、見込み客を削除します。

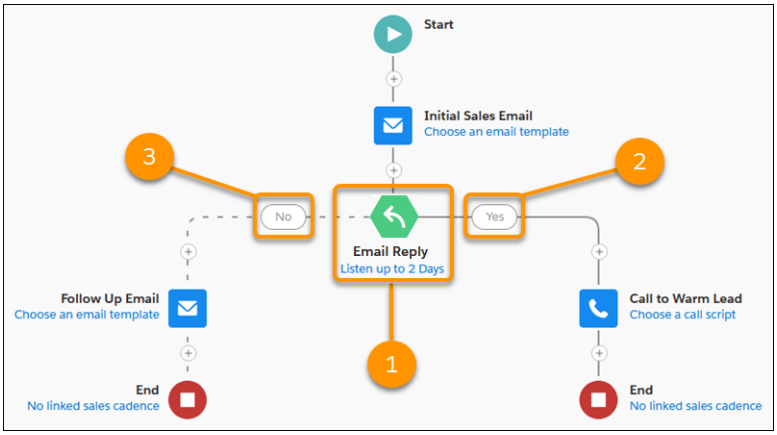
セールスケイデンスメールのスレッド表示
セールスケイデンスと見込み客のメールをスレッドとして整理して表示し、営業担当が各見込み客とのやり取りの詳細を確認できるようにします。営業マネージャは、営業担当がすべてのメール活動を 1 箇所で確認できるように、セールスケイデンスからのメールの一部または全部をスレッドとしてグループ化することができます。

メールの返信に基づいたセールスケイデンスの分岐

営業マネージャは、見込み客がメールに返信したかどうかに応じて、異なるアウトリーチステップで見込み客をリードするセールスケイデンスを作成できます。営業担当者は、見込み客が返信した場合と返信しなかった場合で異なるパスを辿ることができます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: リスナー分岐ステップにより、営業マネージャはメールへの返信をリスンし、見込み客がエンゲージするまで待つ時間を選択できます (1)。次に、見込み客がエンゲージメントした場合 (2) またはしなかった場合 (3) にアウトリーチ担当者が実行することを選択できます。リスナー分岐ステップは、オフィス不在返信とバウンス返信を無視します。



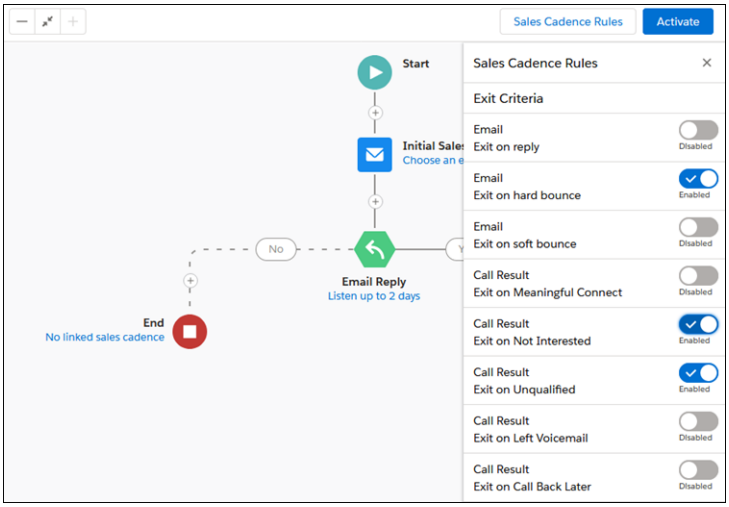
選択した条件によるセールスケイデンスからの見込み客の自動削除

セールスケイデンスルールを使用して、メールがバウンスされた場合、見込み客がメールに返信した場合、または営業電話が一定の成果を出した場合に、見込み客を削除します。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: 営業ステップの結果に基づいて見込み客をセールスケイデンスから自動的に削除することで、営業担当者の時間を節約します。

方法: 営業マネージャは、セールスケイデンスルールを使用して、セールスケイデンス全体に適用される終了条件を指定します。



セールスケイデンスメールのスレッド表示

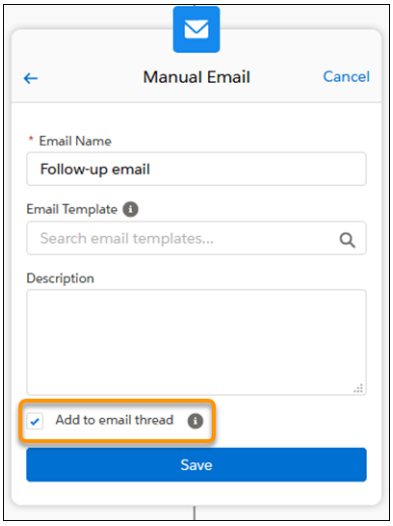
セールスケイデンスと見込み客のメールをスレッドとして整理して表示し、営業担当が各見込み客とのやり取りの詳細を確認できるようにします。営業マネージャは、営業担当がすべてのメール活動を1箇所で確認できるように、セールスケイデンスからのメールの一部または全部をスレッドとしてグループ化することができます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: 営業マネージャは、セールスケイデンスを作成するときに、先行するメールステップのメールとスレッド化するように手動メールステップを設定できます。後続のメールで件名が異なる別のテンプレートを使用している場合、そのメールの件名が、先行するメールの件名の最初に「RE:」が付けられた件名に変更されます。

営業担当者は、スレッド化されたメールステップを Lightning Experience、Outlook、または Gmail から完了できます。

方法: セールスケイデンスの手動メールステップの後続となる手動メールを、先行するメールステップとスレッド化するように設定します。



セールスケイデンスで新しいスレッドを開始するには、[メールスレッドに追加]チェックボックスをオフにします。自動メールステップでは、新しいスレッドが開始されます。

メモ: [Salesforce を介した送信] を使用してメールを送信する場合を除き、セールスケイデンスステップでスレッド化されたメールを指定した場合、Salesforce メールアドレスが [BCC] 項目に追加されます。

営業担当は、メールアプリケーションの [送信済みアイテム] フォルダで BCC アドレスを確認できます。

関連トピック:

単一ページでのスレッド化されたメールの表示

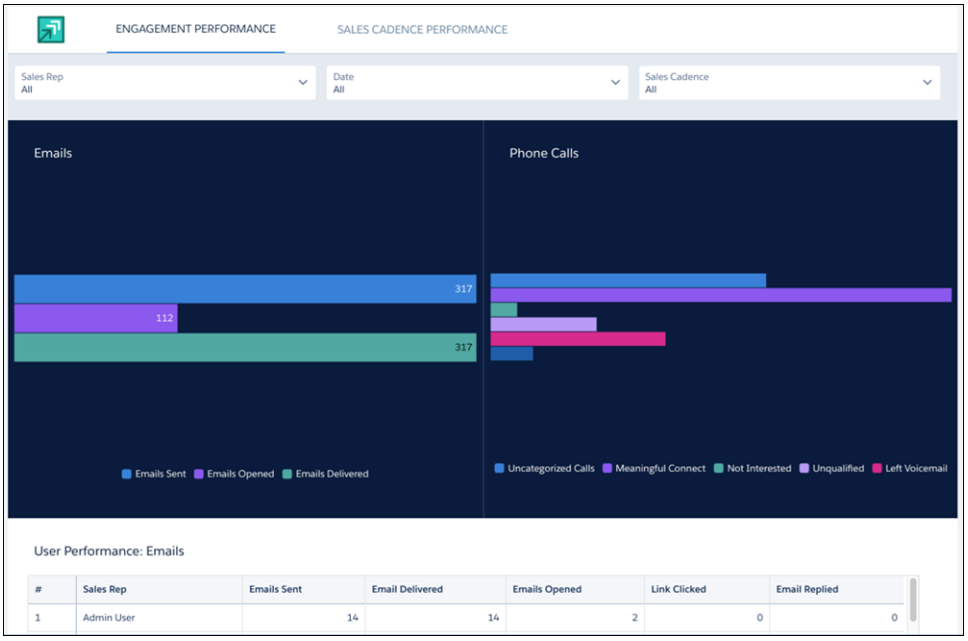
一目で確認できるセールスケイデンスおよび営業担当パフォーマンス (正式リリース)

営業マネージャは、Einstein Analytics パフォーマンスダッシュボードを使用して、顧客エンゲージメントや営業担当の状況をすばやく確認できます。たとえば、マネージャは、詳細な通話およびメール応答の統計と共に、進行中のセールスケイデンスの数を表示できます。さらに、営業担当がそれぞれのセールスケイデンスをどの程度有効に進めているかを確認できます。

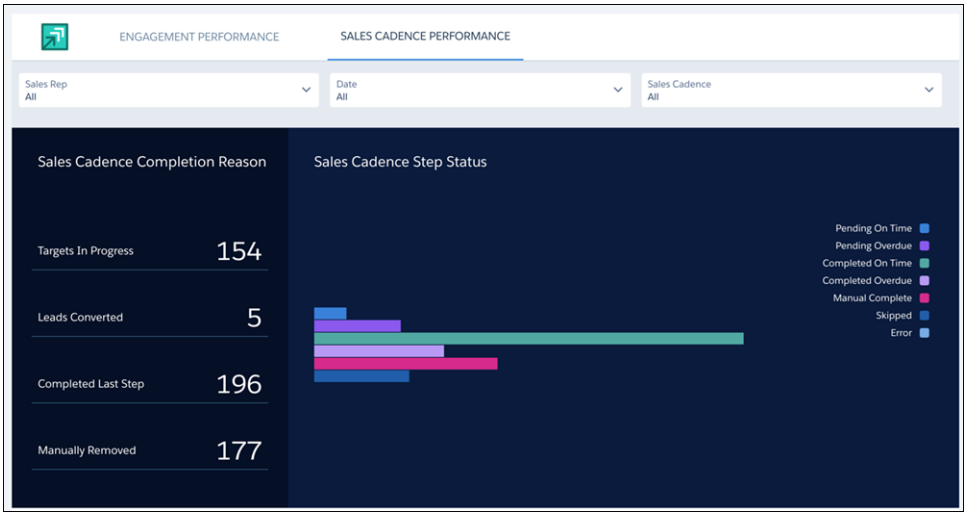
対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

対象ユーザ: High Velocity Sales パフォーマンスダッシュボードを表示するには、「High Velocity Sales ユーザ」または「High Velocity Sales ケイデンス作成者」権限が必要です。

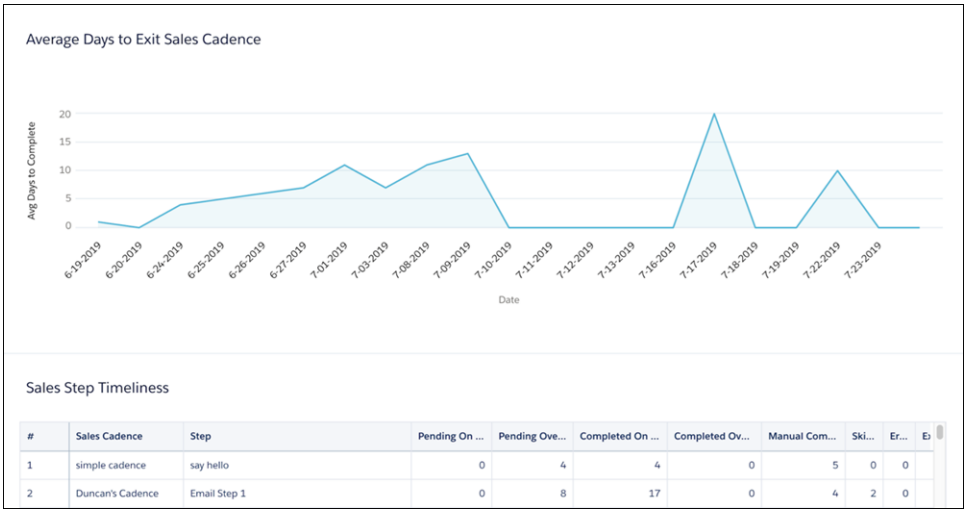
理由: エンゲージメントパフォーマンスダッシュボードで、マネージャはメールや電話に対する見込み客のエンゲージメント統計を、セールスケイデンス、日付範囲、営業担当、またはその組み合わせで並び替えて表示できます。



セールスケイデンスパフォーマンスダッシュボードを使用して、マネージャはセールスケイデンスの有効性を確認できます。詳細には、進行中の対象、リードの取引開始、セールスケイデンスの完了に関する統計が含まれます。

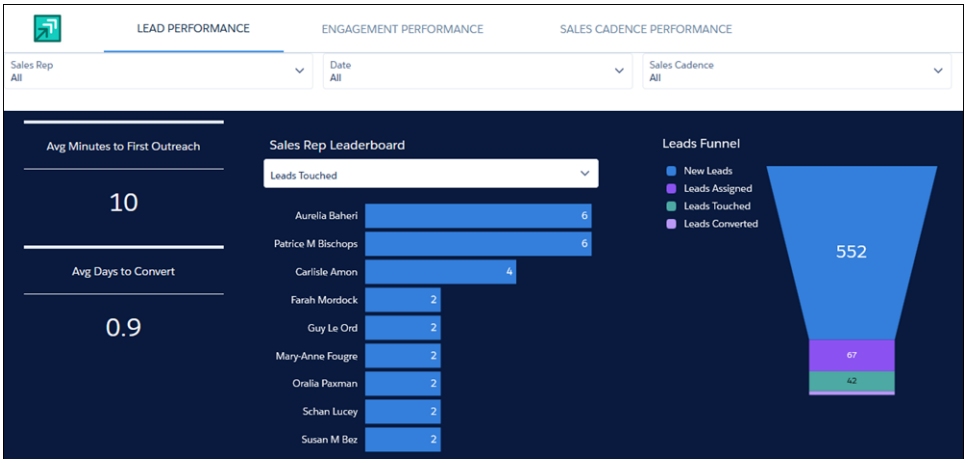


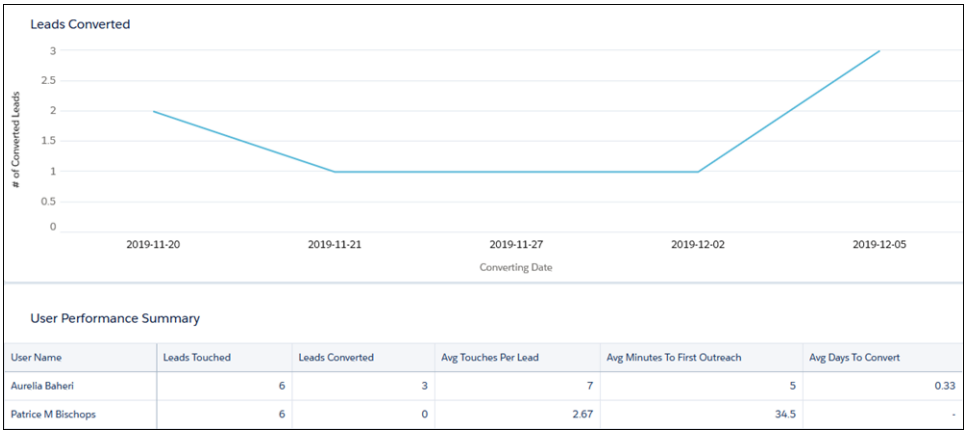
マネージャは、見込み客がセールスケイデンスを終えるまでにかかった期間や、営業担当がアウトリーチステップを予定どおりに完了したかどうかも確認できます。



リードパフォーマンスダッシュボードでは、チームによるリードとの取引開始の成果が営業マネージャに表示されます。営業マネージャは営業担当が新規リードに対応するまでの時間、セールスファネルの各フェーズのリード数を確認できます。また、ダッシュボードには、取引開始までの平均日数、リードごとの接触回数、コンバージョン数も表示されます。営業マネージャはこのデータを使用して、コーチングが必要な営業担当や調整が必要なセールスケイデンスを確認できます。

営業マネージャは営業担当、セールスケイデンス、日付範囲でリード統計を絞り込むことができます。





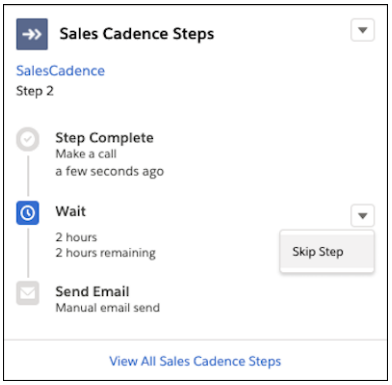
方法: ダッシュボードを有効化するには、[通話の結果] 値を対応付け、[High Velocity Sales] の [設定] で、High Velocity Sales パフォーマンス分析アプリケーションを有効にします。ダッシュボードを表示するには、営業マネージャが High Velocity Sales アプリケーションのナビゲーションメニューから [High Velocity Sales パフォーマンス] を選択します。

セールスケイデンスを進む際の待機時間のスキップ

営業担当は待機時間をスキップしてセールスケイデンスの次のステップに移動できます。以前は、営業担当は待機ステップの全期間を待機していました。営業担当はセールスケイデンスを加速して、時間を節約できるようになりました。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: 場合によって、営業担当は待機なしでセールスケイデンスの次のステップに移動したいと考えることがあります。待機時間をスキップすることで、営業担当は、不要な遅延なく、リード、取引先責任者、個人取引先がセールスプロセスを進み続けるようにすることができます。

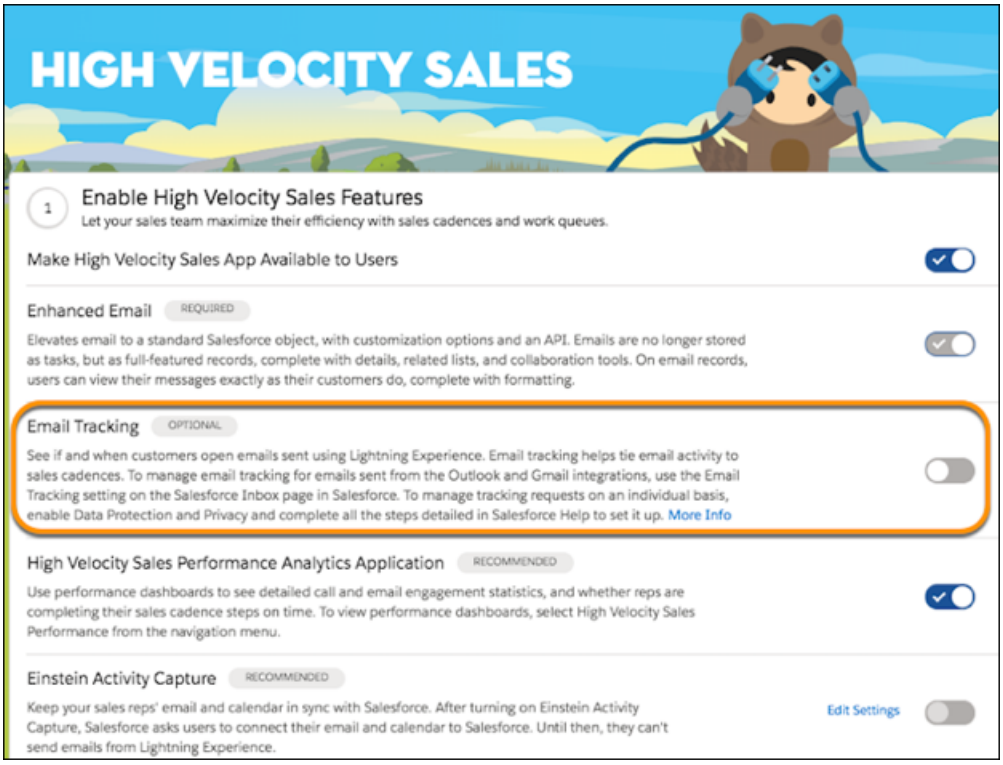


High Velocity Sales でメールをトラッキングするかどうかの選択

営業担当者のメールでのやり取りに関する情報を収集することは、顧客のプライバシーポリシーに必ずしも準拠しているとは限りません。High Velocity Sales を設定するときのメール追跡は省略可能になったため、柔軟性が高まりました。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料で使用できます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに `「High Velocity Sales」` と入力し、**[High Velocity Sales]** を選択します。[メールのトラッキング] オプションを使用して、メールのトラッキングを有効化または無効化します。



High Velocity Sales でメールのトラッキングを無効化すると、Lightning Experience から送信されるすべてのメールのトラッキングも無効化されます。営業担当者が Inbox との Outlook インテグレーションまたは Gmail インテグレーションを使用している場合は、[Salesforce Inbox の設定] ページで [メールのトラッキング] オプションを使用して、インテグレーションでのメールのトラッキングを無効化してください。

関連トピック:

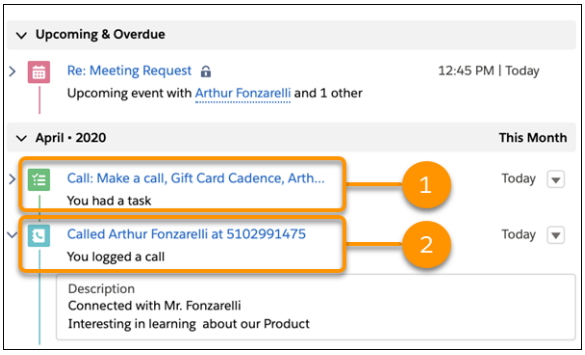
- 1 つの Salesforce 設定による Gmail インテグレーションでのメールのトラッキングの無効化
- Salesforce の [設定] を使用した Outlook インテグレーションでのメール追跡の無効化
- *Salesforce* ヘルプ: High Velocity Sales の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

活動タイムラインでのセールスケイデンス ToDo の明確な表示

Summer '20 以降に High Velocity Sales を有効化した組織では、各セールスケイデンス ToDo が活動タイムラインに 1 回のみ表示されるようになりました。Summer '20 よりも前に High Velocity Sales を有効化した Salesforce 組織では、各セールスケイデンス ToDo は見込み客レコードの活動タイムラインに 2 回表示されます。スケジュールされた ToDo と完了した ToDo が別々に表示されました。Summer '20 より前に High Velocity Sales を有効化した場合に、この明確なタイムラインを表示するには、Salesforce にお問い合わせください。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

理由: この明確な表示により、営業担当は今後の ToDo と完了した ToDo を容易に確認できます。



完了した ToDo (2) が表示されると、スケジュールされた ToDo (1) は表示されなくなります。

Salesforce Maps: COVID-19 クラスター感染の監視、テリトリー計画のシナリオ、高度な設定の改善

アクティブな COVID-19 ケースを視覚化するときに、営業担当およびサービス担当の応答を考慮できます。テリトリーの拡大または縮小の影響を示すことができます。また、簡略化され、より直感的になった Salesforce Maps Advanced の設定環境で作業できます。

このセクションの内容:

Salesforce Maps: COVID-19 クラスタの監視および Esri™ ArcGIS Living Atlas of the World
アクティブな COVID-19 クラスターを追跡するために Esri ArcGIS オンラインレイヤを使用してビジネスの応答を考慮できます。地理的な状況をより深く理解し、セールスとサービスを改善できるスケジュールを計画できます。また、権限の拡張された制御とオプションを活用できます。

テリトリー計画: シナリオの比較、コラボレーション、共有と権限
テリトリーモデルの拡大または縮小の影響を考慮できます。チームメイトと協力してテリトリー計画を練ることができます。また、データセットと配置の共有とアクセスの制御をすべて Salesforce Maps で行うことができます。

Advanced: 設定環境の再設計
簡略化され、より直感的になった Salesforce Maps Advanced の設定環境で作業できます。プロセスが合理化され、新たなサンプル値が事前入力されているため、重要な機能を短時間でチームに配信できます。

Salesforce Maps: COVID-19 クラスタの監視および Esri™ ArcGIS Living Atlas of the World

アクティブな COVID-19 クラスターを追跡するために Esri ArcGIS オンラインレイヤを使用してビジネスの応答を考慮できます。地理的な状況をより深く理解し、セールスとサービスを改善できるスケジュールを計画できます。また、権限の拡張された制御とオプションを活用できます。

このセクションの内容:

Esri™ ArcGIS オンラインレイヤを使用した COVID-19 クラスターの監視
Salesforce Maps でアクティブな COVID-19 ケースを視覚化するときに、営業担当およびサービス担当の応答を考慮できます。

Esri™ ArcGIS Living Atlas of the World からのコンテンツのプロット
営業担当が Salesforce Maps で直接デスクトップから世界中のきわめて重要な公開地理コンテンツのコレクションにアクセスできるようにします。

権限および営業担当の設定の処理の改善
営業担当の設定要件の負担を軽減し、権限グループで営業担当の Salesforce Maps 設定をより厳密に管理できます。権限グループページが再編成され、権限が新たに追加されたため、チームが仕事に集中できるようにより厳密に制御できるようになりました。実装した設定をチームが上書きできるかどうかはシステム管理者が決定します。

モバイルデバイスでフォルダの代わりにレイヤを表示
2つの新しいビューにより、以前よりも効率的にモバイルデバイスからレイヤをプロットできるようになりました。営業担当は、アクセスするレイヤを表示して数回クリックするだけでプロットできます。

Map の新しい図形レイヤ
新しいシェイプレイヤが Spring '20 以降に Salesforce Maps で使用できるようになりました。

Esri™ ArcGIS オンラインレイヤを使用した COVID-19 クラスターの監視

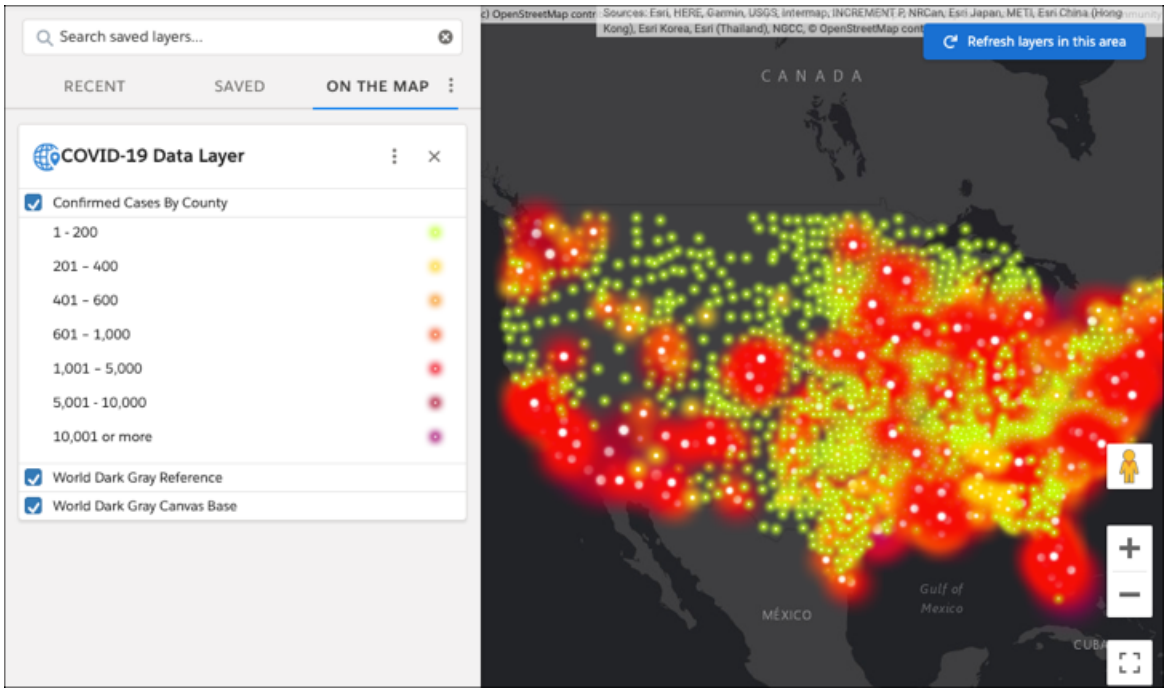
Salesforce Maps でアクティブな COVID-19 ケースを視覚化するときに、営業担当およびサービス担当の応答を考慮できます。

対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: システム管理者は ArcGIS オンラインレイヤを設定できます。これにより、フィールド営業担当者は地図でプロットし、スケジュール計画に関して情報に基づいて決定を行うことができます。

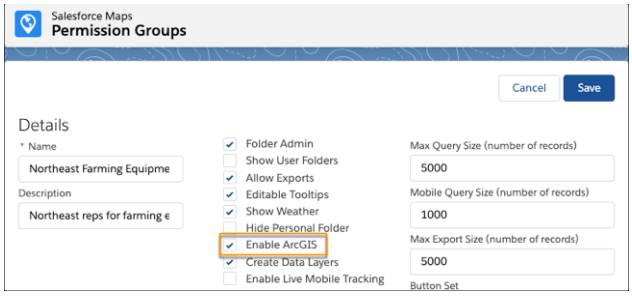
理由: 安全と共感を念頭に置いてスケジュールを入念に計画するために、システム管理者はチームの役に立つデータレイヤを設定できます。

- フィールド営業を再び行うのに安全な地域をより正確に判断するために、流行が遅れている地域を識別する。
- 全体的な市場の健康状態に基づいて、最適な人数を判断する。
- 現在の人数を使用してテリトリーのリバランスを行う。
- フィールドが回復中の間にテリトリーで新規の商談または以前に見つからなかった商談を見つける。



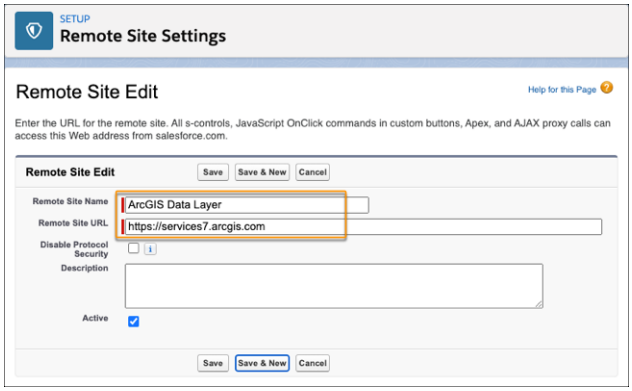
方法: ArcGIS および 2 つのリモートサイト用に Salesforce Maps を設定してからでないと、営業担当は ArcGIS オンラインレイヤをプロットできません。

1. レイヤを追加する各権限グループで、**[Enable ArcGIS (ArcGIS を有効化)]** を選択します。



2. Salesforce の [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*リモートサイトの設定*」と入力し、**[リモートサイトの設定]** を選択します。**[新規リモートサイト]** をクリックします。
3. リモートサイトに任意の名前を付けます。次の URL を入力し、**[Save & New (保存 & 新規)]** をクリックします。

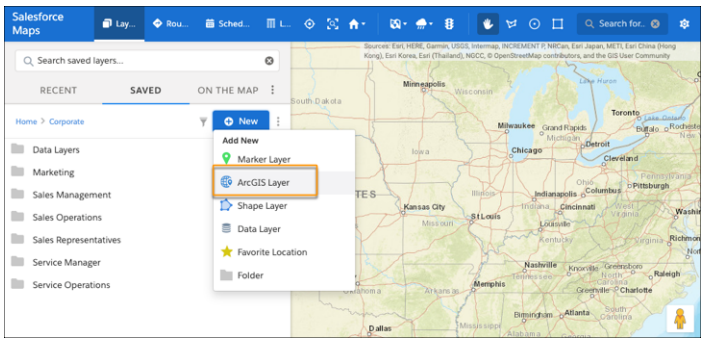
   `https://services7.arcgis.com`



4. リモートサイトに任意の名前を付けます。次の URL を入力し、変更を保存します。

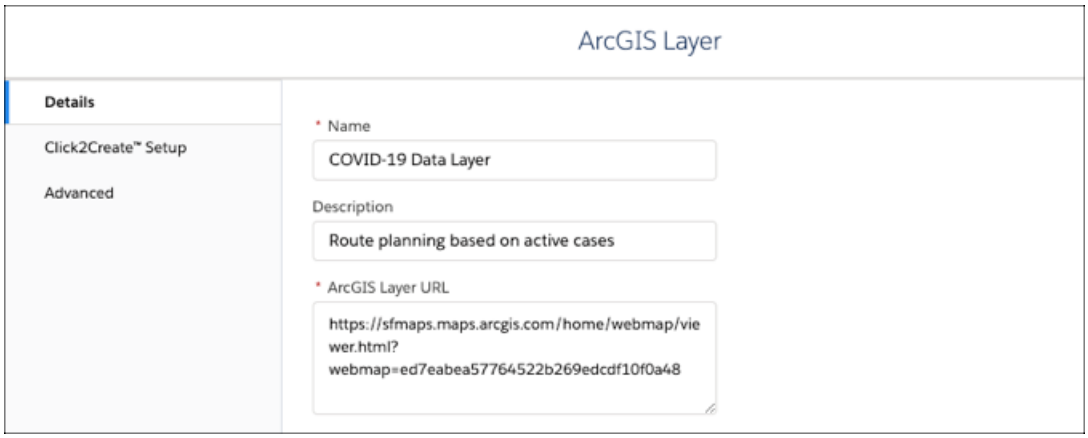
   https://services.arcgisonline.com

5. Salesforce Maps で ArcGIS オンラインレイヤを作成するには、**[Layers (レイヤ)]** > **[Saved (保存済み)]** を選択します。次に、データレイヤを保存するフォルダを選択します。
6. **[New (新規)]** > **[ArcGIS Layer (ArcGIS レイヤ)]** をクリックします。



7. ArcGIS オンラインレイヤに名前を付け、次の URL を入力します。

   https://sfmaps.maps.arcgis.com/home/webmap/viewer.html?webmap=ed7eabea57764522b269edcdf10f0a48



これで、営業担当がレイヤを地図にプロットできるようになりました。

Esri™ ArcGIS Living Atlas of the World からのコンテンツのプロット

営業担当が Salesforce Maps で直接デスクトップから世界中のきわめて重要な公開地理コンテンツのコレクションにアクセスできるようにします。

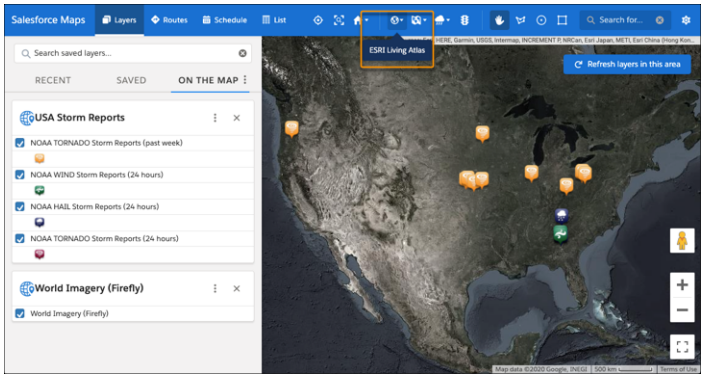
対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 営業担当は、Esri の製品やサービスに登録しているかどうかに関係なく、ArcGIS Living Atlas of the World の公開コンテンツをプロットできます。

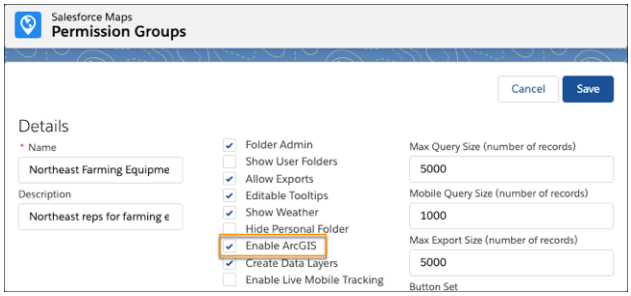
理由: 地理的な状況をより深く理解し、セールスとサービスを改善できるスケジュールを計画するために、営業担当は次のレイヤを地図にプロットできます。

レイヤ	有益な理由
World Imagery (Clarity) (世界のイメージ (透過))	Esri の最新の高品質イメージが表示されます。営業担当が高品質な画像を使用して地理的場所を分析するのに役立ちます。
World Imagery (Firefly) (世界のイメージ (蛍光))	色の彩度を低くした薄いイメージのベース地図が含まれており、営業担当が他の明るい色のレイヤに重ねた場合に便利です。究極的には、このレイヤは地図のコンテンツをより正確に視覚化するのに役立ちます。
USA Storm Reports (米国のストームレポート)	随時更新される米国のトルネード、暴風、雹に関するレポートが含まれています。営業担当が自分のルートやスケジュールに近い気象災害の可能性を視覚化するのに役立ちます。
World Time Zones (世界のタイムゾーン)	自分の担当範囲内の国および都市のタイムゾーンが表示されます。夏時間は表示されません。

権限グループで ArcGIS を有効にしたら、チームメイトは地図で **[Esri Living Atlas]** をクリックしたときに任意のレイヤをプロットできるようになります。



方法: ArcGIS Living Atlas of the World のコンテンツが含まれるように Salesforce Maps を設定します。ArcGIS Living Atlas of the World のコンテンツを公開する各権限グループで、**[Enable ArcGIS (ArcGIS を有効化)]** を選択します。



権限および営業担当の設定の処理の改善

営業担当の設定要件の負担を軽減し、権限グループで営業担当の Salesforce Maps 設定をより厳密に管理できます。権限グループページが再編成され、権限が新たに追加されたため、チームが仕事に集中できるようにより厳密に制御できるようになりました。実装した設定をチームが上書きできるかどうかはシステム管理者が決定します。

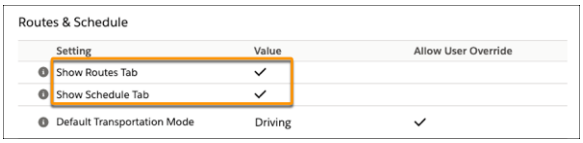
対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: システム管理者はより多くの設定を制御でき、どの権限をロックするかを決定できます。チームには環境を調整するためのオプション画より多く用意されています。

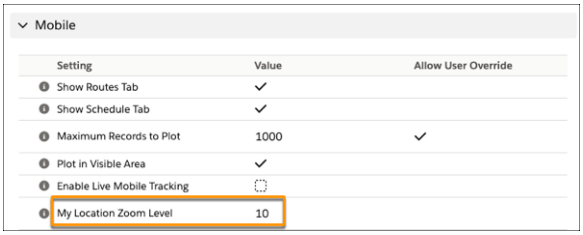
理由: チームが変更できる設定をシステム管理者が制御すれば、権限に対する誤った変更を防ぐことができます。

権限グループの新しい設定

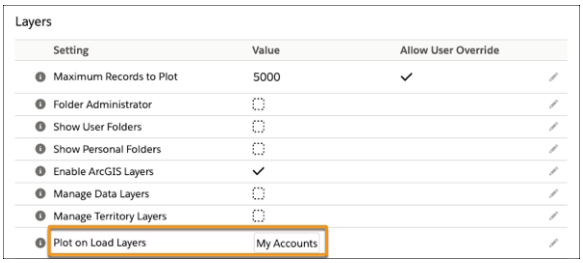
- ルートやスケジュールに関して使用しない機能を非表示にすれば、営業担当へのタブの表示を簡略化できます。



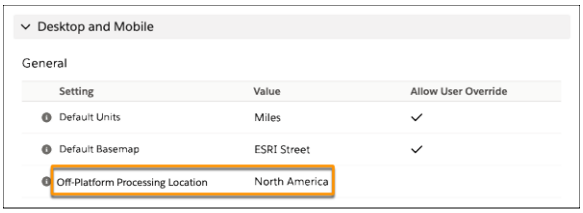
- モバイルデバイス向けの地理位置情報のズームレベルを設定できます。



- 営業担当が地図を開いたときに読み込まれるデフォルトのレイヤをプロットできます。



- 階層またはフラットなフォルダ構造を選択すれば、モバイルデバイス向けのレイヤおよびフォルダの外観を決定できます。
- データレジデンシー要件のために、Salesforce Maps でデータが処理される場所を制御できます: 北米または EU。



権限グループで使用できるようになったユーザ設定

セクション	追加された設定
General (一般情報)	Default Units (デフォルトの単位)
Layers (レイヤ)	• Default Proximity Type (デフォルトの近似種別) • Default Proximity Radius Distance (デフォルトの近似半径距離) • Invert Proximity (逆近似)
Routes & Schedules (ルート & スケジュール)	• Default Transportation Mode (デフォルトの交通手段モード) • Optimization Method (最適化方法) • Allow Duplicate Stops/Events (重複する停止/行動を許可) • Default Event Duration (デフォルトの行動の所要時間) • Default Route Type (デフォルトのルート種別) • Default Start Location (デフォルトの開始場所) • Default End Location (デフォルトの終了場所) • Shift Times (シフト時間) • Include Shift Break (シフトの休憩を含める) • Break Time (休憩時間)
List (リスト)	• Maximum Records on Page (ページの最大レコード数)

セクション	追加された設定
	• Default Column Visibility and Order (デフォルトの列の表示と順序)
Mobile (モバイル)	• Maximum Records to Plot (プロットする最大レコード数) • Plot in Visible Area (表示領域のプロット) • Enable Live Mobile Tracking (ライブモバイル追跡を有効化) • Show Last Session's Layers, Routes, and Schedules (前回のセッションのレイヤ、ルート、スケジュールを表示) • Schedule Based on Current Time and Location (現在の時刻および場所に基づいたスケジュール) • Map It Proximity (近似でマッピング)

権限グループのわかりやすい項目名

セクション	変更前の項目名	変更後の項目名
General (一般情報)	対応付け種別	Default Basemap (デフォルトのベース地図)
Layers (レイヤ)	Max Query Size (最大クエリサイズ)	Maximum Records to Plot (プロットする最大レコード数)
	Radius + Units (半径 + 単位)	Default Proximity Radius Distance (デフォルトの近似半径距離)
Routes & Schedules (ルート & スケジュール)	Routing and Schedule Optimization (ルートとスケジュールの最適化)	Optimization Method (最適化方法)
Info Windows (情報ウィンドウ)	Editable Tooltips (編集可能なツールチップ)	Edit Details Tab Fields (詳細タブ項目の編集)
List (リスト)	Default Page Size (デフォルトのページサイズ)	Maximum Records on Pages (ページの最大レコード数)
Mobile (モバイル)	Mobile State Remembrance (モバイル状態の記憶)	Show Last Session's Layers, Routes, and Schedules (前回のセッションのレイヤ、ルート、スケジュールを表示)
	Mobile Query Size (モバイルクエリサイズ)	Maximum Records to Plot (プロットする最大レコード数)

モバイルデバイスでフォルダの代わりにレイヤを表示

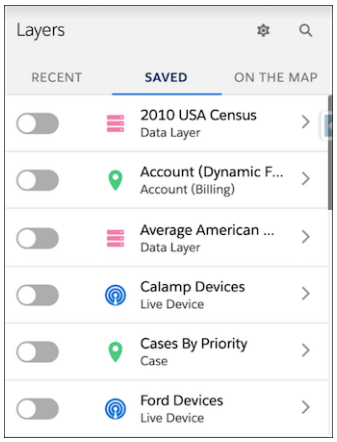
2つの新しいビューにより、以前よりも効率的にモバイルデバイスからレイヤをプロットできるようになりました。営業担当は、アクセスするレイヤを表示して数回クリックするだけでプロットできます。

対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

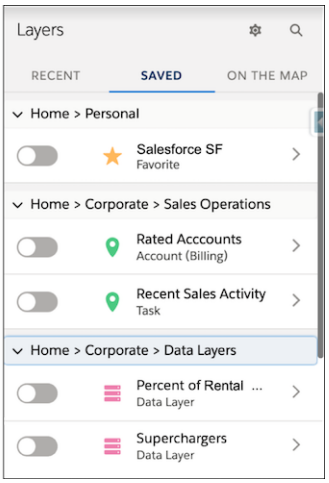
対象ユーザ: Salesforce Maps Mobile は、Salesforce Maps ライセンスを持つユーザが使用できます。システム管理者は、権限グループのユーザのモバイルフォルダの表示を選択します。

方法: [Permission Groups (権限グループ)] > [Mobile Folder Display (モバイルフォルダ表示)] から、システム管理者はユーザがモバイルデバイスでレイヤおよびフォルダを操作する方法として3つのビューの中から選択できます。

- Flat alphabetically (アルファベット順)



- Flat organized by folder alphabetically (フォルダによる整理のアルファベット順)



- Folder hierarchy (フォルダ階層) (デフォルト)

Map の新しい図形レイヤ

新しいシェイプレイヤが Spring '20 以降に Salesforce Maps で使用できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: 営業担当は、新しい地理上の境界を使用して特定の領域をマッピングできます。

シェイプレイヤ	境界の種別
ベトナム	区
フィリピン	郵便番号
シンガポール	郵便番号
日本	郵便番号
インドネシア	郵便番号と市
インド	郵便番号
マレーシア	連邦直轄領、郵便番号、州

テリトリー計画: シナリオの比較、コラボレーション、共有と権限

テリトリーモデルの拡大または縮小の影響を考慮できます。チームメイトと協力してテリトリー計画を練ることができます。また、データセットと配置の共有とアクセスの制御をすべて Salesforce Maps で行うことができます。

このセクションの内容:

テリトリーモデルの変更の比較とシナリオプランニングを使用した配置の作成

テリトリーモデルのサイズを拡大または縮小するか、属性の対象を変更する影響を表示するシナリオをすばやく視覚化できます。各シナリオを現在の配置と比較し、選択したシナリオから最適化された配置を作成できます。

テリトリー計画および配置でのコラボレーション

チームと協力してテリトリー計画および配置を行った場合、地図上で直接コメントを追加したり同僚をメンションしたりできるようになりました。また、特定の領域にコメントを配置し、質問したりフィードバックを与えたりできます。

共有および権限の制御

Salesforce Maps またはエンタープライズテリトリー管理に公開する前に、データセットや配置でコラボレーションを行うように関係者を招待できます。アクセス権が不要なチームおよびチームメイトのデータセットおよび配置へのアクセスを制限する場合、最小権限の法則を適用できます。

配置に対する更新の承認の要求

特定のユーザが Salesforce Maps での配置に対する変更を承認できるように権限を付与できます。チームメイトが更新済みの配置を公開しようとしたときに通知を受信し、未承認の変更が Salesforce に表示されるのを防止できます。

データセット作成の労力軽減

Salesforce Maps でデータセットを作成するときにカスタムレポートタイプを扱う必要はありません。代わりに、標準 Salesforce レポートからデータセットを作成します。

大きなデータセット作成の制限の緩和

一度にインポートできるレコードが増えました。Salesforce レポートを使用して一度に 50,000 件のレポートをインポートする代わりに、SOQL クエリを使用して一度に 250,000 件ものレコードをインポートできるようになりました。SOQL クエリと標準レポートは単一のデータセットで使用でき、インポート中のレコードの件数を確認できるようになりました。

任意のタイミングでのデータセットおよび補足配置への属性のインポート

カンマ区切り値 (CSV) ファイルを使用して Salesforce 外部からユニット属性データをデータセットにインポートできます。属性は、データセットの作成時、またはデータセットまたは配置を編集することでインポートできます。

拡張された公開オプションの使用

重要なオプションをより厳密に制御してエンタープライズテリトリー管理または Salesforce Maps に配置を公開できます。たとえば、配置全体を公開する代わりに、現在のフォーカスなど、公開する内容を選択できるようになりました。レイヤおよびルールを上書きしてストレージを節約し、重複を削減できます。複数の Salesforce ユーザをテリトリーに割り当て、選択したテリトリーを担当するユーザを確認できます。

地図およびその凡例の PDF への公開 (正式リリース)

配置の指定されたレイヤ、各テリトリー、または現在のフォーカスの PDF ファイルを作成できます。

テリトリーモデルの変更の比較とシナリオプランニングを使用した配置の作成

テリトリーモデルのサイズを拡大または縮小するか、属性の対象を変更する影響を表示するシナリオをすばやく視覚化できます。各シナリオを現在の配置と比較し、選択したシナリオから最適化された配置を作成できます。

対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

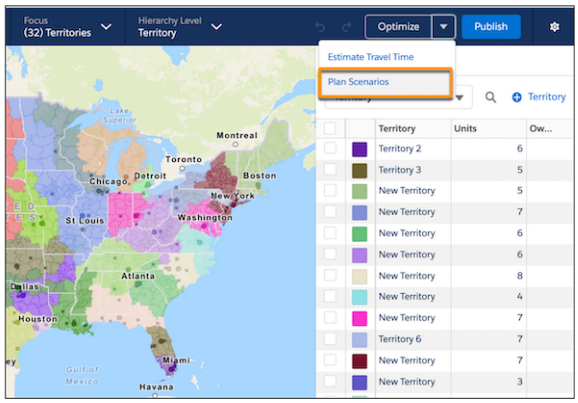
対象ユーザ: テリトリー計画は Salesforce Maps ライセンスとテリトリー計画ライセンス、および Salesforce Maps 管理者または Salesforce Maps テリトリー計画権限セットを持つユーザーが利用できます。

理由: ユーザはテリトリーを変更するときに情報に基づいて意思決定を行いたいと考えています。シナリオプランニングにより、ユーザは配置を予測してたとえば次のことを決定できます。

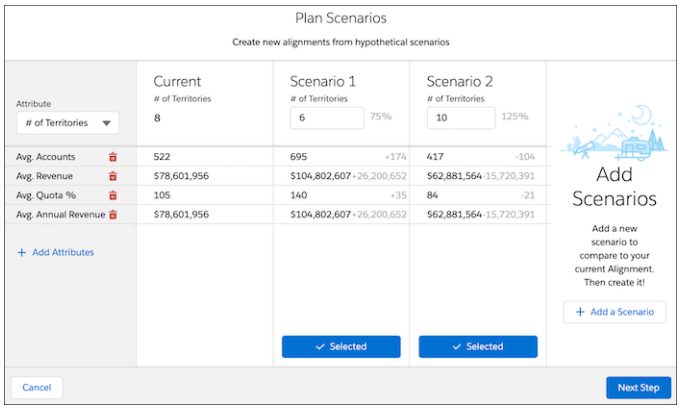
- フィールドチームのサイズの増大または縮小のパーセンテージに基づいて新しいテリトリーが達成可能かどうか。
- テリトリーごとに特定の金額の管理収益を達成するために必要なテリトリーの数。
- ビジネスニーズを満たす成長戦略およびフィールド戦略。

方法:

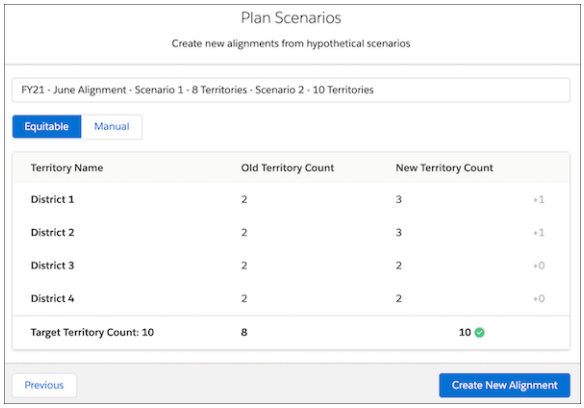
1. テリトリー計画で、**[Optimize (最適化)]** をクリックして **[Plan Scenarios (プランシナリオ)]** を選択します。



2. シナリオを追加し、調整する属性を選択して、値を入力します。シナリオプランニングによって他の属性の値が計算されます。次に、特定のシナリオに基づいて配置を作成するかどうかを決定します。シナリオを選択して、[Next Step (次のステップ)] をクリックします。



3. シナリオプランニングにテリトリーの均等な配分を任せるか、自分自身で調整します。



4. 配置を作成します。

テリトリー計画および配置でのコラボレーション

チームと協力してテリトリー計画および配置を行った場合、地図上で直接コメントを追加したり同僚をメンションしたりできるようになりました。また、特定の領域にコメントを配置し、質問したりフィードバックを与えたりできます。

対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

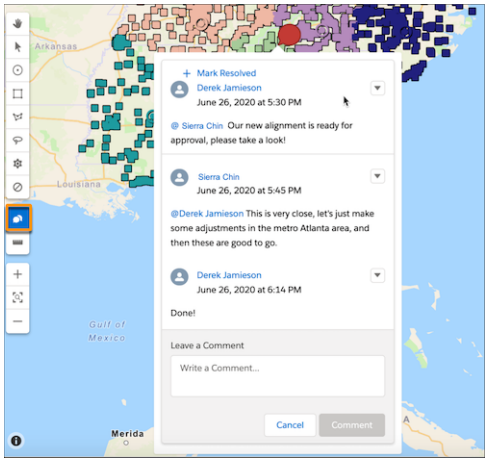
対象ユーザ: テリトリー計画は Salesforce Maps ライセンスとテリトリー計画ライセンス、および Salesforce Maps 管理者または Salesforce Maps テリトリー計画権限セットを持つユーザーが利用できます。

理由: 営業担当がテリトリー計画でコラボレーションすれば、次のことができます。

- テリトリー計画を終了することなくプランまたは配置について複数の寄稿者と会話する。
- 地図上でコメントを表示するタイミングと非表示にするタイミングを制御する。
- 参照のみユーザであってもフィードバックを提供する。
- [Comments (コメント)] タブまたは Chatter フィードで地図上のコメントを操作する。
- 他のユーザからのコメントに直接返信したり、コメントのスレッドを解決済みとマークしたり、完了したときに非表示にしたりする。

方法:

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*フィード追跡*」と入力し、[フィード追跡] を選択します。次のフィード追跡を有効にします。
   - **Territory Planning Alignment (テリトリー計画の配置)**
   - **Territory Planning Data Set (テリトリー計画のデータセット)**
2. [Territory Planning (テリトリー計画)] で、 をクリックして地図上にコメントを追加します。



共有および権限の制御

Salesforce Maps またはエンタープライズテリトリー管理に公開する前に、データセットや配置でコラボレーションを行うように関係者を招待できます。アクセス権が不要なチームおよびチームメイトのデータセットおよび配置へのアクセスを制限する場合、最小権限の法則を適用できます。

対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: テリトリー計画は Salesforce Maps ライセンスとテリトリー計画ライセンス、および Salesforce Maps 管理者または Salesforce Maps テリトリー計画権限セットを持つユーザーが利用できます。

理由: データセットおよび配置を表示して変更できるユーザを共有して制御するために、その作成者は次のことができるようになりました。

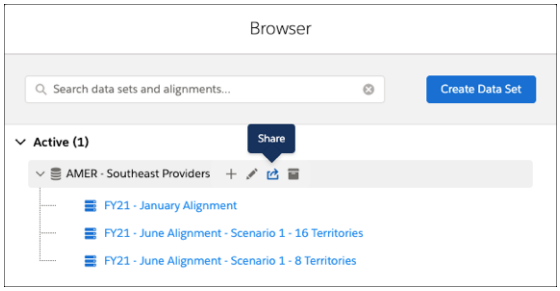
- 公開する前に他のユーザを招待してフィードバックを収集する。
- データセットおよび配置をまとめて非表示にする。
- 他のユーザのアクセスを制限する。作成者がデータセットに適用したアクセス権は、その配置にも適用されます。
- 所有権を譲渡する。新たな所有者は作成者のアクセス権を制限できることに注意してください。

すでにデータセットおよび配置を作成しているかどうかに応じて、目的のアクセス権を付与または制限するために必要な内容を確認してください。

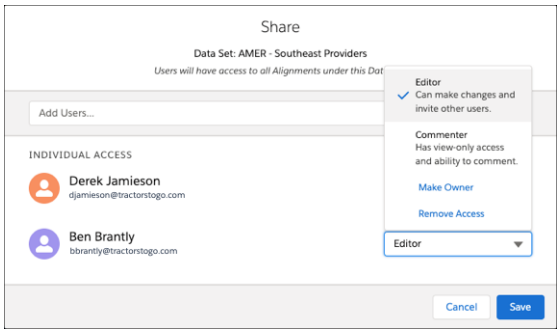
データセットおよび配置を作成した時期	他のテリトリー計画ユーザについて知っておくべきこと
Summer '20 より前	アクセスして編集できます。そのため、データセットおよび配置へのアクセス権を制限するには、共有可能リンクを無効にします。アクセス権を付与するすべてのユーザを権限の制御に追加します。
Summer '20 以後	アクセスできません。そのため、データセットおよび配置へのアクセス権を付与するには、これらのユーザを権限の制御に追加します。

方法: フィードバックを収集してアクセス権を制限するために他のユーザを招待するのは簡単です。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*フィード追跡*」と入力し、[フィード追跡] を選択します。次のフィード追跡を有効にします。
   - **Territory Planning Alignment** (テリトリー計画の配置)
   - **Territory Planning Data Set** (テリトリー計画のデータセット)
2. テリトリー計画で、データセットまたは配置までスクロールして、[共有]にマウスポインタを置いてクリックします。



3. ユーザを追加または選択し、付与するアクセス権を選択します。



配置に対する更新の承認の要求

特定のユーザが Salesforce Maps での配置に対する変更を承認できるように権限を付与できます。チームメイトが更新済みの配置を公開しようとしたときに通知を受信し、未承認の変更が Salesforce に表示されるのを防止できます。

対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: テリトリー計画は Salesforce Maps ライセンスとテリトリー計画ライセンス、および Salesforce Maps 管理者または Salesforce Maps テリトリー計画権限セットを持つユーザーが利用できます。

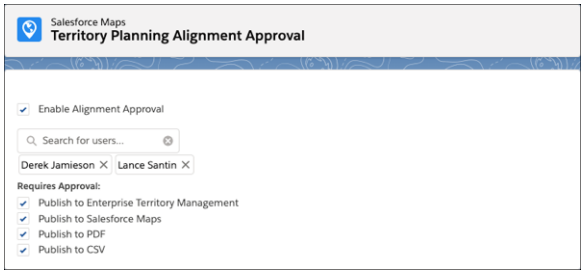
理由: 配置の詳細が誤って失われるのを防止するために、システム管理者は次のことを行えるようになりました。

- 配置に対する変更を承認するよう特定のチームメイトを割り当てる。
- 配置を公開する前に承認を要求することを他のユーザに要求する。
- ユーザが承認保留中の配置にコメントを追加できるようにして、それ以外の変更はできないようにする。
- 変更を承認できるチームメイトに保留中の承認要求について伝えるプロセスを設定する。
- 変更を承認できるユーザにフィードバックの提供、要求の許可、要求の却下を行う権限を付与する。
- 誰かが配置を公開しようとしたときに事前の通知を受信する。その後、更新が Salesforce に表示されるのを防止し、これらの配置のスナップショットを保存することができます。

方法: 承認を要求して更新済みの配置に関するフィードバックを収集するのは簡単です。

1. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*フィード追跡*」と入力し、[フィード追跡] を選択します。次のフィード追跡を有効にします。
   - **Territory Planning Alignment** (テリトリー計画の配置)
   - **Territory Planning Data Set** (テリトリー計画のデータセット)
2. [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*インストール済みパッケージ*」と入力し、[インストール済みパッケージ] を選択します。
3. Salesforce Maps パッケージの横にある [設定] をクリックします。
4. [Territory Planning (テリトリー計画)] で **[Alignment Approval (配置の承認)]** をクリックし、**[Enable Alignment Approval (配置の承認を有効化)]** をクリックします。

5. 配置に対する変更を承認する権限を付与するユーザを追加するには、名前を入力してから選択します。他に権限を付与するユーザがいれば、この手順を繰り返します。



6. 前のステップで追加したユーザから商品が必要なオプションを選択します。

データセット作成の労力軽減

Salesforce Maps でデータセットを作成するときにカスタムレポートタイプを扱う必要はありません。代わりに、標準 Salesforce レポートからデータセットを作成します。

対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

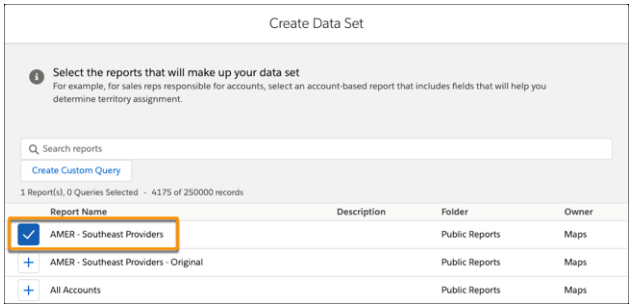
対象ユーザ: テリトリー計画は Salesforce Maps ライセンスとテリトリー計画ライセンス、および Salesforce Maps 管理者または Salesforce Maps テリトリー計画権限セットを持つユーザーが利用できます。

理由: データセットを作成するプロセスを簡略化するために、標準 Salesforce レポートをインポートできるようになりました。

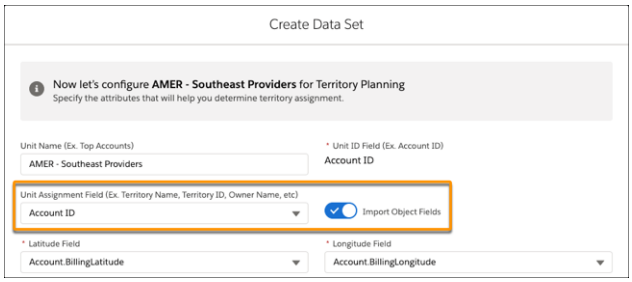
- レポートでのレコード ID 列の配置は関係ありません。
- ユーザ ID またはユーザ名、または他の項目が含まれます。
- 標準住所、または緯度と経度が含まれます。

方法: 標準レポートを使用してデータセットを作成するプロセスはカスタムレポートタイプを使用したプロセスに似ていますが、次のような小さな違いがあります。

1. テリトリー計画で、データセットを作成します。次に、標準 Salesforce レポートを選択します。



2. **[Import Object Fields (オブジェクト項目をインポート)]** を有効にして、取引先 ID などのユニット割り当て項目を選択します。



大きなデータセット作成の制限の緩和

一度にインポートできるレコードが増えました。Salesforce レポートを使用して一度に 50,000 件のレポートをインポートする代わりに、SOQL クエリを使用して一度に 250,000 件ものレコードをインポートできるようになりました。SOQL クエリと標準レポートは単一のデータセットで使用でき、インポート中のレコードの件数を確認できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: テリトリー計画は Salesforce Maps ライセンスとテリトリー計画ライセンス、および Salesforce Maps 管理者または Salesforce Maps テリトリー計画権限セットを持つユーザーが利用できます。

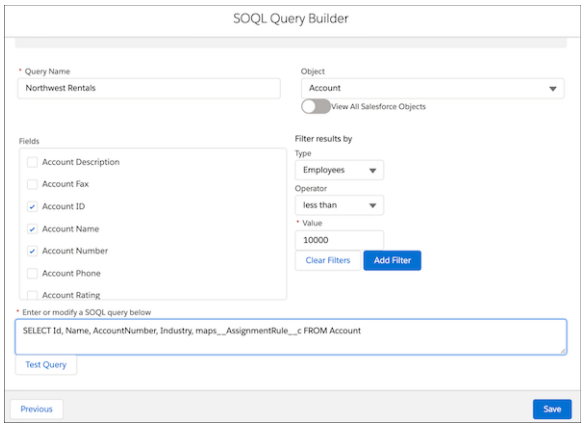
理由: SOQL クエリを追加することで、次の理由により、データセットをより簡単に計画して作成できるようになります。

- 表示可能なレコード数の制限により、会社の規模と複雑さに最適な方法を選択できる。
- 一度にインポートできるレコードが増えたことで、会社のより大きなセグメントを考慮できる。
- SOQL クエリを直接入力するか、ウィザードを使用することで、さまざまな経験のユーザが SOQL オプションを使用できる。

方法: データセットの作成中に SOQL クエリを入力します。

1. テリトリー計画で、**[Data Set (データセット)]** > **[Create Data Set (データセットの作成)]** をクリックし、**[Create Custom Query (カスタムクエリの作成)]** をクリックします。

2. 追加または変更する項目を選択するか、クエリを直接入力します。



3. クエリをテストして保存します。

任意のタイミングでのデータセットおよび補足配置への属性のインポート

カンマ区切り値 (CSV) ファイルを使用して Salesforce 外部からユニット属性データをデータセットにインポートできます。属性は、データセットの作成時、またはデータセットまたは配置を編集することでインポートできます。

対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

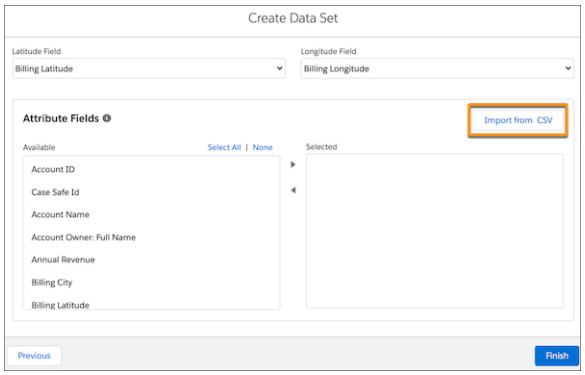
対象ユーザ: テリトリー計画は Salesforce Maps ライセンスとテリトリー計画ライセンス、および Salesforce Maps 管理者または Salesforce Maps テリトリー計画権限セットを持つユーザーが利用できます。

理由: データセットの作成中および作成後に統合業務ソフト (ERP) や販売時点管理 (POS) システムなどの他のシステムからデータを取り込むことで、次のことができるようになります。

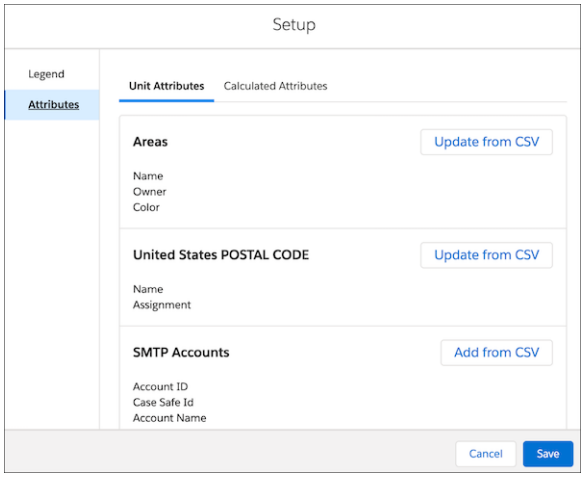
- テリトリー計画内の Salesforce レコードを補完する。
- 関連データを Salesforce 外部に保存することでストレージを節約する。
- 特定のデータを非公開に保つ。

方法: 次のいずれかの方法で、CSV ファイルから属性をインポートします。

- データセットの作成中または編集中に、**[Import from CSV (CSV からインポート)]** をクリックする。



- 配置を更新するには、[Settings (設定)] > [Attributes (属性)] に移動してから、[Update from CSV (CSV から更新)] または [Add from CSV (CSV から追加)] をクリックする。



拡張された公開オプションの使用

重要なオプションをより厳密に制御してエンタープライズテリトリー管理または Salesforce Maps に配置を公開できます。たとえば、配置全体を公開する代わりに、現在のフォーカスなど、公開する内容を選択できるようになりました。レイヤおよびルールを上書きしてストレージを節約し、重複を削減できます。複数の Salesforce ユーザをテリトリーに割り当て、選択したテリトリーを担当するユーザを確認できます。

対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: テリトリー計画は Salesforce Maps ライセンスとテリトリー計画ライセンス、および Salesforce Maps 管理者または Salesforce Maps テリトリー計画権限セットを持つユーザーが利用できます。

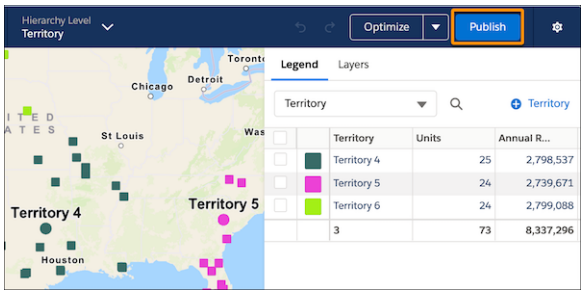
理由:

公開先	オプション	役に立つ理由
エンタープライズテリトリー管理	• エンタープライズテリトリー管理内のブランチおよび子ブランチに公開および上書きする。 • 割り当てルール項目および演算子を選択する。 • 複数のユーザを 1 つのテリトリーに公開する。	エンタープライズテリトリー管理により、チームは次のことを行うことができます。 • 変化する市場のニーズに対応できるように、たとえば個別のテリトリーや個別のユーザなど、テリトリーモデルの特定の部分を更新する。 • 大きなテリトリーを更新するときに新規および更新済みの取引先の割り当てルールを使用する。 • Salesforce の項目および演算子を割り当てルールの基礎にする。

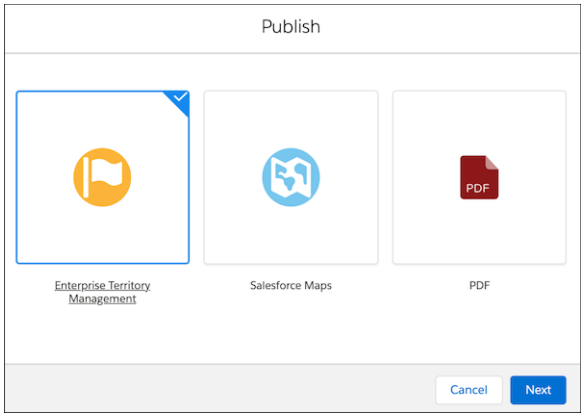
公開先	オプション	役に立つ理由
Salesforce Maps	• Salesforce Maps 内のフォルダおよびシェイプレイヤに公開および上書きする。	Salesforce Maps により、チームは次のことができます。 • 変化する市場のニーズに対応するために、たとえば個別のテリトリーや個別のユーザなど、テリトリーモデルの特定の部分を更新する。 • シェイプレイヤをすばやく簡単に見つける。 • 大きなテリトリーを更新するときに新規および更新済みの取引先の自動割り当てを使用する。 • テリトリーを個別に管理できるように、Salesforce Maps の各営業担当のフォルダ内でシェイプレイヤを公開する。

方法: 公開をより厳密に管理するのは簡単です。公開プロセス中にオプションを選択します。

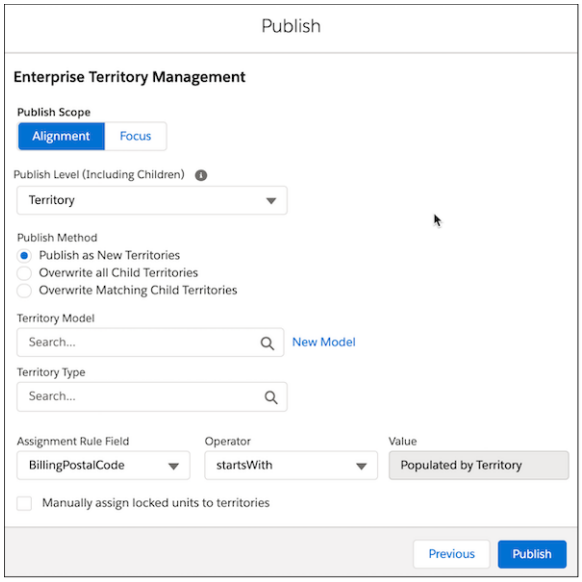
1. 地図から公開オプションにアクセスするには、[Publish (公開)] をクリックします。



2. 公開する場所を選択し、[Next (次へ)] をクリックします。



3. 公開オプションを選択し、**[Publish (公開)]** をクリックします。



地図およびその凡例の PDF への公開 (正式リリース)

配置の指定されたレイヤ、各テリトリー、または現在のフォーカスの PDF ファイルを作成できます。

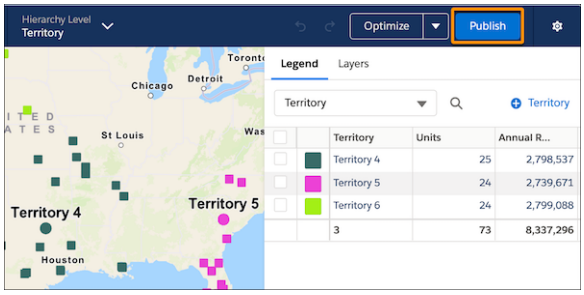
対象: この変更は、Salesforce Maps Unified Package がインストールされた Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: テリトリー計画は Salesforce Maps ライセンスとテリトリー計画ライセンス、および Salesforce Maps 管理者または Salesforce Maps テリトリー計画権限セットを持つユーザーが利用できます。

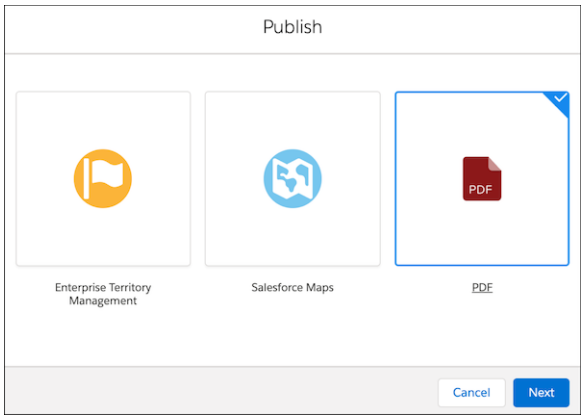
理由: テリトリー配置を操作して関係者のフィードバックを得るのが簡単になりました。

方法:

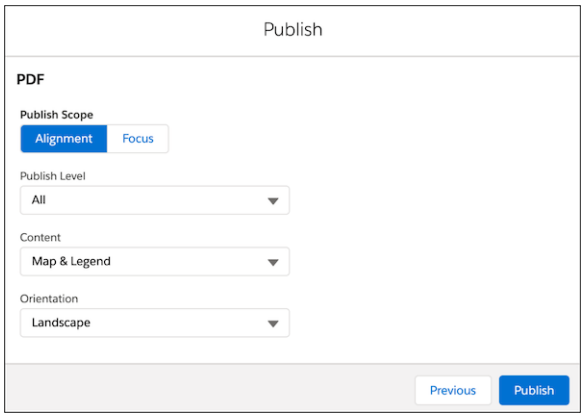
1. 地図で、**[Publish (公開)]** をクリックします。



2. **[PDF]** を選択します。



3. PDF を作成してダウンロードするには、公開オプションを選択して **[Publish (公開)]** をクリックします。



Advanced: 設定環境の再設計

簡略化され、より直感的になった Salesforce Maps Advanced**の設定環境で作業できます。プロセスが合理化され、新たなサンプル値が事前入力されているため、重要な機能を短時間でチームに配信できます。**

対象:この変更は、Salesforce Maps Unified Package**がインストールされた**Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **および** Salesforce Classic **に適用されます。**

対象ユーザ: Salesforce Maps Advanced **管理者は、再設計された設定環境を利用できます。**

理由: Salesforce Maps Advanced **の再設計されたインターフェースを使用して、次のことを実行できます。**

- **従来の設定環境から簡単に移行する。**
- **新しいデータセット内で場所と必要な訪問を定義する。**
- **訪問完了の内容を指定し、訪問時間の範囲を設定して、予定を担当者のカレンダーに表示する。**
- **ドラッグ機能を使用してデータセットに優先順位を付ける。**
- **訪問プランを効率的に管理し、プロファイルおよびユーザを割り当てる。**
- **複数のチームの設定をより効率的に管理する。**

Sales Cloud Einstein: 商談スコアリングに含まれる一貫した表示ラベルおよび項目レベルのセキュリティ、リードおよび商談のスコアリングモデルの改善、新しい取引先インサイト

スコアが表示されるすべての場所で、[商談スコア]が項目名になります。項目レベルのセキュリティによって営業担当に表示されるスコアリング要素が制御されます。Einstein 商談スコアリングモデルに商品、見積、価格表が含まれるようになりました。Einstein リードスコアリングモデルにリードの活動データが含まれるようになりました。また、Einstein 取引先インサイトにより、会社がコストを削減できる場合を営業担当が把握できます。

ALBERT EINSTEIN の権利は、ヘブライ大学の許可を受けた上で使用しています。Greenlight が排他的に代理人を務めています。

このセクションの内容:

商談スコアの一貫した項目の表示ラベル
スコア項目がすべての場所で [商談スコア] と呼ばれるようになりました。以前は、この項目は一部の場所では [スコア] と呼ばれ、別の場所では [商談スコア] と呼ばれていました。

アクセス権のあるスコアリング要素のみの表示
営業担当に商談スコアと共に表示される寄与要素が営業担当の項目アクセス権に依存するようになりました。たとえば、金額項目へのアクセス権がない営業担当に、金額に基づく要素は表示されなくなります。

商品、見積、価格表に基づく商談スコアの取得
商談スコアリングモデルを作成するときに、Einstein では商品オブジェクト、見積オブジェクト、価格表オブジェクトを確認するようになりました。たとえば、未処理または期限切れの見積、または特定の商品または価格表がスコアに与える影響を確認します。より堅牢なモデルにより、より多くの詳細な要素を含めてより正確なスコアを取得できます。

リードスコアに反映される活動データ
スコアリングモデルを構築し、リードスコアを計算するときに、Einstein リードスコアリングにリードの活動データが含まれるようになりました。データが多いほど、スコアが向上します。

会社が経費削減していることの確認
チームが顧客に関する主要なビジネス開発を常に認識できるように、Einstein 取引先インサイトにより、会社がコストを削減できる場合を営業担当が把握できます。他の取引先インサイトと同じように、コスト削減インサイトには信頼できる英語ニュース提供元の記事が表示されます。

関連トピック:

キャンペーンレコードでの AI で強化された属性データの取得

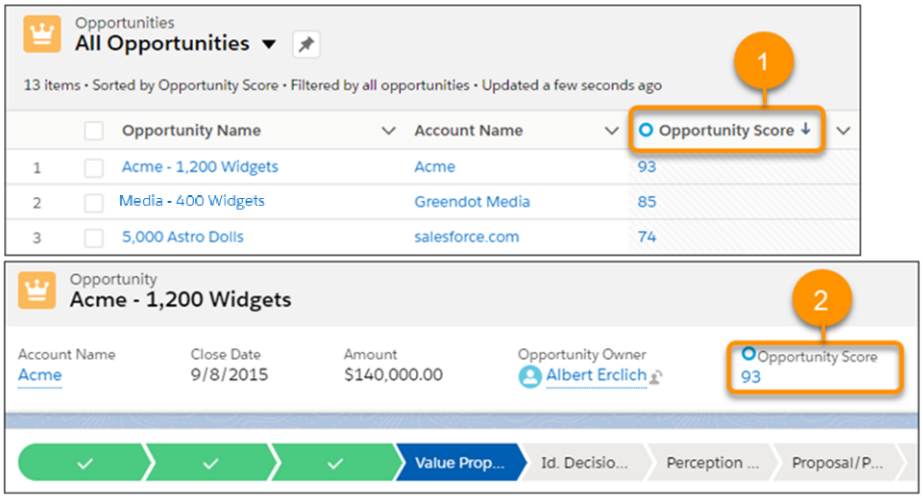
商談スコアの一貫した項目の表示ラベル

スコア項目がすべての場所で [商談スコア] と呼ばれるようになりました。以前は、この項目は一部の場所では [スコア] と呼ばれ、別の場所では [商談スコア] と呼ばれていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Einstein 商談スコアリングは、Sales Cloud Einstein ライセンスを持つユーザも持たないユーザも使用できます。Sales Cloud Einstein ライセンスがない場合の Einstein 商談スコアリングの要件について質問がある場合は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

理由: 商談リストビュー (1) や商談レコード (2) など、商談スコアが表示されるあらゆる場所で、項目の表示ラベルは常に［商談スコア］になります。



関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Search の結果の改善、Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、Einstein Discovery のアルゴリズムとデータの増加による予測の改善

アクセス権のあるスコアリング要素のみの表示

営業担当に商談スコアと共に表示される寄与要素が営業担当の項目アクセス権に依存するようになりました。たとえば、金額項目へのアクセス権がない営業担当に、金額に基づく要素は表示されなくなります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Einstein 商談スコアリングは、Sales Cloud Einstein ライセンスを持つユーザも持たないユーザも使用できます。Sales Cloud Einstein ライセンスがない場合の Einstein 商談スコアリングの要件について質問がある場合は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

理由: 項目レベルのセキュリティを設定して項目へのユーザのアクセス権を制限する場合、その項目レベルのセキュリティ設定がスコアに反映されることが重要です。スコアリング要素に項目値は表示されないため、ユーザにアクセス権のない項目の値が表示されるリスクはありません。

関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Search の結果の改善、Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、Einstein Discovery のアルゴリズムとデータの増加による予測の改善

商品、見積、価格表に基づく商談スコアの取得

商談スコアリングモデルを作成するときに、Einstein では商品オブジェクト、見積オブジェクト、価格表オブジェクトを確認するようになりました。たとえば、未処理または期限切れの見積、または特定の商品または価格表がスコアに与える影響を確認します。より堅牢なモデルにより、より多くの詳細な要素を含めてより正確なスコアを取得できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: スコアコンポーネントに表示される主要な要素は 2020 年 6 月 1 日以降に使用できます。レポートで、または API 経由でスコアリングモデルを作成するために使用されるモデルの要素は、Summer '20 リリースで使用可能になります。

対象ユーザ: Einstein 商談スコアリングは、Sales Cloud Einstein ライセンスを持つユーザも持たないユーザも使用できます。Sales Cloud Einstein ライセンスがない場合の Einstein 商談スコアリングの要件について質問がある場合は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Search の結果の改善、Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、Einstein Discovery のアルゴリズムとデータの増加による予測の改善

リードスコアに反映される活動データ

スコアリングモデルを構築し、リードスコアを計算するときに、Einstein リードスコアリングにリードの活動データが含まれるようになりました。データが多いほど、スコアが向上します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Search の結果の改善、Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、Einstein Discovery のアルゴリズムとデータの増加による予測の改善

会社が経費削減していることの確認

チームが顧客に関する主要なビジネス開発を常に認識できるように、Einstein取引先インサイトにより、会社がコストを削減できる場合を営業担当が把握できます。他の取引先インサイトと同じように、コスト削減インサイトには信頼できる英語ニュース提供元の記事が表示されます。

対象: この変更は Lightning Experience での Sales Cloud Einstein に適用されます。Sales Cloud Einstein は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で有料オプションとして使用できます。

時期: この機能強化は、2020 年 6 月 1 日以降に使用できます。

関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Search の結果の改善、Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、Einstein Discovery のアルゴリズムとデータの増加による予測の改善

中核的なセールス機能: 商談、注文、およびエンタープライズテリトリー管理の機能強化

より多くのカスタム分割種別を作成します。B2B Commerce ライセンスでは、Salesforce で注文を使用して、外部プラットフォームで商品と価格表を管理できます。テリトリーを使用して商談へのアクセスをより詳細に制御します。

このセクションの内容:

商談: より多くの分割、アラートの設定、更新された表示ラベル
より多くのカスタム分割種別を作成し、Lightning Experience を使用して商談の自動メール通知を設定します。UI での商談スコアリングの表示ラベルがより明確になりました。

注文: 価格表のない注文の有効化と新しい注文品目の入力規則
価格表を必要としない注文を有効化して、注文品目を作成するための新しい入力規則を確認します。

エンタープライズテリトリー管理: レコードアクセスとオブジェクトの表示ラベルに関するより多くのオプション
テリトリーの子テリトリーに割り当てられた商談へのユーザのアクセスレベルを選択します。テリトリーオブジェクトの表示ラベルをユーザインターフェースに表示する方法をカスタマイズします。

中核的なセールス機能のその他の変更
1つのレポートで商品と価格設定を追跡します。取引先レポートおよび活動レポートのテリトリー関連の表示ラベルが改善されました。また、大規模商談アラートの [設定] ページの一部の表示ラベルも改善されました。カスタマイザブル売上予測は廃止されました。また、元のテリトリー管理機能は Summer '21 で廃止される予定です。

商談: より多くの分割、アラートの設定、更新された表示ラベル

より多くのカスタム分割種別を作成し、Lightning Experience を使用して商談の自動メール通知を設定します。UI での商談スコアリングの表示ラベルがより明確になりました。

このセクションの内容:

商談分割の効果を高めるための分割制限の引き上げ
営業担当の目標を反映させるにはより詳細な分割を作成します。最大 6 個のカスタム商談分割に加えて、デフォルトの収益分割およびオーバーレイ分割を使用できるようになりました。以前は、3個のカスタム分割が上限でした。

Lightning Experience での大規模商談のアラートの設定
Lightning Experience を使用して、金額および確度のしきい値に達した商談の自動メール通知を設定できます。以前は、大規模商談アラートを設定するには Salesforce Classic に切り替える必要がありました。

商談スコアの一貫した項目の表示ラベル
スコア項目の名前が一貫して [商談スコア] と呼ばれるようになり、スコアをより容易に確認できるようになりました。以前は、この項目は一部の場所では [スコア] と呼ばれ、別の場所では [商談スコア] と呼ばれていました。

商談分割の効果を高めるための分割制限の引き上げ

営業担当の目標を反映させるにはより詳細な分割を作成します。最大 6 個のカスタム商談分割に加えて、デフォルトの収益分割およびオーバーレイ分割を使用できるようになりました。以前は、3 個のカスタム分割が上限でした。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

IdeaExchange: Expand the Number of Oppty Splits Available (使用可能な商談の分割数の拡張)

Lightning Experience での大規模商談のアラートの設定

Lightning Experience を使用して、金額および確度のしきい値に達した商談の自動メール通知を設定できます。以前は、大規模商談アラートを設定するには Salesforce Classic に切り替える必要がありました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] で、[クイック検索] を使用して「大規模商談アラート」を検索します。[送信者のメールアドレス] 項目に自分の Salesforce メールアドレスまたは検証済みの組織の共有メールを入力します。アラートを設定するには、「すべてのデータの参照」権限が必要です。

商談スコアの一貫した項目の表示ラベル

スコア項目の名前が一貫して [商談スコア] と呼ばれるようになり、スコアをより容易に確認できるようになりました。以前は、この項目は一部の場所では [スコア] と呼ばれ、別の場所では [商談スコア] と呼ばれていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: Einstein 商談スコアリングは、Sales Cloud Einstein ライセンスを持つユーザも持たないユーザも使用できます。Sales Cloud Einstein ライセンスがない場合の Einstein 商談スコアリングの要件について質問がある場合は、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

関連トピック:

Sales Cloud Einstein: 商談スコアリングに含まれる一貫した表示ラベルおよび項目レベルのセキュリティ、リードおよび商談のスコアリングモデルの改善、新しい取引先インサイト

注文: 価格表のない注文の有効化と新しい注文品目の入力規則

価格表を必要としない注文を有効化して、注文品目を作成するための新しい入力規則を確認します。

このセクションの内容:

注文品目の作成での新しい入力規則
注文項目を作成するための新しい入力規則がいくつか導入されました。以前は、ユーザまたはプロセスによって項目の特定のペアが誤って設定された場合に、Salesforce によってメッセージが表示されることなくエラーが識別され、一致する値が更新されていました。今回の更新で、不正な設定を入力したときに、Salesforce によって入力規則メッセージが表示され、自分で正しい項目値を入力できるようになりました。

価格表のない注文の有効化
Salesforce は、Salesforce で注文を使用し、外部プラットフォームで商品と価格表を管理する組織をサポートするようになりました。価格表のない注文を有効にした場合、開発者は [価格表] 項目の値を必要としない注文と、その [価格表エントリ] 項目の値を必要としない注文を作成できます。

注文品目の作成での新しい入力規則

注文項目を作成するための新しい入力規則がいくつか導入されました。以前は、ユーザまたはプロセスによって項目の特定のペアが誤って設定された場合に、Salesforceによってメッセージが表示されることなくエラーが識別され、一致する値が更新されていました。今回の更新で、不正な設定を入力したときに、Salesforceによって入力規則メッセージが表示され、自分で正しい項目値を入力できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由:

方法: ユーザまたはプロセスによって注文が作成されると、Salesforce では次の設定が必要になります。

- 注文項目の価格表エントリと注文には同じ価格表が必要です。
- 注文項目の価格表エントリと注文には同じ CurrencyIsoCode が必要です。
- 注文項目とその商品には同じ価格表エントリが必要です。
- 省略可能な価格表機能が有効になっている場合、注文項目のリスト価格は価格表エントリのリスト価格に一致する必要があります。注文項目のリスト価格がnullの場合、Salesforceによって注文項目の価格表エントリのリスト価格が入力されます。

たとえば、価格表エントリ A の商品 A と価格表エントリ B の商品 B があるとします。商品 A を注文したが、誤って価格表エントリ B を新しい注文項目に割り当て、保存しようとしました。以前は、Salesforce によって通知なしで価格表エントリ A を使用するように注文項目が変更されていました。今回の更新で、Salesforce によって入力規則エラーメッセージが表示され、注文項目とその商品で同じ価格表エントリを使用する必要があることが通知されるようになりました。注文項目を更新して、もう一度保存を試みることができます。

価格表のない注文の有効化

Salesforce は、Salesforce で注文を使用し、外部プラットフォームで商品と価格表を管理する組織をサポートするようになりました。価格表のない注文を有効にした場合、開発者は [価格表] 項目の値を必要としない注文と、その [価格表エントリ] 項目の値を必要としない注文を作成できます。

対象: この変更は Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、次のいずれかの B2B ライセンスを持つユーザが使用できます。

- B2B Commerce
- B2B Commerce Starter

- B2B Commerce Growth
- B2B Commerce Plus

理由: 以前は、注文商品を注文に最初に追加するときに、営業担当は検証により価格表を定義するように要求されました。組織が商品と価格表を外部プラットフォームで管理していた場合、この検証によって組織は Salesforce の注文機能を使用できませんでした。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*注文の設定*」と入力し、[注文の設定] を選択します。省略可能な価格表設定を選択して、変更を保存します。

エンタープライズテリトリー管理: レコードアクセスとオブジェクトの表示ラベルに関するより多くのオプション

テリトリーの子テリトリーに割り当てられた商談へのユーザのアクセスレベルを選択します。テリトリーオブジェクトの表示ラベルをユーザインターフェースに表示する方法をカスタマイズします。

このセクションの内容:

誰が何を参照できるかを詳細に制御
テリトリーの子テリトリーに割り当てられた商談へのユーザのアクセスレベルを選択できるようになりました。たとえば、参照と編集のためのアクセスレベルを設定したとします。これで、ユーザは自分のテリトリーの子テリトリーに割り当てられた商談を編集できます。以前は、参照アクセス権が付与されていました。

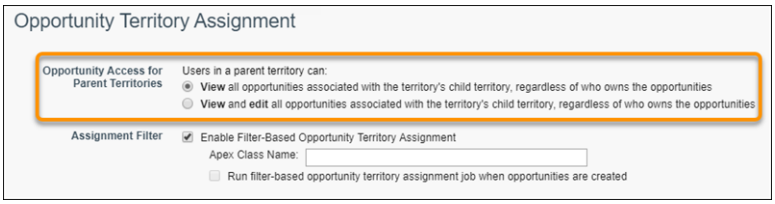
テリトリーオブジェクトの表示ラベルのカスタマイズ
会社の命名規則を反映するために、テリトリーオブジェクトのカスタム表示ラベルをユーザに表示できるようになりました。たとえば、会社で営業テリトリーを「地区」と呼んでいる場合、「テリトリー」という表示ラベルを「地区」に変更します。エンドユーザページの「テリトリー」のインスタンスがカスタム表示ラベルで置き換えられます。たとえば、取引先の [割り当て済みテリトリー] 関連リストは [割り当て済み地区] になります。

誰が何を参照できるかを詳細に制御

テリトリーの子テリトリーに割り当てられた商談へのユーザのアクセスレベルを選択できるようになりました。たとえば、参照と編集のためのアクセスレベルを設定したとします。これで、ユーザは自分のテリトリーの子テリトリーに割り当てられた商談を編集できます。以前は、参照アクセス権が付与されていました。

対象: これらの変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [テリトリーの設定] ページの [商談テリトリーの割り当て] で、親テリトリーの商談アクセスレベルを設定します。



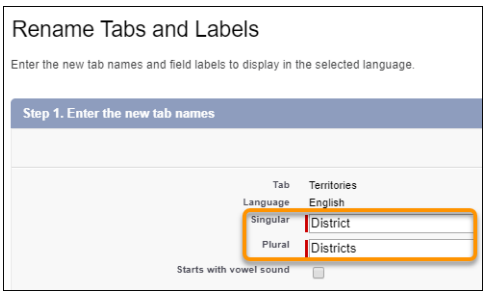
API アクセスの場合、Territory2Settings メタデータ API 種別の `t2ForecastAccessLevel` 項目を使用して商談アクセスレベルを設定することもできます。

テリトリーオブジェクトの表示ラベルのカスタマイズ

会社の命名規則を反映するために、テリトリーオブジェクトのカスタム表示ラベルをユーザに表示できるようになりました。たとえば、会社で営業テリトリーを「地区」と呼んでいる場合、「テリトリー」という表示ラベルを「地区」に変更します。エンドユーザページの「テリトリー」のインスタンスがカスタム表示ラベルで置き換えられます。たとえば、取引先の [割り当て済みテリトリー] 関連リストは [割り当て済み地区] になります。

対象: これらの変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [設定] の [タブと表示ラベルの名称変更] ページで、[テリトリー] タブの新しい名前を入力します。



関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:エンタープライズテリトリー管理の表示ラベルのカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- エンタープライズテリトリー管理の詳細の表示ラベルの改善

中核的なセールス機能のその他の変更

1 つのレポートで商品と価格設定を追跡します。取引先レポートおよび活動レポートのテリトリー関連の表示ラベルが改善されました。また、大規模商談アラートの [設定] ページの一部の表示ラベルも改善されました。カスタマイザブル売上予測は廃止されました。また、元のテリトリー管理機能は Summer '21 で廃止される予定です。

このセクションの内容:

- カスタム商品レポートタイプおよびカスタム価格設定レポートタイプを使用した価格設定管理の合理化
  価格表エントリに基づいてカスタムレポートタイプを作成します。ユーザが商品と価格設定に基づいてレポートを作成できるようになったため、価格設定の管理と更新がより容易かつ効率的になりました。カスタムレポートタイプを作成するときに、価格表エントリを主オブジェクトとして使用できます。商品を主オブジェクトとして使用しているカスタムレポートタイプでは、価格表エントリが第 2 オブジェクトとして追加されました。

エンタープライズテリトリー管理の詳細の表示ラベルの改善

テリトリーに関する情報を含める場合、新しい表示ラベルによって、標準の取引先レポートと活動レポートが使いやすくなります。この新しい表示ラベルは、テリトリーのオブジェクト管理項目設定と、[設定] のテリトリーの詳細ページにも表示されます。

大規模商談アラートの設定ページの表示ラベルの改善

大規模商談アラートの [設定] ページの一部の表示ラベルが更新されて使いやすくなりました。

カスタマイザブル売上予測の廃止

カスタマイザブル売上予測は廃止されました。ユーザはユーザインターフェースまたはAPIを使用してカスタマイザブル売上予測とその基盤となるデータにアクセスできません。コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

元のテリトリー管理の廃止

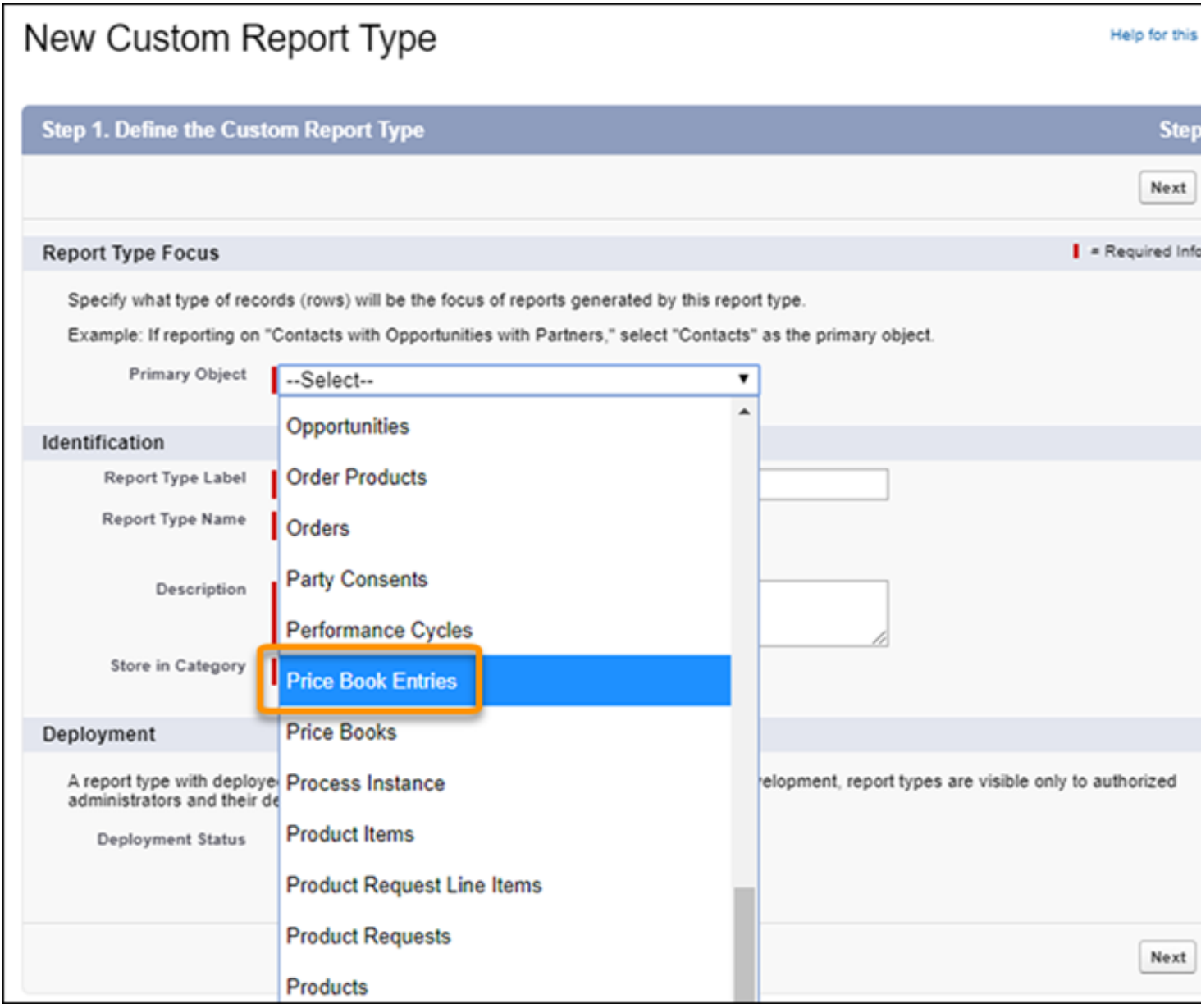
元のテリトリー管理機能はSummer'21で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザは元のテリトリー管理機能とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

カスタム商品レポートタイプおよびカスタム価格設定レポートタイプを使用した価格設定管理の合理化

価格表エントリに基づいてカスタムレポートタイプを作成します。ユーザが商品と価格設定に基づいてレポートを作成できるようになったため、価格設定の管理と更新がより容易かつ効率的になりました。カスタムレポートタイプを作成するときに、価格表エントリを主オブジェクトとして使用できます。商品を主オブジェクトとして使用しているカスタムレポートタイプでは、価格表エントリが第2オブジェクトとして追加されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

理由: 改善された商品レポートおよび価格設定レポートを取得できるだけでなく、価格表エントリに追加したカスタム項目の追跡とレポート作成ができます。



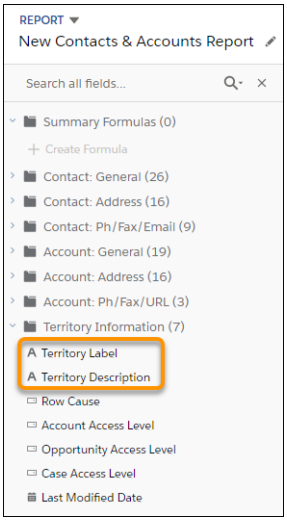
エンタープライズテリトリー管理の詳細の表示ラベルの改善

テリトリーに関する情報を含める場合、新しい表示ラベルによって、標準の取引先レポートと活動レポートが使いやすくなります。この新しい表示ラベルは、テリトリーのオブジェクト管理項目設定と、[設定]のテリトリーの詳細ページにも表示されます。

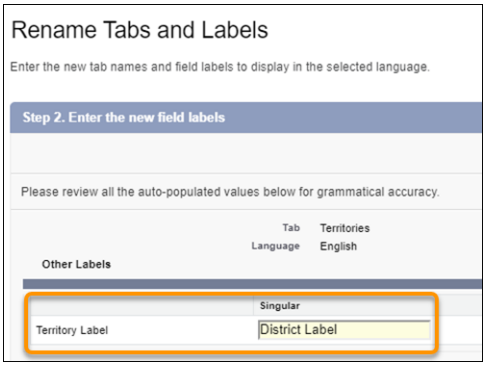
対象: これらの変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 標準の取引先レポートおよび活動レポートの場合、レポートビルダーと出力に以下が表示されるようになりました。

- [表示ラベル] ではなく [テリトリーの表示ラベル]。
- [説明] ではなく [テリトリーの説明]。



方法: [設定] の [タブと表示ラベルの名称変更] ページで、[テリトリーの表示ラベル] を任意のテキストに置き換えることができます。カスタム表示ラベルは、レポートビルダーと出力、およびテリトリーのオブジェクトマネージャ項目設定に表示されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:エンタープライズテリトリー管理の表示ラベルのカスタマイズ(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

テリトリーオブジェクトの表示ラベルのカスタマイズ

大規模商談アラートの設定ページの表示ラベルの改善

大規模商談アラートの [設定] ページの一部の表示ラベルが更新されて使いやすくなりました。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: アラートを容易に作成および更新できるように、次の表示ラベルが更新されました。

- 項目の表示ラベル [名前] が [アラート名] になりました。
- 項目の表示ラベル [差出人名] が [送信者の名前] になりました。
- 項目の表示ラベル [差出人メールアドレス] が [送信者のメールアドレス] になりました。
- 項目の表示ラベル [使用するページレイアウトと言語が設定されたユーザ] が [ユーザ] になりました。

- セクションヘッダー [アラートの設定] が [送信者] になりました。
- セクションヘッダーは番号付きではなくなりました。

カスタマイザブル売上予測の廃止

カスタマイザブル売上予測は廃止されました。ユーザはユーザインターフェースまたは API を使用してカスタマイザブル売上予測とその基盤となるデータにアクセスできません。コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic に適用されます。

方法: ドキュメントを確認し、手順に従ってコラボレーション売上予測を設定します。

元のテリトリー管理機能を使用している場合、エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。元のテリトリー管理機能は Summer '21 で廃止される予定であり、コラボレーション売上予測には使用できません。

関連トピック:

ナレッジ記事: カスタマイズ可能な売上予測を Summer '20 リリースで廃止
元のテリトリー管理の廃止

元のテリトリー管理の廃止

元のテリトリー管理機能は Summer '21 で廃止される予定です。この機能の廃止後、ユーザは元のテリトリー管理機能とその基盤となるデータにアクセスできなくなります。エンタープライズテリトリー管理に移行することをお勧めします。

対象: この変更は、Performance Edition および Developer Edition と、Sales Cloud が付属する Enterprise Edition および Unlimited Edition の Salesforce Classic に適用されます。

方法: エンタープライズテリトリー管理の設定に関するドキュメントを確認し、その手順に従います。元のテリトリー管理機能を使用している間に、すべてのテリトリーデータの包括的なバックアップをとることを強くお勧めします。

メモ: カスタマイザブル売上予測は廃止されました。元のテリトリー管理のユーザはカスタマイザブル売上予測とその基盤となるデータにアクセスできませんが、売上予測マネージャは商談およびテリトリーに付与されたアクセス権を保持します。カスタマイザブル売上予測を使用していた場合、コラボレーション売上予測に移行することをお勧めします。

関連トピック:

ナレッジ記事: 元のテリトリー管理モジュールを Summer '21 リリースで廃止
カスタマイザブル売上予測の廃止

生産性機能: メールスレッド、キューへの ToDo の割り当て、新しいメールインサイト、改善された Kanban ビュー

営業担当は販売時の効率を高めることができます。High Velocity Sales ユーザはスレッドメールを使用して会話全体を表示することができます。クイックアクションを使用すると、ToDo をキューに容易に割り当てることができます。[関心がない] メールインサイトを使用すると、営業担当は顧客がセールストークに関心がない場合に知ることができます。会社固有のヒントと専門知識を Kanban ビューに追加します。

このセクションの内容:

メール環境: メールスレッド、メール追跡の更新、EAI、DKIM 鍵の改善

営業担当は、High Velocity Sales のケイデンスステップカードでメールスレッドを使用できます。営業マネージャは、組織の他のメールを追跡せずに、High Velocity Sales を使用できます。営業担当は、EAI (メールアドレス国際化) を使用して世界中で容易にメールを送受信できます。DomainKeys Identified Mail (DKIM) 鍵に対する変更により、メールセキュリティが改善されました。

メールテンプレート: ゲストユーザ向けの Visualforce メールテンプレートの更新

Visualforce Classic メールテンプレートをゲストユーザに送信するときに会社のデータへのアクセスを保護します。これらのテンプレートを確認および更新して、引き続き使用できるようにします。

活動: ToDo キューのクイックアクション

営業担当は ToDo をキューに割り当てるクイックアクションを設定できます。

Einstein 活動キャプチャ: 新しいメールインサイト、API アクセス、スレッド化されたメールの表示の改善

「関心がない」メールインサイトを使用して、お客様がセールストークに関心がないときに把握できます。SOAP API を使用して Einstein 活動キャプチャ設定にユーザを追加できます。スレッド化されたメールを最新のエンゲージメント情報とともに単一ページで確認できます。

Lightning Dialer: 通話の記録に関する同意アラームのカスタマイズ

通話を記録する前に、通話を記録することに関して同意を求めるように促すメッセージを営業担当に表示できます。Salesforce システム管理者は、表示するテキストをカスタマイズできるようになりました。

Kanban: 重要な項目およびガイダンス、および紙吹雪のお祝い

Kanban では、営業担当の負担を軽減する 2 つのパス機能が導入されています。パス内のプロセスの重要な項目および成功ガイダンスを指定すると、Kanban ビューにもその項目とガイダンスが表示されます。また、パスで紙吹雪を設定すると、そのオブジェクトの Kanban ビューでも紙吹雪が表示されるようになりました。

Salesforce Inbox モバイル: Inbox からのスマートな営業

Salesforce Inbox ではメールとカレンダーが Salesforce と統合されるため、営業担当は営業作業をより効率的に管理できます。Inbox により、外出先であってもデスクであっても、すべてのメールメッセージで営業担当の生産性が向上します。

メール環境: メールスレッド、メール追跡の更新、EAI、DKIM 鍵の改善

営業担当は、High Velocity Salesのケイデンスステップカードでメールスレッドを使用できます。営業マネージャは、組織の他のメールを追跡せずに、High Velocity Sales を使用できます。営業担当は、EAI (メールアドレス国際化) を使用して世界中で容易にメールを送受信できます。DomainKeys Identified Mail (DKIM) 鍵に対する変更により、メールセキュリティが改善されました。

このセクションの内容:

セールスケイデンスメールでのメールスレッドの使用
メールスレッドを使用して、営業担当とプロスペクトの間でやりとりされるメールを整理しておきます。営業マネージャがすべてまたは一部のセールスケイデンスメールをスレッドにグループ化すると、営業担当はすべてのメールアクティビティを 1 か所で確認できます。

Lightning Experience のメールの追跡による High Velocity Sales の無効化の停止
[活動設定] の [メール追跡] オプションをオフにすると、Lightning Experience のメール追跡と、High Velocity Sales のメール追跡機能のみが無効になるようになりました。以前は、この設定をオフにすると、High Velocity Sales もすべて無効になっていました。

メールアドレス国際化を使用したグローバルなつながり
メールアドレス国際化 (EAI) を使用して世界中のユーザとつながることができます。EAI により、Salesforce とのメールの送受信の際にメールアドレスで非ラテンベースの文字を使用できます。以前から、これらの文字はドメイン名 (@ の右側の部分) でサポートされていました。EAI では、メールアドレスのローカル部分 (@ より前の部分) でサポートされるようになりました。

再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善 (更新、適用)
DomainKeys Identified Mail (DKIM) 鍵で潜在的なセキュリティ脆弱性に対応するため、鍵の作成方法が改善されました。公開鍵や非公開鍵を操作する必要はなくなります。また、鍵の共有によってセキュリティ脆弱性が発生する可能性があるため、DKIM鍵のインポート機能が削除されます。再設計されたDKIM鍵によるメールセキュリティの改善は、Winter '19 の更新であり、Summer '20 で適用されます。

セールスケイデンスメールでのメールスレッドの使用

メールスレッドを使用して、営業担当とプロスペクトの間でやりとりされるメールを整理しておきます。営業マネージャがすべてまたは一部のセールスケイデンスメールをスレッドにグループ化すると、営業担当はすべてのメールアクティビティを 1 か所で確認できます。

対象: この変更は Lightning Experience での High Velocity Sales に適用されます。High Velocity Sales は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のアドオンとして使用できます。

対象ユーザ: High Velocity Sales、Sales Cloud Einstein、または Inbox ライセンスで使用可能な「Inbox を使用」ユーザ権限を持つユーザ。

メモ: [Salesforce を介した送信] を使用してメールを送信する場合を除き、セールスケイデンスステップでスレッド化されたメールを指定した場合、Salesforce メールアドレスが [BCC] 項目に追加されます。

営業担当は、メールアプリケーションの [送信済みアイテム] フォルダで BCC アドレスを確認できます。

関連トピック:

セールスケイデンスメールのスレッド表示

Lightning Experience のメールの追跡による High Velocity Sales の無効化の停止

[活動設定] の [メール追跡] オプションをオフにすると、Lightning Experience のメール追跡と、High Velocity Sales のメール追跡機能のみが無効になるようになりました。以前は、この設定をオフにすると、High Velocity Sales もすべて無効になっていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

High Velocity Sales でメールをトラッキングするかどうかの選択

メールアドレス国際化を使用したグローバルなつながり

メールアドレス国際化 (EAI) を使用して世界中のユーザとつながることができます。EAI により、Salesforce とのメールの送受信の際にメールアドレスで非ラテンベースの文字を使用できます。以前から、これらの文字はドメイン名 (@ の右側の部分) でサポートされていました。EAI では、メールアドレスのローカル部分 (@ より前の部分) でサポートされるようになりました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。EAI は Pardot、Marketing Cloud、Einstein 活動キャプチャ、または Salesforce Inbox ではサポートされていません。

時期: この機能は、Summer '20 で既存の組織での有効化に使用できます。Summer '20 以降に作成された組織では、EAI がデフォルトで有効になっています。

方法: メールアドレス国際化を有効にする前に、Salesforce 組織を準備します。

- 考慮事項、準備手順、EAI を有効化する方法を Salesforce ヘルプで確認する
- UTF-8 のサポートがメールのパス全体に存在していることを確認する
- Unicode 文字をサポートするようにインテグレーションを更新する
- 最新の API バージョンを採用する

- メールアドレスを保存するすべての項目でそのメールデータ型を使用していることを確認する

関連トピック:

ナレッジ記事: Prepare for Salesforce Email Address Internationalization (EAI) support (Salesforce メールアドレス国際化 (EAI) サポートの準備)

Salesforce ヘルプ: メールアドレス国際化 (EAI) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善 (更新、適用)

DomainKeys Identified Mail (DKIM) 鍵で潜在的なセキュリティ脆弱性に対応するため、鍵の作成方法が改善されました。公開鍵や非公開鍵を操作する必要はなくなります。また、鍵の共有によってセキュリティ脆弱性が発生する可能性があるため、DKIM 鍵のインポート機能が削除されます。再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善は、Winter '19 の更新であり、Summer '20 で適用されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

メモ: 以前にこの更新の話題を目にした方もいるでしょう。この更新は Winter '20 リリースで最初に適用されましたが、一部の Salesforce 組織では変更が実施されませんでした。Summer '20 では、この更新がこれらの組織に適用されます。

方法: Salesforce によって公開鍵を含む TXT レコードが DNS に公開されています。鍵がサードパーティによって侵害されるリスクを軽減するため、自動的な鍵の循環も追加されます。古い方法を使用して生成された鍵も機能しますが、Summer '20 では、新しい鍵を生成する場合、よりセキュアな方法を使用する必要があります。

関連トピック:

Winter '19 リリースノート: 再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善

Salesforce ヘルプ: 安全な DKIM 鍵の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リリース更新 (ベータ)

メールテンプレート: ゲストユーザ向けの Visualforce メールテンプレートの更新

Visualforce Classic メールテンプレートをゲストユーザに送信するときに会社のデータへのアクセスを保護します。これらのテンプレートを確認および更新して、引き続き使用できるようにします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の有効な公開コミュニティ、サイト、およびポータルを持つ Salesforce 組織に適用されます。

時期: このセキュリティポリシーは Spring '20 でリリースされ、すぐに適用されました。

対象: この変更は、コミュニティのゲストユーザを対象とする Visualforce メールテンプレートに適用されます。

方法: `renderUsingSystemContextWithoutSharing="True"` 属性をすべての Visualforce メールテンプレートに追加します。

重要: ゲストセキュリティポリシーの影響を評価し、必要に応じて、ゲストユーザに送信される Visualforce メールテンプレートを更新してください。

関連トピック:

- Visualforce メールテンプレートで作成されたメールへのゲストユーザアクセスの確認
- *Salesforce* ヘルプ: Salesforce Classic での Visualforce メールテンプレートの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: ゲストユーザセキュリティポリシーとタイムライン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

活動: ToDo キューのクイックアクション

営業担当は ToDo をキューに割り当てるクイックアクションを設定できます。

このセクションの内容:

- クイックアクションを使用したキューへの ToDo の割り当て
  営業担当は、営業 ToDo でコラボレーションを行うときに時間を節約できます。レコードページで、またはグローバルアクションとしてクイックアクションを設定できるようになったため、営業担当はキューに ToDo をより素早く割り当てることができます。

クイックアクションを使用したキューへの ToDo の割り当て

営業担当は、営業 ToDo でコラボレーションを行うときに時間を節約できます。レコードページで、またはグローバルアクションとしてクイックアクションを設定できるようになったため、営業担当はキューに ToDo をより素早く割り当てることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

Einstein 活動キャプチャ: 新しいメールインサイト、API アクセス、スレッド化されたメールの表示の改善

「関心がない」メールインサイトを使用して、お客様がセールストークに関心がないときに把握できます。SOAP API を使用して Einstein 活動キャプチャ設定にユーザを追加できます。スレッド化されたメールを最新のエンゲージメント情報とともに単一ページで確認できます。

このセクションの内容:

- お客様が新しいメールインサイトに関心がないときに把握
  新しい「関心がない」メールインサイトにより、お客様が商談を続けるつもりがないときに、メールを開くことさえなく把握できます。商談を成立させるためにどの会話に集中するべきかを把握できます。Einstein メールインサイトには、Salesforce レコードに関連付けられたメールの関連する営業コンテキストが表示されます。

SOAP API を使用した Einstein 活動キャプチャ設定へのユーザの追加

新しい UserEmailCalendarSync オブジェクトを使用すれば、開発者はユーザを Einstein 活動キャプチャ設定に追加できます。設定により、ユーザの取引先責任者と行動を Salesforce と接続済みアカウントの間で同期できます。この API により、多数のユーザを設定に追加するのが簡単になります。

単一ページでのスレッド化されたメールの表示

会話とのつながりを保つために、営業担当はメールを単一スレッドでグループ化して確認する必要があります。営業担当は、スレッド化されたメールに加えて最新のエンゲージメント情報を単一ページで確認できるようになりました。以前は、営業担当は活動タイムラインからスレッド化されたメールを表示していました。

お客様が新しいメールインサイトに関心がないときに把握

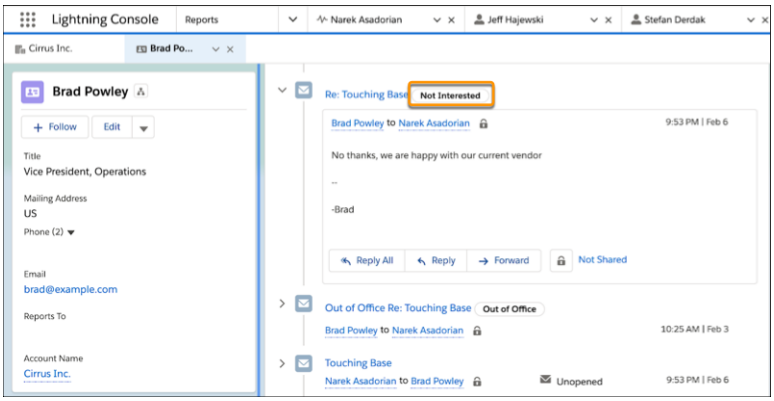
新しい「関心がない」メールインサイトにより、お客様が商談を続けるつもりがないときに、メールを開くことさえなく把握できます。商談を成立させるためにどの会話に集中するべきかを把握できます。Einstein メールインサイトには、Salesforce レコードに関連付けられたメールの関連する営業コンテキストが表示されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Inbox ライセンスを所有するユーザを含めてすべての Einstein 活動キャプチャユーザが使用できます。

方法:

メールインサイトは、Einstein 活動キャプチャを有効にすると使用できるようになります。Sales Cloud Einstein または Inbox ライセンスで Einstein 活動キャプチャを使用している場合、メールインサイトはデフォルトで有効になります。このインサイトは、活動タイムラインと Salesforce Inbox モバイルアプリケーションのメールの詳細で表示します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein メールインサイトの有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

SOAP API を使用した Einstein 活動キャプチャ設定へのユーザの追加

新しい UserEmailCalendarSync オブジェクトを使用すれば、開発者はユーザを Einstein 活動キャプチャ設定に追加できます。設定により、ユーザの取引先責任者と行動を Salesforce と接続済みアカウントの間で同期できます。この API により、多数のユーザを設定に追加するのが簡単になります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

- 新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

単一ページでのスレッド化されたメールの表示

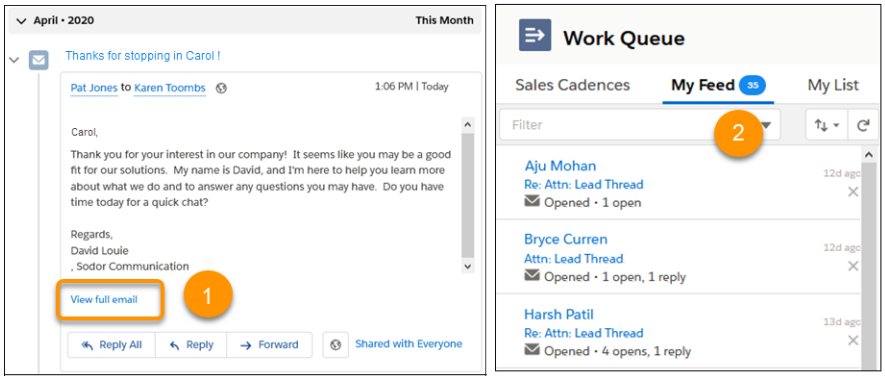
会話とのつながりを保つために、営業担当はメールを単一スレッドでグループ化して確認する必要があります。営業担当は、スレッド化されたメールに加えて最新のエンゲージメント情報を単一ページで確認できるようになりました。以前は、営業担当は活動タイムラインからスレッド化されたメールを表示していました。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

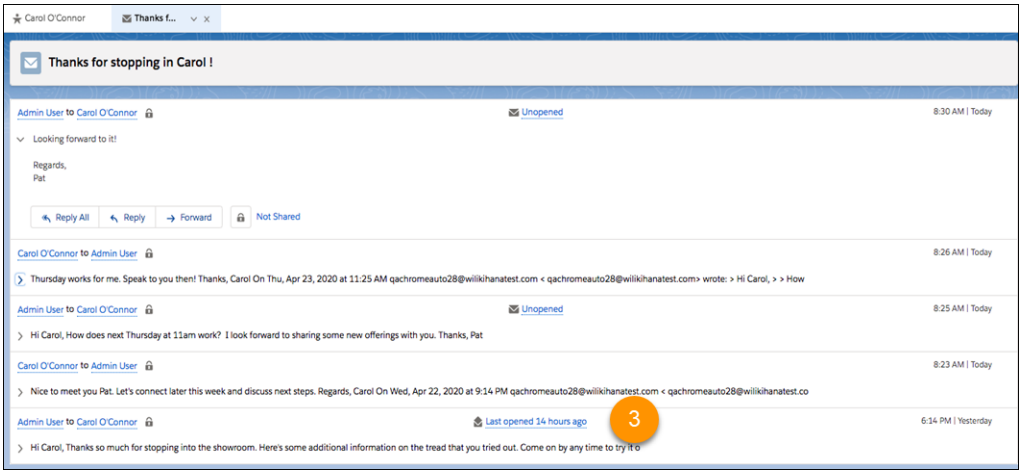
対象ユーザ: すべての Einstein 活動ユーザはメールスレッドを単一ページで確認できます。エンゲージメントの詳細を確認するには、営業担当は High Velocity Sales または Inbox を使用する必要があります。

理由: メールの会話を単一ページで確認することで、営業担当は営業を進める態勢がさらに整います。メールスレッドには、Einstein 活動キャプチャによってキャプチャされたメールが含まれます。手動でログに記録されたメールは含まれません。

方法:



活動タイムラインから、[完全なメールを参照] をクリックします (1)。High Velocity Sales または Inbox を使用する場合、[私のフィード] タブからメールベースのアラートをクリックすることもできます (2)。



High Velocity Sales および Inbox ユーザは、メールの [最終開封日] (3) にカーソルを置いて完全なエンゲージメントの詳細を確認できます。エンゲージメントの詳細は、Einstein 活動キャプチャによってキャプチャされたメールに関する内容です。手動でログに記録されたメールのエンゲージメントの詳細は別のタブで表示されます。

関連トピック:

- 見込み客のメールエンゲージメント詳細のリアルタイム表示
- Outlook インテグレーションでのアプリケーション全体のメールエンゲージメントの追跡
- Gmail インテグレーションでのアプリケーション間でのメールエンゲージメントのトラッキング

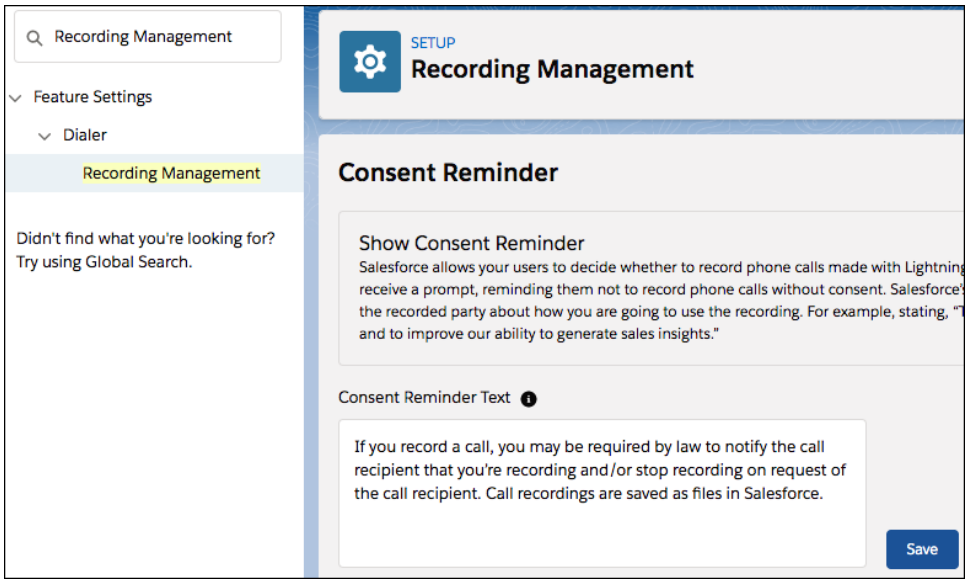
Lightning Dialer: 通話の記録に関する同意アラームのカスタマイズ

通話を記録する前に、通話を記録することに関して同意を求めるように促すメッセージを営業担当に表示できます。Salesforce システム管理者は、表示するテキストをカスタマイズできるようになりました。

メモ: 現時点では、米国とカナダへの発信通話のみがサポートされています。

対象: この変更は、Lightning Experience での Lightning Dialer に適用されます。Lightning Dialer は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます (有料オプション)。

理由: 営業チームにとって何が重要であるかを説明するように同意アラームを更新します。



必要に応じて同意アラームを無効にすることができます。営業担当と見込み客に適用される、記録に関する法律に合致するようにテキストを更新することをお勧めします。

方法: この機能を使用するには、[設定] の [Dialer] 設定で [レコード管理] を選択します。

Kanban: 重要な項目およびガイダンス、および紙吹雪のお祝い

Kanban では、営業担当の負担を軽減する 2 つのパス機能が導入されています。パス内のプロセスの重要な項目および成功ガイダンスを指定すると、Kanban ビューにもその項目とガイダンスが表示されます。また、パスで紙吹雪を設定すると、そのオブジェクトの Kanban ビューでも紙吹雪が表示されるようになりました。

このセクションの内容:

Kanban ビューでの会社のプロセスに関するガイダンスの取得
ユーザは、案件を処理するためにパスと Kanban ビューのどちらを使用しているかに関係なく、同じヒントと専門知識を利用できるようになりました。パスを使用してセールスプロセスまたはプロジェクトの重要な項目およびガイダンスを指定すると、対応する Kanban ビューにもその情報が表示されるようになりました。

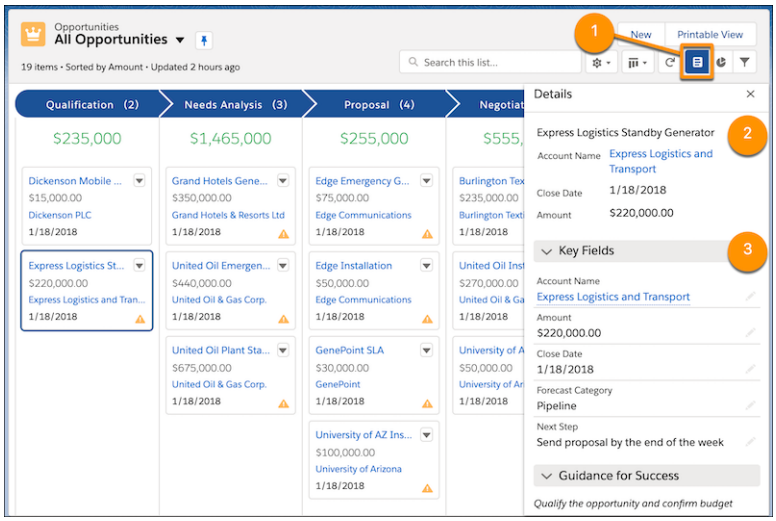
Kanban ビューでの紙吹雪を使用したマイルストン達成のお祝い
案件やプロジェクトの管理に使用している機能に関係なく、商談の成立など、チームの成功に報います。パス内の指定されたステップに到達したユーザ向けに紙吹雪を設定すると、対応する Kanban ビューでも紙吹雪が表示されるようになりました。祝福は、[取引開始済み] の状況のリードでは機能しません。

Kanban ビューでの会社のプロセスに関するガイダンスの取得

ユーザは、案件を処理するためにパスと Kanban ビューのどちらを使用しているかに関係なく、同じヒントと専門知識を利用できるようになりました。パスを使用してセールスプロセスまたはプロジェクトの重要な項目およびガイダンスを指定すると、対応する Kanban ビューにもその情報が表示されるようになりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 営業担当は会社のセールスプロセスを常に把握すると同時に、案件に関するデータを追跡して更新します。 (1) をクリックして詳細パネルを開いたり閉じたりできます。営業担当がカードを選択すると、パネルに最初の 4 つのコンパクトレイアウト項目 (2) と利用可能な重要な項目およびガイダンス (3) が表示されます。重要な項目およびガイダンスは、Kanban ビューと同じオブジェクト、レコードタイプ、選択リストのパスで設定されている場合、パネルに表示されます。営業担当は Kanban ビューを離れることなく、レコードの重要な項目をインラインで編集できます。



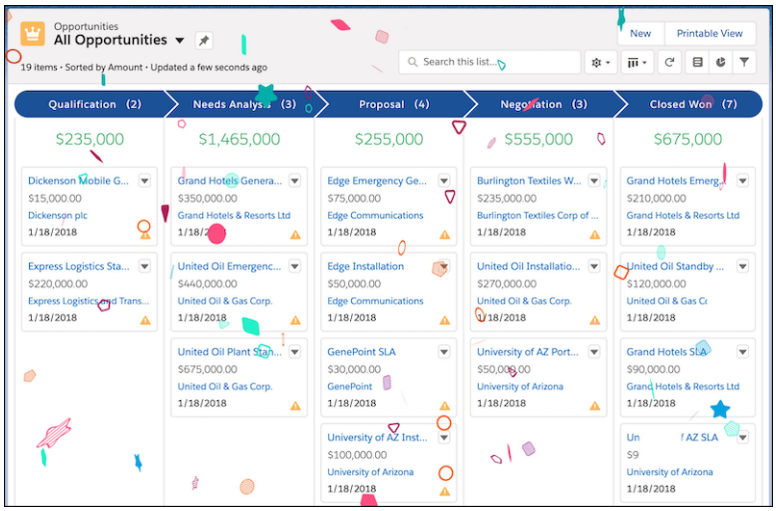
方法: [設定] で、[クイック検索] を使用して [パス設定] を検索します。[パス] を有効にしてパスを作成するか、編集します。セールスプロセスの各ステップのパスの作成ステップ 2 で、重要な項目を選択し、セールスプロセスの成功ガイダンスを入力します。

Kanban ビューでの紙吹雪を使用したマイルストン達成のお祝い

案件やプロジェクトの管理に使用している機能に関係なく、商談の成立など、チームの成功に報います。パス内の指定されたステップに到達したユーザ向けに紙吹雪を設定すると、対応する Kanban ビューでも紙吹雪が表示されるようになりました。祝福は、[取引開始済み] の状況のリードでは機能しません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 紙吹雪のお祝いは、マイルストンを達成した営業担当を喜ばせ、士気を高めます。



方法: [設定] で、[クイック検索] を使用して [パス設定] を検索します。[パス] を有効にしてパスを作成するか、編集します。ステップ3で祝福の設定を選択します。祝福は、同じオブジェクト、レコードタイプ、選択リストのパスで設定されている場合、Kanban ビューでトリガされます。

Salesforce Inbox モバイル: Inbox からのスマートな営業

Salesforce Inbox ではメールとカレンダーが Salesforce と統合されるため、営業担当は営業作業をより効率的に管理できます。Inbox により、外出先であってもデスクであっても、すべてのメールメッセージで営業担当の生産性が向上します。

Inbox モバイルの最新の機能と機能強化については、Salesforce ヘルプを参照してください。

- Inbox Mobile for iOS
- Inbox Mobile for Android

Inbox デスクトップの最新の機能と機能強化については、Salesforce リリースノートの Outlook インテグレーションセクション、Gmail インテグレーションセクション、メール操作環境セクションを参照してください。

関連トピック:

Outlook® インテグレーション: メール追跡の更新、テキストショートカットの改善、記録されたメール状況の変更

Gmail™ インテグレーション: メール追跡の更新、テキストショートカットカットの改善、ログに記録されるメールの状況の変更

メール環境: メールスレッド、メール追跡の更新、EAI、DKIM 鍵の改善

Google とのインテグレーション: メール設定の変更の追跡、テキストショートカットの改善、Lightning Sync を設定できるシステム管理者の増加

すべての Gmail インテグレーションユーザと Inbox ユーザに対して、メール追跡機能を 1 つの設定から有効および無効にできます。また、メールへのテキストショートカットの追加をこれまで以上に容易にするキーボードショートカットを追加しました。Winter '21 以降、Lightning Sync の可用性が変わります。Spring '20 では、Lightning Sync 管理者は、より厳しい権限を持つシステム管理者に設定を委任できます。

このセクションの内容:

Gmail™ インテグレーション: メール追跡の更新、テキストショートカットカットの改善、ログに記録されるメールの状況の変更
Gmail インテグレーションは、Salesforce 設定に従って機能をオンおよびオフするようになったため、以前より設定が容易になりました。営業担当者は、[フィード] タブでエンゲージメントとアラートの情報にアクセスできます。また、営業担当者は、キーボードショートカットを使用してテキストショートカットを挿入し、インテグレーションで Lightning Experience のクイックテキストを使用できます。そして、ログに記録される送信済みメールの状況を変更して、「既読」ではなく「送信済み」と表示されるように変更しました。

Lightning Sync for Google: 可用性の変更の保留、設定を使用できるシステム管理者の増加
Winter '21 以降、新しい Salesforce ユーザは Lightning Sync を使用できなくなります。Summer '20 では、Lightning Sync の設定と管理をサポートする代理人として、より厳しい権限を持つ会社のシステム管理者を指定することができます。

Gmail™ インテグレーション: メール追跡の更新、テキストショートカットカットの改善、ログに記録されるメールの状況の変更

Gmail インテグレーションは、Salesforce 設定に従って機能をオンおよびオフするようになったため、以前より設定が容易になりました。営業担当者は、[フィード] タブでエンゲージメントとアラートの情報にアクセスできます。また、営業担当者は、キーボードショートカットを使用してテキストショートカットを挿入し、インテグレーションで Lightning Experience のクイックテキストを使用できます。そして、ログに記録される送信済みメールの状況を変更して、「既読」ではなく「送信済み」と表示されるように変更しました。

このセクションの内容:

1 つの Salesforce 設定による Gmail インテグレーションでのメールのトラッキングの無効化
Gmail インテグレーションは、[Salesforce の設定] の [Salesforce Inbox 設定アシスタント] ページでのメールのトラッキング設定を反映するようになりました。設定が 1 つで済むため、デスクトップおよびモバイル Inbox アプリケーションにおけるメールのトラッキングを 1 つの場所からまとめてオンまたはオフにできます。設定がオフであれば、Gmail インテグレーションには、メールのトラッキングコンポーネントは表示されません。Lightning アプリケーションビルダーを使用してコンポーネントをメールアプリケーションペインに追加することはできません。

Gmail インテグレーションでのアプリケーション間でのメールエンゲージメントのトラッキング

[トラッキング] タブに置き換わる [フィード] タブは、営業担当者が Gmail インテグレーション、Lightning Experience、または High Velocity Sales の作業キューから送信したメールとのエンゲージメントに関する情報を提供します。営業担当者は、フィードを絞り込んだり並び替えたりすることで、見込みの高いリードを特定してフォローアップできます。アラートサマリーには、顧客または見込み客の名前、メールの件名、エンゲージメント種別、以前のエンゲージメント履歴が含まれます。

Gmail インテグレーションでテキストショートカットにアクセスするためのクイックテキストの有効化

テキストショートカットが保存されるようになったため、営業担当者は、どこでメールを作成するときでもテキストショートカットと個別のクイックテキストにアクセスできるようになりました。この変更に伴って Gmail インテグレーションでテキストショートカットにアクセスできるようにするためには、クイックテキスト機能を有効化する必要があります。この変更により、Salesforce のメールチャネルに保存してある個別のクイックテキストフレーズを、Gmail インテグレーションでテキストショートカットとして使用できるようになります。Summer '20 以降に作成されたテキストショートカットを、Salesforce で個別のクイックテキストとして使用できます。

マウス操作ではなくキーボード操作による Gmail インテグレーションでのメールへのテキストショートカットの追加

マウス操作ではなくキーボード操作によってテキストショートカットを挿入します。営業担当者は、メールにフレーズを挿入するためのテキストショートカットにショートコードを割り当てることができます。マウスを操作してフレーズを選択する代わりに、コードを入力することでテキストショートカットを挿入できるため、メールの内容に集中し続けることができます。

一部の Salesforce エディションで無効化された Gmail インテグレーションの Inbox 機能

[Salesforce Inbox 設定アシスタント] ページの [ユーザが Inbox を使用できるようにする] 設定は、すべての Developer Edition とすでに販売されていないエディションでは無効化されるようになりました。これらのエディションで機能やインテグレーションを開発している場合や Inbox 機能に依存している場合には、設定を有効化してください。

Gmail インテグレーションからログに記録される送信済みメールの状況の変更

営業担当者が Gmail から送信したメールの状況は、Salesforce のログに「既読」ではなく「送信済み」として記録されるようになりました。送信済みメールには、Gmail の [送信済み] フォルダから記録されるメール、[送信時にメールを記録] オプションを使用して記録されるメール、そして [リマインダーを記録] ページから記録されるメールがあります。営業担当者が受信メールを Salesforce のログに記録した場合の状況は「既読」になります。Summer '20 以前に記録されているメールの状況は変更されません。

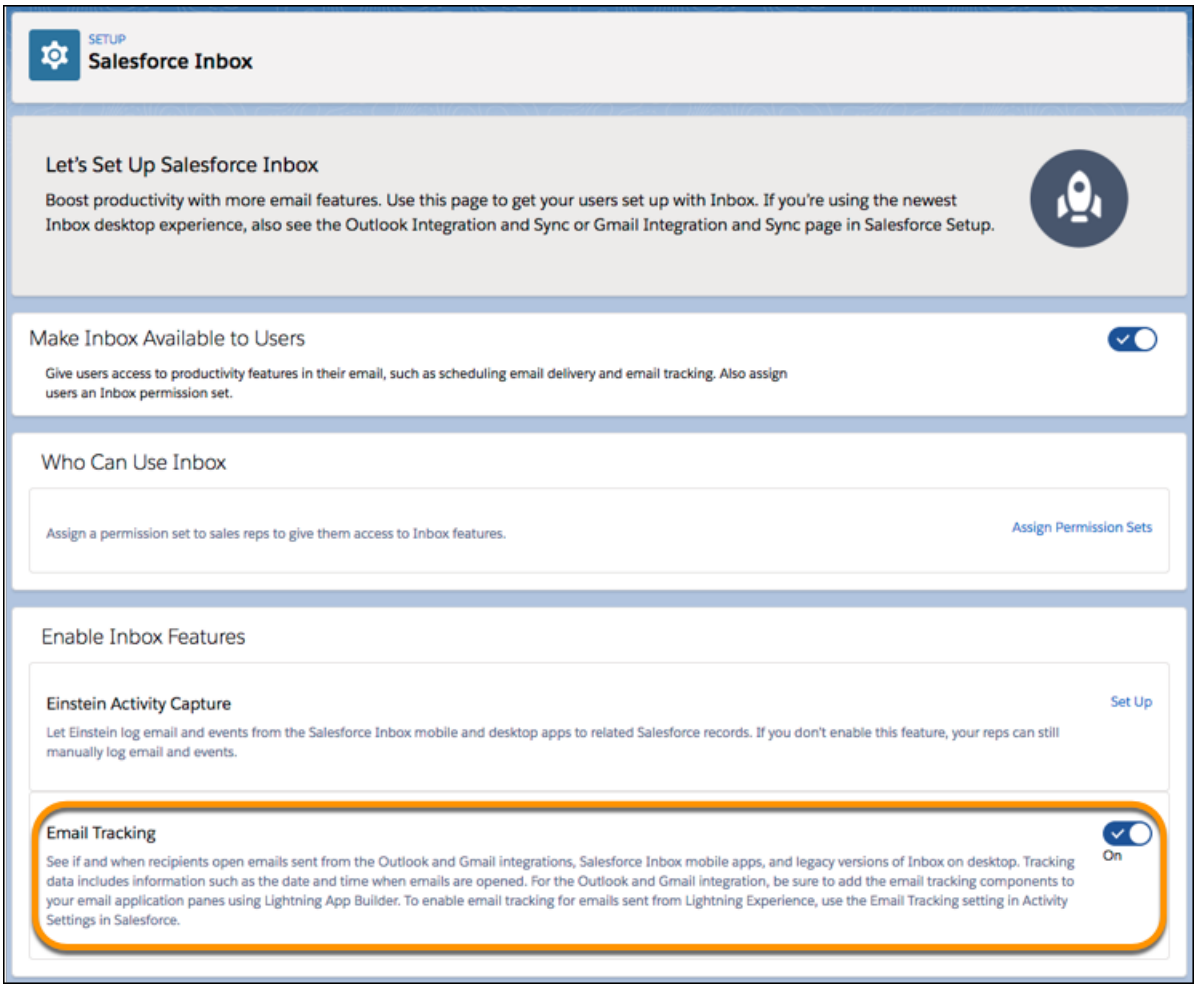
1 つの Salesforce 設定による Gmail インテグレーションでのメールのトラッキングの無効化

Gmail インテグレーションは、[Salesforce の設定] の [Salesforce Inbox 設定アシスタント] ページでのメールのトラッキング設定を反映するようになりました。設定が 1 つで済むため、デスクトップおよびモバイル Inbox アプリケーションにおけるメールのトラッキングを 1 つの場所からまとめてオンまたはオフにできます。設定がオフであれば、Gmail インテグレーションには、メールのトラッキングコンポーネントは表示されません。Lightning アプリケーションビルダーを使用してコンポーネントをメールアプリケーションペインに追加することはできません。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

理由: 設定が統一されたことで、メールのトラッキングをすべての Inbox ユーザに対してまとめてオフにすることができます。以前は、Gmail インテグレーションでメールのトラッキングをオフにするためには、メールインテグレーションペインからメールのトラッキングコンポーネントを削除する必要がありました。

方法: [Salesforce の設定] の [クイック検索] ボックスに「*Inbox*」と入力し、[設定アシスタント] を選択します。[メールのトラッキング] 設定を使用して、この機能をオンまたはオフにします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Gmail インテグレーションのメールの追跡に関する考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Gmail インテグレーションでのアプリケーション間でのメールエンゲージメントのトラッキング

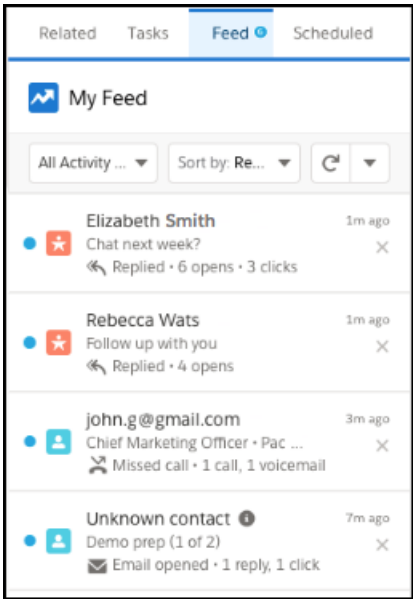
[トラッキング] タブに置き換わる [フィード] タブは、営業担当者が Gmail インテグレーション、Lightning Experience、または High Velocity Sales の作業キューから送信したメールとのエンゲージメントに関する情報を提供します。営業担当者は、フィードを絞り込んだり並び替えたりすることで、見込みの高いリードを特定してフォローアップできます。アラートサマリーには、顧客または見込み客の名前、メールの件名、エンゲージメント種別、以前のエンゲージメント履歴が含まれます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

時期: Inbox ライセンスを持つユーザには、Summer '20 のリリースから 30 日後に、メールエンゲージメントを示す [フィード] タブが表示されます。この期間中に、フィードに入力されるデータが収集されます。

方法: Developer Edition、Personal Edition、Chatter Edition、および Database.com Edition では、Summer '20 リリースでは Inbox の機能はデフォルトで無効化されています。営業担当者が [フィード] タブを表示できるようにするには、[Salesforce Inbox 設定アシスタント] ページで Inbox を再び有効化してください。

有効化すると、最初のデータ収集期間が経過した後に [メールのトラッキング - リスト] コンポーネントが自動的に更新され、アラートやエンゲージメントの情報が表示されます。



ヒント: High Velocity Sales の作業キューを使用している営業担当者の場合は、同じエンゲージメント情報に加えて、High Velocity Sales 固有のエンゲージメントが作業キューの [私のフィード] タブに表示されます。High Velocity Sales を使用している場合は、フィードを 1 か所でのみ表示するように、Lightning アプリケーションビルダーでメールインテグレーションペインを設定できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Outlook および Gmail のメールインテグレーションペインへの作業キューコンポーネントの追加 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

見込み客のメールエンゲージメント詳細のリアルタイム表示

Salesforce ヘルプ: インテグレーションでのエンゲージメントおよびアラート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Gmail インテグレーションでテキストショートカットにアクセスするためのクイックテキストの有効化

テキストショートカットが保存されるようになったため、営業担当者は、どこでメールを作成するときでもテキストショートカットと個別のクイックテキストにアクセスできるようになりました。この変更に伴って Gmail インテグレーションでテキストショートカットにアクセスできるようにするためには、クイックテキスト機能を有効化する必要があります。この変更により、Salesforce のメールチャネルに保存してある個別のクイックテキストフレーズを、Gmail インテグレーションでテキストショートカットとして使用できるようになります。Summer '20 以降に作成されたテキストショートカットを、Salesforce で個別のクイックテキストとして使用できます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

方法: クイックテキストは、Lightning Experience ではデフォルトで有効化されています。Salesforce Classic では、チャットが有効化されている場合はデフォルトで有効化されています。有効化するには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「*クイックテキスト設定*」と入力し、[クイックテキスト設定] を選択します。[クイックテキストを有効化] をクリックします。他のクイックテキスト設定は不要です。

メモ: 共有クイックテキストは、Salesforce 内でメールを作成する場合にのみ使用できます。

関連トピック:

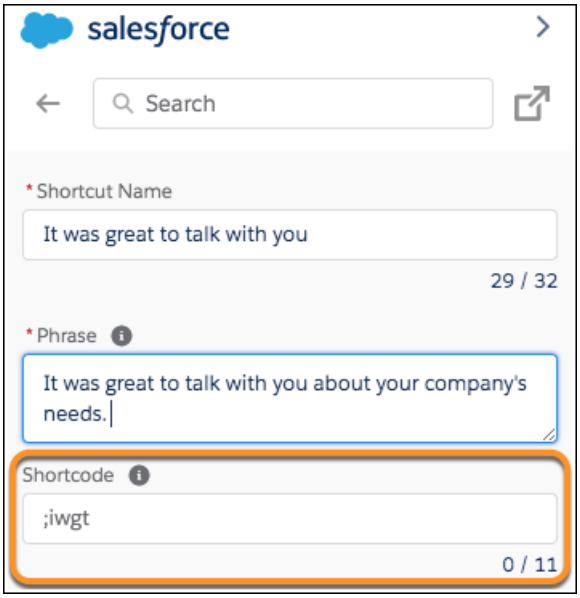
- マウス操作ではなくキーボード操作による Gmail インテグレーションでのメールへのテキストショートカットの追加
- *Salesforce* ヘルプ: クイックテキストメッセージの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: クイックテキストの考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Outlook や Gmail でメールを作成する際のいろいろな機能 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

マウス操作ではなくキーボード操作による Gmail インテグレーションでのメールへのテキストショートカットの追加

マウス操作ではなくキーボード操作によってテキストショートカットを挿入します。営業担当者は、メールにフレーズを挿入するためのテキストショートカットにショートコードを割り当てることができます。マウスを操作してフレーズを選択する代わりに、コードを入力することでテキストショートカットを挿入できるため、メールの内容に集中し続けることができます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

方法: Summer '20 以降に作成するテキストショートカットでは、[ショートコード] 項目を使用できます。Summer '20 以前に作成されたテキストショートカットにコードを追加するには、ショートカットを作成し直してください。



関連トピック:

- Gmail インテグレーションでテキストショートカットにアクセスするためのクイックテキストの有効化
- *Salesforce* ヘルプ: Outlook や Gmail でメールを作成する際のいろいろな機能 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

一部の Salesforce エディションで無効化された Gmail インテグレーションの Inbox 機能

[Salesforce Inbox 設定アシスタント] ページの [ユーザが Inbox を使用できるようにする] 設定は、すべての Developer Edition とすでに販売されていないエディションでは無効化されるようになりました。これらのエディションで機能やインテグレーションを開発している場合や Inbox 機能に依存している場合には、設定を有効化してください。

対象: この変更は、Personal Edition、Developer Edition、Chatter Edition、および Database.com Edition の Salesforce Inbox に適用されます。

理由: Salesforce は、Inbox ライセンスを持つ本番組織と Sandbox 組織で、エンゲージメント機能とアラート機能用のデータ生成を有効化しました。この機能により、Inbox の [フィード] タブに表示されるデータが強化されます。Personal Edition、Developer Edition、Chatter Edition、および Database.com Edition ではエンゲージメントデータを収集しないと決めたため、Inbox を無効化しました。これらのエディションでも [ユーザが Inbox を使用できるようにする] 設定を有効化することができ、その場合はエンゲージメントデータの生成が開始されます。

Gmail インテグレーションからログに記録される送信済みメールの状況の変更

営業担当者が Gmail から送信したメールの状況は、Salesforce のログに「既読」ではなく「送信済み」として記録されるようになりました。送信済みメールには、Gmail の [送信済み] フォルダから記録されるメール、[送信時にメールを記録] オプションを使用して記録されるメール、そして [リマインダーを記録] ページから記録されるメールがあります。営業担当者が受信メールを Salesforce のログに記録した場合の状況は「既読」になります。Summer '20 以前に記録されているメールの状況は変更されません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

Lightning Sync for Google: 可用性の変更の保留、設定を使用できるシステム管理者の増加

Winter '21 以降、新しい Salesforce ユーザは Lightning Sync を使用できなくなります。Summer '20 では、Lightning Sync の設定と管理をサポートする代理人として、より厳しい権限を持つ会社のシステム管理者を指定することができます。

このセクションの内容:

新規のお客様は Lightning Sync for Google を使用不可
Winter '21 以降、新しい Salesforce ユーザは Lightning Sync を使用できなくなります。Google と Salesforce 間で営業担当の取引先責任者と行動の同期を開始するには、Einstein 活動キャプチャを探索することをお勧めします。Einstein 活動キャプチャを使用すると、取引先責任者と行動が同期されるほか、システム管理者の設定が容易になり、営業担当の生産性を向上するさらに多くの機能を使用できます。

より厳しい権限を持つシステム管理者への設定の委任
Lightning Sync for Google の設定と管理をサポートする代理人として会社の他の Salesforce システム管理者を指定すると、ToDo リストをより迅速に完了できます。このシステム管理者に必要な権限が「ユーザの管理」と「Lightning Sync を管理」のみになりました。以前は、より厳しい管理者権限である「アプリケーションのカスタマイズ」も必要でした。

新規のお客様は Lightning Sync for Google を使用不可

Winter '21 以降、新しい Salesforce ユーザは Lightning Sync を使用できなくなります。Google と Salesforce 間で営業担当の取引先責任者と行動の同期を開始するには、Einstein 活動キャプチャを探索することをお勧めします。Einstein 活動キャプチャを使用すると、取引先責任者と行動が同期されるほか、システム管理者の設定が容易になり、営業担当の生産性を向上するさらに多くの機能を使用できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: Winter '21 に Salesforce を購入したユーザは Lightning Sync を有効化できません。Lightning Sync ユーザ、現在の Salesforce ユーザ、Winter '21 より前に Salesforce を購入したユーザは、Lightning Sync を有効化して Winter '21 以降も引き続き使用できます。Lightning Sync を使用可能なライセンスの種類については、「Lightning Sync ユーザライセンスサポート」を参照してください。

理由: より柔軟性の高い接続オプションと最適化された機能に対するユーザの要求がありました。最高の Google インテグレーションを提供するため、Salesforce はリソースを組み合わせて 1 つの同期製品を提供することに重点的に取り組んでいます。その製品が Einstein 活動キャプチャです。Einstein 活動キャプチャを使用すると、Lightning Sync と同じ基本機能およびさらに多くの機能が得られます。

- Einstein 活動キャプチャの同期を使用すると、営業担当は、最新の取引先責任者および行動を、アプリケーション内の最も必要とする場所で取得できます。

- 営業担当がメールを送信および受信すると、Einstein 活動キャプチャは、関連する取引先、取引先責任者、契約、リード、商談、および見積レコードの活動タイムラインにそのメールを追加します。後続の活動も Salesforce に自動的に追加されます。共有設定を使用すると、関連するメールと行動を他のどのユーザに表示するかを決定できるため、チームの連携が向上します。
- Einstein メールインサイトでは、最適な応答を最適なタイミングで送信するのに役立つインテリジェントなデータが営業担当に提供されます。たとえば、顧客からのメールで競合他社がメンションされた場合、営業担当はすぐにフォローアップできます。

Einstein 活動キャプチャが提供するすべてのメリットは、「Einstein 活動キャプチャの機能」を参照してください。

Einstein 活動キャプチャはリリースのたびに改善されます。Salesforce リリースノートで常に最新の改善点を確認してください。

関連トピック:

ナレッジ記事: Lightning Sync: Not Available for New Salesforce Customers Starting in Winter '21 (Winter '21 以降、新しい Salesforce ユーザが使用できない)

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャと Lightning Sync の比較 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

より厳しい権限を持つシステム管理者への設定の委任

Lightning Sync for Google の設定と管理をサポートする代理人として会社の他の Salesforce システム管理者を指定すると、ToDo リストをより迅速に完了できます。このシステム管理者に必要な権限が「ユーザの管理」と「Lightning Sync を管理」のみになりました。以前は、より厳しい管理者権限である「アプリケーションのカスタマイズ」も必要でした。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: 「ユーザの管理」権限と「Lightning Sync を管理」権限のみで、より厳しい権限を持つシステム管理者は [設定] から Lightning Sync 関連の管理タスクを完了できます。

- [ユーザが取引先責任者または行動あるいはその両方を Google と Salesforce 間で同期できるようにする] 設定を有効にする。
- 同期設定を作成および編集する。
- Lightning Sync 接続テストを使用して同期の状況を確認する。

初めて設定する場合、取引先責任者と行動の同期を開始するには、Salesforce システム管理者には経験豊富な Google 管理者のサポートも必要です。Google 管理者は、Google GSuite Google API コンソールと Google 管理コンソールからその他の設定手順を完了します。

方法: [設定] から、［クイック検索］ボックスに「*同期*」と入力し、[Gmail インテグレーションおよび同期] を選択します。

関連トピック:

- *Salesforce ヘルプ*: Lightning Sync for Google のための Salesforce の準備 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: Lightning Sync for Google を営業担当向けに定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: Google ユーザ向け Lightning Sync の接続テストの実行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: Lightning Sync for Google の設定の概要の把握 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Microsoft® とのインテグレーション: メール設定の変更の追跡、テキストショートカットの改善、Lightning Sync の変更、Salesforce for Outlook の廃止

すべての Outlook インテグレーションユーザと Inbox ユーザに対して、メール追跡機能を 1 つの設定から有効および無効にできます。また、メールへのテキストショートカットの追加をこれまで以上に容易にするキーボードショートカットを追加しました。Winter '21 では、Lightning Sync の可用性が変わります。2020 年 12 月以降、Salesforce for Outlook が機能しなくなります。廃止に関する詳細を参照し、次世代機能に移行してください。

このセクションの内容:

- Outlook® インテグレーション: メール追跡の更新、テキストショートカットの改善、記録されたメール状況の変更
- Lightning Sync for Microsoft® Exchange: 可用性の変更の保留、設定を使用できるシステム管理者の増加
- Salesforce for Outlook: 一時的なアクセスの廃止の保留および復元

Outlook® インテグレーション: メール追跡の更新、テキストショートカットの改善、記録されたメール状況の変更

Outlook インテグレーションで、Salesforce 設定を使用して機能をオンおよびオフにするようになったため、設定が以前よりも簡単になりました。営業担当には、[フィード] タブを通じてすべてのアラート情報が表示されます。営業担当者は、[フィード] タブでエンゲージメントとアラートの情報にアクセスできます。また、記録された送信メールの更新された状況でメールが既読ではなく送信済みと正しく表示されるようになりました。

Lightning Sync for Microsoft® Exchange: 可用性の変更の保留、設定を使用できるシステム管理者の増加

Winter '21 以降、新しい Salesforce ユーザは Lightning Sync を使用できなくなります。Summer '20 では、Lightning Sync の設定と管理をサポートする代理人として、より厳しい権限を持つ会社のシステム管理者を指定することができます。同期を継続するには、Microsoft Office 365® ユーザは設定を確認し、Microsoft による基本認証の廃止に備える必要があります。

Salesforce for Outlook: 一時的なアクセスの廃止の保留および復元

Salesforce for Outlook で使用している Microsoft® Internet Explorer 11 に対する Salesforce のサポートは 2020 年 12 月に終了します。次世代の Microsoft 製品および移行計画の開始方法をご確認ください。すでにブラウザのサポート変更による影響を受けているお客様は、12 月まで再接続する方法をご確認ください。

Outlook® インテグレーション: メール追跡の更新、テキストショートカットの改善、記録されたメール状況の変更

Outlookインテグレーションで、Salesforce設定を使用して機能をオンおよびオフにするようになったため、設定が以前よりも簡単になりました。営業担当には、[フィード]タブを通じてすべてのアラート情報が表示されます。営業担当者は、[フィード]タブでエンゲージメントとアラートの情報にアクセスできます。また、記録された送信メールの更新された状況でメールが既読ではなく送信済みと正しく表示されるようになりました。

このセクションの内容:

古いバージョンの Outlook および Windows でのインテグレーションのサポート終了
Salesforce の [設定] を使用した Outlook インテグレーションでのメール追跡の無効化
Outlook インテグレーションでのアプリケーション全体のメールエンゲージメントの追跡
Outlook インテグレーションでテキストショートカットにアクセスするためのクイックテキストの有効化
一部の Salesforce の Outlook インテグレーションで無効になった Inbox 機能

古いバージョンの Outlook および Windows でのインテグレーションのサポート終了

Microsoft Internet Explorer 11 に対する Salesforce の延長サポートは 2020 年 12 月に終了します。サポートが終了すると、Outlook インテグレーションは以前のバージョンの Microsoft Outlook を使用している Windows ユーザでは機能しなくなります。Outlook のインテグレーション機能の使用を継続するには、Windows と Outlook を Internet Explorer 11 が不要な最新バージョンにアップグレードしてください。

Salesforce の [設定] を使用した Outlook インテグレーションでのメール追跡の無効化

Outlook インテグレーションでは、Salesforce の [設定] で Salesforce Inbox の [設定アシスタント] ページの [メール追跡] 設定を使用するようになりました。設定が 1 つで済むため、デスクトップおよびモバイル Inbox アプリケーションにおけるメールのトラッキングを 1 つの場所からまとめてオンまたはオフにできます。この設定をオフにすると、メール追跡コンポーネントが Outlook インテグレーションに表示されなくなります。Lightning アプリケーションビルダーを使用してコンポーネントをメールアプリケーションペインに追加することはできません。

Outlook インテグレーションでのアプリケーション全体のメールエンゲージメントの追跡

[フィード] タブは [追跡] タブに代わるもので、営業担当が Outlook インテグレーション、Lightning Experience、または High Velocity Sales 作業キューから送信したメールに対するエンゲージメントに関する情報が表示されます。営業担当者は、フィードを絞り込んだり並び替えたりすることで、見込みの高いリードを特定してフォローアップできます。アラートサマリーには、顧客または見込み客の名前、メールの件名、エンゲージメント種別、以前のエンゲージメント履歴が含まれます。

Outlook インテグレーションでテキストショートカットにアクセスするためのクイックテキストの有効化

テキストショートカットが保存されるようになったため、営業担当者は、どこでメールを作成するときでもテキストショートカットと個別のクイックテキストにアクセスできるようになりました。この変更では、Outlook インテグレーションでテキストショートカットにアクセスするためにクイックテキスト機能を有効にする必要があります。この変更により、Salesforce のメールチャネルに保存された個別のクイックテキスト語句を Outlook インテグレーションのテキストショートカットとして使用できます。Summer '20 以降に作成されたテキストショートカットを、Salesforce で個別のクイックテキストとして使用できます。

一部の Salesforce の Outlook インテグレーションで無効になった Inbox 機能

[Salesforce Inbox 設定アシスタント] ページの [ユーザが Inbox を使用できるようにする] 設定は、すべての Developer Edition とすでに販売されていないエディションでは無効化されるようになりました。これらのエディションで機能やインテグレーションを開発している場合やInbox機能に依存している場合には、設定を有効化してください。

Outlook インテグレーションから記録された送信済みメールの状況の変更

Outlook から営業担当が送信したメールは、状況が [既読] ではなく [送信済み] として Salesforce に記録されるようになりました。送信済みメールには、Outlook の [送信済みアイテム] フォルダから記録されたメール、[送信時にメールを記録] オプションを使用して記録されたメール、または [リマインダーを記録] ページから記録されたメールが含まれます。営業担当者が受信メールを Salesforce のログに記録した場合の状況は「既読」になります。Summer '20 より前に記録されたメールの状況は変更されません。

古いバージョンの Outlook および Windows でのインテグレーションのサポート終了

Microsoft Internet Explorer 11 に対する Salesforce の延長サポートは 2020 年 12 月に終了します。サポートが終了すると、Outlook インテグレーションは以前のバージョンの Microsoft Outlook を使用している Windows ユーザでは機能しなくなります。Outlook のインテグレーション機能の使用を継続するには、Windows と Outlook を Internet Explorer 11 が不要な最新バージョンにアップグレードしてください。

対象: この変更は、すべてのエディションの Outlook インテグレーション (旧称 Lightning for Outlook) に適用されます。

対象ユーザ: 下記よりも前の環境を使用している Outlook インテグレーションユーザは、2020 年 12 月にインテグレーションにアクセスできなくなります。

- Office バージョン 16.0.11629.x 以降 (2019 年 5 月にリリース)
- Windows 10 バージョン 1903 以降 (2019 年 5 月にリリース)

理由: Outlook インテグレーションは、Microsoft アドインフレームワークに基づいて構築されています。このフレームワークの元のバージョンでは、デスクトップバージョンの Outlook から Salesforce アドインを起動するために Internet Explorer 11 が必要でした。この要件は、Salesforce アドインだけではなく、このフレームに基づいて構築されたすべてのアドインに適用されていました。このフレームワークの最新バージョンでは、アドインを起動するためのデフォルトのブラウザとして Microsoft Edge を使用します。最新バージョンの Windows および Outlook にはデフォルトで Microsoft Edge が含まれています。Internet Explorer 11 のサポートが終了すると、Edge ブラウザを使用していないユーザは Outlook インテグレーションにアクセスできなくなります。

Outlook インテグレーションの使用を続行するには、IT 部門と協力して Windows 10 および Office を Microsoft Edge がデフォルトで含まれている次のバージョンにアップグレードしてください。

- Office バージョン 16.0.11629.x 以降
- Windows 10 バージョン 1903 以降

別の方法として、Outlook や Windows を更新する必要がない Web 版の Outlook を使用すれば、ユーザはインテグレーションにアクセスできます。

関連トピック:

ナレッジ記事: Outlook Integration Does Not Connect Error (Outlook インテグレーションが接続しない: エラー) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Outlook インテグレーションのシステム要件 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

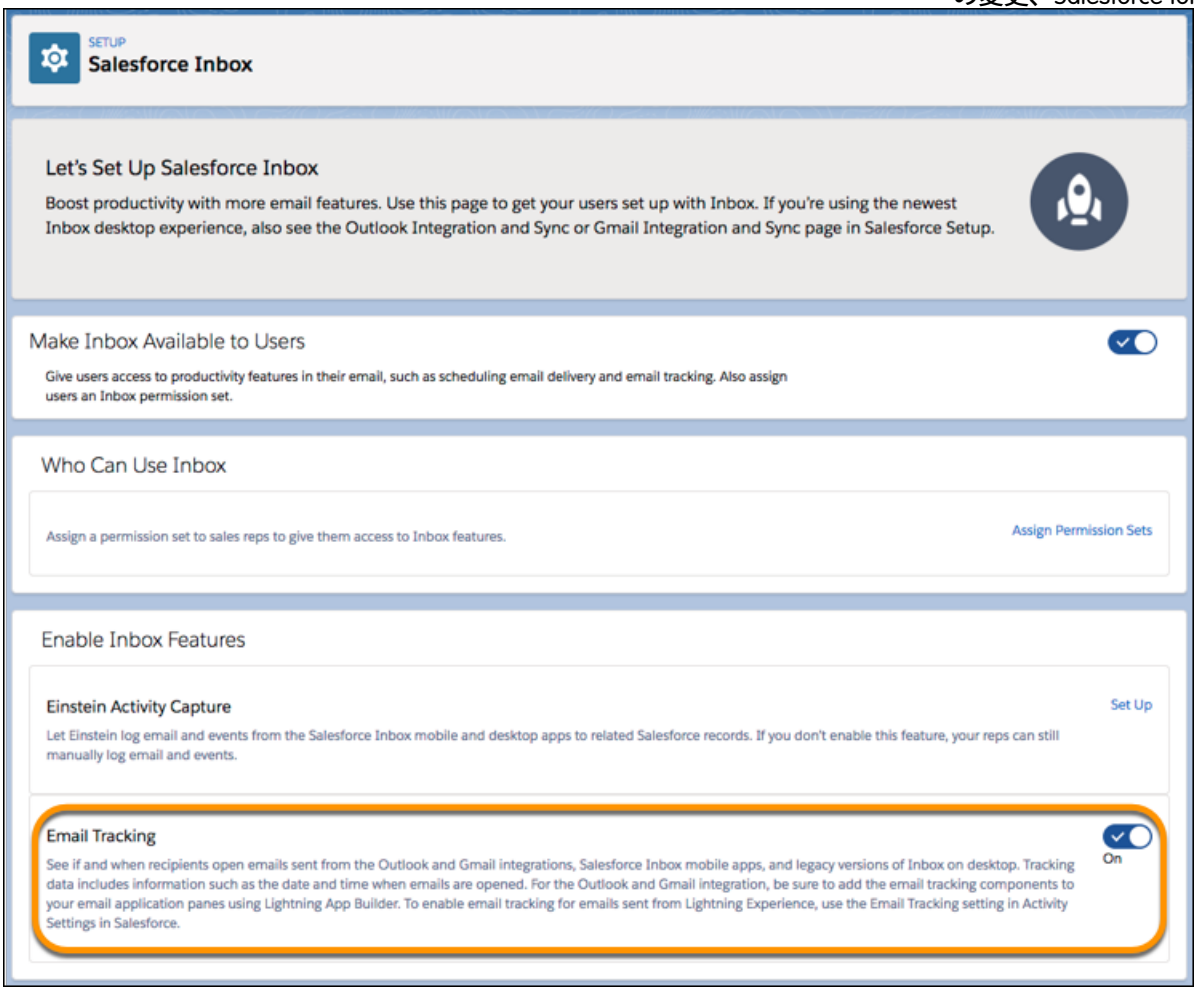
Salesforce の [設定] を使用した Outlook インテグレーションでのメール追跡の無効化

Outlook インテグレーションでは、Salesforce の [設定] で Salesforce Inbox の [設定アシスタント] ページの [メール追跡] 設定を使用するようになりました。設定が 1 つで済むため、デスクトップおよびモバイル Inbox アプリケーションにおけるメールのトラッキングを 1 つの場所からまとめてオンまたはオフにできます。この設定をオフにすると、メール追跡コンポーネントが Outlook インテグレーションに表示されなくなります。Lightning アプリケーションビルダーを使用してコンポーネントをメールアプリケーションペインに追加することはできません。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

理由: 設定が統一されたことで、メールのトラッキングをすべての Inbox ユーザに対してまとめてオフにすることができます。以前は、Outlook インテグレーションのメール追跡をオフにするには、メールインテグレーションペインからメール追跡コンポーネントを削除していました。

方法: [Salesforce の設定] の [クイック検索] ボックスに「*Inbox*」と入力し、[設定アシスタント] を選択します。[メールのトラッキング] 設定を使用して、この機能をオンまたはオフにします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:Outlook インテグレーションのメールの追跡に関する考慮事項(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Outlook インテグレーションでのアプリケーション全体のメールエンゲージメントの追跡

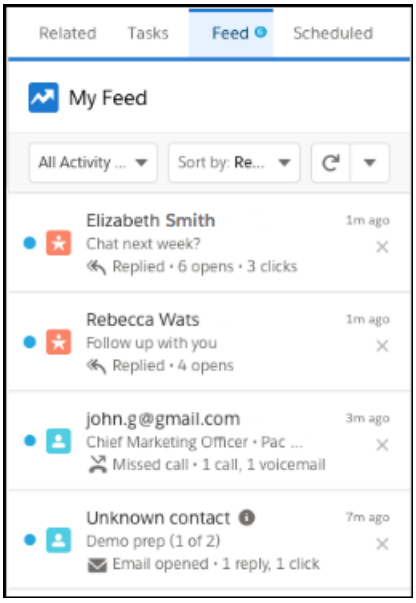
[フィード] タブは [追跡] タブに代わるもので、営業担当が Outlook インテグレーション、Lightning Experience、または High Velocity Sales 作業キューから送信したメールに対するエンゲージメントに関する情報が表示されます。営業担当者は、フィードを絞り込んだり並び替えたりすることで、見込みの高いリードを特定してフォローアップできます。アラートサマリーには、顧客または見込み客の名前、メールの件名、エンゲージメント種別、以前のエンゲージメント履歴が含まれます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

時期: Inbox ライセンスを持つユーザには、Summer '20 のリリースから 30 日後に、メールエンゲージメントを示す [フィード] タブが表示されます。この期間中に、フィードに入力されるデータが収集されます。

方法: Developer Edition、Personal Edition、Chatter Edition、および Database.com Edition では、Summer '20 リリースでは Inbox の機能はデフォルトで無効化されています。営業担当者が [フィード] タブを表示できるようにするには、[Salesforce Inbox 設定アシスタント] ページで Inbox を再び有効化してください。

有効化すると、最初のデータ収集期間が経過した後に [メールのトラッキング - リスト] コンポーネントが自動的に更新され、アラートやエンゲージメントの情報が表示されます。



ヒント: High Velocity Sales の作業キューを使用している営業担当者の場合は、同じエンゲージメント情報に加えて、High Velocity Sales 固有のエンゲージメントが作業キューの [私のフィード] タブに表示されます。High Velocity Sales を使用している場合は、フィードを 1 か所でのみ表示するように、Lightning アプリケーションビルダーでメールインテグレーションペインを設定できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Outlook および Gmail のメールインテグレーションペインへの作業キューコンポーネントの追加 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

見込み客のメールエンゲージメント詳細のリアルタイム表示

Salesforce ヘルプ: インテグレーションでのエンゲージメントおよびアラート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Outlook インテグレーションでテキストショートカットにアクセスするためのクイックテキストの有効化

テキストショートカットが保存されるようになったため、営業担当者は、どこでメールを作成するときでもテキストショートカットと個別のクイックテキストにアクセスできるようになりました。この変更では、Outlook インテグレーションでテキストショートカットにアクセスするためにクイックテキスト機能を有効にする必要があります。この変更により、Salesforce のメールチャネルに保存された個別のクイックテキスト語句を Outlook インテグレーションのテキストショートカットとして使用できます。Summer '20 以降に作成されたテキストショートカットを、Salesforce で個別のクイックテキストとして使用できます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

方法: クイックテキストは、Lightning Experience ではデフォルトで有効化されています。Salesforce Classic では、チャットが有効化されている場合はデフォルトで有効化されています。有効化するには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「*クイックテキスト設定*」と入力し、[クイックテキスト設定] を選択します。[クイックテキストを有効化] をクリックします。他のクイックテキスト設定は不要です。

メモ: 共有クイックテキストは、Salesforce 内でメールを作成する場合にのみ使用できます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: クイックテキストメッセージの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: クイックテキストの考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Outlook や Gmail でメールを作成する際のいろいろな機能 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

一部の Salesforce の Outlook インテグレーションで無効になった Inbox 機能

[Salesforce Inbox 設定アシスタント] ページの [ユーザが Inbox を使用できるようにする] 設定は、すべての Developer Edition とすでに販売されていないエディションでは無効化されるようになりました。これらのエディションで機能やインテグレーションを開発している場合や Inbox 機能に依存している場合には、設定を有効化してください。

対象: この変更は、Personal Edition、Developer Edition、Chatter Edition、および Database.com Edition の Salesforce Inbox に適用されます。

理由: Salesforce は、Inbox ライセンスを持つ本番組織と Sandbox 組織で、エンゲージメント機能とアラート機能用のデータ生成を有効化しました。この機能により、Inbox の [フィード] タブに表示されるデータが強化されます。Personal Edition、Developer Edition、Chatter Edition、および Database.com Edition ではエンゲージメントデータを収集しないと決めたため、Inbox を無効化しました。これらのエディションでも [ユーザが Inbox を使用できるようにする] 設定を有効化することができ、その場合はエンゲージメントデータの生成が開始されます。

Outlook インテグレーションから記録された送信済みメールの状況の変更

Outlook から営業担当が送信したメールは、状況が [既読] ではなく [送信済み] として Salesforce に記録されるようになりました。送信済みメールには、Outlook の [送信済みアイテム] フォルダから記録されたメール、[送信時にメールを記録] オプションを使用して記録されたメール、または [リマインダーを記録] ページから記録されたメールが含まれます。営業担当者が受信メールを Salesforce のログに記録した場合の状況は「既読」になります。Summer '20 より前に記録されたメールの状況は変更されません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

Lightning Sync for Microsoft® Exchange: 可用性の変更の保留、設定を使用できるシステム管理者の増加

Winter '21 以降、新しい Salesforce ユーザは Lightning Sync を使用できなくなります。Summer '20 では、Lightning Sync の設定と管理をサポートする代理人として、より厳しい権限を持つ会社のシステム管理者を指定することができます。同期を継続するには、Microsoft Office 365® ユーザは設定を確認し、Microsoft による基本認証の廃止に備える必要があります。

このセクションの内容:

新規のお客様は Lightning Sync for Microsoft Exchange を使用不可
Winter '21 以降、新しい Salesforce ユーザは Lightning Sync を使用できなくなります。Microsoft アプリケーションと Salesforce 間で営業担当の取引先責任者と行動の同期を開始するには、Einstein 活動キャプチャを探索することをお勧めします。Einstein 活動キャプチャを使用すると、取引先責任者と行動が同期されるほか、システム管理者の設定が容易になり、営業担当の生産性を向上するさらに多くの機能を使用できます。

より厳しい権限を持つシステム管理者への設定の委任
Lightning Sync for Microsoft Exchange の設定と管理をサポートする代理人として会社の他の Salesforce システム管理者を指定すると、ToDo リストをより迅速に完了できます。このシステム管理者に必要な権限が「ユーザの管理」と「Lightning Sync を管理」のみになりました。以前は、より厳しい管理者権限である「アプリケーションのカスタマイズ」も必要でした。

一部の Microsoft Office 365 ユーザに必要な変更
Microsoft® は Microsoft Office 365® と Exchange Online での基本認証の廃止を 2021 年下半期に移動しました。サービスアカウントを接続方法として使用している Office 365® ユーザの場合、この時点で取引先責任者と行動の同期が停止します。同期の中断を回避するには、Microsoft 管理者または IT プロフェッショナルと協力して Lightning Sync の接続方法を更新します。または、Einstein 活動キャプチャへの移行を検討します。

新規のお客様は Lightning Sync for Microsoft Exchange を使用不可

Winter '21 以降、新しい Salesforce ユーザは Lightning Sync を使用できなくなります。Microsoft アプリケーションと Salesforce 間で営業担当の取引先責任者と行動の同期を開始するには、Einstein 活動キャプチャを探索することをお勧めします。Einstein 活動キャプチャを使用すると、取引先責任者と行動が同期されるほか、システム管理者の設定が容易になり、営業担当の生産性を向上するさらに多くの機能を使用できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: Winter '21 に Salesforce を購入したユーザは Lightning Sync を有効化できません。Lightning Sync ユーザ、現在の Salesforce ユーザ、Winter '21 より前に Salesforce を購入したユーザは、Lightning Sync を有効化して Winter '21 以降も引き続き使用できます。Lightning Sync を使用可能なライセンスの種類については、「Lightning Sync ユーザライセンスサポート」を参照してください。

理由: より柔軟性の高い接続オプションと最適化された機能に対するユーザの要求がありました。最高の Microsoft インテグレーションを提供するため、Salesforce はリソースを組み合わせて 1 つの同期製品を提供することに重点的に取り組んでいます。その製品が Einstein 活動キャプチャです。Einstein 活動キャプチャを使用すると、Lightning Sync と同じ基本機能およびさらに多くの機能が得られます。

- Einstein 活動キャプチャの同期を使用すると、営業担当は、最新の取引先責任者および行動を、アプリケーション内の最も必要とする場所で取得できます。
- 営業担当がメールを送信および受信すると、Einstein 活動キャプチャは、関連する取引先、取引先責任者、契約、リード、商談、および見積レコードの活動タイムラインにそのメールを追加します。後続の活動も Salesforce に自動的に追加されます。共有設定を使用すると、関連するメールと行動を他のどのユーザに表示するかを決定できるため、チームの連携が向上します。
- Einstein メールインサイトでは、最適な応答を最適なタイミングで送信するのに役立つインテリジェントなデータが営業担当に提供されます。たとえば、顧客からのメールで競合他社がメンションされた場合、営業担当はすぐにフォローアップできます。

Einstein 活動キャプチャが提供するすべてのメリットは、「Einstein 活動キャプチャの機能」を参照してください。

Einstein 活動キャプチャはリリースのたびに改善されます。Salesforce リリースノートで常に最新の改善点を確認してください。

関連トピック:

ナレッジ記事: Lightning Sync: Not Available for New Salesforce Customers Starting in Winter '21 (Winter '21 以降、新しい Salesforce ユーザが使用できない)

Salesforce ヘルプ: Einstein 活動キャプチャと Lightning Sync の比較 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

より厳しい権限を持つシステム管理者への設定の委任

Lightning Sync for Microsoft Exchange の設定と管理をサポートする代理人として会社の他の Salesforce システム管理者を指定すると、ToDo リストをより迅速に完了できます。このシステム管理者に必要な権限が「ユーザの管理」と「Lightning Sync を管理」のみになりました。以前は、より厳しい管理者権限である「アプリケーションのカスタマイズ」も必要でした。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: 「ユーザの管理」権限と「Lightning Sync を管理」権限のみで、より厳しい権限を持つシステム管理者は [設定] から Lightning Sync 関連の管理タスクを完了できます。

- [ユーザが取引先責任者または行動あるいはその両方を Microsoft Exchange と Salesforce 間で同期できるようにする] 設定を有効にする。
- 同期設定を作成および編集する。
- Lightning Sync 接続テストを使用して同期の状況を確認する。

初めて設定する場合、取引先責任者と行動の同期を開始するには、Salesforce システム管理者には経験豊富な Microsoft 管理者のサポートも必要になることがあります。選択した接続設定によっては、Microsoft 管理者は Exchange サーバで他の設定手順を完了するか、サーバ管理者のログイン情報を提供することが必要になる場合があります。

方法: [設定] から、［クイック検索］ボックスに「*同期*」と入力し、[**Outlook** インテグレーションおよび同期] を選択します。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: サービスアカウントを使用した Microsoft® Exchange と通信するための Salesforce の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 営業担当の Lightning Sync for Microsoft® Exchange 設定の定義 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Microsoft® Exchange ユーザ向け Lightning Sync の接続テストの実行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning Sync for Microsoft® Exchange の設定の概要の把握 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

一部の Microsoft Office 365 ユーザに必要な変更

Microsoft® は Microsoft Office 365® と Exchange Online での基本認証の廃止を 2021 年下半期に移動しました。サービスアカウントを接続方法として使用している Office 365® ユーザの場合、この時点で取引先責任者と行動の同期が停止します。同期の中断を回避するには、Microsoft 管理者または IT プロフェッショナルと協力して Lightning Sync の接続方法を更新します。または、Einstein 活動キャプチャへの移行を検討します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この廃止は、サービスアカウントを使用して Salesforce に接続している、Exchange Online を含む Office 365 ユーザにのみ影響します。

次のユーザは影響を受けません。

- サービスアカウントの接続方法を使用して Salesforce に接続している、Exchange 2016® または社内の Exchange 2013® サーバのユーザ。Microsoft はこれらのサーバについて、基本認証の廃止を発表していません。
- OAuth 2.0 の接続方法を使用して Salesforce に接続している、Office 365 のユーザ。

理由: Lightning Sync サービスアカウントの接続方法では、基本認証を使用して Microsoft サーバを Salesforce に接続します。

方法: 同期の中断を回避するには、会社の Microsoft 管理者または IT プロフェッショナルと協力して、廃止の影響を受けるかどうかを確認します。次に、使用可能なソリューションを確認して、最適なソリューションを選

択します。詳細は、「Adjust Your Sync Setup before Basic Authentication Retirement (基本認証廃止前の同期設定の調整)」を参照してください。

関連トピック:

外部リンク: Basic Authentication and Exchange Online (基本認証および Exchange Online – 2020 年 4 月の更新プログラム)

Salesforce ヘルプ: Microsoft ユーザ用の OAuth 2.0 接続 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Sync のシステム要件 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce for Outlook: 一時的なアクセスの廃止の保留および復元

Salesforce for Outlook で使用している Microsoft® Internet Explorer 11 に対する Salesforce のサポートは 2020 年 12 月に終了します。次世代の Microsoft 製品および移行計画の開始方法をご確認ください。すでにブラウザのサポート変更による影響を受けているお客様は、12 月まで再接続する方法をご確認ください。

このセクションの内容:

2020 年 12 月に廃止される Salesforce for Outlook

Salesforce for Outlook は、Microsoft® Internet Explorer 11 の延長サポートが 2020 年 12 月に終了すると機能しなくなります。とはいえ、次世代製品である Outlook インテグレーションおよび Einstein 活動キャプチャでの進化を確認して、移行についてご確認ください。

2020 年 12 月より前にサービスが中断された場合のアクセスの復元

Microsoft® Internet Explorer® 11 のサポートが変更されたため、Salesforce Classic にアクセス権できない Salesforce for Outlook ユーザはサービスが中断される可能性があります。影響を受けるかどうかを調べる方法と、アクセスを復元する方法を説明しています。

バージョン固有の Salesforce for Outlook リリースノートの検索

各 Salesforce for Outlook バージョンで使用可能な更新について疑問がある場合は、Outlook/Gmail インテグレーション、および Inbox Trailblazer Community でバージョン固有のリリースノートを検索してください。

2020 年 12 月に廃止される Salesforce for Outlook

Salesforce for Outlook は、Microsoft® Internet Explorer 11 の延長サポートが 2020 年 12 月に終了すると機能しなくなります。とはいえ、次世代製品である Outlook インテグレーションおよび Einstein 活動キャプチャでの進化を確認して、移行についてご確認ください。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Salesforce for Outlook は 2020 年 12 月に廃止されます。

理由: IE11 の延長サポートの終了に伴い、Salesforce for Outlook では取引先責任者、行動、ToDo が同期されなくなります。同様に、Salesforce for Outlook サイドパネルは Salesforce に接続されなくなるため、営業担当は Microsoft Outlook® から Salesforce レコードを操作できません。

Outlook と Salesforce を引き続き統合するには、提案される次世代製品オプションを探索することをお勧めします。

方法: 廃止の詳細を確認して代替製品を比較するには、「Salesforce for Outlook Retirement (Salesforce for Outlook の廃止)」を参照してください。

最新製品への移行中のサポートについては、Summer '20 リリースで公開される移行ガイドをお待ちください。

関連トピック:

- Lightning Experience でサポートされるブラウザ
- *ナレッジ記事*: Microsoft Internet Explorer 11 を使用した Lightning Experience へのアクセスのサポート延長
- *Salesforce* ヘルプ: デスクトップでの Outlook および Gmail インテグレーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Einstein 活動キャプチャ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

2020 年 12 月より前にサービスが中断された場合のアクセスの復元

Microsoft® Internet Explorer® 11 のサポートが変更されたため、Salesforce Classic にアクセス権できない Salesforce for Outlook ユーザはサービスが中断される可能性があります。影響を受けるかどうかを調べる方法と、アクセスを復元する方法を説明しています。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce for Outlook ユーザは、以下のいずれかの条件に合致するとサービスが中断する場合があります。

- Salesforce 組織またはユーザが Salesforce Classic へのアクセス権を持たない
- ユーザの会社が 2020 年 12 月 31 までの Microsoft Internet Explorer 11 のサポート延長をオプトインしなかった

理由: 2016 年に Salesforce は IE11 での Lightning Experience のサポートを中止しました。Salesforce for Outlook は IE11 を利用して Microsoft Outlook® からの Salesforce データを表示しているため、IE11 へのアクセスが遮断されると Salesforce for Outlook ユーザも影響を受けます。

方法: Salesforce for Outlook へのアクセスを復元するには、2020 年 12 月に製品が廃止されるまで、提案されている回避策のいずれかを実行してください。

- IE11 のサポート延長をオプトインします。
- Salesforce サブスクリプション契約に Salesforce Classic へのアクセスも含まれている場合は、システム管理者が Salesforce Classic へのユーザアクセスを有効化することでアクセスを復元できます。

あるいは、次世代製品である Outlook インテグレーションと Einstein 活動キャプチャへの移行を検討してください。

アクセスを復元するための手順と次世代製品の詳細は、「Salesforce for Outlook No Longer Connects for Some Customers working from Lightning Experience (Salesforce for Outlook が一部の Lightning Experience ユーザと接続できなくなる)」を参照してください。

関連トピック:

- Lightning Experience でサポートされるブラウザ
- *Salesforce* ヘルプ: デスクトップでの Outlook および Gmail インテグレーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Einstein 活動キャプチャ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

バージョン固有の Salesforce for Outlook リリースノートの検索

各 Salesforce for Outlook バージョンで使用可能な更新について疑問がある場合は、Outlook/Gmail インテグレーション、および Inbox Trailblazer Community でバージョン固有のリリースノートを検索してください。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

- *Salesforce Trailblazer Community*: Salesforce for Outlook リリースノート

Salesforce CPQ および Salesforce Billing: 見積品目エディタの列幅の変更、Evergreen サブスクリプションの自動使用量サマリー、財務期間のエラー管理の改良

見積品目エディタの列幅を変更します。Evergreen サブスクリプション注文商品の最初の 12 件のサマリー以降の使用量の自動使用量サマリーを取得します。元の契約の商品バンドル構造を使用せずに修正を作成します。財務期間の開始または完了時に発生したエラーをすばやく確認して修正します。

このセクションの内容:

- Salesforce CPQ: 見積品目エディタの列サイズの最適化、Evergreen サブスクリプションの自動使用量サマリー、修正時のバンドル構造の保持要件のバイパス
  見積品目エディタの列幅を変更します。Evergreen サブスクリプション注文商品の最初の 12 件のサマリー以降の使用量の自動使用量サマリーを取得します。元の契約の商品バンドル構造を使用せずに修正を作成します。

Salesforce Billing: 財務期間のエラー処理の改善、支払サイトおよびホスト支払プラットフォームのゲストユーザセキュリティポリシーのバイパスオプション

エラーログを使用して、財務期間の開始または完了を妨げた問題をすばやく見つけて修正します。支払サイトまたはホスト支払プラットフォームへのゲストユーザのアクセスを回避する Salesforce Summer '20 セキュリティポリシーの変更をオプトアウトします。請求書品目の期日を参照し、納入商品の請求書品目の残高を参照します。

関連トピック:

ナレッジ記事: New Objects, Fields, and Permissions for Salesforce CPQ and Billing Summer '20 (Salesforce CPQ および Billing Summer '20 の新しいオブジェクト、項目、権限) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce CPQ: 見積品目エディタの列サイズの最適化、Evergreen サブスクリプションの自動使用量サマリー、修正時のバンドル構造の保持要件のバイパス

見積品目エディタの列幅を変更します。Evergreen サブスクリプション注文商品の最初の 12 件のサマリー以降の使用量の自動使用量サマリーを取得します。元の契約の商品バンドル構造を使用せずに修正を作成します。

メモ: Salesforce CPQ は有料オプションです。価格設定については、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

このセクションの内容:

見積品目エディタの列サイズの最適化

営業担当は好みに合わせて見積品目エディタのレイアウトを最適化できるようになりました。列幅のサイズを変更して水平スクロールを最小化したり、より効率的に作業できるように空白を減らしたりできます。また、見積品目エディタでは、最小列幅、自動保存機能、デフォルトにリセットする機能を使用できるようになりました。

使用量ベースの Evergreen サブスクリプションの自動使用量サマリー

Evergreen サブスクリプションを操作する営業担当の使用量価格設定の操作を改善します。営業担当は、有効な Evergreen サブスクリプション注文商品に使用量をいつでもアップロードできるようになりました。使用量の処理日が注文商品の未請求の有効な使用量サマリーのいずれにも該当しない場合、Salesforce Billing は使用量サマリーを作成し、その使用量サマリーに新しい使用量を割り当てます。

修正時のバンドル構造の保持要件をバイパスする場合の選択

営業担当は元の契約の商品バンドル構造を使用せずに修正を作成できるようになりました。新しい[バンドル構造の保持をバイパス]設定を使用すると、元のバンドル構造を維持するための要件が削除されます。バンドル商品は修正見積上の個別の見積品目になります。

権限セットライセンスへの CPQ の移行 (更新)

Salesforce CPQ の管理パッケージライセンスは、権限セットライセンスに置き換わります。お客様は、Winter '21 バージョンをインストールまたはこのバージョンにアップグレードする前に新しいライセンスをすべてのユーザに割り当てる必要があります。

見積品目エディタの列サイズの最適化

営業担当は好みに合わせて見積品目エディタのレイアウトを最適化できるようになりました。列幅のサイズを変更して水平スクロールを最小化したり、より効率的に作業できるように空白を減らしたりできます。また、見積品目エディタでは、最小列幅、自動保存機能、デフォルトにリセットする機能を使用できるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: デスクトップの品目エディタ設定で [列のサイズ変更を有効化] を選択します。各ユーザプロファイルに、列メタデータと項目メタデータオブジェクトに対する適切な権限があることを確認します。

使用量ベースの Evergreen サブスクリプションの自動使用量サマリー

Evergreen サブスクリプションを操作する営業担当の使用量価格設定の操作を改善します。営業担当は、有効な Evergreen サブスクリプション注文商品に使用量をいつでもアップロードできるようになりました。使用量の処理日が注文商品の未請求の有効な使用量サマリーのいずれにも該当しない場合、Salesforce Billing は使用量サマリーを作成し、その使用量サマリーに新しい使用量を割り当てます。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 以前は、営業担当が消費スケジュールに関連した Evergreen サブスクリプション商品を注文すると、Salesforce CPQ によって 12 件の使用量サマリーが含まれる注文商品が作成されました。最初の使用量サマリーは注文商品の開始日に開始され、各サマリーの長さは消費スケジュールの請求期間になりました。営業担当が元の 12 件のサマリー以外の使用量をアップロードする準備が整うと、システム管理者が追加の使用量サマリーを手動で作成していました。

方法: 新しい使用量サマリーは、注文商品の以前の使用量サマリーと同じ請求期間に従います。たとえば、前の 12 件の使用量サマリーは、期間が 1 か月であり、月の 1 日から始まり、2020 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日まで継続していたとします。営業担当が 2021 年 3 月 20 日の使用日で使用量をアップロードすると、Salesforce Billing は 2021 年 3 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までの使用量サマリーを作成します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Evergreen サブスクリプションを使用した消費スケジュールの注文 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

修正時のバンドル構造の保持要件をバイパスする場合の選択

営業担当は元の契約の商品バンドル構造を使用せずに修正を作成できるようになりました。新しい [バンドル構造の保持をバイパス] 設定を使用すると、元のバンドル構造を維持するための要件が削除されます。バンドル商品は修正見積上の個別の見積品目になります。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

理由: この設定により、修正を作成するときの柔軟性が高まります。ただし、可能な限り [バンドル構造を保持] 設定を引き続き使用することをお勧めします。バンドル構造の保持要件をバイパスすると、予期しない価格変更が発生したり、商品ルールや価格ルールの動作が予期せず変わったりする可能性があります。

バイパス設定を導入する前に商品ルール、価格ルール、トランザクションを徹底的にテストしてください。

方法: Salesforce CPQ の [サブスクリプションと更新] 設定で、[バンドル構造の保持をバイパス] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: サブスクリプションと更新パッケージ設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: CPQ の修正項目に関するガイドライン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

権限セットライセンスへの CPQ の移行 (更新)

Salesforce CPQ の管理パッケージライセンスは、権限セットライセンスに置き換わります。お客様は、Winter '21 バージョンをインストールまたはこのバージョンにアップグレードする前に新しいライセンスをすべてのユーザに割り当てる必要があります。

対象: この変更は、Salesforce CPQ のすべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Winter '21 で自動的に適用されます。Salesforce CPQ Winter '21 をインストールまたはアップグレードする前に、ユーザは新しい CPQ 権限セットライセンスを次のユーザに割り当てる必要があります。

- 管理パッケージライセンスを持つユーザ。
- プロファイルまたは権限セットを通じて CPQ オブジェクトまたは項目へのアクセス権を持つユーザ。

理由: Salesforce は、注文が処理されるとすぐにライセンス数の変更を自動的にプロビジョニングできます。この変更により、プロセスが可能な限り高速かつ正確になります。

方法: Salesforce CPQ Spring '20 では、CPQ パッケージ設定に準備状況ツールが追加されました。このツールにより、組織が安全に権限セットライセンスに移行できるか、または最初にライセンスエラーを解決する必要があるかがわかります。Salesforce CPQ Summer '20 では、準備状況ツールを実行した後で返されたエラーを組織が解決していない場合に見積品目エディタに表示される警告メッセージが導入されました。営業担当は警告を閉じた後に引き続き見積品目エディタにアクセスできます。

営業担当は警告を閉じた後に引き続き Salesforce CPQ Summer '20 の見積品目エディタにアクセスできます。ただし、Salesforce CPQ Winter '21 の前に準備状況ツールを使用し、ライセンスエラーを修正して、アップグレードすることをお勧めします。CPQ 権限セットライセンスまたは CPQ プロファイルを持たないユーザは、プロファイルまたは権限セットを通じて CPQ オブジェクトまたは項目へのアクセス権を持っていたとしても、Winter '21 で Salesforce CPQ にアクセスできなくなります。

関連トピック:

ナレッジ記事: Salesforce CPQ Error 'As of Winter '21, Salesforce CPQ requires permission set licenses instead of managed package licenses. Contact your Salesforce CPQ admin about upgrading.' (Salesforce CPQ エラー「Winter '21 で、Salesforce CPQ に管理パッケージライセンスではなく権限セットライセンスが必要になります。アップグレードについては Salesforce CPQ 管理者にお問い合わせください。」)

Salesforce Billing: 財務期間のエラー処理の改善、支払サイトおよびホスト支払プラットフォームのゲストユーザセキュリティポリシーのバイパスオプション

エラーログを使用して、財務期間の開始または完了を妨げた問題をすばやく見つけて修正します。支払サイトまたはホスト支払プラットフォームへのゲストユーザのアクセスを回避する Salesforce Summer '20 セキュリティポリシーの変更をオプトアウトします。請求書品目の期日を参照し、納入商品の請求書品目の残高を参照します。

このセクションの内容:

財務期間のエラー処理の向上
財務期間のエラーを容易に確認できるようになり、適切に修正できるようになりました。財務期間またはその収益トランザクションのエラーのために Salesforce Billing で財務期間を開始または完了できない場合、財務期間の [期間状況] 項目は新しいエラー値に変更されます。その後、財務期間の開始または完了を妨げた財務期間および収益トランザクションに関するエラーログレコードが作成されます。エラーログレコードには、アクションが失敗した理由に関する詳細情報が含まれているため、修正を行って、その財務期間でアクションを再試行することができます。

支払サイトおよびホスト支払プラットフォームのゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト
Summer '20 で導入されるゲストユーザセキュリティポリシーでは、ゲストユーザが Salesforce Billing で支払サイトまたはホスト支払プラットフォームにアクセスできなくなります。組織でこのいずれかの機能を使用する場合、このポリシーをオプトアウトし、Salesforce 組織での変更の影響を評価できます。

より多くのトランザクションを含む財務期間の終了
多数のトランザクションが含まれる財務期間をユーザが簡単に完了できるようになりました。多数のトランザクションが含まれる財務期間を完了するときに Salesforce Billing でエラーが発生しにくくなりました。

請求書品目期日の管理
請求書品目は [期日超過の日数] 項目と [期日] 項目を親請求書から継承するようになりました。

納入商品での請求書品目残高の表示
納入商品に関連する転記された請求書品目の合計残高を簡単に確認できるようになりました。納入商品には [請求書品目の残高] 項目があり、納入商品に関連する転記されたすべての請求書品目の合計残高が表示されます。納入商品の請求書品目の残高は、割り当てや支払いなど、関連する請求書品目に対して行われたアクションに従って更新され続けます。

財務期間のエラー処理の向上

財務期間のエラーを容易に確認できるようになり、適切に修正できるようになりました。財務期間またはその収益トランザクションのエラーのために Salesforce Billing で財務期間を開始または完了できない場合、財務期間の[期間状況]項目は新しいエラー値に変更されます。その後、財務期間の開始または完了を妨げた財務期間および収益トランザクションに関するエラーログレコードが作成されます。エラーログレコードには、アクションが失敗した理由に関する詳細情報が含まれているため、修正を行って、その財務期間でアクションを再試行することができます。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: ユーザまたはプロセスによって財務期間の状況が [進行中] から [完了] または [完了] から [進行中] に変更された場合、Salesforce Billing は財務期間とその収益トランザクションの検証を実行します。以前は、いずれか

の検証でエラーが返された場合、Salesforce Billing は財務期間の状況を元に戻し、アクションの失敗理由に関するエラーメッセージを提供しませんでした。ユーザは不必要な時間をかけて財務期間全体を手動で確認し、問題を見つける必要がありました。財務期間と収益トランザクションに関するエラーログにより、開始または完了できなかった理由をすぐに特定できるようになりました。

また、新しい [開始を待機中] と [完了を待機中] の状況も財務期間に追加されました。財務期間の状況を [進行中] から [完了] に変更すると、Salesforce Billing は検証を実行している間、状況を [完了を待機中] に設定します。検証が成功した場合、状況は [完了] に更新され、成功しなかった場合、[エラー] に更新されます。財務期間の状況を [完了] から [進行中] に変更すると、Salesforce Billing は検証を実行している間、状況を [開始を待機中] に設定します。検証が成功した場合、状況は [進行中] に更新され、成功しなかった場合、[エラー] に更新されます。

方法: 以前のバージョンの Salesforce Billing からアップグレードした場合、次の値を財務期間の [期間状況] 項目に追加します。

- エラー
- 完了待機中
- オープン待機中

財務期間の状況が [エラー] に変わった場合、その期間の [エラーログ] 関連リストに移動して、新しいエラーログを確認します。[状況] 項目を財務期間ページレイアウトの [収益トランザクション] 関連リストに表示される項目に追加することもお勧めします。これにより、開始または完了しなかった収益トランザクションをすばやく確認し、エラーログも確認できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 財務期間エラーの管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

支払サイトおよびホスト支払プラットフォームのゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト

Summer '20 で導入されるゲストユーザセキュリティポリシーでは、ゲストユーザが Salesforce Billing で支払サイトまたはホスト支払プラットフォームにアクセスできなくなります。組織でこのいずれかの機能を使用する場合、このポリシーをオプトアウトし、Salesforce 組織での変更の影響を評価できます。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: Salesforce Summer '20 リリースでは、すべての標準オブジェクトとカスタムオブジェクトに対してゲストユーザを最高レベルの「参照」または「作成」アクセス権に制限するセキュリティポリシーが追加されます。以前は、ゲストユーザに特定のオブジェクトでの「更新」、「削除」、「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」権限を付与できました。Salesforce は、新しい組織および準拠する既存の組織でのみこの新しいセキュリティポリシーを適用します。準拠する組織では、どのオブジェクトに対してもゲストユーザに「更新」、「削除」、「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」権限は付与されません。

Salesforce Billing の支払サイトおよびホスト支払プラットフォーム機能では、ゲストユーザは、支払および請求書の項目を変更するデータを入力する必要があります。これらのオブジェクトでは取引先オブジェクトが参照され、共有設定 [参照・更新: 主レコードの「参照・更新」以上のアクセス権を持つユーザに対して、関連する従レコードの作成、編集、削除を許可します] が有効になっています。この共有設定が有効化されていても、ゲストユーザは、取引先との主従関係を持つ Salesforce Billing オブジェクト (支払、支払方法、請求書など) を変

更できます。ただし、Summer '20 のセキュリティポリシーでは、プロファイルレベルのアクセス設定を上書きし、支払サイトでゲストユーザが支払を実行できないようにする 3 つの設定が有効化されます。

- ゲストユーザのレコードアクセス権を保護
- ゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルトの所有者に割り当て
- Salesforce サイトのゲストユーザによって作成された新規レコードのデフォルトの所有者への割り当て

方法: 更新を有効化すると、セキュリティポリシーによって Salesforce Summer '20 の 3 つの設定が有効化されることを回避できます。これらの設定が有効になっている場合、更新を有効化しても設定は無効になりません。設定にアクセスし、その状況を確認する手順は、次のとおりです。

- [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。ページの [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] チェックボックスを確認できます。
- [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*コミュニティ設定*」と入力し、[コミュニティ設定] を選択します。ページの [ゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルト所有者に割り当てる] チェックボックスを確認できます。
- [設定] から、[クイック検索] ボックスに「サイト」と入力し、[サイト] を選択します。ページの [Salesforce サイトのゲストユーザによって作成された新規レコードを割り当てる] チェックボックスを確認できます。

更新を有効化するには、[設定] の [重要な更新] に移動して、**[Summer '20 より前のゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト]** を選択します。Summer '20 以降、この更新を有効化できませんが、引き続き 3 つの設定を自分で選択または選択解除することはできます。Summer '20 リリースでこの設定をオプトアウトした場合、この設定がすべての組織に適用される Winter '21 までに新しいゲストセキュリティポリシーに準拠する必要があります。この問題の解決方法については現在調査中です。詳細は、この既知の問題を参照してください。

関連トピック:

Summer '20 より前のゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト (以前にリリース済みの更新)

Salesforce ヘルプ: Salesforce Billing の Lightning Platform 支払サイト (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: コミュニティおよび Lightning ページでの Salesforce Billing ホストカード支払 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

既知の問題: Salesforce Billing Hosted Payment Site does not work with Secure guest user record access enabled ([ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] を有効にすると Salesforce Billing でホストされる支払いサイトが機能しなくなる)

より多くのトランザクションを含む財務期間の終了

多数のトランザクションが含まれる財務期間をユーザが簡単に完了できるようになりました。多数のトランザクションが含まれる財務期間を完了するときに Salesforce Billing でエラーが発生しにくくなりました。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

請求書品目期日の管理

請求書品目は [期日超過の日数] 項目と [期日] 項目を親請求書から継承するようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [期日超過の日数] 項目と [期日] 項目は、新しい Salesforce Billing ユーザではデフォルトで請求書に表示されます。以前のバージョンの Salesforce Billing からアップグレードした場合は、これらの項目を請求書品目のページレイアウトに追加します。

納入商品での請求書品目残高の表示

納入商品に関連する転記された請求書品目の合計残高を簡単に確認できるようになりました。納入商品には [請求書品目の残高] 項目があり、納入商品に関連する転記されたすべての請求書品目の合計残高が表示されます。納入商品の請求書品目の残高は、割り当てや支払いなど、関連する請求書品目に対して行われたアクションに従って更新され続けます。

対象: この変更は、Salesforce Billing の Salesforce Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 注文商品には [納入商品 (CALM)] 参照項目があり、その API 参照名は `blng__asset__c` となっています。この項目に納入商品を入力して注文商品の請求を行うと、請求書品目の新しい [納入商品] 項目は [納入商品 (CALM)] の値を継承します。注文商品の請求を続行すると、納入商品は複数の請求書品目とリレーションを持つことになります。納入商品の請求書品目を納入商品の新しい [請求書品目] 関連リストで表示できます。納入商品の [請求書品目の残高] 項目には、納入商品に関連する転記された請求書品目の [残高] 項目の合計が表示されます。

ユーザは自分で、またはプロセスまたはワークフロールールを通じて [納入商品 (CALM)] を更新できます。[納入商品 (CALM)] 値は、注文商品の [納入商品] 項目 (`sbqq__asset__c`) と同じであるとは限りません。Salesforce CPQ では CPQ の機能に [納入商品] 項目を使用するのに対し、Salesforce Billing では Billing の機能に [納入商品 (CALM)] 項目を使用します。

[納入商品 (CALM)] 項目、[請求書品目の残高] 項目、請求書品目の [納入商品] 項目はデフォルトではページレイアウトに表示されません。ユーザが表示できるようにするには、各項目をそのページレイアウトに追加します。

メモ: Customer Asset Lifecycle Management (CALM) は、開発中の Salesforce Billing 機能です。準備ができたら、CALM に関する詳細情報を提供する予定です。

Pardot

Pardot で新しい B2B Marketing 機能 (Einstein 属性、マーケティングキャンペーンインテリジェンスアプリケーションなど) が開始されるほか、セキュリティ、同期、コンテンツの再利用、および機能の設定にいくつかの機能強化が加えられます。一部の機能は 6 月に使用可能になり、その他の機能は Salesforce Summer '20 リリースで使用可能になります。

このセクションの内容:

6 月に予定されている Pardot の変更
プロスペクト向けに Pardot アセットの参照のセキュリティが強化され、サポートに連絡することなく個人取引先の同期を有効にできます。また、新規 Pardot アカウントに対して Handlebars Merge Language が有効になり、マーケティング担当者のワークフローが簡素化されました。リストメールレポートの高度なメール分析のデータは、14 か月以上前のメールでは使用できなくなりました。これらの機能は、2020 年 6 月 15 日から 6 月 26 日の間にリリースされる予定です。

Summer '20 で予定されている Pardot の変更

Salesforce と Pardot のさらに多くのデータと ToDo をまとめて取り込みます。これで、マーケティングチームと営業チームがこれまで以上に連携できます。マーケティングキャンペーンインテリジェンスアプリケーションで相関を探索します。Einstein 属性でキャンペーンインフルエンスのパーセントを計算できるようにします。顧客を Salesforce から Pardot リストおよびエンゲージメントプログラムに容易に追加します。さらに、ユーザの同期と B2B Marketing Analytics 設定の機能が強化され、Pardot Sandbox が正式リリースされました。

6 月に予定されている Pardot の変更

プロスペクト向けに Pardot アセットの参照のセキュリティが強化され、サポートに連絡することなく個人取引先の同期を有効にできます。また、新規 Pardot アカウントに対して Handlebars Merge Language が有効になり、マーケティング担当者のワークフローが簡素化されました。リストメールレポートの高度なメール分析のデータは、14 か月以上前のメールでは使用できなくなりました。これらの機能は、2020 年 6 月 15 日から 6 月 26 日の間にリリースされる予定です。

このセクションの内容:

プロスペクト向けの Pardot アセットのセキュリティ強化

マーケティングアセットに関してブラウザをより安全に操作するために、SSL 対応の Pardot アセットをすべて強制的に HTTPS で読み込むためのアカウント設定が追加されました。ブラウザで SSL 対応の Pardot アセットが HTTP で要求された場合、Pardot では強制的に要求が HTTPS にリダイレクトされます。

サポートに連絡せずに個人取引先の同期を有効化

Pardot 管理者は Salesforce サポートに連絡することなく個人取引先の同期を有効にできます。以前は、プロスペクトを Salesforce 個人取引先と同期するには、サポートに連絡してこの機能を有効にしていました。

リストメールレポートの高度なメール分析のタイムリーな参照

14 か月以上前のメールのデータはリストメールレポートの [インタラクション] と [メールクライアント] タブの高度なメール総計値について記録されなくなりました。この変更は、Pardot の高度なメールインテグレーションを目的としています。送信日に関係なく、他のすべてのメールエンゲージメント総計値を参照できます。

Handlebars Merge Language をデフォルトで有効にして新規 Pardot アカウントを作成

マーケティングユーザ向けにワークフローを簡略化します。新規 Pardot アカウントで Handlebars Merge Language (HML) を有効にすることで、ユーザが最新の差し込み言語を使用できるようにして、Sales Cloud との統合をより簡単にします。既存の Pardot アカウントでは、管理者が手動で HML にアップグレードできます。

プロスペクト向けの Pardot アセットのセキュリティ強化

マーケティングアセットに関してブラウザをより安全に操作するために、SSL 対応の Pardot アセットをすべて強制的に HTTPS で読み込むためのアカウント設定が追加されました。ブラウザで SSL 対応の Pardot アセットが HTTP で要求された場合、Pardot では強制的に要求が HTTPS にリダイレクトされます。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

時期: この機能は、6 月 15 日から 6 月 26 日の間にリリースされる予定です。

方法: Pardot のアカウント設定ページからこの機能を有効にします。

関連トピック:

IdeaExchange: Securely redirect http to https (http から https へのセキュアなリダイレクト)

サポートに連絡せずに個人取引先の同期を有効化

Pardot 管理者は Salesforce サポートに連絡することなく個人取引先の同期を有効にできます。以前は、プロスペクトを Salesforce 個人取引先と同期するには、サポートに連絡してこの機能を有効にしていました。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

時期: この機能は、2020 年 6 月 15 日から 6 月 26 日の間にリリースされる予定です。

方法: 個人取引先の同期は、Salesforce-Pardot コネクタの設定ページから有効化されます。

リストメールレポートの高度なメール分析のタイムリーな参照

14 か月以上前のメールのデータはリストメールレポートの [インタラクション] と [メールクライアント] タブの高度なメール総計値について記録されなくなりました。この変更は、Pardot の高度なメールインテグレーションを目的としています。送信日に関係なく、他のすべてのメールエンゲージメント総計値を参照できます。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition のすべての Pardot エディションに適用されます。高度なメール分析を有効にした Pardot Growth にも適用されます。

時期: この機能は、2020 年 6 月 15 日から 6 月 26 日の間にリリースされる予定です。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:高度なメール分析レポート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Handlebars Merge Language をデフォルトで有効にして新規 Pardot アカウントを作成

マーケティングユーザ向けにワークフローを簡略化します。新規 Pardot アカウントで Handlebars Merge Language (HML) を有効にすることで、ユーザが最新の差し込み言語を使用できるようにして、Sales Cloud との統合をより簡単にします。既存の Pardot アカウントでは、管理者が手動で HML にアップグレードできます。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition のすべての Pardot エディションに適用されます。

時期: この機能は、2020 年 6 月 15 日から 6 月 26 日の間にリリースされる予定です。

Summer '20 で予定されている Pardot の変更

Salesforce と Pardot のさらに多くのデータと ToDo をまとめて取り込みます。これで、マーケティングチームと営業チームがこれまで以上に連携できます。マーケティングキャンペーンインテリジェンスアプリケーションで相関を探索します。Einstein 属性でキャンペーンインフルエンスのパーセントを計算できるようにします。顧客を Salesforce から Pardot リストおよびエンゲージメントプログラムに容易に追加します。さらに、ユーザの同期と B2B Marketing Analytics 設定の機能が強化され、Pardot Sandbox が正式リリースされました。

このセクションの内容:

Salesforce を使用した Pardot ユーザの管理

[Salesforce ユーザーの同期] の機能が強化され、以前よりもユーザの管理が簡単になりました。ユーザを Pardot に割り当てて Salesforce の [設定] から直接管理できるようになりました。

従来の B2B Marketing Analytics アプリケーションの廃止

Summer '20 リリース以降、従来の B2B Marketing Analytics アプリケーションのデータセットが更新されなくなります。従来のアプリケーションには、設定時に B2B Marketing Analytics アプリケーションテンプレートを選択せずに作成したカスタムアプリケーションが含まれます。

Salesforce-Pardot コネクタ v2 へのアップグレード

インスタントメタデータ同期、ビジネスユニットスイッチャ、Pardot インテグレーションユーザ などの機能強化を活用するには、Salesforce-Pardot コネクタの v2 にアップグレードします。

Pardot 用 Developer Sandbox を使用した設定変更のテスト (正式リリース)

Pardot 本番アカウントに実装する前に、新しい Pardot 用 Developer Sandbox を使用して設定変更を計画してテストします。この Sandbox は、Salesforce Sandbox からプロビジョニングされる Pardot ビジネスユニットです。

ファーストパーティ追跡 (ベータ)

Pardot では、プロスペクトのアクティビティデータを失うことなく、キャンペーン属性の柔軟性を高めて、ドメイン以外からのトラフィックをブロックできるようにファーストパーティ追跡が追加されました。消費者のプライバシーを保護するため、Web ブラウザでは今後数年のうちにサードパーティの Cookie のサポート終了を予定しています。マーケティング業界はサードパーティ Cookie を使用してマーケティングアセットおよびドメインにおけるプロスペクトエンゲージメントを追跡しています。訪問者の追跡の最先端にとどまるには、このベータをオプトインしてください。

スニペットの API 参照名の再利用

API 参照名の詳しい説明を考える時間を節約し、最も適切な名前を使用できます。各スニペットを異なるキャンペーンまたはビジネスユニットに割り当てるときに、スニペットに同じ API 参照名を使用できるようになりました。以前は、すべてのスニペットの API 参照名を一意にする必要がありました。適切に割り当てることで、event_name、copyright など、よく使用される API 参照名で十分間に合うようになりました。

Pardot API: 新規および変更された項目

これらの新機能および変更により、Pardot API をより効果的に使用できます。

一部のユーザ向けのプロスペクトリストビューの変更

Pardot では実験的なユーザインターフェース (UI) を削除しています。そのため、一部の Pardot Lightning アプリケーションユーザでプロスペクトテーブルの表示が変更されます。

B2B Marketing Analytics の設定を容易にするための手順

ヘルプ記事を比較して次の手順を確認する代わりに、Salesforce の [設定] で明確な手順に従って B2B Marketing Analytics の使用を開始できるようになりました。[設定] ページを開くと、設定が確認され、B2B Marketing Analytics を有効にするための適切な手順が表示されます。

Pardot と Salesforce のキャンペーンデータの横並びでの探索

新しいマーケティングキャンペーンインテリジェンスアプリケーションでは、2 つの読みやすいダッシュボードが 1 か所にまとめられています。キャンペーンエンゲージメントダッシュボードには Pardot からのプロスペクトエンゲージメントデータが表示され、キャンペーンパフォーマンスダッシュボードには Salesforce からの関連キャンペーンデータが表示されます。営業ユーザとマーケティングユーザはこれらのダッシュボードを探索したり、Einstein Discovery ストーリーを作成してエンゲージメントを最大にするためにプランを最適化できる方法を予測したりできます。

Pardot データフローへのアクセスとカスタマイズ

B2B Marketing Analytics Plus 製品と Pardot データを使用したときにどの項目がデータセットに取り込まれるかを正確に確認できるようになりました。簡単なインターフェースを使用してデータセットを作成すると、さらにダッシュボードをカスタマイズできます。必要な項目を選択し、不要な項目を選択解除します。

商談レコードでのエンゲージメントデータの確認

参照頻度の高いレコードの調整したエンゲージメントデータが表示される対話型ウィジェットへのアクセス権をユーザに付与します。一連の埋め込み可能なダッシュボードで商談レコードがサポートされるようになりました。ユーザはアクティビティ数、アクティビティの関連キャンペーンに関する詳細、関連取引先責任者別の最近のアクティビティのリストを確認できます。

キャンペーンレコードでの AI で強化された属性データの取得

Einstein 学習によって作成されたカスタマイズされたモデルを使用して、カスタマージャーニーで最も効果的なキャンペーンをより正確に識別できます。Einstein 属性により、ルールに基づくインフルエンスモデルが不要になります。Einstein 属性では、人工知能を使用して実際の顧客、そのエンゲージメント、自分の成功に基づいて収益配分を決定するデータ駆動型モデルを開発します。

レコードおよびリストビューからのプロスペクトリストおよび Engagement Studio プログラムへの追加

[Pardot リストに追加] と [Engagement Studio リストに追加] が Salesforce のレコードおよびリストビューページに追加するための標準ボタンとして使用できるようになりました。営業担当はこれらのボタンを使用して、CRM を離れることなく Pardot リストに見込み客を追加できます。Engagement Studio リストにプロスペクトを追加すると、該当する場合、関連する Engagement プログラムにも追加されます。

エンゲージメントデータセットからのテストメールの削除

ユーザの懸念を払拭するために、Pardot メールデータセットおよび Pardot Engagement History データセットからテストメールデータが削除されました。この 2 つのデータセットにはリストメールの送信のみに関連付けられたデータが含まれるようになり、[テスト] タブから送信されたメールのデータは無視されます。これらのデータセットは、B2B Marketing Analytics アプリケーションおよび組み込まれた Engagement History ダッシュボードで使用されます。

Salesforce を使用した Pardot ユーザの管理

[Salesforce ユーザーの同期] の機能が強化され、以前よりもユーザの管理が簡単になりました。ユーザを Pardot に割り当てて Salesforce の [設定] から直接管理できるようになりました。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

方法: これらの変更をどのように活用できるかは、アカウントまたはビジネスユニットが作成された時期と、[Salesforce ユーザーの同期] をすでに有効にしているかどうかによって異なります。

Summer '20 リリース以前に [Salesforce ユーザーの同期] を有効にしたアカウント: 最初に Salesforce の [設定] からユーザを割り当て、Salesforce へのユーザ管理制御を Pardot の [Salesforce ユーザーの同期] 設定から転送します。

Summer '20 リリースより前に作成され、[Salesforce ユーザーの同期] を有効にしていないアカウント: 最初の Salesforce の [設定] からユーザを割り当て、Pardot で [Salesforce ユーザーの同期] を有効にします。

Summer '20 リリースより後に作成されたアカウントおよびビジネスユニット: Salesforce の [設定] からユーザを割り当てます。

従来の B2B Marketing Analytics アプリケーションの廃止

Summer '20 リリース以降、従来の B2B Marketing Analytics アプリケーションのデータセットが更新されなくなります。従来のアプリケーションには、設定時に B2B Marketing Analytics アプリケーションテンプレートを選択せずに作成したカスタムアプリケーションが含まれます。

対象: この変更は、B2B Marketing Analytics アドオンを備えた Pardot Pro Edition および Ultimate Edition に適用されます。

方法: アプリケーションを B2B Marketing Analytics 2.0 に移行することをお勧めします。必要な手順の概要を次に示します。詳細は、「従来のユーザの移行」を参照してください。

1. 前提条件の設定を確認します。
2. 新しい権限セットを作成して割り当てます。
3. カスタムレンズ、データセット、ダッシュボードを [私の共有アプリケーション] または [私の非公開アプリケーション] フォルダーに保存します。
4. B2B Marketing Analytics テンプレートを使用してアプリケーションを作成します。
5. 古い管理パッケージがある場合は削除します。

Salesforce-Pardot コネクタ v2 へのアップグレード

インスタントメタデータ同期、ビジネスユニットスイッチャ、Pardot インテグレーションユーザなどの機能強化を活用するには、Salesforce-Pardot コネクタの v2 にアップグレードします。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

方法: アップグレードを開始するには、Pardot の [コネクター] ページに移動します。そこから、[開始] をクリックします。画面の指示に従ってアップグレードを完了します。

Pardot 用 Developer Sandbox を使用した設定変更のテスト (正式リリース)

Pardot 本番アカウントに実装する前に、新しい Pardot 用 Developer Sandbox を使用して設定変更を計画してテストします。この Sandbox は、Salesforce Sandbox からプロビジョニングされる Pardot ビジネスユニットです。

対象: この変更は、Sandbox が含まれる Salesforce アカウントに接続されたアカウントの Pardot Advanced Edition および Pardot Premium Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: Pardot 用 Developer Sandbox を作成するには、Salesforce Sandbox 内の [Pardot アカウントの設定] から新しいビジネスユニットをプロビジョニングします。

関連トピック:

IdeaExchange: Create true Pardot Sandbox environments (真の Pardot Sandbox 環境の作成)

ファーストパーティ追跡 (ベータ)

Pardot では、プロスペクトのアクティビティデータを失うことなく、キャンペーン属性の柔軟性を高めて、ドメイン以外からのトラフィックをブロックできるようにファーストパーティ追跡が追加されました。消費者のプライバシーを保護するため、Web ブラウザでは今後数年のうちにサードパーティの Cookie のサポート終了を予定しています。マーケティング業界はサードパーティ Cookie を使用してマーケティングアセットおよびドメインにおけるプロスペクトエンゲージメントを追跡しています。訪問者の追跡の最先端にとどまるには、このベータをオプトインしてください。

対象: この変更は Pardot のすべてのエディションに適用されます。

メモ: ファーストパーティ追跡はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。ファーストパーティ追跡に関するフィードバックと提案は、こちらの Google フォームからお寄せください。

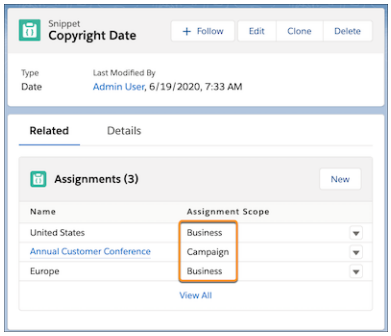
方法: [Pardot 設定] からファーストパーティ Cookie 追跡を有効にして、[ドメイン管理] でトラッカードメインを更新します。

スニペットの API 参照名の再利用

API 参照名の詳しい説明を考える時間を節約し、最も適切な名前を使用できます。各スニペットを異なるキャンペーンまたはビジネスユニットに割り当てるときに、スニペットに同じ API 参照名を使用できるようになりました。以前は、すべてのスニペットの API 参照名を一意にする必要がありました。適切に割り当てることで、event_name、copyright など、よく使用される API 参照名で十分間に合うようになりました。

対象: この変更は Pardot Lightning アプリケーションを使用するすべての Pardot エディションに適用されます。

方法: Handlebars Merge Language ではアセットに値を表示するために一意の識別子が必要ですが、スニペットの割り当て間で区別できるようになりました。重複する API 参照名を使用する予定の場合は、必ずこれらのスニペットを異なるキャンペーンまたはビジネスユニットに割り当ててください。



Pardot API: 新規および変更された項目

これらの新機能および変更により、Pardot API をより効果的に使用できます。

API のエクスポート

すべてのオブジェクト:返された項目を絞り込むためにすべてのエクスポートデータオブジェクトのサポートが追加されました。

プロスペクトオブジェクト:プロスペクトオブジェクトのサポートが追加されました。1年分のプロスペクトレポートを一度にエクスポートできます。

訪問者アクティビティオブジェクト:

- 訪問者アクティビティを絞り込んでプロスペクト ID があるレコードのみを返す機能が追加されました。
- 訪問者アクティビティを絞り込んで特定のタイプのレコードのみを返す機能が追加されました。
- `updated_at` の日付に基づいて訪問者アクティビティを取得する手順が追加されました。

リストメンバーシップオブジェクト:リストメンバーシップオブジェクトのサポートが追加されました。1年分のリストメンバーシップレポートを一度にエクスポートできます。

訪問者アクティビティ

`updated_at` の日付に基づいて訪問者アクティビティを照会できるようになりました。

Pardot API の認証

Salesforce 接続アプリケーションを使用して認証できるようになりました。この変更により、Pardot のみのユーザを認証する必要がなくなります。

関連トピック:

開発者ドキュメント: Pardot API ドキュメント

一部のユーザ向けのプロスペクトリストビューの変更

Pardot では実験的なユーザインターフェース (UI) を削除しています。そのため、一部の Pardot Lightning アプリケーションユーザでプロスペクトテーブルの表示が変更されます。

対象:実験的なプロスペクトリストビューの UI は Pardot Lightning アプリケーションで一部のユーザのみに使用できました。

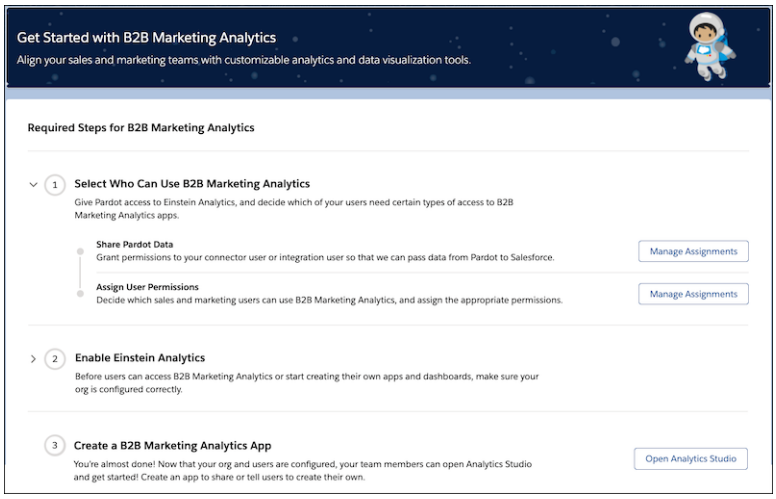
理由:実験的なバージョンではプロスペクトテーブルでの [すべて選択] オプションはサポートされませんが、標準 UI ではサポートされます。実験的なバージョンと標準バージョンのその他の違いはすべて外見上の違いです。

B2B Marketing Analytics の設定を容易にするための手順

ヘルプ記事を比較して次の手順を確認する代わりに、Salesforce の [設定] で明確な手順に従って B2B Marketing Analytics の使用を開始できるようになりました。[設定] ページを開くと、設定が確認され、B2B Marketing Analytics を有効にするための適切な手順が表示されます。

対象: この変更は Lightning Experience と Salesforce Classic に適用され、Pardot Plus Edition と Pardot Advanced Edition に含まれています。変更は、B2B Marketing Analytics アドオンを備える Pardot Pro Edition および Ultimate Edition にも影響します。

方法: Salesforce の [設定] を開き、[B2B Marketing Analytics] を検索します。[始めましょう] ページで、表示された手順に従います。必要に応じて利用できるダッシュボードおよびデータセットを有効にするには、[追加の機能] ページで手順を確認します。



一部のステップにあるテキストリンクを使用すると、Salesforceヘルプが開き、詳細が表示されます。ボタンをクリックすれば、各タスクを実行するための適切なアプリケーション内の場所に移動できます。

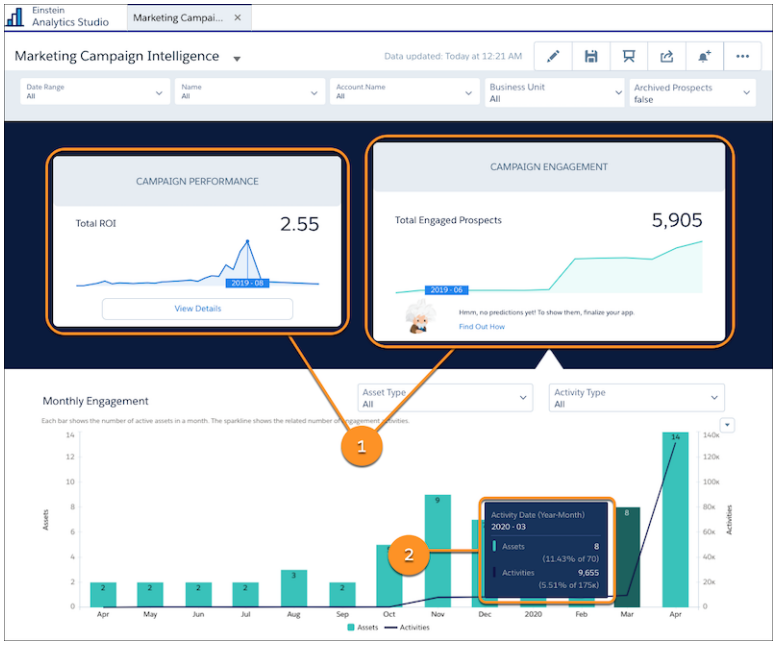
Pardot と Salesforce のキャンペーンデータの横並びでの探索

新しいマーケティングキャンペーンインテリジェンスアプリケーションでは、2つの読みやすいダッシュボードが1か所にまとめられています。キャンペーンエンゲージメントダッシュボードには Pardot からのプロスペクトエンゲージメントデータが表示され、キャンペーンパフォーマンスダッシュボードには Salesforce からの関連キャンペーンデータが表示されます。営業ユーザとマーケティングユーザはこれらのダッシュボードを探索したり、Einstein Discovery ストーリーを作成してエンゲージメントを最大にするためにプランを最適化できる方法を予測したりできます。

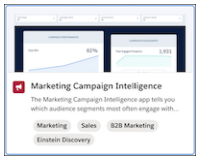
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。この機能は、Pardot Premium Edition または B2B Marketing Analytics Plus アドオンが含まれる Salesforce Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

理由: お客様は、どのオーディエンスセグメントのマーケティングキャンペーンとのエンゲージメントが最も多いかをもっと簡単に調べる方法を求めていました。ユーザには、データフロー内では明らかにされない特定のリレーションをより明確に把握できる事前設定済みのレポートとダッシュボードが必要です。また、将来のキャンペーンに最適な次のステップを識別できる必要もあります。マーケティングキャンペーンインテリジェンスアプリケーションと Einstein Discovery ストーリーでこれらをすべて実現できるため、ビジネスに必要な成果をより簡単に実現できます。

新しいアプリケーションでは、横に並べて表示されたダッシュボード (1) で集計が表示され、B2B Marketing Analytics 製品から期待される便利な詳細情報 (2) が表示されます。



方法: すでに B2B Marketing Analytics や Account-Based Marketing などの Analytics Studio アプリケーションを使用している場合、アプリケーションを作成したり、マーケティングキャンペーンインテリジェンスアプリケーションテンプレートを選択したりできます。



初めての分析アプリケーションである場合、最初に分析とデータ同期を有効にします。権限を検証して割り当て、Analytics Studio にアクセスして最初のアプリケーションを作成します。

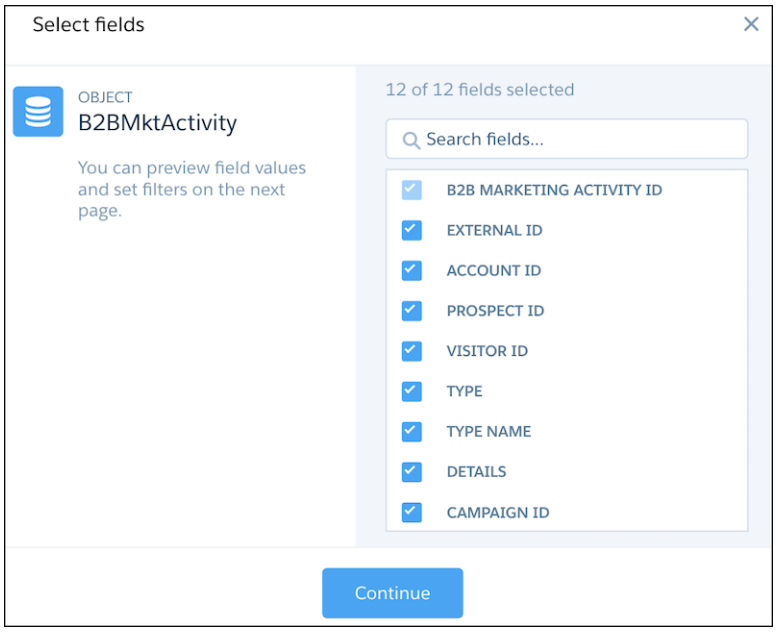
Pardot データフローへのアクセスとカスタマイズ

B2B Marketing Analytics Plus 製品と Pardot データを使用したときにどの項目がデータセットに取り込まれるかを正確に確認できるようになりました。簡単なインターフェースを使用してデータセットを作成すると、さらにダッシュボードをカスタマイズできます。必要な項目を選択し、不要な項目を選択解除します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。この機能は、Pardot Premium Edition または B2B Marketing Analytics Plus アドオンが含まれる Salesforce Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition で使用できます。

理由: この変更により、Analytics テンプレートアプリケーションでの Pardot データセットのパフォーマンスが向上します。データがデータマネージャに表示されるようになったため、Connect インターフェースを使用してカスタムデータセットを作成することもできます。たとえば、Pardot データ、Salesforce データ、Analytics に同期されるその他のサードパーティデータを結び付けて 1 つのデータセットにします。または、複数のビジネスユニットを使用している場合、それぞれに固有のカスタムデータセットを作成します。

方法: データセットは SFDC ローカルコネクタで自動的に使用できるようになっています。カスタムデータセットを作成するには、Analytics Studio にアクセスしてデータマネージャを開きます。[接続] タブで、SFDC ローカルとの新しいデータ接続を作成します。そこから、B2BMktActivity または B2BMktProspect データセットを選択し、新しいデータセットに含める項目を選択します。



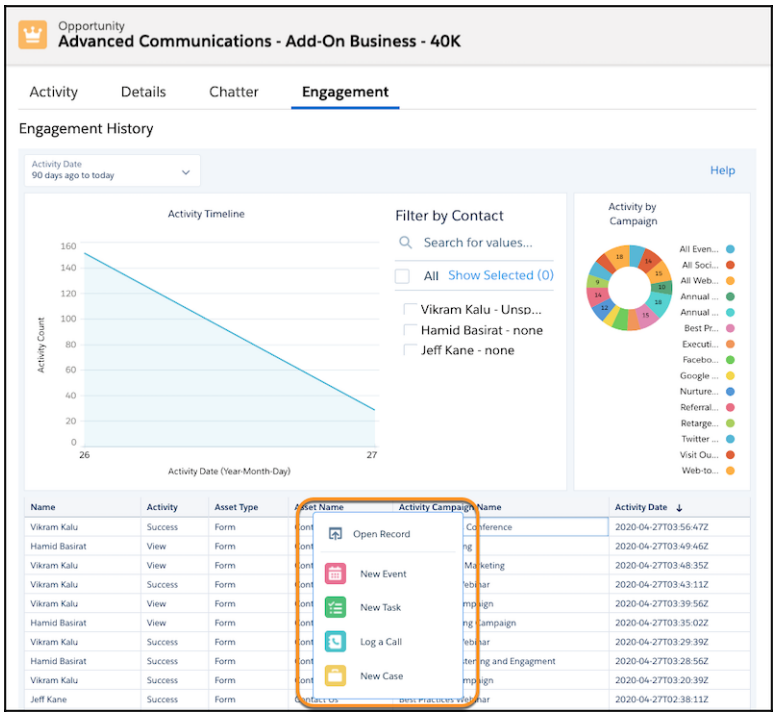
商談レコードでのエンゲージメントデータの確認

参照頻度の高いレコードの調整したエンゲージメントデータが表示される対話型ウィジェットへのアクセス権をユーザに付与します。一連の埋め込み可能なダッシュボードで商談レコードがサポートされるようになりました。ユーザはアクティビティ数、アクティビティの関連キャンペーンに関する詳細、関連取引先責任者別の最近のアクティビティのリストを確認できます。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition (API アクセス有効)、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition (Pardot Growth Edition、Pardot Plus Edition、Pardot Advanced Edition、または Pardot Premier Edition 付属) に適用されます。

方法: Salesforce の [設定] で [エンゲージメント履歴] を有効にします。次に、Lightning アプリケーションビルダーを使用して [エンゲージメント履歴ダッシュボード] コンポーネントを商談レコードのタブにドラッグします。

ウィジェット内をクリックすればこのデータを探索できます。



キャンペーンレコードでの AI で強化された属性データの取得

Einstein学習によって作成されたカスタマイズされたモデルを使用して、カスタマージャーニーで最も効果的なキャンペーンをより正確に識別できます。Einstein属性により、ルールに基づくインフルエンスモデルが不要になります。Einstein属性では、人工知能を使用して実際の顧客、そのエンゲージメント、自分の成功に基づいて収益配分を決定するデータ駆動型モデルを開発します。

対象: この変更は、Salesforce Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Pardot Advanced Edition および Pardot Premium Edition に適用されます。

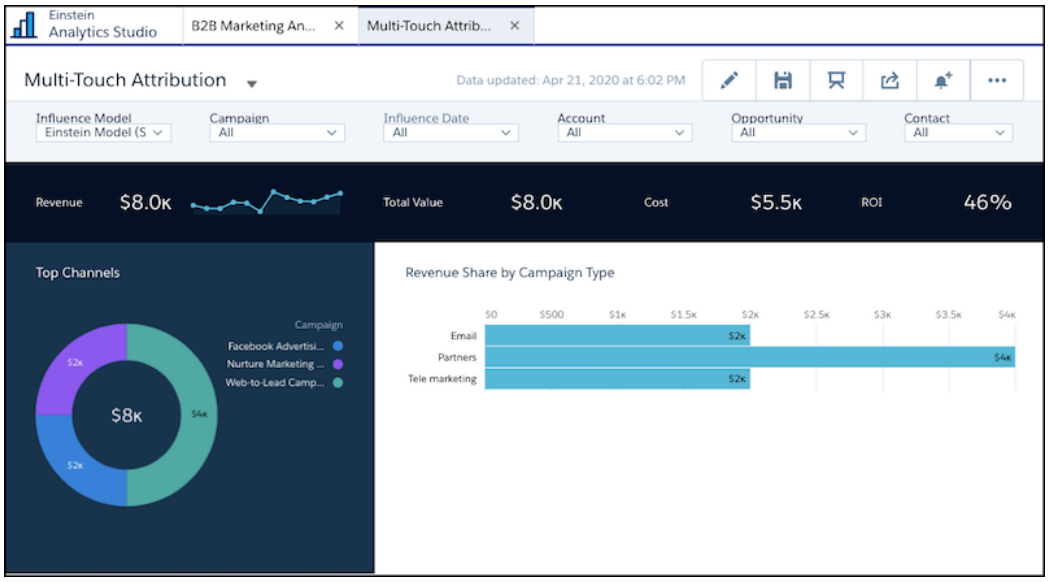
対象ユーザ: Einstein属性インサイトを表示するには、ユーザに「CRMユーザ」、「営業ユーザ」、または「サービスユーザ」権限セットが必要です。

理由: 他の属性モデルではユーザへの負担が大きくなります。ユーザは推定される加重に基づいてルールを作成するか、各キャンペーンの属性のパーセントを個別に入力する必要があります。一般に、突き詰めれば推測と手動入力ということになります。

Einstein属性では、人工知能によって顧客基盤に固有のモデルが作成され、このモデルは新しい情報が分析されるたびに変更されます。手動でレコードを作成することなく、お客様のジャーニーを通じて影響を多数のキャンペーンに割り当てることができます。

方法: 使用開始するには Einstein 属性の設定アシスタントを使用します。キャンペーンおよび商談ページでインサイトを公開するには、[キャンペーンインフルエンス]関連リストが揃っていることを確認してください。次に、データ駆動型モデルをデフォルトのキャンペーンインフルエンスモデルとして設定し、ニュースを営業チームおよびマーケティングチームと共有します。

さらに探索するには、B2B Marketing Analytics の [複数接触属性] ダッシュボードで [データ駆動型モデル] を開いてください。

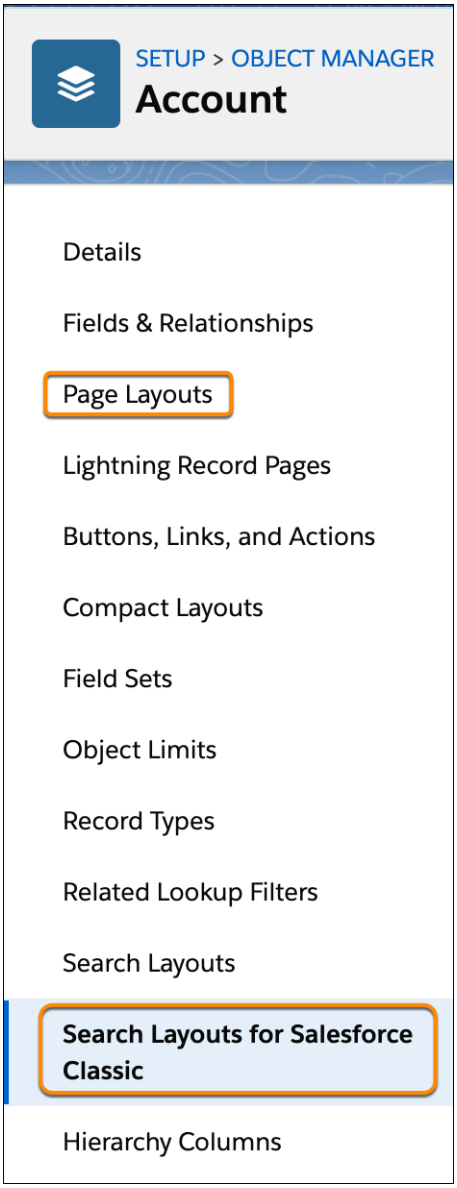


レコードおよびリストビューからのプロスペクトリストおよび Engagement Studio プログラムへの追加

[Pardot リストに追加] と [Engagement Studio リストに追加] が Salesforce のレコードおよびリストビューページに追加するための標準ボタンとして使用できるようになりました。営業担当はこれらのボタンを使用して、CRM を離れることなく Pardot リストに見込み客を追加できます。Engagement Studio リストにプロスペクトを追加すると、該当する場合、関連する Engagement プログラムにも追加されます。

対象: この変更は、Salesforce Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition のすべての Pardot エディションに適用されます。

方法: [Pardot リストに追加] ボタンと [Engagement Studio リストに追加] ボタンを標準アクションとしてリードまたは取引先責任者に追加します。[オブジェクトマネージャ] の [ページレイアウト] のレコードページに追加し、Salesforce Classic の [検索レイアウト] のリストビューに追加します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: [Pardot リストに追加] ボタンの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

IdeaExchange: 'Add to Nurture List' action should show related Engagement Programs ([ナーチャリングリストに追加] アクションで関連する Engagement プログラムを表示)

IdeaExchange: Bulk add leads to nurtures in Salesforce Engage (Salesforce Engage でナーチャリングするためのリードの一括追加)

IdeaExchange: Add Pardot "Add to Nurture" Button on List Views in Salesforce (Salesforce のリストビューでの Pardot [ナーチャリングに追加] ボタンの追加)

エンゲージメントデータセットからのテストメールの削除

ユーザの懸念を払拭するために、Pardot メールデータセットおよび Pardot Engagement History データセットからテストメールデータが削除されました。この2つのデータセットにはリストメールの送信のみに関連付けられたデータが含まれるようになり、[テスト] タブから送信されたメールのデータは無視されます。これらのデータセットは、B2B Marketing Analytics アプリケーションおよび組み込まれた Engagement History ダッシュボードで使用されます。

対象: この変更は、B2B Marketing Analytics および Engagement History の組み込みダッシュボードの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。B2B Marketing Analytics は、Pardot Plus Edition および Advanced Edition、または B2B Marketing Analytics を使用する Pardot Pro Edition および Ultimate Edition に含まれます。Engagement History 組み込みダッシュボードは、Salesforce Professional Edition (API アクセス有効)、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition (Pardot Growth Edition、Pardot Plus Edition、Pardot Advanced Edition、または Pardot Premier Edition 付属) で使用できます。

時期: テストメールデータは 2020 年 7 月 10 日に Pardot メールデータセットから、2020 年 7 月 15 日に Pardot Engagement History データセットから削除されました。

理由: メールデータセットの変更は過去にさかのぼって適用されるため、これらのデータセットが使用されている場所では新しい値がユーザに表示される場合があります。Engagement History データセットの変更は、2020 年 7 月 15 日以降に生成されたデータのみに適用されます。このデータセットに関しては大きく値が変更される可能性は低いですが、以前のベンチマークを評価するときはこの変更を考慮に入れてください。さらに、プロスペクトおよびアクティビティデータセットの一部のメールアクティビティ指標は Engagement History データセットから生成されます。これらのいずれかのデータセットでカスタムクエリを使用している場合、値が異なる可能性があります。

Sales Cloud のその他の変更

使い勝手をよくするため、および重複管理、メール、エンタープライズテリトリー管理の権限変更を改善するために加えられたその他の変更について説明します。

このセクションの内容:

Data.com Prospector と Data.com Clean の廃止

Data.com Prospector と Data.com Clean のライセンスは更新できなくなりました。Data.com Prospector または Data.com Clean 契約の期限が切れると、Data.com の機能、オブジェクト、および項目が組織から削除されます。

Salesforce の [設定] からの [Inbox] の [ユーザ数とライセンス数] ページの削除

Salesforce の [設定] で [Inbox] の [ユーザ数とライセンス数] ページは、予期しない結果が得られることがあるため、削除されました。購入および割り当て済みのライセンスの合計を表示するには、代わりに Salesforce の [設定] の [組織情報] ページを使用してください。どのユーザが Inbox に割り当てられているかを判断するには、[権限セット] ページを使用します。

Sales Cloud 機能の権限変更

Summer '20 リリースで有効になる Sales Cloud 機能へのアクセスに関する変更を確認します。

Data.com Prospector と Data.com Clean の廃止

Data.com Prospector と Data.com Clean のライセンスは更新できなくなりました。Data.com Prospector または Data.com Clean 契約の期限が切れると、Data.com の機能、オブジェクト、および項目が組織から削除されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。Data.com Prospector ライセンスは **Contact Manager** Edition (リードオブジェクトなし)、**Group** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition で使用できます。Data.com Clean ライセンスは **Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition で使用できます。

関連トピック:

ナレッジ記事: Data.com Clean および Prospector の廃止

Salesforce の [設定] からの [Inbox] の [ユーザ数とライセンス数] ページの削除

Salesforce の [設定] で [Inbox] の [ユーザ数とライセンス数] ページは、予期しない結果が得られることがあるため、削除されました。購入および割り当て済みのライセンスの合計を表示するには、代わりに Salesforce の [設定] の [組織情報] ページを使用してください。どのユーザが Inbox に割り当てられているかを判断するには、[権限セット] ページを使用します。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (有料オプション)、および Essentials Edition (無料) で使用できる Salesforce Inbox に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce 組織の権限セットライセンスの参照 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 機能の権限セットライセンスと権限セットの割り当て (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Sales Cloud 機能の権限変更

Summer '20 リリースで有効になる Sales Cloud 機能へのアクセスに関する変更を確認します。

重複管理

API を介した重複ルール、重複ジョブ、一致ルール、および一致条件へのアクセスが「設定・定義を参照する」権限のある認証済みユーザに制限されます。

メール

API 内のメールドメイン検索条件へのアクセスが「メール管理」、「アプリケーションのカスタマイズ」、および「設定・定義を参照する」権限のある認証済みユーザに制限されます。ユーザプロファイルの組織のメールアドレスへのアクセスは認証済みユーザに制限されています。

エンタープライズテリトリー管理
テリトリーとその割り当て、関連付け、カテゴリ、およびモデルへのアクセスが標準ユーザとパートナーユーザに制限されます。

関連トピック:

ナレッジ記事: ユーザプロファイル権限の説明

サービス: Service Cloud 音声、Einstein 返信のおすすめ、多言語 Einstein ボット、Field Service Lightning のシフトの改善など

Salesforce の機能を Amazon Connect のテレフォニーサービスと統合する新製品の Service Cloud 音声を介して、顧客と会話できます。Lightning サービスコンソールで類似する完了したチャットに基づくチャットの返信をサポートエージェントに推奨できます。Einstein ボットを 9 つの言語で使用できます。スケジュールビューの改善により、Field Service Lightning のシフト (ベータ) をより簡単に管理できます。

このセクションの内容:

Einstein for Service: 返信のおすすめ、複数言語の記事のおすすめ、拡張ボットイベントログ、ボット用 Facebook Messenger

類似する完了したチャットに基づくチャットの返信を多忙なサポートエージェントに推奨し、ナレッジ記事のおすすめを 5 個の新しい言語で表示します。チャットデータとクローズケース項目に基づく項目値のおすすめにより、サポートエージェントはケースをよりすばやく完了できます。拡張ボットイベントログを使用して迅速にトラブルシューティングを行い、スキルベースのルーティングを統合してボットが顧客を迅速に支援できるようにします。9 個の新しい言語と Facebook Messenger のサポートにより、ボットでより多くの顧客にリーチします。参照項目、チェックボックス、および選択リストで Einstein ケース分類の予測を受け取り、項目予測が自動更新の信頼性しきい値を満たしていないケースを識別します。

Field Service: 高度なシフト管理、最適化インサイト、アセットの可用性、紙吹雪

スケジュールビューの改善により、シフトの管理が容易になりました。特にスケジュールポリシーを調整するときに、最適化が KPI にどのように影響するかを確認できます。サービスレベルを事前に改善できるように、アセットの計画されたダウンタイムと計画されていないダウンタイムを監視します。ユーザが商品リクエストを進行させたときに、紙吹雪でお祝いします。

チャネル: サービス用音声、組み込みチャネルメニューのプレビュー、チャットヘッダーの再設計、カナダのショートコード

Salesforce の機能を Amazon Connect のテレフォニーサービスと統合する新製品の Service Cloud 音声を使用して、顧客と話をします。ライブプレビューで、組み込みチャネルメニューのブランドと表示ラベルの選択を確認します。組み込みチャットの標準ヘッダーを強化します。カナダのメッセージング用ショートコードを使用して、より多くの顧客にすばやくリーチします。

ナレッジ: 共有と記事の所有権

Lightning Knowledge では共有 (ベータ) が導入されているため、プラットフォームの能力を活用できます。デフォルトの共有を設定し、コンテンツおよび読者に合わせて条件ベースのルールを調整します。Lightning Knowledge があるすべての Salesforce 組織で使用できる所有者の変更アクションを使用すれば、共有に切り替えた場合の所有者に基づくアクセス権に関する具体的な情報を取得できます。

ルーティング: 状況ベースの業務量および優先度付けされたその他のスキル

状況ベースの業務量モデルが正式リリースされました。受け入れられた作業の状況を使用してエージェントの業務量をより正確に測定します。その他のスキルを 1 度にすべて削除するのではなく繰り返し削除します。

Service Cloud のその他の変更

Service Cloud に加えられたその他の変更について説明します。

Einstein for Service: 返信のおすすめ、複数言語の記事のおすすめ、拡張ボットイベントログ、ボット用 Facebook Messenger

類似する完了したチャットに基づくチャットの返信を多忙なサポートエージェントに推奨し、ナレッジ記事のおすすめを5個の新しい言語で表示します。チャットデータとクローズケース項目に基づく項目値のおすすめにより、サポートエージェントはケースをよりすばやく完了できます。拡張ボットイベントログを使用して迅速にトラブルシューティングを行い、スキルベースのルーティングを統合してボットが顧客を迅速に支援できるようにします。9 個の新しい言語と Facebook Messenger のサポートにより、ボットでより多くの顧客にリーチします。参照項目、チェックボックス、および選択リストで Einstein ケース分類の予測を受け取り、項目予測が自動更新の信頼性しきい値を満たしていないケースを識別します。

ALBERT EINSTEIN の権利は、ヘブライ大学の許可を受けた上で使用しています。Greenlight が排他的に代理人を務めています。

このセクションの内容:

Einstein 返信のおすすめを使用したチャットエージェントの応答の迅速化 (正式リリース)

Einstein 返信のおすすめは、チャットトランスクリプトのデータを分析し、顧客からの問い合わせに対応する返信を生成します。エージェントは顧客とチャットするときに、Lightning サービスコンソールの推奨される返信のリストから最も関連性の高い返信を選択できます。Einstein は、レビューおよび公開済みの返信のみを推奨します。

5 個の新しい言語での Einstein 記事のおすすめの提供 (パイロット)

Einstein 記事のおすすめは過去のケースのデータを使用して、エージェントが顧客の問い合わせに対応するために役立つ可能性が最も高いナレッジ記事を識別します。記事のおすすめは、英語に加えてフランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語で使用できるようになりました。

Einstein ケースラップアップを使用した迅速なケースのクローズ (パイロット)

顧客とのチャットには、ケース項目の更新につながる貴重なやり取りが含まれていることがよくあります。チャットデータとクローズケース項目値に基づくオンデマンドのおすすめにより、サポートエージェントはケースをよりすばやく完了できます。

Einstein ボット: Facebook Messenger、拡張イベントログ、スキルベースのルーティング、他

新しいボットの機能強化により、よりスマートなチャットボットを短時間で作成できます。スキルベースのルーティングや Facebook Messenger など、Service Cloud で人気のある機能との優れた新しいインテグレーションが用意されています。拡張イベントログで開発者がトラブルシューティングをより迅速に行えるようにし、新しい最先端の自然言語処理モデルでチャットボットをトレーニングします。新たにサポートされた 9 個の言語で、Einstein ボットの多言語環境を作成します。

Einstein ケース分類: 参照項目のサポートと新しい Lightning コンポーネント

Einstein ケース分類は、チェックボックスと選択リストに加えて、参照項目値を予測するようになりました。項目予測が信頼性しきい値を満たしていないケースを識別できるようになりました。項目のおすすめは新しい Lightning サービスコンソールコンポーネントに移動しました。

関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Search の結果の改善、Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、Einstein Discovery のアルゴリズムとデータの増加による予測の改善

Einstein 返信のおすすめを使用したチャットエージェントの応答の迅速化 (正式リリース)

Einstein 返信のおすすめは、チャットトランスクリプトのデータを分析し、顧客からの問い合わせに対応する返信を生成します。エージェントは顧客とチャットするときに、Lightning サービスコンソールの推奨される返信のリストから最も関連性の高い返信を選択できます。Einstein は、レビューおよび公開済みの返信のみを推奨します。

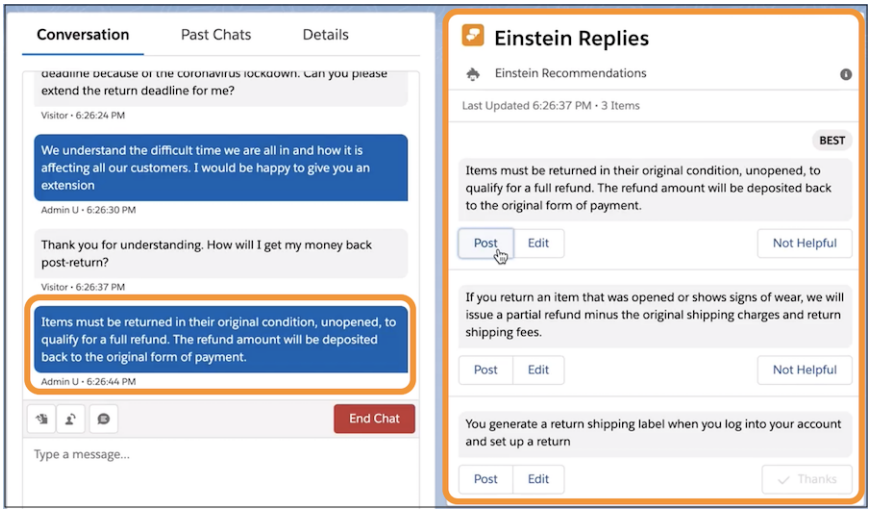
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Einstein 返信のおすすめは英語でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein 返信のおすすめは、Service Cloud Einstein アドオンライセンスに含まれます。返信を公開および管理するには、次の権限が必要です。

- クイックテキストの作成権限
- 「Einstein 返信のおすすめの返信の管理」ユーザ権限

エージェントがコンソールで返信を使用するには、「Einstein 返信のおすすめの表示およびアクション」ユーザ権限が必要です。

方法: [設定] の [Einstein 返信のおすすめ] ページでこの機能を有効にします。次に、予測モデルを作成して、Einstein が過去に完了したチャットに基づいて返信を生成できるようにします。サポートチームが使用できるようにする返信を識別し、必要に応じて編集します。たとえば、顧客の名前などの差し込み項目を追加して、クイックテキストに公開します。エージェントは Lightning サービスコンソールコンポーネントで推奨される公開済み返信を確認し、その 1 つを選択してチャットに挿入できます。



クイックテキストを管理する場合と同様に公開済み返信を管理し、いつでもおすすめを一時停止できます。たとえば、ビジネスポリシーを更新する場合、おすすめを一時停止して、古いポリシーが反映される返信を削除または更新できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein 返信のおすすめ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

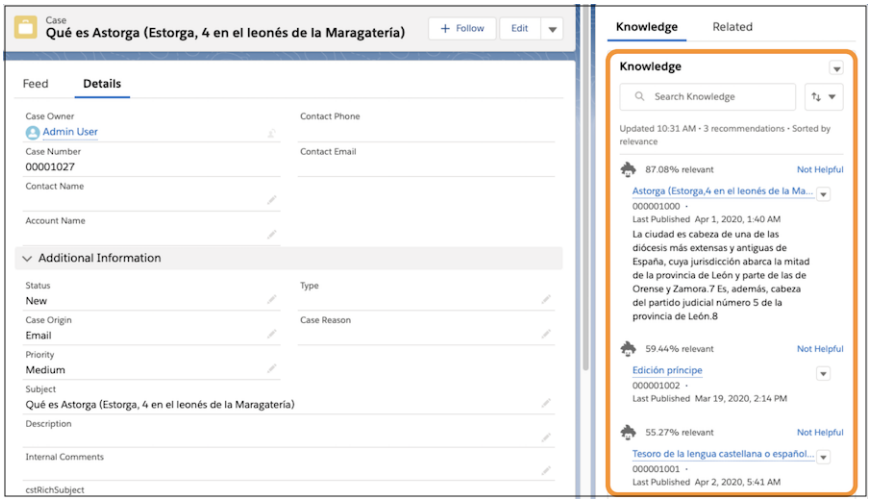
5 個の新しい言語での Einstein 記事のおすすめの提供 (パイロット)

Einstein 記事のおすすめは過去のケースのデータを使用して、エージェントが顧客の問い合わせに対応するために役立つ可能性が最も高いナレッジ記事を識別します。記事のおすすめは、英語に加えてフランス語、ドイツ語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語で使用できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: これらの新たにサポートされた言語での記事のおすすめは、英語の場合と同様に機能します。Salesforce 組織でサポートされるすべての言語に対する Einstein のおすすめが 1 つの予測モデルで制御され、エージェントは Lightning サービスコンソールのナレッジコンポーネントでおすすめを参照できます。Einstein は自然言語処理 (NLP) を使用して各ケースの言語を検出し、ナレッジ記事バージョンの [言語] 項目で記事の言語を確認します。

Einstein はケースの言語に基づいて記事を検索します。どれも関連性の要件を満たしていない場合、Einstein は次に組織のナレッジのマスタ言語、エージェントのデフォルト言語の順に記事を検索します。そのため、エージェントには複数の言語でケースの記事のおすすめが表示される場合があります。



方法: このパイロットにサインアップするには、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。サポートされている 6 個の言語のうち少なくとも 1 つを使用した次のデータがあることを確認してください。

- 100 個のナレッジ記事
- ケースに添付された 500 個の記事のインスタンス (「添付」とも呼ばれる)

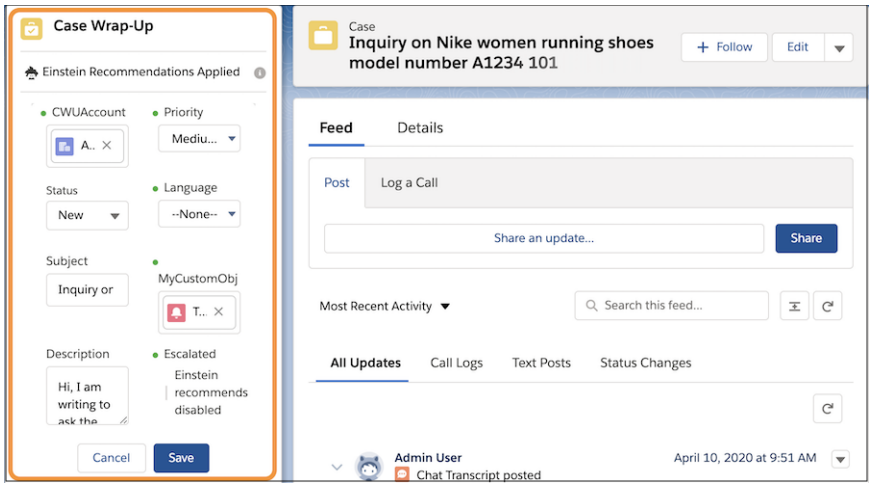
Einstein ケースラップアップを使用した迅速なケースのクローズ (パイロット)

顧客とのチャットには、ケース項目の更新につながる貴重なやり取りが含まれていることがよくあります。チャットデータとクローズケース項目値に基づくオンデマンドのおすすめにより、サポートエージェントはケースをよりすばやく完了できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Einstein ケース分類と同様に、Einstein ケースラップアップは過去のケースの活動に基づいてケース項目の値を提案します。ただし、Einstein ケースラップアップはクローズケースと完了したチャットトランスクリプトの両方から学習し、主要なカスタマーサービスデータを明らかにします。

おすすめは新しい Einstein 項目のおすすめ Lightning コンポーネントに表示されます。このコンポーネントは、Lightning サービスコンソールのケースおよびチャットレイアウトまたは任意の Lightning アプリケーションに追加できます。エージェントは **[Einstein のおすすめを取得]** をクリックして予測を表示し、推奨更新を確認して保存できます。予測のある項目は緑のドットで示されます。



方法: このパイロットにサインアップするには、Salesforce のアカウントエグゼクティブにお問い合わせください。Einstein ケースラップアップ予測モデルに含めるケース項目を選択します。

Einstein ボット: Facebook Messenger、拡張イベントログ、スキルベースのルーティング、他

新しいボットの機能強化により、よりスマートなチャットボットを短時間で作成できます。スキルベースのルーティングや Facebook Messenger など、Service Cloud で人気のある機能との優れた新しいインテグレーションが用意されています。拡張イベントログで開発者がトラブルシューティングをより迅速に行えるようにし、新しい最先端の自然言語処理モデルでチャットボットをトレーニングします。新たにサポートされた9個の言語で、Einstein ボットの多言語環境を作成します。

このセクションの内容:

拡張イベントログを使用した詳細なインサイトの取得

拡張イベントログの機能強化により、2つの新しいレベルのボットイベントログが提供されます。顧客との間で送受信されるメッセージを含む、非常に複雑なボットのトラブルシューティングを 1 ページで行えるようになりました。また、イベントログを使用して、平均会話時間や元のチャネルなどの重要業績評価指標に関するレポートを作成することもできます。API またはデータローダからボットセッションデータおよびイベントログをエクスポートして、チームと共有できます。会話定義セッションオブジェクトを使用して、チームと共有する標準レポートを作成します。

ボットのスキルベースのルーティングを使用した顧客満足度の向上

ボットでスキルベースのルーティングを使用して、作業を完了するために必要なスキルを持つエージェントと顧客をマッチングします。スキルを使用すると、言語能力、資格、製品知識など、ビジネスにとって重要な属性を定義できます。ボットは会話に複数のスキルを割り当て、一致するエージェントに転送できるようになりました。

Facebook Messenger を使用した利用者の拡大 (正式リリース)

ボットを米国で最も人気のあるメッセージングアプリケーションに即座に接続します。毎月 4,000 万人の有効なビジネスと 10 億人を超える有効ユーザが利用している Facebook Messenger が Einstein ボットのチャネルとして正式リリースされました。統合された設定ツールを使用して、チャットボットのアイデアを数分で公開できます。

ボットモデルの機能強化の理解 (正式リリース)

深層学習を使用してより適切なインサイトとインテント照合を生成する新しい自然言語処理モデルにより、ボットがよりスマートになりました。1 回クリックするだけでボットを再トレーニングできるようになりました。

複数言語ボットの導入

複数言語の拡張機能を使用して顧客と話すようにボットをトレーニングします。Einstein ボットで英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語がサポートされるようになりました。中国語 (簡体字)、中国語 (簡体字)、日本語はベータです。

ボットビルダーのアップグレードによるボットの管理

マップビューと詳細ビューで折りたたみ可能なボットダイアログステップを使用して、現在の作業にさらに集中できます。ボットトレーニングの新しい一括アクションを使用して、ボットをよりすばやくトレーニングします。「インテント拡張」の名前が「インテントセット」に変更され、モデルのナビゲーションが容易になりました。ボットが成長するにつれて、ボットを整理して一貫したトレーニングを促進するためにこれらのツールが役立ちます。

インテント管理とボットイベントデータに関する基本ドキュメントの入手

インテントモデルの作成、組織間のボットデータの移行、ボットの会話に関するレポートの作成を行う最適な方法を学ぶことで、ボットのエキスパートになることができます。Salesforce ヘルプに追加された、インテント管理とボットイベントデータの 2 種類の Einstein ボットデータの処理に関するベストプラクティスに基づいてボットを作成します。

Einstein ボット: 制限の緩和

Einstein ボットの有効なボットの制限の変更について説明します。

Einstein ボットの動的キュールーティングの作成

Einstein ボットでチャットボタンキューが使用されるようになったため、会話で転送キューまたはスキルに基づいて次に対応可能なエージェントを待機できます。

拡張イベントログを使用した詳細なインサイトの取得

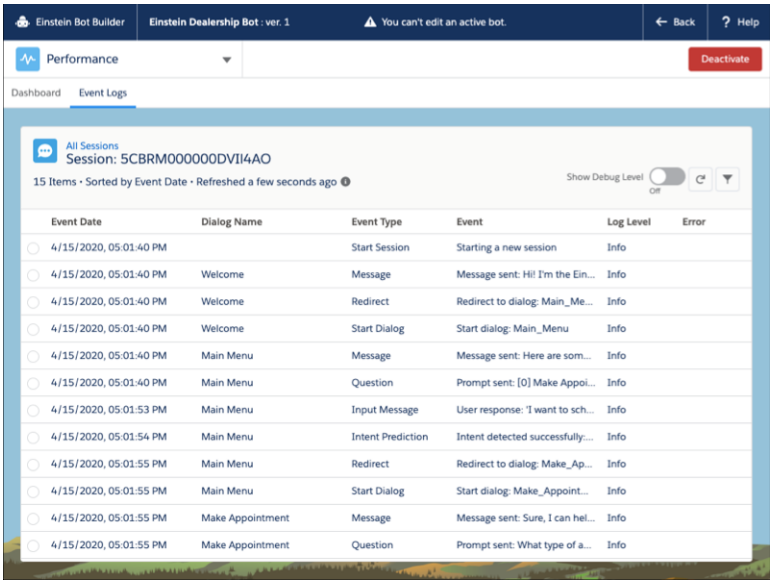
拡張イベントログの機能強化により、2 つの新しいレベルのボットイベントログが提供されます。顧客との間で送受信されるメッセージを含む、非常に複雑なボットのトラブルシューティングを 1 ページで行えるようになりました。また、イベントログを使用して、平均会話時間や元のチャネルなどの重要業績評価指標に関するレポートを作成することもできます。API またはデータローダからボットセッションデータおよびイベントログをエクスポートして、チームと共有できます。会話定義セッションオブジェクトを使用して、チームと共有する標準レポートを作成します。

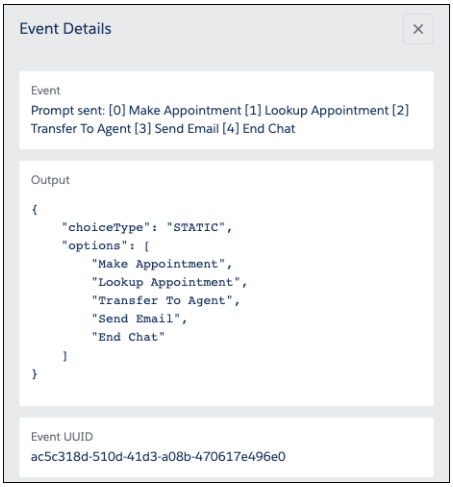
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャット

または Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。

方法: ボットビルダー内の [パフォーマンス] タブでイベントログにアクセスできます。ボットイベントログを表示するには、「API の有効化」、「すべてのデータの参照」、「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。標準レポートを作成するには、レポートを作成する前に会話定義セッションオブジェクトを使用してレポートタイプを作成する必要があります。ボットセッションまたはイベントログをエクスポートするには、API バージョン 49.0 以上と、会話定義セッション、会話イベントログ、会話定義セッションエンゲージメントオブジェクトを使用します。





ボットのスキルベースのルーティングを使用した顧客満足度の向上

ボットでスキルベースのルーティングを使用して、作業を完了するために必要なスキルを持つエージェントと顧客をマッチングします。スキルを使用すると、言語能力、資格、製品知識など、ビジネスにとって重要な属性を定義できます。ボットは会話に複数のスキルを割り当て、一致するエージェントに転送できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。

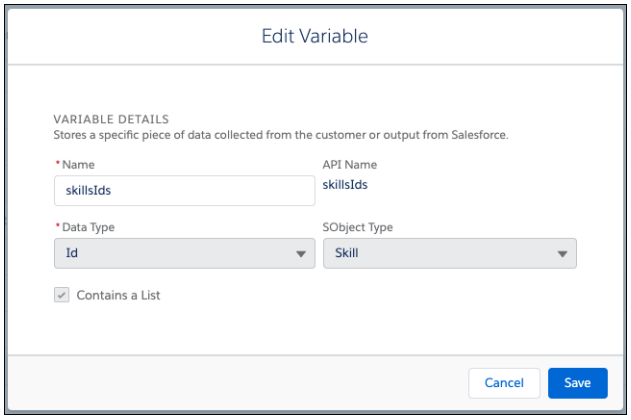
How: 前提条件:

- 有効化されたチャット
- スキルベースのルーティングが有効化されたオムニチャネルの設定(スキルベースのルーティングを初めて使用する場合は、設定手順のステップ 1 ～ 5 を完了してください)
- 作成済みのスキルと 18 桁のスキル ID のリスト
- 有効化された Einstein ボット

メモ: スキルベースのルーティングと Einstein ボットの制限事項:

- Einstein ボットでは、スキルベースのルーティングを使用した属性設定はサポートされていません。
- 転送が発生しても対応可能なエージェントがいないと、ボットによって [対応可能なエージェントなし] システムダイアログに転送されます。

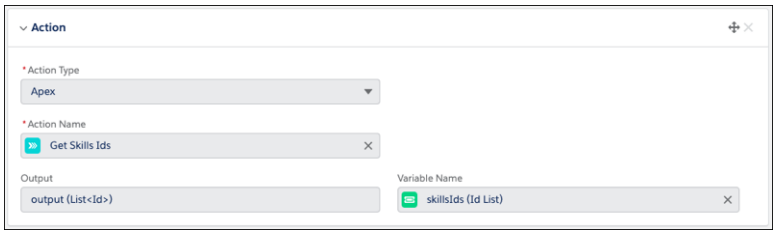
1. ボットで、ID のデータ型を使用してリスト変数を作成します。[sObject 型] を [スキル] に設定します。



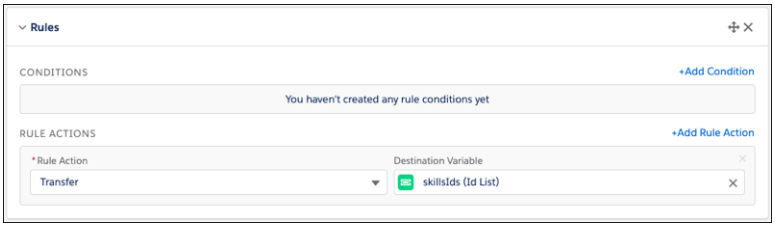
2. スキル ID のセットをリストに追加する Apex クラスを作成します。スキル ID のリストを参照用のコメントとして追加することをお勧めします。

```
global with sharing class GetSkillsIdsAction {
    @InvocableMethod(label='Get Skills Ids' description='Return Ids of Skills')
    global static List<List<Id>> getSkillsIds() {
        List<Id> skillsIds = new List<Id> ();

        /*
        * 18 char Skills Ids in the org:
        *
        * Dutch - 0C5RM000000028I0AQ
        * French - 0C5RM000000028D0AQ
        * Spanish - 0C5RM000000026R0AQ
        */

        skillsIds.add('0C5RM000000028I0AQ');
        skillsIds.add('0C5RM000000026R0AQ');

        return new List<List<Id>> {skillsIds};
    }
}
```

3. Einstein ボットビルダーで、Apex クラスをコールしてボット変数にスキル ID を設定するアクションダイアログステップを追加します。



4. ルールダイアログステップを条件なしで追加します。[ルールアクション]で、ボット変数への[転送]を選択します。



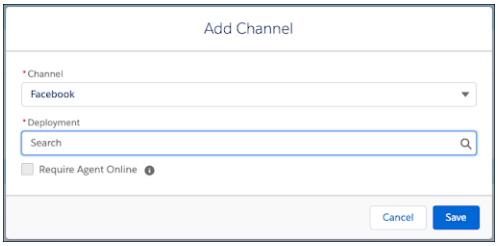
Facebook Messenger を使用した利用者の拡大 (正式リリース)

ボットを米国で最も人気のあるメッセージングアプリケーションに即座に接続します。毎月 4,000 万人の有効なビジネスと 10 億人を超える有効ユーザが利用している Facebook Messenger が Einstein ボットのチャネルとして正式リリースされました。統合された設定ツールを使用して、チャットボットのアイデアを数分で公開できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。

方法: メッセージングで Facebook ページを設定してから、そのページをボットに追加します。ページを追加したら、ボットビルダーの[概要]ページに移動します。[チャネル]メニューで[追加]をクリックして、[チャネル]として [Facebook] を選択し、[リリース] 項目で [チャネル名] を選択します。



ボットモデルの機能強化の理解 (正式リリース)

深層学習を使用してより適切なインサイトとインテント照合を生成する新しい自然言語処理モデルにより、ボットがよりスマートになりました。1 回クリックするだけでボットを再トレーニングできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。

方法: ボットビルダーの [モデル管理] セクションで [モデルを作成] をクリックして、新しいインテントモデルでボットを再トレーニングできます。

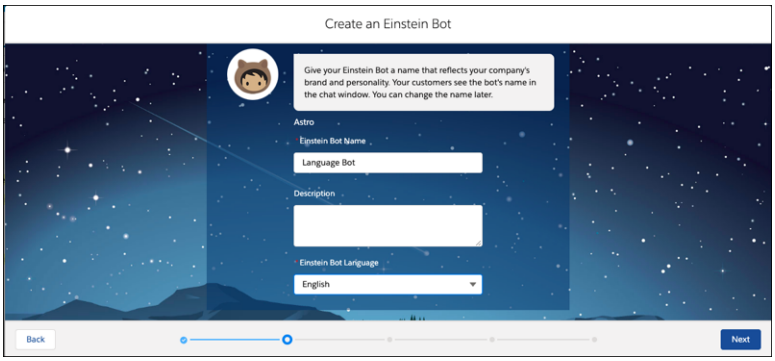
複数言語ボットの導入

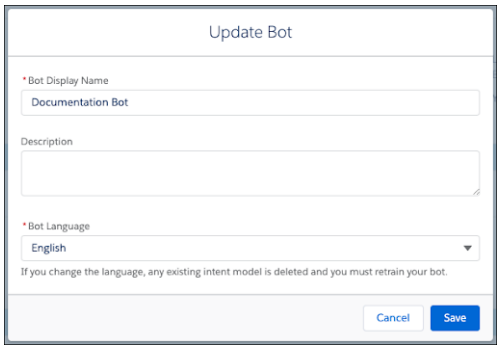
複数言語の拡張機能を使用して顧客と話すようにボットをトレーニングします。Einstein ボットで英語、スペイン語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語がサポートされるようになりました。中国語 (簡体字)、中国語 (簡体字)、日本語はベータです。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。

方法: ボットの言語の設定は必須になりました。新規ボットの設定フローで、新しいボットの言語を選択できます。ボットの [概要] ページの [ボット情報] セクションを編集して、以前に作成したボットに言語を割り当てることができます。





ボットビルダーのアップグレードによるボットの管理

マップビューと詳細ビューで折りたたみ可能なボットダイアログステップを使用して、現在の作業にさらに集中できます。ボットトレーニングの新しい一括アクションを使用して、ボットをよりすばやくトレーニングします。「インテント拡張」の名前が「インテントセット」に変更され、モデルのナビゲーションが容易になりました。ボットが成長するにつれて、ボットを整理して一貫したトレーニングを促進するためにこれらのツールが役立ちます。

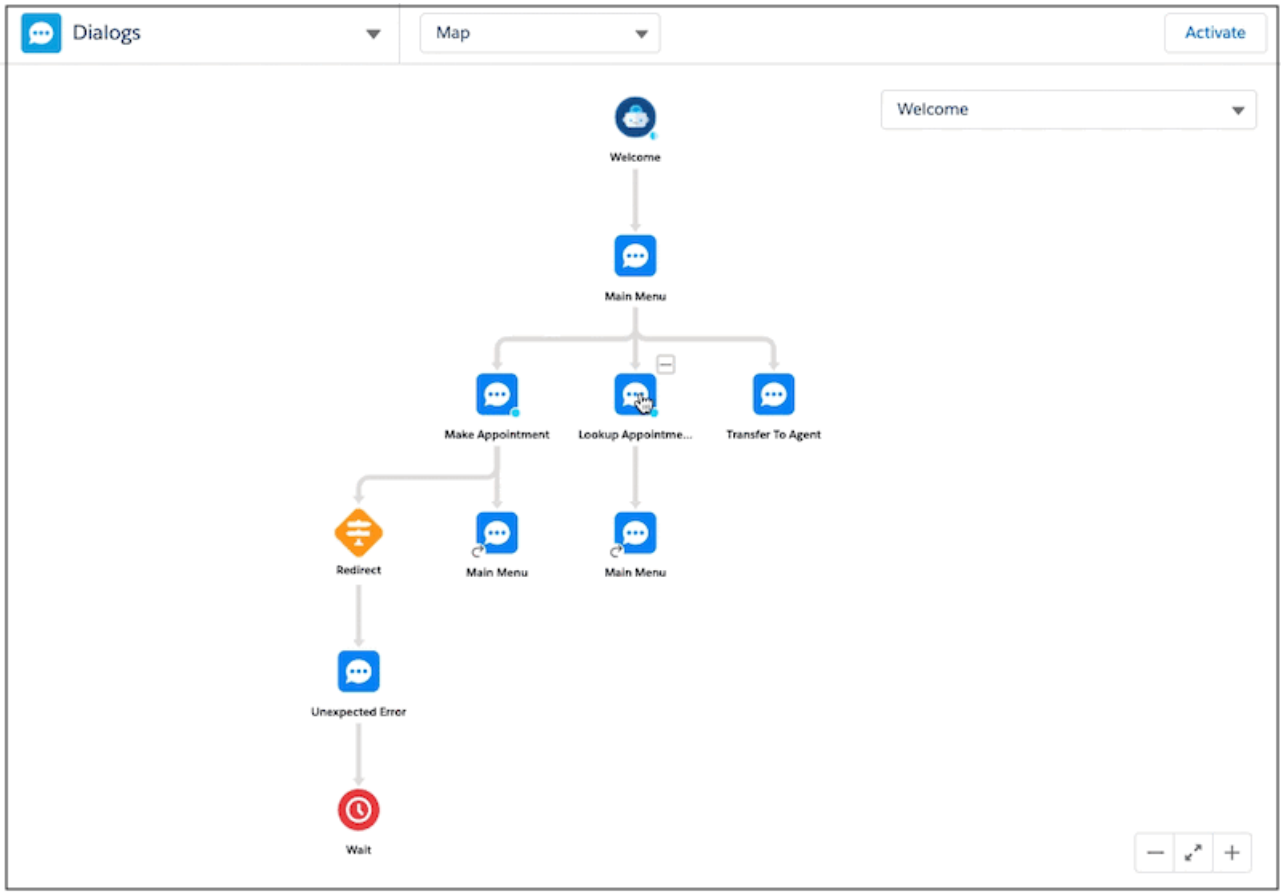
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。

方法: Einstein ボットビルダーの [ダイアログ] メニューからマップビューにアクセスし、[モデル管理] メニューから [ボットのトレーニング] ページにアクセスできます。マップビューには次の変更があります。

- パンモードは削除されたものの、モデル全体でクリックおよびドラッグしたり、矢印ボタンとタブを使用して簡単にアクセスしたりできる。
- アイコンの隅にある緑の円は、インテントが有効になっているダイアログを示す。

- 親で折りたたむと、その親ダイアログに接続されている直接の子ダイアログの数が表示される。
- ルールダイアログステップにマウスポインタを置くと、ルールに含まれる条件が表示される。



インテント管理とボットイベントデータに関する基本ドキュメントの入手

インテントモデルの作成、組織間のボットデータの移行、ボットの会話に関するレポートの作成を行う最適な方法を学ぶことで、ボットのエキスパートになることができます。Salesforceヘルプに追加された、インテント管理とボットイベントデータの 2 種類の Einstein ボットデータの処理に関するベストプラクティスに基づいてボットを作成します。

理由: 2 つの主要なボットデータについて説明する新しいセクションが追加されました。

- Einsteinボットとデータ:ボットデータの包括的な概要。このガイドは、イベントログデータの読み取りに関するベストプラクティス、ボットデータとボットバージョンデータの違い、ボットデータモデルの各オブジェクトの包括的なリストが説明されています。
- インテント管理:インテントデータ、またはインテントモデルの作成に使用されるデータは、ボットイベントデータとは異なります。このガイドは、ボットにインテントモデルを導入する方法と時期、インテントモデルを管理するためのベストプラクティス、組織間でインテントデータを移行する方法について説明されています。

Einstein ボット: 制限の緩和

Einstein ボットの有効なボットの制限の変更について説明します。

- 組織の有効なボットの数が 10 から 20 に増加しました。組織で一度に 20 を超える有効なボットが必要な場合は、Salesforce サポートにお問い合わせください。

Einstein ボットの動的キュールーティングの作成

Einstein ボットでチャットボタンキューが使用されるようになったため、会話で転送キューまたはスキルに基づいて次に対応可能なエージェントを待機できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Einstein ボットの設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

対象ユーザ: Einstein ボットは Service Cloud とチャットの両方のユーザライセンスを有する Salesforce 組織、または Digital Engagement ユーザライセンスを有する組織で使用できます。有効なサブスクリプションを持つチャットまたは Digital Engagement ユーザごとに、1 か月あたり 25 個の Einstein ボットの会話が該当する各組織に提供されます。

方法: 通話をチャットボタンキューに転送するには、チャットボタンレコードの [キューを有効化] を選択する必要があります。

Einstein ケース分類: 参照項目のサポートと新しい Lightning コンポーネント

Einstein ケース分類は、チェックボックスと選択リストに加えて、参照項目値を予測するようになりました。項目予測が信頼性しきい値を満たしていないケースを識別できるようになりました。項目のおすすめは新しい Lightning サービスコンソールコンポーネントに移動しました。

このセクションの内容:

参照項目値の推奨と自動化
エージェントに参照項目を推奨します。Einstein ケース分類では、すでに選択リストとチェックボックス項目の値が推奨され自動化されています。今回、参照項目もサポートされるようになりました。

予測の信頼性が低いケースの識別
Einstein による自動更新に必要な信頼性レベルを項目予測が満たしていないケースを見つけます。この情報を使用して、これらのケースをキューに追加し、ケースのルーティングロジックを確認または再実行します。

ページレイアウトの更新
優れたおすすめはそのままで、その場所が若干異なります。Lightning サービスコンソールのレイアウトは、新しい Einstein 項目のおすすめコンポーネントに Einstein ケース分類のおすすめを表示するように更新されました。

参照項目値の推奨と自動化

エージェントに参照項目を推奨します。Einstein ケース分類では、すでに選択リストとチェックボックス項目の値が推奨され自動化されています。今回、参照項目もサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

方法: ケース分類モデルを作成または編集するときに、[予測する項目を追加します] ページでモデルに参照項目を追加できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 予測モデルの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

予測の信頼性が低いケースの識別

Einstein による自動更新に必要な信頼性レベルを項目予測が満たしていないケースを見つけます。この情報を使用して、これらのケースをキューに追加し、ケースのルーティングロジックを確認または再実行します。

対象: この変更は、Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。Einstein ケース分類の設定は Lightning Experience でのみ使用できます。

理由: Einstein に特定のケース項目を自動更新させる場合は、Einstein の予測に最小信頼性レベルを設定します。以前は、必要な信頼性レベルを満たしていないケースを Einstein 予測が識別することはできませんでした。AIUpdateRecordEvent オブジェクトには、Einstein が項目値を予測した後の追加ロジックを簡単に組み込むことができる 2 つの新しい項目が追加されました。

項目	説明
`IsUpdated`	(Boolean) ケースが Einstein ケース分類によって自動的に更新されたか (true)、否か (false) を示します。
`UpdatedFields`	(リスト) 更新された項目のリスト (ある場合)。

方法: プラットフォームイベントを使用して AIUpdateRecordEvent を登録し、[値を自動化] 設定が有効になっているケース項目の値を Einstein が予測しようとしたときに通知を受け取ります。項目は、有効なケース分類モデルに含まれている必要があります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: AIUpdateRecordEvent (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

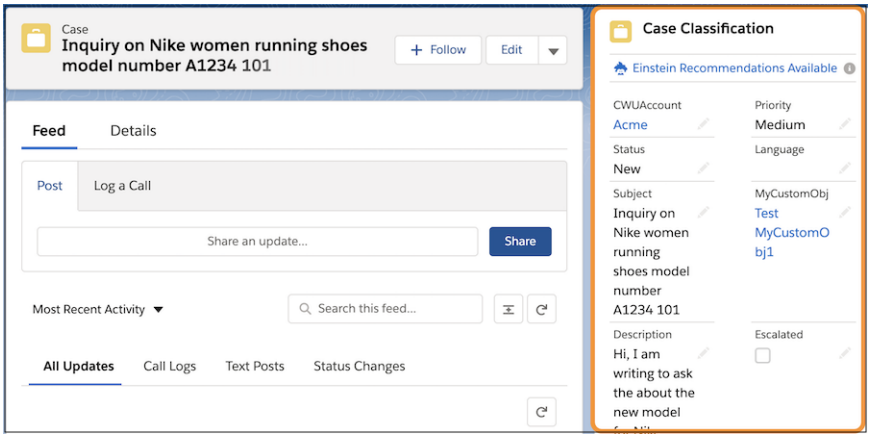
ページレイアウトの更新

優れたおすすめはそのままで、その場所が若干異なります。Lightning サービスコンソールのレイアウトは、新しい Einstein 項目のおすすめコンポーネントに Einstein ケース分類のおすすめを表示するように更新されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

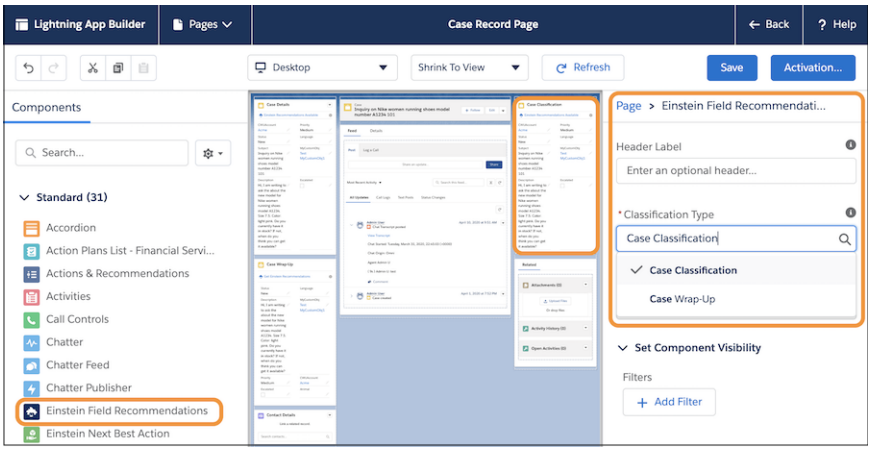
理由: Einstein ケース分類のおすすめは現在、Lightning サービスコンソールのケースの詳細関連レコードコンポーネントに表示されています。このコンポーネントはまだ使用可能ですが、Winter '21 リリースでこれらのおすす

めの表示が停止されます。少し余裕を持たせて、新しい Einstein 項目のおすすめコンポーネントに切り替えることをお勧めします。



Salesforce Classic コンソールには影響しません。おすすめは引き続き Einstein ケース分類のおすすめサイドバーに表示されます。

方法: [Einstein 項目のおすすめ] コンポーネントを Lightning サービスコンソールレイアウトにドラッグし、種別として [ケース分類] を選択します。



Field Service: 高度なシフト管理、最適化インサイト、アセットの可用性、紙吹雪

スケジュールビューの改善により、シフトの管理が容易になりました。特にスケジュールポリシーを調整するときに、最適化が KPI にどのように影響するかを確認できます。サービスレベルを事前に改善できるように、アセットの計画されたダウンタイムと計画されていないダウンタイムを監視します。ユーザが商品リクエストを進行させたときに、紙吹雪でお祝いします。

このセクションの内容:

最適化インサイトによる結果への注目 (ベータ)

グローバル最適化によるKPIへの影響が一目でわかるようになります。スケジュールポリシーを調整してスケジュールを最適化する場合に、変更によって移動時間を短縮したり、利用状況を改善したりできるかを確認できます。結果スクリーンショットには、最適化前後の総計値が示されます。

トラックや作業員の負荷の管理

割り当て、毎日の作業時間、作業員の移動距離を制限するには、計数作業ルールをスケジュールポリシーに追加します。新入社員に軽い作業負荷を割り当てたり、各作業員の車両に合った品目数量を追跡したりできます。

スケジュールの課題に対する簡単な対応

高度な最適化により、簡単に直前での変更に対応し、KPI目標に沿ったスケジュールを作成できます。以前は、全日最適化、予測移動、およびスケジュールレシピにアクセスするには、高度な最適化を手動で有効にする必要がありました。デフォルトの方法として、この最適化が段階的に導入されています。

ディスパッチャコンソールでのクリック数の削減

ディスパッチャコンソールの予定リストで、よりスマートかつ迅速に作業します。さまざまなビューから予定を選択して、ワンクリックで選択したリストを開きます。予定にマウスポインタを置いて詳細を表示したり、視覚的に情報を伝えるアイコンを追加したりします。

シフト管理の改善 (正式リリース)

この機能は、前回のリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。スケジュールビューで以前よりも簡単にシフトを管理できるようになりました。複数日にわたるシフトの外観が新しくなり、対応可能状況を識別しやすくなりました。シフトをすばやく検索して、シフトの上にマウスポインタを置き、実行可能なアクションを使用して更新します。また、チームは、リストビューで項目を選択して順序を指定し、表示内容を変更できます。

ガントチャートのカスタマイズ方法の追加

省略可能なカスタム権限を使用して、ディスパッチャコンソールでユーザが表示および実行できる内容を微調整します。たとえば、サービスマネージャ用にガントチャートの参照のみのビューを作成できます。または、リストから予定をドラッグしたり、ガントチャートに対応付けたりできるユーザを設定します。

ユーザをさらに祝福

ユーザが商品リクエストや商品リクエスト品目の指定パスフェーズに達成したら、紙吹雪のイメージを贈りましょう。

必要に応じたメンテナンス計画とサービス契約の共有

メンテナンス計画に共有ルールを適用して、公開グループ、ロール、またはテリトリー内のユーザへのアクセス権を拡張します。メンテナンス計画は、所有者や他の条件に基づいて共有します。またサービス契約レコードは、サービス契約の所有者以外の条件に基づいて共有します。

アセットの可用性と信頼性の追跡

アセットの予想される可用性、および予定されているメンテナンスと予定外のメンテナンスの詳細を取得します。そして、予定されているダウンタイムの累計時間、予定外のダウンタイムの累計時間、可用性、信頼性を表示する報告期間を定義し、作業が円滑に進むように管理します。

チームの経費の追跡

作業指示にリンクされる経費を作成します。ダクトテープから移動コストまで、チームは経費を追跡できます。

タイムシートの条件に基づく共有ルールの使用

タイムシートの条件ベースのルールを追加して、適切な人にアクセスします。たとえば、送信されたタイムシートを会計部門やパートナーマネージャグループと共有するルールを作成できます。

モバイルアプリケーションでのアクションおよびフローへの直接リンク

モバイルアプリケーションでフローやクイックアクションを起動するURIを使用して、フィールドサービス作業員の時間とタップ数を節約できます。たとえば、ディープリンクを使用してカスタムフローを実行できます。URIでデータを渡して、一部の項目を事前に入力したりできます。

プッシュ通知の制限が緩和されました

iOSプッシュ通知は組織ごとに1時間あたり最大20,000件、Androidプッシュ通知は組織ごとに1時間あたり最大10,000件送信できます。

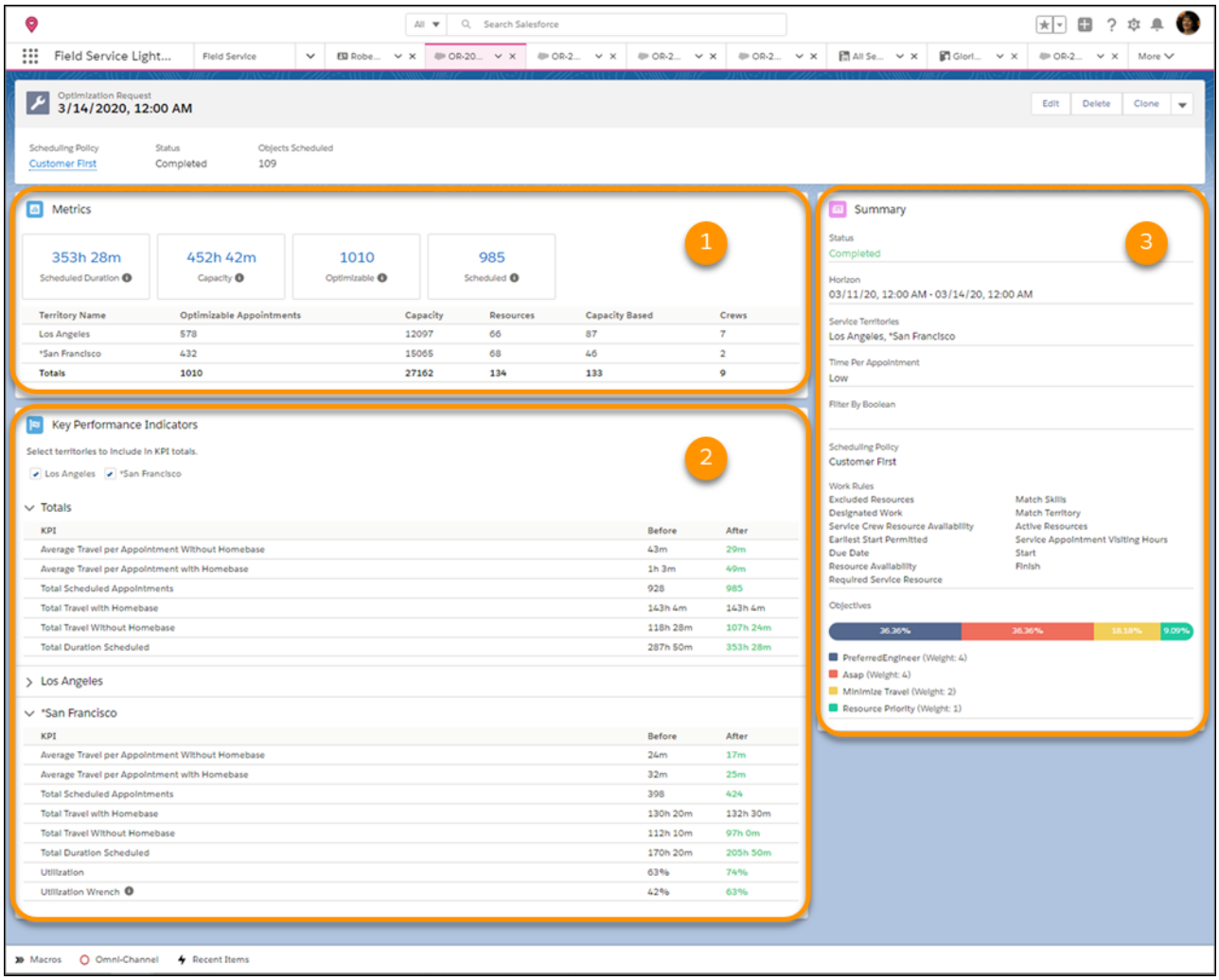
最適化インサイトによる結果への注目 (ベータ)

グローバル最適化によるKPIへの影響が一目でわかるようになります。スケジュールポリシーを調整してスケジュールを最適化する場合に、変更によって移動時間を短縮したり、利用状況を改善したりできるかを確認できます。結果スクリーンショットには、最適化前後の総計値が示されます。

対象: この機能は、Field Service Lightning管理パッケージがインストールされているEnterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、およびDeveloper EditionのLightning Experienceに適用されます。

メモ: 最適化インサイトはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforceとのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforceはいかなる責任も負いません。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。最適化インサイトに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Communityの「Field Service Lightning」グループに投稿してください。

方法: [Field Service設定] > [最適化] で、[最適化インサイト] を有効化します。Lightningアプリケーションビルダーを使用して最適化リクエストページを編集し、3つのカスタムLightningコンポーネントを追加します。グローバル最適化が完了すると、コンポーネントから総計値 (1)、テリトリー別のKPI (2)、最適化とスケジュールポリシーの詳細を含むサマリー (3) が表示されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:最適化の把握(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

トラックや作業員の負荷の管理

割り当て、毎日の作業時間、作業員の移動距離を制限するには、計数作業ルールをスケジュールポリシーに追加します。新入社員に軽い作業負荷を割り当てたり、各作業員の車両に合った品目数量を追跡したりできます。

対象: この機能は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 関連グループを使用して計数作業ルールを作成した場合、制限の適用方法を調整できます。たとえば、経験が浅い作業者の場合、より短時間の毎日のスケジュールを作成できます。

方法: 計数作業ルールを手動で定義するか、管理パッケージのLightningカスタムコンポーネントを使用します。カスタム項目を数える最大4個のルールを含む、複数の計数作業ルールをスケジュールポリシーに追加できます。

ヒント: 新しい作業ルールを作成するときに [Count (カウント)] 作業ルールタイプがリストされない場合、FSL カスタム権限セットを更新します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 作業ルールタイプ: カウントルール (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Field Service 権限セットの更新方法(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

スケジュールの課題に対する簡単な対応

高度な最適化により、簡単に直前での変更に対応し、KPI目標に沿ったスケジュールを作成できます。以前は、全日最適化、予測移動、およびスケジュールレシピにアクセスするには、高度な最適化を手動で有効にする必要がありました。デフォルトの方法として、この最適化が段階的に導入されています。

対象: この機能は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 新規組織や本番以外の組織 (Sandbox など) では、高度な最適化が自動的に有効になります。本番組織では、経時的に有効化されます。組織で有効になっているかどうかを確認するには、**[Field Service 設定]** > **[最適化]** に移動します。**[Activate (有効化)]** 切り替えボタンが表示されていて、無効になっている場合、高度な最適化は無効な状態で、有効にすることができます。**[Activate(有効化)]**切り替えボタンがない場合は、すでに有効になっています。

関連トピック:

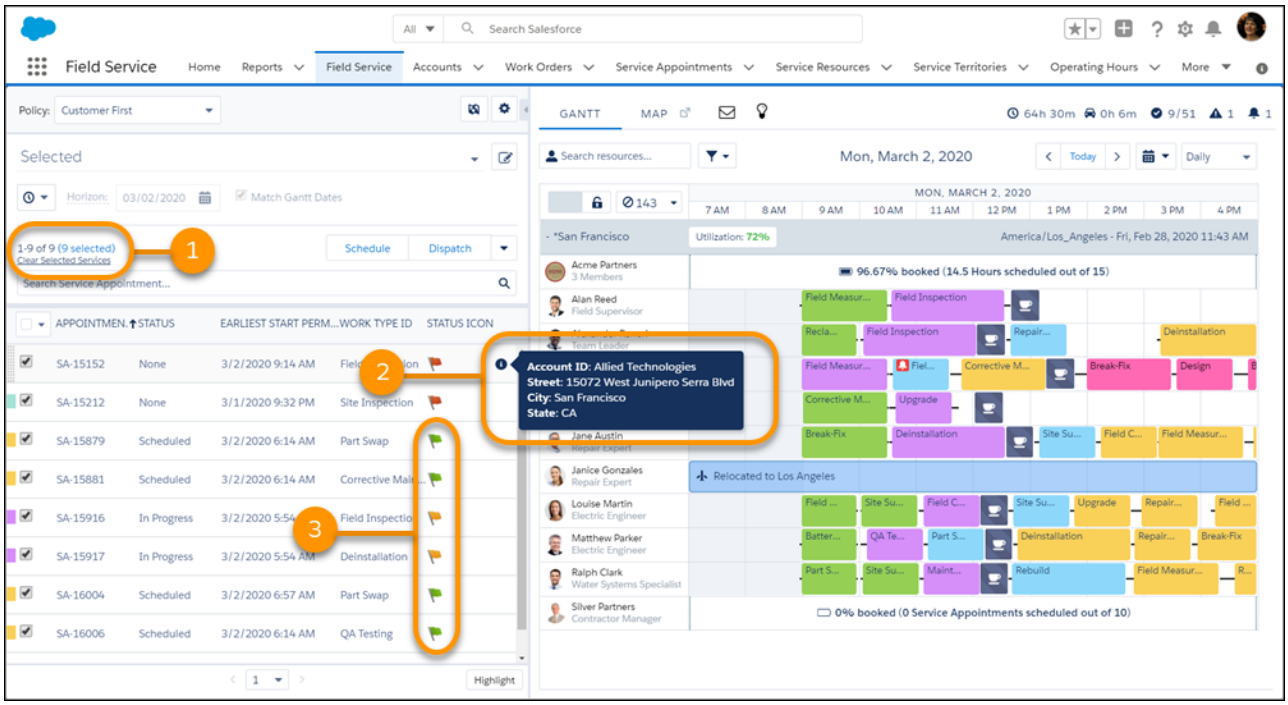
Salesforce ヘルプ: 拡張最適化の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ディスパッチャコンソールでのクリック数の削減

ディスパッチャコンソールの予定リストで、よりスマートかつ迅速に作業します。さまざまなビューから予定を選択して、ワンクリックで選択したリストを開きます。予定にマウスポインタを置いて詳細を表示したり、視覚的に情報を伝えるアイコンを追加したりします。

対象: この機能は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: さまざまな検索条件で予定を選択し、リンクをクリックして何が選択されているかを確認します。ワンクリックで選択を取り消すこともできます (1)。予定の情報アイコンにマウスポインタを置くと、住所などの追加情報が表示されます (2)。さらに、予定リストにガントチャートアイコンまたはカスタム数式項目のアイコンを表示できます (3)。



方法:予定の追加情報を表示するには、項目を [Service Appointment List Preview (サービス予定リストのプレビュー)] **項目セットに追加します。アイコンを表示するには、ガントチャートアイコン項目またはカスタム数式項目を** [Service Appointment List Columns (サービス予定リスト列)] **項目セットに追加します。**

関連トピック:

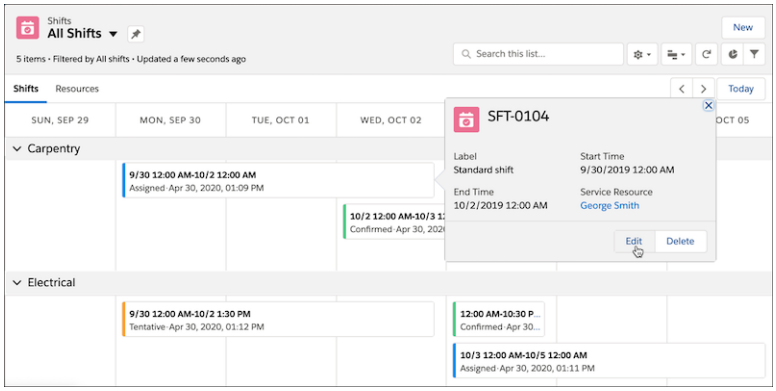
- *Salesforce* ヘルプ:カスタム予定アイコンの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:項目セットを使用したディスパッチャコンソールのカスタマイズ(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

シフト管理の改善 (正式リリース)

この機能は、前回のリリースからの変更点を含んでおり、今回正式リリースとなります。スケジュールビューで以前よりも簡単にシフトを管理できるようになりました。複数日にわたるシフトの外観が新しくなり、対応可能状況を識別しやすくなりました。シフトをすばやく検索して、シフトの上にマウスポインタを置き、実行可能なアクションを使用して更新します。また、チームは、リストビューで項目を選択して順序を指定し、表示内容を変更できます。

対象:この機能は、 Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

方法:アプリケーションランチャーを使用してシフトを開きます。次に、ビューのドロップダウンからスケジュールを選択します。



ガントチャートのカスタマイズ方法の追加

省略可能なカスタム権限を使用して、ディスパッチャコンソールでユーザが表示および実行できる内容を微調整します。たとえば、サービスマネージャ用にガントチャートの参照のみのビューを作成できます。または、リストから予定をドラッグしたり、ガントチャートに対応付けたりできるユーザを設定します。

対象: この機能は、Field Service Lightning 管理パッケージがインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: 既存の組織で新しい権限を使用するには、最初にそれらをユーザに割り当てます。たとえば、それらを「FSL Admin (FSL システム管理者)」、「FSL Dispatcher (FSL 派遣担当者)」、「FSL Community Dispatcher (FSL コミュニティ派遣担当者)」カスタム FSL 権限セットに追加します。

重要: これらの省略可能な権限をユーザに追加せずに有効化すると、ガントチャートは参照のみになります。拡張権限は、ユーザおよび FSL 権限セットに追加した後に有効にしてください。

ユーザに拡張権限を割り当てたら、**[Field Service 設定]** > **[ディスパッチャコンソール UI]** > **[拡張カスタム権限]** でそれらを有効にできます。有効化は 1 回のみ必要で、元に戻すことはできません。

必要に応じてユーザから権限を削除して、アクセスを制限します。たとえば、特定のユーザに対してガントチャートを参照のみにするには、権限をカスタム権限セットに割り当て、それらを有効にします。次に、ガントチャートの参照のみビューが必要なユーザの [Enable Gantt Locker (ガントチャートロッカーの有効化)] 権限を無効にします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Field Service のカスタム権限の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ユーザをさらに祝福

ユーザが商品リクエストや商品リクエスト品目の指定パスフェーズに達成したら、紙吹雪のイメージを贈りましょう。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

必要に応じたメンテナンス計画とサービス契約の共有

メンテナンス計画に共有ルールを適用して、公開グループ、ロール、またはテリトリー内のユーザへのアクセス権を拡張します。メンテナンス計画は、所有者や他の条件に基づいて共有します。またサービス契約レコードは、サービス契約の所有者以外の条件に基づいて共有します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

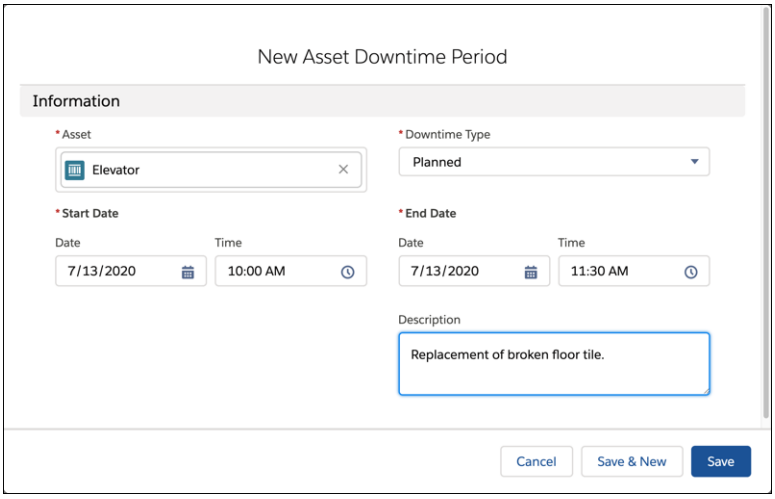
アセットの可用性と信頼性の追跡

アセットの予想される可用性、および予定されているメンテナンスと予定外のメンテナンスの詳細を取得します。そして、予定されているダウンタイムの累計時間、予定外のダウンタイムの累計時間、可用性、信頼性を表示する報告期間を定義し、作業が円滑に進むように管理します。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: アセットの可用性と信頼性を理解することは、作業を円滑に進めるための鍵となります。可用性や信頼性が低下した場合は、アセットの修復や交換が必要であることも考えられます。

アセットを追跡するには、毎日の平均アップタイムと、可用性と信頼性の掲載を開始する日付を入力します。そして、アセットの通常の稼動時間中に予定されているダウンタイムと予定外のダウンタイムの詳細を取得します。



システムは、予定されているダウンタイムと予定外のダウンタイムの値を累計します。その後、すべてのダウンタイムを考慮した可用性と、予定外のダウンタイムを考慮した信頼性を計算します。

方法: アセットと、新しいダウンタイム、可用性、そして信頼性の項目へのアクセス権を付与します。そして、これらの項目を[アセット]ページレイアウトに追加して、この機能へのアクセス権をユーザプロファイルに付

与します。アセットと可用性と信頼性の項目へのアクセス権を付与することで、コミュニティのユーザプロファイルにコミュニティアクセス権を付与する。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:アセットの可用性および信頼性レポートの設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:アセットの可用性および信頼性に関する情報へのアクセス権の提供(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:アセットの可用性と信頼性の追跡(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

チームの経費の追跡

作業指示にリンクされる経費を作成します。ダクトテープから移動コストまで、チームは経費を追跡できます。

対象: この機能は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: モバイルアプリケーションの場合、チームは作業指示から経費を作成できます。デスクトップの場合、作業指示ページレイアウトを編集して、[経費] 関連リストを追加します。

タイムシートの条件に基づく共有ルールの使用

タイムシートの条件ベースのルールを追加して、適切な人にアクセスします。たとえば、送信されたタイムシートを会計部門やパートナーマネージャグループと共有するルールを作成できます。

対象: この機能は、Field Service が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

モバイルアプリケーションでのアクションおよびフローへの直接リンク

モバイルアプリケーションでフローやクイックアクションを起動する URI を使用して、フィールドサービス作業員の時間とタップ数を節約できます。たとえば、ディープリンクを使用してカスタムフローを実行できます。URI でデータを渡して、一部の項目を事前に入力したりできます。

対象: この機能は Field Service Mobile アプリケーションの Field Service を使用するすべてのエディションに適用されます。

方法: レコードの作成、レコードの更新、Field Service Mobile 拡張機能の実行を行うクイックアクションにリンクできます。次の形式を使用します。

```
com.salesforce.fieldservice://v1/sObject/recordId/quickaction/quick_action_api_name
```

フローをコールするモバイルアプリケーション拡張を使用して、フローにリンクできます。アプリケーション拡張名が URL エンコードされた次の形式を使用します。

```
com.salesforce.fieldservice://v1/sObject/recordId/flow/app_extension_api_name
```

プッシュ通知の制限が緩和されました

iOS プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 20,000 件、Android プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 10,000 件送信できます。

対象: この変更は Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Field Service Mobile アプリケーションに適用されます。

関連トピック:

制限の緩和によるより多くのプッシュ通知の送信

チャネル: サービス用音声、組み込みチャネルメニューのプレビュー、チャットヘッダーの再設計、カナダのショートコード

Salesforce の機能を Amazon Connect のテレフォニーサービスと統合する新製品の Service Cloud 音声を使用して、顧客と話をします。ライブプレビューで、組み込みチャネルメニューのブランドと表示ラベルの選択を確認します。組み込みチャットの標準ヘッダーを強化します。カナダのメッセージング用ショートコードを使用して、より多くの顧客にすばやくリーチします。

このセクションの内容:

音声: サービスコンソール内のインテリジェントなテレフォニー

Service Cloud 音声は、シームレスなエージェントエクスペリエンスを実現するためにインテリジェントなテレフォニーを Salesforce にネイティブに統合する新製品です。エージェントは、リアルタイムの通話の文字起こしを含む Amazon Connect の機能を組み込んだ直観的なソフトフォンを使用してお客様と会話できます。サポートエージェントがお客様の希望するチャネルを使用して適切なタイミングでお客様を手助けできるように、音声通話とデジタルチャネルを組み合わせています。

メッセージング: カナダのショートコード、新しいユーザ権限、Facebook のボット

カナダでショートコードを使用してより多くの顧客にすばやくリーチします。新しい「メッセージングセッションの終了」ユーザ権限を使用して、会話を終了します。Facebook Messenger チャネルに Einstein ボットをリリースします。

チャネルオブジェクトリンク: 音声用のレコード (ベータ)

音声コールを取引先責任者などのレコードにリンクするルールを作成して、エージェントの時間を節約します。エージェントがコールを受け入れてワークスペースで開いたときに、推奨レコードから選択するか、レコードを検索するか、新規レコードを作成するようにエージェントに要求できます。

モバイルアプリケーション用組み込みサービス: いくつかのバグの修正

組み込みサービス SDK の最新リリースでは、アクセシビリティの改善とバグ修正に焦点が絞られています。

Web 用組み込みサービス: チャネルメニューのプレビュー、チャネルメニューの動的項目、チャットヘッダーの再設計、Lightning Web コンポーネント

ライブプレビューで、設定中にチャネルメニューのブランドの選択内容を視覚化します。API を使用して、動的チャネルメニューで顧客の Web サイト訪問をパーソナライズします。組み込みチャットの標準ヘッダーを合理化するか、Lightning Web コンポーネントを使用してヘッダーをカスタマイズします。

音声: サービスコンソール内のインテリジェントなテレフォニー

Service Cloud 音声は、シームレスなエージェントエクスペリエンスを実現するためにインテリジェントなテレフォニーを Salesforce にネイティブに統合する新製品です。エージェントは、リアルタイムの通話の文字起こしを含む Amazon Connect の機能を組み込んだ直観的なソフトフォンを使用してお客様と会話できます。サポートエージェントがお客様の希望するチャネルを使用して適切なタイミングでお客様を手助けできるように、音声通話とデジタルチャネルを組み合わせています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期: Service Cloud 音声は、2020 年 7 月 21 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象ユーザ: 「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザは、Service Cloud 音声を有効化できます。「コンタクトセンター管理者」権限セットを持つユーザは、コンタクトセンターを作成して管理できます。「コンタクトセンターエージェント」権限セットを持つユーザは、コンタクトセンターにアクセスして通話を発信および受信できます。

理由: 電話で会話をするほうが簡単な場合もあります。さまざまなチャネルがありますが、問題を素早く解決できる知識豊富なサービスエージェントと直接話すことを好むお客様もいます。音声により、エージェントにとって電話を受けるのもかけるもの簡単になり、顧客情報の追跡、お客様の問題の解決もすべてサービスコンソール内で実行できます。

Service Cloud 音声を使用すれば、エージェントがお客様のサポートを開始できるように素早くコンタクトセンターを作成できます。コンタクトセンターを作成すると、Salesforce によって Amazon Connect インスタンスがゼロから構築されます。Salesforce にネイティブに統合された、通話の文字起こしや自動音声応答 (IVR) などの Amazon Connect 機能を活用できます。

方法: Salesforce 組織が音声の前提条件を満たしていることを確認します。

そして、音声を有効化します。[設定] から、[クイック検索] ボックスに *「音声の設定」* と入力し、[音声の設定] を選択します。Service Cloud 音声を有効化して、Amazon Web Services のルートユーザアカウントで使用するメールアドレスを指定します。音声を有効化するプロセスを完了するには、指示に従って会社の税務登録番号を確認します。

次に、音声でコンタクトセンターを作成します。ユーザをコンタクトセンターに追加してから、指示に従って、音声を操作できるように Salesforce 組織、オムニチャネル、Amazon Connect を設定します。

このセクションの内容:

Customer 360 の機能を簡単に使用したお客様との会話
お客様は、できるだけ早く話を聞いてもらってヘルプを受けたいと考えています。サポートエージェントは、Service Cloud の全機能を簡単に使用してお客様との通話を簡単に解決したいと考えています。音声では、エージェントが Salesforce の膨大な情報にアクセスしながらお客様と話すことができます。

転送、マージ、Speed Dial を使用した適切なエージェントへの通話の割り当て
エージェントは、ボタンをタッチするだけで問題解決に最適な相手にお客様を転送できます。

コンタクトセンター分析の一目での参照

Service Cloud Voice Analytics アプリケーションを使用して、サポートスーパーバイザが重要業績評価指標 (KPI) を追跡できるようにします。スーパーバイザは電話件数や平均処理時間、平均応答速度などのデータを表示するグラフを確認できるため、エージェントの作業負荷を管理できます。スーパーバイザはデータを日付、場所、エージェントで絞り込めます。

Amazon Connect の機能を使用した音声の拡張

Amazon Connect プラットフォームを活用して、お客様がコンタクトセンターに電話をかけたときのアクションをカスタマイズします。コンタクトフローおよび Lambda 関数を使用して自動音声応答装置 (IVR) を作成します。通話がエージェントに転送される方法を決める転送プロファイルを割り当てます。エージェントが頻繁に使用される電話番号に通話を素早く転送できるように、Quick Connect を設定します。通話の録音と通話の文字起こしを有効化します。

リアルタイムの通話の文字起こしを使用したエージェントの生産性向上

エージェントがメモをとることではなく問題を解決することに集中できるように、通話中に通話の文字起こしを参照できるようにします。通話が別のエージェントに転送されると、受信したエージェントは素早く文字起こしを確認して会話を開始できるため、お客様が同じ情報を繰り返すことでストレスを感じることがありません。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: 音声の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 音声の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 音声の制限 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 音声の前提条件 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

Customer 360 の機能を簡単に使用したお客様との会話

お客様は、できるだけ早く話を聞いてもらってヘルプを受けたいと考えています。サポートエージェントは、Service Cloud の全機能を簡単に使用してお客様との通話を簡単に解決したいと考えています。音声では、エージェントが Salesforce の膨大な情報にアクセスしながらお客様と話すことができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期: Service Cloud 音声は、2020 年 7 月 21 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象ユーザ: 「コンタクトセンターエージェント」権限セットを持つユーザは、Service Cloud 音声コンタクトセンターで通話を発信および受信できます。

理由: お客様から電話がかかってくると、エージェントはケースチャネルやメッセージングチャネルの場合と同じように、オムニチャネルウィジェットで通話を受けられます。直観的な通話コントロールにより、エージェントは通話の転送、ミュート、保留、終了をすべてサービスコンソールから離れることなく実行できます。

エージェントが通話を受けると、Salesforceによって電話番号が取引先責任者レコードに照合されるため、エージェントはお客様の情報を簡単に入手できます。一致が見つからない場合、エージェントは取引先責任者を作成するよう要求されるため、将来参照するためにお客様の情報が Salesforce で取得されます。

通話コントロールコンポーネントにより、エージェントはコンソールで直観的に通話の転送、ミュート、保留、終了を実行できます。このコンポーネントはエージェントの通話中に表示され、通話が終了すると非表示になるため、邪魔になりません。

方法: Service Cloud コンソールでオムニチャネルウィジェットを開き、通話の受信や発信ができるように空き状況を設定します。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:電話でのお客様のヘルプ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: Amazon Connect を使用したコンタクトセンターの拡張 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

転送、マージ、Speed Dial を使用した適切なエージェントへの通話の割り当て

エージェントは、ボタンをタッチするだけで問題解決に最適な相手にお客様を転送できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期: Service Cloud 音声は、2020 年 7 月 21 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象ユーザ: 「コンタクトセンターエージェント」権限セットを持つユーザは、Service Cloud 音声コンタクトセンターで通話を発信および受信できます。

方法: エージェントは通話を別のエージェントまたはキューに転送でき、2 件の通話を 1 件の通話にマージできます。エージェントは [Speed Dial] をクリックして Amazon Connect の Quick Connect 電話番号を使用できます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:電話でのお客様のヘルプ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- Amazon Connect の機能を使用した音声の拡張

コンタクトセンター分析の一目での参照

Service Cloud Voice Analytics アプリケーションを使用して、サポートスーパーバイザが重要業績評価指標 (KPI) を追跡できるようにします。スーパーバイザは電話件数や平均処理時間、平均応答速度などのデータを表示するグラフを確認できるため、エージェントの作業負荷を管理できます。スーパーバイザはデータを日付、場所、エージェントで絞り込めます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期: Service Cloud 音声は、2020 年 7 月 21 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象ユーザ: コンタクトセンターレポートダッシュボードを設定するには、「Einstein Analytics Platform 管理者」および「Service Analytics 管理者」権限セットが必要です。Analytics アプリケーションを作成して管理するには、「Analytics テンプレートアプリケーションの管理」および「Analytics データフローの編集」ユーザ権限が必要です。

コンタクトセンターレポートダッシュボードを参照するには、ユーザに「Einstein Analytics Platform ユーザ」および「Service Analytics ユーザ」権限セットが必要です。

方法: 会社に関連したデータが表示されるように、Analytics Studio でコンタクトセンター Analytics アプリケーションをカスタマイズします。スーパーバイザは、アプリケーションランチャーからコンタクトセンター Analytics アプリケーションを開くことができます。

関連トピック:

- *Salesforce ヘルプ*: コンタクトセンター向けの Analytics アプリケーションのカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: Voice Analytics の表示 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

Amazon Connect の機能を使用した音声の拡張

Amazon Connect プラットフォームを活用して、お客様がコンタクトセンターに電話をかけたときのアクションをカスタマイズします。コンタクトフローおよび Lambda 関数を使用して自動音声応答装置 (IVR) を作成します。通話がエージェントに転送される方法を決める転送プロファイルを割り当てます。エージェントが頻繁に使用される電話番号に通話を素早く転送できるように、Quick Connect を設定します。通話の録音と通話の文字起こしを有効化します。

対象: この変更は、Service Cloud 音声を有効にしている組織の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期: Service Cloud 音声は、2020 年 7 月 21 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象者: Amazon Connect システム管理者は、Amazon Connect インスタンスをカスタマイズできます。

方法: Amazon Web Service ルートメールアドレスを使用して Amazon Connect インスタンスにログインし、設定をカスタマイズします。『Amazon Connect Admin Guide (Amazon Connect 管理者ガイド)』を参照してください。

関連トピック:

- *Salesforce ヘルプ*: 音声の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: Amazon Connect を使用したコンタクトセンターの拡張 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *外部サイト*: Amazon Connect Admin Guide (Amazon Connect 管理者ガイド)

リアルタイムの通話の文字起こしを使用したエージェントの生産性向上

エージェントがメモをとることではなく問題を解決することに集中できるように、通話中に通話の文字起こしを参照できるようにします。通話が別のエージェントに転送されると、受信したエージェントは素早く文字起こしを確認して会話を開始できるため、お客様が同じ情報を繰り返すことでストレスを感じることがありません。

対象: この変更は、Service Cloud 音声を有効にしている組織の Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。Service Cloud 音声は有料オプションでアドオンライセンスとして使用できます。

時期: Service Cloud 音声は、2020 年 7 月 21 日以降、新規および既存の組織で有効にできます。

対象者: Amazon Web Services システム管理者は、Amazon Connect インスタンスをカスタマイズできます。「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つ Salesforce ユーザは、ページレイアウトを変更できます。「コンタクトセンターエージェント」権限セットを持つユーザは、通話の文字起こしを参照できます。

理由: 会話の本文コンポーネントに通話の文字起こしが表示されます。文字起こしにより、エージェントとスーパーバイザはお客様とのやりとりを明確に把握でき、お客様との関係を築く場合やトレーニング目的に役立つ可能性があります。

方法: Amazon Web Service ルートメールアドレスを使用して Amazon Connect インスタンスにログインし、通話の文字起こしを設定します。Salesforce の Lightning アプリケーションビルダーで、会話の本文コンポーネントを音声ページに追加します。

関連トピック:

- *外部サイト*: Amazon Connect Admin Guide (Amazon Connect 管理者ガイド)
- *Salesforce ヘルプ*: 音声の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: Amazon Connect を使用したコンタクトセンターの拡張 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: Lightning ページの標準コンポーネント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メッセージング: カナダのショートコード、新しいユーザ権限、Facebook のボット

カナダでショートコードを使用してより多くの顧客にすばやくリーチします。新しい「メッセージングセッションの終了」ユーザ権限を使用して、会話を終了します。Facebook Messenger チャネルに Einstein ボットをリリースします。

このセクションの内容:

ショートコードメッセージを使用したリーチの拡大 (カナダ)
ショートコード電話番号を使用して、定期的なメッセージと 1 回限りのアラートをカナダの顧客に送信します。顧客が応答すると、他のチャネルで行うのと同様に、サポートエージェントと二者間で会話をすることができます。ショートコードはスループットが高く、一対多のメッセージや、一対一メッセージを大量に送信することができます。カナダ向けの新しい同意管理設定により、カナダの国内規制への準拠を維持することができます。

「メッセージングセッションの終了」ユーザ権限の追加
Spring '20 より前では、「メッセージングの設定」ユーザ権限のあるユーザは、進行中のメッセージングセッションを終了できました。Summer '20 以降、この権限を使用してメッセージングセッションを終了できません。エージェントとスーパーバイザがセッションを終了できるようにするには、「メッセージングセッションの終了」権限を含むようにユーザ権限セットを更新します。

Facebook の Einstein ボットを使用してエージェントのワークロードを軽減
Facebook Messenger チャネルにボットをリリースします。パスワードのリセットや注文の追跡など、顧客のよくある要求をボットで処理するようにします。一方、エージェントはより複雑な問題の処理に時間をかけることができます。

複数言語での顧客の同意の管理
サポートする各言語で独自の同意キーワードと自動応答を記述して、コンプライアンスを維持します。カスタム応答を使用して、国に固有の規制に対応します。

メッセージングでの会話ツールキットイベントの使用
メッセージのコンテンツに基づいて、レコードを作成または更新します。エージェントが顧客にメッセージを送信した場合など、コンソールで特定のイベント種別が発生したときに、JavaScript コードを実行できるようになりました。メッセージングで `lightning:conversationNewMessage` および `lightning:conversationAgentSend` イベントを使用します。

Facebook と WhatsApp でエージェントが開始した会話による顧客への連絡 (オープンベータ)
問題をさらに詳細に調査する必要がある場合、エージェントが開始する会話を使用すると、エージェントは会話を終了し、解決策を見つけた後、会話を再開することができます。この機能は SMS チャネルで正式リリースされました。また、Facebook Messenger および WhatsApp ではオープンベータとして使用できるようになりました。

メッセージングの連動関係の変更
Summer '20 以降、個人取引先レコードの [会話を開始] ボタンを表示するのに High Velocity Sales (HVS) は必要ではなくなりました。

ショートコードメッセージを使用したリーチの拡大 (カナダ)

ショートコード電話番号を使用して、定期的なメッセージと 1 回限りのアラートをカナダの顧客に送信します。顧客が応答すると、他のチャネルで行うのと同様に、サポートエージェントと二者間で会話をすることができます。ショートコードはスループットが高く、一対多のメッセージや、一対一メッセージを大量に送信することができます。カナダ向けの新しい同意管理設定により、カナダの国内規制への準拠を維持することができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、デジタルエンゲージメントアドオンおよびショートコードアドオン SKU を介してメッセージングにアクセスできる Salesforce 組織で使用可能です。

理由: ショートコードは通常、Transactional メッセージまたプロモーションコンテンツに使用されます。ショートコードの利点を得ると同時に顧客が望むパーソナライズされたサポートを即座に提供します。以前は、ショートコードチャネルは米国でのみ使用できました。

方法: ショートコードアドオン SKU を要求するには、Salesforce アカウントエグゼクティブまたは営業担当者にお問い合わせください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メッセージングでのショートコードチャネルの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

「メッセージングセッションの終了」ユーザ権限の追加

Spring '20 より前では、「メッセージングの設定」ユーザ権限のあるユーザは、進行中のメッセージングセッションを終了できました。Summer'20 以降、この権限を使用してメッセージングセッションを終了できません。エージェントとスーパーバイザがセッションを終了できるようにするには、「メッセージングセッションの終了」権限を含むようにユーザ権限セットを更新します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、デジタルエンゲージメントアドオンを介してメッセージングにアクセスできる Salesforce 組織で使用可能です。

方法: メッセージング権限セットを更新します。ユーザのアプリケーション権限を編集し、[メッセージングセッションの終了] を選択します。更新内容を保存したことを確認します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メッセージ権限セットの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Facebook の Einstein ボットを使用してエージェントのワークロードを軽減

Facebook Messenger チャネルにボットをリリースします。パスワードのリセットや注文の追跡など、顧客のよくある要求をボットで処理するようにします。一方、エージェントはより複雑な問題の処理に時間をかけることができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、デジタルエンゲージメントアドオンを介してメッセージングにアクセスできる組織で使用可能です。

関連トピック:

Facebook Messenger を使用した利用者の拡大 (正式リリース)

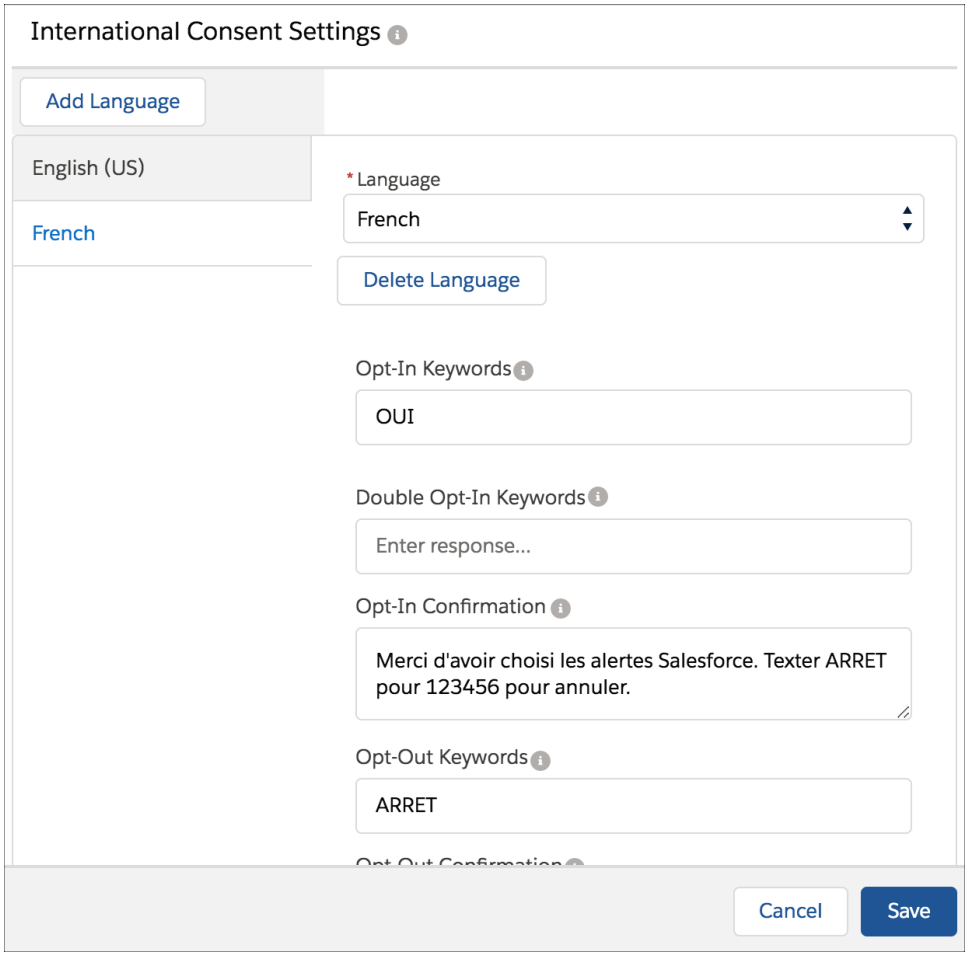
複数言語での顧客の同意の管理

サポートする各言語で独自の同意キーワードと自動応答を記述して、コンプライアンスを維持します。カスタム応答を使用して、国に固有の規制に対応します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、デジタルエンゲージメントアドオンを介してメッセージングにアクセスできる Salesforce 組織で使用可能です。

理由: 顧客の言語で顧客とやり取りします。ショートコードを使用する場合、通信事業者のコンプライアンス要件、業界標準、および適用可能な法律に従う必要があります。

方法: メッセージングチャネルを作成または編集するときに、[国際同意設定] で、サポートする言語を選択します。チャネルでの自動応答の対象となるキーワードを入力します。次に、それらのキーワードに対する応答をカスタマイズします。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メッセージングチャネルの自動応答の作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メッセージングでの会話ツールキットイベントの使用

メッセージのコンテンツに基づいて、レコードを作成または更新します。エージェントが顧客にメッセージを送信した場合など、コンソールで特定のイベント種別が発生したときに、JavaScript コードを実行できるようになりました。メッセージングで `lightning:conversationNewMessage` および `lightning:conversationAgentSend` イベントを使用します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、デジタルエンゲージメントアドオンを介してメッセージングにアクセスできる Salesforce 組織で使用可能です。

方法: `aura:handler` を使用して、Lightning イベントをリスンします。

Facebook と WhatsApp でエージェントが開始した会話による顧客への連絡 (オープンベータ)

問題をさらに詳細に調査する必要がある場合、エージェントが開始する会話を使用すると、エージェントは会話を終了し、解決策を見つけた後、会話を再開することができます。この機能は SMS チャネルで正式リリースされました。また、Facebook Messenger および WhatsApp ではオープンベータとして使用できるようになりました。

対象: この変更は、デジタルエンゲージメントアドオンを介して Messaging にアクセスできる組織に適用されます。Lightning Experience の Messaging は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition (Service Cloud または Sales Cloud 付属) で使用できます。

> **メモ:** Facebook および WhatsApp 向けのエージェントが開始する会話はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

方法: エージェントは可能な解決策を見つけたら、顧客のレコードホームに移動して、[会話を開始] をクリックします。新しいタブが開き、直近のセッションと新しいセッションで開始されたメッセージが表示されます。エージェントは会話を中断した場所から再開します。複数のメッセージを送信できます。

> **メモ:** メッセージを開始したエージェントには、メッセージが送信された時点で最新の顧客のオプトアウト情報が使用されます。最初の送信メッセージが送信された後にエンドユーザがオプトアウト状況を変更した場合、オプトアウト状況が正式に更新されるまでは、エージェントは追加のメッセージを送信できます。

顧客が不在で応答がない場合は、エージェントは会話タブを閉じることができます。顧客からの応答があったときにエージェントは通知を受け取ります。待機状態の送信メッセージは、エージェントの業務量を取りません。

顧客が応答する前に元のエージェントがオフラインになった場合、会話は対応可能なエージェントに転送されるか、誰かが対応可能になるまで待機します。

メモ: Facebook と WhatsApp には、ユーザへの送信メッセージの送信に関する特定のエンゲージメントルールがあります。エージェントが開始するメッセージの場合、エージェントがメッセージを送信したと信じていても、Facebook と WhatsApp が特定のルールのためにメッセージをブロックしていたことがあります。ベータ中は、エージェントは、ブロックされたメッセージに常に気付くとは限りません。

メッセージングの連動関係の変更

Summer '20 以降、個人取引先レコードの [会話を開始] ボタンを表示するのに High Velocity Sales (HVS) は必要ではなくなりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。この機能は、デジタルエンゲージメントアドオンを介してメッセージングにアクセスできる Salesforce 組織で使用可能です。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:エージェントが開始する送信メッセージの送信 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

チャネルオブジェクトリンク: 音声用のレコード (ベータ)

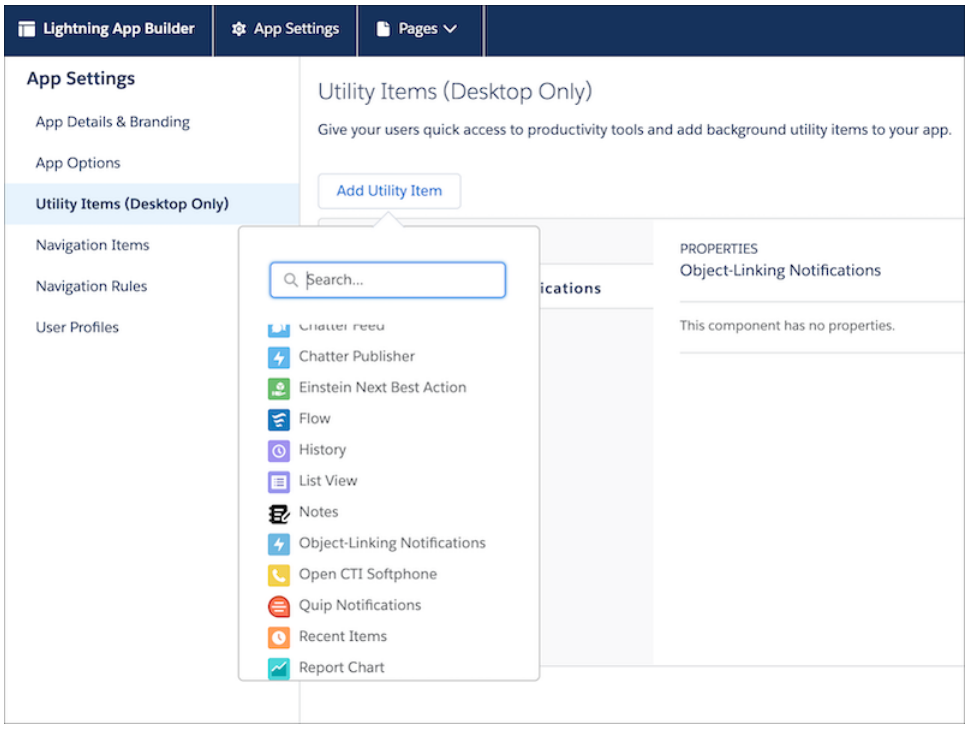
音声コールを取引先責任者などのレコードにリンクするルールを作成して、エージェントの時間を節約します。エージェントがコールを受け入れてワークスペースで開いたときに、推奨レコードから選択するか、レコードを検索するか、新規レコードを作成するようにエージェントに要求できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。エージェント通知は Lightning コンソールでのみサポートされます。

メモ: ベータ機能である音声用チャネルオブジェクトリンクはプレビューであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、音声ユーザ向けです。今後、これは他の種別のチャネルで利用できるようになります。

方法: [サービスの設定] の [クイック検索] ボックスに「チャネルオブジェクト」と入力し、[チャネルオブジェクトリンク] を選択します。次に [新規リンクルール] をクリックして、音声チャネル用のガイド付きフローを開始します。アプリケーションビルダーでオブジェクトリンク通知バックグラウンドユーティリティを追加し、エージェントへのメッセージを生成します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 音声用チャネルオブジェクトリンク (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

モバイルアプリケーション用組み込みサービス: いくつかのバグの修正

組み込みサービス SDK の最新リリースでは、アクセシビリティの改善とバグ修正に焦点が絞られています。

対象: この変更は、Mobile Apps for iOS (バージョン 224.0.0) および Android (バージョン 224.0.0) 用 Service SDK に適用されます。

方法: 新機能についての詳細は、iOS および Android に関するリリースノートを参照してください。その他のリソースについては、「Embedded Service SDK (組み込みサービス SDK)」開発者センターにアクセスしてください。

Web 用組み込みサービス: チャネルメニューのプレビュー、チャネルメニューの動的項目、チャットヘッダーの再設計、Lightning Web コンポーネント

ライブプレビューで、設定中にチャネルメニューのブランドの選択内容を視覚化します。API を使用して、動的チャネルメニューで顧客の Web サイト訪問をパーソナライズします。組み込みチャットの標準ヘッダーを合理化するか、Lightning Web コンポーネントを使用してヘッダーをカスタマイズします。

このセクションの内容:

ライブチャネルメニューのプレビューの表示
設定中にチャネルメニューのブランド選択をすばやくプレビューできます。Web サイトまたは Salesforce コミュニティにリリースする前に、色、アイコン、フォント、テキストがライブビューでどのように表示されるかを確認します。

動的チャネルメニューでの応答
顧客が Web サイトを閲覧するときに、より動的な環境でチャネルの選択内容の表示、非表示、または並び替えを行います。Reordering API を使用して、条件に基づいて提供されるチャネルオプションを変更します。

改善されたチャットヘッダーによる会話の強化
合理化された組み込みチャットヘッダーを使用して、顧客に最新の操作性を提供します。幅の狭いデザインにより、メインウィンドウ内に重要なコンテンツが保持され、より集中したインタラクションが可能になります。

Lightning Web コンポーネントを使用したチャットヘッダーのカスタマイズ
Lightning Web コンポーネント (LWC) を使用して、カスタムチャットヘッダーを作成します。LWC は機能が豊富で、Aura コンポーネントよりも新しいバージョンの ECMAScript を使用します。これらは Aura と同じ方法でリリースされ、両方の種類を Web サイトで共存させることができます。

アクセスビリティでのチャネルメニューとチャットのアニメーションの提供
素晴らしいアニメーションは、ユーザが自分の操作が反映されていることを知るのに役立ちます。チャネルメニューとチャットでこの安心感を提供すると同時に、前庭障害を持つ顧客やネットワーク速度が遅い顧客が OS 設定でアニメーションをオフにできるようにします。

チャットセッション全体の変換
組み込みサービス API を使用してボタンの設定を動的に更新し、顧客のチャット環境を刷新します。デフォルトの開始ボタンを置き換えて、Web ページ上の別の場所に移動します。応答型の環境でのユーザのアクションに基づいて、終了チャットを作成したり、セッションデータをクリアしたりします。

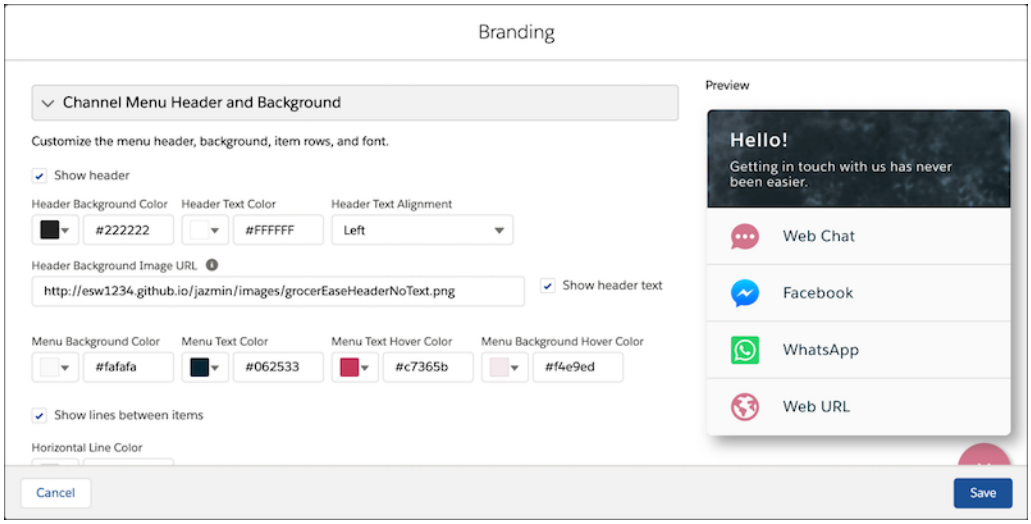
5 つ星サービスのチャット後アンケートの追加
エージェントのサービスを評価したり質問したりするチャット後の顧客アンケートを作成します。Salesforce のアンケートは設定が簡単で、エンゲージメントに関する貴重なフィードバックを得ることができます。

ライブチャネルメニューのプレビューの表示

設定中にチャネルメニューのブランド選択をすばやくプレビューできます。Webサイトまたは Salesforce コミュニティにリリースする前に、色、アイコン、フォント、テキストがライブビューでどのように表示されるかを確認します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 選択内容のライブプレビューが [ブランド] モーダルに表示されます。また、表示ラベルの設定でテキストの更新をプレビューできます。変更は、キャッシュが原因で Web サイトに初めて表示されるまでに最大 10 分かかることがあります。



関連トピック:

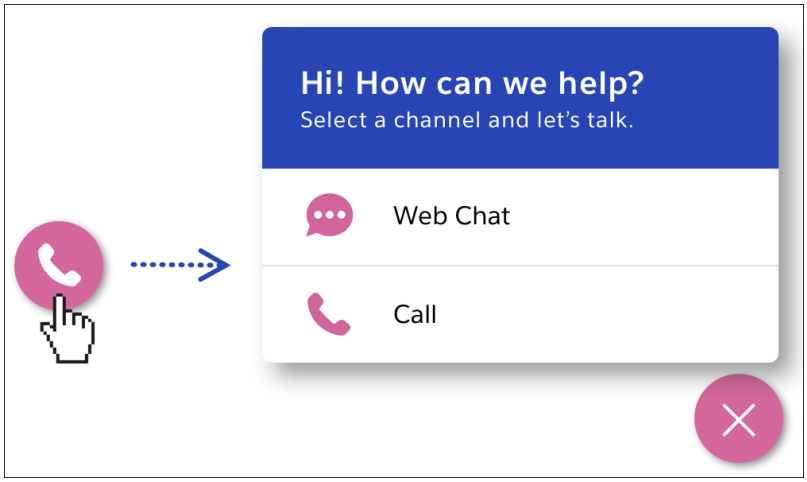
- *Salesforce* ヘルプ:チャネルメニューの設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:チャネルメニューのブランドの設定(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

動的チャネルメニューでの応答

顧客が Web サイトを閲覧するときに、より動的な環境でチャネルの選択内容の表示、非表示、または並び替えを行います。Reordering API を使用して、条件に基づいて提供されるチャネルオプションを変更します。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 動的チャネルメニューでは、Web サイトでの顧客のアクションに応答できます。顧客が新規商品ページをスクロールしたときに、営業チャットリリースまたは[電話]ボタンを表示します。顧客がショッピングカートに品目を追加した場合は、チャットリリースまたは Web URL を介して優先的な支援を提供します。チャネルメニューに対するすべてのランタイムのローカル変更で、特定のリリースを設定します。



方法: API で、表示されるチャネルオプションを更新し、顧客が Web サイトを操作したときにアクションボタンを変更します。

関連トピック:

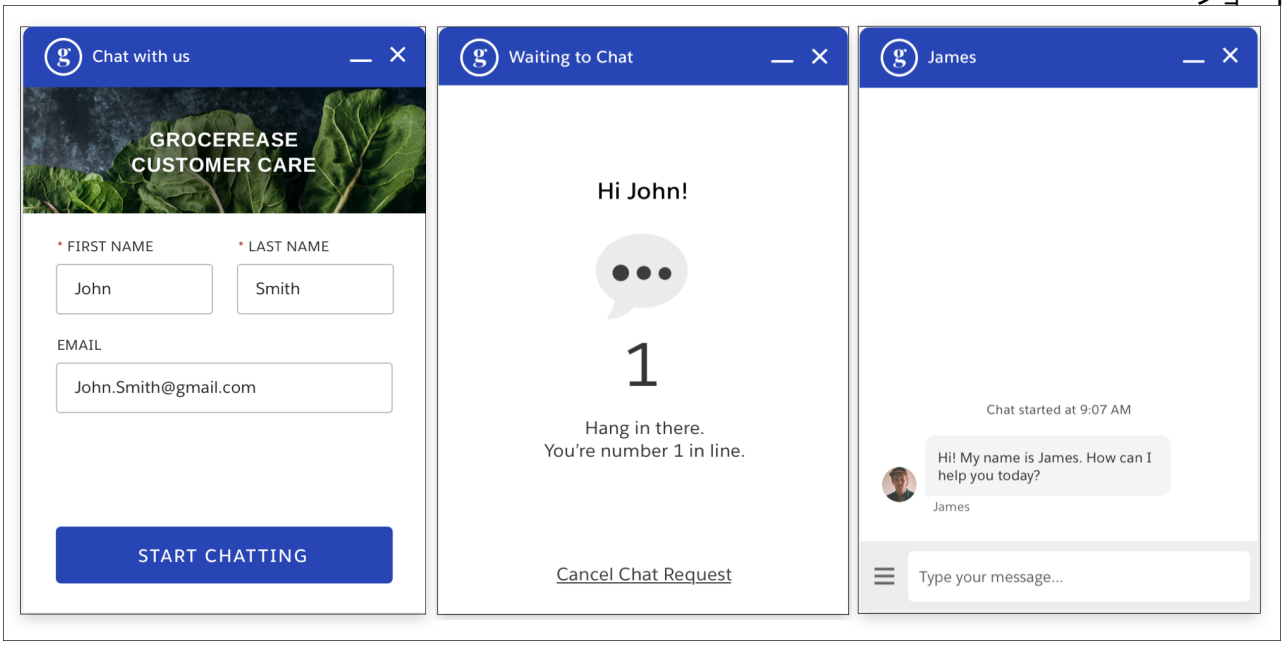
- *Salesforce* ヘルプ:チャネルメニューの並び替え (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:チャネルメニューの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

改善されたチャットヘッダーによる会話の強化

合理化された組み込みチャットヘッダーを使用して、顧客に最新の操作性を提供します。幅の狭いデザインにより、メインウィンドウ内に重要なコンテンツが保持され、より集中したインタラクションが可能になります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: これは3つのデフォルト状態の新しいチャットヘッダーです。メインウィンドウでの会話を強化するパーソナライズされたインタラクション用にブランドのロゴ、色、テキストを追加します。



方法: 新しいチャットヘッダーは標準であり、ヘッダーのロゴを含む既存のブランドが適用されます。[ヘッダー]、[ヘッダーテキスト]、[代替ヘッダー] 項目の [ブランド] モーダルで色の選択を確認します。以前に適用したカスタム背景ヘッダーは自動的に削除されます。訪問者のトランスクリプトの保存機能がフッターメニューに含まれるようになりました。

重要: ブランドオプションの使用がサポートされるのは、設定およびコードスニペットのカスタマイズ可能なパラメータのみです。組み込みコンポーネントにカスタム CSS を追加した場合は、各リリースの前にチャットウィンドウをテストし、適切に機能することを確認してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 埋め込みチャットの設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Set Up General Branding (全般的なブランド設定) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Web コンポーネントを使用したチャットヘッダーのカスタマイズ

Lightning Web コンポーネント (LWC) を使用して、カスタムチャットヘッダーを作成します。LWC は機能が豊富で、Aura コンポーネントよりも新しいバージョンの ECMAScript を使用します。これらは Aura と同じ方法でリリースされ、両方の種類を Web サイトで共存させることができます。

対象: この変更は、組み込みコードスニペットを使用する Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: コンポーネントを作成し、組織にリリースします。組み込みサービス設定で、リリースを選択してチャット設定を編集し、[Lightning コンポーネントでカスタマイズ] テーブルを使用してチャットヘッダーコンポーネ

ントを選択します。変更は組み込みチャットのみを対象としており、Field Service や予定の予約には適用されません。

関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.snapins_web_dev.meta/snapins_web_dev/snapins_web_overview.htm

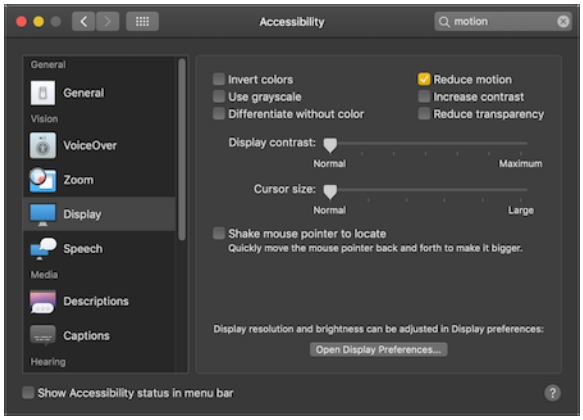
https://developer.salesforce.com/docs/component-library/bundle/lightningsnapin-base-chat-header/documentation

アクセスビリティでのチャネルメニューとチャットのアニメーションの提供

素晴らしいアニメーションは、ユーザが自分の操作が反映されていることを知るのに役立ちます。チャネルメニューとチャットでこの安心感を提供すると同時に、前庭障害を持つ顧客やネットワーク速度が遅い顧客が OS 設定でアニメーションをオフにできるようにします。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: チャネルメニューには、閉じたときの煙、アクションボタンの煙、メニュー項目のフロート表示のアニメーションが追加されました。チャットには、チャットウィンドウを最小化および最大化したときのフェードインとフェードアウトが追加されました。ユーザには、デバイスの OS の視覚効果を減らす設定でそれらをオフにするオプションがあります。



チャットセッション全体の変換

組み込みサービス API を使用してボタンの設定を動的に更新し、顧客のチャット環境を刷新します。デフォルトの開始ボタンを置き換えて、Web ページ上の別の場所に移動します。応答型の環境でのユーザのアクションに基づいて、終了チャットを作成したり、セッションデータをクリアしたりします。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。この機能は** Lightning Out **を介した組み込みコードスニペットで使用可能で、コミュニティでは使用できません。**

関連トピック:

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.snapins_web_dev.meta/snapins_web_dev/snapins_web_overview.htm

https://developer.salesforce.com/docs/atlas.en-us.snapins_web_dev.meta/snapins_web_dev/embedded_services_web_start_and_end_chat.htm

5 つ星サービスのチャット後アンケートの追加

エージェントのサービスを評価したり質問したりするチャット後の顧客アンケートを作成します。Salesforce**のアンケートは設定が簡単で、エンゲージメントに関する貴重なフィードバックを得ることができます。**

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

関連トピック:

Salesforce **ヘルプ:アンケートを使用した事後チャットのカスタマイズ(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)**

ナレッジ: 共有と記事の所有権

Lightning Knowledge **では共有(ベータ)が導入されているため、プラットフォームの能力を活用できます。デフォルトの共有を設定し、コンテンツおよび読者に合わせて条件ベースのルールを調整します。**Lightning Knowledge **があるすべての**Salesforce**組織で使用できる所有者の変更アクションを使用すれば、共有に切り替えた場合の所有者に基づくアクセス権に関する具体的な情報を取得できます。**

このセクションの内容:

Lightning Knowledge **での** Salesforce **共有の使用 (ベータ)**

組織の共有設定、所有者のロール階層によるアクセス、条件ベースのルールなど、馴染みのある共有機能を利用します。Salesforce **の標準共有モデルは、データカテゴリを使用してオブジェクト権限の範囲外のアクセスを制御するナレッジのデフォルトとは対照的です。標準共有を使用する場合、データカテゴリで引き続き記事が分類されますが、レコードアクセスは制御されなくなります。**

Lightning Knowledge **のレコード所有者の変更**

記事のドラフトを担当するユーザまたはキューを選択するか、レポートに所有権項目を追加します。所有者の変更アクションでは、組織がナレッジを Salesforce **の標準共有に切り替えることができます。所有者がレコードアクセスを制御するのは、ナレッジの共有を有効にした場合のみであることに注意してください。**

リンク済み記事でより多くの記事の使用を追跡

チャット、メッセージング、またはソーシャル会話で記事が使用されている場合、その記事は[リンク済み記事] リストに添付されます。ケース内のソーシャル投稿で共有された記事は、ケース記事オジェクトのケースに引き続き添付されますが、スタンドアロンのソーシャル会話で共有された記事は、リンク済み記事オブジェクトに添付されます。以前は、リンク済み記事オブジェクトは作業指示、作業種別、および作業指示品目にのみ関連付けられていました。

ナレッジレポートをデータカテゴリで絞り込み

ナレッジレポートをカテゴリで絞り込み、ナレッジ記事のカテゴリとサブカテゴリ全体に関する情報を返します。

Lightning Knowledge での Salesforce 共有の使用 (ベータ)

組織の共有設定、所有者のロール階層によるアクセス、条件ベースのルールなど、馴染みのある共有機能を利用します。Salesforce の標準共有モデルは、データカテゴリを使用してオブジェクト権限の範囲外のアクセスを制御するナレッジのデフォルトとは対照的です。標準共有を使用する場合、データカテゴリで引き続き記事が分類されますが、レコードアクセスは制御されなくなります。

対象: Lightning Knowledge の共有は、Lightning Knowledge を有効にしている Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition で使用できます。

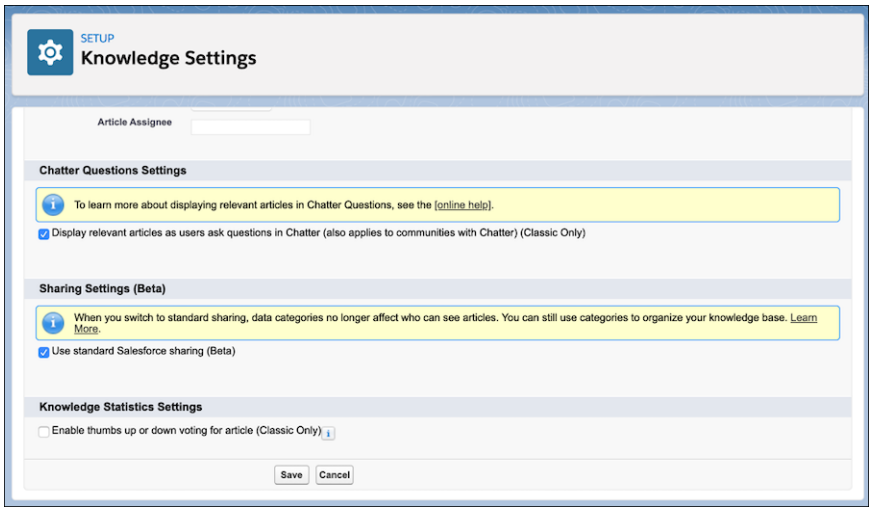
メモ: Lightning Knowledge の共有はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。Lightning Knowledge の共有に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Knowledge」グループに投稿してください。組織でこの機能を有効化することについては、Salesforce にお問い合わせください。

対象ユーザ: 組織でこの機能を有効にするには、Salesforce サポートにお問い合わせください。共有のベータバージョンはすべての組織に適切とは限りません。制限事項を確認し、不明な場合は Sandbox 組織で共有を試してください。たとえば、ゲストユーザや大規模ユーザと記事を共有するルールは作成できません。ゲストユーザや大規模ポータルユーザと一部の公開記事のみを共有しようとしている組織では、共有を使用しないことをお勧めします。

理由: 一部の例外を除いて、他のオブジェクトで使用するのと同じ共有モデルを使用することで、記事へのアクセス戦略が簡略化されます。たとえば、[レコードタイプ]項目に基づいてアクセスを変更するルールを作成できます。共有が有効になっている場合でも、データカテゴリを使用して記事を分類したり、検索やクエリの条件として使用したりできます。

方法: ナレッジの Salesforce 共有モデルに切り替えるには、[設定] の [ナレッジの設定] ページを編集します

1. [共有設定] で、**[Salesforce の標準共有を使用 (ベータ)]** を有効にします。
2. 変更内容を保存します。



3. これで、ナレッジの共有設定を表示および変更できます。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有*」と入力し、[共有設定] を選択します。

共有設定を編集し、必要に応じてルールを追加します。デフォルトでは、ナレッジオブジェクトは内部ユーザに対しては [公開/参照・更新可能]、外部アクセスに対しては [非公開] を使用します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Knowledge の共有 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 共有設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

IdeaExchange Idea: ナレッジ記事に共有ルールを割り当てられるようにする

IdeaExchange Idea: Knowledge__kav オブジェクト設定の共有

Lightning Knowledge のレコード所有者の変更

記事のドラフトを担当するユーザまたはキューを選択するか、レポートに所有権項目を追加します。所有者の変更アクションでは、組織がナレッジを Salesforce の標準共有に切り替えることができます。所有者がレコードアクセスを制御するのは、ナレッジの共有を有効にした場合のみであることに注意してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Knowledge を有効にしているナレッジに適用されます。

対象ユーザ: 所有者の変更アクションを使用するには、所有権の移行権限、記事の管理権限、および記事を作成、参照、編集するためのナレッジオブジェクト権限が必要です。記事の所有者になるには、ドラフト記事の参照権限がユーザまたはキューに必要です。データカテゴリを使用してレコードアクセスを制御する場合、所有者にはカテゴリベースのアクセス権が必要です。

理由: ナレッジオブジェクトの標準共有に切り替える場合、記事の所有者を設定することで、アクセス権を持つユーザを微調整できます。以前は、記事所有者は変更できませんでした。デフォルトでは、所有者は記事を作成したユーザ、または翻訳を申請したユーザです。キュー機能による新しい所有権を使用すると、レポート

やリストビューを所有者で絞り込んだり、入力規則を記述したりするタスクをユーザに加えてキューにも適用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: レコードの所有者の変更 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Knowledge での Salesforce 共有の使用 (ベータ)

リンク済み記事でより多くの記事の使用を追跡

チャット、メッセージング、またはソーシャル会話で記事が使用されている場合、その記事は [リンク済み記事] リストに添付されます。ケース内のソーシャル投稿で共有された記事は、ケース記事オブジェクトのケースに引き続き添付されますが、スタンドアロンのソーシャル会話で共有された記事は、リンク済み記事オブジェクトに添付されます。以前は、リンク済み記事オブジェクトは作業指示、作業種別、および作業指示品目にのみ関連付けられていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Developer Edition、Unlimited Edition の Lightning Knowledge を有効にしている Lightning Experience に適用されます。

ナレッジレポートをデータカテゴリで絞り込み

ナレッジレポートをカテゴリで絞り込み、ナレッジ記事のカテゴリとサブカテゴリ全体に関する情報を返します。

対象: この変更は、Lightning Experience の Lightning Knowledge すべてのエディションに適用されます。

関連トピック:

ナレッジレポートをカテゴリで絞り込み

ルーティング: 状況ベースの業務量および優先度付けされたその他のスキル

状況ベースの業務量モデルが正式リリースされました。受け入れられた作業の状況を使用してエージェントの業務量をより正確に測定します。その他のスキルを 1 度にすべて削除するのではなく繰り返し削除します。

このセクションの内容:

作業項目の状況に基づくエージェントの業務量の決定 (正式リリース)

エージェントの業務量をより正確に測定します。オムニチャネルは、以前の開かれたタブの方法ではなく、受け入れられた作業の状況に基づいてエージェントの業務量を決定できるようになりました。エージェントが対応できない場合は、作業が完了するか、再割り当てされるまで、作業は割り当てられたままであり、エージェントの業務量に反映されます。

その他のルーティングスキルの優先度付け

スキルベースのルーティングを属性設定メソッドまたは Apex コードで使用する場合、一部のスキルをその他として設定できます。その他のスキルについては、指定されたタイムアウト後にそのスキルを持つ対応可能なエージェントがいない場合にスキルを削除する順序を指定できるようになりました。優先度値の大きいスキルは最初に削除されます。優先度値の小さいスキル (0 など) は最後に削除されます。

作業項目の状況に基づくエージェントの業務量の決定 (正式リリース)

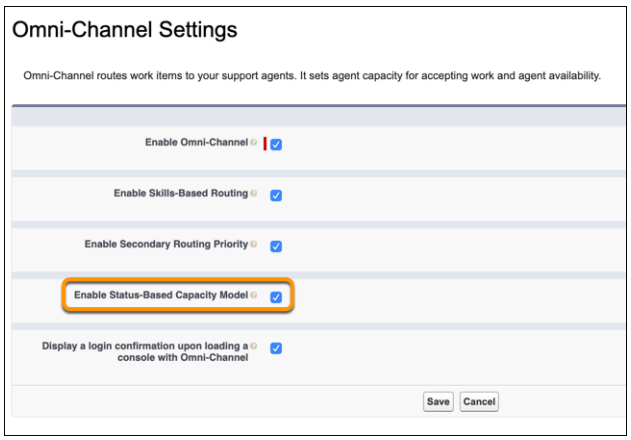
エージェントの業務量をより正確に測定します。オムニチャネルは、以前の開かれたタブの方法ではなく、受け入れられた作業の状況に基づいてエージェントの業務量を決定できるようになりました。エージェントが対応できない場合は、作業が完了するか、再割り当てされるまで、作業は割り当てられたままであり、エージェントの業務量に反映されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 新しい状況ベースの業務量モデルでは、作業が完了するか、別のエージェントに再割り当てされるまで、作業は割り当てられたままであり、エージェントの業務量に適用されます。これに対し、現在のタブベースの業務量モデルでは、サービスコンソールで作業タブが閉じられるとエージェントの業務量はリリースされます。

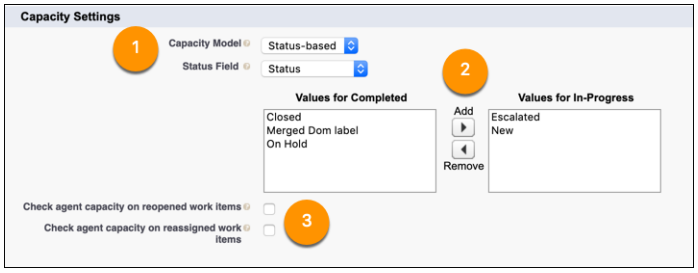
メモ: 状況ベースの業務量モデルは、ケース、リード、およびカスタムオブジェクトでのみ使用できます。チャットメッセージングなど、リアルタイム作業項目ではサポートされません。また、Omni-Channel Supervisor コンソールでは、このモデルに関連する一部のデータポイントがサポートされません。

方法: [オムニチャネル設定] で [状況ベースの業務量モデルを有効化] をクリックします。



サービスチャネルごとに状況ベースの業務量モデルを選択します。(1)。次に、作業状況を追跡するために使用する選択リスト項目と、完了した作業および処理中の作業で使用する項目値を指定します。(2)。

特定のエージェントに割り当てられた作業の場合、業務量チェックを上書きして作業をエージェントに割り当てたままにするように選択できます。(3)。



メモ: 状況ベースの業務量モデルを使用するようにチャネルを設定した場合、エージェントがタブを閉じても作業は割り当てられたままです。オムニチャネルウィジェットの[私の作業]タブでは、エージェントに割り当てられた作業は、その作業が完了するか再割り当てされるまで表示されます。エージェントは[私の作業] タブから作業用のタブを開くことができます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:サービスチャネルの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

その他のルーティングスキルの優先度付け

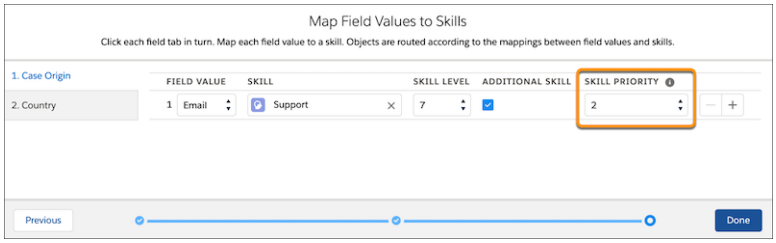
スキルベースのルーティングを属性設定メソッドまたは Apex コードで使用する場合、一部のスキルをその他として設定できます。その他のスキルについては、指定されたタイムアウト後にそのスキルを持つ対応可能なエージェントがいない場合にスキルを削除する順序を指定できるようになりました。優先度値の大きいスキルは最初に削除されます。優先度値の小さいスキル (0 など) は最後に削除されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 最初にオムニチャネルは、要求されたすべてのスキルを持つエージェントに作業項目を転送しようとします。すべてのスキルを持つエージェントが対応可能でない場合、オムニチャネルは、その他としてマークされたスキルをその優先度値に基づいて削除します。ルーティング設定で指定された、その他のスキルのタイムアウト期間が経過すると、オムニチャネルは、同じ優先度値を持つスキルを、残りのスキルを持つエージェントが対応可能になるまで削除します。その後、最も適したエージェントに作業項目が転送されます。エージェントにその他のスキルがすべて備わっているかどうかは関係ありません。

メモ: 属性設定メソッドまたは Apex コードから生成された同じ優先度値を持つスキルは、同じグループに属し、同時に削除されます。

方法: スキルベースのルーティングの設定フローの属性設定で [その他のスキル] を選択し、[スキルの優先度] を設定します。



たとえば、次の必須スキルとその他のスキルを設定できます。

- 言語: 英語とフランス語は必須です。その他ではありません。
- 問題種別: ソフトウェアとハードウェアは最高優先度 0 のその他のスキルです。
- 商品: スピーカー、マウス、キーボードは優先度 1 のその他のスキルです。
- 場所: 米国、英国、カナダ、フランスは優先度 2 のその他のスキルです。

この例では、言語スキルはその他ではないため削除されません。[問題種別]項目に関連付けられているスキルには最高優先度が設定されているため、オムニチャネルはこのスキルを最後に削除します。[場所]項目に関連付けられているスキルは最初に削除されます。

ルーティング設定で指定する[その他のスキルの削除のタイムアウト]では、その他のスキルの各セットを削除するまで待機する時間を指定します。

メモ: その他のスキルを含む既存の属性のマッピングセットがある場合、そのスキルは、優先度 0 に設定されているものとして処理され、最後に削除されます。これを調整するには、属性のマッピングセットを編集することができます。優先度順に従ってその他のスキルを削除するための時間を考慮して[その他のスキルの削除のタイムアウト]を調整してください。作業項目をエージェントに転送するために必要な時間は、その他のスキルを 1 度にすべて削除する場合よりも長くなることがあります。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:サービスチャネルの作成(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Service Cloud のその他の変更

Service Cloud に加えられたその他の変更について説明します。

このセクションの内容:

関連レコードコンポーネントを使用して、拡張されたレコードおよび多態的なリレーションを表示
エージェントはより少ないクリック数でより多くの情報を参照できるようになりました。エージェントは、更新された関連レコードコンポーネントを使用して、2つのレベルのレコードリレーションを参照し、顧客の詳細なコンテキストを得ることができます。

Service Cloud 機能に関する権限の変更
Summer '20 リリースで有効になる Service Cloud 機能に対するアクセス変更を確認してください。

関連レコードコンポーネントを使用して、拡張されたレコードおよび多態的なリレーションを表示

エージェントはより少ないクリック数でより多くの情報を参照できるようになりました。エージェントは、更新された関連レコードコンポーネントを使用して、2つのレベルのレコードリレーションを参照し、顧客の詳細なコンテキストを得ることができます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Lightning アプリケーションビルダーで Lightning ページを作成および保存するには、ユーザに「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。Lightning アプリケーションビルダーで Lightning ページを表示するには、ユーザに「設定・定義を参照する」権限が必要です。

理由:エージェントは、別のレコードに関連付けられた関連レコードの項目値を参照できるようになりました。たとえば、エージェントは、ケースに関連する取引先責任者の取引先を参照できます。以前は、エージェントが参照できるのは、1 つのレベルのレコードリレーションのみでした。つまり、エージェントは、ケースに関連する取引先責任者を参照できましたが、そのケースの取引先責任者に関連付けられた取引先を参照できませんでした。

エージェントは、関連レコードコンポーネントの多態的な項目も参照できるようになりました。たとえば、[Tasks Related To (関連する ToDo)] 項目では、[ケース]、[取引先]、[商談] などの値が使用される可能性があります。エージェントは参照項目種別 [ケース] を選択し、そこからケースを表示できます。以前は、多能的な項目は関連レコードコンポーネントではサポートされませんでした。

方法: Lightning アプリケーションビルダーで、対象のレコードページを選択し、関連レコードコンポーネントをページに追加します。1 番目のレコード参照を指定して、次に第 2 レベルの参照を指定します。第 2 レベルの参照を追加する前に、第 1 レベルの参照を指定する必要があります。第 2 レベルの参照は、1 番目のレコード参照からアクセスできる項目である必要があります。

多能的な項目をユーザが参照できるようにするには、第 1 レベルの参照または第 2 レベルの参照で多能的な参照項目種別を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning ページの標準コンポーネント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience レコードページの作成および設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Service Cloud 機能に関する権限の変更

Summer '20 リリースで有効になる Service Cloud 機能に対するアクセス変更を確認してください。

エンタイトルメントとマイルストン
: エンタイトルメントテンプレート、エンタイトルメントプロセス、作業指示マイルストン、マイルストン種別へのアクセスは、Salesforce システム管理者、ケース、エンタイトルメント、または作業指示オブジェクトへのアクセス権を持つユーザ、および「設定・定義を参照する」権限を持つユーザに制限されます。

リンク済み記事
: API のリンク済み記事へのアクセスはナレッジ記事にリンクされた親レコードへのアクセス権を持つユーザに制限されます。

関連トピック:

ナレッジ記事: ユーザプロファイル権限の説明

Industries: 緊急時管理対応、アクションプランによる顧客重視の強化、検索の機能強化、店舗訪問管理、その他

Salesforce Industries の垂直型ソリューションは、自分に依存する人との距離を縮めるように設計された多数の機能を備えています。Salesforce 緊急時対応管理は、危機の発生時に取引先責任者の追跡、監視、および他のリソースをすばやく提供するのに役立ちます。Health Cloud には新しい緊急時対応機能に加えて、コールセンター担当者をサポートしたり患者とつながったりするためのより多くの方法が追加されており、利便性や使いやすさも改善されています。Financial Services Cloud では、アクションプランが使いやすくなり、顧客のローン申込データを利用して金融口座を作成できます。Consumer Goods Cloud を使用すると、フィールド営業担当者は最も重要なデータに集中し、スケジュールを簡単に管理できます。Manufacturing Cloud を使用すると、取引先マネージャは取引先目標の設定や適切な販売予測を行うことができるため、販売計画を順調に進めることができます。

このセクションの内容:

Salesforce 緊急時対応管理の概要
Health Cloud: 緊急時管理、提供者検索ログ、機器販売サポート、その他
Financial Services Cloud: データの共有方法とコラボレーション方法の増加
Consumer Goods Cloud: カスタマイズされたモバイルアプリケーション、デスクトップアプリケーションに埋め込まれた Salesforce Maps、他

Salesforce 緊急時対応管理の概要

Salesforce 緊急時対応管理を使用すると、最も必要なタイミングで住民およびコミュニティにサービスを提供できます。症状のある患者にヘルスケアを提供し、接触した可能性のある個人を追跡および監視します。従来よりも迅速かつ効率的に緊急時リソースおよびサービスを割り当てることができます。

Health Cloud: 緊急時管理、提供者検索ログ、機器販売サポート、その他

Health Cloud では、サポートを必要とする人とつながるためのさらに多くの方法が提供されます。感染の拡大を止めて、公衆衛生の緊急時にケアをすばやく提供することができます。ケア提供者は、患者をリモート監視して、健康状態を追跡できます。医療機器提供者は、機器を登録して配送要求を追跡することで、適切な機器を適切な患者に届けることができます。機器メーカーと営業担当者は、モバイルアプリケーションなどから効果的なサイト訪問と在庫管理のサポートを受けられます。同意フォームを使用すると、より多くの種類のやり取りが可能になります。コールセンターのオペレータは、患者に代わって提供者を検索したときに、より役に立つ結果を入手できます。提供者検索で適切な結果が得られない場合には、ログを表示して問題の解決に役立てることができるようになりました。

Financial Services Cloud: データの共有方法とコラボレーション方法の増加

Financial Services Cloud では、データの表示、データの共有、パートナーとのコラボレーションの新しい方法が提供されます。保険契約と請求の詳細の表示をより詳細に制御して、保険契約者レコードページを整理します。パートナーコミュニティでアクションプランを有効にして、パートナーワークフローを合理化します。ローン申込データから金融口座、個人取引先、取引先責任者、資産、債務を作成して、住宅ローン口座を別の事業部門に簡単に委任できるようにします。Actionable Relationship Center を使用して、階層ビューで取引先のビジネスリレーションを確認します。

Consumer Goods Cloud: カスタマイズされたモバイルアプリケーション、デスクトップアプリケーションに埋め込まれた Salesforce Maps、他

営業マネージャがテリトリーを追跡および管理して出先の営業担当をサポートできるようにします。最大の効率を発揮するようにモバイルアプリケーションをカスタマイズし、Salesforce Maps をデスクトップアプリケーションに埋め込んで、一目で把握できる分析を提供できます。

Manufacturing Cloud: ビジネス成長計画の立案、特定の取引先販売予測への集中、販売の計画された総計値と実際の総計値の比較の改善

測定可能な目標を設定して、組織の成長計画を立てます。チームメンバーに目標を割り当てることで、成長計画を達成します。特定の商品と取引先間、および期間ごとに戦略的に目標を配分することで、主要なビジネス領域に集中します。組織の主要な取引先および商品を特定して、集中力とユーザの生産性を高めます。対象となるすべての取引先販売予測を 1 回のクリックで再計算できます。販売計画値をそのデフォルト通貨で表示して、簡単に比較します。取引先マネージャ目標、取引先販売予測、および販売計画の詳細なレポートを作成して、組織のデータを追跡および比較します。使用量の詳細を表示して、Salesforce 組織の取引先マネージャ目標と取引先販売予測で使用されるデータ量を管理します。

Salesforce 緊急時対応管理の概要

Salesforce 緊急時対応管理を使用すると、最も必要なタイミングで住民およびコミュニティにサービスを提供できます。症状のある患者にヘルスケアを提供し、接触した可能性のある個人を追跡および監視します。従来よりも迅速かつ効率的に緊急時リソースおよびサービスを割り当てることができます。

メモ: Spring '20 リリースでは、公衆衛生向け緊急時対応管理と公共セクタ向け緊急時対応管理の両方を使用できます。多くの人の目に留まるように、Summer '20 リリースノートに含まれています。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、および **Unlimited** Edition。

このセクションの内容:

従業員向けコンタクトトレーシングの概要

従業員向けコンタクトトレーシングを使用して、従業員のケアをしながら、手動のコンタクトトレーシングプロセスを管理して感染の拡大を追跡します。

公衆衛生向け緊急時対応管理の概要

衛生緊急事態が発生したときに各自の公衆衛生部門を動員して住民およびコミュニティにサービスを提供します。コンタクトトレーシングを使用して、患者をすばやくトリアージして評価したり、継続的な関与や監視を行ったり、コミュニティの感染拡大を防いだりします。公共機関や病院は、緊急時対応コミュニティを使用して、緊急用品やその他のサービスを要求できます。個人は、食糧配給サービスや短期住宅供給などの支援プログラムへの参加を要求できます。Salesforce Maps を使用して、支援が必要な場所や住民にすばやく効率的に現場対応者を派遣します。Einstein Analytics ダッシュボードでは、コミュニティの衛生に関する強力なインサイトを得られるため、迅速かつ適切な判断を行うことができます。

公共セクタ向け緊急時対応管理の概要

住民およびコミュニティが使用可能な緊急プログラム情報およびインシデントの更新にアクセスするための 1 つのデジタル避難先をすばやくリリースできます。緊急時対応コミュニティを使用して、公共機関や病院で使用できるさまざまなサービスおよびプログラム(緊急用品の要求など)を紹介します。個人の場合、食糧配給サービスや短期住宅供給要求などの支援プログラムを作成します。

緊急時対応管理の新規および変更されたオブジェクト

新規および変更された緊急時対応管理オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。公衆衛生向け緊急時対応管理では、すべての新規オブジェクトおよび項目を使用します。公共セクタ向け緊急時対応管理では、このトピックの「緊急時対応」セクションのオブジェクトおよび項目を使用します。

従業員向けコンタクトトレーシングの概要

従業員向けコンタクトトレーシングを使用して、従業員のケアをしながら、手動のコンタクトトレーシングプロセスを管理して感染の拡大を追跡します。

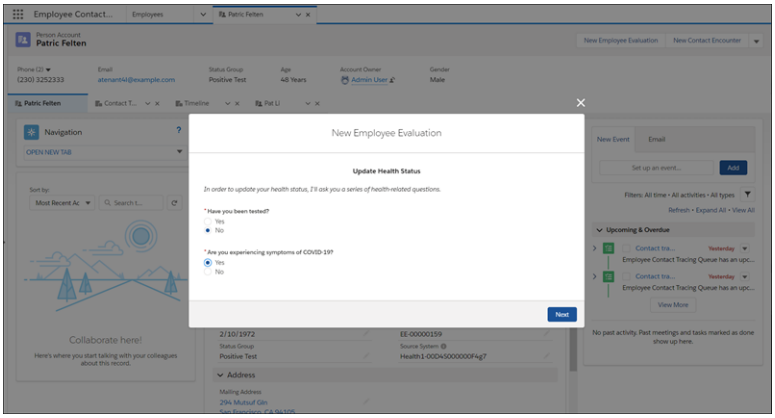
メモ: 従業員向けコンタクトトレーシングは、Spring '20 リリースで使用できます。多くの人の目に留まるように、Summer '20 リリースノートに含まれています。

対象: この変更は、従業員向けコンタクトトレーシングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

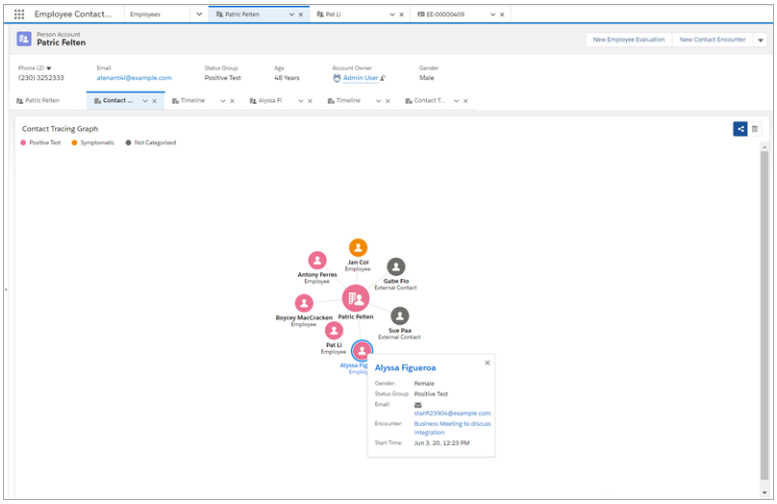
対象ユーザ: 従業員向けコンタクトトレーシングを使用するには、Salesforce で Health Cloud および Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスがプロビジョニングされている必要があります。Work.com で従業員向けコンタクトトレーシングを使用するには、Workplace Command Center 権限セットライセンスがプロビジョニングされている必要もあります。

理由: Salesforce の従業員向けコンタクトトレーシングは、従業員、その連絡先、および潜在的な感染の原因となった出来事を監視するために役立ちます。

感染者に接触した恐れがある人の追跡と連絡は、広範囲にわたる市中感染を阻止する最も効率的な方法の1つです。追跡担当者は、従業員の評価、接触した恐れがある人物に関する詳細の収集、ケアプログラムへの従業員の登録を行います。従業員の状況、接触者のマップ、個人の症状に関する情報がまとめて1か所に表示されます。



従業員評価フローでは、感染した従業員をケアプログラムに登録して健康状態を監視できるように、個人の症状に関する重要な情報を収集します。



コンタクトトレーシンググラフには、従業員と外部の接触者が包括的に表示され、個人、場所、イベント別に感染を追跡できます。コンソールから離れずに、フォローアップ、評価、トリアージを行うことができます。

コンタクトトレーシング機能は、プライバシーのベストプラクティスのトレーニングを受けたユーザのみに使用可能にすることをお勧めします。コンタクトトレーシングのデータは、必要最小限の人とだけ共有することをお勧めします。

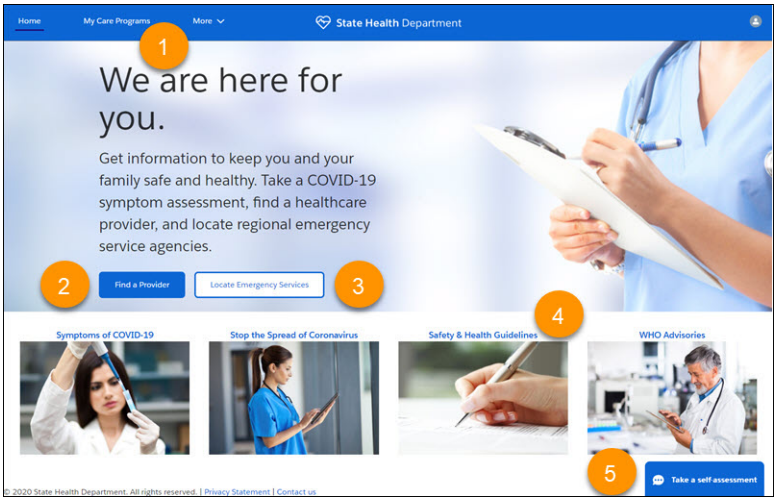
公衆衛生向け緊急時対応管理の概要

衛生緊急事態が発生したときに各自の公衆衛生部門を動員して住民およびコミュニティにサービスを提供します。コンタクトトレーシングを使用して、患者をすばやくトリアージして評価したり、継続的な関与や監視を行ったり、コミュニティの感染拡大を防いだりします。公共機関や病院は、緊急時対応コミュニティを使用して、緊急用品やその他のサービスを要求できます。個人は、食糧配給サービスや短期住宅供給などの支援プログラムへの参加を要求できます。Salesforce Maps を使用して、支援が必要な場所や住民にすばやく効率的に現場対応者を派遣します。Einstein Analytics ダッシュボードでは、コミュニティの衛生に関する強力なインサイトを得られるため、迅速かつ適切な判断を行うことができます。

対象: この変更は、公共セクタ向け緊急時対応管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

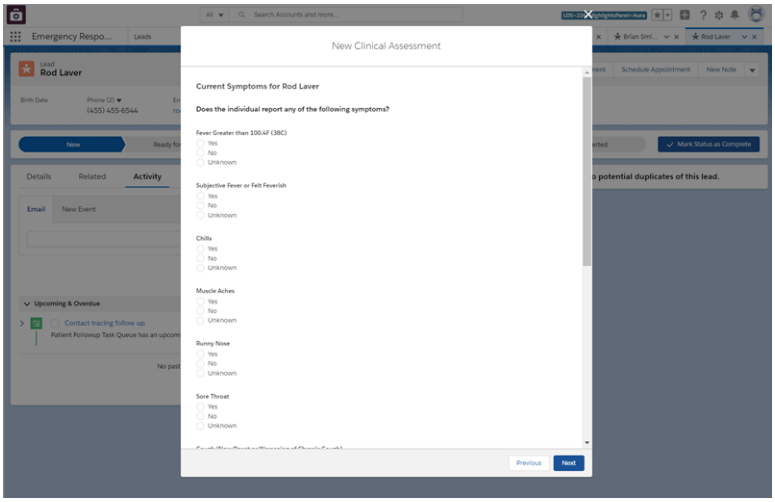
対象ユーザ: 公衆衛生向け緊急時対応管理を使用するには、Salesforce で公共セクタ向け緊急時対応管理および Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスをプロビジョニングする必要があります。コミュニティユーザは、コミュニティ向け Health Cloud および公共セクタコミュニティ権限セットライセンスをプロビジョニングする必要があります。

理由: 公衆衛生向け緊急時対応管理には、大規模な公衆衛生緊急事態に対応するための広範な事前設定済みのツールが用意されています。公衆衛生緊急事態になったときは、コミュニティの安全、衛生、ウェルビーイングが最優先されます。公衆衛生緊急事態コミュニティを使用すると、住民は必要なサポートを受けるためのアクションを実行できます。



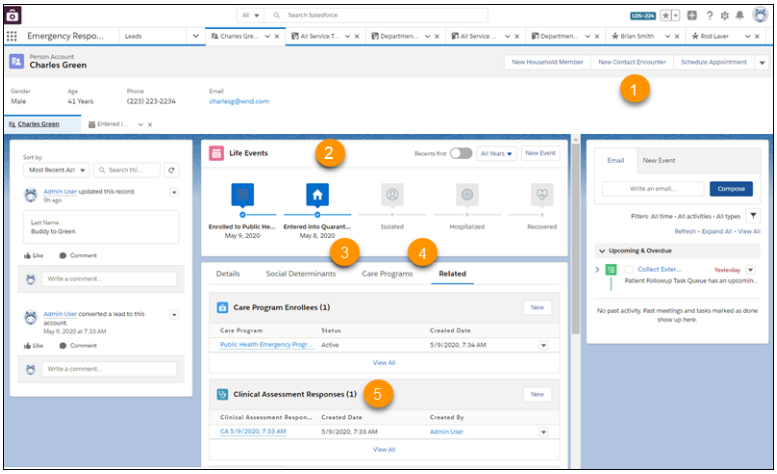
住民は、登録されている緊急ケアプログラムを確認したり (1)、専門分野、場所、およびその他の要素でヘルスケア提供者を検索したり (2) できます。ボタンをクリックすると最も近い緊急サービスが表示され (3)、健康と安全を確保するための重要な情報にアクセスできます (4)。定義済みのチャットボットダイアログの沿って進めていけば、疾病管理予防センターのガイドラインに基づいて個人で自己評価することができます。また、フォローアップの予定をスケジュールするオプションも用意されています。

公衆衛生緊急事態が発生したときは、個人の評価、ケアプログラムへの登録、監視を効率的に行うことが重要です。個人の状態に関する重要な情報を収集する臨床評価フローが用意されているため、迅速かつ正確にケアの判断を行うことができます。



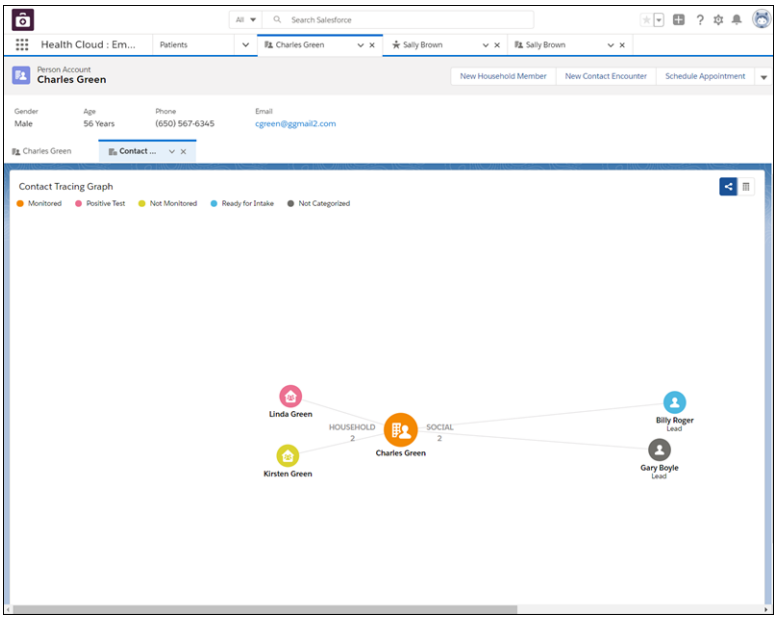
緊急時対応管理コンソールでは、プロトコルやガイドラインの変更にすばやく適応できるガイド付きワークフローと事前作成済みの評価を使用して一貫性のある受入環境を作成できます。

患者がトリアージされてケアプログラムに登録されると、ケアチームはリモートで患者を監視し、必要に応じて適切なケアに関連付けることができます。ケアコーディネータは、各患者のニーズに合ったプログラムやサービスが設定されていることを確認するために必要なすべての情報を取得できます。



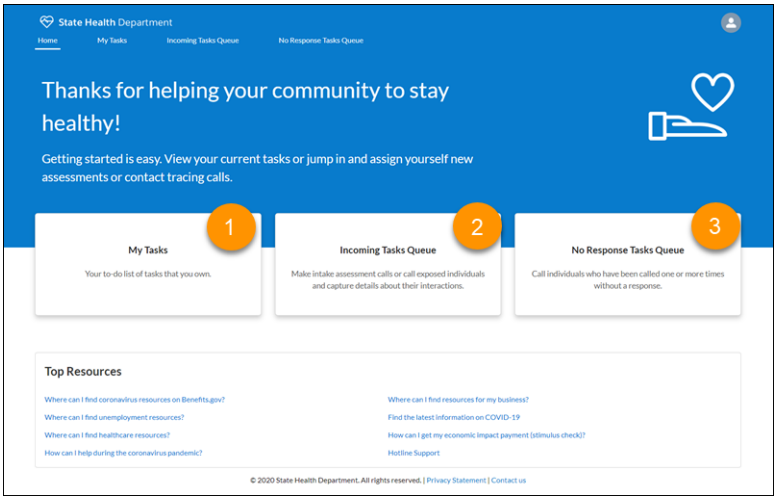
各患者レコードには、各患者に合わせてパーソナライズされたアクション可能で包括的なケアプランおよび社会福祉サービスプランが表示されます。患者が接触した個人に関する情報を追加し (1)、インシデントとマイルストンを追跡して患者の状態に関するインサイトを取得します (2)。患者に必要な追加サービスを定義する社会的要因と環境的要因を理解し (3)、患者が登録されているケアプログラムを把握します (4)。日次評価 (緊急ケアプログラムに登録されている患者に送信される) で測定される患者の症状や進行状況を確認できます。

感染者に接触した恐れがある個人を追跡して連絡することは、広範囲にわたる市中感染を阻止する最も効率的な方法の 1 つです。各患者の接触者を患者レコードから直接確認できます。



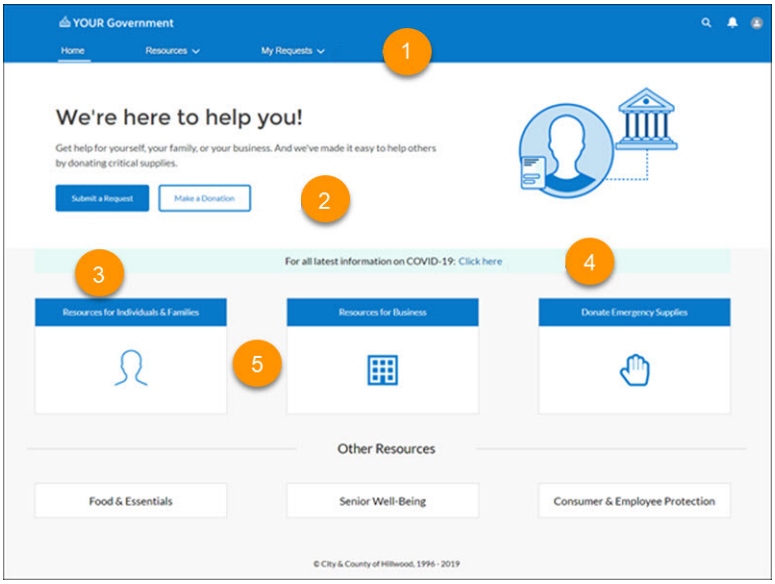
コンタクトトレーシンググラフには、世帯メンバーと社会的な関係が包括的に表示され、個人、場所、イベント別に感染を追跡できます。コンソールから離れずに、フォローアップ、評価、トリアージを行うことができます。

連絡する接触者が多い場合、作業員またはボランティアにそれらの接触者に電話してもらうことが合理的です。



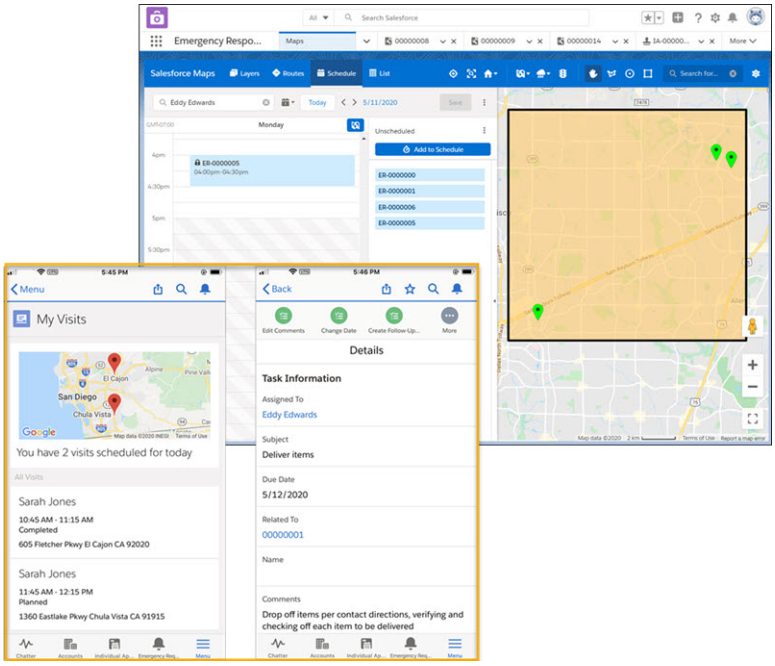
コンタクトトレーシングコミュニティを使用すると、コンタクトトレーサーはキューからコンタクトトレーシング ToDo を簡単かつ効率的に選択して作業できます。レーサーは、所有する ToDo を見つけたり (1)、新しい電話 ToDo を選択したり (2)、まだ連絡していない接触者に電話をする ToDo を追加したり (3) できます。

事前設定済みの緊急時対応コミュニティテンプレートを使用すると、住民は最も必要なタイミングで簡単に緊急支援を要求したり、情報を取得したりできます。



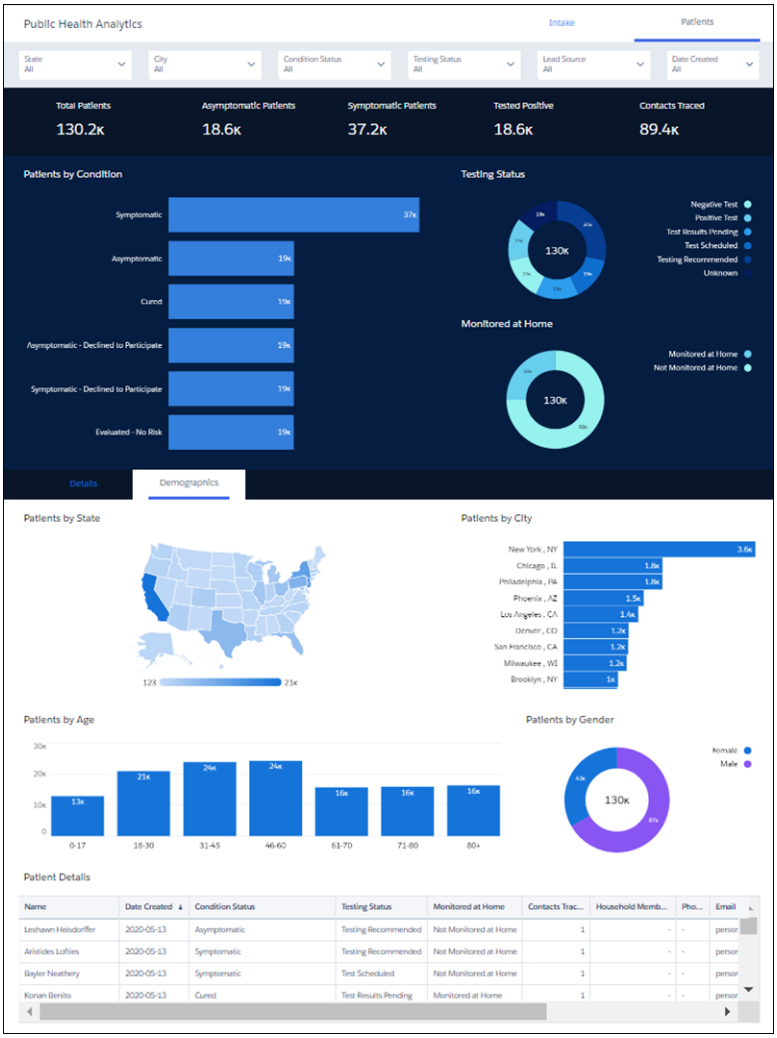
事前設定済みの緊急時対応コミュニティテンプレートを使用すると、緊急時の住民のハブを作成できます。住民は既存の要求の状況を確認したり (1)、余剰緊急用品を寄付したり (2)、支援の要求を送信したり (3)、機関からの更新を表示したり (4)、重要なリソースへのリンクを見つけたり (5) できます。企業は、従業員や顧客の安全と健康を確保できるようにする重要な用品を要求できます。

機関は、緊急時対応管理コンソールのホームページからすばやく要求を承認して派遣担当者に送信し、訪問をスケジュールできます。



派遣担当者が Salesforce Maps を使用すれば、すぐに支援を行うことができます。Salesforce Maps を使用すると、ロケーションインテリジェンスがフィールド業務に追加されるため、緊急用品配給サービスが効率的になります。緊急イベントが作成されると、[緊急訪問のスケジュール] プロセスで、訪問レコードの作成、アクションプランテンプレートの適用、ToDo の作成を行うフローが開始されます。現場対応者は、訪問の完了に必要なすべての情報を携帯電話で直接取得できます。連絡先情報、道順、ToDo の詳細な会計にすぐにアクセスできます。訪問と ToDo が完了すると、現場対応者は完了としてマークし、次の割り当てに移動できます。

緊急時対応管理向け Einstein Analytics は、AI を駆使したアクション可能なインサイトを組織に提供します。業界標準の KPI およびベストプラクティス分析を備える事前作成済みのテンプレートを使用すると、危機や緊急事態に対応するときに適切な回答をすばやく得ることができます。



公共セクタ向け緊急時対応管理の概要

住民およびコミュニティが使用可能な緊急プログラム情報およびインシデントの更新にアクセスするための 1 つのデジタル避難先をすばやくリリースできます。緊急時対応コミュニティを使用して、公共機関や病院で使用できるさまざまなサービスおよびプログラム (緊急用品の要求など) を紹介します。個人の場合、食糧配給サービスや短期住宅供給要求などの支援プログラムを作成します。

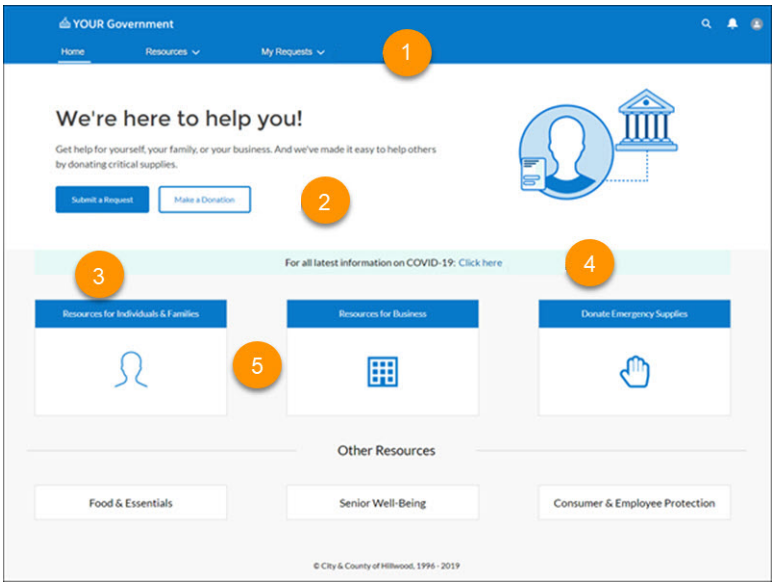
対象: この変更は、公共セクタ向け緊急時対応管理が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 緊急時対応管理を使用するには、Salesforce で公共セクタ向け緊急時対応管理権限セットライセンスをプロビジョニングする必要があります。コミュニティユーザは、Salesforce で公共セクタコミュニティ権限セットライセンスをプロビジョニングする必要があります。

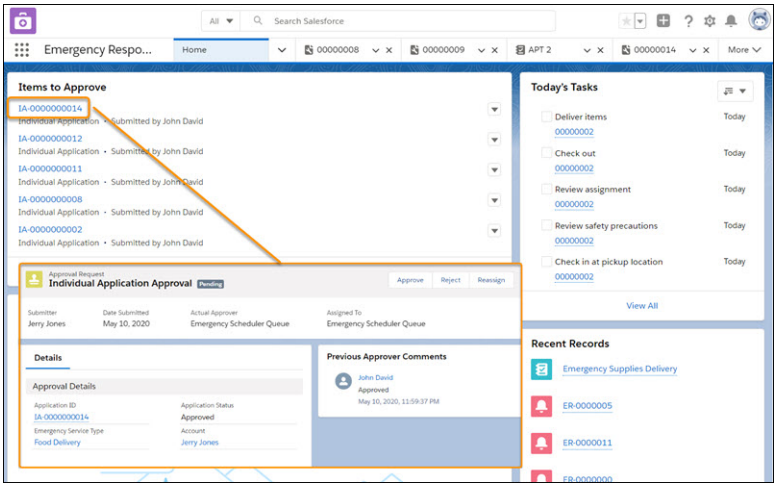
理由: モバイル訪問アプリケーションを使用すると、緊急サービスが要求されたときにその要求をすばやく効率的に完了できます。その要求の ToDo を作成するアクションプランを使用して、各緊急要求の配給または訪問を調整できます。Salesforce Maps を使用すると、ロケーションインテリジェンスがフィールド業務に追加されるため、緊急用品配給サービスが効率的になります。緊急イベントが作成されると、[緊急訪問のスケジュール] プロセスで、訪問レコードの作成、アクションプランテンプレートの適用、ToDo の作成を行うフローが開

始されます。薬を届ける人材を派遣する場合も、サイトで医療作業を行う人材を派遣する場合も、特定のアクション可能な ToDo を各現場対応者に簡単に割り当てることができます。

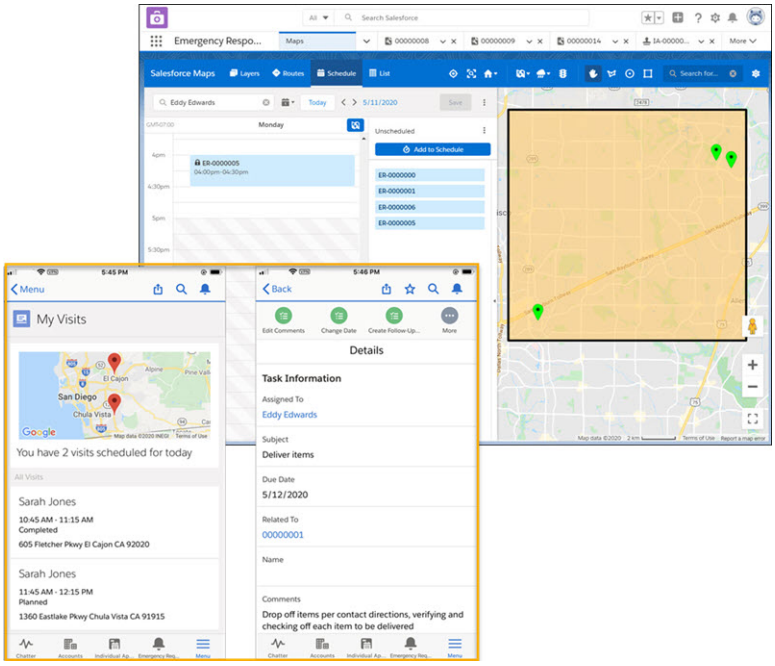
事前設定済みの緊急時対応コミュニティテンプレートを使用すると、住民は最も必要なタイミングで簡単に緊急支援を要求したり、情報を取得したりできます。



緊急時対応コミュニティテンプレートを使用すると、緊急時の住民のハブを作成できます。住民は既存の要求の状況を確認したり (1)、余剰緊急用品を寄付したり (2)、支援の要求を送信したり (3)、機関からの更新を表示したり (4)、重要なリソースへのリンクを見つけたり (5) できます。企業は、従業員や顧客の安全と健康を確保できるようにする重要な用品を要求することもできます。

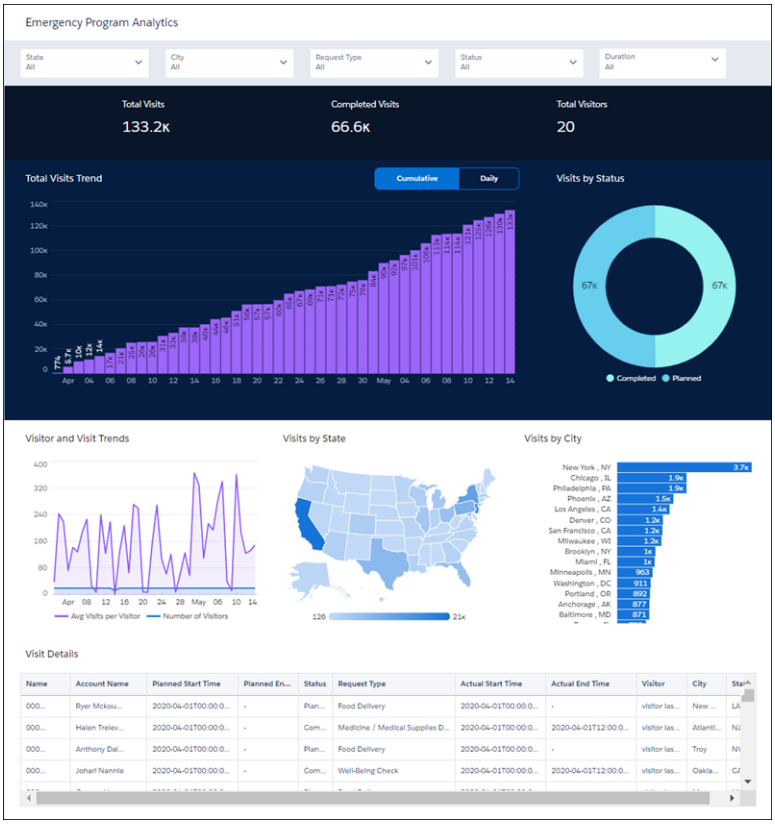


機関は、緊急時対応管理コンソールのホームページからすばやく要求を承認して派遣担当者に送信し、訪問をスケジュールできます。



派遣担当者が Salesforce Maps を使用すれば、すぐに支援を行うことができます。Salesforce Maps を使用すると、ロケーションインテリジェンスがフィールド業務に追加されるため、緊急用品配給サービスが効率的になります。緊急イベントが作成されると、[緊急訪問のスケジュール] プロセスで、訪問レコードの作成、アクションプランテンプレートの適用、ToDo の作成を行うフローが開始されます。現場対応者は、訪問の完了に必要なすべての情報を携帯電話で直接取得できます。連絡先情報、道順、ToDo の詳細な会計にすぐにアクセスできます。訪問と ToDo が完了すると、現場対応者は完了としてマークし、次の割り当てに移動できます。

緊急時対応管理向け Einstein Analytics は、AI を駆使したアクション可能なインサイトを組織に提供します。業界標準の KPI およびベストプラクティス分析を備える事前作成済みのテンプレートを使用すると、危機や緊急事態に対応するときに適切な回答をすばやく得ることができます。



緊急時対応管理の新規および変更されたオブジェクト

新規および変更された緊急時対応管理オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。公衆衛生向け緊急時対応管理では、すべての新規オブジェクトおよび項目を使用します。公共セクタ向け緊急時対応管理では、このトピックの「緊急時対応」セクションのオブジェクトおよび項目を使用します。

公衆衛生

臨床環境ではなく自宅で個人の状態が監視されているかどうかを確認する
`Account` オブジェクトの新しい `Monitored_at_Home__pc` 項目を使用します。

テストおよび監視プロセス内の個人のフェーズを確認する
`Account` オブジェクトの新しい `StatusGroup__pc` 項目を使用します。

個人の最近のテストの結果を取得する
`Account` オブジェクトの新しい `Testing_Status__pc` 項目を使用します。

最近のテストまたは評価に基づいて個人の状態に関する情報を取得する
`Contact` オブジェクトの新しい `ConditionStatus__pc` 項目を使用します。

臨床環境ではなく自宅で個人の状態が監視されているかどうかを確認する
`Contact` オブジェクトの新しい `Monitored_at_Home__pc` 項目を使用します。

テストおよび監視プロセス内の個人のフェーズを確認する
`Contact` オブジェクトの新しい `StatusGroup__pc` 項目を使用します。

個人の最近のテストの結果を取得する
`Contact` オブジェクトの新しい `Testing_Status__pc` 項目を使用します。

予定の日付を取得する
`Lead` オブジェクトで新しい `AppointmentDate` 項目を使用します。

予定の識別子を取得する
`Lead` オブジェクトで新しい `AppointmentId` 項目を使用します。

テストおよび監視プロセス内の個人のフェーズを確認する
`Lead` オブジェクトで新しい `StatusGroup__pc` 項目を使用します。

患者の健康状態の評価の結果を表示する
新しい `ClinicalAssessmentResponse__c` オブジェクトを使用します。

2 人以上が相互に接触した期間を表示する
新しい `ContactEncounter` オブジェクトを使用します。

接触時間中に居合わせた個人に関する詳細を表示する
新しい `ContactEncounterParticipant` オブジェクトを使用します。

緊急時対応

緊急サービスまたは商品を提供するための規制機関の認証を作成する
新しい `BusinessLicense (Emergency Service Authorization)` オブジェクトを使用します。

事業主から送信される申込フォームを作成する
新しい `BusinessLicenseApplication (Business Application)` オブジェクトを使用します。

事業活動のカテゴリを作成する
新しい `BusinessType` オブジェクトを使用します。

緊急サービスを提供するためのライセンスまたは許可要件を作成する
新しい `BusRegAuthorizationType (Business Emergency Service Type)` オブジェクトを使用します。

組織や個人からの緊急用品またはサービスの要求を作成する
新しい `EmergencyRequest__c` オブジェクトを使用します。

個人から送信される申込フォームを作成する
新しい `IndividualApplication` オブジェクトを使用します。

緊急サービスの種別を表示する項目を作成する
新しい `InspectionType (Emergency Service Execution Type)` オブジェクトを使用します。

緊急サービスプロバイダを承認する組織または政府機関を表示する項目を作成する
新しい `RegulatoryAuthority (Public Sector Organization)` オブジェクトを使用します。

緊急サービスまたは商品を提供する権限を企業または個人に付与するライセンスまたは許可を作成する
新しい `RegulatoryAuthorizationType (Emergency Service Type)` オブジェクトを使用します。

申込者が特定の商品を提供するために必要な認証種別を表示する項目を作成する
新しい `RegAuthorizationTypeProduct (Emergency Service Type Product)` オブジェクトを使用します。

緊急サービスに関連する訪問を表示する項目を作成する
新しい `Visit` オブジェクトを使用します。

Health Cloud: 緊急時管理、提供者検索ログ、機器販売サポート、その他

Health Cloud では、サポートを必要とする人とつながるためのさらに多くの方法が提供されます。感染の拡大を止めて、公衆衛生の緊急時にケアをすばやく提供することができます。ケア提供者は、患者をリモート監視して、健康状態を追跡できます。医療機器提供者は、機器を登録して配送要求を追跡することで、適切な機器を適切な患者に届けることができます。機器メーカーと営業担当者は、モバイルアプリケーションなどから効果的なサイト訪問と在庫管理のサポートを受けられます。同意フォームを使用すると、より多くの種類のやり取りが可能になります。コールセンターのオペレータは、患者に代わって提供者を検索したときに、より役に立つ結果を入手できます。提供者検索で適切な結果が得られない場合には、ログを表示して問題の解決に役立てることができるようになりました。

このセクションの内容:

緊急時対応管理を使用したコミュニティの保護
公衆衛生の緊急時は、感染の拡大を止めるために連絡先を評価、監視、追跡するのに Health Cloud が役立ちます。コンタクトトレーシングを使用して、患者をすばやくトリアージして評価したり、継続的な関与や監視を行ったり、コミュニティの感染拡大を防いだりします。

改善されたケアプランによる ToDo 追跡の向上
[ToDo] サブタブでは、ケアプランで ToDo をグループ化する方法や、グループの進行状況を追跡する方法をより詳細に制御できるようになりました。

提供者検索の機能強化
結果の並び替えや正確な走行距離により、提供者検索が使いやすくなりました。また、提供者データが期待どおりに表示されないときに問題をトラブルシューティングできるようになりました。

リモート監視による患者への関与
患者との間で信頼できるパーソナライズされた接続を作成して、ヘルスケアジャーニーを完了できるように動機付けをしましょう。ケアコーディネータは、ケア指標を容易に相関させてヘルスケアのギャップを特定できるように、各患者のケア総計値の目標をパーソナライズできます。患者の生体データが許容範囲を超えるような場合でも、ケアコーディネータは事前に患者に関与できます。心拍数、血糖値レベル、体重などの生体データと健康指標を示すグラフにより、ケアコーディネータは患者の健康状態を追跡できます。

Health Cloud 用のインテリジェントなセールスによる外科施設訪問の計画と実行
「Health Cloud 用のインテリジェントなセールス」デスクトップアプリケーションは、医療機器メーカーの営業マネージャや営業オペラティブによる外科ケースの訪問計画を支援し、モバイルアプリケーションは、フィールド営業担当者による実際の訪問を支援します。

ヘルスケアデバイスの登録や配送要求の作成
ヘルスケアデバイスを登録するか、デバイスを患者に配送するための配送要求を作成することで、患者がケア指標の目標を達成できるように支援します。ケアコーディネータは、これらのデバイスから生体データを追跡し、ヘルスケアのギャップを特定して、患者をフォローアップします。

アセット、商品、登録済みデバイスの同意フォームの表示

必要なときに同意を簡単に得ることができます。ケアプログラムに加えて、アセット、商品、登録済みデバイスの同意フォームを表示できるようになりました。

同じケアプログラムへの患者の登録

多くのヘルスケアプログラムでは、同じケアプログラムに同じ患者を何回か登録する必要があります。ケアコーディネータは、同じケアプログラムに患者を複数回登録できるようになりました。

ヘルスケア従事者のケアプログラム提供者との関連付け

ヘルスケア従事者を簡単にケアプログラム提供者に関連付けることができるようになりました。また、ヘルスケア従事者をケアプログラム提供者の主提供者として割り当てることもできます。

ゲストユーザは逆リレーションレコードを自動的に取得しない

ゲストユーザが、取引先責任者間リレーションレコードの作成をトリガする情報を提供した場合、createinverserole フラグがオンになっていても逆の取引先責任者間リレーションは作成されません。

ケアプランの状況項目にクローズ状況を表示するか非表示にするかを選択

[状況] 選択リストで、ケアコーディネータにクローズ状況を表示するかどうかを指定します。システム管理者が [サポート設定] で [クローズケースの状況項目を表示] 設定を無効にすると、選択リストコンポーネントですべてのクローズ種別の選択リスト値が除外されます。

Einstein Analytics for Healthcare の機能強化による AI を駆使したインサイトの迅速な発見

新しい視覚化により、医療機器営業担当は取引先、在庫、訪問のトレンドを把握でき、支払者や提供者はケアプランパフォーマンスおよびケア要請のパターンをすばやく特定できます。

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

この新規および変更された Health Cloud オブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

Health Cloud: 新規および変更されたメタデータ型

新規および変更された次の Health Cloud メタデータ型でさらに多くの作業を実行できます。

緊急時対応管理を使用したコミュニティの保護

公衆衛生の緊急時は、感染の拡大を止めるために連絡先を評価、監視、追跡するのに Health Cloud が役立ちます。コンタクトトレーシングを使用して、患者をすばやくトリアージして評価したり、継続的な関与や監視を行ったり、コミュニティの感染拡大を防いだりします。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 公衆衛生の緊急時対応管理を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

理由: 公衆衛生の緊急時のコミュニティの安全、健康、ウェルビーイングは、人を評価し、ケアプログラムに登録し、監視することにかかっています。患者がトリアージされてケアプログラムに登録されると、ケアチームはリモートで患者を監視し、必要に応じて適切なケアに関連付けることができます。ケアコーディネータ

は、各患者のニーズに合ったプログラムやサービスが設定されていることを確認するために必要なすべての情報を取得できます。

関連トピック:

https://help.salesforce.com/articleView?id=emergency_response_management_intro.htm

改善されたケアプランによる ToDo 追跡の向上

[ToDo] サブタブでは、ケアプランで ToDo をグループ化する方法や、グループの進行状況を追跡する方法をより詳細に制御できるようになりました。

このセクションの内容:

問題別と目標別の ToDo のグループ化
ケアプランの [ToDo] サブタブで、ToDo を問題別と目標別にグループ化できるようになりました。

進行状況リングによる ToDo 終了の追跡
ユーザは、進行状況リングによって ToDo グループの進行状況を認できるようになりました。

ケアプランのその他の UI の変更
[ケアプラン] ページが更新され、デザインがわかりやすくなりました。簡略化されたレイアウトにより、ユーザは関心のある情報 (ToDo の進行状況など) を簡単にすばやく見つけることができます。

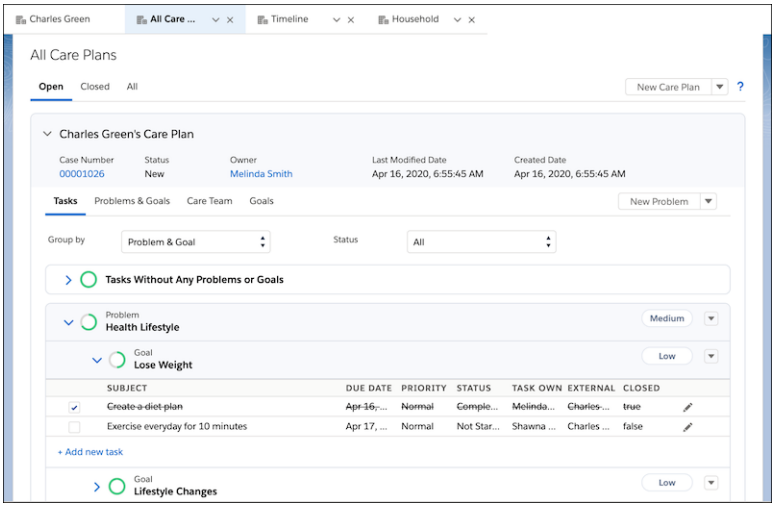
問題別と目標別の ToDo のグループ化

ケアプランの [ToDo] サブタブで、ToDo を問題別と目標別にグループ化できるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

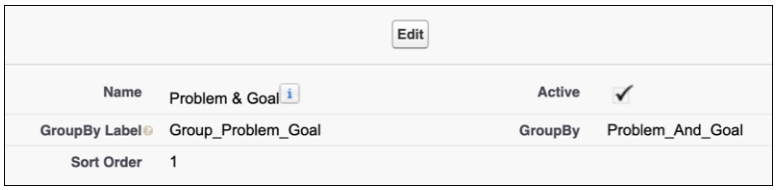
対象ユーザ: ケアプランを使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

理由: [ToDo] サブタブの [問題および目標] ビューでは、ケアプランのさまざまな部分を完全な階層構造で見ることができます。このビューでは、自分のケアプランの必要な部分で問題、目標、ToDo を作成することもできます。



方法: 新しい顧客には、[Group By] 選択リストの最初の値として [問題および目標] グループオプションが表示されます。既存の顧客には、新しいグループオプションは [Group By] 選択リストの最後に表示されます。このオプションが [Group By] 選択リストに表示されない場合は、次の手順で追加してください。

1. [設定] > [カスタム設定] > [ToDo グループ] に移動します。
2. [管理] をクリックして、以下の値で ToDo グループを追加します。



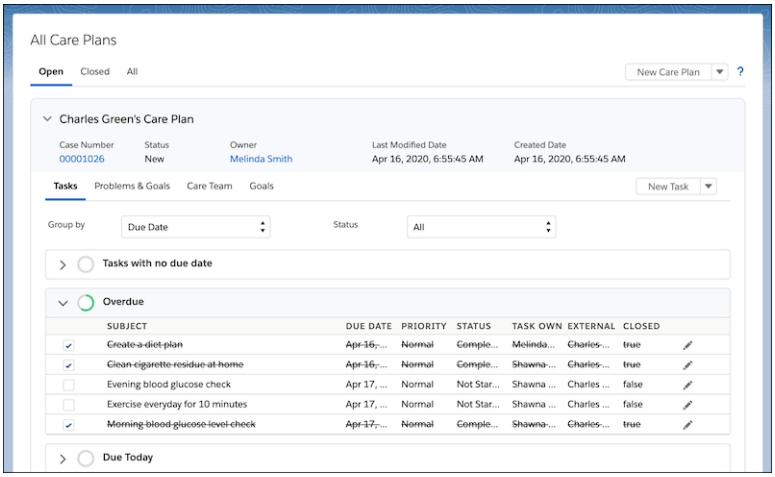
進行状況リングによる ToDo 終了の追跡

ユーザは、進行状況リングによって ToDo グループの進行状況を認できるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: ケアプランを使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

理由: [ToDo] サブタブで選択した [Group By] オプションに基づいて、ToDo は異なるグループに表示されます。各グループの見出しの横には、進行状況リングがあります。グループの各 ToDo が完了するのに従い、リングは徐々に緑色に変わります。



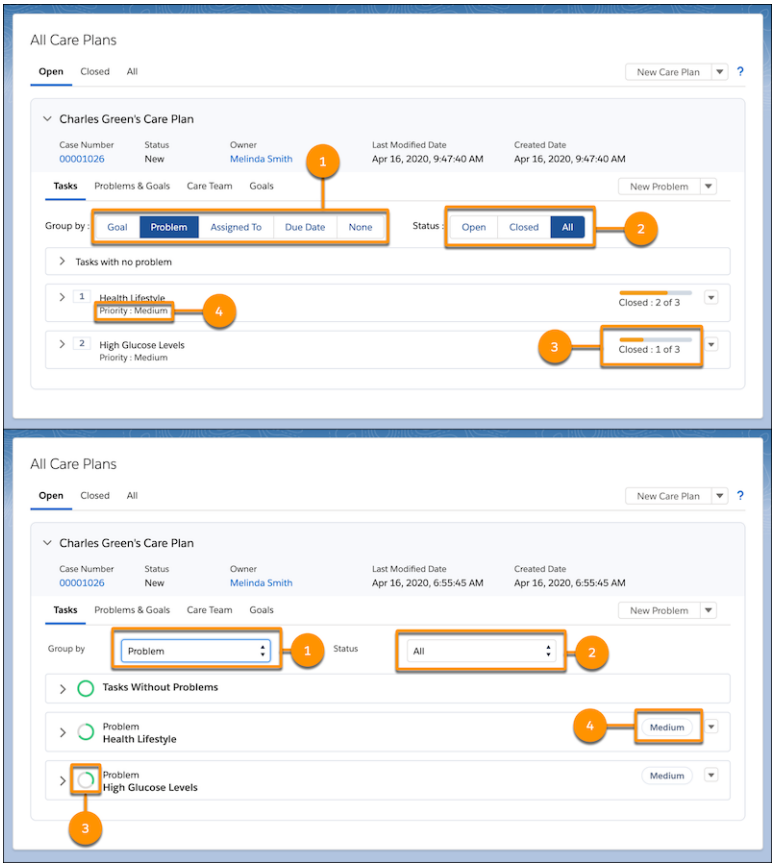
メモ: リングの進行状況は、目標の [進行状況] 項目に指定されている値ではなく、完了した ToDo の数に応じて変化します。進行状況リングは、期日でグループ化された ToDo でも使用できます。

方法: この変更は、追加の設定を行わなくても組織で使用できるようになります。

ケアプランのその他の UI の変更

[ケアプラン]ページが更新され、デザインがわかりやすくなりました。簡略化されたレイアウトにより、ユーザは関心のある情報 (ToDo の進行状況など) を簡単にすばやく見つけることができます。

最初の画像は Spring '20 の以前の [ケアプラン] ページ、2 番目の画像は Summer '20 の更新されたページを示しています。



コールアウト	Spring '20	Summer '20
1.	[グループ化単位] コントロールは一連のボタンです。	[グループ化単位] コントロールは選択リストです。
2.	[状況] 検索条件は一連のボタンです。	[状況] 検索条件は選択リストです。
3.	バーでグループ全体の進行状況が表示されます。また、完了した ToDo の数と ToDo の総数も表示されます。	リングでグループ全体の進行状況が表示されますが、完了した ToDo の数や ToDo の総数は表示されません。
4.	問題または目標の名前の後にそれらの優先度が続きます。	問題と目標の優先度はアクションボタンの横にあります。

提供者検索の機能強化

結果の並び替えや正確な走行距離により、提供者検索が使いやすくなりました。また、提供者データが期待どおりに表示されないときに問題をトラブルシューティングできるようになりました。

このセクションの内容:

提供者検索データの動機のトラブルシューティング
患者やコールセンターのオペレータに表示される提供者の検索結果の正確さを保証します。ヘルスケア提供者を検索するために使用されるデータセットを更新すると、新しいログが作成され、正常に同期された提供者レコードを確認するために役立ちます。また、同期されなかったレコードと、その理由も確認できます。

提供者検索での個人取引先の使用
データに個人取引先が含まれている場合はラッキーです。医療従事者オブジェクトの医療従事者が取引先責任者レコードだけでなく個人取引先でも表されるようになりました。

名前または距離による提供者検索結果の並び替え
コールセンターのオペレータは、検索結果を並び替えることで、患者にとって適切な提供者をすばやく探すことができます。検索結果は、提供者の名前または患者の住所からの距離で並び替えることができます。

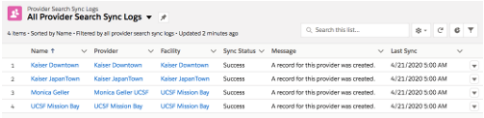
実際の運転距離に基づいたより正確な訪問の計画
提供者検索の結果に含まれる提供者までの距離が実際の運転距離で示されるようになったため、患者はヘルスケアのための訪問をより正確に計画できるようになりました。今までは、地図上の直線距離で計算されていました。

提供者検索データの動機のトラブルシューティング

患者やコールセンターのオペレータに表示される提供者の検索結果の正確さを保証します。ヘルスケア提供者を検索するために使用されるデータセットを更新すると、新しいログが作成され、正常に同期された提供者レコードを確認するために役立ちます。また、同期されなかったレコードと、その理由も確認できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: 提供者検索を使用するには、Salesforce 組織に Health Cloud ライセンスが必要です。ユーザは Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。



提供者検索での個人取引先の使用

データに個人取引先が含まれている場合はラッキーです。医療従事者オブジェクトの医療従事者が取引先責任者レコードだけでなく個人取引先でも表されるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

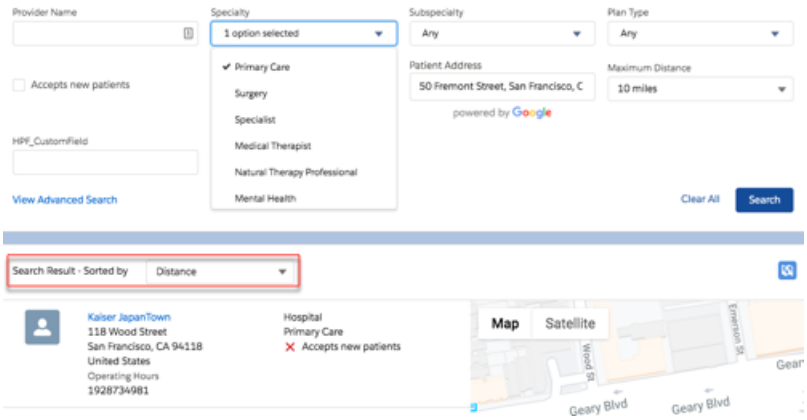
方法: ヘルスケア提供者レコードは、医師または施設のいずれかを表すことができます。施設を表すには取引先項目を入力します。医師を表すには取引先責任者項目を入力します。ヘルスケア提供者オブジェクトの取引先項目と取引先責任者項目の両方を入力しないでください。

名前または距離による提供者検索結果の並び替え

コールセンターのオペレータは、検索結果を並び替えることで、患者にとって適切な提供者をすばやく探すことができます。検索結果は、提供者の名前または患者の住所からの距離で並び替えることができます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: 提供者検索を使用するには、Salesforce 組織に Health Cloud ライセンスが必要です。ユーザは Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。



患者の住所が分かっている場合は、距離がデフォルトの並び替え順になります。距離は、最短から最長の順になります。患者の住所が指定されていない場合は、提供者の名前で検索結果が並び替えられます。

実際の運転距離に基づいたより正確な訪問の計画

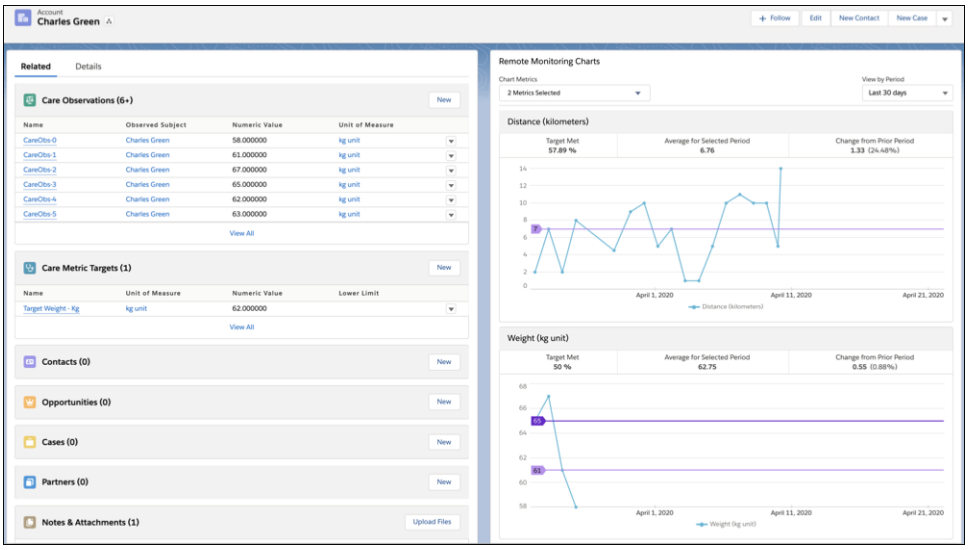
提供者検索の結果に含まれる提供者までの距離が実際の運転距離で示されるようになったため、患者はヘルスケアのための訪問をより正確に計画できるようになりました。今までは、地図上の直線距離で計算されていました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: 提供者検索を使用するには、Salesforce 組織に Health Cloud ライセンスが必要です。ユーザは Health Cloud 権限セットライセンスおよび Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。コミュニティユーザには、Customer Community Plus ライセンスが必要です。

リモート監視による患者への関与

患者との間で信頼できるパーソナライズされた接続を作成して、ヘルスケアジャーニーを完了できるように動機付けをしましょう。ケアコーディネータは、ケア指標を容易に相関させてヘルスケアのギャップを特定できるように、各患者のケア総計値の目標をパーソナライズできます。患者の生体データが許容範囲を超えるような場合でも、ケアコーディネータは事前に患者に関与できます。心拍数、血糖値レベル、体重などの生体データと健康指標を示すグラフにより、ケアコーディネータは患者の健康状態を追跡できます。



対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

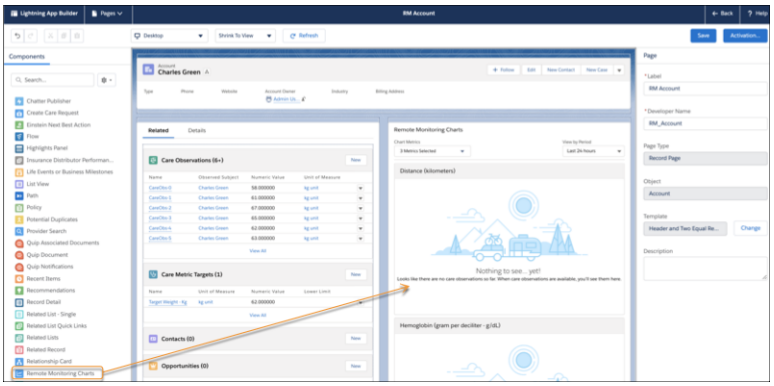
対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

理由:

- 患者:値に基づき、パーソナライズされたやり取りで根本原因に対処することで、提供者との間で信頼関係を構築できます。
- ケアコーディネータ
  - パーソナライズされ、情報と証拠に基づいたやり取りで、患者との間で信頼関係を構築できます。
  - 患者の生体データが許容範囲を超える場合に自動作成される ToDo、ケアギャップ、またはケースを利用できます。
  - 問題を特定するためのデータの収集ではなく、患者に有益な情報を提供することにより多くの時間を費やせます。
  - ケアコーディネータのコールを減らすことで、運営効率が向上します。
- 提供者と支払者ビジネス
  - 予防可能な再入院と救急業務を減らせます。
  - 担当業務を非医療提供者にシフトすることで、臨床医の時間を解放します。
  - 誤診や健康の社会的決定要因を見逃してしまうリスクを減らせます。

  - 慢性病に対する支出全体を削減できます。
- 医療機器メーカー: 提供者と支払者を容易に統合できます。

方法: リモート監視を有効にするには、オブジェクトマネージャで、適切なページレイアウトの関連リストにケア観察を追加します。グラフの可視化を有効にするには、[患者アカウントのレイアウト]ページにリモート監視グラフコンポーネントを追加します。



Health Cloud 用のインテリジェントなセールスによる外科施設訪問の計画と実行

「Health Cloud用のインテリジェントなセールス」デスクトップアプリケーションは、医療機器メーカーの営業マネージャや営業オペラティブによる外科ケースの訪問計画を支援し、モバイルアプリケーションは、フィールド営業担当者による実際の訪問を支援します。

このセクションの内容:

デスクトップアプリケーションによる訪問の計画とフィールド在庫の管理
営業マネージャと営業オペラティブに訪問および在庫計画ツールを提供し、毎回の訪問時に適切な商品とリソースを利用できるようにします。外科施設への訪問を作成して管理し、関連する医療機器、関係者、そして内部リソースを追加します。注文と在庫のインサイトによって商品のギャップを埋め、移送と補充の注文を事前に予想して要求します。

モバイルアプリケーションによる訪問成果の増大
あらゆるデバイスで訪問やToDoを管理することで、客先への訪問の成果を最大限に引き出します。予定において規定されたすべてのToDoを表示して完了し、経過時間や患者情報など、すべての関連情報を取得します。

デスクトップアプリケーションによる訪問の計画とフィールド在庫の管理

営業マネージャと営業オペラティブに訪問および在庫計画ツールを提供し、毎回の訪問時に適切な商品とリソースを利用できるようにします。外科施設への訪問を作成して管理し、関連する医療機器、関係者、そして内部リソースを追加します。注文と在庫のインサイトによって商品のギャップを埋め、移送と補充の注文を事前に予想して要求します。

このセクションの内容:

外科ケースの訪問の作成
営業オペラティブと営業マネージャは、外科ケースの商品売り込み訪問を作成し、それぞれの訪問に適した営業担当者と商品を割り当てることができるようになりました。
在庫予測と要求商品移送による商品不足の予測
営業チームのフィールド在庫へのインサイトを提供することで、潜在的な商品不足が発生する前に訪問できるように訪問を管理できます。

外科ケースの訪問の作成

営業オペラティブと営業マネージャは、外科ケースの商品売り込み訪問を作成し、それぞれの訪問に適した営業担当者と商品を割り当てることができるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Health Cloud 用のインテリジェントなセールスを使用するためには、Salesforce 組織とユーザに Health Cloud と Health Cloud アドオンのライセンスがプロビジョニングされている必要があります。

理由: 訪問により、営業オペラティブ、営業マネージャ、そして営業担当者は、履行すべき注文を追跡できます。また、訪問には、必要な商品、現場での連絡先、営業担当者が訪問中に実行すべき ToDo などの情報も含まれます。

方法: インテリジェントなセールスと Visit Inventory Management の組織設定を有効化します。

在庫予測と要求商品移送による商品不足の予測

営業チームのフィールド在庫へのインサイトを提供することで、潜在的な商品不足が発生する前に訪問できるように訪問を管理できます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Health Cloud 用のインテリジェントなセールスを使用するためには、Salesforce 組織とユーザに Health Cloud と Health Cloud アドオンのライセンスがプロビジョニングされている必要があります。

理由: 営業チームは、特定の客先への訪問実績に基づいて、その客先での商品在庫を予測できます。営業担当者が客先の要求を満たすのに十分な在庫を持っていない場合は、別の営業担当者に対して商品移送を要求できます。要求を受けた営業担当者は、その要求を承認、拒否、または部分的に承認できます。

方法: インテリジェントなセールスと Visit Inventory Management の組織設定を有効化します。

モバイルアプリケーションによる訪問成果の増大

あらゆるデバイスで訪問や ToDo を管理することで、客先への訪問の成果を最大限に引き出します。予定において規定されたすべての ToDo を表示して完了し、経過時間や患者情報など、すべての関連情報を取得します。

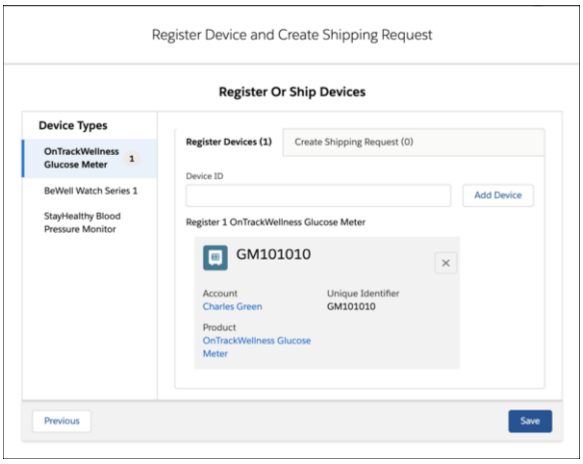
対象: これらの変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: Health Cloud 用のインテリジェントなセールスを使用するためには、Salesforce 組織とユーザに Health Cloud と Health Cloud アドオンのライセンスがプロビジョニングされている必要があります。

方法: Health Cloud 用のインテリジェントなセールスと Visit Inventory Management の組織設定を有効化します。

ヘルスケアデバイスの登録や配送要求の作成

ヘルスケアデバイスを登録するか、デバイスを患者に配送するための配送要求を作成することで、患者がケア指標の目標を達成できるように支援します。ケアコーディネータは、これらのデバイスから生体データを追跡し、ヘルスケアのギャップを特定して、患者をフォローアップします。



対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

方法: ユーザによるデバイス登録を有効にするには、フローを実行するための権限を付与します。

アセット、商品、登録済みデバイスの同意フォームの表示

必要なときに同意を簡単に得ることができます。ケアプログラムに加えて、アセット、商品、登録済みデバイスの同意フォームを表示できるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

方法: Flow Builder で同意フォームリストビューコンポーネントを編集します。[目的] ID 項目に、同意フォームを表示したいデバイス ID または商品 ID を入力します。

同じケアプログラムへの患者の登録

多くのヘルスケアプログラムでは、同じケアプログラムに同じ患者を何回か登録する必要があります。ケアコーディネータは、同じケアプログラムに患者を複数回登録できるようになりました。

対象: この変更は、Health Cloud **が有効になっている** Enterprise Edition **および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce **で** Health Cloud **ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには** Health Cloud **権限セットライセンスと** Health Cloud **プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。**

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「Health Cloud**」と入力し、[ケアプログラム加入者設定] を選択して、複数回の登録を有効にします。**

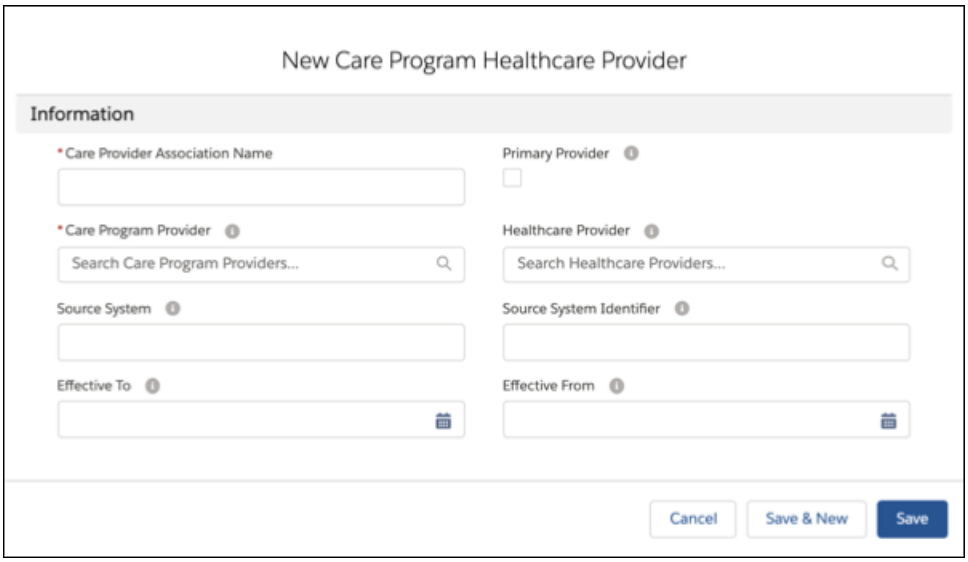
ヘルスケア従事者のケアプログラム提供者との関連付け

ヘルスケア従事者を簡単にケアプログラム提供者に関連付けることができるようになりました。また、ヘルスケア従事者をケアプログラム提供者の主提供者として割り当てることもできます。

対象: この変更は、Health Cloud **が有効になっている** Enterprise Edition **および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce **で** Health Cloud **ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには** Health Cloud **権限セットライセンスと** Health Cloud **プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。**

方法: アプリケーションランチャーで、[ケアプログラムヘルスケア提供者] を選択し、[新規] をクリックします。



ゲストユーザは逆リレーションレコードを自動的に取得しない

ゲストユーザが、取引先責任者間リレーションレコードの作成をトリガする情報を提供した場合、createinverserole **フラグがオンになっていても逆の取引先責任者間リレーションは作成されません。**

対象: この変更は、Health Cloud **が有効になっている** Enterprise Edition **および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: この機能を使用するには、Salesforce で Health Cloud ライセンスがプロビジョニングされている必要があります。ユーザには Health Cloud 権限セットライセンスと Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスが必要です。

理由: ゲストユーザが、取引先責任者間リレーションレコードの作成をトリガする情報を提供する場合があります。たとえば、患者がコミュニティサイトにログインし、フォームに記入して、親をケア担当者として特定する場合があります。これにより、取引先責任者をもう一方の取引先責任者の親として定義する新しい取引先責任者間リレーションレコードが作成されます。

認証済み Salesforce ユーザでは、`createinverserole` フラグがオンになっている場合、この取引先責任者間レコードを作成すると、リレーションの逆側(取引先責任者をもう一方の取引先責任者の子とするリレーション)を指定する別のレコードの作成が自動的にトリガされます。

ゲストユーザでは、`createinverserole` フラグが無視されるため、逆リレーションは作成されません。これは、ゲストユーザに関連付けられるセキュリティリスクを管理できるように設計された広範な機能強化セットの一部です。`createinverserole` フラグをオンにしている場合、これによりエラーが発生することがあります。

方法: ゲストユーザに対して `createinverserole` フラグをオフにします。[設定] > [カスタム設定] > [業種アプリケーション設定]で、[逆の作成]をオフにしたゲストユーザプロファイルの新しいレコードを作成します。

関連トピック:

ゲストユーザ: セキュリティポリシーの適用

ケアプランの状況項目にクローズ状況を表示するか非表示にするかを選択

[状況]選択リストで、ケアコーディネータにクローズ状況を表示するかどうかを指定します。システム管理者が [サポート設定] で [クローズケースの状況項目を表示] 設定を無効にすると、選択リストコンポーネントですべてのクローズ種別の選択リスト値が除外されます。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 以前は、状況項目にすべての状況が表示されていました。状況項目でクローズ状況を非表示にするようにサポート設定を指定できるようになりました。

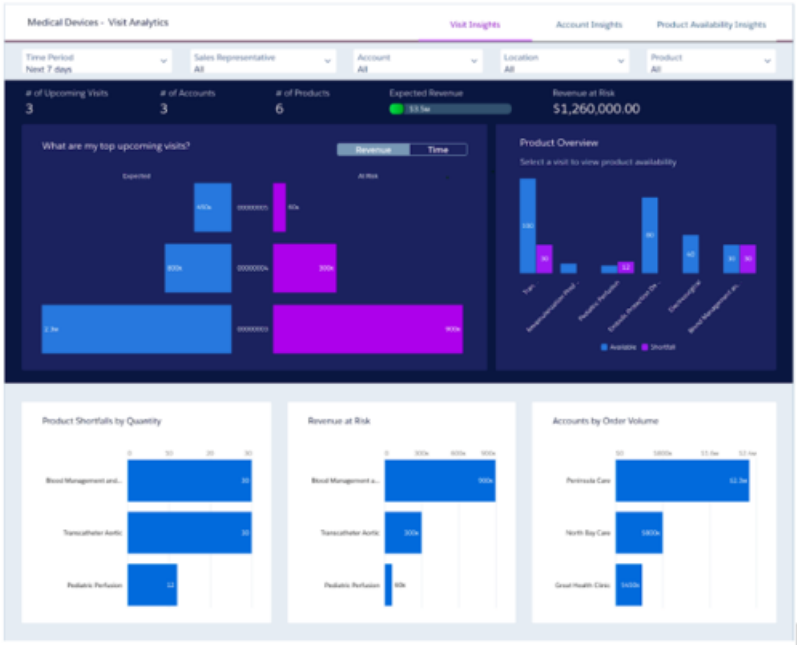
方法: ケアプランの [状況] 選択リストにクローズ状況を表示するには、[サポート設定] に移動して [クローズケースの状況項目を表示] をオンします。クローズ状況を非表示にするには、[クローズケースの状況項目を表示] をオフにします。デフォルトでは、この設定は無効になっているため、クローズ状況は非表示になります。

Einstein Analytics for Healthcare の機能強化による AI を駆使したインサイトの迅速な発見

新しい視覚化により、医療機器営業担当は取引先、在庫、訪問のトレンドを把握でき、支払者や提供者はケアプランパフォーマンスおよびケア要請のパターンをすばやく特定できます。

対象ユーザ: Einstein Analytics for Healthcare テンプレートからアプリケーションを作成するには、Healthcare Analytics Plus アドオンライセンスも必要です。

対象: この変更は、Health Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。 Analytics for Healthcare は Salesforce Health Cloud ユーザのみを対象とします。



理由: Visit Analytics ダッシュボードを使用すると、医療機器営業担当は特定の手術で必要な商品を適切なタイミングで取得できているかどうかを確認できます。営業マネージャは、このダッシュボードを使用して、チームのパフォーマンスを評価したり、主要な取引先を管理したり、営業担当が取引先に効果的なサービスを提供できるように支援したりできます。Care Plan Comparison Analysis ダッシュボードを使用すると、ケア提供者と支払者は、ケアプランのパフォーマンスを分析できます。たとえば、患者がプランに従っているかどうかなどを把握できます。利用マネージャは、ケア要請のボリュームを表示したり、進行中の割合や却下率を把握できます。

方法: Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。**[Analytics for Health]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

Health Cloud の新規および変更されたオブジェクト

この新規および変更された Health Cloud オブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

患者のリモート監視

組織レベルおよび患者レベルでケア指標の期待値を保存する
新しい `CareMetricTarget` オブジェクトを使用します。

ケア指標目標レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい `CareMetricTargetFeed` オブジェクトを使用します。

ケア指標目標レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい `CareMetricTargetHistory` オブジェクトを使用します。

所有者以外のユーザとケア指標目標オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する
新しい `CareMetricTargetOwnerSharingRule` オブジェクトを使用します。

ケア指標目標レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい `CareMetricTargetShare` オブジェクトを使用します。

CareObservation オブジェクトの `Device` 項目を Asset オブジェクトの `externalIdField` に対応付ける
`CareSystemFieldMapping` オブジェクトで `Role` 項目の新しい選択リストオプション `RemoteMonitoringDevice` を使用します。

Care Observation オブジェクトの `ObservedSubject` 項目を Account オブジェクトの `externalIdField` に対応付ける
`CareSystemFieldMapping` オブジェクトで `Role` 項目の新しい選択リストオプション `RemoteMonitoringPatient` を使用します。

CareSystemFieldMapping オブジェクトに関連付けられた名前空間プレフィックスを追加する
`CareSystemFieldMapping` オブジェクトで新しい `NamespacePrefix` 項目を使用します。

生体データが含まれる外部システムからのケア指標の観察値を保存する
新しい `CareObservation` オブジェクトを使用します。

ケア観察レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい `CareObservationFeed` オブジェクトを使用します。

ケア観察レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい `CareObservationHistory` オブジェクトを使用します。

ケア指標およびケア観察の測定単位に関する情報を取得する
新しい `UnitOfMeasure` オブジェクトを使用します。

所有者以外のユーザと測定単位オブジェクトを共有するルールに関する情報を取得する
新しい `UnitOfMeasureOwnerSharingRule` オブジェクトを使用します。

測定単位レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい `UnitOfMeasureShare` オブジェクトを使用します。

同期ログを使用して提供者検索をトラブルシューティングする
新しい `ProviderSearchSyncLog` オブジェクトを使用して、提供者検索の高速化のために提供者データモデルのオブジェクトから CareProviderSearchableField オブジェクトにコピーされたデータを監視します。

ヘルスケア従事者のケアプログラム提供者との関連付け

アプログラム提供者に関連付けられた主ヘルスケア従事者に関する情報を取得し、ケアプログラム提供者のすべてのヘルスケア従事者を検索する
新しい `CarePgmProvHealthcareProvider` オブジェクトを使用します。

ケアプログラム提供者レコードのヘルスケア従事者のフィード活動に関する情報を取得する
新しい `CarePgmProvHealthcareProviderFeed` オブジェクトを使用します。

ケアプログラム提供者レコードのヘルスケア従事者の項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい `CarePgmProvHealthcareProviderHistory` オブジェクトを使用します。

デバイス登録

患者またはケアプログラム加入者のデバイス登録情報を保存する
新しい `CareRegisteredDevice` オブジェクトを使用します。

デバイス登録レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい `CareRegisteredDeviceFeed` オブジェクトを使用します。

デバイスの登録レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい `CareRegisteredDeviceHistory` オブジェクトを使用します。

納入商品を識別する一意の文字列に関する情報を取得する
`Asset` オブジェクトで新しい `Uuid` 項目を使用します。

外部システムで一致するレコードの ID に関する情報を取得する
`Asset` オブジェクトで新しい `ExternalIdentifier` 項目を使用します。

納入商品が製造された日付に関する情報を取得する
`Asset` オブジェクトで新しい `ManufactureDate` 項目を使用します。

デバイスが特定の状況になっている理由に関する情報を取得する
`Asset` オブジェクトで新しい `StatusReason` 項目を使用します。

商品リクエストに関連付けられたケアプログラム加入者に関する情報を取得する
`ProductRequest` オブジェクトで新しい `CareProgramEnrolleeId` 項目を使用します。

商品リクエスト品目に関連付けられたケアプログラム加入者に関する情報を取得する
`ProductRequestLineItem` オブジェクトで新しい `CareProgramEnrolleeId` 項目を使用します。

インテリジェントなセールス

一連の訪問 ToDo を追加するために訪問の作成時に使用できるテンプレートを作成する
新しい `ActionPlanTemplate` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、以前のバージョンの API で使用できますが、Health Cloud では初めてです。

訪問に訪問 ToDo を追加する
新しい `AssessmentTask` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、以前のバージョンの API で使用できますが、Health Cloud では初めてです。

商品の標準価格表を追加する
新しい `PriceBook` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、以前のバージョンの API で使用できますが、Health Cloud では初めてです。

組織で扱っている商品を保存する
新しい `Product` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、以前のバージョンの API で使用できますが、Health Cloud では初めてです。

ユーザをそのユーザが担当する在庫および取引先に関連付ける
新しい `ProductFulfillmentLocation` オブジェクトを使用します。

商品の数量と在庫のロケーションを保存する
新しい `ProductItem` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、以前のバージョンの API で使用できますが、Health Cloud では初めてです。

商品を訪問に追加する
新しい `ProductRequired` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、以前のバージョンの API で使用できますが、Health Cloud では初めてです。

ユーザ間の商品移送を作成する
新しい `ProductTransfer` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、以前のバージョンの API で使用できますが、Health Cloud では初めてです。

商品注文を履行するための訪問をスケジュールする
新しい `Visit` オブジェクトを使用します。このオブジェクトは、以前のバージョンの API で使用できますが、Health Cloud では初めてです。

訪問時に営業担当が取引先で会う人物を追加する
新しい `VisitedParty` オブジェクトを使用します。

営業担当をその営業担当が担当する訪問に追加する
新しい `Visitor` オブジェクトを使用します。

ケアプラン

ケアプランテンプレートが属するカテゴリを指定する
`CarePlanTemplate__c` オブジェクトで `Category__c` 選択リスト項目を使用します。

Health Cloud: 新規および変更されたメタデータ型

新規および変更された次の Health Cloud メタデータ型でさらに多くの作業を実行できます。

ソースシステムの項目を Salesforce オブジェクトおよび項目に対応付ける
新しい CareSystemFieldMapping メタデータ型を使用します。

カスタムアイコンをオブジェクトに対応付ける
新しい Icon メタデータ型を使用します。

Financial Services Cloud: データの共有方法とコラボレーション方法の増加

Financial Services Cloud では、データの表示、データの共有、パートナーとのコラボレーションの新しい方法が提供されます。保険契約と請求の詳細の表示をより詳細に制御して、保険契約者レコードページを整理します。パートナーコミュニティでアクションプランを有効にして、パートナーワークフローを合理化します。ローン申込データから金融口座、個人取引先、取引先責任者、資産、債務を作成して、住宅ローン口座を別の事業部門に簡単に委任できるようにします。Actionable Relationship Center を使用して、階層ビューで取引先のビジネスリレーションを確認します。

このセクションの内容:

Financial Services Cloud の保険: 複数行保険契約に対応するためのサポートの強化、保険契約および保険エージェントポータルの新しい表示オプション、新しい関連リスト

複数行保険契約の数と保険料を計算するときに保険契約関連の指標で親保険契約のみが考慮されるのか、親保険契約と子保険契約の両方が考慮されるのかを制御する設定が追加されました。保険契約コンポーネントの新しいオプションにより、コンポーネントに表示する情報をより詳細に制御できます。保険エージェントポータルで、拡張された保険契約およびライフイベントコンポーネントまたはビジネスマイルストンコンポーネントを使用すると、関係者の保険契約は表示されますが、機密性の高いライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプは非表示になります。保険会社やエージェントは、さまざまなオブジェクトページレイアウトの新しい関連リストを使用して、関連情報にすばやく簡単にアクセスできます。

アクションプラン: キューへの ToDo の割り当て、ToDo と項目の追加、コミュニティでのアクションプランの使用

アクションプランテンプレートのToDoをユーザ、ロール、ToDoキューに割り当てることができるようになりました。アクションプランがテンプレートから作成されると、ユーザはToDoや他の項目をプランに追加し、必要に応じてカスタマイズできます。アクションプランページおよびコンポーネントをExternal Apps fsor Financial Services ライセンスを持つパートナーコミュニティの Salesforce Community Cloud で使用できるようになりました。

Actionable Relationship Center: 顧客の関係および階層のコンテキストアクションの促進 (正式リリース)

Actionable Relationship Center (ARC) を使用して、顧客の関係 (人のネットワークやビジネスプロセスなど) を管理します。ARCは、顧客に関連する人やものをつなげる単一の階層インターフェースです。これにより、ユーザはその場で簡単にコンテキストアクションをトリガできます。

住宅ローン: 住宅ローン申込データからの金融口座の作成

住宅ローン融資の顧客の全体像を把握して、顧客との関係を深めます。住宅ローン申込プロセスで収集されたデータを使用して、Financial Services Cloud で金融口座、個人取引先、取引先責任者、資産、債務を生成します。

住宅ローン: ローン商談リレーションの作成

1 つの商談レコードに複数の住宅ローン申込を関連付けることができるようになりました。

Financial Services Einstein アプリケーションの機能強化による Wealth Management データのさらなる活用

ウェルスマネージャは、Wealth Management Analytics アプリケーションダッシュボードにリード履歴を追加して、リードの取引開始に関するインサイトを取得できます。また、アプリケーションには複数のデータフローが含まれていますが、異なるタイミングで実行するようにスケジュールして、それぞれの実行時間を短縮できます。

[主取引先責任者 ID を無効化] 設定を使用した Financial Services Cloud の動作の合理化

新しい [主取引先責任者 ID を無効化] 設定を使用して、取引先オブジェクトの [主取引先責任者] 項目の UI コンポーネントとトリガの連動関係を削除します。個人取引先モデルの場合、取引先オブジェクトの [主取引先責任者] 項目に連動する UI コンポーネントとトリガで [個人取引先責任者] 項目が使用されるようになりました。個人モデルの場合、[主取引先責任者] 項目に連動する UI コンポーネントとトリガで取引先責任者オブジェクトの [取引先責任者 ID] 項目が使用されるようになりました。

新しい権限セットライセンス: Financial Services Cloud Extension

新しい Financial Services Cloud Extension 権限セットライセンスを使用して、Spring '20 以降に提供された Financial Services Cloud 機能へのアクセスをユーザに許可します。この権限セットライセンスには、Summer '20 の Actionable Relationship Center (ARC) へのアクセス権が含まれています。

新しい権限セット: Aura 対応 Apex クラスアクセス

1 つの権限セットを割り当てて、`@AuraEnabled` メソッドを含むすべての Financial Services Cloud Apex クラスへのアクセス権をユーザに付与します。権限セットを事前に割り当てることで、Aura-対応 Apex クラスへのアクセスを制限する今後の重要な更新 (ページ 566)に備えます。

新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト

新しいおよび更新された Financial Services Cloud オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

Financial Services Cloud の新規および変更されたメタデータ型

新規および変更されたメタデータ型でさらに多くの作業を実行できます。

Financial Services Cloud の新しい呼び出し可能なアクション

Financial Services Cloud の新しいアクションを使用して、住宅ローン申込データから金融レコードを作成します。

REST API

Financial Services Cloud の REST API に新しいコールが含まれます。

Financial Services Cloud の保険: 複数行保険契約に対応するためのサポートの強化、保険契約および保険エージェントポータルの新しい表示オプション、新しい関連リスト

複数行保険契約の数と保険料を計算するときに保険契約関連の指標で親保険契約のみが考慮されるのか、親保険契約と子保険契約の両方が考慮されるのかを制御する設定が追加されました。保険契約コンポーネントの新しいオプションにより、コンポーネントに表示する情報をより詳細に制御できます。保険エージェントポータルで、拡張された保険契約およびライフイベントコンポーネントまたはビジネスマイルストンコンポーネントを使用すると、関係者の保険契約は表示されますが、機密性の高いライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプは非表示になります。保険会社やエージェントは、さまざまなオブジェクトページレイアウトの新しい関連リストを使用して、関連情報にすばやく簡単にアクセスできます。

このセクションの内容:

複数行保険契約の保険契約数と保険料の計算のより詳細な制御

複数行保険契約の保険料の入力方法に応じて、指標の計算に親保険契約のみを含めるのか、親保険契約と子保険契約の両方を含めるのかを選択できるようになりました。たとえば、子保険契約の保険料が入力されて、親レベルで集計される場合、親保険料のみを指標の計算に含めます。

保険契約コンポーネント: 保険契約階層、保険契約タイプの検索条件、省略可能な請求リスト、他

保険契約者レコードページを整理して、エージェントがクライアントのニーズをより適切に把握して対処するために必要な情報のみを表示します。保険契約コンポーネントの複数のインスタンスをページに追加すると、インスタンスごとに異なるレベルの詳細を表示できます。たとえば、各インスタンスをカスタマイズして、異なる保険契約タイプのセットを表示したり、保険契約の請求リストや親および子保険契約を非表示にしたりできます。

ルックアップによる積み上げ集計を使用した世帯保険契約および請求の可視化

保険エージェントに、保険契約者の主世帯が保有する全保険契約の統合ビューを提供します。世帯ページのさまざまなルックアップによる積み上げ集計には、世帯保険契約総数、保険契約の保険料、保険契約に対する請求、支払われた請求額が表示されます。エージェントはドリルダウンして誰がどの保険契約を保有しているかを確認できます。

保険エージェントポータルでの機密性の高いライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプの非表示

ライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプを非表示にするオプションがコミュニティバージョンのライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントで使用できるようになりました。ライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプを非表示にすると、その種別のイベントまたはそのタイプのマイルストンを追加するまで、コンポーネントには表示されません。

保険エージェントポータルの保険契約コンポーネントでの関係者の保険契約の表示

関係者の保険契約を表示するオプションがコミュニティバージョンの保険契約コンポーネントで使用できるようになりました。保険契約のリストには、所有している保険契約以外に、関係者の保険契約を含めることができます。関係者ロールを選択して、ユーザが関係者となる保険契約を含めます。たとえば、ユーザが受取人である保険契約を含めるには、[受取人] を選択します。

Financial Services Einstein アプリケーションの機能強化による保険データのさらなる活用

Insurance Analytics アプリケーションに Customers Gained/Lost ダッシュボードが含まれるようになりました。このダッシュボードにより、エージェントは滝グラフを使用して、保険の顧客維持のトレンドを視覚化できます。

Financial Services Cloud の保険のその他の変更

Financial Services Cloud の保険のユーザエクスペリエンスを向上させる、その他の小さくても重要な変更について説明します。

複数行保険契約の保険契約数と保険料の計算のより詳細な制御

複数行保険契約の保険料の入力方法に応じて、指標の計算に親保険契約のみを含めるのか、親保険契約と子保険契約の両方を含めるのかを選択できるようになりました。たとえば、子保険契約の保険料が入力されて、親レベルで集計される場合、親保険料のみを指標の計算に含めます。

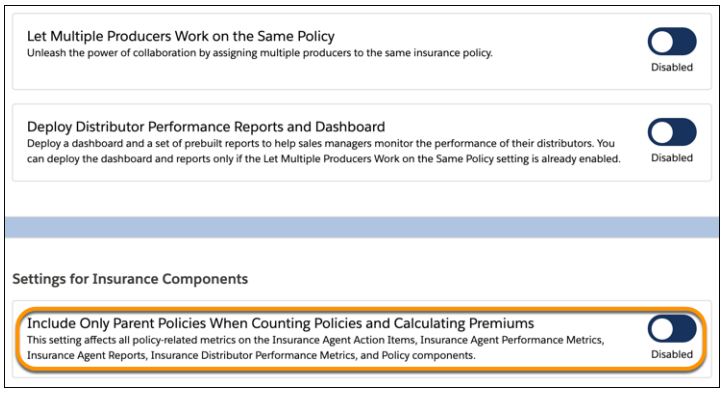
対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

この変更は、保険エージェントアクション項目、保険エージェントのパフォーマンス指標、保険エージェントレポート、保険代理店のパフォーマンス統計値、保険契約コンポーネントの保険契約関連の指標とグラフに影響します。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

理由: この設定が無効になっていると、指標の計算に親保険契約と子保険契約の両方が含まれます。

方法: [設定] の [保険設定] ページで、[保険契約のカウント時や保険料の計算時に親保険契約のみを含める] 設定を有効にします。



関連トピック:

Financial Services Cloud システム管理者ガイド: Choose an Option for Metrics Calculations for Multiline Policies (**複数行保険契約の指標計算のオプションの選択**) (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

保険契約コンポーネント: 保険契約階層、保険契約タイプの検索条件、省略可能な請求リスト、他

保険契約者レコードページを整理して、エージェントがクライアントのニーズをより適切に把握して対処するために必要な情報のみを表示します。保険契約コンポーネントの複数のインスタンスをページに追加すると、インスタンスごとに異なるレベルの詳細を表示できます。たとえば、各インスタンスをカスタマイズして、異なる保険契約タイプのセットを表示したり、保険契約の請求リストや親および子保険契約を非表示にしたりできます。

このセクションの内容:

保険契約の親および子保険契約の表示

エージェントは、クライアントレコードページの保険契約のリストから保険契約の親または子保険契約に直接アクセスできます。複数行保険契約の場合、エージェントには親保険契約と子保険契約の両方が表示されます。エージェントは保険契約をクリックして保険契約の詳細を表示できます。

保険契約リストと関連指標の合理化

保険契約リストの保険契約タイプが少なくなったため、保険契約リストが見やすくなり、簡単に移動できるようになりました。保険契約タイプを除外すると、それらの保険契約は保険契約者のレコードページの保険契約のリストや保険契約関連の指標に表示されなくなります。

保険契約に関連付けられた請求の非表示

保険契約の請求リストは、表示しない場合や請求データがない場合に非表示にできます。

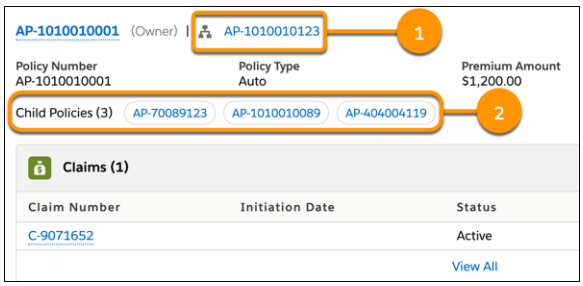
保険契約の親および子保険契約の表示

エージェントは、クライアントレコードページの保険契約のリストから保険契約の親または子保険契約に直接アクセスできます。複数行保険契約の場合、エージェントには親保険契約と子保険契約の両方が表示されます。エージェントは保険契約をクリックして保険契約の詳細を表示できます。

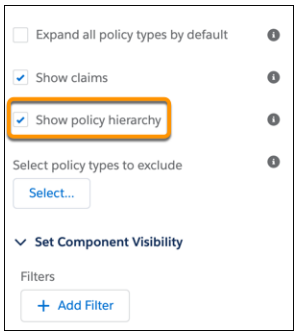
対象: この変更は、Financial Services Cloud **が有効になっている** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance **権限セットが必要です。**

理由: 一目で確認できる階層ビューにより、保険契約を簡単に追跡できます。エージェントは、複数の関連リストを経由せずに、複数行保険契約の親保険契約 (1) **と子保険契約** (2) **を** 1 **か所で確認できます。**



方法: 取引先レコードページを編集し、保険契約コンポーネントを選択します。[プロパティ] **ペインで、[保険契約階層を表示] を選択にします。**



関連トピック:

Financial Services Cloud ***システム管理者ガイド***: Show a Policy's Parent and Child Policies (**保険契約の親および子保険契約の表示**) (**リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります**)

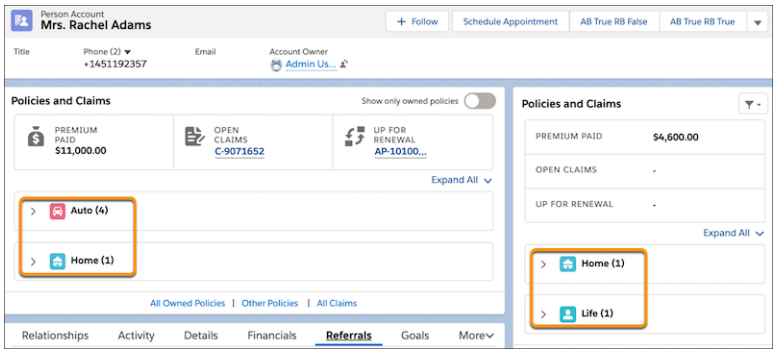
保険契約リストと関連指標の合理化

保険契約リストの保険契約タイプが少なくなったため、保険契約リストが見やすくなり、簡単に移動できるようになりました。保険契約タイプを除外すると、それらの保険契約は保険契約者のレコードページの保険契約のリストや保険契約関連の指標に表示されなくなります。

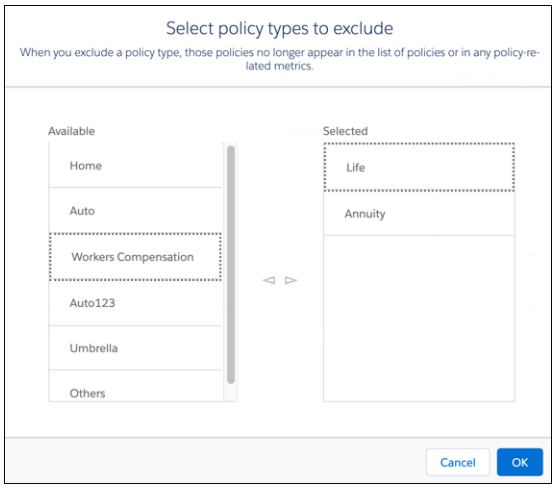
対象: この変更は、Financial Services Cloud **が有効になっている** Enterprise Edition、Professional Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance **権限セットが必要です。**

理由: 保険契約コンポーネントの複数のインスタンスを保険契約者のレコードページに追加すると、インスタンスごとに異なる保険契約タイプのセットを表示できます。インスタンスごとにそれぞれの保険契約タイプを繰り返し表示する必要はありません。



方法: 取引先レコードページを編集し、保険契約コンポーネントを選択します。[プロパティ]ペインで、[選択]をクリックし、除外する保険契約タイプを選択します。



関連トピック:

Financial Services Cloud システム管理者ガイド: Filter Policies by Policy Type (保険契約タイプによる保険契約の絞り込み) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

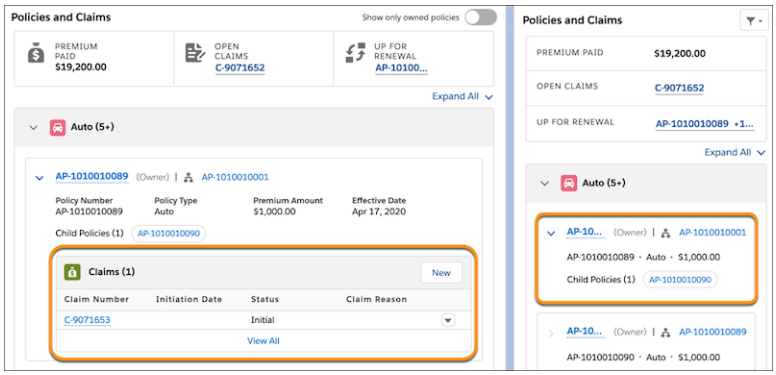
保険契約に関連付けられた請求の非表示

保険契約の請求リストは、表示しない場合や請求データがない場合に非表示にできます。

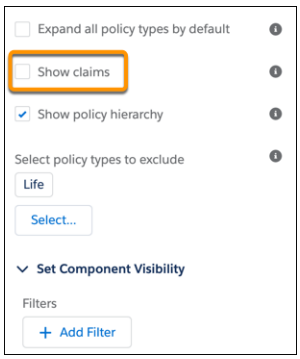
対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

理由: 保険契約者レコードページには、(自分の保険契約と競合他社の保険契約の) 2 つの保険契約コンポーネントのインスタンスを設定できます。競合他社の保険契約の請求リストは、エージェントに関連していないため、非表示にできます。



方法: 取引先レコードページを編集し、保険契約コンポーネントを選択します。[プロパティ] ペインで、[請求を表示] をの選択を解除します。



関連トピック:

Financial Services Cloud システム管理者ガイド: Hide Policies' Related Claims (保険契約の関連請求の非表示) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

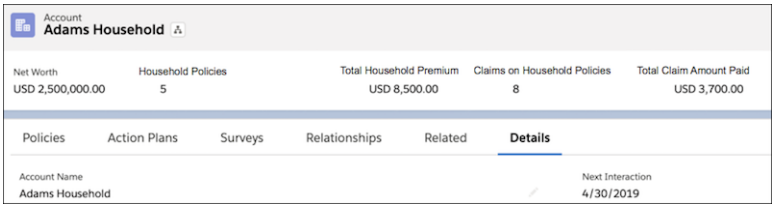
ルックアップによる積み上げ集計を使用した世帯保険契約および請求の可視化

保険エージェントに、保険契約者の主世帯が保有する全保険契約の統合ビューを提供します。世帯ページのさまざまなルックアップによる積み上げ集計には、世帯保険契約総数、保険契約の保険料、保険契約に対する請求、支払われた請求額が表示されます。エージェントはドリルダウンして誰がどの保険契約を保有しているかを確認できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

理由: これらの詳細に関する可視性が強化されるため、エージェントはエンゲージメント戦略を作成して、クロスセルおよびアップセル計画を立案できます。



方法: 提供されているルックアップによる積み上げ総計値を世帯ページレイアウトに追加します。

関連トピック:

Financial Services Cloud システム管理者ガイド: Financial Services Cloud における積み上げ集計 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

保険エージェントポータルでの機密性の高いライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプの非表示

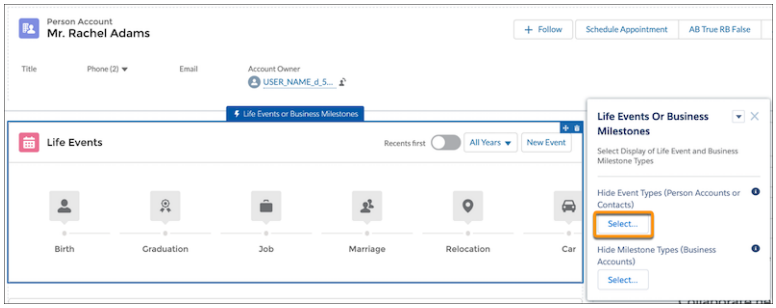
ライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプを非表示にするオプションがコミュニティバージョンのライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントで使用できるようになりました。ライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプを非表示にすると、その種別のイベントまたはそのタイプのマイルストンを追加するまで、コンポーネントには表示されません。

対象: この変更は、保険エージェントポータル Lightning テンプレートを使用して作成されたコミュニティに適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに Financial Services Community ユーザ権限セットが必要です。

理由: すべてのライフイベントまたはビジネスマイルストンが各顧客に適用されるわけではありません。より良いカスタマーエクスペリエンスを作り出すために、顧客が達成していない、または今後達成しそうにないライフイベントやビジネスマイルストンを非表示にできます。

方法: エクスペリエンスビルダーで、レコードページのライフイベントまたはビジネスマイルストンコンポーネントを選択します。プロパティペインで、[選択]をクリックし、非表示にするライフイベント種別またはビジネスマイルストンタイプを選択します。



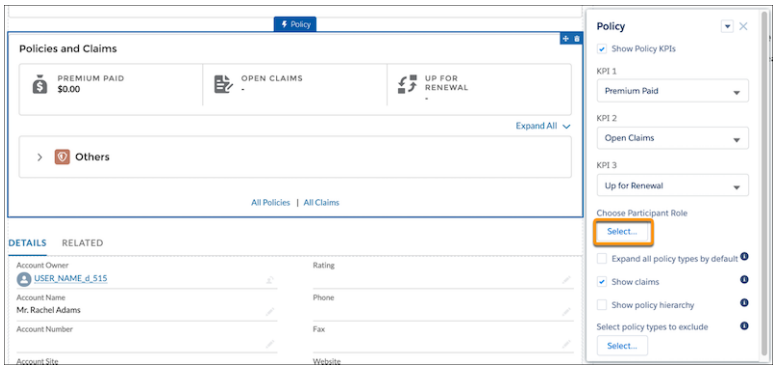
保険エージェントポータルの保険契約コンポーネントでの関係者の保険契約の表示

関係者の保険契約を表示するオプションがコミュニティバージョンの保険契約コンポーネントで使用できるようになりました。保険契約のリストには、所有している保険契約以外に、関係者の保険契約を含めることができます。関係者ロールを選択して、ユーザが関係者となる保険契約を含めます。たとえば、ユーザが受取人である保険契約を含めるには、[受取人] を選択します。

対象: この変更は、保険エージェントポータル Lightning テンプレートを使用して作成されたコミュニティに適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに Financial Services Community ユーザ権限セットが必要です。

方法: エクスペリエンスビルダーで、レコードページの保険契約コンポーネントを選択します。[プロパティ] ペインの [参加者ロールを選択] で [選択] をクリックし、適切な参加者ロールを選択します。



Financial Services Einstein アプリケーションの機能強化による保険データのさらなる活用

Insurance Analytics アプリケーションに Customers Gained/Lost ダッシュボードが含まれるようになりました。このダッシュボードにより、エージェントは滝グラフを使用して、保険の顧客維持のトレンドを視覚化できます。

方法: Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。[**Analytics for Insurance**] を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

Financial Services Cloud の保険のその他の変更

Financial Services Cloud の保険のユーザエクスペリエンスを向上させる、その他の小さくても重要な変更について説明します。

このセクションの内容:

取引先の請求履歴の表示

保険契約コンポーネントには、請求状況に関係なく取引先の関連請求を表示する新しい [すべての請求] リンクがあります。

保険代理店の商品のリストの表示

保険会社は、取引先レコードページの [募集人] 関連リストを使用して、代理店の募集人のリストを簡単に表示できます。

世帯レベルでの保険契約関係者および請求関係者レコードの積み上げ集計の表示

エージェントは、保険契約関係者および請求関係者レコードを世帯レベルで積み上げ集計することで、世帯のすべての保険契約関係者および請求関係者の統合ビューを表示できます。

[ファイル] 関連リストを使用した保険契約、請求、請求項目の補助ファイルの管理

エージェントは、簡単にファイルを保険契約、請求、請求項目レコードに追加したり、レコードに関連付けられたファイルのリストを表示したりできます。エージェントは、すべての関連ファイルを 1 か所で保持して、簡単に管理できます。

保険エージェントポータルでの保険契約と請求の活動タイムラインの表示

独立系保険エージェントは、保険エージェントポータルの活動コンポーネントを使用して、保険契約と請求の活動予定や活動履歴を追跡できるようになりました。

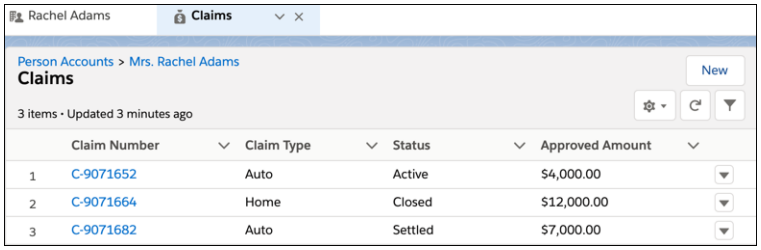
取引先の請求履歴の表示

保険契約コンポーネントには、請求状況に関係なく取引先の関連請求を表示する新しい[すべての請求]リンクがあります。

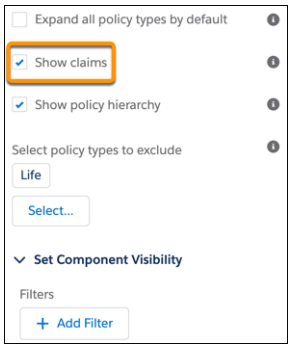
対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

理由: エージェントは、取引先の請求履歴をすばやく表示できます。



方法: 取引先レコードページを編集し、保険契約コンポーネントを選択します。[プロパティ]ペインで、[請求を表示]を選択します。



関連トピック:

Financial Services Cloud システム管理者ガイド:取引先の請求履歴の表示 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

保険代理店の商品のリストの表示

保険会社は、取引先レコードページの [募集人] 関連リストを使用して、代理店の募集人のリストを簡単に表示できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: [募集人] 関連リストを取引先ページレイアウトに追加します。

世帯レベルでの保険契約関係者および請求関係者レコードの積み上げ集計の表示

エージェントは、保険契約関係者および請求関係者レコードを世帯レベルで積み上げ集計することで、世帯のすべての保険契約関係者および請求関係者の統合ビューを表示できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: [保険契約参加者] および [請求参加者] 関連リストを世帯ページレイアウトに追加します。

[ファイル] 関連リストを使用した保険契約、請求、請求項目の補助ファイルの管理

エージェントは、簡単にファイルを保険契約、請求、請求項目レコードに追加したり、レコードに関連付けられたファイルのリストを表示したりできます。エージェントは、すべての関連ファイルを1か所で保持して、簡単に管理できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに FSC Insurance 権限セットが必要です。

方法: 保険契約、請求、請求項目ページレイアウトに [ファイル] 関連リストを追加します。

保険エージェントポータルでの保険契約と請求の活動タイムラインの表示

独立系保険エージェントは、保険エージェントポータルの活動コンポーネントを使用して、保険契約と請求の活動予定や活動履歴を追跡できるようになりました。

対象: この変更は、保険エージェントポータル Lightning テンプレートを使用して作成されたコミュニティに適用されます。

対象ユーザ: この機能を使用するには、ユーザに Financial Services Community ユーザ権限セットが必要です。

方法: エクスペリエンスビルダーで、活動コンポーネントを保険契約および請求レコードページに追加します。

アクションプラン: キューへの ToDo の割り当て、ToDo と項目の追加、コミュニティでのアクションプランの使用

アクションプランテンプレートの ToDo をユーザ、ロール、ToDo キューに割り当てることができるようになりました。アクションプランがテンプレートから作成されると、ユーザは ToDo や他の項目をプランに追加し、必要に応じてカスタマイズできます。アクションプランページおよびコンポーネントを External Apps for Financial Services ライセンスを持つパートナーコミュニティの Salesforce Community Cloud で使用できるようになりました。

このセクションの内容:

キューへのアクションプランテンプレートの ToDo の割り当て
ToDo キューを使用して、アクションプランの負荷を分散します。アクションプランテンプレートの ToDo を定義済みの ToDo キューに割り当てます。アクションプランがテンプレートから作成されると、ToDo がそのキューの ToDo リストに表示されます。どのキューメンバーも ToDo の所有権を取得できます。

アクションプランユーザによる ToDo と項目の追加の許可
ユーザが必要に応じて ToDo や他の項目を追加できるようにして、固有の状況に合わせてアクションプランを調整します。ユーザがテンプレートからアクションプランを作成したら、補足 ToDo やドキュメントチェックリスト項目を追加できます。ユーザは、標準アクションプランをカスタマイズしてニーズを満たすことができます。

パートナーコミュニティでのアクションプランの使用
External Apps for Financial Services ライセンスを持つパートナーコミュニティでアクションプランを有効にして、パートナーワークフローを合理化します。パートナーユーザが独自のアクションプランテンプレートを作成したり、アクションプランを生成したりできるようにします。

キューへのアクションプランテンプレートの ToDo の割り当て

ToDo キューを使用して、アクションプランの負荷を分散します。アクションプランテンプレートの ToDo を定義済みの ToDo キューに割り当てます。アクションプランがテンプレートから作成されると、ToDo がそのキューの ToDo リストに表示されます。どのキューメンバーも ToDo の所有権を取得できます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud または Lightning Scheduler を備えた Salesforce Government Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: ToDo がサポート対象オブジェクトのキューが 1 つ以上設定されていることを確認します。ToDo をアクションプランテンプレートに追加します。[割り当て先] セクションで [キュー] を選択し、定義済みのキューを検索してそのいずれかを選択します。

関連トピック:

- キューの設定
- *IdeaExchange*: Allow Tasks to Be Assigned to a Queue (ToDo をキューに割り当てられるようにする)

アクションプランユーザによる ToDo と項目の追加の許可

ユーザが必要に応じて ToDo や他の項目を追加できるようにして、固有の状況に合わせてアクションプランを調整します。ユーザがテンプレートからアクションプランを作成したら、補足 ToDo やドキュメントチェックリスト項目を追加できます。ユーザは、標準アクションプランをカスタマイズしてニーズを満たすことができます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud または Lightning Scheduler を備えた Salesforce Government Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

方法: アクションプランテンプレートを作成したら、［プランへの項目の追加をユーザに許可］プロパティを使用して、テンプレートから生成されたプランへの ToDo や他の項目の追加をユーザに許可できます。許可されている場合、プラン所有者はアクションプランの詳細ページから ToDo やドキュメントチェックリスト項目をプランに追加できます。

関連トピック:

アクションプランテンプレートの作成に関する考慮事項

パートナーコミュニティでのアクションプランの使用

External Apps for Financial Services ライセンスを持つパートナーコミュニティでアクションプランを有効にして、パートナーワークフローを合理化します。パートナーユーザが独自のアクションプランテンプレートを作成したり、アクションプランを生成したりできるようにします。

対象: この変更は、Financial Services Cloud または Lightning Scheduler を備えた Salesforce Government Cloud が有効になっている Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience でアクセスする、External Apps for Financial Services ライセンスを持つ Lightning コミュニティに適用されます。

方法: アクションプランテンプレートやアクションプランのページおよびコンポーネントは、パートナーコミュニティの Partner Central テンプレートで使用できます。ナビゲーションメニューにページを追加し、取引先やリードなどの関連オブジェクトのページにコンポーネントを追加します。そして、ユーザとコミュニティメンバーを、必要なアクセス権を付与するライセンスおよびロールに割り当てます。

関連トピック:

コミュニティでのパートナーリレーションの管理

Actionable Relationship Center: 顧客の関係および階層のコンテキストアクションの促進 (正式リリース)

Actionable Relationship Center (ARC) を使用して、顧客の関係 (人のネットワークやビジネスプロセスなど) を管理します。ARC は、顧客に関連する人やものをつなげる単一の階層インターフェースです。これにより、ユーザはその場で簡単にコンテキストアクションをトリガできます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 従来より、Financial Services Cloud では、3 つの方法 (顧客は誰か?、顧客が何を求めているのか?、顧客が何を必要としているのか?) で顧客を調べます。ARC では、その顧客の表現を再定義して拡張します。

誰が顧客で、どのような関係か?
顧客の関係を 1 か所で表示および管理します。顧客を包括的に把握できるように、すべての B2B および B2C リレーションを表します。

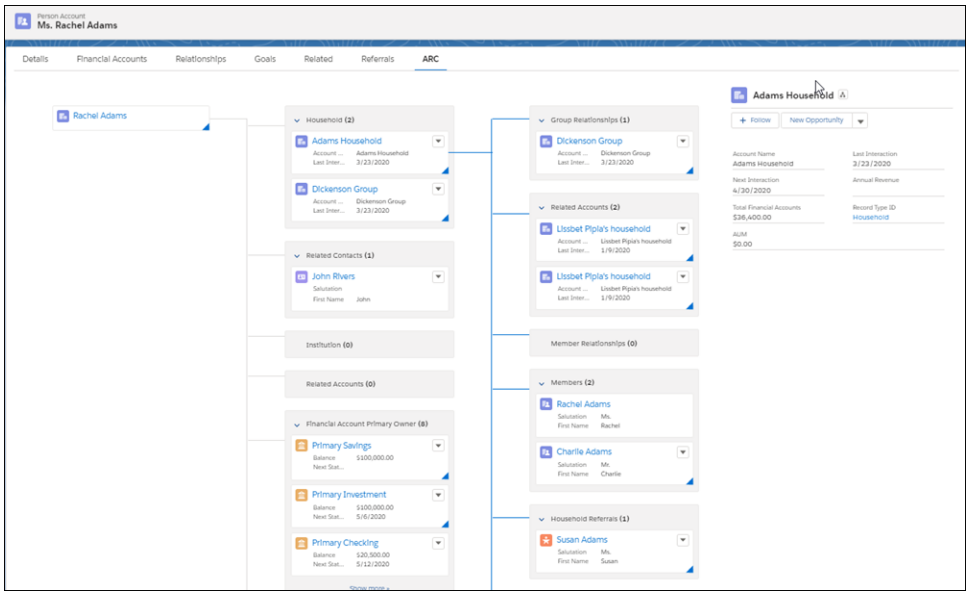
顧客に何かあるのか?
すべての金融口座、保険契約、商談、ケース、および他の関連情報を 1 か所で表示します。アップセル商談をより迅速に認識するために顧客に何があるのかを把握します。

顧客が何を必要としているのか?
商談やリードを表示および管理し、何が不足しているのかを識別します。Analytics やインテリジェンスを使用して顧客のデータを補強し、顧客のニーズをより効率的に識別します。

顧客コンテキスト内でどのようなアクションが適しているのか?
顧客コンテキスト全体に基づいてアクションを作成します。

方法: ARC (Financial Services Cloud 標準コンポーネント) をページレイアウトに追加します。次に、ARC へのアクセス権が必要なユーザまたはユーザプロファイルに Financial Services Cloud Extension 権限を割り当てます。

ヒント: 「Financial Services Cloud 拡張機能」権限は、組織が Summer '20 リリースにアップグレードされ、ユーザが組織にログインしてから 24 時間以内に使用可能になります。



関連トピック:

Financial Services Cloud システム管理者ガイド: 顧客の関係および階層のコンテキストアクションの促進 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しい権限セットライセンス: Financial Services Cloud Extension

住宅ローン: 住宅ローン申込データからの金融口座の作成

住宅ローン融資の顧客の全体像を把握して、顧客との関係を深めます。住宅ローン申込プロセスで収集されたデータを使用して、Financial Services Cloud で金融口座、個人取引先、取引先責任者、資産、債務を生成します。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ローン申込プロセスでは、多くの重要な顧客データが取得されます。そのデータを金融口座や他の Financial Services Cloud レコードに移動して、住宅ローン口座を別の事業部門に簡単に委任できるようにします。

方法: 9 個の新しい [住宅ローンレコード作成] 設定で、プロセスで生成される金融レコードを制御します。REST API コールを使用するか、呼び出し可能なアクションをトリガして、レコード作成プロセスを開始します。ユーザインターフェースコントロールやフローコンポーネントから呼び出し可能なアクションをコールします。

住宅ローン: ローン商談リレーションの作成

1 つの商談レコードに複数の住宅ローン申込を関連付けることができるようになりました。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ビジネスプロセスを柔軟にするため、1 つの商談で作成できる住宅ローン申込の数に関する制限がなくなりました。

Financial Services Einstein アプリケーションの機能強化による Wealth Management データのさらなる活用

ウェルスマネージャは、Wealth Management Analytics アプリケーションダッシュボードにリード履歴を追加して、リードの取引開始に関するインサイトを取得できます。また、アプリケーションには複数のデータフローが含まれていますが、異なるタイミングで実行するようにスケジュールして、それぞれの実行時間を短縮できます。

方法: Analytics Studio に移動して **[作成]** をクリックし、**[アプリケーション]** を選択して **[テンプレートから開始]** をクリックします。**[Analytics for Wealth Management]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

[主取引先責任者 ID を無効化] 設定を使用した Financial Services Cloud の動作の合理化

新しい [主取引先責任者 ID を無効化] 設定を使用して、取引先オブジェクトの [主取引先責任者] 項目の UI コンポーネントとトリガの連動関係を削除します。個人取引先モデルの場合、取引先オブジェクトの [主取引先責任者] 項目に連動する UI コンポーネントとトリガで [個人取引先責任者] 項目が使用されるようになりました。個人モデルの場合、[主取引先責任者] 項目に連動する UI コンポーネントとトリガで取引先責任者オブジェクトの [取引先責任者 ID] 項目が使用されるようになりました。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: [主取引先責任者 ID を無効化] を選択すると、[主取引先責任者] 項目のクライアントの UI コンポーネントとトリガの連動関係が削除されます。この設定を選択すると、[主取引先責任者] 項目が更新されなくなります。これらの連動関係を削除すると、次のような利点を得られます。

- トリガロジックを実行せずに大量のデータを短時間で変換できる。
- トリガで主取引先責任者を設定することなく短時間でデータをアップロードできる。
- 主取引先責任者が更新されなくなるため、システムの更新時間を短縮できる。
- 非同期ジョブで取引先へのルックアップによる主取引先責任者の更新がなくなるため、ルックアップがあるレコードの作成時間を短縮できる。

重要: ビジネスロジック、ページレイアウト、トリガコードのいずれかで PrimaryContact__c が参照されている場合、[主取引先責任者 ID を無効化] 設定を使用しないでください。

重要: 通常、[主取引先責任者 ID を無効化] は、選択したら後で無効にすることはありません。この設定を無効にすると、PrimaryContact__c 項目のデータに矛盾が生じます。

方法: 新しい Financial Services Cloud インストールでは、主取引先責任者 ID の使用は自動的に無効になります。既存の Financial Services Cloud 組織で主取引先責任者 ID の使用を停止するには、[Industries Settings (業種設定)] カスタム設定で [主取引先責任者 ID を無効化] を編集して、[主取引先責任者 ID を無効化] を選択します。

関連トピック:

Financial Services Cloud システム管理者ガイド: Disable Updates to the Primary Contact Field on Accounts in Financial Services Cloud (Financial Services Cloud での取引先の主取引先責任者項目に対する更新の無効化) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しい権限セットライセンス: Financial Services Cloud Extension

新しい Financial Services Cloud Extension 権限セットライセンスを使用して、Spring '20 以降に提供された Financial Services Cloud 機能へのアクセスをユーザに許可します。この権限セットライセンスには、Summer '20 の Actionable Relationship Center (ARC) へのアクセス権が含まれています。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

ヒント: 「Financial Services Cloud 拡張機能」権限セットライセンスは、組織が Summer '20 リリースにアップグレードされ、ユーザが組織にログインしてから 24 時間以内に使用可能になります。

関連トピック:

Actionable Relationship Center: 顧客の関係および階層のコンテキストアクションの促進 (正式リリース)

新しい権限セット: Aura 対応 Apex クラスアクセス

1 つの権限セットを割り当てて、`@AuraEnabled` メソッドを含むすべての Financial Services Cloud Apex クラスへのアクセス権をユーザに付与します。権限セットを事前に割り当てることで、Aura-対応 Apex クラスへのアクセスを制限する今後の重要な更新 (ページ 566)に備えます。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 今後の重要な更新では、`@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスがデフォルトで制限されます。この更新を有効化すると、`@AuraEnabled` メソッドをコールする Aura または Lightning Web コンポーネントを使用するには、そのメソッドを含む各 Apex クラスへの明示的なアクセス権がユーザに必要になります。割り当てを容易にするために、新しい権限セット「**Financial Services Cloud の Aura 対応 Apex クラスアクセス**」には、影響を受けるすべての Apex クラスが含まれます。

方法: 権限セットを個々のユーザに割り当てるには、[設定] に移動して、[クイック検索] ボックスに「*Aura 対応*」と入力し、**[Financial Services Cloud の Aura 対応 Apex クラスアクセス]** を選択します。**[割り当ての管理]** をクリックして、**[割り当てを追加]** を選択します。この権限セットの割り当て先のユーザを選択し、**[割り当て]** をクリックします。

データローダまたは REST API を使用して、この新しい権限セットを複数のユーザに一括で割り当てることもできます。

関連トピック:

- **ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)**
- **複数ユーザへの権限セットの割り当て**
- ***ナレッジ記事:* データローダを使用した権限セットの一括適用**
- Permission Sets Best Practice: Mass Assign Permission Sets Using the API (**権限セットのベストプラクティス: API を使用した権限セットの一括割り当て**)

新規および変更された Financial Services Cloud オブジェクト

新しいおよび更新された Financial Services Cloud オブジェクトで、より多くの操作を実行できるようになりました。

アクションプラン

ユーザが項目をアクションプランに追加できるようにする

`ActionPlanTemplate` オブジェクトの新しい `IsAdHocItemCreationEnabled` 項目を使用し、ユーザが ToDo やドキュメントチェックリスト項目を生成されたアクションプランに追加できるようにします。

アクションプランテンプレートを訪問の実行に関連付ける

`ActionPlanTemplate` オブジェクトで `ActionPlanType` 項目の新しい `VisitExecution` 選択リストオプションを使用します。

InsurancePolicy の新規項目

保険契約を引き受けた法人を参照する

新しい `UnderwritingEntityId` 項目を使用します。

Financial Services Cloud の新規および変更されたメタデータ型

新規および変更されたメタデータ型でさらに多くの作業を実行できます。

ユーザが生成されたアクションプランに ToDo やドキュメントチェックリスト項目を追加できるようにする

既存の ActionPlanTemplate メタデータ型で新しい `isAdHocItemCreationEnabled` 項目を使用します。

フローで [金融レコードを作成] アクションを使用する
Flow メタデータ型の `actionType` 項目 (FlowActionCall サブタイプ) で新しい `createFinancialRecords` 列挙値を使用します。

カスタムアイコンをオブジェクトに対応付ける
新しい Icon メタデータ型を使用します。

Financial Services Cloud の新しい呼び出し可能なアクション

Financial Services Cloud の新しいアクションを使用して、住宅ローン申込データから金融レコードを作成します。

ローン申込データから金融レコードを作成する
新しい `createFinancialRecords` 標準アクションを使用して、住宅ローン申込から金融口座、個人取引先、取引先責任者、資産、債務レコードを作成します。

REST API

Financial Services Cloud の REST API に新しいコールが含まれます。

住宅ローン

ローン申込データからの金融レコードの作成

新しい `mapper` コールを使用して、住宅ローン申込データから金融口座や他の Financial Services Cloud レコードを生成します。`/services/data/vXX.X/connect/financialservices/mapper` に対して `POST` 要求を実行し、ローン申込プロセス中に取得されたデータから金融口座、個人取引先、取引先責任者、資産、債務レコードを作成します。

Consumer Goods Cloud: カスタマイズされたモバイルアプリケーション、デスクトップアプリケーションに埋め込まれた Salesforce Maps、他

営業マネージャがテリトリーを追跡および管理して出先の営業担当をサポートできるようにします。最大の効率を発揮するようにモバイルアプリケーションをカスタマイズし、Salesforce Maps をデスクトップアプリケーションに埋め込んで、一目で把握できる分析を提供できます。

エディション

使用可能なエディション: Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition

このセクションの内容:

フィールド営業担当者のニーズに合わせてモバイルアプリケーションをカスタマイズ

外出先でフィールド営業担当者が必要とする重要な情報を表示するように Consumer Goods モバイルアプリケーションを設計します。たとえば、フィールド営業担当者がサードパーティアプリケーションを使用して最新の交通情報や天気予報を確認している場合、Lightning コンポーネントを作成して、それらのアプリケーションを Consumer Goods モバイルアプリケーションに追加します。いくつかの標準 Lightning コンポーネントから選択することもできます。

埋め込み Salesforce Maps を使用した店舗、取引先、プロモーションの管理

Consumer Goods デスクトップアプリケーションに Salesforce Maps を埋め込むことで、営業マネージャがテリトリー内の店舗を視覚化して追跡できるようにします。たとえば、パフォーマンスの良いまたは悪い店舗を特定するように地図を設定できます。営業マネージャは結果を地図上で確認できます。店舗のパフォーマンスに基づいて検索結果が色分けされるため、営業マネージャは注意が必要な店舗を容易に特定できます。

テンプレートを使用した訪問の迅速な作成

営業マネージャは Salesforce Maps の高度なルートテンプレートを使用してフィールド営業担当者の訪問計画を効率的に作成できるようになりました。営業マネージャは 1 回のクリックのみで複数の訪問を作成して時間を節約できます。また、フィールド営業担当者に最適なルート計画を提供し、フィールド営業担当者が適切な店舗に適切なタイミングで確実に訪問できるようにします。

ビジネスの成長、小売実行の改善

Einstein Analytics for Consumer Goods アプリケーションのダッシュボードでは、店舗のコンプライアンス、最後の店舗訪問、在庫のコンプライアンス、商品パフォーマンス、および取引先階層に関するアクション可能なインサイトが提供されます。選択した期間で店舗、取引先、または商品の比較可能なパフォーマンスを分析できます。事前設定済みの Einstein Discovery ストーリーを使用して、在庫切れの可能性がある商品に関するインテリジェントなインサイトを取得します。営業担当は自分のパフォーマンスを追跡してチームの平均パフォーマンスと比較できます。

アクションプランテンプレートにフローを追加して店舗でより多くの活動を実行

営業マネージャは、アクションプランテンプレートにフローを追加することで、フィールド営業担当者の訪問の影響を高めるようにサポートできます。フローを追加できることで、フィールド営業担当者が店舗で実行できる活動の範囲が広がります。

訪問の効率の向上

フィールド営業担当者は必要なときにモバイルアプリケーションで訪問を作成することで、常に機敏に行動することができます。

その他の項目名の変更

[調査指標定義] オブジェクトの [データ型] 項目の名前を変更しました。新しい項目名は [指標データ型] です。

Einstein Object Detection: データの安全性、検出の改善、重要な更新

無効な Salesforce 組織に保存されている Object Detection データは削除されます。オブジェクトは、最も精度の高いモデルによって検出されます。システム管理者は、モデルおよびデータセットについてより多くの情報を取得できます。すべてのレコードリストと関連リストを使用して、Einstein Object Detection レコードを簡単に表示できます。

Consumer Goods Cloud の変更されたオブジェクト

Consumer Goods Cloud の変更されたオブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

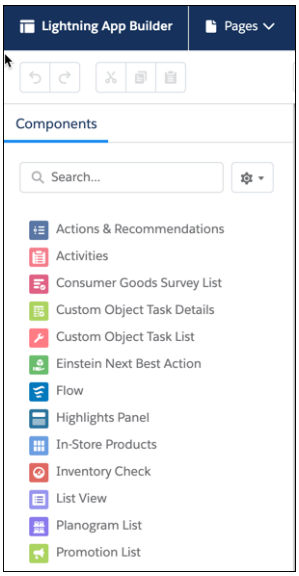
フィールド営業担当者のニーズに合わせてモバイルアプリケーションをカスタマイズ

外出先でフィールド営業担当者が必要とする重要な情報を表示するように Consumer Goods モバイルアプリケーションを設計します。たとえば、フィールド営業担当者がサードパーティアプリケーションを使用して最新の交通情報や天気予報を確認している場合、Lightning コンポーネントを作成して、それらのアプリケーションを Consumer Goods モバイルアプリケーションに追加します。いくつかの標準 Lightning コンポーネントから選択することもできます。

対象: この変更は、小売実行が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Consumer Goods Cloud ライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: ページを編集し、[訪問リスト] や [訪問詳細] などのコンポーネントをページにドラッグします。



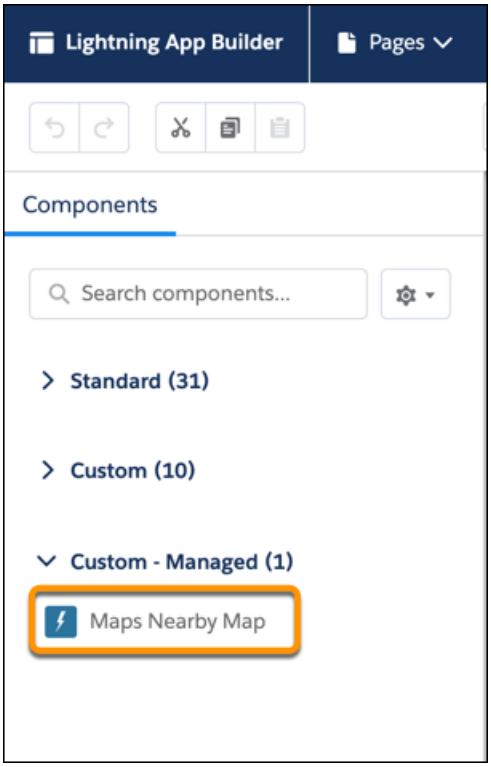
埋め込み Salesforce Maps を使用した店舗、取引先、プロモーションの管理

Consumer Goods デスクトップアプリケーションに Salesforce Maps を埋め込むことで、営業マネージャがテリトリー内の店舗を視覚化して追跡できるようにします。たとえば、パフォーマンスの良いまたは悪い店舗を特定するように地図を設定できます。営業マネージャは結果を地図上で確認できます。店舗のパフォーマンスに基づいて検索結果が色分けされるため、営業マネージャは注意が必要な店舗を容易に特定できます。

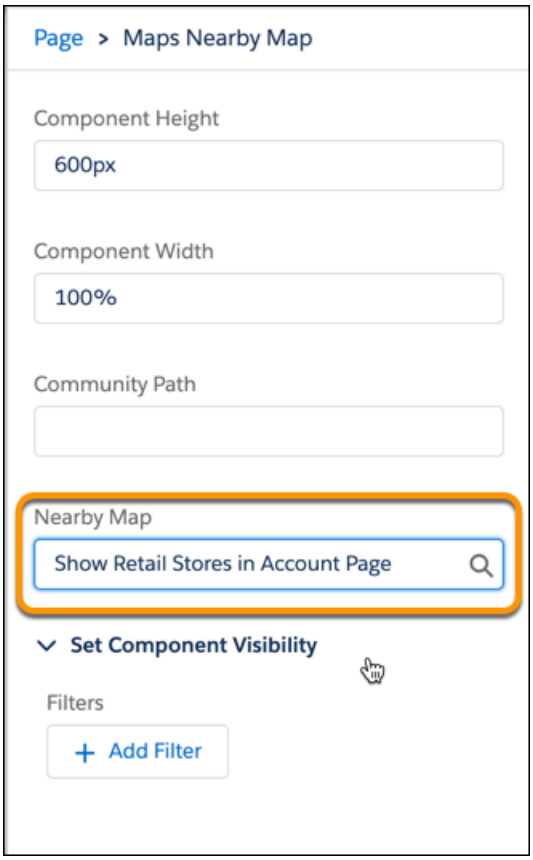
対象: この変更は、小売実行が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのデスクトップバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Consumer Goods Cloud ライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: **[Salesforce Maps]** コンポーネントをレコードページにドラッグします。



[周辺地図] 項目に検索条件を入力します。



テンプレートを使用した訪問の迅速な作成

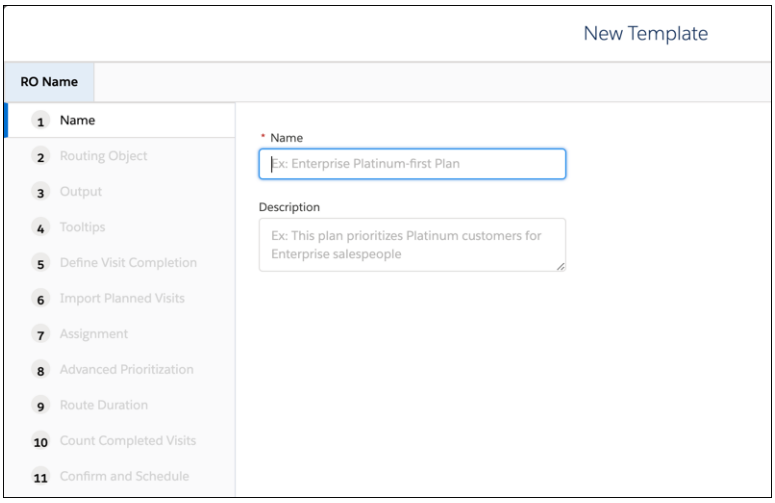
営業マネージャは Salesforce Maps の高度なルートテンプレートを使用してフィールド営業担当者の訪問計画を効率的に作成できるようになりました。営業マネージャは1回のクリックのみで複数の訪問を作成して時間を節約できます。また、フィールド営業担当者に最適なルート計画を提供し、フィールド営業担当者が適切な店舗に適切なタイミングで確実に訪問できるようにします。

対象: この変更は、小売実行が有効になっており Salesforce Maps がインストールされている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Consumer Goods Cloud ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: 営業マネージャは制約 (期間、訪問数、店舗営業時間など) を選択してテンプレートを作成できます。その後、テンプレートを使用して複数の訪問のルートを 1 回のクリックで作成できます。

方法: アプリケーションランチャーから、**Salesforce Maps** を選択します。**[Maps 高度なルートテンプレート]** タブで **[新規訪問計画]** をクリックしてテンプレートを作成します。



ビジネスの成長、小売実行の改善

Einstein Analytics for Consumer Goods アプリケーションのダッシュボードでは、店舗のコンプライアンス、最後の店舗訪問、在庫のコンプライアンス、商品パフォーマンス、および取引先階層に関するアクション可能なインサイトが提供されます。選択した期間で店舗、取引先、または商品の比較可能なパフォーマンスを分析できます。事前設定済みの Einstein Discovery ストーリーを使用して、在庫切れの可能性がある商品に関するインテリジェントなインサイトを取得します。営業担当は自分のパフォーマンスを追跡してチームの平均パフォーマンスと比較できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効化されている Lightning Experience と、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition のすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: Analytics for Consumer Goods は Salesforce Consumer Goods Cloud ユーザのみが対象です。Einstein Analytics for Consumer Goods テンプレートからアプリケーションを作成する場合は、Einstein Analytics for Consumer Goods アドオンライセンスも必要です。

理由: Product Performance ダッシュボードを使用して、商品、商品カテゴリ、ブランド、または分類のパフォーマンスを追跡します。また、商品および商品カテゴリ全体のプロモーションの効果を測定することもできます。

拡張された Store Performance ダッシュボードは、小売実行の KPI と店舗のパフォーマンス間の相関関係を確認し、小売実行の効率を向上するのに役立ちます。

方法: Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択します。**[Analytics for Consumer Goods]** テンプレートを選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

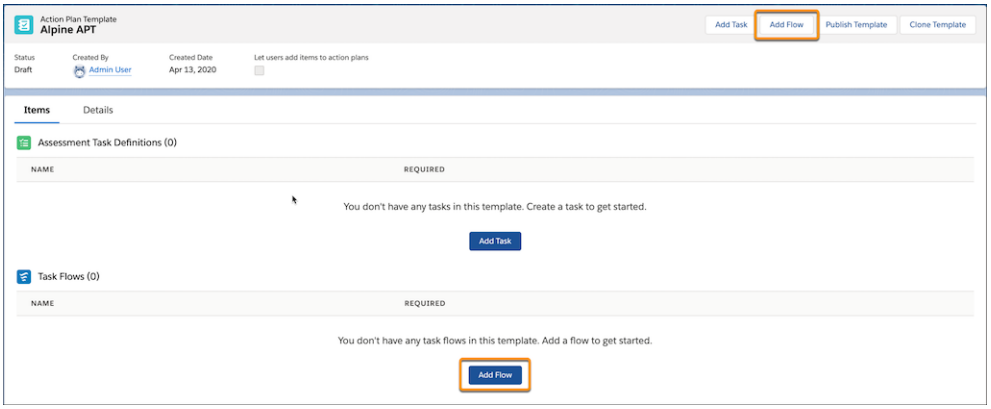
アクションプランテンプレートにフローを追加して店舗でより多くの活動を実行

営業マネージャは、アクションプランテンプレートにフローを追加することで、フィールド営業担当者の訪問の影響を高めるようにサポートできます。フローを追加できることで、フィールド営業担当者が店舗で実行できる活動の範囲が広がります。

対象: この変更は、小売実行が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Consumer Goods Cloud ライセンスを持つユーザが使用できます。

方法: アクションプランテンプレートを作成するときに [フローを追加] をクリックします。



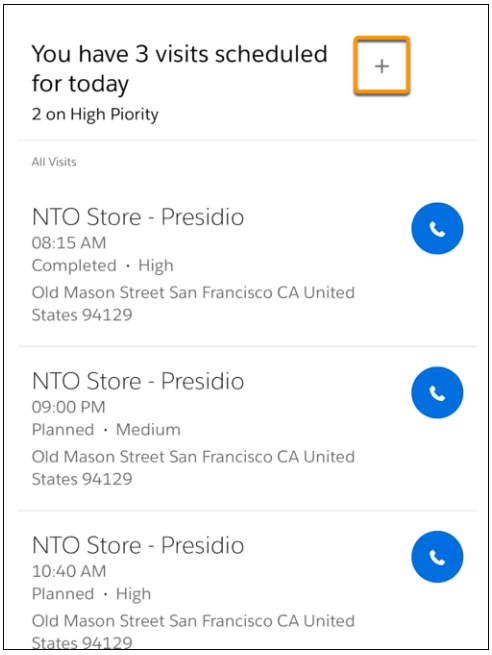
訪問の効率の向上

フィールド営業担当者は必要なときにモバイルアプリケーションで訪問を作成することで、常に機敏に行動することができます。

対象: この変更は、小売実行が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Consumer Goods Cloud ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: フィールド営業担当者は、問題が発生している店舗から電話を受けた場合、同じ日の店舗への訪問を作成できます。



その他の項目名の変更

[調査指標定義] オブジェクトの [データ型] 項目の名前を変更しました。新しい項目名は [指標データ型] です。

対象: この変更は、小売実行が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Consumer Goods Cloud ライセンスを持つユーザが使用できます。

Einstein Object Detection: データの安全性、検出の改善、重要な更新

無効な Salesforce 組織に保存されている Object Detection データは削除されます。オブジェクトは、最も精度の高いモデルによって検出されます。システム管理者は、モデルおよびデータセットについてより多くの情報を取得できます。すべてのレコードリストと関連リストを使用して、Einstein Object Detection レコードを簡単に表示できます。

ALBERT EINSTEIN の権利は、ヘブライ大学の許可を受けた上で使用しています。Greenlight が排他的に代理人を務めています。

このセクションの内容:

無効な組織のデータセキュリティの改善

Einstein Object Detection データは、Salesforce が保留、ロック、削除待機中の状態になってから 60 日が経過すると完全に削除されます。

最も精度の高いモデルを使用したオブジェクトの検出

同じオブジェクトが複数のモデルで検出された場合、最も精度の高いモデルでオブジェクトが検出されるようになりました。

データの増加によるモデルの改善

モデルを作成または更新すると、Einstein によって自動的に画像が複製されて変更されます。重複する画像は横方向に反転され、サイズが変更されます。モデルで水平角やサイズが異なるオブジェクトをより正確に識別できるようになりました。

モデルに関する重要な詳細の把握

ビジョンモデルレコードの [ビルド統計] 項目を使用して、作成プロセスのタスクの期間を把握します。

データセットおよびモデルの状況の把握

データセットレコードで、新しい[エラーメッセージ]項目を使用して、データセットファイルがアップロードされなかった理由を把握できます。ビジョンモデルレコードで、[エラーメッセージ] 項目を使用して、モデルが作成されなかった理由を把握できます。

データセットファイルのアップロード

データセットレコードを作成するときに、Salesforce 組織のデータセットファイル、またはデータセットがアップロードされるクラウドの場所の URL のいずれかを追加できるようになりました。以前のリリースでは、ファイルを追加しても、データセットレコードへの URL を追加すると、URL しか考慮されませんでした。

データセットおよびモデル評価指標の関連レコードの表示

データセットを使用して作成されたモデルを表示するには、データセットレコードの [ビジョンモデル] 関連リストを使用します。モデルのオブジェクト検出精度を表示するには、モデル評価指標レコードの[オブジェクト総計値] 関連リストを使用します。

すべてのレコードの簡単な表示

データセット、ビジョンモデル、検出されたオブジェクト、サンプルオブジェクト、モデル評価指標、オブジェクト総計値のすべてのレコードリストが追加されました。このリストを使用して、Salesforce 組織のすべてのオブジェクトレコードを表示します。

無効な組織のデータセキュリティの改善

Einstein Object Detection データは、Salesforce が保留、ロック、削除待機中の状態になってから 60 日が経過すると完全に削除されます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

最も精度の高いモデルを使用したオブジェクトの検出

同じオブジェクトが複数のモデルで検出された場合、最も精度の高いモデルでオブジェクトが検出されるようになりました。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

データの増加によるモデルの改善

モデルを作成または更新すると、Einsteinによって自動的に画像が複製されて変更されます。重複する画像は横方向に反転され、サイズが変更されます。モデルで水平角やサイズが異なるオブジェクトをより正確に識別できるようになりました。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

モデルに関する重要な詳細の把握

ビジョンモデルレコードの [ビルド統計] 項目を使用して、作成プロセスのタスクの期間を把握します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

データセットおよびモデルの状況の把握

データセットレコードで、新しい[エラーメッセージ]項目を使用して、データセットファイルがアップロードされなかった理由を把握できます。ビジョンモデルレコードで、[エラーメッセージ]項目を使用して、モデルが作成されなかった理由を把握できます。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

データセットファイルのアップロード

データセットレコードを作成するときに、Salesforce 組織のデータセットファイル、またはデータセットがアップロードされるクラウドの場所の URL のいずれかを追加できるようになりました。以前のリリースでは、ファイルを追加しても、データセットレコードへの URL を追加すると、URL しか考慮されませんでした。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

データセットおよびモデル評価指標の関連レコードの表示

データセットを使用して作成されたモデルを表示するには、データセットレコードの[ビジョンモデル]関連リストを使用します。モデルのオブジェクト検出精度を表示するには、モデル評価指標レコードの [オブジェクト総計値] 関連リストを使用します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

すべてのレコードの簡単な表示

データセット、ビジョンモデル、検出されたオブジェクト、サンプルオブジェクト、モデル評価指標、オブジェクト総計値のすべてのレコードリストが追加されました。このリストを使用して、Salesforce 組織のすべてのオブジェクトレコードを表示します。

対象: この変更は、Consumer Goods Cloud が有効になっている Unlimited Edition と Enterprise Edition の Lightning Experience に適用されます。

Consumer Goods Cloud の変更されたオブジェクト

Consumer Goods Cloud の変更されたオブジェクトを使用してより多くのデータにアクセスします。

対象: この機能は、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Professional Edition の Consumer Goods アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: これらのオブジェクトにアクセスするには、システム管理者は Consumer Goods Cloud 権限セットライセンスをユーザに割り当てる必要があります。

AssessmentTask オブジェクトの新規項目

訪問の所要時間を知る

`AssessmentTask` オブジェクトで新しい `StartTime` および `EndTime` 項目を使用します。

Einstein Object Detection オブジェクトの新規項目

データセットおよびモデルの状況の把握

`AiDataset` および `AiVisionModel` オブジェクトで新しい `ErrorMessage` 項目を使用します。

Manufacturing Cloud: ビジネス成長計画の立案、特定の取引先販売予測への集中、販売の計画された総計値と実際の総計値の比較の改善

測定可能な目標を設定して、組織の成長計画を立てます。チームメンバーに目標を割り当てることで、成長計画を達成します。特定の商品と取引先間、および期間ごとに戦略的に目標を配分することで、主要なビジネス領域に集中します。組織の主要な取引先および商品を特定して、集中力とユーザの生産性を高めます。対象となるすべての取引先販売予測を1回のクリックで再計算できます。販売計画値をそのデフォルト通貨で表示して、簡単に比較します。取引先マネージャ目標、取引先販売予測、および販売計画の詳細なレポートを作成して、組織のデータを追跡および比較します。使用量の詳細を表示して、Salesforce組織の取引先マネージャ目標と取引先販売予測で使用されるデータ量を管理します。

このセクションの内容:

取引先マネージャ目標: 成長計画を測定可能な目標に変換 (正式リリース)

取引先マネージャ目標を使用して、組織の成長計画を測定可能な目標に変換します。収益、数量、その他の通貨または通貨以外の基準種別の目標を作成して、ビジネス要件に対応します。チームメンバーに特定の目標の割合を割り当てることで、これらの目標を達成します。商品および取引先ごとに戦略的に目標を配分することで、市場の需要と組織の要件を満たします。月、四半期、または年ごとに配分することで、目標を定期的に表示できます。

取引先販売予測: 絞り込まれた販売予測および詳細なレポート

主要な取引先および商品を特定して、販売予測の計画を改善します。特定された取引先および商品のみが取引先販売予測の対象となるため、これらの重要な領域に焦点を絞ることができます。対象となるすべての取引先販売予測を 1 回のクリックで再計算できます。データ量の詳細、および取引先販売予測の再計算と再生成が行われた回数を使用して、Salesforce 組織での取引先販売予測の使用状況を監視します。レポートを作成して、取引先販売予測を追跡および比較します。

販売計画: 単一通貨での収益総計値の表示、レポートを使用したデータの絞り込み

収益総計値を販売計画のデフォルト通貨で表示して、販売計画の一貫性を保ちます。カスタムレポートを作成して、販売計画のすべての詳細なデータを比較および追跡します。

1 つのダッシュボードを使用したビジネスパフォーマンスの監視 (ベータ)

取引先マネージャはビジネスパフォーマンスを 1 つのダッシュボードで追跡できるため、ナビゲーションとこのデータへのアクセスが容易になります。収益実現、取引先のパフォーマンス、今後の販売計画の更新をこのダッシュボードで比較および追跡できます。

販売予測の変化の分析およびビジネスの改善

拡張された販売予測分析ダッシュボードを使用して、取引先および商品の販売予測の変化を分析し、需要計画を微調整します。販売契約の履歴トレンドに基づいて、商品とスケジュールの価格のおすすめを取得します。Analytics for Manufacturing テンプレートからアプリケーションを作成するときに、Salesforce 組織で設定されている任意の通貨を選択できます。Salesforce 組織の会計年度カレンダー設定に基づいて、会計年度、月、または四半期ごとにデータを絞り込めるようになりました。また、組織で有効化されている機能に基づいてアプリケーションの軽量バージョンを作成することもできます。

Manufacturing Cloud の新しいオブジェクト

新しい Manufacturing Cloud オブジェクトを使用して、取引先マネージャ目標を作成、配分、および設定します。さらに、販売計画の変更履歴にアクセスできます。

Manufacturing Cloud の新規および変更されたメタデータ型

Manufacturing Cloud の新規メタデータ型を使用して、取引先マネージャ目標を有効化、更新、および設定します。また、変更されたメタデータ型を使用して、取引先販売予測を詳細に設定します。

Manufacturing Cloud の新規および変更された Tooling API オブジェクト

Manufacturing Cloud の新規および変更された Tooling API オブジェクトを使用して、取引先マネージャ目標を設定し、取引先販売予測の使用量の詳細を取得します。

Manufacturing Cloud の新規および変更された呼び出し可能なアクション

Manufacturing Cloud の新規アクションを使用して、取引先マネージャ目標の割り当て値を更新します。さらに、変更されたアクションを使用して、すべての取引先販売予測を再計算します。

取引先マネージャ目標: 成長計画を測定可能な目標に変換 (正式リリース)

取引先マネージャ目標を使用して、組織の成長計画を測定可能な目標に変換します。収益、数量、その他の通貨または通貨以外の基準種別の目標を作成して、ビジネス要件に対応します。チームメンバーに特定の目標の割合を割り当てることで、これらの目標を達成します。商品および取引先ごとに戦略的に目標を配分することで、市場の需要と組織の要件を満たします。月、四半期、または年ごとに配分することで、目標を定期的に表示できます。

このセクションの内容:

目標の割り当てによるチームメンバーへの期待の設定

取引先マネージャは、組織の目標を直属のチームメンバーに割り当て、目標の達成に役立たせることができます。特定の目標の割合を割り当てることができます。目標割り当ての合計は目標値と等しくなくても構いません。この柔軟性により、取引先マネージャは目標値を更新し、目標割り当てを編集できます。

1 回のクリックによる割り当て値の更新

変化する市場とビジネス要件は取引先マネージャの目標に直接影響します。この恒常的な変化に対処するため、取引先マネージャはその目標値を変更することができます。これにより、取引先マネージャはチームメンバーの割り当てにその変更を均等に反映する最新の値が含まれていることを確認できます。

取引先および商品ごと、および期間ごとの目標の配分

取引先マネージャは、取引先および商品ごとに目標を配分することで、組織が主要なビジネス領域に集中できるようサポートできます。この目標と取引先マネージャ自身の目標をさらに期間ごとに配分し、定期的に表示できます。システム管理者は、この配分の期間を毎月、毎四半期、または毎年として選択することで、取引先マネージャをサポートできます。

組織の階層の変化への対応

取引先マネージャは、再編成された報告関係、チームの合併、従業員の入社や退職など、目標割り当てが無効になる組織の変更に対応できます。無効な対象割り当ては取引先マネージャ用に自動的に特定され、[無効なチームの割り当て]セクションに表示されます。取引先マネージャは割り当てを別のチームメンバーに再割り当てしたり、所有者を変更したり、割り当てを親の目標に移動したり、割り当てを削除したりして、無効な割り当てを管理することができます。

1 つのページでの取引先の目標割り当ての追跡

取引先マネージャは、取引先に関連するすべての目標を 1 つのページで比較および追跡できます。取引先マネージャはすべてのチーム割り当てと自分に割り当てられた目標を取引先のレコードの [取引先マネージャ目標] タブで参照できます。

レポートを使用した詳細な取引先マネージャ目標の分析

取引先マネージャは、目標、取引先と商品の配分、および期間配分ごとに情報を表示するカスタムレポートを作成できます。また、取引先マネージャはこのレポートを使用してダッシュボードを作成できます。

取引先マネージャ目標のデータ使用量の管理

1つのスナップショットで、Salesforce組織で取引先マネージャ目標により使用されたデータの量を表示します。制限の使用割合を確認して、データ使用量を定義済みの制限と比較します。この詳細を定期的に確認することで、Salesforce 組織の最適なパフォーマンスを確認できます。

目標の割り当てによるチームメンバーへの期待の設定

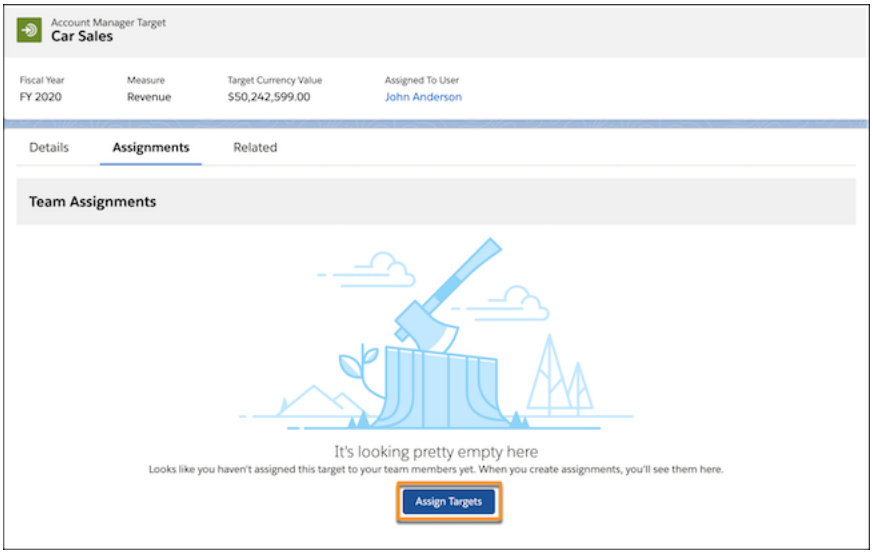
取引先マネージャは、組織の目標を直属のチームメンバーに割り当て、目標の達成に役立たせることができます。特定の目標の割合を割り当てることができます。目標割り当ての合計は目標値と等しくなくても構いません。この柔軟性により、取引先マネージャは目標値を更新し、目標割り当てを編集できます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud ライセンスのある Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

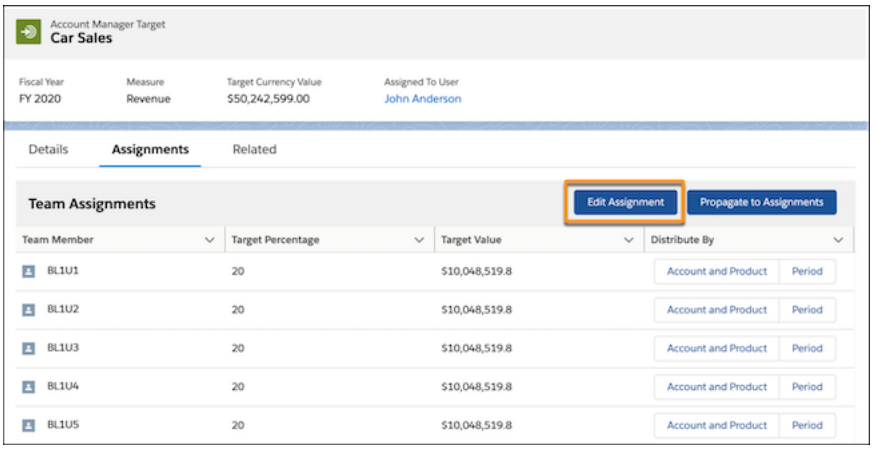
対象ユーザ: この変更は、「製造取引先マネージャ目標」権限セットを持つユーザが使用できます。

理由: 目標を割り当てることで、取引先マネージャはビジネスニーズに応じて目標を柔軟に管理できます。たとえば、取引先マネージャは特定の目標値をチームメンバーに割り当て、残りの値を自分自身の目標として保持できます。これらの目標値は、市場の需要やビジネス上の意思決定のその後の変化を反映するように更新することもできます。

方法: 新しい取引先マネージャ目標のレコードの [割り当て] タブで、[目標を割り当て] をクリックします。



割り当てを変更するには、[割り当ての編集] をクリックします。



1 回のクリックによる割り当て値の更新

変化する市場とビジネス要件は取引先マネージャの目標に直接影響します。この恒常的な変化に対処するため、取引先マネージャはその目標値を変更することができます。これにより、取引先マネージャはチームメンバーの割り当てにその変更を均等に反映する最新の値が含まれていることを確認できます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud ライセンスのある Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、「製造取引先マネージャ目標」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: 取引先マネージャ目標のレコードの [割り当て] タブで、[割り当てに反映] をクリックします。新しい取引先マネージャ目標の更新アクションを使用して、Flow Builder とプロセスビルダーにこの機能を追加することもできます。

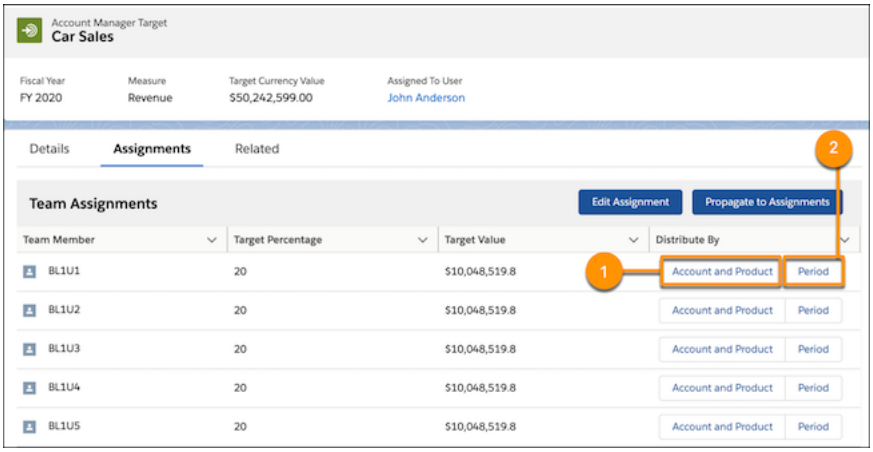
取引先および商品ごと、および期間ごとの目標の配分

取引先マネージャは、取引先および商品ごとに目標を配分することで、組織が主要なビジネス領域に集中できるようサポートできます。この目標と取引先マネージャ自身の目標をさらに期間ごとに配分し、定期的に表示できます。システム管理者は、この配分の期間を毎月、毎四半期、または毎年として選択することで、取引先マネージャをサポートできます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud ライセンスのある Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、「製造取引先マネージャ目標」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: 取引先および商品ごとに目標を配分するには、取引先マネージャ目標のレコードの [割り当て] タブにある [配分基準] 列で [取引先および商品] (1) をクリックします。期間ごとに目標を配分するには、[配分基準] 列で [期間] (2) をクリックします。



組織の階層の変化への対応

取引先マネージャは、再編成された報告関係、チームの合併、従業員の入社や退職など、目標割り当てが無効になる組織の変更に対応できます。無効な対象割り当ては取引先マネージャ用に自動的に特定され、[無効なチームの割り当て] セクションに表示されます。取引先マネージャは割り当てを別のチームメンバーに再割り当てしたり、所有者を変更したり、割り当てを親の目標に移動したり、割り当てを削除したりして、無効な割り当てを管理することができます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud ライセンスのある Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、「製造取引先マネージャ目標」権限セットを持つユーザが使用できます。

1 つのページでの取引先の目標割り当ての追跡

取引先マネージャは、取引先に関連するすべての目標を 1 つのページで比較および追跡できます。取引先マネージャはすべてのチーム割り当てと自分に割り当てられた目標を取引先のレコードの [取引先マネージャ目標] タブで参照できます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud ライセンスのある Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、「製造取引先マネージャ目標」権限セットを持つユーザが使用できます。

レポートを使用した詳細な取引先マネージャ目標の分析

取引先マネージャは、目標、取引先と商品の配分、および期間配分ごとに情報を表示するカスタムレポートを作成できます。また、取引先マネージャはこのレポートを使用してダッシュボードを作成できます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud **ライセンスのある** Developer Edition、Enterprise Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: この変更は、「製造取引先マネージャ目標」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*レポート & ダッシュボード*」と入力します。[レポートタイプ] を選択します。[レポートタイプ] ページで、[次へ] をクリックします。Account Manager Target **主オブジェクトを使用してカスタムレポートタイプを作成します。**Account Manager Target Distribution **および** Account Manager Periodic Target Distribution **を関連オブジェクトとして追加します。生成されたレポートを使用してダッシュボードを作成できます。**

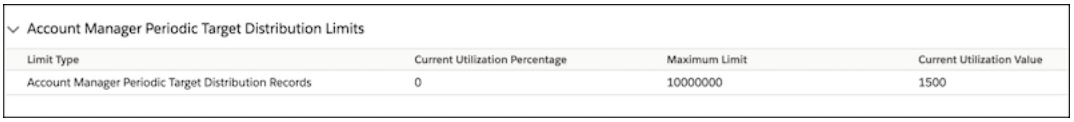
取引先マネージャ目標のデータ使用量の管理

1つのスナップショットで、Salesforce**組織で取引先マネージャ目標により使用されたデータの量を表示します。制限の使用割合を確認して、データ使用量を定義済みの制限と比較します。この詳細を定期的に確認することで、**Salesforce **組織の最適なパフォーマンスを確認できます。**

対象: この変更は、Manufacturing Cloud **ライセンスのある** Developer Edition、Enterprise Edition、**および** Unlimited Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

対象ユーザ: この変更は、「製造取引先マネージャ目標」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*製造*」と入力します。[取引先マネージャ目標] を選択します。[設定] の [取引先マネージャ目標] ページで [取引先マネージャ目標の期間配分の制限] を展開します。制限の使用割合、現在の使用量、および Account Manager Periodic Target Distribution **オブジェクトのレコード制限を表示できます。**



取引先販売予測: 絞り込まれた販売予測および詳細なレポート

主要な取引先および商品を特定して、販売予測の計画を改善します。特定された取引先および商品のみが取引先販売予測の対象となるため、これらの重要な領域に焦点を絞ることができます。対象となるすべての取引先販売予測を1回のクリックで再計算できます。データ量の詳細、および取引先販売予測の再計算と再生成が行われた回数を使用して、Salesforce**組織での取引先販売予測の使用状況を監視します。レポートを作成して、取引先販売予測を追跡および比較します。**

このセクションの内容:

主要な取引先および商品の販売予測を使用した取引先販売予測の計画の改善
ビジネスの優先事項に基づいて、組織の主要な取引先および商品を特定します。特定された取引先および商品のみが取引先売上予測の対象となるため、取引先マネージャがこれらの重要な領域に焦点を絞って成長を管理するために役立ちます。

1 回のクリックによるすべての取引先販売予測の再計算
市場の需要とビジネスの優先事項の変化により、会社の主要な取引先および商品のリストも変わる可能性があります。会社の会計年度中の任意の時点で、すべての特定された取引先と商品の組み合わせの販売予測を 1 回のクリックで再計算できます。

レポートを使用した詳細な取引先販売予測の分析
取引先、商品、期間、総計値別に情報を表示するカスタムレポートを作成します。また、取引先マネージャはこのレポートを使用してダッシュボードを作成できます。

取引先販売予測のデータ使用量の管理
1つのスナップショットで、Salesforce組織で取引先販売予測により使用されたデータの量を参照します。制限の使用割合を確認して、データ使用量を定義済みの制限と比較します。この詳細を定期的に確認することで、Salesforce 組織の最適なパフォーマンスを確認できます。

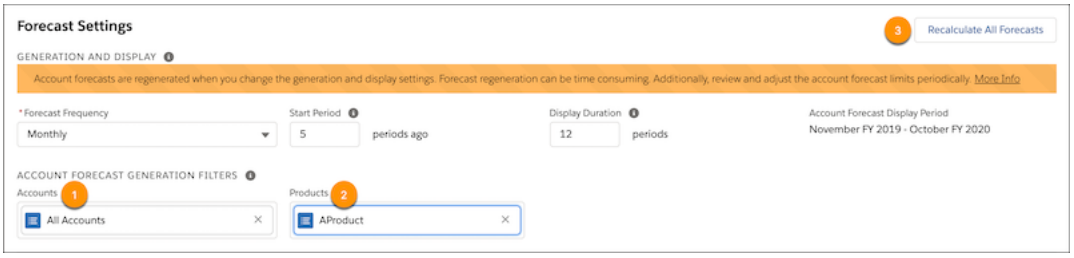
主要な取引先および商品の販売予測を使用した取引先販売予測の計画の改善

ビジネスの優先事項に基づいて、組織の主要な取引先および商品を特定します。特定された取引先および商品のみが取引先売上予測の対象となるため、取引先マネージャがこれらの重要な領域に焦点を絞って成長を管理するために役立ちます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud ライセンスのある Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、「製造取引先販売予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*製造*」と入力します。[取引先販売予測] を選択します。[設定] の [取引先販売予測] ページの [取引先販売予測の生成条件] セクションで、主要取引先 (1) と主要商品 (2) を含む 2 つのリストビューを選択します。変更を保存し、[すべての販売予測の再計算] (3) をクリックして、取引先マネージャが最新の販売予測値を参照できるようにします。



1 回のクリックによるすべての取引先販売予測の再計算

市場の需要とビジネスの優先事項の変化により、会社の主要な取引先および商品のリストも変わる可能性があります。会社の会計年度中の任意の時点で、すべての特定された取引先と商品の組み合わせの販売予測を1回のクリックで再計算できます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud ライセンスのある Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、「製造取引先販売予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*製造*」と入力します。[取引先販売予測] を選択します。[設定] の [取引先販売予測] ページで、[すべての販売予測を再計算] をクリックします。Flow Builder とプロセスビルダーの両方で既存の販売予測の再計算アクションを使用して、すべての取引先販売予測を再計算することもできます。

レポートを使用した詳細な取引先販売予測の分析

取引先、商品、期間、総計値別に情報を表示するカスタムレポートを作成します。また、取引先マネージャはこのレポートを使用してダッシュボードを作成できます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud ライセンスのある Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、「製造取引先販売予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*レポート & ダッシュボード*」と入力します。[レポートタイプ] を選択します。[レポートタイプ] ページで、[次へ] をクリックします。Account Forecast 主オブジェクトを使用してカスタムレポートタイプを作成します。Account Product Forecast および Account Product Period Forecast を関連オブジェクトとして追加します。生成されたレポートを使用してダッシュボードを作成できます。

取引先販売予測のデータ使用量の管理

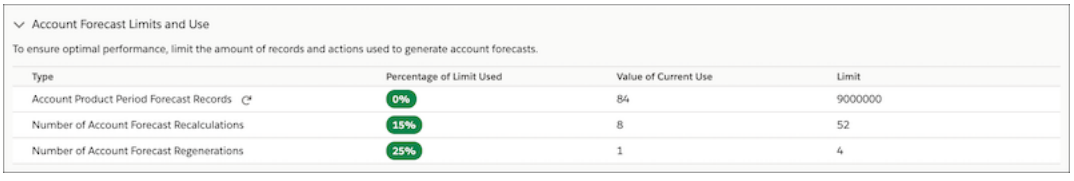
1 つのスナップショットで、Salesforce 組織で取引先販売予測により使用されたデータの量を参照します。制限の使用割合を確認して、データ使用量を定義済みの制限と比較します。この詳細を定期的に確認することで、Salesforce 組織の最適なパフォーマンスを確認できます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud ライセンスのある Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、「製造取引先販売予測」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*製造*」と入力します。[取引先販売予測] を選択します。[設定] の [取引先販売予測] ページで、[取引先販売予測の制限および使用] を展開します。制限の使用割合、現在の使用量、および次の制限を表示できます。

- Account Product Period Forecast オブジェクトのレコード数。この行の更新アイコンを使用して最新の値を表示できます。
- すべての取引先の販売予測が再計算された回数。
- すべての取引先の販売予測が再生成された回数。



販売計画: 単一通貨での収益総計値の表示、レポートを使用したデータの絞り込み

収益総計値を販売計画のデフォルト通貨で表示して、販売計画の一貫性を保ちます。カスタムレポートを作成して、販売計画のすべての詳細なデータを比較および追跡します。

このセクションの内容:

販売計画のすべての収益総計値を同一通貨で表示
すべての収益総計値を販売計画のデフォルト通貨で表示して、意思決定と生産性を向上させます。販売計画に関連付けられている注文と契約で異なる通貨が使用されている場合、関連する収益総計値は販売計画のデフォルト通貨に変換されて表示されます。

レポートを使用した詳細な販売計画データの分析
販売計画、取引先、商品、スケジュール別に情報を表示するカスタムレポートを作成します。また、取引先マネージャはこのレポートを使用してダッシュボードを作成できます。

販売計画のすべての収益総計値を同一通貨で表示

すべての収益総計値を販売計画のデフォルト通貨で表示して、意思決定と生産性を向上させます。販売計画に関連付けられている注文と契約で異なる通貨が使用されている場合、関連する収益総計値は販売計画のデフォルト通貨に変換されて表示されます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud ライセンスのある Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、「製造販売計画」権限セットを持つユーザが使用できます。

理由: すべての収益総計値が同一通貨で表示されていると、取引先マネージャは販売計画の収益総計値を容易に把握および比較できます。たとえば、販売計画の実際の数量が注文から自動的に計算されているとします。この注文に関連付けられている商品はユーロで価格設定されていますが、販売計画のデフォルト通貨は米ドル (USD) です。ユーロ単位の注文から取得された収益総計値は USD に変換されます。

レポートを使用した詳細な販売計画データの分析

販売計画、取引先、商品、スケジュール別に情報を表示するカスタムレポートを作成します。また、取引先マネージャはこのレポートを使用してダッシュボードを作成できます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud ライセンスのある Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、「製造販売計画」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに *「レポート & ダッシュボード」* と入力します。[レポートタイプ] を選択します。[レポートタイプ] ページで、[次へ] をクリックします。Sales Agreement 主オブジェクトを使用してカスタムレポートタイプを作成します。Sales Agreement Product および Sales Agreement Product Schedule を関連オブジェクトとして追加します。生成されたレポートを使用してダッシュボードを作成できます。

1 つのダッシュボードを使用したビジネスパフォーマンスの監視 (ベータ)

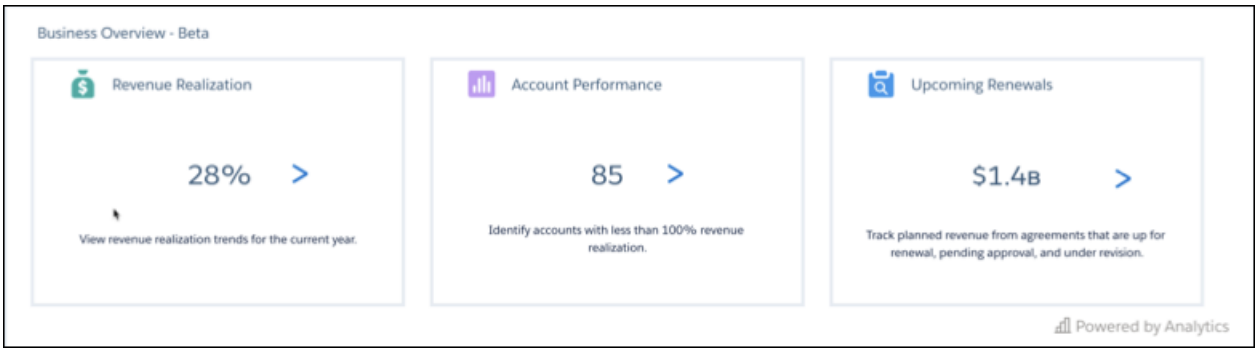
取引先マネージャはビジネスパフォーマンスを1つのダッシュボードで追跡できるため、ナビゲーションとこのデータへのアクセスが容易になります。収益実現、取引先のパフォーマンス、今後の販売計画の更新をこのダッシュボードで比較および追跡できます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud ライセンスのある Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

メモ: 製造のデフォルトの Analytics ダッシュボードはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

対象ユーザ: この変更は、「製造販売計画」権限セットを持つユーザが使用できます。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*製造*」と入力します。[販売計画] を選択します。[設定] の [販売計画] ページで [デフォルトの Analytics ダッシュボード] を有効化します。



販売予測の変化の分析およびビジネスの改善

拡張された販売予測分析ダッシュボードを使用して、取引先および商品の販売予測の変化を分析し、需要計画を微調整します。販売契約の履歴トレンドに基づいて、商品とスケジュールの価格のおすすめを取得します。Analytics for Manufacturing テンプレートからアプリケーションを作成するときに、Salesforce 組織で設定されている任意の通貨を選択できます。Salesforce 組織の会計年度カレンダー設定に基づいて、会計年度、月、または四半期ごとにデータを絞り込めるようになりました。また、組織で有効化されている機能に基づいてアプリケーションの軽量バージョンを作成することもできます。

対象: この変更は、Manufacturing Cloud が有効になっている Developer Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。Analytics for Manufacturing は Salesforce Manufacturing Cloud ユーザのみを対象とします。

対象ユーザ: Einstein Analytics for Manufacturing テンプレートからアプリケーションを作成するには、Manufacturing Analytics Plus アドオンライセンスも必要です。

理由: 取引先マネージャと需要プランナーは、拡張された販売予測分析ダッシュボードを使用して、販売予測の変化を監視し、精度と需要計画を改善できます。

方法: Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択します。**[Analytics for Manufacturing]** テンプレートを選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

Manufacturing Cloud の新しいオブジェクト

新しい Manufacturing Cloud オブジェクトを使用して、取引先マネージャ目標を作成、配分、および設定します。さらに、販売計画の変更履歴にアクセスできます。

通貨と他の基準種別を使用して会計年度の取引先マネージャ目標を作成する
新しい `AcctMgrTarget` オブジェクトを使用します。

取引先マネージャ目標レコードのフィード活動に関する情報を取得する
新しい `AcctMgrTargetFeed` オブジェクトを使用します。

取引先マネージャ目標レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい `AcctMgrTargetHistory` オブジェクトを使用します。

取引先マネージャ目標レコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい `AcctMgrTargetShare` オブジェクトを使用します。

取引先および商品ごとに配分された取引先マネージャ目標の値を記録する
新しい `AcctMgrTargetDstr` オブジェクトを使用します。

期間ごとの取引先マネージャ目標の配分値と、取引先および商品ごとの取引先マネージャ目標の配分値を記録する
新しい `AcctMgrPeriodicTargetDstr` オブジェクトを使用します。

取引先マネージャ目標の期間配分レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい `AcctMgrPeriodicTargetDstrHistory` オブジェクトを使用します。

取引先マネージャ目標の配分レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい `AcctMgrTargetDstrHistory` オブジェクトを使用します。

取引先マネージャ目標の通貨と他の基準種別を取得する
新しい `AcctMgrTargetMeasure` オブジェクトを使用します。

販売計画商品レコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい `SalesAgreementProductHistory` オブジェクトを使用します。

販売計画商品スケジュールレコードの項目の値への変更に関する情報を取得する
新しい `SalesAgreementProductScheduleHistory` オブジェクトを使用します。

Manufacturing Cloud の新規および変更されたメタデータ型

Manufacturing Cloud の新規メタデータ型を使用して、取引先マネージャ目標を有効化、更新、および設定します。また、変更されたメタデータ型を使用して、取引先販売予測を詳細に設定します。

取引先マネージャ目標の有効化
既存の IndustriesManufacturingSettings メタデータ型で `enableIndustriesMfgTargets` 項目を使用します。

取引先マネージャ目標の設定
新しい `AcctMgrTargetSettings` メタデータ型を使用します。

主要な取引先および商品の指定
既存の AccountForecastSettings メタデータ型で新しい `accountFilter` 項目および `productFilter` 項目を使用します。

Account Product Period Forecast レコード数の取得
既存の AccountForecastSettings メタデータ型で新しい `acctPrdctPrdFrcstVolCnt`、`recalculateAllFrcstCnt`、および `regenerateForecastCnt` 項目を使用します。

フローでの新しい取引先マネージャ目標の更新アクションの使用
Flow メタデータ型の actionType (FlowActionCall サブタイプ) 項目で新しい `updateAcctMgrTarget` 列挙値を使用します。

Manufacturing Cloud の新規および変更された Tooling API オブジェクト

Manufacturing Cloud の新規および変更された Tooling API オブジェクトを使用して、取引先マネージャ目標を設定し、取引先販売予測の使用量の詳細を取得します。

取引先マネージャ目標の設定
新しい `AcctMgrTargetSettings` オブジェクトを使用します。

取引先販売予測が再計算および再生成されたレコード数と回数を取得します。
既存の AccountForecastSettings オブジェクトで新しい `AcctPrdctPrdFrcstVolCnt`、`RecalculateAllFrcstCnt`、および `RegenerateForecastCnt` 項目を使用します。

Manufacturing Cloud の新規および変更された呼び出し可能なアクション

Manufacturing Cloud の新規アクションを使用して、取引先マネージャ目標の割り当て値を更新します。さらに、変更されたアクションを使用して、すべての取引先販売予測を再計算します。

動作の変更: すべての取引先販売予測の再計算
変更された `recalculateForecast` 標準アクションを使用して、1 つの取引先販売予測に加えてすべての取引先販売予測を再計算します。

取引先マネージャ目標の割り当て値の更新
取引先マネージャ目標の値が変更されたら、新しい `updateAcctMgrTarget` 標準アクションを使用して、取引先マネージャ目標の割り当て値を更新します。

Analytics: ナレッジカテゴリの検索条件、新しいデータ準備ツール、ツリーベースのモデル

ナレッジレポートをカテゴリで絞り込んで、ナレッジ記事に関するより詳細なインサイトを取得します。親しみやすい新しいエディタ (データの準備 (ベータ)) を使用してレシピを作成します。3 つのモデリングアルゴリズムからの最適な予測を取得します。

このセクションの内容:

レポートおよびダッシュボード:ナレッジカテゴリの検索条件、登録の.csv添付ファイル(ベータ)、拡張フォルダ共有 (更新)
ナレッジレポートをカテゴリで絞り込んで、ナレッジ記事に関するより詳細なインサイトを取得します。レポートデータをスプレッドシートアプリケーションで操作には、レポートデータを登録メールに.csvファイルとして添付します。Summer'13より前に作成された組織で従来のフォルダ共有を引き続き使用している場合は、リリースの更新により拡張フォルダ共有に容易にアップグレードできます。

Einstein Analytics: 新しいデータ準備ツール、ツリーベースのモデル、Snowflake へのライブ接続
親しみやすい新しいエディタ (データの準備 (ベータ)) を使用してレシピを作成します。3 つのモデリングアルゴリズムからの最適な予測を取得します。データを Salesforce に読み込まずに Snowflake ウェアハウスで探索を実行します。

レポートおよびダッシュボード: ナレッジカテゴリの検索条件、登録の .csv 添付ファイル (ベータ)、拡張フォルダ共有 (更新)

ナレッジレポートをカテゴリで絞り込んで、ナレッジ記事に関するより詳細なインサイトを取得します。レポートデータをスプレッドシートアプリケーションで操作には、レポートデータを登録メールに .csv ファイルとして添付します。Summer'13 より前に作成された組織で従来のフォルダ共有を引き続き使用している場合は、リリースの更新により拡張フォルダ共有に容易にアップグレードできます。

このセクションの内容:

ナレッジレポートをカテゴリで絞り込み
新しい検索条件種別であるカテゴリの検索条件を使用してナレッジ記事のカテゴリおよびサブカテゴリ全体に関する情報を返します。

レポートの登録への .csv ファイルの添付 (ベータ)
レポートを登録するときに、新しいオプションを使用すると、登録メールに添付された .csv ファイルとして結果を受信するように選択できます。メールの件名にはレポート名が記載されますが、メール自体にメール本文はありません。代わりに、行レベルのレコードの詳細が、添付された .csv ファイルに含まれます。また、[登録の編集] メニューの設計への小さな変更として、新しい [ファイル添付] ボタンおよび改良されたレイアウトがあります。

拡張フォルダ共有の有効化 (更新)
拡張フォルダ共有では、新しいユーザ権限が導入され、既存のレポートおよびダッシュボードに対する各ユーザのアクセス権が変更されます。Winter '21 リリース (以降のリリースに変更される可能性あり) では、従来のフォルダ共有が廃止され、拡張フォルダ共有に置き換わります。

レポートの行レベルの数式で最大 5 個の一意の項目を使用
レポートの行レベルの数式で参照できる一意の項目数の制限が 3 から 5 に引き上げられます。

価格表エントリに基づくレポートの作成

価格表エントリに基づいてカスタムレポートタイプを作成します。ユーザが商品と価格設定に基づいてレポートを作成できるようになったため、価格設定の管理と更新がより容易かつ効率的になりました。カスタムレポートタイプを作成するときに、価格表エントリを主オブジェクトとして使用できます。商品を主オブジェクトとして使用しているカスタムレポートタイプでは、価格表エントリが第 2 オブジェクトとして追加されました。

画面フローレポートを使用した作成するフローに関する詳細の発見

事前作成済みのレポートを使用して、画面フローでの経過時間を分析します。自分が作成した画面フローを誰が実行しているかを確認します。フローインタビューの状況を確認します。新しいサンプルフローレポート:画面フローカスタムレポート種別およびレポートが使用できるようになりました。ユーザが設定を行う必要はありません。

Salesforce コンソールでレポートリンクが新しいサブタブで開く

Salesforce コンソールからレポートのリンクを開いたときに、リンクが新しいワークスペースタブではなく新しいサブタブで開くようになりました。

ナレッジレポートをカテゴリで絞り込み

新しい検索条件種別であるカテゴリの検索条件を使用してナレッジ記事のカテゴリおよびサブカテゴリ全体に関する情報を返します。

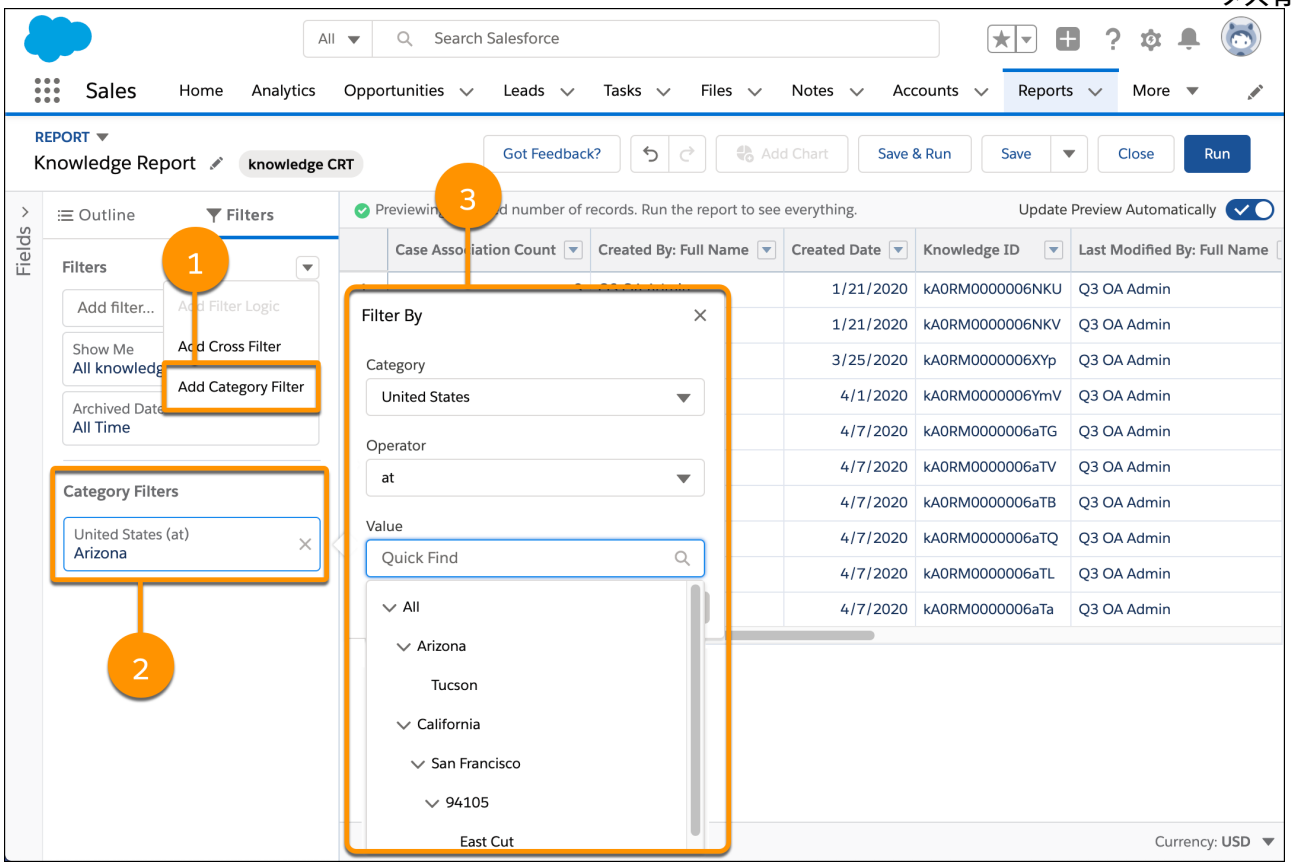
対象: この変更は、Lightning Experience のナレッジのすべてのエディションに適用されます。

理由: たとえば、地域で定義されたカテゴリがあるとします。ルートカテゴリには、United States (米国)、Mexico (メキシコ)、Canada (カナダ) などの国が含まれます。United States (米国) の下のカテゴリには、Arizona (アリゾナ)、California (カリフォルニア)、Oregon (オレゴン) などの個々の州が含まれます。各州の下のカテゴリには市が含まれます。カテゴリの検索条件には独自の演算子があります。

- 等しい — 指定したカテゴリ内のナレッジ記事を返します。
- 上回る — 指定したカテゴリ以上のナレッジ記事を返します。
- 下回る — 指定したカテゴリ以下のナレッジ記事を返します。
- 上回るまたは下回る—指定したカテゴリ以上および以下のすべてのナレッジ記事を返します。複数のルートカテゴリがある場合、検索条件は、親ルートカテゴリに含まれるナレッジ記事のみを返します。

したがって、*「United States (米国) 下回る Arizona (アリゾナ)」* のカテゴリの検索条件を使用した場合、レポートには Tucson (ツーソン) や Phoenix (フェニックス) などの市に関するナレッジ記事が返されます。また、*「United States (米国) 上回る Arizona (アリゾナ)」* のカテゴリの検索条件を使用した場合、レポートでは代わりに Arizona (アリゾナ) 内の市に関するナレッジ記事が除外されます。

方法: レポートを編集するときに、[条件] ペインからカテゴリの検索条件を追加します。「United States (米国) 等しい Arizona (アリゾナ)」で絞り込むには、 ▾ > **[カテゴリの検索条件を追加]** をクリックします (1)。[カテゴリの検索条件] セクションが [条件] ペインに表示されます (2)。[カテゴリ] で **[United States (米国)]** を選択し、[演算子] で **[上回る]** を選択し、[値] で **[Arizona (アリゾナ)]** を選択して、**[適用]** をクリックします (3)。



メモ: データカテゴリの検索条件は、ナレッジオブジェクト (ナレッジ記事、ケースを含むナレッジなど) を含むレポートタイプでのみ使用できます。

レポートの登録への .csv ファイルの添付 (ベータ)

レポートを登録するときに、新しいオプションを使用すると、登録メールに添付された .csv ファイルとして結果を受信するように選択できます。メールの件名にはレポート名が記載されますが、メール自体にメール本文はありません。代わりに、行レベルのレコードの詳細が、添付された .csv ファイルに含まれます。また、[登録の編集] メニューの設計への小さな変更として、新しい [ファイル添付] ボタンおよび改良されたレイアウトがあります。

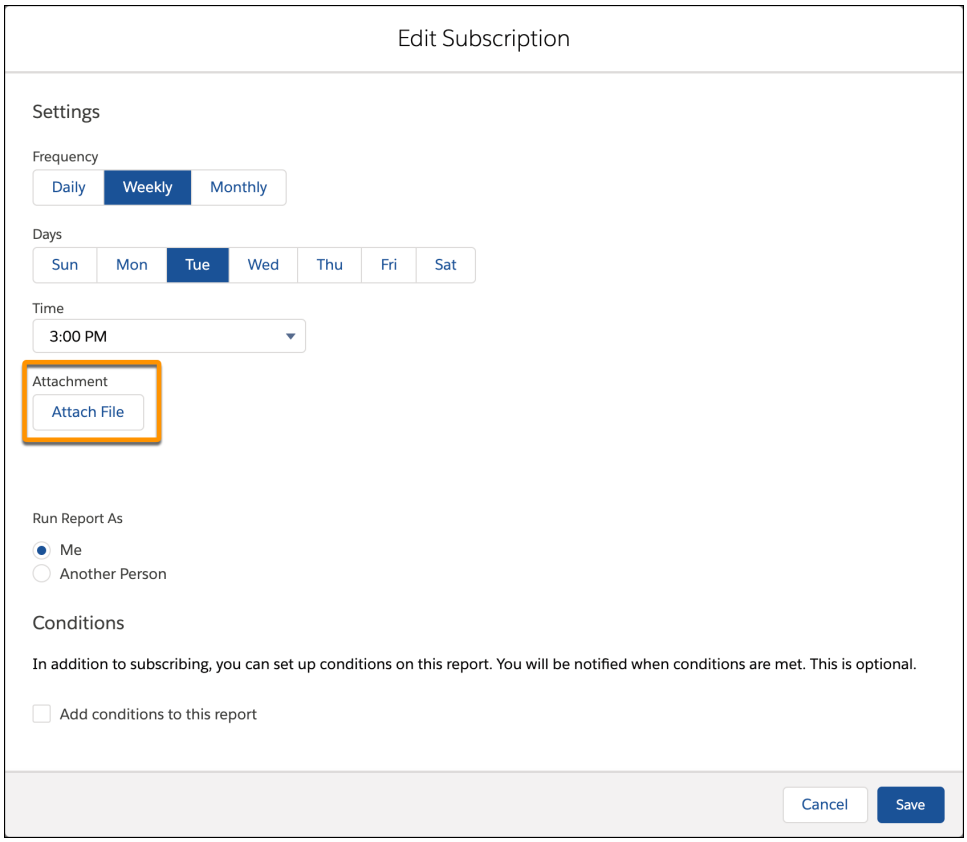
対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

メモ: レポートの登録の添付ファイルはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機

能の使用にも同様に適用されます。レポートの登録の添付ファイルに関するフィードバックや提案は、IdeaExchange または Trailblazer Community らお寄せください。組織でこの機能を有効化することについては、Salesforce にお問い合わせください。

方法: [設定] の [レポートおよびダッシュボードの設定] で、[ユーザがレポートを Lightning Experience のレポートの登録メールにファイルとして添付できるようにする] を選択し、変更を保存します。

レポートの登録にファイルを添付するには、レポートを登録し、[ファイル添付] をクリックして [詳細のみ] を選択します。デフォルトでは、添付ファイルの形式は [カンマ区切り形式 (.csv)] になります。必要に応じてエンコードを変更するかデフォルトを保持して、変更を保存します。[登録の編集] ダイアログに、登録に添付ファイルが含まれていることが表示されます。他の登録条件 (頻度など) の設定を終了し、[保存] をクリックします。



メモ: 組織が Spring '20 非公開ベータに参加していた場合も、ファイルをレポートの登録メールに添付するには、Salesforce システム管理者は [設定] からこの機能を有効にする必要があります。

拡張フォルダ共有の有効化 (更新)

拡張フォルダ共有では、新しいユーザ権限が導入され、既存のレポートおよびダッシュボードに対する各ユーザのアクセス権が変更されます。Winter '21 リリース (以降のリリースに変更される可能性あり) では、従来のフォルダ共有が廃止され、拡張フォルダ共有に置き換わります。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

時期: Winter '21 での廃止を目標としていますが、変更される可能性があります。具体的な日程については、https://status.salesforce.com/ に移動して該当するインスタンスに関する情報を確認してください。

理由: 拡張フォルダ共有を有効にすると、以前にエディタアクセス権が付与されていた場合でも、レポートおよびダッシュボードフォルダ (非表示フォルダは除く) への参照アクセス権が Salesforce ユーザに付与されます。非表示フォルダは誰とも共有されませんが、ユーザ権限「公開フォルダのレポートを参照」、「公開フォルダのレポートを管理」、およびダッシュボードでの同等の権限を持つユーザは非表示フォルダを参照または管理できます。ユーザのエディタアクセス権を復元するには、新しいユーザ権限をユーザに割り当てて、フォルダレベルのアクセス権を付与することが必要になる場合があります。

拡張フォルダ共有には、使い慣れたフォルダベースの共有モデルを介したさらにカスタマイズ可能なレポートおよびダッシュボード共有が備わっています。次のようなメリットがあります。

- ユーザ、ロール、グループで一貫した共有の概念
- 個々のユーザとのレポートおよびダッシュボードの共有
- 各フォルダの 3 つのアクセスレベル (参照、編集、管理)
- レポートとダッシュボードの対称的なユーザ権限セット

たとえば、従来のフォルダ共有で、Sally と Tim は「参照・更新」アクセス権を使用して公開フォルダに保存されるダッシュボードを作成しています。Sally はユーザ権限「ダッシュボードの管理」および「すべてのデータの参照」を持っていますが、Tim は「すべてのデータの参照」しか持っていません。拡張フォルダ共有を有効にすると、Sally には自動的にユーザ権限「公開フォルダのダッシュボードを管理」および「ダッシュボードフォルダを作成」が付与されますが、Tim にはユーザ権限「公開フォルダのダッシュボードを参照」しか付与されません。Tim にフォルダに対する編集アクセス権を付与できるようにするには、システム管理者が Tim にユーザ権限「ダッシュボードの作成とカスタマイズ」を割り当てる必要があります。その後、Sally は Tim にダッシュボードフォルダへの編集アクセス権を付与できるため、2 人はダッシュボードで引き続きコラボレーションを行うことができます。

方法: 新しいユーザ権限とフォルダアクセスレベルに慣れるには、まず、Sandbox 組織または Developer Edition 組織で拡張フォルダ共有を有効にすることをお勧めします。拡張フォルダ共有を有効にすると、従来のフォルダ共有に戻せなくなります。

メモ: Summer '13 リリース以降に作成された組織には、拡張フォルダ共有がすでに存在するため、外観上の変化はありません。作業は不要です。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: レポートとダッシュボードの拡張フォルダ共有への組織の移行 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: レポートおよびダッシュボードの共有に関するユーザ権限 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: レポートおよびダッシュボードフォルダのアクセス権の比較 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リリース更新 (ベータ)

レポートの行レベルの数式で最大 5 個の一意の項目を使用

レポートの行レベルの数式で参照できる一意の項目数の制限が 3 から 5 に引き上げられます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

価格表エントリに基づくレポートの作成

価格表エントリに基づいてカスタムレポートタイプを作成します。ユーザが商品と価格設定に基づいてレポートを作成できるようになったため、価格設定の管理と更新がより容易かつ効率的になりました。カスタムレポートタイプを作成するときに、価格表エントリを主オブジェクトとして使用できます。商品を主オブジェクトとして使用しているカスタムレポートタイプでは、価格表エントリが第2オブジェクトとして追加されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

関連トピック:

カスタム商品レポートタイプおよびカスタム価格設定レポートタイプを使用した価格設定管理の合理化

画面フローレポートを使用した作成するフローに関する詳細の発見

事前作成済みのレポートを使用して、画面フローでの経過時間を分析します。自分が作成した画面フローを誰が実行しているかを確認します。フローインタビューの状況を確認します。新しいサンプルフローレポート: 画面フローカスタムレポート種別およびレポートが使用できるようになりました。ユーザが設定を行う必要はありません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

画面フローの利用状況の分析

Salesforce コンソールでレポートリンクが新しいサブタブで開く

Salesforce コンソールからレポートのリンクを開いたときに、リンクが新しいワークスペースタブではなく新しいサブタブで開くようになりました。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

Einstein Analytics: 新しいデータ準備ツール、ツリーベースのモデル、Snowflake へのライブ接続

親しみやすい新しいエディタ (データの準備 (ベータ)) を使用してレシピを作成します。3 つのモデリングアルゴリズムからの最適な予測を取得します。データを Salesforce に読み込まずに Snowflake ウェアハウスで探索を実行します。

このセクションの内容:

データインテグレーション: より簡単なデータの準備、コネクタの書き込み、センチメント分析
新しいビジュアルエディタ (データの準備 (ベータ)) を使用してレシピを作成します。レシピの結果を Amazon S3 や Snowflake などの外部システムに書き込みます。商品レビューやソーシャルメディア投稿などのテキストのセンチメントを検出します。

Analytics 事前作成済みアプリケーション: Appointment Analytics アプリケーション、テンプレートギャラリー、業種および顧客ライフサイクルアプリケーションの機能強化
Lightning Scheduler データが入力された Appointment Analytics ダッシュボードを使用して、パーソナライズされたサービスを提供します。テンプレートギャラリーでアプリケーションに最適なテンプレートを見つけます。Wealth Management Analytics を使用して、リードの取引開始に関するインサイトを取得し、支店マネージャのサービス予定を改善します。Insurance Analytics Customers Gained/Lost ダッシュボードから保険の顧客維持のトレンドを把握します。高度なウィザードを使用すると、適切なアンケートデータが Customer Lifecycle Analytics に自動的に追加されます。

Analytics アプリケーション構築: Analytics VS Code 拡張機能、エクスプローラでのデータのブレンド、Snowflake を使用した直接的なデータ探索 (ベータ)
Analytics VS Code 拡張機能を使用すると、Analytics テンプレートをすばやく簡単に開発できます。エクスプローラで複数のデータセットのデータをブレンドして、ビジネスインサイトを拡張できます。Salesforce にデータを読み込んだり、データセットでデータを準備したりせずに Snowflake で直接データを探索できます (ベータ)。

Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和
3つのモデリングアルゴリズムからの最適な予測を取得します。ランダムフォレストアルゴリズム (パイロット) を使用して正確なモデルを作成できます。最大 1 億行のデータを処理できます。

Analytics for Everyone: テーブルの登録、ウォッチリストの機能強化、[学習リソース] パネル
テーブルウィジェットを登録して、登録メールに添付された `.csv` ファイルでテーブルデータを受信します (ベータ)。ホームページの新しいインターフェースには拡張ウォッチリストがあります (ベータ)。各グラフのカスタムオンボーディングを追加して、ダッシュボードを介したステップバイステップ学習の進行状況を作成します。

データインテグレーション: より簡単なデータの準備、コネクタの書き込み、センチメント分析

新しいビジュアルエディタ (データの準備 (ベータ)) を使用してレシピを作成します。レシピの結果を Amazon S3 や Snowflake などの外部システムに書き込みます。商品レビューやソーシャルメディア投稿などのテキストのセンチメントを検出します。

このセクションの内容:

次世代のデータの準備 (ベータ) を使用したデータの準備
(データの準備 (ベータ)) と呼ばれる最新バージョンのデータの準備は、ポイント & クリック操作でレシピを作成できる直感的で視覚的なインターフェースを拡張します。レシピの新しいグラフィカルビューを使用すると、データがどこからきて、どのようにレシピを流れて対象に到達するのかが一目でわかります。レシピを作成時に検証するために、引き続き各ステップで未加工データがどのように変換されるのかをプレビューできます。

顧客および見込み客の感情の把握

商品レビューやソーシャルメディア投稿などのテキスト情報は、ビジネスにとって情報の宝庫です。データの準備 (ベータ) レシピで [センチメントを検出] 変換を使用して、その情報をセンチメントカテゴリ (肯定、否定、どちらでもない) にすばやくバケット化します。たとえば、アンケートへの回答のセンチメントを検出して、商品サポートについて顧客がどのように感じたのかを評価します。特定の割合 (たとえば 30%) のコメントが否定的であった場合、フィードバックをサポート管理にエスカレーションします。

Amazon S3 への Einstein Analytics データの出力 (ベータ)

データの準備 (ベータ) を使用して、出力コネクタで Analytics のデータを Amazon S3 に転送できるようになりました。複数のソースのデータを結合して、数式項目を追加し、ビジネスニーズに合わせてデータをデータセットに変換する強力なレシピを設計していましたが、出力コネクタとデータの準備 (ベータ) を使用すると、データセットが Analytics から解放され、1 つ以上の .csv ファイルとして書き込まれます。これにより、より適切なデータでビジネスプロセス全体を改善できます。たとえば、個々のエージェントの処理および変換されたカスタマーサービスデータを出力して、エージェントがどのようなことをすれば顧客満足度が向上するのかを把握できます。

Select AWS RDS コネクタからのすべての TinyInt 列値の同期

TinyInt データ列値の全範囲 (-127 ～ 127) が AWS RDS MySQL、Maria DB、Aurora MySQL 接続から同期されるようになりました。以前は、このデータ型は 0 または 1 を示すビットとして解釈されていました。代わりに実際の値を使用するには、0 または 1 の動作に連動するロジック、検索条件、変換を更新します。

Google BigQuery Standard SQL コネクタから同期されているデータの絞り込み

データ同期の時間を短縮し、必要なデータのみを取り込むために、Google BigQuery Standard SQL コネクタから接続済みオブジェクトと共にデータ同期検索条件を使用できるようになりました。以前は、リモートオブジェクトのすべてのデータをインポートし、データフローまたはレシピ検索条件を使用して、データセットの外部データを制限していましたが、最初の段階で、不要なデータや機密データを Analytics への同期から除外できるようになりました。たとえば、カナダのビジネスユニットの進行状況を分析する場合、カナダのマーケティングデータのみをインポートする検索条件を設定します。

FIPS 140 要件に準拠したコネクタによる Government Cloud 組織へのリモートデータの同期

米国政府の暗号化要件に関連して、Analytics コネクタで FIPS 140 検証済み暗号化が使用されるようになりました。FIPS 140 検証済み暗号化が承認されると、Government Cloud 組織で使用できるコネクタのリストが拡張されます。

同期後に実行されるレシピのスケジュールによる最新データの常時取得

データ同期にかかる時間がわからないと、レシピをスケジュールする適切な時間を判断することが難しくなります。そのため、レシピをいつ実行するのかを推測せずに、データ同期の完了後に自動的に開始するようにスケジュールします。

より短いスケジュール間隔を使用したデータの最新の状態の維持

組織で Einstein Analytics Plus ライセンスを使用している場合、1 時間未満のスケジュールを使用してデータ同期、データフロー、レシピジョブを 15 分、20 分、30 分、または 60 分ごとに実行するようにスケジュールできるようなりました。以前は、Salesforce サポートに連絡して 1 時間未満のスケジュールを有効にしていました。Einstein Analytics Plus ライセンスがない場合は、引き続き Salesforce サポートに連絡する必要があります。この変更は、Sandbox には適用されません。

通知を使用したレシピジョブの把握

レシピの完了時にメール通知を受信するようにレシピ通知を設定します。通知は、警告がある場合のみ、レシピが失敗した場合のみ、またはレシピが完了するたびに受信できます。経過時間通知を設定し、レシピが指定した期間よりも長くかかっている場合に通知を受け取ることもできます。

履歴機能を使用した以前のデータフローバージョンの簡単な復元

データフロー履歴を使用して、データフローを編集し、変更内容の簡単な説明と共に新しいバージョンを保存します。新しいバージョンを保存すると、それが Analytics データを最新に保つライブバージョンになります。以前のバージョンはすべて Analytics データマネージャで表示できます。これらの任意のバージョンに戻したり、これらの任意のバージョンを削除したりできます。

次世代のデータの準備 (ベータ) を使用したデータの準備

(データの準備 (ベータ)) と呼ばれる最新バージョンのデータの準備は、ポイント & クリック操作でレシピを作成できる直感的で視覚的なインターフェースを拡張します。レシピの新しいグラフィカルビューを使用すると、データがどこからきて、どのようにレシピを流れて対象に到達するのかが一目でわかります。レシピを作成時に検証するために、引き続き各ステップで未加工データがどのように変換されるのかをプレビューできます。

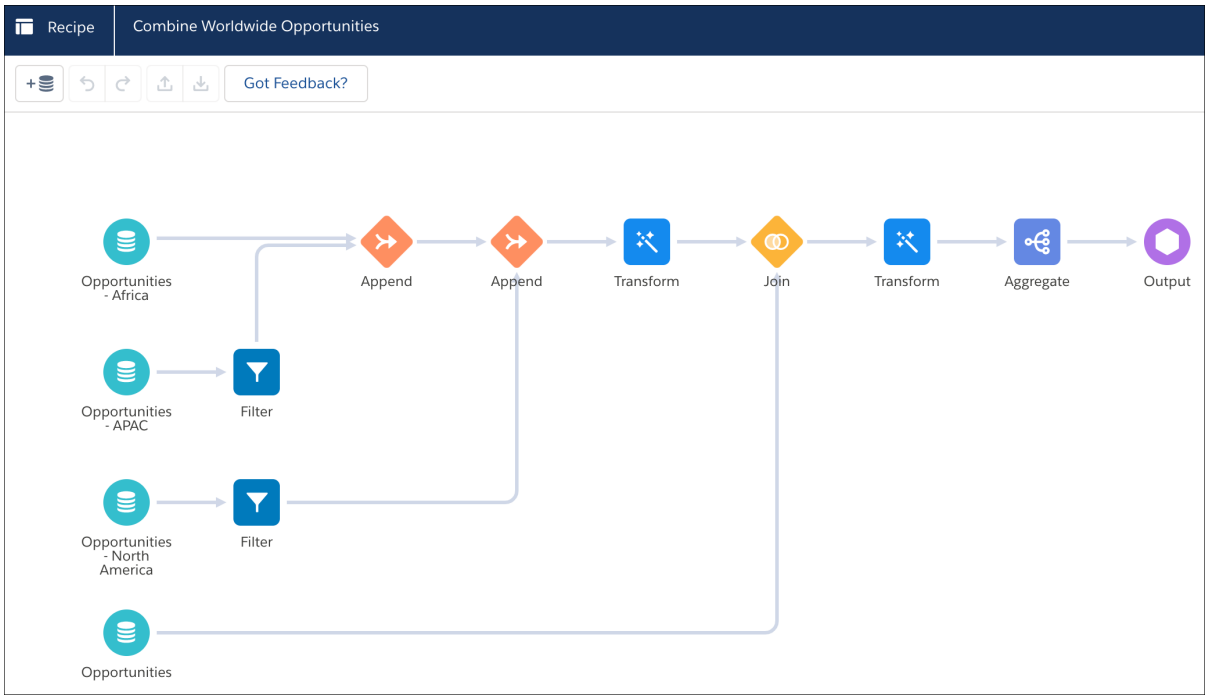
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

データの準備 (ベータ) はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

時期: この機能は、Summer '20 リリース時にローリング方式で追加されます。

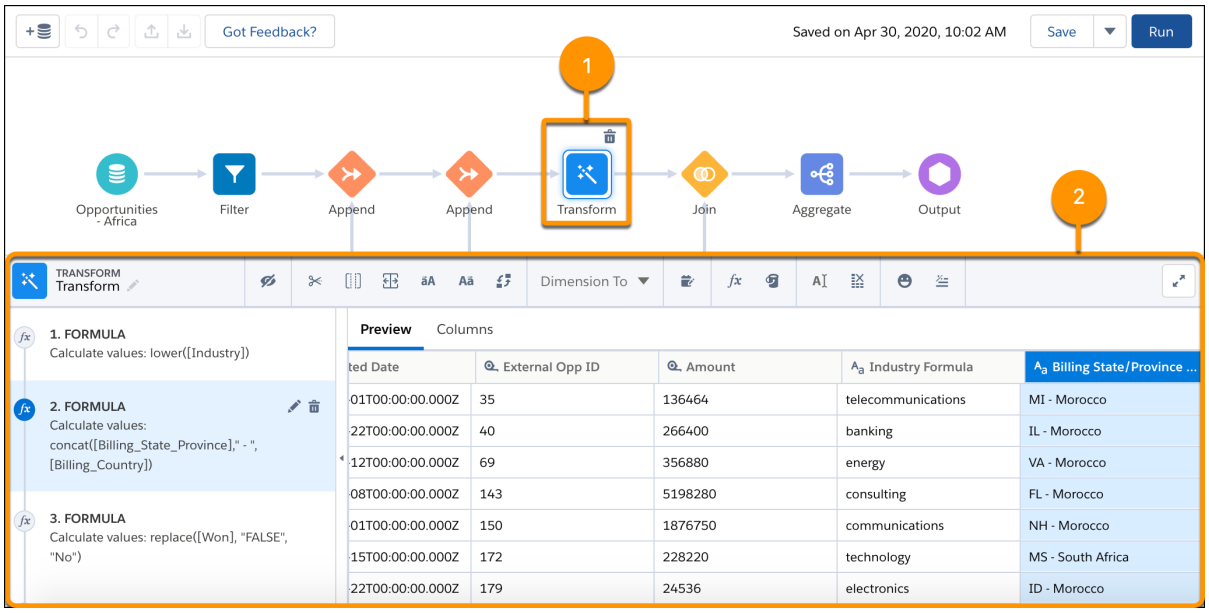
対象ユーザ: データの準備 (ベータ) を使用するには、組織でこれを有効にする必要があり、「Analytics データフローの編集」または「データセットレシピを編集」ユーザ権限が必要になります。

理由: データの準備 (ベータ) のグラフは、多数の変換があっても見づらくなりません。

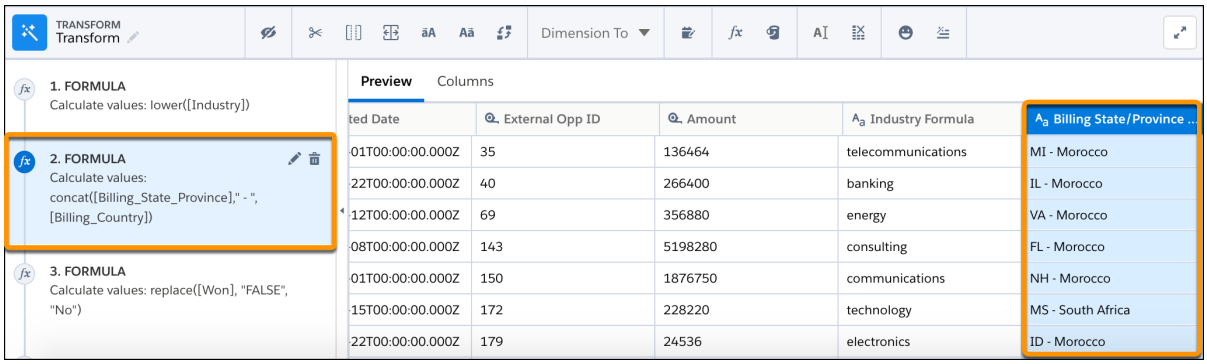


あまり整理されていないデータフローのグラフとは異なり、データの準備(ベータ)のグラフには各変換が表示されません。入力(ソースデータ)、追加、集計、検索条件、結合、出力(データの書き込み先)のみが表示されます。未加工データを変更する変換(連結や列の型の変換など)のグループである変換も表示されます。下位レベルのデータ変更を非表示にすることで、グラフの上位レベルのデータフローが見やすくなります。グラフに表示される各オブジェクトはノードと呼ばれます。レシピには、複数の入力、追加、集計、検索条件、結合、変換ノードを含めることができますが、出力ノードは 1 つのみです。

グラフには個々のデータ変換は表示されませんが、[グラフ] 領域で変換ノード (1) を選択して、[詳細] 領域 (2) でその変換を確認できます。

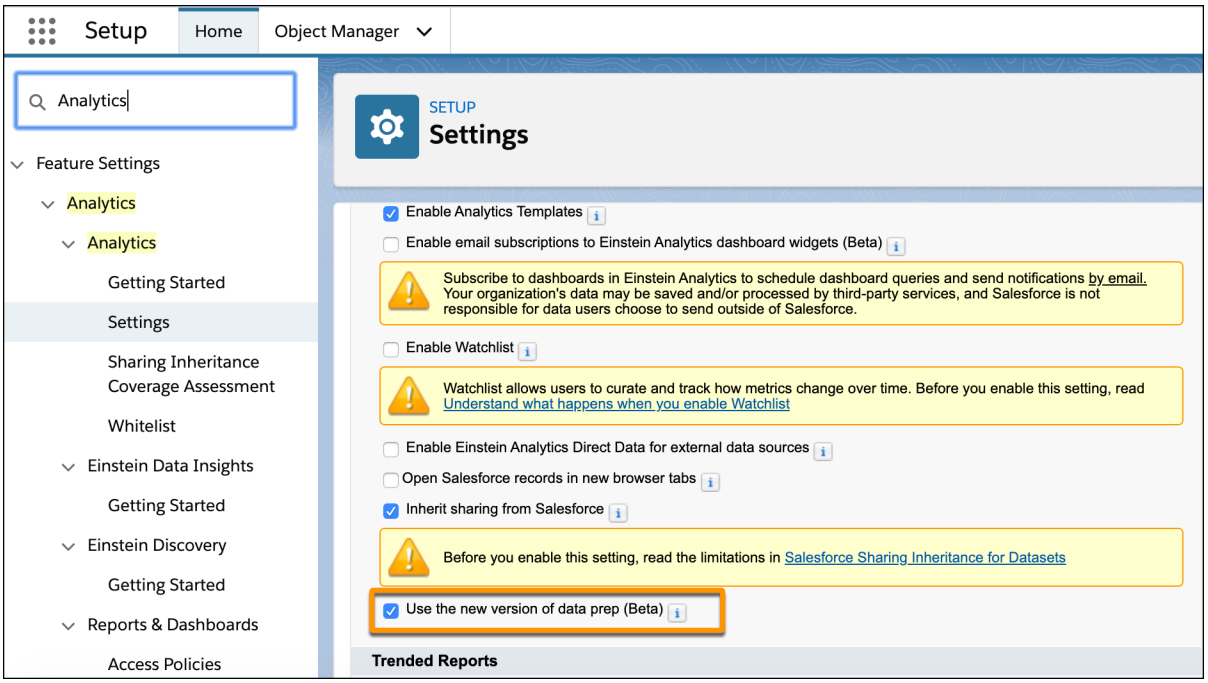


既存のバージョンのデータの準備と同様に、[詳細] 領域の左パネルで変換ステップを選択し、[プレビュー] タブでその変換の結果をプレビューします。同様に、グラフで任意のノードを選択して、そのノードの結果をプレビューできます。

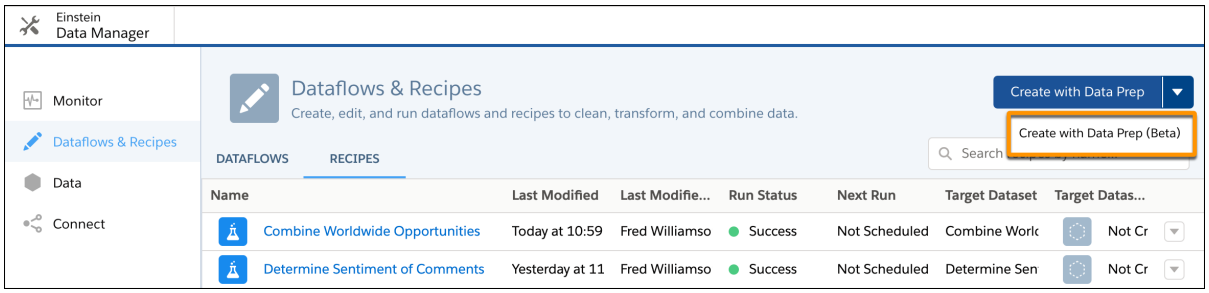


方法: Einstein Analytics では、現在 2 つのバージョンのデータの準備 (*データの準備* と *データの準備* (ベータ)) が提供されています。データの準備 (ベータ) は、列のプロファイリングを除き、以前のバージョン (データの準備) と同じ機能を提供する最新バージョンです。データの準備 (ベータ) が正式リリースされると、以前のバージョンと完全に同じ機能を使用できるようになるため、以前のバージョンはこれに置き換えられます。現時点では、一方のバージョンで作成されたレシピを他方のバージョンで開くことはできません。

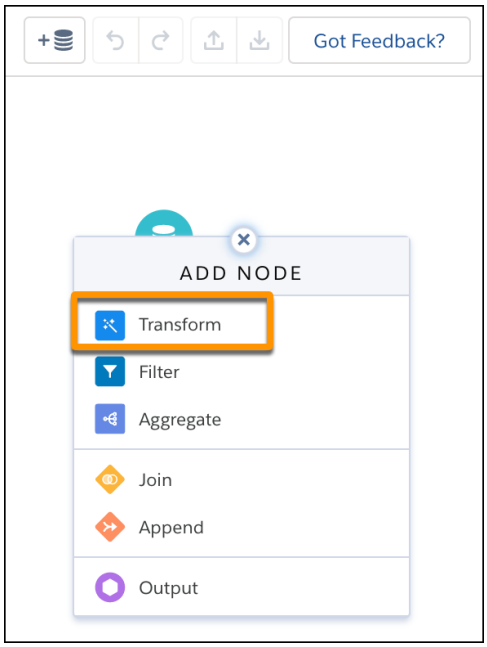
ユーザがデータの準備 (ベータ) にアクセスできるようにするには、[設定] で [データの準備の新規バージョンを使用 (ベータ)] Analytics 設定を選択します。



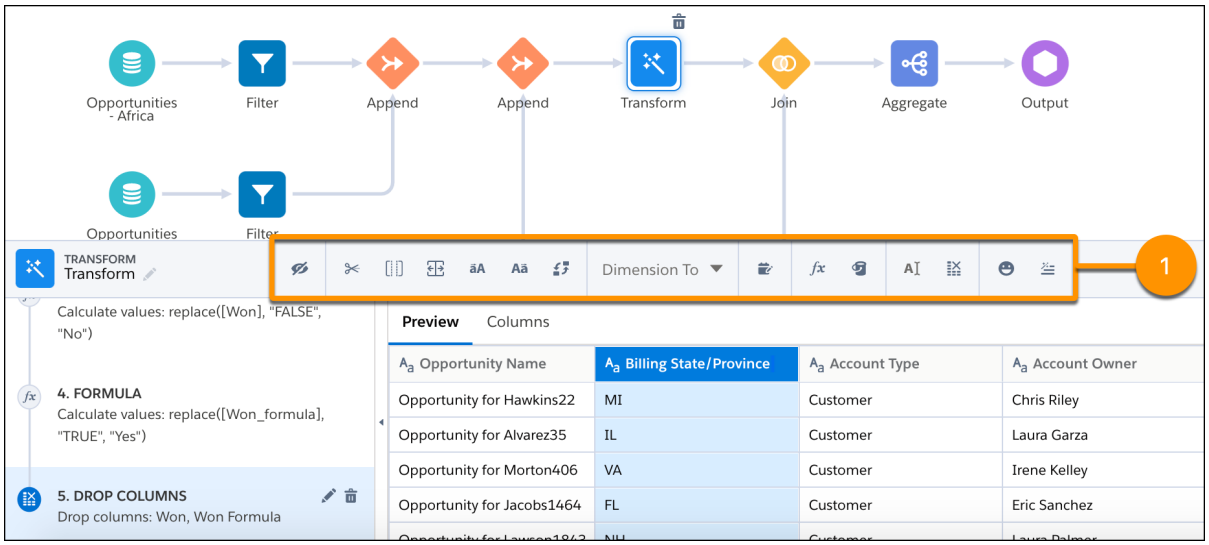
データの準備 (ベータ) レシピを作成するには、データマネージャで [レシピ] タブを開きます。ドロップダウン ( ) をクリックし、[データの準備を使用した作成 (ベータ)] を選択します。以前のバージョンのデータの準備を使用してレシピを作成するには、[データの準備を使用した作成] オプションを使用します。



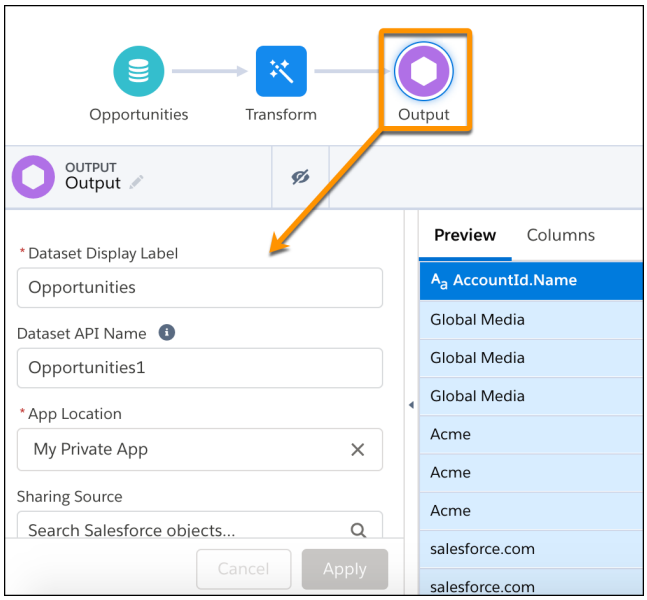
レシピを作成する場合、まずグラフの入力ノードとして追加される入力データを選択します。次に、グラフの [+] をクリックしてノードを追加します。たとえば、変換ノードを追加できます。



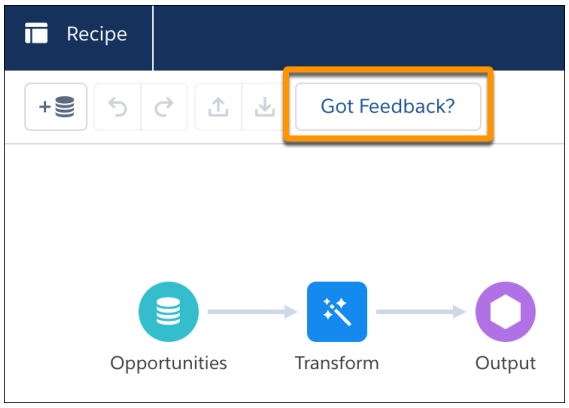
次に変換ノードで、データを操作するためのデータ変換(単に変換と呼ばれる)を追加できます。変換を追加するには、[プレビュー] または [列] タブで 1 つ以上の列を選択し、[変換] ツールバー (1) から変換をクリックします。



レシピ結果をデータセットに書き込むには、レシピの最後に出力ノードを追加してデータセットの詳細を指定します。



ベータバージョンに関するフィードバックを提供する場合は、データの準備 (ベータ) で [フィードバックを送信] をクリックして、ご意見をお聞かせください。お待ちしております。



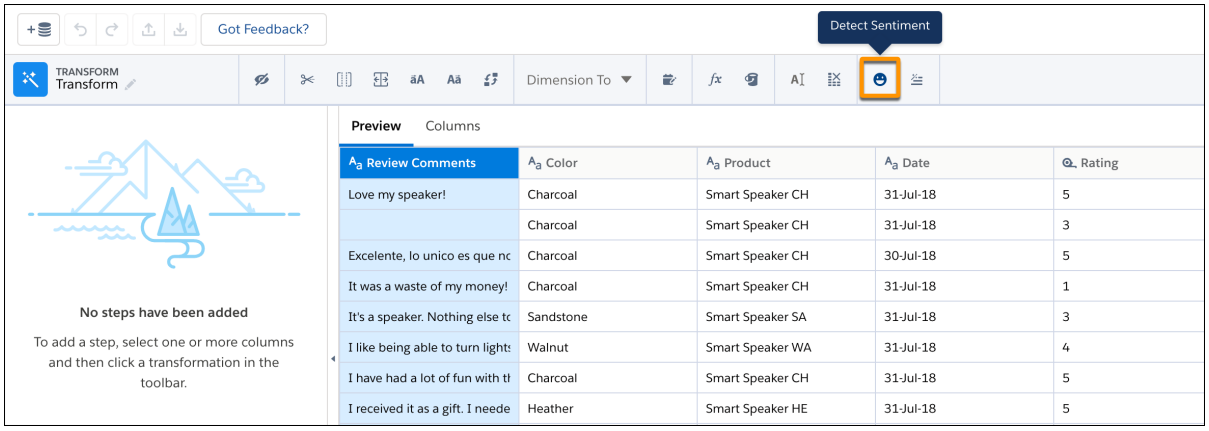
顧客および見込み客の感情の把握

商品レビューやソーシャルメディア投稿などのテキスト情報は、ビジネスにとって情報の宝庫です。データの準備(ベータ)レシピで[センチメントを検出]変換を使用して、その情報をセンチメントカテゴリ(肯定、否定、どちらでもない)にすばやくバケット化します。たとえば、アンケートへの回答のセンチメントを検出して、商品サポートについて顧客がどのように感じたのかを評価します。特定の割合(たとえば30%)のコメントが否定的であった場合、フィードバックをサポート管理にエスカレーションします。

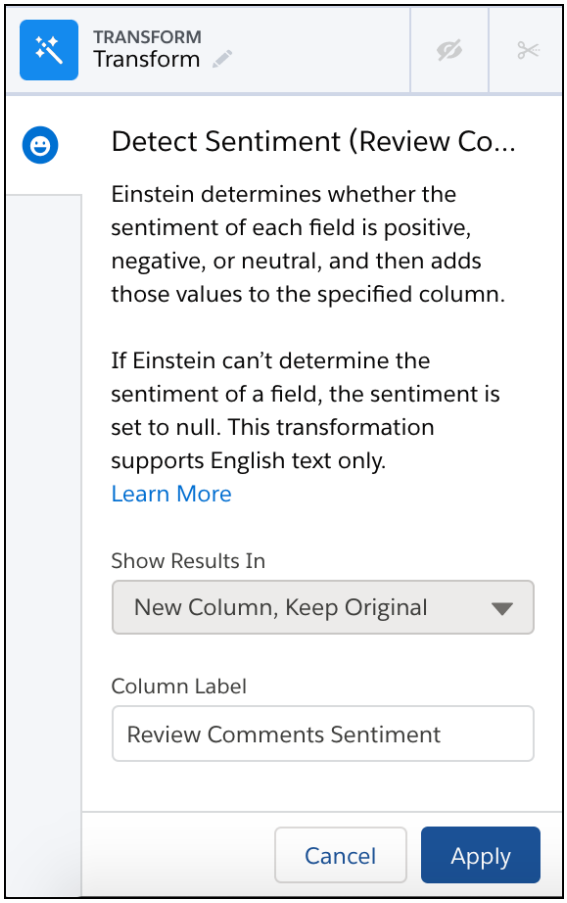
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 組織でデータの準備(ベータ)を有効にします(まだの場合)。詳細は、「次世代のデータの準備(ベータ)を使用したデータの準備」(ページ 334)を参照してください。

データの準備(ベータ)レシピの変換ノードで、[プレビュー]のディメンション列を選択し、[センチメントを検出] 変換をクリックします。

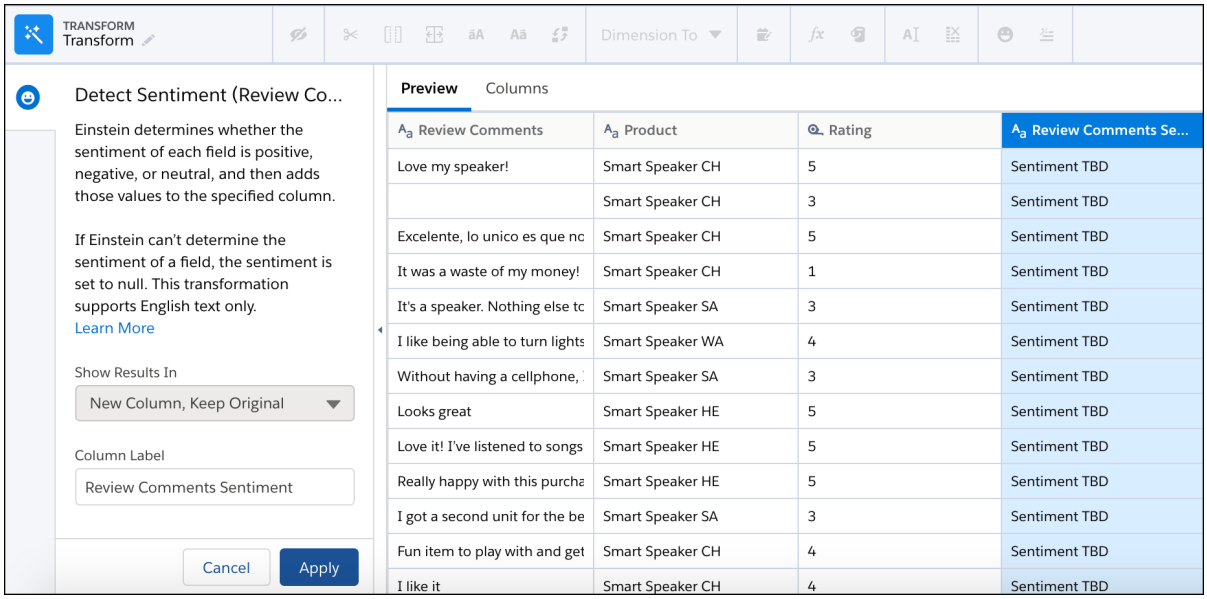


レシピを実行すると、Analytics によって結果が新しい列に書き込まれます。必要に応じて、列の表示ラベルを編集し、[適用] をクリックします。



メモ: この変換ではセンチメントを新しい列に書き込んで、元のディメンション列を保持することしかできないため、[結果の表示先]項目はグレー表示されます。他の変換とは異なり、他のオプションを選択して、結果を新しい列に書き込んで元の列を破棄したり、元の列を上書きしたりすることはできません。

[プレビュー] の新しい列に [センチメント未定] と表示されます。



この変換では、英語のテキストのみがサポートされています。英語以外のテキストは英語として処理され、画像 (絵文字を含む) は無視されます。センチメントを判断できない場合 (入力値が null の場合など)、変換で null が返されます。通常、変換では正しいセンチメントが生成されますが、データによって結果は変わる可能性があります。たとえば、センチメントのないテキスト (ID、名詞、住所、英数字など) では予期しない結果が返される可能性があります。

Amazon S3 への Einstein Analytics データの出力 (ベータ)

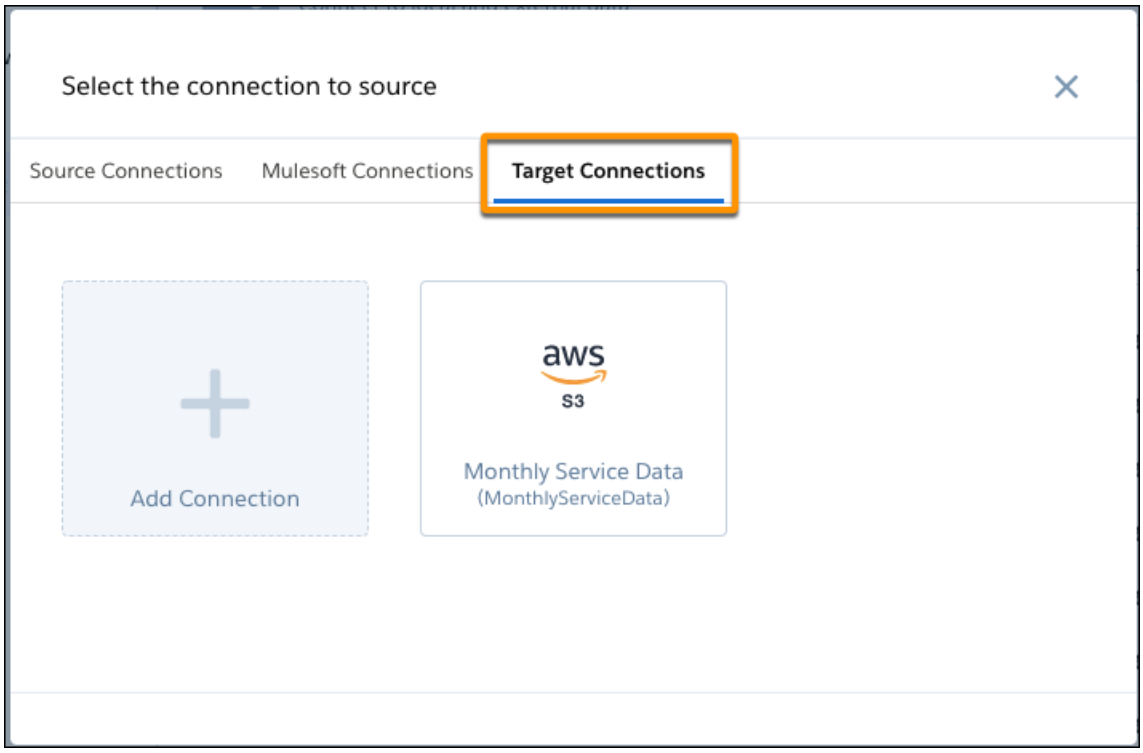
データの準備 (ベータ) を使用して、出力コネクタで Analytics のデータを Amazon S3 に転送できるようになりました。複数のソースのデータを結合して、数式項目を追加し、ビジネスニーズに合わせてデータをデータセットに変換する強力なレシピを設計していましたが、出力コネクタとデータの準備 (ベータ) を使用すると、データセットが Analytics から解放され、1 つ以上の .csv ファイルとして書き込まれます。これにより、より適切なデータでビジネスプロセス全体を改善できます。たとえば、個々のエージェントの処理および変換されたカスタマーサービスデータを出力して、エージェントがどのようなことをすれば顧客満足度が向上するのかを把握できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

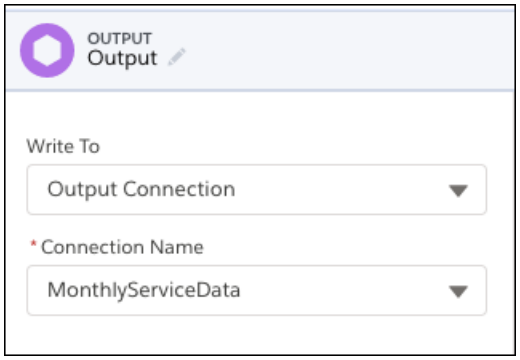
Amazon S3 出力コネクタはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。Amazon S3 出力コネク

タに関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community の「Einstein Analytics Pilot and Beta Connectors」グループに投稿してください。

方法: Einstein Analytics データマネージャの [接続] セクションから [入力先接続] タブを使用して Amazon S3 への出力接続を作成します。



データの準備 (ベータ) を有効にしたら、データの準備 (ベータ) を使用してレシピを作成し、出力ノードを追加します。出力接続に書き込むように選択し、レシピの出力ノードで Amazon S3 接続を選択します。この例では、データセットが MonthlyServiceData Amazon S3 接続に保存されます。



レシピを保存します。レシピを実行すると、Analytics によって接続の作成時に選択したディレクトリにフォルダが作成されます。フォルダ名はフォルダパスに基づきます。たとえば、フォルダパス `...support/servicedata` を選択すると、新しいフォルダ *servicedata* がパス `...support/servicedata/servicedata` に作成されます。新しいフォルダには、レシピの結果ファイル

servicedata_0.csv、*schema.json* メタデータファイル、および _SUCCESS ファイルが含まれます。レシピを再度実行すると、以前に生成されたファイルが削除され、新しいバージョンのファイルが書き込まれます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Amazon S3 出力接続 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

次世代のデータの準備 (ベータ) を使用したデータの準備

Select AWS RDS コネクタからのすべての TinyInt 列値の同期

TinyInt データ列値の全範囲 (-127 〜 127) が AWS RDS MySQL、Maria DB、Aurora MySQL 接続から同期されるようになりました。以前は、このデータ型は 0 または 1 を示すビットとして解釈されていました。代わりに実際の値を使用するには、0 または 1 の動作に連動するロジック、検索条件、変換を更新します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 実際の値を使用すると、データセットおよびレシピでこれらの列をより広範に使用できます。この値は、Analytics 全体 (データプレビューや一括抽出など) で表示されます。

関連トピック:

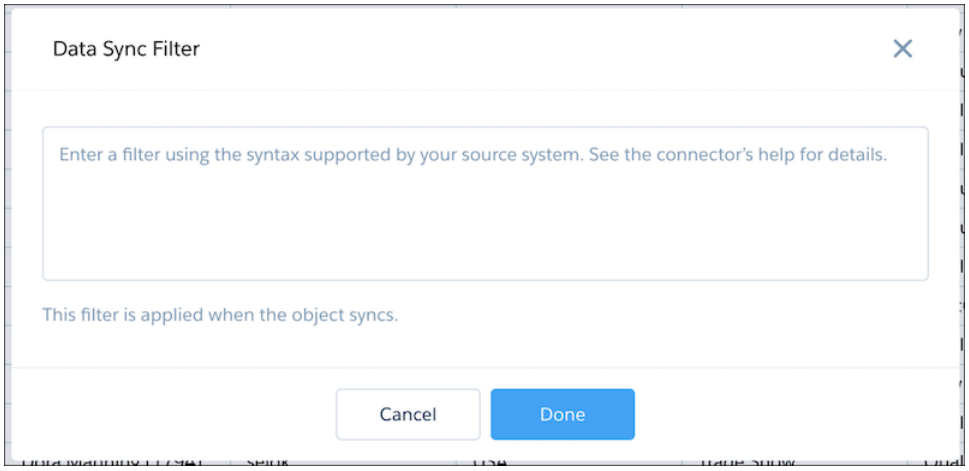
Salesforce ヘルプ: Amazon RDS 接続 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Google BigQuery Standard SQL コネクタから同期されているデータの絞り込み

データ同期の時間を短縮し、必要なデータのみを取り込むために、Google BigQuery Standard SQL コネクタから接続済みオブジェクトと共にデータ同期検索条件を使用できるようになりました。以前は、リモートオブジェクトのすべてのデータをインポートし、データフローまたはレシピ検索条件を使用して、データセットの外部データを制限していましたが、最初の段階で、不要なデータや機密データを Analytics への同期から除外できるようになりました。たとえば、カナダのビジネスユニットの進行状況を分析する場合、カナダのマーケティングデータのみをインポートする検索条件を設定します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 接続済みリモートオブジェクトを追加または変更するときに [ソースデータをプレビュー] ページの をクリックします。Google のデータ分析のヘルプの説明に従って、Google の標準 SQL クエリ構文を使用して検索条件を入力します。



FIPS 140 要件に準拠したコネクタによる Government Cloud 組織へのリモートデータの同期

米国政府の暗号化要件に関連して、Analytics コネクタで FIPS 140 検証済み暗号化が使用されるようになりました。FIPS 140 検証済み暗号化が承認されると、Government Cloud 組織で使用できるコネクタのリストが拡張されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

Government Cloud 組織で使用できるコネクタの現在のリストについては、ナレッジ記事「Select Einstein Analytics connectors are available to Government Cloud orgs (Government Cloud 組織で使用できる Select Einstein Analytics コネクタ) (有料バージョンの Einstein ケース分類へのアップグレード)」(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります) を参照してください。

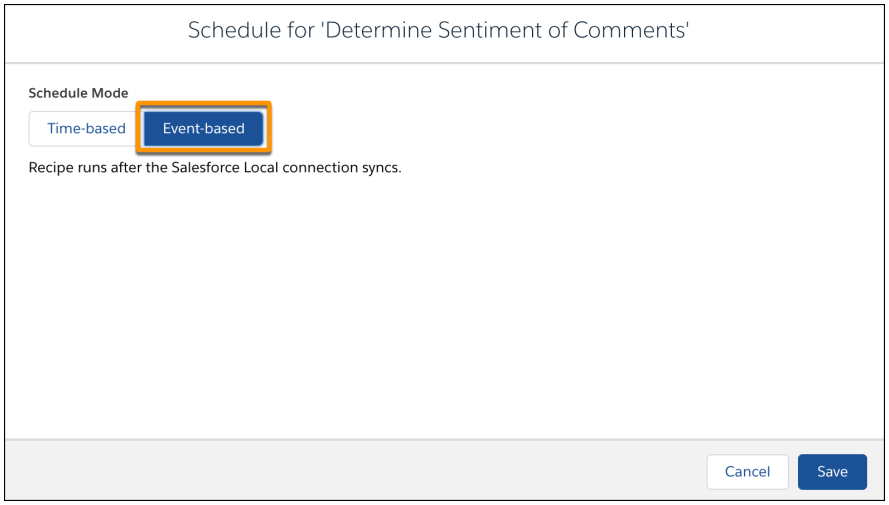
同期後に実行されるレシピのスケジュールによる最新データの常時取得

データ同期にかかる時間がわからないと、レシピをスケジュールする適切な時間を判断することが難しくなります。そのため、レシピをいつ実行するのかを推測せずに、データ同期の完了後に自動的に開始するようにスケジュールします。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 時間ベースのスケジュールで実行されるレシピの場合、同期の完了前にレシピが開始されると、古いデータになる可能性があります。この問題を回避するには、イベントベースのスケジュールを使用します。イベントベースのスケジュールは、データの準備またはデータの準備(ベータ)で作成されたレシピで使用できます。

方法: データマネージャの [レシピ] サブタブで、レシピの右側にあるドロップダウン (▾) をクリックし、[スケジュール] > [イベントベース] を選択します。



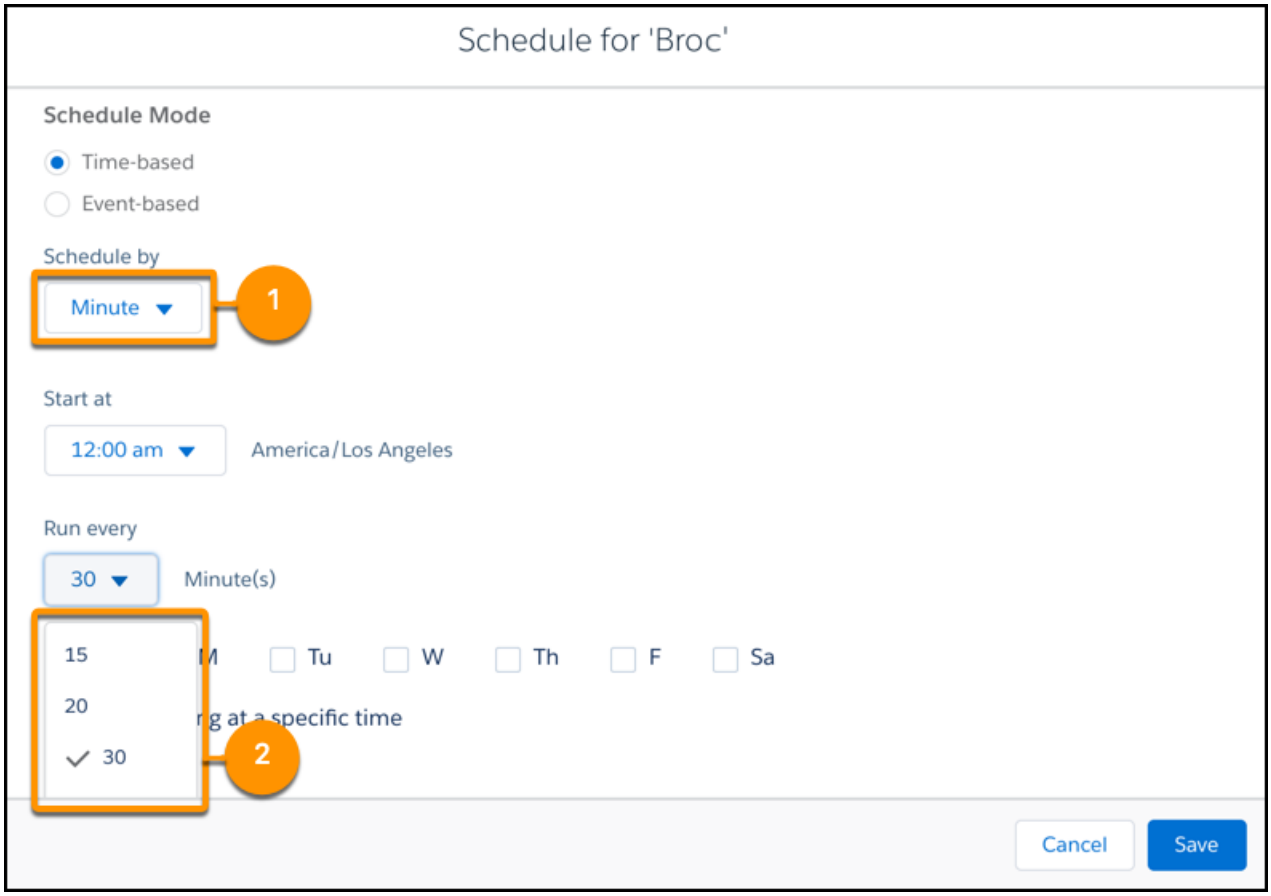
レシピは同期が実行されるたびに実行されますが、その逆はありません。複数のレシピおよびデータフローで同じ接続済みオブジェクトに対してイベントベースのスケジュールを使用している場合、同期の完了後にそれらがすべて実行されます。

より短いスケジュール間隔を使用したデータの最新の状態の維持

組織で Einstein Analytics Plus ライセンスを使用している場合、1 時間未満のスケジュールを使用してデータ同期、データフロー、レシピジョブを 15 分、20 分、30 分、または 60 分ごとに実行するようにスケジュールできるようになりました。以前は、Salesforce サポートに連絡して 1 時間未満のスケジュールを有効にしていました。Einstein Analytics Plus ライセンスがない場合は、引き続き Salesforce サポートに連絡する必要があります。この変更は、Sandbox には適用されません。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: より頻繁なジョブをスケジュールするには、[スケジュール基準] 項目で [分] (1) を選択し、[次の間隔で実行] 項目で 15、20、30 分の間隔 (2) を選択します。



すでに実行中またはキューに入っているデータ同期、データフロー、またはレシピをスケジューラが実行しようとすると、現在実行中のジョブは続行されますが、新しいジョブは失敗します。スケジュール済みジョブの失敗を防ぐには、スケジュール間隔をジョブの完了にかかる時間よりも長くします。実行履歴を確認し、ジョブの完了にかかる時間を判断します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: スケジュールの重複によってキャンセルされたデータ同期やデータフローの実行のトラブルシューティング (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

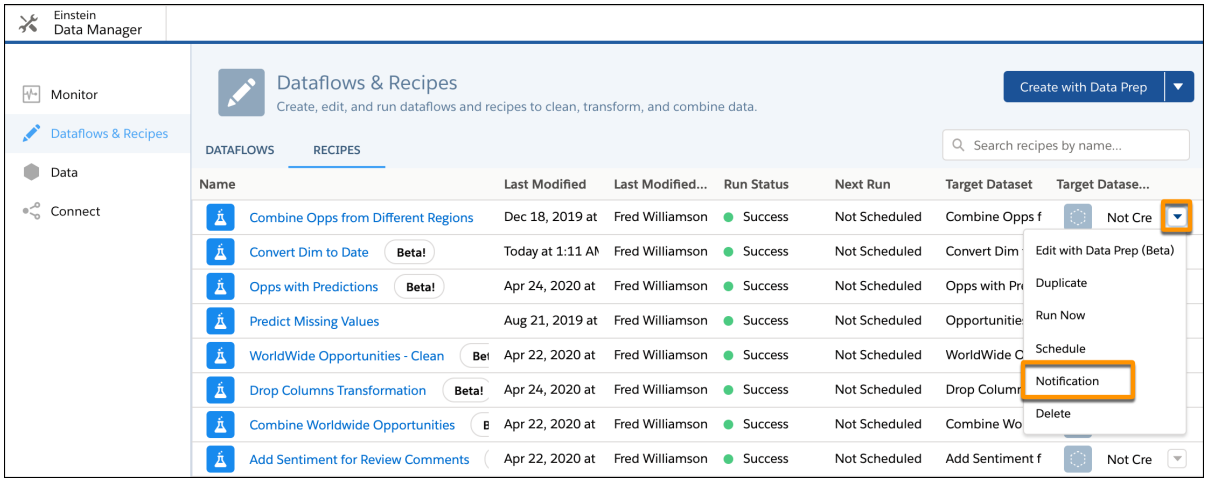
通知を使用したレシピジョブの把握

レシピの完了時にメール通知を受信するようにレシピ通知を設定します。通知は、警告がある場合のみ、レシピが失敗した場合のみ、またはレシピが完了するたびに受信できます。経過時間通知を設定し、レシピが指定した期間よりも長くかかっている場合に通知を受け取ることもできます。

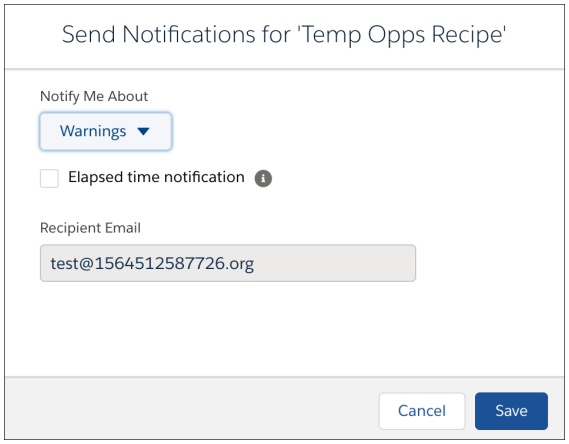
対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: レシピ通知を登録するには、「Analytics データフローの編集」または「レシピの編集」ユーザ権限が必要になります。

方法: データマネージャの [レシピ] サブタブで、レシピの右側にあるドロップダウン ( ) をクリックし、[通知] を選択します。このオプションは、データの準備とデータの準備 (ベータ) の両方のレシピで表示されます。



[通知する内容] 選択リストから、通知する内容を選択します。通知は、警告がある場合のみ、レシピが失敗した場合のみ、またはレシピが完了するたびに受信できます。



経過時間通知を受信するには、[経過時間通知] を選択し、時間と分の数値を選択します。

メモ: デフォルトでは、メール通知は通知を設定したユーザにのみに送信されます。「Analytics データフローの編集」または「レシピの編集」権限を持つ他のユーザは通知を設定することで、レシピを登録できます。

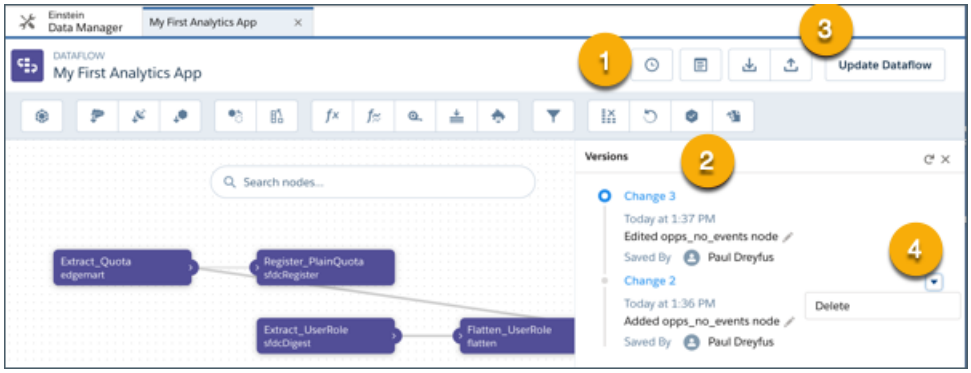
履歴機能を使用した以前のデータフローバージョンの簡単な復元

データフロー履歴を使用して、データフローを編集し、変更内容の簡単な説明と共に新しいバージョンを保存します。新しいバージョンを保存すると、それが Analytics データを最新に保つライブバージョンになります。以前のバージョンはすべて Analytics データマネージャで表示できます。これらの任意のバージョンに戻したり、これらの任意のバージョンを削除したりできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Analytics データマネージャで、[データフロー & レシピ] を選択します。データフローを開き、履歴アイコン (1) をクリックします。データフローのすべてのバージョンが [バージョン] パネル (2) に表示されます。ライブラリバージョンは最上部に表示されます。

データフローの操作が完了したら、[データフローを更新] (3) をクリックして [バージョン履歴] 項目に説明を入力し、[データフローを更新] ボタンをクリックします。それが現在のバージョンになり、[バージョン] パネルの最上部に表示されます。以前のバージョンに戻すには、その名前をクリックして [データフローを更新] をクリックします。以前のバージョンを削除するには、バージョンオプションから [削除] (4) をクリックします。



Analytics 事前作成済みアプリケーション: Appointment Analytics アプリケーション、テンプレートギャラリー、業種および顧客ライフサイクルアプリケーションの機能強化

Lightning Scheduler データが入力された Appointment Analytics ダッシュボードを使用して、パーソナライズされたサービスを提供します。テンプレートギャラリーでアプリケーションに最適なテンプレートを見つけます。Wealth Management Analytics を使用して、リードの取引開始に関するインサイトを取得し、支店マネージャのサービス予定を改善します。Insurance Analytics Customers Gained/Lost ダッシュボードから保険の顧客維持のトレンドを把握します。高度なウィザードを使用すると、適切なアンケートデータが Customer Lifecycle Analytics に自動的に追加されます。

このセクションの内容:

Appointment Analytics アプリケーションのインサイトを使用したサービス予定のパーソナライズ

Appointment Analytics では、データ主導の意思決定を行い、適切なサービスリソースを適切な顧客に適切なタイミングで提供できます。テンプレートを使用して、Lightning Scheduler の顧客の予定データをダッシュボードで視覚化するアプリケーションを作成します。

テンプレートギャラリーでの主要なテンプレートの検出

Einstein Analytics テンプレートギャラリーのアプリケーションテンプレートの概要を熟読することで意欲が高まります。ギャラリーを使用すると、ダッシュボードの可能性をすばやく確認したり、使用事例に最適なテンプレートを選択したりできます。拡張ギャラリーでは、スクリーンショットやすばやく参照するための分類タグがサポートされています。拡張ギャラリーの [おすすめ] セクションには、最も一般的なテンプレートが表示されます。

関連トピック:

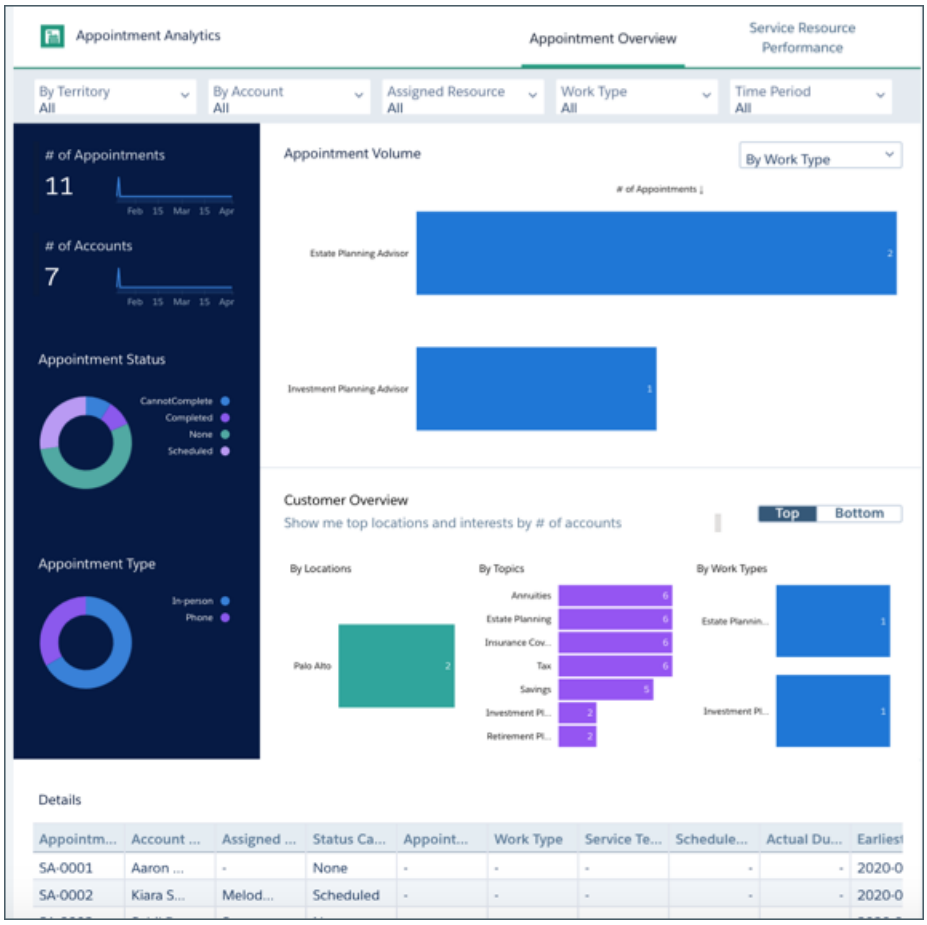
- Financial Services Einstein アプリケーションの機能強化による保険データのさらなる活用
- Financial Services Einstein アプリケーションの機能強化による Wealth Management データのさらなる活用
- 販売予測の変化の分析およびビジネスの改善
- 1 つのダッシュボードを使用したビジネスパフォーマンスの監視 (ベータ)
- Customer Lifecycle Analytics: トピック分析、顧客ライフサイクルマップ、回答分析、内部アンケート分析、拡張された設定ウィザード
- ビジネスの成長、小売実行の改善

Appointment Analytics アプリケーションのインサイトを使用したサービス予定のパーソナライズ

Appointment Analytics では、データ主導の意思決定を行い、適切なサービスリソースを適切な顧客に適切なタイミングで提供できます。テンプレートを使用して、Lightning Scheduler の顧客の予定データをダッシュボードで視覚化するアプリケーションを作成します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 取引先、作業種別、テリトリーにまたがって過去の予定のボリュームを表示して、チームがどのようにサービス予定に割り当てられたのかを把握します。より詳細な調査を行って営業担当がサービス予定に費やした時間を確認し、パフォーマンスの分析をサポートします。予定の重要業績評価指標をロケーション、種別、サービス担当、および他の要素で並び替え、ビジネスの管理に役立つ重要な重要な詳細を取得します。



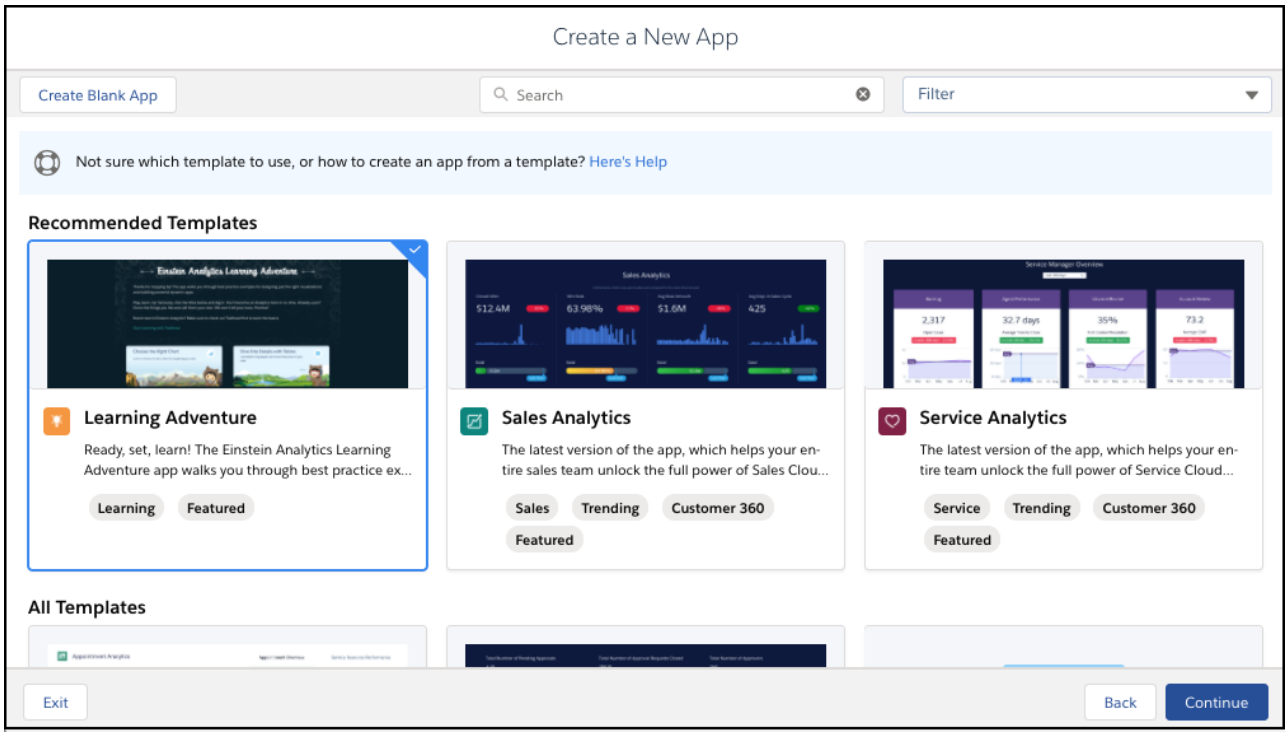
方法: Analytics Studio に移動して [作成] をクリックし、[アプリケーション] を選択して [テンプレートから開始] をクリックします。**[Appointment Analytics]** を選択し、ウィザードの指示に従ってアプリケーションを作成します。

テンプレートギャラリーでの主要なテンプレートの検出

Einstein Analytics テンプレートギャラリーのアプリケーションテンプレートの概要を熟読することで意欲が高まります。ギャラリーを使用すると、ダッシュボードの可能性をすばやく確認したり、使用事例に最適なテンプレートを選択したりできます。拡張ギャラリーでは、スクリーンショットやすばやく参照するための分類タグがサポートされています。拡張ギャラリーの [おすすめ] セクションには、最も一般的なテンプレートが表示されます。

対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Einstein Analytics Studio ホームページの左パネルで [テンプレートギャラリー] をクリックするか、[作成] ボタンをクリックして [アプリケーション] を選択します。ギャラリーで、プレビューするテンプレートを選択するか、[空白のアプリケーションを作成] をクリックしてゼロから始めます。



Analytics アプリケーション構築: Analytics VS Code 拡張機能、エクスプローラでのデータのブレンド、Snowflake を使用した直接的なデータ探索 (ベータ)

Analytics VS Code 拡張機能を使用すると、Analytics テンプレートをすばやく簡単に開発できます。エクスプローラで複数のデータセットのデータをブレンドして、ビジネスインサイトを拡張できます。Salesforce にデータを読み込んだり、データセットでデータを準備したりせずに Snowflake で直接データを探索できます (ベータ)。

メモ: 新規または変更された Einstein Analytics REST API をお探しですか? 今回のリリースで、Einstein Analytics API の更新が API の他の新規追加および変更された項目と共に「開発」セクションの最後付近に追加されました。知っておくべき変更は引き続きすべてカバーされています。すべての Salesforce API コンテンツが 1 か所に整理されて、開発者が見つけやすくなっています。ご意見をお寄せください。リリースノートのトピックのフィードバックフォームを使用するか、@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

このセクションの内容:

- Analytics VS Code 拡張機能を使用した Analytics テンプレート開発の迅速化
- 1 つのクエリを使用した複数のデータセットの探索 (正式リリース)

Analytics VS Code 拡張機能を使用した Analytics テンプレート開発の迅速化

Visual Studio Code (VS Code) 向け Analytics 拡張機能を使用すると、開発者は Analytics アプリケーションに基づいて、迅速かつ効率的にテンプレートを開発できます。

1 つのクエリを使用した複数のデータセットの探索 (正式リリース)

ビジネスに関する質問への回答では、現在のデータセットにないデータが必要になる場合があります。また、データセット構造とデータの探索方法が適合していないこともあります。データのブレンドを使用すると、もう一度データを準備して、結合されたデータセットを作成する必要がなくなります。エクスプローラで複数のデータセットのデータをブレンドし、ブレンドされたデータを 1 つのデータセットと同じように照会できるようになりました。

Snowflake でのデータに関するインサイトの直接的な取得 (ベータ)

Salesforce にデータを読み込んだり、データセットでデータを準備したりせずに Snowflake ウェアハウスでデータの探索を実行できます。Snowflake へのライブ接続を設定したら、接続に関連付けられている Snowflake スキーマでリアルタイムにクエリを実行できます。Snowflake データに対して実行するクエリに基づいてダッシュボードのグラフやテーブルを作成することもできます。

書式設定を使用した重要なピボットテーブルデータの強調

ピボットテーブルの意思決定に役立つ情報を書式設定して注意を引きます。特定の条件を満たすデータを強調表示するには、列に条件付き書式ルールを設定します。または、参照列に設定した条件に基づいてデータを強調表示します。条件を適用せずに列を目立たせるには、テキスト配置やテキストスタイルで装飾します。

ピボットテーブルの複数の基準によるデータの集計

ピボットテーブルが 1 つの基準に制限されなくなりました。データセットの重要な項目を集計し、ピボットテーブルの複数の基準を使用して 1 つのレンズにより多くのインサイトを表示します。

コードを使用しないダッシュボードテキストへの動的値の追加

数値やグラフは、データを視覚化するのに最適ですが、テキストに配置すると有益な場合もあります。そのため、データをクエリから直接ダッシュボードテキストに簡単に追加できるようになりました。たとえば、「当四半期の営業収益は $1,234,567 である」または「Sita が今月の最大の商談を成立させた」ということを表したい場合、「$1,234,567」や「Sita」がデータから直接取得されて動的に更新されれば、これを簡単に実現できます。そして何よりも、コードを使用して別のクエリへのバインドを作成することなく動的値をダッシュボードテキストに追加できます。

1 回のクリックによるダッシュボードのダッシュボードのデータの並び替え

ソースクエリ種別に関係なく、コーディングなしでダッシュボードテーブルまたはグラフのレコードを並び替えます。項目に基づいて昇順または降順で並び替えるには、ダッシュボードコンポーネントの並び替えの基準となる項目ヘッダーをクリックします。

ユーザが組み込みダッシュボードを開く場所の選択

Einstein Analytics 組み込みダッシュボードが Salesforce Lightning の [分析] タブで開くように設定したり、起動ボタンを無効にしたりできるようになりました。デフォルトの起動ボタンはダッシュボードヘッダーの右上にあります。このボタンを使用すると、Einstein Analytics Studio アプリケーションでダッシュボードが起動します。

Analytics VS Code 拡張機能を使用した Analytics テンプレート開発の迅速化

Visual Studio Code (VS Code) 向け Analytics 拡張機能を使用すると、開発者は Analytics アプリケーションに基づいて、迅速かつ効率的にテンプレートを開発できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: Analytics VS Code 拡張機能では、SFDX を使用してコマンドを実行することなく、VS Code を介してすべての Salesforce CLI Analytics コマンドにアクセスできます。また、Analytics テンプレートの JSON ファイルを編集できるように、VS Code を使用するときに必要なすべての機能が含まれます。次に機能の例を示します。

- コード要素の使用方法を説明するフロート表示テキスト。

- テンプレートの JSON 属性、種別、アクションなどの使用可能なオプションをリストするコード補完および修正。
- コードの書式設定および検証。
- エラーチェックおよびクイック修正。
- テンプレートのすべての部分に簡単にアクセスできるようにするテンプレートファイル間の内部リンク。

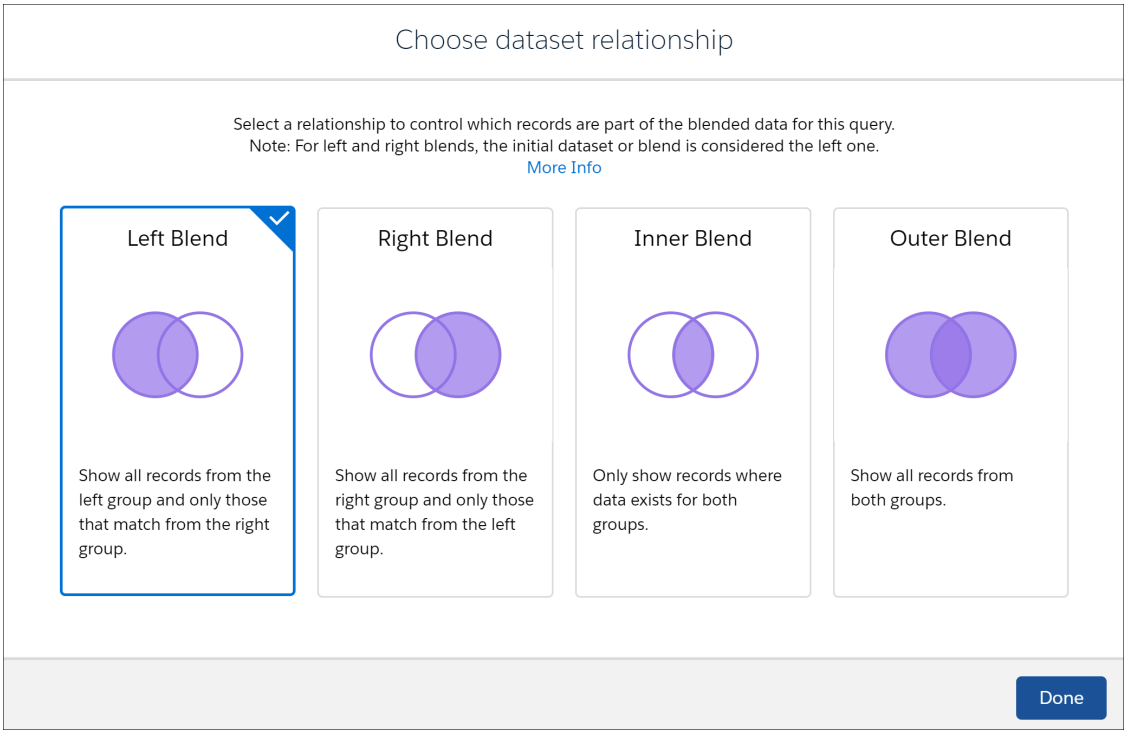
方法: VS Code で、拡張機能マーケットプレイスから Salesforce Analytics 拡張機能パックをインストールします。次に、VS Code から直接 Analytics CLI コマンドを使用して、Analytics テンプレート開発に関連するすべてのタスクを実行します。

1 つのクエリを使用した複数のデータセットの探索 (正式リリース)

ビジネスに関する質問への回答では、現在のデータセットにないデータが必要になる場合があります。また、データセット構造とデータの探索方法が適合していないこともあります。データのブレンドを使用すると、もう一度データを準備して、結合されたデータセットを作成する必要がなくなります。エクスプローラで複数のデータセットのデータをブレンドし、ブレンドされたデータを 1 つのデータセットと同じように照会できるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Einstein Analytics Explorer のデータセットパネルから、[データセットを追加] をクリックして最大 4 つのデータセットを追加します。ブレンドされたデータのクエリに含めるレコードに応じて、[左ブレンド]、[右ブレンド]、[内部ブレンド]、[外部ブレンド] を選択します。たとえば、最初のデータセットすべてのレコードと、追加されたデータセットの一致するレコードのみを含めるには、[左ブレンド] を選択します。



横に並べて比較するには、各データセットからグループ化で使用する項目を選択します。グループ、基準、および検索条件を定義するときに、ブレンドされた任意のデータセットから項目を選択します。

取引先データセットとケースデータセットのデータをブレンドするとします。各取引先の年間売上とその取引先に関連付けられているサポートチケットの数を視覚的に比較できるようになりました。

データのブレンドが正式リリースされ、次の機能がサポートされるようになりました。

- 数式
- 日付項目の検索条件
- グローバル検索条件

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 1 つのクエリを使用した複数のデータセットの探索 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Snowflake でのデータに関するインサイトの直接的な取得 (ベータ)

Salesforce にデータを読み込んだり、データセットでデータを準備したりせずに Snowflake ウェアハウスでデータの探索を実行できます。Snowflake へのライブ接続を設定したら、接続に関連付けられている Snowflake スキーマでリアルタイムにクエリを実行できます。Snowflake データに対して実行するクエリに基づいてダッシュボードのグラフやテーブルを作成することもできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

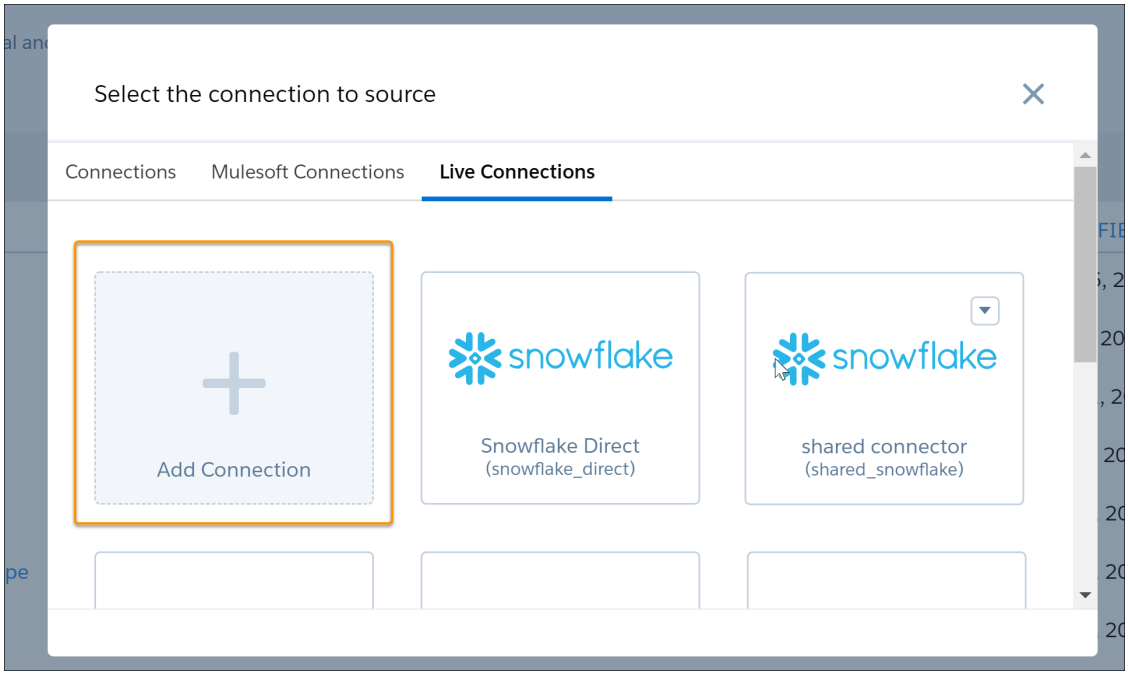
メモ: Einstein Analytics Salesforce Direct Data for Snowflake はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によ

るこの機能の使用にも同様に適用されます。この機能に関するフィードバックや提案は、TrailblazerCommunity に投稿してください。

対象ユーザ: ライブ接続を使用して Snowflake データを探索するには、「外部データの直接探索」権限が必要です。

方法:

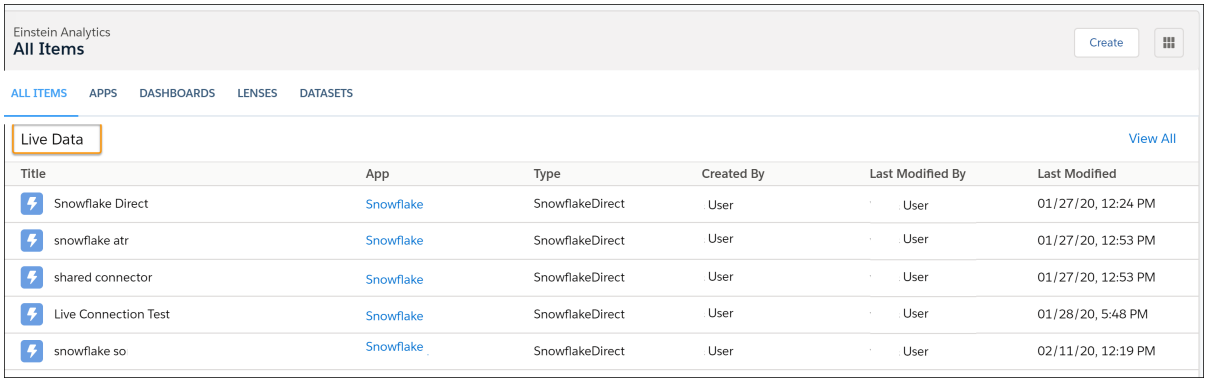
1. 組織で Salesforce Direct Data for Snowflake (ベータ) を使用するには、[Analytics 設定] ページで [外部データソースの `Einstein Analytics` ダイレクトデータを有効化] を選択します。
2. Einstein Analytics データマネージャの [接続] タブで、[データに接続] をクリックします。
3. [ライブ接続] タブの [接続を追加] をクリックし、その設定を入力します。



接続を設定するときに、Analytics アプリケーション設定を使用して、その接続で Snowflake データを探索するためのアクセス権を持つ Salesforce ユーザ、ロール、グループを制御します。完了したら、[保存] または [保存してテスト] をクリックします。

メモ: Snowflake への接続を作成すると、参照のみアクセス権を持つ Snowflake ユーザアカウントを使用することをお勧めします。

Analytics Studio の [すべての項目] から、ユーザは [ライブデータ] の下で Snowflake 接続を参照できます。



探索を開始するには、[ライブデータ]の下にある接続をクリックし、その接続で使用できるデータオブジェクトを選択します。

Direct Data for Snowflake のベータリリースには次の機能があります。

- グラフ、値、ピボットテーブル
- 項目パネル
- クエリアクション
- 基準、ディメンション、および絶対日付または相対日付に基づく絞り込み
- 検索条件ロジックおよび集計検索条件

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Snowflake での直接的なデータの探索 (ベータ)

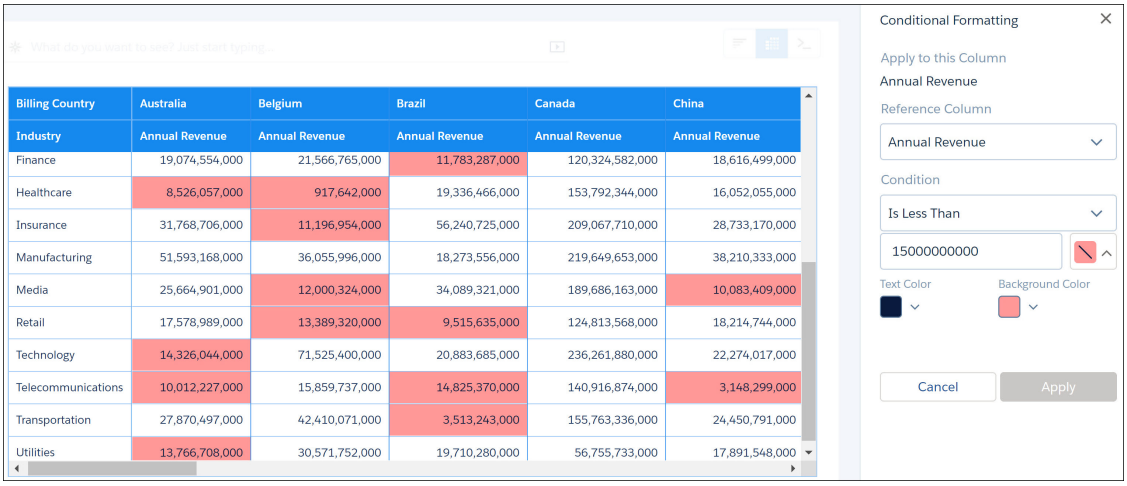
Salesforce ヘルプ: Snowflake へのライブ接続の作成 (ベータ)

書式設定を使用した重要なピボットテーブルデータの強調

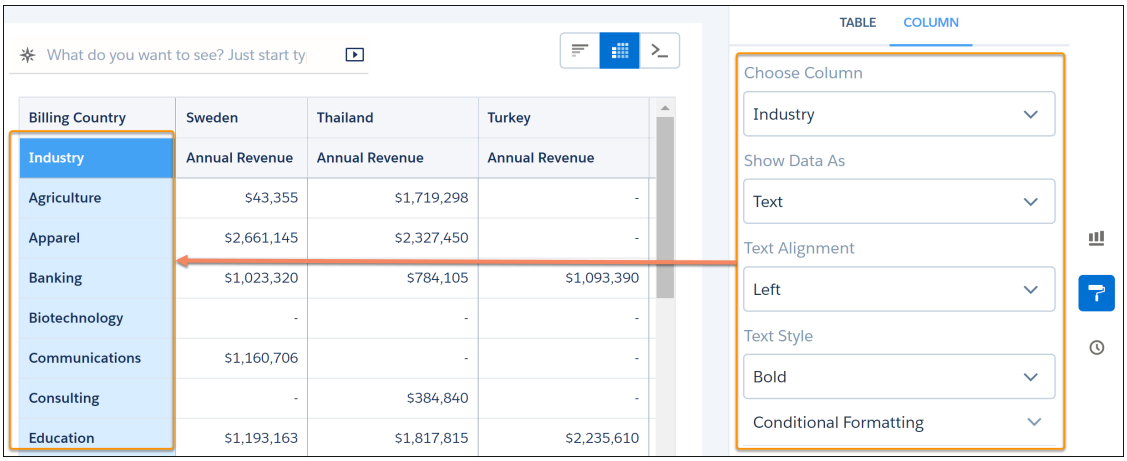
ピボットテーブルの意思決定に役立つ情報を書式設定して注意を引きます。特定の条件を満たすデータを強調表示するには、列に条件付き書式ルールを設定します。または、参照列に設定した条件に基づいてデータを強調表示します。条件を適用せずに列を目立たせるには、テキスト配置やテキストスタイルで装飾します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

理由: 国と業種ごとにすべての取引先の年間売上を確認するとします。国に基づいてピボットされた取引先テーブルで、条件付き書式を年間売上列に適用すると、営業活動をどこに集中すべきかをすばやく識別できます。



方法: ピボットテーブルモードで、 をクリックし、[フォーマッティング] パネルを開きます。[列] タブで、ピボットされたディメンション以外の列を選択し、条件付き書式ルールを設定します。また、書式ルールの設定に使用する参照列を指定します(条件付き書式を適用する列と異なる場合)。条件を指定して、その色を設定します。または、条件の範囲値を設定して、各範囲の色を選択します。条件付き書式以外に、テキストの配置やスタイルをピボットテーブルの任意の列に適用できます。完了したら、変更を適用します。

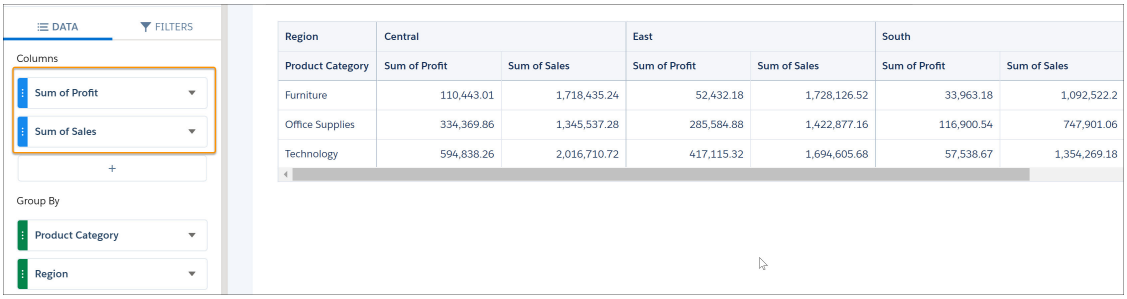


ピボットテーブルの複数の基準によるデータの集計

ピボットテーブルが 1 つの基準に制限されなくなりました。データセットの重要な項目を集計し、ピボットテーブルの複数の基準を使用して 1 つのレンズにより多くのインサイトを表示します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 商品カテゴリの売上と利益を地域ごとに比較したいとします。レンズで選択したピボットモードを使用して、商品カテゴリと地域ごとにデータをグループ化します。次に、[Sum of Profit (利益の合計)] 列と [Sum of Sales (売上の合計)] 列を追加して、これらの重要な総計値を横に並べて表示します。以前は、これらの基準のいずれかしかピボットできませんでした。

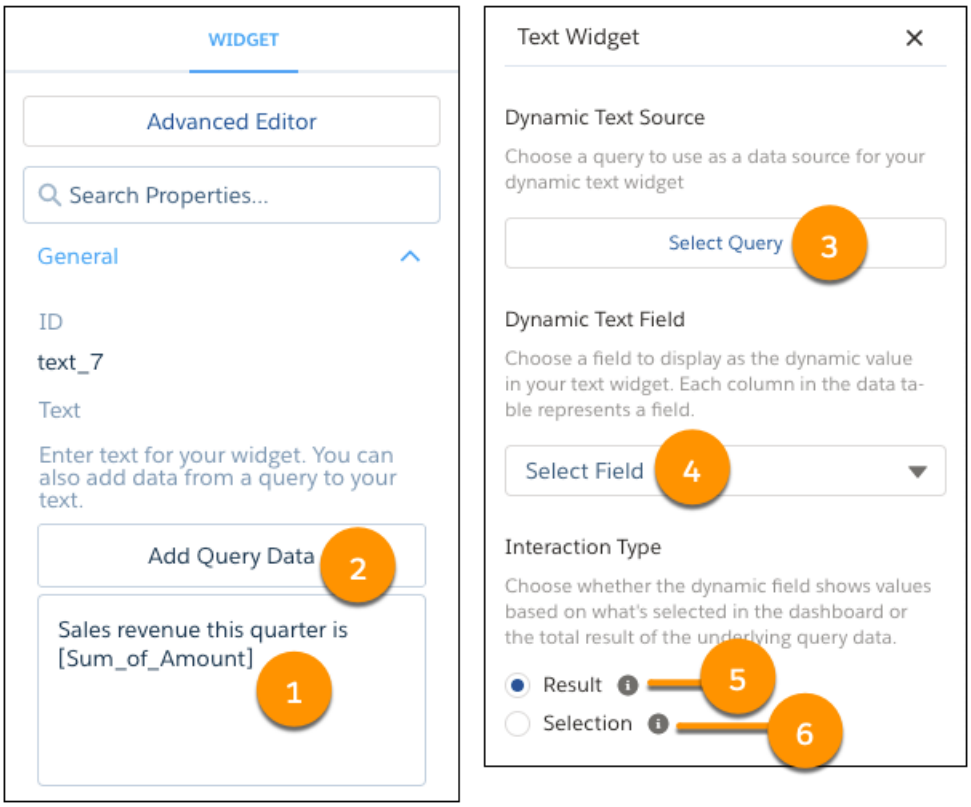


コードを使用しないダッシュボードテキストへの動的値の追加

数値やグラフは、データを視覚化するのに最適ですが、テキストに配置すると有益な場合もあります。そのため、データをクエリから直接ダッシュボードテキストに簡単に追加できるようになりました。たとえば、「当四半期の営業収益は $1,234,567 である」または「Sita が今月の最大の商談を成立させた」ということを表したい場合、「$1,234,567」や「Sita」がデータから直接取得されて動的に更新されれば、これを簡単に実現できます。そして何よりも、コードを使用して別のクエリへのバインドを作成することなく動的値をダッシュボードテキストに追加できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: テキストウィジェットを作成して、動的値を追加する場所 (1) にカーソルを置き、[クエリデータを追加] (2) をクリックします。動的テキストのソースとしてクエリを選択し (3)、ソースクエリの項目を選択します (4)。クエリの使用可能な項目はテーブルの列として表示されます。



動的値を削除するには、テキストボックスでその動的値を削除します。

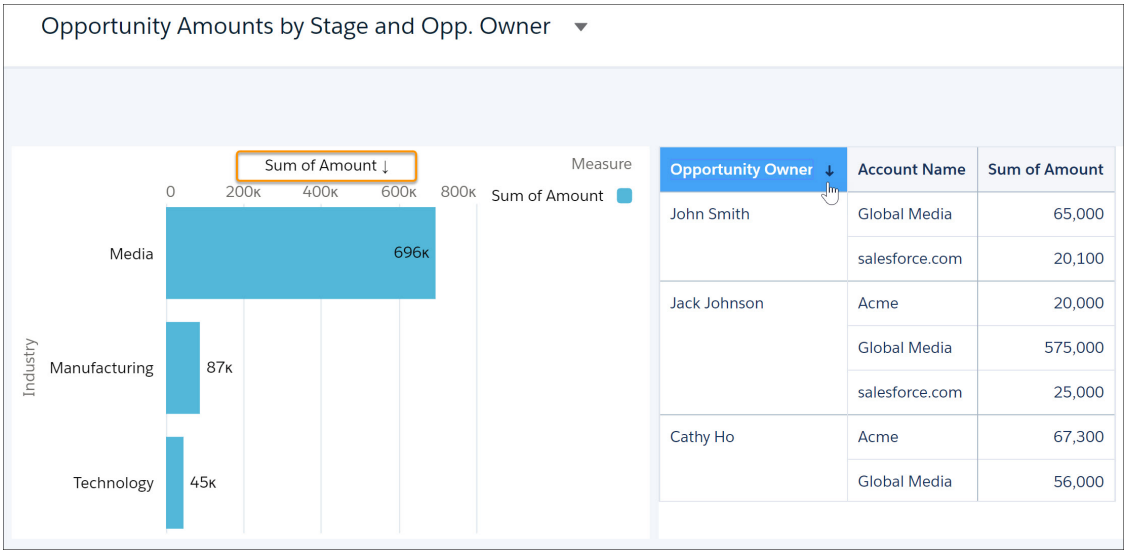
動的テキスト値がクエリの結果 (5) に基づくのか、ダッシュボードで選択した内容 (6) に基づくのかを選択することもできます。選択内容に基づいて値を表示する場合、ダッシュボードで選択を行うまでテキストは空白になります。

1 回のクリックによるダッシュボードのダッシュボードのデータの並び替え

ソースクエリ種別に関係なく、コーディングなしでダッシュボードテーブルまたはグラフのレコードを並び替えます。項目に基づいて昇順または降順で並び替えるには、ダッシュボードコンポーネントの並び替えの基準となる項目ヘッダーをクリックします。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: この例の場合、商談を業種ごとに金額の降順で並び替えるには、横棒グラフの [金額合計] をクリックします。商談テーブルを所有者ごとに並び替えるには、[商談所有者] 列ヘッダーをクリックします。

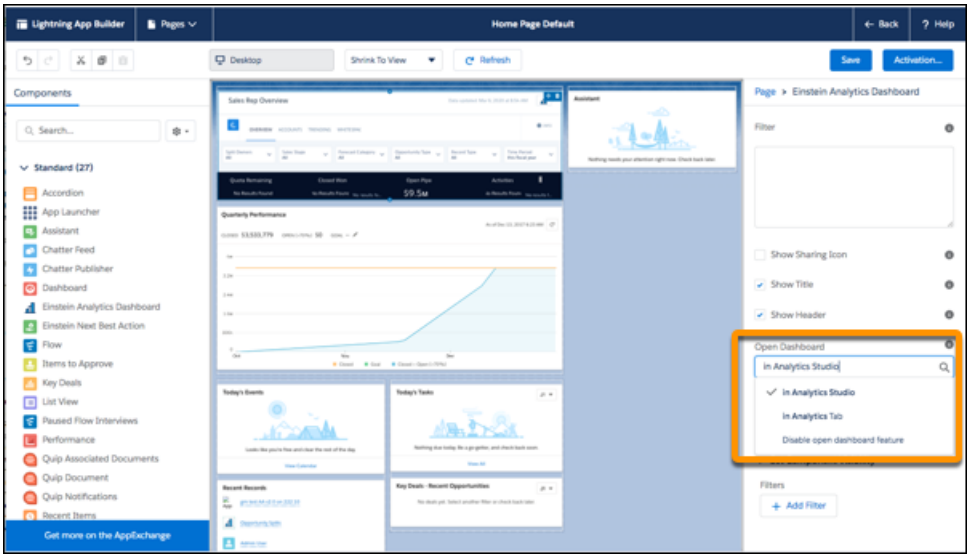


ユーザが組み込みダッシュボードを開く場所の選択

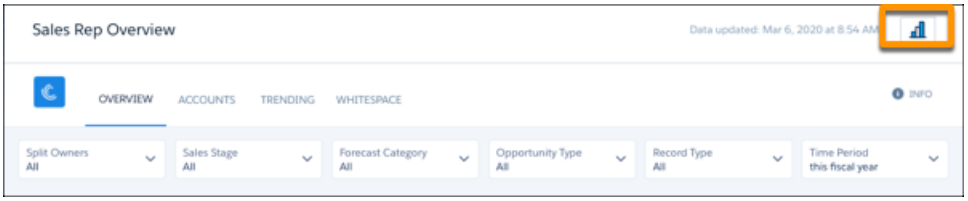
Einstein Analytics 組み込みダッシュボードが Salesforce Lightning の [分析] タブで開くように設定したり、起動ボタンを無効にしたりできるようになりました。デフォルトの起動ボタンはダッシュボードヘッダーの右上にあります。このボタンを使用すると、Einstein Analytics Studio アプリケーションでダッシュボードが起動します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

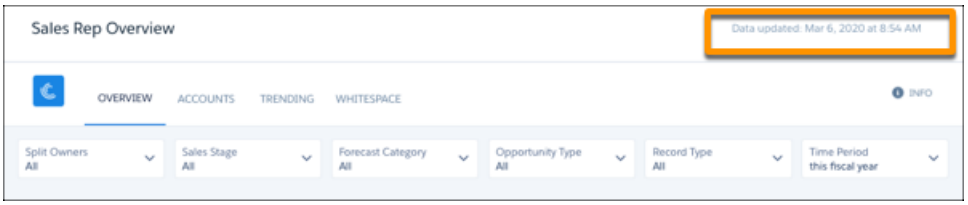
方法: Lightning アプリケーションビルダーのページエディタで、Einstein Analytics ダッシュボードコンポーネントエディタを使用して、起動ボタンの機能を設定します。[ダッシュボードを開く]テキストボックスをクリックしてオプションを表示し、選択を行います。



変更を保存すると、変更がページエディタと組み込みダッシュボードに表示されます。



起動ボタンのある組み込みダッシュボード。



起動ボタンが無効になっている組み込みダッシュボード。

Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

3 つのモデリングアルゴリズムからの最適な予測を取得します。ランダムフォレストアルゴリズム (パイロット) を使用して正確なモデルを作成できます。最大 1 億行のデータを処理できます。

ALBERT EINSTEIN の権利は、ヘブライ大学の許可を受けた上で使用しています。Greenlight が排他的に代理人を務めています。

このセクションの内容:

3 つの異なるモデルからの最適な予測の取得

Einstein Discovery で結果を予測する 3 つのモデリングアルゴリズム (一般化された線形モデル (GLM)、勾配ブーストマシン (GBM)、XGBoost) がサポートされるようになりました。予測モデルでストーリーを作成する場合、Einstein Discovery で 3 つのすべてのアルゴリズムを使用してモデルを作成できます。その後、最もパフォーマンスの高かったモデルの結果が Einstein Discovery に表示されます。すべてのアプローチから最も優れた結果を取得します。

ランダムフォレストアルゴリズムを使用した正確なモデルの作成 (パイロット)

ランダムフォレストと呼ばれるモデリングアルゴリズムに基づく 4 番目のモデル種別が Einstein Discovery に追加されました。Einstein Discovery では、この教師ありアルゴリズムを使用して、複数のディシジョンツリー、ランダマイゼーション、および他の最適化技法で非常に正確なモデルを作成します。ランダムフォレストモデルと他のモデル種別を比較して、このアルゴリズムの方がストーリーの精度が高いかどうかを判断できます。

Einstein Discovery で処理可能なデータの増加

最大 1 億行のデータが含まれる Einstein Analytics データセットからストーリーを作成できるようになりました。Einstein Discovery の以前の制限は 2 千万行でした。分析できるデータが増えると、インサイトと予測精度が向上し、より有益なおすすめを提供できます。

リリース済みモデルの簡単な置き換え

モデルの改善を促進するために、合理化されたワークフローで簡単にリリース済みモデルを更新できるようになりました。リリース済みモデルに関連付けられているストーリーのバージョンを作成する場合、更新された設定に基づいてモデルを再リリースする必要があります。以前は、新しいモデル区分をリリースして、古いリリース済みモデル区分を無効にし、新しいモデル区分を有効にしていました。最新の設定で既存のモデルを置き換えるだけで済むようになりました。モデルの精度の監視グラフでは、モデルの更新がいつ行われたのかが示されます。

[変更箇所] インサイトカードを使用したストーリーバージョンの比較

Einstein Discovery では、各反復の後にストーリーバージョンを比較して、分析またはリリースするのに最適なバージョンを選択します。ストーリーバージョンを作成すると、Einsteinによって変更の影響が集計され、使用するバージョンを判断できるようにバージョンを横に並べて比較できます。

Salesforce レコードの一括スコアリング

複数のレコードの予測を一度にスコアリングできるようになりました。たとえば、更新されたモデルをリリースした後に、一括スコアリングを使用してすべての予測スコアを更新します。履歴データに対して一括スコアリングを実行して、モデルのパフォーマンスを確認することもできます。一括スコアリングでは、すべてのレコード、一部のレコード、または最終状態に達していないレコードをスコアリングできます。

インサイトや予測からのバイアスの排除

差別的な結果が生じる可能性のあるデータセットのバイアスを企業で常に認識できるとは限りません。Einstein Discovery では、ストーリーの設定時に項目を機密として識別し、ストーリーインサイトでこれらの機密項目を強調表示できます。これらの機密項目を使用してインサイトを絞り込み、ストーリーの結果に対する影響をさらに調べ、バイアスで害悪をもたらす結果が生み出されないようにすることもできます。

二乗平均平方根誤差を使用した線形回帰のモデル品質の評価

モデルマネージャの線形回帰の [概要] タブに平均二乗誤差 (MSE) ではなく二乗平均平方根誤差 (RMSE) が表示されるようになりました。RMSE は、モデルの予測値と実際の値の差を測定するよりわかりやすい統計です。モデルマネージャで線形回帰の予測を開いたときに RMSE が表示されるようになりました。

モデルの詳細への透過的なアクセス

[モデル評価指標] の [R コード] タブを表示するのに「Einstein Discovery ストーリーを共有」ユーザ権限が必要なくなりました。Einstein Discovery でストーリーから作成されたモデルの基になる詳細を誰でも確認できるようになりました。「Einstein Discovery ストーリーを共有」ユーザ権限は、インサイトを Quip にエクスポートする場合にのみ適用されるようになりました。

バックグラウンド監視を使用した予測パフォーマンスの追跡

モデルマネージャの予測パフォーマンス監視で SFDCLiveMetricsFlow データフローが必要なくなりました。このプロセスはバックグラウンドで実行されるようになったため、このデータフローは Einstein Analytics データマネージャの [監視] または [データフロー & レシピ] タブに表示されなくなりました。

更新された変数設定の相関関係の再計算

ストーリー設定で、変数 (項目) 設定を変更すると、相関率を再計算して変更の効果をすばやく確認できます。これにより、ストーリー分析で使用する最適な設定を判断できるため、インサイトの関連性が高くなり、予測が改善されます。

関連トピック:

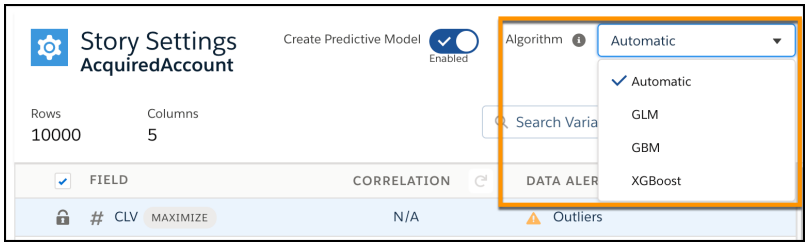
Salesforce Einstein: Einstein Search の結果の改善、Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、Einstein Discovery のアルゴリズムとデータの増加による予測の改善

3 つの異なるモデルからの最適な予測の取得

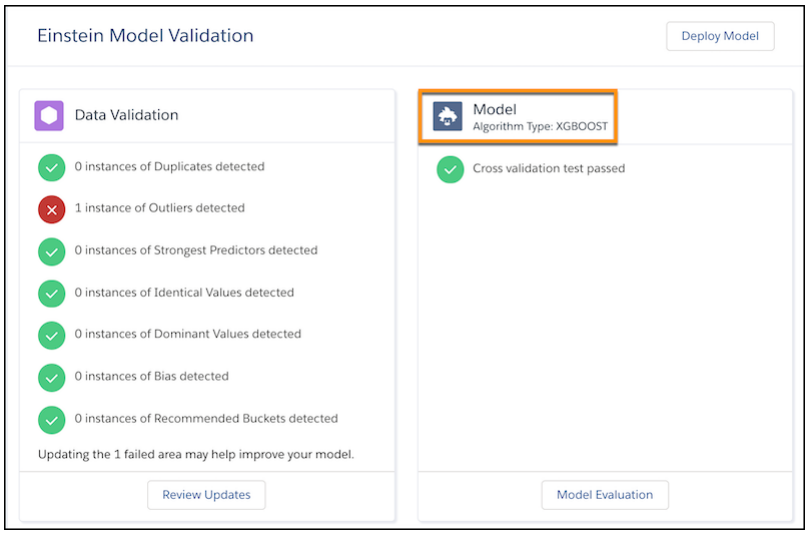
Einstein Discovery で結果を予測する 3 つのモデリングアルゴリズム (一般化された線形モデル (GLM)、勾配ブーストマシン (GBM)、XGBoost) がサポートされるようになりました。予測モデルでストーリーを作成する場合、Einstein Discovery で 3 つのすべてのアルゴリズムを使用してモデルを作成できます。その後、最もパフォーマンスの高かったモデルの結果が Einstein Discovery に表示されます。すべてのアプローチから最も優れた結果を取得します。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ストーリー設定では、デフォルトで 3 つのすべてのアルゴリズムが自動的に使用されます。1 つのアルゴリズムのみでモデルを作成するには、[アルゴリズム] リストからそのアルゴリズムを選択します。



[モデル評価指標] の [概要] タブに、モデルのアルゴリズム種別が表示されます。



関連トピック:

Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

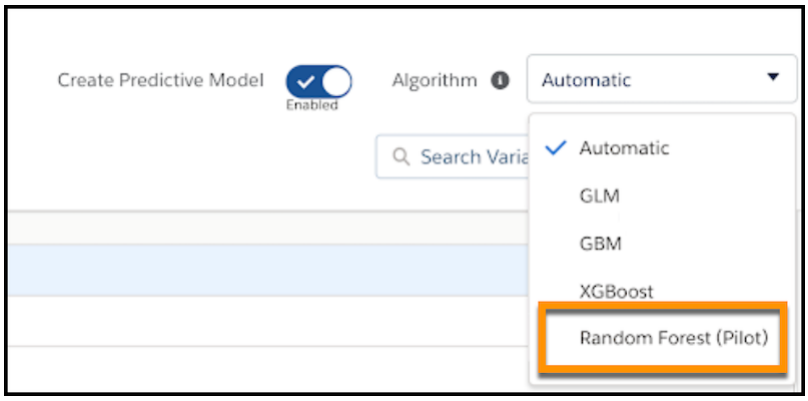
ランダムフォレストアルゴリズムを使用した正確なモデルの作成 (パイロット)

ランダムフォレストと呼ばれるモデリングアルゴリズムに基づく 4 番目のモデル種別が Einstein Discovery に追加されました。Einstein Discovery では、この教師ありアルゴリズムを使用して、複数のディシジョンツリー、ランダマイゼーション、および他の最適化技法で非常に正確なモデルを作成します。ランダムフォレストモデルと他のモデル種別を比較して、このアルゴリズムの方がストーリーの精度が高いかどうかを判断できます。

メモ: ランダムフォレストモデル機能は、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。ランダムフォレストモデルは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。ランダムフォレストモデルに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の該当する IdeaExchange グループに投稿してください。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ストーリー設定で、[アルゴリズム] リストをクリックして [ランダムフォレスト (パイロット)] を選択します。



ストーリーを作成したら、[モデル評価指標]に移動し、このモデルの精度と他のアルゴリズムを使用して作成されたモデルの精度を比較します。

メモ: パイロットでは、ランダムフォレストモデルの説明力が制限されており、ランダムフォレストモデルをリリースできません。

関連トピック:

Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

Einstein Discovery で処理可能なデータの増加

最大 1 億行のデータが含まれる Einstein Analytics データセットからストーリーを作成できるようになりました。Einstein Discovery の以前の制限は 2 千万行でした。分析できるデータが増えると、インサイトと予測精度が向上し、より有益なおすすめを提供できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

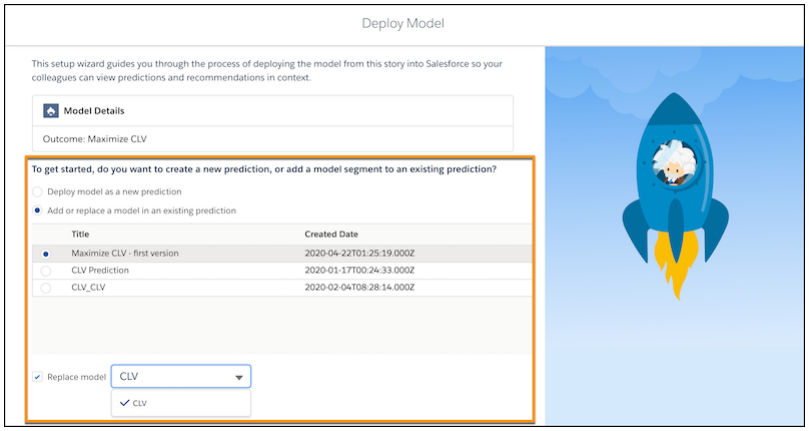
リリース済みモデルの簡単な置き換え

モデルの改善を促進するために、合理化されたワークフローで簡単にリリース済みモデルを更新できるようになりました。リリース済みモデルに関連付けられているストーリーのバージョンを作成する場合、更新された設定に基づいてモデルを再リリースする必要があります。以前は、新しいモデル区分をリリースして、古いリリース済みモデル区分を無効にし、新しいモデル区分を有効にしていました。最新の設定で既存のモデルを置き換えるだけで済むようになりました。モデルの精度の監視グラフでは、モデルの更新がいつ行われたのかが示されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法:更新するモデルに関連付けられているストーリーバージョンを開きます。改善されるように設定(項目の検索条件など)を変更して、ストーリーバージョンを作成します。ストーリーバージョンを比較して変更を確認します。次に、[モデル評価指標]で新しいモデルとリリース済みモデルを比較してモデルの改善を確認します。

次に、新しいモデルをリリースします。リリースウィザードで、[既存の予測のモデルを追加または置換]を選択して、リストから新しいモデルを選択し、[モデルを置き換え]を選択して、置き換えるリリース済みモデルを選択します。



新しいモデルのリリースが完了したら、モデルマネージャで開き、その精度グラフを表示します。縦棒は、モデルがいつ更新されたのかを示します。

より多くの統計が収集されると、棒が表示されます。この線の表示をトリガするには、モデルで一括スコアリングを実行します。

メモ: 以前のモデルに戻すには、以前のストーリーバージョンのモデルをリリースし、予測の現在のモデルを置き換えます。

関連トピック:

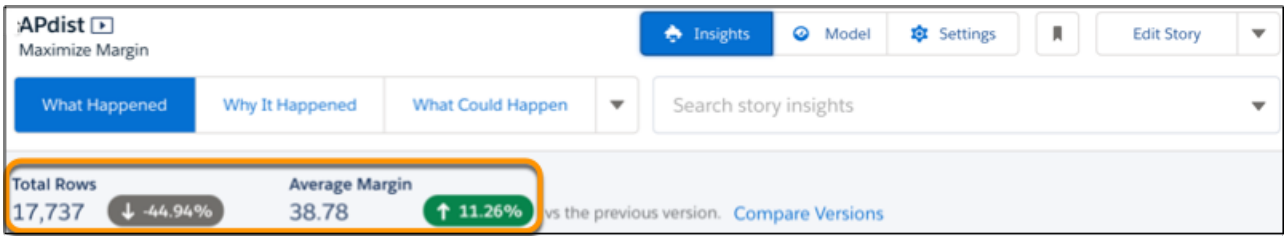
Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

[変更箇所] インサイトカードを使用したストーリーバージョンの比較

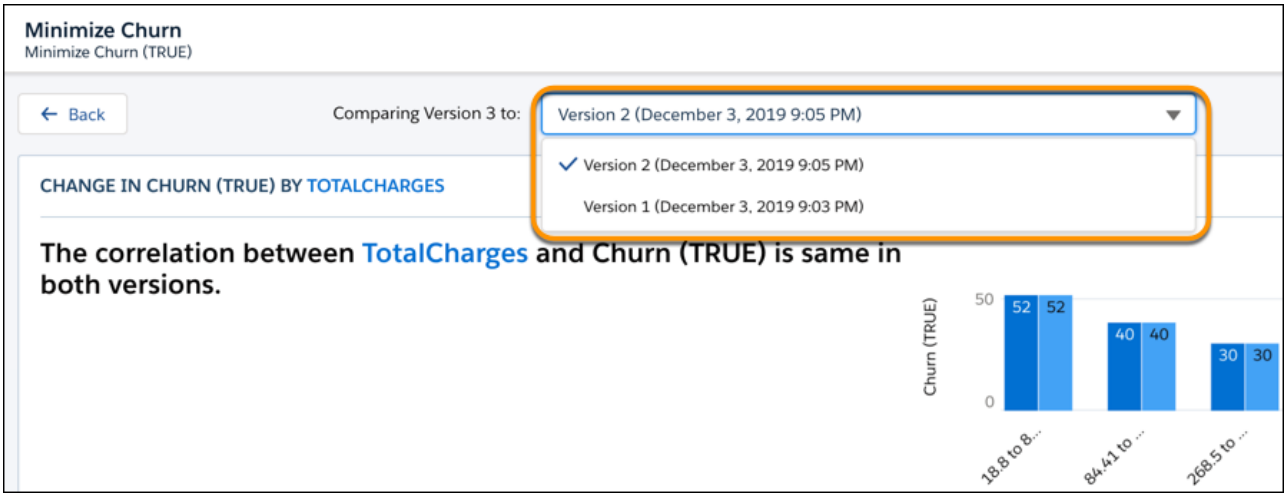
Einstein Discovery では、各反復の後にストーリーバージョンを比較して、分析またはリリースするのに最適なバージョンを選択します。ストーリーバージョンを作成すると、Einstein によって変更の影響が集計され、使用するバージョンを判断できるようにバージョンを横に並べて比較できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: 既存のストーリーを変更してストーリーを更新し、新しいバージョンを作成します。[何が起きたか] インサイトには、バージョン間の実質的な差を示す変更の概要が表示されます。



バージョンのインサイトを比較するには、[バージョンを比較] をクリックします。以前のバージョンを選択すると、選択したバージョンのインサイトが比較ビューに表示されます。



関連トピック:

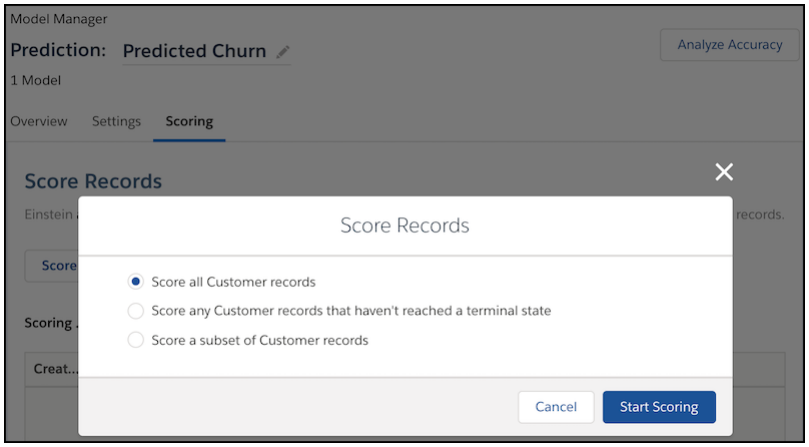
Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

Salesforce レコードの一括スコアリング

複数のレコードの予測を一度にスコアリングできるようになりました。たとえば、更新されたモデルをリリースした後に、一括スコアリングを使用してすべての予測スコアを更新します。履歴データに対して一括スコアリングを実行して、モデルのパフォーマンスを確認することもできます。一括スコアリングでは、すべてのレコード、一部のレコード、または最終状態に達していないレコードをスコアリングできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: モデルマネージャで、予測を開き、[スコアリング] タブをクリックします。



レコードをスコアリングする方法(データセットのすべてのレコード、最終状態に達していないレコードのみ、指定したセグメンテーション検索条件に基づく一部のレコード) を選択します。

関連トピック:

Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

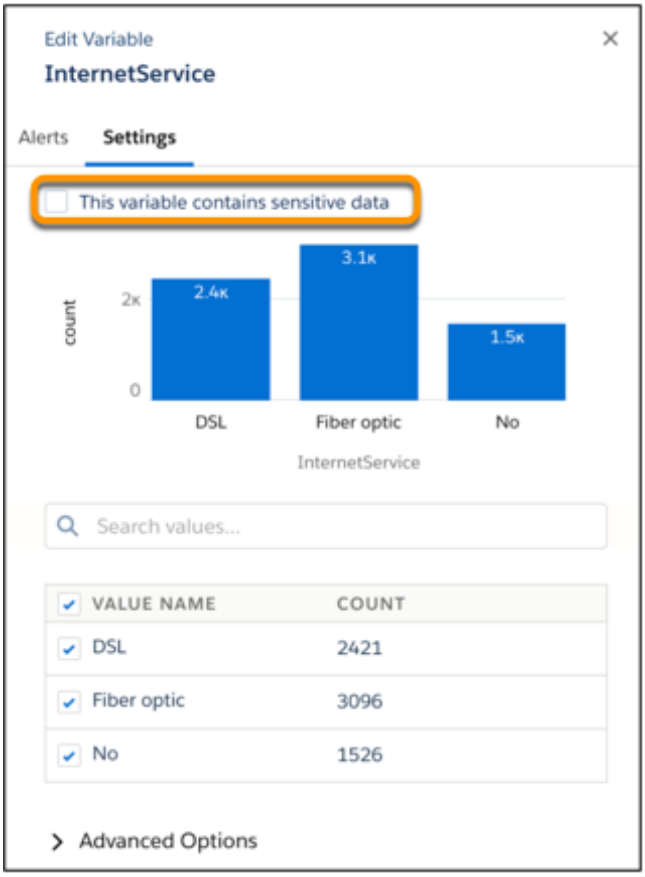
インサイトや予測からのバイアスの排除

差別的な結果が生じる可能性のあるデータセットのバイアスを企業で常に認識できるとは限りません。Einstein Discovery では、ストーリーの設定時に項目を機密として識別し、ストーリーインサイトでこれらの機密項目を強調表示できます。これらの機密項目を使用してインサイトを絞り込み、ストーリーの結果に対する影響をさらに調べ、バイアスで害悪をもたらす結果が生み出されないようにすることもできます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

対象ユーザ: ストーリーから機密項目を識別するには、「Einstein Discovery ストーリーを作成、更新する」権限が必要です。

方法: [ストーリー設定] で、機密として識別される項目をクリックし、[この変数には機密データが含まれます。] を選択します。



機密項目のインサイトを比較するドロップダウンメニューでシールドが表示されます。

関連トピック:

Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

二乗平均平方根誤差を使用した線形回帰のモデル品質の評価

モデルマネージャの線形回帰の [概要] タブに平均二乗誤差 (MSE) ではなく二乗平均平方根誤差 (RMSE) が表示されるようになりました。RMSE は、モデルの予測値と実際の値の差を測定するよりわかりやすい統計です。モデルマネージャで線形回帰の予測を開いたときに RMSE が表示されるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

モデルの詳細への透過的なアクセス

[モデル評価指標] の [R コード] タブを表示するのに「Einstein Discovery ストーリーを共有」ユーザ権限が必要なくなりました。Einstein Discovery でストーリーから作成されたモデルの基になる詳細を誰でも確認できるようになりました。「Einstein Discovery ストーリーを共有」ユーザ権限は、インサイトを Quip にエクスポートする場合にのみ適用されるようになりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

バックグラウンド監視を使用した予測パフォーマンスの追跡

モデルマネージャの予測パフォーマンス監視で SFDCLiveMetricsFlow データフローが必要なくなりました。このプロセスはバックグラウンドで実行されるようになったため、このデータフローは Einstein Analytics データマネージャの [監視] または [データフロー & レシピ] タブに表示されなくなりました。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

関連トピック:

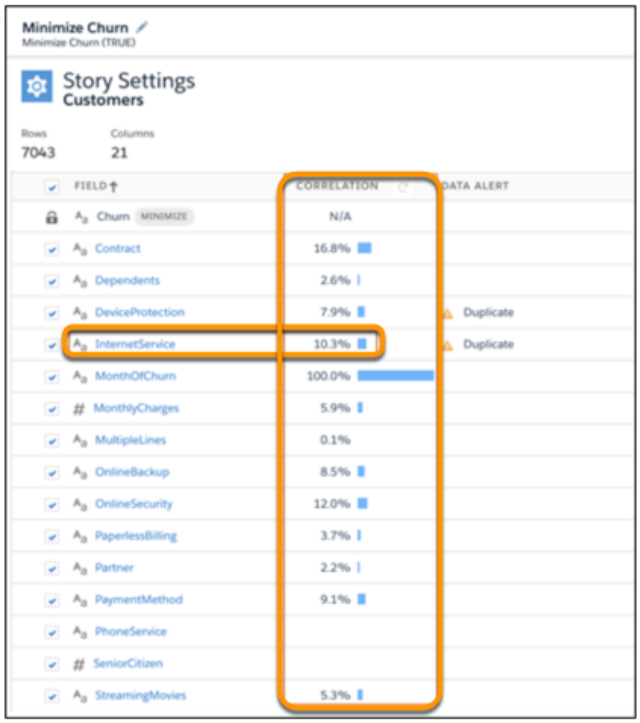
Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

更新された変数設定の相関関係の再計算

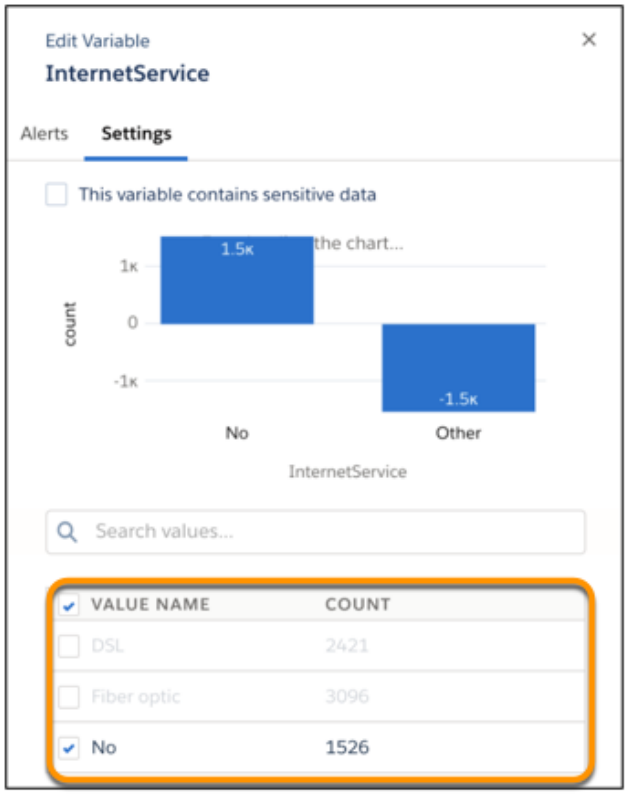
ストーリー設定で、変数(項目)設定を変更すると、相関率を再計算して変更の効果をすばやく確認できます。これにより、ストーリー分析で使用する最適な設定を判断できるため、インサイトの関連性が高くなり、予測が改善されます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ストーリーを開き、[設定] に移動します。ストーリー設定で選択した項目は、相関関係と共にリストされます。



表示する項目をクリックし、その設定を変更します。



項目を変更したら、再計算アイコンをクリックして、相関関係がどのように変わるのかを確認します。

関連トピック:

Einstein Discovery: ツリーベースのモデリング種別、ランダムフォレストモデル (パイロット)、行制限の緩和

Analytics for Everyone: テーブルの登録、ウォッチリストの機能強化、[学習リソース] パネル

テーブルウィジェットを登録して、登録メールに添付された .csv ファイルでテーブルデータを受信します (ベータ)。ホームページの新しいインターフェースには拡張ウォッチリストがあります (ベータ)。各グラフのカスタムオンボーディングを追加して、ダッシュボードを介したステップバイステップ学習の進行状況を作成します。

このセクションの内容:

テーブルの登録 (ベータ)

Einstein Analytics サブスクリプションの機能が強化され、より詳細に制御できるようになり、情報量が増加しています。テーブルウィジェットを登録して、定期的な登録メールに添付された .csv ファイルでテーブルデータを受信できるようになりました。プレビューまたはメールの任意の登録をクリックすると、登録の作成時に適用したすべての検索条件と選択内容でダッシュボードが開きます。[登録のプレビュー] からウィジェットドロップダウンメニューを使用してアクションを実行します。また、登録の作成時にタイトルを入力できるようになり、複数のウィジェットの登録や異なるインサイトで絞り込まれた同じウィジェットの登録を区別しやすくなりました。

拡張された Einstein Analytics ウォッチリスト (ベータ)

更新された Einstein Analytics ウォッチリストには、最大 20 個の KPI をキャプチャする拡張されたウォッチリストページがあります。ウォッチリストを使用すると、ユーザはさまざまなダッシュボードの総計値や、経時的な変化を監視する履歴トレンドを 1 か所で追跡できます。

ダッシュボードの [学習リソース] パネルでの学習ジャーニーの作成

Einstein Analytics ユーザは、従来よりもはるかに簡単にアプリケーション内ガイダンスを見つけられるようになりました。ダッシュボードウィジェットで [学習] を選択すると、[学習リソース] パネルが開き、ダッシュボードのすべてのウィジェットの使用可能なオンボーディングコンテンツが表示されます。各グラフのカスタムオンボーディングを追加して、ダッシュボードを介したステップバイステップ学習の進行状況を作成します。

学習センターの人気のあるトピックの詳細

学習センターの新しい [人気のあるトピック] セクションを使用して、Einstein Analytics の教育を次のレベルに引き上げます。学習リソースへのリンクは機能ごとに整理されており、[もっと調べる] をクリックすれば Einstein Analytics 学習マップの [ベストプラクティス] ページに移動できます。

Einstein Analytics for iOS/Android の Summer '20 バージョンの準備

数週間以内にこのページでモバイルの新機能が紹介されます。Analyticsモバイルアプリケーションの早期プレビューにアクセスするには、https://mobileanalyticsbeta.salesforce.com でベータチャネルにサインアップしてください。

テーブルの登録 (ベータ)

Einstein Analytics サブスクリプションの機能が強化され、より詳細に制御できるようになり、情報量が増加しています。テーブルウィジェットを登録して、定期的な登録メールに添付された `.csv` ファイルでテーブルデータを受信できるようになりました。プレビューまたはメールの任意の登録をクリックすると、登録の作成時に適用したすべての検索条件と選択内容でダッシュボードが開きます。[登録のプレビュー]からウィジェットドロップダウンメニューを使用してアクションを実行します。また、登録の作成時にタイトルを入力できるようになり、複数のウィジェットの登録や異なるインサイトで絞り込まれた同じウィジェットの登録を区別しやすくなりました。

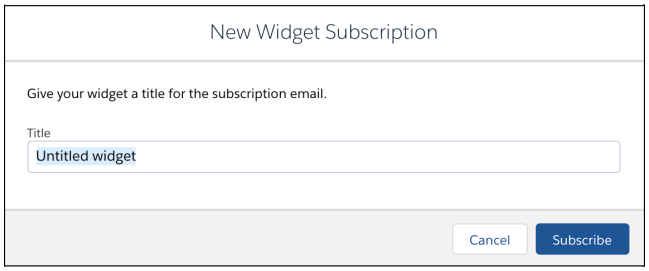
対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

メモ: Einstein Analytics サブスクリプションはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

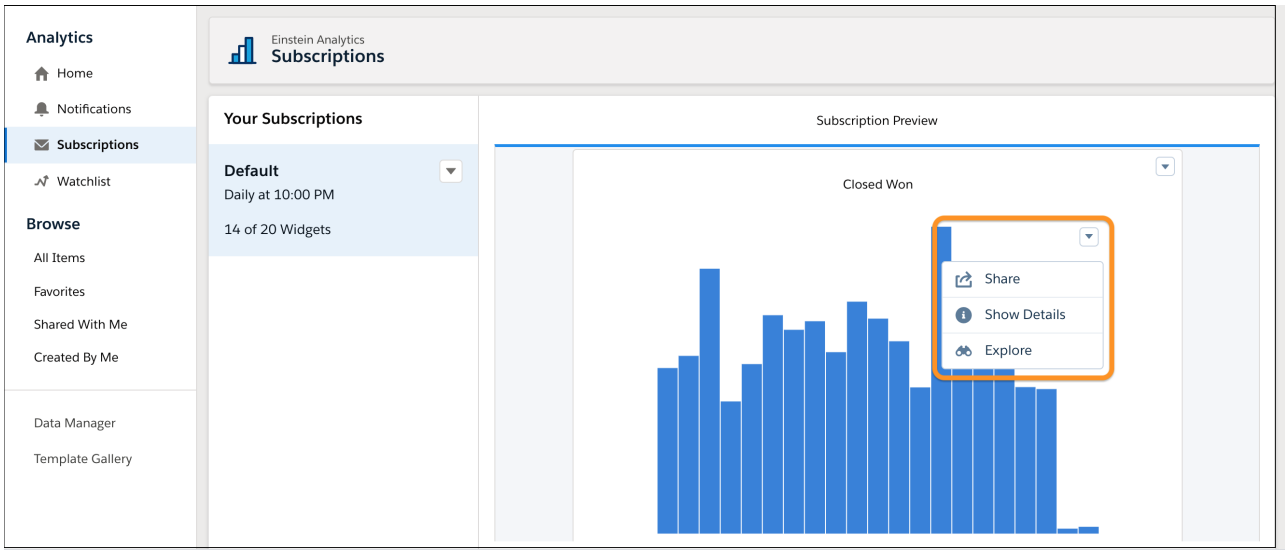
対象ユーザ: テーブルを登録するには、Einstein Analytics Growth または Einstein Analytics Plus ライセンスに関連付けられた権限セットに「Einstein Analytics テーブルを登録」ユーザ権限が必要です。

方法: [設定] の [Analytics] の [設定] ページで、**[Einstein Analytics ダッシュボードウィジェットへのメールサブスクリプションを有効化(ベータ)]**を選択します。[登録]オプションは、地図ウィジェット以外のすべてのウィジェットのメニューに表示されます。

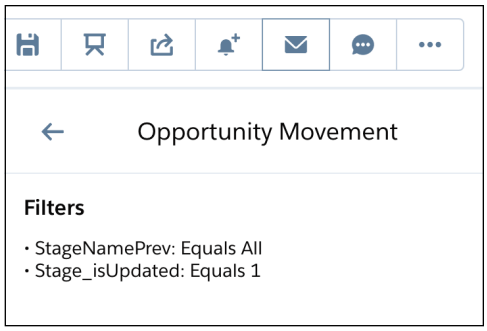
新しい登録のタイトルを入力するには、ウィジェットメニューの [登録] を選択します。



[登録のプレビュー]からアクションを実行するには、ウィジェットのスナップショットでドロップダウンを開きます。

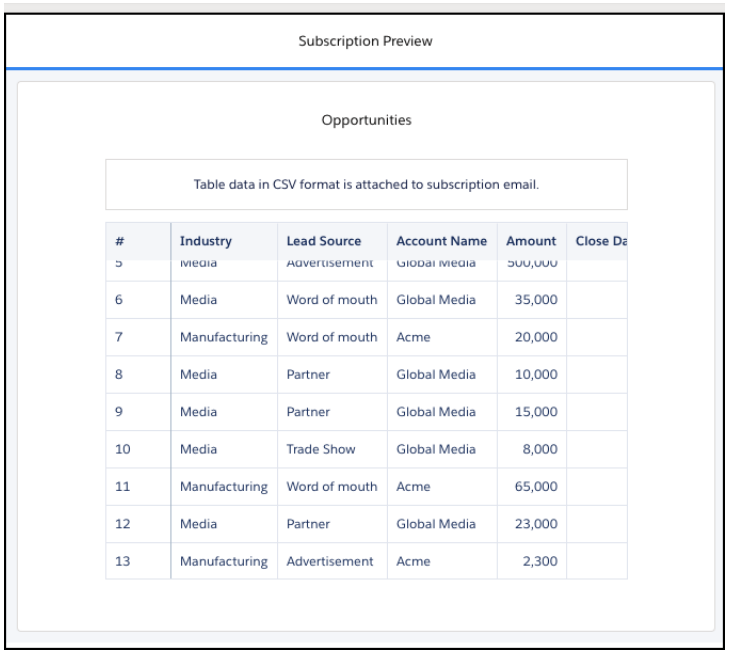


ウィジェット登録の検索条件を表示するには、[登録のプレビュー] またはダッシュボードの [登録] パネルでそのタイトルをクリックして登録を開きます。

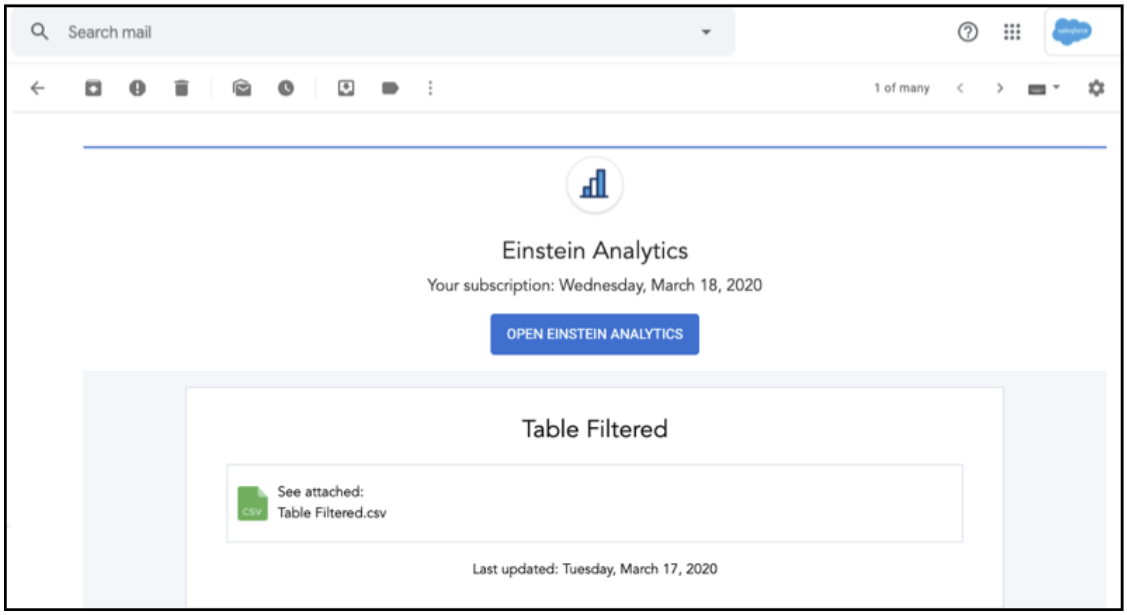


メモ: SAQL クエリの検索条件はリストされませんが、「カスタム」として参照されます。

ダッシュボードでテーブルウィジェットを登録するには、テーブルのドロップダウンメニューから[登録]を選択します。[登録のプレビュー]にはテーブルの最初の行が表示されます。スクロールすれば後続の行を表示できます。



登録メールの本文には、テーブルのプレースホルダが含まれ、テーブルデータの `.csv` ファイルが添付されます。テーブルデータの各添付ファイルの上限は 3 MB です。メールあたりの添付ファイルの上限は合計 15 MB です。



メモ: 登録のテーブルデータの `.csv` ファイルにはデータのダウンロード制限が適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: メールサブスクリプションを使用した定期更新の取得 (ベータ) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Analytics 画像のダウンロードおよび絞り込まれたデータのエクスポート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

拡張された Einstein Analytics ウォッチリスト (ベータ)

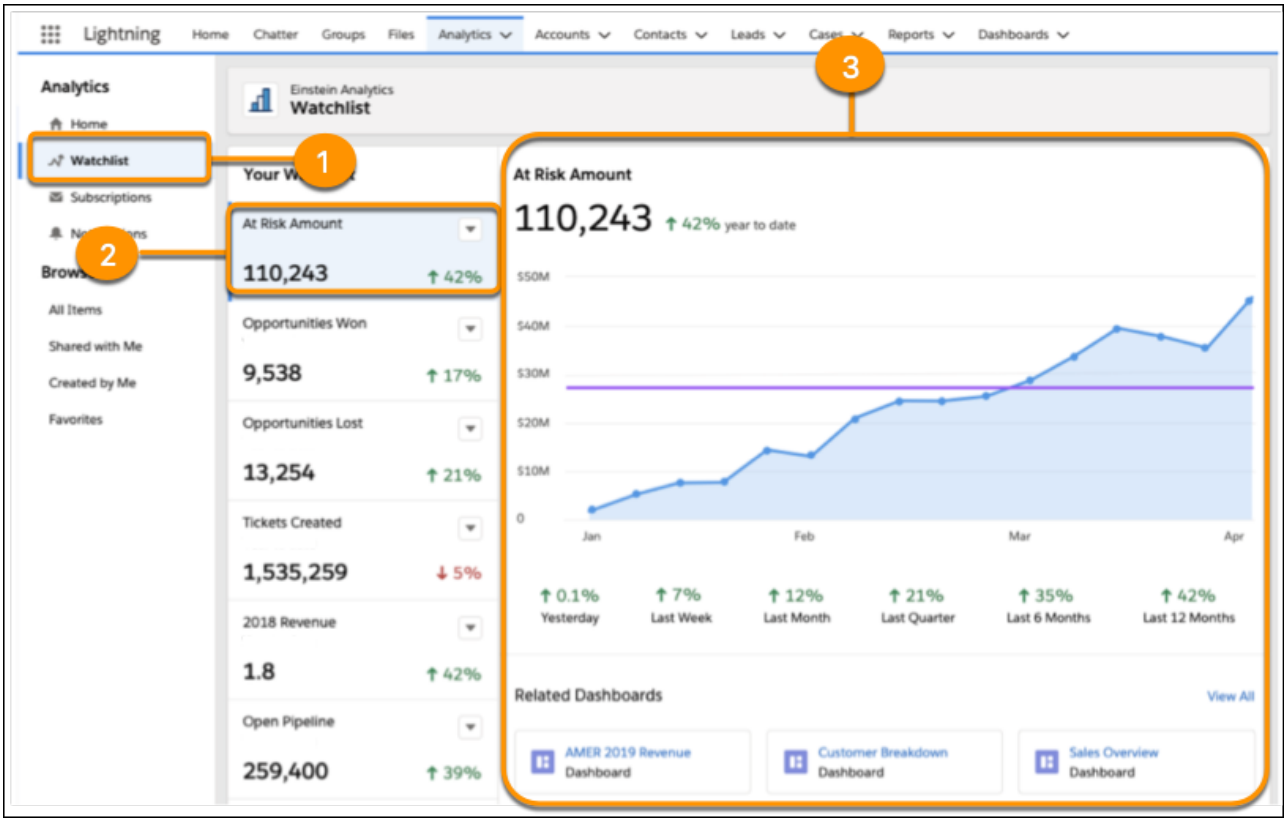
更新された Einstein Analytics ウォッチリストには、最大 20 個の KPI をキャプチャする拡張されたウォッチリストページがあります。ウォッチリストを使用すると、ユーザはさまざまなダッシュボードの総計値や、経時的な変化を監視する履歴トレンドを 1 か所で追跡できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

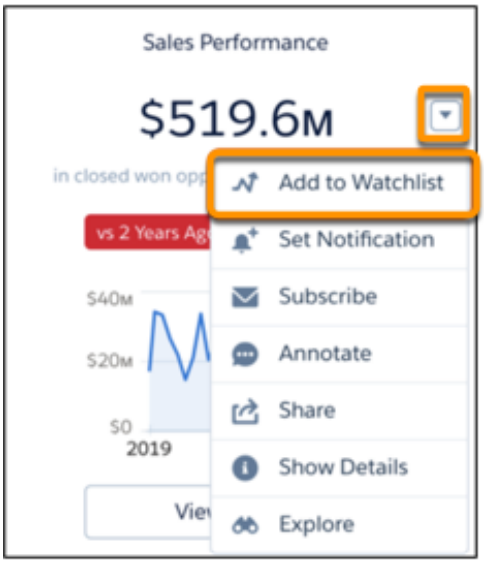
メモ: Einstein Analytics ウォッチリストはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「Einstein Analytics」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。加えて、無保証で提供され、サポート対象外であるため、この機能に起因あるいは関連して生じた危害または損害に対して Salesforce は一切の責任を負わないものとします。制限、Salesforce の権利の留保、Einstein Analytics に関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。Einstein Analytics ウォッチリストに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

方法: [設定] の [Analytics] の [設定] ページで、[ウォッチリストを有効化 (ベータ)] を選択します。

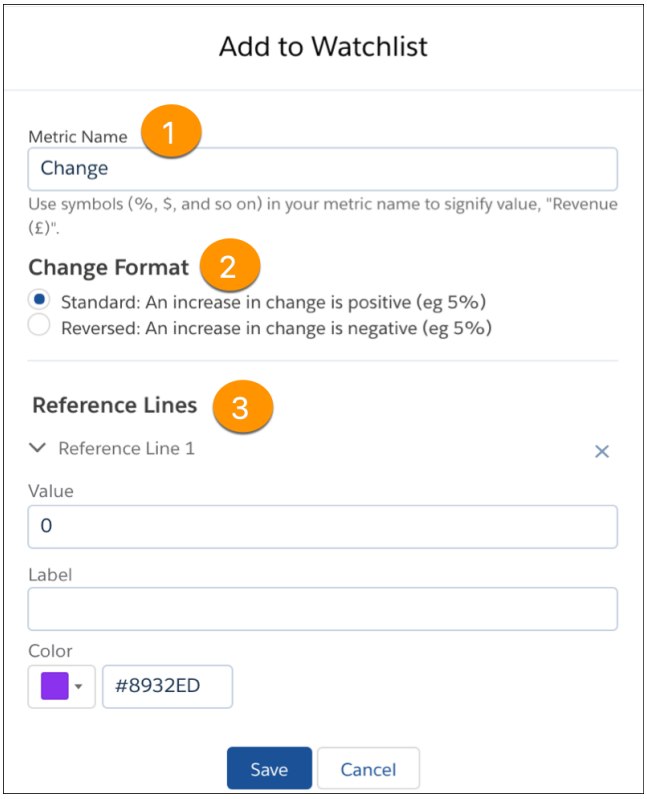
ウォッチリスト (1) を使用すると、ユーザは最大 20 個の総計値のパーソナライズされたリストを作成できます。ウォッチリスト項目をクリックすると、総計値 (2) とタイムライングラフ (3) が表示されます。何が変更されたかを確認するためにダッシュボードを切り替える必要がなくなり、ユーザはそれらの総計値をすべて 1 か所ですばやく簡単に追跡できます。



ダッシュボードから直接総計値を追加して、ウォッチリストを開始します。ウィジェットのドロップダウンメニューから [ウォッチリストに追加] を選択します。



その後、ユーザは総計値に名前 (1) を付け、変化のレポート方法 (2) を選択し、トレンドを比較するための省略可能な基準線 (3) を追加できます。



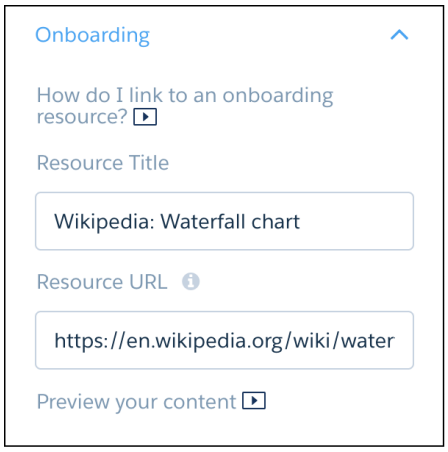
ウォッチリストに総計値が追加されると、すぐにトレンド分析が開始されます。スナップショットは、あらゆる時点のダッシュボード項目のパフォーマンスを示すために毎日キャプチャされるため、古いデータはありません。

ダッシュボードの [学習リソース] パネルでの学習ジャーニーの作成

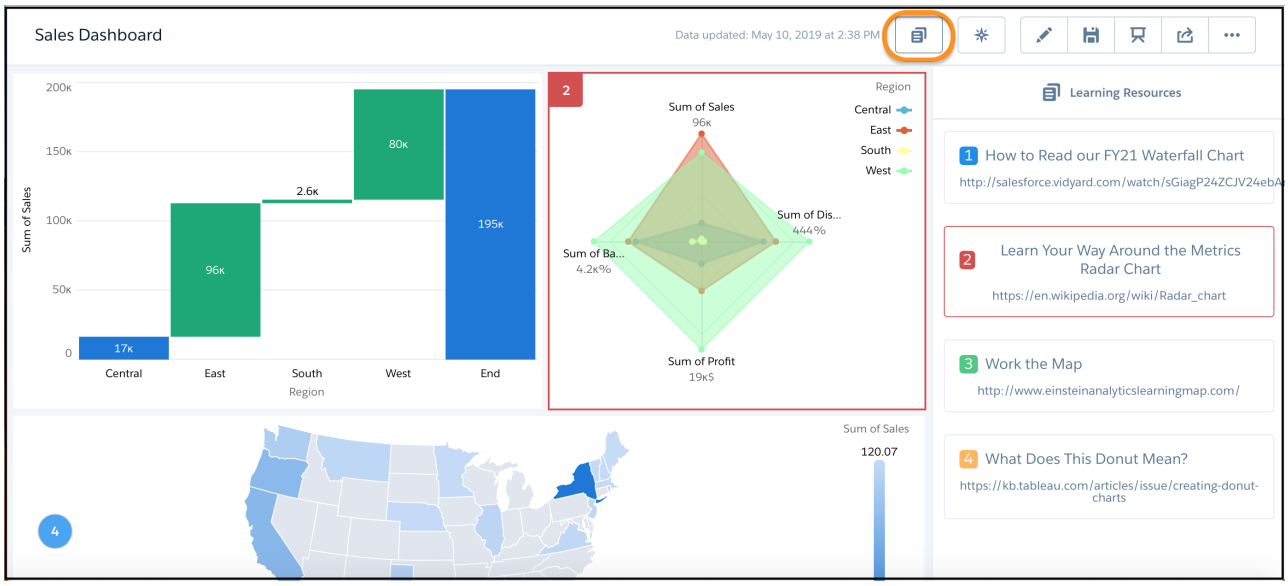
Einstein Analytics ユーザは、従来よりもはるかに簡単にアプリケーション内ガイダンスを見つけられるようになりました。ダッシュボードウィジェットで [学習] を選択すると、[学習リソース] パネルが開き、ダッシュボードのすべてのウィジェットの使用可能なオンボーディングコンテンツが表示されます。各グラフのカスタムオンボーディングを追加して、ダッシュボードを介したステップバイステップ学習の進行状況を作成します。

対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: ダッシュボードデザイナの [オンボーディング] プロパティで、ウィジェットのドロップダウンメニューに [学習] オプションを追加します。



オンボーディングが含まれるウィジェットが1つ以上あると、学習リソースアイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、[学習リソース]パネルが開いたり、閉じたりします。パネルが開いているときに、学習リソースにマウスポインタを置くと、それに付随するグラフが強調表示されます。各学習リソースには番号が付けられ、簡単に参照できるようにその番号がグラフに表示されます。

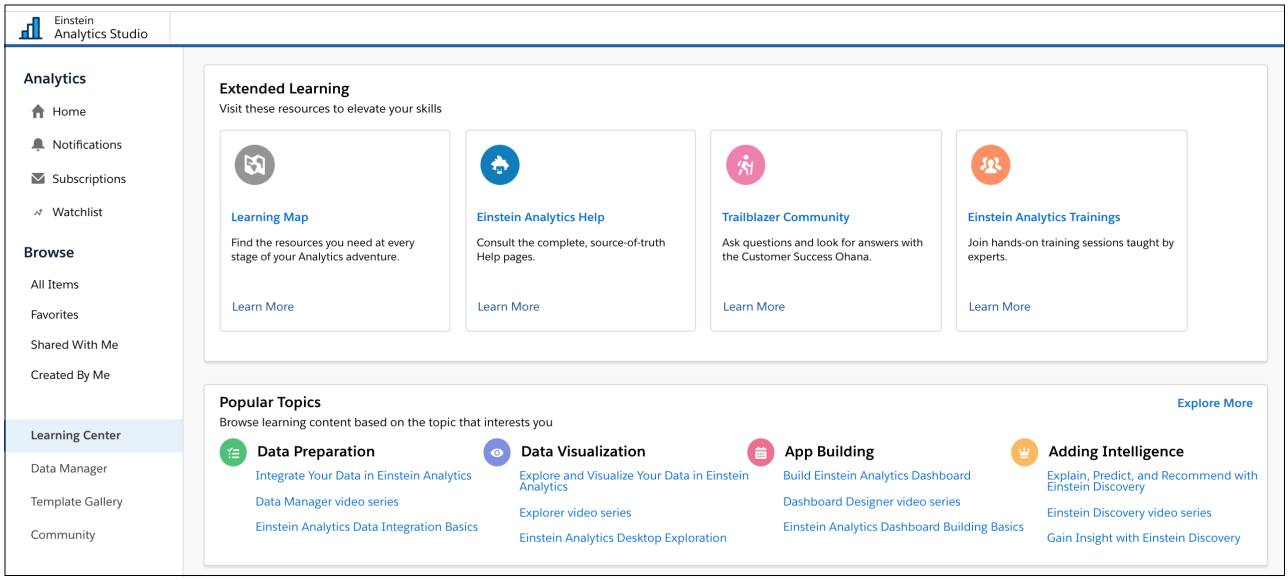


学習センターの人気のあるトピックの詳細

学習センターの新しい [人気のあるトピック] セクションを使用して、Einstein Analytics の教育を次のレベルに引き上げます。学習リソースへのリンクは機能ごとに整理されており、[もっと調べる]をクリックすればEinstein Analytics 学習マップの [ベストプラクティス] ページに移動できます。

対象: これらの変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での Einstein Analytics に適用されます。Einstein Analytics は、Developer Edition で使用できるほか、有料オプションで Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition で使用できます。

方法: Analytics Studio で、[学習センター] をクリックし、[広範な学習] (以前のタイトルは [学習を継続]) の後にある新しい [人気のあるトピック] セクションを見つけます。



Einstein Analytics for iOS/Android の Summer '20 バージョンの準備

数週間以内にこのページでモバイルの新機能が紹介されます。 Analytics モバイルアプリケーションの早期プレビューにアクセスするには、https://mobileanalyticsbeta.salesforce.com でベータチャネルにサインアップしてください。

対象: これらの変更は、 Einstein Analytics for iOS/Android **に適用されます。** Einstein Analytics **は、** Developer Edition **で使用できるほか、有料オプションで** Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Unlimited Edition **で使用できます。**

Lightning Experience の B2B Commerce、高度な注文管理機能

Salesforce Lightning Experience **の** B2B Commerce **では、企業間** (B2B) **コマースソリューションに** Salesforce Platform **の機能を取り込むことができます。** Salesforce**注文管理の拡張機能には、マルチ通貨、注文の総税額種別、キャンセルの返金、注文商品の割引、未管理注文、取引先および取引先責任者、** Adyen **を使用した支払処理のサポートが含まれます。**

このセクションの内容:

Lightning Experience の B2B Commerce

Lightning Experience **の** Salesforce B2B Commerce **には、企業間** (B2B) **コマースソリューションの設計、構築、稼働開始を行うツールが用意されています。**

Salesforce 注文管理

マルチ通貨、注文の総税額種別、キャンセル時の返金、注文商品の割引、未管理注文、取引先と取引先責任者、および Adyen **を使用した支払処理のサポートにより注文処理機能を拡張します。**

Lightning Experience の B2B Commerce

Lightning Experience の Salesforce B2B Commerce には、企業間 (B2B) コマースソリューションの設計、構築、稼働開始を行うツールが用意されています。

このセクションの内容:

Salesforce B2B Commerce: 企業間コマースソリューションの設計、構築、稼働開始
B2B Commerce ライセンスで Lightning 機能を使用して、セルフサービスストアを構築し、小売業者、卸売業者、流通業者が商品やサービスをお客様のブランドから購入できるようにします。

Salesforce B2B Commerce: 企業間コマースソリューションの設計、構築、稼働開始

B2B Commerce ライセンスで Lightning 機能を使用して、セルフサービスストアを構築し、小売業者、卸売業者、流通業者が商品やサービスをお客様のブランドから購入できるようにします。

対象: この機能は、Lightning Experience の新機能です。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: Lightning Experience の B2B Commerce を使用すると、次のことが可能になります。

- ユーザは、コア Salesforce の Commerce オブジェクトにアクセスできる。
- システム管理者は、Lightning Flow Builder を使用して、チェックアウトフローを作成できる。
- システム管理者は、顧客が検索を使用して商品を見つけることができるようにすることができる。
- システム管理者とマネージャは、Commerce アプリケーションを使用してストアのコンテンツ、エンタイトルメント、価格表、バイヤーを管理できる。
- システム管理者は、B2B Commerce テンプレートを使用して組み込み機能で簡単にストアを作成できる。
- システム管理者は、外部の注文管理システムによって管理されている注文を未管理注文概要として Salesforce にインポートできる。

ユーザは、新しい B2B Commerce Lightning テンプレートを使用してストアを作成したり、Visualforce 用の B2B Commerce を使用してストアフロントを作成したりできます。B2B Commerce 管理パッケージの最新の開発については、Visualforce 用の B2B Commerce Spring '20 (バージョン 4.12) リリースノートを参照してください。

Connect REST API および Connect in Apex を使用して、Lightning Experience の Salesforce B2B Commerce を操作することもできます。

このセクションの内容:

Salesforce コアプラットフォームから B2B Commerce オブジェクトへのアクセス
Lightning Experience の B2B Commerce は、Salesforce Platform 上に直接構築されます。顧客の単一ビュー、営業チームとサービスチームの商談の増加、ビジネスの成長に合わせてスケールされる組み込みイノベーションを得られます。

Commerce アプリケーションを使用したコンテンツ、エンタイトルメント、価格表、バイヤーの管理

プロモーション、販売、常に進化し続ける市場に対応するために、ストアマネージャにはやることが沢山あります。Commerce アプリケーションには、ストアを設定および更新したり、価格が正しく表示されるようにしたり、バイヤーが適切なストアにアクセスできるようにしたりするための合理的な方法が用意されています。

Lightning フローマネージャを使用した B2B チェックアウトフローの作成

柔軟な Lightning フローマネージャを使用して独自のチェックアウト環境を作成します。フローの機能を活用すると、チェックアウトを拡張して、複雑な複数ステップのプロセスを作成したり、小規模ビジネスのニーズに合わせて合理化したりできます。

バイヤーによる検索を使用した商品の検出

ストアで検出可能な商品および項目を制御します。検索可能としてマークして、検索条件として使用する商品項目を選択し、検索インデックスを構築します。検索インデックスにより、簡単に新しいコンテンツをストアに公開して、検索結果で新しいコンテンツが返されることを確認できます。

B2B Commerce テンプレートを使用した優れたバイヤー環境の作成

B2B Commerce テンプレートで使用できる、コマースに最適化されたページおよびコンポーネントを使用してバイヤー環境を稼働させます。B2B Commerce テンプレートは、バイヤー環境の作成の潜在的な複雑さを管理するのに役立ちます。信頼性と安全性の高い迅速な方法で完環境を作成し、販売を行うことができます。

関連トピック:

- Salesforce 注文管理での未管理注文のレコードの保存

Salesforce コアプラットフォームから B2B Commerce オブジェクトへのアクセス

Lightning Experience の B2B Commerce は、Salesforce Platform 上に直接構築されます。顧客の単一ビュー、営業チームとサービスチームの商談の増加、ビジネスの成長に合わせてスケールされる組み込みイノベーションを得られます。

対象: この機能は、Personal Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の新機能です。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: Lightning Experience の B2B Commerce は、すべての Salesforce オブジェクトに直接接続されます。営業チームは、コマース機能を使用して、商品を求める新規顧客にリーチできます。サービスチームには、営業サイクル全体の卓越したサポートを提供できるように顧客の単一ビューが表示されます。Lightning Experience の B2B

Commerce は、Salesforce Platform 上に直接構築されるため、年 3 回のリリースのイノベーションの恩恵を受けられます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience の Salesforce B2B Commerce (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning B2B Commerce の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: バイヤーユーザやバイヤーマネージャの権限セットの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Commerce アプリケーションを使用したコンテンツ、エンタイトルメント、価格表、バイヤーの管理

プロモーション、販売、常に進化し続ける市場に対応するために、ストアマネージャにはやることが沢山あります。Commerce アプリケーションには、ストアを設定および更新したり、価格が正しく表示されるようにしたり、バイヤーが適切なストアにアクセスできるようにしたりするための合理的な方法が用意されています。

対象: この機能は、Personal Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の新機能です。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: Commerce アプリケーションでは、豊富なコンテンツを備えたマルチ言語ストアをすばやく設定できます。クイックリンク、タイル、ワークスペースにより、ストアマネージャは、複数の設定領域間を移動しているときでも、作業している画面のコンテキストを維持できます。ストアマネージャは、Commerce アプリケーションから次の作業を行うことができます。

- 商品にカテゴリを設定し、カタログでストアに関連付ける。
- リッチメディアコンテンツを設定し、バイヤーの環境を強化する。
- 複数言語のストアを設定する (商品やカテゴリの翻訳など)。
- (商品やバイヤーグループと) 価格表の関連付けを設定する。
- この関連付けにより、ストアで標準価格または交渉済み価格が提供されるかどうかも決まります。
- バイヤーは、資格のあるストア、商品、価格にアクセスできます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience の Salesforce B2B Commerce (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Commerce アプリケーションのストアデータの管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning フローマネージャを使用した B2B チェックアウトフローの作成

柔軟な Lightning フローマネージャを使用して独自のチェックアウト環境を作成します。フローの機能を活用すると、チェックアウトを拡張して、複雑な複数ステップのプロセスを作成したり、小規模ビジネスのニーズに合わせて合理化したりできます。

対象: この機能は、Personal Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の新機能です。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: テンプレートを使用してチェックアウトを作成し、チェックアウトプロセスの各ステップを制御します。Lightning フローマネージャのビジュアルキャンバスで各チェックアウトの相互的なつながりや影響を把握し、エクスペリエンスビルダーでチェックアウトを完成させます。価格設定、課税、在庫、配送に対応する外部システムに接続し、商品に関する情報を即座に受信します。

関連トピック:

- *Salesforce ヘルプ*: Lightning Experience の Salesforce B2B Commerce (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce ヘルプ*: Checkout の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

バイヤーによる検索を使用した商品の検出

ストアで検出可能な商品および項目を制御します。検索可能としてマークして、検索条件として使用する商品項目を選択し、検索インデックスを構築します。検索インデックスにより、簡単に新しいコンテンツをストアに公開して、検索結果で新しいコンテンツが返されることを確認できます。

対象: この機能は、Personal Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の新機能です。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce ライセンスを持つユーザが使用できます。

理由: 商品および項目を検索可能としてマークできるため、バイヤーに表示される情報を完全に制御できます。商品項目を検索条件として使用して、バイヤーが各自の検索結果を制御できるようにします。変更は、検索インデックスを構築または再構築するまで内部のみのままです。この遅延により、ストアデザイナはバイヤーに提供する前に商品の表示方法を設定できます。

商品および項目をマークすれば完了です。検索インデックスを構築し、ス評価済みの変更をトアに対して行うたびに再構築します。

関連トピック:

- *Salesforce ヘルプ*: Lightning Experience の Salesforce B2B Commerce (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: 検索の設定および管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

B2B Commerce テンプレートを使用した優れたバイヤー環境の作成

B2B Commerce テンプレートで使用できる、コマースに最適化されたページおよびコンポーネントを使用してバイヤー環境を稼働させます。B2B Commerce テンプレートは、バイヤー環境の作成の潜在的な複雑さを管理するのに役立ちます。信頼性と安全性の高い迅速な方法で完環境を作成し、販売を行うことができます。

対象: この機能は、 Personal Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、**および** Developer Edition **の** Lightning Experience **の新機能です。**

対象ユーザ: この機能は、 B2B Commerce **ライセンスを持つユーザが使用できます。**

理由: B2B Commerce **ソリューションの構築は、非常に複雑になります。すべてのバックグラウンド要素 (カタログ、バイヤーエンタイトルメント、翻訳、価格設定) の精度と堅牢性を確保しながら、これらを優れたユーザインターフェースの背後に押し込み、複雑な詳細がバイヤーから見えないようにするには、商品の複数のビュー、商品データを取り込んで表示する方法、バイヤーに表示する前にページをプレビューする方法を提供するインターフェースが必要です。** Commerce **アプリケーションは、商業的な目標を達成するのに非常に役立ちます。** B2B Commerce **テンプレートを使用すると、バイヤー向けの優れた環境をスムーズに完成させることができます。**

B2B Commerce **テンプレートには、ページおよびコンポーネントに組み込まれたストアロジックがあります。多くのコンポーネントを使用して、検索結果に表示する商品項目を選択できます。選択した項目のデータはページに直接取り込まれるため、コーディングは不要です。商品の詳細ページの画像カルーセルにより、商品の複数のパースペクティブを表示できます。** CMS **と緊密に連携しているため、画像や添付ファイルをすぐにストアに取り込むことができます。また、複数ページのビューも用意されています。各ページでは、カタログページや検索結果のリストビュー、グリッドビュー、詳細商品ビューを表示できます。**

テンプレートで提供されるコマース対応ページを次に示します。

- [**カート**] **および** [**チェックアウト**] **ページでは、商品を選択および購入するバイヤーをサポートします。**
- [**カテゴリ**] **ページには、選択したカテゴリのすべての商品などが表示されます。**
- [**検索**] **ページでは、商品検索結果のレイアウトやデザインを制御できます。**
- [**検索結果がありません**] **ページでは、検索で商品が返されない場合のバイヤーの環境を作成できます。**
- [**注文の簡易作成**] **ページでは、バイヤーは知名度の高い** 1 **つ以上の商品をすばやく注文できます。**
- [**注文履歴**] **ページでは、バイヤーの以前の注文に簡単にアクセスできます。**
- [**リスト**] **ページ (ベータ) を使用すると、最大** 10 **個の個人リスト (各リストには最大** 100 **個のリスト項目が含まれる) がバイヤーに表示されます。**
- [**取引先管理**] **ページでは、バイヤーアカウントの簡潔なビューやそれらを管理するためのツールがストアマネージャに提供されます。**

関連トピック:

Salesforce **ヘルプ:** Lightning Experience **の** Salesforce B2B Commerce **(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)**

Salesforce **ヘルプ:** B2B Commerce **テンプレートページ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)**

Salesforce 注文管理

マルチ通貨、注文の総税額種別、キャンセル時の返金、注文商品の割引、未管理注文、取引先と取引先責任者、および Adyen を使用した支払処理のサポートにより注文処理機能を拡張します。

このセクションの内容:

マルチ通貨の有効化

組織で Salesforce マルチ通貨機能を有効化し、注文管理全体の通貨項目でマルチ通貨を使用する機能を設定します。

総税額または正味税額を使用した注文の提供

総税額種別 (付加価値税 (VAT) など) を使用する国では、正味税額種別 (消費税など) を使用する国とは異なる方法で税額が注文商品、調整、および配送に含まれます。Salesforce 注文管理でいずれかの税種別を使用して注文を管理できるようになりました。

キャンセルされた注文品目の返金処理

注文の作成時に支払を収集している場合、注文から品目をキャンセルするときに返金支払を処理できます。

注文商品概要への割引の適用

注文商品概要に割引を適用できます。割引を実際に適用する前に割引の適用結果をプレビューすることもできます。Salesforce 注文管理には、割引を処理するための標準フロー、Flow Builder のアクション、Connect in Apex メソッド、および Connect REST API リソースが含まれます。この機能は、使い慣れたキャンセル機能や返品機能によく似ています。

Salesforce 注文管理での未管理注文のレコードの保存

未管理注文概要を作成して、外部で管理される注文データを、Salesforce 注文管理で管理する注文と共に Salesforce 組織に保存できます。ユーザは未管理注文概要と関連レコードを直接編集できますが、Salesforce 注文管理ツールではそれらを処理できません。

個人取引先の代わりに標準の取引先と取引先責任者で買い物客を表す

標準の取引先および取引先責任者レコードで買い物客を表すように Salesforce 注文管理を設定できるようになりました。個人取引先は必要ではなくなりました。

Adyen を使用した非同期支払トランザクションの処理

Salesforce 注文管理で Adyen 支払プラットフォームを使用して、非同期支払トランザクションを処理できるようになりました。

更新された標準フローを使用した新しい処理機能へのアクセス

標準フロー (返品フロー、キャンセルフロー、および注文概要フロー) がこのリリースの新機能をサポートするように更新されました。

バージョン 224 からバージョン 226 への Salesforce 注文管理の更新

既存の Salesforce 注文管理実装をバージョン 226 に更新するには、『*Salesforce Order Management Implementation Guide (Salesforce 注文管理実装ガイド)*』の「Update from a Previous Version (以前のバージョンからの更新)」セクションの手順に従います。この新機能を使用しない場合も、いくつかの手順が必要です。

マルチ通貨の有効化

組織で Salesforce マルチ通貨機能を有効化し、注文管理全体の通貨項目でマルチ通貨を使用する機能を設定します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で有料で使用できる Salesforce 注文管理に適用されます。

理由: 組織が複数の国で事業を行っている場合、マルチ通貨機能を有効化すると、事業を行っているすべての国の通貨を使用して注文を管理できます。

マルチ通貨を有効化する場合、Salesforce システム管理者は、本社の通貨を反映するマスタ通貨を設定します。また、システム管理者は、有効な通貨と、マスタ通貨に対する換算レートのリストも設定します。有効な通貨は、組織が事業を行っている国を表します。注文管理では、有効ないずれかの通貨を使用する注文のみがインポートされます。

方法: この機能を有効化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「組織情報」と入力します。次に、[組織情報] を選択し、[編集] をクリックします。[マルチ通貨の有効化] を有効化して、変更を保存します。

重要: マルチ通貨を有効化すると、組織に永続的な変更が適用されます。この機能は無効化できません。有効化する前に「マルチ通貨の有効化に関する考慮事項」を確認してください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:マルチ通貨の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

総税額または正味税額を使用した注文の提供

総税額種別 (付加価値税 (VAT) など) を使用する国では、正味税額種別 (消費税など) を使用する国とは異なる方法で税額が注文商品、調整、および配送に含まれます。Salesforce 注文管理でいずれかの税種別を使用して注文を管理できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で有料で使用できる Salesforce 注文管理に適用されます。

理由: デフォルトでは、注文管理では注文、注文概要、履行注文、請求書、クレジットメモに正味税額が表示されます。付加価値税を使用している国で組織が事業を行っている場合、注文、注文概要、履行注文、請求書、およびクレジットメモに総税額を表示して、これらの注文を適切に提供できるようにする必要があります。注文管理では、正味税額注文と総税額注文を区別して、それに応じて注文オブジェクトのユーザインターフェース表示を調整できるようになりました。

注文が作成されると、注文管理は、元のトランザクション注文が総税額注文であるか正味税額注文であるかを判別します。注文の税種別は、[注文概要] ページの新しい [税金の地域種別] 項目に表示されます。税金の地域種別によって、ユーザユーザインターフェースに表示される項目が決まります。

- 総額 - 税金の地域種別が総額に設定されている場合、ほとんどの価格と税金は合計された値として表示されます。
- 正価 - 税金の地域種別が正価に設定されている場合、ほとんどの価格と税金は別々の値として表示されます。

総税額を使用する注文と、正味税額を使用する注文を混在することはできますが、1 つの注文で両方の税種別を使用することはできません。トランザクション注文で税金の地域が指定されていない場合、税金の地域種別はデフォルトで正価になります。

方法:総税額の項目と値を[注文概要]ページの合計コンポーネントに表示するには、Lightning アプリケーションビルダーを使用してコンポーネント項目を編集します。

関連トピック:

Salesforce Order Management Implementation Guide (Salesforce 注文管理実装ガイド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

キャンセルされた注文品目の返金処理

注文の作成時に支払を収集している場合、注文から品目をキャンセルするときに返金支払を処理できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で有料で使用できる Salesforce 注文管理に適用されます。

理由: 注文の作成時に支払を収集しており、注文の履行前に顧客が 1 つ以上の品目を注文からキャンセルした場合、顧客に返金する義務があります。[注文概要] ページで [品目をキャンセル] アクションを使用してキャンセルを開始したときに、超過資金があるかどうかを確認するように[品目をキャンセル]フローが更新されました。[品目をキャンセル] フローで超過資金が検出された場合、[返金を確認] アクションがコールされ、キャンセルされた品目に対する返金が開始されます。[品目をキャンセル]プレビュー画面には、キャンセルされた品目の注文に適用される返金額が表示されます。キャンセルを送信すると、[注文概要] ページの [フィード] タブに返金の詳細が表示されます。このシナリオでは、注文管理は、収集および返金トランザクションに対して請求書またはクレジットメモを生成しません。

方法: 新しい [品目をキャンセル] フローを使用するには、フローをコピーして、新しいフローを有効化し、既存のすべてのバージョンを無効化します。次に、対応するアクション&おすすめリリースを新しい[品目をキャンセル] フローで更新します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:注文品目のキャンセル (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

注文商品概要への割引の適用

注文商品概要に割引を適用できます。割引を実際に適用する前に割引の適用結果をプレビューすることもできます。Salesforce 注文管理には、割引を処理するための標準フロー、Flow Builder のアクション、Connect in Apex メソッド、および Connect REST API リソースが含まれます。この機能は、使い慣れたキャンセル機能や返品機能によく似ています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で有料で使用できる Salesforce 注文管理に適用されます。

Salesforce 注文管理での未管理注文のレコードの保存

未管理注文概要を作成して、外部で管理される注文データを、Salesforce注文管理で管理する注文と共にSalesforce組織に保存できます。ユーザは未管理注文概要と関連レコードを直接編集できますが、Salesforce注文管理ツールではそれらを処理できません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で有料で使用できる Salesforce 注文管理に適用されます。また、Personal Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Developer Edition の Lightning Experience で有料で使用できる Salesforce B2B Commerce にも適用されます。

理由: 注文管理オブジェクトでは非常に複雑なリレーションが使用され、機密の財務データが管理されるため、そのデータを編集する機能は厳格に制限されます。たとえば、注文商品概要の数量を直接変更したり、注文概要への総請求金額を直接減額したりできません。代わりに、注文と注文データを処理するための標準フローや API などのツールが提供されています。このツールを使用すると、レコードが同期され、悪意のある改ざんを防止できます。

Salesforce 注文管理で管理していない注文を Salesforce 組織に保存する場合はどうすればよいでしょうか? たとえば、オンライン小売業者が従来の注文管理システムからの履歴データを持っていますが、その注文レコードを複数のシステムに分散したくないと考えています。履歴データを表す未管理注文概要を作成することで、過去と現在のすべての注文データを結合したリポジトリを維持できます。また、従来の注文が誤って処理されることを心配する必要はありません。

方法: 未管理注文概要を作成するには、[注文概要を作成] フロー、アクション、または API の入力で注文ライフサイクル種別を *[未管理]* として指定します。

未管理注文概要に関連するレコードのデータをユーザが直接編集できるようにするには、ユーザに「未管理注文概要を編集」権限または「B2B Commerce インテグレータユーザ」権限を割り当てます。

関連トピック:

Salesforce B2B Commerce: **企業間コマースソリューションの設計、構築、稼働開始**

個人取引先の代わりに標準の取引先と取引先責任者で買い物客を表す

標準の取引先および取引先責任者レコードで買い物客を表すようにSalesforce注文管理を設定できるようになりました。個人取引先は必要ではなくなりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で有料で使用できる Salesforce 注文管理に適用されます。

方法: 個人取引先で買い物客を表すには、注文管理の組織設定で [買い物客用個人取引先] を有効化します。標準の取引先と取引先責任者で買い物客を表すには、[買い物客用個人取引先] を無効化します。考えを変えることもできますが、複雑になる可能性があります。注文管理は個人取引先を使用するように設定されていますが、B2CCommerceインテグレーションは、標準取引先として作成された買い物客レコードを認識しません。このいずれかの買い物客が注文を実行すると、その個別の個人取引先レコードが作成され、新規注文に関連付けられます。ただし、注文管理は標準の取引先を使用するように設定されている場合、個人取引先として作成された既存の買い物客を認識します。この買い物客が実行した新規注文は、既存の個人取引先に関連付けられます。

メモ: この設定の変更が有効になるまで最大 1 時間かかる可能性があります。

Adyen を使用した非同期支払トランザクションの処理

Salesforce 注文管理で Adyen 支払プラットフォームを使用して、非同期支払トランザクションを処理できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で有料で使用できる Salesforce 注文管理に適用されます。

理由: Adyen の非同期 API を使用して、購入後の支払トランザクションを処理し、支払収集と返金を含め、待機中のトランザクション、完了したトランザクション、および失敗したトランザクションの状況を表示します。

方法: AppExchange で Salesforce 注文管理向け Adyen インテグレーションにアクセスします。

更新された標準フローを使用した新しい処理機能へのアクセス

標準フロー(返品フロー、キャンセルフロー、および注文概要フロー)がこのリリースの新機能をサポートするように更新されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で有料で使用できる Salesforce 注文管理に適用されます。

理由: 返品フロー、キャンセルフロー、および注文概要フローがマルチ通貨と、正味額および総額の地域の税金種別をサポートするように更新されました。また、これらのフローは、管理対象注文概要でのみ実行されるように更新されました。未管理(外部の)注文概要では実行されません。さらに、キャンセルフローは、キャンセルされた品目に対する返金をサポートするように更新されました。この新しい標準フローを使用するには、フローをコピーして、新しいバージョンを有効化し、既存のすべてのバージョンを無効化します。次に、対応するアクション & おすすめリリースを新しいフローで更新します。

以前のリリースでフローをカスタマイズしている場合、そのカスタマイズを新しいフローに再適用する必要があります。カスタマイズをサブフローに適用することをお勧めします。これで、標準フローへの今後の更新を新しいフローにコピーして、カスタマイズしたサブフローを、コピーされた新しいフローからコールできます。

関連トピック:

Salesforce Order Management Implementation Guide (Salesforce 注文管理実装ガイド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

バージョン 224 からバージョン 226 への Salesforce 注文管理の更新

既存の Salesforce 注文管理実装をバージョン 226 に更新するには、『*Salesforce Order Management Implementation Guide (Salesforce 注文管理実装ガイド)*』の「Update from a Previous Version (以前のバージョンからの更新)」セクションの手順に従います。この新機能を使用しない場合も、いくつかの手順が必要です。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience で有料で使用できる Salesforce 注文管理に適用されます。

関連トピック:

Salesforce Order Management Implementation Guide (Salesforce 注文管理実装ガイド) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティ: 強化されたパーソナライズ、改良されたメニューコンポーネント、ゲストユーザセキュリティ

パーソナライズには、エクスペリエンスビルダーとAPIの両方で使用可能な多数の機能強化があります。改良されたタイルメニューなどのナビゲーションコンポーネントに異なるリンクセットを表示します。セキュリティのさまざまな機能強化によってデータを安全に維持できます。また、Winter '21以降、ゲストユーザセキュリティ設定の有効化からオプトアウトするオプションは表示されなくなるため、今のうちにその準備をしてください。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

ヒント: 今日のSalesforceには多数のLightning (Lightning Experience、Lightningフレームワーク、Lightning Webコンポーネント)が存在しており、各々のコミュニティへの適用方法を理解するのは難しいかもしれません。概要は次のとおりです。

Lightningコミュニティは、Lightning Experienceと同様、Lightningプラットフォームと Lightningコンポーネントを基盤としています。ただし、これらを使用するために Lightning Experience を有効にする必要はありません。

また、コミュニティユーザに影響する変更については、リリースノートの「Lightning コンポーネント」セクションを参照してください。

このセクションの内容:

Lightning コミュニティ: 改良されたタイルメニュー、容易になったページ管理、必要に応じたサイトマップの生成

改良されたタイルメニューコンポーネントを使用してコミュニティをカスタマイズします。フォルダを使用してコミュニティのページをより容易に管理します。必要に応じてサイトのSEOサイトマップを生成します。

開発者の生産性: パーソナライズ、ExperienceBundle、Build Your Own (LWC) テンプレート

パーソナライズ、ExperienceBundle、Build Your Own (LWC) テンプレートの改善により、コミュニティをより効率的に開発します。

ゲストユーザ: セキュリティポリシーの適用

過去数回のリリースで、Salesforceは、公開サイトのセキュリティポリシー全体を構成するさまざまなセキュリティ設定を実装してきました。Summer '20 リリースでは、組織で一部の設定が自動的に有効化されますが、その設定をオプトアウトできます。ただし、お勧めしません。次回のリリース(Winter '21)以降、公開サイトのセキュリティ設定が有効化され、オプトアウトするオプションはなくなります。組織で必要なすべてのセキュリティ設定を有効にして、実装をテストしてください。

セキュリティと共有: 外部ユーザの2要素認証、埋め込みログイン

外部ユーザの2要素認証を有効にします。コミュニティですでに設定されているログインページ種別を使用するように埋め込みログインを設定します。

コミュニティのその他の変更

コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

Lightning コミュニティ: 改良されたタイルメニュー、容易になったページ管理、必要に応じたサイトマップの生成

改良されたタイルメニューコンポーネントを使用してコミュニティをカスタマイズします。フォルダを使用してコミュニティのページをより容易に管理します。必要に応じてサイトの SEO サイトマップを生成します。

このセクションの内容:

予定されている CSP の変更に備えたコミュニティの準備
Lightning コミュニティでの標準アクションの上書き
ナビゲーションメニュー、タイルメニュー、CMS コレクションを使用したさらなるパーソナライズ
活動目的アクティビティ数のリセット
コミュニティページの管理の向上
コミュニティページのサイトマップの生成
コンテンツの詳細ページへの動的 SEO プロパティの追加

予定されている CSP の変更に備えたコミュニティの準備

Spring '21 (February 2021 年 2 月) で [インラインスクリプトと、任意のサードパーティホストへのスクリプトアクセスを許可] CSP 設定は削除されます。コミュニティを Spring '19 より前に作成し、この設定を現在使用している場合は、今のうちに準備をしてください。

Lightning コミュニティでの標準アクションの上書き

カスタム Lightning コンポーネントを追加し、[新規] または [編集] ボタンをユーザがクリックしたときの標準フォームを置き換えることで、コミュニティユーザの環境をパーソナライズします。Salesforce 標準ページで提供されるユーザ環境よりもさらにカスタマイズされたユーザ環境がコミュニティおよびポータルユーザで必要とされる場合、アクション上書きを使用します。

ナビゲーションメニュー、タイルメニュー、CMS コレクションを使用したさらなるパーソナライズ

ユーザにどのコンポーネントを表示するかだけでなく、コンポーネント内の何を表示するかを決定できるようになりました。コンポーネント内の CMS コレクション、ナビゲーションメニュー、タイルメニューのバリエーションをパーソナライズできます。以前は、ページのバリエーション、ブランドセット、コンポーネントのみをパーソナライズできました。

活動目的アクティビティ数のリセット

ボタンをクリックして、活動目的バッジアクティビティカウンタをリセットできるようになりました。以前は、活動目的の作成時にアクティビティ数がリセットされなかったため、メンバーは追加の作業なしでバッジを取得していました。これを修正しました。ただし、コミュニティのすべてのゲーミフィケーションアクティビティのカウンタがリセットされるため、この機能は慎重に使用してください。

コミュニティページの管理の向上

改善されたコミュニティページメニューにより、ページへの移動とページの編集が容易になります。ページを検索してページが存在するフォルダを表示し、検索結果からページを直接選択して編集します。

コミュニティページのサイトマップの生成

サイトマップの自動生成プロセス以外でコミュニティの SEO サイトマップを生成できるようになりました。24 時間ごとに 1 回、サイトマップの手動更新を容易に開始できます。完全なサイトマップは日曜日ごとに 1 回自動的に更新されますが、すべての新しいページを含むサイトマップが 24 時間ごとに 1 回更新されます。

コンテンツの詳細ページへの動的 SEO プロパティの追加

動的 SEO 値を Lightning コミュニティのコンテンツ詳細ページに追加して、検索エンジンの結果を改善し、顧客が探している Salesforce CMS コンテンツを容易に見つけることができるようにします。

改良されたタイルメニューを使用したコミュニティの詳細なカスタマイズ

改良された Lightning Web コンポーネントのタイルメニューを使用して、視覚的にインパクトのある、コミュニティのナビゲーション環境を作成します。新しいタイルメニューのカスタマイズでは、旧バージョンよりも多くのカスタマイズオプションが提供されています。コンポーネントパネルで新しいタイルメニューを確認してください。現在、コミュニティページで旧バージョンのタイルメニューを使用している場合、新バージョンを試すときは、該当のコンポーネントを削除するだけで新バージョンを使用できます。新バージョンには、旧バージョンのすべてのカスタマイズとその他の機能が含まれます。

柔軟性が向上した新しいユーザプロファイルメニューコンポーネント

メニュー項目を設定し、パーソナライズを使用し、ユーザの会社のロゴと名前を表示するように選択できるようになりました。Summer '20 以降、[カスタマイズ可能なユーザプロファイルメニュー] コンポーネントが新しい B2B Commerce テンプレートと、特定のテーマ (残り火、ステラ、ウェブスター、市民、ヒノキ、ジェプソンなど) を使用する新しいコミュニティを使用して、Lightning コミュニティの [ユーザプロファイル] コンポーネントを置き換えます。これらのテーマを使用する既存のコミュニティがテーマを再適用または変更すると、コミュニティは旧バージョンではなく新しいコンポーネントを取得します。

コミュニティの複数レベルのナビゲーションオプションの増加

新しい複数レベルのナビゲーションメニューコンポーネントを使用して、コミュニティのナビゲーションに新しいデザインを適用します。

予定されている CSP の変更に備えたコミュニティの準備

Spring '21 (February 2021 年 2 月) で [インラインスクリプトと、任意のサードパーティホストへのスクリプトアクセスを許可] CSP 設定は削除されます。コミュニティを Spring '19 より前に作成し、この設定を現在使用している場合は、今のうちに準備をしてください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: [インラインスクリプトと、任意のサードパーティホストへのスクリプトアクセスを許可] CSP オプションを使用すると、すべてのサードパーティホストへのアクセスが許可され、セキュリティは強化されません。すべてのコミュニティのセキュリティを改善するため、この設定は Spring '21 で削除されます。

この変更に備えるとともに十分なテスト時間を確保するには、コミュニティをよりセキュアなオプションに今すぐ切り替えることをお勧めします。次のセキュリティレベルから選択できます。

セキュリティレベル	説明
厳格な CSP: インラインスクリプトと、すべてのサードパーティホストへのスクリプトアクセスをブロック	最大のセキュリティが提供されます。 • すべてのインラインスクリプトの実行と、リモート JavaScript ファイルに対するすべての要求をブロックします。 • 明示的に許可されているサードパーティホストからの非スクリプトリソース (画像など) の表示は許可されます。 • Lightning Locker は有効になります。

セキュリティレベル	説明
インラインスクリプトと、ホワイトリストに登録されたサードパーティホストへのスクリプトアクセスを許可	中程度のセキュリティが提供されます。 • サイトでのインラインスクリプトの実行を許可します。 • 明示的に許可されているサードパーティホストからのリモート JavaScript ファイルの読み込みと非スクリプトリソース (画像など) の表示は許可されます。 • Lightning Locker を無効化できます。

関連トピック:

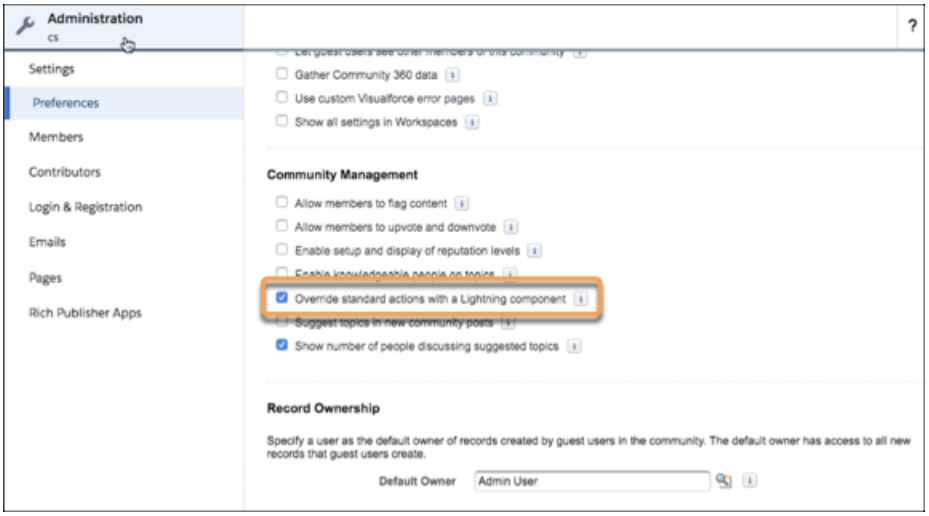
Salesforce ヘルプ: Lightning コミュニティの CSP および Lightning Locker (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning コミュニティでの標準アクションの上書き

カスタム Lightning コンポーネントを追加し、[新規] または [編集] ボタンをユーザがクリックしたときの標準フォームを置き換えることで、コミュニティユーザの環境をパーソナライズします。Salesforce 標準ページで提供されるユーザ環境よりもさらにカスタマイズされたユーザ環境がコミュニティおよびポータルユーザで必要とされる場合、アクション上書きを使用します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: コミュニティのアクションを上書きするには、エクスペリエンスワークスペース > [管理] で [Lightning コンポーネントでの標準アクションの上書き] オプションをオンにします。Lightning Experience で選択するアクションは、Lightning コミュニティでアクションを上書きするために使用するアクションと同じです。



関連トピック:

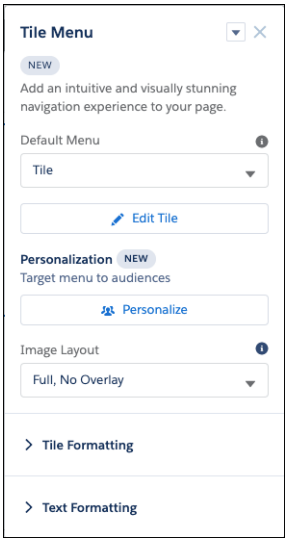
Salesforce ヘルプ: 標準アクションの上書き (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ナビゲーションメニュー、タイルメニュー、CMS コレクションを使用したさらなるパーソナライズ

ユーザにどのコンポーネントを表示するかだけでなく、コンポーネント内の何を表示するかを決定できるようになりました。コンポーネント内の CMS コレクション、ナビゲーションメニュー、タイルメニューのバリエーションをパーソナライズできます。以前は、ページのバリエーション、ブランドセット、コンポーネントのみをパーソナライズできました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: エクスペリエンスビルダーでコンポーネントをクリックします。[パーソナライズ] をクリックして、利用者をコレクション、ナビゲーションメニュー、またはタイルメニューに割り当てます。



活動目的アクティビティ数のリセット

ボタンをクリックして、活動目的バッジアクティビティカウンタをリセットできるようになりました。以前は、活動目的の作成時にアクティビティ数がリセットされなかったため、メンバーは追加の作業なしでバッジを取得していました。これを修正しました。ただし、コミュニティのすべてのゲーミフィケーションアクティビティのカウンタがリセットされるため、この機能は慎重に使用してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: ワークスペースで [ゲーミフィケーション] をクリックします。活動目的ページを開いて、[アクティビティ数をリセット] をクリックします。

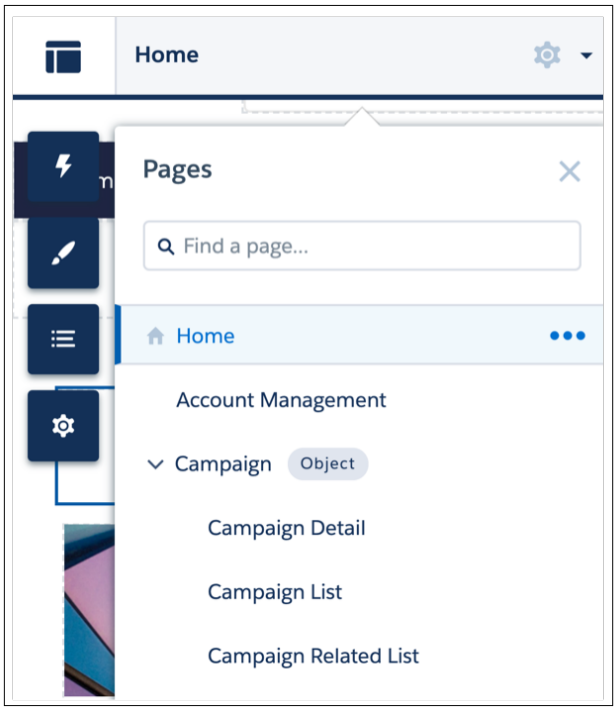
Connect REST API および Connect in Apex を使用して活動目的アクティビティ数をリセットすることもできます。

コミュニティページの管理の向上

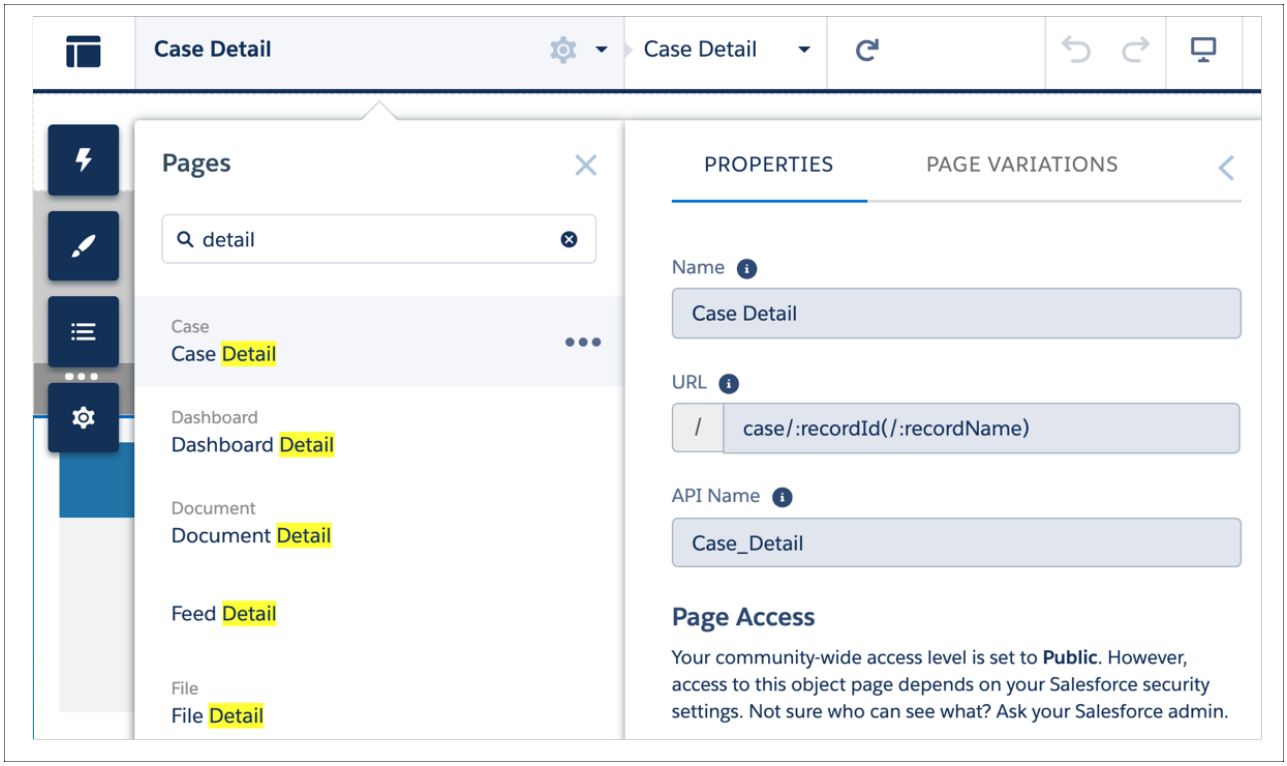
改善されたコミュニティページメニューにより、ページへの移動とページの編集が容易になります。ページを検索してページが存在するフォルダを表示し、検索結果からページを直接選択して編集します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: エクスペリエンスビルダーで、[ページ] メニューパネルに移動して、コミュニティのすべてのページを表示します。オブジェクトおよびコンテンツページは、関連付けられたページ (詳細ページや関連リストページなど) と共にグループ化されます。



[ページ]メニュー内のページをクリックし、キャンバスにページを表示して、そのページプロパティを編集します。ページタイトルを検索した場合は、ページプロパティを検索結果から直接編集することもできます。



コミュニティページのサイトマップの生成

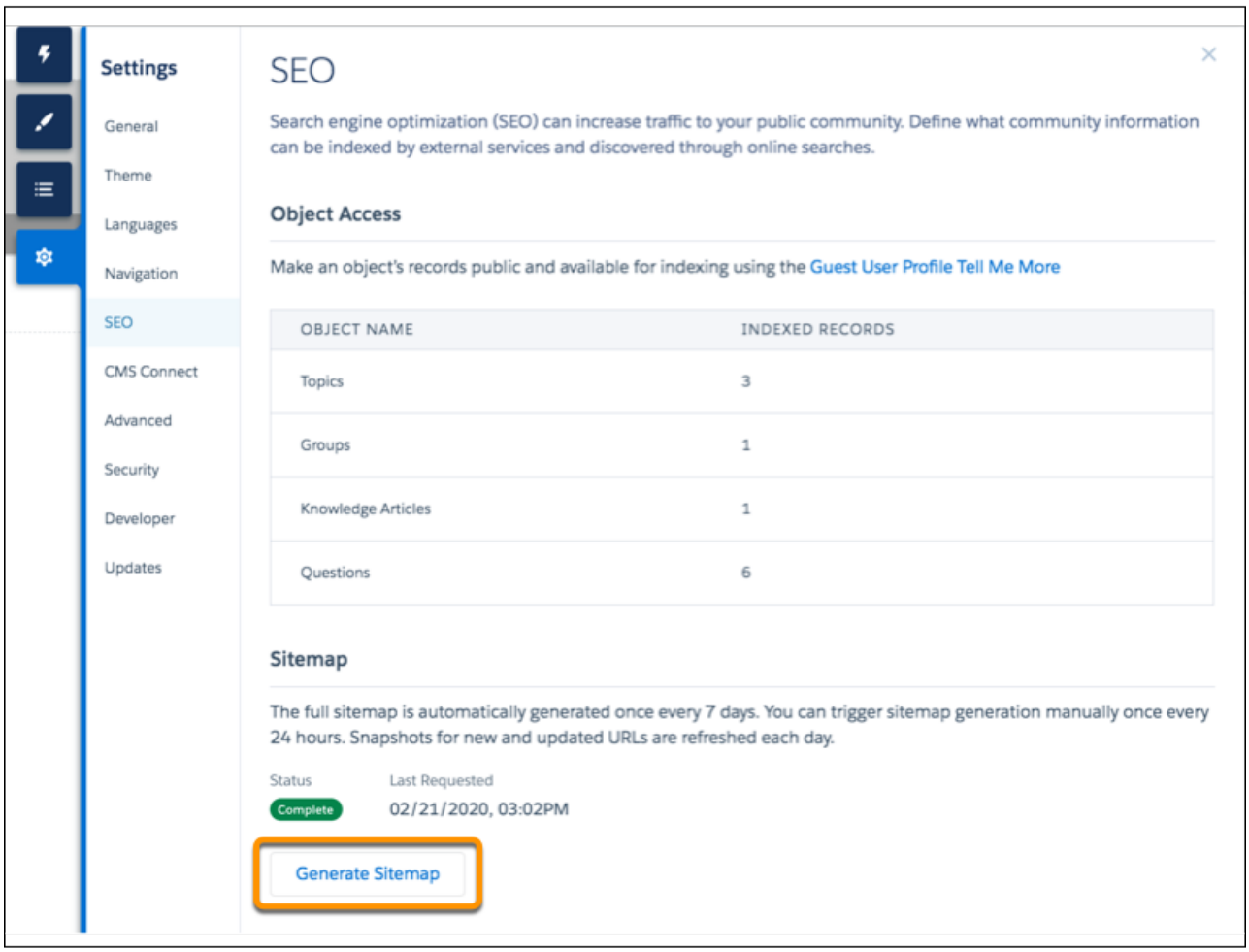
サイトマップの自動生成プロセス以外でコミュニティの SEO サイトマップを生成できるようになりました。24 時間ごとに 1 回、サイトマップの手動更新を容易に開始できます。完全なサイトマップは日曜日ごとに 1 回自動的に更新されますが、すべての新しいページを含むサイトマップが 24 時間ごとに 1 回更新されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Salesforce CMS および Lightning コミュニティに適用されます。

方法: エクスペリエンスビルダーで、[設定] の [SEO] タブに移動し、[サイトマップを生成] ボタンをクリックしてコミュニティのサイトマップを手動で生成します。24時間ごとに1回、サイトマップを手動で生成でき、生成処理中にサイトマップの状況を追跡できます。

サイトマップが生成されると、サイトマップの状況は[完了]に更新されます。可能な最良の環境を維持するには、サイトマップの手動生成を、オフピーク時にビルダーで一切の変更を行わずに実行してください。

新しいページをコミュニティに追加すると、そのリンクは 24 時間ごとのサイトマップの自動更新に含まれます。サイトマップを手動で生成した後で新しいページを追加した場合、そのページはサイトマップに自動的に追加されます。



コンテンツの詳細ページへの動的 SEO プロパティの追加

動的 SEO 値を Lightning コミュニティのコンテンツ詳細ページに追加して、検索エンジンの結果を改善し、顧客が探している Salesforce CMS コンテンツを容易に見つけることができるようにします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする、Salesforce CMS を使用する Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

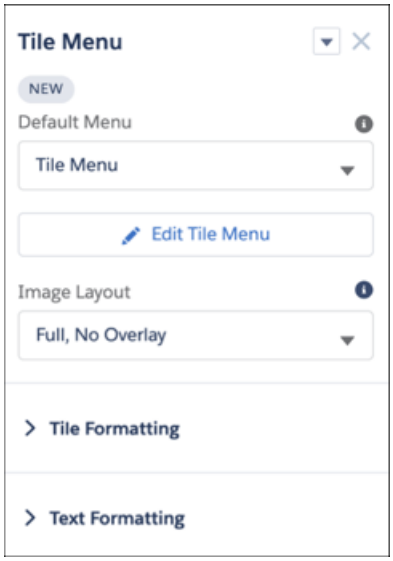
- コンテンツの詳細ページへの動的 SEO プロパティの追加

改良されたタイルメニューを使用したコミュニティの詳細なカスタマイズ

改良された Lightning Web コンポーネントのタイルメニューを使用して、視覚的にインパクトのある、コミュニティのナビゲーション環境を作成します。新しいタイルメニューのカスタマイズでは、旧バージョンよりも多くのカスタマイズオプションが提供されています。コンポーネントパネルで新しいタイルメニューを確認してください。現在、コミュニティページで旧バージョンのタイルメニューを使用している場合、新バージョンを試すときは、該当のコンポーネントを削除するだけで新バージョンを使用できます。新バージョンには、旧バージョンのすべてのカスタマイズとその他の機能が含まれます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: エクスペリエンスビルダーで新しいタイルメニューを使用します。



コンポーネントプロパティの新しい [タイルの書式設定] セクションと [テキストの書式設定] セクションを使用して、タイルメニューを自由にカスタマイズします。

メモ: 旧バージョンを使用している場合、そのバージョンを削除すると、復元できなくなります。旧バージョンが削除されたら新バージョンを使用してください。

関連トピック:

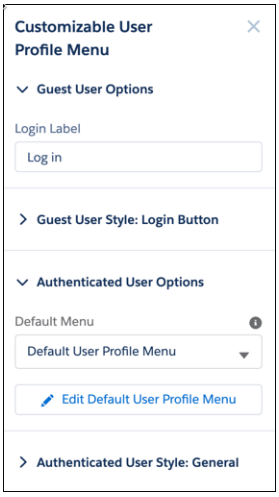
Salesforce ヘルプ: タイルメニュー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

柔軟性が向上した新しいユーザプロファイルメニューコンポーネント

メニュー項目を設定し、パーソナライズを使用し、ユーザの会社のロゴと名前を表示するように選択できるようになりました。Summer '20 以降、[カスタマイズ可能なユーザプロファイルメニュー] コンポーネントが新しい B2B Commerce テンプレートと、特定のテーマ (残り火、ステラ、ウェブスター、市民、ヒノキ、ジェプソンなど) を使用する新しいコミュニティを使用して、Lightning コミュニティの [ユーザプロファイル] コンポーネントを置き換えます。これらのテーマを使用する既存のコミュニティがテーマを再適用または変更すると、コミュニティは旧バージョンではなく新しいコンポーネントを取得します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: エクスペリエンスビルダーを開きます。ヘッダーで、ユーザプロファイルをクリックしてプロパティエディターを開きます。[認証済みユーザオプション] を展開して、[デフォルトユーザプロファイルメニューを編集] をクリックします。ニーズに応じてカスタマイズします。編集オプションが見つかりませんか? ヘッダーコンポーネントをクリックし、[カスタマイズ可能なユーザプロファイルメニュー] コンポーネントが [ユーザプロファイルコンポーネント] ドロップダウンに表示されていることを確認してください。

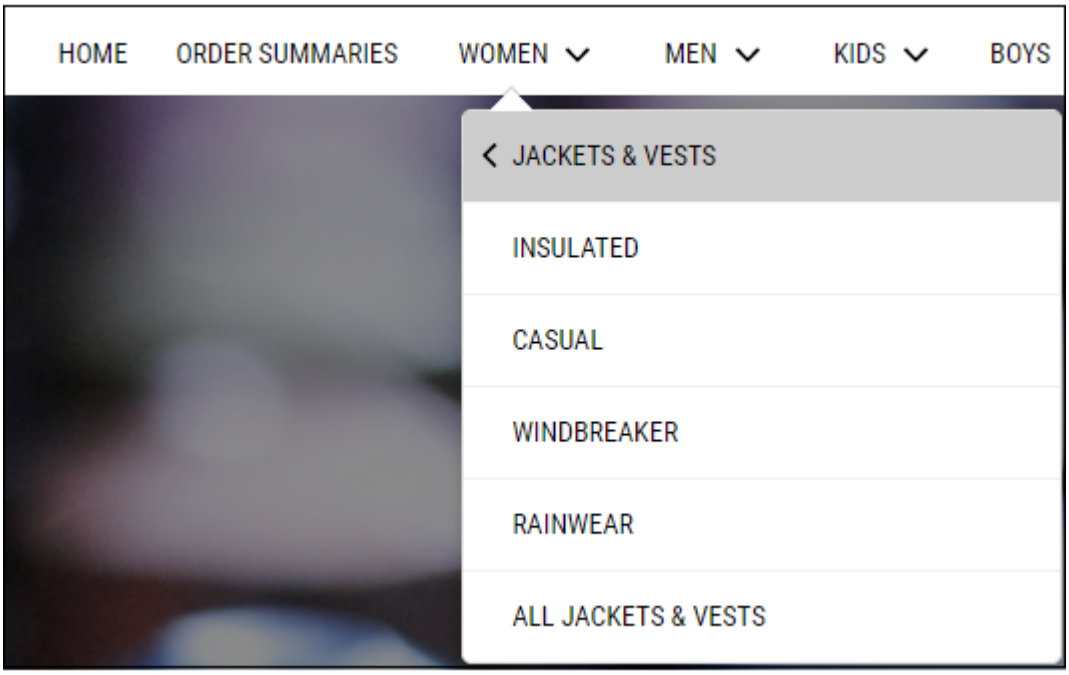


コミュニティの複数レベルのナビゲーションオプションの増加

新しい複数レベルのナビゲーションメニューコンポーネントを使用して、コミュニティのナビゲーションに新しいデザインを適用します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: コミュニティと B2B ストアの両方で、複数レベルのナビゲーションメニューコンポーネントを使用できます。新しいコンポーネントには、メニュー階層が表示される代わりに一度に 1 レベルずつ表示され、ユーザが上下のレベルに移動できるアイコンが表示されます。最大 5 個のカテゴリレベルが表示されます。



開発者の生産性: パーソナライズ、ExperienceBundle、Build Your Own (LWC) テンプレート

パーソナライズ、ExperienceBundle、Build Your Own (LWC) テンプレートの改善により、コミュニティをより効率的に開発します。

このセクションの内容:

LWC ベースのテンプレートを使用した迅速かつ効率的な環境の構築 (開発者プレビュー)

最新の Build Your Own (LWC) テンプレートを使用して、読み込み時間が短く拡張性の高いコミュニティを開発します。この軽量テンプレートは、Lightning Web コンポーネント (LWC) に基づいて優れたパフォーマンスを提供する新しいプログラミングモデルであり、全面的にカスタマイズされた LWC ソリューションをサポートします。このテンプレートは、以前のリリース以降にいくつか変更が行われました。

Lightning Web コンポーネントでの現在のコミュニティに関する情報の取得

`@salesforce/community` が範囲設定されたモジュールを使用して、Lightning コミュニティの Lightning Web コンポーネントを開発するときに現在のコミュニティコンテキストに関する情報をインポートします。

ExperienceBundle でのテーマレイアウトプロパティのサポート

ExperienceBundle は、取得時にテーマレイアウトプロパティが含まれるようになり、Lightning コミュニティのプログラムによる更新がこれまで以上に簡単になりました。

LWC ベースのテンプレートを使用した迅速かつ効率的な環境の構築 (開発者プレビュー)

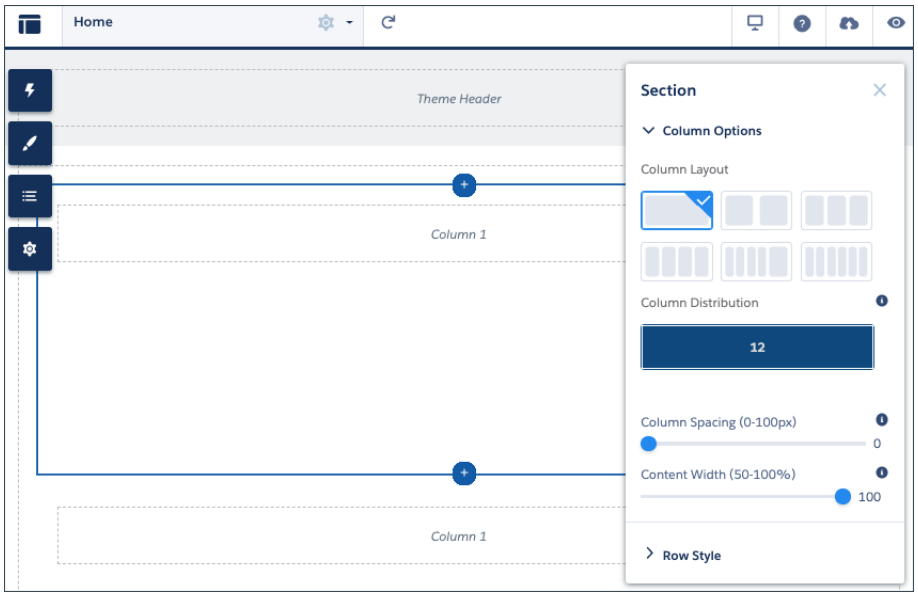
最新の Build Your Own (LWC) テンプレートを使用して、読み込み時間が短く拡張性の高いコミュニティを開発します。この軽量テンプレートは、Lightning Web コンポーネント (LWC) に基づいて優れたパフォーマンスを提供する新しいプログラミングモデルであり、全面的にカスタマイズされた LWC ソリューションをサポートします。このテンプレートは、以前のリリース以降にいくつか変更が行われました。

対象: この開発者プレビューは、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするコミュニティに適用されます。

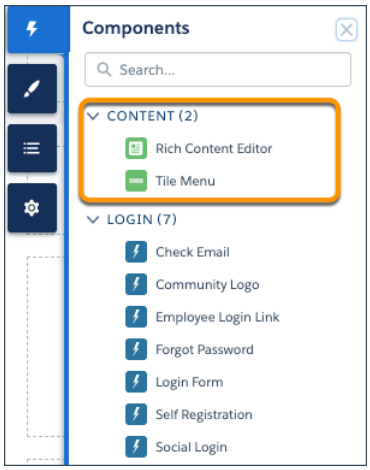
> **メモ:** Build Your Own (LWC) テンプレートは Developer Edition 組織で開発者プレビューとして使用できます。Build Your Own (LWC) は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。すべてのコマンド、パラメータ、およびその他の機能は、通知の有無に関わらずいつでも変更または廃止される可能性があります。これらのコマンドまたはツールを使用して開発した機能を実装しないでください。このテンプレートに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Lightning Web Runtime Communities」グループに投稿してください。

理由: Build Your Own (LWC) テンプレートは、Lightning Web コンポーネントプログラミングモデルのみに基づき、比類のないパフォーマンスとページ読み込み速度を提供します。以前のリリース以降、次のようないくつかの機能強化が追加されました。

- ページの柔軟なレイアウトにより、Aura コミュニティと同じ方法で列間の間隔を調整可能。



- 新しい [タイルメニュー] および [リッチコンテンツエディタ] コンポーネント。

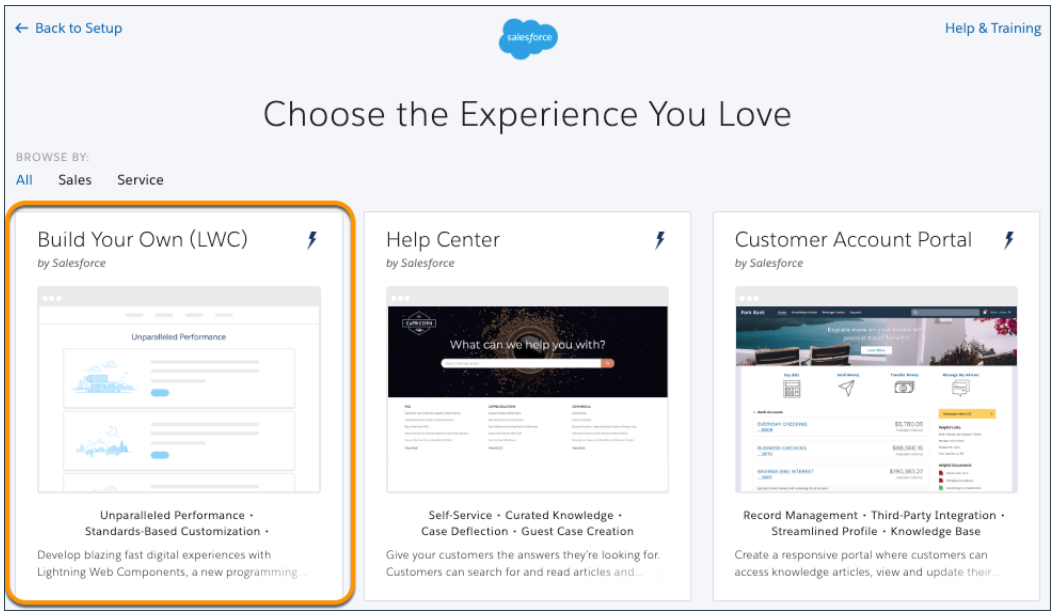


- `@salesforce` モジュールが Aura コミュニティと LWC コミュニティでより一貫性のある動作を提供できるように、いくつかの制限を削除。参照整合性がサポートされています。たとえば、コンテンツアセット名が変更されたときにコミュニティを再公開する必要がなくなります。また、次の `@salesforce` モジュールがサポートされるようになりました。
  - `@salesforce/community`
  - `@salesforce/messageChannel` (ベータ)

ヒント: Build Your Own (LWC) は、いくつかのコンポーネントおよび最も重要なページのみを提供する最小限のテンプレートです。そのため、このテンプレートは Lightning Web コンポーネントの開発と Salesforce DX、ユーザインターフェース API、Apex の操作に慣れている開発者に最適です。

方法: このテンプレートの使用を開始するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*コミュニティ設定*」と入力し、[コミュニティ設定] を選択します。**[Build Your Own (LWC) テンプレートを有効化]** を選択して、変更を保存します。

テンプレートを有効にするとコミュニティ作成ウィザードに表示されます。



重要: 以前の開発者プレビュー参加者は、コミュニティの head マークアップで SLDS スタイルを再度有効にする必要があります。そうしないと、リッチコンテンツエディタと柔軟なレイアウトの機能強化が適切に表示されません。

エクスペリエンスビルダーで、[設定]>[詳細]>[ヘッドマークアップを編集]をクリックし、すべての二重中括弧の表現を一重中括弧の表現に変更します。

たとえば、次の表現があるとします。

```
<link rel="stylesheet" href="{{ basePath }}/assets/styles/styles.css?{{ versionKey }}"
 />
```

これを次の表現に置き換えます。

```
<link rel="stylesheet" href="{basePath}/assets/styles/styles.css?{versionKey}" />
```

関連トピック:

- 改良されたタイルメニューを使用したコミュニティの詳細なカスタマイズ
- 現在の Lightning コミュニティに関する情報の取得

Lightning Web コンポーネントでの現在のコミュニティに関する情報の取得

`@salesforce/community` が範囲設定されたモジュールを使用して、Lightning コミュニティの Lightning Web コンポーネントを開発するときに現在のコミュニティコンテキストに関する情報をインポートします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

関連トピック:

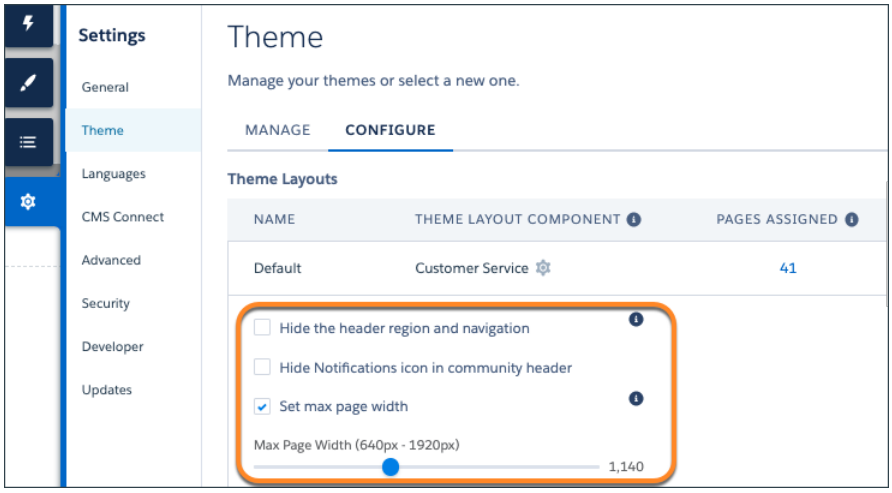
- 現在の Lightning コミュニティに関する情報の取得

ExperienceBundle でのテーマレイアウトプロパティのサポート

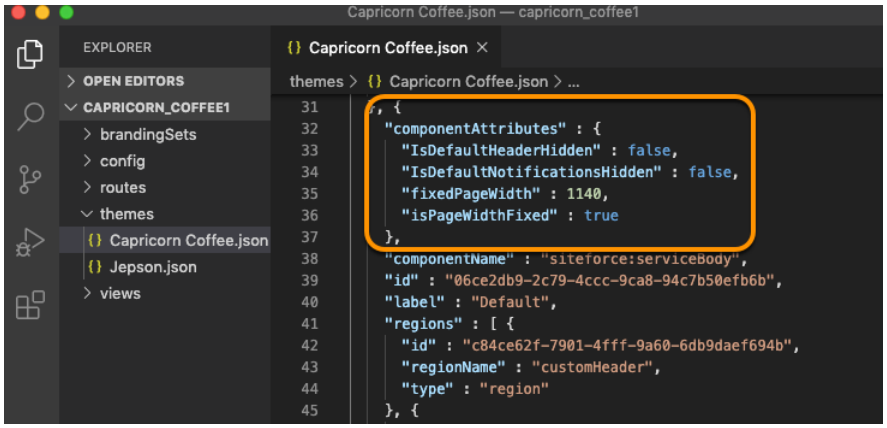
ExperienceBundle は、取得時にテーマレイアウトプロパティが含まれるようになり、Lightning コミュニティのプログラムによる更新がこれまで以上に簡単になりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

理由: エクスペリエンスビルダーでは、ヘッダーとナビゲーションの非表示や最大ページ幅の設定など、レイアウトを設定できるいくつかのプロパティが各テーマレイアウトに含まれます。



以前は、テーマフォルダに含まれる *theme_name*.json ファイル内のこれらのプロパティは ExperienceBundle に含まれていませんでした。



ゲストユーザ: セキュリティポリシーの適用

過去数回のリリースで、Salesforceは、公開サイトのセキュリティポリシー全体を構成するさまざまなセキュリティ設定を実装してきました。Summer '20 リリースでは、組織で一部の設定が自動的に有効化されますが、その設定をオプトアウトできます。ただし、お勧めしません。次回のリリース (Winter '21) 以降、公開サイトのセキュリティ設定が有効化され、オプトアウトするオプションはなくなります。組織で必要なすべてのセキュリティ設定を有効にして、実装をテストしてください。

このセクションの内容:

コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック (以前にリリース済みのセキュリティアラートと更新、適用済み)

コミュニティまたはポータルを使用する組織で、ユーザレコードの特定の個人情報項目を非表示にするユーザ設定をお客様が有効にできるようになりました。これらの項目は、外部ユーザがユーザレコードにアクセスしたときにビューに表示されません。その場合でも、外部ユーザは自分のユーザレコードは表示できます。この変更は、システムモードで実行されているクエリには適用されません。

ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て (以前にリリース済みのセキュリティアラート)

Salesforce データのセキュリティを強化するため、ゲストユーザが作成したレコードの所有者としてそのゲストユーザが自動的に割り当てられないように組織を設定します。代わりに、ゲストユーザがレコードを作成すると、組織のデフォルトの有効ユーザに割り当てられ、そのユーザが所有者になります。

Summer '20 より前のゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効にすることで、ゲストまたは認証されていないユーザのデータセキュリティを強化することを目的とした3つのポリシーからオプトアウトします。この更新を有効にすると、Summer '20 リリースで組織の [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]、[ゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルトの所有者に割り当てる]、[Salesforce サイトのゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルトの所有者に割り当て] 設定は自動的に有効になりません。組織ですでにこれらの設定が有効になっている場合、この更新を有効にしても設定は変更されません。

既存のレコードの所有者としてゲストユーザを割り当てできない

Summer '20 リリースより前は、新しく作成したレコードの所有者としてゲストユーザを割り当てることができませんでした。Summer '20 以降、組織にすでに存在するレコードの所有者としてゲストユーザを割り当てることはできません。

ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護 (以前にリリース済みのセキュリティアラート、適用済み)

このセキュリティアラートの [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定の詳細と、組織のデータを保護する方法について説明します。この設定により、ゲストユーザ向けの非公開の組織の共有設定が適用され、ゲストユーザにレコードアクセス権を付与する共有メカニズムが制限されます。Salesforce 組織が Winter '20 より前に作成されている場合は、ゲストユーザにアクセス権を付与するために使用している外部組織の共有設定、公開グループ、キュー、共有の直接設定、Apex による共有管理を確認することをお勧めします。次に、これらの共有メカニズムによって付与されているアクセス権をゲストユーザ共有ルールで置き換えてから、セキュリティアラートを適用してください。

安全なレコードアクセスを有効にする前にゲストユーザ共有ルールを作成

[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定を有効にする前に、ゲストユーザのセキュリティの改善に向けて Salesforce 組織を準備するのに役立つゲストユーザ共有ルールを作成できるようになりました。ゲストユーザ共有ルールは条件ベースの共有ルールの一種であり、参照のみのアクセス権をゲストユーザに付与します。[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定を有効にすると、ゲストユーザ共有ルールを介してのみゲストユーザにレコードへのアクセス権を付与できます。

ゲストユーザプロファイルでの「すべてのユーザの表示」などの権限の無効化 (以前にリリース済みのセキュリティアラート、適用済み)

ゲストユーザは通常、Salesforce 組織のすべてのユーザを参照するアクセス権が必要ないため、データのセキュリティを高めるために、ゲストユーザプロファイルでは「すべてのユーザの表示」権限が無効化されました。本番組織が Winter '20 より前に作成されている場合、ゲストユーザアクセスをチェックして、「すべてのユーザの表示」権限をすべてのゲストユーザプロファイルで選択解除することをお勧めします。セキュリティを高めるために、「フィード投稿とコメントを承認可能」権限、「UI 階層アーキテクチャの有効化」権限、「ダイレクトメッセージから人を削除」権限、「トピックを表示」権限、「営業以外のメールを送信」権限もゲストユーザプロファイルから削除されました。

Summer'20 で作成された組織でのゲストユーザプロファイルの「すべてのデータの編集」、「すべてのデータの参照」、「編集」、「削除」権限

Summer'20 リリースで作成された組織では、ゲストユーザに対する標準またはカスタムオブジェクトの「すべてのデータの編集」、「すべてのデータの参照」、「削除」権限はありません。Summer'20 で作成された組織のゲストユーザには、カスタムオブジェクトと 3 つの標準オブジェクト (注文、契約、アンケートへの回答) の「編集」権限がまだあります。

Summer'20 より前に作成された組織でのゲストユーザプロファイルの「すべてのデータの編集」、「すべてのデータの参照」、「編集」、「削除」権限

Summer'20 リリースより前に作成された組織では、ゲストユーザに対するカスタムオブジェクトと標準オブジェクトの「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、および「削除」権限が削除されますが、これは、これらの権限がゲストプロファイルまたはゲストユーザの権限セットで有効になっていなかった場合に限られます。Summer'20 リリースより前に作成された組織のゲストユーザプロファイルでは、すべてのカスタムオブジェクトと 3 つの標準オブジェクト (注文、契約、アンケートへの回答) でゲストの「編集」権限が保持されます。ゲストユーザには前述の 3 つの標準オブジェクトに対して「編集」権限のみがありましたが、この動作は変わっていません。組織が Summer '20 リリースより前に作成されており、ゲストユーザに対するオブジェクトの「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、「編集」、または「削除」権限がある場合、必要な変更を組織に加えるようにセキュリティアラートで通知されます。

ゲストによる安全なファイルのアップロード

[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定が有効になっている場合、ゲストユーザは公開コミュニティにファイルをアップロードできなかった可能性があります。ゲストユーザがファイルをレコードにアップロードできるようにするには、開発者は `lightning:fileUpload` の `fileFieldName` および `fileFieldValue` 属性を指定することができます。これらの属性を使用して値を `ContentVersion` オブジェクトのカスタム項目に保存します。

Winter '21 リリースまでにゲストユーザに対するオブジェクト権限を減らす (セキュリティアラート)

Winter '21 リリースで、Salesforce はゲストユーザに対する「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、および「削除」権限を削除します。このため、ゲストユーザはすべてのオブジェクトでこれらの権限を使用できなくなります。カスタムまたは標準オブジェクトにゲストユーザに対する「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、または「削除」権限がある場合、そのすべての権限が Winter '21 リリースで無効になります。ゲストユーザに標準またはカスタムオブジェクトの「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、または「削除」権限がある場合、ゲストユーザに対するオブジェクト権限を減らします。

ゲストユーザが他のメンバーを表示できるようにするコミュニティ固有の設定の無効化からオプトアウト (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効にすることで、Winter '21 リリースのコミュニティ固有の [ゲストユーザがこのコミュニティの他のメンバーを表示できるようにする] 設定の無効化からオプトアウトします。

Visualforce メールテンプレートで作成されたメールへのゲストユーザアクセスの確認

Visualforce Classic メールテンプレートを使用するメールをゲストユーザに送信する場合、会社のデータへのアクセスを保護します。これらのテンプレートを確認および更新して、引き続き使用できるようにします。

関連トピック:

ゲストユーザは逆リレーションレコードを自動的に取得しない

コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック (以前にリリース済みのセキュリティアラートと更新、適用済み)

コミュニティまたはポータルを使用する組織で、ユーザレコードの特定の個人情報項目を非表示にするユーザ設定をお客様が有効にできるようになりました。これらの項目は、外部ユーザがユーザレコードにアクセスしたときにビューに表示されません。その場合でも、外部ユーザは自分のユーザレコードは表示できます。この変更は、システムモードで実行されているクエリには適用されません。

対象: この変更はコミュニティまたはポータルを使用するすべての組織に適用されます。

時期: この重要な更新は、本番組織では 2020 年 1 月 5 日に自動的に有効化されています。

方法: Salesforce では、外部ユーザプロファイルにユーザレコードを表示するページや、外部ユーザとして実行される SOSL および SOQL クエリにおいて他のユーザの個人情報を非表示にできる組織設定を導入しようとしています。

次の項目が影響を受けます。

- Alias
- EmployeeNumber
- FederationIdentifier
- SenderEmail
- Signature
- Username
- Division
- Title
- Department

- Extension

システム管理者は、[ユーザ管理設定] で組織に対して [個人情報を非表示] を有効にできます。この設定を有効にすると、ユーザレコードをサーチしても、他のユーザの影響を受ける項目は外部ユーザには表示されなくなります。

重要:

[個人情報を非表示] 設定を有効にすることが Salesforce のセキュリティベストプラクティスです。

ヒント: この更新は更新とセキュリティアラートの両方であるため、[設定] の [リリース更新] ノードと [セキュリティアラート] ページの両方に表示されます。円滑に移行するには、[セキュリティアラート] ページの推奨手順に従ってください。

関連トピック:

リリース更新 (ベータ)

ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て (以前にリリース済みのセキュリティアラート)

Salesforce データのセキュリティを強化するため、ゲストユーザが作成したレコードの所有者としてそのゲストユーザが自動的に割り当てられないように組織を設定します。代わりに、ゲストユーザがレコードを作成すると、組織のデフォルトの有効ユーザに割り当てられ、そのユーザが所有者になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効なコミュニティを持つ組織に適用されます。

理由: 内部組織ユーザをゲストユーザによって作成されたレコードの所有者にするのが、Salesforce のセキュリティのベストプラクティスです。デフォルトの所有者を割り当てることを強くお勧めしますが、レコードの所有権を変更すると、ゲストユーザによるレコードアクセスに影響することがあります。本番環境で変更を実装する前に Sandbox 環境ですべての変更をテストして、データ共有と表示に対する影響を確認してください。

方法: [設定] で、[クイック検索] ボックスに「*コミュニティ設定*」と入力し、[コミュニティ設定] を選択します。[ゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルト所有者に割り当てる] を選択します。[保存] をクリックします。

新しく作成されたコミュニティでは、ゲストユーザが作成したすべてのレコードのデフォルトの所有者として、コミュニティを作成したユーザが自動的に割り当てられます。コミュニティの [管理] ワークスペースの [設定] で、デフォルトの所有者を変更できます。

メモ: ゲストユーザがすでに所有する組織内の既存のレコードは、この変更の影響を受けません。ただし、データセキュリティを向上するには、ゲストユーザが所有するレコードの所有権を組織の別のユーザに移行することを引き続きお勧めします。

Summer '20 より前のゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト(以前にリリース済みの更新)

この更新を有効にすることで、ゲストまたは認証されていないユーザのデータセキュリティを強化することを目的とした 3 つのポリシーからオプトアウトします。この更新を有効にすると、Summer '20 リリースで組織の [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]、[ゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルトの所有者に割り当てる]、[Salesforce サイトのゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルトの所有者に割り当て] 設定は自動的に有効になりません。組織ですでにこれらの設定が有効になっている場合、この更新を有効にしても設定は変更されません。

対象: このリリース更新は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効なコミュニティを持つ組織で表示されます。

時期: Summer '20 リリースでは、[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]、[ゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルト所有者に割り当てる]、および [Salesforce サイトのゲストユーザによって作成された新規レコードを割り当てる] 設定が自動的に有効になります。この更新では、準備を整えるための追加の時間が与えられます。Summer '20 リリースでこの設定をオプトアウトした場合、この設定がすべての組織に適用される Winter '21 までに新しいゲストセキュリティポリシーに準拠する必要があります。

方法: この設定の自動的な有効化をオプトアウトするには、更新を有効化します。UI でこの設定にアクセスし、この設定が有効になっているかどうかを確認するには、次の手順を実行します。

- [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力します。[共有設定] を選択します。ページの [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] チェックボックスを確認できます。
- [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*コミュニティ設定*」と入力し、[コミュニティ設定] を選択します。ページの [ゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルト所有者に割り当てる] チェックボックスを確認できます。
- [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*サイト*」と入力し、[サイト] を選択します。ページの [Salesforce サイトのゲストユーザによって作成された新規レコードを割り当てる] チェックボックスを確認できます。

重要: この更新の有効化による影響を受ける組織は、この設定を有効にしていない組織のみです。組織ですでにこれらの設定が有効になっている場合、この更新を有効にしても設定は変更されません。

関連トピック:

ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護(以前にリリース済みのセキュリティアラート、適用済み)

ゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者への自動的な割り当て(以前にリリース済みのセキュリティアラート)

既存のレコードの所有者としてゲストユーザを割り当てできない

Summer '20 リリースより前は、新しく作成したレコードの所有者としてゲストユーザを割り当てることができませんでした。Summer '20 以降、組織にすでに存在するレコードの所有者としてゲストユーザを割り当てることはできません。

対象: この変更は、コミュニティ、Site.com サイト、Salesforce サイトのゲストユーザプロファイルが含まれるすべての組織に適用されます。

方法: この変更は、Summer '20 リリース後に作成された新規組織に適用されます。Summer '20 リリースより前に作成された組織については、「Summer '20 より前のゲストユーザセキュリティポリシーのオプトアウト (重要な更新)」を参照してください。

関連トピック:

Summer '20 より前のゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト (以前にリリース済みの更新)

ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護 (以前にリリース済みのセキュリティアラート、適用済み)

このセキュリティアラートの [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定の詳細と、組織のデータを保護する方法について説明します。この設定により、ゲストユーザ向けの非公開の組織の共有設定が適用され、ゲストユーザにレコードアクセス権を付与する共有メカニズムが制限されます。Salesforce 組織が Winter '20 より前に作成されている場合は、ゲストユーザにアクセス権を付与するために使用している外部組織の共有設定、公開グループ、キュー、共有の直接設定、Apex による共有管理を確認することをお勧めします。次に、これらの共有メカニズムによって付与されているアクセス権をゲストユーザ共有ルールで置き換えてから、セキュリティアラートを適用してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効なコミュニティおよびサイトを持つ組織に適用されます。

時期: この設定のロールアウトと適用のタイムラインは、「ゲストユーザセキュリティポリシーとタイムライン」で公開されています。

方法: このセキュリティアラートが適用される前に、必要なアクションを確認してください。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「セキュリティアラート」と入力して、[セキュリティアラート] を選択します。[ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護] で、[使用開始] をクリックします。ステップバイステップガイドの手順に従って、ゲストユーザの共有設定の確認やゲストユーザの共有ルールの作成を行います。

関連トピック:

Summer '20 より前のゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト (以前にリリース済みの更新)

セキュリティアラート

Salesforce ヘルプ: ゲストユーザの共有設定とレコードアクセスの保護 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

安全なレコードアクセスを有効にする前にゲストユーザ共有ルールを作成

[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定を有効にする前に、ゲストユーザのセキュリティの改善に向けて Salesforce 組織を準備するのに役立つゲストユーザ共有ルールを作成できるようになりました。ゲストユーザ共有ルールは条件ベースの共有ルールの一種であり、参照のみのアクセス権をゲストユーザに付与します。[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定を有効にすると、ゲストユーザ共有ルールを介してのみゲストユーザにレコードへのアクセス権を付与できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

時期: [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定を有効にする前に、ゲストユーザにアクセス権を付与するために以前使用した共有メカニズムを置き換えるゲストユーザ共有ルールを作成することをお勧めします。この設定のロールアウトと適用のタイムラインは、「ゲストユーザセキュリティポリシーとタイムライン」で公開されています。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。オブジェクトの [共有ルール] 関連リストで、[新規] をクリックして [条件に基づくゲストユーザアクセス] ルールタイプを選択します。

関連トピック:

- ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護(以前にリリース済みのセキュリティアラート、適用済み)
- *Salesforce* ヘルプ: ゲストユーザの共有設定とレコードアクセスの保護
- *Salesforce* ヘルプ: 共有ルールの作成

ゲストユーザプロファイルでの「すべてのユーザの表示」などの権限の無効化(以前にリリース済みのセキュリティアラート、適用済み)

ゲストユーザは通常、Salesforce組織のすべてのユーザを参照するアクセス権が必要ないため、データのセキュリティを高めるために、ゲストユーザプロファイルでは「すべてのユーザの表示」権限が無効化されました。本番組織が Winter '20 より前に作成されている場合、ゲストユーザアクセスをチェックして、「すべてのユーザの表示」権限をすべてのゲストユーザプロファイルで選択解除することをお勧めします。セキュリティを高めるために、「フィード投稿とコメントを承認可能」権限、「UI階層アーキテクチャの有効化」権限、「ダイレクトメッセージから人を削除」権限、「トピックを表示」権限、「営業以外のメールを送信」権限もゲストユーザプロファイルから削除されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効なコミュニティを持つ組織に適用されます。

時期: この設定のロールアウトと適用のタイムラインは、「ゲストユーザセキュリティポリシーとタイムライン」で公開されています。

方法: これらの変更は組織で自動的に有効になります。ただし、オプトアウトできます。Summer'20リリースでは、これらの変更は必須であり、オプトアウトするオプションはなくなります。

メモ: これらの権限は、Spring '20 リリースより前に更新された Sandbox では完全に削除されます。Spring '20 リリースの後に更新された Sandbox では、本番組織にある権限が反映されます。

Summer '20 で作成された組織でのゲストユーザプロファイルの「すべてのデータの編集」、「すべてのデータの参照」、「編集」、「削除」権限

Summer '20 リリースで作成された組織では、ゲストユーザに対する標準またはカスタムオブジェクトの「すべてのデータの編集」、「すべてのデータの参照」、「削除」権限はありません。Summer '20 で作成された組織のゲストユーザには、カスタムオブジェクトと 3 つの標準オブジェクト (注文、契約、アンケートへの回答) の「編集」権限がまだあります。

対象: この変更は、コミュニティ、Site.com サイト、Salesforce サイトのゲストユーザプロファイルが含まれるすべての組織に適用されます。

重要: ゲストユーザに対するカスタムオブジェクト、注文オブジェクト、契約オブジェクト、およびアンケートへの回答オブジェクトの「編集」権限はまだ削除されませんが、Winter '21 リリースで削除されます。すべてのオブジェクトでゲストユーザに対する「編集」権限を削除することで設定をテストし、実装への影響を確認してください。

Summer '20 より前に作成された組織でのゲストユーザプロファイルの「すべてのデータの編集」、「すべてのデータの参照」、「編集」、「削除」権限

Summer'20リリースより前に作成された組織では、ゲストユーザに対するカスタムオブジェクトと標準オブジェクトの「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、および「削除」権限が削除されますが、これは、これらの権限がゲストプロファイルまたはゲストユーザの権限セットで有効になっていなかった場合に限られます。Summer '20 リリースより前に作成された組織のゲストユーザプロファイルでは、すべてのカスタムオブジェクトと 3 つの標準オブジェクト (注文、契約、アンケートへの回答) でゲストの「編集」権限が保持されます。ゲストユーザには前述の3つの標準オブジェクトに対して「編集」権限のみがありましたが、この動作は変わっていません。組織が Summer '20 リリースより前に作成されており、ゲストユーザに対するオブジェクトの「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、「編集」、または「削除」権限がある場合、必要な変更を組織に加えるようにセキュリティアラートで通知されます。

対象: この変更は、コミュニティ、Site.com サイト、Salesforce サイトのゲストユーザプロファイルが含まれるすべての組織に適用されます。

重要: ゲストユーザに対するカスタムオブジェクト、注文オブジェクト、契約オブジェクト、およびアンケートへの回答オブジェクトの「編集」権限はまだ削除されませんが、Winter '21 リリースで削除されます。すべてのオブジェクトでゲストユーザに対する「編集」権限を削除することで設定をテストし、実装への影響を確認してください。

関連トピック:

Winter '21 リリースまでにゲストユーザに対するオブジェクト権限を減らす (セキュリティアラート)

ゲストによる安全なファイルのアップロード

[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定が有効になっている場合、ゲストユーザは公開コミュニティにファイルをアップロードできなかった可能性があります。ゲストユーザがファイルをレコードにアップロードできるようにするには、開発者は `lightning:fileUpload` の `fileFieldName` および `fileFieldValue` 属性を指定することができます。これらの属性を使用して値を `ContentVersion` オブジェクトのカスタム項目に保存します。

対象: このリリース更新は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効な公開コミュニティを持つ組織で表示されます。

Winter '21 リリースまでにゲストユーザに対するオブジェクト権限を減らす (セキュリティアラート)

Winter '21 リリースで、Salesforce はゲストユーザに対する「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、および「削除」権限を削除します。このため、ゲストユーザはすべてのオブジェクトでこれらの権限を使用できなくなります。カスタムまたは標準オブジェクトにゲストユーザに対する「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、または「削除」権限がある場合、そのすべての権限が Winter '21 リリースで無効になります。ゲストユーザに標準またはカスタムオブジェクトの「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、または「削除」権限がある場合、ゲストユーザに対するオブジェクト権限を減らします。

対象: この変更は、ゲストユーザに対して「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、「更新」、または「削除」権限が有効になっている 1 つ以上の標準またはカスタムオブジェクトがあるすべての Salesforce 組織に適用されます。

方法: 組織にセキュリティアラートが表示されている場合、その推奨手順に従います。

組織にセキュリティアラートが表示されている場合、ゲストユーザに対して「すべてのデータの参照」、「すべてのデータの編集」、「更新」、または「削除」権限が有効になっている 1 つ以上の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトがあるため、組織のデータがゲストユーザに公開される可能性があります。

重要: ゲストユーザに対する「更新」権限はまだ削除されませんが、今後削除される予定です。すべてのオブジェクトでゲストユーザに対する「更新」権限を削除することで設定をテストし、実装への影響を確認してください。

ゲストユーザが他のメンバーを表示できるようにするコミュニティ固有の設定の無効化からオプトアウト (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効にすることで、Winter '21 リリースのコミュニティ固有の [ゲストユーザがこのコミュニティの他のメンバーを表示できるようにする] 設定の無効化からオプトアウトします。

対象: この更新は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition の有効な公開コミュニティを持つ Salesforce 組織で表示されます。

時期: [ゲストユーザがこのコミュニティの他のメンバーを表示できるようにする] 設定は、Winter '21 ですべてのコミュニティで自動的に無効になります。この更新では、準備を整えるために必要になる追加の時間が与えられます。

方法: Winter '20 より前は、[コミュニティユーザ表示] 設定が有効になっていると、ゲストユーザと認証済みのコミュニティユーザはコミュニティ内で互いを参照できました。Winter '20 リリースでは、新しいコミュニティ固有の設定 ([ゲストユーザがこのコミュニティの他のメンバーを表示できるようにする]) が導入されました。これを使用すると、システム管理者はコミュニティユーザ表示とは別にゲストユーザ表示を制御できます。

セキュリティ設定によっては、この設定により、ゲストユーザ (実質的にインターネット上のすべてのユーザ) がコミュニティユーザの個人識別情報にアクセスできる場合があります。これには、姓と名、メール、カスタム項目などの項目が含まれる可能性があります。

顧客のデータとプライバシーを保護するため、Salesforce はすべてのコミュニティで [ゲストユーザがこのコミュニティの他のメンバーを表示できるようにする] 設定を無効にします。

ビジネスニーズによっては、サイトを適切に機能させるために、この設定を有効にして、ゲストユーザが互いを参照できるようにすることが必要になる場合があります。このため、各コミュニティで [ゲストユーザがこ

のコミュニティの他のメンバーを表示できるようにする] を有効化するには、ニーズを再評価および検証してください。この設定を有効にする必要があるコミュニティが1つ以上ある場合は、この更新を有効化して Winter '21 更新をオプトアウトします。ただし、この設定を無効にできるようにサイトのカスタマイズを変更することをお勧めします。ゲストユーザ表示を制限することは、Salesforce のセキュリティベストプラクティスです。

この更新を有効化しない場合、[ゲストユーザがこのコミュニティの他のメンバーを表示できるようにする] 設定は、(Winter '20 以降に作成されたコミュニティだけでなく) すべてのコミュニティで無効になります。Winter '20 以降に作成されたすべてのコミュニティを含め、組織のすべてのコミュニティを必ず評価してください。

Visualforce メールテンプレートで作成されたメールへのゲストユーザアクセスの確認

Visualforce Classic メールテンプレートを使用するメールをゲストユーザに送信する場合、会社のデータへのアクセスを保護します。これらのテンプレートを確認および更新して、引き続き使用できるようにします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の有効な公開コミュニティ、サイト、およびポータルを持つ Salesforce 組織に適用されます。

時期: このセキュリティポリシーは Spring '20 でリリースされ、すぐに適用されました。

対象: この変更は、コミュニティのゲストユーザを対象とする Visualforce メールテンプレートに適用されます。

理由: Visualforce メールテンプレートを使用するメールでは、Salesforce データへのユーザのアクセス権に基づいて情報が送信されます。ただし、Salesforce ではゲストユーザのデータアクセスが制限されるため、このテンプレートは機能しません。

重要: ゲストセキュリティポリシーの影響を評価し、必要に応じて、ゲストユーザに送信される Visualforce メールテンプレートを更新してください。

方法: 属性を Visualforce メールテンプレートの `emailTemplate` タグに追加します。

1. 「Apex 開発」ユーザ権限があることを確認します。

   メモ: Visualforce メールテンプレートを作成または更新するすべてのユーザにこの権限が必要です。

2. Visualforce メールテンプレートを開き、次の属性を emailTemplate タグに追加します。

   ```
   renderUsingSystemContextWithoutSharing="True"
   ```

3. テンプレートを保存します。

関連トピック:

メールテンプレート: ゲストユーザ向けの Visualforce メールテンプレートの更新

Salesforce ヘルプ: Salesforce Classic での Visualforce メールテンプレートの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: ゲストユーザセキュリティポリシーとタイムライン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

セキュリティと共有: 外部ユーザの 2 要素認証、埋め込みログイン

外部ユーザの2要素認証を有効にします。コミュニティですでに設定されているログインページ種別を使用するように埋め込みログインを設定します。

このセクションの内容:

ユーザ権限を使用した外部 ID の 2 要素認証の設定
External Identity ライセンスに追加された「ユーザインターフェースログインの 2 要素認証」ユーザ権限を割り当てるだけで、外部ユーザの 2 要素認証を有効化できます。

埋め込みログインへのコミュニティのログインページ種別の割り当て
検出可能なログインページ種別、またはコミュニティですでに設定されている他のカスタムログインページ種別を使用するように埋め込みログインを設定します。

カスタム URL を使用したコミュニティのログイン環境の改善
任意で指定できる、コミュニティのログイン URL を使用して、ユーザのシングルサインオンプロセスを合理化します。

ユーザ権限を使用した外部 ID の 2 要素認証の設定

External Identity ライセンスに追加された「ユーザインターフェースログインの 2 要素認証」ユーザ権限を割り当てるだけで、外部ユーザの 2 要素認証を有効化できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

外部ユーザの 2 要素認証の有効化

埋め込みログインへのコミュニティのログインページ種別の割り当て

検出可能なログインページ種別、またはコミュニティですでに設定されている他のカスタムログインページ種別を使用するように埋め込みログインを設定します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

組み込みログインページ種別のカスタマイズ

カスタム URL を使用したコミュニティのログイン環境の改善

任意で指定できる、コミュニティのログイン URL を使用して、ユーザのシングルサインオンプロセスを合理化します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

- カスタムコミュニティ URL による SSO の改善

コミュニティのその他の変更

コミュニティのユーザエクスペリエンスを向上させる小規模な変更について説明します。

このセクションの内容:

外部取引先階層を使用したパートナーとのデータ共有
外部取引先階層を使用することで、データ共有の複雑さが軽減されます。パートナーや顧客は、データを自分の階層内の他の外部取引先と容易に共有できるようになりました。

改善されたチャットヘッダーによる会話への集中
合理化された組み込みチャットヘッダーを使用して、顧客に最新の操作性を提供します。幅の狭いデザインにより、メインウィンドウ内に重要なコンテンツが保持され、より集中したインタラクションが可能になります。

ライブチャネルメニューのプレビューの表示
設定中にチャネルメニューのブランド選択をすばやくプレビューできます。Web サイトまたは Salesforce コミュニティにリリースする前に、色、アイコン、フォント、テキストがライブビューでどのように表示されるかを確認します。

外部取引先階層を使用したパートナーとのデータ共有

外部取引先階層を使用することで、データ共有の複雑さが軽減されます。パートナーや顧客は、データを自分の階層内の他の外部取引先と容易に共有できるようになりました。

対象: この変更は、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

対象ユーザ: この機能は、パートナーユーザおよびカスタマーユーザのみが使用できます。

理由: Salesforce ロール階層と同様、外部取引先階層内の取引先に属するデータは、階層内の親が使用できます。結果として、外部ユーザは共有ルールを使用せずに子取引先のデータにアクセスできます。

方法: [コミュニティ設定] で外部取引先階層を有効にします。設定を有効にすると、組織で外部取引先階層オブジェクトを使用できるようになります。

改善されたチャットヘッダーによる会話への集中

合理化された組み込みチャットヘッダーを使用して、顧客に最新の操作性を提供します。幅の狭いデザインにより、メインウィンドウ内に重要なコンテンツが保持され、より集中したインタラクションが可能になります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするコミュニティに適用されます。

関連トピック:

- 改善されたチャットヘッダーによる会話の強化

ライブチャネルメニューのプレビューの表示

設定中にチャネルメニューのブランド選択をすばやくプレビューできます。Web サイトまたは Salesforce コミュニティにリリースする前に、色、アイコン、フォント、テキストがライブビューでどのように表示されるかを確認します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするコミュニティに適用されます。

関連トピック:

- ライブチャネルメニューのプレビューの表示

Salesforce CMS: 新しい画像およびドキュメントコンテンツタイプ、一括インポート、B2B インテグレーション

新しい画像およびドキュメントコンテンツタイプによって、Salesforce CMS コンテンツの管理が簡単になりました。複数のコンテンツ項目(画像、ニュース、ドキュメント、カスタムコンテンツタイプなど)をすばやくインポートできます。Lightning Experience の B2B Commerce で CMS コンテンツを使用します。

このセクションの内容:

画像およびドキュメントコンテンツタイプを使用した CMS コンテンツの一元管理

画像およびドキュメントコンテンツタイプを使用して、CMS アプリケーションから移動することなくコンテンツを整理できます。作業の作成、管理、共有をすべて 1 か所で行うことができます。

Salesforce CMS ワークスペースへのコンテンツのインポート

JSON ファイルの .zip アーカイブをアップロードして、画像、ニュース、ドキュメント、カスタムコンテンツタイプなどのコンテンツを Salesforce CMS のワークスペースにインポートします。外部ソースまたは CMS からコンテンツを転送したり、商品を強化させるために外部デジタルアセットマネージャ (DAM) から画像を一括インポートしたりできます。

コンテンツの詳細ページへの動的 SEO プロパティの追加

検索エンジンの結果を改善し、顧客が求める Salesforce CMS コンテンツを見つけやすくします。Lightning コミュニティのコンテンツの詳細ページに動的な SEO 値を追加できるようになりました。

CMS コレクションのパーソナライズ

CMS コレクションコンポーネントの [パーソナライズ] オプションを使用して、ユーザのカスタムエクスペリエンスを作成します。これを使用して、利用者の条件に基づいてユーザに表示されるコレクションを決定します。

Lightning Experience の B2B Commerce による Salesforce CMS コンテンツの使用

Salesforce CMS では、正式リリースされた Lightning Experience の B2B Commerce がサポートされています。画像や添付ファイルを Salesforce CMS の CMS ワークスペースに追加し、商品やカテゴリを使用してそれらをストアに含めます。

「CMS ワークスペースおよびチャネルを作成」ユーザ権限

Salesforce CMS ワークスペースおよびチャネルを作成できるユーザを制御するユーザ権限の名前が更新されました。「CMS ワークスペースおよびチャネルを管理」ユーザ権限が「CMS ワークスペースおよびチャネルを作成」と呼ばれるようになりました。有効にすると、「CMS ワークスペースおよびチャネルを作成」権限により、ユーザは CMS ワークスペースの作成と編集、および CMS チャネルの追加が可能になります。

画像およびドキュメントコンテンツタイプを使用した CMS コンテンツの一元管理

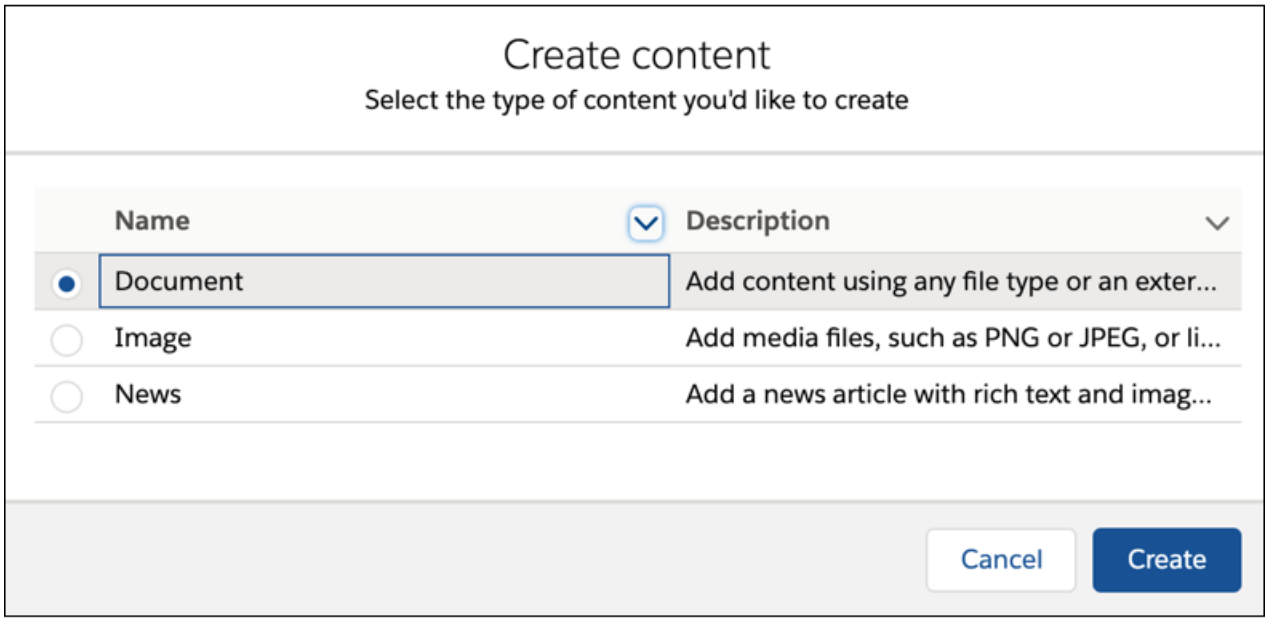
画像およびドキュメントコンテンツタイプを使用して、CMSアプリケーションから移動することなくコンテンツを整理できます。作業の作成、管理、共有をすべて 1 か所で行うことができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: コンテンツを作成するには、その CMS ワークスペースでの寄稿者ロールを持っている必要があります。

方法: 画像およびドキュメントコンテンツタイプによって、Salesforce CMS コンテンツの管理が簡単になりました。コンテンツをワークスペースに追加するときに、デスクトップから直接ファイルをアップロードするのか、外部 URL にリンクするのかを選択できます。

メモ: URL リンクの場合、ユーザがコンテンツにアクセスできるように、使用しているドメインが組織で許可されていることを確認します。

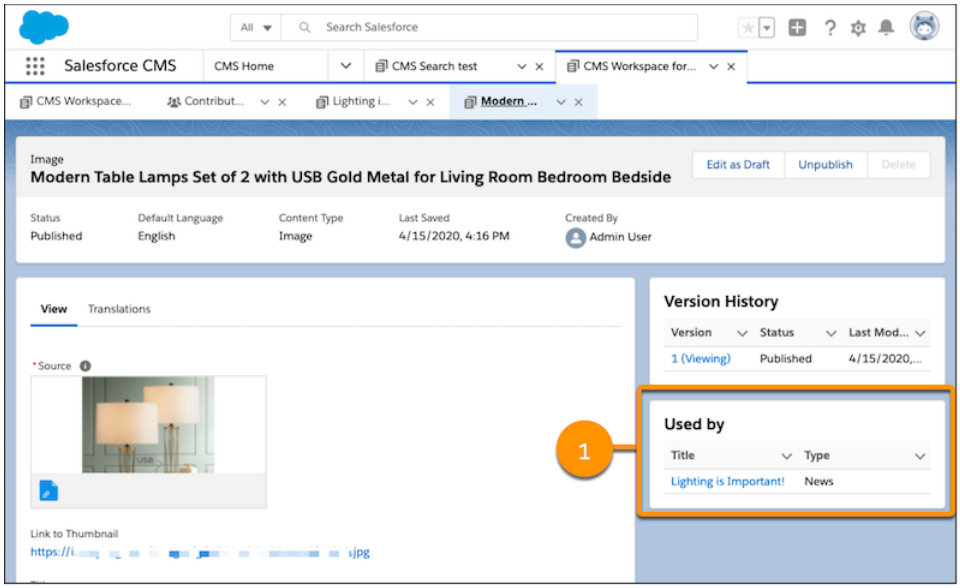


画像およびドキュメントはコンテンツレコード制限に対してカウントされないため、レコードの制限を心配せずにユーザのコンテンツエクスペリエンスを再定義できます制限。ビジネスの成長に合わせて、コンテンツを増やすことができます。

メモ: 保存できるファイルの多い組織でも、ガイドラインを確認してください。追加したコンテンツは、組織のストレージ制限に対してカウントされます。

コンテンツは、CMS ワークスペースのホームページに存在します。ここでは、ワークスペースに追加した画像またはドキュメントをタイトルで検索したり、項目のドラフト状況を確認したり、ビジネスニーズに合わせて新しいコンテンツでコミュニティを拡大したりできます。

以前にアセットライブラリに保存された画像は、それらが使用されていた CMS ワークスペースで見つけることができますが、画像の詳細ページの [利用者] カードで、他にどのようなコンテンツで画像が参照されているのかを一目で確認できるようになりました。(1) CMS アプリケーションから移動することなく、すでにワークスペースにある画像をニュース記事またはカスタムコンテンツに含めます。画像を公開して、コンテンツの詳細ページから表示および選択します。または、ニュースまたはカスタムコンテンツタイプから新しい画像を追加するときに直接公開します。



画像が含まれるコンテンツを簡単に更新できます。画像の新しいバージョンを公開すると、それを参照するすべてのコンテンツも更新されます。画像を非公開にすると、それを参照するすべてのコンテンツで画像が表示されなくなります。画像の詳細ページの [利用者] カードでは、画像が参照されている場所を一目で確認できます。未公開の画像や削除された画像への参照があるブログ投稿でも公開できます。作成の詳細ページには、画

像の参照が使用できないことを通知するメッセージが表示されるため、コンテンツの公開をためらわずに済みます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Web サイトを CORS ホワイトリストに追加 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: データストレージとファイルストレージの割り当て (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

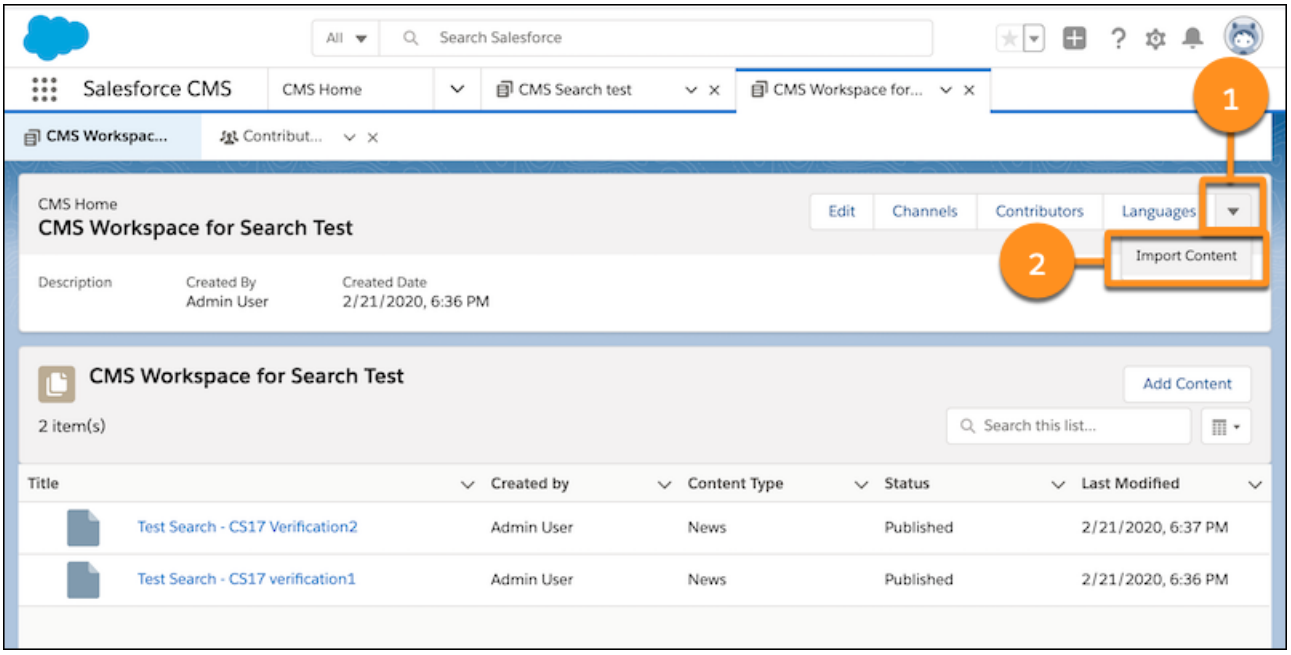
Salesforce CMS ワークスペースへのコンテンツのインポート

JSON ファイルの .zip アーカイブをアップロードして、画像、ニュース、ドキュメント、カスタムコンテンツタイプなどのコンテンツを Salesforce CMS のワークスペースにインポートします。外部ソースまたは CMS からコンテンツを転送したり、商品を強化させるために外部デジタルアセットマネージャ (DAM) から画像を一括インポートしたりできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

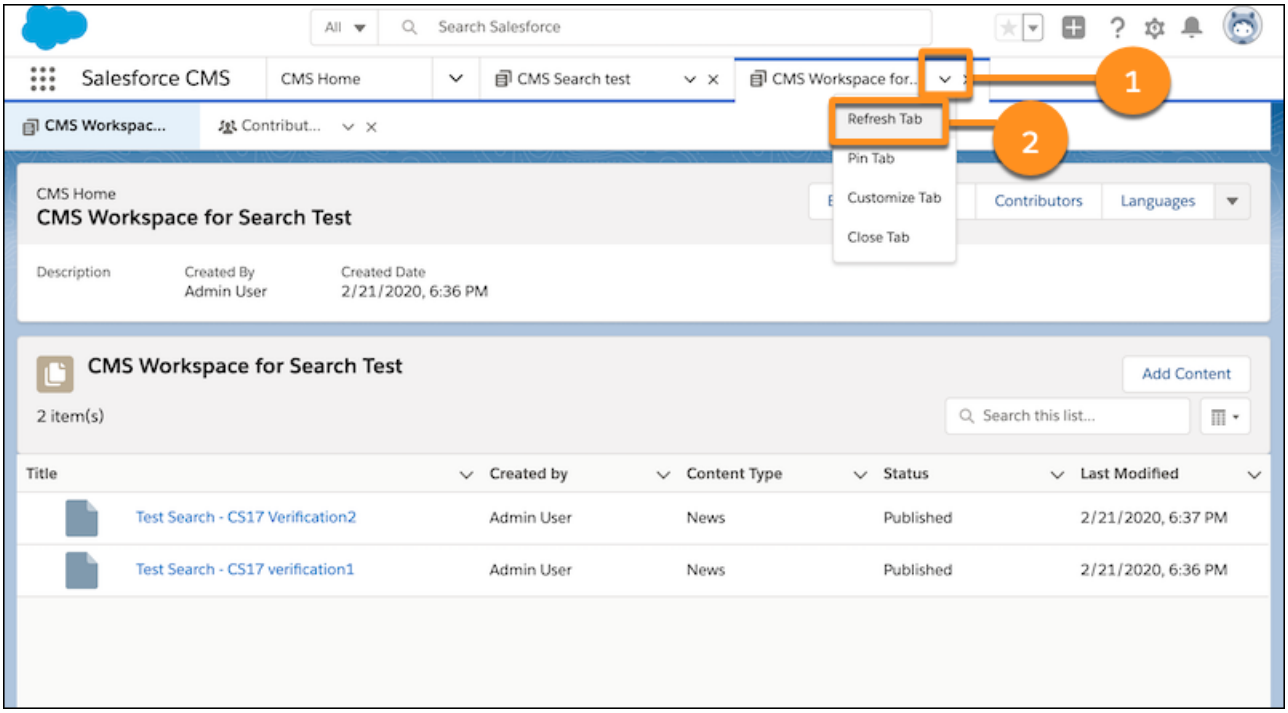
対象ユーザ: コンテンツをインポートするには、その CMS ワークスペースでのコンテンツ管理者ロールを持っているか、Salesforce システム管理者である必要があります。

方法: JSON ファイルにコンテンツの詳細を入力して、ファイルの .zip アーカイブを作成します。次に、Salesforce CMS でワークスペースを開き、メニュードロップダウン (1) をクリックして [インポートの内容] (2) を選択し、アップロードする .zip ファイルを選択します。



コンテンツが Salesforce CMS に正常にインポートされると、それが CMS ワークスペースコンテンツリストに追加されます。ワークスペースタイトルタブのドロップダウンメニュー (1) をクリックして、[タブを更新] (2) を選

択するとそれが表示されます。



関連トピック:

Salesforce CMS ワークスペースへのコンテンツのインポート

コンテンツの詳細ページへの動的 SEO プロパティの追加

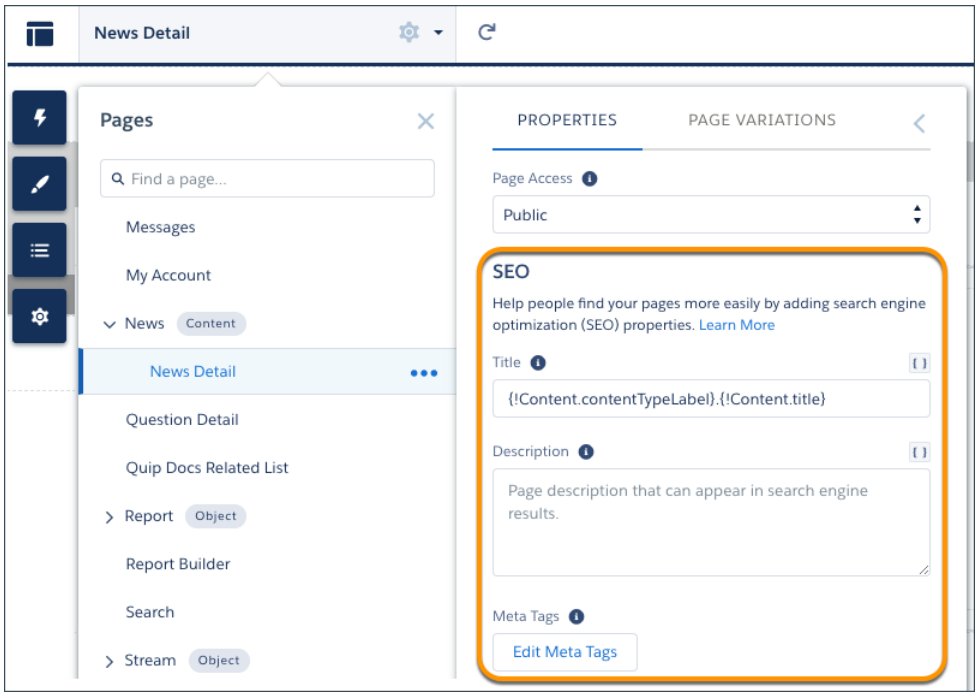
検索エンジンの結果を改善し、顧客が求める Salesforce CMS コンテンツを見つけやすくします。Lightning コミュニティのコンテンツの詳細ページに動的な SEO 値を追加できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする、Lightning コミュニティチャネルを使用する Salesforce CMS および Lightning コミュニティに適用されます。

方法: エクスペリエンスビルダーのページのプロパティで、式を使用して、関連付けられたコンテンツから動的ページのタイトルと説明の値を動的メタデータタグと共に追加できます。

たとえば、`{!Content.contentTypeLabel}.{!Content.title}` という式を使用して、コンテンツ項目の種別とタイトルを検索結果に表示できるようになりました。

これらの SEO プロパティは、すべてのコンテンツの詳細ページ (ニュースの詳細ページ、ドキュメントの詳細ページ、画像の詳細ページなど) で使用できます。コンテンツの詳細ページは自動的にサイトマップに含まれます。



CMS コレクションのパーソナライズ

CMS コレクションコンポーネントの [パーソナライズ] オプションを使用して、ユーザのカスタムエクスペリエンスを作成します。これを使用して、利用者の条件に基づいてユーザに表示されるコレクションを決定します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする、Salesforce CMS を使用する Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

ナビゲーションメニュー、タイルメニュー、CMS コレクションを使用したさらなるパーソナライズ

Lightning Experience の B2B Commerce による Salesforce CMS コンテンツの使用

Salesforce CMS では、正式リリースされた Lightning Experience の B2B Commerce がサポートされています。画像や添付ファイルを Salesforce CMS の CMS ワークスペースに追加し、商品やカテゴリを使用してそれらをストアに含めます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする、Salesforce CMS が有効になっている B2B Commerce に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、B2B Commerce **ライセンスを持つユーザが使用できます。**

関連トピック:

Lightning Experience の B2B Commerce

「CMS ワークスペースおよびチャネルを作成」ユーザ権限

Salesforce CMS **ワークスペースおよびチャネルを作成できるユーザを制御するユーザ権限の名前が更新されました。「**CMS **ワークスペースおよびチャネルを管理」ユーザ権限が「**CMS **ワークスペースおよびチャネルを作成」と呼ばれるようになりました。有効にすると、「**CMS **ワークスペースおよびチャネルを作成」権限により、ユーザは** CMS **ワークスペースの作成と編集、および** CMS **チャネルの追加が可能になります。**

対象: この変更は、Enterprise Edition**、**Performance Edition**、**Unlimited Edition**、**Developer Edition **の** Lightning Experience **に適用されます。**

ファイル: ファイルセキュリティの強化および Adobe Flash 表示のサポート終了

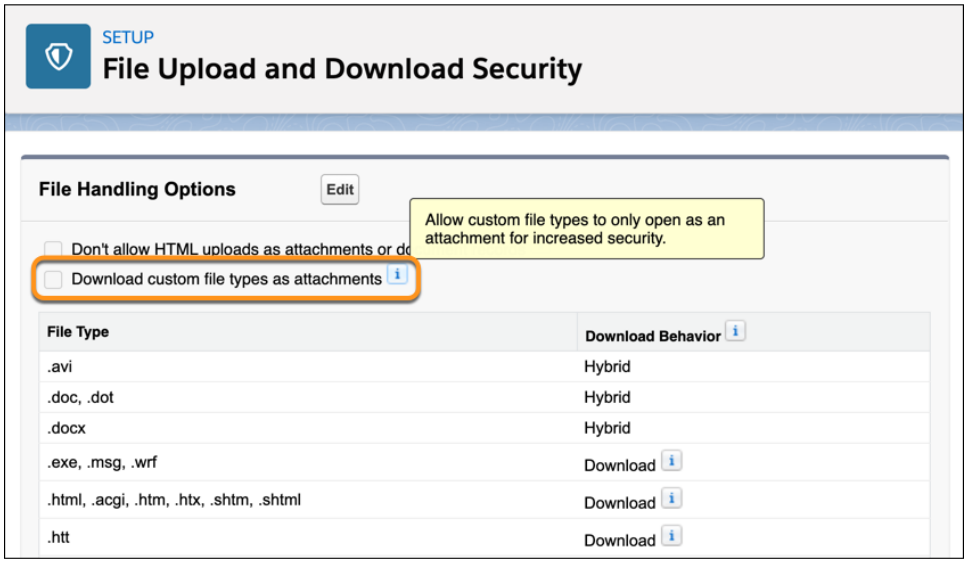
ユーザは添付ファイルとしてすべてのカスタムファイルの種類をダウンロードできます。Connect REST API **のファイル変換を** Adobe Flash **から** SVG **に切り替えます。**

カスタムファイルの種類を添付ファイルとしてダウンロード可能

Salesforce**データのセキュリティを強化するには、ユーザが添付ファイルとしてすべてのカスタムファイルの種類をダウンロードできるようにします。**

対象: この変更は、Lightning Experience **および** Salesforce Classic **のすべてのエディションに適用されます。**

方法:[設定]の[ファイルのアップロードおよびダウンロードセキュリティ]ページでから、添付ファイルとして[ダウンロード]カスタムファイルの種類を選択します。この設定が有効になっていると、認識できないファイルの種類がブラウザで開かれずに安全にダウンロードされます。この設定が自動的に有効になる前にこの設定を有効化して設定への影響を確認することを強くお勧めします。



Connect REST API でのファイル変換の切り替え

Summer '20 では、Connect REST API はデフォルトで Adobe Flash 変換を返さなくなります。Winter '21 では、Connect REST API は Adobe Flash を作成しなくなります。SVG 変換に切り替えてください。

対象: この変更は、Professional Edition を除くすべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Summer '20 でも Adobe Flash 変換が必要な場合は、カスタマーサポートにお問い合わせください。代わりに、Connect REST API File Preview リソースを使用して SVG 変換を取得することをお勧めします。

モバイル: Salesforce モバイルアプリケーションおよび通知の機能強化

パーソナライズされたナビゲーションおよびモバイル活動アラーム (パイロット) を使用して、Salesforce モバイルアプリケーションから離れずにより多くの作業を実行できます。より多くのプッシュ通知を送信し、カスタム通知を外部アプリケーションに送信します。Lightning コミュニティへのアクセス権を持つすべてのユーザが Mobile Publisher Playground アプリケーション (ベータ) にアクセスできるようになりました。

このセクションの内容:

- Salesforce モバイルアプリケーション: ナビゲーションの改善、モバイル活動アラーム (パイロット)
  ユニバーサルリンクを使用して、メールから Salesforce for iOS にシームレスに移動します。モバイルアプリケーションから直接 Lightning アプリケーションのナビゲーション項目を並び替えます。モバイル (パイロット) を使用して、ユーザのモバイルデバイスに活動アラームを表示します。

通知: 通知ビルダープラットフォーム、より多くのプッシュ通知
カスタム通知を外部接続アプリケーションに送信します。プッシュ通知の制限の緩和により、より多くのユーザに頻繁に連絡できます。

コミュニティ向け Mobile Publisher: 異なるテストモード間の切り替え、Publisher Playground アプリケーションへのより強いアクセス権の付与
Mobile Publisher Playground アプリケーションは、Lightning コミュニティにアクセス可能なより多くのユーザが使用できるようになりました。異なるテストモードを切り替えることができる新しい設定画面もあります。

Salesforce Anywhere: Salesforce コラボレーションの合理化と最適化 (ベータ)
Salesforce Anywhere モバイルアプリケーションを使用して、Salesforce のコラボレーション環境を一元化し、チームの生産性を向上させます。ユーザは Salesforce レコードについてチャットおよびコラボレーションし、Salesforce データの変更に関するパーソナライズされたアラートを受け取り、外出先でアプリケーション内のレコードを更新できます。

Salesforce モバイルアプリケーション: ナビゲーションの改善、モバイル活動アラーム (パイロット)

ユニバーサルリンクを使用して、メールから Salesforce for iOS にシームレスに移動します。モバイルアプリケーションから直接 Lightning アプリケーションのナビゲーション項目を並び替えます。モバイル (パイロット) を使用して、ユーザのモバイルデバイスに活動アラームを表示します。

このセクションの内容:

Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能
Salesforce モバイルアプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

Salesforce モバイルアプリケーションのすべての新機能

Salesforce モバイルアプリケーションの一連の新機能と改善された機能により、外出先でさらに簡単に Salesforce にアクセスできるようになります。

新しい Salesforce モバイルアプリケーションは、Database.com 以外のすべてのエディションで追加ライセンスなしで使用できます。組織の Salesforce エディションとライセンス、およびユーザに割り当てられたプロファイルと権限セットによって、各ユーザが使用できる Salesforce データおよび機能が決定します。

ほとんどの機能は、2020 年 7 月 20 日の週に Salesforce モバイルアプリケーションで使用できるようになります。

Salesforce モバイルアプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	フルサイトの設定
ブラウザとオペレーティングシステム			
Salesforce モバイルアプリケーションの要件の変更 (ページ 427)	✔	✔	
Salesforce モバイル Web ブラウザ環境の廃止 (ページ 428)			
データのアクセスおよび表示			

Salesforce モバイルアプリケーションの機能強化と変更	Salesforce for Android	Salesforce for iOS	フルサイトの設定
Android オブジェクトホームページでのすべてのリストへのアクセス (ページ 429)	✔		
Android でキャッシュをいつでもクリア (ページ 429)	✔		
レポートの強調表示で要点を示す (ページ 430)		✔	✔
ナビゲーションおよびアクション			
Lightning アプリケーションのナビゲーションメニュー項目の並び替え (ページ 431)	✔	✔	
iOS で 1 回のタップでリンクを開く (ページ 432)		✔	
通知			
プッシュ通知の制限が緩和されました (ページ 433)	✔	✔	
アクセスおよびセキュリティ			
拡張モバイルセキュリティの更新によるデータの保護 (ページ 433)	✔	✔	✔

Salesforce モバイルアプリケーションの要件の変更

Salesforce は、Android および iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションを使用するための要件を改訂しています。モバイルプラットフォーム要件と、Salesforce 環境を継続的に改善するための機能テストとパフォーマンステストに使用するデバイスについて説明します。

モバイルプラットフォーム要件

オペレーティングシステムおよびバージョン要件

Android ユーザは Salesforce モバイルアプリケーションを Android 7.0 以降で実行できるようになりました。以前は、Android 6.0 以降がサポートされました。

モバイルブラウザ要件

Salesforce モバイル Web は廃止されました。モバイルデバイスから Salesforce にアクセスするには、App Store または Google Play からダウンロード可能な Salesforce モバイルアプリケーションを使用するか、iPad ブラウザで Lightning Experience を使用します。

急速に進化し続けるモバイル市場でイノベーションを行い、Salesforce を最新の状態に保つために、プラットフォームの最小要件は事前通知の有無に関わらず、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce テストに使用されるモバイルデバイス

Salesforce は、選択した一連のモバイルデバイスで iOS および Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションの自動テストや手動テストを実行します。Summer '20 のデバイスリストを次に示します。

プラットフォーム	スマートフォン	タブレット
Android	• Google Pixel 4 XL • Google Pixel 3a • Google Pixel 3 • Google Pixel 2 / Pixel 2 XL • Samsung Galaxy S20 • Samsung Galaxy S10 / S10+ • Samsung Galaxy S9 / S9+ • Samsung Galaxy S8 / S8+ • Samsung Galaxy S7 • Samsung Galaxy Note 9 • Samsung Galaxy Note 8	
iOS	• iPhone 11 Pro / Pro Max • iPhone 11 • iPhone XR • iPhone XS Max • iPhone X • iPhone 8/8 Plus • iPhone 7/7 Plus • iPhone SE • iPhone 6S • iPhone 6	• iPad Pro 10.5″ • iPad Air 2 • iPad Mini 4

お客様は、現在のプラットフォーム要件を満たしていればテスト対象外デバイスでも Salesforce を使用できます。デバイスメーカー固有のカスタマイズが原因で、Salesforce は、テスト対象外デバイスで Salesforce を使用するお客様の問題を再現できない場合があります。

急速に進化し続けるモバイル市場でイノベーションを行い、Salesforce を最新の状態に保つために、Salesforce テスト対象デバイスのリストは事前通知の有無に関わらず、Salesforce の自由な裁量によって変更される可能性があります。

Salesforce モバイル Web ブラウザ環境の廃止

Salesforce モバイル Web へのアクセスは Summer '20 で廃止されます。モバイルデバイスから Salesforce にアクセスするには、Google Play または App Store からダウンロード可能な Salesforce モバイルアプリケーションを使用します。または、iPad の Safari で Lightning Experience を使用します。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイル Web に適用されます。

関連トピック:

ナレッジ記事: Salesforce モバイル Web 環境の廃止

Android オブジェクトホームページでのすべてのリストへのアクセス

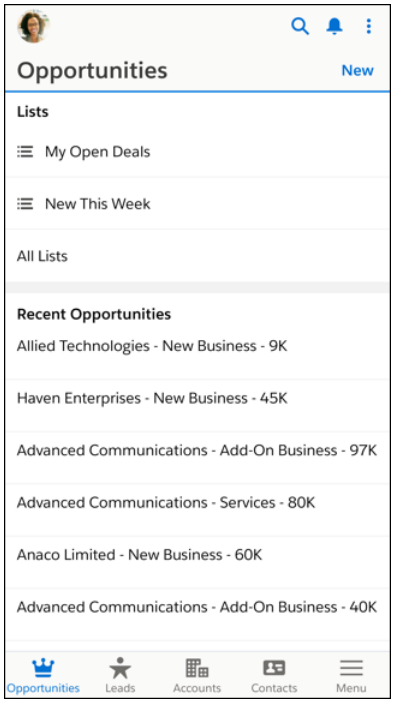
Android ユーザはオブジェクトホームページですべてのリストにアクセスできます。以前は、ユーザには Salesforce デスクトップサイトでアクセスした最新の 2 つのリストのみが表示されていました。つまり、新しいユーザには空のリストが表示されるため、オブジェクトホームページはそれほど便利ではありませんでした。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: この変更は、2020 年 7 月 20 日の週に使用可能になります。

理由: 多くのユーザにとって、リストは、自分にとって最も重要なレコーを並び替え、優先度付けし、分析するための優れた方法です。各オブジェクトホームページには、ユーザが最近アクセスした 2 つのリストに加えて、そのオブジェクトのすべてのリストを表示するリンクが表示されます。

リストの下では、ユーザはオブジェクトの最近アクセスしたレコードに容易に再アクセスできます。



Android でキャッシュをいつでもクリア

Android ユーザは Salesforce モバイルアプリケーションで直接キャッシュをクリアすることで、最新のレコードレイアウトとデータを確実に表示することができます。以前は、Android ユーザはデバイスの設定に移動してキャッシュをクリアする必要がありました。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: この変更は、2020 年 7 月 20 日の週に使用可能になります。

理由: ユーザは、データを強制的に更新するのにアプリケーションを終了して再度開くのではなく、プロファイルメニューに移動できるようになりました。[設定] で [詳細] をタップし、[キャッシュデータをクリア] をタップします。

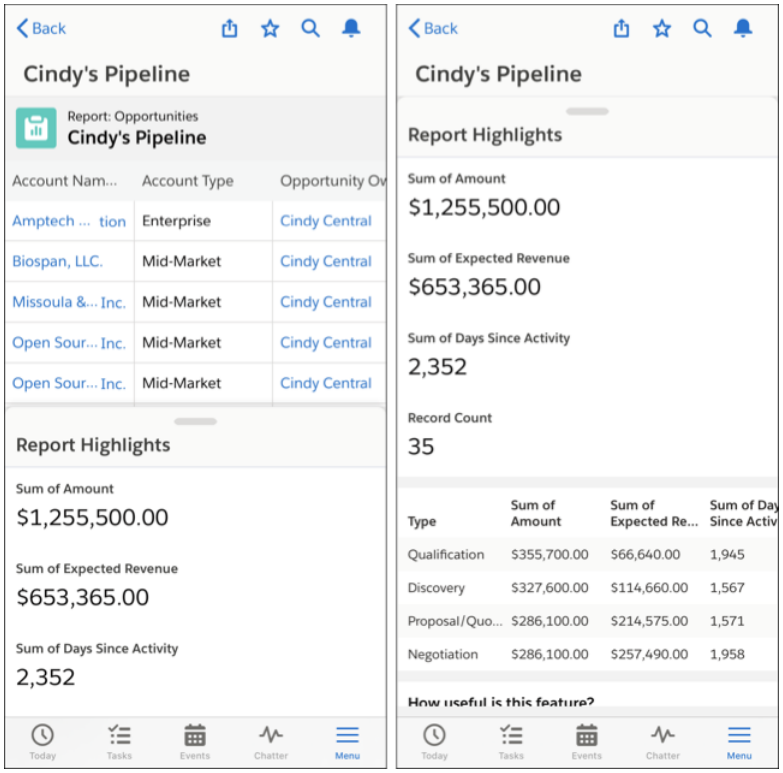
レポートの強調表示で要点を示す

ユーザは Salesforce モバイルアプリケーションでレポートの概要を取得できします。[レポートハイライト] には、平均金額、総数、小計、レコード件数、および数式列の結果を含め、最大 8 個の主要な総計値のサマリーが表示されます。サマリーレポートおよびマトリックスレポートでは、ユーザは第 1 レベルのグループ項目に基づくグループの合計も表示できます。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: この変更は、2020 年 7 月 20 日の週に使用可能になります。

理由: ユーザがモバイルデバイスでレポートを参照する場合、長い詳細なレポートテーブルを何度もスクロールするのではなく、情報を一目で確認したいと考えます。集計された合計は、データの調査で 1 日を無駄なく過ごすのに役立ちます。



ユーザは Lightning Experience デスクトップのレポート実行ページから [レポートハイライト] に表示される総計値をカスタマイズできます。

Lightning アプリケーションのナビゲーションメニュー項目の並び替え

モバイルユーザは、ナビゲーションバーとナビゲーションメニューの設定方法を詳細に制御できます。パーソナライズを有効にしている Lightning アプリケーションでは、ユーザは Salesforce モバイルアプリケーションでナビゲーション項目を並び替えることができます。以前は、ユーザは Lightning アプリケーションのデスクトップバージョンを変更する必要がありました。この変更はモバイルナビゲーションメニュー、モバイルナビゲーションバー、デスクトップナビゲーションバーに影響します。

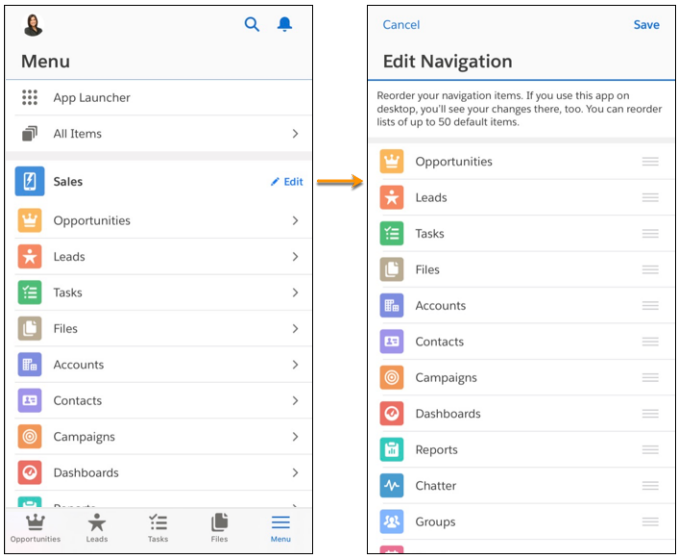
対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

時期: この変更は、2020 年 7 月 20 日の週に使用可能になります。

理由: ユーザの移動が多い場合でも、ユーザが長期出張に出かける場合でも、モバイルワークフローに合わせてナビゲーション項目を並び替えることで生産性が向上します。ユーザは、ナビゲーション項目を並び替えて最も頻繁に使用する項目をナビゲーションメニューの一番上に配置するができます。メニューの最初の 4 つの項目は、画面下部のナビゲーションバーにも表示されるため、常に容易にアクセスできます。また、ユーザは Salesforce モバイルアプリケーション内から変更を加えることができるようになったため、モバイル専用 Lightning アプリケーションのナビゲーション項目を、システム管理者にサポートを求めることなくパーソナライズできます。

メモ: Today などの Salesforce モバイルアプリケーションでのみ使用可能な項目は、並び替えることができません。

項目を並び替えるには、ナビゲーションメニューに移動し、[編集] アイコンをタップして、必要に応じて項目をドラッグします。



方法: パーソナライズは Lightning アプリケーションではデフォルトで有効になっています。ただし、特定のアプリケーションでユーザにナビゲーションバーをパーソナライズさせたくない場合、パーソナライズを無効にします。Lightning Experience の [設定] でアプリケーションマネージャに移動します。目的の項目で、[アプリケー

ションオプション]を選択します。[エンドユーザによるこのアプリケーションのナビゲーション項目のパーソナライズを無効にする] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce モバイルアプリケーションでの Lightning アプリケーションのナビゲーションメニューのカスタマイズ(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

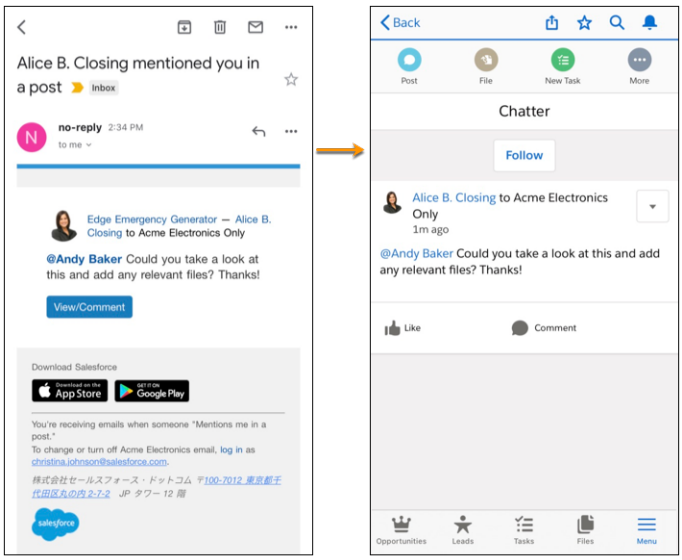
iOS で 1 回のタップでリンクを開く

iOS 13 以降を使用している Salesforce モバイルアプリケーションユーザは、携帯電話で 1 回タップするだけで、Lightning URL および Chatter 通知リンクを開くことができるようになりました。以前は、ユーザはコンテンツを表示するために一連の障害物 (画面) をタップしていました。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの iOS 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。この変更は、Mobile Publisher プログラムから作成された Salesforce モバイルアプリケーションには適用されません。

時期: この変更は、2020 年 7 月 20 日の週に使用可能になります。

理由: 以前は、ユーザはモバイルメールから Salesforce リンクをタップしてコンテンツに移動する前に、「Salesforce で開きますか?」ポップアップをタップする必要がありました。ユーザがモバイルアプリケーションをインストールしていない場合は、画面の数とタップの数はさらに多くなりました。今回、モバイルアプリケーションに簡単に移動できるようになりました。



この機能は、Salesforce アプリケーションがデバイスにインストールされているユーザの iPad でも動作します。アプリケーションがインストールされていない iPad のユーザには、ブラウザの Lightning Experience のページが表示されます。アプリケーションがインストールされていない iPhone のユーザは、アプリケーションのインストールを促されます。

Android ユーザは、Salesforce リンクを最初にタップしたときに適切なアプリケーションを選択するように促され、Android に選択肢を記憶するように指示できます。操作は変わりません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: iOS で 1 回のタップでリンクを開く (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

プッシュ通知の制限が緩和されました

iOS プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 20,000 件、Android プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 10,000 件送信できます。

対象: この変更は、Database.com を除くすべてのエディションの iOS および Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションに適用されます。

拡張モバイルセキュリティの更新によるデータの保護

Salesforce モバイルアプリケーションの拡張モバイルセキュリティに、より強力な保護が組み込まれました。モバイルデバイスが再起動されたときにユーザに再ログインを強制するなど、新しいポリシーを適用できるようになりました。これらの新しいポリシーで、Salesforce アプリケーションデータとユーザの個人データをさらに保護できます。

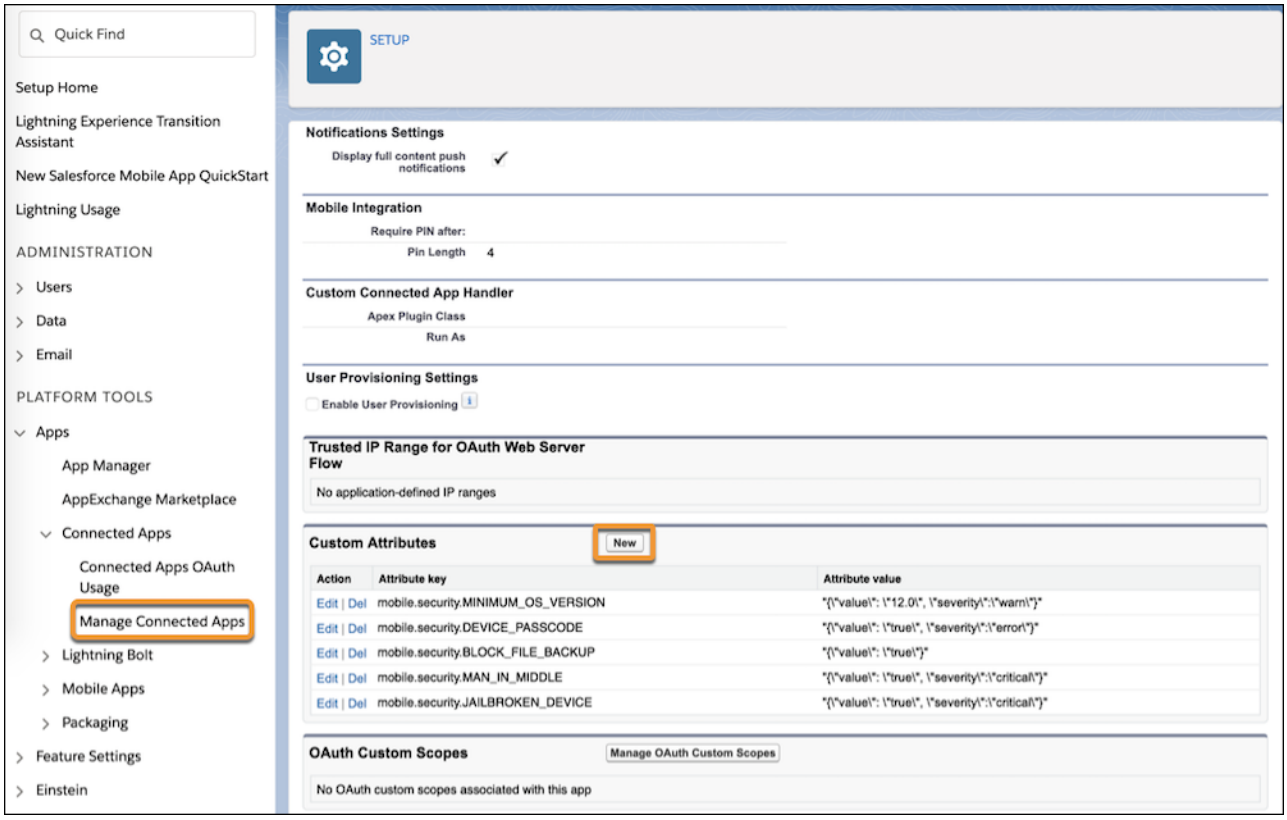
対象: Essentials および Database.com を除くすべてのエディションの新しい Salesforce モバイルアプリケーションで有料で使用できます。

時期: この変更は、2020 年 7 月 20 日の週に使用可能になります。

対象ユーザ:「拡張モバイルアプリケーションセキュリティを適用」ユーザ権限を持つユーザが使用できます。

理由: 拡張モバイルセキュリティの更新には、モバイルデバイスが再起動されたとき、または新しい生体認証 ID が追加されたときに、ユーザに再ログインを強制することが含まれます。ポリシーを更新せずに、ユーザがオフラインの日数を指定して、URL キャッシュを無効にすることもできます (iOS のみ)。

方法: [設定] で「*接続アプリケーション*」を検索し、[接続アプリケーションを管理する] を選択します。変更するアプリケーションを選択し、ポリシーをカスタム属性として追加して設定します。



関連トピック:

Salesforce モバイルアプリケーションセキュリティガイド(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

通知: 通知ビルダープラットフォーム、より多くのプッシュ通知

カスタム通知を外部接続アプリケーションに送信します。プッシュ通知の制限の緩和により、より多くのユーザに頻繁に連絡できます。

このセクションの内容:

通知ビルダープラットフォームを使用した外部アプリケーションへのカスタム通知の送信

通知ビルダープラットフォームを使用すると、カスタム通知をさまざまな場所に表示できます。アプリケーション所有者は、接続アプリケーションでカスタム通知種別を登録して、アプリケーション内通知とプッシュ通知を受信および表示できます。以前は、カスタム通知は Salesforce が提供するアプリケーションでのみ使用可能でした。

制限の緩和によるより多くのプッシュ通知の送信

モバイルプッシュ通知の制限は、組織ごとに 1 時間あたり 20,000 回の iOS プッシュ通知、10,000 回の Android プッシュ通知に緩和されました。以前は、1 日あたりのプッシュ通知の制限があり、制限はモバイルアプリケーションの種別によって異なっていました。

通知ビルダープラットフォームを使用した外部アプリケーションへのカスタム通知の送信

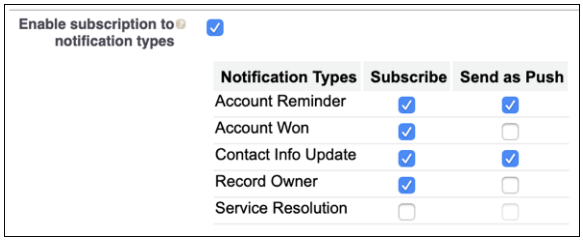
通知ビルダープラットフォームを使用すると、カスタム通知をさまざまな場所に表示できます。アプリケーション所有者は、接続アプリケーションでカスタム通知種別を登録して、アプリケーション内通知とプッシュ通知を受信および表示できます。以前は、カスタム通知はSalesforceが提供するアプリケーションでのみ使用可能でした。

対象: この変更は、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer EditionのLightning Experienceに適用されます。カスタム通知を含む接続アプリケーションのパッケージ化は、Developer Editionで使用できます。

理由: カスタム通知によって、接続アプリケーションのユーザがワークフローとの連携を維持できます。通知ビルダープラットフォームを使用して、関連する更新とアラームを独自の組織のユーザに送信します。または、配布するアプリケーションとそのアプリケーションで登録するカスタム通知(通知種別やトリガを含む)を一緒にパッケージ化します。通知は、すぐに機能します。

方法: 通知種別を作成し、その種別でサポートされる適切なチャネルを有効にしたら、アプリケーションでカスタム通知を登録できます。[設定] の [カスタム通知] ページまたはAPIを使用して、カスタム通知種別を管理できます。トリガをカスタム通知種別に関連付けるには、その種別をプロセスまたはフローに追加します。

接続アプリケーションでカスタム通知種別を登録するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「アプリケーション」と、入力し、[アプリケーションマネージャ]を選択します。目的のアプリケーションを見つけて、ドロップダウンメニューから [編集] を選択します。接続アプリケーションページの [モバイルアプリケーション設定] セクションで、[通知種別の登録を有効化] を選択します。目的のカスタム通知種別の [登録]、または [登録] と [プッシュとして送信] の両方を選択し、変更を保存します。



『Salesforce Mobile プッシュ通知実装ガイド』を使用して、アプリケーションのアプリケーション内通知とプッシュ通知を実装します。新しいConnect REST API通知リソースを使用して、組織のカスタム通知の状況を取得、更新、または表示します。

接続アプリケーションと一緒にカスタム通知をパッケージ化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「パッケージ」と、入力し、[パッケージマネージャ] を選択します。新しい管理パッケージを作成するか、

既存の管理パッケージを編集するときに、接続アプリケーションと、そのアプリケーションでコンポーネントとして登録するカスタム通知種別を追加します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 通知ビルダープラットフォームを使用したカスタム通知の送信 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce Mobile 転送通知実装ガイド (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Connect REST API Developer Guide (Connect REST API 開発者ガイド): Notifications Resources (通知リソース) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: 通知ビルダーを使用した通知の管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: アプリケーションのパッケージ化および配布 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

制限の緩和によるより多くのプッシュ通知の送信

モバイルプッシュ通知の制限は、組織ごとに 1 時間あたり 20,000 回の iOS プッシュ通知、10,000 回の Android プッシュ通知に緩和されました。以前は、1 日あたりのプッシュ通知の制限があり、制限はモバイルアプリケーションの種別によって異なっていました。

対象: この変更は、ユニバーサル通知サービスを介してプッシュ通知を送信する、次のアプリケーションを含むすべてのモバイルアプリケーションに適用されます。

- Salesforce が提供するモバイルアプリケーション (Salesforce モバイルアプリケーション、Field Service Lightning モバイルアプリケーション、Einstein Analytics Mobile アプリケーション、Mobile Publisher で作成されたモバイルアプリケーションを含む)
- Apex コードまたは通知ビルダープラットフォームを介してプッシュ通知を送信する、カスタム接続モバイルアプリケーション
- AppExchange からインストールされた、プッシュ通知を送信するモバイルアプリケーション

理由: この新しい制限により、ユーザへの連絡が容易になります。さらに、より簡単です。アプリケーションが Salesforce によって提供されているか自社で開発されているか、AppExchange からインストールされているかに関係なく、プッシュ通知を送信できます。

メモ: 組織の 1 時間あたりのプッシュ通知制限に達した場合でも、REST API を介したアプリケーション内表示と取得用の追加の通知は作成されます。

関連トピック:

Salesforce Mobile 転送通知実装ガイド: プッシュ通知の制限 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

コミュニティ向け Mobile Publisher: 異なるテストモード間の切り替え、Publisher Playground アプリケーションへのより強いアクセス権の付与

Mobile Publisher Playground アプリケーションは、Lightning コミュニティにアクセス可能なより多くのユーザが使用できるようになりました。異なるテストモードを切り替えることができる新しい設定画面もあります。

このセクションの内容:

Publisher Playground アプリケーションでのテストモード間の切り替え (ベータ)
Publisher Playground アプリケーションで、本番、Sandbox、デモテストモード間をすばやく切り替えることができます (iOS のみ)。

Publisher Playground アプリケーションへの容易なアクセス (ベータ)
Summer '20 より前は、ユーザが Publisher Playground アプリケーションにアクセスするには Salesforce から優待ライセンスを取得する必要がありました。Lightning コミュニティへのアクセス権を持つすべてのユーザが Publisher Playground アプリケーションにアクセスできるようになりました。

プッシュ通知の制限が緩和されました
iOS プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 20,000 件、Android プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 10,000 件送信できます。

Publisher Playground アプリケーションでのテストモード間の切り替え (ベータ)

Publisher Playground アプリケーションで、本番、Sandbox、デモテストモード間をすばやく切り替えることができます (iOS のみ)。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

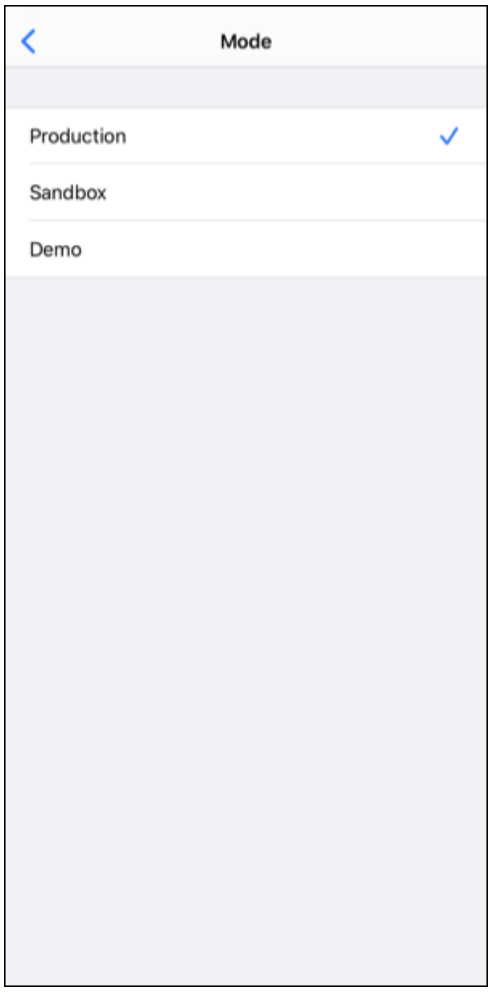
メモ: このアプリケーションは、ベータプログラムを介してお客様に提供されます。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されているこの公開ベータアプリケーションは正式リリースされていません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式にリリースされている機能のみに基づいて購入をご決定ください。

時期: この公開ベータアプリケーションは、Summer '20 リリースで使用できます。

対象ユーザ: Lightning コミュニティにアクセス可能なユーザが使用できます。

理由: 異なるテストモード間をすばやく切り替えられるようにします。

方法: Publisher Playground アプリケーションの iOS 設定で、[本番]、[Sandbox]、[デモ] テストモードのいずれかを選択できます。



Publisher Playground アプリケーションへの容易なアクセス (ベータ)

Summer '20 より前は、ユーザが Publisher Playground アプリケーションにアクセスするには Salesforce から優待ライセンスを取得する必要がありました。Lightning コミュニティへのアクセス権を持つすべてのユーザが Publisher Playground アプリケーションにアクセスできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

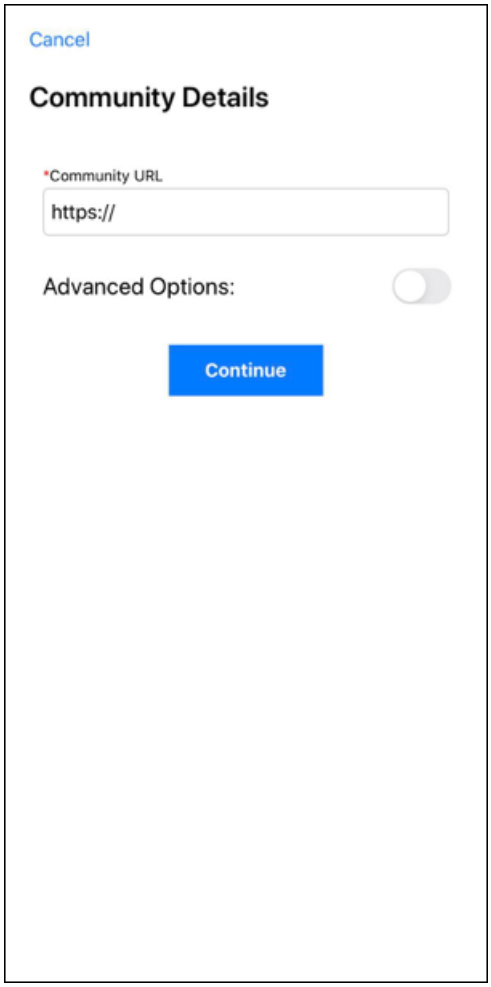
メモ: このアプリケーションは、ベータプログラムを介してお客様に提供されます。このドキュメント、プレスリリース、または公式声明で参照されているこの公開ベータアプリケーションは正式リリースされていません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式にリリースされている機能のみに基づいて購入をご決定ください。

時期: この公開ベータアプリケーションは、Summer '20 リリースで使用できます。

対象ユーザ: Lightning コミュニティにアクセス可能なユーザが使用できます。

理由: ユーザが Publisher Playground アプリケーションに容易にアクセスし、モバイルコミュニティの機能をテストできるようにします。

方法: Publisher Playground アプリケーションは、全面的にブランド設定されたコミュニティ向け Mobile Publisher アプリケーションのほとんどの機能をサポートします。



プッシュ通知の制限が緩和されました

iOS プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 20,000 件、Android プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 10,000 件送信できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Mobile Publisher および Lightning コミュニティに適用されます。

関連トピック:

制限の緩和によるより多くのプッシュ通知の送信

Salesforce Anywhere: Salesforce コラボレーションの合理化と最適化 (ベータ)

Salesforce Anywhere モバイルアプリケーションを使用して、Salesforce のコラボレーション環境を一元化し、チームの生産性を向上させます。ユーザは Salesforce レコードについてチャットおよびコラボレーションし、Salesforce データの変更に関するパーソナライズされたアラートを受け取り、外出先でアプリケーション内のレコードを更新できます。

対象: Salesforce Anywhere モバイルアプリケーションは、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の iOS 携帯電話で使用できます。

メモ: Salesforce Anywhere は非正式リリースのサービスであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。このような非正式リリースのサービスには、Universal Pilot Research Agreement (「UPRA」) および UPRA のデータ処理に関する補遺の契約条件が適用されます。非正式リリースのサービスはお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、Salesforce から現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce Anywhere が自動的に使用可能になるかどうかは、Salesforce との MSA および購入したサービスの種別によります。[設定] に Salesforce Anywhere が表示されない場合は、アカウントエグゼクティブに連絡して Salesforce Anywhere へのアクセス権を取得してください。

時期: Salesforce Anywhere は、2020 年 7 月 13 日からローリング方式でリリースされます。組織が確実に Salesforce Anywhere ベータプログラムに登録されるようにするには、サインアップフォームに入力してください。

対象ユーザ: Salesforce Anywhere を使用するには、Salesforce、Salesforce Platform、または Lightning Platform ユーザライセンスが必要です。

Salesforce Anywhere のモバイル機能と Lightning Experience 機能については、「Salesforce Anywhere リリースノート」を参照してください。

Salesforce Sustainability Cloud: 炭素追跡の改善と国際サポートの改善

新しい Einstein Analytics ダッシュボードを使用して、重要業績評価指標および排出量のトレンドに簡単にアクセスできます。Sustainability Cloud の高い柔軟性とサポートを利用できます。SI (総計値) 単位を使用してデータを入力し、言語を 6 つのいずれかの言語に変更できます。Government Cloud 組織で Sustainability Cloud を実行できます。

最新情報については、*Trailblazer Community*: Sustainability Cloud またはパートナーコミュニティ: Sustainability Cloud の 1 か月ごとのリリースノートを参照してください。

このセクションの内容:

Einstein Analytics ダッシュボードを使用した二酸化炭素排出量の追跡
2 つの Einstein Analytics ダッシュボードを使用して、会社のエネルギー使用量および二酸化炭素排出量を把握できます。Climate Action Dashboard および Business Travel Impact ダッシュボードでは、Sustainability Cloud からのデータを使用して重要業績評価指標を視覚化しています。

Government Cloud 組織での Sustainability Cloud のインストールおよび実行
Sustainability Cloud アプリケーションは Government Cloud でサポートされています。

Sustainability Cloud の言語の変更

Sustainability Cloud で他に 5 つの言語を使用できます。Sustainability Cloud を英語 (en_US)、フランス語 (fr)、ドイツ語 (de)、日本語 (ja)、スペイン語 (es)、スペイン語 (メキシコ) (es_MX) で使用できるようになりました。

SI 単位でのエネルギー使用および排出量データの入力

Sustainability Cloud 全体で国際単位系 (SI) を使用できるようになりました。帝国単位に変換せずに単位項目の選択リスト値を変更してデータを入力できるようになりました。計算済みの項目の多くでは SI 単位で値が表示されます。

Einstein Analytics ダッシュボードを使用した二酸化炭素排出量の追跡

2 つの Einstein Analytics ダッシュボードを使用して、会社のエネルギー使用量および二酸化炭素排出量を把握できます。Climate Action Dashboard および Business Travel Impact ダッシュボードでは、Sustainability Cloud からのデータを使用して重要業績評価指標を視覚化しています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

対象ユーザ: Sustainability Cloud ダッシュボードは、Einstein Analytics for Sales Cloud 権限セットを持つユーザが使用できます。ダッシュボードを設定するには、「アプリケーションのカスタマイズ」、「プロファイルと権限セットの管理」、「権限セットの割り当て」、「内部ユーザの管理」、「Analytics テンプレートアプリケーションの管理」ユーザ権限が必要です。

方法: Salesforce で Analytics Studio を開き、Sustainability テンプレートからアプリケーションを作成します。次に、ダッシュボードを自動的に更新するデータフローを設定します。簡単に表示できるように、いずれかまたは両方のダッシュボードを [Home] タブに追加します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Einstein Analytics ダッシュボードの設定

Salesforce ヘルプ: Einstein Analytics を使用したカーボンインベントリデータからのインサイトの取得

Government Cloud 組織での Sustainability Cloud のインストールおよび実行

Sustainability Cloud アプリケーションは Government Cloud でサポートされています。

対象: この変更は Government Cloud のお客様が使用でき、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

Sustainability Cloud の言語の変更

Sustainability Cloud で他に 5 つの言語を使用できます。Sustainability Cloud を英語 (en_US)、フランス語 (fr)、ドイツ語 (de)、日本語 (ja)、スペイン語 (es)、スペイン語 (メキシコ) (es_MX) で使用できるようになりました。

対象: この変更は、Performance Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: 管理者は [設定] で言語設定を変更し、これらの言語を使用可能な言語のリストに追加できます。ユーザはこのリストから個人の言語を選択できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 組織の言語の選択

SI 単位でのエネルギー使用および排出量データの入力

Sustainability Cloud 全体で国際単位系 (SI) を使用できるようになりました。帝国単位に変換せずに単位項目の選択リスト値を変更してデータを入力できるようになりました。計算済みの項目の多くでは SI 単位で値が表示されます。

対象: この変更は、Performance Edition、Enterprise Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience とすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: 新規インストールの代わりに Sustainability Cloud をアップグレードした場合、管理者は対応するページレイアウトに新しい単位項目を手動で追加する必要があります。新しい項目についての詳細は、*Trailblazer Community*: Sustainability Cloud または*パートナーコミュニティ*: Sustainability Cloud の 1 か月ごとのリリースノートを参照してください。

myTrailhead: カスタマイズしたナビゲーション設定による会社のブランド設定の強化

ユーザがヘルプアイコンをクリックしたり、myTrailhead からログアウトしたりしたときの移動先のページを選択します。myTrailhead ページフッターのカスタムリンクを作成します。モジュールページとトレイルページの製品カテゴリから不要な検索条件を削除します。Salesforce ブランド設定要素を myTrailhead から削除しました。これによりユーザが混乱することがなくなります。

このセクションの内容:

ヘルプページとログアウトランディングページの URL のカスタマイズ

myTrailhead ユーザが行き詰ったときにユーザを Salesforce ヘルプではなくヘルプサイトに案内します。ユーザが myTrailhead からログアウトしたときに、選択したページ (myTrailhead ホームページなど) にユーザを送ります。この URL は Trailmaker 設定の [ナビゲーション] ページでカスタマイズできます。

myTrailhead のフッターリンクのカスタマイズ

会社とユーザに関連するリンクを myTrailhead のページフッターに配置します。会社のコミュニティページ、プライバシーに関する声明、サービス利用規約など、必要な場所へのリンクを含めます。Trailmaker 設定の [ナビゲーション] ページで最大 3 個のカスタムリンクを指定でき、各リンクは最大 6 個の言語で表示できます。

myTrailhead の Salesforce および Trailhead ブランド設定要素を非表示

Astro、Codey、友達は Salesforce Trailhead の仲間です。ただし、これらのキャラクターは、必ずしも Salesforce ブランドに慣れていない myTrailhead ユーザを混乱させる可能性があります。Trailhead キャラクターの画像と他の Salesforce 固有のブランド要素を myTrailhead から削除しました。

myTrailhead の商品リストから検索条件を削除

検索条件は、myTrailhead ユーザが最も関連性の高いコンテンツに焦点を絞るのに役立ちます。たとえば、製品カテゴリの検索条件では、Sales Cloud、Service Cloud、または他の製品を対象とするコンテンツにユーザを導くことができます。製品カテゴリから検索条件を削除して、会社に関連する製品にリストを絞り込むことができます。

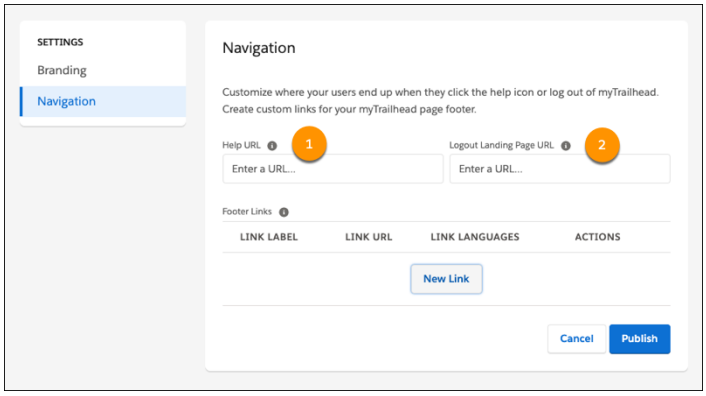
ヘルプページとログアウトランディングページの URL のカスタマイズ

myTrailhead ユーザが行き詰ったときにユーザを Salesforce ヘルプではなくヘルプサイトに案内します。ユーザが myTrailhead からログアウトしたときに、選択したページ (myTrailhead ホームページなど) にユーザを送ります。この URL は Trailmaker 設定の [ナビゲーション] ページでカスタマイズできます。

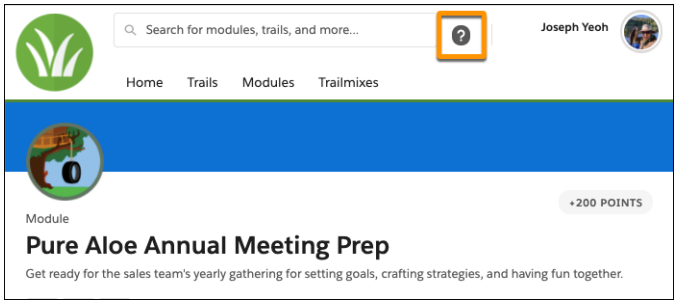
対象: myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

対象ユーザ: 「myTrailhead コンテンツアクセス」権限と「myTrailhead ブランド管理」権限を持つユーザは、会社の myTrailhead サイトにログインして Trailmaker 設定にアクセスできます。

方法: Trailmaker 設定の [ナビゲーション] ページで、[ヘルプ URL] (1) と [ログアウトランディングページ URL] (2) に任意の Web アドレスを入力します。



myTrailhead ユーザがログアウトするか、ヘルプアイコンをクリックすると、ユーザは指定されたページに移動します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ヘルプページとログアウトランディングページの URL のカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

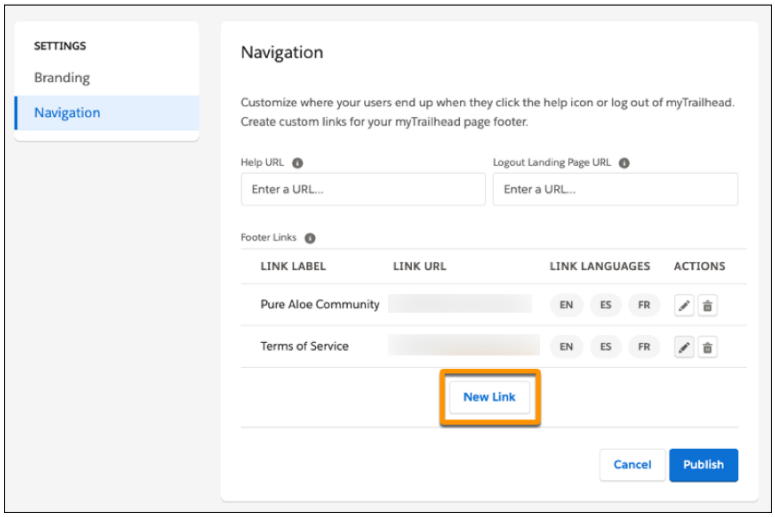
myTrailhead のフッターリンクのカスタマイズ

会社とユーザに関連するリンクを myTrailhead のページフッターに配置します。会社のコミュニティページ、プライバシーに関する声明、サービス利用規約など、必要な場所へのリンクを含めます。Trailmaker 設定の [ナビゲーション] ページで最大 3 個のカスタムリンクを指定でき、各リンクは最大 6 個の言語で表示できます。

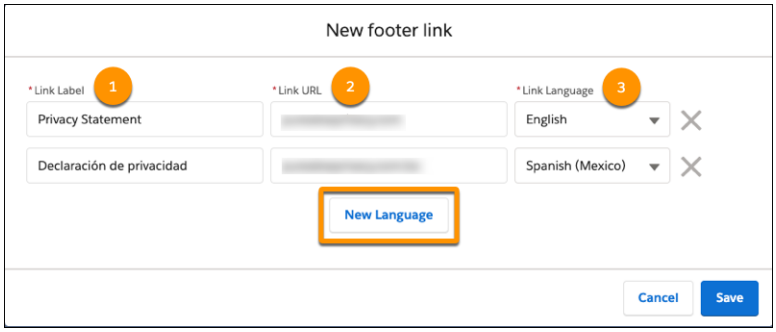
対象: myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

対象ユーザ: 「myTrailhead コンテンツアクセス」権限と「myTrailhead ブランド管理」権限を持つユーザは、会社の myTrailhead サイトにログインして Trailmaker 設定にアクセスできます。

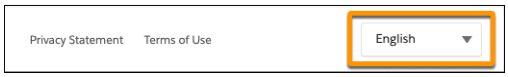
方法: Trailmaker 設定の [ナビゲーション] ページで [新規リンク] をクリックします。

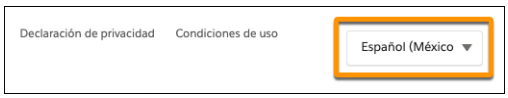


リンクの表示ラベル (1) とリンク URL (2) を入力し、リンク先のページのコンテンツの言語 (3) を選択します。リンクを別の言語で使用できるようにするには、[新規言語] をクリックします。



ユーザは、myTrailhead の言語選択リストから選択した言語でフッターリンクを表示できます。





関連トピック:

Salesforce ヘルプ: myTrailhead ページフッターのリンクのカスタマイズ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

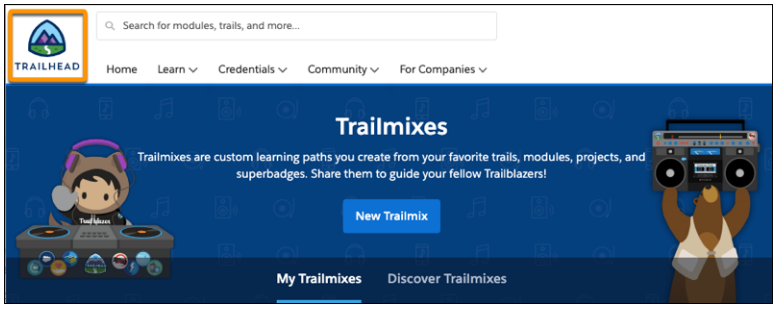
myTrailhead の Salesforce および Trailhead ブランド設定要素を非表示

Astro、Codey、友達は Salesforce Trailhead の仲間です。ただし、これらのキャラクターは、必ずしも Salesforce ブランドに慣れていない myTrailhead ユーザを混乱させる可能性があります。Trailhead キャラクターの画像と他の Salesforce 固有のブランド要素を myTrailhead から削除しました。

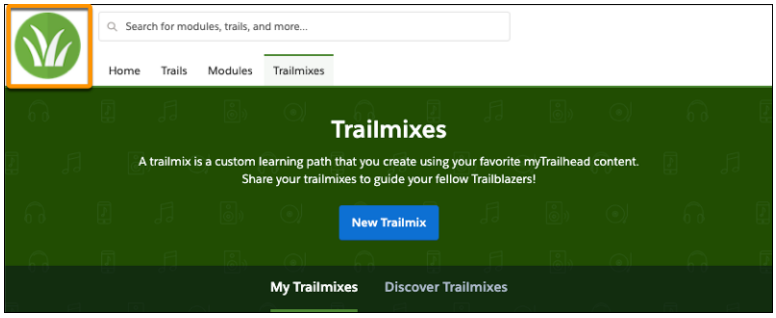
対象: myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

対象ユーザ: 「myTrailhead コンテンツアクセス」権限を持つユーザは、会社の myTrailhead サイトにログインできます。

理由: たとえば、Salesforce Trailhead の Trailmix ページには Salesforce キャラクターの Astro と Codey が表示されます。



myTrailhead の Trailmix ページには表示されません。



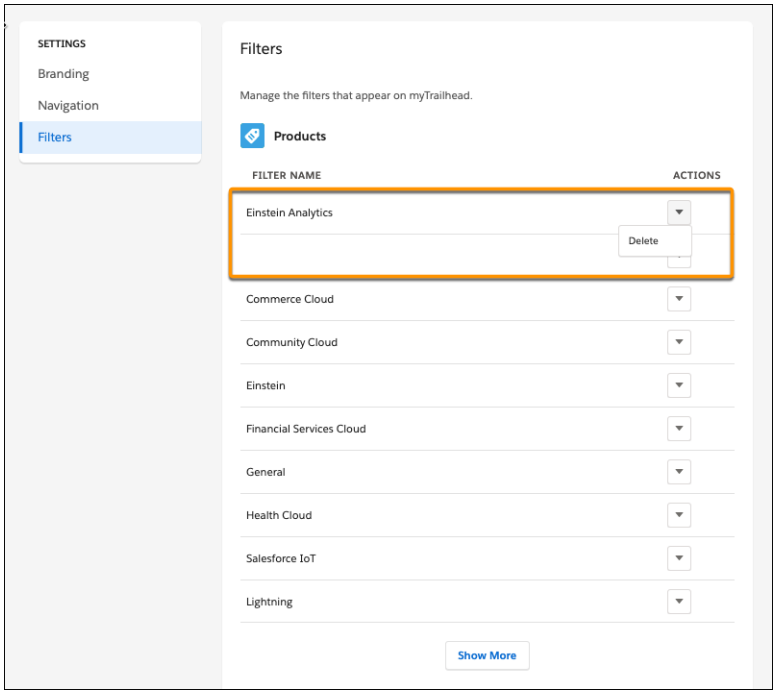
myTrailhead の商品リストから検索条件を削除

検索条件は、myTrailhead ユーザが最も関連性の高いコンテンツに焦点を絞るのに役立ちます。たとえば、製品カテゴリの検索条件では、Sales Cloud、Service Cloud、または他の製品を対象とするコンテンツにユーザを導くことができます。製品カテゴリから検索条件を削除して、会社に関連する製品にリストを絞り込むことができます。

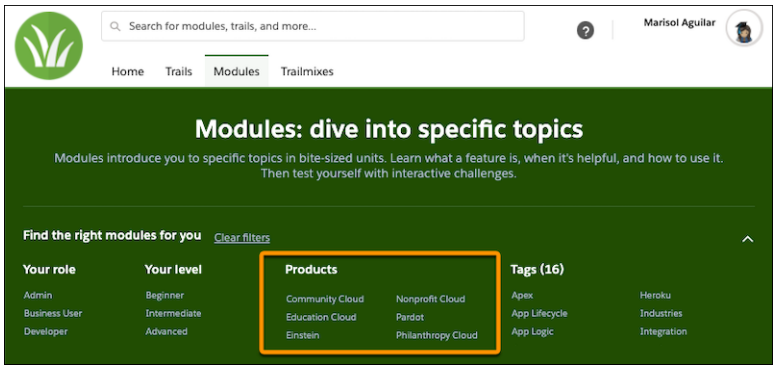
対象: myTrailhead は、Enterprise Edition、Performance Edition、または Unlimited Edition のユーザが有料オプションで使用できます。

対象ユーザ: 「myTrailhead コンテンツアクセス」権限と「myTrailhead ブランド管理」権限を持つユーザは、会社の myTrailhead サイトにログインして Trailmaker 設定にアクセスできます。

方法: Trailmaker 設定の [検索条件] ページで、削除する検索条件のアクションメニューをクリックして [削除] を選択します。



この検索条件は myTrailhead の製品カテゴリに表示されなくなります。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ:製品カテゴリからの検索条件の削除(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Work.com: 緊急時対応管理、Workplace Command Center、シフト管理、Trail Tracker の概要

ビジネス、従業員、施設の準備を整えます。Work.comのアプリケーションとサービスを使用して、現在の COVID-19 による危機など、重大な事態に対応します。

最新の更新については、 *「Trailblazer Community: Work.com」* を参照してください。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition および **Unlimited** Edition

このセクションの内容:

災害に見舞われたときにも活動目的を達成する

緊急時対応管理製品やソリューションを活用して、住民、コミュニティ、関係機関が最も必要としているサポートを提供します。緊急情報へのアクセス、被災者への必要なケアの提供、リソースやサービスの割り当てを、かつてないほどスピーディかつ効果的に行います。

Workplace Command Center で職場への復帰を 1 箇所で管理

Workplace Command Center は、職場復帰の準備を監視して、従業員を安全にワークプレイスに戻すタイミングを判断するのに役立ちます。従業員が職場に戻ったら、従業員の健康と場所の準備状況を確認して、全員の安全を確保してください。Workplace Command Center には、従業員健康チェックコンポーネント、オペレーションフィード、グローバル COVID-19 トラッカーが含まれています。

シフト管理で従業員を職場に呼び戻す

チームを職場に呼び戻すときは、慎重になる必要があります。Work.com のシフト管理は、従業員がそれぞれのワークプレイスに戻るためのスケジュールの作成を支援します。施設計画を作成し、健康に関するアンケートの回答を使用して、COVID-19による危機からの復帰をスケジュールします。Workplace Command Center のホームページでは、ワークプレイスや従業員の稼働状況を詳しく見ることができます。

Trail Tracker for Work.com による従業員の準備状況の保証

特定のワークプレイスや会社全体の myTrailhead バッジ獲得のトレンドを Workplace Command Center で追跡できます。この情報を使用して、ワークプレイスの準備状況を判断したり、従業員が復職のためのバッジを myTrailhead でどれほど短期間で獲得できるかを確認したりできます。

従業員向けコンタクトトレーシングプロセスの管理

従業員向けコンタクトトレーシングを使用して、従業員のケアをしながら、手動のコンタクトトレーシングプロセスを管理して感染の拡大を追跡します。

関連トピック:

Salesforce Work.com の概要

Salesforce ヘルプ: Work.com を使用した職場復帰

災害に見舞われたときにも活動目的を達成する

緊急時対応管理製品やソリューションを活用して、住民、コミュニティ、関係機関が最も必要としているサポートを提供します。緊急情報へのアクセス、被災者への必要なケアの提供、リソースやサービスの割り当てを、かつてないほどスピーディかつ効果的に行います。

対象: この変更は、Emergency Management for Public Sector または Emergency Response Management for Public Health が有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Salesforce Emergency Response Management for Public Health と Salesforce Emergency Response Management for Public Sector のユーザ。

方法: See 「Introducing Emergency Response Management for Public Sector (Emergency Response Management for Public Sector の概要)」 と Introducing Emergency Response Management for Public Health (Emergency Response Management for Public Health の概要)」を参照してください。

Workplace Command Center で職場への復帰を 1 箇所で管理

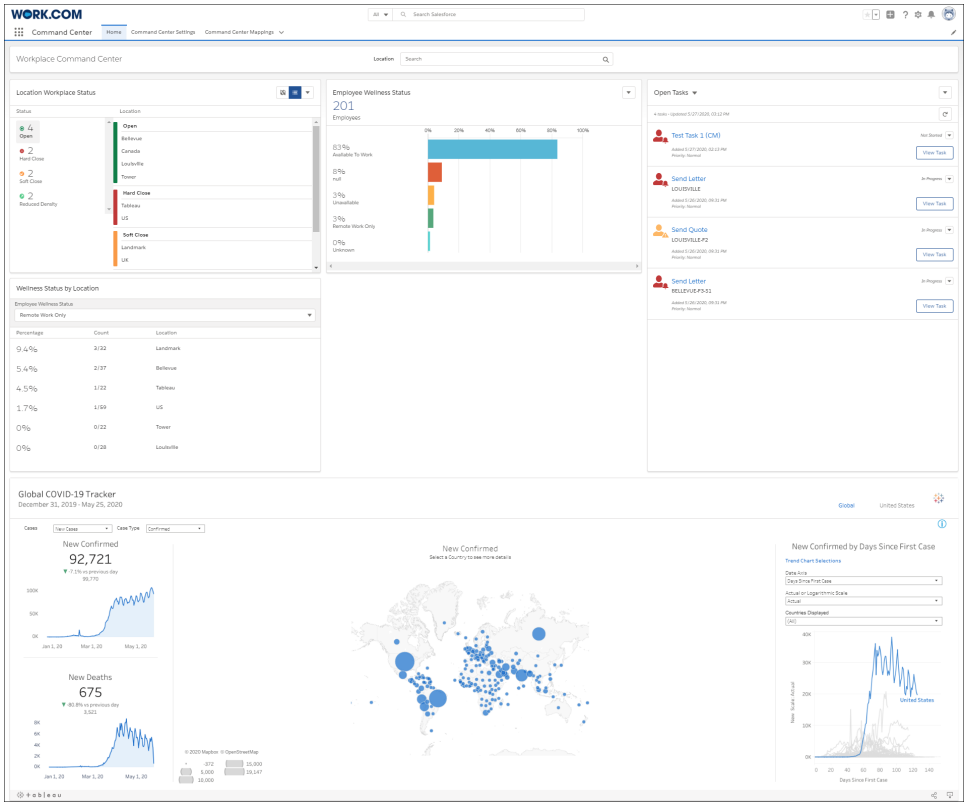
Workplace Command Center は、職場復帰の準備を監視して、従業員を安全にワークプレイスに戻すタイミングを判断するのに役立ちます。従業員が職場に戻ったら、従業員の健康と場所の準備状況を確認して、全員の安全を確保してください。Workplace Command Center には、従業員健康チェックコンポーネント、オペレーションフィード、グローバル COVID-19 トラッカーが含まれています。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: 従業員の職場復帰の準備状況と、従業員をサポートするための会社の準備状況を 1 か所で監視できるビューを探しているエグゼクティブ、ビジネスオペレーションマネージャ、システム管理者。

理由: Workplace Command Center は、COVID-19 の蔓延などの重大な事態が起きた後で職場を再開する場合の会社のオペレーションハブとなります。施設の状況を建物フロアなどのサブロケーションごとに監視します。Centers for Disease Control (米国疾病対策センター) などの専門家の指導の下に設計された、カスタマイズ可能な健康状態に関するアンケートによって従業員の健康を評価します。また、Work.com の堅牢なデータモデルにより、他の提供元からのデータを組み込むことができます。この組み合わせたデータを使用して世界の状況を監視し、職場の再開に対する影響を評価します。

方法: Workplace Command Center は、シフト管理、緊急時対応管理などを含む Work.com ソリューションの一部です。リモートや特定の場所で仕事ができる従業員を表示します。従業員健康チェックから累積されたアンケートデータを処理し、各種コンポーネントや他のアプリケーションで使用できるように Work.com データモデルに対応付けることで、ワークプレイスの安全を保証します。



シフト管理で従業員を職場に呼び戻す

チームを職場に呼び戻すときは、慎重になる必要があります。Work.comのシフト管理は、従業員がそれぞれのワークプレイスに戻るためのスケジュールの作成を支援します。施設計画を作成し、健康に関するアンケートの回答を使用して、COVID-19による危機からの復帰をスケジュールします。Workplace Command Centerのホームページでは、ワークプレイスや従業員の稼働状況を詳しく見ることができます。

対象: この変更は、Enterprise EditionおよびUnlimited EditionのLightning Experienceに適用されます。

方法: オペレーションマネージャやワークプレイスマネージャは、ロケーションデータを使用して、従業員をグループ化するための建物、フロア、そしてゾーンを定義できます。ワークプレイスマネージャは、各場所の密度と収容人数制限を下げるための設備計画を作成します。チームプランナーは、オープンシフトを作成して、健康チェック状況と出社可能な日時に応じてシフトに記入するように従業員に依頼します。その後、プランナーは最適なスケジュールを作成して、働ける従業員を利用できるスペースに割り当てます。

従業員は、Salesforceモバイルアプリケーションを使用して、出社可能な日時とシフトを管理します。出社時間に時差を設けることで、ロビーやエレベータの混雑を避けることができます。実際に職場が再開されたら、各従業員に割り当てられた出社時刻になったら各自のモバイルアプリケーションに出社許可証を表示するようにすることで、セキュリティチェックをスピードアップできます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Work.com のシフト管理の設定

Trail Tracker for Work.com による従業員の準備状況の保証

特定のワークプレイスや会社全体の myTrailhead バッジ獲得のトレンドを Workplace Command Center で追跡できます。この情報を使用して、ワークプレイスの準備状況を判断したり、従業員が復職のためのバッジを myTrailhead でどれほど短期間で獲得できるかを確認したりできます。

対象: Trail Tracker for Work.com は、Trail Tracker をインストールしてある Enterprise Edition と Unlimited Edition の Work.com ユーザが利用できます。

対象ユーザ: 会社の復職プランの調整と実現を担当しているワークプレイス運営担当者とエグゼクティブ。

関連トピック:

ナレッジ記事: Getting Started with myTrailhead (Trailhead の使用開始)

AppExchange: Trail Tracker

AppExchange: Trail Tracker for Work.com

従業員向けコンタクトトレーシングプロセスの管理

従業員向けコンタクトトレーシングを使用して、従業員のケアをしながら、手動のコンタクトトレーシングプロセスを管理して感染の拡大を追跡します。

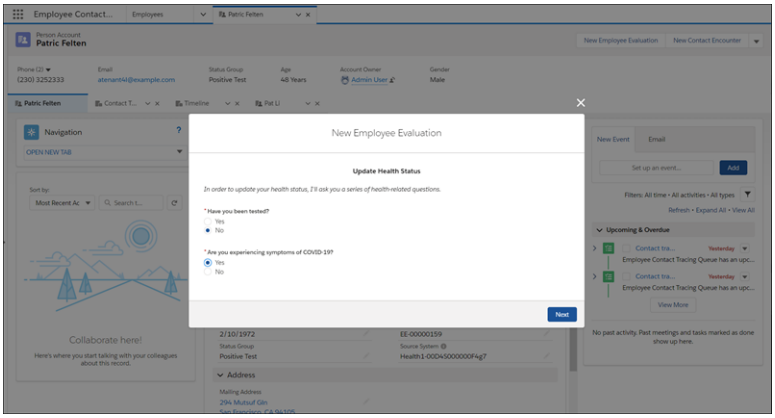
メモ: 従業員向けコンタクトトレーシングは、Spring '20 リリースで使用できます。多くの人の目に留まるように、Summer '20 リリースノートに含まれています。

対象: この変更は、従業員向けコンタクトトレーシングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

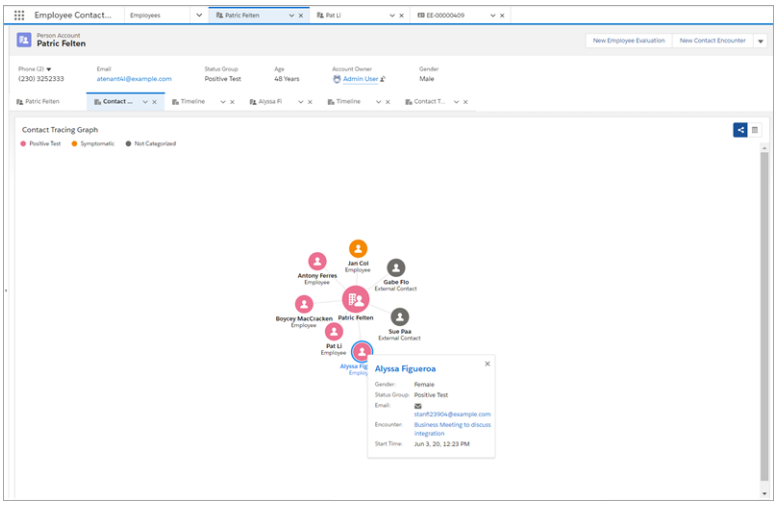
対象ユーザ: 従業員向けコンタクトトレーシングを使用するには、Salesforce で Health Cloud および Health Cloud プラットフォーム権限セットライセンスがプロビジョニングされている必要があります。Work.com で従業員向けコンタクトトレーシングを使用するには、Workplace Command Center 権限セットライセンスがプロビジョニングされている必要もあります。

理由: Salesforce の従業員向けコンタクトトレーシングは、従業員、その連絡先、および潜在的な感染の原因となった出来事を監視するために役立ちます。

感染者に接触した恐れがある人の追跡と連絡は、広範囲にわたる市中感染を阻止する最も効率的な方法の1つです。追跡担当者は、従業員の評価、接触した恐れがある人物に関する詳細の収集、ケアプログラムへの従業員の登録を行います。従業員の状況、接触者のマップ、個人の症状に関する情報がまとめて1か所に表示されます。



従業員評価フローでは、感染した従業員をケアプログラムに登録して健康状態を監視できるように、個人の症状に関する重要な情報を収集します。



コンタクトトレーシンググラフには、従業員と外部の接触者が包括的に表示され、個人、場所、イベント別に感染を追跡できます。コンソールから離れずに、フォローアップ、評価、トリアージを行うことができます。

コンタクトトレーシング機能は、プライバシーのベストプラクティスのトレーニングを受けたユーザのみに使用可能にすることをお勧めします。コンタクトトレーシングのデータは、必要最小限の人とだけ共有することをお勧めします。

カスタマイズ: Lightning フローの機能強化、Einstein 予測ビルダーの改善、Lightning アプリケーションビルダーの更新

Flow Builder とフロー管理の機能強化により、フローの作成、設定、レポート、デバッグが容易になりました。予測が改善され、Einstein 予測ビルダーで効率的に管理できるようになりました。Lightning アプリケーションビルダーの Lightning ページの設計およびナビゲーションの方法が新しくなりました。

このセクションの内容:

Lightning フロー: レコード変更とイベントに対するトリガ、デバッグオプション、改善されたフロー分析、画面コンポーネントおよび呼び出し可能なアクションのカスタム UI の機能強化 (ベータ)

レコードの保存時やプラットフォームイベントの受信時にフローをトリガできます。より多くのフロー種別を以前によりも簡単にデバッグできます。事前作成済みのレポートを使用して、画面フローでの経過時間を分析します。開発者がカスタムプロパティエディタ (ベータ) を使用すると、画面コンポーネントおよび呼び出し可能なアクションを作成するときにより簡単に設定できます。

Einstein 予測ビルダー: スコアカードからの予測セットの定義、レポートの実行、および予測の有効化

Einstein でスコアリングするレコードを選択することで、予測結果の関連性を高めます。レポートを実行して、予測で使用されているデータを探索できるようにします。予測スコアカードから予測を直接有効化または無効化する場合の時間を節約します。データチェッカーを使用して、さらに多くの項目やレコードタイプがないか調べます。

Lightning アプリケーションビルダーのアクセシビリティの改善

キーボードの Tab キーや矢印キーを使用して、コンポーネントパレットを簡単に移動できます。

グローバル化: データ翻訳と新規および変更されたロケール形式

B2B Commerce で商品レコードと商品カテゴリレコードに保存されているデータを翻訳します。リリースの更新で、改善された国際的な日時の新しい形式を有効化してください。また、マオリ語(ニュージーランド)の名前と、ウェールズ語、ウェールズ語(イギリス)、英語(イギリス)のロケールの住所形式が変更されました。

共有: ゲストユーザの共有設定の保護

Salesforce組織のデータを保護するために、[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]設定が有効になります。以前は、ゲストユーザ共有ルールを作成するには、まずこの設定を有効にしました。

承認: 差し込み項目の値の修正とプログラムによる承認の順序付け

承認メールアラートの差し込み項目の値が修正されました。メタデータ API、変更セット、ロック解除済みパッケージを使用して、承認プロセスの評価順序を制御します。

一般設定: レコードページのフルビューの正式リリース、新しいユーザプロファイル、Lightning ページのタブの翻訳

正式リリースされたレコードページのフルビューですべての詳細と関連リストが同じページに表示されます。新しい最小アクセス - Salesforce プロファイルでユーザに最低限必要な権限を付与します。メタデータ API の代わりに [設定] を使用して Lightning ページの翻訳を追加します。

Lightning フロー: レコード変更とイベントに対するトリガ、デバッグオプション、改善されたフロー分析、画面コンポーネントおよび呼び出し可能なアクションのカスタム UI の機能強化 (ベータ)

レコードの保存時やプラットフォームイベントの受信時にフローをトリガできます。より多くのフロー種別を以前によりも簡単にデバッグできます。事前作成済みのレポートを使用して、画面フローでの経過時間を分析します。開発者がカスタムプロパティエディタ (ベータ) を使用すると、画面コンポーネントおよび呼び出し可能なアクションを作成するときにより簡単に設定できます。

エディション

使用可能なエディション: **Essentials** Edition、**Professional** Edition、**Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

Flow Builder: プラットフォームイベントトリガフロー、保存後に実行されるレコードトリガフロー、デバッグオプションの増加、フローを実行するためのシステムコンテキスト

イベントプロセスの代わりにプラットフォームイベントトリガフローを作成します。各レコードがデータベースに保存された後にレコードトリガフローを実行します。スケジュール済みフローをデバッグしたり、値をレコード変数に渡したり、自動起動フローのデバッグ実行をロールバックしたりします。システムコンテキスト共有なしでフローを実行するように設定します。

Lightning フロー管理: 画面フローの事前作成済みレポート、自動化プロセスユーザのメール、デバッグログのリソース消費、プラットフォームイベントのフローエラーメール、第二世代パッケージの改善

事前作成済みのレポートを実行して、ユーザが画面フローインタビューで費やした時間を分析します。イベントプロセスおよびトリガを含む自動起動フローのメールを自動化プロセスユーザで送信できるようにします。デバッグログを使用して、終了したフローインタビューがトランザクション単位の制限にどのようにカウントされているかを確認します。プラットフォームイベントメッセージでフローの起動または再開が失敗した場合に通知を受け取ります。以前のフローバージョンをロック解除済みパッケージと第二世代パッケージから削除します。

Lightning フロー拡張: 画面コンポーネントおよび呼び出し可能なアクションのカスタム UI (ベータ)、Apex で定義された変数の入出力アクセスと複数オブジェクト画面コンポーネント (ベータ)

開発者は、画面コンポーネントおよび呼び出し可能なアクションをフローに追加するときに Lightning Web コンポーネントを使用して、魅力的な UI を提供できます (ベータ)。Apex で定義された変数をフローの外部で使用できるようにします。開発者は、選択した任意のオブジェクトで機能する画面コンポーネントを作成できます (ベータ)。

Lightning フローリリース更新: プロセスビルダー、呼び出し可能なアクション、フロー数式、Apex アクション

プロセスでレコード項目の元の値を評価できるようになります。失敗した呼び出し可能なアクションの動作と影響が改善されます。フロー数式の実行時に実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。従来の Apex アクションの公開アクセス修飾子が考慮されます。更新「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求」がキャンセルされます。

Flow Builder: プラットフォームイベントトリガフロー、保存後に実行されるレコードトリガフロー、デバッグオプションの増加、フローを実行するためのシステムコンテキスト

イベントプロセスの代わりにプラットフォームイベントトリガフローを作成します。各レコードがデータベースに保存された後にレコードトリガフローを実行します。スケジュール済みフローをデバッグしたり、値をレコード変数に渡したり、自動起動フローのデバッグ実行をロールバックしたりします。システムコンテキスト共有なしでフローを実行するように設定します。

このセクションの内容:

レコードの保存後に実行するフローのトリガ

レコードの作成または更新により、そのレコードをデータベースに保存した*後*に実行されるリッチなフローをトリガできるようになりました。以前のレコードトリガフローは、レコードを保存する*前*にしか実行できず、その新規または更新済みのレコードにしか変更を行うことができませんでした。保存後レコードトリガフローは、他のレコードにアクセスしたり、アクションを実行したり、より多くのフロー要素種別を使用したりできます。さらに、これらのフローはプロセスビルダーで作成したワークフロールールやレコード変更プロセスの大部分を置き換えることができます。

プラットフォームイベントメッセージの受信時に実行するフローのトリガ

プラットフォームイベントトリガフローでは、すべての自動化を 1 か所で行うことができます。以前は、プラットフォームイベント駆動型の自動化を行うには、プロセスビルダーと Flow Builder を使用する必要がありました。イベントプロセスとは異なり、プラットフォームイベントトリガフローでは、Salesforce オブジェクトを関連付ける必要はなく、すべての使用可能なレコードにアクセスできます。

デバッグできるフローの増加とデバッグの迅速化

レコードの作成などの変更をデータベースに保存する自動起動フローをデバッグするときに、それらの変更を元に戻す必要がなくなりました。Flow Builder で、ロールバックモードを使用すればこの手間を省けます。スケジュールトリガフローで Flow Builder のデバッグオプションを使用できるようになりました。また、レコード変数をより簡単に設定できるように、デバッグオプションに [ルックアップ] 画面コンポーネントが含まれます。

拡張された [新規フロー] ウィンドウと開始要素によるフローの作成

トリガを含む自動起動フローを作成するプロセスが合理化されました。[設定] で [新規フロー] をクリックすると、レコードトリガフロー、スケジュールトリガフロー、またはプラットフォームイベントトリガフローを作成するためのオプションが表示されるようになりました。また、トリガ情報と設定オプションがキャンバスの開始要素に追加され、トリガフローの作成がこれまで以上に容易になりました。

出力値を割り当てずにサブフロー要素を設定

サブフロー要素をフローに追加すると、出力値が自動的に保存されます。変数を作成して割り当てる必要はなくなりましたが、従来のように変数を作成して割り当てることもできます。この変更は、Summer'20 より前に作成されたサブフロー要素には影響しません。

ループ変数を作成せずにループ要素を設定

フローにループ要素を追加すると、ループ変数が作成されます。ループ変数は、フローでコレクション変数の項目を反復処理するときに一時的に現在の項目を保存します。この変更は、Summer'20 より前に作成されたループ要素には影響しません。

Flow Builder のガイダンスのヒントの取得

フローを作成するときのフローの改善方法に関するヒントを取得します。Flow Builder のガイダンスは、ループを閉じるのを忘れていることを通知したり、推奨される `@InvocableMethod` アノテーションではなく、従来の `Process.Plugin` インターフェースを使用する Apex コードがフローで呼び出されていることを通知したりします。Flow Builder の新しいヘルプメニューからこれらの通知を表示または非表示にできます。

Lightning ページまたはクイックアクションからフローを起動するときにレコードを渡す

フローにレコードを渡す方法が大幅に容易になりました。各クイックアクションでレコードがフローのレコード変数 (「recordId」) に自動的に渡されます。Lightning アプリケーションビルダーでは、簡単なチェックボックスを使用して、Lightning ページでレコードをフロー内のレコード変数に渡すことができます。

フロー内の Apex 定義データ型のネストされた項目へのアクセス

Apex で定義されたデータ型へのデータアクセス制限が削除されたため、レコードのネストされた項目および Apex で定義されたデータ型にアクセスできるようになりました。たとえば、`{!MyApexClassOne.MyApexClassTwo.MyField}` または `{!MyApexClass.Account.BillingCity}` にアクセスできます。以前は 1 レベルの項目アクセス (`{!MyApexClassTwo.MyField}` など) に制限されました。

ユーザ権限をスキップするフローの実行

システムコンテキスト共有なしでフローを実行するように設定して、すべてのゲストユーザが直接アクセス権のないレコードを作成または編集できるようにします。この設定で実行されるフローでは、オブジェクトレベルセキュリティ、項目レベルセキュリティ、組織の共有設定、ロール階層、共有ルール、共有の直接設定、チーム、テリトリーが無視されます。

テキストテンプレートフローリソースのテキスト形式オプションの更新

Flow Builder では、テキストを表示するための、[テキストテンプレート] フローリソースのメニューオプション名が更新されました。

プロパティエディタで他の設定の画面スペースを拡大

ユーザは、プロパティエディタの一部の設定が見やすくなりました。要素またはフローのプロパティを編集するときの [表示ラベル]、[API 参照名]、[説明] 項目に占めるスペースが少なくなりました。

フローユーザによる検索可能な項目でのレコードの検索

フローユーザは検索可能な任意の項目を使用して検索し、6件以上のレコードから選択できるようになりました。以前は、フローのルックアップコンポーネントでは、インスタント検索結果のみがサポートされました。ユーザは名前項目のみを使用して検索でき、結果は 5 件のレコードに制限されていました。

Flow Builder ツールバーの改善

フローユーザはフローのバージョン番号、フローの有効または無効の状況、および最終更新日を参照できるようになりました。ツールバーにも、バージョン番号とフローの状況を提供するフロート表示テキストが表示されます。

レコードの保存後に実行するフローのトリガ

レコードの作成または更新により、そのレコードをデータベースに保存した*後*に実行されるリッチなフローをトリガできるようになりました。以前のレコードトリガフローは、レコードを保存する*前*にしか実行できず、その新規または更新済みのレコードにしか変更を行うことができませんでした。保存後レコードトリガフローは、他のレコードにアクセスしたり、アクションを実行したり、より多くのフロー要素種別を使用したりできます。さらに、これらのフローはプロセスビルダーで作成したワークフロールールやレコード変更プロセスの大部分を置き換えることができます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

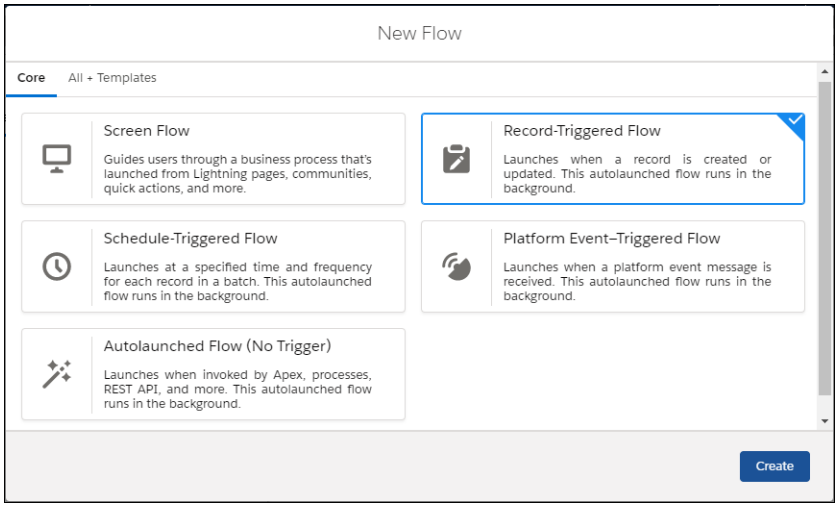
対象ユーザ: レコードの保存後に実行されるレコードトリガフローを有効化するには、「すべてのデータの参照」権限が必要です。

理由: おそらく、プロセスビルダーに精通したユーザは、レコード変更プロセスを使用して、新規取引先が作成されるたびにメールを送信するなどのアクションを実行します。保存後レコードトリガフローでは、これと同じ目標を達成できるだけでなく、次のような利点もあります。

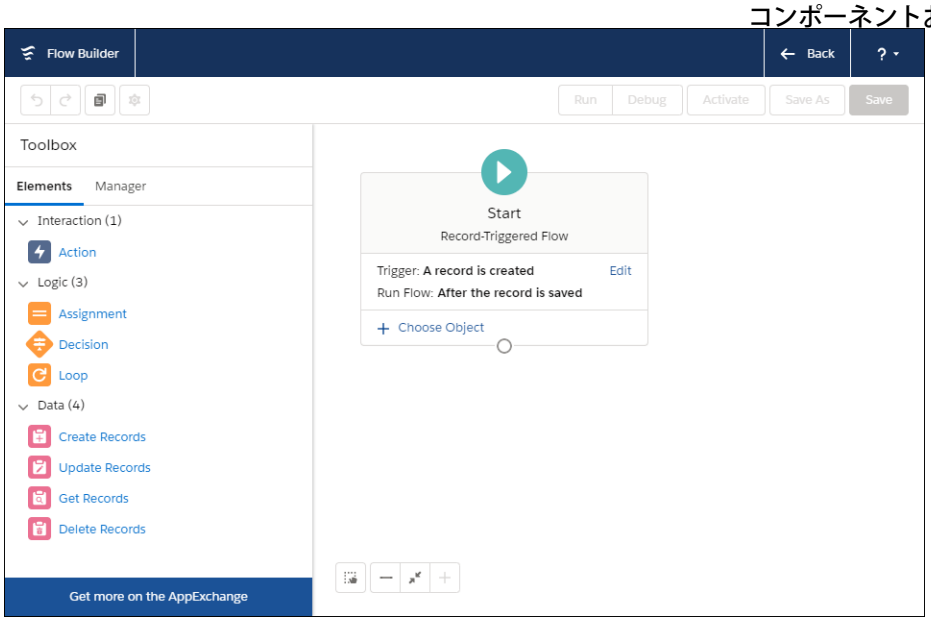
- レコードの更新時にのみ実行されるフローをトリガできる。このオプションはレコード変更プロセスでは使用できません。
- プロセスビルダーで作成されたプロセスとは異なり、フローには標準リストビューがあるため、必要に応じてビューを整理および調整できる。
- 他のオブジェクトのレコードにアクセスしたり、ループを実行したりできる。

Apex トリガに慣れているユーザは、保存後レコードトリガフローが Apex `after` トリガに似ていることがわかります。保存手順で、保存後レコードトリガフローはエンタイトルメントルールの後、積み上げ集計項目の更新の前に実行されます。

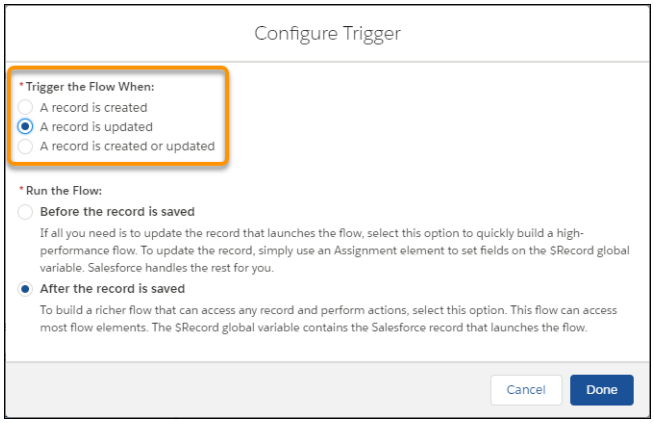
方法: フローの作成時に、[レコードトリガフロー] を選択します。



デフォルトでは、新しいレコードトリガフローは、レコードが作成されたら保存後に実行されるように設定されています。この設定は、キャンバスの開始要素で確認できます。また、開始要素から、実行されるフローをトリガするレコードのオブジェクトを選択します。



レコードの更新時に実行されるフローをトリガするには、開始要素で [編集] をクリックします。



保存後レコードトリガフロー内の `$Record` グローバル変数にはフローを起動する Salesforce レコードが含まれます。そのレコードを更新するには、割り当て要素を使用して `$Record` グローバル変数の項目を設定します。ただし、保存前レコードトリガフローと異なり、これらの変更をデータベースに保存するためにレコード更新要素が必要になります。

`$Record` グローバル変数の ID とすべての項目値を使用するようにレコード更新要素を設定します。ただし、組織の [プロセスの自動化設定] で [フロー要求のアクセスできない項目を絞り込む] を有効にします。有効にし

ない場合、システム項目と他の参照のみの項目の値がレコードを更新要素により設定されるため、フローは失敗します。

関連トピック:

IdeaExchange: Process Builder: Fire Only on Update (プロセスビルダー: 更新時のみの起動)

Salesforce ヘルプ: フロー要素: レコードを更新 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: フローのリソース: グローバル変数 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

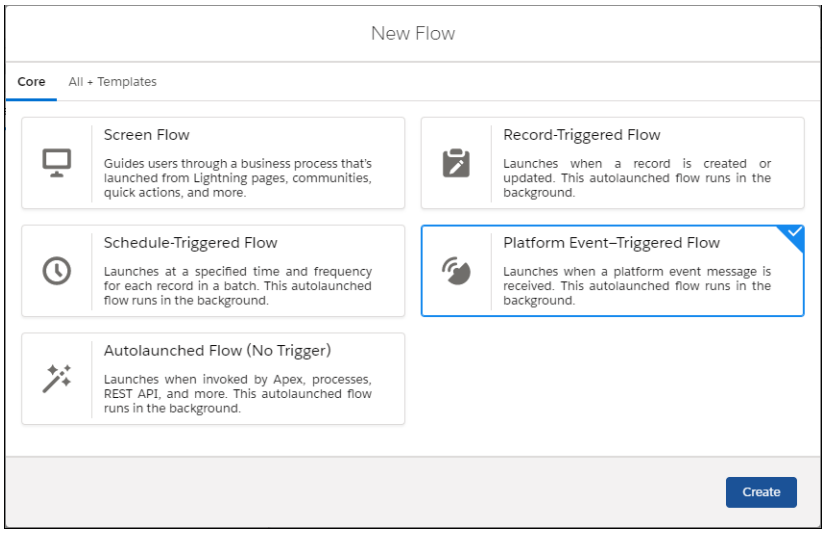
プラットフォームイベントメッセージの受信時に実行するフローのトリガ

プラットフォームイベントトリガフローでは、すべての自動化を 1 か所で行うことができます。以前は、プラットフォームイベント駆動型の自動化を行うには、プロセスビルダーと Flow Builder を使用する必要がありました。イベントプロセスとは異なり、プラットフォームイベントトリガフローでは、Salesforce オブジェクトを関連付ける必要はなく、すべての使用可能なレコードにアクセスできます。

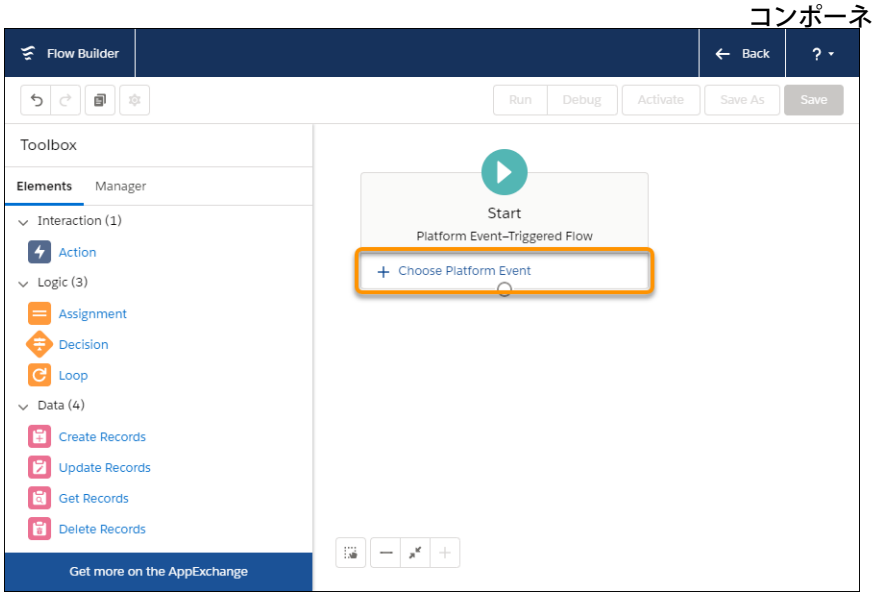
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: プラットフォームイベントトリガフローを有効化するには、「すべてのデータの参照」権限が必要です。

方法: フローを作成するときに、[プラットフォームイベント-トリガフロー] を選択します。



開始要素から、フローの実行をトリガするイベントメッセージを使用するプラットフォームイベントを選択します。



プラットフォームイベントトリガフロー内の `$Record` グローバル変数には、プラットフォームイベントメッセージからの項目値が含まれます。この値をフロー全体で使用できます。

関連トピック:

IdeaExchange: Launch a Flow Direct from Platform Event (プラットフォームイベントからの直接的なフローの起動)

IdeaExchange: Allow Platform Events to Launch a Flow (プラットフォームイベントからのフローの起動)

デバッグできるフローの増加とデバッグの迅速化

レコードの作成などの変更をデータベースに保存する自動起動フローをデバッグするときに、それらの変更を元に戻す必要がなくなりました。Flow Builder で、ロールバックモードを使用すればこの手間を省けます。スケジュールトリガフローで Flow Builder のデバッグオプションを使用できるようになりました。また、レコード変数をより簡単に設定できるように、デバッグオプションに [ルックアップ] 画面コンポーネントが含まれます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

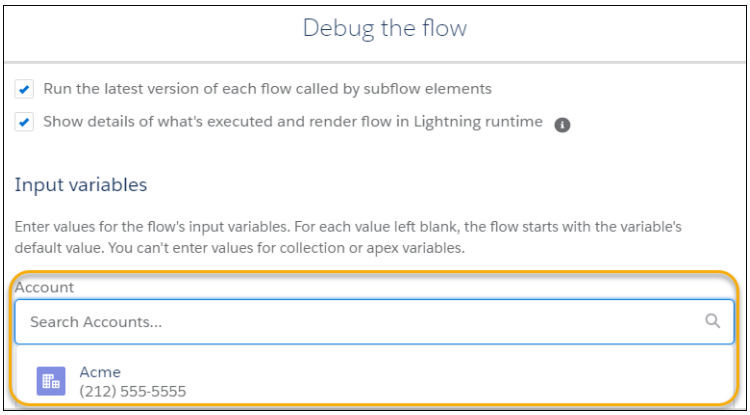
理由: フローのデバッグ時にロールバックモードを使用する場合、Flow Builder はフローでデータベースに対して行われた変更をフローの完了後にロールバックします。Flow Builder は、間接的なデータベースの変更もロールバックします。たとえば、フローで子レコードを更新し、それによって Apex トリガが起動されて親レコードが更新された場合、親レコードへの更新もロールバックされます。

ロールバックモードの考慮事項:

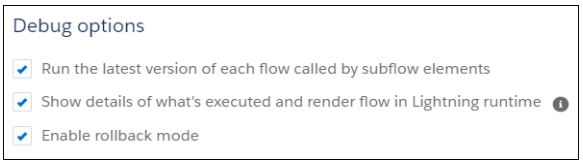
- 自動起動フローで使用できます。
- DML 以外のステートメント (HTTP 要求など) が実行されてもロールバックされません。
- 非同期アクションと非同期 DML ステートメントはロールバックされません。
- 一時停止要素と一部のアクションではロールバックモードはサポートされていません。このような要素またはアクションがあるフローをデバッグする場合、要素またはアクションを実行する前にフローが停止します。要素またはアクションの前に実行されたすべての DML ステートメントがロールバックされます。

レコードのバッチで実行されるスケジュールトリガフローをデバッグする場合、Flow Builder は検索条件に一致する最も古いレコードを使用します。

ルックアップコンポーネントにより、レコード変数の値を簡単に設定できます。



方法: 自動起動フローのデバッグ時にロールバックモードを使用するには、[ロールバックモードを有効化] をクリックします。

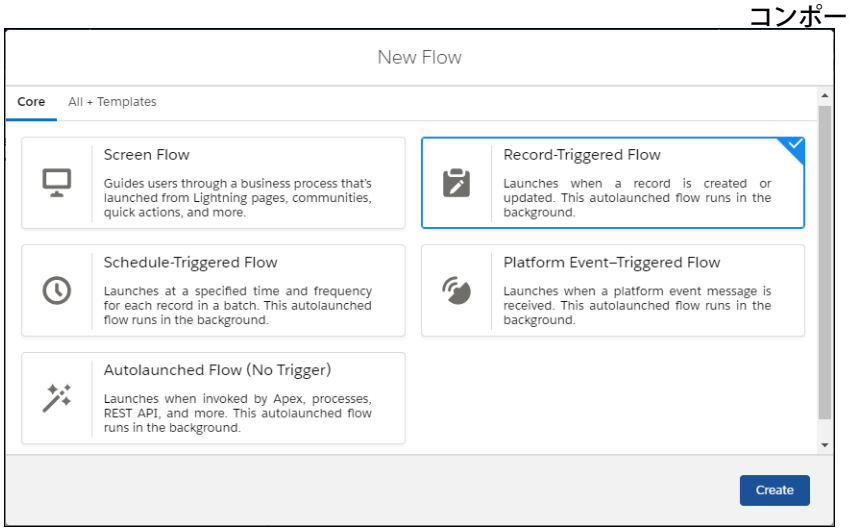


拡張された [新規フロー] ウィンドウと開始要素によるフローの作成

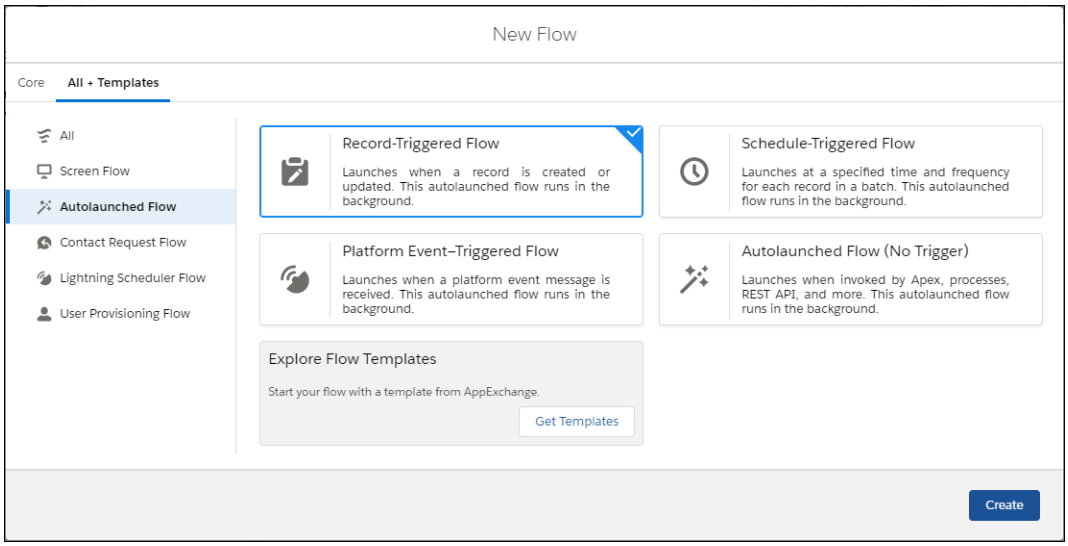
トリガを含む自動起動フローを作成するプロセスが合理化されました。[設定] で [新規フロー] をクリックすると、レコードトリガフロー、スケジュールトリガフロー、またはプラットフォームイベントトリガフローを作成するためのオプションが表示されるようになりました。また、トリガ情報と設定オプションがキャンバスの開始要素に追加され、トリガフローの作成がこれまで以上に容易になりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

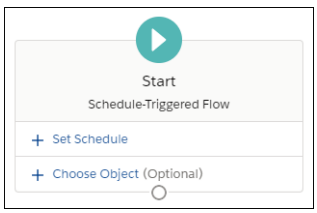
理由: 以前は、自動起動フローにトリガを追加する方法が明確ではありませんでした。開始要素を開いてそこにトリガを追加することを知っている必要がありました。また、トリガを追加する前に、トリガとの互換性がない要素をフローに追加することで容易にエラーが発生していました。Flow Builder を開く前にトリガを選択することで、サポートされない要素を使用することはなくなります。サポートされない要素は使用可能なオプションとしてビルダーに表示されないためです。



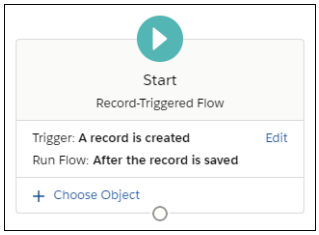
[すべて + テンプレート] タブで、すべての使用可能なフロー種別から選択するか、テンプレートからフローを作成できます。フロー種別でオプションを絞り込むこともできます。



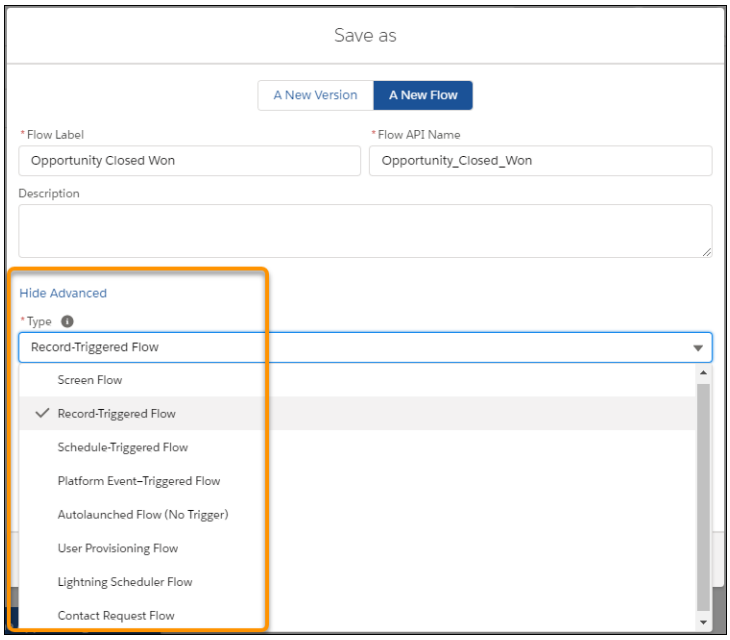
トリガを含む自動起動フローを作成すると、キャンバスの開始要素にトリガ情報と設定オプションが表示されるようになりました。スケジュールトリガフローにすでに精通しているユーザは、必須のスケジュール設定と、オブジェクトとレコードの省略可能な設定が分割されていることを確認できます。



同様に、レコードトリガフローでも、フローをいつ実行するかに関する設定と、フローの実行をトリガできるレコードを持つオブジェクトの選択が分割されています。



フローのトリガ種別を変更する必要がある場合、フローを新規フローとして保存します。[詳細を表示] をクリックして [種別] 項目を表示し、新しい種別を選択します。



関連トピック:

- レコードの保存後に実行するフローのトリガ
- プラットフォームイベントメッセージの受信時に実行するフローのトリガ

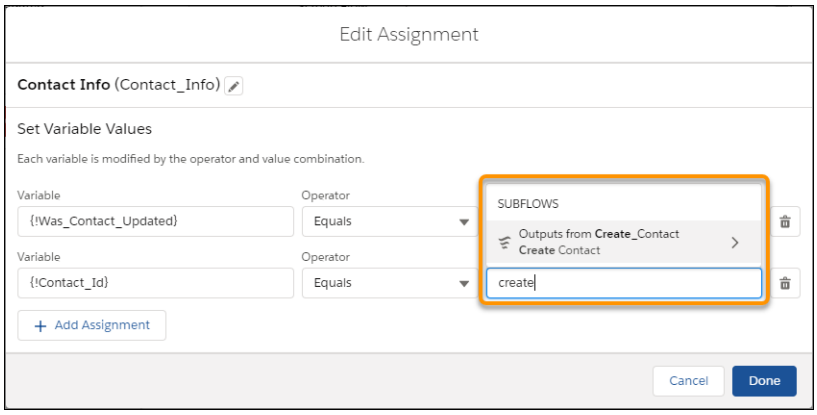
出力値を割り当てずにサブフロー要素を設定

サブフロー要素をフローに追加すると、出力値が自動的に保存されます。変数を作成して割り当てる必要はなくなりましたが、従来のように変数を作成して割り当てることもできます。この変更は、Summer '20 より前に作成されたサブフロー要素には影響しません。

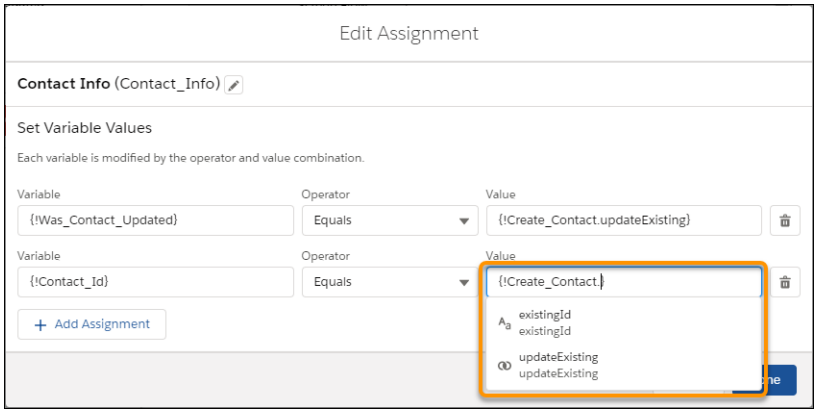
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: 変数をサポートする項目を設定すると、自動的に保存された出力がフローの他の変数と同様に使用可能なオプションとして表示されます。

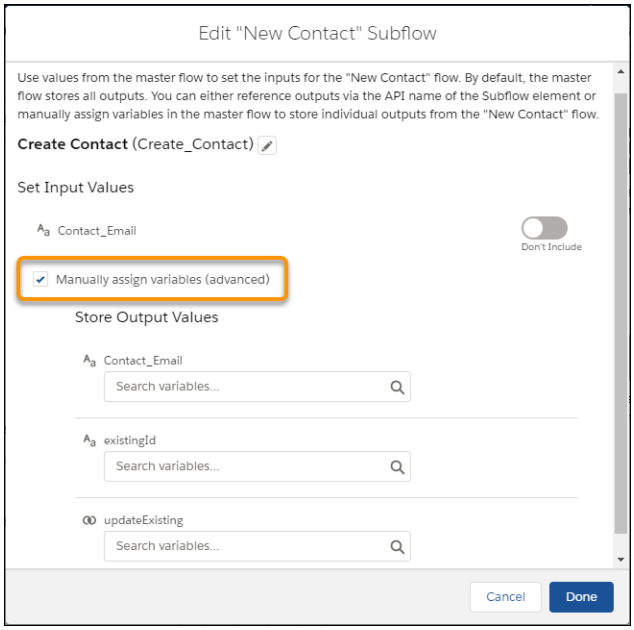
サブフロー要素の出力値にアクセスするには、サブフロー要素の API 参照名を入力します。



次に、特定の出力値を選択します。



フローでサブフロー要素の出力が自動的に保存されないようにするには、[手動割り当て変数 (詳細)] を選択します。



関連トピック:

IdeaExchange: Flow Builder: Automatic Output Handling for Subflows (Flow Builder: サブフローの自動出力処理)

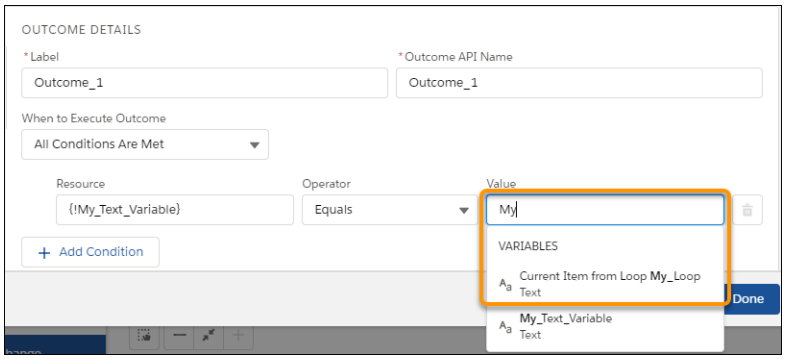
ループ変数を作成せずにループ要素を設定

フローにループ要素を追加すると、ループ変数が作成されます。ループ変数は、フローでコレクション変数の項目を反復処理するときに一時的に現在の項目を保存します。この変更は、Summer'20より前に作成されたループ要素には影響しません。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: ループパスの要素の場合、変数をサポートする項目を設定するときに、フローの他の変数と同じように現在の項目が使用可能なオプションとして表示されます。

ループの他の要素の現在の項目を使用するには、ループ要素の API 参照名を入力します。

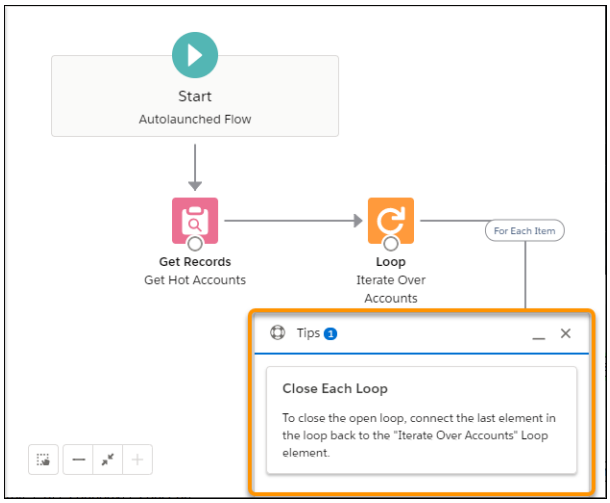


Flow Builder のガイダンスのヒントの取得

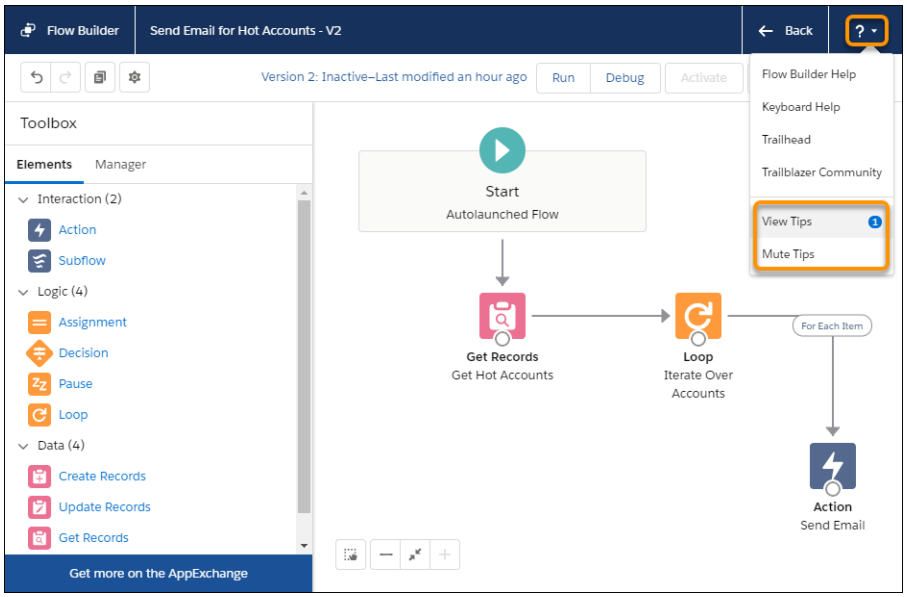
フローを作成するときのフローの改善方法に関するヒントを取得します。Flow Builder のガイダンスは、ループを閉じるのを忘れていることを通知したり、推奨される `@InvocableMethod` アノテーションではなく、従来の `Process.Plugin` インターフェースを使用する Apex コードがフローで呼び出されていることを通知したりします。Flow Builder の新しいヘルプメニューからこれらの通知を表示または非表示にできます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: フローのヒントがある場合、Flow Builder キャンバスの下部のドッキングプロンプトにヒントの数が表示されます。ドッキングプロンプトを展開して、ヒントを確認します。関連する問題を解決したら、ヒントは表示されなくなります。



ドッキングプロンプトを閉じても、ヘルプメニューの [ヒントを参照] をクリックして再度開くことができます。ヘルプメニューには、ヒントを非表示にする [ヒントをミュート] オプションもあります。



新しいヘルプメニューでは他のオプションも使用できます。使用可能なキーボードショートカットを表示したり、Salesforce ヘルプや Trailhead の Flow Builder コンテンツを開いたり、Salesforce Automation Trailblazer Community に移動したりできます。

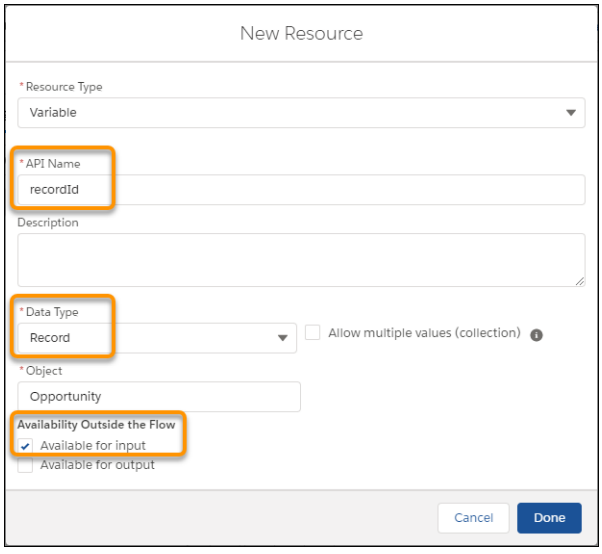
Lightning ページまたはクイックアクションからフローを起動するときにレコードを渡す

フローにレコードを渡す方法が大幅に容易になりました。各クイックアクションでレコードがフローのレコード変数(「recordId」)に自動的に渡されます。Lightning アプリケーションビルダーでは、簡単なチェックボックスを使用して、Lightning ページでレコードをフロー内のレコード変数に渡すことができます。

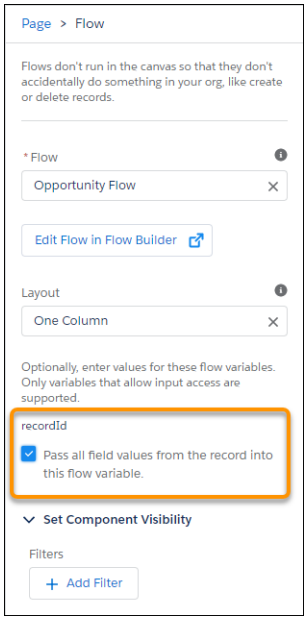
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: 以前は、Lightning ページまたはクイックアクションからレコードをフローに渡すには、追加の設定手順が必要でした。クイックアクションの場合、「recordId」という名前のテキスト変数を作成し、[レコードを取得] 要素をフローに追加していました。Lightning ページの場合、テキスト変数を作成し、その変数を設定するように Lightning アプリケーションビルダーを設定し、[レコードを取得] 要素を使用していました。このほとんどの作業が Lightning フローで自動的に実行されるようになります。

方法: クイックアクションの場合、「recordId」という名前のレコード変数をフロー内で作成してその変数を入力で使用可能とするのみになりました。



Lightning ページの場合、Lightning アプリケーションビルダーで [レコードのすべての項目値をフロー変数に渡します] を選択するのみです。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 組織のユーザへのフローの配布 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

フロー内の Apex 定義データ型のネストされた項目へのアクセス

Apex で定義されたデータ型へのデータアクセス制限が削除されたため、レコードのネストされた項目および Apex で定義されたデータ型にアクセスできるようになりました。たとえば、`{!MyApexClassOne.MyApexClassTwo.MyField}` または `{!MyApexClass.Account.BillingCity}` にアクセスできます。以前は 1 レベルの項目アクセス (`{!MyApexClassTwo.MyField}` など) に制限されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Apex で定義されたデータ型の考慮事項

ユーザ権限をスキップするフローの実行

システムコンテキスト共有なしでフローを実行するように設定して、すべてのゲストユーザが直接アクセス権のないレコードを作成または編集できるようにします。この設定で実行されるフローでは、オブジェクトレベルセキュリティ、項目レベルセキュリティ、組織の共有設定、ロール階層、共有ルール、共有の直接設定、チーム、テリトリーが無視されます。

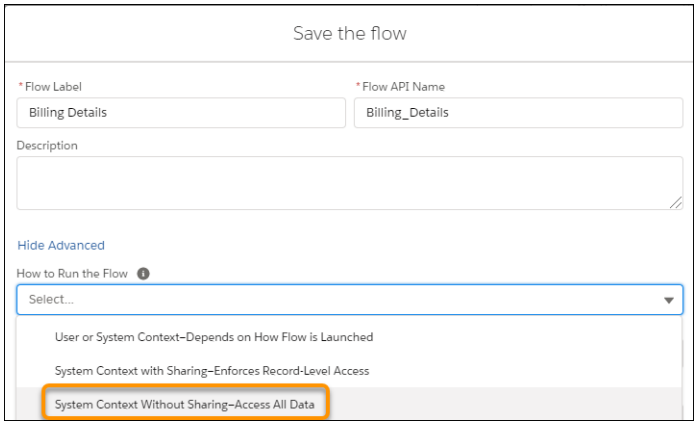
対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 通常、フローの起動方法によって、フローがユーザまたはシステムのどちらのコンテキストで実行されるかが決まります。以前のリリースでは、システムコンテキスト共有ありでフローを実行するように設定することで、実行ユーザの権限をスキップできるようになりました。これらのフローでは、オブジェクトレベルセキュリティと項目レベルセキュリティは無視されますが、組織の共有設定、ロール階層、共有ルール、共有の直接設定、チーム、テリトリーは考慮されます。

システムコンテキスト共有なしでフローを実行するように設定できるようになりました。このモードは、フローを進行するときに(フローの外部ではない)ユーザの権限をエスカレーションする場合に使用します。たとえば、フローで定義されたステップを進行しているときにのみ、属していないレコードの編集をゲストユーザに許可します。

共有を使用しないシステムモードでフローを実行しても、限られたアクションと操作のセットは引き続きユーザモードで実行されます。たとえば、[Chatter に投稿] 標準アクションは引き続きユーザモードで実行されます。

方法: 新しいフローを保存するときに [詳細を表示] をクリックします。[フローの実行方法] で *[システムコンテキスト共有なし– すべてのデータにアクセス]* を選択します。



既存のフローバージョンで同じオプションを選択するには、 アイコンをクリックします。

関連トピック:

メタデータ API

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

テキストテンプレートフローリソースのテキスト形式オプションの更新

Flow Builder では、テキストを表示するための、[テキストテンプレート] フローリソースのメニューオプション名が更新されました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

方法: [リッチテキストとして表示] を選択してリッチテキスト書式を適用するか、[プレーンテキストとして表示] を選択してテキスト項目を表示し、HTML タグを追加します。オプションを切り替えてオプションを変更し

ても、テキスト形式に影響はありません。最初にリッチテキスト書式を適用し、プレーンテキストに切り替えた場合、Flow Builder は形式のスタイルを HTML スタイルのタグに変換します。スタイルが適用されていないプレーンテキストが必要な場合は、HTML スタイルのタグを削除します。

理由: 以前は、Flow Builder では、[テキストテンプレート] フローリソースに [リッチテキスト] および [テキスト形式] が表示されていました。これらのオプションではテキスト書式が適用または削除されないため、システム管理者は、オプションを選択するとテキスト書式が適用されると考えました。[テキストテンプレート] フローリソースの基本動作は、すべてのテキスト書式をリッチテキストとして保存することです。Summer '20 リリースでは、更新された名前が表示され、メニューオプションが明確になります。

関連トピック:

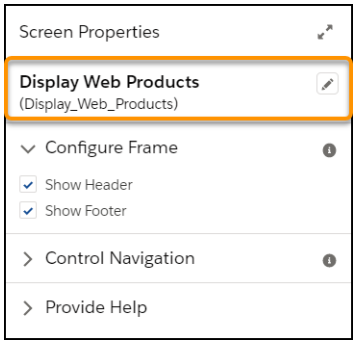
Salesforce ヘルプ: フローのリソース: テキストテンプレート

プロパティエディタで他の設定の画面スペースを拡大

ユーザは、プロパティエディタの一部の設定が見やすくなりました。要素またはフローのプロパティを編集するときの [表示ラベル]、[API 参照名]、[説明] 項目に占めるスペースが少なくなりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: 初めて新しい要素をキャンバスにドラッグするときの [表示ラベル]、[API 参照名]、[説明] 項目は変更されておらず、簡単に確認して編集できるようになっています。ただし、既存の要素を編集するときのこれらの項目に占めるスペースは最小限に抑えられます。API 参照名は括弧内に表示されます。[説明] 項目は値が追加されるまで表示されません。3 行よりも長い説明は切り捨てられて、3 行と省略記号 (...) が表示されます。表示ラベル、API 参照名、説明の値を編集するには、鉛筆アイコン ( ) をクリックします。



鉛筆アイコンをクリックすると、編集モードになり、要素を閉じてからもう一度編集用に開くまで項目は再度折りたたまれなくなります。

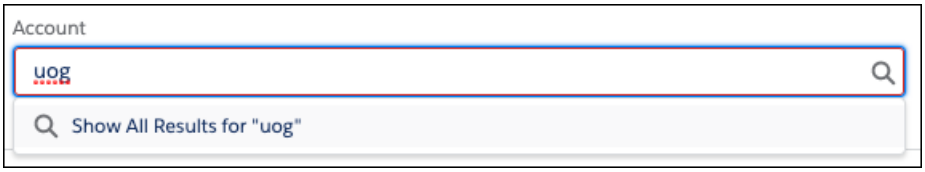
フローユーザによる検索可能な項目でのレコードの検索

フローユーザは検索可能な任意の項目を使用して検索し、6件以上のレコードから選択できるようになりました。以前は、フローのルックアップコンポーネントでは、インスタント検索結果のみがサポートされました。ユーザは名前項目のみを使用して検索でき、結果は5件のレコードに制限されていました。

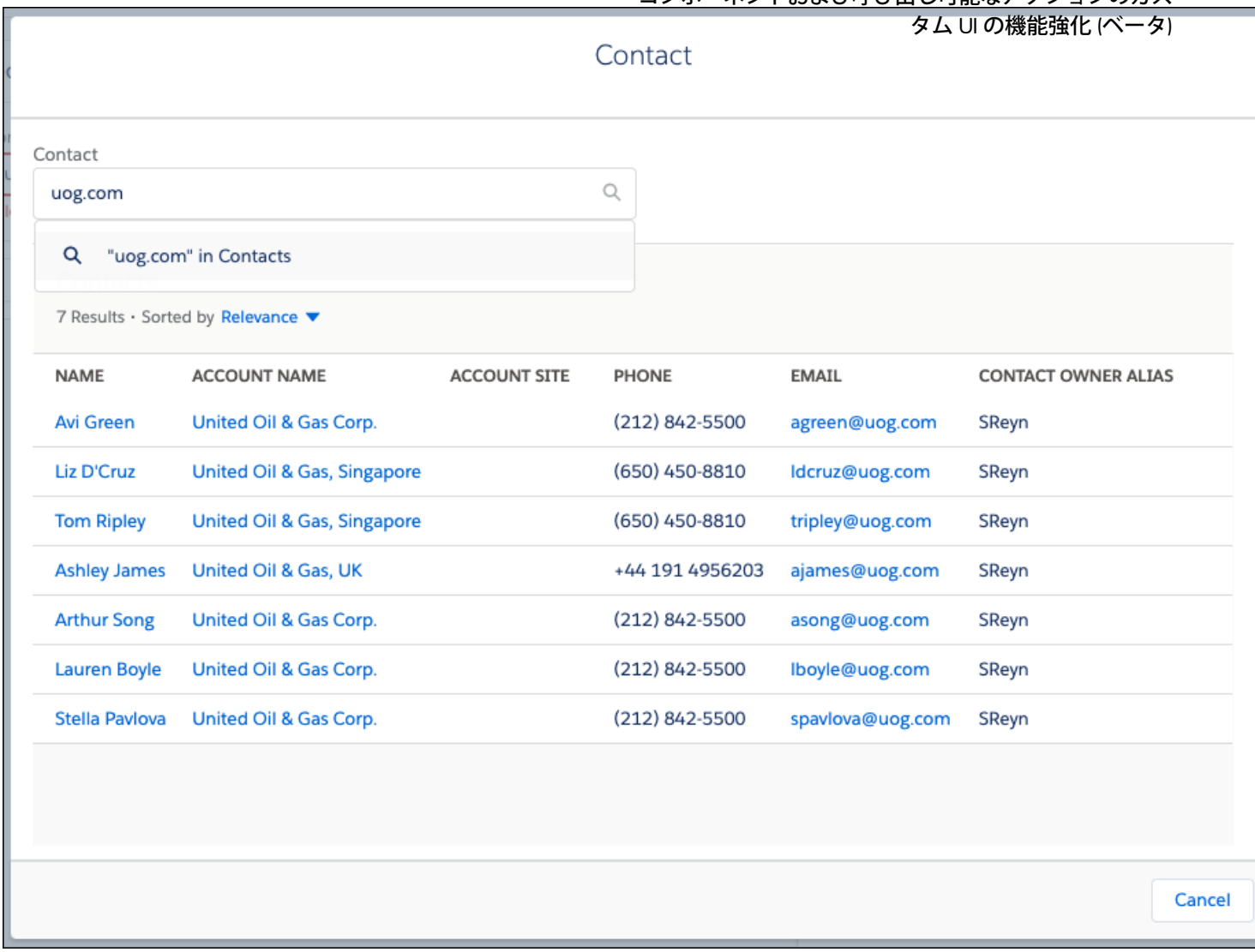
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。[ルックアップ] 画面コンポーネントは、Lightning フローランタイムでのみサポートされます。

理由: フルルックアップ検索が有効になったため、フローユーザは探している特定のレコードを見つけやすくなります。インスタント検索結果は、レコードの参照項目と同様に引き続き5件に制限されます。

たとえば、取引先責任者をその名前ではなくメールアドレスで検索するとします。[「...」のすべての結果を表示] をクリックすると、フルルックアップモーダルが開きます。



項目が検索可能である限り、任意の項目で検索できます。また、結果セットは最初の5件のレコードに制限されません。



関連トピック:

IdeaExchange: Unable to see full search results in Flow Lookup component, only 5 records (フロールックアップコンポーネントですべての検索結果が表示できず、5 件のレコードのみが表示される)

IdeaExchange: Search by Secondary Field in Flow Lookup Component (フロールックアップコンポーネントのセカンダリ項目での検索)

Flow Builder ツールバーの改善

フローユーザはフローのバージョン番号、フローの有効または無効の状況、および最終更新日を参照できるようになりました。ツールバーにも、バージョン番号とフローの状況を提供するフロート表示テキストが表示されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: Flow Builder ツールバーの状況メッセージには、システム管理者が現在のバージョンのフローをいつ変更したかが明確に示されませんでした。システム管理者が現在のフローバージョンへの変更をしばらく前に保存した場合でも、状況は [数秒前に保存済み] でした。状況メッセージにフローバージョン番号が提供されるようになりました。フローが保存されたのではなく変更された場合、フローの最後の変更からの経過時間が Flow Builder によりシステム管理者に、より正確に通知されます。

Lightning フロー管理: 画面フローの事前作成済みレポート、自動化プロセスユーザのメール、デバッグログのリソース消費、プラットフォームイベントのフローエラーメール、第二世代パッケージの改善

事前作成済みのレポートを実行して、ユーザが画面フローインタビューで費やした時間を分析します。イベントプロセスおよびトリガを含む自動起動フローのメールを自動化プロセスユーザで送信できるようにします。デバッグログを使用して、終了したフローインタビューがトランザクション単位の制限にどのようにカウントされているかを確認します。プラットフォームイベントメッセージでフローの起動または再開が失敗した場合に通知を受け取ります。以前のフローバージョンをロック解除済みパッケージと第二世代パッケージから削除します。

このセクションの内容:

画面フローの利用状況の分析

新しい [サンプルフローレポート: 画面フロー] カスタムレポートタイプとレポートが設定されました。自分が作成した画面フローを誰が実行しているかを確認します。フローインタビューの実行件数と画面の存続期間を確認します。フローインタビューの状況を確認します。ユーザ側で設定を行う必要はありません。

フローの限られたリソースの使用量を追跡

デバッグログで、終了した各フローインタビューのリソース消費を追跡できるようになりました。組織がトランザクション単位の制限 (SOQL クエリや DML ステートメントの制限など) に頻繁に達しているとします。この制限に対するフローの利用状況を確認するには、デバッグログを使用して `FINER` レベルでワークフローイベントを追跡します。

登録済みフローまたはプロセスがプラットフォームイベントメッセージにより開始または再開されない場合に通知を取得

まれに、プラットドームイベントメッセージが公開された後、登録済みフローまたはプロセスをイベントメッセージで開始または再開できない問題が発生します。組織でこの問題が発生した場合にエラーメールを受信できるようになりました。

自動化プロセスユーザのメール

フローのメールアクションの単純なメールおよびメールのアラートの送信者に、[設定] の [自動化プロセスユーザ] で使用されているメールアドレスを指定できるようになりました。「自動化プロセスユーザ」で組織の共有メールアドレスを使用して、トリガを含む自動起動フローおよびイベントプロセスを呼び出すフローアクションのメールを受信者が受信するようにします。

第二世代パッケージの改善: パッケージから以前のフローを削除

Salesforce でロック解除済みパッケージをインストールおよびアップグレードすると、以前のロック解除済みパッケージバージョンから削除したフローが削除されるようになりました。また、以前のフローバージョンを第二世代管理パッケージから削除できます。

画面フローの利用状況の分析

新しい [サンプルフローレポート: 画面フロー] カスタムレポートタイプとレポートが設定されました。自分が作成した画面フローを誰が実行しているかを確認します。フローインタビューの実行件数と画面の存続期間を確認します。フローインタビューの状況を確認します。ユーザ側で設定を行う必要はありません。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

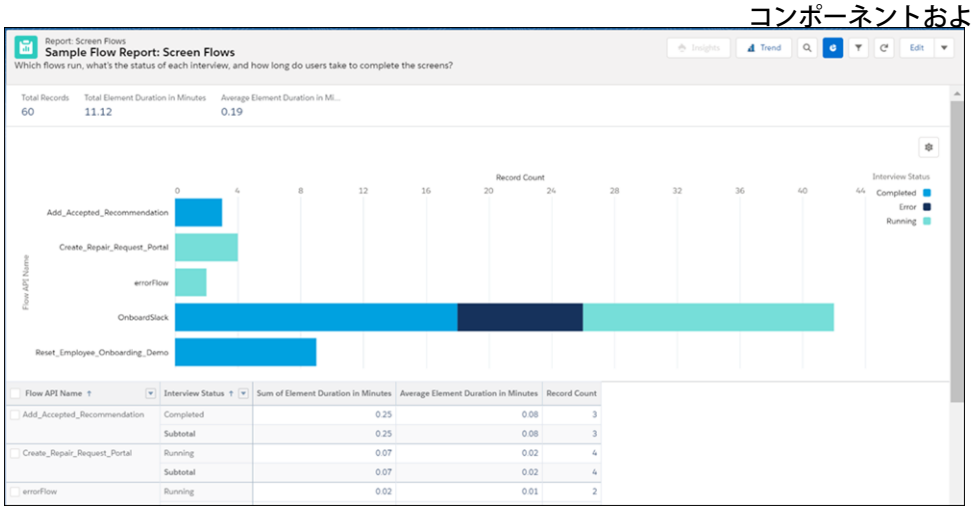
対象ユーザ: デフォルトでは、[サンプルフローレポート: 画面フロー] レポートはすべてのユーザに表示されます。ただし、各ユーザが表示できる情報は、自分が実行ユーザになっているフローの情報のみです。レポートでは、新しいフローインタビューログ主オブジェクトおよびフローインタビューログエントリ主オブジェクトのデータが使用されます。デフォルトでは、「すべてのデータの参照」権限を持つユーザのみが他のユーザのフローログデータを表示できます。他のユーザが実行したフローに関する情報を表示できるようにするには、フローインタビューログオブジェクトの共有設定を定義します。レポートへの参照アクセス権を制限するには、レポートを別のフォルダに移動します。

理由: 作成したフローの実行時の詳細を確認するための効果的かつ時間のかからない方法が欲しいというユーザのフィードバックがありました。新しい [画面フロー] カスタムレポートを使用して、画面フローに関する情報を確認できるようになりました。たとえば、自分が作成したフローを誰が実行しているかを確認したり、フローの採用状況をより適切に把握したりできます。また、サービスマネージャは、チームがタスクを完了した時間を、フローが使用された場合と使用されなかった場合で比較できます。プロセスの自動化により会社が利益を得ることができるかどうかをこの総計値によって把握できます。

[画面フロー] カスタムレポートタイプとレポートは、カスタムレポートタイプ数の組織の制限に達していない組織に自動的に追加されます。[画面フロー] カスタムレポートタイプと同じ API 参照名 (「screen_flows_prebuilt_crt」) のカスタムレポートタイプをすでに持っている組織は、[画面フロー] カスタムレポートタイプを受け取りません。同じレポートタイプ名 (「flow_screen_prebuilt_report」) のレポートをすでに持っている組織は、[サンプルフローレポート: 画面フロー] レポートを受け取りません。組織がこのレポートを受け取っていない場合は、フローインタビューログオブジェクトおよびフローインタビューログエントリオブジェクトを使用してカスタムレポートタイプを作成できます。次に、ユーザはこのカスタムレポートタイプを使用してカスタムレポートを作成できます。

フローインタビューログエントリオブジェクトでは、過去31日間に有効であった画面フローごとにログレコードが生成されます。フローインタビューログエントリオブジェクトの制限は、1 か月 (過去 31 日) あたり 700 万ログレコードです。組織がこの制限に達することはめったにありません。ただし、この制限に達した場合、新しいフローの総計値の記録が停止します。31 日間で 700 万レコードを超えると、新しいフローの実行はカウントされなくなります。ただし、この制限に達した時点でフローインタビューが処理中であった場合、そのフローインタビューの総計値の追跡は続行されます。組織が 700 万レコードの制限に達していなくても、経過日数が 31 日を超えたすべてのログは自動的に削除されます。

方法: アプリケーションランチャーから、「レポート」と入力し、[レポート] をクリックして、[公開フォルダ] をクリックします。[サンプルフローレポート:画面フロー] を見つけて選択します。このレポートが見つからない場合、レポートを自動的に追加できなかったことを意味します。組織が最大カスタムレポートタイプ制限に達しているか、同じレポートタイプ名のレポートが組織にすでにあります。



レポートには、フローインタビューログオブジェクトおよびフローインタビューログエントリオブジェクトで指定されている日付範囲内に実行されたフローインタビューが表示されます。デフォルトでは、結果はフローの API 参照名とインタビューの状況で並び替えられます。結果には、ユーザがフロー画面で費やした合計時間と平均時間、およびレポート期間内にフローで生成されたフローインタビューログレコードの数が含まれます。レポートの並び替え順を変更したり、別の項目でレポートを作成したりするには、レポートを編集します。

デフォルトの日付範囲は過去7日間です。すべてのフローが表示されない場合は、日付検索条件の範囲を広げてください。最大範囲は過去 31 日間です。

レポート内のデータは画面フロー専用です。レポートには、ユーザが開始、一時停止、および終了した画面フローと、ユーザが[次へ]をクリックした画面フローのデータが含まれます。自動起動フローと、ユーザの操作を必要としないフローは記録されません。

通常、レポートでは、完了した作業が測定されます。ただし、[画面フロー]レポートでは、完了したフローに加えて、処理中である有効なフローが追跡されます。

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:レポート制限、制限および割り当て (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:共有ルール (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ:カスタムレポートタイプの管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- 新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

フローの限られたリソースの使用量を追跡

デバッグログで、終了した各フローインタビューのリソース消費を追跡できるようになりました。組織がトランザクション単位の制限 (SOQL クエリや DML ステートメントの制限など) に頻繁に達しているとします。この制限に対するフローの利用状況を確認するには、デバッグログを使用して `FINER` レベルでワークフローイベントを追跡します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: レコードの作成または更新により、自動起動フロー、Apex トリガ、レコード変更プロセスを含め、同一トランザクション内で複数の自動化がトリガされる可能性があります。このすべての自動化で、制限のある共有リソースが消費されます。制限に達すると、トランザクションは失敗します。

デバッグログを使用して、フローが各トランザクションのリソース消費に影響しているかどうかと、どのように影響しているかを確認できるようになりました。この新しいイベントで記録された情報は、適切なフローとフロー要素種別の最適化に取り組みを集中する上で役立つ可能性があります。

次の例は、フローインタビューで 75 件の DML ステートメントが発行されたことを示しています。このような高い数字は、レコードの作成、更新、または削除を行う要素がフロー内のループに含まれていることを示している可能性があります。ループでこの要素を繰り返し実行するのではなく、要素をループの外側に移動して、要素を 1 回のみ実行し、コレクションに対してアクションを実行するようにします。

```
08:45:05.127
(4741320574)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED|31428290809e63dc5961431e12c7171c0d7b8fe-4c02|MyFlow
08:45:05.127 (4741384571)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|SOQL queries: 1 out of 100
08:45:05.127 (4741396008)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|SOQL query rows: 75 out of
50000
08:45:05.127 (4741404708)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|SOSL queries: 0 out of 20
08:45:05.127 (4741413424)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|DML statements: 75 out of
150
08:45:05.127 (4741421017)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|DML rows: 75 out of
1000008:45:05.127 (4741457291)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|Heap size in bytes:
1043 out of 6000000
08:45:05.127 (4741465282)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|Callouts: 0 out of 100
08:45:05.127 (4741471652)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|Email invocations: 0 out of
 10
08:45:05.127 (4741477919)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|Future calls: 0 out of 50
08:45:05.127 (4741484005)|FLOW_INTERVIEW_FINISHED_LIMIT_USAGE|Jobs in queue: 0 out of 50
```

関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: デバッグログレベル (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: トランザクション単位のフローの制限 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Apex 開発者ガイド*: 実行ガバナと制限

登録済みフローまたはプロセスがプラットフォームイベントメッセージにより開始または再開されない場合に通知を取得

まれに、プラットドームイベントメッセージが公開された後、登録済みフローまたはプロセスをイベントメッセージで開始または再開できない問題が発生します。組織でこの問題が発生した場合にエラーメールを受信できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Spring '20 リリース以降にプラットフォームイベントを登録したフローおよびプロセスでは、この新しいエラーメールはすでに有効になっています。Spring '20 リリースよりも前にプラットフォームイベントを登録したフローまたはプロセスがある場合、それらを無効化して再度有効化することで、このエラーメールを有効にできます。

新しいエラーメールは、他のプロセスエラーメールおよびフローエラーメールと同じ受信者に送信されます。これは、プロセスの自動化設定から制御できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: フローおよびプロセスのエラーメールの受信者の制御 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

プラットフォームイベント開発者ガイド: プロセスによるプラットフォームイベントメッセージの登録

プラットフォームイベント開発者ガイド: フローによるプラットフォームイベントメッセージの登録

自動化プロセスユーザのメール

フローのメールアクションの単純なメールおよびメールのアラートの送信者に、[設定] の [自動化プロセスユーザ] で使用されているメールアドレスを指定できるようになりました。「自動化プロセスユーザ」で組織の共有メールアドレスを使用して、トリガを含む自動起動フローおよびイベントプロセスを呼び出すフローアクションのメールを受信者が受信するようにします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: スケジュール済みフローの場合、[メールを送信] コアアクションの [差出人メールアドレス] 項目に送信者として「自動化プロセスユーザ」が含まれる場合、フローはエラーを表示することなく失敗します。「自動化プロセスユーザ」に、フローの実行ユーザとしての有効な「差出人」メールアドレスはありません。その結果、ユーザは、実行されたどのアクションの通知も受け取りません。

方法: [設定] で、[プロセスの自動化設定] に移動して、[自動化プロセスユーザ] で組織の共有メールアドレスを指定します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: プロセスの自動化設定の変更 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

第二世代パッケージの改善: パッケージから以前のフローを削除

Salesforce でロック解除済みパッケージをインストールおよびアップグレードすると、以前のロック解除済みパッケージバージョンから削除したフローが削除されるようになりました。また、以前のフローバージョンを第二世代管理パッケージから削除できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: 以前は、インストール済みのパッケージにフローが含まれる場合、組織からフローを削除できませんでした。この組織でパッケージをアップグレードしても、フローは削除されませんでした。

メモ: 以前のフローバージョンを第一世代の未管理パッケージおよび管理パッケージから削除すること、および第二世代の管理パッケージから削除することは、Summer '20 ではサポートされません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: パッケージのインストール (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning フロー拡張: 画面コンポーネントおよび呼び出し可能なアクションのカスタム UI (ベータ)、Apex で定義された変数の入出力アクセスと複数オブジェクト画面コンポーネント (ベータ)

開発者は、画面コンポーネントおよび呼び出し可能なアクションをフローに追加するときに Lightning Web コンポーネントを使用して、魅力的な UI を提供できます (ベータ)。Apex で定義された変数をフローの外部で使用できるようにします。開発者は、選択した任意のオブジェクトで機能する画面コンポーネントを作成できます (ベータ)。

このセクションの内容:

カスタムフロー画面コンポーネントのより簡単な設定 (ベータ)

開発者は、Flow Builder でフロー画面コンポーネントを簡単に設定できるようにするカスタムプロパティエディタを作成できます。カスタムプロパティエディタは、Lightning Web コンポーネントです。

Flow Builder での呼び出し可能アクションの設定の簡易化 (ベータ)

開発者は、Flow Builder で呼び出し可能なカスタムアクションを簡単に設定できるようにするカスタムプロパティエディタを作成できます。カスタムプロパティエディタは、Lightning Web コンポーネントです。

複数のオブジェクトで機能するフロー画面コンポーネントの作成 (ベータ)

開発者は汎用 `sObject` および `sObject[]` データ型を使用する再利用可能な画面コンポーネントを作成できるようになりました。オブジェクトごとに 1 つのコンポーネントを作成するのではなく、複数のオブジェクトで機能する 1 つのコンポーネントを作成できます。たとえば、取引先や取引先責任者からカスタムオブジェクトまで、レコードのコレクションで機能するデータテーブルコンポーネントを作成できます。

フロー外部からの Apex で定義された変数へのアクセス

サブフロー要素や Visualforce ページから、またはアクションとしてフローを起動するときに、Apex で定義された変数に値を渡すことができるようになりました。フローの実行時または完了時に Apex で定義された変数の値にアクセスすることもできます。以前は、他のデータ型の変数にしかフロー外部からアクセスできませんでした。

プロセスおよびフローでの Salesforce Anywhere チャットおよびアラートの使用 (ベータ)

Lightning フローに標準の Salesforce Anywhere アクションが含まれるようになりました。これにより、チャットの作成、既存のチャットへのユーザの追加、既存のチャットへのメッセージの送信を容易に行うことができます。また、ユーザが作業を容易に追跡できるように、ユーザに Salesforce Anywhere アラートを送信することができます。

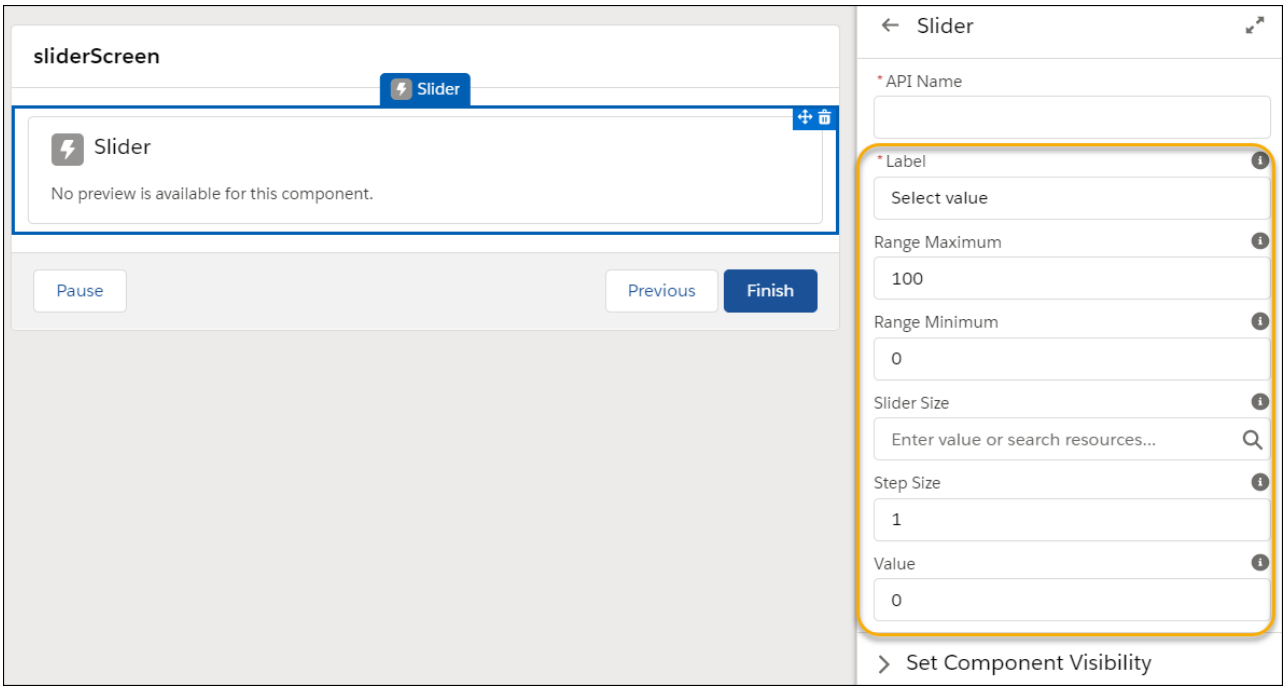
カスタムフロー画面コンポーネントのより簡単な設定 (ベータ)

開発者は、Flow Builder でフロー画面コンポーネントを簡単に設定できるようにするカスタムプロパティエディタを作成できます。カスタムプロパティエディタは、Lightning Web コンポーネントです。

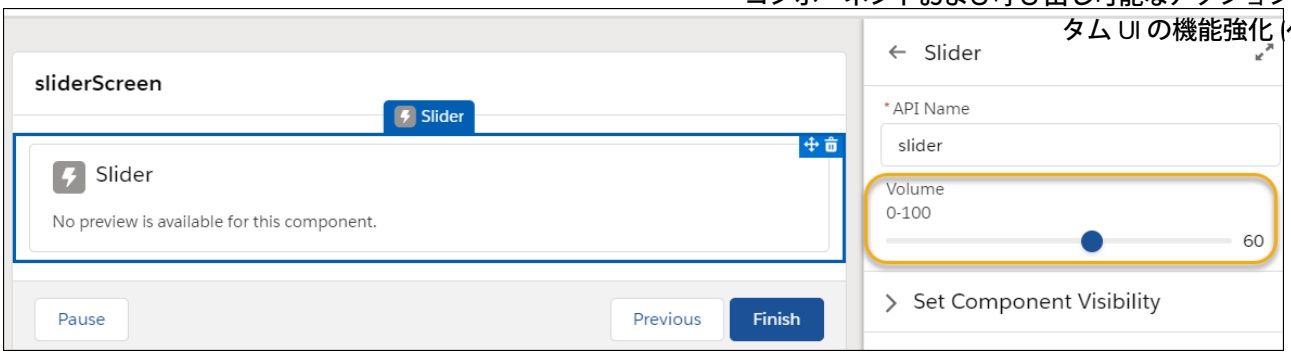
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

フロー画面コンポーネントのカスタムプロパティエディタのサポートはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。フロー画面コンポーネントのカスタムプロパティエディタに関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community からお寄せください。

理由: 以前は、カスタムフロー画面コンポーネントを設定するときの UI がコンボボックスで構成されていました。コンポーネントを作成する開発者は、プロパティエディタの UI を制御できませんでした。



今回のリリースでは、開発者はフロー画面コンポーネント設定するときに簡潔でシンプルな環境を提供するカスタム Lightning Web コンポーネントを作成できるようになりました。



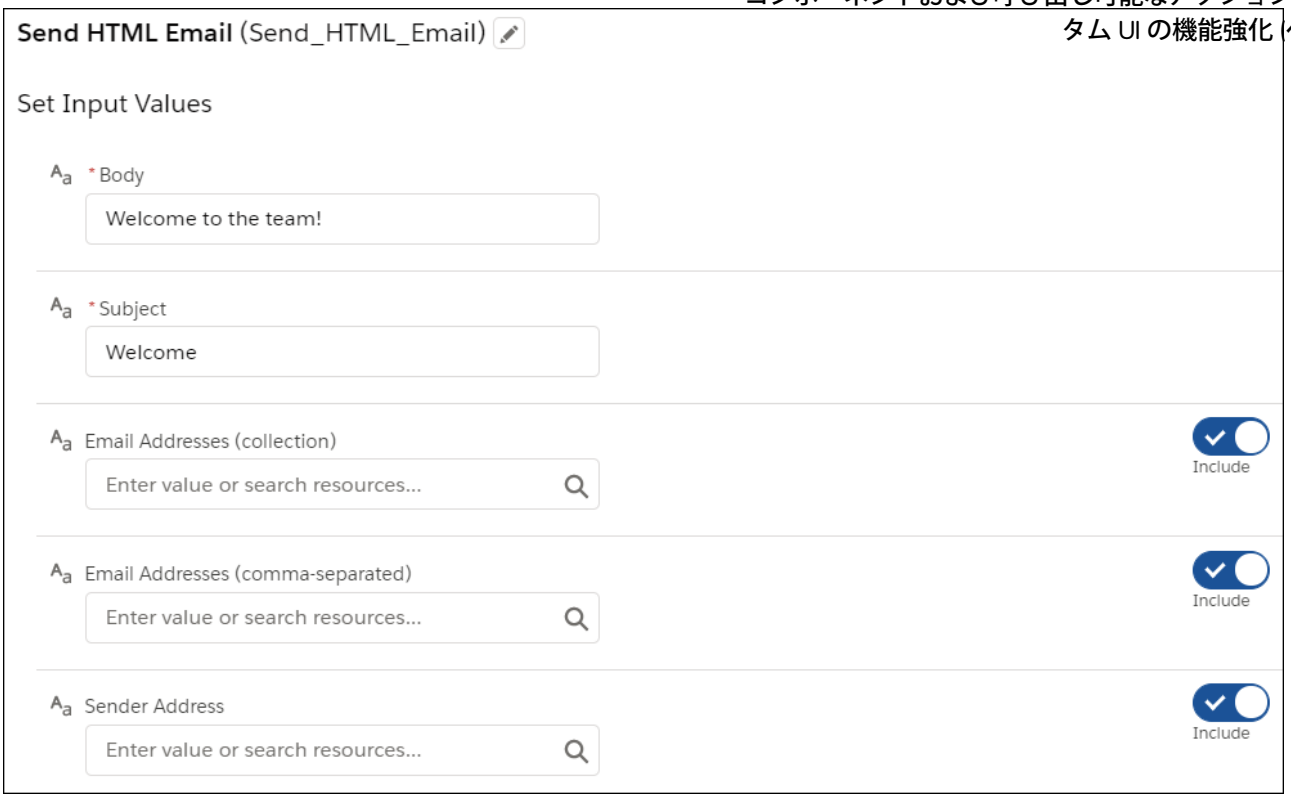
Flow Builder での呼び出し可能アクションの設定の簡易化 (ベータ)

開発者は、Flow Builder で呼び出し可能なカスタムアクションを簡単に設定できるようにするカスタムプロパティエディタを作成できます。カスタムプロパティエディタは、Lightning Web コンポーネントです。

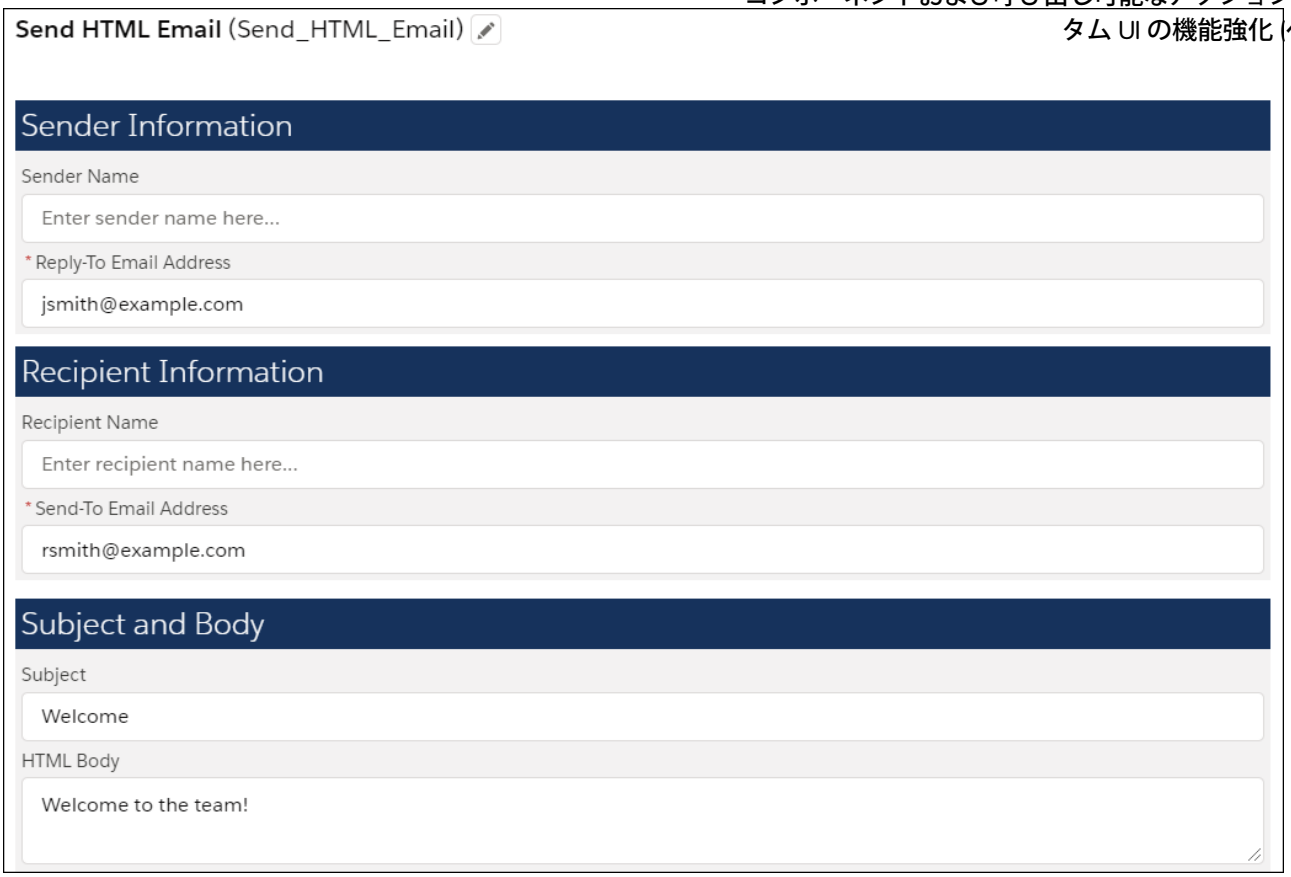
対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

呼び出し可能なカスタムアクションのカスタムプロパティのサポートはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。呼び出し可能なカスタムアクションのカスタムプロパティエディタに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

理由: 以前は、カスタムアクションを設定するときの UI がテキストボックスとコンボボックスで構成されていました。アクションを作成する開発者は、プロパティエディタの UI を制御できませんでした。



今回のリリースでは、開発者は設定するときに簡潔でシンプルな環境を提供するカスタムアクションを作成できるようになりました。



関連トピック:

呼び出し可能アクションのカスタムプロパティエディタの作成 (ベータ)

複数のオブジェクトで機能するフロー画面コンポーネントの作成 (ベータ)

開発者は汎用 `sObject` および `sObject[]` データ型を使用する再利用可能な画面コンポーネントを作成できるようになりました。オブジェクトごとに1つのコンポーネントを作成するのではなく、複数のオブジェクトで機能する1つのコンポーネントを作成できます。たとえば、取引先や取引先責任者からカスタムオブジェクトまで、レコードのコレクションで機能するデータテーブルコンポーネントを作成できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience の Lightning Web コンポーネントに適用されます。

メモ: カスタムフロー画面コンポーネントの汎用 sObject データ型のサポートはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。カスタムフロー画面コンポー

ネントの汎用 sObject データ型のサポートに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

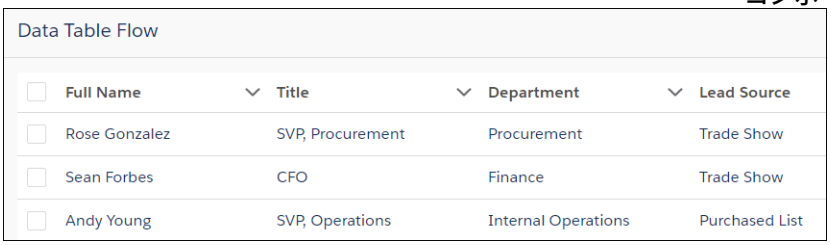
方法:カスタムフロー画面の Lightning Web コンポーネントを作成するか、既存のコンポーネントを編集します。その設定ファイルでは、フロー画面コンポーネントの対象として `lightning__FlowScreen` が設定されています。

1. `<propertyType>` を定義して、汎用 `sObject` データ型を拡張する型を定義します。
2. 同じオブジェクトに対応付けられているプロパティごとに、プロパティの `type` 属性を `{propertyTypeName}` に設定します。属性でそのオブジェクトのコレクションが想定されている場合、`type` 属性を `{propertyTypeName[]}` に設定します。たとえば、*propertyTypeName* が `T` の場合、`{T}` または `{T[]}` を使用します。

   単一プロパティとコレクションプロパティで同じプロパティ種別を参照できます。単一またはコレクション変数プロパティで `type` 属性を設定する方法については、コード例のコメントを参照してください。

```
<!-- myComponent.js-meta.xml -->
<targetConfigs>
    <targetConfig targets="lightning__FlowScreen">

       <!-- Declare a property type that extends SObject for single and collection variable
 properties.-->
        <propertyType name="T" extends="SObject" label="Object" description="Select an
object." />

          <!--To use a collection of the SObject data type, use the braces in this syntax,
 type="{T[]}".-->
         <property name="tableData" label="Records to Display" type="{T[]}" role="inputOnly"
 required="true"
                  description="REQUIRED: Record Collection variable containing the records
 to display in the data table. Make sure to select a variable that matches the selected
object."/>

          <property name="preSelectedRows" label="Preselected Rows" type="{T[]}"
role="inputOnly"
                   description="Which records should be selected by default when the table
 renders? Select a Record Collection variable that contains those records."/>

          <property name="outputSelectedRows" label="User-Selected Rows" type="{T[]}"
role="outputOnly"
                    description="Which records were selected by the user at runtime? This
 value should be stored in a record collection variable."/>

    </targetConfig>
</targetConfigs>
```

以前は、サンプルコンポーネントは 1 つのオブジェクト (Account、Contact、myCustomObject__c など) に関連付けられていました。今回のリリースでは、開発者が 1 つのコンポーネントを作成し、Flow Builder 管理者はそのコンポーネントを使用するたびにオブジェクトを選択します。



このベータ機能では、フロー画面コンポーネントで汎用 sObject データ型を定義するときに、フローで参照されるカスタムオブジェクトは自動的にはパッケージに含まれません。パッケージを正常にリリースするには、参照されるこれらのカスタムオブジェクトをパッケージに手動で追加します。

フロー外部からの Apex で定義された変数へのアクセス

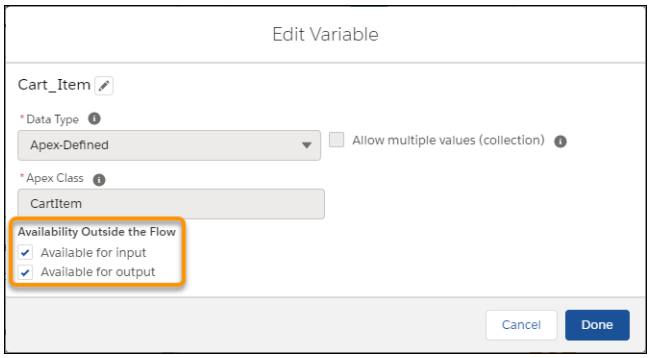
サブフロー要素や Visualforce ページから、またはアクションとしてフローを起動するときに、Apex で定義された変数に値を渡すことができるようになりました。フローの実行時または完了時に Apex で定義された変数の値にアクセスすることもできます。以前は、他のデータ型の変数にしかフロー外部からアクセスできませんでした。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

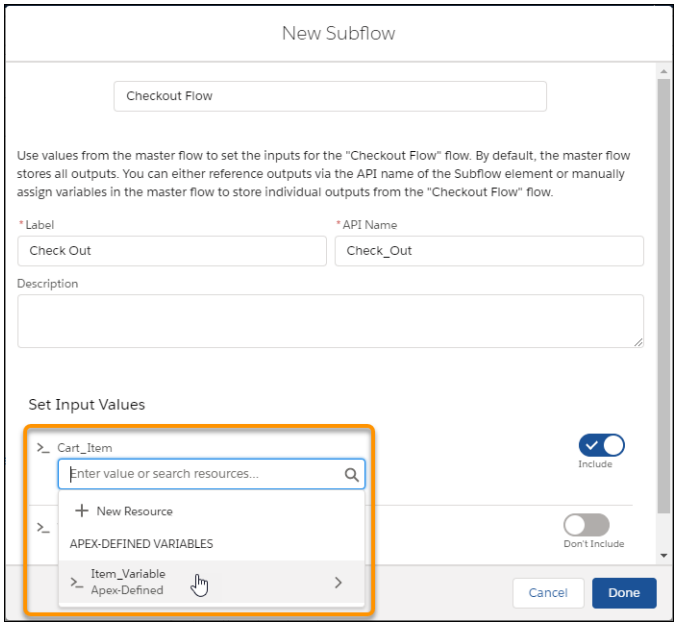
理由: Apex で定義されたデータ型では、Salesforce オブジェクトにうまく適合しない複雑なデータを表すことができます。たとえば、外部 Web オブジェクトにアクセスするように外部サービスを設定できます。フローでそれらの Web オブジェクトを操作するには、Apex で定義されたデータ型を使用するフロー変数を設定します。

サブフロー要素で使用する場合、フロー実装をより適切に整理および管理できます。Apex で定義されたデータ型を中心に展開する複雑な複数ステップのビジネスプロセスがある場合、サブフロー要素を介してフローを実行するときに複雑なデータを他のフロー間で渡すマスタフローを使用できるようになりました。この実装により、プロセスの他のステップに影響を与えずに特定のステップを改善できます。

方法: フローの外部からアクセスする Apex で定義された各変数を [入力で使用可能]、[出力で使用可能]、またはその両方として設定します。次の例は、[入力で使用可能] および [出力で使用可能] として設定された「Cart_Item」という名前の Apex で定義された変数を示しています。



その後、フローの外部から Apex で定義された変数にアクセスできます。次の例は、別のフローのサブフロー要素で Apex で定義された変数「Cart_Item」の値を設定する方法を示しています。



メモ: Flow Builder の外部の一部のユーザインターフェースでは、フローの Apex で定義された変数に値を渡すことができません。たとえば、Lightning アプリケーションビルダーではフローの Apex で定義された変数を選択できますが、互換性のある値を選択してそれに渡すことはできません。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Apex で定義されたデータ型の考慮事項 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: フローのリソース: 変数 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

プロセスおよびフローでの Salesforce Anywhere チャットおよびアラートの使用 (ベータ)

Lightning フローに標準の Salesforce Anywhere アクションが含まれるようになりました。これにより、チャットの作成、既存のチャットへのユーザの追加、既存のチャットへのメッセージの送信を容易に行うことができます。また、ユーザが作業を容易に追跡できるように、ユーザに Salesforce Anywhere アラートを送信することができます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience の Lightning アプリケーションに適用されます。

メモ: Salesforce Anywhere は非正式リリースのサービスであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。このような非正式リリースのサービスには、Universal Pilot Research Agreement (「UPRA」) および UPRA のデータ処理に関する補遺の契約条件が適用されます。非正式リリースのサービスはお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、Salesforce から現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce Anywhere が自動的に使用可能になるかどうかは、Salesforce との MSA および購入したサービスの種別によります。[設定] に Salesforce Anywhere が表示されない場合は、アカウントエグゼクティブに連絡して Salesforce Anywhere へのアクセス権を取得してください。

時期: Salesforce Anywhere は 2020 年 7 月 13 日から 2020 年 7 月 20 日までにローリング方式で使用できるようになります。

方法: プロセスを作成してアクションを追加します。[アクション種別] で、**[Salesforce Anywhere]** を選択し、アクションを選択します。

フローを作成し、[アクション] 要素をキャンバスにドラッグします。`「Salesforce Anywhere」` と入力し、アクションを選択します

Lightning フローリリース更新: プロセスビルダー、呼び出し可能なアクション、フロー数式、Apex アクション

プロセスでレコード項目の元の値を評価できるようになります。失敗した呼び出し可能なアクションの動作と影響が改善されます。フロー数式の実行時に実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。従来の Apex アクションの公開アクセス修飾子が考慮されます。更新「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求」がキャンセルされます。

このセクションの内容:

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)
呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (更新、延期)
フロー数式でのデータアクセス権の適用 (更新、延期)
フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮 (更新、延期)

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)

このリリース更新は Winter '22 に延期されました。これは当初 Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でしたが、Winter '21 に延期されました。このリリースの更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。このリリースの更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (更新、延期)

このリリース更新は Spring '21 に延期されました。これは当初 Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でしたが、Winter '21 に延期されました。このリリースの更新により、失敗した呼び出し可能アクションの動作と影響が改善されます。影響を受けるのは、一括で実行された呼び出し可能アクションへの外部 REST API コールのみになります。この更新を適用すると、1 つの要求で一連のアクションを呼び出した場合に、1つの失敗した呼び出し可能アクションによってトランザクション全体が失敗することがなくなります。この更新を適用しない場合、1つの呼び出し可能アクションが失敗すると、トランザクション内の他の呼び出し可能アクションがロールバックされ、トランザクション全体が失敗します。

フロー数式でのデータアクセス権の適用 (更新、延期)

このリリース更新は Spring '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、フローでレコード変数の数式リソースまたは数式項目を使用してレコードの項目にアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。

フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮 (更新、延期)

このリリース更新は Spring '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。このリリースの更新を有効にすると、開発者は従来の Apex アクションが適切に保護されて、管理パッケージの他のコンポーネントでのみ使用できることを確信できます。この更新により、従来の Apex 公開アクションが含まれているフローが失敗するようになります。

Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)

更新「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求」が廃止されました。リリース更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」は、当初 Summer '20 で発表されましたが、Summer '21 に延期されました。これは Spring '21 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」により、組織は元の状態に戻り、Apex アクションが含まれるフローを実行できるようにする場合にのみユーザにフローへのアクセス権が必要になります。

プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (更新、延期)

リリース更新「プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認」は Spring '21 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。注意: この更新は、2020 年 7 月 10 日より前に Summer '20 を受け取った Salesforce 組織ではすでに有効になっています。この場合、必要に応じて Spring '21 まで更新を無効にすることができます。この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。

フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求 (更新、廃止)

Summer '19 でリリースされ、Spring '21 に延期されたこの更新は廃止されました。この更新は、以前は「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求することでセキュリティを強化」と呼ばれていました。

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)

このリリース更新は Winter '22 に延期されました。これは当初 Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でしたが、Winter '21 に延期されました。このリリースの更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の*元*の値を評価します。このリリースの更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Winter '22 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに *「リリースの更新」* と入力して、[リリースの更新] を選択します。[プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価] で、テストと有効化の手順を実行します。

[レコードに指定の変更が行われた場合にのみアクションを実行しますか?] オプションが選択されているプロセスがある場合、または条件で `ISCHANGED()` 関数を使用している場合、この更新によってプロセスが異なって動作する可能性があります。

関連トピック:

- リリース更新 (ベータ)

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (更新、延期)

このリリース更新は Spring '21 に延期されました。これは当初 Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でしたが、Winter '21 に延期されました。このリリースの更新により、失敗した呼び出し可能アクションの動作と影響が改善されます。影響を受けるのは、一括で実行された呼び出し可能アクションへの外部 REST API コールのみになります。この更新を適用すると、1 つの要求で一連のアクションを呼び出した場合に、1 つの失敗した呼び出し可能アクションによってトランザクション全体が失敗することがなくなります。この更新を適用しない場合、1 つの呼び出し可能アクションが失敗すると、トランザクション内の他の呼び出し可能アクションがロールバックされ、トランザクション全体が失敗します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: このリリースの更新を適用しない場合、1つの呼び出し可能なアクションがエラーになると、同じトランザクションの他の呼び出し可能なアクションがロールバックされます。このリリースの更新を適用すると、Salesforce は正常に実行された呼び出し可能なアクションの実行を 3 回試行し、実行に失敗した呼び出し可能なアクションのみをロールバックします。この機能は「部分的保存」と呼ばれます。

REST API で呼び出されるほとんどの呼び出し可能なアクション種別は、この部分的保存機能に対応しています。ただし、このリリースの更新を適用しても、以下のアクション種別は部分的保存機能をサポートしません。

- 履行注文をキャンセル
- 解約注文
- 資金をキャプチャ
- コンテンツワークスペース
- 履行注文を作成
- 履行注文から請求書を作成
- サービスレポートを作成
- 外部サービス
- 作業指示を生成
- 呼び出し可能な Apex
- スキルベースのルーティング
- デジタルフォームの回答を登録

部分的保存により、外部コールアウトが複数回発生して、それらの外部コールアウトがロールバックできなくなる場合があります。外部コールアウトが繰り返されるのは、フローがプロセスから開始されるか、または REST API から呼び出され、そのフローが外部コールアウトを伴うアクションを複数回実行しようとしている場合のみです。

部分的保存により、アクションの実行が複数回試行されるため、トランザクションに予想より時間がかかることがあります。これにより、組織が予想より早く制限に達してしまう場合があります。

時期: この更新は、Spring '21 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。適用前

に、または本番組織でこのリリースの更新を有効化する前に、Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストを実行し、お使いの呼び出し可能なアクションが正しく機能することを確認しておくことをお勧めします。本番組織で作業する必要がある場合は、ピーク時を避けて行います。

方法: この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに *「リリースの更新」* と入力して、[リリースの更新] を選択します。[呼び出し可能なアクションの部分的な保存の有効化] で、テストと有効化の手順を実行します。

呼び出し可能なアクションを使用する API インテグレーションが部分的な保存の動作に適切に対応していることを確認します。

関連トピック:

リリース更新 (ベータ)

フロー数式でのデータアクセス権の適用 (更新、延期)

このリリース更新は Spring '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、フローでレコード変数の数式リソースまたは数式項目を使用してレコードの項目にアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Spring '21 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この更新を有効にすると、フロー数式は実行ユーザのオブジェクト権限、項目レベルのアクセス権、およびレコードレベルのアクセス権 (共有ルールなど) に従います。

たとえば、ケース所有者が他のユーザとケースを明示的に共有しない限りケースが非公開になる組織について考えてみます。

この更新が有効になっていない場合、ケース所有者でないユーザが、数式を介してケースにアクセスするフローを実行すると、フローインタビューはレコードレベルのセキュリティを無視して項目にアクセスします。

この更新を有効にすると、実行ユーザのレコードレベルのアクセス権が適用されるため、フローインタビューは項目にアクセスできません。

方法: この更新は、事前に Sandbox 組織でテストしてから本番組織で有効化することをお勧めします。数式を使用してオブジェクトレベルのセキュリティ、項目レベルのセキュリティ、またはレコードレベルのセキュリティを持つレコードの項目にアクセスするすべてのフローパスをテストします。たとえば、フローを実行するユーザとは共有されていないレコードの項目に数式を使用してアクセスするフローをテストします。

この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに *「リリースの更新」* と入力して、[リリースの更新] を選択します。[フロー数式でデータアクセス権を適用] で、テストと有効化の手順を実行します。

問題が発生した場合は、Salesforce カスタマーサポートまでご連絡ください。

関連トピック:

リリース更新 (ベータ)

フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮 (更新、延期)

このリリース更新は Spring '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。このリリースの更新を有効にすると、開発者は従来の Apex アクションが適切に保護されて、管理パッケージの他のコンポーネントでのみ使用できることを確信できます。この更新により、従来の Apex 公開アクションが含まれているフローが失敗するようになります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: この更新では、従来の Apex アクションの公開アクセス修飾子がフローで考慮されないという問題が解決されます。この問題は、管理パッケージからインストールされた Apex クラスを参照する従来の Apex アクションにのみ影響します。

従来の Apex アクションは Apex プラグインと呼ばれていました。組織に `Process.Plugin` インターフェースを実装する Apex クラスを定義すると、Flow Builder で従来の Apex アクションとして使用できます。

> **メモ:** 新しい Apex インテグレーションでは、`Process.Plugin` インターフェースではなく `InvocableMethod` アノテーションを使用することをお勧めします。この更新は呼び出し可能な Apex メソッドには影響しません。

この更新を有効にした場合、次のようになります。

- フローは従来の Apex 公開アクションを実行したときに失敗します。
- 従来の Apex 公開アクションは Flow Builder では使用できません。
- `describe` または `invoke` 公開メソッドを使用する従来の Apex グローバルアクションをフローは別の名前空間で使用できません。

この更新が有効になっていない場合、従来の Apex 公開アクションは、サポートされていなくてもフローに追加できます。また、`describe` または `invoke` 公開メソッドを使用する従来の Apex グローバルアクションをフローは別の名前空間で使用できます。

時期: この更新は、Spring '21 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この更新を Sandbox または開発者組織でテストしてから、本番で有効にすることをお勧めします。本番組織で作業する必要がある場合は、ピーク時を避けて行います。従来の Apex アクション要素を含むすべてのパスをテストして、フローが適切に機能することを確認します。ビジネスプロセスにとって重要な従来の Apex アクションがこの更新でサポートされない場合は、パッケージ開発者にお問い合わせください。開発者は、従来の Apex アクションをグローバルにするか、新しい Apex クラスで機能を再作成することを考慮することができます。

この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*リリースの更新*」と入力して、[リリースの更新] を選択します。[フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮] で、テストと有効化の手順を実行します。

関連トピック:

- リリース更新 (ベータ)

Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)

更新「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求」が廃止されました。リリース更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」は、当初 Summer '20 で発表されましたが、Summer '21 に延期されました。これは Spring '21 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」により、組織は元の状態に戻り、Apex アクションが含まれるフローを実行できるようにする場合にのみユーザにフローへのアクセス権が必要になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Summer '21 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

対象ユーザ: この新しい更新は、更新「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求」が有効になっている組織でのみ使用できます。更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」が表示されていない場合は、関係ありません。

方法: この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに *「リリースの更新」* と入力して、[リリースの更新] を選択します。[Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化] で、[有効化] をクリックします。この更新は要件の削除であるため、この更新を有効にしても既存のカスタマイズには影響しません。他の理由で Apex クラスにアクセスする必要があるユーザが引き続き Apex クラスにアクセスできるようにシステム管理者が権限を確認することをお勧めします。

関連トピック:

- リリース更新 (ベータ)
- フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求 (更新、廃止)

プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (更新、延期)

リリース更新「プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認」は Spring '21 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。**注意:** この更新は、2020 年 7 月 10 日より前に Summer '20 を受け取った Salesforce 組織ではすでに有効になっています。この場合、必要に応じて Spring '21 まで更新を無効にすることができます。この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

理由: プロセスおよびフローで、数式はレコード変数や参照関係項目を介してレコードの項目を参照できます。実行時に、レコード変数や参照関係項目が null の場合、数式で null が返されることがあります。それ以外の場合は、未対応の例外が返されます。この更新により、レコード変数や参照関係項目が null の場合、数式で常に null 値が返されるようになります。この更新は差し込み項目には影響しません。

たとえば、取引先を更新すると、プロセスが開始され、アクションを実行する前に条件がチェックされます。条件には、取引先の [親取引先] 項目を介して親取引先の名前を参照する数式が含まれています。[親取引先] 項目は参照関係項目です (`[Account].Parent.Name`)。

参照関係項目の値が null の場合、数式で null が返されます。この更新を行わないと、数式で null ではなく未対応の例外が返されることがあります。

時期: この更新は、Spring '21 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、「Trust 状況」に移動し、インスタンスを検索してメンテナンスタブをクリックします。

方法: この重要な更新は Sandbox 内でテストすることをお勧めします。参照関係項目やレコード変数項目を参照するすべてのプロセスおよびフローの数式をテストします。プロセスの場合、条件やアクションに数式があります。フローの場合、リソースや入力コンポーネントの入力規則に数式があります。この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*リリースの更新*」と入力して、[リリースの更新] を選択します。「プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認」の場合、テストおよび有効化ステップを実行します。

関連トピック:

- リリース更新 (ベータ)

フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求 (更新、廃止)

Summer '19 でリリースされ、Spring '21 に延期されたこの更新は廃止されました。この更新は、以前は「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求することでセキュリティを強化」と呼ばれていました。

対象: この変更は、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は廃止されたため、組織が Summer '20 にアップグレードされると、重要な更新コンソールと [リリース更新] 設定ページに表示されなくなります。この更新はどの組織でも自動的に適用されないため、Summer '20 の設定 UI に表示される自動有効化日付は無視してください。

理由: 以前は、ゲストユーザがフローを実行するには、「フローを実行」ユーザ権限が必要でした。このユーザ権限では、すべてのフロー (ゲストユーザが実行する必要のないフローも含まれる) を実行するアクセス権が付与されていました。このリリース更新により、ゲストユーザは必要のない Apex コードを実行できなくなり、誤って別のフローが実行されることがなくなりました。この更新が有効になると、フローで Apex コードを呼び出す場合、フローの実行ユーザのプロファイルまたは権限セットでその Apex クラスへの明示的なアクセス権が設定されている必要があります。

その後、フローへの権限を個別に付与できるようにする機能が提供されました。この機能は、組織を保護するのに適した機能です。

この更新が組織で有効になると、更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」が表示されます。新しい更新が有効化されると、組織は元の状態に戻り、Apex アクションが含まれるフローを実行できるようにする場合にのみユーザにフローへのアクセス権が必要になります。

重要: 「フローを実行」ユーザ権限をゲストユーザプロファイルから削除することを強くお勧めします。組織を保護するために、実行する必要のある特定のフローへのアクセス権のみをゲストユーザに付与します。

関連トピック:

- Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)

Einstein 予測ビルダー: スコアカードからの予測セットの定義、レポートの実行、および予測の有効化

Einstein でスコアリングするレコードを選択することで、予測結果の関連性を高めます。レポートを実行して、予測で使用されているデータを探索できるようにします。予測スコアカードから予測を直接有効化または無効化する場合の時間を節約します。データチェッカーを使用して、さらに多くの項目やレコードタイプがないか調べます。

ALBERT EINSTEIN の権利は、ヘブライ大学の許可を受けた上で使用しています。Greenlight が排他的に代理人を務めています。

このセクションの内容:

Einstein 予測ビルダーでの自分の予測セットの定義
予測を構築するときに、Einstein でスコアリングするレコードを選択します。区分とサンプルセットだけでなく、予測セットも定義できるようになりました。自分の予測セットを定義することで、自分のサンプルセットに含まれていないレコードのみ、サンプルセットに含まれているレコードのみ、あるいは検索条件を使用して選択したレコードのみを含めます。

Einstein 予測ビルダーからのレポートの実行
予測を構築するときに、データに関するすべての事実を取得します。予測の構築時にデータチェッカーからレポートを実行することで、必要に応じてデータセットの問題を修復したり、予測の設定を変更したりできます。

スコアボードからの Einstein 予測の有効化
Einstein 予測ビルダーで予測のスコアカードを確認して問題がなければ、リストビューに戻る必要はありません。スコアカードから有効化できます。節約した時間で別の予測を行ってください。

Einstein 予測ビルダーでチェックされるデータのデータ型の増加
データチェッカーで項目間の比較と、[次の文字列で始まる]または[次の文字列を含む]演算子を使用するロングテキスト項目がサポートされるようになりました。これらのいずれかのデータ型が検索条件に含まれる予測でデータチェッカーを利用できるようになりました。以前は、データチェッカーでデータをチェックするときにそのような項目を検索条件から削除するように要求されていたため、後で追加し直して予測を作成していました。そのような作業に時間をかける必要がなくなりました。

わかりやすくなった Einstein 予測ビルダーのスコアカード
いくつの領域の表示ラベルが新しくなり、予測のスコアカードがわかりやすくなりました。

関連トピック:

Salesforce Einstein: Einstein Search の結果の改善、Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、Einstein Discovery のアルゴリズムとデータの増加による予測の改善

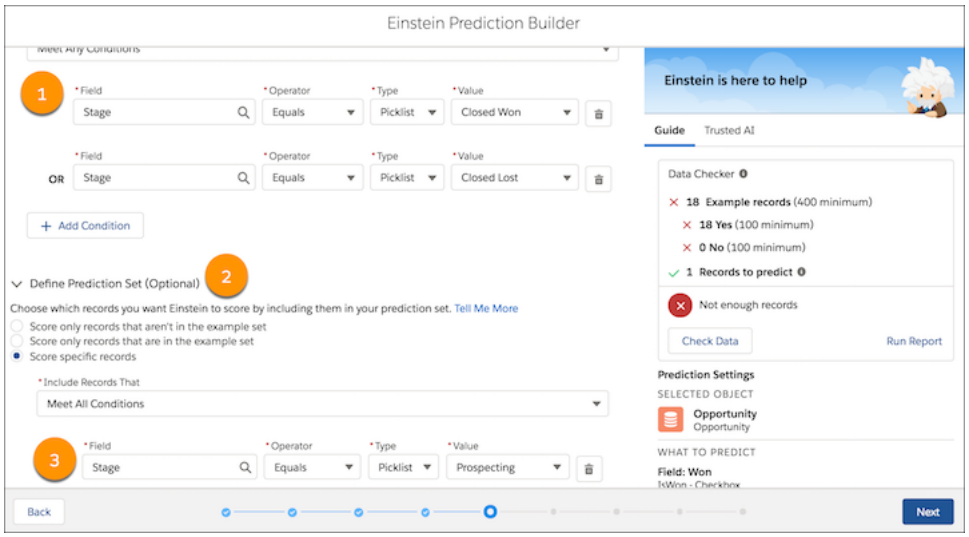
Einstein 予測ビルダーでの自分の予測セットの定義

予測を構築するときに、Einstein でスコアリングするレコードを選択します。区分とサンプルセットだけでなく、予測セットも定義できるようになりました。自分の予測セットを定義することで、自分のサンプルセットに含まれていないレコードのみ、サンプルセットに含まれているレコードのみ、あるいは検索条件を使用して選択したレコードのみを含めます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus、Einstein Predictions、または EinsteinBuilderFree ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

方法: 予測を構築するときに、予測する項目を選択するページで [予測セットの定義 (省略可能)] セクションを展開します。予測セットに含めるレコードを選択します。Einstein は、それらのレコードのスコアのみを提供します。



たとえば、成立商談を予測するとします。サンプルセット (1) には、[成立] または [不成立] フェーズの商談が含まれており、予測セット (2) を [見込み客] フェーズ (3) の商談として定義します。他のフェーズは含まれていないため、Einstein は完了商談のサンプルからのみ学習し、新しい商談の予測のみを行います。

Einstein 予測ビルダーからのレポートの実行

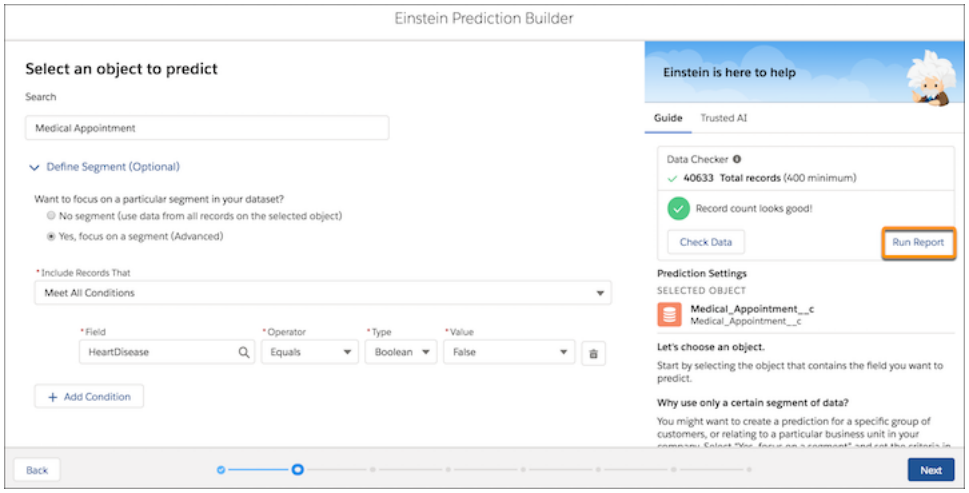
予測を構築するときに、データに関するすべての事実を取得します。予測の構築時にデータチェッカーからレポートを実行することで、必要に応じてデータセットの問題を修復したり、予測の設定を変更したりできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus、Einstein Predictions、または EinsteinBuilderFree ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

方法: データチェッカーが表示される任意の場所で、予測データに関するレポートを実行できます。これは、予測するオブジェクトを選択するとき、予測する項目を選択するとき、または検索条件に基づく予測のサンプルを定義するときに実行し、予測設定を確認するときにもう 1 回実行します。データチェッカーの [レポート

実行] リンクを使用します。レポートタイプを選択するように要求され、レポートが新しいタブまたはウィンドウで開きます。



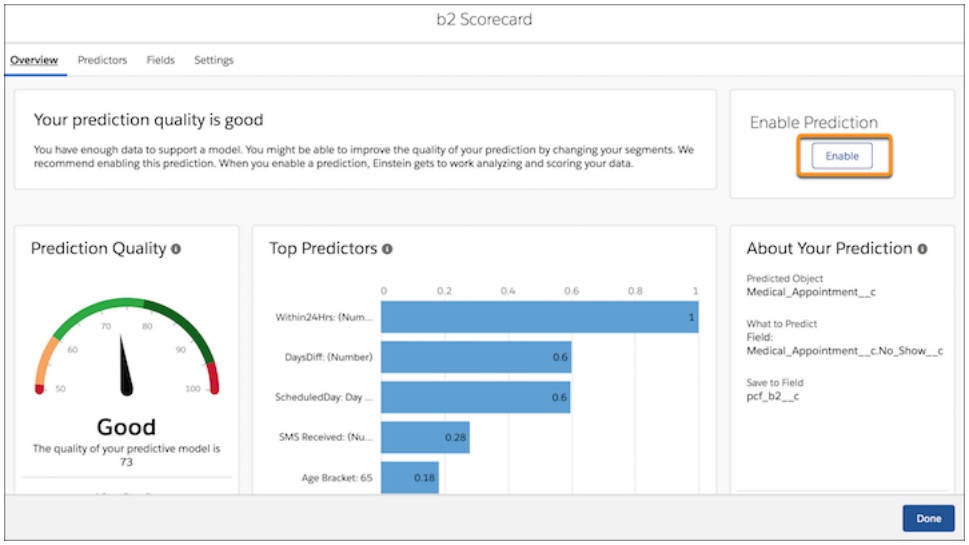
スコアボードからの Einstein 予測の有効化

Einstein 予測ビルダーで予測のスコアカードを確認して問題がなければ、リストビューに戻る必要はありません。スコアカードから有効化できます。節約した時間で別の予測を行ってください。

対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus、Einstein Predictions、または EinsteinBuilderFree ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

方法: 予測のスコアカードを確認します。有効化する準備ができたら、[概要] ページで予測を有効化します。



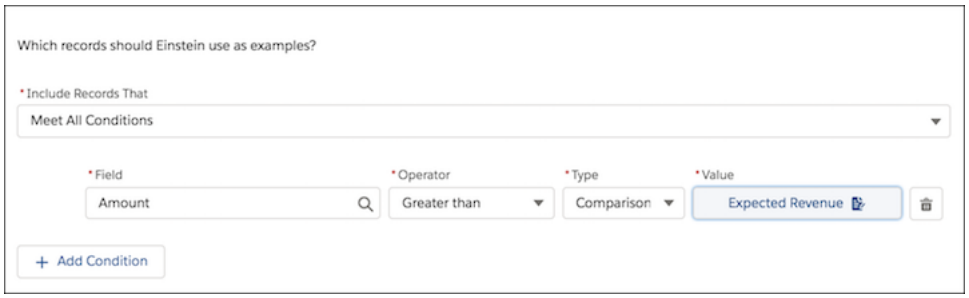
Einstein 予測ビルダーでチェックされるデータのデータ型の増加

データチェッカーで項目間の比較と、[次の文字列で始まる] または [次の文字列を含む] 演算子を使用するロングテキスト項目がサポートされるようになりました。これらのいずれかのデータ型が検索条件に含まれる予測でデータチェッカーを利用できるようになりました。以前は、データチェッカーでデータをチェックするときにそのような項目を検索条件から削除するように要求されていたため、後で追加し直して予測を作成していました。そのような作業に時間をかける必要がなくなりました。

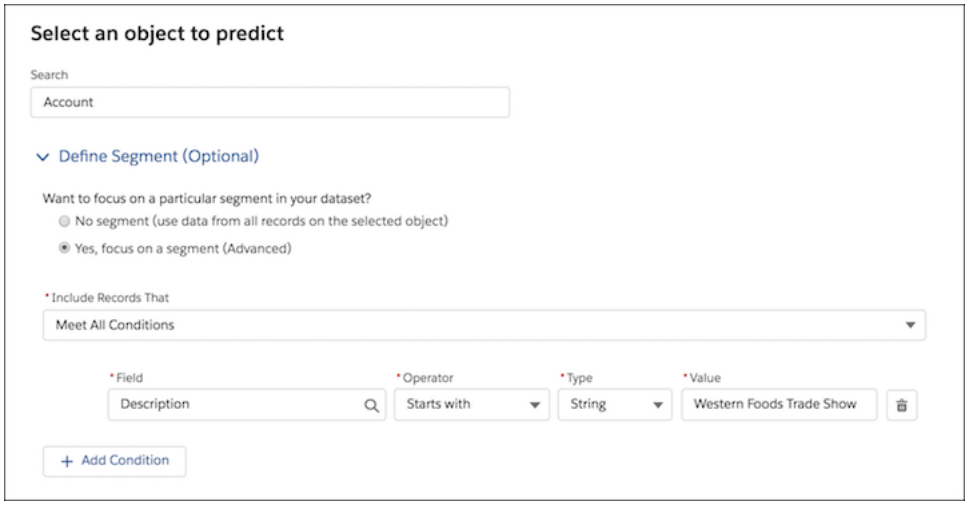
対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus、Einstein Predictions、または EinsteinBuilderFree ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

方法: サンプルセットに、金額が期待収益よりも大きい商談のみを含める条件があるとします。これは項目間の比較です。[種別] として [比較] を選択し、[比較を構築] を使用して [期待収益] 項目を選択します。次に、データをチェックして十分なレコードがあることを確認する作業を実行できます。



「Western Foods Trade Show」で始まるまたはこれが含まれる [説明] 項目のある取引先を含める検索条件が区分にあるとします。[説明] 項目には 256 文字を超える文字が含まれますが、問題ありません。データチェッカーで処理できます。



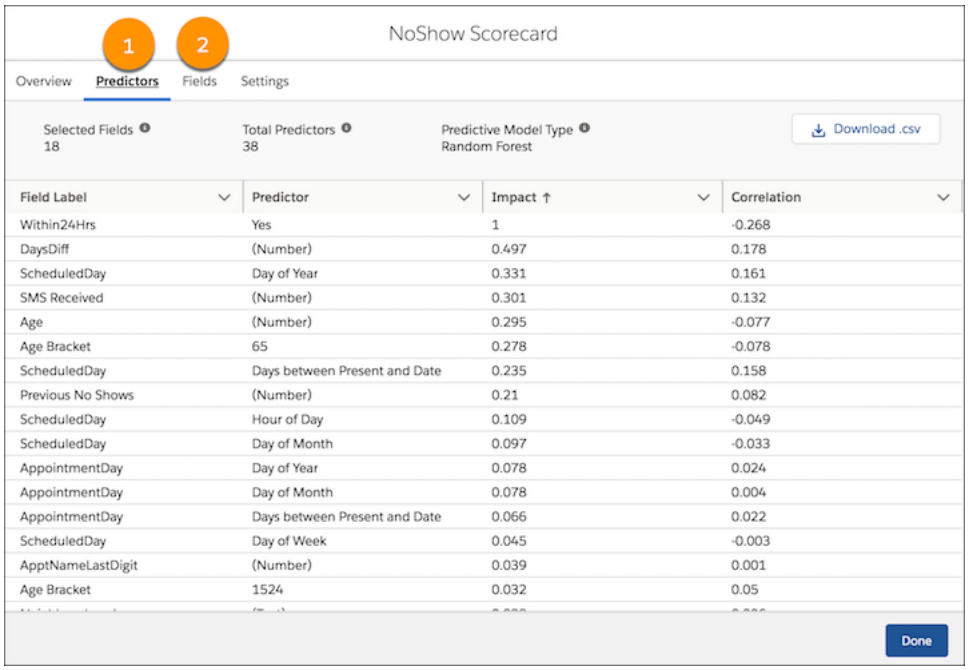
わかりやすくなった Einstein 予測ビルダーのスコアカード

いくつの領域の表示ラベルが新しくなり、予測のスコアカードがわかりやすくなりました。

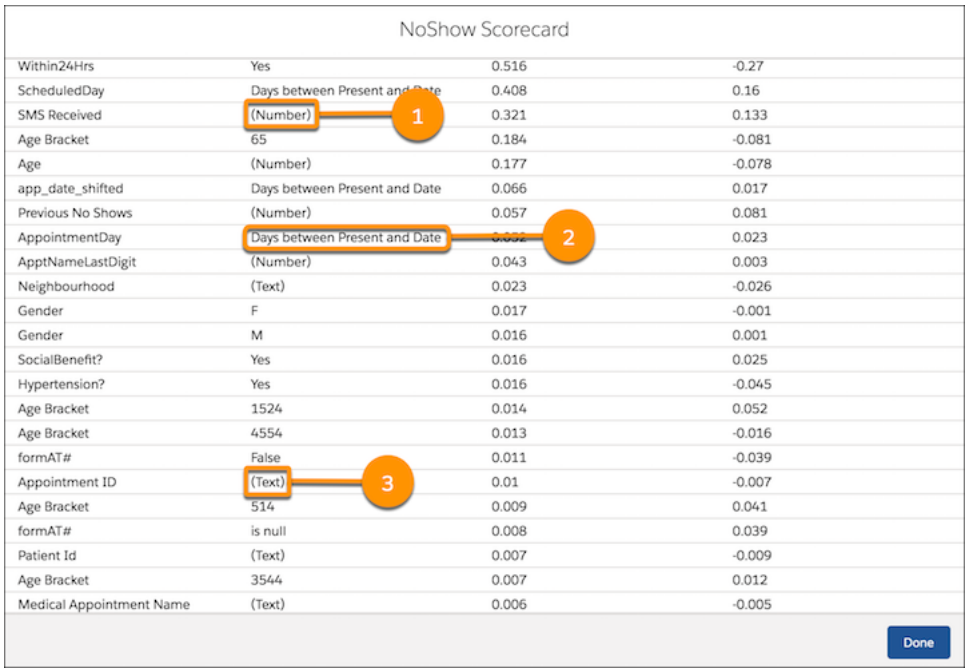
対象: この変更は、Enterprise Edition および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: この機能は、Einstein Analytics Plus、Einstein Predictions、または EinsteinBuilderFree ライセンスを持つシステム管理者が使用できます。

方法: [詳細] タブが [予測因子] (1) と呼ばれるようになり、以前の [予測因子] タブが [項目] (2) と呼ばれるようになりました。最も重要な情報が先に表示されるように、これらの2つのタブの位置も切り替わっています。[重要度]/[加重] 列はスコアカードに表示されなくなりましたが、この情報はスコアカードデータの CSV ファイルをダウンロードして取得できます。



ややわかりづらかった数値、日付、テキスト項目の [項目値] 列の表示ラベルがわかりやすくなりました。数値 (1) およびテキスト (3) 項目の表示ラベルでは、これらが特定の値ではなくデータ型であることを示すために括弧が使用されています。日付 (2) 項目の表示ラベルはより具体的になっています。



Lightning アプリケーションビルダーのアクセシビリティの改善

キーボードの Tab キーや矢印キーを使用して、コンポーネントパレットを簡単に移動できます。

このセクションの内容:

Tab キーと矢印キーを使用したコンポーネントパレットの移動
Lightning アプリケーションビルダーのコンポーネントパレットがアクセスしやすくなりました。Tab キーを押すとリストの最初の項目に移動し、さらに Tab キーや矢印キーを使用してリスト内を移動できます。

より多くのページレイアウトへの C360 グローバルプロファイルコンポーネントの追加
どの場所からアクセスする場合もユーザがグローバルプロファイルデータをより明確に把握できるようにします。取引先レコードページに加えて取引先責任者、リード、および個人レコードページで C360 グローバルプロファイルコンポーネントを標準コンポーネントとして使用できるようになりました。

Tab キーと矢印キーを使用したコンポーネントパレットの移動

Lightning アプリケーションビルダーのコンポーネントパレットがアクセスしやすくなりました。Tab キーを押すとリストの最初の項目に移動し、さらに Tab キーや矢印キーを使用してリスト内を移動できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

より多くのページレイアウトへの C360 グローバルプロファイルコンポーネントの追加

どの場所からアクセスする場合もユーザがグローバルプロファイルデータをより明確に把握できるようにします。取引先レコードページに加えて取引先責任者、リード、および個人レコードページで C360 グローバルプロファイルコンポーネントを標準コンポーネントとして使用できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Customer 360 Data Manager アドオンサブスクリプションを持つユーザ。

関連トピック:

- より多くのレコードをグローバルプロファイルから作成
- *Salesforce* ヘルプ: Create Records Using Customer 360 Data Manager Data (Customer 360 Data Manager データを使用したレコードの作成)
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning ページの標準コンポーネント
- *Salesforce* ヘルプ: Lightning サービスコンソール

グローバル化: データ翻訳と新規および変更されたロケール形式

B2B Commerce で商品レコードと商品カテゴリレコードに保存されているデータを翻訳します。リリースの更新で、改善された国際的な日時の新しい形式を有効化してください。また、マオリ語(ニュージーランド)の名前と、ウェールズ語、ウェールズ語 (イギリス)、英語 (イギリス) のロケールの住所形式が変更されました。

このセクションの内容:

データ翻訳での商品詳細の翻訳

顧客にそれぞれの言語で接することができるように、B2B Commerce のデータ翻訳を使用します。データ翻訳を使用すると、商品オブジェクトと商品カテゴリオブジェクトの [名前] 項目と [説明] 項目に保存されているデータを翻訳できます。また、これらのオブジェクトの URL 項目や一部のカスタムテキスト項目でもデータ翻訳を有効化できます。

ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式が採用されます。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。ICU 形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。このリリースの更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

マオリ語の表示ラベルとイギリスのロケール形式の更新

プラットフォーム専用言語の名前を「Maori (New Zealand) (マオリ語 (ニュージーランド))」から「Te reo (New Zealand) (マオリ語 (ニュージーランド))」に変更しました。ウェールズ語、ウェールズ語 (イギリス)、英語 (イギリス) のロケールの住所形式が変更されました。

改善された翻訳ドキュメント

翻訳をより適切に管理できるように、Salesforce ヘルプのトランスレーションワークベンチドキュメントを更新しました。

データ翻訳での商品詳細の翻訳

顧客にそれぞれの言語で接することができるように、B2B Commerce のデータ翻訳を使用します。データ翻訳を使用すると、商品オブジェクトと商品カテゴリオブジェクトの [名前] 項目と [説明] 項目に保存されているデータを翻訳できます。また、これらのオブジェクトの URL 項目や一部のカスタムテキスト項目でもデータ翻訳を有効化できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience の B2B Commerce に適用されます。

関連トピック:

- Salesforce B2B Commerce: 企業間コマースソリューションの設計、構築、稼働開始
- *Salesforce* ヘルプ: 翻訳の管理 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式が採用されます。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。ICU 形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。このリリースの更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

時期: このリリースの更新は、2022 年 1 月 30 日に自動的に適用されます。Winter '20 以降に作成された組織では、ICU ロケール形式がデフォルトで有効になっています。

方法: 本番環境にこの更新を適用する前に、すべてのインストール済みパッケージに ICU 形式との互換性があることをパッケージプロバイダに確認します。次に、Salesforce 組織に対する新しいロケールの影響を評価します。次の SOQL クエリを使用して、組織で使用されているロケールと各ロケールのユーザ数を検索します。

```
SELECT toLabel(LocaleSidKey) LocaleName, LocaleSidKey, Count(id) UserCount FROM User where
 IsActive=true GROUP BY LocaleSidKey
```

テストの推奨領域や、各ロケールの変更についての詳細は、ドキュメントを参照してください。

この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*リリースの更新*」と入力して、[リリースの更新] を選択します。[ICU ロケール形式を有効化] で、テストと有効化の手順を実行します。

英語 (カナダ) ロケール (en_CA) では、個別の有効化が必要です。[クイック検索] ボックスに「ユーザインターフェース」と入力し、[ユーザインターフェース] を選択します。**[en_CA ロケールの ICU 形式を有効化]** を選択して **[保存]** をクリックします。

メモ: この更新を適用すると、UI に新しいロケール形式が表示されます。ICU 形式は API バージョン 45.0 以降で使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: グローバルに対応する新しい国際ロケール形式 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Winter '20 リリースノート: ICU ロケール形式の有効化 (リリース更新)

リリース更新 (ベータ)

マオリ語の表示ラベルとイギリスのロケール形式の更新

プラットフォーム専用言語の名前を「Maori (New Zealand) (マオリ語 (ニュージーランド))」から「Te reo (New Zealand) (マオリ語 (ニュージーランド))」に変更しました。ウェールズ語、ウェールズ語 (イギリス)、英語 (イギリス) のロケールの住所形式が変更されました。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: ウェールズ語、ウェールズ語 (イギリス)、英語 (イギリス) のロケールの州と郵便番号が入れ替わりました。

Spring '20 の住所形式	Summer '20 の住所形式
Address Line 1,	Address Line 1,
Address Line 2	Address Line 2
City	City
ZIP Code	State
State	ZIP Code
Country	Country

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: サポート言語 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: ロケールの概要 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

改善された翻訳ドキュメント

翻訳をより適切に管理できるように、Salesforce ヘルプのトランスレーションワークベンチドキュメントを更新しました。

対象: メタデータ翻訳は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition **の** Lightning Experience **と** Salesforce Classic **で使用できます。データ翻訳は、**Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、**および** Developer Edition **の** Lightning Experience **の** B2B Commerce **で使用できます。**

関連トピック:

- 翻訳の詳細

共有: ゲストユーザの共有設定の保護

Salesforce**組織のデータを保護するために、**[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]**設定が有効になります。以前は、ゲストユーザ共有ルールを作成するには、まずこの設定を有効にしました。**

このセクションの内容:

- 「ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護」の適用
  Salesforce**組織のデータを保護するために、**[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]**設定が有効になります。この設定により、ゲストユーザ向けの非公開の組織の共有設定が適用され、ゲストユーザにレコードアクセス権を付与する共有メカニズムが制限されます。準備するには、「ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護」セキュリティアラートの指示に従って、ゲストユーザの共有設定の確認やゲストユーザの共有ルールの作成を行います。**
- デフォルトでのゲストユーザ共有ルールの作成
  ゲストユーザ共有ルールは、コミュニティまたはサイトを持つすべての Salesforce **組織でデフォルトで有効になります。以前は、ゲストユーザ共有ルールを作成するには、まず** [設定] **の** [共有設定] **ページで** [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]**設定を有効にしました。ゲストユーザ共有ルールは条件ベースの共有ルールの一種であり、参照のみのアクセス権をゲストユーザに付与します。**

「ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護」の適用

Salesforce**組織のデータを保護するために、**[ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]**設定が有効になります。この設定により、ゲストユーザ向けの非公開の組織の共有設定が適用され、ゲストユーザにレコードアクセス権を付与する共有メカニズムが制限されます。準備するには、「ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護」セキュリティアラートの指示に従って、ゲストユーザの共有設定の確認やゲストユーザの共有ルールの作成を行います。**

対象: この変更は、Enterprise Edition、Essentials Edition、Unlimited Edition、Performance Edition、Developer Edition **の有効なコミュニティおよびサイトを持つ組織に適用されます。**

時期: この設定のロールアウトと適用のタイムラインは、「ゲストユーザセキュリティポリシーとタイムライン」で公開されています。

関連トピック:

- ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護(以前にリリース済みのセキュリティアラート、適用済み)
- Summer '20 より前のゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト (以前にリリース済みの更新)
- *Salesforce* ヘルプ: ゲストユーザの共有設定とレコードアクセスの保護 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

デフォルトでのゲストユーザ共有ルールの作成

ゲストユーザ共有ルールは、コミュニティまたはサイトを持つすべての Salesforce 組織でデフォルトで有効になります。以前は、ゲストユーザ共有ルールを作成するには、まず [設定] の [共有設定] ページで [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定を有効にしました。ゲストユーザ共有ルールは条件ベースの共有ルールの一種であり、参照のみのアクセス権をゲストユーザに付与します。

対象: この変更は、Essentials Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスするすべてのコミュニティに適用されます。

時期: [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定を有効にする前に、ゲストユーザにアクセス権を付与するために以前使用した共有メカニズムを置き換えるゲストユーザ共有ルールを作成することをお勧めします。この設定を有効にすると、ゲストユーザ共有ルールを介してのみゲストユーザにレコードへのアクセス権を付与できます。この設定のロールアウトと適用のタイムラインは、「ゲストユーザセキュリティポリシーとタイムライン」で公開されています。

方法: [設定] から、[クイック検索] ボックスに「*共有設定*」と入力し、[共有設定] を選択します。オブジェクトの [共有ルール] 関連リストで、[新規] をクリックして [条件に基づくゲストユーザアクセス] ルールタイプを選択します。

関連トピック:

- ゲストユーザ: セキュリティポリシーの適用
- *Salesforce* ヘルプ: ゲストユーザの共有設定とレコードアクセスの保護
- *Salesforce* ヘルプ: 共有ルールの作成

承認: 差し込み項目の値の修正とプログラムによる承認の順序付け

承認メールアラートの差し込み項目の値が修正されました。メタデータ API、変更セット、ロック解除済みパッケージを使用して、承認プロセスの評価順序を制御します。

エディション

使用可能なエディション: **Enterprise** Edition、**Performance** Edition、**Unlimited** Edition、および **Developer** Edition

このセクションの内容:

修正された承認差し込み項目を使用するメールアラートの更新
承認時のアクション、却下時のアクション、最終承認時のアクション、最終却下時のアクション、取り消し時のアクションのメールアラートの承認差し込み項目の値が修正されました。以前にメールテンプレートをカスタマイズして、承認差し込み項目の不正な値を回避していた場合、これらのメールテンプレートを更新し、修正された値に対応してください。承認の新しいメールテンプレートは、メールアラートの差し込み項目に想定される値が含まれるため、簡単に設定できるようになっています。

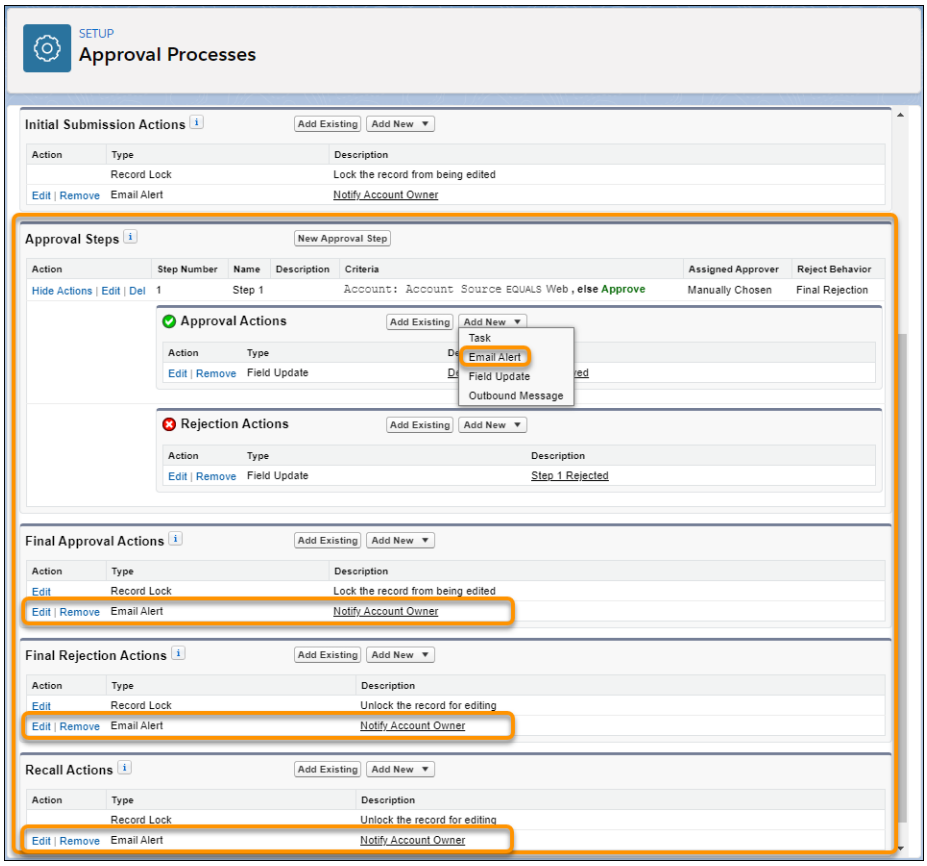
有効承認プロセスの順序のプログラムでの制御
メタデータ API、変更セット、ロック解除済みパッケージを使用して、有効承認プロセスの順序を制御できるようになりました。メタデータ API を介してリリースする場合、ApprovalProcess メタデータ型の `processOrder` 項目を使用して順序を制御します。以前は、[設定] からのみ順序を制御していました。

修正された承認差し込み項目を使用するメールアラートの更新

承認時のアクション、却下時のアクション、最終承認時のアクション、最終却下時のアクション、取り消し時のアクションのメールアラートの承認差し込み項目の値が修正されました。以前にメールテンプレートをカスタマイズして、承認差し込み項目の不正な値を回避していた場合、これらのメールテンプレートを更新し、修正された値に対応してください。承認の新しいメールテンプレートは、メールアラートの差し込み項目に想定される値が含まれるため、簡単に設定できるようになっています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 各承認プロセスで、承認時のアクション、却下時のアクション、最終承認時のアクション、最終却下時のアクション、取り消し時のアクションのメールアラートを確認します。



各メールアラートで、メールテンプレートに更新された差し込み項目（`{!ApprovalRequest.Status}` や `{!ApprovalRequest.Process_Approver}` など）が含まれているかどうかを確認します。必要に応じて、メールテンプレートを更新し、修正された値に対応してください。次の表に、修正された差し込み項目を示します。

差し込み項目	不正な値	正しい値
承認プロセスステップ名 `{!ApprovalRequest.Process_Step_Name}`	「ApproveEnd」または「RemovedEnd」。	現在のステップの名前。
承認ステップの承認者 `{!ApprovalRequest.Process_Approver}`	前のステップの承認者。	現在のステップの承認者。
承認ステップの承認者 ID `{!ApprovalRequest.Process_Approver_Id}`	前のステップの承認者のユーザ ID。	現在のステップの承認者のユーザ ID。
承認ステップの任命先 `{!ApprovalRequest.Process_Assignee}`	前のステップの割り当て先。	前のステップの割り当て先。
承認ステップの任命先 ID。 `{!ApprovalRequest.Process_Assignee_Id}`	前のステップの割り当て先のユーザ ID。	現在のステップの割り当て先のユーザ ID。

差し込み項目	不正な値	正しい値
承認ステップのコメント `{!ApprovalRequest.Comments}`	空白のままにした場合、前のステップのコメントになります。	空白のままにした場合、コメントは空白になります。
承認ステップの返答日 `{!ApprovalRequest.Response_Date}`	前のステップが実行された日付。	現在のステップが実行された日付。
承認ステップの状況 `{!ApprovalRequest.Status}`	前のステップの後の承認状況。	現在のステップの後の承認状況。

関連トピック:

- ***既知の問題***: Approval Merge Fields Have Wrong Value for Approval Related Emails (承認差し込み項目の承認関連メールの不正な値)
- *Salesforce* ヘルプ: 承認の差し込み項目 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: メールアラートアクション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce* ヘルプ: メールテンプレート (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

有効承認プロセスの順序のプログラムでの制御

メタデータ API、変更セット、ロック解除済みパッケージを使用して、有効承認プロセスの順序を制御できるようになりました。メタデータ API を介してリリースする場合、ApprovalProcess メタデータ型の `processOrder` 項目を使用して順序を制御します。以前は、[設定] からのみ順序を制御していました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: オブジェクトの条件を満たす承認プロセスが複数ある場合、承認プロセスを評価する順序を制御できます。`processOrder` 項目を使用すると、メタデータ API を介して順序を制御できます。

方法: メタデータ API を介して承認プロセスの順序を制御するには、認プロセスを有効化して、個々の操作で `processOrder` 項目を使用します。

一般設定: レコードページのフルビューの正式リリース、新しいユーザプロファイル、Lightning ページのタブの翻訳

正式リリースされたレコードページのフルビューですべての詳細と関連リストが同じページに表示されます。新しい最小アクセス - Salesforce プロファイルでユーザに最低限必要な権限を付与します。メタデータ API の代わりに [設定] を使用して Lightning ページの翻訳を追加します。

このセクションの内容:

フルビューを使用したレコードの表示 (正式リリース)

レコードページビューのデフォルトオプションが2つになりました。グループビューと呼ばれるようになった現在のビューか新しいフルビューのいずれかを選択します。フルビューでは、同じページにすべての詳細と関連リストが表示されます。Lightning Experience に移行しようとしている場合は、このビューは Salesforce Classic に似ています。正式リリースとなったこの機能は、ベータリリースと同じ機能を含み、条件を満たす Salesforce 組織で使用できます。

新しい最小アクセスユーザプロファイルの使用

ユーザに最小限の権限のプロファイルを割り当てておき、権限セットや権限セットグループによって権限を増やせるようになりました。最小アクセス - Salesforce プロファイルには、「活動にアクセス」権限、「Chatter 内部ユーザ」権限、「Lightning コンソールユーザ」権限、「ヘルプリンクを参照」権限が含まれます。

[設定] に表示される Lightning ページのタブ表示ラベルの翻訳

トランスレーションワークベンチを使用して、Lightning ページのタブ表示ラベルを翻訳できるようになりました。以前は、Lightning ページのタブ表示ラベルは、メタデータ API を使用しなければ翻訳できませんでした。

Salesforce IoT Explorer Edition の廃止

Salesforce IoT Explorer Edition は、Lightning フローに置き換わりました。Salesforce IoT Explorer Edition は、有効な IoT Explorer サブスクリプションのある Salesforce 組織でのみ使用できます。IoT Explorer サブスクリプションは更新されません。Lightning フローでは、IoT 機能が合理化および強化されており、Salesforce IoT Explorer Edition よりも制限が少ないため、代わりに Lightning フローを使用することをお勧めします。詳細は、*「IoT Explorer の廃止」*を参照してください。

設定変更履歴での自動的に更新されるエンティティ権限の確認

プロファイルまたは権限セットには、主従関係のあるエンティティ (取引先など) を含めることができます。子エンティティに親が持つべき権限があると、権限の連動関係が壊れます。Salesforce は、プロファイルまたは権限セットの最初の保存アクションで壊れた権限の連動関係の親エンティティを更新します。

プッシュ通知の制限が緩和されました

iOS プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 20,000 件、Android プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 10,000 件送信できます。

参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (更新、延期)

Salesforce 組織のデータの保護を強化するために、参照項目でレコード名を表示できるユーザが制限されます。このデータを表示するには、ユーザはこれらのレコードへの参照アクセス権または「すべての参照レコード名の表示」権限が必要になります。この更新は、[作成者] や [最終更新者] などのシステム項目にも適用されます。この更新は、Spring '20 でリリースされ、Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でしたが、2020 年 3 月に Winter '21 に延期されました。

カスタマイズ機能に対する権限の変更

Summer '20 リリースで有効になるカスタマイズ機能への権限の変更を確認します。

フルビューを使用したレコードの表示 (正式リリース)

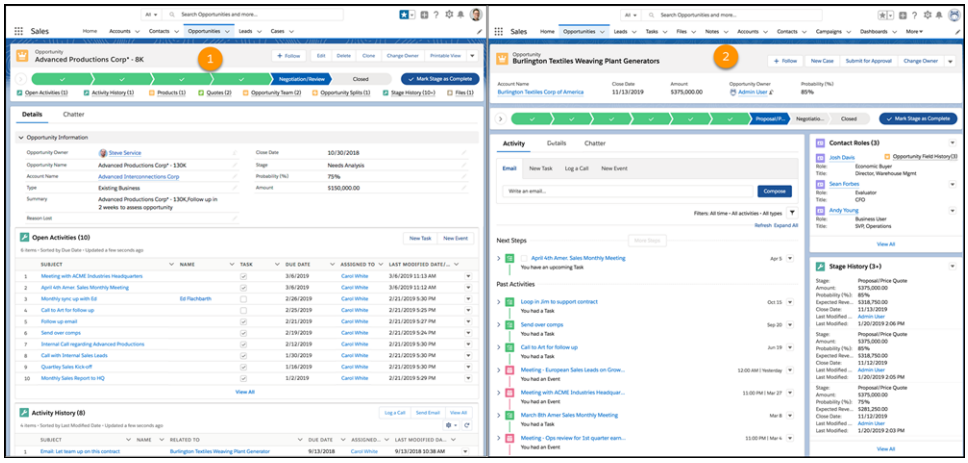
レコードページビューのデフォルトオプションが2つになりました。グループビューと呼ばれるようになった現在のビューか新しいフルビューのいずれかを選択します。フルビューでは、同じページにすべての詳細と関連リストが表示されます。Lightning Experience に移行しようとしている場合は、このビューは Salesforce Classic に似ています。正式リリースとなったこの機能は、ベータリリースと同じ機能を含み、条件を満たす Salesforce 組織で使用できます。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: パフォーマンス品質を維持するために、フルビューは一部の組織設定では使用できません。フルビューにアクセスするには、ページレイアウトは次の条件を満たす必要があります。

- 50 個以内の項目
- 12 個以内の関連リスト
- インライン Visualforce コンポーネントなし

理由: 標準オプションが増えたことで、ユーザのビジネスニーズや好みに合わせてビューを選択できます。現在存在するビューに加えて、もう 1 つのビューとしてフルビューが追加されました。フルビュー (1) では、同じページにすべての詳細と関連リストが表示されます。元の Lightning Experience レコードビューであるグループビュー (2) では、タブと列で情報をグループ化することによって詳細に注目できます。



方法: すでに Lightning Experience を使用している場合は、[設定] で組織のデフォルトレコードビューを変更できます。Summer '20 より後に Lightning Experience を有効にする場合は、これらの設定は、Lightning Experience を有効にする前に Lightning Experience 移行アシスタントで定義するか、Lightning Experience を有効にした後に [設定] で定義します。

[設定] で、[クイック検索] ボックスに「*レコードページの設定*」と入力し、[レコードページの設定] を選択します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience レコードページビュー (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Lightning Experience レコードページの作成および設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しい最小アクセスユーザプロファイルの使用

ユーザに最小限の権限のプロファイルを割り当てておき、権限セットや権限セットグループによって権限を増やせるようになりました。最小アクセス - Salesforce プロファイルには、「活動にアクセス」権限、「Chatter 内部ユーザ」権限、「Lightning コンソールユーザ」権限、「ヘルプリンクを参照」権限が含まれます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「*プロファイル*」と入力し、[プロファイル] をクリックして新しいプロファイルを表示します。

[設定] に表示される Lightning ページのタブ表示ラベルの翻訳

トランスレーションワークベンチを使用して、Lightning ページのタブ表示ラベルを翻訳できるようになりました。以前は、Lightning ページのタブ表示ラベルは、メタデータ API を使用しなければ翻訳できませんでした。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

方法: [設定] の [クイック検索] ボックスに「*翻訳*」と入力して [翻訳] をクリックします。言語を選択し、次に設定コンポーネントのドロップダウンから [Web タブ] を選択します。表示ラベルを翻訳できるタブのリストに Lightning ページタブも表示されます。

Salesforce IoT Explorer Edition の廃止

Salesforce IoT Explorer Edition は、Lightning フローに置き換わりました。Salesforce IoT Explorer Edition は、有効な IoT Explorer サブスクリプションのある Salesforce 組織でのみ使用できます。IoT Explorer サブスクリプションは更新されません。Lightning フローでは、IoT 機能が合理化および強化されており、Salesforce IoT Explorer Edition よりも制限が少ないため、代わりに Lightning フローを使用することをお勧めします。詳細は、「*IoT Explorer の廃止*」を参照してください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: Lightning フローおよび Lightning プラットフォームで提供される IoT 機能は Salesforce IoT Explorer Edition よりも優れています。毎日 100 億を超えるプロセスを処理する高パフォーマンスワークフローエンジンで実装を拡張

してください。Lightning フローには、デバイスのシグナルに基づいてアクション (ケースや作業指示の作成など) を実行する使いやすいツールが用意されています。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce IoT (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

設定変更履歴での自動的に更新されるエンティティ権限の確認

プロファイルまたは権限セットには、主従関係のあるエンティティ (取引先など) を含めることができます。子エンティティに親が持つべき権限があると、権限の連動関係が壊れます。Salesforce は、プロファイルまたは権限セットの最初の保存アクションで壊れた権限の連動関係の親エンティティを更新します。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

プッシュ通知の制限が緩和されました

iOS プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 20,000 件、Android プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 10,000 件送信できます。

対象: この変更は、AppExchange からインストールされた、プッシュ通知を送信するモバイルアプリケーションに適用されます。パッケージは、Essentials Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition でインストールできます。

関連トピック:

制限の緩和によるより多くのプッシュ通知の送信

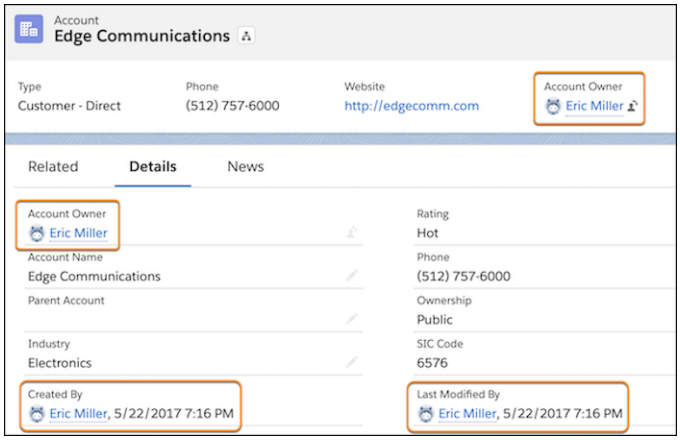
参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (更新、延期)

Salesforce 組織のデータの保護を強化するために、参照項目でレコード名を表示できるユーザが制限されます。このデータを表示するには、ユーザはこれらのレコードへの参照アクセス権または「すべての参照レコード名の表示」権限が必要になります。この更新は、[作成者] や [最終更新者] などのシステム項目にも適用されます。この更新は、Spring '20 でリリースされ、Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でしたが、2020 年 3 月に Winter '21 に延期されました。

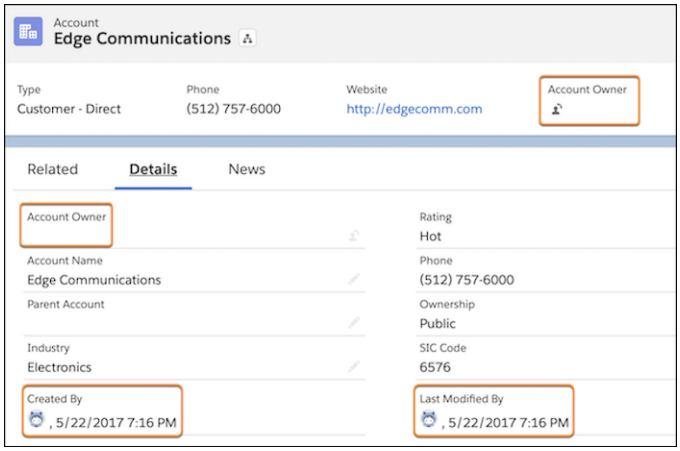
対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Winter '21 リリースで適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

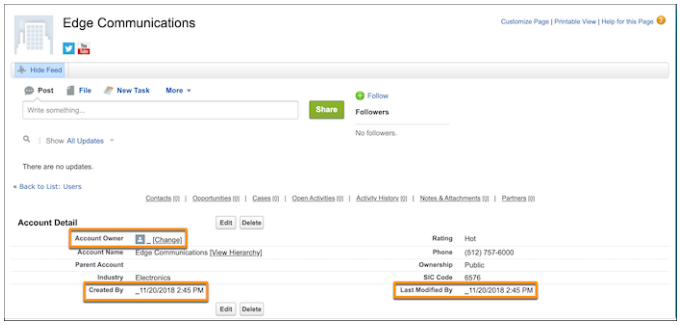
理由: システム管理者は、レコードでユーザが表示できる情報をより詳細に制御できるようになります。現時点では、ユーザは参照項目のレコード名を表示できますが、これらのレコードを参照することはできません。



この更新を適用すると、Lightning Experience では、参照アクセス権または「すべての参照レコード名の表示」権限を持たないユーザには、参照項目のデータではなく、参照項目の表示ラベルが表示されます。



Salesforce Classic では、ユーザが参照アクセス権または「すべての参照レコード名の表示」権限を持たない場合、システムユーザの参照項目にはアンダースコアが表示され、カスタムユーザの参照項目と非ユーザの参照項目にはレコード ID が表示されます。



方法: システム管理者はカスタムプロファイルまたは権限セットで「すべての参照レコード名の表示」権限を有効にすることができます。共有設定に関係なく、すべての参照項目およびシステム項目でレコード名を表示する必要があるユーザに対してのみ、この権限を有効にします。この権限は、リストビューとレコード詳細ページの参照レコード名のみに適用されます。

この更新を Sandbox 組織または Developer Edition 組織でテストしてから本番組織で有効にすることをお勧めします。

この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「*リリースの更新*」と入力して、[リリースの更新] を選択します。[参照項目にレコード名を表示するための権限が必要] で [詳細を表示] または [使用開始] をクリックします。

関連トピック:

Spring '20 リリースノート: 参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (重要な更新)
リリース更新 (ベータ)

カスタマイズ機能に対する権限の変更

Summer '20 リリースで有効になるカスタマイズ機能への権限の変更を確認します。

ミュート権限セット
「設定・定義を参照する」、「セッション権限セットの有効化を管理」、「権限セットの割り当て」権限を持つ認証済みユーザのみがミュート権限セットにアクセスできます。

オブジェクトの設定、割り当て、権限セット
ユーザが標準オブジェクトやカスタムオブジェクトの次の設定、割り当て、権限にアクセスするには、指定されたプロファイルまたは権限セットで「設定・定義を参照する」権限が設定されている必要です。

- クライアント設定
- 項目権限
- レイアウトの割り当て
- オブジェクト権限
- 権限の連動関係
- 権限セットのタブ設定
- 権限セットグループのコンポーネント
- レコードタイプ

権限の連動関係
「設定・定義を参照する」権限を持つ認証済みユーザのみが API を介して権限の連動関係にアクセスできます。

権限セットライセンスの割り当て
ユーザが API を介して権限セットライセンスの割り当てにアクセスするには、「設定・定義を参照する」または「権限セットの割り当て」権限が必要です。

プロファイルレイアウトとレコードの表示
プロファイルに割り当てられたユーザのプロファイルレイアウト、プロファイルレイアウトの割り当て、レコードタイプの表示にアクセスするには、ユーザに「設定・定義を参照する」権限が必要です。

共有オブジェクト
: オブジェクト自体へのアクセス権を持つユーザのみが取引先、キャンペーン、ケース、取引先責任者、リード、商談、注文オブジェクトの共有エントリにアクセスできます。標準ユーザおよび「アプリケーションのカスタマイズ」権限を持つユーザのみがユーザオブジェクトの共有エントリにアクセスできます。

ユーザロール
: ユーザロールにアクセスできるのは、「ロールおよびロール階層を表示」権限のあるユーザです。ユーザロールを編集できるのは、「ロールを管理」権限のあるユーザです。

関連トピック:

- *ナレッジ記事: ユーザプロファイル権限の説明*

セキュリティ、プライバシー、ID: 認証の機能強化、OCSP Stapling、リアルタイムイベントモニタリング脅威検知 (正式リリース)

2 要素認証および代理認証が更新されました。OCSP Stapling により、HTTPS の接続が迅速化されます。リアルタイムイベントモニタリング脅威検知が正式リリースされ、脅威に対するアラートを受信する手段をアプリケーション、メール、SMS の中から選択できます。

このセクションの内容:

- 認証と ID: 2 要素認証の機能強化、統合 ID、代理認証の有効化
- ドメイン: OCSP Stapling、Salesforce Edge、URL の短縮

認証と ID: 2 要素認証の機能強化、統合 ID、代理認証の有効化

2 つの新しい Apex メソッドで 2 要素認証を開始し、ユーザ権限を使用して外部 ID で有効にできます。さらに、API 限定ユーザは Salesforce UI で 2 要素認証に登録できます。サードパーティ ID プロバイダとのインテグレーションを簡単にするには、Salesforce 組織の統合 ID と大文字と小文字の区別を無効にします。また、Salesforce 組織設定から代理認証を有効にして、シングルサインオンが設定されている場合であっても、ユーザが Salesforce ログイン情報を使用して外部 ID プロバイダにサインインできないようにします。

ドメイン: OCSP Stapling、Salesforce Edge、URL の短縮

HTTPS での接続をより高速にすると同時に機密データが公開されないようにするため、Online Certificate Status Protocol (OCSP) Stapling が有効になりました。[私のドメイン] を使用している顧客の場合、Salesforce Edge を使用したドメイン要求が迅速化され、リリースの更新を通じて [私のドメイン] URL からインスタンス名が削除されています。

Salesforce Shield: リアルタイムイベントモニタリング脅威検知 (正式リリース) およびスクラッチ組織における Shield Platform Encryption 機能の増加

リアルタイムイベントモニタリング脅威検知が正式リリースされ、ログイン情報スタッフィング、異常なレポート使用状況、セッションハイジャックアクティビティを検知するのに役立つ新しいイベントが提供されました。新しい脅威検知アプリケーションで脅威イベントを表示するか、脅威イベントが起こったときにメールまたは SMS で通知するトランザクションセキュリティポリシーを作成します。スクラッチ組織で使用できる Shield Platform Encryption 機能が増加したため、テストとアプリケーション開発がより簡単になりました。メタデータ API のイベントバス暗号化フローが改善され、変更データキャプチャイベントおよびプラットフォームイベントをブロックする Shield Platform Encryption 設定を回避できます。そして新しい Shield 学習マップは、Shield 学習リソースとドキュメントへの使いやすい便利なポータルです。

データ保護とプライバシー: 顧客の同意チャネルと同意 API コール

ユーザが顧客の連絡設定を管理する方法を改善する機能が追加されました。顧客の郵送先住所情報と同意を記録するには、連絡先アドレス項目を使用します。新規連絡先チャネルの同意レコードを保存するか、[エンゲージメントチャネル] 項目を使用して独自に作成します。同意読み取り API コールの [ポリシー] オプションを使用して、オブジェクトで連絡チャネルの明示的な同意を要求します。

その他のセキュリティの変更: 非公開接続 (正式リリース)、Salesforce サイトでのセキュリティの厳格化、Apex Crypto クラスでのアルゴリズムの強化

非公開接続 (正式リリース) により、クロスクラウドトラフィックを外部の脅威から保護するために Amazon Web Services との間でセキュアな接続が作成されます。Salesforce サイトのゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者を選択できます。また、Crypto クラスでサポートされるハッシングアルゴリズムが増え、鍵素材のセキュリティが強化されています。

認証と ID: 2 要素認証の機能強化、統合 ID、代理認証の有効化

2 つの新しい Apex メソッドで 2 要素認証を開始し、ユーザ権限を使用して外部 ID で有効にできます。さらに、API 限定ユーザは Salesforce UI で 2 要素認証に登録できます。サードパーティ ID プロバイダとのインテグレーションを簡単にするには、Salesforce 組織の統合 ID と大文字と小文字の区別を無効にします。また、Salesforce 組織設定から代理認証を有効にして、シングルサインオンが設定されている場合であっても、ユーザが Salesforce ログイン情報を使用して外部 ID プロバイダにサインインできないようにします。

このセクションの内容:

Apex を使用した 2 要素認証の開始

`System.UserManagement` クラスの 2 つの新しい Apex メソッドを使用して 2 要素認証プロセスを開始します。メール、電話 (SMS)、Salesforce Authenticator 検証を使用してユーザの ID を検証するには、検証サービスを開始する方法と検証サービスを完了する方法をペアにします。パスワードまたは時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) 検証の場合、2 番目の方法のみを使用して、完全な検証サービスを提供できます。

外部ユーザの 2 要素認証の有効化

「ユーザインターフェースログインの 2 要素認証」ユーザ権限が External Identity ライセンスに追加されました。そのため、内部ユーザと同様に外部ユーザの 2 要素認証を有効にできます。External Identity ユーザプロファイルでこのユーザ権限を有効にするか、このユーザ権限のある権限セットを External Identity ユーザに割り当てます。

Salesforce UI での API 限定ユーザによる 2 要素認証の登録

API 限定ユーザは Salesforce UI にアクセスして 2 要素認証を登録できるようになりました。認証に成功すると、API 限定ユーザは UI へのアクセスを制限されます。

信頼性の高いユーザの ID 検証のスキップ

信頼性の高いユーザは、SMS コードなどの第 2 要素で ID を確認することなく新しいデバイスから Salesforce 組織にログインできます。セキュリティリスクがあるため、ユーザの信頼性が高い場合を除き、この権限を有効にしないことをお勧めします。たとえば、Salesforce カスタマーサポートが問題をトラブルシューティングするために組織にログインする必要がある場合、この権限を有効にします。

Salesforce 組織への代理認証の適用

Salesforce 組織のセキュリティを向上させるには、組織全体の代理認証を有効にし、ユーザのこの設定を権限レベルで管理します。代理認証は、選択した認証プロバイダにユーザをリダイレクトし、ユーザが Salesforce ログイン情報でログインできないようにします。この機能を使用して、以前の従業員が Salesforce ログイン情報を使用して組織にアクセスできないようにします。これは、認証プロバイダで使用するログイン情報とは異なります。以前は、この機能を有効にするために Salesforce カスタマーサポートに連絡していました。

統合 ID と ID プロバイダのシームレスな統合

サードパーティ ID プロバイダと簡単に統合できるように、Salesforce 組織全体で統合 ID の大文字と小文字の区別を無効にできます。以前は、Salesforce で大文字と小文字が区別されていたため (ssmith と SSmith など)、類似する統合 ID を持つ 2 つの一意のユーザを作成することができました。一部の外部 ID プロバイダでは、大文字と小文字の区別に一貫性がないため、認証の問題が生じていました。

組み込みログインページ種別のカスタマイズ

顧客のログイン環境を改善します。検出可能なログインページ種別、またはコミュニティですでに設定されている他のカスタムログインページ種別を使用するように埋め込みログインを設定します。

カスタムコミュニティ URL による SSO の改善

シングルサインオンで省略可能なコミュニティ固有の URL を使用して、コミュニティユーザのログイン環境を改善し、HTTP リダイレクト数を削減します。

新しい JSON 応答項目を使用したログインページ属性の検出

2つの新しい JSON 応答項目を使用して、ログインページ属性を検出します。新しい LoginPageType 項目では、コミュニティに割り当てられたページの種別が検出可能なのか、カスタムなのか、標準なのか、または Salesforce 組織ページが検出可能なのか、標準なのかを決定します。新しい LoginPageTypeConfigs 項目では、ログイン画面に検出可能ログインページ種別の事前設定されたローカライズ済みメッセージが表示されるかどうかを定義します。カスタムログインページの場合、この項目にはカスタムログインページ URL が含まれ、ログインページ種別がデザイナなのか VisualForce なのかを定義します。LoginPageTypeConfigs 項目には、コミュニティに関連付けられた検出可能ログインページ種別またはカスタムログインページ種別が組み込みログイン設定に割り当てられているかどうかも表示されます。

接続アプリケーションを使用した Pardot API サービスへのアクセス

Pardot API サービスにアクセスするように接続アプリケーションを設定できます。この設定により、クライアント (接続アプリケーション) は、ユーザの代わりに Pardot サービスにアクセスします。Pardot でアクセス可能なすべてのサービスを管理します。

アプリケーションおよびログイン種別でのログイン履歴の絞り込み

ユーザがログイン時に使用するアプリケーションの種別 (モバイルデバイスなど) で、ログイン履歴レポートおよびリストビューを絞り込むことができるようになりました。また、ログインの種別 (Outlook インテグレーションログインなど) で絞り込むこともできます。これらの検索条件は、過去 6 か月間に取得されたログインデータに適用されます。

Apex を使用した 2 要素認証の開始

`System.UserManagement` クラスの 2 つの新しい Apex メソッドを使用して 2 要素認証プロセスを開始します。メール、電話 (SMS)、Salesforce Authenticator 検証を使用してユーザの ID を検証するには、検証サービスを開始する方法と検証サービスを完了する方法をペアにします。パスワードまたは時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) 検証の場合、2 番目の方法のみを使用して、完全な検証サービスを提供できます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 検証種別に応じて、次のいずれかまたは両方の Apex メソッドを使用できます。

- `System.UserManagement.initVerificationMethod`
- `System.UserManagement.verifyVerificationMethod`

関連トピック:

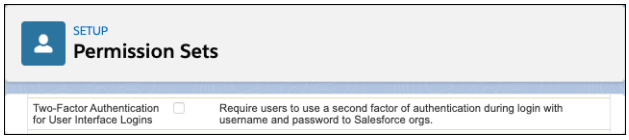
Salesforce Summer '20 リリースノート: Apex: 新規および変更された項目 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Apex による 2 要素認証の実装 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

外部ユーザの 2 要素認証の有効化

「ユーザインターフェースログインの 2 要素認証」ユーザ権限が External Identity ライセンスに追加されました。そのため、内部ユーザと同様に外部ユーザの 2 要素認証を有効にできます。External Identity ユーザプロファイルでこのユーザ権限を有効にするか、このユーザ権限のある権限セットを External Identity ユーザに割り当てます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。



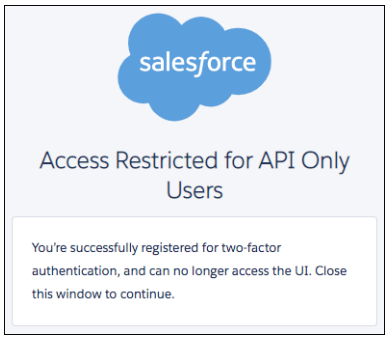
関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ユーザ権限 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce UI での API 限定ユーザによる 2 要素認証の登録

API 限定ユーザは Salesforce UI にアクセスして 2 要素認証を登録できるようになりました。認証に成功すると、API 限定ユーザは UI へのアクセスを制限されます。

対象: この変更は、Essentials Edition、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 2 要素認証 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

信頼性の高いユーザの ID 検証のスキップ

信頼性の高いユーザは、SMS コードなどの第 2 要素で ID を確認することなく新しいデバイスから Salesforce 組織にログインできます。セキュリティリスクがあるため、ユーザの信頼性が高い場合を除き、この権限を有効にしないことをお勧めします。たとえば、Salesforce カスタマーサポートが問題をトラブルシューティングするために組織にログインする必要がある場合、この権限を有効にします。

対象: この変更は、Essentials Edition、Contact Manager Edition、Professional Edition、Group Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [ログイン時に ID 確認をスキップ] 権限をユーザプロファイルに割り当てます。次に、ID 確認なしでログインを許可する信頼性の高いユーザにこのユーザプロファイルを割り当てます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:ユーザ権限 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce 組織への代理認証の適用

Salesforce組織のセキュリティを向上させるには、組織全体の代理認証を有効にし、ユーザのこの設定を権限レベルで管理します。代理認証は、選択した認証プロバイダにユーザをリダイレクトし、ユーザがSalesforceログイン情報でログインできないようにします。この機能を使用して、以前の従業員がSalesforceログイン情報を使用して組織にアクセスできないようにします。これは、認証プロバイダで使用するログイン情報とは異なります。以前は、この機能を有効にするために Salesforce カスタマーサポートに連絡していました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: まず、組織で代理認証を有効にします。[設定] に移動し、[シングルサインオン設定] に移動します。[代理認証] で、**[Salesforce ログイン情報を使用したログインを無効化]** を選択し、**[保存]** をクリックします。次に、ユーザプロファイルで「シングルサインオンの有効」権限を有効にして、ユーザがSalesforceログイン情報でログインできないようにします。Summer '20 より前にこの機能を有効にしていて、2020 年 7 月 27 日より前に無効にする場合は、Salesforce カスタマーサポートにお問い合わせください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 代理認証向けの Salesforce 設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

統合 ID と ID プロバイダのシームレスな統合

サードパーティ ID プロバイダと簡単に統合できるように、Salesforce 組織全体で統合 ID の大文字と小文字の区別を無効にできます。以前は、Salesforce で大文字と小文字が区別されていたため (ssmith と SSmith など)、類似する統合 ID を持つ 2 つの一意のユーザを作成することができました。一部の外部 ID プロバイダでは、大文字と小文字の区別に一貫性がないため、認証の問題が生じていました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 大文字と小文字を区別しない統合 ID を使用するには、[設定]、[シングルサインオン設定] の順に移動します。[統合シングルサインオン] で、**[統合 ID の大文字と小文字を区別しないように設定]** をオンにします。

関連トピック:

IdeaExchange: SSO 実装での大文字と小文字を区別しない統合 ID の検証

Salesforce ヘルプ: シングルサインオン用の SAML の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

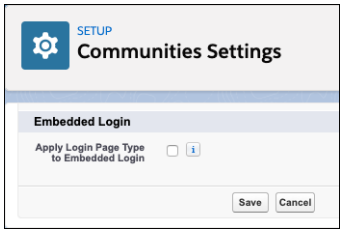
Salesforce ヘルプ: Microsoft AD FS を ID プロバイダとして使用した Salesforce への SSO の設定 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

組み込みログインページ種別のカスタマイズ

顧客のログイン環境を改善します。検出可能なログインページ種別、またはコミュニティですでに設定されている他のカスタムログインページ種別を使用するように埋め込みログインを設定します。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: [コミュニティ設定] ページで [ログインページ種別を組み込みログインに適用] を選択します。コミュニティログインページ種別を適用しない場合、組み込みログインのデフォルトのログインページ種別はユーザ名とパスワードになります。



関連トピック:

Salesforce External Identity Implementation Guide (Salesforce External Identity 実装ガイド): 埋め込みログイン: 訪問者による Web ページへのログインを許可 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

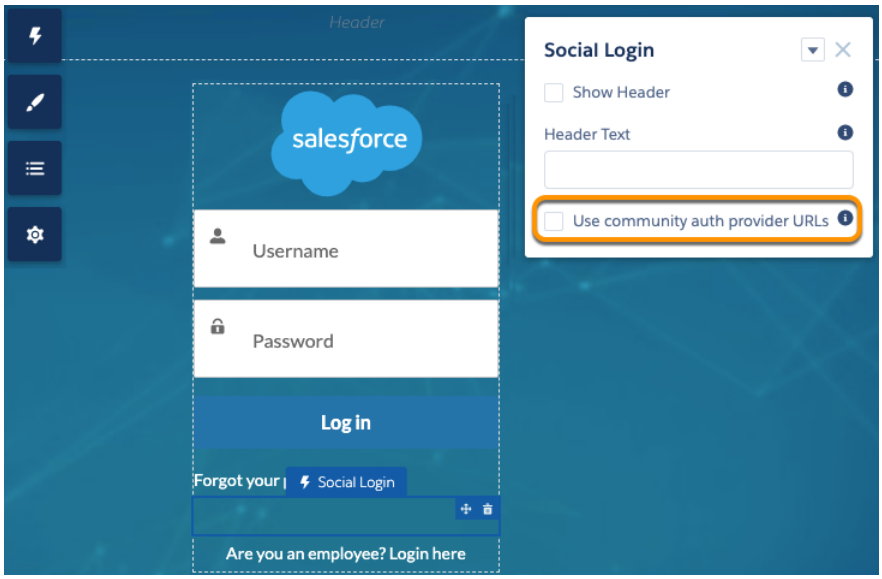
Salesforce External Identity Implementation Guide (Salesforce External Identity 実装ガイド): Choose a Login Page Type (ログインページ種別の選択) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カスタムコミュニティ URL による SSO の改善

シングルサインオンで省略可能なコミュニティ固有の URL を使用して、コミュニティユーザのログイン環境を改善し、HTTP リダイレクト数を削減します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience でアクセスする Lightning コミュニティに適用されます。

方法: Experience Builder で、ソーシャルログインコンポーネントを含むログインページを開きます。コンポーネントを選択して、[コミュニティ認証プロバイダ URL] プロパティを選択します。



このプロパティを有効にしたら、コミュニティのすべての認証プロバイダは認証プロバイダの詳細にあるコミュニティ固有の URL を使用します。このプロパティを選択しない場合、SSO 中に Salesforce は引き続き `login.salesforce.com` または `test.salesforce.com` を使用してコミュニティにリダイレクトするため、パフォーマンスが低下する可能性があります。

ID プロバイダのコミュニティコールバック URL を必ず更新してください。コミュニティコールバック URL を確認するには、[設定] から、[クイック検索] に *「認証プロバイダ」* と入力し、[認証プロバイダ] を選択します。次に、コピーするコールバック URL がある認証プロバイダの名前をクリックし、[Salesforce 設定] セクションに移動します。コールバック URL をコピーして ID プロバイダの設定に追加します。Apple、Facebook、Google など、コミュニティに複数の ID プロバイダがある場合は、それぞれを更新することを忘れないでください。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ソーシャルログインコンポーネント (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

新しい JSON 応答項目を使用したログインページ属性の検出

2 つの新しい JSON 応答項目を使用して、ログインページ属性を検出します。新しい LoginPageType 項目では、コミュニティに割り当てられたページの種別が検出可能なのか、カスタムなのか、標準なのか、または Salesforce 組織ページが検出可能なのか、標準なのかを決定します。新しい LoginPageTypeConfigs 項目では、ログイン画面に検出可能ログインページ種別の事前設定されたローカライズ済みメッセージが表示されるかどうかを定義します。カスタムログインページの場合、この項目にはカスタムログインページ URL が含まれ、ログインページ種別がデザイナなのか VisualForce なのかを定義します。LoginPageTypeConfigs 項目には、コミュニティに関連付けられた検出可能ログインページ種別またはカスタムログインページ種別が組み込みログイン設定に割り当てられているかどうかも表示されます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: .well-known/auth-configuration エンドポイントに要求を POST します。JSON 応答には、次の例のように新しいログインページ種別項目が含まれます。

GET `https://<community or custom URL>/.well-known/auth-configuration`

```
{
 "LoginPageType": "discoverable",
 "LoginPageTypeConfigs": {
 "LoginPrompt": "Username",
 "ApplyToEmbeddedLogin": false
 }
}
```

関連トピック:

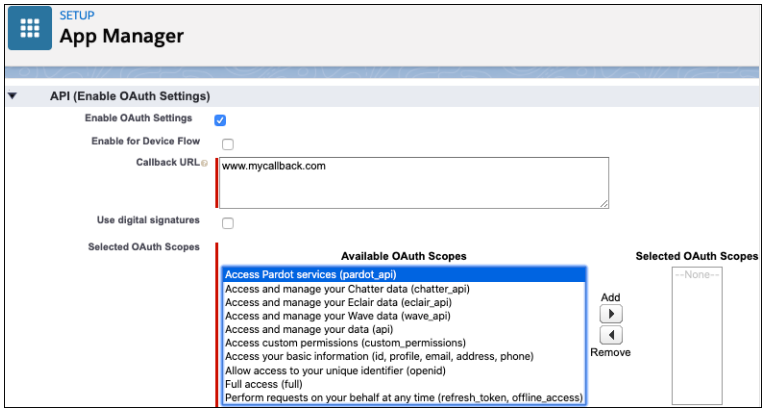
Salesforce ヘルプ: SAML 認証設定の照会 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

接続アプリケーションを使用した Pardot API サービスへのアクセス

Pardot API サービスにアクセスするように接続アプリケーションを設定できます。この設定により、クライアント (接続アプリケーション) は、ユーザの代わりに Pardot サービスにアクセスします。Pardot でアクセス可能なすべてのサービスを管理します。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: 新しい [Pardot サービスにアクセス] OAuth 範囲を新規または既存の接続アプリケーションに適用します。



関連トピック:

Pardot API: 新規および変更された項目

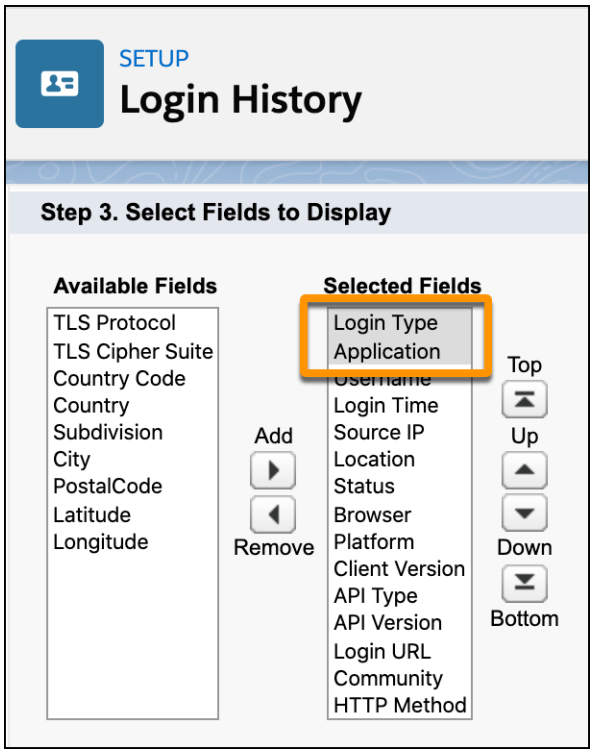
Salesforce ヘルプ: API インテグレーション用の OAuth 設定の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

アプリケーションおよびログイン種別でのログイン履歴の絞り込み

ユーザがログイン時に使用するアプリケーションの種別(モバイルデバイスなど)で、ログイン履歴レポートおよびリストビューを絞り込むことができるようになりました。また、ログインの種別(Outlookインテグレーションログインなど)で絞り込むこともできます。これらの検索条件は、過去6か月間に取得されたログインデータに適用されます。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Developer Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Professional Edition、Unlimited Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: [アプリケーション] および [ログイン種別] 項目を選択して、ログイン履歴リストビューを作成します。



関連トピック:

Salesforce ヘルプ: ログイン履歴の監視 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

ドメイン: OCSP Stapling、Salesforce Edge、URL の短縮

HTTPS での接続をより高速にすると同時に機密データが公開されないようにするため、Online Certificate Status Protocol (OCSP) Stapling が有効になりました。[私のドメイン] を使用している顧客の場合、Salesforce Edge を使用したドメイン要求が迅速化され、リリースの更新を通じて [私のドメイン] URL からインスタンス名が削除されています。

このセクションの内容:

OCSP Stapling を使用した外部証明書検証の合理化
情報のデータを保持すると同時にパフォーマンスを改善するために、Online Certificate Status Protocol (OCSP) Stapling が実装されました。OCSP Stapling により、HTTPS での接続をより高速にして、機密データが公開されないようにできます。アプリケーションで OCSP Stapling が有効な外部の HTTPS で暗号化された Web サイトにコールアウトを行うと、その Web サイトによって HTTPS 証明書の検証が応答に添付 (つまり「ステープルで固定」) されます。検証には認証機関ベンダーによってデジタル署名およびタイムスタンプが付けられた情報が含まれ、証明書が有効で最新であることが証明されます。

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (更新、延期)
Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名がないドメインは、わかりやすく、おぼえやすくなります。この更新は、[私のドメイン] がリリースされている組織に適用されます。この更新の有効化後、インスタンス名を含む URL (ブックマークなど) は自動的に新しいホスト名にリダイレクトされます。Spring '18 でリリースされ更新は、2020 年 7 月 11 日に自動的に有効になるようにスケジュールされましたが、Summer '21 に延期されました。

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (更新、適用)
Sandbox の [私のドメイン] URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce Sandbox 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名を削除することで、URL がわかりやすく、覚えやすくなります。たとえば、`MyDomain--SandboxName.cs5.my.salesforce.com` が `MyDomain--SandboxName.my.salesforce.com` に置き換えられます。この更新は Summer '18 で最初に使用可能になり、Summer '20 で適用されます。

Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (更新、適用)
この更新により、[私のドメイン] に対するドメイン要求が迅速化されます。[私のドメイン] のアドレスは同じままですが、要求は Salesforce Edge を経由します。Salesforce Edge では、機械学習テクノロジを使用して接続性とパフォーマンスを高めています。この更新は Winter '20 で最初に使用可能になり、Summer '20 で適用されます。

[私のドメイン] の名前の長さの要件の変更
iOS の要件を満たすため、新規の [私のドメイン] の名前は 3 文字以上である必要があります。既存の [私のドメイン] の名前が 2 文字しかない場合、iOS を使用して Sandbox の [私のドメイン] の URL にアクセスしたときに Lightning Experience にアクセスできない場合があります。この問題を回避するには、[私のドメイン] の名前を変更します。

OCSP Stapling を使用した外部証明書検証の合理化

情報のデータを保持すると同時にパフォーマンスを改善するために、Online Certificate Status Protocol (OCSP) Stapling が実装されました。OCSP Stapling により、HTTPS での接続をより高速にして、機密データが公開されないようにできます。アプリケーションで OCSP Stapling が有効な外部の HTTPS で暗号化された Web サイトにコールアウトを行うと、その Web サイトによって HTTPS 証明書の検証が応答に添付 (つまり「ステープルで固定」) されます。検証には認証機関ベンダーによってデジタル署名およびタイムスタンプが付けられた情報が含まれ、証明書が有効で最新であることが証明されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: OCSP Stapling をエンドユーザが意識することはありません。合理化された検証プロセスの利点を最大限に活用するには、OCSP Stapling を HTTPS で暗号化された外部対象 Web サイトでも有効にする必要があります。Stapling を有効にした Web サーバは定期的に証明機関ベンダーにコールを行い、TLS ハンドシェーク中に送信するための必須の検証を取得します。

外部 Web サイトで OCSP Stapling を有効にしていない場合も、Salesforce では証明書を検証しますが、このプロセスには外部 Web サイトへのコールと認証機関ベンダーへのコールの 2 つのコールが必要です。HTTPS で暗号化された外部サイトをコールしたときに接続時間が長くなる場合、トラブルシューティングの一環としてエンドポイントサーバの所有者に OCSP Stapling を有効にするよう依頼してください。

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (更新、延期)

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名がないドメインは、わかりやすく、おぼえやすくなります。この更新は、[私のドメイン] がリリースされている組織に適用されます。この更新の有効化後、インスタンス名を含む URL (ブックマークなど) は自動的に新しいホスト名にリダイレクトされます。Spring '18 でリリースされ更新は、2020 年 7 月 11 日に自動的に有効になるようにスケジュールされましたが、Summer '21 に延期されました。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Sandbox 組織には作成時または更新時に自動的に適用されます。Summer '21 ですべての組織に適用されます。

理由: URL からインスタンス名が削除されるときに、ホスト名が変更されます。次に例を示します。

- `mydomain--c.na1.visual.force.com` は `mydomain--c.visualforce.com` になります。
- `mydomain--c.na1.content.force.com` は `mydomain--c.documentforce.com` になります。

すべての `*.content.force.com` URL は、`*.documentforce.com` になります。

方法: この更新を Sandbox でテストして、ユーザと Salesforce 間のネットワークパスにあるファイアウォールとプロキシサーバで新しい URL が動作することを確認することをお勧めします。ホスト名で絞り込まれているファイアウォールとプロキシサーバは、次のドメインも信頼する必要があります。

- `*.visualforce.com`
- `*.documentforce.com`
- `*.salesforce-communities.com`

Apple® Safari® ブラウザバージョン 13.1 以降で Salesforce にアクセスした場合、この更新が有効化されていると Visualforce ページが表示できないことがあります。サポートされている他のブラウザを使用するようにユーザに指示することをお勧めします。

この更新を適用するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに *「リリースの更新」* と入力して、[リリースの更新] を選択します。[Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保] で、テストおよび有効化の手順を実行します。

メモ: この更新により、Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL にアクセスしているユーザがログアウトされる可能性があります。中断を最小限に抑えるため、この更新の適用はピーク時間外に行うことをお勧めします。

関連トピック:

Spring '18 リリースノート: Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除 (重要な更新)

Salesforce ヘルプ: サポートされるブラウザ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

リリース更新 (ベータ)

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (更新、適用)

Sandbox の [私のドメイン] URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce Sandbox 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名を削除することで、URL がわかりやすく、覚えやすくなります。たとえば、`MyDomain--SandboxName.cs5.my.salesforce.com` が `MyDomain--SandboxName.my.salesforce.com` に置き換えられます。この更新は Summer '18 で最初に使用可能になり、Summer '20 で適用されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Sandbox 組織では、作成時または更新時に自動的に適用されます。2020 年 7 月 11 日には、Summer '20 の既存のサンドボックスとすべての本番組織に自動的に適用されます。2020 年 7 月 11 日より後に既存の Sandbox 組織をアップグレードした場合、この更新は Summer '20 リリースで適用されます。

方法: この更新を Sandbox でテストして、ユーザと Salesforce 間のネットワークパスにあるファイアウォールとプロキシサーバで新しい URL が動作することを確認することをお勧めします。

この更新を有効化するには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*重要な更新*」と入力して、[重要な更新] を選択します。[Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の安定化] で [有効化] をクリックします。

サービスプロバイダ (SP) が開始する SAML を使用している場合は、ID プロバイダ (IdP) と連携して、Sandbox の安定した [私のドメイン] ホスト名を使用してください。

既存の Sandbox 組織がある場合、それらの Sandbox 組織でこの更新を有効にします。この更新を本番組織で有効にすると、新しい Sandbox 組織と更新された Sandbox 組織にその更新が適用されます。

関連トピック:

Summer '18 リリースノート: Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の安定化 (重要な更新)

リリース更新 (ベータ)

Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (更新、適用)

この更新により、[私のドメイン] に対するドメイン要求が迅速化されます。[私のドメイン] のアドレスは同じままですが、要求は Salesforce Edge を経由します。Salesforce Edge では、機械学習テクノロジを使用して接続性とパフォーマンスを高めています。この更新は Winter '20 で最初に使用可能になり、Summer '20 で適用されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、Summer'20 で適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

対象ユーザ: [私のドメイン] またはカスタムドメインを持つ顧客のみです。現在、Public Cloud 組織と Salesforce Government Cloud 組織は Salesforce Edge への移行から除外されています。

理由: この更新により、[私のドメイン] またはカスタムドメインをデプロイしている顧客に今後の変更に関する情報を提供し、パイロットに登録できるようになりました。

関連トピック:

ナレッジ記事: What is Salesforce Edge? (Salesforce Edge とは?)

Winter '20 リリースノート: Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (重要な更新)

リリース更新 (ベータ)

[私のドメイン] の名前の長さの要件の変更

iOS の要件を満たすため、新規の [私のドメイン] の名前は 3 文字以上である必要があります。既存の [私のドメイン] の名前が 2 文字しかない場合、iOS を使用して Sandbox の [私のドメイン] の URL にアクセスしたときに Lightning Experience にアクセスできない場合があります。この問題を回避するには、[私のドメイン] の名前を変更します。

対象: この変更は、Group Edition、Essentials Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 私のドメイン (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce Shield: リアルタイムイベントモニタリング脅威検知 (正式リリース) およびスクラッチ組織における Shield Platform Encryption 機能の増加

リアルタイムイベントモニタリング脅威検知が正式リリースされ、ログイン情報スタッフィング、異常なレポート使用状況、セッションハイジャックアクティビティを検知するのに役立つ新しいイベントが提供されました。新しい脅威検知アプリケーションで脅威イベントを表示するか、脅威イベントが起こったときにメールまたは SMS で通知するトランザクションセキュリティポリシーを作成します。スクラッチ組織で使用できる Shield Platform Encryption 機能が増加したため、テストとアプリケーション開発がより簡単になりました。メタデータ API のイベントバス暗号化フローが改善され、変更データキャプチャイベントおよびプラットフォームイベントをブロックする Shield Platform Encryption 設定を回避できます。そして新しい Shield 学習マップは、Shield 学習リソースとドキュメントへの使いやすい便利なポータルです。

このセクションの内容:

Platform Encryption: テスト用のスクラッチ組織機能、ブロックされたイベントの回避
テストおよび開発環境を改善するため、キャッシュのみの鍵、鍵の循環、バックグラウンド暗号化、スクラッチ組織との暗号化統計の互換性が追加されました。新しい[イベントバステナントシークレットのチェックで暗号化を防止]を使用して、ブロックされた変更データキャプチャとプラットフォームイベントを回避します。この更新をまだ有効にしていない場合、有効にするとシステム管理者プロファイルから「暗号化鍵の管理」権限が削除されます。

イベントモニタリング: 脅威検知リアルタイムイベントの正式リリース、脅威検知イベントのトランザクションセキュリティサポート、従来のトランザクションセキュリティの廃止
正式リリースされた 3 つの新しいリアルタイムイベントモニタリングイベントにより、Salesforce 組織に対する脅威を検知します。これらの脅威には、ユーザによるレポート実行の異常、セッションハイジャック、ログイン情報スタッフィングなどが含まれます。これらのイベントに対する通知のみのトランザクションセキュリティポリシーを作成し、脅威検知アプリケーションを使用して Salesforce UI で表示します。組織で実行時間が長い同時 Apex の上限を超えると、エラーを検出します。トランザクションセキュリティポリシーのブロックメッセージをカスタマイズします。従来のトランザクションセキュリティフレームワークは廃止されますので、現在のポリシーは強化されたフレームワークに移行してください。

Shield 学習マップを使用した適切なリソースの検索
新しい Shield 学習マップは、Shield 学習リソースとドキュメントへの使いやすい便利なポータルです。このマップは、Shield学習、開発者、システム管理者のすべてのコンテンツを使いやすいシーケンスとして整理し、計画、設定、カスタマイズのフローを案内します。どのShield製品を使用している場合でも、学習マップを頼りにすればセキュリティを成功に導くことができます。

Platform Encryption: テスト用のスクラッチ組織機能、ブロックされたイベントの回避

テストおよび開発環境を改善するため、キャッシュのみの鍵、鍵の循環、バックグラウンド暗号化、スクラッチ組織との暗号化統計の互換性が追加されました。新しい [イベントバステナントシークレットのチェックで暗号化を防止]を使用して、ブロックされた変更データキャプチャとプラットフォームイベントを回避します。この更新をまだ有効にしていない場合、有効にするとシステム管理者プロファイルから「暗号化鍵の管理」権限が削除されます。

このセクションの内容:

スクラッチ組織でのテストする Shield Platform Encryption 機能の増加
Shield Platform Encryption では、スクラッチ組織で設定可能な機能が増加したため、開発者向けのテストおよびアプリケーション開発環境が改善されます。鍵素材を循環する頻度を手動で設定し、暗号化されたデータに関する統計を収集し、データを有効な鍵と同期できるようになりました。特にSOQLクエリに依存するプロセスの場合、鍵の循環および管理サイクルを短くすれば、自動化されたプロセスをテストしてデバッグしやすくなります。ついに、キャッシュのみの鍵サービスを購入したユーザが外部鍵サービスの設定をテストするためにスクラッチ組織でキャッシュのみの鍵を有効にできるようになりました。

メタデータ API を使用した暗号化の際のブロックされたイベントの回避

enableEventBusEncryption メタデータ API 設定を使用する前に、既存のイベントバス種別テナントシークレットが必要になりました。適切なテナントシークレットがない場合、理解しやすいエラーが表示されます。この変更により、変更データキャプチャイベントおよびプラットフォームイベントをブロックする Shield Platform Encryption 設定を回避できます。

システム管理者プロファイルから「暗号化鍵を管理」権限を削除 (以前にリリース済みの更新)

システム管理者は、鍵の管理ロールを実行する機能を能動的に割り当てる必要があります。このリリースの更新を適用すると、標準管理プロファイルに対して「暗号化鍵を管理」権限が取り消されます。「暗号化鍵の管理」権限を含むカスタムプロファイルには影響はありません。カスタムプロファイルまたは権限によって権限が付与されたユーザは、引き続きこの権限を所持します。このリリースの更新は Spring '16 で最初に使用可能になりました。Spring '16 リリースより前に Shield Platform Encryption を有効にしたユーザにのみ適用されます。

スクラッチ組織でのテストする Shield Platform Encryption 機能の増加

Shield Platform Encryption では、スクラッチ組織で設定可能な機能が増加したため、開発者向けのテストおよびアプリケーション開発環境が改善されます。鍵素材を循環する頻度を手動で設定し、暗号化されたデータに関する統計を収集し、データを有効な鍵と同期できるようになりました。特に SOQL クエリに依存するプロセスの場合、鍵の循環および管理サイクルを短くすれば、自動化されたプロセスをテストしてデバッグしやすくなります。ついに、キャッシュのみの鍵サービスを購入したユーザが外部鍵サービスの設定をテストするためにスクラッチ組織でキャッシュのみの鍵を有効にできるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

方法: 次の機能を 1 つ以上スクラッチ組織の組織定義ファイルに追加します。

- CacheOnlyKeys — キャッシュのみの鍵サービスを有効にします。これにより、Salesforce の外部に保存された鍵素材が Salesforce に保存されたデータに適用されます。キャッシュのみの鍵サービスのアドオンサブスクリプションが必要です。
- MinKeyRotationInterval — 暗号化鍵素材の循環間隔を 60 秒に 1 回設定します。デフォルト (false) では、この間隔は検索インデックスの鍵素材では 604800 秒に 1 回、他のすべての鍵素材では 86400 秒に 1 回に設定されます。Shield Platform Encryption アドオンサブスクリプションがある組織に適用されます。
- EncryptionStatisticsInterval:<value> — 暗号化統計収集プロセス間の間隔を最大 604800 秒 (7 日) で定義します。デフォルトは 86400 秒 (24 時間) に 1 回です。0 ～ 604800 の秒単位の値を示します。Shield Platform Encryption アドオンサブスクリプションがある組織に適用されます。
- EncryptionSyncInterval:<value> — 組織がデータを有効な鍵素材と同期できる頻度を定義します。デフォルト値は 604800 秒に 1 回の同期です。0 以上の秒単位の値を示します。Shield Platform Encryption アドオンサブスクリプションがある組織に適用されます。

次に例を示します。

```
"features": ["CacheOnlyKeys", "MinKeyRotationInterval", "EncryptionSyncInterval:0"]
```

関連トピック:

SalesforceDX 開発者ガイド: スクラッチ組織定義の設定値 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

メタデータ API を使用した暗号化の際のブロックされたイベントの回避

enableEventBusEncryption メタデータ API 設定を使用する前に、既存のイベントバス種別テナントシークレットが必要になりました。適切なテナントシークレットがない場合、理解しやすいエラーが表示されます。この変更により、変更データキャプチャイベントおよびプラットフォームイベントをブロックする Shield Platform Encryption 設定を回避できます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

詳細は、「メタデータ API を使用したイベント暗号化の有効化にイベントバステナントシークレットが必要」を参照してください。

システム管理者プロファイルから「暗号化鍵を管理」権限を削除 (以前にリリース済みの更新)

システム管理者は、鍵の管理ロールを実行する機能を能動的に割り当てる必要があります。このリリースの更新を適用すると、標準管理プロファイルに対して「暗号化鍵を管理」権限が取り消されます。「暗号化鍵の管理」権限を含むカスタムプロファイルには影響はありません。カスタムプロファイルまたは権限によって権限が付与されたユーザは、引き続きこの権限を所持します。このリリースの更新は Spring '16 で最初に使用可能になりました。Spring '16 リリースより前に Shield Platform Encryption を有効にしたユーザにのみ適用されます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

対象ユーザ: このリリースの更新は、Spring '16 リリースより前に Shield Platform Encryption を有効にしたユーザ向けです。Spring '16 リリースより後に Shield Platform Encryption を有効にしたユーザは影響を受けません。

時期: このリリースの更新は、Spring '29 で自動的に適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

関連トピック:

Salesforce Spring '16 リリースノート: 重要な更新

イベントモニタリング: 脅威検知リアルタイムイベントの正式リリース、脅威検知イベントのトランザクションセキュリティサポート、従来のトランザクションセキュリティの廃止

正式リリースされた 3 つの新しいリアルタイムイベントモニタリングイベントにより、Salesforce 組織に対する脅威を検知します。これらの脅威には、ユーザによるレポート実行の異常、セッションハイジャック、ログイン情報スタッフィングなどが含まれます。これらのイベントに対する通知のみのトランザクションセキュリティポリシーを作成し、脅威検知アプリケーションを使用して Salesforce UI で表示します。組織で実行時間が長い同時 Apex の上限を超えると、エラーを検出します。トランザクションセキュリティポリシーのブロックメッセージをカスタマイズします。従来のトランザクションセキュリティフレームワークは廃止されますので、現在のポリシーは強化されたフレームワークに移行してください。

このセクションの内容:

Salesforce 組織に対する脅威の検知 (正式リリース)

3つの新しいリアルタイムイベントモニタリングイベントにより、組織のセキュリティに対する脅威を追跡します。Salesforce では機械学習アルゴリズムを利用してこれらのイベントを生成し、ユーザの行動における異常と組織への不正アクセスを識別します。

検知された脅威に関する通知の受信

組織に対する脅威が検知されたときに通知を受信できるように 3 つの脅威検知ストレージイベントに関するトランザクションセキュリティポリシーを作成します。3 つのイベントは、ReportAnomalyEventStore、SessionHijackingEventStore、CredentialStuffingEventStore です。

脅威検知イベントの表示とフィードバックの提供

新しい脅威検知アプリケーションを起動すると、Salesforce 組織で発生し、検知されたすべての脅威が表示されます。脅威には、ユーザによるレポート実行の異常、セッションハイジャックの試行、ログイン情報スタッフィングなどが含まれます。同じアプリケーションを使用して、特定の脅威の重要度に関するフィードバックを簡単に提供できます。

組織で実行時間が長い同時 Apex の上限を超えた場合のエラーの検出

リアルタイムイベントモニタリングの新しい ConcurLongRunApexErrEvent イベントを使用してエラーを追跡します。このイベントを使用して、組織で実行時間が長い同時 Apex 要求の上限を超えたために新しい Apex 要求が開始に失敗したときに通知を受信します。

リアルタイムイベントモニタリングの名前が変更されたユーザ権限に関する注

リアルタイムイベントを参照して管理するためのユーザ権限の名前が「リアルタイムイベントモニタリングデータの表示」に変更されました。以前は、「データ漏洩検出イベントの表示」でした。新しい名前は、この機能の内容をより反映しています。

Event Monitoring Analytics アプリケーションを使用したスペースの節約

Event Monitoring Analytics アプリケーションを使用した場合、データセットの重複が削減されたため、Einstein Analytics ストレージ行制限に達する可能性が低くなります。Salesforce 組織からアプリケーションにデータを読み込むときに、多くの場合、複数の関連データセットを結合して単一のより充実したデータセットを作成します。以前のリリースでは、関連する重複データセットが Salesforce スペースの制限の対象になっていました。

トランザクションセキュリティのブロックメッセージのカスタマイズ

トランザクションセキュリティポリシーでユーザがブロックされると、ブロックアクションについて説明し、次のステップを指示する簡単なメッセージが送信されます。以前は、標準メッセージがすべてのブロックアクションに付随していました。組織固有またはポリシー固有の情報を提供するためにポリシー設定中に各メッセージをカスタマイズするオプションが追加されました。拡張トランザクションセキュリティフレームワークを使用する有効なポリシーに遡ってカスタムブロックメッセージを追加することもできます。

改善された条件ビルダーインターフェースを使用したトランザクションセキュリティポリシーの簡単な作成

条件ビルダーのユーザインターフェースでは、効果的なトランザクションセキュリティポリシーを作成するのがより簡単になりました。条件ビルダーは、Apex に対するデフォルトのオプションです。ポリシー変更をコミットする前にイベント種別間でシームレスに切り替えられます。設定ウィザードの直接リンクからイベント種別ドキュメントに移動し、ポリシー設定中に参考資料を簡単に参照できます。

トランザクションセキュリティポリシー通知受信者のユーザ権限要件の変更

トランザクションセキュリティポリシーを作成する場合、ポリシーがトリガされたときにアプリケーション内通知またはメール通知を受信する Salesforce 組織ユーザを指定します。以前のリリースではこれらの通知の受信者には「すべてのデータの編集」権限と「設定を参照」権限が必要であり、トランザクションセキュリティへのアクセス権が管理者と開発者に制限されていました。受信者には権限が一切必要なくなったため、すべてのユーザがポリシー通知を受信してイベントを監視できます。

従来のポリシーの拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの移行(以前にリリース済みの更新)

拡張トランザクションセキュリティポリシーフレームワークを使用すると、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してアクションを実行するトランザクションセキュリティポリシーを作成できます。新しいフレームワークが正式リリースされたため、ユーザは従来のトランザクションセキュリティポリシーを作成または変更できなくなりました。従来のフレームワークは Winter '21 リリースで廃止されます。この廃止に備え、新しい機能を活用するには、できるだけ早く従来のトランザクションセキュリティポリシーを新しいフレームワークに移行します。このリリースの更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

改善された Event Monitoring Analytics アプリケーションを使用したスムーズなデータの統合

一部のデータセットを並列で処理することで、データの Event Monitoring Analytics アプリケーションへの統合のパフォーマンスが向上しました。また、処理されるデータセットチャンクのサイズも引き上げられました。また、新しい Event Monitoring Analytics アプリケーションでは常に最新の API バージョンが使用されるようにもなりました。これにより、新しい Event Monitoring Analytics アプリケーションではデータセットメタデータのアプリケーションメタデータとの比較や、必要な場合のメタデータの変換など、負担の大きい作業が行われなくなりました。

Salesforce 組織に対する脅威の検知 (正式リリース)

3 つの新しいリアルタイムイベントモニタリングイベントにより、組織のセキュリティに対する脅威を追跡します。Salesforce では機械学習アルゴリズムを利用してこれらのイベントを生成し、ユーザの行動における異常と組織への不正アクセスを識別します。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

方法: 次の新しいリアルタイムイベントモニタリングプラットフォームイベントを使用して、組織に対する一般的な脅威を検知します。

- CredentialStuffingEvent: 識別済みのログイン情報スタッフィング攻撃中にユーザが正常に Salesforce にログインした場合を追跡します。ログイン情報スタッフィングとは、盗まれたユーザログイン情報を使用した大規模な自動ログイン要求を指します。CredentialStuffingEventStore はストリーミングデータを最大 6 か月間保存します。
- ReportAnomalyEvent: ユーザによるレポート実行またはレポートエクスポートの異常を追跡します。ReportAnomalyEventStore はストリーミングデータを最大 6 か月間保存します。
- SessionHijackingEvent: 未承認ユーザが、いつ盗まれたセッション識別子を使用して Salesforce ユーザのセッションの所有権を取得したかを追跡します。SessionHijackingEventStore はストリーミングデータを最大 6 か月間保存します。

Spring '20 のベータ以降、脅威検知に機能が追加されています。次のことができるようになりました。

- 新しい脅威検知アプリケーションを使用して、Salesforce UI で 3 つの脅威検知ストレージイベントを表示する。特定の脅威検知イベントに関するフィードバックを提供することもできます。
- 3 つの脅威検知ストレージイベントに対する通知のみのトランザクションセキュリティポリシーを作成する。
- 各イベントの新しい [概要] 項目で、検知された脅威の概要を読む。
- SessionHijackingEvent の新しい `SecurityEventData` 項目を使用して、セッションハイジャックイベントをトリガした一連のブラウザフィンガープリント機能を表示する。
- 3つの脅威検知イベントのいずれかを主オブジェクトとして使用するカスタムレポートタイプを作成して、3 つのイベントに関するレポートを作成する。
- 3つの脅威検知ストレージイベントおよび新しい ThreatDetectionFeedback オブジェクトに対する投稿および変更追跡フィードを表示する。
- 3 つの脅威検知イベントに関する Einstein Analytics レポートおよびダッシュボードを作成する。

関連トピック:

検知された脅威に関する通知の受信

脅威検知イベントの表示とフィードバックの提供

Salesforce ヘルプ:脅威の検知(リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

検知された脅威に関する通知の受信

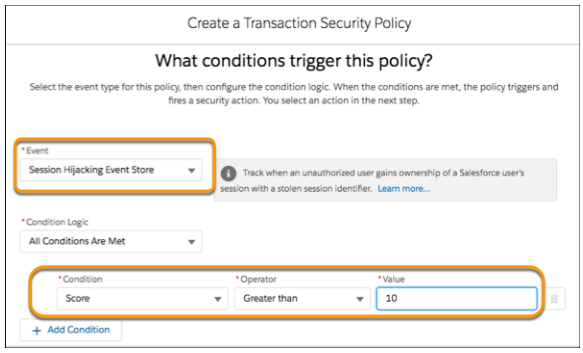
組織に対する脅威が検知されたときに通知を受信できるように3つの脅威検知ストレージイベントに関するトランザクションセキュリティポリシーを作成します。3 つのイベントは、ReportAnomalyEventStore、SessionHijackingEventStore、CredentialStuffingEventStore です。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

理由: 組織で脅威検知イベントが発生したときに、メール、アプリケーション内通知、またはその両方を受信します。脅威検知イベントには、ユーザによるレポート実行の異常、ログイン情報スタッフィング試行、セッションのハイジャック試行などが含まれます。

方法: 条件ビルダーを使用するか Apex クラスを記述して、イベントのいずれかに関するトランザクションセキュリティポリシーを作成します。



関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ:脅威の検知 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)
- *Salesforce* ヘルプ:拡張トランザクションセキュリティ (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

脅威検知イベントの表示とフィードバックの提供

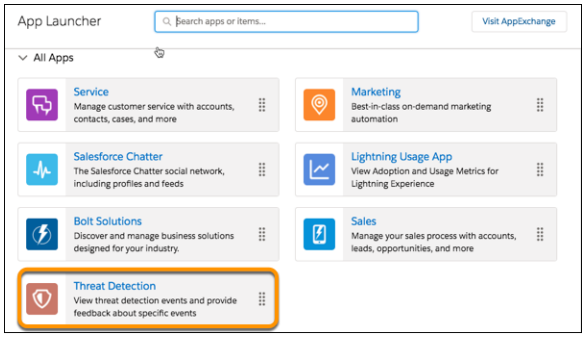
新しい脅威検知アプリケーションを起動すると、Salesforce組織で発生し、検知されたすべての脅威が表示されます。脅威には、ユーザによるレポート実行の異常、セッションハイジャックの試行、ログイン情報スタッフィングなどが含まれます。同じアプリケーションを使用して、特定の脅威の重要度に関するフィードバックを簡単に提供できます。

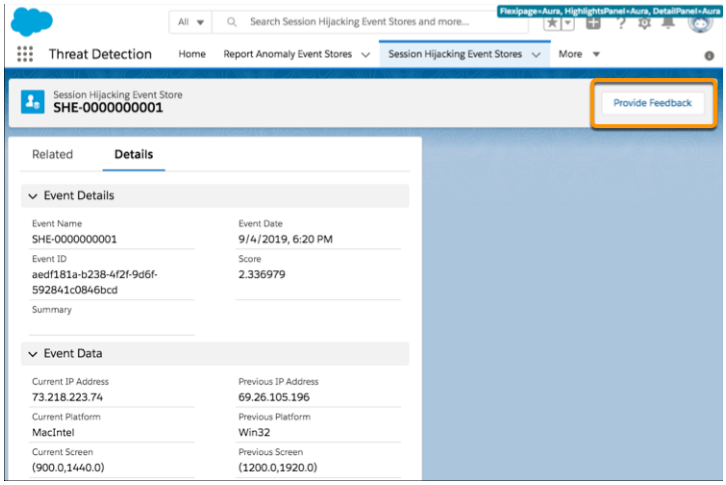
対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

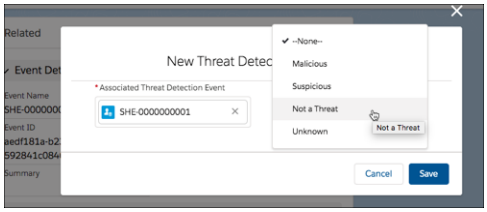
対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

理由: 検知されたすべての脅威が実際の脅威とは限りません。フィードバック機能を使用して、検知された特定の脅威の重要度を指定できます。

方法: [設定] で、脅威検知アプリケーションがアプリケーションランチャーで表示されるようにします。次に、アプリケーションを起動して、組織で発生した脅威検知イベントを表示します。特定のイベントに移動し、[フィードバックを提供] をクリックして、脅威が悪意あり、疑わしい、不明、脅威ではない、のいずれであったかを指定します。







関連トピック:

Salesforce ヘルプ:脅威の検知 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されることや、使用不能になることがあります)

組織で実行時間が長い同時 Apex の上限を超えた場合のエラーの検出

リアルタイムイベントモニタリングの新しい ConcurLongRunApexErrEvent イベントを使用してエラーを追跡します。このイベントを使用して、組織で実行時間が長い同時 Apex 要求の上限を超えたために新しい Apex 要求が開始に失敗したときに通知を受信します。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

関連トピック:

Platform イベント開発者ガイド:ConcurLongRunApexErrEvent (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

IdeaExchange: イベントモニタリングのリアルタイムアラート

リアルタイムイベントモニタリングの名前が変更されたユーザ権限に関する注

リアルタイムイベントを参照して管理するためのユーザ権限の名前が「リアルタイムイベントモニタリングデータの表示」に変更されました。以前は、「データ漏洩検出イベントの表示」でした。新しい名前は、この機能の内容をより反映しています。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションをすでに購入している顧客が使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: リアルタイムイベントモニタリングへのアクセス権の有効化 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Event Monitoring Analytics アプリケーションを使用したスペースの節約

Event Monitoring Analytics アプリケーションを使用した場合、データセットの重複が削減されたため、Einstein Analytics ストレージ行制限に達する可能性が低くなります。Salesforce 組織からアプリケーションにデータを読み込むときに、多くの場合、複数の関連データセットを結合して単一のより充実したデータセットを作成します。以前のリリースでは、関連する重複データセットが Salesforce スペースの制限の対象になっていました。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

方法: 改善を利用できるように Event Monitoring Analytics アプリケーションをアップグレードします。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Event Monitoring Analytics アプリケーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: Event Monitoring Analytics アプリケーションのアップグレード (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

トランザクションセキュリティのブロックメッセージのカスタマイズ

トランザクションセキュリティポリシーでユーザがブロックされると、ブロックアクションについて説明し、次のステップを指示する簡単なメッセージが送信されます。以前は、標準メッセージがすべてのブロックアクションに付随していました。組織固有またはポリシー固有の情報を提供するためにポリシー設定中に各メッセージをカスタマイズするオプションが追加されました。拡張トランザクションセキュリティフレームワークを使用する有効なポリシーに遡ってカスタムブロックメッセージを追加することもできます。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。カスタムブロックメッセージは ApiEvent ポリシー、ListViewEvent ポリシー、ReportEvent ポリシーでのみ使用できます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

方法: 設定ウィザードでブロックアクションまたは 2 要素認証アクションが含まれる ApiEvent、ListViewEvent、または ReportEvent のポリシーを作成する場合、デフォルトメッセージまたはカスタムブロックメッセージを選択するように求められます。API を使用してポリシーを作成する場合、TransactionSecurityPolicy オブジェクトで新しい `BlockMessage` API 項目を使用してカスタムブロックメッセージを指定します。`BlockMessage` 項目を空白にすると、ポリシーによってデフォルトメッセージが送信されます。

関連トピック:

Salesforce 開発者向けのドキュメント: TransactionSecurityPolicy (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

IdeaExchange: トランザクションセキュリティポリシーのメッセージをカスタマイズ可能にする

改善された条件ビルダーインターフェースを使用したトランザクションセキュリティポリシーの簡単な作成

条件ビルダーのユーザインターフェースでは、効果的なトランザクションセキュリティポリシーを作成するのがより簡単になりました。条件ビルダーは、Apex に対するデフォルトのオプションです。ポリシー変更をコミットする前にイベント種別間でシームレスに切り替えられます。設定ウィザードの直接リンクからイベント種別ドキュメントに移動し、ポリシー設定中に参考資料を簡単に参照できます。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: 条件ビルダーを使用したトランザクションセキュリティポリシーの作成 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

トランザクションセキュリティポリシー通知受信者のユーザ権限要件の変更

トランザクションセキュリティポリシーを作成する場合、ポリシーがトリガされたときにアプリケーション内通知またはメール通知を受信する Salesforce 組織ユーザを指定します。以前のリリースではこれらの通知の受信者には「すべてのデータの編集」権限と「設定を参照」権限が必要であり、トランザクションセキュリティへのアクセス権が管理者と開発者に制限されていました。受信者には権限が一切必要なくなったため、すべてのユーザがポリシー通知を受信してイベントを監視できます。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションをすでに購入している顧客が使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ:拡張トランザクションセキュリティアクションおよび通知(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

従来のポリシーの拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの移行(以前にリリース済みの更新)

拡張トランザクションセキュリティポリシーフレームワークを使用すると、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してアクションを実行するトランザクションセキュリティポリシーを作成できます。新しいフレームワークが正式リリースされたため、ユーザは従来のトランザクションセキュリティポリシーを作成または変更できなくなりました。従来のフレームワークは Winter '21 リリースで廃止されます。この廃止に備え、新しい機能を活用するには、できるだけ早く従来のトランザクションセキュリティポリシーを新しいフレームワークに移行します。このリリースの更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Professional Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

時期: Winter '21 リリースで従来のフレームワークが廃止されると、従来のポリシーは完全に無効になり、更新できなくなります。Winter '21 リリースまで、従来のポリシーは引き続き正常に機能しますが、作成したり変更したりすることはできません。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

方法: セキュリティポリシーが従来のフレームワークを使用しているかどうかを判断するには、それらに関連付けられている Apex クラスを確認します。従来のポリシーは TxnSecurity.PolicyCondition インターフェースを実装しています。

従来のポリシーを移行するには、従来のポリシーの動作を模倣するポリシーを新しい拡張フレームワークで作成します。従来のポリシーは新しいフレームワークでは実行できませんが、引き続き表示されるため、そのロジックを調べて新しいポリシーで再現することができます。

ポイント & クリックツールを使用したい場合、条件ビルダーには、新しいフレームワークでポリシーを作成するためのほとんどの機能が用意されています。コーディングを行う場合や、条件ビルダーで提供されていない機能を必要とする場合は、新しい TxnSecurity.EventCondition インターフェースを使用して Apex クラスを実装します。

移行や発生した問題に関するフィードバックをお寄せください。このフィードバックにより、すべてのイベントモニタリングユーザの移行を改善することができます。この機能に関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community の「Salesforce Official: Shield」グループに投稿してください。

関連トピック:

重要な更新とセキュリティアラート

Salesforce ヘルプ:拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの従来のポリシーの移行(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

改善された Event Monitoring Analytics アプリケーションを使用したスムーズなデータの統合

一部のデータセットを並列で処理することで、データの Event Monitoring Analytics アプリケーションへの統合のパフォーマンスが向上しました。また、処理されるデータセットチャンクのサイズも引き上げられました。また、新しい Event Monitoring Analytics アプリケーションでは常に最新の API バージョンが使用されるようにもなりました。これにより、新しい Event Monitoring Analytics アプリケーションではデータセットメタデータのアプリケーションメタデータとの比較や、必要な場合のメタデータの変換など、負担の大きい作業が行われなくなりました。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Event Monitoring Analytics アプリケーション (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Shield 学習マップを使用した適切なリソースの検索

新しい Shield 学習マップは、Shield 学習リソースとドキュメントへの使いやすい便利なポータルです。このマップは、Shield 学習、開発者、システム管理者のすべてのコンテンツを使いやすいシーケンスとして整理し、計画、設定、カスタマイズのフローを案内します。どの Shield 製品を使用している場合でも、学習マップを頼りにすればセキュリティを成功に導くことができます。

対象ユーザ: Salesforce Shield は、アドオンサブスクリプションとして利用できます。

方法: Shield 製品のドキュメントには、Shield 学習マップへのリンク (https://shieldlearningmap.com) があります。

トレイルの各ポイントをクリックすると、次の作業を行うためのリソースが表示されます。

- Shield の概要と、このパワフルなセキュリティ製品スイートの使い方を知る
- 監査とコンプライアンスの要件を理解する
- Shield Platform Encryption でデータを暗号化して鍵素材を管理する
- リアルタイムイベントモニタリングでデータにチェックインしてデータの使用者を確認する

- 機能の導入とパフォーマンスを測定する

データ保護とプライバシー: 顧客の同意チャネルと同意 API コール

ユーザが顧客の連絡設定を管理する方法を改善する機能が追加されました。顧客の郵送先住所情報と同意を記録するには、連絡先アドレス項目を使用します。新規連絡先チャネルの同意レコードを保存するか、[エンゲージメントチャネル]項目を使用して独自に作成します。同意読み取り API コールの[ポリシー]オプションを使用して、オブジェクトで連絡チャネルの明示的な同意を要求します。

このセクションの内容:

新規連絡先チャネルおよび顧客の同意情報の保存
顧客に関して保存する情報を増やすため、個人または個人取引先に複数のアドレスを指定できるようになりました。連絡先アドレス項目を使用して複数の郵送先住所を指定し、顧客の連絡設定に関する詳細を追加します。連絡先の同意レコードからこうしたレコードを参照し、この方法で連絡することに対する顧客の同意を保存することもできます。

カスタマイズして保存する顧客の同意チャネルの増加
組織が顧客とコミュニケーションを取りやすくなるように、[エンゲージメントチャネル]項目を使用してより多くの連絡先チャネルの同意レコードを管理できます。たとえば、[エンゲージメントチャネル種別]項目を使用して、顧客の同意を SMS または Fax で伝えることを指定できます。以前は、連絡先種別の電話を示すことしかできませんでした。さらに良いことに、顧客の独自のニーズに合わせて独自のエンゲージメントチャネル種別を作成できます。

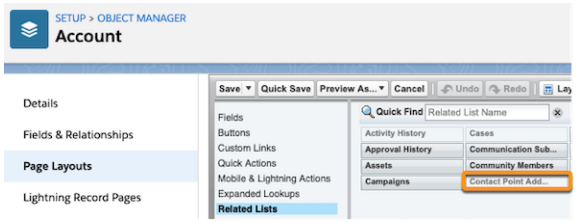
同意 API コールの精度の向上
ポリシーパラメータの新しい値を使用して、明示的な同意を記録できるオブジェクトについて明示的な同意を要求します。ポリシーパラメータの新しい値を使用した場合、連絡先の同意が指定されていない場合、API により infoNotFound 応答が返されます。同意は、顧客が連絡先チャネルにオプトインすることを指定した場合のみ API 応答で返されます。

新規連絡先チャネルおよび顧客の同意情報の保存

顧客に関して保存する情報を増やすため、個人または個人取引先に複数のアドレスを指定できるようになりました。連絡先アドレス項目を使用して複数の郵送先住所を指定し、顧客の連絡設定に関する詳細を追加します。連絡先の同意レコードからこうしたレコードを参照し、この方法で連絡することに対する顧客の同意を保存することもできます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Salesforce Classic および Lightning Experience に適用されます。

方法: 連絡先アドレス項目は、デフォルトで個別オブジェクトの関連リストレイアウトに表示されます。オブジェクトマネージャで取引先オブジェクトの関連リストレイアウトに追加します。



関連トピック:

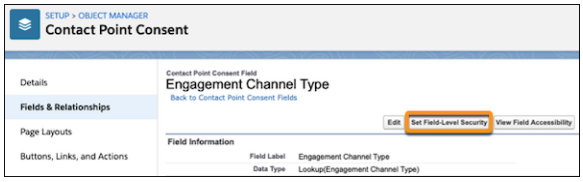
Salesforce 開発者向けのドキュメント: ContactPointAddress (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

カスタマイズして保存する顧客の同意チャネルの増加

組織が顧客とコミュニケーションを取りやすくなるように、[エンゲージメントチャネル]項目を使用してより多くの連絡先チャネルの同意レコードを管理できます。たとえば、[エンゲージメントチャネル種別]項目を使用して、顧客の同意を SMS または Fax で伝えることを指定できます。以前は、連絡先種別の電話を示すことしかできませんでした。さらに良いことに、顧客の独自のニーズに合わせて独自のエンゲージメントチャネル種別を作成できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 新規の組織では、エンゲージメントチャネル種別はデフォルトで連絡先に関する同意または連絡先種別に関する同意オブジェクトのレイアウトに表示されます。既存の組織の場合、連絡先に関する同意または連絡先種別に関する同意オブジェクトから、[エンゲージメントチャネル種別]項目を選択し、[項目レベルセキュリティの設定] をクリックします。[エンゲージメントチャネル種別] を [参照可能] に設定して、オブジェクトマネージャでオブジェクトのレイアウトに追加します。オブジェクトマネージャから、連絡先種別を省略可能に変更するか、レイアウトエディタで連絡先種別を削除します。



関連トピック:

Salesforce 開発者向けのドキュメント: ContactPointConsent (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce 開発者向けのドキュメント: ContactPointTypeConsent (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

同意 API コールの精度の向上

ポリシーパラメータの新しい値を使用して、明示的な同意を記録できるオブジェクトについて明示的な同意を要求します。ポリシーパラメータの新しい値を使用した場合、連絡先の同意が指定されていない場合、API により infoNotFound 応答が返されます。同意は、顧客が連絡先チャネルにオプトインすることを指定した場合のみ API 応答で返されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: ポリシーを使用するには、`policy=requireExplicitConsent` パラメータを同意 API コールに追加します。

関連トピック:

Salesforce 開発者向けのドキュメント: Consent (同意) (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

その他のセキュリティの変更: 非公開接続 (正式リリース)、Salesforce サイトでのセキュリティの厳格化、Apex Crypto クラスでのアルゴリズムの強化

非公開接続(正式リリース)により、クロスクラウドトラフィックを外部の脅威から保護するために Amazon Web Services との間でセキュアな接続が作成されます。Salesforce サイトのゲストユーザによって作成されたレコードのデフォルトの所有者を選択できます。また、Crypto クラスでサポートされるハッシングアルゴリズムが増え、鍵素材のセキュリティが強化されています。

このセクションの内容:

非公開接続を使用したクロスクラウド連携の保護 (正式リリース)

Salesforce 組織をサードパーティクラウドサービスでホストされるアプリーションと統合する場合、HTTP/s トラフィックを安全に送受信できることが不可欠です。非公開接続では、Salesforce 組織と AWS Virtual Private Cloud (VPC) の間に完全に管理された安全な接続を設定することにより、Amazon Web Services (AWS) インテグレーションでのセキュリティを強化できます。クロスクラウドトラフィックを公開インターネットの代わりにこの接続を介して転送できるため、部外者のセキュリティ脅威にさらされるリスクが減少します。

Apex Crypto クラスでの強力なハッシングアルゴリズムの使用

Crypto クラスで RSA-SHA384 および RSA-SHA512 ハッシング標準がサポートされるようになったため、暗号論的に強力な鍵素材を生成する選択肢が増えました。RSA-SHA384 および RSA-SHA512 の値を Crypto.sign メソッド、Crypto.signWithCertificate メソッド、Crypto.signXML() メソッド、Crypto.verify() メソッドの algorithmName パラメータに渡すことができます。サードパーティアプリケーションを使用するか、Crypto.generateAesKey メソッドを使用して、自分用にこの鍵を生成します。

Salesforce サイトのゲストユーザによって作成された新規レコードのデフォルトの所有者への割り当て

Salesforce データのセキュリティを強化するため、Salesforce サイトのゲストユーザが作成したレコードの所有者としてそのゲストユーザが自動的に割り当てられなくなりました。代わりに、Salesforce サイトのゲストユーザがレコードを作成すると、レコードは選択したデフォルトのレコード所有者に割り当てられます。

セキュリティ機能に関する権限の変更

Summer '20 リリースで有効になるセキュリティ機能に対するアクセス変更を確認してください。

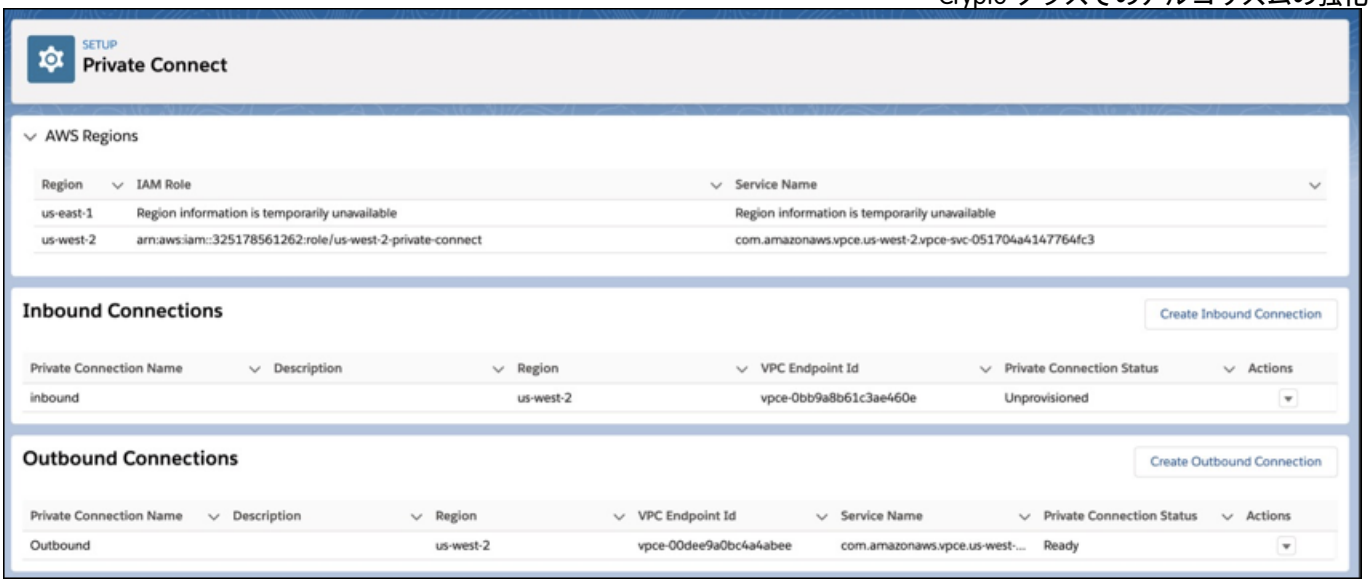
非公開接続を使用したクロスクラウド連携の保護 (正式リリース)

Salesforce 組織をサードパーティクラウドサービスでホストされるアプリーションと統合する場合、HTTP/s トラフィックを安全に送受信できることが不可欠です。非公開接続では、Salesforce 組織と AWS Virtual Private Cloud (VPC) の間に完全に管理された安全な接続を設定することにより、Amazon Web Services (AWS) インテグレーションでのセキュリティを強化できます。クロスクラウドトラフィックを公開インターネットの代わりにこの接続を介して転送できるため、部外者のセキュリティ脅威にさらされるリスクが減少します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Performance Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: ビジネスクリティカルなエンタープライズアプリケーションをクラウドサービスで実行する Salesforce のお客様が増えるにつれ、クラウドの採用が増加しています。ただし、インターネットは攻撃面が大きいため、公開インターネットでクロスクラウドトラフィックを送信すると大きなセキュリティ脅威にさらされるおそれがあります。非公開接続では、公開インターネットの代わりに非公開で完全に管理されたリンクを介してトラフィックを転送することにより、コミュニケーションが安全に保たれます。非公開接続は双方向でもあるため、インバウンドとアウトバウンドの両方のトラフィックを開始できます。インバウンド接続では、標準 API を使用してトラフィックを Salesforce に送信できます。アウトバウンド接続では、Apex コールアウト、外部サービス、外部オブジェクトなどの機能を介してトラフィックを Salesforce から送信できます。

方法: 非公開接続の設定は、Salesforce と AWS で行います。Salesforce で新しい非公開接続の [設定] ページに移動してプロセスを開始します。AWS にアクセスできる場合、設定ページと AWS の VPC ダッシュボードを切り替えて各接続を設定します。AWS にアクセスできない場合、AWS 担当者にお問い合わせください。[私のドメイン] はインバウンド接続の前提条件であり、指定ログイン情報はアウトバウンド接続の前提条件です。



関連トピック:

- *Salesforce* ヘルプ: 非公開接続を使用したクロスクラウド連携の保護 (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)
- *Salesforce リリースノート*: 新規および変更された Connect REST API リソース
- *Salesforce リリースノート*: Metadata API (メタデータ API)

Apex Crypto クラスでの強力なハッシングアルゴリズムの使用

Crypto クラスで RSA-SHA384 および RSA-SHA512 ハッシング標準がサポートされるようになったため、暗号論的に強力な鍵素材を生成する選択肢が増えました。RSA-SHA384 および RSA-SHA512 の値を Crypto.sign メソッド、Crypto.signWithCertificate メソッド、Crypto.signXML() メソッド、Crypto.verify() メソッドの algorithmName パラメータに渡すことができます。サードパーティアプリケーションを使用するか、Crypto.generateAesKey メソッドを使用して、自分用にこの鍵を生成します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

方法: 鍵存在の生成および使用についての詳細は、『Apex 開発者ガイド』の「Crypto クラス」を参照してください。

Salesforce サイトのゲストユーザによって作成された新規レコードのデフォルトの所有者への割り当て

Salesforce データのセキュリティを強化するため、Salesforce サイトのゲストユーザが作成したレコードの所有者としてそのゲストユーザが自動的に割り当てられなくなりました。代わりに、Salesforce サイトのゲストユーザがレコードを作成すると、レコードは選択したデフォルトのレコード所有者に割り当てられます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Salesforce Classic と Lightning Experience に適用されます。

時期: この変更は、Summer '20 以降で作成された Salesforce 組織に適用されます。既存の組織には重要な更新「Summer '20 より前のゲストユーザのセキュリティポリシーのオプトアウト」を有効にしていない限り適用され、Winter '21 ではすべての組織に適用されます。

理由: 内部組織ユーザをゲストユーザによって作成されたレコードの所有者にするのが、Salesforce のセキュリティのベストプラクティスです。重要な更新「Summer '20 より前のゲストユーザのセキュリティポリシーのオプトアウト」を有効にしている場合、すべての組織に適用される Winter '21 より前に必ずこの変更を適用してテストしてください。

方法: Salesforce サイトの所有者は、Salesforce サイトのゲストユーザが作成したレコードのデフォルトの所有者です。サイトの異なるデフォルトのレコード所有者を選択するには、[クイック検索] ボックスに「サイト」と入力し、[サイト]を選択します。サイトを作成するときまたは既存のサイトを編集するときに、[デフォルトのレコード所有者] 参照項目でユーザを選択します。[保存] をクリックします。

組織で重要な更新「Summer '20 より前のゲストユーザのセキュリティポリシーのオプトアウト」が有効になっている場合、デフォルトのレコード所有者を選択する前に手動でサイト設定を有効にする必要があります。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「サイト」と入力し、[サイト] を選択します。[Salesforce サイトのゲストユーザによって作成された新規レコードのデフォルトの所有者への割り当て] を選択し、[保存] をクリックします。

メモ: コミュニティも [サイト] 設定ページにリストされます。デフォルトのレコード所有者をコミュニティに割り当てるには、[ゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルト所有者に割り当てる] 設定を有効にする必要があります。この設定も、組織で重要な更新「Summer '20 より前のゲストユーザのセキュリティポリシーのオプトアウト」を有効にしていない限り Summer '20 で自動的に有効になります。

関連トピック:

Summer '20 より前のゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト (以前にリリース済みの更新)

Salesforce ヘルプ:サイトユーザレコードを操作するときのベストプラクティスと考慮事項(リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

セキュリティ機能に関する権限の変更

Summer '20 リリースで有効になるセキュリティ機能に対するアクセス変更を確認してください。

ログアウトイベントトリガ
ユーザが LogoutEventStream オブジェクトにアクセスするには、「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。

SAML シングルサインオン設定
API を使用したシングルサインオンの SAML 設定へのアクセスは、「設定・定義を参照する」権限を持つユーザまたは「アプリケーションのカスタマイズ」権限と「すべてのデータの編集」権限の両方を持つユーザに制限されます。

関連トピック:

ナレッジ記事: ユーザプロファイル権限の説明

リリース: 新しい変更セットコンポーネント

新しい変更セットコンポーネントを使用できます。

このセクションの内容:

変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント
変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。これらのコンポーネントを変更セットに使用できるようになりました。

変更セットの新規追加および変更されたコンポーネント

変更セットに使用できるコンポーネントは、エディションによって異なります。これらのコンポーネントを変更セットに使用できるようになりました。

Bot
1 つ以上のバージョンを使用できる Einstein ボット設定の定義を表します。有効にできるバージョンは 1 つのみです。

カスタム通知種別
カスタム通知種別に関連付けられたメタデータを表します。カスタム通知種別を使用して、プロセスまたは呼び出し可能な API コールからカスタムデスクトップまたはモバイル通知を送信できます。

インバウンドネットワーク接続
サードパーティデータサービスと Salesforce 組織間の非公開接続に関する情報を保存するために使用されるエンティティを表します。Salesforce へのコールアウトになるため、接続はインバウンドになります。

アウトバウンドネットワーク接続
Salesforce 組織とサードパーティデータサービス間の非公開アウトバウンド接続に関する情報を保存するために使用されるエンティティを表します。Salesforce からのコールアウトになるため、接続はアウトバウンドになります。

トランザクションセキュリティポリシー
ユーザアクティビティの評価に使用される一連の条件と、条件が満たされたときにトリガされるリアルタイムアクション (通知、ブロック、2 要素認証) を表します。

開発: 独自の Salesforce アプリケーションの作成

Lightning コンポーネント、Visualforce、Apex を使用する場合、あるいは、好みのプログラミング言語と共に Salesforce の API を使用する場合のいずれでもあっても、次の機能強化は、別の組織への再販を目的とした優れたアプリケーション、インテグレーション、およびパッケージの開発に役立ちます。

このセクションの内容:

Lightning コンポーネント: Lightning Web コンポーネント間での CSS スタイルルールの共有、管理パッケージからのコンポーネントの削除

共通の CSS モジュールを使用して Lightning Web コンポーネントのスタイルを設定することで、一貫したデザインを作成しましょう。管理パッケージが不要になった場合は、それを Lightning コンポーネントから削除します。また、いくつかのリリース更新が延期され、それらの準備に時間をかけられるようになりました。

Einstein Platform Services: 画像認識および自然言語処理

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Platform Services API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

Visualforce: Lightning Message Service (正式リリース)、Android の日付ピッカーの新しい外観

Lightning Message Service を使用して Visualforce、Aura、Lightning Web コンポーネント間で通信できます。Android 用 Salesforce モバイルアプリケーションの日付ピッカーがネイティブ Android 表示になりました。

パッケージ化: ロック解除済みの第二世代管理パッケージで利用可能なアップグレードの転送 (ベータ)、組織連動ロック解除済みパッケージの試用 (ベータ)

ロック解除済みの第二世代管理パッケージへのアップグレードをスケジュールして転送できるように、転送アップグレード API が拡張されました。組織のメタデータを分離するのが難しい場合は、組織連動ロック解除済みパッケージを使用します。第一世代管理パッケージの変換の早期プレビューを探索してください。

Apex

新しい `@JsonAccess` アノテーションは、Apex 型を逐次化および並列化する方法を制御します。リアルタイムイベントモニタリングの新しい `ConcurLongRunApexErrEvent` 標準プラットフォームイベントは、実行時間が長い同時 Apex エラーを検出します。リリース更新「組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化」の自動有効化日付が 2021 年 8 月 9 月から 2020 年 8 月 12 日に前倒しされました。2 つのリリース更新では、ユーザが AsyncApexJob、ApexTestResult およびその他のいくつかのオブジェクトにアクセスする場合に「設定・定義を参照する」権限が必要になります。Transaction Finalizers 機能 (Spring '20 で導入) は、Finalizer の実行の要求 ID を返す `FinalizerContext.getRequestId()` メソッドで強化されています。

API

API バージョン 49.0 では、Bulk API 2.0 を使用して、Salesforce 組織内のメタデータコンポーネント間の連動関係を照会します。ドキュメントに合わせて Sandbox の同時 API 要求数の制限が修正されました。

カスタムメタデータ型: 項目の要素に対するリレーションの作成

エンティティパーティクルを参照するカスタムメタデータ型リレーション項目を宣言的に定義します。

スクラッチ組織: 新機能

スクラッチ組織は、専用かつ設定可能な Salesforce 環境で、さまざまな目的のために素早く作成できます。スクラッチ組織は、自分の個人的な開発環境として使用できます。または、自動テストのためにヘッドレススクラッチ組織を作成することもできます。本番組織や Developer Edition 組織で Dev Hub を有効にした場合、または Dev Hub トライアル組織がある場合に、スクラッチ組織を作成できます。継続的に新機能のサポートを追加していきます。

Sandbox: Data Mask およびローカルワークスペースでの変更の自動追跡を使用してデータを保護する新しい強力な方法 (ベータ)

新しいツールを使用して、Sandbox で個人識別情報その他の機密データを保護できます。Developer および Developer Pro Sandbox でソース追跡を有効化します (ベータ)。Sandbox 操作用の Salesforce CLI コマンドが正式にリリースされました。

Lightning Design System: 他のコンポーネントの拡張に伴うモバイルとタッチのサポート拡大

Salesforce Lightning Design System (SLDS) には、Salesforce Lightning の原則、設計言語、およびベストプラクティスに一致するユーザインターフェースを作成するリソースが含まれています。このリリースでは、モバイルデバイスおよびタッチデバイスのユーザエクスペリエンスの拡張に重点を置きました。

AppExchange パートナー: Lightning アプリケーションとページ用の AppExchange の App Analytics

AppExchange の App Analytics データを調べて、登録者が Lightning アプリケーションとページをどのように使用しているかを確認します。

変更データキャプチャ: イベント強化 (ベータ)、その他の変更

外部 ID 項目などの項目を使用して変更イベントメッセージを強化し、その他の機能強化を利用します。

プラットフォームイベント: 公開状況イベント (パイロット)

公開状況イベントを使用して、プラットフォームイベントの公開操作の状況に関する通知を取得します。

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

Work.com の Workplace Command Center のソリューションの開発

Workplace Command Center は、職場復帰の準備を監視して、従業員を安全にワークプレイスに戻すタイミングを判断するのに役立ちます。従業員が戻ったら、従業員の健康と場所の準備状況を確認して、全員の安全を確保してください。Workplace Command Center には、従業員健康チェックコンポーネント、オペレーションフィード、グローバル COVID-19 トラッカーが含まれています。

Lightning コンポーネント: Lightning Web コンポーネント間での CSS スタイルルールの共有、管理パッケージからのコンポーネントの削除

共通の CSS モジュールを使用して Lightning Web コンポーネントのスタイルを設定することで、一貫したデザインを作成しましょう。管理パッケージが不要になった場合は、それを Lightning コンポーネントから削除します。また、いくつかのリリース更新が延期され、それらの準備に時間をかけられるようになりました。

メモ: 新規追加および変更された Lightning Web コンポーネント、Aura コンポーネント、Aura コンポーネントインターフェースを探していますか?新規追加および変更された項目のリストが「開発」セクションの最後に統合されました。

このセクションの内容:

Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (正式リリース)

Lightning Message Service を使用して、DOM 全体の Visualforce ページ、Aura コンポーネント、Lightning Web コンポーネント (ユーティリティバーのコンポーネントを含む) の間で通信を行います。これを使用すると、1 つの Lightning ページ内または複数のページでコンポーネント間の通信を行うことができます。Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えると、既存の Visualforce ページや Aura コンポーネントと通信できる Lightning Web コンポーネントを作成できるようになりました。Lightning Message Service を使用して、Open CTI 経由でソフトフォンと通信することもできます。

Lightning Web コンポーネント間での CSS スタイルの共有

共通の CSS モジュールを使用して、Lightning Web コンポーネントの一貫したデザインを作成しましょう。スタイルを CSS モジュールで定義して、そのスタイルを共有するコンポーネントにモジュールをインポートします。

管理パッケージからの Lightning コンポーネントの削除

管理パッケージのリリース後に、Aura または Lightning Web コンポーネントを管理パッケージから削除できます。この変更により、パッケージをリファクタリングし、不要になったコンポーネントを削除できます。

ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止

廃止されるコンポーネントのサポートは 2021 年 5 月 1 に終了する予定です。

Lightning Web コンポーネントのユーザ権限の確認

現在のユーザが特定の権限を持っているかどうかに従って、コンポーネントの動作をカスタマイズします。ユーザの権限割り当てを確認するには、範囲指定されたモジュールの `@salesforce/userPermission` と `@salesforce/customPermission` から Salesforce の権限をインポートします。

現在の Lightning コミュニティに関する情報の取得

`@salesforce/community` が範囲設定されたモジュールを使用して、Lightning コミュニティの Lightning Web コンポーネントを開発するときに現在のコミュニティコンテキストに関する情報をインポートします。

Lightning Web コンポーネントが DOM に接続されているかどうかの確認

`isConnected` プロパティを使用して、ドキュメントオブジェクトモデル (DOM) に接続されているかどうかを確認します。

HTML 属性を介した大文字 JavaScript プロパティの設定

Lightning Web コンポーネントでは、HTML 属性を介して大文字 JavaScript プロパティを設定できる特別な構文が提供されます。以前は、HTML 属性を介して大文字 JavaScript プロパティを設定することはできませんでした。

Lightning Web コンポーネントでのタグまたはクラス名による子要素の取得

`Element.getElementsByTagName()` および `Element.getElementsByClassName()` API は、Lightning Web コンポーネントの `LightningElement` ベースクラスでサポートされるようになりました。親要素は `getElementsByTagName()` を使用して、指定したタグがあるその子要素のリストを取得できます。親要素は `getElementsByClassName()` を使用して、指定したクラスがあるその子要素のリストを取得できます。

DOM API の変更で必要になる可能性のある UI テストの更新

HTML、CSS、DOM のコンテンツおよび構造は、いつでも変更される可能性があるため、安定した API と考えることはできません。Selenium WebDriver などのツールを使用してコンポーネント内部にアクセスする自動 UI テストでは、継続的なメンテナンスが必要になります。Salesforce は、自動 UI テストがこのリリースに適応するようにサポートします。

Lightning コンポーネントでのネイティブ Android 日付ピッカーの使用

Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションでの日付ピッカーの表示は、カスタム Android カレンダーからネイティブ Android カレンダーに変更されました。更新は必要ありません。

カスタムタブでの Lightning Web コンポーネントはリアクティブ

Summer '20 より前は、カスタムタブ内の Lightning Web コンポーネントでそのクエリパラメータが更新された場合、フレームワークによってコンポーネントが再作成されました。カスタムタブ内のコンポーネントがリアクティブになりました。コンポーネントでそのクエリパラメータが更新された場合、コンポーネントは再表示され、再作成されなくなります。

sfdx-lwc-jest を v0.9.0 に更新する場合は Jest 連動関係を v25.5.4 に更新

`sfdx-lwc-jest` v0.9.0 の Jest 連動関係を Jest v25.5.4 に更新しました。`sfdx-lwc-jest` の更新後にテストが引き続き正常に実行されるようにするには、連動関係を更新してください。

iframe の Blob スキーマのブロック

コンテンツセキュリティポリシーの `frame-src` ディレクティブにより iframe から blob URL へのアクセスが防止されます。この変更は Spring '20 リリースで導入されましたが、現在まで文書化されていませんでした。

リリースの更新 (旧称「重要な更新」): 延期された更新

いくつかの更新が延期され、それらの準備に時間をかけられるようになりました。

セキュリティアラート: ユーザプロファイルに基づく @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限

いくつかのセキュリティアラートがあります。

関連トピック:

- Lightning Web コンポーネント開発者ガイド
- Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド

Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (正式リリース)

Lightning Message Service を使用して、DOM 全体の Visualforce ページ、Aura コンポーネント、Lightning Web コンポーネント (ユーティリティバーのコンポーネントを含む) の間で通信を行います。これを使用すると、1 つの Lightning ページ内または複数のページでコンポーネント間の通信を行うことができます。Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えると、既存の Visualforce ページや Aura コンポーネントと通信できる Lightning Web コンポーネントを作成できるようになりました。Lightning Message Service を使用して、Open CTI 経由でソフトフォンと通信することもできます。

対象: この機能は、Lightning Experience で使用できます。Lightning メッセージチャネルを作成するには、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition を使用します。

方法: コンポーネントとページは、Lightning **メッセージチャネルを介して通信します。この例では、**Visualforce **ページは** Lightning Web **コンポーネントを公開するメッセージチャネルに登録されます。**

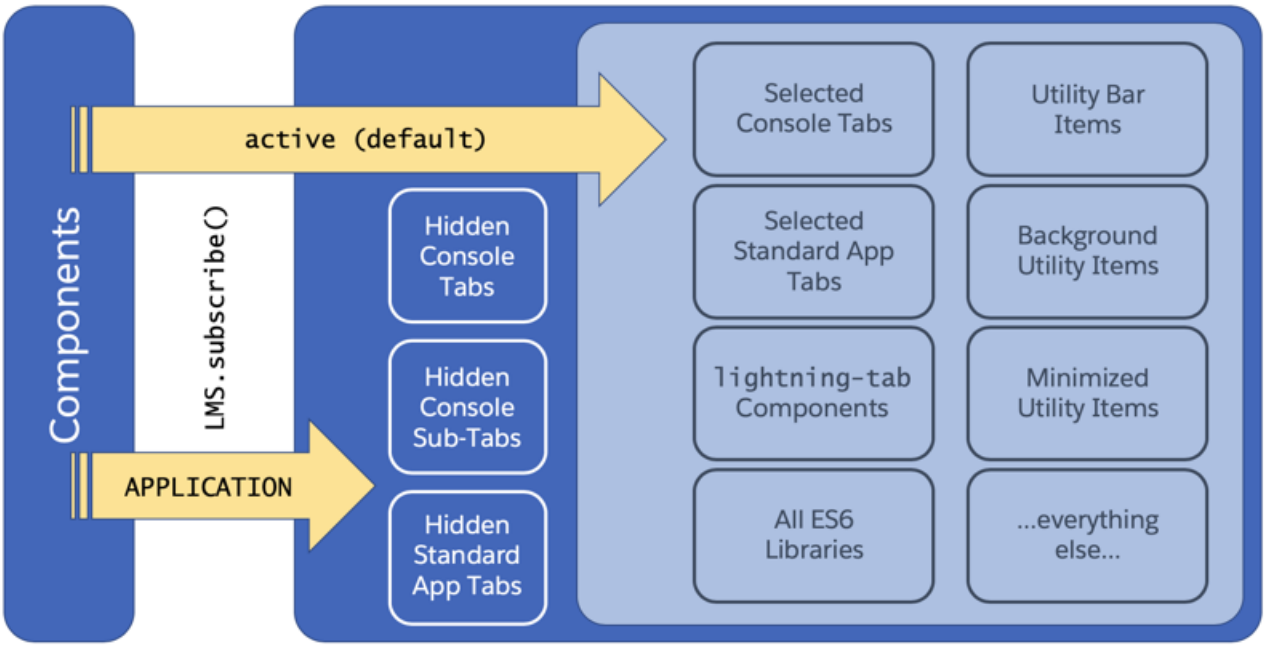
```
// publisherComponent.js
import { LightningElement, wire } from 'lwc';
import { publish, MessageContext } from 'lightning/messageService';
import SAMPLEMC from "@salesforce/messageChannel/SampleMessageChannel__c";

export default class PublisherComponent extends LightningElement {
    @wire(MessageContext)
    messageContext;

    handleClick() {
        const message = {
            recordId: "001xx000003NGSFAA4",
            recordData: {
                value: "Burlington Textiles Corp of America"
            }
        };
        publish(this.messageContext, SAMPLEMC, message);
    }
}
```

Visualforce **ページが同じメッセージングチャネルに登録されます。**

```
<apex:page>
    <div>
        <p>Subscribe to SampleMessageChannel</p>
        <button onclick="subscribeMC()">Subscribe</button>
        <p>Unsubscribe from SampleMessageChannel</p>
        <button onclick="unsubscribeMC()">Unsubscribe</button>
        <br/>
        <br/>
        <p>Received message:</p>
        <textarea id="MCMessageTextArea" rows="10"
style="disabled:true;resize:none;width:100%;"/>
    </div>
    <script>
        // Load the MessageChannel token in a variable
        var SAMPLEMC = "{!$MessageChannel.SampleMessageChannel__c}";
        var subscriptionToMC;
        // Display message in the textarea field
        function onMCPublished(message) {
            var textArea = document.querySelector("#MCMessageTextArea");
          textArea.innerHTML = message ? JSON.stringify(message, null, '\t') : 'no message
 payload';
        }

        function subscribeMC() {
            if (!subscriptionToMC) {
                subscriptionToMC = sforce.one.subscribe(SAMPLEMC, onMCPublished});
            }
        }

        function unsubscribeMC() {
```

```
            if (subscriptionToMC) {
                sforce.one.unsubscribe(subscriptionToMC);
                subscriptionToMC = null;
            }
        }
    </script>

</apex:page>
```

重要: ベータ版の Lightning Message Service を使用していた場合、GA リリースでの次の変更点に注意してください。ベータリリースでは、`subscribe()` メソッドには、1 つのデフォルト値「`APPLICATION`」のみを持つ必須の `scope` パラメータが含まれていました。範囲では、登録コンポーネントがアプリケーション内でメッセージを受信する場所が定義されます。Lightning メッセージサービスを使用すると、範囲を有効な領域のみに制限したり (デフォルト)、範囲にアプリケーション全体を含めたりできるようになりました。



有効な範囲を指定するために、`scope` パラメータを含める必要はありません。これは、デフォルトの動作です。アプリケーション全体の範囲を指定するには、引き続き「`APPLICATION`」の値を含む `scope` パラメータを使用します。有効な範囲を使用する場合、メッセージチャネルは、有効なナビゲーションタブ、有効なナビゲーション項目、またはユーティリティ項目のコンポーネント間の通信に制限されます。ユーティリティ項目は常に有効です。ナビゲーションタブまたはナビゲーション項目は、選択されると有効になります。ナビゲーションタブとナビゲーション項目には、以下が含まれます。

- 標準ナビゲーションタブ
- コンソールナビゲーションワークスペースタブ
- コンソールナビゲーションサブタブ

- コンソールナビゲーション項目

関連トピック:

コンポーネントの参照: `lightning/messageService`

Lightning Web コンポーネント開発者ガイド (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Visualforce 開発者ガイド (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

Salesforce ヘルプ: ポップアウトユーティリティの使用

Open CTI 開発者ガイド

Lightning Web コンポーネント間での CSS スタイルの共有

共通の CSS モジュールを使用して、Lightning Web コンポーネントの一貫したデザインを作成しましょう。スタイルを CSS モジュールで定義して、そのスタイルを共有するコンポーネントにモジュールをインポートします。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

方法:

1. CSS ファイルと設定ファイルを含むコンポーネントを作成します。フォルダとファイル名が同じである必要があります。このコンポーネントが CSS モジュールです。

```
cssLibrary
   ├──cssLibrary.css
   └──cssLibrary.js-meta.xml
```

2. CSS ファイルで、共有するスタイルルールを定義します。

```
/* cssLibrary.css */
h1 {
    font-size: xx-large;
}
```

3. 設定ファイルでは次のタグのみが必要です。

```
<!-- cssLibrary.js-meta.xml -->
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<LightningComponentBundle xmlns="http://soap.sforce.com/2006/04/metadata">
    <apiVersion>49.0</apiVersion>
    <isExposed>false</isExposed>
</LightningComponentBundle>
```

4. Lightning Web コンポーネントの CSS ファイルにモジュールをインポートします。

```
myComponent
    ├──myComponent.html
    ├──myComponent.js
    ├──myComponent.js-meta.xml
    └──myComponent.css
```

```
/* myComponent.css */
@import 'c/cssLibrary';

/* Define other style rules for myComponent here */
```

1 つ以上の CSS モジュールをインポートできます。

```
namespace
```

重要: `@import` についての詳細は、「MDN web docs: `@import` (MDN web docs: @import)」を参照してください。MDN では、 `@import` ***`url`*** および `@import` ***`url list-of-media-queries`*** の 2 つの構文スタイルがリストされます。LWC では、***`list-of-media-queries`*** は考慮されません。

5. インポートしたスタイルルールは、インポートされていないスタイルルールと同様にテンプレートに適用されます。すべてのスタイルルールはカスケードされます。`myComponent.html` テンプレートの `<h1>` タグのテキストは、`cssLibrary.css` で定義された `xx-large` スタイルを使用しています。

```
<!-- myComponent.html -->

<template>
  <h1>Words to the Wise</h1>
  <p>An apple a day keeps the doctor away</p>
</template>
```

ヒント: lwc.dev/guide/css のプレイグラウンドでコードを試すことができます。

管理パッケージからの Lightning コンポーネントの削除

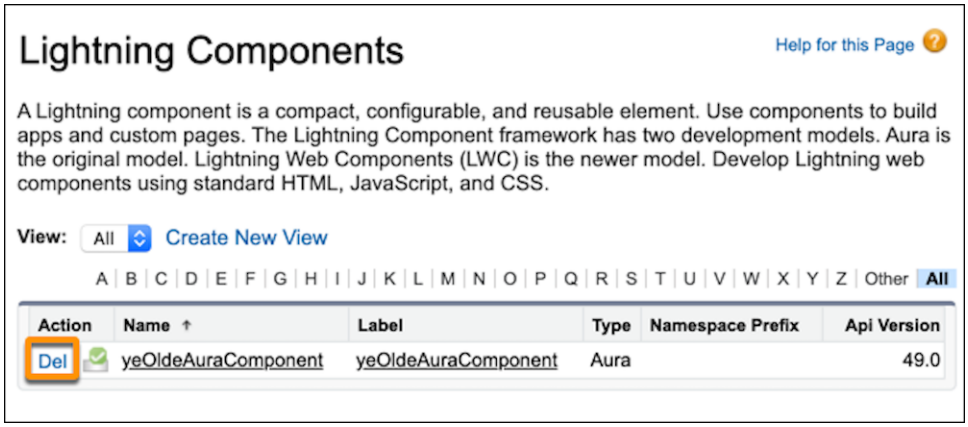
管理パッケージのリリース後に、Aura または Lightning Web コンポーネントを管理パッケージから削除できます。この変更により、パッケージをリファクタリングし、不要になったコンポーネントを削除できます。

対象: この変更は、Lightning Experience と Salesforce Classic での管理パッケージの Aura および Lightning Web コンポーネントに適用されます。

方法: パッケージ化組織でコンポーネントの削除を有効にするには、パートナーコミュニティでケースを登録します。

Aura または Lightning Web コンポーネントを削除するには、以下の手順を実行します。

1. [設定] の [クイック検索] ボックスに「*Lightning コンポーネント*」と入力します。
2. **[Lightning コンポーネント]** を選択します。
3. 削除するコンポーネントの **[削除]** をクリックします。



Aura コンポーネントは、開発者コンソールからも削除できます。

メモ: 開発者が Aura または Lightning Web コンポーネントをパッケージから削除した場合、アップグレードされたパッケージをインストールした後も、コンポーネントは登録者の組織に残ります。登録者組織のシステム管理者は、必要に応じてコンポーネントを削除できます。これは、アクセス権の値が `public` または `global` に設定されている Lightning Web コンポーネントまたは Aura コンポーネントでも同じです。

`aura:component` タグの `access` 属性を `public` または `global` に設定することで、コンポーネントをその名前空間外で使用できるかどうかを制御します。コンポーネントの設定ファイルで `isExposed` を `true` に設定することで、Lightning Web コンポーネントを Lightning アプリケーションビルダーまたはエクスペリエンスビルダーで使用できるようにします。

アクセス権が `global` に設定されている Aura コンポーネントや、`isExposed` が `true` に設定されている Lightning Web コンポーネントについては、パッケージ開発者に 2 フェーズのプロセスをお勧めします。このプロセスにより、パッケージから削除するコンポーネントがパッケージ内の他の項目との連動関係を持たないようにすることができます。

1. フェーズ 1: 参照を削除する
   a. 削除しようとしているグローバルコンポーネントを編集して、他の Lightning コンポーネントへの参照をすべて削除します。
   b. パッケージの新しいバージョンをアップロードします。
   c. フェーズ 1 のアップグレードを登録者に転送します。
2. フェーズ 2: 廃止されたコンポーネントを削除する
   a. グローバル Lightning コンポーネントをパッケージから削除します。
   b. 必要に応じて、関連する他のコンポーネントやクラスを削除します。
   c. パッケージの新しいバージョンをアップロードします。

d. フェーズ 2 のアップグレードを登録者に転送します。

関連トピック:

Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: コンポーネントのアクセス制御
Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: Configuration File Tags (ファイルタグの設定)
ISVforce ガイド: 管理パッケージのコンポーネントの削除

ui 名前空間の Aura コンポーネントの廃止

廃止されるコンポーネントのサポートは 2021 年 5 月 1 に終了する予定です。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce モバイルアプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: Salesforce では、2021 年 5 月 1 日に `ui` 名前空間で Aura コンポーネントのサポートを終了する予定です。2021 年 5 月 1 日以降もこれらのコンポーネントを引き続き使用することはできますが、その日付以降、これらのサポートケースは受け付けられなくなります。

理由: 従来のコンポーネントを廃止することで、パフォーマンス、アクセシビリティ、ユーザエクスペリエンス、国際化の点で最新の Web 標準に従うコンポーネントに集中できます。

方法: 廃止されるコンポーネントを `lightning` 名前空間の対応するコンポーネントに置き換えます。これらのコンポーネントのほうが高速で効率的であり、Lightning Design System のスタイル設定を標準で使用できます。

メモ: `lightning` 名前空間のコンポーネントには、Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントの 2 つのバージョンがあります。可能であれば、Lightning Web コンポーネントを使用することをお勧めします。Lightning Web コンポーネントは、HTML と最新の JavaScript を使用して作成されたカスタム HTML 要素です。Lightning Web コンポーネントと Aura コンポーネントは 1 つのページで共存および相互運用できます。どちらも Lightning コンポーネントとしてシステム管理者やエンドユーザに表示されます。詳細は、*『Lightning Web コンポーネント開発者ガイド』* を参照してください。

廃止される Aura コンポーネントとその推奨される代替コンポーネントを次に示します。

`ui:actionMenuItem`
代わりに、`lightning:menuItem` と `lightning:buttonMenu` を使用します。

`ui:button`
`lightning:button`、`lightning:buttonIcon`、または `lightning:buttonIconStateful` を使用します。ボタングループの場合、`lightning:buttonGroup` を使用します。

`ui:checkboxMenuItem`
代わりに、`lightning:menuItem` と `lightning:buttonMenu` を使用します。

`ui:inputCheckbox`
`lightning:input` と `checkbox`、`toggle`、または `checkbox-button` 型を使用します。チェックボックスグループの場合、代わりに `lightning:checkboxGroup` を使用します。

`ui:inputCurrency`
代わりに、`lightning:input` と `number` 型および `currency` フォーマッタを使用します。

`ui:inputDate`
代わりに、`lightning:input` と `date` 型を使用します。

ui:inputDateTime
代わりに、lightning:input と datetime 型を使用します。

ui:inputDefaultError
代わりに、lightning:input と組み込みの項目検証を使用します。

ui:inputEmail
代わりに、lightning:input と email 型を使用します。

ui:inputNumber
代わりに、lightning:input と number 型を使用します。

ui:inputPhone
代わりに、lightning:input と phone 型を使用します。

ui:inputRadio
代わりに、lightning:input と radio 型を使用します。ラジオグループの場合、代わりに lightning:radioGroup を使用します。

ui:inputRichText
代わりに lightning:inputRichText を使用します。

ui:inputSecret
代わりに、lightning:input と password 型を使用します。

ui:inputSelect
代わりに、lightning:select または lightning:combobox を使用します。

ui:inputSelectOption
代わりに、lightning:select または lightning:combobox を使用します。

ui:inputText
代わりに、lightning:input と text 型を使用します。

ui:inputTextArea
代わりに lightning:textarea を使用します。

ui:inputURL
代わりに、lightning:input と url 型を使用します。

ui:menu
代わりに lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuItem
代わりに、lightning:menuItem と lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuItemSeparator
代わりに、lightning:menuDivider と lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuList
代わりに lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuTrigger
代わりに lightning:buttonMenu を使用します。

ui:menuTriggerLink
代わりに lightning:buttonMenu を使用します。

ui:message
代わりに lightning:notificationsLibrary を使用します。

ui:outputCheckbox
lightning:input と checkbox 型を使用し、readonly を true に設定します。

ui:outputCurrency
lightning:formattedNumber と currency に設定された style を使用します。

ui:outputDate
代わりに lightning:formattedDateTime を使用します。

ui:outputDateTime
代わりに、lightning:formattedDateTime または lightning:formattedTime を使用します。

ui:outputEmail
代わりに lightning:formattedEmail を使用します。

ui:outputNumber
代わりに lightning:formattedNumber を使用します。

ui:outputPhone
代わりに lightning:formattedPhone を使用します。

ui:outputRichText
代わりに lightning:formattedRichText を使用します。

ui:outputText
代わりに lightning:formattedText を使用します。

ui:outputTextArea
代わりに lightning:formattedText を使用します。

ui:outputURL
代わりに lightning:formattedUrl を使用します。

ui:radioMenuItem
代わりに、lightning:menuItem と lightning:buttonMenu を使用します。

ui:spinner
代わりに lightning:spinner を使用します。

Lightning Web コンポーネントのユーザ権限の確認

現在のユーザが特定の権限を持っているかどうかに従って、コンポーネントの動作をカスタマイズします。ユーザの権限割り当てを確認するには、範囲指定されたモジュールの @salesforce/userPermission と @salesforce/customPermission から Salesforce の権限をインポートします。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: 権限は、Salesforce 組織でアクセスと動作を制御するための標準的な手段です。現在のユーザの権限に応じた動作をするように Lightning Web コンポーネントを開発します。

方法:ユーザが権限を持っているかどうかを確認するには、権限に対する静的参照をインポートして、 `true` **または** `false` **のどちらであるかを確認します。**

```
import hasPermission from '@salesforce/userPermission/PermissionName';
```

カスタム権限には名前空間が含まれる場合もあります。組織では、独自のカスタマイズとパッケージの一意の識別子として名前空間を使用します。カスタム権限が名前空間を持つ場合は、権限名の前に名前空間名と `__` **を付ける必要があります。**

```
import hasPermission from '@salesforce/customPermission/PermissionName';
import hasPermission from '@salesforce/customPermission/namespace__PermissionName';
```

静的参照の名前は自由に決めてください。ここでは、参照がブール値を持つことをしめすために `has`***Permission*** **という形式を使用します。**

次のサンプルは、現在のユーザが ViewSetup **標準権限を持っているかどうかを確認します。**

```
// app.js
import { LightningElement } from 'lwc';
import hasViewSetup from '@salesforce/userPermission/ViewSetup';

export default class App extends LightingElement {
    get isSetupEnabled() {
        return hasViewSetup;
    }

    openSetup(e) {...}
}
```

ユーザがこの権限を持っていれば、コンポーネントはボタンを有効化します。

```
<!-- app.html -->

<template>
    <setup-panel-group>
        <setup-button disabled={isSetupEnabled} onclick={openSetup}></setup-button>
    </setup-panel-group>
</template>
```

次のサンプルは、現在のユーザが、管理パッケージからインストールされ、 `acme` **という名前空間を持つ** ViewReport **カスタム権限を持っているかどうかを確認します。**

```
// app.js
import { LightningElement } from 'lwc';
import hasViewReport from '@salesforce/customPermission/acme__ViewReport';

export default class App extends LightingElement {
    get isReportVisible() {
        return hasViewReport;
    }
}
```

ユーザがこの権限を持っていれば、コンポーネントは `expense-report` **コンポーネントを表示します。**

```
<!-- app.html -->
```

```
<template>
    <common-view></common-view>

    <template if:true={isReportVisible}>
        <c-expense-report></c-expense-report>
    </template>
</template>
```

現在の Lightning コミュニティに関する情報の取得

`@salesforce/community` が範囲設定されたモジュールを使用して、Lightning コミュニティの Lightning Web コンポーネントを開発するときに現在のコミュニティコンテキストに関する情報をインポートします。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Web コンポーネントに適用されます。

方法: `@salesforce/community/Id` を使用して、現在のコミュニティの ID をインポートします (コンポーネントがコミュニティ ID をパラメータとして API に渡す必要がある場合など)。

```
import communityId from '@salesforce/community/Id';
```

`@salesforce/community/basePath` を使用して、コミュニティのベース URL をインポートしてから、完全な URL を動的に作成します (複数のコミュニティで機能するリンクコンポーネントを作成する場合など)。

```
import communityBasePath from '@salesforce/community/basePath';
```

ベース URL は、ドメインの後に続くコミュニティの URL のセクションです。そのため、コミュニティドメイン名が `UniversalTelco.force.com` で、コミュニティを作成したときに追加された URL 値が `myPartnerCommunity` の場合、コミュニティの URL は `UniversalTelco.force.com/myPartnerCommunity/s` です。この場合、`myPartnerCommunity/s` がベース URL です。

重要: Lightning コミュニティページのみを対象にしている場合、`@salesforce/community` を使用できます。コンポーネントが `@salesforce/community` をインポートすると、そのコンポーネントは他の Salesforce 環境では使用できません。

Lightning Web コンポーネントが DOM に接続されているかどうかの確認

`isConnected` プロパティを使用して、ドキュメントオブジェクトモデル (DOM) に接続されているかどうかを確認します。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: コンポーネントが DOM に接続されたり DOM から切断されたりした場合の対応には、すでに `connectedCallback()` と `disconnectedCallback()` のライフサイクルフックを使用できます。ですが、`Node.isConnected` は、開発者にとってさらに使いやすいプロパティになっています。

方法: Lightning Web コンポーネントは、コンポーネントが DOM に接続されているかどうかを示すブール値を返す `Node.isConnected` プロパティを反映するようになりました。単純にコンポーネントの JavaScript で `this.isConnected` を使用してください。

```
import { LightningElement } from 'lwc';
export default class MyComponent extends LightningElement {
    someMethod() {
        const cmp = this;
        const aPromise = new Promise(tetherFunction);
        aPromise.then((result) => {
           if (cmp.isConnected) {
               // Update the component with the result.
           } else {
               // Ignore the result and maybe log.
           }
        })
    }
}
```

ヒント: Lightning Web コンポーネントは、他の Web API のプロパティも反映します。すべてのプロパティのリストは、『Lightning Web Components Developer Guide (Lightning Web コンポーネント開発者ガイド)』の「Web API Properties (Web API プロパティ)」を参照してください。

関連トピック:

MDN web docs (MDN Web ドキュメント): `Node.isConnected`

HTML 属性を介した大文字 JavaScript プロパティの設定

Lightning Web コンポーネントでは、HTML 属性を介して大文字 JavaScript プロパティを設定できる特別な構文が提供されます。以前は、HTML 属性を介して大文字 JavaScript プロパティを設定することはできませんでした。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: テンプレート内の HTML 属性には大文字を含めることはできません。JavaScript プロパティ名が大文字で始まる場合、この構文を使用して、JavaScript コードを変更せずに HTML 内のプロパティを設定できます。

方法: HTML 属性の先頭にハイフンを追加します。先頭のハイフンは、属性名の最初の英字を JavaScript クラス内で大文字で宣言することをエンジンに指示します。

JavaScript プロパティ `Upper` は HTML 属性 `-upper` に対応付けられます。

```
// child.js
import { LightningElement, api } from 'lwc';

export default class Child extends LightningElement {
    @api Upper;
}
```

```
<!-- parent.html -->
<template>
    <c-child -upper="Some Value"></c-child>
</template>
```

Lightning Web コンポーネントでは、キャメルケースの JavaScript プロパティ名はケバブケースの HTML 属性名に対応付けられます。JavaScript では、`@api firstName` は HTML の `<c-child first-name="Pierre"></c-child>` に対応付けられます。JavaScript プロパティが英大文字で始まる (`@api FirstName`) 場合、単に最初の文字で同じ対応付けを使用します (`-first-name`)。

```
<!-- parent.html -->
<template>
    <c-child -first-name="Pierre"></c-child>
</template>
```

```
// child.js
import { LightningElement, api } from 'lwc';

export default class Child extends LightningElement {
    @api FirstName;
}
```

```
<!-- child.html -->
<template>
    First Name:  {FirstName}
</template>
```

Lightning Web コンポーネントでのタグまたはクラス名による子要素の取得

`Element.getElementsByTagName()` および `Element.getElementsByClassName()` API は、Lightning Web コンポーネントの `LightningElement` ベースクラスでサポートされるようになりました。親要素は `getElementsByTagName()` を使用して、指定したタグがあるその子要素のリストを取得できます。親要素は `getElementsByClassName()` を使用して、指定したクラスがあるその子要素のリストを取得できます。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

DOM API の変更で必要になる可能性のある UI テストの更新

HTML、CSS、DOM のコンテンツおよび構造は、いつでも変更される可能性があるため、安定した API と考えることはできません。Selenium WebDriver などのツールを使用してコンポーネント内部にアクセスする自動 UI テストでは、継続的なメンテナンスが必要になります。Salesforce は、自動 UI テストがこのリリースに適応するようにサポートします。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: 特に、Lightning Experience が最新の Web 標準に合わせて進化し続けるにつれて、変更が発生します。Salesforce は、この変更によるこのテストの脆弱性を指摘します。Salesforce は、ユーザが自動 UI テストから得られる価値と、この変更によりユーザにかかるメンテナンスの負荷を理解しています。Salesforce では、HTML、CSS、または DOM の下位互換性は保証されません。

方法: 以前のリリースからの UI テストに問題がある場合は、このナレッジ記事を参照してください。問題を修正するのに役立つ手順とカスタムツールが含まれています。

関連トピック:

Salesforce 開発者ブログ: Test Automation (テスト自動化)

Lightning コンポーネントでのネイティブ Android 日付ピッカーの使用

Android 用の Salesforce モバイルアプリケーションでの日付ピッカーの表示は、カスタム Android カレンダーからネイティブ Android カレンダーに変更されました。更新は必要ありません。

対象: この変更は、Android デバイスの Salesforce モバイルアプリケーションの Lightning コンポーネントに適用されます。

方法: 次のコンポーネントは、Android OS のバージョンに応じてデザインが更新されています。

Aura コンポーネント:

- `<lightning:input type="date">`
- `<lightning:input type="datetime">`
- `<lightning:select>`
- `<lightning:input type="time">`

Lightning Web コンポーネント:

- `lightning-input-field`
- `lightning-input type="date"`
- `lightning-input type="datetime"`
- `lightning-input type="time"`

メモ: 更新された Android インターフェースは、実行している Android OS のバージョンによって異なります。

カスタムタブでの Lightning Web コンポーネントはリアクティブ

Summer '20 より前は、カスタムタブ内の Lightning Web コンポーネントでそのクエリパラメータが更新された場合、フレームワークによってコンポーネントが再作成されました。カスタムタブ内のコンポーネントがリアクティブになりました。コンポーネントでそのクエリパラメータが更新された場合、コンポーネントは再表示され、再作成されなくなります。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: Lightning Web コンポーネントは、クエリパラメータへの更新をリアクティブに追跡するように設計されていますが、カスタムタブで使用された場合はリアクティブではありませんでした。コンポーネントがカスタムタブで使用された場合、コンポーネントは、他の Lightning Web コンポーネントのリアクティブな設計に一致するようになりました。

方法: カスタムタブで Lightning Web コンポーネントを使用して現在のページの `pageReference.state` クエリパラメータを更新する場合、クエリパラメータを追跡する必要があります。クエリパラメータを追跡するに

は、コンポーネントで `currentPageReference` 変数を宣言してから `@wire(CurrentPageReference)` を使用して現在のページへの参照を取得します。`currentPageReference` 変数を宣言しない場合、クエリパラメータは追跡されません。このため、クエリパラメータは更新されず、現在の値を維持します。

コードを更新するには、`currentPageReference` 変数をコンポーネントのクラスに追加します。

```
export default class PageStateChangeExample extends NavigationMixin(LightningElement) {
    // Declare the currentPageReference variable in order to track it
    currentPageReference;

    @wire(CurrentPageReference)
    setCurrentPageReference(currentPageReference) {
        this.currentPageReference = currentPageReference;
```

関連トピック:

Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: リアクティビティ

`sfdx-lwc-jest` を v0.9.0 に更新する場合は Jest 連動関係を v25.5.4 に更新

`sfdx-lwc-jest` v0.9.0 の Jest 連動関係を Jest v25.5.4 に更新しました。`sfdx-lwc-jest` の更新後にテストが引き続き正常に実行されるようにするには、連動関係を更新してください。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning Web コンポーネントに適用されます。

関連トピック:

Lightning Web コンポーネント開発者ガイド: Lightning Web コンポーネントのテスト

Jest 25: Laying foundations for the future (将来のための基盤の構築)

iframe の Blob スキーマのブロック

コンテンツセキュリティポリシーの `frame-src` ディレクティブにより iframe から blob URL へのアクセスが防止されます。この変更は Spring '20 リリースで導入されましたが、現在まで文書化されていませんでした。

対象: この変更は、Lightning Experience およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

理由: この制限により、攻撃者がクリックジャック試行で任意のコンテンツを iframe に挿入するのを防ぎます。

方法: Blob URL に対する通常のリンクを使用し、iframe を使用する代わりに新しいタブまたはウィンドウでコンテンツを開きます。

関連トピック:

Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: コンテンツセキュリティポリシーの概要

リリースの更新 (旧称「重要な更新」): 延期された更新

いくつかの更新が延期され、それらの準備に時間をかけられるようになりました。

このセクションの内容:

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)

この更新は Winter '21 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能なゲスト、ポータル、またはコミュニティユーザを詳細に制御できるようになります。コミュニティまたはポータルで使用される `@AuraEnabled` Apex クラスにゲストユーザプロファイルを追加します。この更新が有効になると、ゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザはユーザのプロファイルまたは割り当てられた権限セットで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。

動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (更新、延期)

この更新は Winter '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。セキュリティと安定性を高めるために、この更新では、`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値が Aura 関数式として解釈されないようにします。

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)

この更新は Winter '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようになります。この更新が有効になると、認証済みユーザはユーザのプロファイルまたは割り当てられた権限セットで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。

Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックの有効化 (更新、延期)

この更新は Spring '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新は、すべてのコンポーネントの連動関係のアクセスレベルをチェックすることで、Lightning コンポーネントのアクセス権チェックを改善します。連動関係は、最上位コンポーネント内で使用されるリソースです。たとえば、コンポーネントはマークアップで別のコンポーネントを使用または拡張したり、インターフェースを実装したりできます。

暗黙的な共有での @AuraEnabled Apex コントローラの with sharing の使用 (更新、延期)

この更新は Spring '21 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、`with sharing` または `without sharing` を指定しないときの `@AuraEnabled` Apex コントローラのデフォルトの動作が `with sharing` に変更されます。この更新は、Spring '18 より後に作成された組織、または逆の効果がありデフォルトが `without sharing` に設定される廃止された更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」が有効になっている組織にのみ適用されます。Spring '18 より前に作成された組織は、すでにデフォルトで `with sharing` に設定されています。それらの組織では、現在廃止されている `without sharing` の更新を有効にしていない限り、この更新は表示されません。

管理パッケージの global 以外のコントローラメソッドへのアクセスの無効化 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Winter '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)

この更新は Winter '21 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能なゲスト、ポータル、またはコミュニティユーザを詳細に制御できるようになります。コミュニティまたはポータルで使用される `@AuraEnabled` Apex クラスにゲストユーザプロファイルを追加します。この更新が有効になると、ゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザはユーザのプロファイルまたは割り当てられた権限セットで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。

対象: この変更は、Lightning コミュニティ、ポータル、および Salesforce サイトの Aura コンポーネント、Lightning Web コンポーネント、フローに適用されます。

時期: この更新は、Sandbox 組織または本番組織を Winter '21 にアップグレードすると適用されます。2020 年 8 月 9 日以降は、インスタンスを Winter '21 にアップグレードすると更新が適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この更新が有効になると、ゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザはユーザのプロファイルまたは権限セットで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。この更新により、Aura および Lightning Web コンポーネントで使用される Apex クラスに対するユーザプロファイルと権限セットの制限が適用されます。

> **メモ:** 管理パッケージに含まれている `public` Apex コントローラへのアクセスを有効化するには、登録者組織で権限セットを使用する必要があります。ユーザプロファイルを使用して管理パッケージの `public` Apex コントローラへのアクセスを有効化することはできません。

方法: この更新をテストするには、適用開始日である 2020 年 8 月 9 日 (重要な更新 UI での自動有効化日) より前に Sandbox で作業を行ってテストを完了することをお勧めします。8 月 9 日以降は、更新の有効化や無効化を行うことはできず、すでに Winter '21 にアップグレード済みの Sandbox でのみ動作をテストできます。5 月 7 日までに更新を有効化しなかった場合は、インスタンスを Winter '21 にアップグレードした時点で自動的に有効化されます。

1. [設定] の [クイック検索] ボックスに「*リリースの更新*」と入力します。
2. [リリースの更新 (ベータ)] を選択します。
3. 「ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限」を探して、[詳細を表示] または [開始] をクリックします。

4. 開発したカスタム Aura コンポーネント、Lightning Web コンポーネント、フローがゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザに対して正しく動作することをテストします。

関連トピック:

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)
Apex 開発者ガイド: クラスのセキュリティ
Salesforce ヘルプ: ゲストユーザプロファイルの設定
リリース更新 (ベータ)

動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (更新、延期)

この更新は Winter '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。セキュリティと安定性を高めるために、この更新では、`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値が Aura 関数式として解釈されないようにします。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Lightning コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: この更新は Summer '19 で作成されたもので、Sandbox 組織または本番組織を Winter '21 にアップグレードすると適用されます。2020 年 8 月 9 日以降は、インスタンスを Winter '21 にアップグレードすると更新が適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この更新が有効化されると、オブジェクトで `$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値としてキー-値ペア `{"exprType": "FUNCTION"}` を使用すると、予期しない動作がトリガされるのではなく、エラーが発生します。

関連トピック:

Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: コンポーネントの動的な作成
リリース更新 (ベータ)

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)

この更新は Winter '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようになります。この更新が有効になると、認証済みユーザはユーザのプロファイルまたは割り当てられた権限セットで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: この更新は Winter '20 で作成されたもので、Sandbox 組織または本番組織を Winter '21 にアップグレードすると適用されます。2020 年 8 月 9 日以降は、インスタンスを Winter '21 にアップグレードすると更新が適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: この更新により、Aura および Lightning Web コンポーネントで使用される Apex クラスに対するユーザプロファイルと権限セットの制限が適用されます。

> **メモ:** 管理パッケージに含まれている `public` Apex コントローラへのアクセスを有効化するには、登録者組織で権限セットを使用する必要があります。ユーザプロファイルを使用して管理パッケージの `public` Apex コントローラへのアクセスを有効化することはできません。

方法: この更新をテストするには、適用開始日である 2020 年 8 月 9 日 (重要な更新 UI での自動有効化日) より前に Sandbox で作業を行ってテストを完了することをお勧めします。8 月 9 日以降は、更新の有効化や無効化を行うことはできず、すでに Winter '21 にアップグレード済みの Sandbox でのみ動作をテストできます。8 月 9 日までに更新を有効化しなかった場合は、インスタンスを Winter '21 にアップグレードした時点で自動的に有効化されます。

1. [設定] の [クイック検索] ボックスに「*リリースの更新*」と入力します。
2. [リリースの更新 (ベータ)] を選択します。
3. 「ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限」を探して、[詳細を表示] または [開始] をクリックします。
4. 開発したカスタム Aura または Lightning Web コンポーネントが認証済みユーザに対して正しく動作することをテストします。

関連トピック:

- 新しい権限セット: Aura 対応 Apex クラスアクセス
- ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)
- *Apex 開発者ガイド*: クラスのセキュリティ
- 管理パッケージの global 以外のコントローラメソッドへのアクセスの無効化 (更新、延期)
- リリース更新 (ベータ)

Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックの有効化 (更新、延期)

この更新は Spring '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新は、すべてのコンポーネントの連動関係のアクセスレベルをチェックすることで、Lightning コンポーネントのアクセス権チェックを改善します。連動関係は、最上位コンポーネント内で使用されるリソースです。たとえば、コンポーネントはマークアップで別のコンポーネントを使用または拡張したり、インターフェースを実装したりできます。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Sandbox 組織または本番組織を Spring '21 にアップグレードすると、この更新は自動的に有効化されます。2020 年 11 月 29 日以降は、インスタンスを Spring '21 にアップグレードすると更新が適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: Aura では、`access` システム属性を介して、アプリケーション、属性、コンポーネント、イベント、インターフェース、メソッドへのアクセスを制御できます。`access` システム属性は、リソースをその名前空間外

で使用できるかどうかを示します。Aura または Lightning Web コンポーネントでは、コンポーネントにアクセスするための権限を必要とすることもできます。

この更新を有効化すると、フレームワークは、各コンポーネントへのアクセスに必要な権限を含め、最上位コンポーネントおよび各コンポーネントの連動関係に対する許可されたアクセス権をチェックします。この更新を有効化しない場合、フレームワークは、最上位コンポーネントに対するアクセス権のみをチェックします。

方法: この更新をテストするには、適用開始日である 2020 年 11 月 29 日 (重要な更新 UI での自動有効化日) より前に Sandbox で作業を行ってテストを完了することをお勧めします。11 月 29 日以降は、更新の有効化や無効化を行うことはできず、すでに Spring '21 にアップグレード済みの Sandbox でのみ動作をテストできます。11 月 29 日までに更新を有効化しなかった場合は、インスタンスを Spring '21 にアップグレードした時点で自動的に有効化されます。

1. [設定] の [クイック検索] ボックスに「*リリースの更新*」と入力します。
2. **[リリースの更新 (ベータ)]** を選択します。
3. 「Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックを有効化」を探して、**[詳細を表示]** または **[開始]** をクリックします。
4. Lightning コンポーネントが含まれているパッケージをインストールしてある場合は、最新バージョンにアップグレードしてください。
5. カスタム Lightning コンポーネントが正しく動作することをテストします。

関連トピック:

Lightning Aura コンポーネント開発者ガイド: アクセスの制御
リリース更新 (ベータ)

暗黙的な共有での `@AuraEnabled` Apex コントローラの `with sharing` の使用 (更新、延期)

この更新は Spring '21 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、`with sharing` または `without sharing` を指定しないときの `@AuraEnabled` Apex コントローラのデフォルトの動作が `with sharing` に変更されます。この更新は、Spring '18 より後に作成された組織、または逆の効果がありデフォルトが `without sharing` に設定される廃止された更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」が有効になっている組織にのみ適用されます。Spring '18 より前に作成された組織は、すでにデフォルトで `with sharing` に設定されています。それらの組織では、現在廃止されている `without sharing` の更新を有効にしていない限り、この更新は表示されません。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Sandbox 組織または本番組織を Spring '21 にアップグレードすると、この更新は自動的に有効化されます。2020 年 11 月 29 日以降は、インスタンスを Spring '21 にアップグレードすると更新が適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: `with sharing` または `without sharing` を明示的に設定しない `@AuraEnabled` Apex クラスは、デフォルトまたは暗黙的な値として `with sharing` を使用します。廃止された更新「暗黙的な共有のある `@AuraEnabled` Apex コントローラで `without sharing` を使用」の目的は、Aura コンポーネントの Apex コン

トローラをデフォルトで `without sharing` にすることでした。この動作により Apex コントローラが Aura コンポーネントおよび Visualforce ページで一貫するようになりました。

さらに検討した結果、デフォルトで Lightning コンポーネントのセキュリティを確保することに決まりました。そこで、Aura コンポーネントまたは Lightning Web コンポーネントで使用される `@AuraEnabled` Apex クラスをデフォルトで `with sharing` に設定する新しい更新が作成されました。

Apex クラスは一般にシステムモードで実行されます。したがって、現在のユーザのログイン情報は Apex ロジックの実行に使用されないため、ユーザの権限と項目レベルのセキュリティは自動的に適用されません。

`with sharing` または `without sharing` キーワードを使用することによって、Apex クラスで共有ルールを適用するかどうかを選択できます。`with sharing` キーワードを使用した共有ルールを強制実行しても、ユーザの権限および項目レベルセキュリティは適用されません。CRUD 権限と項目レベルセキュリティは、Apex クラスで手動で別々に適用する必要があります。

方法: この更新に備えるための最良の方法は、すべての `@AuraEnabled` Apex コードで `with sharing` または `without sharing` キーワードを使用して共有動作を明示的に制御することです。すべての `@AuraEnabled` コードで共有動作が明示的に設定されている場合、この更新による影響を受けません。

この更新をテストするには、適用開始日である 2020 年 11 月 29 日 (重要な更新 UI での自動有効化日) より前に Sandbox で作業を行ってテストを完了することをお勧めします。11 月 29 日以降は、更新の有効化や無効化を行うことはできず、すでに Spring '21 にアップグレード済みの Sandbox でのみ動作をテストできます。11 月 29 日までに更新を有効化しなかった場合は、インスタンスを Spring '21 にアップグレードした時点で自動的に有効化されます。

1. [設定] の [クイック検索] ボックスに「*リリースの更新*」と入力します。
2. **[リリースの更新 (ベータ)]** を選択します。
3. 「暗黙的な共有での `@AuraEnabled` Apex コントローラの `with sharing` の使用」を探して、**[詳細を表示]** または **[開始]** をクリックします。
4. `with sharing` または `without sharing` キーワードを含まない Apex クラスを使用するコンポーネントの動作をテストします。

関連トピック:

Apex 開発者ガイド: 共有ルールの適用

Winter '20 リリースノート: 暗黙的な共有を行う @AuraEnabled Apex コントローラに対して without sharing を使用 (重要な更新、廃止)

リリース更新 (ベータ)

管理パッケージの `global` 以外のコントローラメソッドへのアクセスの無効化 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Winter '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションで Aura コンポーネントを使用する組織に適用されます。

時期: この更新は Summer '17 で作成されたもので、Sandbox 組織または本番組織を Summer '21 にアップグレードすると適用されます。2021 年 4 月 4 日以降は、インスタンスを Summer '21 にアップグレードすると更新が適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: `global` が付いた Apex コントローラメソッドのみが、管理パッケージに追加されると、その管理パッケージの名前空間外の Aura コンポーネントによってアクセス可能になります。Apex 定義で `public` が付いたメソッドは、パッケージの名前空間に含まれる Aura コンポーネントでのみアクセス可能です。この更新を有効にすると、これらのルールが適用されます。

この更新の前は、パッケージ名前空間外の Aura コンポーネントから `global` 以外のメソッド (`global` アクセス修飾子が付いていない Apex コントローラメソッド) にアクセスできました。

この更新を有効にすると、管理パッケージの `global` 以外の Apex メソッドをコードで誤って使用している場合、そのメソッドをコールするサーバアクションは失敗します。パッケージによって `global` メソッドとして提供されるサポート対象 API メソッドのみを使用するように、コードを更新してください。

メモ: パッケージ外の Aura コンポーネントは、名前空間以外のロック解除済みパッケージからインストールされた公開 Apex メソッドにアクセスできます。Aura コンポーネントは、別のパッケージからインストールするか、組織で作成できます。Apex メソッドにアクセスする場合、名前空間以外のロック解除済みパッケージは未管理パッケージと同様に扱われます。

方法: この更新をテストするには、適用開始日である 2021 年 4 月 4 日 (重要な更新 UI での自動有効化日) より前に Sandbox で作業を行ってテストを完了することをお勧めします。4 月 4 日以降は、更新の有効化や無効化を行うことはできず、すでに Summer '21 にアップグレード済みの Sandbox でのみ動作をテストできます。4 月 4 日までに更新を有効化しなかった場合は、インスタンスを Summer '21 にアップグレードした時点で自動的に適用されます。

1. [設定] の [クイック検索] ボックスに「*リリースの更新*」と入力します。
2. **[リリースの更新 (ベータ)]** を選択します。
3. 「管理パッケージの `global` 以外の Apex コントローラメソッドへのアクセスの無効化」を探して、**[詳細を表示]** または **[開始]** をクリックします。
4. カスタム Aura コンポーネントが正しく動作することをテストします。

関連トピック:

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)
リリース更新 (ベータ)

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

時期: Sandbox 組織または本番組織を Summer '21 にアップグレードすると、この更新が適用されます。2021 年 4 月 4 日以降は、インスタンスを Summer '21 にアップグレードすると更新が適用されます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: `counter` クラスプロパティの private getter を含む Apex クラスの例を見てみましょう。

```
public class EnforcePrivateGetter {
    @AuraEnabled

    public Integer counter { private get; set; }

    @AuraEnabled
    public static EnforcePrivateGetter GetRepro2()
    {
        EnforcePrivateGetter result = new EnforcePrivateGetter();
        result.counter = 2;
        return result;
    }
}
```

この更新が有効になると、この Aura コンポーネントは `{!v.apexObject.counter}` 式を使用して `private` getter にアクセスできなくなります。同じ制限が Lightning Web コンポーネントにも適用されます。

```
<aura:component controller="EnforcePrivateGetter" access="global">
    <aura:handler name="init" value="{!this}" action="{!c.doInit}"/>

    <aura:attribute type="EnforcePrivateGetter" name="apexObject" />

    counter = {!v.apexObject.counter} <br></br>
</aura:component>
```

JavaScript コントローラを次に示します。

```
({
    doInit : function(cmp, ev) {
        var action = cmp.get("c.GetRepro2");

        action.setCallback(this, function(response) {
          var state = response.getState();
          if (state === "SUCCESS") {
            cmp.set('v.apexObject', response.getReturnValue());
          }
          else if (state === "ERROR") {
            console.log('Error : ' + JSON.stringify(errors));
          }
        });
        $A.enqueueAction(action);
    }
})
```

この更新が有効になった場合、修正方法は、getter の `private` アクセス修飾子を削除して、クラス変数定義を次のように変更することです。

```
public Integer counter { get; set; }
```

Apex プロパティを Apex クラス外で参照可能にするには、プロパティに `private` または `protected` アクセス修飾子を含めないようにします。

方法: この更新をテストするには、適用開始日である 2021 年 4 月 4 日 (重要な更新 UI での自動有効化日) より前に Sandbox で作業を行ってテストを完了することをお勧めします。4 月 4 日以降は、更新の有効化や無効化を行うことはできず、すでに Summer '21 にアップグレード済みの Sandbox でのみ動作をテストできます。4 月 4 日までに更新を有効化しなかった場合は、インスタンスを Summer '21 にアップグレードした時点で適用されます。

1. [設定] の [クイック検索] ボックスに「*リリースの更新*」と入力します。
2. **[リリースの更新 (ベータ)]** を選択します。
3. 「Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用」を探して、**[詳細を表示]** または **[開始]** をクリックします。
4. getter に `private` または `protected` アクセス修飾子を含む Apex クラスを使用するコンポーネントの動作をテストします。

関連トピック:

リリース更新 (ベータ)

セキュリティアラート: ユーザプロファイルに基づく `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限

いくつかのセキュリティアラートがあります。

このセクションの内容:

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)
このセキュリティアラートは、Aura および Lightning Web コンポーネントで `@AuraEnabled` メソッドを使用する Apex クラスにアクセス可能なゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザを詳細に制御できるようにする更新に関連しています。

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)
このセキュリティアラートは、Aura および Lightning Web コンポーネントで `@AuraEnabled` メソッドを使用する Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようにする更新に関連しています。

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)

このセキュリティアラートは、Aura および Lightning Web コンポーネントで `@AuraEnabled` メソッドを使用する Apex クラスにアクセス可能なゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザを詳細に制御できるようにする更新に関連しています。

対象: この変更は、Lightning コミュニティ、ポータル、および Salesforce サイトの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: 関連付けられた更新が有効になると、ゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。この更新により、Aura および Lightning Web コンポーネントで使用される Apex クラスに対するユーザプロファイルの制限が適用されます。

方法: セキュリティアラートと組織の推奨事項を参照するには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「セキュリティアラート」と入力し、[セキュリティアラート] を選択します。

関連トピック:

- ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)
- リリース更新 (ベータ)

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの `@AuraEnabled` Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)

このセキュリティアラートは、Aura および Lightning Web コンポーネントで `@AuraEnabled` メソッドを使用する Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようにする更新に関連しています。

対象: この変更は、Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションの Aura コンポーネントと Lightning Web コンポーネントに適用されます。

理由: 関連付けられた更新が有効になると、認証済みユーザはユーザのプロファイルで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。この更新により、Aura および Lightning Web コンポーネントで使用される Apex クラスに対するユーザプロファイルの制限が適用されます。

方法: セキュリティアラートと組織の推奨事項を参照するには、[設定] の [クイック検索] ボックスに「セキュリティアラート」と入力し、[セキュリティアラート] を選択します。

関連トピック:

- ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)
- リリース更新 (ベータ)

Einstein Platform Services: 画像認識および自然言語処理

データサイエンティストや機械学習の専門家でなくても AI を内蔵したアプリケーションが必要になる場合があります。Einstein Platform Services API を使用すると、画像認識および自然言語処理によってアプリケーションを AI 対応にすることができます。Einstein Vision API を使用して、事前にトレーニングされた分類子を活用するか、カスタム分類子をトレーニングして、あらゆる画像認識事例を解決します。Einstein Language API では、自然言語処理の機能を利用してテキストを分析し、テキストのセンチメントや意図を推測できます。アプリケーションをスマートにすると同時にアプリケーションを天才のように扱います。

ALBERT EINSTEIN の権利は、ヘブライ大学の許可を受けた上で使用しています。Greenlight が排他的に代理人を務めています。

このセクションの内容:

Einstein Vision: Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、最適化されたアルゴリズムを使用した棚の商品の検出
Einstein OCR を使用して、画像内の英数字テキストを検出する光学式文字認識 (OCR) モデルを取得します。1 つの REST API エンドポイントからモデルにアクセスします。リテールアルゴリズムを使用して、リテールエグゼキューションシナリオに最適化されたモデルを作成します。

Einstein Language: 複数言語での Einstein Intent モデルの作成、ドメイン外のテキストをサポートする Einstein Intent モデルの作成
Einstein Intent のデータセットとモデルで、英語 (米国)、英語 (英国)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語がサポートされるようになりました。Einstein Intent では、予期しないドメイン外のテキストの予測を処理するモデルを作成できます。

Einstein Vision: Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、最適化されたアルゴリズムを使用した棚の商品の検出

Einstein OCR を使用して、画像内の英数字テキストを検出する光学式文字認識 (OCR) モデルを取得します。1 つの REST API エンドポイントからモデルにアクセスします。リテールアルゴリズムを使用して、リテールエグゼキューションシナリオに最適化されたモデルを作成します。

このセクションの内容:

Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出 (正式リリース)
Einstein OCR を使用して、画像内の英数字テキストを検出する光学式文字認識 (OCR) モデルを取得します。1 つの REST API エンドポイントからモデルにアクセスします。各モデルには、名刺のスキャン、商品の検索、ドキュメントとテーブルのデジタル化など、特定の使用事例があります。

最適化アルゴリズムを使用した小売の棚の商品の検出
棚の商品を識別するリテールエグゼキューションシナリオを改善します。最適化されたアルゴリズムを使用して、小売の使用事例に適した検出精度 (mAP) でモデルを作成できるようになりました。標準検出アルゴリズムで作成されたモデルと同じ機能も引き続き使用できます。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Vision (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Vision の概要)

Salesforce Einstein: Einstein Search の結果の改善、Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、Einstein Discovery のアルゴリズムとデータの増加による予測の改善

Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出 (正式リリース)

Einstein OCR を使用して、画像内の英数字テキストを検出する光学式文字認識 (OCR) モデルを取得します。1 つの REST API エンドポイントからモデルにアクセスします。各モデルには、名刺のスキャン、商品の検索、ドキュメントとテーブルのデジタル化など、特定の使用事例があります。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: API をコールするときに画像を送信すると、`task` パラメータの値に基づいたさまざまな要素が JSON 応答に含まれます。

- モデルが予測する英数字の文字列。
- 検出された境界ボックスにテキストが含まれる信頼性 (確度)。
- 画像内の文字列の位置の XY 座標 (境界ボックスとも呼ばれる)。
- 表形式データの場合、テキストが配置されているテーブルの行と列。
- 名刺の場合、検出されたテキストのエンティティ種別 (ORG、PERSON など)。

OCR エンドポイントへの cURL コールは次のようになります。

```
curl -X POST -H "Authorization: Bearer <TOKEN>" -F
sampleLocation="https://www.publicdomainpictures.net/pictures/
240000/velka/emergency-evacuation-route-signpost.jpg" -F task="text" -F modelId="OCRModel"
 https://api.einstein.ai/v2/vision/ocr
```

応答 JSON は、テキストとそのテキストの境界ボックスの座標 (ピクセル) を返します。

```
{
  "task": "text",
  "probabilities": [
    {
      "probability": 0.99937266,
      "label": "ROUTE",
      "boundingBox": {
        "minX": 582,
        "minY": 685,
        "maxX": 1151,
        "maxY": 815
```

```
      }
    },
    {
      "probability": 0.99471515,
      "label": "EMERGENCY",
      "boundingBox": {
        "minX": 361,
        "minY": 208,
        "maxX": 1383,
        "maxY": 346
      }
    },
    {
      "probability": 0.99469215,
      "label": "EVACUATION",
      "boundingBox": {
        "minX": 331,
        "minY": 438,
        "maxX": 1401,
        "maxY": 570
      }
    }
  ],
  "object": "predictresponse"
}
```

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: What is Einstein OCR? (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Einstein OCR とは何か)

Einstein Platform Services Developer Guide: Detect Text (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: テキストの検出)

最適化アルゴリズムを使用した小売の棚の商品の検出

棚の商品を識別するリテールエグゼキューションシナリオを改善します。最適化されたアルゴリズムを使用して、小売の使用事例に適した検出精度 (mAP) でモデルを作成できるようになりました。標準検出アルゴリズムで作成されたモデルと同じ機能も引き続き使用できます。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: リテールエグゼキューションアルゴリズムを使用するには、まず `image-detection` 種別のデータセットを作成します。次に、データセットをトレーニングしてモデルを作成するときに、`retail-execution` のアルゴリズムを指定します。cURL コマンドは次のとおりです。

```
curl -X POST -H "Authorization: <TOKEN>" -H "Cache-Control: no-cache" -H "Content-Type:
multipart/form-data" -F "name=Alpine Retail Model" -F "datasetId=<DATASET_ID>" -F
"algorithm=retail-execution" https://api.einstein.ai/v2/vision/train
```

これらのコールは `algorithm` パラメータを取ります。

- モデルをトレーニングする — POST `/v2/vision/train`
- モデルを再トレーニングする — POST `/v2/vision/retrain`

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド): Detect Products on Shelves with an Optimized Algorithm (最適化されたアルゴリズムを使用した棚の商品の検出)

Einstein Language: 複数言語での Einstein Intent モデルの作成、ドメイン外のテキストをサポートする Einstein Intent モデルの作成

Einstein Intent のデータセットとモデルで、英語 (米国)、英語 (英国)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語がサポートされるようになりました。Einstein Intent では、予期しないドメイン外のテキストの予測を処理するモデルを作成できます。

このセクションの内容:

Einstein Intent での複数言語のサポートを追加

Einstein Intent のデータセットとモデルで、英語 (米国)、英語 (英国)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語、中国語 (簡体字) (ベータ)、中国語 (繁体字) (ベータ)、日本語 (ベータ) がサポートされるようになりました。インテントデータセットを作成するときに、言語を指定します。データセットをトレーニングすると、モデルはデータセットの言語を継承します。

ドメイン外のテキストをサポートする Einstein Intent モデルの作成

Einstein Intent では、予期しないドメイン外のテキストの予測を処理するモデルを作成できます。ドメイン外のテキストとは、モデル内のどの表示ラベルにも該当しないテキストのことです。

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: Introduction to Salesforce Einstein Language (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: Salesforce Einstein Language の概要)

Salesforce Einstein: Einstein Search の結果の改善、Einstein OCR を使用した画像内のテキストの検出、Einstein Discovery のアルゴリズムとデータの増加による予測の改善

Einstein Intent での複数言語のサポートを追加

Einstein Intent のデータセットとモデルで、英語 (米国)、英語 (英国)、フランス語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語、中国語 (簡体字) (ベータ)、中国語 (繁体字) (ベータ)、日本語 (ベータ) がサポートされるようになりました。インテントデータセットを作成するときに、言語を指定します。データセットをトレーニングすると、モデルはデータセットの言語を継承します。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、および Contact Manager Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

ベータ機能である中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)、日本語のサポートはプレビューであり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」とはみなされません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce

はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforceはいかなる責任も負いません。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連するSalesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

方法: `language` と `algorithm` の2つの新しいAPIパラメータにより、複数言語のサポートが有効になります。データセットを作成するときに、`language` パラメータで言語を指定します。データセットをトレーニングしてモデルを作成するときに、`algorithm` パラメータで `multilingual-intent` または `multilingual-intent-ood` (ドメイン外の予測を処理するモデルを作成) の値を渡します。これらのコールは `language` パラメータを取ります。

- データセットを非同期的に作成する — POST `/v2/language/datasets/upload`
- データセットを同期的に作成する — POST `/v2/language/datasets/upload/sync`

これらのコールは `algorithm` パラメータを取ります。

- データセットをトレーニングする — POST `/v2/language/train`
- データセットを再トレーニングする — POST `/v2/language/retrain`

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: How to Implement Multiple Languages (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: 複数言語の実装方法)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Dataset from a File Asynchronously (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: ファイルからデータセットを非同期的に作成する)

Einstein Platform Services Developer Guide: Create a Dataset Synchronously (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットを同期的に作成する)

Einstein Platform Services Developer Guide: Train a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットのトレーニング)

Einstein Platform Services Developer Guide: Retrain a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットの再トレーニング)

ドメイン外のテキストをサポートする Einstein Intent モデルの作成

Einstein Intentでは、予期しないドメイン外のテキストの予測を処理するモデルを作成できます。ドメイン外のテキストとは、モデル内のどの表示ラベルにも該当しないテキストのことです。

対象: この変更は、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、およびContact Manager EditionのLightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのSalesforceアプリケーションに適用されます。

方法: インテントデータセットをトレーニングするときに、`algorithm` パラメータで `multilingual-intent-ood` の値を渡します。アルゴリズムがどのように機能するかを確認するため、[Billing (請求)]、[Order Change (注文の変更)]、[Password Help (パスワードヘルプ)]、[Sales Opportunity (販売機会)]、[Shipping Info (配送情報)] の5つの表示ラベルがあるケースのルーティングモデルがあるとします。テキスト「What is the

weather in Los Angeles? (ロサンゼルスの天気は?)」が予測に使用されます。モデルが標準アルゴリズムを使用して作成された場合、応答は次の JSON のようになります。

```
{
  "probabilities": [
    {
      "label": "Sales Opportunity",
      "probability": 0.9987062
    },
    {
      "label": "Shipping Info",
      "probability": 0.0008089547
    },
    {
      "label": "Order Change",
      "probability": 0.00046194126
    },
    {
      "label": "Billing",
      "probability": 0.000021637188
    },
    {
      "label": "Password Help",
      "probability": 0.0000012197639
    }
  ],
  "object": "predictresponse"
}
```

予測用に送信されたテキストは、どの表示ラベルにも該当しません。モデルはどの表示ラベルにも一致しない予測を処理するようには設計されていないため、最も確度の高い表示ラベルを返します。`multilingual-intent-ood` アルゴリズムを使用するモデルを作成し、同じ予測のテキストを送信した場合、応答は空の `probabilities` 配列を返します。

```
{
  "probabilities": [ ],
  "object": "predictresponse"
}
```

これらのコールは `algorithm` パラメータを取ります。

- データセットをトレーニングする — POST `/v2/language/train`
- データセットを再トレーニングする — POST `/v2/language/retrain`

関連トピック:

Einstein Platform Services Developer Guide: How to Handle Out-of-Domain Text (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: ドメイン外テキストの処理方法)

Einstein Platform Services Developer Guide: Train a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットのトレーニング)

Einstein Platform Services Developer Guide: Retrain a Dataset (Einstein プラットフォームサービス開発者ガイド: データセットの再トレーニング)

Visualforce: Lightning Message Service (正式リリース)、Android の日付ピッカーの新しい外観

Lightning Message Service を使用して Visualforce、Aura、Lightning Web コンポーネント間で通信できます。Android 用 Salesforce モバイルアプリケーションの日付ピッカーがネイティブ Android 表示になりました。

これらの機能強化の影響を受ける機能についての詳細は、『*Visualforce 開発者ガイド*』を参照してください。

このセクションの内容:

Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (正式リリース)
Lightning Message Service を使用して、DOM 全体の Visualforce ページ、Aura コンポーネント、Lightning Web コンポーネント (ユーティリティバーのコンポーネントを含む) の間で通信を行います。これを使用すると、1 つの Lightning ページ内または複数のページでコンポーネント間の通信を行うことができます。Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えると、既存の Visualforce ページや Aura コンポーネントと通信する Lightning Web コンポーネントを作成できます。

Visualforce URL の短縮 (更新、延期)
Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。Spring '18 でリリースされた更新「Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除」は 2020 年 7 月 11 日に Summer '20 の Sandbox 組織で有効化されます。ただし、本番組織での有効化は Winter '21 まで延期されます。

Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (更新)
Visualforce ページでは、API ナビゲーションコールが連続して実行されることがあり、不要な動作が発生する可能性があります。このリリース更新により、この API ナビゲーションコールパターンが回避され、最初のナビゲーションコールのみが実行されます。

ネストされた iframe をターゲットにする sforce.one オブジェクトの更新
Visualforce でネストされた iframe に関して、`sforce.one` オブジェクトのターゲティングが最上位のフレームから親に変更されました。この変更は、Visualforce のネストされた iframe と Lightning UI 間の通信を改善することを目的としています。

ネイティブ Android 日付ピッカーの Visualforce ページの更新
Android 用 Salesforce モバイルアプリケーションの日付ピッカーの表示がカスタム Android カレンダーからネイティブ Android カレンダーに変更されました。`datetime` 属性型のコンポーネントでは、日付ピッカーが Android で表示されなくなりました。

@namespaceAccessible を使用した異なるパッケージの Visualforce ページからのコントローラへのアクセス
異なるパッケージにある Visualforce ページから Apex コントローラにアクセスするには、`@namespaceAccessible` Apex アノテーションを使用します。デフォルトでは、第二世代パッケージにインストールされた Visualforce ページは別のパッケージの Apex クラスの公開 Apex メソッドをコールすることはできません。

Visualforce ページ情報に関する権限の変更
`ApexPageInfo` へのアクセスは、特定の Visualforce ページを参照できるユーザと「設定・定義を参照する」権限を持つユーザに制限されます。

Visualforce ページでレコードを編集するときに更新されたデータを表示

Lightning でレコードを編集すると、必要に応じてユーザインターフェースが直ちに更新されます。Summer '20 より前は、Visualforce ページでレコードを編集しても、レコードデータが更新されるだけで、ユーザインターフェースは直ちには更新されませんでした。これからは、特定の状況において Visualforce ページでレコードを編集すると、ユーザインターフェースのデータも直ちに更新されるようになります。

Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (正式リリース)

Lightning Message Service を使用して、DOM 全体の Visualforce ページ、Aura コンポーネント、Lightning Web コンポーネント (ユーティリティバーのコンポーネントを含む) の間で通信を行います。これを使用すると、1 つの Lightning ページ内または複数のページでコンポーネント間の通信を行うことができます。Salesforce Classic から Lightning Experience に切り替えると、既存の Visualforce ページや Aura コンポーネントと通信する Lightning Web コンポーネントを作成できます。

関連トピック:

Lightning Message Service を使用した Salesforce UI テクノロジ間の通信 (正式リリース)

Visualforce URL の短縮 (更新、延期)

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。Spring '18 でリリースされた更新「Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名を削除」は 2020 年 7 月 11 日に Summer '20 の Sandbox 組織で有効化されます。ただし、本番組織での有効化は Winter '21 まで延期されます。

対象: この変更は、Contact Manager Edition、Group Edition、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (更新、延期)

リリース更新 (ベータ)

Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (更新)

Visualforce ページでは、API ナビゲーションコールが連続して実行されることがあり、不要な動作が発生する可能性があります。このリリース更新により、この API ナビゲーションコールパターンが回避され、最初のナビゲーションコールのみが実行されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience に適用されます。

時期: Salesforce は、この更新を Spring '21 で適用します。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

理由: Visualforce ページで連続したナビゲーションコールを実行すると、API コールどうしの競合によって不要な動作が発生する場合があります。問題を防止するため、今回のリリース更新では、最初の API ナビゲーション

コールのみが受け入れられます。今回のリリース更新により、組織において予測可能で安定した動作が保証されます。

方法: この API ナビゲーションパターンを使用するすべての Visualforce ページに影響が及びます。影響を受けるすべての Visualforce ページを確認してください。Salesforce では、将来のリリースで代わりとなるパターンを提供する予定です。あるいは、Lightning コンポーネントを使用するようにページを編集してください。

関連トピック:

- リリース更新 (ベータ)

ネストされた iframe をターゲットにする `sforce.one` オブジェクトの更新

Visualforce でネストされた iframe に関して、`sforce.one` オブジェクトのターゲティングが最上位のフレームから親に変更されました。この変更は、Visualforce のネストされた iframe と Lightning UI 間の通信を改善することを目的としています。

対象: この変更は、Lightning Experience、モバイルでの Lightning、Lightning コミュニティに適用されます。

方法: 別の Visualforce ページ内でネストされた iframe で `sforce.one` 関数を使用した場合、ネストされたページはその親ページに代理で API を呼び出すよう要求する必要があります。ブラウザの `window.parent.postMessage()` API を使用して親ページに投稿します。次に、もう一度 `window.parent.postMessage()` API を使用して親 Lightning フレームに投稿します。

関連トピック:

- *Visualforce 開発者ガイド*: `sforce.one` での API バージョンの処理方法
- *Visualforce 開発者ガイド*: `sforce.one` オブジェクトを使用したナビゲーションとメッセージング

ネイティブ Android 日付ピッカーの Visualforce ページの更新

Android 用 Salesforce モバイルアプリケーションの日付ピッカーの表示がカスタム Android カレンダーからネイティブ Android カレンダーに変更されました。`datetime` 属性型のコンポーネントでは、日付ピッカーが Android で表示されなくなりました。

対象: この変更は、Android デバイスの Salesforce モバイルアプリケーションの Visualforce ページに適用されます。

方法: 次のコンポーネントは、Android OS のバージョンに応じてデザインが更新されています。

- `<apex:input type="date">`
- `<apex:input type="datetime">`
- `<apex:input type="datetime-local">`
- `<apex:input type="month">`
- `<apex:selectList>`
- `<apex:input type="time">`
- `<apex:input type="week">`

`<apex:input type="datetime">` や `<input type="datetime">` などの Visualforce `datetime` 入力は `datetime-local` 型に置き換えます。

メモ: Android モバイルアプリケーションでは、`<apex:inputField>` コンポーネントは常に Visualforce 日付ピッカーの代わりにネイティブ Android 日付ピッカーを使用します。

更新された Android インターフェースは、実行している Android OS のバージョンによって異なります。

`@namespaceAccessible` を使用した異なるパッケージの Visualforce ページからのコントローラへのアクセス

異なるパッケージにある Visualforce ページから Apex コントローラにアクセスするには、`@namespaceAccessible` Apex アノテーションを使用します。デフォルトでは、第二世代パッケージにインストールされた Visualforce ページは別のパッケージの Apex クラスの公開 Apex メソッドをコールすることはできません。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Visualforce ページが別のパッケージのコントローラにアクセスできるように、`@namespaceAccessible` Apex アノテーションをカスタムコントローラクラスに含めます。

関連トピック:

Visualforce 開発者ガイド: `@namespaceAccessible` を使用した異なるパッケージの Visualforce ページからのコントローラへのアクセス

Visualforce ページ情報に関する権限の変更

`ApexPageInfo` へのアクセスは、特定の Visualforce ページを参照できるユーザと「設定・定義を参照する」権限を持つユーザに制限されます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

関連トピック:

ナレッジ記事: ユーザプロファイル権限の説明

Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス: `ApexPageInfo`

Visualforce ページでレコードを編集するときに更新されたデータを表示

Lightning でレコードを編集すると、必要に応じてユーザインターフェースが直ちに更新されます。Summer '20 より前は、Visualforce ページでレコードを編集しても、レコードデータが更新されるだけで、ユーザインターフェースは直ちには更新されませんでした。これからは、特定の状況において Visualforce ページでレコードを編集すると、ユーザインターフェースのデータも直ちに更新されるようになります。

対象: この変更は Lightning Experience にのみ適用されます。Salesforce コミュニティや Salesforce アプリケーションには適用されません。

時期: この機能は、Summer'20 リリースからローリング方式でリリースされます。本番組織で利用可能になる時期については、アカウントエグゼクティブにお問い合わせください。

方法: この機能は、Lightning Experience で以下の状況にのみ適用されます。

- Visualforce 上書きページから (関連レコードではなく) レコードを編集した場合。

- レコードのホームページに埋め込まれている Visualforce ページから (関連レコードではなく) レコードを編集した場合。

これらの状況において Visualforce ページでレコードを編集すると、更新後のデータによってユーザインターフェースが直ちに更新されます。

パッケージ化: ロック解除済みの第二世代管理パッケージで利用可能なアップグレードの転送 (ベータ)、組織連動ロック解除済みパッケージの試用 (ベータ)

ロック解除済みの第二世代管理パッケージへのアップグレードをスケジュールして転送できるように、転送アップグレード API が拡張されました。組織のメタデータを分離するのが難しい場合は、組織連動ロック解除済みパッケージを使用します。第一世代管理パッケージの変換の早期プレビューを探索してください。

このセクションの内容:

ロック解除済みの第二世代管理パッケージへのアップグレードのスケジュールおよび転送 (ベータ)
ロック解除済みの第二世代管理パッケージへのアップグレードを転送するために、PackagePushRequest SOAP API オブジェクトが拡張されました。パッケージのアップグレードを受信する組織、パッケージのアップグレード先のバージョン、アップグレードのタイミングを選択できます。PackagePushJob and PackagePushError SOAP API オブジェクトを照会して、各ジョブの状況を追跡し、どのアップグレードが成功したかを確認して、エラーメッセージを確認します。

メタデータを分離できない場合の組織連動ロック解除済みパッケージの試用 (ベータ)
組織連動ロック解除済みパッケージは、インストール組織のパッケージ化されていないメタデータに連動するパッケージを作成できるようにするロック解除済みパッケージのバリエーションです。本番組織のメタデータを分離するのが困難なプロジェクトである場合は、組織連動ロック解除済みパッケージを使用できます。組織連動ロック解除済みパッケージを使用すると、パッケージバージョンの作成中ではなくパッケージインストール中にメタデータ検証が行われます。

第一世代管理パッケージの変換の早期プレビュー (開発者プレビュー)
この開発者プレビューでは、第一世代管理パッケージの第二世代管理パッケージへの変換の設計に関するプレビューを提供します。このプレビューでは、第一世代管理パッケージを変換し、スクラッチ組織のみで新規作成した第二世代管理パッケージをインストールできます。試用してみて、その体験をお聞かせください。

ロック解除済みパッケージのコードカバー率適用の準備
コードカバー率の計算は、ロック解除済みパッケージの Apex コードでテストカバー率が適切であることを検証するのに役立ちます。Winter '21 以降では、パッケージバージョンの昇格に 75% 以上のコードカバー率が必要です。Winter '21 以降で作成されたパッケージバージョンのうち、このコードカバー率を満たさないものは、スクラッチ組織および Sandbox でしかインストールできません。

ロック解除済みの第二世代管理パッケージへのアップグレードのスケジュールおよび転送 (ベータ)

ロック解除済みの第二世代管理パッケージへのアップグレードを転送するために、PackagePushRequest SOAP API オブジェクトが拡張されました。パッケージのアップグレードを受信する組織、パッケージのアップグレード先のバージョン、アップグレードのタイミングを選択できます。PackagePushJob and PackagePushError SOAP API オブジェクトを照会して、各ジョブの状況を追跡し、どのアップグレードが成功したかを確認して、エラーメッセージを確認します。

対象: この変更は、ロック解除済みの第二世代管理パッケージのインストール済みバージョンに適用されます。

ロック解除済みの第二世代管理パッケージのアップグレードの転送はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。ロック解除済みの第二世代管理パッケージのアップグレードの転送についてのフィードバックと提案は、Trailblazer Community のロック解除済みパッケージグループまたはパートナーコミュニティの管理パッケージグループからお寄せください。

対象ユーザ: ユーザには、システム管理者プロファイルまたは「第二世代パッケージの作成および更新」権限が必要です。

理由: ロック解除済みの第二世代管理パッケージの所有者は、登録者に負担をかけずにパッケージアップグレードを転送できるようになりました。ホットバグ修正の変更を転送する必要がある場合、この機能は重要です。

関連トピック:

- *Salesforce DX 開発者ガイド*: Push a Package Upgrade (パッケージアップグレードの転送)
- *SOAP API 開発者ガイド*: PackagePushRequest
- *SOAP API 開発者ガイド*: PackagePushJob

メタデータを分離できない場合の組織連動ロック解除済みパッケージの試用 (ベータ)

組織連動ロック解除済みパッケージは、インストール組織のパッケージ化されていないメタデータに連動するパッケージを作成できるようにするロック解除済みパッケージのバリエーションです。本番組織のメタデータを分離するのが困難なプロジェクトである場合は、組織連動ロック解除済みパッケージを使用できます。組織連動ロック解除済みパッケージを使用すると、パッケージバージョンの作成中ではなくパッケージインストール中にメタデータ検証が行われます。

対象: この変更は、Salesforce CLI を使用して作成されたロック解除済みパッケージに適用されます。

ベータ機能の組織連動ロック解除済みパッケージは、プレビュー版であり、Salesforce のマスターサブスクリプション契約の「本サービス」には含まれていません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定

期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。組織連動ロック解除済みパッケージに関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community からお寄せください。

対象ユーザ: ユーザには、システム管理者プロファイルまたは「第二世代パッケージの作成および更新」権限が必要です。

理由: 長期にわたる大規模な本番組織では、大量のメタデータが蓄積していることが多く、パッケージベースのアプリケーションライフサイクル管理 (ALM) アプローチを採用するときにモジュール化しにくくなっています。組織連動ロック解除済みパッケージにより、大規模で複雑な組織を持つお客様がすべてのメタデータ連動関係を解決せずにロック解除済みパッケージを使用できるようになりました。

メモ: 組織連動ロック解除済みパッケージは、個別のパッケージ種別ではなく、ロック解除済みパッケージのバリエーションです。ロック解除済みパッケージと同じパッケージ開発ステップに従い、同じサポートされるメタデータ型を使用します。

方法: パッケージ化を有効にするには、先に Dev Hub を有効にします。[設定] から、[クイック検索] ボックスに「*Dev Hub*」と入力し、**[Dev Hub]** を選択します。**[Dev Hub を有効化]** を選択し、**[ロック解除済みパッケージと第二世代管理パッケージを有効化]** を選択します。

`package:create` CLI コマンドで `orgdependent` CLI パラメータを使用します。

次に、Sandbox でのソース追跡 (ベータ) を使用して組織連動ロック解除済みパッケージを開発することを検討します。

第一世代管理パッケージの変換の早期プレビュー (開発者プレビュー)

この開発者プレビューでは、第一世代管理パッケージの第二世代管理パッケージへの変換の設計に関するプレビューを提供します。このプレビューでは、第一世代管理パッケージを変換し、スクラッチ組織のみで新規作成した第二世代管理パッケージをインストールできます。試用してみて、その体験をお聞かせください。

対象: この変更は、Salesforce CLI または Tooling API を使用して作成された管理パッケージバージョンに適用されます。

第一世代管理パッケージの変換は開発者プレビューとして利用できます。この機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。すべてのコマンド、パラメータ、およびその他の機能は、通知の有無に関わらずいつでも変更または廃止される可能性があります。これらのコマンドまたはツールを使用して開発した機能を実装しないでください。

方法: この開発者プレビューへの参加についての詳細は、パートナーコミュニティの管理パッケージグループの記事をご覧ください。

ロック解除済みパッケージのコードカバー率適用の準備

コードカバー率の計算は、ロック解除済みパッケージの Apex コードでテストカバー率が適切であることを検証するのに役立ちます。Winter '21 以降では、パッケージバージョンの昇格に 75% 以上のコードカバー率が必要です。Winter '21 以降で作成されたパッケージバージョンのうち、このコードカバー率を満たさないものは、スクラッチ組織および Sandbox でしかインストールできません。

対象: この変更は、Salesforce CLI または Tooling API を使用して作成されたロック解除済みパッケージバージョンに適用されます。

時期: この変更は、Winter '21 で有効になります。Winter '21 より前にリリース済み状態に昇格されたロック解除済みパッケージバージョンは、コードカバー率の要件の対象になりません。

方法: パッケージバージョンを作成するときに Package2VersionCreateRequest オブジェクトの `CalculateCodeCoverage` 項目または `force:package:version:create` の `codecoverage` CLI パラメータを使用できます。

関連トピック:

Salesforce DX 開発者ガイド: ロック解除済みパッケージのコードカバー率の計算

Apex

新しい `@JsonAccess` アノテーションは、Apex型を逐次化および並列化する方法を制御します。リアルタイムイベントモニタリングの新しい `ConcurLongRunApexErrEvent` 標準プラットフォームイベントは、実行時間が長い同時 Apex エラーを検出します。リリース更新「組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化」の自動有効化日付が 2021 年 8 月 9 月から 2020 年 8 月 12 日に前倒しされました。2 つのリリース更新では、ユーザが AsyncApexJob、ApexTestResult およびその他のいくつかのオブジェクトにアクセスする場合に「設定・定義を参照する」権限が必要になります。Transaction Finalizers 機能 (Spring '20 で導入) は、Finalizer の実行の要求 ID を返す `FinalizerContext.getRequestId()` メソッドで強化されています。

これらの機能強化についての詳細は『Apex 開発者ガイド』を参照してください。

このセクションの内容:

- Apex 型を逐次化および並列化する方法の制御
- 組織で実行時間が長い同時 Apex の上限を超えた場合のエラーの検出
- 組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (以前にリリース済みの更新)

Apex 型を逐次化および並列化する方法の制御

Apex クラスレベルで定義される新しい `@JsonAccess` アノテーションは、クラスのインスタンスが逐次化または並列化できるかどうかを制御します。アノテーションで JSON の逐次化および並列化が制限されている場合、`JSONException` 実行時例外が発生します。

組織で実行時間が長い同時 Apex の上限を超えた場合のエラーの検出

新しい `ConcurLongRunApexErrEvent` リアルタイムイベントモニタリングイベントを使用してエラーを追跡します。このイベントを使用して、組織で実行時間が長い同時 Apex 要求の上限を超えたために新しい Apex 要求が開始に失敗したときに通知を受信します。組織でこれらのイベントが同時に大量に発生した場合、リソースの可用性に基づいてイベントのレート制限が行われる可能性があります。そのような場合、イベントの完全なリストについては、Apex 関連の EventLogFile イベントを参照してください。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (以前にリリース済みの更新)

組織スキーマの改善されたキャッシュにより、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。自動有効化 (適用) 日付が 2021 年 8 月 9 月から 2020 年 8 月 12 日にほぼ 1 年前倒しされました。Summer '20 にアップグレードされている Sandbox 組織は、この更新がデフォルトで有効になります。自動的に有効になるまで、手動で更新を無効にできます。

非同期 Apex ジョブをキューに追加する場合の「設定を参照」権限の必須化 (更新)

この更新により、Salesforce 組織のセキュリティが向上します。この更新を有効にすると、ユーザが SOAP API で AsyncApexJob および FlexQueueItem オブジェクトにアクセスする場合に「設定・定義を参照する」権限が必要になります。

Apex テストデータにアクセスする場合の「設定を参照」権限の必須化 (更新)

この更新により、Salesforce 組織のセキュリティが向上します。この更新を有効にすると、ユーザが sObject (ApexTestQueueItem、ApexTestResult、ApexTestResultLimits、ApexTestRunResult、ApexTestSuite、TestSuiteMembership) にアクセスする場合に「設定・定義を参照する」権限が必要になります。

TransactionFinalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (パイロット)

Summer '20 では、Finalizer の実行の要求 ID を返す `FinalizerContext.getRequestId()` メソッドで Transaction Finalizers 機能が強化されています。

最大 2,000 件の Big Object レコードの一括削除

`deleteImmediate()` メソッドで最大 2,000 件の Big Object レコードを同時に一括削除できるようになりました。これは、`deleteByExample()` メソッドの SOAP API 制限と一貫性があります。

プッシュ通知の制限が緩和されました

iOS プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 20,000 件、Android プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 10,000 件送信できます。

呼び出し可能アクションのカスタムプロパティエディタの作成 (ベータ)

システム管理者が Flow Builder で呼び出し可能なカスタムアクションを簡単に設定できる、カスタムプロパティエディタを作成します。カスタムプロパティエディタは、単に Lightning Web コンポーネントです。

関連トピック:

- Apex: 新規および変更された項目

Apex 型を逐次化および並列化する方法の制御

Apex クラスレベルで定義される新しい `@JsonAccess` アノテーションは、クラスのインスタンスが逐次化または並列化できるかどうかを制御します。アノテーションで JSON の逐次化および並列化が制限されている場合、`JSONException` 実行時例外が発生します。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: `@JsonAccess` アノテーションの `serializable` および `deserializable` パラメータにより、Apex で逐次化および並列化が許可されるコンテキストが適用されます。一方または両方のパラメータを指定できますが、パラメータなしでアノテーションを指定することはできません。逐次化および並列化を許可するかどうか示すパラメータの有効な値は、次のとおりです。

- `never`: 許可しない
- `sameNamespace`: 同じ名前空間の Apex コードの場合にのみ許可する
- `samePackage`: 同じパッケージの Apex コードの場合にのみ許可する (第二世代パッケージにのみ影響)
- `always`: どの Apex コードでも常に許可する

バージョン 48.0 以前の場合、既存の動作を保持するために並列化のデフォルトのアクセス権は `always`、逐次化のデフォルトのアクセス権は `sameNamespace` になっています。バージョン 49.0 以降の場合、並列化と逐次化のデフォルトのアクセス権はどちらも `sameNamespace` になります。

次のコード例は、`@JsonAccess` アノテーションでマークされている Apex クラスを示します。

```
@JsonAccess(serializable='never' deserializable='sameNamespace')
public class Foo {}
```

組織で実行時間が長い同時 Apex の上限を超えた場合のエラーの検出

新しい `ConcurLongRunApexErrEvent` リアルタイムイベントモニタリングイベントを使用してエラーを追跡します。このイベントを使用して、組織で実行時間が長い同時 Apex 要求の上限を超えたために新しい Apex 要求が開始に失敗したときに通知を受信します。組織でこれらのイベントが同時に大量に発生した場合、リソースの可用性に基づいてイベントのレート制限が行われる可能性があります。そのような場合、イベントの完全なリストについては、Apex 関連の EventLogFile イベントを参照してください。

対象: この変更は、イベントモニタリングが有効になっている Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: イベントモニタリングは、Salesforce Shield または Event Monitoring アドオンサブスクリプションを購入した顧客が使用できます。

関連トピック:

Platform イベント開発者ガイド: ConcurLongRunApexErrEvent (リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります)

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (以前にリリース済みの更新)

組織スキーマの改善されたキャッシュにより、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。自動有効化 (適用) 日付が 2021 年 8 月 9 月から 2020 年 8 月 12 日にほぼ 1 年前倒しされました。Summer '20 にアップグレードされている Sandbox 組織は、この更新がデフォルトで有効になります。自動的に有効になるまで、手動で更新を無効にできます。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、2020 年 8 月 12 日に自動的に適用され、Spring '20 から有効化できるようになっています。

メモ: 自動有効化 (適用) 日付が 2021 年 8 月 9 月から 2020 年 8 月 12 日にほぼ 1 年前倒しされました。Summer '20 にアップグレードされている Sandbox 組織は、この更新がデフォルトで有効になります。自動適用日になるまで、手動で更新を無効にできます。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。

方法: この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリースの更新」と入力し、[リリースの更新] を選択します。次に、このリリースの更新を選択します。

理由: この更新は、標準オブジェクト、カスタムオブジェクト、およびそれらの項目を含む組織スキーマを定義してキャッシュする内部システムを改善することで、既知のバグを修正します。ドキュメントに記載された組織のスキーマの動作に変更はありません。この更新では、ドキュメントが既知の動作と一致しないバグが修

正されます。また、ドキュメントに記載されていないオブジェクト種別が Apex の Describe Result メソッドに表示されたり、バージョン固有のスキーマの詳細が不適切に再利用されるという、まれに発生する断続的な問題も解決されます。

関連トピック:

ナレッジ記事:「組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化」重要な更新の自動有効化の日付は 2020 年 8 月 12 日です
リリース更新 (ベータ)

非同期 Apex ジョブをキューに追加する場合の「設定を参照」権限の必須化 (更新)

この更新により、Salesforce 組織のセキュリティが向上します。この更新を有効にすると、ユーザが SOAP API で AsyncApexJob および FlexQueueItem オブジェクトにアクセスする場合に「設定・定義を参照する」権限が必要になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、2020 年 8 月 07 日に自動的に適用されます。

方法: この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリースの更新」と入力し、[リリースの更新] を選択します。次に、このリリースの更新を選択します。

Apex 一括処理ジョブ、@future メソッドジョブ、Queueable メソッドジョブ、スケジュール済み Apex ジョブをキューに追加するために使用される匿名 Apex は、「設定・定義を参照する」権限を持つユーザとして実行する必要があります。

メモ: この更新は、Apex クラス、Apex トリガ、またはシステムモードで実行される他の機能には影響しません。

関連トピック:

リリース更新 (ベータ)

Apex テストデータにアクセスする場合の「設定を参照」権限の必須化 (更新)

この更新により、Salesforce 組織のセキュリティが向上します。この更新を有効にすると、ユーザが sObject (ApexTestQueueItem、ApexTestResult、ApexTestResultLimits、ApexTestRunResult、ApexTestSuite、TestSuiteMembership) にアクセスする場合に「設定・定義を参照する」権限が必要になります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

時期: この更新は、2020 年 8 月 07 日に自動的に適用されます。

方法: この更新を適用するには、[設定] から [クイック検索] ボックスに「リリースの更新」と入力し、[リリースの更新] を選択します。次に、このリリースの更新を選択します。

Apex テストをキューに追加したり、Apex テストに関連するデータにアクセスしたりする匿名 Apex または API は、「設定・定義を参照する」権限を持つユーザとして実行する必要があります。

メモ: この更新は、Apex クラス、Apex トリガ、またはシステムモードで実行される他の機能には影響しません。

関連トピック:

リリース更新 (ベータ)

TransactionFinalizers を使用した非同期 Apex ジョブへのアクションの関連付け (パイロット)

Summer '20 では、Finalizer の実行の要求 ID を返す `FinalizerContext.getRequestId()` メソッドで Transaction Finalizers 機能が強化されています。

対象: この変更は、組織の作成時に機能を有効化したスクラッチ組織の Lightning Experience と Salesforce Classic にのみ適用されます。Finalizer は、現在パイロットとして提供されており、スクラッチ組織でのみ使用できるため、パッケージ化しないでください。

メモ: TransactionFinalizers 機能は、組織の作成時に機能を有効化したスクラッチ組織でのみ、パイロットプログラムとして使用できます。この機能は変更される可能性があり、パイロット期間中は本番組織で使用できません。パイロットプログラムは変更される可能性があります。この機能は、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。この機能に関するフィードバックや提案は、TrailblazerCommunity の「TransactionFinalizers」グループに投稿してください。

方法:

`System.FinalizerContext` インターフェースには 4 つのメソッドがあります。

- `getAsyncApexJobId` メソッド: この Finalizer が定義されているキュー可能ジョブの ID を返します。
- `getRequestId` メソッド: Finalizer の実行と Finalizer が関連付けられているキュー可能ジョブの両方で共有される要求 ID を返します。この共有 ID は、キュー可能ジョブとそれに関連付けられている Finalizer のログを絞り込むのに役立ちます。
- `getResult` メソッド: Finalizer が関連付けられている親非同期 Apex キュー可能ジョブの結果を表す `System.ParentJobResult` 列挙を返します。この列挙は、`SUCCESS`、`UNHANDLED_EXCEPTION` の値を取ります。
- `getException` メソッド: `getResult` が `UNHANDLED_EXCEPTION` の場合はキュー可能ジョブが失敗し、それ以外の場合は null になる例外を返します。

アクションをキュー可能ジョブに関連付けるには、次のように FinalizerContext インターフェースを実装します。

1. `System.FinalizerContext` インターフェースを実装するクラスを定義します。
2. キュー可能ジョブの `execute` メソッド内で Finalizer を関連付けます。Finalizer を関連付けるには、System.FinalizerContext インターフェースを実装するインスタンス化されたクラスの引数として `System.attachFinalizer` メソッド使用して、このメソッドを呼び出します。

メモ: 1 つの Finalizer インスタンスのみを任意のキュー可能ジョブに関連付けることができます。`execute` メソッドの Finalizer の実装では、1 つの非同期 Apex ジョブ (キュー可能ジョブ、実行予定ジョブ、一括処理ジョブ) をキューに追加できます。Finalizer の実装ではコールアウトを使用できます。

Transaction Finalizers についての詳細 (例を含む) は、『*Apex 開発者ガイド*』の「Transaction Finalizers (パイロット)」参照してください。

最大 2,000 件の Big Object レコードの一括削除

`deleteImmediate()` メソッドで最大 2,000 件の Big Object レコードを同時に一括削除できるようになりました。これは、`deleteByExample()` メソッドの SOAP API 制限と一貫性があります。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

プッシュ通知の制限が緩和されました

iOS プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 20,000 件、Android プッシュ通知は組織ごとに 1 時間あたり最大 10,000 件送信できます。

対象: この変更は、Apex コードを介してプッシュ通知を送信するカスタム接続モバイルアプリケーションに適用されます。

関連トピック:

制限の緩和によるより多くのプッシュ通知の送信

呼び出し可能アクションのカスタムプロパティエディタの作成 (ベータ)

システム管理者が Flow Builder で呼び出し可能なカスタムアクションを簡単に設定できる、カスタムプロパティエディタを作成します。カスタムプロパティエディタは、単に Lightning Web コンポーネントです。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

呼び出し可能なカスタムアクションのカスタムプロパティのサポートはベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。呼び出し可能なカスタムアクションのカスタムプロパティエディタに関するフィードバックや提案は、Trailblazer Community に投稿してください。

方法: 『Lightning Web コンポーネント開発者ガイド』の「*Flow Builder のカスタムプロパティエディタの開発(ベータ)*」を参照してください。

関連トピック:

- Flow Builder での呼び出し可能アクションの設定の簡易化 (ベータ)
- *Lightning Web コンポーネント開発者ガイド*: フロー

API

API バージョン 49.0 では、Bulk API 2.0 を使用して、Salesforce 組織内のメタデータコンポーネント間の連動関係を照会します。ドキュメントに合わせて Sandbox の同時 API 要求数の制限が修正されました。

メモ: 新規または変更された Einstein Analytics REST API をお探しですか? 今回のリリースで、Einstein Analytics API の更新が API の他の新規追加および変更された項目と共に「開発」セクションの最後付近に追加されました。知っておくべき変更は引き続きすべてカバーされています。すべての Salesforce API コンテンツが 1 か所に整理されて、開発者が見つけやすくなっています。ご意見をお寄せください。リリースノートのトピックのフィードバックフォームを使用するか、@salesforcedocs 宛にツイートしてください。

このセクションの内容:

- Sandbox の同時 API 要求数の制限の修正
  許容制限がドキュメントの記載よりも高くなっていた問題が修正されました。

Sandbox の同時 API 要求数の制限の修正

許容制限がドキュメントの記載よりも高くなっていた問題が修正されました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Professional Edition (API アクセス有効)、Unlimited Edition、および Performance Edition に適用されます。

カスタムメタデータ型: 項目の要素に対するリレーションの作成

エンティティパーティクルを参照するカスタムメタデータ型リレーション項目を宣言的に定義します。

このセクションの内容:

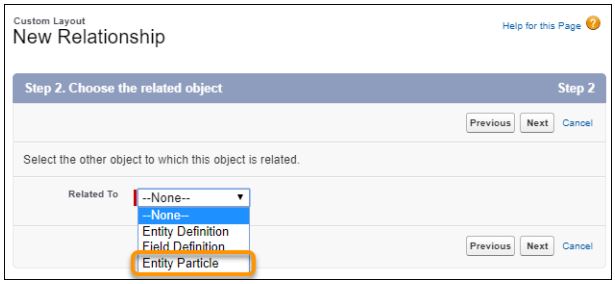
- カスタムメタデータ型からエンティティパーティクルへのリレーションの作成
  カスタムメタデータ型は、項目の複合要素であるエンティティパーティクルへのリレーションをサポートするようになりました。たとえば、標準項目 *[住所]* の複合要素である *[郵便番号]* へのリレーションを作成できます。

カスタムメタデータ型からエンティティパーティクルへのリレーションの作成

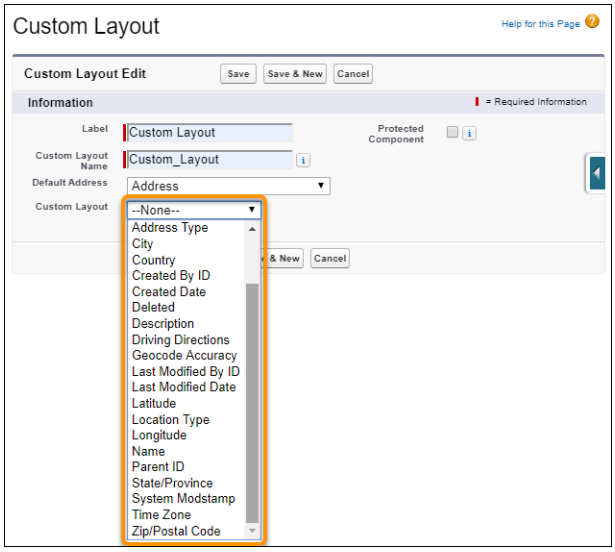
カスタムメタデータ型は、項目の複合要素であるエンティティパーティクルへのリレーションをサポートするようになりました。たとえば、標準項目 *[住所]* の複合要素である *[郵便番号]* へのリレーションを作成できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition、Database.com Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。Professional Edition 組織では、インストール済みパッケージの型のみのカスタムメタデータレコードを作成、編集、および削除できます。

方法: エンティティパーティクルへのカスタムメタデータリレーションを作成するには、最初にエンティティ定義リレーション項目を作成してから、エンティティパーティクルリレーション項目を作成します。



カスタムメタデータ型のレコードを作成するときに、ドリルダウンしてリレーションの複合要素を選択できるようになりました。たとえば、*[住所]* の複合要素である *[郵便番号]* や *[タイムゾーン]* を選択できます。



関連トピック:

カスタムメタデータリレーション

スクラッチ組織: 新機能

スクラッチ組織は、専用かつ設定可能なSalesforce環境で、さまざまな目的のために素早く作成できます。スクラッチ組織は、自分の個人的な開発環境として使用できます。または、自動テストのためにヘッドレススクラッチ組織を作成することもできます。本番組織や Developer Edition 組織で Dev Hub を有効にした場合、または Dev Hub トライアル組織がある場合に、スクラッチ組織を作成できます。継続的に新機能のサポートを追加していきます。

詳細は、『Salesforce DX 開発者ガイド』の「スクラッチ組織」を参照してください。

このセクションの内容:

機能が追加されたスクラッチ組織の作成
スクラッチ組織には設定可能な機能がさらに多く提供されています。

機能が追加されたスクラッチ組織の作成

スクラッチ組織には設定可能な機能がさらに多く提供されています。

対象: この変更は、Developer Edition、Enterprise Edition、Group Edition、Professional Edition の Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 機能をスクラッチ組織定義ファイルに追加します。

- CacheOnlyKeys
- EncryptionStatisticsInterval
- EncryptionSyncInterval
- MinKeyRotationInterval
- NonprofitCloudCaseManagementUser
- SFDOInsightsDataIntegrityUser

廃止されるスクラッチ組織の機能

次のスクラッチ組織機能は Summer '20 で廃止されました。スクラッチ組織定義ファイルで次のいずれかの機能を指定している場合は、ファイルから機能を削除してください。定義ファイルで、廃止された機能が指定されている場合、スクラッチ組織の作成は失敗します。

- DensityValue
- ExternalSharing (デフォルトで有効になります)
- ListCustomSettingCreation (SchemaSettings.enableListCustomSettingCreation メタデータ API を使用)

関連トピック:

Salesforce DX 開発者ガイド: スクラッチ組織定義の設定値

Sandbox: Data Mask およびローカルワークスペースでの変更の自動追跡を使用してデータを保護する新しい強力な方法 (ベータ)

新しいツールを使用して、Sandbox で個人識別情報その他の機密データを保護できます。Developer および Developer Pro Sandbox でソース追跡を有効化します (ベータ)。Sandbox 操作用の Salesforce CLI コマンドが正式にリリースされました。

このセクションの内容:

Data Mask を使用してデータを保護する新しい強力な方法
強化された機能により、新しい強力な方法ですべての機密データを保護できます。システム管理者は Data Mask を使用して Sandbox のデータを自動的にマスクできます。

Data Mask を使用してデータを保護する新しい強力な方法

強化された機能により、新しい強力な方法ですべての機密データを保護できます。システム管理者は Data Mask を使用して Sandbox のデータを自動的にマスクできます。

対象:

この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ:

システム管理者プロファイルを持つユーザは、Data Mask をインストールまたは更新できます。

理由:

次の機能強化が Data Mask で使用できます。

- Data Mask では、オブジェクトでフィード追跡を有効にしている場合であっても、マスクプロセス中に Chatter フィードのレコードに対して行われた変更の通知が投稿されません。
- テキストおよびテキストエリア項目種別の [ユニーク] と呼ばれる新しい設定により、一意にするためにレコード ID からライブラリの語句またはランダムな文字に文字が追加されます。この設定は、重複ルールが定義されているオブジェクトに便利です。
- [順次実行モード] と呼ばれる新しい設定オプションにより、主従関係および参照関係が存在することによって引き起こされるエラーを防止します。
- Chatter と拡張メールは Data Mask をインストールするための前提条件ではありません。
- Data Mask 設定で [今すぐ実行] をクリックした後にブラウザのウィンドウを開いたままにしておく必要はありません。
- データマスクにより、すべてのメールアドレスが一意になります。[メール] は重複ルールで最もよく使用される項目です。この変更により、重複するメールアドレスが原因でマスク中にレコードがスキップされることがなくなります。
- マスキングルールを設定すると、ダッシュありとダッシュなしのカナダの郵便番号および SSN の新しいライブラリを使用できます。
- 機密データは、選択したパターンを使用して生成されたデータに置換できます。
- 新しい検索オプションにより、マスクするオブジェクトや項目をすばやく見つけることができます。

- 進行中のデータマスキングジョブを停止して、無効化されているオートメーションを再び有効化できます。
- 既存のマスキング設定をコピーして新しい設定を作成できます。

方法:

Data Mask は本番組織にインストールして実行する管理パッケージです。その後、本番組織で作成された任意の Sandbox からマスクプロセスを実行します。

関連トピック:

Salesforce ヘルプ: Salesforce Data Mask を使用した Sandbox データの保護

Lightning Design System: 他のコンポーネントの拡張に伴うモバイルとタッチのサポート拡大

Salesforce Lightning Design System (SLDS) には、Salesforce Lightning の原則、設計言語、およびベストプラクティスに一致するユーザインターフェースを作成するリソースが含まれています。このリリースでは、モバイルデバイスおよびタッチデバイスのユーザエクスペリエンスの拡張に重点を置きました。

既存のコンポーネントの動作の更新およびバグの修正は頻繁に実施されます。最新の変更については、Lightning Design System のドキュメントの「What's New (新機能)」を参照してください。このページでは、変更を完了した日付を基準に変更がリストされています。これらの変更は、次回の Salesforce メジャーリリースにまとめられます。Summer '20 の特長をいくつか紹介します。

このセクションの内容:

アプリケーションのモバイルおよびタッチユーザインターフェースの改善
SLDS を使用して、モバイルデバイスとタッチデバイスでも一貫性のある環境をユーザに提供します。

Lightning Design System コンポーネントの更新
次の機能強化やバグ修正により、SLDS コンポーネントおよびユーティリティをより活用できるようになりました。

アプリケーションのモバイルおよびタッチユーザインターフェースの改善

SLDS を使用して、モバイルデバイスとタッチデバイスでも一貫性のある環境をユーザに提供します。

時期: SLDS の改善は頻繁に行われています。最新の変更については、Lightning Design System のドキュメントの「What's New (新機能)」を参照してください。このページでは、変更を完了した日付を基準に変更がリストされています。これらの変更は、次回の Salesforce メジャーリリースにまとめられます。次の変更が Summer '20 に含まれています。

方法: 次の SLDS コンポーネントの新しいドキュメントおよび例を使用して、モバイルまたはタッチ UI コンテキストで動作を確認します。

- ボタンアイコン
- カード
- チェックボックス

- チェックボックスボタン
- チェックボックスボタングループ
- チェックボックス切り替えボタン
- コンボボックス
- フォーム要素
- 入力
- 地図
- メニュー
- モーダル
- パス
- ピル
- ポップオーバー
- 進行状況インジケータ
- ラジオボタングループ
- ラジオグループ
- スライダ
- テキストユーティリティ

Lightning Design System コンポーネントの更新

次の機能強化やバグ修正により、SLDS コンポーネントおよびユーティリティをより活用できるようになりました。

時期: SLDS の改善は頻繁に行われています。最新の変更については、Lightning Design System のドキュメントの「What's New (新機能)」を参照してください。このページでは、変更を完了した日付を基準に変更がリストされています。これらの変更は、次回の Salesforce メジャーリリースにまとめられます。次の変更が Summer '20 に含まれています。

方法: SLDS コンポーネントに対する次の最新の更新により、UI を強化します。

ボタン

無効にした反転ボタンのテキストの色は不透明度が 50% になります。

入力

日付関連の入力で Android 上の Chrome との整合性が高まっています。

ポップオーバー

ウォークスルーバリエーションのフォーム入力のテキストの色に関連したバグが修正されました。

進行状況リング

より明示的な設定を定義することで、`.slds-progress-ring__progress` 要素の位置指定に関する IE11 の問題が解決されました。

ブループリントのおすすめでは、進行状況の円の完了度が 100% になったときに、`<path>` 要素の代わりに `<circle>` 要素が使用されます。この変更により、完了したリングの IE11 の表示に関する問題が解決されます。

ビジュアルピッカー

ビジュアルピッカーに `Small` バリアントが追加されました。

行省略

3 行目以降のテキストを切り捨てる `X-Small` 修飾子が追加されました。

AppExchange パートナー: Lightning アプリケーションとページ用の AppExchange の App Analytics

AppExchange の App Analytics データを調べて、登録者が Lightning アプリケーションとページをどのように使用しているかを確認します。

このセクションの内容:

AppExchange の App Analytics を使用した登録者の行動の分析
AppExchange の App Analytics は、登録者の活動についてのインサイトを得るのに役立ちます。AppExchange パートナーは、ある時点の組織、パッケージ、カスタムエンティティデータを提供する登録者のスナップショットをダウンロードできます。スナップショットは、毎日 00:00 UTC にキャプチャされ、すぐにダウンロードできます。

AppExchange の App Analytics を使用した登録者の行動の分析

AppExchange の App Analytics は、登録者の活動についてのインサイトを得るのに役立ちます。AppExchange パートナーは、ある時点の組織、パッケージ、カスタムエンティティデータを提供する登録者のスナップショットをダウンロードできます。スナップショットは、毎日 00:00 UTC にキャプチャされ、すぐにダウンロードできます。

対象: この変更は、Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

対象ユーザ: AppExchange の App Analytics は、セキュリティレビューに合格した管理パッケージでのみ使用できます。

方法: AppExchange の App Analytics を有効化するには、Salesforce パートナーコミュニティでケースを登録します。

変更データキャプチャ: イベント強化 (ベータ)、その他の変更

外部 ID 項目などの項目を使用して変更イベントメッセージを強化し、その他の機能強化を利用します。

このセクションの内容:

追加項目による変更イベントメッセージの強化 (ベータ)
変更データキャプチャ強化を使用すると、変更がなくても常に変更イベントに含める項目を選択して、データの処理や複製を支援できます。たとえば、複製アプリケーションに外部システムのレコードを照合するための外部ID項目が必要な場合に強化を使用します。変更データキャプチャ強化は、CometDベースの登録者でサポートされています。前回のリリースでは変更データキャプチャ強化が提供されていましたが、今回のリリースでは複合項目 (リード名項目、住所項目、地理位置情報項目など) がサポートされるようになりました。

もう 1 つのオブジェクトに関する変更イベント通知の受信
変更データキャプチャで、CommSubscriptionConsentオブジェクトのレコード変更に関する通知を受信できるようになりました。

すべての必須権限が適用されない /data/ChangeEvents チャネルイベントの登録
ユーザ権限は、標準 `/data/ChangeEvents` チャネルのイベント配信でチェックされるようになりました。権限のあるエンティティに関連付けられた変更イベントのみを受信し、残りの変更イベントは受信しません。以前は、「すべてのデータの参照」および「すべて表示」ユーザ権限がないと、`/data/ChangeEvents` チャネルを登録できず、エラーが発生していました。

メタデータ API でイベント暗号化を有効化する場合のイベントバステナントの秘密の必須化
この変更により、イベントバステナントの秘密がない状態で Shield Platform Encryption 組織で PlatformEncryptionSettings メタデータ API 種別を介してイベント暗号化を有効にすることがなくなります。以前は、テナントの秘密を使用できないときに上記の操作を行うと、変更データキャプチャイベントおよびプラットフォームイベントがブロックされていましたが、テナントの秘密を使用できないと、エラーが表示されるようになりました。

追加項目による変更イベントメッセージの強化 (ベータ)

変更データキャプチャ強化を使用すると、変更がなくても常に変更イベントに含める項目を選択して、データの処理や複製を支援できます。たとえば、複製アプリケーションに外部システムのレコードを照合するための外部ID項目が必要な場合に強化を使用します。変更データキャプチャ強化は、CometDベースの登録者でサポートされています。前回のリリースでは変更データキャプチャ強化が提供されていましたが、今回のリリースでは複合項目 (リード名項目、住所項目、地理位置情報項目など) がサポートされるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

メモ: 変更データキャプチャ強化はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。変更データキャプチャ強化に関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community

グループからお寄せください。*組織でこの機能を有効化することについては、Salesforce にお問い合わせください。*

方法: チャネルやそのチャネルのメンバーで強化項目を定義します。チャネルは、カスタムチャネルまたは ChangeEvents チャネルのいずれかになります。強化された変更イベントは、強化用に設定されたチャネルでのみ配信されます。強化項目をチャネルメンバーおよびチャネルに追加するには、Tooling API またはメタデータ API で PlatformEventChannelMember オブジェクトを使用します。

次の例では、`SalesEvents__chn` カスタムチャネルの Tooling API を使用して AccountChangeEvent メンバーを強化します。変更イベントは、カスタム項目 (`External_Account_ID__c`) と標準項目 (`Industry`) の 2 つの項目で強化されます。関連付けられた POST 要求の URI は、`/services/data/v49.0/tooling/sobjects/PlatformEventChannelMember` です。

リクエストボディ:

```
{
  "FullName": "SalesEvents_AccountChangeEvent",
  "Metadata": {
    "enrichedFields": [
      {
        "name": "External_Account_ID__c"
      },
      {
        "name": "Industry"
      }
    ],
    "eventChannel": "SalesEvents__chn",
    "selectedEntity": "AccountChangeEvent"
  }
}
```

関連トピック:

変更データキャプチャ開発者ガイド: Enrich Change Events With Extra Fields When Subscribed with CometD (Beta) (CometD 登録時の追加項目による変更イベントの強化 (ベータ))

もう 1 つのオブジェクトに関する変更イベント通知の受信

変更データキャプチャで、CommSubscriptionConsent オブジェクトのレコード変更に関する通知を受信できるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

方法: Salesforce 組織で定義されたすべてのカスタムオブジェクト、および標準オブジェクトのサブセットで変更イベントを使用できます。[設定] の [変更データキャプチャ] ページで、通知を取得するオブジェクトを選択するか、カスタムチャネルを作成します。

関連トピック:

変更データキャプチャ開発者ガイド: 変更通知のオブジェクトの選択

Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンス: CommSubscriptionConsent

すべての必須権限が適用されない /data/ChangeEvents チャネルイベントの登録

ユーザ権限は、標準 /data/ChangeEvents チャネルのイベント配信でチェックされるようになりました。権限のあるエンティティに関連付けられた変更イベントのみを受信し、残りの変更イベントは受信しません。以前は、「すべてのデータの参照」および「すべて表示」ユーザ権限がないと、/data/ChangeEvents チャネルを登録できず、エラーが発生していました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

理由: たとえば、リードなどの特定のオブジェクトに対する「すべて表示」権限を持つユーザは、「すべてのデータの参照」および「すべてのユーザの参照」権限がなくても /data/ChangeEvents チャネルを登録できます。取引先、リード、取引先責任者の変更イベントが送信されると、ユーザはリードオブジェクトのイベントのみを受信します。

メタデータ API でイベント暗号化を有効化する場合のイベントバステナントの秘密の必須化

この変更により、イベントバステナントの秘密がない状態で Shield Platform Encryption 組織で PlatformEncryptionSettings メタデータ API 種別を介してイベント暗号化を有効にすることがなくなります。以前は、テナントの秘密を使用できないときに上記の操作を行うと、変更データキャプチャイベントおよびプラットフォームイベントがブロックされていましたが、テナントの秘密を使用できないと、エラーが表示されるようになりました。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition に適用されます。

警告: 暗号化を有効にする前に、[設定] の [鍵の管理] ページでイベントバステナントの秘密を作成する必要があります。[設定] の暗号化設定は、イベントバステナントの秘密の作成後にのみ使用できます。

プラットフォームイベント: 公開状況イベント (パイロット)

公開状況イベントを使用して、プラットフォームイベントの公開操作の状況に関する通知を取得します。

このセクションの内容:

非同期プラットフォームイベント公開操作の状況の取得 (パイロット)
公開に成功した大規模プラットフォームイベントや失敗したイベントを追跡して、必要なアクションを実行します。イベント公開操作の状況に関する通知を取得するには、大規模プラットフォームイベントの状況イベントを有効にします。次に、Apex トリガまたは CometD クライアントを使用して PublishStatusEvent 標準プラットフォームイベントを登録します。

プラットフォームイベントを使用したフローのトリガ
以前は、フローの実行中のインスタンスのみがプラットフォームイベントメッセージを登録できました。たとえば、フローの実行中のインスタンスがいくつかのアクションを実行した後に一時停止したとします。この場合、プラットフォームイベントメッセージを受信したときに、フローが再開されていました。プラットフォームイベントメッセージを受信したときに、フローをトリガできるようになりました。

非同期プラットフォームイベント公開操作の状況の取得 (パイロット)

公開に成功した大規模プラットフォームイベントや失敗したイベントを追跡して、必要なアクションを実行します。イベント公開操作の状況に関する通知を取得するには、大規模プラットフォームイベントの状況イベントを有効にします。次に、Apex トリガまたは CometD クライアントを使用して PublishStatusEvent 標準プラットフォームイベントを登録します。

メモ: 公開状況イベントは、特定の契約条件への同意が必要なパイロットプログラムを通じて一部のお客様に提供されています。このプログラムに参加する方法については、Salesforce にお問い合わせください。パイロットプログラムは変更される可能性があり、参加は保証されません。公開状況イベントは、Salesforce がドキュメント、プレスリリース、または公式声明で正式リリースを発表しない限り、正式リリースされません。特定期間内の正式リリースあるいはリリースの有無は保証できません。正式リリースされた製品および機能に基づいてのみ購入をご決定ください。公開状況イベントに関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community からお寄せください。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience および Salesforce Classic に適用されます。

理由: このパイロット機能がなくても、キューに登録された公開操作の確認を取得できますが、操作が最終的に成功したかどうかを知ることはできません。返された SaveResult に含まれている成功の状況は、公開操作が Salesforce のキューに登録されたことを意味します。操作は、後でシステムリソースが使用可能になったときに実行されます。検証や制限のエラーなど、一部の失敗は SaveResult に直接返されますが、非同期エラーは返されません。まれに、キューに登録された公開操作がシステムエラーにより失敗することがあります。このパイロット機能の利点は、キューに登録された公開操作の最終的な状況を確認して適切なアクションを実行できることです。

方法: プラットフォームイベントの公開状況イベントを受信できるようにするには、[設定] のイベントの定義ページで [公開状況を追跡] をクリックします。または、メタデータ API で、CustomObject の `enablePublishStatusTracking` 項目を `true` に設定します。

イベント公開結果は PublishStatusEvent にまとめられ、状況とトピック (イベントの API 参照名) 別にグループ化されます。PublishStatusEvent は必ずしも 1 つの公開要求に対応するものではありません。これには、同じプラットフォームイベントを対象とし、同じ公開状況を持つ 1 つ以上の要求の結果が含まれます。各 PublishStatusEvent には、各イベント公開操作に関する情報を含む PublishStatusDetail 子オブジェクトの配列が含まれます。

次の例は、失敗した公開状況のペイロードを示しており、2 つのイベントの情報を含んでいます。`EventUuid` 項目は、イベントメッセージを識別し、各イベントの公開結果を元の公開コールと相関させるユニバーサル一意識別子 (UUID) です。

```
{
  "schema": "tklL37cct1eXnqi_yPIS7w",
  "payload": {
    "Status": "FAILURE",
    "AdditionalInfo": null,
    "CreatedById": "005xx000001X83aAAC",
    "CreatedDate": "2020-04-13T20:20:23.573Z",
    "PublishStatusDetails": [
      {
        "Replay": null,
        "EventUuid": "e981b488-81f3-4fcc-bd6f-f7033c9d7ac3",
        "FailureReason":
          "The platform event message could not be published. Try again later.",
```

```
        "StatusCode": "PLATFORM_EVENT_PUBLISH_FAILED"
      },
      {
        "Replay": null,
        "EventUuid": "ed5773c8-6848-4eee-99cf-2d3703cc0da3",
        "FailureReason":
          "The platform event message could not be published. Try again later.",
        "StatusCode": "PLATFORM_EVENT_PUBLISH_FAILED"
      }
    ],
    "Topic": "Order_Event__e"
  }
}
```

`EventUuid` 項目値を使用して、状況を、公開されたイベントに一致させます。Apex でイベントを公開した場合、`EventBus.getOperationId(saveResult)` をコールして UUID を取得できます。Salesforce API を使用してイベントを公開した場合、返された SaveResult のエラーの `message` 項目に UUID が含まれます。次の例には、REST API POST 要求を使用して挿入されたイベントの保存結果が含まれます。

```
{
  "id" : "e01xx0000000001AAA",
  "success" : true,
  "errors" : [ {
    "statusCode" : "OPERATION_ENQUEUED",
    "message" : "e981b488-81f3-4fcc-bd6f-f7033c9d7ac3",
    "fields" : [ ]
  } ]
}
```

関連トピック:

Platform Events Developer Guide: Get the Status of Asynchronous Platform Event Publishes (Pilot) (プラットフォームイベント開発者ガイド: 非同期プラットフォームイベントパブリッシュの状況の取得 (パイロット))

プラットフォームイベントを使用したフローのトリガ

以前は、フローの実行中のインスタンスのみがプラットフォームイベントメッセージを登録できました。たとえば、フローの実行中のインスタンスがいくつかのアクションを実行した後に一時停止したとします。この場合、プラットフォームイベントメッセージを受信したときに、フローが再開されていました。プラットフォームイベントメッセージを受信したときに、フローをトリガできるようになりました。

関連トピック:

プラットフォームイベントメッセージの受信時に実行するフローのトリガ

開発者向けの新規および変更された項目

ここでは、Salesforce 機能のカスタマイズに役立つ、新規追加および変更されたオブジェクト、コール、クラス、コンポーネント、コマンドなどを見つけることができます。

このセクションの内容:

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目
新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UI を容易に作成します。

Apex: 新規および変更された項目
次の名前空間には、新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

ConnectApi (Connect in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum
Connect in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。Lightning の B2B Commerce で提供されるすべての機能を利用できます。カート、外部管理取引先、商品、ウィッシュリストを操作します。

API: 新規および変更された項目
API バージョン 49.0 では、より多くのデータオブジェクト、メタデータ型、リソースにアクセスできます。

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド
Salesforce CLI を使用して、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクルの制御を行うことができます。コア `salesforcedx` V49 プラグインの最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

Lightning コンポーネント: 新規追加および変更された項目

新規追加および変更されたこれらのリソースを使用して、UI を容易に作成します。

このセクションの内容:

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント
新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール
モジュールを使用して、Lightning Web コンポーネントでさらに多くのことを実行できます。

新規追加または変更された Aura コンポーネント
新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネント

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

変更された Lightning Web コンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

lightning-badge

次の属性がサポートされるようになりました。

- `icon-alternative-text` — アイコンの説明に使用する代替テキストで、ツールチップテキストとして表示されます。

- icon-name — バッジ内に表示するアイコンの Lightning Design System 名。名前は、utility:down の形式で指定します。utility はカテゴリ、down は表示する特定のアイコンです。
- icon-position — バッジ内のアイコンの位置。テキストの前にアイコンを表示するには値 start を指定し、テキストの後にアイコンを表示するには end を指定します。デフォルトは start です。

lightning-breadcrumb

次のメソッドがサポートされるようになりました。

- blur() — リンクのフォーカスを削除します。
- focus() — フォーカスをリンクに設定します。

lightning-datatable

text データ型の列が変更されました。

- [テキストをクリップ] アクションでは、最初の行の切り捨て対象のテキストのみが表示されるようになりました。以前は、コンテンツに改行文字が含まれている場合、テーブルの改行ごとに切り捨て対象のテキストが表示されていました。[テキストをラップ] アクションでは、コンテンツの余分な空白が保持されなくなり、列に合わせて改行やハイフネーションが行われるようになりました。
- Boolean 値に「true」または「false」のいずれかが表示されるようになりました。以前は、text データ型の列は Boolean 値に空の列が表示されていました。true を返す項目の場合、boolean データ型を使用して utility:check アイコンを表示することをお勧めします。
- 通貨値は、書式設定されていない数値として表示されるようになりました。以前は、text データ型の列は通貨値に空の列が表示されていました。currency データ型を使用して、通貨値を適切に書式設定することをお勧めします。

次の属性が新規追加されました。

- column-widths-mode — 列幅の計算方法を指定します。同じ幅の列の場合、fixed に設定します。列幅が列のコンテンツの幅とテーブルの幅に基づく場合、auto を指定します。デフォルトは fixed です。

columns 属性の次のプロパティが新規追加されました。

- hideDefaultActions — 列でデフォルトのヘッダーアクションを使用できるかどうかを指定します。デフォルトは false です。

lightning-file-upload

次の属性が新規追加されました。

- file-field-name — ゲストユーザがファイルをレコードにアップロードできるようにするために使用できる ContentVersion オブジェクトのカスタム項目の API 参照名を指定します。
- file-field-value — file-field-name で定義されたカスタム項目の値を指定します。

lightning-input

入力種別 color が変更されました。

- commit イベントがサポートされます。

入力種別 number が変更されました。

- k、K、m、M、b、B、t、T のショートカットを使用できます。たとえば、en-US ロケールの場合、1k と入力すると、項目に 1,000 が表示されます。1m と入力すると、1,000,000 が表示されます。入力項目にフォーカスが置かれている場合、多様な数値が表示されます。たとえば、1k と入力した場合、

フォーカスが離れると `1,000` が表示され、再度フォーカスが置かれると `1000` が表示されます。プログラムで入力値を `value` 属性に割り当てる場合、これらのショートカットは使用できません。

入力種別 `date` および `datetime` が変更されました。

- 日付ピッカーの当月表示で、先月と来月の日付を選択できるようになりました。以前は、当月表示では先月と来月の日付は無効なっており、それらの月に直接移動する必要がありました。
- `min` および `max` 値を指定した場合でも、ユーザは最小値と最大値の範囲外の日付を選択できます。ただし、`blur` イベントによって、入力規則エラーメッセージを表示する項目がトリガされます。
- 日付ピッカーの月または平日の名前でSalesforceの言語設定が使用されるようになりました。以前は、これらの名前でロケール設定が使用されていました。

`lightning-input-address`

デフォルトのプレースホルダ値は項目の表示ラベルの複製であり、スクリーンリーダーには役立たなかったため、削除されました。現在、住所複合項目へのプレースホルダ値の追加はサポートされていません。

`lightning-input-field`

Salesforce モバイルアプリケーションで参照項目がサポートされるようになりました。モバイルアプリケーションを使用している場合、ユーザはサポートされているオブジェクトのルックアップ検索を行うことができます。モバイルルックアップでは、参照項目のドロップダウンメニューから新しいレコードを作成できません。

取引先責任者、リード、ユーザレコードの [名前] 項目で [ミドルネーム] および [肩書き] 項目がサポートされるようになりました。完全な名前複合項目を表示するには、`field-name="Name"` を指定します。あるいは、各項目に対して個別の `lightning-input-field` コンポーネントを使用して、項目を個別に表示します。`FirstName`、`MiddleName`、`LastName` を各コンポーネントの `field-name` 属性に渡します。

メモ: [ミドルネーム] および [肩書き] 項目を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「ユーザインターフェース」と入力し、[ユーザインターフェース] を選択します。Lightning Experience では、[ユーザインターフェース]ページは[ユーザインターフェース] ノードの下にある最後の項目です。[ユーザインターフェース] ページで、[個人名のミドルネームを有効化] および [個人名の名前サフィックスを有効化] を選択します。

データ型 `date` および `datetime` が変更されました。

- 日付ピッカーの当月表示で、先月と来月の日付を選択できるようになりました。以前は、当月表示では先月と来月の日付は無効なっており、それらの月に直接移動する必要がありました。
- 日付ピッカーの月または平日の名前でSalesforceの言語設定が使用されるようになりました。以前は、これらの名前でロケール設定が使用されていました。

名前データ型が変更されました。

- サフィックス構成項目がサポートされるようになりました。この項目を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「ユーザインターフェース」と入力し、[ユーザインターフェース] を選択します。Lightning Experience では、[ユーザインターフェース] ページは [ユーザインターフェース] ノードの下にある最後の項目です。[ユーザインターフェース] ページで、[個人名の名前サフィックスを有効化] を選択します。

`lightning-map`

次の属性が変更されています。

- `map-markers` — `title` および `description` プロパティに含める HTML タグはセキュリティ上の理由でサポートされません。ロケーションリストと情報ウィンドウでは、タグはエスケープされていないマークアップとして表示されます。

`lightning-tabset`
次のメソッドが新規追加されました。

- `focus`—現在選択されているタブにフォーカスを移します。

`lightning-tree-grid`
テーブルの最初のデータ列で次の型がサポートされるようになりました。

- `button` — `lightning-button` を使用してボタンを表示します。
- `button-icon` — `lightning-button-icon` を使用してボタンアイコンを表示します。

関連トピック:

コンポーネントライブラリ

新規追加または変更された Lightning Web コンポーネントのモジュール

モジュールを使用して、Lightning Web コンポーネントでさらに多くのことを実行できます。

新しいモジュール

次のモジュールを使用できるようになりました。

`lightningsnapin/baseChatHeader`
Service Cloud 組み込みサービスでのチャットメッセージのカスタムチャットヘッダーコンポーネントを使用できるようにします。カスタムチャットヘッダーは組み込みサービスのチャット設定から選択できます。カスタムコンポーネントでは、`js-meta.xml` 設定ファイルで `lightningSnapin__ChatHeader` 対象が指定されている必要があります。詳細は、「改善されたチャットヘッダーによる会話の強化」を参照してください。

`@salesforce/community`
Lightning コミュニティの Lightning Web コンポーネントを開発するときに現在のコミュニティに関するコンテキスト情報をインポートします。詳細は、「現在の Lightning コミュニティに関する情報の取得」を参照してください。

`@salesforce/customPermission`
現在のユーザが特定の権限を持っているかどうかに従って、コンポーネントの動作をカスタマイズします。詳細は、「Lightning Web コンポーネントのユーザ権限の確認」を参照してください。

変更されたモジュール

次のモジュールが変更されています。

`@salesforce/i18n`
内部化モジュールに次の 2 つの新規プロパティが追加されました。

- `number.decimalSeparator` — 小数点区切り記号 (`.`)。
- `number.groupingSeparator` — 桁区切り記号 (`,`)。

lightning/messageService

subscribe() メソッドが変更されました。***subscriberOptions*** パラメータが省略可能になりました。以前は、{scope: APPLICATION_SCOPE} を渡す必要があり、アプリケーション内の任意の場所のコンポーネント間でメッセージチャネルを介した通信が行われていました。

値を渡さない場合、メッセージチャネルを介した通信が有効なナビゲーションタブ、有効なナビゲーション項目、ユーティリティ項目のコンポーネントに制限されるようになりました。ユーティリティ項目は常に有効です。ナビゲーションタブまたはナビゲーション項目は、選択されると有効になります。ナビゲーションタブとナビゲーション項目には、以下が含まれます。

- 標準ナビゲーションタブ
- コンソールナビゲーションワークスペースタブ
- コンソールナビゲーションサブタブ
- コンソールナビゲーション項目

新規追加または変更された Aura コンポーネント

新規追加および変更されたこれらのコンポーネントを使用して、UI を簡単に作成します。

変更された Aura コンポーネント

次のコンポーネントが変更されました。

lightning:badge

次の属性がサポートされるようになりました。

- iconAlternativeText — アイコンの説明に使用する代替テキストで、ツールチップテキストとして表示されます。コンポーネントではテキスト表示ラベルが必須であるため、この属性は省略可能です。
- iconName — バッジ内に表示するアイコンの Lightning Design System 名。名前は、utility:down の形式で指定します。utility はカテゴリ、down は表示する特定のアイコンです。
- iconPosition — バッジ内のアイコンの位置。テキストの前にアイコンを表示するには値 start を指定し、テキストの後にアイコンを表示するには end を指定します。デフォルトは start です。

lightning:breadcrumb

次のメソッドがサポートされるようになりました。

- blur() — リンクのフォーカスを削除します。
- focus() — フォーカスをリンクに設定します。

lightning:datatable

text データ型の列が変更されました。

- [テキストをクリップ] アクションでは、最初の行の切り捨て対象のテキストのみが表示されるようになりました。以前は、コンテンツに改行文字が含まれている場合、テーブルの改行ごとに切り捨て対象のテキストが表示されていました。[テキストをラップ] アクションでは、コンテンツの余分な空白が保持されなくなり、列に合わせて改行やハイフネーションが行われるようになりました。
- Boolean 値に「true」または「false」のいずれかが表示されるようになりました。以前は、text データ型の列は Boolean 値に空の列が表示されていました。true を返す項目の場合、boolean データ型を使用して utility:check アイコンを表示することをお勧めします。

- 通貨値は、書式設定されていない数値として表示されるようになりました。以前は、`text` データ型の列は通貨値に空の列が表示されていました。`currency` データ型を使用して、通貨値を適切に書式設定することをお勧めします。

次の属性が新規追加されました。

- `columnWidthsMode` — 列幅の計算方法を指定します。同じ幅の列の場合、`fixed` に設定します。列幅が列のコンテンツの幅とテーブルの幅に基づく場合、`auto` を指定します。デフォルトは `fixed` です。

`columns` 属性の次のプロパティが新規追加されました。

- `hideDefaultActions` — 列でデフォルトのヘッダーアクションを使用できるかどうかを指定します。デフォルトは false です。

lightning:fileUpload

次の属性が新規追加されました。

- `fileFieldName` — ゲストユーザがファイルをレコードにアップロード可能にするために使用できる ContentVersion オブジェクトで、カスタム項目の API 参照名を指定します。
- `fileFieldValue` — `fileFieldName` によって定義されたカスタム項目の値を指定します。

lightning:input

入力種別 `color` が変更されました。

- `commit` イベントがサポートされます。

入力種別 `number` が変更されました。

- `k`、`K`、`m`、`M`、`b`、`B`、`t`、`T` のショートカットを使用できます。たとえば、en-US ロケールの場合、`1k` と入力すると、項目に `1,000` が表示されます。`1m` と入力すると、`1,000,000` が表示されます。入力項目にフォーカスが置かれている場合、多様な数値が表示されます。たとえば、`1k` と入力した場合、フォーカスが離れると `1,000` が表示され、再度フォーカスが置かれると `1000` が表示されます。プログラムで入力値を `value` 属性に割り当てる場合、これらのショートカットは使用できません。

入力種別 `date` および `datetime` が変更されました。

- 日付ピッカーの当月表示で、先月と来月の日付を選択できるようになりました。以前は、当月表示では先月と来月の日付は無効なっており、それらの月に直接移動する必要がありました。
- `min` および `max` 値を指定した場合でも、ユーザは最小値と最大値の範囲外の日付を選択できます。ただし、`blur` イベントによって、入力規則エラーメッセージを表示する項目がトリガされます。
- 日付ピッカーの月または平日の名前で Salesforce の言語設定が使用されるようになりました。以前は、これらの名前でロケール設定が使用されていました。

`lightning:inputAddress`

デフォルトのプレースホルダ値は項目の表示ラベルの複製であり、スクリーンリーダーには役立たなかったため、削除されました。現在、住所複合項目へのプレースホルダ値の追加はサポートされていません。

`lightning:inputField`

Salesforce モバイルアプリケーションで参照項目がサポートされるようになりました。モバイルアプリケーションを使用している場合、ユーザはサポートされているオブジェクトのルックアップ検索を行うことができます。モバイルルックアップでは、参照項目のドロップダウンメニューから新しいレコードを作成できません。

取引先責任者、リード、ユーザレコードの [名前] 項目で [ミドルネーム] および [肩書き] 項目がサポートされるようになりました。完全な名前複合項目を表示するには、`fieldName="Name"` を指定します。また

は、項目ごとに別々の `lightning:inputField` コンポーネントを使用して個別に項目を表示します。`FirstName`、`MiddleName`、`LastName` を各コンポーネントの `fieldName` 属性に渡します。

> メモ: [ミドルネーム] および [肩書き] 項目を有効にするには、[設定] から、[クイック検索] ボックスに「ユーザインターフェース」と入力し、[ユーザインターフェース] を選択します。Lightning Experience では、[ユーザインターフェース] ページは [ユーザインターフェース] ノードの下にある最後の項目です。[ユーザインターフェース] ページで、[個人名のミドルネームを有効化] および [個人名の名前サフィックスを有効化] を選択します。

データ型 `date` および `datetime` が変更されました。

- 日付ピッカーの当月表示で、先月と来月の日付を選択できるようになりました。以前は、当月表示では先月と来月の日付は無効なっており、それらの月に直接移動する必要がありました。
- 日付ピッカーの月または平日の名前で Salesforce の言語設定が使用されるようになりました。以前は、これらの名前でロケール設定が使用されていました。

`lightning:map`

次の属性が変更されています。

- `mapMarkers` — セキュリティ上の理由により、`title` および `description` プロパティに含めた HTML タグはサポートされていません。ロケーションリストと情報ウィンドウでは、タグはエスケープされていないマークアップとして表示されます。

`lightning:messageChannel`

`subscribe()` メソッドが変更されました。`scope` 属性が省略可能になりました。

値を渡さない場合、メッセージチャネルを介した通信が有効なナビゲーションタブ、有効なナビゲーション項目、ユーティリティ項目のコンポーネントに制限されるようになりました。ユーティリティ項目は常に有効です。ナビゲーションタブまたはナビゲーション項目は、選択されると有効になります。ナビゲーションタブとナビゲーション項目には、以下が含まれます。

- 標準ナビゲーションタブ
- コンソールナビゲーションワークスペースタブ
- コンソールナビゲーションサブタブ
- コンソールナビゲーション項目

アプリケーションの任意の場所からメッセージチャネルでメッセージを受信するには、`scope` を `"APPLICATION"` に設定します。

`lightning:treeGrid`

テーブルの最初のデータ列で次の型がサポートされるようになりました。

- `button` — `lightning:button` を使用してボタンを表示します。
- `button-icon` — `lightning:buttonIcon` を使用してボタンアイコンを表示します。

関連トピック:

コンポーネントライブラリ

Apex: 新規および変更された項目

次の名前空間には、新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

このセクションの内容:

AppLauncher 名前空間
AppLauncher 名前空間には次の新しいメソッドがあります。

Schema 名前空間
Schema 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

System 名前空間
System 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

関連トピック:

Apex: 新機能

AppLauncher 名前空間

AppLauncher 名前空間には次の新しいメソッドがあります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

コミュニティサブドメインのシングルサインオン URL を取得する

`AppLauncher.SocialLoginController` クラスの新しい `getCommunityDomainSsoUrl(startUrl, developerName)` メソッドを使用します。

Schema 名前空間

Schema 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

システムによって sObject で使用される有効な describe オプションを取得する

`Schema.DescribeSObjectResult` クラスの新しい `getSObjectDescribeOption` メソッドを使用します。

System 名前空間

System 名前空間には、次のような新規または変更されたクラス、メソッド、インターフェース、列挙、または例外があります。

既存のクラスの新規または変更されたメソッド

メール、電話 (SMS)、および Salesforce Authenticator 検証方法の検証サービスを開始する

`System.UserManagement` クラスの新しい `initVerificationMethod(method)` を使用します。

メール、電話 (SMS)、Salesforce Authenticator パスワード、時間ベースのワンタイムパスワード (TOTP) 検証方法の検証サービスを完了する

`System.UserManagement` クラスの新しい `verifyVerificationMethod(method)` を使用します。

Crypto メソッドでより強力な暗号化と署名アルゴリズムを使用する

`System.Crypto` クラスの `Crypto.sign`、`Crypto.signWithCertificate`、`Crypto.signXML()`、`Crypto.verify()` (メソッド) の algorithmName パラメータで新しい RSA-SHA384 および RSA-SHA512 値を使用します。

リレーション項目の項目およびオブジェクトレベルのセキュリティの適用

`System.Security` クラスの `stripInaccessible` メソッドを使用します。

ConnectApi (Connect in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum

Connect in Apex を使用して、Salesforce でカスタムエクスペリエンスを作成します。Lightning の B2B Commerce で提供されるすべての機能を利用できます。カート、外部管理取引先、商品、ウィッシュリストを操作します。

`ConnectApi` 名前空間の Apex クラスでは、多くの Connect REST API リソースアクションが静的メソッドとして公開されています。これらのメソッドでは、情報を入力したり返したりするために他の `ConnectApi` クラスが使用されます。`ConnectApi` 名前空間は *Connect in Apex* と呼ばれます。

このセクションの内容:

Chatter in Apex の名称変更

Chatter in Apex の名前が Connect in Apex に変更され、`ConnectApi` 名前空間のメソッドの性質がより適切に反映されるようになりました。

新規および変更された Connect in Apex クラス

次のクラスが新規追加または変更されました。

新規および変更された Connect in Apex 入力クラス

次の入力クラスが新規追加または変更されました。

新規および変更された Connect in Apex 出力クラス

次の出力クラスが新規追加または変更されました。

新規および変更された Connect in Apex Enum

次の Enum が新規追加または変更されました。

関連トピック:

Connect REST API

Apex 開発者ガイド: ConnectApi 名前空間

Connect REST API Developer Guide (Connect REST API 開発者ガイド)

Chatter in Apex の名称変更

Chatter in Apex の名前が Connect in Apex に変更され、`ConnectApi` 名前空間のメソッドの性質がより適切に反映されるようになりました。

対象: この変更は、Personal Edition 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: `ConnectApi` 名前空間では、Chatter以外の多くの機能がサポートされています。たとえば、今回のリリースでは 40 個の Lightning の B2B Commerce メソッドと、さらに多くの Chatter 以外のクラスが導入されています。そのため、Chatter 以外のすべてのメソッドとクラスをより明確に表す名前に変更されました。

関連トピック:

Apex 開発者ガイド: ConnectApi 名前空間

新規および変更された Connect in Apex クラス

次のクラスが新規追加または変更されました。

Lightning の B2B Commerce

次のメソッドは、`ConnectApi.CommerceCart` クラスに含まれます。

カートへの最大 100 個の品目のバッチ追加

- `addItemsToCart(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId, cartItems)`

カートへの品目の追加

- `addItemToCart(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId, cartItemInput)`

カートの作成

- `createCart(webstoreId, cart)`

カートの削除

- `deleteCart(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId)`

カートからの品目の削除

- `deleteCartItem(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId, cartItemId)`

カート品目の取得

- `getCartItems(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId)`
- `getCartItems(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId, pageParam)`
- `getCartItems(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId, pageParam, sortParam)`
- `getCartItems(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId, pageParam, pageSize)`
- `getCartItems(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId, pageParam, pageSize, sortParam)`
- `getCartItems(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId, productFields, pageParam, pageSize, sortParam)`

カートの取得

- `getCartSummary(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId)`

カートの取得、または有効なカートが存在しない場合は作成

- `getOrCreateActiveCartSummary(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId)`

カート内の品目の更新

- `updateCartItem(webstoreId, effectiveAccountId, activeCartOrId, cartItemId, cartItem)`

次のメソッドは、`ConnectApi.CommerceCatalog` クラスに含まれます。

商品の取得

- `getProduct(webstoreId, productId, effectiveAccountId, fields, excludeFields, mediaGroups, excludeMedia, excludeEntitlementDetails, excludePrimaryProductCategory)`

商品カテゴリの取得

- `getProductCategory(webstoreId, productCategoryId, effectiveAccountId, fields, excludeFields, mediaGroups, excludeMedia)`

ルートカテゴリから現在のカテゴリへの商品カテゴリパスの取得

- `getProductCategoryPath(webstoreId, productCategoryId)`

次のメソッドは、`ConnectApi.CommerceStorePricing` クラスに含まれます。

商品のリストと購入者価格の取得

- `getProductPrice(webstoreId, productId, effectiveAccountId)`

複数の商品の価格の取得

- `getProductPrices(webstoreId, effectiveAccountId, pricingInput)`

次のメソッドは、`ConnectApi.CommerceWishlist` クラスに含まれます。

ウィッシュリストへの品目の追加

- `addItemToWishlist(webstoreId, wishlistId, wishlistItemInput)`
- `addItemToWishlist(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistId, wishlistItemInput)`

カートへのウィッシュリストの追加

- `addWishlistToCart(webstoreId, wishlistId)`
- `addWishlistToCart(webstoreId, wishlistId, effectiveAccountId)`
- `addWishlistToCartWithCartId(webstoreId, wishlistId, cartId)`
- `addWishlistToCartWithCartId(webstoreId, wishlistId, cartId, effectiveAccountId)`

ウィッシュリストの作成

- `createWishlist(webstoreId, wishlistInput)`
- `createWishlist(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistInput)`

ウィッシュリストの削除

- `deleteWishlist(webstoreId, wishlistId)`

ウィッシュリストの取得

- `getWishlist(webstoreId, wishlistId)`

- `getWishlist(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistId)`

ウィッシュリスト品目の取得

- `getWishlistItems(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistId)`
- `getWishlistItems(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistId, pageParam)`
- `getWishlistItems(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistId, pageParam, pageSize)`

ウィッシュリスト概要の取得

- `getWishlistSummaries(webstoreId)`
- `getWishlistSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistId, includeDisplayedList)`
- `getWishlistSummaries(webstoreId, effectiveAccountId, includeDisplayedList)`

ウィッシュリスト品目の削除

- `removeWishlistItem(webstoreId, effectiveAccountId, wishlistId, wishlistItemId)`

次のメソッドは、`ConnectApi.ExternalManagedAccount` クラスに含まれます。

外部管理取引先の取得

- `getExternalManagedAccounts(webstoreId)`

活動目的

次のメソッドは、`ConnectApi.Missions` クラスに含まれます。

すべてのユーザの活動目的アクティビティの消去

- `purgeUserMissionsActivities(communityId)`

注文管理

次の新しいメソッドは、`OrderSummary` クラスに含まれます。

提案された価格調整後アクションで期待される変更注文金額のプレビュー

- `adjustPreview(orderSummaryId, adjustInput)`

価格調整アクションの送信

- `adjustSubmit(orderSummaryId, adjustInput)`

次の変更されたメソッドは `OrderSummaryCreation` クラスに含まれます。

外部システムで管理されている注文を表す注文概要の作成

- `createOrderSummary(orderSummaryInput)`

パーソナライズ

次のメソッドは、`Personalization` クラスに含まれます。

利用者対象の新しい型を作成する

- `createTargets(communityId, target)`

対象 ID のカンマ区切りリストの対象情報の取得

- `getTargetBatch(communityId, targetIds)`

このメソッドは、バージョン 48.0 で導入されましたが、ドキュメントから除外されました。

新規および変更された Connect in Apex 入力クラス

次の入力クラスが新規追加または変更されました。

Lightning の B2B Commerce

`ConnectApi.CartInput`

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `currencyIsoCode` — カートに関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- `effectiveAccountId` — 要求が行われた取引先の ID。
- `name` — カートの名前。
- `type` — カートの種別。値は `Cart` です。

`ConnectApi.CartItemInput`

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `productId` — 商品の ID。
- `quantity` — カート品目の数量。
- `type` — カート内の品目の種別。値は `Product` です。

`ConnectApi.PricingInput`

この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- `pricingLineItems` — 価格設定する品目。

`ConnectApi.PricingLineItemInput`

この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- `productId` — 価格設定する商品の ID。

`ConnectApi.WishlistInput`

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `name` — ウィッシュリストの名前。
- `products` — ウィッシュリストに追加する商品のリスト。

`ConnectApi.WishlistItemInput`

この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- `productId` — ウィッシュリストで更新または追加する商品の ID。

注文管理

`ConnectApi.AdjustItemInputRepresentation`

この新しい入力クラスには、次のプロパティが含まれます。

- `adjustmentType` — 金額の計算方法を表します。次のいずれかの値が含まれます。

  - AmountWithTax — 金額の値は税込の調整になります。
  - AmountWithoutTax — 金額の値は税別の調整になります。税金はこの値に基づいて計算されて追加されます。
  - Percentage — 金額の値は割引率になります。100 で除算されて、OrderItemSummary の TotalPrice と TotalTaxAmount で除算され、調整金額が決まります。
- amount — adjustmentType で表される調整金額の計算に使用される値。負の値である必要があります。
- description — 調整の説明。
- orderItemSummaryId — OrderItemSummary の ID。
- reason — 調整の理由。値は OrderItemSummaryChange オブジェクトの Reason 項目の選択リスト値のいずれかに一致している必要があります。

ConnectApi.AdjustOrderItemSummaryInputRepresentation
この新しい入力クラスには、次のプロパティがあります。

- adjustItems — OrderItemSummaries への価格調整のリスト。

ConnectApi.EnsureRefundsAsyncInputRepresentation
この入力クラスには、次の新しいプロパティがあります。

- excessFundsAmount — 返金する超過資金の金額。

ConnectApi.OrderSummaryInputRepresentation
この入力クラスには、次の新しいプロパティがあります。

- orderLifeCycleType — 注文を Salesforce 注文管理で管理するのか、外部システムで管理するのかを指定します。次のいずれかの値が含まれます。
  - MANAGED — Salesforce 注文管理で管理します。
  - UNMANAGED — 外部システムで管理します。

パーソナライズ

ConnectApi.TargetInput
この入力クラスには、次の変更されたプロパティがあります。

- targetType — このプロパティでは次の新しい値がサポートされています。
  - NavigationLinkSet
  - Topic
  - CollaborationGroup
  - KnowledgeArticle
  - ContentDocument
  - ManagedContent
  - Report
  - Dashboard

新規および変更された Connect in Apex 出力クラス

次の出力クラスが新規追加または変更されました。

Lightning の B2B Commerce

`ConnectApi.AbstractCartItem`

この新しい抽象出力クラスは、`ConnectApi.CartItem` および `ConnectApi.CartItemWithoutPrice` のスーパークラスです。次のプロパティがあります。

- `cartId` — カートの ID。
- `cartItemId` — 品目の ID。
- `messagesSummary` — 品目のメッセージ概要。
- `name` — 品目の名前。
- `productDetails` — 商品の詳細の概要。
- `productId` — 商品の ID。
- `quantity` — 品目の数量。
- `type` — カート内の品目の種別。値は次のとおりです。
  - `DeliveryCharge`
  - `Product`

`ConnectApi.CartItem`

この新しい出力クラスは `ConnectApi.AbstractCartItem` のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- `listPrice` — 品目のリスト価格。
- `salesPrice` — 品目の販売価格。
- `totalAmount` — 品目の合計金額。
- `totalListPrice` — 品目の合計リスト価格。
- `totalPrice` — 品目の合計価格 (調整を含み、税額は含まない)。
- `totalTax` — 品目の合計税額。

`ConnectApi.CartItemCollection`

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `cartItems` — カート品目結果のコレクション。
- `cartSummary` — カートの概要。
- `currentPageToken` — 現在のページを識別するトークン。
- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Connect REST API URL。
- `hasErrors` — 少なくとも 1 つの結果にエラーがあるかを指定します。
- `nextPageToken` — 次のページを識別するトークン。次のページがない場合は `null`。
- `nextPageUrl` — 次のページを識別する Connect REST API URL。次のページがない場合は `null`。
- `previousPageToken` — 前のページを識別するトークン。前のページがない場合は `null`。
- `previousPageUrl` — 前のページを識別する Connect REST API URL。前のページがない場合は `null`。

ConnectApi.CartItemProduct
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `fields` — 商品項目と値の対応付け。
- `name` — 商品の名前。
- `productId` — 商品の ID。
- `sku` — 商品の SKU。
- `thumbnailImage` — 商品のサムネイル画像。

ConnectApi.CartItemResult
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `cartItem` — カート品目。
- `message` — 要求が成功したときのメッセージ。
- `status` — 要求の状況。

ConnectApi.CartItemWithoutPrice
この新しい出力クラスは `ConnectApi.AbstractCartItem` のサブクラスで、追加プロパティはありません。

ConnectApi.CartMessage
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `message` — カートメッセージ。
- `messageId` — メッセージを提供しているオブジェクトの ID。
- `relatedEntityId` — メッセージに関連付けられたエンティティ (カート、カート品目、カートの税額など) の ID。
- `severity` — カートメッセージの重大度。値は次のとおりです。
  - `Error`
  - `Info`
  - `Warning`
- `type` — メッセージの種別。標準値には、`Inventory`、`Taxes`、`Pricing`、`Shipping`、`Entitlement`、`SystemError`、`Other` があります。
- `visible` — メッセージが表示されるか (`true`)、否か (`false`) を指定します。

ConnectApi.CartMessagesSummary
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `errorCount` — 概要が単一エンティティ用の場合、重大度レベルが `Error` のメッセージ数。
- `hasErrors` — エンティティに関連するメッセージがあるか (`true`)、否か (`false`) を指定します。
- `limitedMessages` — 概要が単一エンティティ用の場合、エンティティに関連するメッセージの制限付きリスト。それ以外の場合、各メッセージはカートまたは別のカート関連エンティティに関連付けることができます。
- `relatedEntityId` — 概要が単一エンティティ用の場合、関連エンティティの ID。それ以外の場合、各メッセージはカートまたは別のカート関連エンティティに関連付けることができます。

ConnectApi.CartSummary
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- accountId — カートの取引先の ID。
- cartId — カートの ID。
- currencyIsoCode — カートに関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- grandTotalAmount — カートの通貨でのカート内の品目の総計金額 (送料と税額を含む)。
- name — カートの名前。
- ownerId — カートの所有者の ID。
- status — カートの状況。値は次のとおりです。
  - Active — カートは有効です。
  - Checkout — カートはチェックアウト中です。
  - Closed — カートは閉じられています。
  - Processing — カートは処理中です。
- totalChargeAmount — カートの通貨での送料およびその他の請求の合計金額。
- totalListPrice — カートの合計リスト価格。
- totalProductAmount — カート内の商品品目の合計金額 (割引を含み、送料と税額は含まない)。
- totalProductCount — カート内の品目の合計数。
- 。totalTaxAmount — 品目の合計総数 (調整を含み、税額は含まない)。
- type — カートの種別。値は Cart です。
- uniqueProductCount — カート内の一意の品目または SKU の合計数。
- webstoreId — カートの Webstore の ID。

ConnectApi.ExternalManagedAccountCollectionOutput
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- externalManagedAccounts — 外部管理取引先のコレクション。
- totalExternalManagedAccounts — 外部管理取引先の合計数。

ConnectApi.ExternalManagedAccountOutput
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- accountId — 別の取引先によって管理される取引先の ID。
- externalManagedAccountId — 外部管理取引先レコードの ID。

ConnectApi.PriceAdjustmentSchedule
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- id — 価格調整スケジュールの ID。
- priceAdjustmentTiers — 価格調整階層のリスト。

ConnectApi.PriceAdjustmentTier
この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- adjustmentType — 階層の価格調整の種別。値は次のとおりです。
  - AmountBasedAdjustment — 価格は指定した金額で調整されます。

    - `PercentageBasedAdjustment` — 価格は指定したパーセントで調整されます。
- `adjustmentValue` — 階層の調整値。
- `id` — 価格調整階層の ID。
- `lowerBound` — 階層の下限。
- `tierUnitPrice` — 階層の単価。
- `upperBound` — 階層の上限。

ConnectApi.PricingResult

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `currencyIsoCode` — 商品に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- `error` — エラーコードおよびメッセージ。
- `pricingLineItemResults` — 価格設定結果の品目。
- `success` — 実行が成功したか (`true`)、否か (`false`) を指定します。

ConnectApi.PricingResultLineItem

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `error` — エラーコードおよびメッセージ。
- `listPrice` — 商品のリスト価格。
- `pricebookEntryId` — 価格表エントリの ID。
- `productId` — 価格設定する商品の ID。
- `success` — 実行が成功したか (`true`)、否か (`false`) を指定します。
- `unitPrice` — 商品の単価。

ConnectApi.ProductCategoryData

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `description` — カテゴリの説明。
- `id` — カテゴリの ID。
- `name` — カテゴリの名前。

ConnectApi.ProductCategoryDetail

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `bannerImage` — 商品カテゴリのバナー画像。
- `fields` — 商品カテゴリの項目のリスト。
- `id` — 商品カテゴリの ID。
- `mediaGroups` — 商品カテゴリのメディアグループのリスト。
- `tileImage` — 商品カテゴリのタイル画像。

ConnectApi.ProductCategoryMedia

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `alternateText` — 商品カテゴリメディアの代替テキスト。
- `contentVersionId`—メディアが ContentDocument として保存されている場合、最新の公開コンテンツバージョンの ID。画像が顧客によって提供された外部 URL の場合、値は `null` です。

- id — 商品カテゴリ画像の ID。
- mediaType — 商品メディアの種別。値は次のとおりです。
  - Document
  - Image
  - Video
- sortOrder — メディアグループ内のメディア品目の並び替え順。
- thumbnailUrl — 商品カテゴリメディアのサムネイルの URL。値が存在する場合、画像がネイティブにアップロードされているか外部でホストされているかに関係なく、サムネイルに使用する必要があります。
- title — 商品カテゴリメディアのタイトル。
- url — 商品カテゴリメディアの URL。

ConnectApi.ProductCategoryMediaGroup

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- developerName — 商品カテゴリメディアグループの API 参照名。
- id — 商品カテゴリメディアグループの ID。
- mediaItems — 商品カテゴリメディアグループ内のメディア品目のリスト。
- name — 商品カテゴリメディアグループの名前。
- usageType — メディアグループ内の商品メディア品目の利用状況種別。値は次のとおりです。
  - Attachment — 商品ドキュメントの添付ファイルがある商品メディアグループ。
  - Banner — 商品のバナー画像がある商品カテゴリメディアグループ。
  - Listing — 商品のリスト画像がある商品メディアグループ。
  - Standard — 商品の標準画像と動画がある商品メディアグループ。
  - Tile — 商品のタイル画像がある商品カテゴリメディアグループ。

ConnectApi.ProductCategoryPath

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- path — パス内の商品カテゴリのリスト。

ConnectApi.ProductDetail

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- defaultImage — 商品のデフォルト画像。
- entitlement — 商品のエンタイトルメントの詳細。
- fields — 商品の項目のリスト。
- id — 商品の ID。
- mediaGroups — 商品のメディアグループのリスト。
- primaryProductCategoryPath — 商品のプライマリカテゴリパス。

ConnectApi.ProductEntitlement

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- canViewPrice — 商品の価格を表示できるか (true)、否か (false) を指定します。

ConnectApi.ProductMedia

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- alternateText — 商品メディアの代替テキスト。
- contentVersionId—メディアが ContentDocument として保存されている場合、最新の公開コンテンツバージョンの ID。画像が顧客によって提供された外部 URL の場合、値は null です。
- id — 商品画像の ID。
- mediaType — 商品メディアの種別。値は次のとおりです。
  - Document
  - Image
  - Video
- sortOrder — メディアグループ内のメディア品目の並び替え順。
- thumbnailUrl — 商品メディアのサムネイルの URL。値が存在する場合、画像がネイティブにアップロードされているか外部でホストされているかに関係なく、サムネイルに使用する必要があります。
- title — 商品メディアのタイトル。
- url — 商品メディアの URL。

ConnectApi.ProductMediaGroup

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- developerName — 商品メディアグループの API 参照名。
- id — 商品メディアグループの ID。
- mediaItems — 商品メディアグループ内のメディア品目のリスト。
- name — 商品メディアグループの名前。
- usageType — メディアグループ内の商品メディア品目の利用状況種別。値は次のとおりです。
  - Attachment — 商品ドキュメントの添付ファイルがある商品メディアグループ。
  - Banner — 商品のバナー画像がある商品カテゴリメディアグループ。
  - Listing — 商品のリスト画像がある商品メディアグループ。
  - Standard — 商品の標準画像と動画がある商品メディアグループ。
  - Tile — 商品のタイル画像がある商品カテゴリメディアグループ。

ConnectApi.ProductPrice

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- currencyIsoCode — 商品に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- listPrice — 商品のリスト価格。
- priceAdjustment — 商品の価格調整スケジュール。
- pricebookEntryId — 価格表エントリの ID。
- unitPrice — 商品の単価。

ConnectApi.Wishlist

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- page — ウィッシュリスト品目のページ。

- summary — ウィッシュリストの概要。

ConnectApi.WishlistItem

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- currencyIsoCode — 商品に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- error — エラー情報。
- listPrice — ウィッシュリスト品目のリスト価格。
- productSummary — ウィッシュリスト品目の商品概要。
- salesPrice — ウィッシュリスト品目の販売価格。
- wishlistItemId — ウィッシュリスト品目の ID。

ConnectApi.WishlistItemCollection

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- currencyIsoCode — 商品に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- currentPageToken — 現在のページを識別するトークン。
- currentPageUrl — 現在のページを識別する Connect REST API URL。
- hasErrors — 少なくとも 1 つの結果にエラーがあるか (true)、否か (false) を指定します。
- items — ウィッシュリスト品目のコレクション。
- nextPageToken — 次のページを識別するトークン。次のページがない場合は null。
- nextPageUrl — 次のページを識別する Connect REST API URL。次のページがない場合は null。
- previousPageToken — 前のページを識別するトークン。前のページがない場合は null。
- previousPageUrl — 前のページを識別する Connect REST API URL。前のページがない場合は null。

ConnectApi.WishlistsSummary

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- displayedList — コンテキストユーザに表示される最も古いウィッシュリスト。
- summaries — コンテキストユーザに属するウィッシュリストの概要。
- wishlistCount — コンテキストユーザに属するウィッシュリストの合計数。

ConnectApi.WishlistSummary

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- createdDate — ISO 8601 形式でのウィッシュリストの作成日 (例: 2011-02-25T18:24:31.000Z)。
- id — ウィッシュリストの ID。
- modifiedDate — ISO 8601 形式でのウィッシュリストの最終更新日 (例: 2011-02-25T18:24:31.000Z)。
- name — ウィッシュリストの名前。
- wishlistProductCount — ウィッシュリストの一意の商品数。

ConnectApi.WishlistToCartResult

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- cartId — 商品が追加されたカートの ID。
- failedWishlistToCartItems — カートに追加されなかったウィッシュリスト品目。
- productsFailedCount — カートに追加されなかった商品の合計数。

- productsRequestedCount — カートへの追加が要求された商品の合計数。
- productsSucceededCount — カートに正常に追加された商品の合計数。
- succeededWishlistToCartItems — カートに正常に追加されたウィッシュリスト品目。

CMS 管理コンテンツ

ConnectApi.ManagedContentMediaNodeValue

この出力クラスには、次の変更されたプロパティと新しいプロパティがあります。

- altUrl — このプロパティは使用できなくなりました。

  バージョン 49.0 以降では、この情報は thumbnailUrl プロパティで返されます。

- mediaType — このプロパティの値は Image です。以前のバージョンでは、このプロパティは誤って Document と記載されていました。
- thumbnailUrl — メディアのサムネイルの URL。

ConnectApi.ManagedContentMediaSourceNodeValue

この新しい出力クラスは ConnectApi.ManagedContentNodeValue のサブクラスで、次のプロパティがあります。

- fileName — メディアソースのファイル名。
- isExternal — メディアソースが外部 URL を介して参照されるか (true)、アップロードされるか (false) を指定します。
- mediaType — 管理コンテンツメディアの種別。値は次のとおりです。
  - Document
  - Image
- mimeType — メディアソースの MIME タイプ。
- referenceId — アップロードされたメディアソースの参照 ID。
- resourceUrl — メディアソースのリソース URL。
- unauthenticatedUrl — 認証されていないユーザのメディアソースの URL。外部ユーザがメディアソースを使用できない場合は null。
- url — 認証済みユーザのメディアソースの URL。

ConnectApi.ManagedContentNodeType

この出力クラスには、次の変更されたプロパティがあります。

- nodeType — このプロパティで mediaSource 値がサポートされるようになりました。

ConnectApi.ManagedContentNodeValue

この出力クラスには、次の変更されたプロパティがあります。

- nodeType — このプロパティで mediaSource 値がサポートされるようになりました。

注文管理

ConnectApi.AdjustOrderSummaryOutputRepresentation

この新しい出力クラスには、次のプロパティがあります。

- `changeBalances` — 価格調整アクションの想定される財務的価値 (プレビュー用) または実際の財務的価値 (送信用)。大部分の値は変更注文の値と一致します。2 つの変更注文が返されると、それらの値が結合されます。この出力の値の符号は、変更注文レコードの対応する値と逆になります。たとえば、`changeBalances` の割引の値が正の場合、変更注文レコードの値は負になります。
- `orderSummaryId` — OrderSummary の ID。
- `postFulfillmentChangeOrderId` — 履行された注文商品に適用される財務上の変更を保持する変更注文の ID。adjustPreview コールの場合、この値は常に null になります。
- `preFulfillmentChangeOrderId` — 履行されていない注文商品の財務上の変更を保持する変更注文の ID。adjustPreview コールの場合、この値は常に null になります。

`ConnectApi.ChangeItemOutputRepresentation`
この出力クラスには、次の新しいプロパティが含まれます。

- `totalAdjDeliveryAmtWithTax` — TotalAdjDeliveryAmtWithTax 項目への変更。
- `totalAdjDistAmountWithTax` — TotalAdjDistAmountWithTax 項目への変更。
- `totalAdjProductAmtWithTax` — TotalAdjProductAmtWithTax 項目への変更。

新規および変更された Connect in Apex Enum

次の Enum が新規追加または変更されました。

これらの Enum についての詳細は、『*Apex 開発者ガイド*』の「ConnectApi Enum」を参照してください。

`ConnectApi.CartItemSortOrder`
この新しい Enum には次の値があります。

- `CreatedDateAsc` — 作成日の古い順に並び替えられます。
- `CreatedDateDesc` — 作成日の新しい順に並び替えられます。
- `NameAsc` — 名前がアルファベットの昇順 (A–Z) で並び替えられます。
- `NameDesc` — 名前がアルファベットの降順 (Z–A) で並び替えられます。
- `SalesPriceAsc` — 交渉済み価格が低い順に並び替えられます。
- `SalesPriceDesc` — 交渉済み価格が高い順に並び替えられます。

`ConnectApi.CartItemType`
この新しい Enum には次の値があります。

- `DeliveryCharge`
- `Product`

`ConnectApi.CartMessageSeverity`
この新しい Enum には次の値があります。

- `Error`
- `Info`
- `Warning`

`ConnectApi.CartStatus`
この新しい Enum には次の値があります。

- `Active` — カートは有効です。

- Checkout — カートはチェックアウト中です。
- Closed — カートは閉じられています。
- Processing — カートは処理中です。

ConnectApi.CartType
この新しい Enum には次の値があります。

- Cart

ConnectApi.ManagedContentMediaType
この Enum には次の新しい値があります。

- Document

ConnectApi.ManagedContentNodeType
この Enum には次の新しい値があります。

- MediaSource

ConnectApi.PriceAdjustmentTierType
この新しい Enum には次の値があります。

- AmountBasedAdjustment — 価格は指定した金額で調整されます。
- PercentageBasedAdjustment — 価格は指定したパーセントで調整されます。

ConnectApi.ProductMediaType
この新しい Enum には次の値があります。

- Document
- Image
- Video

ConnectApi.ProductMediaUsageType
この新しい Enum には次の値があります。

- Attachment — 商品ドキュメントの添付ファイルがある商品メディアグループ。
- Banner — 商品のバナー画像がある商品カテゴリメディアグループ。
- Listing — 商品のリスト画像がある商品メディアグループ。
- Standard — 商品の標準画像と動画がある商品メディアグループ。
- Tile — 商品のタイル画像がある商品カテゴリメディアグループ。

API: 新規および変更された項目

API バージョン 49.0 では、より多くのデータオブジェクト、メタデータ型、リソースにアクセスできます。

このセクションの内容:

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト
次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント
こうした新規追加または変更された標準プラットフォームイベントのチャネルに登録することで、Salesforce からリアルタイム通知を受信します。

REST API

REST API では、リソースが変更されました。

Connect REST API

Connect REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce と統合します。カート、外部管理取引先、商品、ウィッシュリスト、検索設定など、Lightning の B2B Commerce で提供されるすべての機能を利用できます。非公開接続と通知を取得および更新できます。

Einstein Analytics REST API

Salesforce で Einstein Analytics REST API を使用して、レシピジョブのユーザ通知を作成、更新、取得できます。データコネクタの検索で使用できる検索条件が増えました。アプリケーションの作成およびアップグレードライフサイクルのアプリケーションログ行を取得できます。

レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API の機能強化には、データカテゴリの検索条件を記述する新しいプロパティ、CSV ファイル種別の登録メールの添付ファイル、登録の添付ファイルのエンコードが含まれます。

ユーザインターフェース API

レコードページのすべてのアクションを取得します。また、ユーザインターフェース API でサポートされるオブジェクトが増えています。

Bulk API および Bulk API 2.0

次のコールと制限は、API バージョン 49.0 で変更されました。

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

新しいオブジェクトと変更されたオブジェクト

次の新規および変更された標準オブジェクトによってより多くのデータにアクセスできます。

Salesforce 全体

Visualforce ページまたはアンケートを iframe 化ができるように URL が許可されているかどうかを指定する

IframeWhiteListUrl オブジェクトで新しい `Context` 項目を使用します。

変更された項目のデータ型に関する情報を取得する

StandardObjectName オブジェクトで新しい `DataType` 項目を使用します。

アプリケーション内機能の発見、学習、トレーニングのウォークスルーを追加する

ウォークスルー (アプリケーション内に表示できる一連の接続されたプロンプト) がアプリケーション内ガイダンスに含まれるようになりました。

PromptAction オブジェクトの `LastResult` 項目が修正され、Error の有効な値が追加されました。ウォークスルーを監視して、ユーザにいつウォークスルエラーが表示されるのかをキャッチします。ウォークスルーでは最大 10 個のプロンプトステップをサポートできるため、`StepCount` および `StepNumber` 項目も追加されました。`StepNumber` 項目は PromptVersion オブジェクトにも追加されました。

また、ウォークスルーの各プロンプトステップでは開始日が必要ないため、PromptVersion オブジェクトの `DelayDays`、`StartDate`、`TimesToDisplay`、`UserAccess` 項目が省略可能になりました。

動作の変更: Location オブジェクトで活動をサポートするように変更

活動を特定のロケーションに関連付けることができるようになりました。ロケーションに関連する ToDo や行動などの活動は、ロケーションレコードの詳細ページを表示したときに活動タイムラインに表示されます。

フローがデスクトップ Flow Designer で作成されているかどうかを確認する

FlowDefinitionView オブジェクトまたは FlowVersionView オブジェクトで新しい `IsSwingFlow` 項目を使用します。

営業

多数のユーザを Einstein 活動キャプチャ設定に追加する

新しい UserEmailCalendarSync オブジェクトを使用します。

動作の変更: [設定] やレポートのテリトリー関連の表示ラベルを明確化

Territory2 オブジェクトの `Description` 項目の表示ラベルが [テリトリーの説明]、`Name` 項目の表示ラベルが [テリトリーの表示ラベル] になっています。

コールコーチング設定の変更について確認する

新しい CallCoachConfigModifyEvent オブジェクトを使用します。

コールコーチングコールの録音プロバイダについて確認する

新しい CallCoachingMediaProvider オブジェクトを使用します。

通話の詳細、通話記録、ボイスメールの内容について確認する

VoiceCall オブジェクトでは、`ActivityId`、`OwnerId`、`RelatedRecordId` 項目と同様に、updateable 属性がサポートされています。`VendorCallKey` 項目では idLookup 属性がサポートされています。`FromCountry` および `ToCountry` 項目は削除され、`CallConnectDateTime` および `MediaProviderId` 項目が追加されました。

VoiceCallRecording オブジェクトに `IsConsented` 項目が含まれるようになりました。

VoiceMailContent オブジェクトでは、ndeletable 属性がサポートされなくなりました。

価格表のない注文を作成する

B2B ライセンスを持つ Salesforce 組織の開発者は、API を使用して価格表のない注文や価格表エントリのない注文品目を作成できるようになりました。

各価格表エントリに関連付けられている価格調整スケジュールの数を確認する

PricebookEntry オブジェクトで新しい `ActivePriceAdjustmentQuantity` 項目を使用します。

セールスケイデンスを効率化するセールスケイデンスの分岐ステップのルール設定を確認する

ActionCadenceRule オブジェクトで新しい `RuleType`、`ParentRuleName`、`GlobalEventType` 項目を使用します。

セールスケイデンスの関連するメールをグループ化し、見込み客が会話ビューでメールを表示できるようにする

ActionCadenceStep オブジェクトで新しい `IsThreaded` 項目を使用します。

動作の変更: 削除のマークが付いているステップを無視して、セールスケイデンスの有効なステップを照会
有効なステップのみを取得するには、ActionCadenceStep オブジェクトで新しい `IsOrphan` 項目を使用することが必要になりました。

セールスケイデンスが終了条件を満たしたために終了したかどうかを確認する
ActionCadenceStepTracker オブジェクトで新しい `AutomaticallyExited` 項目を使用します。

セールスケイデンスを終了させたグローバル終了条件を確認する
ActionCadenceTracker オブジェクトで新しい `ExitGlobalRuleId` 項目および `CompletionReason` 項目の新しい `AutomaticallyExited` 選択リスト値を使用します。

セールスケイデンスの自動メールステップが送信キューにあるかどうかを確認する
Spring '20 で導入された ActionCadenceStepTracker の `State` 項目の `Queued` 値が Salesforce および Lightning プラットフォームのオブジェクトリファレンスに追加されました。

動作の変更: Apex トリガ内から ToDo または行動の取引先責任者およびリードを取得
Apex トリガ内の `Task.TaskWhoIDs`、`Event.AcceptedEventInviteeIds`、`Event.DeclinedEventInviteeIds`、`Event.UndecidedEventInviteeIds`、`Event.EventWhoIDs` の照会で、関連する取引先責任者およびリードの ID が返されるようになりました。

Salesforce アンケート

顧客のライフサイクルのフェーズでネットプロモータースコアと顧客満足度スコアを収集する
新しい BusinessProcessGroup オブジェクトを使用します。

顧客ライフサイクルマップのフェーズを作成する
新しい BusinessProcessDefinition オブジェクトを使用します。

アンケートの質問を顧客ライフサイクルマップのフェーズに関連付ける
新しい BusinessProcessFeedback オブジェクトを使用します。

送信されたアンケートや受け取った回答に基づいてコンテキストを指定する
新しい SurveyEngagementContext オブジェクトを使用します。

アンケートエンゲージメントコンテキストレコードへのアクセスレベルのリストに関する情報を取得する
新しい SurveyEngagementContextShare オブジェクトを使用します。

アンケートバージョンのデフォルト設定に関する情報を取得する
新しい SurveyVersionAddlInfo オブジェクトを使用します。

Live Agent チャットセッションレコードをアンケートへの招待および回答に関連付ける
SurveySubject オブジェクトで `SubjectEntityType` 項目の新しい `LivechatTranscript` 選択リスト値を使用します。

アンケートへの招待の送信先 (取引先責任者、リード、ユーザ) を指定する
SurveyInvitation オブジェクトで新しい `ContactID`、`LeadId`、`UserID` 項目を使用します。

アンケートの新しい質問種別を使用する
SurveyQuestion オブジェクトで `QuestionType` 項目の新しい `Boolean` および `ShortText` 選択リスト値を使用します。

受け取った質問に対する回答の種別の情報を取得する
SurveyQuestionResponse オブジェクトで `Datatype` 項目の新しい `Boolean` 選択リスト値を使用します。

データマップの状況を追跡する
SurveyResponse オブジェクトで新しい `DataMapperExecutionStatus` 項目を使用します。

サービス

状況ベースの業務量ルーティングモデルで作業項目状況を追跡するために使用する項目を指定する
ServiceChannel オブジェクトで新しい `StatusField` 項目を使用します。

状況ベースの業務量ルーティングモデルで完了または処理中の作業項目の状況を表す状況項目の値を指定する
新しい ServiceChannelStatusField オブジェクトを使用します。

その他のスキルについて、指定されたタイムアウトが経過してもそのスキルを持つエージェントが対応可能にならない場合のスキルの削除順序を指定する
SkillRequirement および AgentWorkSkill オブジェクトで新しい `SkillPriority` 項目を使用します。

メッセージングチャネルのカスタムキーワードおよびカスタム応答を作成する
MsgChannelLanguageKeyword オブジェクトの新しい `CustomKeywords` および `CustomResponse` 項目を使用します。

スキルへのチャット転送に失敗したときのイベントを記録する
このイベントが発生すると、LiveChatTranscriptEvent で新しい `TransferredToSbrSkillFailed` イベント種別が記録されます。

エージェントとエンドユーザの会話を追跡する
新しい Conversation オブジェクトを使用します。

会話の参加者を追跡する
新しい ConversationParticipant オブジェクトを使用します。

作業指示にリンクされている経費を管理する
新しい Expense オブジェクトを使用します。

Einstein 返信のおすすめによって生成された返信を表示およびレポートする
新しい ReplyText オブジェクトを使用します。

Einstein 返信のおすすめからのクイックテキストを識別する
QuickText オブジェクトの 4 つの新しい項目 (`IsInsertable`、`ShouldPredictInRr`、`SourceEntity`、`SourceType`) は、クイックテキストがどこから生じて、エージェントがどのようにアクセスしたのかを理解するのに役立ちます。

削除: ServiceChannel オブジェクトの項目を削除
API バージョン 33.0 では、`CapacityPercentage` および `CapacityWeight` 項目が ServiceChannel オブジェクトから削除されました。

会話の参加者を追跡する
新しい ConversationParticipant オブジェクトを使用します。

サービスリソースで Planner の ResourceType を使用する
ServiceResource オブジェクトで `ResourceType` 選択リスト項目の新しい `Planner` 値を使用します。

サービスレポートで Quip テンプレートを使用する
ServiceReport オブジェクトで `DocumentContentType` 選択リスト項目の新しい `text/vnd.salesforce.quip-template` 値を使用します。

予定に割り当てられているサービスリソースを表示する
ServiceAppointment オブジェクトの新しい `IsAnonymousBooking` 項目を使用して、サービスリソースが自動的に予定に割り当てられたかどうかを確認します。

アセットの可用性と信頼性を追跡する
Asset オブジェクトで、`AverageUptimePerDay`、`UptimeRecordEnd`、`UptimeRecordStart` を使用して、アセットの可用性と信頼性に関するデータを収集する条件を設定します。次に、`SumDowntime`、`SumUnplannedDowntime`、`Availability`、`Reliability` を使用して、可用性と信頼性の総計値についてレポートします。

`SumDowntime` および `SumUnplannedDowntime` の計算で使用されるダウンタイム期間は AssetDowntimePeriod オブジェクトに記録されます。

ナレッジの標準共有を有効にする
KnowledgeSettings オブジェクトの新しい `enableKbStandardSharing` 項目を使用します。

ケースとナレッジ記事を接続する
KnowledgeSettings オブジェクトの新しい `enableKnowledgeAgentContribution` 項目を使用してケースからナレッジ記事を作成し、新しい `enableKnowledgeCaseRL` 項目を使用してナレッジ記事にリンクされたケースのリストを作成します。

返信からナレッジ記事を作成する
KnowledgeSettings オブジェクトの新しい `enableKnowledgeAnswersPromotion` 項目を使用します。

ソリューションで参照、要約の追加、ブレッドクラムの使用を行う
CaseSetting オブジェクトの 3 つの新しい項目で、ソリューションに機能を追加します。
`enableSolutionCategory` 項目を使用して、ソリューション参照を有効にします。
`enableSolutionShortSummary` 項目では、ソリューションに概要を追加できます。
`enableSolutionInlineCategory` 項目では、ソリューションカテゴリ階層 (ブレッドクラム) を表示できます。

マルチ言語ソリューション機能を使用する
CaseSettings オブジェクトの新しい `enableMultiLangSolution` 項目を使用して、マルチ言語ソリューションを有効にします。2 つの新しい項目でマルチ言語ソリューション検索を有効にします。
`enableMultiLangSolnSrchPKB` は公開ソリューションのマルチ言語検索を有効にします。
`enableMultiLangSolnSrchCSS` はセルフサービスポータルでのソリューションのマルチ言語検索を有効にします。

ソーシャル投稿から作成されたケースのケース件名項目をカスタマイズする
CaseSubjectParticle オブジェクトを使用します。この型は、API バージョン 41.0 で導入され、*『SOAP API 開発者ガイド』* に追加されました。

Lightning B2B Commerce

価格表をバイヤーグループに割り当てる
新しい BuyerGroupPricebook オブジェクトを使用します。

バイヤーの購入の配送の詳細に関する情報を取得する
新しい CartDeliveryGroup オブジェクトを使用します。

バイヤーユーザがカート配送グループの配送方法を選択できるようにする
新しい CartDeliveryGroupMethod オブジェクトを使用します。

カートから注文に移動したときのチェックアウトセッションに関する情報の取得する
新しい CartCheckoutSession オブジェクトを使用します。

バイヤーのカートの品目に関する情報を取得する
新しい CartItem オブジェクトを使用します。

バイヤーのカートの品目に対して請求される予想税額と実効税額に関する情報を取得する
新しい CartTax オブジェクトを使用します。

エラーをカートエンティティに関連付ける
新しい CartValidationOutput オブジェクトを使用します。

エンタイトルメントポリシーをバイヤーグループに割り当てる
新しい CommerceEntitlementBuyerGroup オブジェクトを使用します。

ストアの新しいエンタイトルメントポリシーを作成する
新しい CommerceEntitlementPolicy オブジェクトを使用します。

コマースエンタイトルメントポリシーを共有する
新しい CommerceEntitlementPolicyShare オブジェクトを使用します。

エンタイトルメントポリシーを商品に割り当てる
新しい CommerceEntitlementProduct オブジェクトを使用します。

各種メディアを商品およびカテゴリに追加する
新しい ElectronicMediaGroup オブジェクトを使用します。

メディアの使用方法に関する情報を取得する。
新しい ElectronicMediaUse オブジェクトを使用します。

商品をカテゴリにグループ化する。
新しい ProductCategory オブジェクトを使用します。

メディアを商品に関連付ける。
新しい ProductMedia オブジェクトを使用します。

外部サービスを使用してストアのチェックアウトインテグレーションを対応付ける
新しい RegisteredExternalService オブジェクトを使用します。

サービスを使用してインテグレーションをストアに対応付ける
新しい StoreIntegratedService オブジェクトを使用します。

バイヤーのカートに関する情報を取得する
新しい WebCart オブジェクトや、WebCartHistory、WebCartOwnerSharingRule、WebCartShare に関連するオブジェクトを使用します。

Lightning 機能を使用してストアを作成する。
新しい WebStore オブジェクトを使用します。

商品のコレクションをストアに関連付ける。
新しい WebStoreCatalog オブジェクトを使用します。

バイヤーのリストに関する情報を取得する
新しい Wishlist オブジェクトや、WishlistOwnerSharingRule および WishlistShare に関連するオブジェクトを使用します。

バイヤーのリストの品目に関する情報を取得する
新しい WishlistItem オブジェクトを使用します。

価格表をストアに割り当てる
新しい WebStorePricebook および WebStorePricebookFeed オブジェクトを使用します。

コミュニティ

外部取引先で別の外部取引先を管理できるようにする。
新しい DelegatedAccount オブジェクトを使用します。

イベントおよびシステムリンクのナビゲーションメニュー項目を作成する
NavigationMenuItem オブジェクトで新しい Event および SystemLink 項目を使用します。

パーソナライズする利用者対象を作成する
新しい PersonalizationTargetInfo オブジェクトを使用します。

ポータルユーザ/外部ユーザの代理管理者 (DPUA) がポータルユーザに割り当てる権限セットの API 参照名、言語、マスタ表示ラベルを識別する
PortalDelegablePermissionSet オブジェクトの新しい DeveloperName、Language、MasterLabel 項目を使用します。

商業注文

VAT を使用して組織の注文の総税額を追跡する
Order オブジェクトで新しい `TaxLocaleType`、`TotalAdjProductAmtWithTax`、`TotalAdjDeliveryAmtWithTax`、`TotalProductAdjDistAmtWithTax`、`TotalDeliveryAdjDistAmtWithTax` 項目を使用します。

VAT を使用して組織の注文品目の総税額を追跡する
Order オブジェクトで新しい `GrossUnitPrice`、`RoundedLineAmtWithTax`、`TotalAdjustmentAmtWithTax`、`AdjustedLineAmtWithTax`、`TotalLineAdjustmentAmtWithTax`、`TotalAdjustmentDistAmtWithTax`、`TotalAmtWithTax` 項目を使用します。

VAT を使用して組織の注文品目調整品目の総税額を追跡する
Order オブジェクトで新しい `TotalAmtWithTax` 項目を使用します。

VAT を使用して組織の注文配送グループの総税額を追跡する。
Order オブジェクトで新しい `TotalLineAmtWithTax` および `TotalAdjustmentAmtWithTax` 項目を使用します。

商取引の支払

顧客のデジタルウォレットサービスから支払方法の情報を保存する
新しい DigitalWallet オブジェクトを使用します。

支払 API コールのコール元コンテキストを保存する
Payment および Refund オブジェクトで新しい `ClientContext` 項目を使用します。

支払方法に関するより多くの支払ゲートウェイ情報を保存する
CardPaymentMethod オブジェクトで新しい `GatewayDate`、`GatewayResultCode`、`GatewayResultCodeDescription`、`GatewayTokenDetails`、`ProcessingMode`、`SfResultCode` 項目を使用します。

支払方法に関するより多くの顧客支払情報を保存する
CardPaymentMethod オブジェクトで新しい `AuditEmail`、`CardTypeCategory`、`IpAddress`、`MacAddress`、`Phone` 項目を使用します。

カスタマイズ

B2B Commerce の商品 2 および商品カテゴリオブジェクトに保存されているデータを翻訳する
新しい Product2DataTranslation および ProductCategoryDataTranslation オブジェクトを使用します。

オブジェクトまたは項目でデータ翻訳が有効になっているかどうかを返す
オブジェクトでデータ翻訳が有効になっているかどうかを返すには、DescribeSObjectResult および DescribeGlobalSObjectResult オブジェクトで新しい `dataTranslationEnabled` プロパティを使用します。項目でデータ翻訳が有効になっているかどうかを返すには、Field オブジェクトで新しい `dataTranslationEnabled` 項目を使用します。

Lightning フロー

レコードの保存後にフローでアクションを実行する
FlowDefinitionView で `TriggerType` 項目の新しい `RecordAfterSave` 列挙を使用します。詳細は、「レコードの保存後に実行するフローのトリガ」を参照してください。

プラットフォームイベントメッセージを受信したときにフローをトリガする
FlowDefinitionView で `TriggerType` 項目の新しい `PlatformEvent` 列挙を使用します。詳細は、「プラットフォームイベントメッセージの受信時に実行するフローのトリガ」を参照してください。

フローインタビューの実行数、フロー状況、画面の表示時間など、作成する画面フローに関する情報を取得する
新しい FlowInterviewLog オブジェクトや、FlowInterviewLogShare および FlowInterviewLogOwnerSharingRule に関連するオブジェクトを使用します。

FlowInterviewLog オブジェクト用に生成されたログデータに関する情報を取得する
新しい FlowInterviewLogEntry オブジェクトを使用します。

セキュリティ、プライバシー、ID

接続アプリケーションにカスタム OAuth 範囲を割り当てる
新しい OauthCustomScopeApp オブジェクトを使用します。

組織で発生した脅威検出イベントに関するフィードバックを提供する
新しい ThreatDetectionFeedback オブジェクトを使用します。

検出された脅威の提供されたフィードバックのフィード活動に関する情報を取得する
新しい ThreatDetectionFeedbackFeed オブジェクトを使用します。

検出されたレポート異常ストレージイベントのフィード活動に関する情報を取得する
新しい ReportAnomalyEventStoreFeed オブジェクトを使用します。

検出されたクレデンシャルスタッフィングストレージイベントのフィード活動に関する情報を取得する
新しい CredentialStuffingEventStoreFeed オブジェクトを使用します。

検出されたセッションハイジャックストレージイベントのフィード活動に関する情報を取得する
新しい SessionHijackingEventStoreFeed オブジェクトを使用します。

トランザクションセキュリティポリシーのエラーメッセージをカスタマイズする
TransactionSecurityPolicy オブジェクトで新しい `BlockMessage` 項目を使用します。

特定のコミュニケーション種別の顧客の同意設定を管理する
ContactPointTypeConsent オブジェクトで新しい `EngagementChannelType` 項目または `ContactPointType` 項目を使用します。

コミュニケーションチャネルの顧客の設定を管理する
ContactPointConsent オブジェクトで新しい `EngagementChannelTypeId` 項目を使用します。

認証フォームの顧客の同意レコードを保存する
既存の AuthorizationFormConsent オブジェクトの新しい `RelatedRecordId` 項目を使用します。

個人取引先に複数の住所を追加する
新しい ContactPointAddress オブジェクトを使用します。

新しい REST API パラメータを使用して顧客の同意情報を取得する
新しい `Policy` パラメータを指定して、同意 API に対して GET 要求を実行します。

注文管理

マルチ通貨が有効になっている組織の注文の ISO 通貨コードを取得する
次のオブジェクトで新しい `CurrencyIsoCode` 項目を使用します。

- FulfillmentOrder
- FulfillmentOrderItemAdjustment
- FulfillmentOrderItemTax
- FulfillmentOrderLineItem
- OrderAdjustmentGroupSummary
- OrderDeliveryGroupSummary
- OrderItemAdjustmentLineSummary
- OrderItemSummary
- OrderItemSummaryChange
- OrderItemTaxLineItemSummary
- OrderPaymentSummary
- OrderSummary

注文の税金の地域種別 (総税額または正味税額) を取得する
FulfillmentOrder および OrderSummary オブジェクトで新しい `TaxLocaleType` 項目を使用します。

総税額を使用して行われた注文の税込金額を取得する
次の新しい項目を使用します。

- FulfillmentOrder オブジェクトの `TotalProductAmtWithTax`、`TotalAdjustmentAmtWithTax`、`TotalDeliveryAdjustAmtWithTax`、`TotalDeliveryAmtWithTax`。
- FulfillmentOrderItemAdjustment オブジェクトの `TotalAmtWithTax`。
- FulfillmentOrderLineItem オブジェクトの `GrossUnitPrice`、`TotalLineAmountWithTax`、`TotalAdjustmentAmountWithTax`。

- OrderDeliveryGroupSummary オブジェクトの `TotalAdjustmentAmtWithTax` および `TotalLineAmtWithTax`。
- OrderItemAdjustmentLineSummary オブジェクトの `TotalAmtWithTax`。
- OrderItemSummary オブジェクトの `GrossUnitPrice`、`TotalAdjustmentAmtWithTax`、`AdjustedLineAmtWithTax`、`TotalLineAdjustmentAmtWithTax`、`TotalAdjustmentDistAmtWithTax`、`TotalAmtWithTax`、`TotalLineAmountWithTax`。
- OrderSummary オブジェクトの `TotalAdjProductAmtWithTax`、`TotalAdjDeliveryAmtWithTax`、`TotalProductAdjDistAmtWithTax`、`TotalDeliveryAdjDistAmtWithTax`、`TotalAdjDistAmountWithTax`。

個人取引先を使用していない組織の買い物客に関する情報を取得する
FulfillmentOrder および OrderSummary オブジェクトで新しい `BillToContactId` 項目を使用します。

OrderItemSummary に関連付けられている商品の在庫保管単位 (SKU) を取得する
OrderItemSummary オブジェクトで新しい `StockKeepingUnit` 項目を使用します。

価格調整を OrderItemSummaries に適用する
OrderItemSummaryChange オブジェクトで `ChangeType` 項目の新しい `ProductAdjustment` 選択リスト値を選択します。

OrderPaymentSummary の最終参照日および最終閲覧日に関する情報を取得する
OrderPaymentSummary オブジェクトで新しい `LastReferencedDate` および `LastViewedDate` 項目を使用します。

動作の変更: OrderSummary で PO 番号を設定または変更可能
OrderSummary オブジェクトの `PoNumber` 項目に Create および Update プロパティが追加されました。

動作の変更: OrderSummaries を使用して、外部システムで管理されている注文のデータを保存可能
OrderSummary オブジェクトで新しい `OrderLifeCycleType` 項目を使用して、管理 (Salesforce 注文管理) または未管理 (外部システム) として識別します。

開発

動作の変更: 長さが 255 の標準選択リスト値を返す
DescribeSObjectResult の length 項目を使用して、255 文字の標準選択リスト項目を返します。

Apex 要求によってトリガされる複数のデバッグログを相関付ける
ApexLog オブジェクトで新しい `RequestIdentifier` 項目を使用します。

特定の組織で開発しているパッケージのパッケージ種別を取得する
MetadataPackage オブジェクトで新しい `PackageCategory` 項目を使用します。

登録者組織にインストールされたパッケージの ID を取得する
PackageSubscriber オブジェクトで新しい `MetadataPackageId` 項目を使用します。

Visualforce ページに関するメタデータを取得する
`ApexPageInfo` オブジェクトを使用します。

Work.com

Work.com Workplace Command Center のソリューションを作成する
Work.com のカスタムソリューションを作成するには、次の新しいオブジェクトを使用します。

- Crisis
- Employee
- EmployeeCrisisAssessment
- InternalOrganizationUnit

動作の変更: Work.com オブジェクトを使用するときに、カスタムページレイアウトで個々の項目を除外し、項目の変更履歴を追跡し、カスタムレポートを実行し、条件に基づく共有ルールを定義し、すべてのオブジェクトレコードをリストビューとして表示できるように変更

項目の変更履歴を追跡するには、新しい関連オブジェクトの EmployeeHistory、EmployeeCrisisAssessmentHistory、CrisisHistory、InternalOrganizationUnitHistory を使用します。条件に基づく共有ルールを定義するには、新しい関連オブジェクトの EmployeeShare、EmployeeCrisisAssessmentShare、CrisisShare、InternalOrganizationUnitShare を使用します。

Work.com オブジェクトで特定の項目を検索する

次のオブジェクトで検索できるようになりました。

- Crisis (CrisisType および Name 項目)
- Employee (Email、EmployeeNumber、FirstName、LastName、PreferredFirstName 項目)
- InternalOrganizationUnit (OrganizationCode および OrganizationName 項目)

新規追加または変更された標準プラットフォームイベント

こうした新規追加または変更された標準プラットフォームイベントのチャネルに登録することで、Salesforce からリアルタイム通知を受信します。

サービス

Einstein ケース分類の予測の信頼性が低いケースの識別する

AIUpdateRecordEvent の 2 つの新しい項目を使用すると、Einstein による自動更新に必要な信頼性レベルを項目予測が下回るケースを識別できます。`IsUpdated` はケースが更新されたかどうかを示し、`UpdatedFields` は更新された項目をリストします。この情報を使用して、これらのケースをキューに追加し、ケースのルーティングロジックを確認または再実行します。

セキュリティと ID: リアルタイムイベントモニタリング

脅威検出イベント (CredentialStuffingEvent、ReportAnomalyEvent、SessionHijackingEvent) に関する通知専用のトランザクションセキュリティポリシーを作成する

トランザクションセキュリティポリシーをサポートするために、ストリーミングイベントとそれに関連付けられたストレージオブジェクトに `EvaluationTime`、`PolicyId`、`PolicyOutcome` の 3 つの項目が追加されました。Spring '20 でベータだった脅威検出イベントが正式リリースされました。

Salesforce UI で脅威検出ストレージイベント (CredentialStuffingEventStore、ReportAnomalyEventStore、SessionHijackingEventStore) を表示する

`<Event>Number` (`ReportAnomalyEventNumber` など)、`LastReferencedDate`、`LastViewedDate` の 3 つの項目が追加されました。Spring '20 でベータだった脅威検出イベントが正式リリースされました。

脅威検出イベント (CredentialStuffingEvent、ReportAnomalyEvent、SessionHijackingEvent) の概要を表示する
ストリーミングイベントとそれに関連付けられたストレージオブジェクトの `Summary` 項目を表示します。この項目では、脅威を簡潔な表現で説明します。Spring '20 でベータだった脅威検出イベントが正式リリースされました。

セッションハイジャックイベントに関連付けられたブラウザフィンガープリント機能の完全なリストを表示する
SessionHijackingEvent および SessionHijackingEventStore 脅威検出イベントの `SecurityEventData` 項目を参照します。この項目には、JSON 形式の情報が含まれます。Spring '20 でベータだった脅威検出イベントが正式リリースされました。

ApiEvent から返される合計行数と 1 つのバッチで返される行数を区別する
ApiEvent および ApiEventStream の新しい `RowsReturned` 項目を参照します。

組織の実行時間が長い同時 Apex 制限を超えた場合のエラーを追跡する
新しい ConcurLongRunApexErrEvent イベントを使用します。

B2B Commerce

イベントを監視してエラーを解決するためにコマース活動を追跡する
CommerceDiagnosticEvent を登録して、Lightning B2B Commerce でチェックアウト、価格設定、検索などに関連する通知を受信します。

REST API

REST API では、リソースが変更されました。

開発

動作の変更: `/limits` 要求の応答の `DailyBulkApiRequests` 表示ラベルの名前を `DailyBulkApiBatches` に変更
この項目が何を表しているのかが明確になるように名前が変更されました。

動作の変更: Composite リクエストボディの `collateSubrequests` のデフォルト値を `true` に設定
これにより、並べ替えでより多くのユーザのパフォーマンスが向上します。

呼び出し可能アクション

呼び出し可能アクションとは、API を使用して Salesforce で実行できるアクションのことです。

呼び出し可能アクションは、REST API を介して使用できます。次のアクションが追加されました。

chat (ベータ)
Salesforce Anywhere でチャットを作成します。

addUsersToChat (ベータ)
既存の Salesforce Anywhere チャットにユーザを追加します。

addMessageToChat (ベータ)
既存の Salesforce Anywhere チャットにメッセージを追加します。

sendAlert (ベータ)

Salesforce Anywhere アラートをユーザに送信します。

呼び出し可能アクションについての詳細は、『Actions Developer Guide (アクション開発者ガイド)』を参照してください。

Connect REST API

Connect REST API を使用して、モバイルアプリケーション、イントラネットサイト、およびサードパーティの Web アプリケーションを Salesforce と統合します。カート、外部管理取引先、商品、ウィッシュリスト、検索設定など、Lightning の B2B Commerce で提供されるすべての機能を利用できます。非公開接続と通知を取得および更新できます。

このセクションの内容:

Chatter REST API の名称変更

Chatter REST API の名前が Connect REST API に変更され、フレームワークに含まれる API の性質がより適切に反映されるようになりました。

新規および変更された Connect REST API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

新規および変更された Connect REST API リクエストボディ

新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

新規および変更された Connect REST API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

関連トピック:

ConnectApi (Connect in Apex): 新規および変更されたクラスおよび Enum

Connect REST API Developer Guide (Connect REST API 開発者ガイド)

Apex 開発者ガイド: ConnectApi 名前空間

Chatter REST API の名称変更

Chatter REST API の名前が Connect REST API に変更され、フレームワークに含まれる API の性質がより適切に反映されるようになりました。

対象: この変更は、Personal Edition 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンのモバイルアプリケーションに適用されます。

理由: Connect REST API では、Chatter 以外の多くの機能がサポートされています。たとえば、今回のリリースでは Lightning の B2B Commerce、通知、およびその他の Chatter 以外のリソースが導入されています。そのため、フレームワークでサポートされるすべての API をより明確に表す名前に変更されました。

関連トピック:

Connect REST API Developer Guide (Connect REST API 開発者ガイド)

新規および変更された Connect REST API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

Lightning の B2B Commerce

カートの作成

Cart Input リクエストボディを指定して、新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/carts` リソースに対して POST 要求を実行します。

カートの取得

新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/carts/`***`cartId`*** リソースに対して GET 要求を実行します。

カートの削除

新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/carts/`***`cartId`*** リソースに対して DELETE 要求を実行します。

有効なカートの取得

新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/carts/active` リソースに対して GET 要求を実行します。

有効なカートが存在しない場合は作成

新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/carts/active` リソースに対して PUT 要求を実行します。

カート内の品目の取得

新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/carts/`***`cartId`***`/cart-items` リソースに対して GET 要求を実行します。

カートへの品目の追加

新しい Cart Item Input リクエストボディを指定して、新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/carts/`***`cartId`***`/cart-items` リソースに対して POST 要求を実行します。

有効なカート内の品目の取得

新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/carts/active/cart-items` リソースに対して GET 要求を実行します。

有効なカートへの品目の追加

新しい Cart Item Input リクエストボディを指定して、新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/carts/active/cart-items` リソースに対して POST 要求を実行します。

カートへの最大 100 個の品目のバッチ追加

新しい Cart Item Input リクエストボディで構成される Batch Collection Input リクエストボディを指定して、新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/carts/`***`cartId`***`/cart-items/batch` リソースに対して POST 要求を実行します。

有効なカートへの最大 100 個の品目のバッチ追加

新しい Cart Item Input リクエストボディで構成される Batch Collection Input リクエストボディを指定して、新規 `/commerce/webstores/`***`webstoreId`***`/carts/active/cart-items/batch` リソースに対して POST 要求を実行します。

カート内の品目の更新
新しい Cart Item Input リクエストボディを指定して、新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/carts/***cartId***/cart-items/***cartItemId*** リソースに対して PATCH 要求を実行します。

カート内の品目の削除
新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/carts/***cartId***/cart-items/***cartItemId*** リソースに対して DELETE 要求を実行します。

有効なカート内の品目の更新
新しい Cart Item Input リクエストボディを指定して、新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/carts/active/cart-items/***cartItemId*** リソースに対して PATCH 要求を実行します。

有効なカート内の品目の削除
新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/carts/active/cart-items/***cartItemId*** リソースに対して DELETE 要求を実行します。

外部管理取引先のコレクションの取得
新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/external-managed-accounts リソースに対して GET 要求を実行します。

商品の取得
新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/products/***productId*** リソースに対して GET 要求を実行します。

商品カテゴリの取得
新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/product-categories/***productCategoryId*** リソースに対して GET 要求を実行します。

ルートカテゴリから現在のカテゴリへの商品カテゴリパスの取得
新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/product-category-path/product-categories/***productCategoryId*** リソースに対して GET 要求を実行します。

複数の商品の価格の取得
Pricing Input リクエストボディを指定して、新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/pricing/products リソースに対して POST 要求を実行します。

通常、POST メソッドは項目を作成しますが、このリソースでは POST を使用して情報を取得します。

商品のリストと購入者価格の取得
effectiveAccountId 要求パラメータを指定して、/commerce/webstores/***webstoreId***/pricing/products/***productId*** リソースに対して GET 要求を実行します。

商品の検索
Product Search Input リクエストボディを指定して、新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/search/product-search リソースに対して POST 要求を実行します。

通常、POST メソッドは項目を作成しますが、このリソースでは POST を使用して情報を取得します。

商品検索設定の取得
ids 要求パラメータを指定して、/commerce/management/webstores/***webstoreId***/search/product-settings リソースに対して GET 要求を実行します。

商品検索設定の更新
Search Product Setting Collection Input リクエストボディを指定して、新規 /commerce/management/webstores/***webstoreId***/search/product-settings リソースに対して PATCH 要求を実行します。

検索インデックスの取得
新規 /commerce/management/webstores/***webstoreId***/search/indexes リソースに対して GET 要求を実行します。

商品カタログのインデックスの作成
新規 /commerce/management/webstores/***webstoreId***/search/indexes リソースに対して POST 要求を実行します。

メモ: POST は、要求パラメータもリクエストボディも取りません。

検索インデックスの取得
新規 /commerce/management/webstores/***webstoreId***/search/indexes/***indexId*** リソースに対して GET 要求を実行します。

検索可能属性の取得
新規 /commerce/management/webstores/***webstoreId***/search/attribute-settings/searchable-fields リソースに対して GET 要求を実行します。

検索可能属性の更新
新しい Searchable Attributes Collection Input リクエストボディを指定して、新規 /commerce/management/webstores/***webstoreId***/search/attribute-settings/searchable-fields リソースに対して PATCH 要求を実行します。

ファセット可能属性の取得
新規 /commerce/management/webstores/***webstoreId***/search/attribute-settings/facetable-fields リソースに対して GET 要求を実行します。

ファセット可能属性の更新
新しい Facetable Attributes Collection Input リクエストボディを指定して、新規 /commerce/management/webstores/***webstoreId***/search/attribute-settings/facetable-fields リソースに対して PUT 要求を実行します。

ウィッシュリストの取得
新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists リソースに対して GET 要求を実行します。

ウィッシュリストの作成
新しい Wishlist Input リクエストボディを指定して、新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists リソースに対して POST 要求を実行します。

ウィッシュリストの取得
新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists/***wishlistId*** リソースに対して GET 要求を実行します。

ウィッシュリストの削除
新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists/***wishlistId*** リソースに対して DELETE 要求を実行します。

カートへのウィッシュリストの追加
cartId 要求パラメータを指定して、新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists/***wishlistId***/actions/add-wishlist-to-cart リソースに対して POST 要求を実行します。

有効なカートへのウィッシュリストの追加
新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists/***wishlistId***/actions/add-wishlist-to-cart リソースに対して POST 要求を実行します。

ウィッシュリスト品目の取得
新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists/***wishlistId***/wishlist-items リソースに対して GET 要求を実行します。

ウィッシュリストへの品目の追加
Wishlist Item Input リクエストボディを指定して、新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists/***wishlistId***/wishlist-items リソースに対して POST 要求を実行します。

ウィッシュリスト品目の削除
新規 /commerce/webstores/***webstoreId***/wishlists/***wishlistId***/wishlist-items/***wishlistItemId*** リソースに対して DELETE 要求を実行します。

コールコーチング

コールコーチングの状況の取得
新規 /callcoaching/***callCoachingMediaProviderId*** リソースに対して GET 要求を実行します。

新しい音声コールと録音に関するメタデータの送信
新規 Connectors Call List Input リクエストボディを指定して、新規 /voicecalls リソースに対して POST 要求を実行します。

音声コールの音声記録のアップロード
新規 /voicecalls/***voiceCallId***/audio_upload リソースに対して POST 要求を実行します。

CMS 管理コンテンツ

チャネルで公開されたコンテンツのメディアノードのバイナリストリームを取得
新規 /connect/cms/delivery/channels/***channelId***/media/***mediaGUID***/content リソースに対して GET 要求を実行します。

チャネル内の管理コンテンツタイプの検索可能な状況を取得
新規 /connect/cms/channels/***channelId***/searchable-content-types リソースに対して GET 要求を実行します。

チャネル内の管理コンテンツタイプの検索可能な状況を更新
新規 Managed Content Type Searchable Input リクエストボディを指定して、新規 `/connect/cms/channels/channelId/searchable-content-types` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

商取引の支払

メモ: Commerce Payments リソースにアクセスするには、次の権限が必要です。

- Salesforce Order Management ライセンス。
- PaymentsAPIUser ユーザ権限。この権限は、Salesforce Order Management ライセンスと B2B Community ライセンスで使用できます。Salesforce システム管理者はこれをユーザプロファイルに割り当てます。
- PaymentsAPIAccess 組織権限。ユーザは、Salesforce Tier 3 サポートにチケットを登録して、この権限を要求する必要があります。

支払の承認
新規 `/commerce/payments/authorizations` リソースに対して POST 要求を実行します。

ファイル

Adobe Flash 表示のサポート終了
`/connect/files/fileId/rendition` リソースはデフォルトで Adobe Flash 表示を作成しなくなりました。Winter '21 で、このリソースは Adobe Flash 表示を返さなくなります。`/connect/files/fileId/previews/previewFormat` リソースを使用して SVG 表示を取得してください。

Lightning Scheduler

指定されたテリトリーのサービスリソースの空いている予定時間枠の検索
新しい Available Territories Input リクエストボディを指定して、新規 `/connect/scheduling/available-territory-slots` リソースに対して POST 要求を実行します。

活動目的

すべてのユーザの活動目的アクティビティの消去
新規 `/connect/communities/communityId/missions/activities/purge-job` リソースに対して POST 要求を実行します。

メモ: POST は、要求パラメータもリクエストボディも取りません。

通知

通知の取得
新規 `/connect/notifications` リソースに対して GET 要求を実行します。

通知のコレクションを既読、未読、表示、または未表示としてマーク
Notification Collection Input リクエストボディを指定して、新規 `/connect/notifications` リソースに対して PATCH 要求を実行します。

通知の取得
新規 `/connect/notifications/`***`notificationId`*** リソースに対して GET 要求を実行します。

通知を既読、未読、表示、または未表示としてマーク
Notification Input リクエストボディを指定して、新規 `/connect/notifications/`***`notificationId`*** リソースに対して PATCH 要求を実行します。

通知の状況の取得
新規 `/connect/notifications/status` リソースに対して GET 要求を実行します。

注文管理

提案された価格調整後アクションで期待される変更注文金額のプレビュー
新しい Adjust Order Item Summary Input リクエストボディを指定して、新規 `/commerce/order-management/order-summaries/`***`orderSummaryId`***`/actions/adjust-item-preview` リソースに対して POST 要求を実行します。

価格調整アクションの送信
新しい Adjust Order Item Summary Input リクエストボディを指定して、新規 `/commerce/order-management/order-summaries/`***`orderSummaryId`***`/actions/adjust-item-submit` リソースに対して POST 要求を実行します。

外部システムで管理されている注文を表す注文概要の作成
更新された Order Summary Input リクエストボディを指定して、`/commerce/order-management/order-summaries` リソースに対して POST 要求を実行します。

パーソナライズ

利用者対象の新しい型を作成する
更新された Target Input リクエストボディを指定して、`/connect/communities/`***`communityId`***`/personalization/targets` リソースに対して POST 要求を実行します。

非公開接続

接続種別の着信ネットワークトポロジの取得
新規 `/network-connection/inbound/connection-types/`***`connectionType`***`/topologies` リソースに対して GET 要求を実行します。

着信ネットワーク接続のプロビジョニング、同期、または切断
必須の `action` パラメータを指定して、新規 `/network-connection/inbound/connections/`***`developerName`*** リソースに対して POST 要求を実行します。

接続種別の発信ネットワークトポロジの取得
新規 `/network-connection/outbound/connection-types/`***`connectionType`***`/topologies` リソースに対して GET 要求を実行します。

発信ネットワーク接続のプロビジョニング、同期、または切断
必須の `action` パラメータを指定して、新規 `/network-connection/outbound/connections/`***`developerName`*** リソースに対して POST 要求を実行します。

Quip

Quip 文書の関連レコードのリストの取得
新規 `/connect/quip/related-records/`***`quipDocumentId`*** リソースに対して GET 要求を実行します。

新規および変更された Connect REST API リクエストボディ

新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

Lightning の B2B Commerce

Cart Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `currencyIsoCode` — カートに関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- `effectiveAccountId` — 要求が行われた取引先の ID。
- `name` — カートの名前。
- `type` — カートの種別。値は `Cart` です。

Cart Item Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `productId` — 商品の ID。
- `quantity` — カート品目の数量。
- `type` — カート内の品目の種別。値は `Product` です。

Distinct Value Refinement Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `nameOrId` — 属性の API 参照名。
- `type` — 検索ファセット種別。値は `DistinctValue` です。
- `values` — 属性値のカンマ区切りのリスト。

Facetable Attribute Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `displayRank` — ファセットの表示ランク。有効な値は 1 ～ 50 です。連続する一意の値である必要があります。
- `displayType` — ファセットの表示種別。値は次のとおりです。
  - `CategoryTree`

  - DatePicker
  - MultiSelect
  - SingleSelect
- nameOrId — 属性の API 参照名。
- type — 属性の種別。値は次のとおりです。
  - Custom
  - ProductCategory
  - Standard

Facetable Attributes Collection Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- facetableAttributeSettings — 最大 10 個のファセット可能な設定のコレクション。

Pricing Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- pricingLineItems — 価格設定する品目。

Pricing Line Item Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- productId — 価格設定する商品の ID。

Product Search Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- categoryId — カテゴリ ID は、このカテゴリまたはそのサブカテゴリの商品の結果を返します。
- fields — 検索結果で返される商品項目。検索結果には、アクセス権のある項目が含まれます。指定しない場合、アクセスできるすべての項目が返されます。
- includePrices — 検索結果に商品の価格を含めるか (true)、否か (false) を指定します。指定しない場合は、デフォルトの false になります。
- page — 返すページのページ番号を指定します。0 から開始します。値を指定しないか 0 を指定した場合、最初のページが返されます。
- pageSize — ページあたりの項目数を指定します。有効な値は 1 ～ 200 です。指定しない場合、デフォルトは [管理] > [一般設定] > [商品と検索] の [ページあたりの検索結果数] で指定した値です。
- refinements — 検索結果の絞り込み。
- searchTerm — スペースで区切られた最大 32 個の検索語のリスト。

Searchable Attributes Collection Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- searchableAttributeSettings — 最大 25 個の検索可能属性のコレクション。

Searchable Attribute Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- isSearchable — 属性が検索可能か (true)、否か (false) を指定します。デフォルト値は true です。
- nameOrId — 属性の API 参照名。
- type — 属性の種別。値は次のとおりです。

  - `Custom`
  - `ProductCategory`
  - `Standard`

Search Product Setting Collection Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `searchProductSettings` — 更新する商品検索設定。

Search Product Setting Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `id` — 商品の ID。
- `searchable` — 商品が検索可能か (`true`)、否か (`false`) を指定します。

Wishlist Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `name` — ウィッシュリストの名前。
- `products` — ウィッシュリストに追加する商品のリスト。

Wishlist Item Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `productId` — ウィッシュリストで更新または追加する商品の ID。

コールコーチング

Connectors Call Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `activityId` — 記録された ToDo の ID。
- `callType` — 通話の種別。値は次のとおりです。
  - `Inbound`
  - `Outbound`
- `consented` — 着信通話の発信者または発信通話の受信者が録音に同意するか (`true`)、否か (`false`) を指定します。
- `endDateTime` — 通話終了時刻。
- `externalId` — 通話の外部 ID。
- `fromPhoneNumber` — 通話を発信した電話番号。
- `mediaProviderId` — メディアプロバイダの ID。
- `numberChannels` — 通話記録の音声チャネルの数。
- `recordId` — Salesforce の取引先、ケース、取引先責任者、またはリード ID。
- `recordingDuration` — 通話記録の時間 (秒単位)。
- `recordingFormat` — 録音形式。値は次のとおりです。
  - `Flac`
  - `Mp3`

  - `Wav`

- `startDateTime` — 通話開始時刻。
- `toPhoneNumber` — 通話を受信した電話番号。
- `userChannel` — ユーザ側の通話記録の音声チャネル番号。値は 0 または 1 です。0 は、デュアルチャネル録音での左側のチャネルを意味します。
- `userEmail` — 通話を発信または受信した Salesforce ユーザのメールアドレス。
- `userId` — 通話を発信または受信した Salesforce ユーザの ID。

Connectors Call List Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `calls` — 最大 200 件の音声コールのリスト。

CMS 管理コンテンツ

Managed Content Type Searchable Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `isSearchable` — 管理コンテンツタイプを検索可能に設定するか (`true`)、否か (`false`) を指定します。
- `name` — 管理コンテンツタイプの名前。

商取引の支払

Address Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `city` — 支払方法所有者の住所の市区郡。
- `companyName` — 支払方法所有者の住所の会社名。
- `country` — 支払方法所有者の住所の国。
- `postalCode` — 支払方法所有者の住所の郵便番号。
- `state` — 支払方法所有者の住所の都道府県。
- `street` — 支払方法所有者の住所の町名・番地。

Authorization API Payment Method Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `address` — 支払方法所有者の住所。
- `cardPaymentMethod` — 支払方法として使用されるカードに関する情報。
- `id` — 支払方法レコードの ID。この値が使用可能な場合、Authorization API Payment Method Input では他のプロパティは使用されません。
- `saveForFuture` — 今後の使用のために Salesforce で支払方法を保存するかどうかを定義します。

Authorization Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `accountId` — 承認トランザクションの Salesforce アカウント。
- `amount` — 承認の金額。
- `comments` — 支払承認の省略可能なコメント。

- currencyIsoCode — —支払承認に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- effectiveDate — 承認がトランザクションに適用される日付。
- paymentGatewayId — 承認を処理する支払ゲートウェイ。
- paymentGroup — 承認の支払グループ。ペイロードは、paymentGroup と paymentGroupId の両方ではなく、いずれかを参照する必要があります。
- paymentMethod — 承認トランザクションの支払ゲートウェイで使用される支払方法。

Capture Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- clientContext —支払APIのコンテキストを提供します。コンテキストを再確立するために支払のコール元で使用されます。

Card Payment Method Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- accountId — 支払方法がリンクされている Salesforce アカウント。
- cardCategory — カード処理種別。有効な値は、CreditCard または DebitCard です。
- cardHolderFirstName — カード所有者の名。
- cardHolderLastName — カード所有者の姓。
- cardHolderName — カード所有者の氏名。
- cardNumber—支払方法のカードの番号。
- cardType— カードネットワーク種別。有効な値は、AmericanExpress、DinersClub、Jcb、MasterCard、Maestro、および Visa です。
- comments — カードに関する詳細情報を提供する省略可能なコメント。
- cvv — カードの CVV。
- email — カード所有者のメール。
- expiryMonth — カードの有効期限 (月)。
- expiryYear — カードの有効期限 (年)。
- nickName — カードの省略可能なニックネーム。
- startMonth — カードの開始月。
- startYear — カードの開始年。

Payment Method Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- address — 支払方法所有者の住所。
- cardPaymentMethod — 支払方法として使用されるカードに関する情報。
- id — 支払方法レコードの ID。この値が使用可能な場合、Authorization API Payment Method Input では他のプロパティは使用されません。
- saveForFuture — 今後の使用のために Salesforce で支払方法を保存するかどうかを定義します。

Referenced Refund Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- clientContext — 支払APIのコンテキストを提供します。コンテキストを再確立するために支払のコール元で使用されます。

Refund Line Apply Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- amount — 適用する必要のある金額。
- appliedToId — 返金申請を受けた支払またはクレジットメモのID。
- comments — 返金申請の省略可能なコメント。
- effectiveDate — 申請が有効になる日付。
- refundId — 親返金エンティティのID。

Lightning Scheduler

Available Territories Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- accountId — 関連付けられている取引先のID。
- allowConcurrentScheduling — 同時予定が許可されているか(true)、否か(false)を示します。デフォルト値は、false です。
- endTime — 予定を終了できる最も遅い時間。
- requiredResourceIds — 時間枠内で利用可能でなければならないリソースIDのリスト。指定されていない場合は、すべての有資格のリソースが考慮されます。
- schedulingPolicyId — AppointmentSchedulingPolicyオブジェクトのID。指定されていない場合は、デフォルトの設定が考慮されます。
- startTime — 予定を開始できる最も早い時間。
- territoryIds — 指定された作業が実施されるサービステリトリーのIDのリスト。
- workType — 実施された作業の種別。
- workTypeGroupId — 実施されたすべての作業種別を含む作業種別グループのID。

Work Type Input

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- blockTimeAfterAppointmentInMinutes — この作業種別で通常ブロックされる予定の後の期間。
- blockTimeBeforeAppointmentInMinutes — この作業種別で通常ブロックされる予定の前の期間。
- durationInMinutes — 予定の期間(分)。
- id — 作業種別のID。
- operatingHoursId — 営業時間のID。
- operatingHoursTimeZone — 営業時間のタイムゾーン。
- skillRequirements — この作業種別に関連付けられているタスクを完了するために必要なスキルのリスト。
- timeFrameEndInMinutes — 予定の終了(分)。
- timeFrameStartInMinutes — 予定の開始(分)。

Skill Requirement Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `skillId` — 必要となるスキルの ID。
- `skillLevel` — 必要となるスキルのレベル。

通知

Notification Collection Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `before` — この ISO 8601 形式の日付文字列の前に発生した通知を既読、未読、表示、または未表示としてマークします。指定されていない場合、デフォルトの現在の日付と時刻に設定されます。
- `notificationIds` — 既読、未読、表示、または未表示としてマークする最大 50 個の通知 ID のリスト。
- `read` — 通知を既読 (`true`) または未読 (`false`) としてマークします。
- `seen` — 通知を表示 (`true`) または未表示 (`false`) としてマークします。

Notification Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `read` — 通知を既読 (`true`) または未読 (`false`) としてマークします。
- `seen` — 通知を表示 (`true`) または未表示 (`false`) としてマークします。

注文管理

Adjust Item Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `adjustmentType` — 金額の計算方法を表します。次のいずれかの値が含まれます。
  - `AmountWithTax` — 金額の値は税込の調整になります。
  - `AmountWithoutTax` — 金額の値は税別の調整になります。税金はこの値に基づいて計算されて追加されます。
  - `Percentage` — 金額の値は割引率になります。100 で除算されて、OrderItemSummary の TotalPrice と TotalTaxAmount で除算され、調整金額が決まります。
- `amount` — adjustmentType で表される調整金額の計算に使用される値。負の値である必要があります。
- `description` — 調整の説明。
- `orderItemSummaryId` — OrderItemSummary の ID。
- `reason` — 調整の理由。値は OrderItemSummaryChange オブジェクトの Reason 項目の選択リスト値のいずれかに一致している必要があります。

Adjust Order Item Summary Input
この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `adjustItems` — OrderItemSummaries への価格調整のリスト。

Ensure Refunds Async Input
このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `excessFundsAmount` — 返金する超過資金の金額。

Order Summary Input

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `orderLifeCycleType` — 注文を Salesforce 注文管理で管理するのか、外部システムで管理するのかを指定します。次のいずれかの値が含まれます。
  - `MANAGED` — Salesforce 注文管理で管理します。
  - `UNMANAGED` — 外部システムで管理します。

パーソナライズ

Target Input

このリクエストボディには、次の変更されたプロパティがあります。

- `targetType` — このプロパティでは次の新しい値がサポートされています。
  - `NavigationLinkSet`
  - `Topic`
  - `CollaborationGroup`
  - `KnowledgeArticle`
  - `ContentDocument`
  - `ManagedContent`
  - `Report`
  - `Dashboard`

新規および変更された Connect REST API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

Lightning の B2B Commerce

Cart Item

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `cartId` — カートの ID。
- `cartItemId` — 品目の ID。
- `listPrice` — 品目のリスト価格。
- `messagesSummary` — 品目のメッセージ概要。
- `name` — 品目の名前。
- `productDetails` — 商品の詳細の概要。
- `productId` — 商品の ID。
- `quantity` — 品目の数量。
- `salesPrice` — 品目の販売価格。
- `totalAmount` — 品目の合計金額。
- `totalListPrice` — 品目の合計リスト価格。

- totalPrice — 品目の合計価格 (調整を含み、税額は含まない)。
- totalTax — 品目の合計税額。
- type — カート内の品目の種別。値は次のとおりです。
  - DeliveryCharge
  - Product

Cart Item Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- cartItems — カート品目結果のコレクション。
- cartSummary — カートの概要。
- currentPageToken — 現在のページを識別するトークン。
- currentPageUrl — 現在のページを識別する Connect REST API URL。
- hasErrors — 少なくとも 1 つの結果にエラーがあるかを指定します。
- nextPageToken — 次のページを識別するトークン。次のページがない場合は null。
- nextPageUrl — 次のページを識別する Connect REST API URL。次のページがない場合は null。
- previousPageToken — 前のページを識別するトークン。前のページがない場合は null。
- previousPageUrl — 前のページを識別する Connect REST API URL。前のページがない場合は null。

Cart Item Product

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- fields — 商品項目と値の対応付け。
- name — 商品の名前。
- productId — 商品の ID。
- sku — 商品の SKU。
- thumbnailImage — 商品のサムネイル画像。

Cart Item Result

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- cartItem — カート品目。
- message — 要求が成功したときのメッセージ。
- status — 要求の状況。

Cart Item Without Price

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- cartId — カートの ID。
- cartItemId — 品目の ID。
- messagesSummary — 品目のメッセージ概要。
- name — 品目の名前。
- productDetails — 商品の詳細の概要。
- productId — 商品の ID。
- quantity — 品目の数量。

- type — カート内の品目の種別。値は次のとおりです。
  - DeliveryCharge
  - Product

Cart Message

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- message — カートメッセージ。
- messageId — メッセージを提供しているオブジェクトの ID。
- relatedEntityId — メッセージに関連付けられたエンティティ (カート、カート品目、カートの税額など) の ID。
- severity — カートメッセージの重大度。値は次のとおりです。
  - Error
  - Info
  - Warning
- type — メッセージの種別。標準値には、Inventory、Taxes、Pricing、Shipping、Entitlement、SystemError、Other があります。
- visible — メッセージが表示されるか (true)、否か (false) を指定します。

Cart Messages Summary

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- errorCount — 概要が単一エンティティ用の場合、重大度レベルが Error のメッセージ数。
- hasErrors — エンティティに関連するメッセージがあるか (true)、否か (false) を指定します。
- limitedMessages — 概要が単一エンティティ用の場合、エンティティに関連するメッセージの制限付きリスト。それ以外の場合、各メッセージはカートまたは別のカート関連エンティティに関連付けることができます。
- relatedEntityId — 概要が単一エンティティ用の場合、関連エンティティの ID。それ以外の場合、各メッセージはカートまたは別のカート関連エンティティに関連付けることができます。

Cart Summary

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- accountId — カートの取引先の ID。
- cartId — カートの ID。
- currencyIsoCode — カートに関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- grandTotalAmount — カートの通貨でのカート内の品目の総計金額 (送料と税額を含む)。
- name — カートの名前。
- ownerId — カートの所有者の ID。
- status — カートの状況。値は次のとおりです。
  - Active — カートは有効です。
  - Checkout — カートはチェックアウト中です。
  - Closed — カートは閉じられています。

  - `Processing` — カートは処理中です。
- `totalChargeAmount` — カートの通貨での送料およびその他の請求の合計金額。
- `totalListPrice` — カートの合計リスト価格。
- `totalProductAmount` — カート内の商品品目の合計金額 (割引を含み、送料と税額は含まない)。
- `totalProductCount` — カート内の品目の合計数。
- 。`totalTaxAmount` — 品目の合計総数 (調整を含み、税額は含まない)。
- `type` — カートの種別。値は `Cart` です。
- `uniqueProductCount` — カート内の一意の品目または SKU の合計数。
- `webstoreId` — カートの Webstore の ID。

Commerce Search Index

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `completionDate` — インデックスの完了日時。
- `createdDate` — インデックスの作成日。
- `creationType` — インデックスの作成種別を指定します。有効な値は、次のとおりです。
  - `Manual`
  - `Scheduled`
- `id` — インデックスの ID。
- `indexStatus` — インデックスの状況を指定します。有効な値は、次のとおりです。
  - `Completed`
  - `Failed`
  - `InProgress`
- `indexUsage` — インデックスの使用状況を指定します。有効な値は、次のとおりです。
  - `Live`
  - `OutOfUse`
- `message` — インデックス状況の詳細なメッセージ。

Commerce Search Index Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `indexes` — 最大 2 個のインデックスのリスト。完了したライブインデックスと、進行中の使用されていないインデックスまたは最近失敗した使用されていないインデックスを返します。

Distinct Facet Value

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `displayName` — ファセット値の表示名。
- `nameOrId` — 属性の API 参照名。
- `productCount` — ファセット値に一致する検索結果の商品数。
- `type` — ファセット値の種別。値は `DistinctValue` です。

Distinct Value Search Facet

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- attributeType — 属性の種別。値は次のとおりです。
  - Custom
  - ProductCategory
  - Standard
- displayName — ファセットの表示名。
- displayRank — ファセットの表示ランク。有効な値は 1 ～ 50 です。
- displayType — ファセットの表示種別。値は次のとおりです。
  - CategoryTree
  - DatePicker
  - MultiSelect
  - SingleSelect
- facetType — ファセット値の種別。値は DistinctValue です。
- nameOrId — 属性の API 参照名。
- values — 検索結果で見つかったファセットの値。表示名がアルファベット順に並び替えられます。

External Managed Account Collection Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- externalManagedAccounts — 外部管理取引先のコレクション。
- totalExternalManagedAccounts — 外部管理取引先の合計数。

External Managed Account Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- accountId — 別の取引先によって管理される取引先の ID。
- externalManagedAccountId — 外部管理取引先レコードの ID。

Facetable Attribute

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- displayRank — ファセットの表示ランク。有効な値は 1 ～ 50 です。
- displayType — ファセットの表示種別。値は次のとおりです。
  - CategoryTree
  - DatePicker
  - MultiSelect
  - SingleSelect
- label — 属性のローカライズされた表示ラベル。
- nameOrId — 属性の API 参照名。
- type — 属性の種別。値は次のとおりです。
  - Custom
  - ProductCategory
  - Standard

Facetable Attributes Collection
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `facetableAttributeSettings` — ファセット可能属性のコレクション。

Field Value
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `value` — 項目の値。

Price Adjustment Schedule
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `id` — 価格調整スケジュールの ID。
- `priceAdjustmentTiers` — 価格調整階層のリスト。

Price Adjustment Tier
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `adjustmentType` — 階層の価格調整の種別。値は次のとおりです。
  - `AmountBasedAdjustment` — 価格は指定した金額で調整されます。
  - `PercentageBasedAdjustment` — 価格は指定したパーセントで調整されます。
- `adjustmentValue` — 階層の調整値。
- `id` — 価格調整階層の ID。
- `lowerBound` — 階層の下限。
- `tierUnitPrice` — 階層の単価。
- `upperBound` — 階層の上限。

Pricing Result
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `currencyIsoCode` — 商品に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- `error` — エラーコードおよびメッセージ。
- `pricingLineItemResults` — 価格設定結果の品目。
- `success` — 実行が成功したか (`true`)、否か (`false`) を指定します。

Pricing Result Line Item
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `error` — エラーコードおよびメッセージ。
- `listPrice` — 商品のリスト価格。
- `pricebookEntryId` — 価格表エントリの ID。
- `productId` — 価格設定する商品の ID。
- `success` — 実行が成功したか (`true`)、否か (`false`) を指定します。
- `unitPrice` — 商品の単価。

Product Category
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `description` — カテゴリの説明。

- id — カテゴリの ID。
- name — カテゴリの名前。

Product Category Detail

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- bannerImage — 商品カテゴリのバナー画像。
- fields — 商品カテゴリの項目のリスト。
- id — 商品カテゴリの ID。
- mediaGroups — 商品カテゴリのメディアグループのリスト。
- tileImage — 商品カテゴリのタイル画像。

Product Category Media

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- alternateText — 商品カテゴリメディアの代替テキスト。
- contentVersionId—メディアが ContentDocument として保存されている場合、最新の公開コンテンツバージョンの ID。画像が顧客によって提供された外部 URL の場合、値は null です。
- id — 商品カテゴリ画像の ID。
- mediaType — 商品メディアの種別。値は次のとおりです。
  - Document
  - Image
  - Video
- sortOrder — メディアグループ内のメディア品目の並び替え順。
- thumbnailUrl — 商品カテゴリメディアのサムネイルの URL。値が存在する場合、画像がネイティブにアップロードされているか外部でホストされているかに関係なく、サムネイルに使用する必要があります。
- title — 商品カテゴリメディアのタイトル。
- url — 商品カテゴリメディアの URL。

Product Category Media Group

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- developerName — 商品カテゴリメディアグループの API 参照名。
- id — 商品カテゴリメディアグループの ID。
- mediaItems — 商品カテゴリメディアグループ内のメディア品目のリスト。
- name — 商品カテゴリメディアグループの名前。
- usageType — メディアグループ内の商品メディア品目の利用状況種別。値は次のとおりです。
  - Attachment — 商品ドキュメントの添付ファイルがある商品メディアグループ。
  - Banner — 商品のバナー画像がある商品カテゴリメディアグループ。
  - Listing — 商品のリスト画像がある商品メディアグループ。
  - Standard — 商品の標準画像と動画がある商品メディアグループ。
  - Tile — 商品のタイル画像がある商品カテゴリメディアグループ。

Product Category Path
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `path` — パス内の商品カテゴリのリスト。

Product Detail
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `defaultImage` — 商品のデフォルト画像。
- `entitlement` — 商品のエンタイトルメントの詳細。
- `fields` — 商品の項目のリスト。
- `id` — 商品の ID。
- `mediaGroups` — 商品のメディアグループのリスト。
- `primaryProductCategoryPath` — 商品のプライマリカテゴリパス。

Product Entitlement
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `canViewPrice` — 商品の価格を表示できるか (`true`)、否か (`false`) を指定します。

Product Media
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `alternateText` — 商品メディアの代替テキスト。
- `contentVersionId`—メディアが ContentDocument として保存されている場合、最新の公開コンテンツバージョンの ID。画像が顧客によって提供された外部 URL の場合、値は `null` です。
- `id` — 商品画像の ID。
- `mediaType` — 商品メディアの種別。値は次のとおりです。
  - `Document`
  - `Image`
  - `Video`
- `sortOrder` — メディアグループ内のメディア品目の並び替え順。
- `thumbnailUrl` — 商品メディアのサムネイルの URL。値が存在する場合、画像がネイティブにアップロードされているか外部でホストされているかに関係なく、サムネイルに使用する必要があります。
- `title` — 商品メディアのタイトル。
- `url` — 商品メディアの URL。

Product Media Group
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `developerName` — 商品メディアグループの API 参照名。
- `id` — 商品メディアグループの ID。
- `mediaItems` — 商品メディアグループ内のメディア品目のリスト。
- `name` — 商品メディアグループの名前。
- `usageType` — メディアグループ内の商品メディア品目の利用状況種別。値は次のとおりです。
  - `Attachment` — 商品ドキュメントの添付ファイルがある商品メディアグループ。

  - `Banner` — 商品のバナー画像がある商品カテゴリメディアグループ。
  - `Listing` — 商品のリスト画像がある商品メディアグループ。
  - `Standard` — 商品の標準画像と動画がある商品メディアグループ。
  - `Tile` — 商品のタイル画像がある商品カテゴリメディアグループ。

Product Price

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `currencyIsoCode` — 商品に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- `listPrice` — 商品のリスト価格。
- `priceAdjustment` — 商品の価格調整スケジュール。
- `pricebookEntryId` — 価格表エントリの ID。
- `unitPrice` — 商品の単価。

Product Search Results

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `categories` — 検索結果のカテゴリ。
- `facets` — 検索結果のファセット。
- `locale` — 検索結果のロケール。
- `productsPage` — 検索結果の商品のページ。

Product Summary

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `defaultImage` — 商品のデフォルト画像。
- `fields` — 商品に属する項目の対応付け。
- `id` — 商品の ID。
- `name` — 商品の名前。
- `prices` — 商品の価格。

Product Summary Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `currencyIsoCode` — 商品に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- `pageSize` — 検索結果のページあたりの商品数。
- `products` — 商品概要のコレクション。
- `total` — 検索結果の商品の合計数。

Searchable Attribute

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `label` — 属性のローカライズされた表示ラベル。
- `nameOrId` — 属性の API 参照名。
- `type` — 属性の種別。値は次のとおりです。
  - `Custom`
  - `ProductCategory`

- Standard

Searchable Attributes Collection
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- searchableAttributeSettings — 検索可能属性のコレクション。

Search Category
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- category — カテゴリに関する情報。
- children — 検索結果が空でなかったカテゴリの第 1 レベルの子カテゴリ。
- productCount — カテゴリに属する検索結果の商品数。

Search Product Setting Collection Output
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- searchProductSettings — 商品検索設定のコレクション。

Search Product Setting Output
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- id — 商品の ID。
- searchable — 商品が検索可能か (true)、否か (false) を指定します。

Wishlist
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- page — ウィッシュリスト品目のページ。
- summary — ウィッシュリストの概要。

Wishlist Item
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- currencyIsoCode — 商品に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- error — エラー情報。
- listPrice — ウィッシュリスト品目のリスト価格。
- productSummary — ウィッシュリスト品目の商品概要。
- salesPrice — ウィッシュリスト品目の販売価格。
- wishlistItemId — ウィッシュリスト品目の ID。

Wishlist Item Collection
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- currencyIsoCode — 商品に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- currentPageToken — 現在のページを識別するトークン。
- currentPageUrl — 現在のページを識別する Connect REST API URL。
- hasErrors — 少なくとも 1 つの結果にエラーがあるか (true)、否か (false) を指定します。
- items — ウィッシュリスト品目のコレクション。
- nextPageToken — 次のページを識別するトークン。次のページがない場合は null。
- nextPageUrl — 次のページを識別する Connect REST API URL。次のページがない場合は null。

- previousPageToken — 前のページを識別するトークン。前のページがない場合は null。
- previousPageUrl — 前のページを識別する Connect REST API URL。前のページがない場合は null。

Wishlist Summaries

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- displayedList — コンテキストユーザに表示される最も古いウィッシュリスト。
- summaries — コンテキストユーザに属するウィッシュリストの概要。
- wishlistCount — コンテキストユーザに属するウィッシュリストの合計数。

Wishlist Summary

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- createdDate — ISO 8601 形式でのウィッシュリストの作成日 (例: 2011-02-25T18:24:31.000Z)。
- id — ウィッシュリストの ID。
- modifiedDate — ISO 8601 形式でのウィッシュリストの最終更新日 (例: 2011-02-25T18:24:31.000Z)。
- name — ウィッシュリストの名前。
- wishlistProductCount — ウィッシュリストの一意の商品数。

Wishlist to Cart Result

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- cartId — 商品が追加されたカートの ID。
- failedWishlistToCartItems — カートに追加されなかったウィッシュリスト品目。
- productsFailedCount — カートに追加されなかった商品の合計数。
- productsRequestedCount — カートへの追加が要求された商品の合計数。
- productsSucceededCount — カートに正常に追加された商品の合計数。
- succeededWishlistToCartItems — カートに正常に追加されたウィッシュリスト品目。

コールコーチング

Connectors Call Coaching Status

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- enabled — コールコーチング設定が有効で、パートナーのコネクタが有効であるか(true)、否か(false)を指定します。
- users — すべての有効なコールコーチングユーザのユーザ情報のリスト。

Connectors Call Coaching User Info

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- userEmail — ユーザのメール。
- userId — ユーザ ID。

Connectors Voice Call List Result

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- calls — 音声コール結果のリスト。

Connectors Voice Call Result

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- errorMsg — エラーメッセージ。
- externalId — 音声コールの外部 ID。
- isSuccess — 音声コールの送信が成功したか (true)、否か (false) を指定します。
- uploadUrl — 通話記録をアップロードする URL。
- voiceCallId — 音声コールの ID。

CMS 管理コンテンツ

Managed Content Media Node Value

このレスポンスボディには、次の変更されたプロパティと新しいプロパティがあります。

- altUrl — このプロパティは使用できなくなりました。

  バージョン 49.0 以降では、この情報は thumbnailUrl プロパティで返されます。

- mediaType — このプロパティの値は Image です。以前のバージョンでは、このプロパティは誤って Document と記載されていました。
- thumbnailUrl — メディアのサムネイルの URL。

Managed Content Media Source Node Value

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- fileName — メディアソースのファイル名。
- isExternal — メディアソースが外部 URL を介して参照されるか (true)、アップロードされるか (false) を指定します。
- mediaType — 管理コンテンツメディアの種別。値は次のとおりです。
  - Document
  - Image
- mimeType — メディアソースの MIME タイプ。
- nodeType — 管理コンテンツノードの種別。値は MediaSource です。
- referenceId — アップロードされたメディアソースの参照 ID。
- resourceUrl — メディアソースのリソース URL。
- unauthenticatedUrl — 認証されていないユーザのメディアソースの URL。外部ユーザがメディアソースを使用できない場合は null。
- url — 認証済みユーザのメディアソースの URL。

Managed Content Node Type

このレスポンスボディには、次の変更されたプロパティがあります。

- nodeType — このプロパティで mediaSource 値がサポートされるようになりました。

Managed Content Type Searchable

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- id — 管理コンテンツタイプの ID。
- isSearchable — 管理コンテンツタイプが検索可能か (true)、否か (false) を指定します。
- label — 管理コンテンツタイプのマスタ表示ラベル。

- `name` — 管理コンテンツ種別の API 参照名。

Managed Content Type Searchable Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `currentPageUrl` — 現在のページを識別する Connect REST API URL。
- `items` — 管理コンテンツタイプの検索可能な状況。
- `nextPageUrl` — 次のページを識別する Connect REST API URL。次のページがない場合は `null`。
- `totalItems` — 管理コンテンツタイプの検索可能な状況の合計数。

Managed Content Version

このレスポンスボディには、次の変更があります。

- `contentNodes` — このプロパティの種別で Managed Content Media Source Node Value の対応付けがサポートされるようになりました。

商取引の支払

Authorization Gateway Response Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `gatewayAuthorizationCode` — 支払ゲートウェイの認証コード。
- `gatewayAvsCode` — 支払ゲートウェイのトークン化で使用される住所検証システム。
- `gatewayDate` — 支払ゲートウェイが支払トランザクションを処理した日付。
- `gatewayMessage` — 支払トランザクションの状況に関する詳細を提供するために支払ゲートウェイが返す省略可能な方法。
- `gatewayReferenceDetails` — ゲートウェイ参照の詳細。
- `gatewayReferenceNumber` — ゲートウェイ参照番号。
- `gatewayResultCode` — ゲートウェイ結果コード。ゲートウェイが支払トランザクションを処理した結果を示します。結果コードは、ゲートウェイプロバイダによって異なります。Salesforce結果コードに対応付けられている必要があります。
- `gatewayResultCodeDescription` — 結果コードに関する詳細を提供します。
- `salesforceResultcode` — Salesforce 結果コード。ゲートウェイ結果コードの値に基づいて設定されている必要があります。

Authorization Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `gatewayResponse` — 支払承認のゲートウェイ応答の表現。
- `paymentAuthorization` — 支払承認の表現。
- `paymentGatewayLogs` — 支払承認のゲートウェイログリストの表現。
- `paymentGroup` — 支払承認の支払グループの表現。
- `paymentMethod` — 支払承認の支払方法の表現。

Payment Authorization Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `accountId` — 支払承認の Salesforce アカウント。

- amount — ゲートウェイで承認された支払トランザクションの金額。
- currencyIsoCode — —支払承認に関連付けられている 3 文字の ISO 4217 通貨コード。
- effectiveDate — 承認が有効になる日付。
- expirationDate — 承認が期限切れになる日付。
- id — 支払承認レコードの ID。
- paymentAuthorizationNumber — 支払承認レコードのシステム定義番号。
- requestDate — 承認が発生した日付。
- salesforceReferenceNumber — Salesforce 参照番号。
- status — ゲートウェイから返された支払承認の状況。

Payment Method Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- accountId — 支払方法が含まれる Salesforce アカウント。
- id — 支払方法レコードの ID。
- status — 支払方法の状況。

Refund Service Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- error — 返金のエラー応答の表現。
- gatewayResponse — 返金のゲートウェイ応答の表現。
- paymentGatewayLogs — 返金のゲートウェイログコレクションの表現。
- paymentGroup — 返金に関連付けられている支払グループ。
- refund — 返金応答の表現。

コミュニティ

Navigation Menu Item

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティと変更があります。

- actionType — ナビゲーションメニュー項目の URL 種別またはイベント。値は次のとおりです。
  - Event — イベントベースのナビゲーション。

    メモ: Event は内部のみで使用され、カスタムコンポーネントでは使用できません。

  - ExternalLink — コミュニティ外の URL。
  - InternalLink — コミュニティ内の相対 URL。
- actionValue — ナビゲーションメニュー項目のルート URL またはイベントの完全修飾名。
- url — このプロパティはバージョン 49.0 以降では返されません。actionValue プロパティにこの情報があります。
- urlType — このプロパティはバージョン 49.0 以降では返されません。actionType プロパティにこの情報があります。

Lightning Scheduler

Available Territory Slots Output

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `result` — 空いているテリトリー時間枠の結果。

Available Territory Slots List

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `territorySlots` — 空いているテリトリー時間枠のリスト。

Available Territory Slots

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `endTime` — 予定の終了時刻。
- `resources` — 指定されたテリトリーの対応可能なリソースのリスト。
- `startTime` — 予定の開始時刻。

通知

Notification

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `additionalData` — 今後の使用のための予約。
- `communityId` — 通知のコミュニティの ID。
- `communityName` — 通知の接続の名前。
- `count` — 通知のイベントの合計数。
- `id` — 通知の ID。
- `image` — 通知に関連付けられた画像の URL。
- `lastModified` — 通知が最後に更新された日時。
- `messageBody` — 通知のメッセージの本文。
- `messageTitle` — 通知のメッセージのタイトル。
- `mostRecentActivityDate` — 通知の最近のアクティビティの日時。
- `organizationId` — 通知受信者の組織の ID。
- `read` — 通知が既読とマークされるか (`true`)、未読とマークされるか (`false`) を指定します。
- `recipientId` — 通知の受信者の ID。
- `seen` — 通知が表示としてマークされるか (`true`)、未表示としてマークされるか (`false`) を指定します。
- `target` — 通知に関連付けられたレコードの ID。
- `type` — 通知の種別。
- `url` — 通知の URL。

Notification Collection

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `notifications` — 通知のコレクション。

Notification Status
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `lastActivity` — 通知の最新アクティビティ日時。アクティビティがない場合は現在の日時。
- `oldestUnread` — 最も古い未読通知の日時。未読通知がない場合は現在の日時。
- `oldestUnseen` — 最も古い未表示通知の日時。未表示通知がない場合は現在の日時。
- `unreadCount` — 未読通知の数。
- `unseenCount` — 未表示通知の数。

注文管理

Adjust Order Summary Output
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `changeBalances` — 価格調整アクションの想定される財務的価値 (プレビュー用) または実際の財務的価値 (送信用)。大部分の値は変更注文の値と一致します。2 つの変更注文が返されると、それらの値が結合されます。この出力の値の符号は、変更注文レコードの対応する値と逆になります。たとえば、`changeBalances` の割引の値が正の場合、変更注文レコードの値は負になります。
- `orderSummaryId` — OrderSummary の ID。
- `postFulfillmentChangeOrderId` — 履行された注文商品に適用される財務上の変更を保持する変更注文の ID。adjustPreview コールの場合、この値は常に null になります。
- `preFulfillmentChangeOrderId` — 履行されていない注文商品の財務上の変更を保持する変更注文の ID。adjustPreview コールの場合、この値は常に null になります。

Change Item Output
このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `totalAdjDeliveryAmtWithTax` — TotalAdjDeliveryAmtWithTax 項目への変更。
- `totalAdjDistAmountWithTax` — TotalAdjDistAmountWithTax 項目への変更。
- `totalAdjProductAmtWithTax` — TotalAdjProductAmtWithTax 項目への変更。

非公開接続

Inbound Network Connection AWS Topologies
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- `connectionType` — 接続種別。値は `AwsPrivateLink` です。
- `region` — 着信接続の設定に必要な AWS リージョン。
- `serviceName` — 着信通話を行う組織の AWS サービス名。
- `status` — リージョンの使用可能状況。値は次のとおりです。
  - `Available`
  - `Unavailable`
- `url` — 着信ネットワーク接続トポロジの URL。

Inbound Network Connection Topologies
この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- topologies — 着信通話を行うために必要なトポロジのリスト。

Outbound Network Connection AWS Topologies

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- connectionType — 接続種別。値は AwsPrivateLink です。
- iamRole — 発信通話を行うために必要な AWS IAM ロール。
- region — 顧客が使用できる AWS リージョン。
- status — リージョンの使用可能状況。値は次のとおりです。
  - Available
  - Unavailable
- url — 発信ネットワーク接続トポロジの URL。

Outbound Network Connection Topologies

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- topologies — 発信通話を行うために必要なトポロジ。

Quip

Quip Content Document Link

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- contentDocumentId — コンテンツドキュメントの ID。
- quipLinkedEntities — 関連するリンク済みエンティティのリスト。

Quip Linked Entity

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- linkedEntity — ファイルが共有されているユーザ、レコード、またはグループに関する情報。
- linkedEntitySharingType — 共有権限の種別。値は次のとおりです。
  - C — コラボレータ
  - I — 場所によって決まる

    この種別は一般に、共有権限がファイルではなくライブラリに設定されている場合に発生します。この値は、コンテキストユーザがファイルの所有者である場合にも使用されます。
  - N — アクセス権限なし
  - V — 閲覧者

Quip Related Records

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- quipContentDocumentLinks — 関連するコンテンツドキュメントリンクのリスト。

Einstein Analytics REST API

Salesforce で Einstein Analytics REST API を使用して、レシピジョブのユーザ通知を作成、更新、取得できます。データコネクタの検索で使用できる検索条件が増えました。アプリケーションの作成およびアップグレードライフサイクルのアプリケーションログ行を取得できます。

このセクションの内容:

新規および変更された Einstein Analytics REST API リソース
次のリソースが新規追加または変更されました。

新規および変更された Einstein Analytics REST API リクエストボディ
新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

新規および変更された Einstein Analytics REST API レスポンスボディ
新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

新規および変更された Einstein Analytics REST API リソース

次のリソースが新規追加または変更されました。

新しいクエリパラメータを指定してデータコネクタを検索する
`category`、`folderId`、`scope` パラメータを指定して、`/wave/dataConnectors` に対して GET 要求を実行します。有効なカテゴリ値は、`AdvancedPropertiesSupport`、`BatchRead`、`Direct`、`FileBased`、`FilterSupport`、`MuleSoft`、および `Output` です。

Analytics アプリケーションのアプリケーションログを取得する
`/wave/folders/`***`folderId`*** に対して GET 要求を行います。応答で `appLog` を返すように `filterGroup` パラメータを `supplemental` に設定します。

レシピ形式ですべてのレシピを検索する
`format` パラメータを指定して、`/wave/recipes/`***`recipeId`*** に対して GET 要求を実行します。

レシピ形式でレシピ応答を取得する
`format` パラメータを指定して、`/wave/recipes` に対して GET 要求を実行します。

レシピ通知を取得する
`/wave/recipes/`***`recipeId`***`/notification` に対して GET 要求を行います。

レシピ通知を更新する
新しい Recipe Notification Input リクエストボディを指定して、`/wave/recipes/`***`recipeId`***`/notification` に対して PUT 要求を実行します。

新規および変更された Einstein Analytics REST API リクエストボディ

新しく追加または変更されたリクエストボディを次に示します。

Compact Form Filter Input (CompactFormFilterInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- `booleanFilterLogic` - コンパクトフォームの Boolean 検索条件ロジックテキスト。

Dynamic Data Input (DynamicDataInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- `displayTemplate` - 解決する動的式を格納します。
- `values` - 動的値の対応付け。

Dynamic Value Input (DynamicValueInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- field - 値を解決するために使用される列。
- sourceType - インタラクション種別。有効な値は、Result および Selection です。
- step - 値のステップ ID。

Recipe Notification Input (RecipeNotificationInputRepresentation)

この新しいリクエストボディには、次のプロパティがあります。

- longRunningAlertInMins - アラートが送信されるまでのレシピの実行時間 (分)。
- notificationLevel - メールアラートの通知レベル。

Recipe Input (RecipeInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- format - レシピ形式種別。有効な値は、2.0 および 3.0 です。

SAQL Query Input (SaqlQueryInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の新しいプロパティがあります。

- queryLanguage - クエリの記述言語。有効な値は、SAQL および SQL です。

Text Widget Parameters Input (TextWidgetParametersInputRepresentation)

このリクエストボディには、次の変更があります。

- content - テキストの動的値。
- text - テキストの廃止された値。

新規および変更された Einstein Analytics REST API レスポンスボディ

新しく追加または変更されたレスポンスボディを次に示します。

App Log Output (AppLogRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- message - アプリケーション作成およびアップグレードプロセスのログ行。

Compact Form Filter Output (CompactFormFilterRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- booleanFilterLogic - コンパクトフォームの Boolean 検索条件ロジック。

Data Connector Output (DataConnectorRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- folder - コネクタの Analytics アプリケーション。

Data Connector Type Output (DataConnectorTypeRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- associatedCategories - データコネクタタイプが属するカテゴリ。有効な値は、AdvancedPropertiesSupport、BatchRead、Direct、FileBased、FilterSupport、MuleSoft、および Output です。

Dynamic Data Output (DynamicDataRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- displayTemplate - 解決する動的式を格納します。
- values - 動的値の対応付け。

Dynamic Value Output (DynamicValueRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- field - 値を解決するために使用される列。
- sourceType - インタラクション種別。有効な値は、Result および Selection です。
- step - 値のステップ ID。

Recipe Notification Output (RecipeNotificationRepresentation)

この新しいレスポンスボディには、次のプロパティがあります。

- longRunningAlertInMins - アラートが送信されるまでのレシピの実行時間 (分)。
- notificationLevel - メールアラートの通知レベル。

Recipe Output (RecipeRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- scheduleType - レシピのスケジュールタイプ。有効な値は、EventDriven および TimeDriven です。

Text Widget Parameters Output (TextWidgetParametersRepresentation)

このレスポンスボディには、次の変更があります。

- content - テキストの動的値。
- text - テキストの廃止された値。

Einstein Analytics Features Output (WaveFeaturesRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- orgHasFavorites - 組織でお気に入りが有効になっているか (true)、否か (false) を示します。
- orgHasWatchlistEnabled - 組織でウォッチリストが有効になっているか (true)、否か (false) を示します。

Einstein Analytics Folder Output (WaveFolderRepresentation)

このレスポンスボディには、次の新しいプロパティがあります。

- appLog - アプリケーションの作成およびアップグレードプロセスのログ行である message 文字列のリスト。

レポートおよびダッシュボード REST API

レポートおよびダッシュボード REST API の機能強化には、データカテゴリの検索条件を記述する新しいプロパティ、CSV ファイル種別の登録メールの添付ファイル、登録の添付ファイルのエンコードが含まれます。

変更されたリソース

新しいプロパティでは、データカテゴリの検索条件と、登録の添付ファイルを記述します。

レポート (/services/data/49.0/analytics/reports/{report_id}/ および /services/data/49.0/analytics/reports/{report_id}/describe/)

reportTypeMetadata オブジェクトの新しいプロパティでは、データカテゴリの検索条件を記述します。

プロパティ	型	説明
dataCategories	dataCategories[]	レポートのデータカテゴリの検索条件をそれぞれ記述しているオブジェクトの配列。 dataCategories 配列の各オブジェクトには次のプロパティが含まれます。 • categoryGroupId — データカテゴリの検索条件のルートカテゴリの一意の ID。 • categoryGroupName — データカテゴリの検索条件のルートカテゴリのユーザインターフェース名。 • categories[] — ルートカテゴリの子カテゴリの配列。 • categoryID — 子カテゴリの一意の ID。 • categoryName — 子カテゴリのユーザインターフェース名。 • childNodes[] — 子カテゴリの子カテゴリの配列。各子カテゴリには categoryID と categoryName があり、それ自体の子がある場合は、childNodes[] があります。 たとえば、次の JSON 応答は Location カテゴリのデータカテゴリの検索条件をルートカテゴリとして記述しています。Location カテゴリには、Canada、Mexico、USA の 3 つの子カテゴリの親である North America 子カテゴリの親である All 子カテゴリがあります。 `{ "reportTypeMetadata": { "dataCategories": [{ "categoryGroupId": "Locations", "categoryGroupName": "Locations", "categories": [{ "categoryId": "All", "categoryName": "All", "childNodes": [{ "categoryId": "North_America", "categoryName": "North America", "childNodes": [{ "categoryId": "Canada", "categoryName": "Canada" }, "categoryId": "Mexico",`

プロパティ	型	説明

		<pre>"categoryName": "Mexico"
		},
		{
		"categoryId": "USA",
		"categoryName": "USA"
		}
		]
		}
		]
		}
		]
		}
		]
		}
		}</pre>
		メモ: データカテゴリの検索条件は、ナレッジオブジェクト (ナレッジ記事、ケースを含むナレッジなど) を含むレポートタイプでのみ使用できます。

通知 (/services/data/49.0/analytics/notifications?source=lightningReportSubscribe & /services/data/49.0/analytics/notifications/{notification_id}

`thresholds` オブジェクトには、レポートの登録の添付ファイルを記述する新しいプロパティと変更されたプロパティがあります。

プロパティ	型	説明
`attachment`	文字列	Lightning Experience レポートの登録に添付ファイルが含まれるかどうかを指定します。添付ファイルが含まれる場合、添付されるファイルも指定します。 新しい値 `csv` がサポートされます。有効な値は、次のとおりです。 • `csv` — レポート結果をカンマ区切り値 (`.CSV`) ファイルとしてメールに添付します。登録メールにレコードレベルの詳細は含まれません。 • `excel` — レポート結果を `.XLSX` ファイルの形式のスプレッドシートとしてメールに添付します。 Lightning レポートの登録に添付ファイルが含まれない場合、`attachment` プロパティは返されません。`attachment` が返されない場合、HTML 形式のレポート結果が登録メールの本文に直接含まれます。

プロパティ	型	説明
attachmentEncoding	文字列	Lightning Experience 登録の添付ファイルのエンコードを指定します。有効な値は、次のとおりです。 • Unicode • UTF-8 • UTF-16 • MS932 • Shift_JIS • GB18030 • GB2312 • Big5 • Big5-HKSCS • EUC_KR • x-SJIS_0213 たとえば、次の JSON 応答は、Unicode ファイルを記述しています。

```
{
    "recordId": "00Oxx0000011yTXEAY",
    "source": "lightningReportSubscribe",
    "schedule": {
        "frequency": "weekly",
        "details": {
            "daysOfWeek": [
                "tue"
            ],
            "time": 9
        }
    },
    "runAs": null,
    "thresholds": [
        {
            "actions": [
                {
                    "configuration": {
                        "recipients": [],
                       "attachment" : "csv",

                       "attachmentEncoding":
 "Unicode"
                    },
                    "type": "sendEmail"
                }
            ],
            "conditions": [],
            "type": "always"
        }
```

プロパティ	型	説明
		] }

詳細は、『*Reports and Dashboards REST API Developer Guide (Salesforce レポートおよびダッシュボード REST API 開発者ガイド)*』(*リリースプレビューの時点で内容が刷新されたり、使用不能になる可能性があります*) を参照してください。

ユーザインターフェース API

レコードページのすべてのアクションを取得します。また、ユーザインターフェース API でサポートされるオブジェクトが増えています。

レコードページのすべてのアクションを取得する

レコードページのすべてのアクションを取得するには、新しい `retrievalMode` パラメータを使用します。`All` 値を使用するには、`apiNames` パラメータで 1 つ以上のアクションを渡す必要もあります。

```
GET /ui-api/actions/record/001d000000AtfRMAAZ?retrievalMode=All&apiNames=Account,Contact
```

`retrievalMode` のデフォルト値は、ページレイアウトからアクションを取得する `PageLayout` です。

Record Layout レスポンスにより詳細な情報が含まれる

Record Layout レスポンスボディに、プロパティ `objectApiName` および `recordTypeId` が追加されました。

Child Records リソースですべてのプロパティの値が返される

以前は、`/ui-api/records/${recordId}/child-relationships/${relationshipName}` リソースの一部のプロパティで常に `null` で返されていました。これらのプロパティに `lastModifiedById`、`lastModifiedDate`、`systemModStamp`、`weakEtag` の値が追加されました。

サポートされるオブジェクト

これらのオブジェクトは、大部分のユーザインターフェース API リソースでサポートされるようになりました。リストビューリソースと最後に使用した (MRU) リストビューリソースでは、より少ないオブジェクトのセットがサポートされます (下記参照)。

- AccountBrand
- AcctMgrPeriodicTargetDstr
- AcctMgrTarget
- AcctMgrTargetDstr
- AccountParticipant
- ActionPlanTemplate
- ActionPlanTemplateItem
- ActionPlanTemplateItemValue
- ActionPlanTemplateVersion
- Address
- AssessmentIndDefinedValue
- AssessmentTaskContentDocument

- AssetStatePeriod
- BusinessLicenseApplication
- CarePgmProvHealthcareProvider
- CareRegisteredDevice
- Employee
- EmployeeAsset
- EmployeeContact
- EmployeeJob
- EmployeeJobPosition
- EmployeeOrganization
- Expense
- HealthCareDiagnosis
- HealthCareProcedure
- HealthcareProvider
- InspectionAssessmentInd
- JobFamily
- JobPosition
- ListEmail
- Location
- LoyaltyProgram
- MaintenanceWorkRule
- OccupationLicenseApplication
- ProductCategoryMedia
- ProductMedia
- Promotion
- RecordAction
- RecordsetFilterCriteria
- RecordsetFilterCriteriaRule
- RegulatoryCode
- VisitedParty
- Visitor
- VoiceCall
- WorkContract

リストビューリソースで次のオブジェクトがサポートされるようになりました。

- AcctMgrTarget
- AccountParticipant
- ActionPlanTemplate
- ActionPlanTemplateItem
- ActionPlanTemplateItemValue
- ActionPlanTemplateVersion

- Address
- AssetStatePeriod
- BusinessLicenseApplication
- Expense
- InspectionAssessmentInd
- ListEmail
- Location
- LoyaltyProgram
- OccupationLicenseApplication
- Promotion
- RecordsetFilterCriteria
- RecordsetFilterCriteriaRule
- RegulatoryCode
- Visitor
- VoiceCall

最後に使用した (MRU) **リストビューリソースで次のオブジェクトがサポートされるようになりました。**

- AccountParticipant
- AcctMgrTarget
- ActionPlanTemplate
- ActionPlanTemplateItem
- ActionPlanTemplateItemValue
- ActionPlanTemplateVersion
- Address
- AssessmentTaskContentDocument
- BusinessLicenseApplication
- Expense
- InspectionAssessmentInd
- ListEmail
- Location
- LoyaltyProgram
- OccupationLicenseApplication
- Promotion
- RecordsetFilterCriteria
- RecordsetFilterCriteriaRule
- Visitor
- VoiceCall

Bulk API および Bulk API 2.0

次のコールと制限は、API **バージョン** 49.0 **で変更されました。**

変更されたコール

Bulk API 2.0 では、ロケータ値に新しい形式を使用する
クエリジョブの `Sforce-Locator` ヘッダーの値が(数値ではなく)疑似ランダムな文字列になりました。この変更により、実際に値を取得せずに値を推測しようとする間違いを回避できます。

Bulk API 2.0 では、リードおよび取引先責任者の作成または更新/挿入時に割り当てルールを使用する
ジョブの作成時に割り当てルール ID を指定して、割り当てルールをトリガできるようになりました。

変更された制限

より多くの一括要求を使用する

Bulk API および Bulk API 2.0 では、バッチ数の制限が 1 日あたり 10,000 から 15,000 に増加しました。

> **メモ:** Bulk API では、取り込み操作とクエリ操作の両方でバッチが使用されます。Bulk API 2.0 では、取り込み操作でのみバッチが使用されます。

Bulk API と Bulk API 2.0 のどちらも、取り込み操作で処理できるレコード数の制限が 1 日あたり 1 億から 1 億 5,000 万に増加しました。

Tooling API の新規オブジェクトと変更されたオブジェクト

Tooling API では、オブジェクトが新規追加および変更されました。

営業

OwnerChangeOptionInfo オブジェクトの詳細を取得する
サポートされる REST HTTP メソッドと `DurableId` 項目に関する更新情報がドキュメントに含まれるようになりました。`EntityDefinitionId`、`Label`、および `Name` 項目の Nillable プロパティも表示されます。

サービス

指定されたタイムアウトが経過してもそのスキルを持つエージェントが対応可能にならない場合のその他のスキルの削除順序を指定する
WorkSkillRoutingAttribute オブジェクトで新しい `SkillPriority` 項目を使用します。

削除: EmbeddedServiceLiveAgent オブジェクトの `headerBackgroundImg` 項目を削除
`headerBackgroundImg` 項目は API バージョン 49.0 で削除されます。

削除: EmbeddedServiceLiveAgent オブジェクトの `CustomPrechatComponent` 項目を削除
`CustomPrechatComponent` 項目は API バージョン 46.0 で削除されました。

削除: EmbeddedServiceLiveAgent オブジェクトの `LiveChatButtonId` および `LiveChatDeploymentId` 項目を削除
`LiveChatButtonId` および `LiveChatDeploymentId` 項目は Tooling API で公開されたことがなく、*『Tooling API Reference and Developer Guide (Tooling API リファレンスおよび開発者ガイド)』* から削除されます。

組み込みサービスコンポーネントのヘッダーの色をカスタマイズする
EmbeddedServiceBranding オブジェクトで新しい `navBarTextColor` および `secondaryNavBarColor` 項目を使用します。

組み込みサービスコンポーネントでブランドのアクセント色を使用する
EmbeddedServiceBranding オブジェクトで `ContrastInvertedColor` 項目を使用します。この型は、API バージョン 43.0 で導入され、*『Tooling API Reference and Developer Guide (Tooling API リファレンスおよび開発者ガイド)』* に追加されました。

EmbeddedServiceBranding オブジェクトの一般的な項目を操作する
EmbeddedServiceBranding オブジェクトの `DeveloperName`、`FullName`、`Language`、`ManageableState`、`MasterLabel`、`Metadata`、`NamespacePrefix` 項目のドキュメントが *『Tooling API Reference and Developer Guide (Tooling API リファレンスおよび開発者ガイド)』* に追加されました。

カスタマイズ

UI コンポーネントのカスタム表示ラベルを翻訳する
新しい ExternalStringLocalization オブジェクトを使用します。

Lightning フロー

システムコンテキスト共有なしでフローを実行するように設定する
Flow オブジェクトで `runInMode` 項目の新しい `SystemModeWithoutSharing` 列挙を使用します。

セキュリティと ID

非公開接続を使用して Salesforce と AWS 間で安全にデータトラフィックをルーティングする
新しい Tooling API オブジェクト InboundNetworkConnection、OutboundNetworkConnection、InboundNetworkConnProperty、OutboundNetworkConnProperty を使用して接続を定義および確立します。

トランザクションセキュリティポリシーのエラーメッセージをカスタマイズする
TransactionSecurityPolicy オブジェクトで新しい `BlockMessage` 項目を使用します。

リリース

完了または処理中のリリース操作について照会する
新しい DeployRequest オブジェクトを使用します。

完了または処理中のリリースの Apex テスト結果について照会する
新しい DeployTestResult オブジェクトを使用します。

開発

Apex 要求によってトリガされる複数のデバッグログを相関付ける
ApexLog オブジェクトで新しい `RequestIdentifier` 項目を使用します。

特定の組織で開発しているパッケージのパッケージ種別を取得する
MetadataPackage オブジェクトで新しい `PackageCategory` 項目を使用します。

ロック解除済みパッケージがインストール組織のメタデータに連動するかどうかをチェックする
Package2 オブジェクトまたは SubscriberPackageVersion オブジェクトのいずれかで新しい `IsOrgDependent` 項目を使用します。この項目はロック解除済みパッケージにのみ適用されます。

Visualforce ページに関するメタデータを取得する

`ApexPageInfo` オブジェクトは、API バージョン 37.0 で導入され、『*Tooling API Reference and Developer Guide (Tooling API リファレンスおよび開発者ガイド)*』に追加されました。

項目が API で記述できるかどうかを示す

FieldDefinition オブジェクトで新しい `IsEverApiAccessible` 項目を使用します。

メタデータ API

メタデータ API の型や項目が新規追加および変更されています。

Salesforce 全体

アプリケーション内学習、機能の採用、トレーニングのウォークスルーを追加する

Prompt メタデータ型で新しい `stepNumber` 項目を使用します。

動作の変更: `startDate` および `userAccess` 項目を省略可能に変更

これらの項目は Prompt メタデータ型にあります。

ユーザが Lightning Experience から Salesforce Classic に切り替える理由についてフィードバックを収集する

新しい LightningOnboardingConfig メタデータ型を使用します。

削除: WorkDotComSettings 型の `enableWorkUseObjectivesForGoals` 項目を削除

`enableWorkUseObjectivesForGoals` 項目は API バージョン 49.0 で削除されました。

Salesforce アンケート

顧客ライフサイクルの対応付けを有効にして、ライフサイクルの各種フェーズで顧客のフィードバックを追跡する

SurveySettings メタデータ型で新しい *`enableIndustriesCxmEnabled`* 項目を使用します。

アンケートを使用して顧客のライフサイクルの各種フェーズのカスタマーエクスペリエンスを追跡する

新しい BusinessProcessGroup メタデータ型を使用します。

営業

ユーザが各自のテリトリーの下位テリトリーに割り当てられた商談にアクセスするときのアクセスレベルを設定する

Territory2Settings メタデータ型で新しい `t2ForecastAccessLevel` 項目を使用します。

[テリトリーの設定] ページに成功バナーを表示する

Territory2Settings メタデータ型で新しい `showTM2EnabledBanner` 項目を使用します。

組織の Einstein 属性を有効にする

CampaignSettings メタデータ型で新しい `enableAIAttribution` 項目を使用します。

Einstein 属性で影響のあるキャンペーンをスキャンする期間を定義する

CampaignSettings メタデータ型で新しい `aiAttributionTimeframe` 項目を使用します。

動作の変更: [私の商談チーム] リストビューと [私のチームの商談] リストビューを区別

FilterScope enumeration 列挙に新しい列挙値 `SalesTeam` が追加されました。`SalesTeam` 列挙値は、商談チームに割り当てられている商談を表します。FilterScope 列挙の `Team` 列挙値は、チームに割り当てられているレコードのみを表すようになりました。これまで、`Team` は両方のリストビューを表していました。

動作の変更: EmailIntegrationSettings メタデータ型の `enableEmailTrackingInMobile` 項目をデスクトップ、モバイル、および従来のバージョンの Inbox に適用

EmailIntegrationSettings メタデータ型で `enableEmailTrackingInMobile` 項目を使用して、Inbox を備えた Outlook インテグレーションと Inbox を備えた Gmail インテグレーションのメール追跡機能を無効にします。この項目を使用すると、Inbox モバイルアプリケーションや従来のバージョンの Inbox のメール追跡も無効になります。

商談成立の可能性を予測する

新しい OpportunityScoreSettings メタデータ型を使用します。

メディアプロバイダを設定して、通話記録を Einstein コールコーチングにアップロードできるようにする

新しい CallCoachingMediaProvider メタデータ型を使用します。

営業担当の通話記録を分析して、チームでどのように改善できるのかに関するインサイトを取得する

新しい ConversationalIntelligenceSettings メタデータ型を使用します。

サードパーティスコアリングの作業キューオプションをカスタマイズする

新しい SalesWorkQueueSettings メタデータ型を使用します。

Salesforce からメールを送受するときにメールアドレスで非ラテンベースの文字を使用できるようにする

EmailAdministrationSettings メタデータ型で新しい `enableInternationalEmailAddresses` 項目を使用します。

コマース

Salesforce 注文管理で個人取引先を使用して買い物客を表すのか、取引先と取引先責任者を使用して買い物客を表すのかを定義する

OrderManagementSettings メタデータ型で新しい `enablePersonAccountsForShoppers` 項目を使用します。

Lightning Experience を使用してストアを作成する

新しい `webStoreTemplate` メタデータ型を使用します。

サービス

指定されたタイムアウトが経過してもそのスキルを持つエージェントが対応可能にならない場合のその他のスキルの削除順序を指定する

WorkSkillRouting メタデータ型で新しい `skillPriority` 項目を使用します。

アンケートを使用してチャット後のフィードバックを収集する

EmbeddedServiceConfig メタデータ型で `FlowType` 項目 (EmbeddedServiceFlow サブタイプ) の新しい `LA_Survey` 値を使用します。

削除: EmbeddedServiceLiveAgent 型の `headerBackgroundImg` 項目を削除

`headerBackgroundImg` 項目は API バージョン 49.0 で削除されました。

組み込みコンポーネントのヘッダーの色をカスタマイズする
EmbeddedServiceBranding メタデータ型で新しい `navBarTextColor` および `secondaryNavBarColor` 項目を使用します。

ページ読み込み時に表示するメニュー項目を有効にする
EmbeddedServiceMenuSettings メタデータ型の EmbeddedServiceMenuItem サブタイプで新しい `isDisplayedOnPageLoad` 項目を使用します。

分析

Analytic Calendar App for Industry 連動テンプレートを有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `analyticsCalendarApp` 項目を使用します。

S3 出力データコネクタを有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableS3OutputConnector` 項目を使用します。

Snowflake 出力データコネクタを有効にする
AnalyticsSettings メタデータ型で新しい `enableSnowflakeOutputConnector` 項目を使用します。

Analytics のデータレシピ形式を指定する
WaveRecipe メタデータ型で新しい `format` 項目を使用します。

コミュニティ

サイトまたはコミュニティページのフレーム化を許可する外部ドメインを指定する
CustomSite メタデータ型で新しい `siteIframeWhiteListUrls` 項目を使用します。

コミュニティのログインページ種別をすべての組み込みログイン実装に適用する
CommunitiesSettings メタデータ型で新しい `applyLoginPageTypeToEmbeddedLogin` 項目を使用します。

コマーステンプレートをエクスポートする
CommunityTemplateDefinition メタデータ型で `category` 項目の新しい `Commerce` 値を使用します。

フローでコマース関連のアクションを開始する
Flow メタデータ型の FlowActionCall サブタイプで `actionType` 項目の新しい `cancelCartAsyncOperation`、`checkoutSessionAction`、`updateCheckoutSessionStateAction` アクションを使用します。

ナビゲーションメニューと CMS コレクションコンポーネントのバリエーションを追加する
ExperienceBundle メタデータ型でバリエーションの既存の `propertyOverrides` プロパティの新しい `componentAttributes` 値を使用します。

true の場合にゲストユーザ表示を無効にできるようにする。
CommunitiesSettings メタデータ型で新しい `enableGuvSecurityOptOutPref` 項目を使用します。

カスタマイズ

Lightning ページのコンポーネントや項目の名前、プロパティ、その他の情報を新しい方法で表示および設定する
FlexiPage メタデータ型で新しい FlexiPageRegion `itemInstances` 項目と新しい ItemInstance および FieldInstance サブタイプを使用します。

削除: FlexiPage メタデータ型の FlexiPageRegion サブタイプの componentInstances 項目を削除
代わりに新しい itemInstances 項目を使用します。

組織で動的フォームを有効にする
既存の RecordPageSettings メタデータ型で新しい enableDynamicForms 項目を使用します。

カンマ区切りリストを使用する代わりに個々の項目として配列の要素を定義する
FlexiPage の ComponentInstanceProperty サブタイプで新しい valueList 項目を使用し、FlexiPage の ComponentInstancePropertyList サブタイプで新しい valueListItems 項目を使用します。

標準ナビゲーションスタイルのリストビューで分割ビューを有効にする
LightningExperienceSettings メタデータ型で新しい enableSplitViewOnStandard 項目を使用します。

組織でデータ翻訳を有効にする
LanguageSettings メタデータ型で新しい enableDataTranslation 項目を使用します。詳細は、「データ翻訳での商品詳細の翻訳」を参照してください。

Lightning フロー

フローの注文品目概要価格の調整を適用する (Salesforce 注文管理が有効になっている組織)
フローで actionType 項目の注文管理の新しい adjustOrderItemSummariesPreview および adjustOrderItemSummariesSubmit 列挙を使用します。

アンケートデータマッパーを使用して、参加者の回答に基づいてレコードを作成または更新する
フローで processType 項目の新しい SurveyEnrich 列挙値を使用します。

レコードの保存後にフローでアクションを実行する
Flow の FlowStart サブタイプで triggerType 項目の新しい RecordAfterSave 列挙を使用します。詳細は、「レコードの保存後に実行するフローのトリガ」を参照してください。

プラットフォームイベントメッセージを受信したときにフローをトリガする
Flow の FlowStart サブタイプで triggerType 項目の新しい PlatformEvent 列挙を使用します。詳細は、「レコードの保存後に実行するフローのトリガ」を参照してください。

システムコンテキスト共有なしでフローを実行するように設定する
Flow で runInMode 項目の新しい SystemModeWithoutSharing 列挙を使用します。詳細は、「ユーザ権限をスキップするフローの実行」を参照してください。

サブフロー要素の出力値が自動的に保存されることを示す
Flow の FlowSubflow サブタイプで新しい storeOutputAutomatically 項目を使用します。詳細は、「出力値を割り当てずにサブフロー要素を設定」を参照してください。

動作の変更: フローバージョンの翻訳で API 参照名を指定しなくてもいいように変更
Translation メタデータ型の FlowTranslation サブタイプの fullName 項目は省略可能になりました。

フローで Salesforce Anywhere を操作する (ベータ)
Flow メタデータ型で Salesforce Anywhere actionType 項目の新しい chat、addMessageToChat、addUserToChat、sendAlert 列挙値を使用して、Salesforce Anywhere のチャットとアクションを操作します。

パーソナライズ

動作の変更: 利用者がデフォルトの利用者かどうかを示さなくてもいいように変更
Audience データ型の `isAudienceDefault` 項目が省略可能になりました。

利用者対象の新しい型を作成する
Audience 型で `targetType` 項目 (PersonalizationTargetInfo サブタイプ) の新しい `NavigationLinkSet`、`Report`、`Dashboard` 値を使用します。

セキュリティと ID

どの発信ネットワーク接続が指定ログイン情報を使用してコールアウトを AWS に送信するのかを示す
NamedCredential 型の新しい `outboundNetworkConnection` 項目を使用します。

接続アプリケーションへのユーザアクセスを制限する
新しい BlacklistedConsumer メタデータ型を使用します。

受信証明書を使用した偽装を防止する
新しい InboundCertificate メタデータ型を使用します。

接続アプリケーションの OAuth アセットトークン設定を指定する
ConnectedApp 型で新しい `oauthConfig` 項目 (ConnectedAppOauthAssetToken サブタイプ) を使用します。

接続アプリケーションの OAuth アクセスポリシーを指定する
ConnectedApp 型で新しい `oauthPolicy` 項目 (ConnectedAppOauthPolicy サブタイプ) を使用します。

接続アプリケーションのセッションポリシーの設定オプションを指定する
ConnectedApp 型で新しい `sessionPolicy` 項目 (ConnectedAppSessionPolicy サブタイプ) を使用します。

OAuth 2.0 Web サーバフローでアクセストークンと交換するクライアントの秘密を要求するかどうかを定義する
ConnectedApp 型の ConnectedAppOauthConfig サブタイプで新しい `isConsumerSecretOptional` 項目を使用します。

接続アプリケーションを承認して組織全体のすべてのアクセストークンと更新トークンを調査する
ConnectedApp 型の ConnectedAppOauthConfig サブタイプで新しい `isIntrospectAllTokens` 項目を使用します。

接続アプリケーションを使用した Pardot API サービスへのアクセスを許可する
ConnectedApp メタデータ型で `scopes` 項目の新しい `Pardot` 列挙を使用します。

カスタム範囲を割り当てる接続アプリケーションを定義する
OauthCustomScope 型で新しい `assignedTo` 項目 (OauthCustomScopeApp サブタイプ) を使用します。

ユーザプロビジョニング要求フローで使用する情報を定義する
新しい UserProvisioningConfig 型を使用します。

統合 ID の大文字と小文字の区別を有効にする
SecuritySettings 型で新しい `enableCaseInsensitiveFederationID` 項目を使用します。

外部 ID プロバイダからのシングルサインオンを制限する
SecuritySettings 型で新しい `isLoginWithSalesforceCredentialsDisabled` 項目を使用します。

脅威検出ストレージイベントに関するトランザクションセキュリティポリシーを作成する
TransactionSecurityPolicy 型で `eventName` 項目の新しい値 `ReportAnomalyEventStore`、`CredentialStuffingEventStore`、`SessionHijackingEventStore` を使用します。

トランザクションセキュリティポリシーのエラーメッセージをカスタマイズする
TransactionSecurityPolicy 型で新しい `blockMessage` 項目を使用します。

開発

Visualforce コンテンツまたはアンケートのフレーム化を許可する外部ドメインの許可リストに関連する設定を行う
新しい IframeWhiteListUrlSettings メタデータ型を使用します。

AsyncApexJob および FlexQueueItem オブジェクトにアクセスする場合の「設定・定義を参照する」権限の必須化を適用する
ApexSettings メタデータ型で新しい `enableAsyncRequiresViewSetup` 項目を使用します。この項目では、更新「非同期 Apex ジョブをキューに追加する場合の「設定を参照」権限の必須化」の有効化を制御します。項目が `true` に設定されていると、ユーザが AsyncApexJob および FlexQueueItem オブジェクトにアクセスする場合に「設定・定義を参照する」権限が必要になります。Apex クラス、Apex トリガ、またはシステムモードで実行される他の機能は、この要件の適用対象外です。

Apex テストオブジェクトにアクセスする場合の「設定・定義を参照する」権限の必須化を適用する
ApexSettings メタデータ型で新しい `enableApexTestReqViewSetup` 項目を使用します。この項目では、更新「Apex テストデータにアクセスする場合の「設定を参照」権限の必須化」の有効化を制御します。この項目が `true` に設定されていると、ユーザが SOAP API オブジェクト (ApexTestQueueItem、ApexTestResult、ApexTestResultLimits、ApexTestRunResult、ApexTestSuite、TestSuiteMembership) にアクセスする場合に「設定・定義を参照する」権限が必要になります。

Salesforce ユーザ名またはメールアドレスを指定して、未対応の Apex エラーのメールを受信する
新しい ApexEmailNotifications メタデータ型を使用します。

Salesforce CLI: 新規および変更されたコマンド

Salesforce CLI を使用して、開発およびテスト環境の作成、ソースコードの同期、テストの実行、アプリケーションライフサイクルの制御を行うことができます。コア `salesforcedx` v49 プラグインの最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

このセクションの内容:

Salesforce CLI のプレリリースバージョンのアンインストール
Salesforce CLI の次のバージョンをテストするために `salesforcedx` v49 プラグインのプレリリースバージョンをインストールしたる場合は、アンインストールしてから CLI を更新してください。プレリリース v49 プラグインは更新しません。

複数のパッケージディレクトリを使用したコードの整理
デフォルトのパッケージディレクトリだけではなく、複数のパッケージディレクトリに保存されているメタデータファイルに対して `force:source:push` コマンドと `force:source:pull` コマンドを使用します。複数のパッケージディレクトリにより、ローカルソースコードを論理的な単位に分けて整理できます。

新規または変更されたコマンド

`salesforcedx` v49 プラグインで追加および更新されたコマンドと、過去の毎週の v48 リリースでの更新の概要について確認してください。Salesforce CLI の変更は定期的にリリースされます。コア CLI プラグイン (`salesforcedx`) v49 の最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

Salesforce CLI のプレリリースバージョンのアンインストール

Salesforce CLI の次のバージョンをテストするために `salesforcedx` v49 プラグインのプレリリースバージョンをインストールしたる場合は、アンインストールしてから CLI を更新してください。プレリリース v49 プラグインは更新しません。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: プレリリースバージョンをアンインストールしてリリースされたバージョンに更新します。

```
$ sfdx plugins:uninstall salesforcedx
$ sfdx update
```

複数のパッケージディレクトリを使用したコードの整理

デフォルトのパッケージディレクトリだけではなく、複数のパッケージディレクトリに保存されているメタデータファイルに対して `force:source:push` コマンドと `force:source:pull` コマンドを使用します。複数のパッケージディレクトリにより、ローカルソースコードを論理的な単位に分けて整理できます。

対象: この変更は、すべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

方法: 各パッケージディレクトリは、標準の Salesforce DX プロジェクト構造に準拠する必要があります。パッケージ化したメタデータを Salesforce 組織にリリースする順序で、パッケージディレクトリを `sfdx-project.json` ファイルにリストします。(GitHub の問題 #379)

関連トピック:

Salesforce DX 開発者ガイド: Multiple Package Directories (複数のパッケージディレクトリ)

新規または変更されたコマンド

`salesforcedx` v49 プラグインで追加および更新されたコマンドと、過去の毎週の v48 リリースでの更新の概要について確認してください。Salesforce CLI の変更は定期的にリリースされます。コア CLI プラグイン (`salesforcedx`) v49 の最近の更新についての詳細は、毎週のリリースノートを参照してください。

新しいコマンド

以下のコマンドは `salesforcedx` v48 の毎週のパッチで追加されました。

Lightning Web コンポーネントテスト機能を提供するため、3 つの新しいコマンドが導入されました。

`force:lightning:lwc:test:create`
Lightning Web コンポーネントテストを作成し、内部に定型コードを埋め込みます。

`force:lightning:lwc:test:run`
Lightning Web コンポーネントの Jest 単体テストを呼び出します。

`force:lightning:lwc:test:setup`
Lightning Web コンポーネント用の Jest 単体テストツールをインストールします。

新しいトピック (`cmdt`) と、カスタムメタデータ型を管理するための 5 つの新しいコマンドを追加しました。

`force:cmdt:create`
現在のプロジェクトでカスタムメタデータ型を作成します。

`force:cmdt:field:create`
指定された項目種別に基づいてカスタムメタデータ項目を生成します。

`force:cmdt:generate`
指定された sObject のカスタムメタデータ型とそのすべてのレコードを生成します。

`force:cmdt:record:create`
現在のプロジェクトで、指定されたカスタムメタデータ型のレコードを作成します。

`force:cmdt:record:insert`
カンマ区切り値 (`.csv`) ファイルからカスタムメタデータ型のレコードを作成します。

CLI でローカルソースコードを追跡する方法を変更する 2 つの新しいコマンドを追加しました。これらのコマンドは、ソース追跡をサポートするすべての組織で使用できます。

`force:source:tracking:reset`
ローカルおよびリモートソース追跡をリセットして、CLIが組織内のローカルファイルとメタデータとの現在の違いを登録しないようにします。次に `force:source:status` を実行したときには、競合が実際に存在していても CLI は結果を返しません。その後、CLI は新しいソースの変更の追跡を通常通りに再開します。

主な使用事例は、CLI が組織の追跡履歴を持っていない場合です。たとえば、自動化プロセスによって VCS にあるのと同じメタデータが事前に入力されている組織を使用する場合などです。このコマンドを実行すると、コマンドの実行時点でローカルファイルとリモートファイルが同じであるかのように CLI を動作させることができます。

`force:source:tracking:clear`
すべてのローカルソース追跡情報を消去します。次に `force:source:status` を実行すると、CLI はすべてのローカルファイルとリモートファイルが変更されたものとして表示し、同じ名前のファイルを競合としてリストします。これらの競合は、プッシュやプルを適用するなどして手動で解決します。その後、CLI は新しいソースの変更の追跡を通常通りに再開します。

このコマンドは、Salesforce カスタマーサポートが問題を診断するために使用します。通常のワークフローでは、このコマンドの使用はお勧めしません。

警告: `force:source:tracking` コマンドは、プロジェクトに存在するすべてのローカルソース追跡ファイルを削除または変更し、以降の force:source コマンドの動作に影響します。たとえば、ソース追跡をリセットした後に force:source:pull コマンドを実行すると、実際に競合が存在している場合でも、CLI は警告することなくローカルファイルを上書きしてしまいます。これらのコマンドは、組織内のローカルソースファイルとメタデータの違いを理解している場合にのみ使用してください。そして使用する際には細心の注意を払ってください。お願いします。

変更されたコマンド

以下のコマンドは salesforcedx v48 の毎週のパッチで変更されました。

force:project:create
標準テンプレートと Analytics Salesforce DX テンプレートに package.json ファイルを追加しました。これらのテンプレートを作成するには、force:project:create --template=standard または force:project:create --template=analytics を実行します。package.json ファイルは、Lightning Web コンポーネントの操作に使用します。

commands
commands コマンドの出力を改善しました。デフォルトでは、このコマンドは、すべての CLI コマンドのリストと説明を表形式で表示します。新しいパラメータを使用すると、コマンドの使い方や所属するプラグインなどの列を追加できます。出力形式も追加されています (.csv、.json、.yaml)。出力を並び替えすることもできます。commands コマンドの動作は oclif コマンドと同じです。

廃止されたコマンド

次のコマンドは、salesforcedx v49 でも廃止されています。これらは、今後のリリースで削除される予定です。代わりに、類似の出力を生成する sfdx commands を使用してください。

force:doc:commands:list

force:doc:commands:display

次のコマンドは、salesforcedx v49 で廃止されています。代わりに force:lightning:lwc:test:* コマンドを使用してください。

force:lightning:test:create

force:lightning:test:install

force:lightning:test:run

新しいパラメータ

このパラメータは、salesforcedx v48 の毎週のパッチで追加されました。

force:org:list --skipconnectionstatus
コマンドのパフォーマンスを高めるため、組織リストの出力から [Connected Status (接続状況)] 列を削除しました。

以下のパラメータは salesforcedx プレリリース v49 で追加されました。

force:package:create --orgdependent (ベータ)
ロック解除済みパッケージのみ、パッケージでインストール組織のパッケージ化されていないメタデータに連動できるようにします。

> メモ: ベータ機能の組織連動ロック解除済みパッケージは、プレビュー版であり、Salesforce のマスターサブスクリプション契約の「本サービス」には含まれていません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforce はこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforce はいかなる責任も負いません。制限、Salesforce の権利の留保、サービスに関す

るお客様の義務、関連する Salesforce 以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。組織連動ロック解除済みパッケージに関するフィードバックと提案は、Trailblazer Community からお寄せください。

すべてのコマンドの JSON 出力

すべてのコマンドの JSON 出力は、デフォルトで `stdout` に送られるようになりました。この動作は、SFDX_JSON_TO_STDOUT 環境変数を `true` に設定した場合と同じです。`--json` パラメータを使用する場合に `stderr` からのエラーの解析に依存している場合は、`stdout` を使用するようにツールやスクリプトを更新するか、または SFDX_JSON_TO_STDOUT を `false` に設定してください。`--json` を設定した場合でも、CLI コマンドは通常、`stderr` の方に多くの警告とエラーを送信します。

その他の変更

- Node.js の CLI バージョンを 12.13.0 にアップグレードしました。
- Sandbox CLI コマンドの `force:org:clone` と `force:org:status` が正式にリリースされました。

Work.com の Workplace Command Center のソリューションの開発

Workplace Command Center は、職場復帰の準備を監視して、従業員を安全にワークプレイスに戻すタイミングを判断するのに役立ちます。従業員が戻ったら、従業員の健康と場所の準備状況を確認して、全員の安全を確保してください。Workplace Command Center には、従業員健康チェックコンポーネント、オペレーションフィード、グローバル COVID-19 トラッカーが含まれています。

対象: この変更は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Workplace Command Center を強化したり Work.com のデータを既存のアプリケーションに組み込んだりするためのカスタムソリューションを構築する Salesforce Customer 360 Platform 開発者。

理由: Work.com と統合するための新機能で Workplace Command Center 環境を強化します。Work.com フレームワークを活用して、会社がワークプレイスを効率的かつ安全に再開できるようにするためのカスタムソリューションを構築します。

方法: Work.com データモデルを使用して、Work.com データとカスタムソリューションを統合します。Workplace Command Center のグローバル検索条件に応答するカスタム Lighting Web コンポーネントを作成します。ユーザがカスタムソリューションを自分の Work.com 組織にシームレスにインストールできるように、カスタムソリューションは管理パッケージまたは拡張パッケージとして提供してください。

関連トピック:

Work.com の Workplace Command Center 開発者ガイド: カスタムソリューションを使用した Work.com の拡張

Quip: テンプレート総計値、Einstein Analytics ライブアプリケーション、VPC および Sandbox での完全サポート、その他

ユーザが Quip for Customer 360 総計値を使用して Quip テンプレートをどのように使用しているのかを確認します。Einstein Analytics ダッシュボードを Quip に取り込みます。すべての Quip for Customer 360 機能を Sandbox で使用します。完全な VPC サポートにより Quip 文書を維持します。リレーションの対応付けをアカウントプランに追加して、営業担当が重要な取引先責任者と取引先履歴を容易に見つけることができるようにします。

このセクションの内容:

Quip テンプレートでのアクション可能な総計値の取得

ユーザが Quip 文書とテンプレートをどのように使用しているかを確認します。アクションプランや相互の綿密なプランなど、重要な文書へのユーザの関与をトラッキングします。Quip for Customer 360 総計値を使用すると、ユーザのテンプレートの採用状況をトラッキングする Lightning ダッシュボードを Salesforce で作成できます。

Quip 文書でのリレーションの対応付けの作成

主要な関係者を明確にして、商談のデトラクターとインフルエンサーなどを容易に特定します。Quip でリレーションの対応付けライブアプリケーションを使用して、営業担当が情報を整理し、商談を成立させるのに役立つ軽量の組織図を作成します。

Quip 文書へのライブ Einstein Analytics ダッシュボードの追加 (正式リリース)

Quip 文書でライブ Einstein Analytics ダッシュボードを使用して、コンテキストの中で関連情報を維持します。動的 Einstein Analytics ダッシュボードを使用して、Quip アカウントプランを合理化します。Salesforce に埋め込まれたアカウントプランに追加された Einstein Analytics ライブアプリケーションには、Salesforce レコードに基づいてデータが自動的に入力されます。

Lightning フローで Live Paste を使用して文書の同期を維持

Live Paste を使用して、複数の Quip 文書を更新する時間を節約し、一元化された情報源を作成します。コピー元文書からコンテンツをコピーして、Live Paste を使用して新しい文書に貼り付けます。コピー元のコンテンツを更新したら、そのコンテンツを参照するすべての文書でコンテンツが自動的に更新されるように設定します。Lightning フローで Live Paste を使用すると、Salesforce でレコードが変更されたときにコピー元文書からコピー先文書にコンテンツを自動的に追加および更新できます。

VPC で Quip for Customer 360 機能を使用してデータのセキュリティを維持

Salesforce データのセキュリティを維持しながら、ユーザがコラボレーションを行って生産性を維持できるようにします。VPC 許可リスト上のユーザに Quip for Customer 360 機能 (Salesforce に同期するライブ Salesforce リストやライブレポートなど) へのアクセス権を付与します。VPC で Quip for Customer 360 を使用すると、コラボレーションを妨げることなくデータのセキュリティを維持できます。

Salesforce Sandbox での Quip for Customer 360 機能のテスト

Sandbox 組織で Quip for Customer 360 機能をテストできるようになりました。同期共有、活動の記録、ライブ Salesforce レコード、Quip でのリストビューなどの機能を本番組織に追加する前に、それらが Sandbox でどのように動作するかを確認します。

Quip に接続する Salesforce 組織の制御

Quip 管理コンソールから Quip サイトに接続された Salesforce 組織のリストを表示します。どの Salesforce 組織をユーザが Quip に接続してデータを取り込むことができるかを制御する許可リストを作成します。複数組織の許可リストを使用すると、会社の重要なデータのセキュリティを確実に維持し、承認した Salesforce データへのアクセスのみをユーザに許可できます。

Quip for Customer 360 の迅速なリリース

Salesforce アカウントを Quip に接続するユーザの時間を節約し、Quip リリースにかかる時間を短縮します。ユーザは Salesforce で [今すぐ接続] バナーをクリックするか、Quip で Salesforce 組織を接続することで、Salesforce で Quip Lightning コンポーネントにアクセスしたり、Quip で Salesforce データにアクセスしたりできます。ユーザが Salesforce で [今すぐ接続] バナーをクリックした後に Quip で Salesforce 組織を接続する必要がなくなります。ユーザはクリック数を節約でき、作業するように選択したどの場所においても、Salesforce 接続の完了を求めるメッセージが表示されます。

Quip 文書での差し込み印刷のデフォルトのカスタマイズ

Quip テンプレートにデフォルトの差し込み印刷状態を追加します。ユーザがテンプレートから文書を作成し、差し込み印刷項目がレコード項目に一致しない場合、わかりやすい差し込み印刷状態を表示します。

Quip での Salesforce ライブアプリケーションの機能強化

Salesforce リストおよび Salesforce レコードライブアプリケーションの機能を強化し、新機能を追加しました。

Lightning コンポーネントからの Quip 文書の削除

Quip 文書を Quip Lightning コンポーネントから削除するか、すべてのコンポーネントから削除します。文書を Quip 文書コンポーネントから削除し、Quip 関連文書コンポーネントに残すか、レコードから完全に削除することができます。

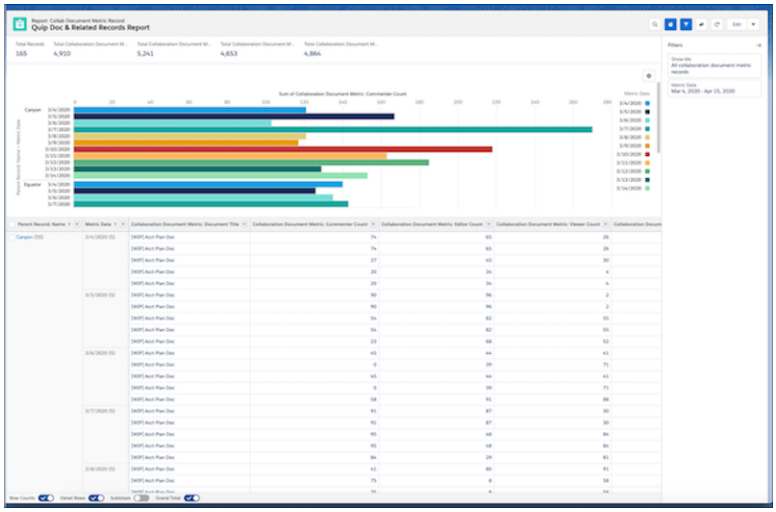
Quip テンプレートでのアクション可能な総計値の取得

ユーザが Quip 文書とテンプレートをどのように使用しているかを確認します。アクションプランや相互の綿密なプランなど、重要な文書へのユーザの関与をトラッキングします。Quip for Customer 360 総計値を使用すると、ユーザのテンプレートの採用状況をトラッキングする Lightning ダッシュボードを Salesforce で作成できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する Salesforce 組織で使用できます。

理由: テンプレート総計値を使用してテンプレート戦略を再考します。テンプレートから作成されたアカウントプランの数に関するデータを使用して、営業担当が情報を整理し、説明責任を果たすことができるようにします。文書の表示、コメント、および編集に関する総計値を使用して、Lightning のグラフとレポートを作成し、チームに最も適したプロセスと適していないプロセスを確認します。



方法: [設定] で [クイック検索] ボックスに 「`Quip`」 と入力します。[Quip for Customer 360 の利用状況に関するデータを収集] の下で **[Quip 総計値を有効化]** をクリックします。

Quip 文書でのリレーションの対応付けの作成

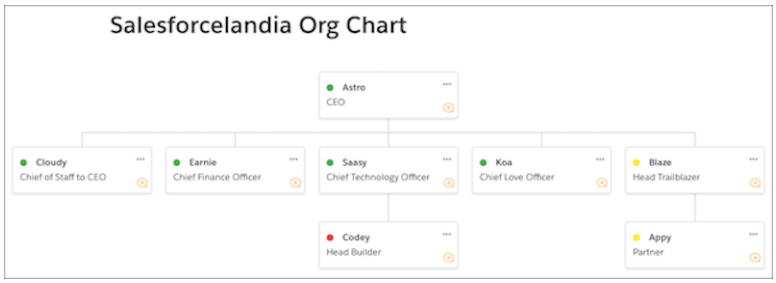
主要な関係者を明確にして、商談のデトラクターとインフルエンサーなどを容易に特定します。Quip でリレーションの対応付けライブアプリケーションを使用して、営業担当が情報を整理し、商談を成立させるのに役立つ軽量の組織図を作成します。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: 2020 年 6 月中旬までにリレーションの対応付けライブアプリケーションを Quip 文書に追加します。Salesforce Sandbox プレビューでは使用できません。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する Salesforce 組織で使用できます。

理由: リレーションの対応付けをアカウントプランに追加して、営業担当が取引先の重要な取引先責任者と履歴を容易に特定できるようにします。カードの状況をカスタム項目に基づいて表示し、情報を見やすくします。たとえば、商談のデトラクターの場合は、[Detractor (デトラクター)] 選択リストオプションを含む [Relationship (リレーション)] 項目を作成し、デトラクターを赤色に関連付けます。ユーザのカードをデトラクターとしてマークすると、カードは赤色の状況インジケータ付きで表示されます。



方法: Quip 文書で *「@リレーションの対応付け」* と入力します。対応付けを開始するには、最初のカードを作成して名前を入力します。[Relationship (リレーション)] や [Position (職種)] 項目など、カスタマイズした項目を作成したら、Map Builder を使用してカードをドラッグし、階層を作成できます。カードを作成して項目を追加したら、ツリーマップでリレーションを確認します。

メモ: リレーションの対応付けライブアプリケーションは Quip 専用であり、Salesforce データを含みません。

Quip 文書へのライブ Einstein Analytics ダッシュボードの追加 (正式リリース)

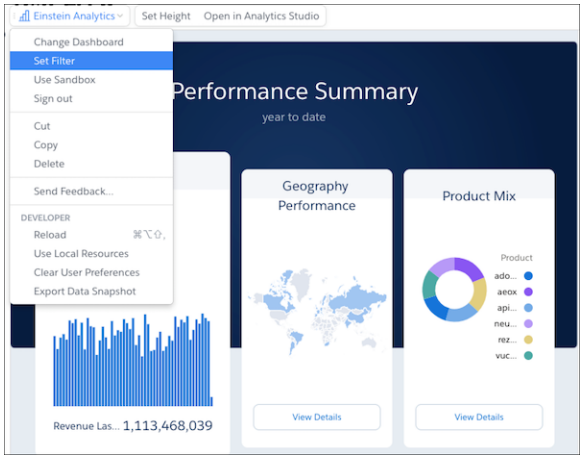
Quip 文書でライブ Einstein Analytics ダッシュボードを使用して、コンテキストの中で関連情報を維持します。動的 Einstein Analytics ダッシュボードを使用して、Quip アカウントプランを合理化します。Salesforce に埋め込まれたアカウントプランに追加された Einstein Analytics ライブアプリケーションには、Salesforce レコードに基づいてデータが自動的に入力されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。Einstein Analytics ライブアプリケーションは Quip モバイルまたはデスクトップアプリケーションではサポートされません。

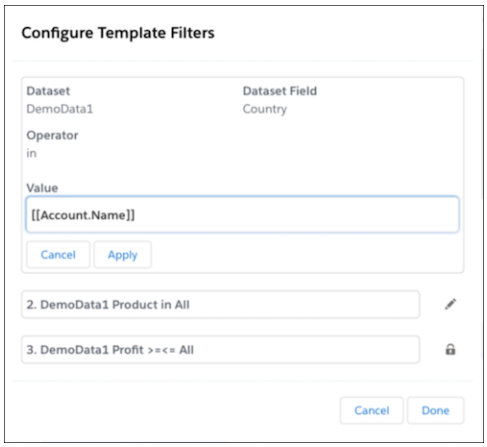
時期: 2020 年 6 月中旬までに Einstein Analytics ライブアプリケーションを Quip 文書に追加します。Salesforce Sandbox プレビューでは使用できません。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランおよび Einstein Analytics ライセンスを持つ Salesforce 組織で使用できます。

理由: Einstein Analytics ライブアプリケーションをアカウントプランに追加して、営業担当が取引先に関するすべての作業を 1 か所で行えるようにします。Salesforce レコードに基づいて更新される Einstein Analytics 検索条件値を使用して、アカウントプランテンプレートを動的にします。動的 Einstein Analytics ダッシュボードを使用すると、テンプレートが拡張可能になるほか、取引先に一致するようにダッシュボード検索条件を設定するユーザの時間が節約されます。



方法: Quip 文書で「`@Einstein Analytics`」と入力し、[挿入] をクリックします。Salesforce に接続したら、Einstein Analytics ライセンスを持つユーザは、ダッシュボードの選択、検索条件の設定、検索条件の動的化、ダッシュボードセクションに関するコメントの追加ができます。



Lightning フローで Live Paste を使用して文書の同期を維持

Live Paste を使用して、複数の Quip 文書を更新する時間を節約し、一元化された情報源を作成します。コピー元文書からコンテンツをコピーして、Live Paste を使用して新しい文書に貼り付けます。コピー元のコンテンツを更新したら、そのコンテンツを参照するすべての文書でコンテンツが自動的に更新されるように設定します。Lightning フローで Live Paste を使用すると、Salesforce でレコードが変更されたときにコピー元文書からコピー先文書にコンテンツを自動的に追加および更新できます。

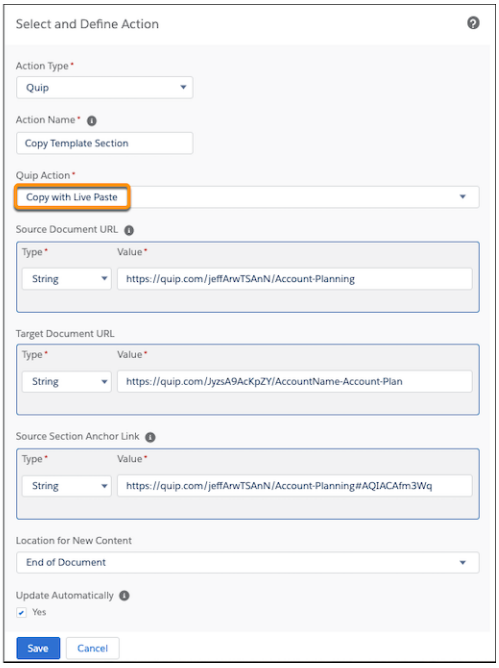
対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する組織で使用できます。

理由: プロセスビルダーおよび Flow Builder で Live Paste を使用して、アカウントプランテンプレートを自動化します。レビューの準備が整ったとして営業担当がアカウントプランをマークしたときに、プロセスからリー

ダーレビューをトリガします。エグゼクティブサマリーやアクション項目などのアカウントプランセクションを個別の Quip 文書に Live Paste で自動的に貼り付けて、リーダーのレビューと承認を受けることができます。

方法: プロセスビルダーまたは Flow Builder で Quip アクションを作成し、**[Live Paste を使用してコピー]** を選択します。コピー元の文書の URL と、Live Paste で張り付けるコンテンツの追加先の文書の URL を入力します。[コピー元セクションアンカーリンク] の下で、Live Paste でのコンテンツのコピー元のセクションのリンクを入力します。コピーしたコンテンツを新しいドキュメントのどの場所に貼り付けるかを選択し、変更を保存します。



VPC で Quip for Customer 360 機能を使用してデータのセキュリティを維持

Salesforce データのセキュリティを維持しながら、ユーザがコラボレーションを行って生産性を維持できるようにします。VPC 許可リスト上のユーザに Quip for Customer 360 機能 (Salesforce に同期するライブ Salesforce リストやライブレポートなど) へのアクセス権を付与します。VPC で Quip for Customer 360 を使用すると、コラボレーションを妨げることなくデータのセキュリティを維持できます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する Salesforce 組織で使用できます。

Quip for Customer 360 機能	VPC サポート
Salesforce 接続	あり
Salesforce SSO	あり

Quip for Customer 360 機能	VPC サポート
ネイティブ Quip	あり
同期共有	あり
文書リンク	あり
Quip での活動の記録	あり
Quip での ToDo の作成	あり
Salesforce レコードライブアプリケーション	あり
Salesforce リストライブアプリケーション	あり
Einstein Analytics ライブアプリケーション	あり
サードパーティライブアプリケーション	あり
ライブ Salesforce レポート	あり
Quip 文書コンポーネント	あり
Quip 関連文書コンポーネント	あり
Quip 通知コンポーネント	あり

Salesforce Sandbox での Quip for Customer 360 機能のテスト

Sandbox 組織で Quip for Customer 360 機能をテストできるようになりました。同期共有、活動の記録、ライブ Salesforce レコード、Quip でのリストビューなどの機能を本番組織に追加する前に、それらが Sandbox でどのように動作するかを確認します。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する Salesforce 組織で使用できます。

Quip for Customer 360 機能	Sandbox サポート
Salesforce 接続	あり
Salesforce SSO	あり
ネイティブ Quip	あり
同期共有	あり
文書リンク	あり
Quip での活動の記録	あり
Quip での ToDo の作成	あり

Quip for Customer 360 機能	Sandbox サポート
Salesforce レコードライブアプリケーション	あり
Salesforce リストライブアプリケーション	あり
Einstein Analytics ライブアプリケーション	あり
サードパーティライブアプリケーション	あり
ライブ Salesforce レポート	あり
Quip 文書コンポーネント	あり
Quip 関連文書コンポーネント	あり
Quip 通知コンポーネント	あり

Quip に接続する Salesforce 組織の制御

Quip 管理コンソールから Quip サイトに接続された Salesforce 組織のリストを表示します。どの Salesforce 組織をユーザが Quip に接続してデータを取り込むことができるかを制御する許可リストを作成します。複数組織の許可リストを使用すると、会社の重要なデータのセキュリティを確実に維持し、承認した Salesforce データへのアクセスのみをユーザに許可できます。

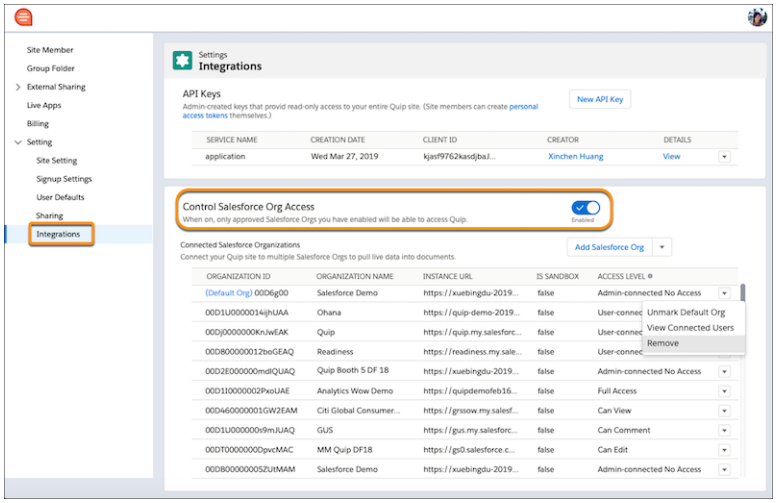
対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: 2020 年 6 月末までに Salesforce 組織へのアクセス権を制御します。Salesforce Sandbox プレビューでは使用できません。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する Salesforce 組織で使用できます。

理由: データのセキュリティを維持しながら、ユーザが Quip でコラボレーションを行って Salesforce データを使用できるようにします。Quip 管理コンソールに移動して、接続された Salesforce 組織のリストを表示し、ユーザが接続されている組織を切断し、どのユーザがどの組織を使用しているかを表示します。ユーザが Salesforce 組織を Quip に接続したときに、ユーザへのおすすめのデフォルト組織を追加することもできます。

方法: Quip 管理コンソールに移動して、システム管理者のログイン情報を入力します。[設定] で [インテグレーション] をクリックします。接続された Salesforce 組織のアクセス制御を有効にすると、ユーザは Quip で、承認された Salesforce 組織にのみアクセスできます。ここから、同期共有設定の表示と更新、組織アクセスの削除、および新しい本番組織と Sandbox 組織の削除ができます。



Quip for Customer 360 の迅速なリリース

Salesforce アカウントを Quip に接続するユーザの時間を節約し、Quip リリースにかかる時間を短縮します。ユーザは Salesforce で [今すぐ接続] バナーをクリックするか、Quip で Salesforce 組織を接続することで、Salesforce で Quip Lightning コンポーネントにアクセスしたり、Quip で Salesforce データにアクセスしたりできます。ユーザが Salesforce で [今すぐ接続] バナーをクリックした後に Quip で Salesforce 組織を接続する必要がなくなります。ユーザはクリック数を節約でき、作業するように選択したどの場所においても、Salesforce 接続の完了を求めるメッセージが表示されます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

時期: 2020 年 7 月以降、Quip リリースが合理化されます。Salesforce Sandbox プレビューでは使用できません。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する Salesforce 組織で使用できます。

Quip 文書での差し込み印刷のデフォルトのカスタマイズ

Quip テンプレートにデフォルトの差し込み印刷状態を追加します。ユーザがテンプレートから文書を作成し、差し込み印刷項目がレコード項目に一致しない場合、わかりやすい差し込み印刷状態を表示します。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する Salesforce 組織で使用できます。

理由: 以前は、Salesforce で取引先を作成するときに Account.Owner.PhoneNumber が定義されていなかった場合、テンプレートの差し込み印刷項目は [[Account.Owner.PhoneNumber]] のままでした。差し込み印刷構文の後に文字列を追加することで、表示されるメッセージをカスタマイズできるようになりました。項目が存在しない場合に差し込み印刷構文を「Account Owner Phone Number Default」（取引先所有者の電話番号のデフォルト）で置き換えるには、`[[Account.Owner.PhoneNumber, "Account Owner Phone Number Default"]]` と入力します。

Quip での Salesforce ライブアプリケーションの機能強化

Salesforce リストおよび Salesforce レコードライブアプリケーションの機能を強化し、新機能を追加しました。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する Salesforce 組織で使用できます。

理由: Salesforce ライブアプリケーションの機能強化には、以下が含まれます。

- Salesforce リストライブアプリケーションでのマルチ通貨のサポート
- Salesforce レコードライブアプリケーションでのオブジェクト種別による検索
- レコードライブアプリケーションでのロケールの日付の書式設定のサポート
- Salesforce レコードライブアプリケーションの更新された更新動作。更新時に、Salesforce レコードライブアプリケーションでは以下が必要です。
  - ユーザが Salesforce レコードライブアプリケーションと同じ組織にログインしている。
  - ユーザに Salesforce のレコードへのアクセス権がある。
  - ユーザにレコードの項目へのアクセス権がある。
- 1 つのライブアプリケーションの再読み込みのサポート。

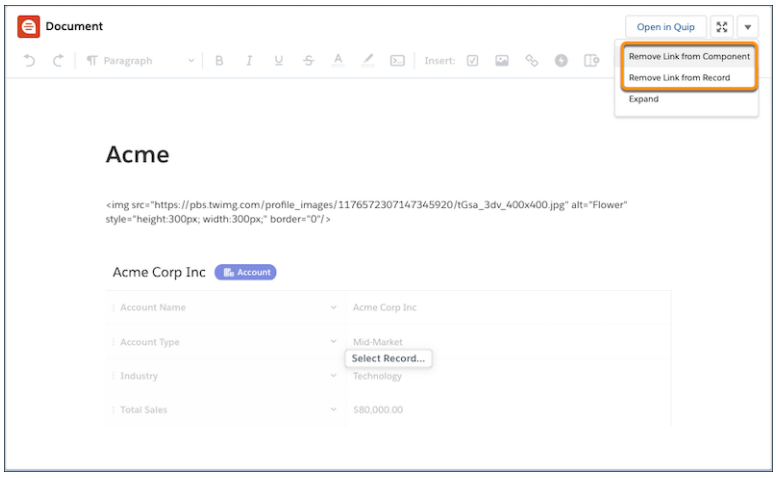
Lightning コンポーネントからの Quip 文書の削除

Quip 文書を Quip Lightning コンポーネントから削除するか、すべてのコンポーネントから削除します。文書を Quip 文書コンポーネントから削除し、Quip 関連文書コンポーネントに残すか、レコードから完全に削除することができます。

対象: この変更は、Professional Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience に適用されます。

対象ユーザ: Quip for Customer 360 プランまたは無料 Quip トライアルを使用する Salesforce 組織で使用できます。

方法: Quip 文書コンポーネントドロップダウンから [リンクをコンポーネントから削除] または [リンクをレコードから削除] を選択します。



マーケティング: インタラクティブメール、データマッピングビジュアライザ、SMS 用の Distributed Marketing クイック送信

Marketing Cloud は、1 対 1 のカスタマージャーニーで優れた顧客体験を提供するプレミアプラットフォームです。これにより、あらゆる情報源からの顧客利用データを1か所で表示できます。ビジネス目標に基づいて一意のカスタマージャーニーを計画および最適化します。パーソナライズされたコンテンツをすべてのチャネルとデバイスに最適なタイミングで配信します。ビジネスの各インタラクションの影響を評価することで、アプローチをリアルタイムで最適化し、より優れた結果をもたらすことができます。

最新機能と機能強化の詳細は、Marketing Cloud リリースノートを参照してください。

- 2020 年 3 月リリース
- 2020 年 1 月リリース
- 2019 年 10 月リリース
- 2019 年 8 月リリース
- 2019 年 6 月リリース
- 2019 年 4 月リリース
- 2019 年 1 月リリース

関連トピック:

Marketing Cloud の概要

Marketing Cloud: 以前のリリースノート

Salesforce Marketing Cloud の Facebook ページ

リリースの更新:1か所での重要な更新とセキュリティアラート、Apex の権限変更、他

重要な更新とアラートが1か所で見やすくなりました。パフォーマンス、セキュリティ、ユーザに影響するすべての変更について組織が常に最新の状態であることを確認できます。

このセクションの内容:

リリースの更新を使用した組織の重要な変更の確認 (ベータ)

改善されたユーザインターフェースを使用して、Salesforce 組織に影響する更新を理解して対応します。更新およびアラート情報が 1 つの使いやすいページに表示されます。

リリース更新 (ベータ)

Salesforce では、定期的に更新をリリースしています。これらの更新は、パフォーマンス、ロジック、セキュリティ、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。[設定] の [リリースの更新] ノードで、Summer '20 の更新を見つけます。

セキュリティアラート
セキュリティアラートは、お客様がセキュリティ関連の更新を組織で実装するのに役立ちます。[設定] の [セキュリティアラート] ノードで Summer '20 アラートを見つけます。

リリースの更新を使用した組織の重要な変更の確認 (ベータ)

改善されたユーザインターフェースを使用して、Salesforce組織に影響する更新を理解して対応します。更新およびアラート情報が 1 つの使いやすいページに表示されます。

対象: この変更は、Database.com 以外のすべてのエディションの Lightning Experience、Salesforce Classic、およびすべてのバージョンの Salesforce アプリケーションに適用されます。

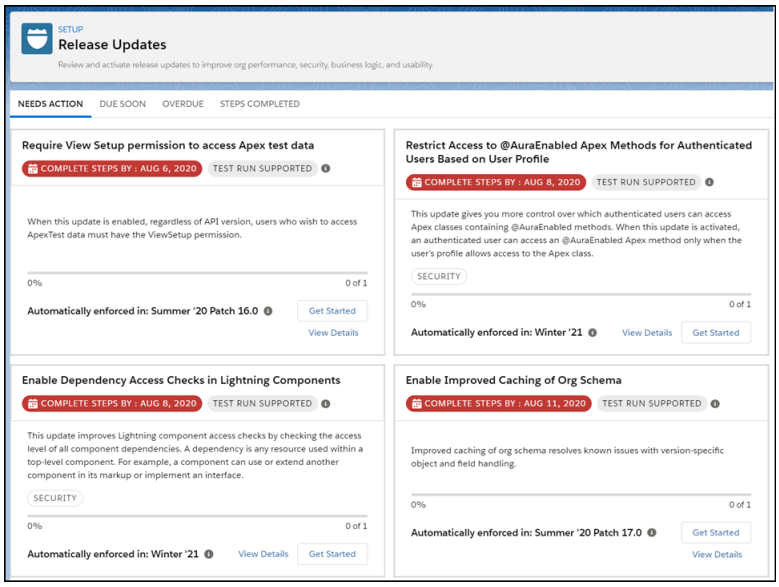
メモ: リリースの更新はベータ機能としてのプレビュー版であり、Salesforce とのマスターサブスクリプション契約における「サービス」には含まれません。この機能はお客様各自の裁量で使用し、購入するときは、現在正式にリリースされている製品および機能に基づいて判断してください。Salesforceはこの機能の特定期間内の正式リリースまたはリリースの有無を保証せず、いつでも中止できます。この機能は評価のみを目的とし、本番環境での使用はできません。この機能は、そのままの状態で提供され、サポートされておらず、ここから生じる、またはこれに関連する被害または損害に対して、Salesforceはいかなる責任も負いません。制限、Salesforceの権利の留保、サービスに関するお客様の義務、関連する Salesforce以外のアプリケーションおよびコンテンツの使用規約はすべて、お客様によるこの機能の使用にも同様に適用されます。

理由: リリースの更新では、[重要な更新] コンソールに以前表示されていた情報よりも詳細なビューが提供されます。このページには、[セキュリティアラート] ノードにある情報も含まれます。(セキュリティアラート機能は同じままです)。タブを使用して、表示する情報を絞り込みます。更新の対応策を実行するときに、一連の詳細なステップで組織への影響を評価できます。更新は早期に採用できます。また、組織によっては推奨されるテスト実行オプションを使用することもできます。

重要: ベータでは、ほとんどの更新は引き続き [重要な更新] コンソールに表示され、セキュリティアラートは引き続き [設定] の [セキュリティアラート] ノードに表示されます。いずれかの場所で更新またはアラートの有効化や対応を行うことができ、両方で行う必要はありません。

方法: [設定] から、[クイック検索] に *「リリースの更新」* と入力します。リリースの更新ページには、[対応が必要]、[期限間近]、[期限]、[完了したステップ] の 4 つのタブがあります。ページビューのデフォルトは [対応が必要] です。このタブから、確認するリリースの更新を選択します。実行できる操作は、次のとおりです。

1. [ステップ完了期日] の日付を確認します。この日付以降のテストはサポートされない可能性があります。
2. 更新が自動的に適用されるリリースを表示します。[重要な更新] では、この情報が [自動有効化日付] 項目に日付形式で表示されていました。インスタンスのメジャーリリースアップグレード日を確認するには、Trust 状況に移動してインスタンスを検索し、[メンテナンス] タブをクリックします。
3. [詳細を表示] をクリックして、予想される組織への影響など、更新の詳細を確認します。
4. テストの実行を開始または停止し、[使用開始] をクリックしてステップの更新履歴を表示します。
5. 更新ステップを続行し、完了したら確認します。



リリース更新 (ベータ)

Salesforce では、定期的に更新をリリースしています。これらの更新は、パフォーマンス、ロジック、セキュリティ、Salesforce の使い勝手を向上するものですが、既存のカスタマイズが正しく機能しなくなる可能性もあります。[設定] の [リリースの更新] ノードで、Summer '20 の更新を見つけます。

[リリース更新]ページには、組織に影響する更新のリストがあります。各更新には、実行するステップごとのアクションが記載されています。円滑に移行するために、多くのリリース更新でテスト実行を使用できます。[ステップ完了期日] の日付の前に組織への影響を評価できるように、必要に応じて何回でもテスト実行オプションを使用して更新を有効化および無効化できます。

重要: ベータでは、ほとんどの更新は引き続き [重要な更新] コンソールに表示され、セキュリティアラートは引き続き [設定] の [セキュリティアラート] ノードに表示されます。いずれかの場所で更新またはアラートの有効化や対応を行うことができ、両方で行う必要はありません。

新しいリリースの更新

Summer '20 の新しいリリースの更新を次に示します。それらの更新は [リリース更新] ノードで確認できます。

非同期 Apex ジョブをキューに追加する場合の「設定を参照」権限の必須化 (更新)

この更新により、Salesforce 組織のセキュリティが向上します。この更新を有効にすると、ユーザが SOAP API で AsyncApexJob および FlexQueueItem オブジェクトにアクセスする場合に「設定・定義を参照する」権限が必要になります。

Apex テストデータにアクセスする場合の「設定を参照」権限の必須化 (更新)

この更新により、Salesforce 組織のセキュリティが向上します。この更新を有効にすると、ユーザが sObject (ApexTestQueueItem、ApexTestResult、ApexTestResultLimits、ApexTestRunResult、ApexTestSuite、TestSuiteMembership) にアクセスする場合に「設定・定義を参照する」権限が必要になります。

拡張フォルダ共有の有効化 (更新)

拡張フォルダ共有では、新しいユーザ権限が導入され、既存のレポートおよびダッシュボードに対する各ユーザのアクセス権が変更されます。Winter '21 リリース (以降のリリースに変更される可能性あり) では、従来のフォルダ共有が廃止され、拡張フォルダ共有に置き換わります。

権限セットライセンスへの CPQ の移行 (更新)

Salesforce CPQ の管理パッケージライセンスは、権限セットライセンスに置き換わります。お客様は、Winter '21 バージョンをインストールまたはこのバージョンにアップグレードする前に新しいライセンスをすべてのユーザに割り当てる必要があります。

Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化 (更新、延期)

更新「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求」が廃止されました。リリース更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」は、当初 Summer '20 で発表されましたが、Summer '21 に延期されました。これは Spring '21 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。更新「Apex クラスへの明示的なアクセス権を適用するルールの無効化」により、組織は元の状態に戻り、Apex アクションが含まれるフローを実行できるようにする場合にのみユーザにフローへのアクセス権が必要になります。

Visualforce ページでの連続した API ナビゲーションコールの防止 (更新)

Visualforce ページでは、API ナビゲーションコールが連続して実行されることがあり、不要な動作が発生する可能性があります。このリリース更新により、この API ナビゲーションコールパターンが回避され、最初のナビゲーションコールのみが実行されます。

以前にリリース済みの更新

以前のリリースで発表された次の更新を依然として利用できます。それらの更新は [リリース更新] ノードで確認できます。

組織スキーマの改善されたキャッシュの有効化 (以前にリリース済みの更新)

組織スキーマの改善されたキャッシュにより、バージョン固有のオブジェクトおよび項目処理での既知の問題を解決できます。自動有効化 (適用) 日付が 2021 年 8 月 9 月から 2020 年 8 月 12 日にほぼ 1 年前倒しされました。Summer '20 にアップグレードされている Sandbox 組織は、この更新がデフォルトで有効になります。自動的に有効になるまで、手動で更新を無効にできます。

コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック (以前にリリース済みのセキュリティアラートと更新、適用済み)

コミュニティまたはポータルを使用する組織で、ユーザレコードの特定の個人情報項目を非表示にするユーザ設定をお客様が有効にできるようになりました。これらの項目は、外部ユーザがユーザレコードにアクセスしたときにビューに表示されません。その場合でも、外部ユーザは自分のユーザレコードは表示できます。この変更は、システムモードで実行されているクエリには適用されません。

ICU ロケール形式の有効化 (以前にリリース済みの更新)

どこにいても業務を行えるように、日時に International Components for Unicode (ICU) 形式が採用されます。ICU では、すべてのロケールでこれらの形式の国際標準が設定されます。この新しい形式によって、Salesforce Platform 全体で一貫したエクスペリエンスが提供され、世界中の ICU 準拠のアプリケーションとのインテグレーションが向上します。ICU 形式は Oracle の Java 8 Development Kit (JDK8) 形式を置き換えます。このリリースの更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

従来のポリシーの拡張トランザクションセキュリティフレームワークへの移行 (以前にリリース済みの更新)

拡張トランザクションセキュリティポリシーフレームワークを使用すると、任意の標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに対してアクションを実行するトランザクションセキュリティポリシーを作成できます。新しいフレームワークが正式リリースされたため、ユーザは従来のトランザクションセキュリティポリシーを作成または変更できなくなりました。従来のフレームワークは Winter '21 リリースで廃止されます。この廃止に備え、新しい機能を活用するには、できるだけ早く従来のトランザクションセキュリティポリシーを新しいフレームワークに移行します。このリリースの更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

タブ中心のダイアログを使い続ける方法 (以前にリリース済みの更新)

Lightning コンソールアプリケーションで、UI とのインタラクションがダイアログで中断されなくなりました。このリリースの更新は、ワークスペースのタブやサブタブでトリガされたダイアログのフォーカスを、そのダイアログをトリガしたタブに制限します。このリリースの更新は Winter '20 で最初に使用可能になりました。

以前のリリースで発表された次の更新を依然として利用できます。それらの更新は[重要な更新]コンソールで確認できます。

Summer '20 より前のゲストユーザセキュリティポリシーからのオプトアウト (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効にすることで、ゲストまたは認証されていないユーザのデータセキュリティを強化することを目的とした 3 つのポリシーからオプトアウトします。この更新を有効にすると、Summer '20 リリースで組織の [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護]、[ゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルトの所有者に割り当てる]、[Salesforce サイトのゲストユーザによって作成された新規レコードをデフォルトの所有者に割り当て]設定は自動的に有効になりません。組織ですでにこれらの設定が有効になっている場合、この更新を有効にしても設定は変更されません。

ゲストユーザが他のメンバーを表示できるようにするコミュニティ固有の設定の無効化からオプトアウト (以前にリリース済みの更新)

この更新を有効にすることで、Winter '21 リリースのコミュニティ固有の [ゲストユーザがこのコミュニティの他のメンバーを表示できるようにする] 設定の無効化からオプトアウトします。

システム管理者プロファイルから「暗号化鍵を管理」権限を削除 (以前にリリース済みの更新)

システム管理者は、鍵の管理ロールを実行する機能を能動的に割り当てる必要があります。このリリースの更新を適用すると、標準管理プロファイルに対して「暗号化鍵を管理」権限が取り消されます。「暗号化鍵の管理」権限を含むカスタムプロファイルには影響はありません。カスタムプロファイルまたは権限によって権限が付与されたユーザは、引き続きこの権限を所持します。このリリースの更新は Spring '16 で最初に使用可能になりました。Spring '16 リリースより前に Shield Platform Encryption を有効にしたユーザにのみ適用されます。

適用済みの更新

以前のリリースで発表された次の更新が適用されます。それらの更新は [リリース更新] ノードで確認できます。

Salesforce Edge を介した [私のドメイン] の転送 (更新、適用)

この更新により、[私のドメイン]に対するドメイン要求が迅速化されます。[私のドメイン]のアドレスは同じままですが、要求は Salesforce Edge を経由します。Salesforce Edge では、機械学習テクノロジを使用して接続性とパフォーマンスを高めています。この更新は Winter '20 で最初に使用可能になり、Summer '20 で適用されます。

以前のリリースで発表された次の更新が適用されます。それらの更新は[重要な更新]コンソールで確認できます。

数式項目でハイパーリンクを正しく開く (重要な更新、適用済み)

`HYPERLINK` 関数が含まれる数式項目がある場合、リンクを開こうとすると Lightning Experience で target 値が無視されます。この更新により、明示的に設定されている場合でも、デフォルトで設定されている場合でもハイパーリンクの target 値が適用されます。この更新は Winter '19 で最初に使用可能になり、Summer '20 で適用されます。

セキュアな HTTPS 接続が必要 (更新、適用)

「セキュアな HTTPS 接続が必要」は、Spring '20 の更新であり、2020 年 5 月 1 日に本番組織で適用されます。Google Chrome の SameSite Cookie の変更に関連する更新の一部として、Salesforce にアクセスするには HTTPS 接続が必要です。HTTP 接続は許可されなくなりました。この更新により、[設定] の [セッション設定] ページの [セキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定が有効になり、無効化できなくなりました。[すべてのサードパーティドメインでセキュアな接続 (HTTPS) が必要] 設定はこの更新の影響を受けません。

Sandbox の [私のドメイン] URL のホスト名の一貫性の確保 (更新、適用)

Sandbox の [私のドメイン] URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce Sandbox 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名を削除することで、URL がわかりやすく、覚えやすくなります。たとえば、`MyDomain--SandboxName.cs5.my.salesforce.com` が `MyDomain--SandboxName.my.salesforce.com` に置き換えられます。この更新は Summer '18 で最初に使用可能になり、Summer '20 で適用されます。

再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善 (更新、適用)

DomainKeys Identified Mail (DKIM) 鍵で潜在的なセキュリティ脆弱性に対応するため、鍵の作成方法が改善されました。公開鍵や非公開鍵を操作する必要はなくなります。また、鍵の共有によってセキュリティ脆弱性が発生する可能性があるため、DKIM 鍵のインポート機能が削除されます。再設計された DKIM 鍵によるメールセキュリティの改善は、Winter '19 の更新であり、Summer '20 で適用されます。

延期された更新

次の更新が延期されました。それらの更新は [リリース更新] ノードで確認できます。

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL の一貫性の確保 (更新、延期)

Visualforce、エクスペリエンスビルダー、Site.com Studio、コンテンツファイルの URL からインスタンス名が削除されます。インスタンス名は、Salesforce 組織がホストされている場所を示します。インスタンス名がないドメインは、わかりやすく、おぼえやすくなります。この更新は、[私のドメイン] がリリースされている組織に適用されます。この更新の有効化後、インスタンス名を含む URL (ブックマークなど) は自動的に新しいホスト名にリダイレクトされます。Spring '18 でリリースされ更新は、2020 年 7 月 11 日に自動的に有効になるようにスケジュールされましたが、Summer '21 に延期されました。

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)

この更新は Winter '21 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能なゲスト、ポータル、またはコミュニティユーザを詳細に制御できるようになります。コミュニティまたはポータルで使用される `@AuraEnabled` Apex クラスにゲストユーザプロファイルを追加します。この更新が有効になると、ゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザはユーザのプロファイルまたは割り当てられた権限セット

で Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (更新、延期)

この更新は Winter '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、`@AuraEnabled` メソッドを含む Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようになります。この更新が有効になると、認証済みユーザはユーザのプロファイルまたは割り当てられた権限セットで Apex クラスへのアクセスが許可されている場合にのみ、`@AuraEnabled` Apex メソッドにアクセスできます。

動的に作成された Aura コンポーネントでの関数式の作成の防止 (更新、延期)

この更新は Winter '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。セキュリティと安定性を高めるために、この更新では、`$A.createComponent()` または `$A.createComponents()` に渡される属性値が Aura 関数式として解釈されないようにします。

Lightning コンポーネントの連動関係アクセス権チェックの有効化 (更新、延期)

この更新は Spring '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新は、すべてのコンポーネントの連動関係のアクセスレベルをチェックすることで、Lightning コンポーネントのアクセス権チェックを改善します。連動関係は、最上位コンポーネント内で使用されるリソースです。たとえば、コンポーネントはマークアップで別のコンポーネントを使用または拡張したり、インターフェースを実装したりできます。

暗黙的な共有での @AuraEnabled Apex コントローラの with sharing の使用 (更新、延期)

この更新は Spring '21 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、`with sharing` または `without sharing` を指定しないときの `@AuraEnabled` Apex コントローラのデフォルトの動作が `with sharing` に変更されます。

管理パッケージの global 以外のコントローラメソッドへのアクセスの無効化 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Winter '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新では、管理パッケージの Apex コントローラメソッドでアクセス制御が修正されます。この更新を有効にすると、`global` アクセス修飾子が付いたメソッドのみが、Aura コンポーネントによってパッケージ名前空間外からアクセス可能になります。これらのアクセスコントロールにより、パッケージ作成者がグローバルアクセスを意図していない、サポート対象外の API メソッドを使用できなくなります。

Lightning コンポーネントマークアップの Apex プロパティでのアクセス修飾子の適用 (更新、延期)

この更新は Summer '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、Lightning コンポーネントで、他のコンテキストでの Apex プロパティの使用との一貫性が確保されます。たとえば、マークアップ式は非公開の Apex getter を使用して Apex プロパティにアクセスできなくなります。

呼び出し可能アクションの部分的保存の有効化 (更新、延期)

このリリース更新は Spring '21 に延期されました。これは当初 Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でしたが、Winter '21 に延期されました。このリリースの更新により、失敗した呼び出し可能アクションの動作と影響が改善されます。影響を受けるのは、一括で実行された呼び出し可能アクションへの外部 REST API コールのみになります。この更新を適用すると、1 つの要求で一連のアクションを呼び出した場合に、1つの失敗した呼び出し可能アクションによってトランザクション全体が失敗することがなくなります。この更新を適用しない場合、1つの呼び出し可能アクションが失敗すると、トランザクション内の他の呼び出し可能アクションがロールバックされ、トランザクション全体が失敗します。

フロー数式でのデータアクセス権の適用 (更新、延期)

このリリース更新は Spring '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。この更新により、フローでレコード変数の数式リソースまたは数式項目を使用してレコードの項目にアクセスするときに実行ユーザのデータアクセス権が適用されます。

プロセスビルダーで元のレコード値に基づく条件を評価 (更新、延期)

このリリース更新は Winter '22 に延期されました。これは当初 Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でしたが、Winter '21 に延期されました。このリリースの更新により、複数の条件とレコードの更新があるプロセスは、null の値でプロセスを開始した項目の元の値を評価します。このリリースの更新は Summer '19 で最初に使用可能になりました。

フローでの従来の Apex アクションのアクセス修飾子の考慮 (更新、延期)

このリリース更新は Spring '21 に延期されました。これは Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。このリリースの更新を有効にすると、開発者は従来の Apex アクションが適切に保護されて、管理パッケージの他のコンポーネントでのみ使用できることを確信できます。この更新により、従来の Apex 公開アクションが含まれているフローが失敗するようになります。

参照項目でレコード名を表示する権限の必須化 (更新、延期)

Salesforce 組織のデータの保護を強化するために、参照項目でレコード名を表示できるユーザが制限されます。このデータを表示するには、ユーザはこれらのレコードへの参照アクセス権または「すべての参照レコード名の表示」権限が必要になります。この更新は、[作成者]や[最終更新者]などのシステム項目にも適用されます。この更新は、Spring '20 でリリースされ、Summer '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でしたが、2020 年 3 月に Winter '21 に延期されました。

プロセスおよびフロー数式で Null 値を返す (更新、延期)

リリース更新「プロセスおよびフロー数式での null のレコード変数または参照関係項目の null 値の確認」は Spring '21 に延期されました。これは Spring '20 で自動的に有効化 (適用) される予定でした。注意: この更新は、2020 年 7 月 10 日より前に Summer '20 を受け取った Salesforce 組織ではすでに有効になっています。この場合、必要に応じて Spring '21 まで更新を無効にすることができます。この更新により、計算に null のレコード変数または null の参照関係項目が含まれているときに、プロセスおよびフロー数式で null 値を返すことができるようになります。

廃止された更新

以前のリリースで発表された次の更新は廃止されました。これらは重要な更新コンソールと [リリース更新] ノードから削除されており、有効化されません。

フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求 (更新、廃止)

Summer '19 でリリースされ、Spring '21 に延期されたこの更新は廃止されました。この更新は、以前は「フローから呼び出された Apex クラスへのユーザアクセスを要求することでセキュリティを強化」と呼ばれていました。

セキュリティアラート

セキュリティアラートは、お客様がセキュリティ関連の更新を組織で実装するのに役立ちます。[設定] の [セキュリティアラート] ノードで Summer '20 アラートを見つけます。

アラートとおすすめにより、ToDo を実行する日時、組織での変更内容、および組織への影響がわかります。一連のステップに従い、セキュリティ強化に向けて組織の準備を整えることができます。何もする必要がない

場合もありますが、Salesforce では何が行われるかについてお知らせしておきたいと考えています。変更が組織に影響する場合は、どのような影響があるのかをお客様が把握できるようにして、修正を行うための情報を提供する必要があると考えています。推奨事項の最後には、情報と推奨事項を確認したことを通知するレビューおよび確認ステップがあります。

詳細は、「セキュリティアラートの最新情報の取得」を参照してください。

以前にリリース済みのセキュリティアラート

以前のリリースで次のセキュリティアラートが発表されています。

コミュニティまたはポータルを使用する組織のユーザレコードでの特定の項目のブロック (以前にリリース済みのセキュリティアラートと更新、適用済み)

コミュニティまたはポータルを使用する組織で、ユーザレコードの特定の個人情報項目を非表示にするユーザ設定をお客様が有効にできるようになりました。これらの項目は、外部ユーザがユーザレコードにアクセスしたときにビューに表示されません。その場合でも、外部ユーザは自分のユーザレコードは表示できます。この変更は、システムモードで実行されているクエリには適用されません。

ゲストユーザプロファイルでの「すべてのユーザの表示」などの権限の無効化 (以前にリリース済みのセキュリティアラート、適用済み)

ゲストユーザは通常、Salesforce 組織のすべてのユーザを参照するアクセス権が必要ないため、データのセキュリティを高めるために、ゲストユーザプロファイルでは「すべてのユーザの表示」権限が無効化されました。本番組織が Winter '20 より前に作成されている場合、ゲストユーザアクセスをチェックして、「すべてのユーザの表示」権限をすべてのゲストユーザプロファイルで選択解除することをお勧めします。セキュリティを高めるために、「フィード投稿とコメントを承認可能」権限、「UI 階層アーキテクチャの有効化」権限、「ダイレクトメッセージから人を削除」権限、「トピックを表示」権限、「営業以外のメールを送信」権限もゲストユーザプロファイルから削除されました。

ゲストユーザの組織の共有設定と共有モデルの保護(以前にリリース済みのセキュリティアラート、適用済み)

このセキュリティアラートの [ゲストユーザのレコードアクセス権を保護] 設定の詳細と、組織のデータを保護する方法について説明します。この設定により、ゲストユーザ向けの非公開の組織の共有設定が適用され、ゲストユーザにレコードアクセス権を付与する共有メカニズムが制限されます。Salesforce 組織が Winter '20 より前に作成されている場合は、ゲストユーザにアクセス権を付与するために使用している外部組織の共有設定、公開グループ、キュー、共有の直接設定、Apex による共有管理を確認することをお勧めします。次に、これらの共有メカニズムによって付与されているアクセス権をゲストユーザ共有ルールで置き換えてから、セキュリティアラートを適用してください。

ユーザプロファイルに基づくゲストユーザとポータルユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限 (セキュリティアラート)

このセキュリティアラートは、Aura および Lightning Web コンポーネントで `@AuraEnabled` メソッドを使用する Apex クラスにアクセス可能なゲストユーザ、ポータルユーザ、コミュニティユーザを詳細に制御できるようにする更新に関連しています。

ユーザプロファイルに基づく認証済みユーザの @AuraEnabled Apex メソッドへのアクセスの制限(セキュリティアラート)

このセキュリティアラートは、Aura および Lightning Web コンポーネントで `@AuraEnabled` メソッドを使用する Apex クラスにアクセス可能な認証済みユーザを詳細に制御できるようにする更新に関連しています。

コンテンツへのスポットライト

Pardot ヘルプの機能強化、Financial Services Cloud システム管理者ガイドの更新、新しい Trailhead モジュール、手順動画が追加されました。また、信頼とコンプライアンスに関するドキュメントも更新されました。

このセクションの内容:

Pardot ヘルプで必要な内容を簡単に見つける
探している内容を見つけるには、左ペインの Pardot ヘルプトピックを確認します。Pardot ヘルプ領域の合理化された最上位トピックにより、一目で確認するために並び替える項目が少なくなっています。また、新規または更新済みの実装ガイドが「Pardot Downloads (Pardot ダウンロード)」ページにあります。

『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』の確認
使いやすさと見つけやすさを向上するために『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』を更新しました。

翻訳の詳細
Salesforce ヘルプのトランスレーションワークベンチドキュメントが更新および再編成され、翻訳をより適切かつ簡単に管理できるようになりました。翻訳のエクスポートおよびインポートのドキュメントが拡張され、詳細な翻訳例や、XML Localization Interchange File Format (.xlf) 翻訳ファイルの操作に関する情報が追加されました。また、データ翻訳 (Summer '20 の B2B Commerce の新機能) に関する情報も記載されています。

信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの見直し
新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントが更新されました。

動画を見る (英語のみ)
ユーザが Salesforce の新機能や改善された機能について知ることができる説明用の動画を作成、更新しました。

Trailhead で機能を探索
楽しいガイド付きのインタラクティブツールである Trailhead を使用して、Salesforce の操作や新しい機能について学習します。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

Pardot ヘルプで必要な内容を簡単に見つける

探している内容を見つけるには、左ペインの Pardot ヘルプトピックを確認します。Pardot ヘルプ領域の合理化された最上位トピックにより、一目で確認するために並び替える項目が少なくなっています。また、新規または更新済みの実装ガイドが「Pardot Downloads (Pardot ダウンロード)」ページにあります。

新規および更新済みの実装ガイド

「Downloadable Pardot User Guides (ダウンロード可能な Pardot ユーザガイド)」ページには、ダウンロード可能な PDF 実装ガイドの最新リストが表示されています。Summer '20 に向けて、次のガイドが追加または更新されました。

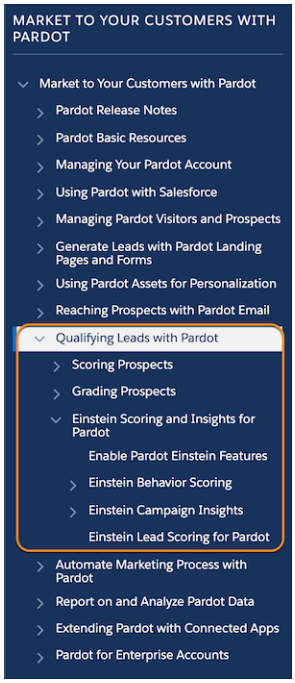
- B2B Marketing Analytics

- B2B Marketing Analytics Plus
- Pardot Einstein 機能
- エンゲージメント履歴
- 接続済みキャンペーン
- キャンペーンインフルエンス

合理化されたヘルプナビゲーション

Salesforce カスタマーサクセスグループからのフィードバックをはじめとする Web トラフィックデータに基づいて、Pardot ヘルプセクションが修正されました。ナビゲーションペインに 22 個の機能に関連した項目が表示される代わりに、13 個のエントリが ToDo または目標別にグループ化されています。サポートドキュメントを読むには、いずれかを選択します。

たとえば、Pardot スコアリング、Pardot グレーディングのほか、Einstein 行動スコアリングやキャンペーンインサイトなどの Pardot Einstein 機能などのすべての関連ドキュメントを見つけるには、「**Qualifying Leads with Pardot (Pardot を使用したリードの評価)**」をクリックします。



『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』の確認

使いやすさと見つけやすさを向上するために『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』を更新しました。

対象: この変更は、Financial Services Cloud が有効になっている Professional Edition、Enterprise Edition および Unlimited Edition の Lightning Experience に適用されます。

理由: 『Financial Services Cloud システム管理者ガイド』を再整理して以下のセクションにまとめました。

概要
Financial Services Cloud に関する概要情報。計画に関する考慮事項、データモデル、権限セットライセンス、カスタム設定などのトピックに関するコンテンツが含まれます。

Financial Services Cloud の特殊専門業種
Financial Services Cloud の業種製品の設定および管理に関する情報。商業銀行、保険、住宅ローン、リテールバンキングなどの製品に関するコンテンツが含まれます。

Financial Services Cloud の一般的な機能
業種固有ではない Financial Services Cloud 機能の設定および管理に関する情報。グループ (世帯)、アクションプラン、ライフイベントとビジネスマイルストンコンポーネント、インテリジェントな紹介とスコアリングなどの機能に関するコンテンツが含まれます。

Financial Services Cloud のアドオン
Financial Services Cloud にアドオンとして追加できる製品の設定および管理に関する情報。Einstein Analytics for Financial Services Cloud、Einstein 紹介、Lighting Scheduler、Salesforce アンケートなどのアドオンに関するコンテンツが含まれます。

他の Salesforce 製品を使用した Financial Services Cloud の拡張
Financial Services Cloud と共に使用できる他の Salesforce 製品に関する情報。Salesforce Shield、Financial Services Cloud 向け Lightning フロー、Salesforce for Outlook、Salesforce Pardot に関するコンテンツが含まれます。

データの操作
データローダを使用してデータを Financial Services Cloud にアップロードする方法に関する情報。

Financial Services Cloud の可用性と制限事項
Financial Services Cloud 実装の問題に関する情報。

翻訳の詳細

Salesforceヘルプのトランスレーションワークベンチドキュメントが更新および再編成され、翻訳をより適切かつ簡単に管理できるようになりました。翻訳のエクスポートおよびインポートのドキュメントが拡張され、詳細な翻訳例や、XML Localization Interchange File Format (.xlf) 翻訳ファイルの操作に関する情報が追加されました。また、データ翻訳 (Summer '20 の B2B Commerce の新機能) に関する情報も記載されています。

対象: メタデータ翻訳は、Professional Edition、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、Developer Edition の Lightning Experience と Salesforce Classic で使用できます。データ翻訳は、Enterprise Edition、Performance Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition の Lightning Experience の B2B Commerce で使用できます。

方法: 翻訳に関する考慮事項が統合され、Salesforce ヘルプから「翻訳用語の更新に関する考慮事項」が削除されました。そのページをブックマークしていた場合、新しい「翻訳に関する考慮事項」ページを参照するようにブックマークを更新してください。

関連トピック:

- データ翻訳での商品詳細の翻訳
- *Salesforce* ヘルプ: 翻訳の管理
- *Salesforce* ヘルプ: 翻訳ファイルの操作
- *Salesforce* ヘルプ: 翻訳に関する考慮事項

信頼とコンプライアンスに関するドキュメントの見直し

新たな季節を迎えるにあたって、Salesforce の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントが更新されました。

Infrastructure and Sub-Processors

ドキュメント『**Infrastructure and Sub-Processors**』に次の変更が加えられました。

Audience Studio

- 更新なし

Sales Cloud、Service Cloud、Community Cloud、Chatter、Lightning プラットフォーム (Force.com を含む)、IoT Explorer (IoT Plus)、Site.com、Database.com、Einstein Analytics (including Einstein Discovery)、WDC、メッセージング、Financial Services Cloud、Health Cloud、Sustainability Cloud、Consumer Goods Cloud、Manufacturing Cloud、緊急時プログラム管理、Salesforce CPQ および Salesforce Billing、Salesforce Maps、Workplace Command Center、シフト管理、Salesforce Advisor Link としてブランド設定された Salesforce.org LLC (「Salesforce.org」) サービス、foundationConnect (2019 年 8 月 19 以降にプロビジョニング)、会計補助元帳、Salesforce.org Insights Platform: データ整合性、Nonprofit Cloud Case Management

- **Scope**: 緊急時プログラム管理、会計補助元帳、Salesforce.org Insights Platform: データ整合性、Nonprofit Cloud Case Management、Command Center、シフト管理の対象サービスがこのドキュメントの範囲に追加されました。(2020 年 5 月 1 日より前にプロビジョニングされた) Work.com のすべてのインスタンスが WDC としてブランド変更されました。Einstein Discovery Classic についての言及が削除されました。ドキュメントが B2C 注文管理に適用されないことが明記されました。Insights Platform には Heroku の信頼とコンプライアンスに関するドキュメントが適用されることが明記されました。大文字の規約についての詳細が記載された Salesforce のデータ処理に関する補遺へのリンクが追加されました。
- **Sub-Processors - Customer Data Storage**: 米国では、salesforce.com, inc. と Amazon Web Services によってホストされている 2 つの米国ベースのデータセンターに GS0 (トライアルのみ) インスタンスが追加されました。
- **Sub-Processors - Customer Data Processing**: サブプロセッサとして Heroku, Inc. を使用するサービスのリストに Insights Platform が追加されました。Bugsnag Inc. が Salesforce Maps のサブプロセッサとして追加されました。サブプロセッサとして ClickSoftware, Inc. を使用する機能のリストにシフト管理が追加されました。

B2B Commerce

- 更新なし

B2C Commerce/Commerce Cloud

- 「Salesforce 注文管理」と区別するために、ドキュメント全体で「注文管理」が「B2C Commerce 注文管理」に変更されました。

Customer 360 データマネージャ

- **Scope**: 大文字の規約についての詳細が記載された Salesforce のデータ処理に関する補遺へのリンクが追加されました。
- **Sub-processors - Data Storage**: 大文字の規約についての詳細が記載された Salesforce のデータ処理に関する補遺へのリンクが追加されました。AWS セキュリティ Web サイトおよびセキュリティプロセスについての言及とリンクが削除されました。

Data.com

- 更新なし

Desk.com

- 製品が廃止されました。

Einstein Discovery Classic

- 製品が廃止されました。

「Einstein プラットフォーム」(Sales Cloud Einstein、Pardot Einstein、Salesforce Inbox、Einstein エンゲージメントスコアリング、Einstein Vision、Einstein Language、Einstein ボット、Service Cloud Einstein、Einstein 予測ビルダー、Einstein Vision for Social Studio)

- **Scope**: Einstein 返信のおすすめが Service Cloud Einstein の新機能として追加されました。

Einstein コールコーチングが High Velocity Sales の新機能として追加されました。

- **Branding**: 全体を通して Einstein Vision for Social Studios が Einstein Vision for Social Studio に変更されました。
- **Sub-processors - Customer Data Storage**: Einstein Object Detection のサブプロセッサ情報が Consumer Goods Cloud サービスの機能として個別にリストされて、Einstein Vision と区別されるようになり、欧州の AWS データセンターの場所が追加されました。Einstein 予測ビルダー、Einstein 記事のおすすめ、Einstein ケース分類の欧州の AWS データセンターの場所が明記されました。NLP 機能を有効にする欧州ベースの Einstein ボットユーザのデータストレージの場所が明記されました。High Velocity Sales ユーザの各種機能のストレージの場所が明記されました。

Government Cloud Plus

- **Sub-processors - Customer Data Storage**: 暗号化された顧客データが、以前に指定したホストで保存または処理されるまでにさまざまなポイントを通過する可能性があることが明記されました。

Heroku

- 更新なし

IoT Cloud

- 更新なし

LiveMessage、Quip、myTrailhead

- Desk.com、Einstein Discover、SalesforceIQ が廃止されました。
- **Sub-processors - Customer Data Storage**: 仮想プライベートクラウドを購入した Quip ユーザのホスト場所のオプションが明記されました。
- **Sub-processors - Customer Data Processing**: Coveo (myTrailhead) の国のリストが修正され、「EU」が「EU 加盟国」であることが明記されました。また、Coveo が顧客データを処理する国のリストから「アイルランド」が削除されました。これは、EU がすでに処理の場所として記載されていて、アイルランドは EU に含まれているためです。myTrailhead のコンテンツ配信ネットワーク (CDN) が追加されました。

Marketing Cloud

- **Scope**: Advertising Campaign が Advertising Studio の一部として含まれなくなりました。Marketing Cloud Einstein and Measurement プラットフォームが Marketing Cloud Einstein に短縮されました。大文字の規約についての詳細が記載された Salesforce のデータ処理に関する補遺へのリンクが追加されました。
- **Sub-processors - Customer Data Processing**: salesforce.com, inc. とその関連会社が顧客データを処理する国のリストにイスラエルが追加されました。サブプロセッサのリストから Datorama Technologies Ltd が削除されました。

MuleSoft

- **Sub-processors - Customer Data Processing**: サブプロセッサのリストから Great Software Laboratory Pvt Ltd と Great Software Laboratory, Inc. が削除されました。

Pardot

- 更新なし

SalesforceIQ

- 製品が廃止されました。

Security, Privacy, and Architecture

ドキュメント『**Security, Privacy, and Architecture**』に次の変更が加えられました。

Audience Studio

- **Deletion of Data**: 顧客データの返還、破棄、削除の規約とタイムラインが更新されました。
- **Personal Data and Sensitive Data**: NAI 行動規範に含まれるユーザとアクションが明記されました。機密データが仮名化されないで送信される可能性があることが明記されました。子供を対象としたサイトのトラフィックに基づくターゲティング広告が地域の適用可能な法律に準拠することが明記されました。

Sales Cloud、Service Cloud、Community Cloud、Chatter、Lightning プラットフォーム (Force.com を含む)、IoT Explorer (IoT Plus)、Site.com、Database.com、Einstein Analytics (including Einstein Discovery)、WDC、メッセージング、Financial Services Cloud、Health Cloud、Sustainability Cloud、Consumer Goods Cloud、Manufacturing Cloud、緊急時プログラム管理、Salesforce CPQ および Salesforce Billing、Salesforce Maps、Workplace Command Center、シフト管理、Salesforce Advisor Link としてブランド設定された Salesforce.org LLC (「Salesforce.org」) サービス、foundationConnect (2019 年 8 月 19 以降にプロビジョニング)、会計補助元帳、Salesforce.org Insights Platform: データ整合性、Nonprofit Cloud Case Management (「対象サービス」)

- **Services Covered**: 緊急時プログラム管理、Salesforce 注文管理、会計補助元帳、Salesforce.org Insights Platform: データ整合性、Nonprofit Cloud Case Management、Workplace Command Center、シフト管理などの新しいサービスが追加されました。Salesforce 注文管理と B2C Commerce 注文管理、および各注文管理に適用されるドキュメントが区別されます。ドキュメントのどのセクションがスクラッチ組織に適用されるのかが明記されました。Field Service Lightning 機能、Insights Platform、および対象サービスと統合されるサービスに適用される追加ドキュメントが明記されました。対象サービスに含まれる Einstein Discovery のバージョンが明記されました。(2020 年 5 月 1 日より前にプロビジョニングされた) Work.com のすべてのインスタンスが WDC としてブランド変更されました。
- **Third-Party Functionality**: オーバーザトップメッセージングサービスのリストに WhatsApp が追加されました。
- **Audits and Certifications**: 参照される各認証から除外されるサービスのリストが更新されました。お客様が SOC レポートにアクセスできる場所が更新されました。日本の CS Gold で認定された製品のリストから Industry Cloud が削除されました。AWS インフラストラクチャでデータがホストまたは処理されるサービスのリストが更新されました。Insights Platform で Heroku のアーキテクチャを使用してデータをホストおよび処理する方法を説明するセクションが追加されました。
- **Security Controls**: AWS を使用するサービスのリストが更新されました。Insights Platform での Heroku の使用と、Heroku のセキュリティドキュメントへのリンクが追加されました。
- **Security Policies and Procedures**: Salesforce では、お客様のフォレンジック分析を支援するためにログエントリレコードのみが提供されます (使用可能な場合)。

- **Reliability and Backup**: お客様がアンインストールすると復元できない可能性があるサービスのデータが明記されました。
- **Disaster Recovery**: このセクションが Click FSL Optimizer に適用されないことが明記されました。
- **Data Encryption**: データセンター間のデータ送信方法が明記されました。
- **Deletion of Customer Data**: AWS および Heroku サーバの Insights Platform のデータ保持期間が明記されました。
- **Sensitive Data**: 送信できないデータ型のリストが修正されました。送信される機密データまたは規制対象のデータを処理するためのサービスを使用する場合、すべての適用可能な法規制に準拠する責任はお客様が負うことが明記されました。
- **Interoperation with Other Services**: サードパーティシステムが対象サービスに接続されたときに Salesforce で取得される可能性のあるメタデータの説明が追加されました。そのデータの保護と使用に対応しました。

B2B Commerce

- **Sensitive Data**: 送信できないデータ型のリストが修正されました。送信される機密データまたは規制対象のデータを処理するためのサービスを使用する場合、すべての適用可能な法規制に準拠する責任はお客様が負うことが明記されました。

B2C Commerce/Commerce Cloud

- 「Salesforce 注文管理」と区別するために、ドキュメント全体で「注文管理」が「B2C Commerce 注文管理」に変更されました。
- Salesforce 注文管理ドキュメントへのリンクが追加されました。
- **Audits and Certifications**: Salesforce の AoC、ISO、SOC レポートのリンクの場所が更新されました。
- **Sensitive Data**: 送信できないデータ型のリストが修正されました。送信される機密データまたは規制対象のデータを処理するためのサービスを使用する場合、すべての適用可能な法規制に準拠する責任はお客様が負うことが明記されました。

Customer 360 データマネージャ

- **Audits and Certifications**: 顧客データをホストするために使用される AWS インフラストラクチャについての言及が削除されました。
- **Security Controls**: AWS セキュリティポリシーについての言及が削除されました。
- **Security Policies and Procedures**: お客様が監査履歴コンテンツをローカルに保存する方法が更新されました。
- **Sensitive Data**: 送信できないデータ型のリストが修正されました。送信されるデータを処理する場合、すべての適用可能な法規制に準拠する責任はお客様が負うことが明記されました。

Data.com

- 更新なし

Desk.com

- 製品が廃止されました。

Einstein Discovery Classic

- 製品が廃止されました。

Einstein プラットフォーム

- **Audits and Certifications**: プロセッサの Salesforce の BCR から除外される製品のリストが更新されました。ISO 標準に準拠する Einstein 機能のリストが更新されました。SOC で評価される機能のリストが更新されました。

Government Cloud Plus

- **Intrusion Detection**: 収集される可能性のあるデータの例が削除されました。
- **Data Encryption**: 対称暗号化鍵の種別が明記されました。
- **Sensitive Data**: 送信できないデータ型のリストが修正されました。送信される機密データまたは規制対象のデータを処理するためのサービスを使用する場合、すべての適用可能な法規制に準拠する責任はお客様が負うことが明記されました。

LiveMessage、myTrailhead、Quip

- **Services Covered**: Desk.com、Einstein Discover、SalesforceIQ が廃止されました。
- **Audits and Certifications**: このドキュメントでカバーされるサービスが反映されるように「Audits and Certifications」に記載されるサービスのリストが編集されました。
- **User Authentication**: ユーザのセッションの管理に使用される識別子の種別が更新されました。
- **Viruses**: ウイルスをスキャンしないサービスのリストが更新されました。Quip ユーザの省略可能なウイルススキャンが追加されました。
- **Return of Customer Data**: 廃止されたサービスのデータ取得方法が削除されました。
- **Deletion of Customer Data**: 顧客データを削除できる製品のリストと、上書きまたは削除するときに適用される規約とタイムラインが更新されました。
- **Sensitive Data**: 送信できないデータ型のリストが修正されました。送信される機密データまたは規制対象のデータを処理するためのサービスを使用する場合、すべての適用可能な法規制に準拠する責任はお客様が負うことが明記されました。

Heroku

- **Audits and Certifications**: PCI 認証でカバーされる機能の名前が更新されました。ASIP Santé 認証が追加されました。
- **Disaster Recovery**: Heroku Shield サービスのリストが更新されました。
- **Sensitive Data**: 送信できないデータ型のリストが修正されました。送信されるデータを処理する場合、すべての適用可能な法規制に準拠する責任はお客様が負うことが明記されました。

IoT Cloud

- **Sensitive Data**: 送信できないデータ型のリストが修正されました。送信される機密データまたは規制対象のデータを処理するためのサービスを使用する場合、すべての適用可能な法規制に準拠する責任はお客様が負うことが明記されました。

Marketing Cloud

- **Services Covered**: Advertising Campaign が Audience Studio の一部として含まれなくなりました。Marketing Cloud Einstein and Measurement プラットフォームが Marketing Cloud Einstein に短縮されました。Einstein エンゲージメント頻度に適用されるドキュメントが更新されました。
- **Audits and Certifications**: ISO 認証の予測インテリジェンスが Marketing Cloud Einstein and Measurement (MCEM) に変更されました。
- **Sensitive Data**: 送信できないデータ型のリストが修正されました。送信される機密データまたは規制対象のデータを処理するためのサービスを使用する場合、すべての適用可能な法規制に準拠する責任はお客様が負うことが明記されました。

MuleSoft

- **User Authentication**:ユーザのセッションの認証および管理に使用されるログイン情報証が明記されました。
- **Data Encryption**: 管理およびランタイムデータの暗号化が明記されました。
- **Deletion of Customer Data**: MuleSoft Anypoint Partner Manager でのトランザクション処理情報のデータ保持ポリシーが追加されました。
- **Sensitive Data**: 送信できないデータ型のリストが修正されました。送信される機密データまたは規制対象のデータを処理するためのサービスを使用する場合、すべての適用可能な法規制に準拠する責任はお客様が負うことが明記されました。

Pardot

- **Security Controls**: メールログイン検証が必要となる規約が更新されました。メールログインの検証の説明が明記されました。
- **Viruses**: セクション名と件名が「Malicious Software」に変更されました。
- **Data Encryption**: TLS バージョンが更新されました。
- **Sensitive Data**: 送信できないデータ型のリストが修正されました。送信される機密データまたは規制対象のデータを処理するためのサービスを使用する場合、すべての適用可能な法規制に準拠する責任はお客様が負うことが明記されました。

SalesforceIQ

- 製品が廃止されました。

Notices and Licenses

ドキュメント『**Notices and Licenses**』に次の変更が加えられました。

Audience Studio

- **Restricted Uses of Information and Compliance with Self-Regulatory Programs**: 機密データが仮名化されないで送信される可能性があることが明記されました。子供を対象としたサイトのトラフィックに基づくターゲティング広告が地域の適用可能な法律に準拠することが明記されました。
- **Use of Third Party Data**: 子供を対象としたサイトのトラフィックに基づくターゲティング広告が地域の適用可能な法律に準拠することが明記されました。

Salesforce

- **Services Covered**: Salesforce 注文管理、緊急性プログラム管理、会計補助元帳、Salesforce.org Insights Platform: データ整合性、Nonprofit Cloud Case Management、Workplace Command Center、シフト管理などの新しいサービスが追加されました。Salesforce 注文管理と B2C Commerce 注文管理、および各注文管理に適用されるドキュメントが区別されます。(2020 年 5 月 1 日より前にプロビジョニングされた) Work.com のすべてのインスタンスが WDC としてブランド変更されました。
- **Field Service Lightning**: セクションが削除されました。
- **Google Maps**: 利用規約が簡略化されて明確になりました。重要な Google ポリシーへのリンクが更新されました。
- **Insights Platform**: Insights Platform と Melissa のデータを統合するための規約が追加されました。
- **Workplace Command Center**: サードパーティプラットフォームの開示が追加されました。
- **Distributed Software**: 以前の WDC モバイルアプリケーションについての言及が削除されました。

- **External Resources**: 参照されるサイトまたはリソースと Salesforce の関係が明記され、それらに関連する Salesforce の法的責任が制限されました。

B2B Commerce

- 更新なし

B2C Commerce/Commerce Cloud

- 「Salesforce 注文管理」と区別するために、ドキュメント全体で「注文管理」が「B2C Commerce 注文管理」に変更されました。

Customer 360 データマネージャ

- 実質的な更新はありません。

Desk.com

- 製品が廃止されました。

Einstein Analytics

- **Services Covered**: 古いバージョンの Einstein Discovery についての言及が削除されました。

「Einstein プラットフォーム」 (Sales Cloud Einstein、Pardot Einstein、Salesforce Inbox、Einstein エンゲージメントスコアリング、Einstein Vision、Einstein Language、Einstein ボット、Service Cloud Einstein、Einstein 予測ビルダー、Einstein Vision for Social Studio)

- **Services Covered**: 追加機能の Einstein コールコーチングが含まれるように更新されました。
- **Salesforce Inbox**: 「Third-Party Contact Enrichment Providers」に固有の規約が削除されました。
- **Einstein Call Coaching**: お客様が新機能を使用する場合の規約が追加されました。また、コールコーチング機能をサードパーティ製品およびサービスに統合する場合の規約も追加されました。

Einstein Discovery Classic

- 製品が廃止されました。

Data.com

- 更新なし

Desk.com

- 製品が廃止されました。

Heroku

- 更新なし

IoT Cloud

- 更新なし

Marketing Cloud

- **ExactTarget, Advertising Studio, and Interaction Studio**: 「Services Covered」の「対象サービス」のリストから Advertising Campaign が削除されました。ユーザがサードパーティプラットフォームに提供する情報の責任はお客様が負うことが明記されました。
- **Predictive Intelligence**: 「Services Covered」の iGo Digital と iGo, LLC についての言及が削除されました。2 つのサービスのブランドが変更され、追加ドキュメントが適用されるサービスが明記されました。

- **Social Studio**: 「Command Center - Public Display」のシンジケーション、分析の実行、Twitter コンテンツからの派生物の作成に関する制限が削除されました。

メッセージングおよび LiveMessage

- **Restricted Uses of Information**: 利用規約と対外サービスポリシーへのリンクが追加されました。「MMA Global U.S. Consumer Best Practices for Messaging (MMA のメッセージングの米国消費者のグローバルなベストプラクティス)」「CTIA Mobile Commerce Compliance Handbook (CTIA モバイルコマースコンプライアンスハンドブック)」、「U.S. Short Code Registry Best Practices (米国ショートコード登録ベストプラクティス)」が含まれるように、お客様が従う必要のある原則、ベストプラクティス、ガイドラインのリストが統合および拡張されました。

MuleSoft

- **Third-Party Platforms**: Anypoint Exchange の非 SFDC アプリケーションが明記されました。
- **Anypoint Service Mesh**: 非 SFDC アプリケーションまたはサードパーティアプリケーションとして Istio を明記する新しいセクションが追加されました。

myTrailhead

- 更新なし

Pardot

- **Third-Party Platforms**: ユーザがサードパーティプラットフォームに提供する情報の責任はお客様が負うことが明記されました。
- **Third-Party Notices**: 適用な可能なサービスとして FullContact が削除されました。

Quip

- 更新なし

SalesforceIQ

- 製品が廃止されました。

動画を見る (英語のみ)

ユーザが Salesforce の新機能や改善された機能について知ることができる説明用の動画を作成、更新しました。

- 新しい動画 「Create Prompts in Lightning Experience (Lightning Experience でのプロンプトの作成)」では、トレーニングや機能の導入を目的とした情報メッセージの作成方法を説明します。
- 新しい動画 「Create Walkthroughs in Lightning Experience (Lightning Experience でのウォークスルーの作成)」では、ガイド付きのハンズオントレーニングエクスペリエンスの作成方法を説明します。
- 新しい動画 「Get Started with In-App Guidance in Lightning Experience (Lightning Experience のアプリケーション内ガイダンスの使用開始)」では、アプリケーション内ガイダンスビルダーについて説明し、設定ページを紹介します。
- 新しい動画 「Short Codes for Service (サービスのショートコード)」では、デジタルエンゲージメントショートコードチャネルの素晴らしい機能と使用事例を紹介します。

Trailhead で機能を探索

楽しいガイド付きのインタラクティブツールである Trailhead を使用して、Salesforce の操作や新しい機能について学習します。システム管理者または開発者向けのガイド付き学習パスに従ったり、自己の進度に合わせて学習できるモジュールを選択したりできます。

https://trailhead.salesforce.com で Trailhead を確認し、適切なトレイルを見つけてください。最新のモジュール、トレイル、プロジェクトは次のとおりです。

モジュール

拡張トランザクションセキュリティ
イベントを監視し、ポリシーを適用して、作成したルールに基づいてすぐに通知を受け取ります。

Lightning Experience のエンタイトルメント管理
エンタイトルメントを使用して、顧客が優れたサービスを受けられるようにします。

Einstein Search による生産性の向上
Einstein Search の 3 つの特長 (パーソナライズ可能、自然、アクション可能) により、作業をより速く、スマートに、効率的にしましょう。

その他の Salesforce 製品とサービス

Heroku

Heroku は、Web アプリケーションを作成およびリリースするための、クラウドベースのアプリケーションプラットフォームです。

新機能についての詳細は、「Heroku Changelog」を参照してください。

Success Cloud

Salesforce Success Cloud の認定エキスパート、コンサルタント、革新的なツールが、プロフェッショナルサービス、具体的なアドバイス、専門知識を通じて、さまざまな場面をサポートします。